

国立国語研究所学術情報リポジトリ

及位の方言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-02-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 良雄, Takahashi, Yoshio メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003524

及位の方言

高橋良雄

まえがき

(『及位の方言』より)

『^{のぞき}及位の方言』は、山形県最上郡真室川町大字及位地区にある方言を、私が生活の中で覚え、育まれて来たものを主にして収集したものである。

私は、退職後、昔話を収集し、これを「山形民話の会」誌に発表させて頂いたが、及位地区の昔話なので、方言に難解のものがあり、この方言を標準語訳して同誌に出して頂いたのが機になり、この方言集をまとめることになったものである。

方言は、話し言葉なので、その地方の生活に密着しており、生活の種々のことが滲み出ていることが分った。例えば、「ねばな」という語をみると、これはわらびの根から採った澱粉で、私の小さい頃、不作でろくに米が穫れず、食料不足で、村人はわらびの根を山野に求め、これから澱粉をとり、「ねもづ」といって、わらび団子を食べたものであった。さらに、村の行事に関する言葉があり、農林業語もみな身近な言葉で、この地方の生活とは、切っても切れない言葉ばかりであり、方言も標準語化の波に押され、また生活様式の変化、作業の進歩などにつれ、今はもう使われなくなった言葉が沢山出て来ているが、これをただそのまま埋没させてしまうのは、余りにも惜しい気がして、収集を始めたのであった。

私は、大正3年当地に生れ、当地で育ち、農学校を卒業後検定をとり教員となったが、当地の小学校を最後に、教員生活を7年で退職し、農林省の林業試験場に10年勤め、後営林署に移り、27年後の昭和51年12月末退職したが、営林署勤務中は殆ど当地に住み、退職後も当地に在住しているものである。

このように語学には程遠い学歴であり、職務におり、方言の中で育ち、方言を使って生活して来たので、方言は十分承知しているつもりではおるが、語学にうとく、共通語などで、書かずものものもあると思われるし、品詞や標準語訳、或いは分類などにも不適當なものが多々あるものと思われる。このようなものを世に出して汗顔の至りであるが、それらの点については、ご叱正を頂ければ幸甚である。

なお、この方言集をまとめるに当たっては、東京外語大学の井上史雄先生、並びに東京にお住まいの金田章宏氏のご指導を賜り、また、方言に関する各種の文献を頂き、お陰さまでなんとか形を整えることが出来ました。浅学な私には、充分先生方の意に添える書き方が出来なかったことは、甚だ申し訳なく、お許しを頂きたいと共に、ご親切なご指導を厚く御礼を申し上げます。

また、富山市の真田ふみ氏よりは、残り少ない貴重な著書「越中五箇山方言語彙」を8巻もご送付頂き、参考に供させて頂きましたことは、誠に有難く、深謝致します。さらにこの方言集の刊行に当たっては、共栄印刷の涌井専務よりご協力を頂き、ここに御礼を申し上げます。

昭和57年11月 高橋良雄

はじめに

(『続及位の方言』より)

『及位の方言』集を出したが、その後まだまだ書き足りないことが分り、ここに『続及位の方言』集を出版した次第である。

この度は見出し語は五十音順に並べ発音記号を付け、その訳語を書き、会話例を付けた。会話例を付けたのは見出し語が会話の中でどう使われているかを示したもので、会話例によっていろいろの活用形が出され、より多くの方言を理解して頂ける、と思ったからである。

なお、使い方に限定を受ける語もあるので、そのことも書き、動植物や器具名などは会話例を抜き、そのものの説明を主体として書いた。

しかし、語学に浅い私なので、千葉大学非常勤講師をしておられる金田章宏氏の多大なご指導を賜わり、また、川崎市のお住いの斎藤義七郎氏よりもいろいろアドバイスを賜わり、ここに心から感謝するものであります。ただご指導を頂きながら、それを十分に活かすことが出来なかったことは誠に申し訳なかったと思っております。

このような次第で、書き足りない点や未熟なところも多々あろうかと思われまますので、そのような点につきましては皆さまのご指摘ご指導を賜われれば有難いと思ひます。

また、この出版にあたりましては、星和出版のご協力を頂き、ここに御礼申し上げます。

目次

まえがき	i
はじめに	iii
本文	1
概説	3
凡例	13
及位の方言	17
逆引き	731

本文

概説

金田章宏（千葉大学）

1. 山形県真室川町及位方言について

^{のぞき}及位方言は山形県の北東部、新庄市を中心とする最上地方のさらに北端の真室川町及位地区で話される方言である。地理的に、最上地方は西に酒田などがあり北前船によって関西地方と交流のあった庄内地方、北に秋田県境が接し、JR 及位駅を北に行くとなぐら県境に至る（図 1）。

最上方言は基本的には南東北方言に分類されるが、北東北方言に分類される庄内地方や秋田県に接していることもあり、北東北方言的な要素も少なくない。

以下、特徴をいくつか羅列する。例はすべて民話資料 1 と 2 の高橋良雄氏による語りからである。なお、民話資料の表記は当資料の編集委員で口承文芸研究者の野村敬子氏によって「語りに忠実な翻字」と記されているが、これは高橋氏が『及位の方言』を 1 枚 1 枚の語彙カードから準備するなかで金田と考えた表記法がもとになっている。以下の例では表記をひらがなからカタカナに改めた。

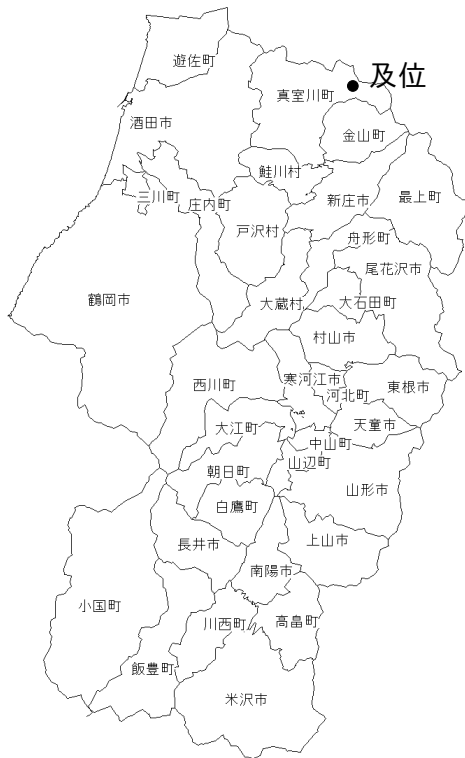


図 1 山形県における及位の位置

2. アクセントについて

アクセントについては、「新庄市以北に東京 I 式（北奥式）アクセントが分布し、2 音節名詞四・五類の型の区別が語末母音の広狭に支配される特徴をもつ」（平山編 1997）とされる。

3. 音声音韻について

- 母音は広いエを含む 6 母音（a、i、ü、e、ε、o）である。
- 有声母音に挟まれた無声子音は有声化しやすい。
- 長さの単位は拍ではなく音節である（北東北方言に特徴的なシラビーム方言）。
- モノ [mono] の m が脱落する。

- (1) a) ンメァ オノ 「うまいもの」
b) アーユー オンダ 「ああいうものだ」

- セと指示語ソ系の s が h に変化する。

- (2) a) ヘナガ 「背中」
b) ノヘデ 「乗せて」
c) キガヘダド 「聞かせたそうだ」
d) ホノ ヌマ 「その沼」
e) ホーシテ 「そうして」

- 長母音や連母音の ai、ae、ui や撥音や促音は半拍以下になる。

- (3) a) キダド 「聞いたそうだ」
b) メァノ カガ 「前の奥さん」
c) ツダド 「着いたそうだ」
d) ミズ ノデ 「水を飲んで」
e) コマテ シマテ 「困ってしまって」

ただし、動詞語尾のルやレなどから変化した促音は 1 拍を保つ。

- (4) a) スッサゲァ 「するから」
b) スナッダ 「死なれた」

また、1 音節名詞のハダカ形は長音化する。

- (5) a) ズー 「じいさん」
b) テー 「手」
c) ター 「田」
d) スー 「巢」

e) ナー 「名」

4. 語彙について

- 秋田方言などにみられる指小辞のコがある。

- (6) a) アネコ 「娘」
b) キズネコ 「狐」
c) カメコ 「瓶」
d) マメコ 「豆」
e) ウダコ 「歌」
f) オドリコ 「踊り」

- (西日本方言に通じる) 庄内方言的語彙。

(7) オーギン「おおいに、たいそう」

5. 文法について

■ 主格、連体格のあらわれ方

- 北東北方言に通じる特徴として、短母音名詞の主格は「が」と「は」の音声的対立がなく、ア(一)以外の長母音と短母音名詞のあとにはアであられる。

(8) ズーア クンナ マズツタケド
「じいさんが来るのを待っていたそうだ」

(9) アネコア アニア デハッド スグ
「嫁は夫が出かけるとすぐ」

(10) サガブ コエア スッケド
「叫ぶ声がしたそうだ」

また、ア終わりと～ん終わりの名詞の主格はハダカ形であられる。

(11) オナゴノ ダイジャ イデアッタド
「女の大蛇がいたそうだ」

(12) オメアサン クンベガテ
「あなたが来るだろうか」と

この点は、～ん終わりの名詞の主格にすべてガ形があらわれる北東北方言とは異なる。

- 人(相当)名詞の連体格も同様である。

- (13) オレア エノ
「おれの家の」
- (14) サクゾア エサ
「作蔵の家に」
- (15) アネコア テー
「娘の手を」
- (16) サルア ツラ
「猿の顔」

ア終わりと～ん終わりの人名詞ではハダカ形になる。

- (17) ズサマ エサ
「じいさんの家に」
- (18) ツァツァ ハラ ナオシテ クツデ
「お父さんの腹を治してくれて」
- (19) サグゾサン エサ
「作蔵さんの家に」
- (20) オメァサン エサ
「あなたの家に」

人名詞以外の連体格はノであらわれる。

- (21) ワスノ ヒヨコ
「鷺のひよこ」
- (22) コスギヤマノ ユエ
「甕山の上」

■ 対格のあらわれ方

- ・ 名詞の対格はハダカ形が基本で、まれに～バがあらわれる。

- (23) ホエジョ モテ キテ
「包丁を持ってきて」
- (24) マナグバ ギョロギョロ ヒカラヘデ
「目をぎよろぎよろ光らせて」

■ 与格のあらわれ方

- 与格的な意味の多くにサマ系のサがあらわれる。

(25) メガミサマサ ダギズデ
「女神さまに抱きついて」

(26) ヤスマサ エグ
「八島に行く」

(27) エサ トメデ モラテ
「家に泊めてもらって」

- 人やものなどの存在にはニがあらわれる。

(28) アガサニア オサダテ ユウ キズネア イデ
「赤沢にはおさだというキツネがいて」

(29) サゲカワノ オグニ マンガリガテ ユウ ドゴ アツテ
「鮭川の奥に曲川というところがあって」

(30) ホンタ ゴド ヨノナガニ ネアベナ
「そんなことは世の中にないだろうな」

- 受動的な動作の主体がエ、ニ(ン)であらわれる。

(31) テングエ フットバサツダ
「天狗に吹き飛ばされた」

(32) トノサマノ ケレアニ タダガツデ
「殿様の家来に叩かれて」

(33) ヤスナ オショニ ナワ トエデ モラタドモ
「保名は和尚に縄を解いてもらったが」

(34) バゲオノン サラワツダ
「化け物にさらわれた」

- 時間の意味ではニがあらわれる。

(35) コーユー ズギニ
「こういう時に」

- 「～になる」の意味ではハダカ形があらわれる。

(36) ホガノ ダイジャダ ヌス ナテッサゲア
「ほかの大蛇たちが主になっているから」

(37) ゴツツォ ナテ
「ごちそうになって」

■ 人(相当)名詞の斜格

• 人(相当)名詞の対格では形式名詞ド(ゴ)(ところ)を含むアドゴ(のところ)、与格ではアドサ(のところに)、奪格ではアドカラ(のところから)があらわれる。

(38) アネムスメアドゴ ギッツグ デァデ
「姉娘をきつく抱いて」

(39) コンゾコアドゴ ボカゲデ エタケド
「小僧を追いかけて行ったそうさ」

(40) アネムスメアドサ ~テ ユウケド
「姉娘に ~と言ったそうさ」

(41) ダレアドサモ オヘネァデ
「だれにも教えないで」

(42) ワラスコアドサ ~サヘデッカッタド
「子どもに ~させていたそうさ」

(43) カンベーキズネアドカラ
「勘平狐から(ものを取る)」

• ア終わり名詞ではド(ゴ)になる。対格の例を(44)(45)に、与格の例を(46)に示す。

(44) アシノ ワルイナドゴ ツエデ エテ
「足の悪いのを連れて行って」

(45) キズネダドゴ クッコロサヘロ
「狐たちを食い殺させろ」

(46) ミナドサ
「みんなに」

■ とりたて

• 「は」に相当するとりたてには、「というは」に由来するとみられるズアや、条件的なニュアンスを伴う「であれば」に由来するダバがあらわれる。

(47) オヤコーゴーズア スルオンダド
「親孝行はするものだってさ」

(48) コレダバ トデモ ダメダ
「これはとても駄目だ」

■ 意志・勧誘、推量

- 意思と推量にはベシ系があらわれる。

(49) アグバリモ モラテ エグベ
「灰だけでももらって行こう」

(50) カゲデ クエンベ
「かけてやろう」

(51) オモタアダベ
「思ったのだろう」

(52) オーエゲテ アンベ
「大池ってあるだろう」

- 勧誘にはベシ系のほかに西日本的な庄内地方とおなじム系があらわれることがある。

(53) コシエアデ クーベヤ
「作って食べようね」

(54) オレア エサ エゴ
「おれの家に行こう」

(55) オレアドゴモ ツデ エゴ
「おれ(を)も連れて行こうよ：依頼」

- 推量の丁寧形は、南東北方言では多く推量べにていねい助辞のスがつくが、ここでは逆の（共通語と同じタイプで）丁寧形+推量べとなる。

(56) ドッツデスベ
「どっちでしょう？」

(57) キアシタベ
「来たでしょう？」

■ 動詞のテンス

• 東北の広い地域で（第二）過去形のシタツタ形がみられるが、ここではシテアツタ形であらわれる。

(58) ヌマノ ソバサ エテアツタド
「沼のそばに行ったんだそうだ」

• 存在動詞や継続相のアクチュアルな現在と過去は、南東北方言では多く（シテ）イダ、（シテ）イダツタが使用されるが、ここでは過去にイデアツタが使用される。

(59) キッタ キッタ（<キテダ）。
「来てる、来てる！」

(60) ～テ ユウ シトア イデアツタド
「～という人がいたそうだ」

～テアツタは～タツタに融合するまえの北東北方言的な語形である。

• 山形県の庄内地方をのぞく地域で、形容詞の過去語尾を使用した動詞のカツタ形が使用され、過去の習慣などをあらわす。

(61) ワラスコアドサ ～サヘデッカツタド
「子どもに～させていたそうだ」

(62) イズデモ オモテツガツタド
「いつでも思っていたそうだ」

■ その他

• 可能表現の肯定におもには～スルエが使用される。

(63) ゴツツォ クーエ
「ごちそうが食べられる」

(64) ナンズシタラ ザッコツリアドカラ ツリザオ トルエベドモテ
「どうしたら魚釣り（の人）から釣竿を盗れるだろうと思って」

(65) ラクン ヘアルエガッタベチャヤナ
「楽に入れただろうよね」

(66) デハラエツゴツタラ
「出られるようなら：可能動詞」

- 可能表現の否定には可能動詞の否定形が使用される。

- (67) ンメ オノ カンネアグ ナテ シマタハ
「おいしいものを食べられなくなってしまったよ」
- (68) ソドサ デハランネアグ ナテ シマタケドハ
「外に出られなくなってしまったそうだ」
- (69) メヘランネア
「見せられない」

- 伝聞にはトイウモノに由来するジュオン／ズオンが使用される。

- (70) キタジュオン
「来たそうだ」
- (71) デハテ コネアズオン
「出てこないそうだ」

- (西日本方言に通じる) 北東北方言的な特徴として、原因理由にサカイ系のハゲア (ツサゲア) が使用される。

- (72) ンダオンダハゲア
「そんなものだから＝それで」
- (73) テンサ ノボッサゲア
「天に上るから」

- 「はや」が終助辞化したり間投助辞化したりしてハになり、語義を保った「もうすでに」(命令文では早く～しろ) という気持ちや単なる強意の意味で使用される。

- (74) ンメ オノ カンネアグ ナテ シマタハ
「もうおいしいものが食べられなくなってしまった」
- (75) ヒルマダハー
「もうお昼だよ！」
- (76) ママ ケハ
「はやくご飯を食べろ」
- (77) アー オカネアハ
「ああ、怖い！」
- (78) アツツコツツ ヤゲド シテハ

「あちこちやけどをしてもう」

- 第二形容詞の連体形がナではなくダであられる。

(79) メンゴゲダ アネコ

「きれいな娘」

(80) リゴダ キズネ

「利口な狐」

(81) イダソダ ドゴ

「いそうなところ」

6. 先行研究と資料

最上方言にふれた先行研究のおもなものは以下のとおりである。1と2は本書が収める及位方言の辞典である。4と5は及位方言のテンス語形について言及している。民話資料7と8は高橋氏が語ったり収集した民話からなるもので、発音に忠実に文字化されおり、基礎資料としてきわめて貴重である。

辞典類

1. 高橋良雄『及位の方言』私家版、1982年
2. 高橋良雄『続及位の方言』私家版、1987年

先行研究

3. 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会、1982年
4. 金田章宏「東北方言の動詞のテンスー山形県南陽市」『琉球方言と周辺のことば』千葉大学教養部、1983年、pp.107-133
5. 金田章宏「山形方言の動詞のテンス」『国文学 解釈と鑑賞』至文堂、1984年1月、pp.51-62
6. 平山輝男編集代表『日本のことばシリーズ 6 山形県のことば』明治書院、1997年

及位地区の民話資料

7. 真室川町の昔話編集委員会『真室川町の昔話 I (及位編 1)』真室川町教育委員会、1991年。303頁
8. 真室川町の昔話編集委員会『真室川町の昔話 II (及位編 2)』真室川町教育委員会、1991年。357頁

このほかに、及位地区以外の真室川町の民話資料が『真室川町の昔話 III~IV』に収められている。

凡例

セリック・ケナン（国立国語研究所）

大島 一（国立国語研究所）

1. 概要

本書は高橋良雄著の『及位の方言』（私家版・1982年）と『続及位の方言』（私家版・1987年）を電子化して一冊にまとめたものである。合計で7,535用例を含む6,909項目が収録されている。

2. 編集方針

原文をできるだけ忠実に保ちながら、方言辞典の形に整えるよう、元の体裁にいくらかの変更を施した。変更の主要な点は以下の通りである。

- 原文の明らかな誤字・脱字は修正した。
- 『及位の方言』と『続及位の方言』で重複している項目は1つの項目に纏めて掲載した。
- ローマ字表記をIPA表記に改めた。
- 意味記述は適切なデータ構築のため「相当語」と「解説」と分けることに努めた。その際、意味記述の内容を変えない範囲で原文を変えた箇所がある。
- 「などのように使う」などで導入されている用例は導入の部分を削除して用例として掲載した。
- 読みやすさのため、用例に番号を自動的に振って、また方言の部分に文節区切りの分かち書きを徹底した。
- 「ともいう」などで導入されている発音の揺れ・類似語は導入の部分を削除して掲載した。

3. 見出し項目

見出し項目は仮名表記、音声記号、品詞、範疇、意味記述、用例、発音の揺れ・類似語、備考、出典から構成されている。

4. 仮名表記

仮名表記は原文のままである。原文の表記では、破裂・破擦の有声音と破裂・破擦の前鼻音、およびカ行の有声音と鼻濁音が区別されていないことに注意されたい。

5. 音声記号

『及位の方言』と『続及位の方言』で使われるローマ字記号はIPA（国際音声記号）交じりの音素表記となっている。なお、両書の間で同じ音素に対して異なる記号が使われる。『及位の方言』は音声的実体を重視して記号を選んでいるのに対して、『続及位の方言』は標準語との対応を重視して記号を選んでいる。学術的な価値を考え、『及位の方言』の方針に基づきローマ字表記をIPA記号で統一して掲載した。すなわち、『続及位の方言』のi、u、eをï、ü、ëに機械的に置き換えた。なお、標準語の

「せ」のオンセットの子音に対応し、『及位の方言』では \tilde{h} と書かれた音声は及位を調査地点としている LAJ7 (『日本語地図』第七図) と LAJ8 (同第八図) を参考にして \tilde{c} に改めた (この音声は『続及位の方言』では全て h と書かれており、そのままにしたが、元のハ行と発音が違う可能性がある)。

6. アクセント

アクセントは基本的に書かれていないが、単語の高音部が「○」でマークされる項目がある。原文通りにその記号を踏襲した。

7. 品詞

3,240 項目に対して品詞の情報が記されている。品詞情報は『及位の方言』『続及位の方言』のままにしたが、略号を『続及位の方言』の方針に従って統一した。品詞とその略号は次の通りである。

名詞 (名)、代名詞 (代)、動詞 (動)、自動詞 (自)、上一段自動詞 (上一自)、下一段自動詞 (下一自)、下一段他動詞 (下一他)、下一段自動詞・他動詞 (下一自他)、四段自動詞 (四自)、四段他動詞 (四他)、四段自動詞・他動詞 (四自他)、四段他動詞・自動詞 (四他自)、サ変型自動詞 (サ変自)、ス活用型自動詞 (ス自)、ス活用型他動詞 (ス他)、ス活用型自動詞・他動詞 (ス自他)、ス活用型他動詞・自動詞 (ス他自)、トス活用型自動詞 (トス自)、形容詞 (形)、ノダナ、ナ名ノ、ダナ、ナ副ノ、トタル、副詞 (副)、感動詞 (感)、派生形 (派生)、連体詞 (連体)、接続詞 (接)、助動詞 (助動)、とりたて助動詞 (とりたて助動)、助詞、格助詞 (格助)、副助詞 (副助)、係助詞 (係助)、間助詞 (間助)、終助詞 (終助)、接続助詞 (接助)、接頭辞、接尾辞、連語。

8. 範疇

いくつかの項目に対して、次の範疇、すなわち、強調語 (強調)、俗語、卑語、卑称、仏教 (仏)、幼児語、俚語の情報が付与されている。

9. 意味記述

意味記述は対応する標準語 (いわゆる「相当語」と、項目によってはその意味を説明する解説からなる。なお、適切な標準語がない場合は、当該形の解説のみが掲載されている。

10. 用例

項目に対する用例は【例】で導入されている。

11. 発音の揺れ・類似語

発音の揺れ、または当該項目の類似語は [同] で示した。

12. 備考

いくつかの項目に対して、用例の後に追加の情報を記した備考が記されている。

13. 出典

本書がそのままの翻刻ではないため、各項目に対して元の出典を示した。すなわち、[及 124] [続 124] などのように、元の出典 (及 = 『及位の方言』、続 = 『続及位の方言』) と該当項目の掲載頁を記

した。

14. 逆引き

『及位の方言』と『続及位の方言』には逆引き（標準語引き）がなかったのを補って、逆引きを作成して掲載した。逆引きの各項目は標準語の読み、標準語の表記、対応する方言形から構成されている。

仮名・発音記号一覧

あ	い	う	え	お	あえ				
a	i	ü	e	o	ε				
か	き	く	け	こ	かえ	きや	きゆ	きよ	
ka	kī	kü	ke	ko	ke	kja	kjü	kjo	
が	ぎ	ぐ	げ	ご	がえ	ぎや	ぎゆ	ぎよ	
ga	gī	gü	ge	go	ge	gja	gjü	gjo	
が	ぎ	ぐ	げ	ご	がえ	ぎや	ぎゆ	ぎよ	
ŋa	ŋī	ŋü	ŋe	ŋo	ŋe	ŋja	ŋjü	ŋjo	
さ	し	す	せ	そ	しえあ	しゃ	しゆ	しえ	しよ
sa	sī	sü	se	so	se	ſja	ſjü	ſe	ſjo
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ		じゃ	じゆ	じえ	じよ
dza	dzi	dzü	dze	dzo		dʒa	dʒü	dʒe	dʒo
た			て	と					
ta			te	to					
つあ	ち	つ	つえ	つお		ちゃ	ちゆ	ちえ	ちよ
tsa	tʃī	tsü	tse	tso		tʃa	tʃjü	tʃe	tʃjo
だ			で	ど	だえ				
da			de	do	de				
は	ひ		へ	ほ		ひや	ひゆ	へ	ひよ
ha	çi		he	ho		ça	çjü	çe	ço
ふあ	ふい	ふ	ふえ	ふお					
ɸa	ɸī	ɸü	ɸe	ɸo					
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ	ぱえ	ぴや	ぴゆ	ぴよ	
pa	pī	pü	pe	po	pe	pja	pjü	pjo	
ば	び	ぶ	べ	ぼ	ばえ	びや	びゆ	びよ	
ba	bī	bü	be	bo	be	bja	bjü	bjo	
ま	み	む	め	も	まえ	みや	みゆ	みよ	
ma	mī	mü	me	mo	me	mja	mjü	mjo	
や		ゆ		よ					
ja		jü		jo					
ら	り	る	れ	ろ	らえ	りや	りゆ	りよ	
ra	rī	rü	re	ro	re	rja	rjü	rjo	
わ	ん	ー	っ			前鼻音	鼻母音		
wa	N	:	(子音を重ねる)			ⁿ o	õ		

— あ —

あ [助詞] が。の。は。[及 109]

【例 1】とげあ 九時ん なたはげあ けあるは
「時計が九時になったから、もう帰へるよ」

【例 2】〇〇あ えた だごあ、東京だど
「〇〇の行った所は、東京だそうだ」

【例 3】〇〇あ まづさ えたあだ
「〇〇は町に行ったんです」

あいてあー [aite:] 相対。[続 1]

【例】しとの いっどごであ んまぐねあはげあ、おめあど あいてあーずぐで はなす すんげ
「人の居る所ではうまくないから、君と相対ずくで話をしようよ」

あいみたげあー [aimitage:] 相見互い。[続 1]

【例】おらだ となりどうしの ひやくしよだおん、あいみたげあーん たすけあて えぐべや
「俺達は隣り同士の百姓だもの、相見互いに助け合って行こうよ」

あいめあー [aime:] [ダナ] 曖昧。[続 1]

【例】ほげあた あいめあーだ ごど ゆたて わがらねあはげあ、はっきり ゆてみろ
「そんな曖昧なことをいったって分らないから、はっきりいってみろよ」

あえこ みやまいらくさ。いらくさ科の植物で、山菜。[及 80]

【例】あえこ とりん えて くる
「みやまいらくさを採りに行って来ます」。「えあこ」ともいっている。」

あお 木槌。木製の大槌。[及 62]

【例】くえ ぶづな あお もて きてくんねあが
「杭を打つ大きな木槌を持ってきてくれませんか」

あおえ 青い。[及 18]

【例】おぎなわの 海あ とでも あおえがった
「沖縄の海はとても青かった」

あおおの 山菜。[及 36]

【例】あおおのあ 出んなも、もすこすだなは
「山菜が出るのも、もう少しだな」

あおくせあ [aokũse] [形] 青臭い。[続1]

【例】 まだ あおくせあ かんめあして、なに なまえぎだ ごど ゆてんなだ
「まだ青臭いくせして、何を生意気なことをいってるんだ」

あおしし かもしか。うし科の哺乳動物。[同] あおすす。[及80]

【例】 あおししあ とらんねあ 動物だど
「かもしかは保護動物だそうだよ」

あおずれ [ao^odzũre] [形] 青白い。[同] あおずろえ。[続1]

【例】 ○○さん はえびょうだつけあ、ほうゆえば つらも あおずれおんな
「○○さんは肺病だそうだが、そういえば、顔も青白いもんな」

あおすんご [aosũnŋo] 青信号。[続1]

【例】 おうだんほど うだっずぎあ、あおすんご なてがら わだれよ
「横断歩道を渡る時は、青信号になってから渡りなさいよ」

あおだづ 青立ち。穂の実らない稲。[及68]

【例】 こどしあ さみ としで あおだづばり よげだ
「今年は、寒い年で、青立ちばかり多いね」

あおづげ 山菜の塩漬。冬に備えて山菜を塩蔵しておくもの。[及36]

【例】 今日あ、あおづげでも 出して、納豆汁 すんべ
「今日は山菜の塩漬でも出して、納豆汁をしよう」

あおっぼえ [aoppoẽ] [形] 青っぼい。[同] あおぼす。あおっぼす。[続1]

【例】 おめあどさだば、ほの あおっぼえなより こつつんな にやうな
「お前になら、その青っぼいのより、こっちのが似合うね」

あおにせあー [aonise:] 青二才。[続1]

【例】 けっつの あおみも とんねあ あおにせあーの くへん ない ゆてんなだ
「尻の青味も取れない青二才のくせに、何をいってるんだ」

あおのろす 青大将。蛇。[及80]

【例】 あおのろすあ によろによろど ではて 来たけ
「青大将が、によろによろと出て来たつけ」

あおばこ 青豆。熟すと緑色になる大豆。[及80]

【例】 あおばこも すこす ゆえで おぐべ
「青豆も少し植えておこう」

あおびつき [aobikkĩ] 雨蛙。[及80]

【例】 よんま あおびつきあ えん ながまで へあて 来たけ
「夜、雨蛙が、家の中まで入って来たつけ」

あおべあ [aobe] 青蠅。きんばえ、おおくろばえなどの青色をした蠅の総称。[及80]

【例】 いながな おんだはげあ あおべあまで えん ながさ へあて くる
「田舎なものですから、青蝇までが家の中へ入って来るんですよ」

あおみづ やまときほこり。いらくさ科の植物で山菜。[及 80]

【例】 あおみづあ つけおのどが、すのおのなのして くうど んめあな
「やまときほこりは、漬物とか、酢の物になんかして食べるとうまいな」

あがき [agaki] 桑の品種名で、あかぎ（赤木）という。[及 68]

【例】 あがきていう かあ まだ、みな 大木だ おんだな
「あかぎという桑はみな大木なもんだな」

あがぎり [aganjiri] あかぎれ。これは、寒さのために手足の皮が裂けたものをいう。炊事なんかの水仕事をする女の人に多かったが、今は殆んど見られなくなった。[続 1]

あがこ [agako] 赤子。[同] あがこおぼご。あがむし。[及 1]

【例】 ほら、あがこあ ねあっだぞ
「ほら、赤子が泣いているよ」

あがし [agasi] [名] 灯り。[及 109]

【例】 あがし つけるは
「もう灯りをつけなさい」

あがすんご [agasünjo] 赤信号。[続 2]

【例】 あがすんごん ずぎあ、ぜってあん わだんなよ くるまに ひがえっさげあな
「赤信号の時は、絶対に渡るなよ、車にひかれるからな」

あがつず [agatsüdzü] 赤土。[続 2]

【例】 ござらあだりあ あがつずで やへでっさげあ、くれつず きやぐどすっど えな
「この辺は赤土でやせているから、黒い土を客土するといいいね」

あがっぱな [agappana] 赤鼻。鼻の先の赤いもの。[続 2]

【例】 ○○あ さげずぎで、さげばり のでっさげあ、あがっぱなん なたあだど
「○○は酒好きで、酒ばかり飲んでるから、赤鼻になったんだそうだ」

あがどり [agadori] 替え襟。肌着、布団などの替え襟。[及 54]

【例】 あがどりあ あんまりよごんねあ うづん とけあろよ
「替え襟の余りよごれない内に取り替えなさい」

あがどり [agadori] 汗取り。肌着の短かいもの。[同] あへどり。[続 2]

【例】 えまだば きおのなの きねあはげあ、あがどりなの つかわねあなは
「今なら着物なんか着ないから、汗取りなんかもう使わないね」

あがひ [agaçi] 日中。陽。太陽。[及 100]

【例】 この あがひ てでっずぎ ひるねが
「この日中に昼寝かい。この陽の照っている時に昼寝かい」

あがむぐれ [agamüğüre] 生れたての動物。生れてまだろくにもの生えない赤ん坊の鳥獣。[及 80]

【例】 すずめの あがむぐれあ んまっでだけ
「雀の赤ん坊が生れていたっけ」

あがめてあ [agamete] [名] あかんべ。あかんべい。[及 109]

【例】 おめあどさなの くんねあ、あがめてあだ
「お前になんかしてくれないよ、あかんべだ」

この語には「あがめてあはだげる—あかんべいをする」、「あがめはだげる—あかんべいをする」などの使い方がある。

あがらむ [agaramü] [動] あかるむ。赤くなる。[及 109]

【例 1】 夜あげあ ちっけあおん、そんま 空 あがらむは
「夜明けが近いもの、もうじきに空があかるむよ」

【例 2】 さげ 飲むど そんま つら あがらむなだ
「酒を飲むと、すぐ顔が赤くなるんです」

あがり [agari] [名] 灯り。明るい。[及 18]

【例 1】 くれあぐ なたはげあ あがり つけるは
「暗くなったから、もう灯りをつけなさい」

【例 2】 こにや まんげづだはげあ あがり こど
「今夜は満月だから、明るいね」

あがりかまじ [aḡarikamadzi] 式台。玄関の低い板敷の所。[同] どんぎ。[及 45]

【例】 おぎやくさま くっさげあ あがりかまじの あだり きれん しておげよ
「お客さまが来るから、式台の辺を綺麗にしておきなさいよ」

あがる [aḡarü] [動] 召しあがる。[及 36]

【例】 あのしとあ ふぎなの あがんべが
「あの人は、踏なんか召し上がるのでしょうか」

あがる [aḡarü] [動] やがる。[及 109]

【例】 こえて いうなに まだほごに いたがる
「来いというのに、まだそこに居やがる」

あがる [aḡarü] [動] 参る。登る。入る。[及 109]

【例 1】 遠慮なぐ あがりあした
「遠慮なく参りました」

【例 2】 あの山さ あがるえが
「あの山に登れるかい」

【例 3】 おえ えま あがる
「はい、今入ります」

あぎあげ [agiage] 稲の収穫。[及 68]

【例】 稲 乾してつずぎ、雨 あつづぐど、あぎあげ 半作だていう おんだ

「稲を乾している時、雨が續くと、稲の収穫は半作にしかない、というものだよ」

あぎあげ [agiage] 収穫。特に稲の収穫をいう。これは、秋まで天候に恵まれて、稲が順調に生育しても、収穫期に雨が續くと「あぎあげあ はんさぐだ＝収穫は半作だ」という使い方をしている。[続 2]

あぎがじえ [agigaⁿdʒe] 秋風。[及 100]

【例】 肌 さみくて すっかり あぎがじえだなは

「肌寒むくて、もうすっかり秋風だね」

あきさが [akisaga] 秋。秋の頃。秋が盛りの頃。[及 100]

【例】 旅行 えたな、去年の あきさがであったな

「旅行に行ったのは、去年の秋の盛りの頃だったな」

あきさごろ [akisajoro] 秋頃。[続 2]

【例】 なしてなんだが、あきさごろ なつど、おれあ いつつも かじえ ひぐなよ

「どうしてなのか、秋頃になると、私は何時も風邪をひくんだよ」

あぎたりねあ [agitarine] [連語] 飽き足りない。[及 109]

【例】 こればり くたて、あぎたりねあんだはげあ

「こればかり食ったって、飽き足りないんだから」

あぎたんねあ [agitanne] [連語] 飽き足りない。[同] あぎたりねあ。[続 2]

【例】 これあ んめあ、これだば なんぼ くたて あぎたんねあよだ おんだ

「これは美味しい、これなら幾ら食べても飽き足りないようなもんだね」

あぎつ [agitsuu] 空き地。[続 2]

【例】 わらしたずの あすびばん するよだ あぎつあ ねあ おんだべが

「子供らの遊び場にするような空地がないものだろうか」

あぎど [agi^(n?)do] 商人。[同] あぎよど。[及 77]

【例】 あぎども さまざま ある おんだ

「商人もさまざまあるものだね」

あぎねあ [agine] [名] 商い。[及 109]

【例】 あぎねあも らぐんねあ おんだ

「商いも、楽じゃないもんだよ」

あぎび [agibi] あげび。当地には、みつばあげびだけしか自生していない。みつばあげび。[及 80]

【例】 ○○ちゃん、あぎび とりん えがねあが

「○○ちゃん、あげびをとりに行きませんか」

あぎぼえ [agipoe] [形] 飽きっぽい。飽きやすい。[続 2]

【例】 この わらすあ だれん にだ おんだが、なに さへだて あぎぼえなよ
「この子は誰に似たものなのか、何をさせたって飽きっぼいんだよ」

あぎらめる [agiramərü] [動] 諦める。[及 110]

【例 1】 ほんたごどあ さっさど あぎらめる おんだ
「そんなことは、さっさと諦めるもんだよ」

【例 2】 あぎらめらんねあ
「諦められない」

【例 3】 あぎらめんべ
「諦めるだろう」

あぎる [動] 飽きる。[及 18]

【例】 本場のスコッツ あぎる程 のみであな
「本場のスコッチを飽きる程飲みたいな」

あぎる [agirü] [動] 飽きる。[及 110]

【例 1】 まえにづ くうど あぎるな
「毎日食うと飽きるね」

【例 2】 あぎらっだ
「飽きられた」

【例 3】 あぎんだはげあ
「飽きるんだから」

あぎれげある [agiregerü] [動] 呆れ返る。[及 110]

【例】 あぎれげあて、ものも ゆえねあ
「呆れ返えて、ものもいえないよ」

あくしゅぎ [aküşjũŋi] はなひりのき。これは、つつじ科の落葉低木で、この葉を粉末にしたものが鼻に入ると、「あくしゅん＝くしゃみ」の出るところからこの名がある。また粉末を便所に入れると、蛆が死ぬので「うずころす＝蛆殺し」の別名がある。[続 3]

あくしゅん [aküşjũn] くしゃみ。[及 13]

【例】 かじえ ひだんねあが、あくしゅんなのぼり して
「風邪をひいたんじゃないか、くしゃみなんかばかりして」

あぐすず [agüsüdzü] 悪質。[続 3]

【例】 つかごろあ あぐすずだ ものうりあ くっさげあ きいつけねあんねあな
「近頃は、悪質な物売りが来るから、気を付けないといけないな」

あぐだし [agüdasi] [名] あくぬき。山菜などのあくを抜くこと。[及 110]

【例】 わらびずあ あぐだし しねあど かんねあ おんだ
「わらびというものは、あくぬきをしないと、食べられないもんだよ」

あぐであ [agüde] [名] 悪態。悪口。[及 110]

【例】 ほんげあ あぐであ つく おんでねあ
「そんなに悪態をつくもんじゃないよ」

あぐでもぐであ [agüdemogüde] 悪口の限り。[同] あこもこ。あっこもっこ。[続 3]

【例】 まず あのばさまだば、おれあどさ あぐでもぐであ つで えぐなだぜあ
「まあ、あの婆さんたら、私に悪口の限りを吐いて行くんだよ」

あぐど 踵。[及 9]

【例】 あぐどさ そごまめ 出で、いであくて
「踵にそこまめが出て、痛たくてね」

あぐどかけ [agüdokage] かかとおおう布。冬作業に出る時、かがとを布で覆て出た、その布。[及 55]

【例】 あぐどかけ きっだはげあ べづんな めてころ
「かがとにかけける布が切れたから、別のを縫ってくれ」

あぐとす [agütosü] 灰通し。いろりの灰をふるう道具。[及 45]

【例】 ゆるりの あぐとす どさ やた
「いろりの灰通しを何所へやった」

あぐまぎ [agümagi] 灰撒き。これは、早春苗代の消雪のため灰を撒く作業をいう。また、灰の代りに土を撒くこともあり、これを「つずまぎ＝土撒き」といつている。[続 3]

あぐまはれあ [agümahare] [名] 悪魔払い。[及 110]

【例】 災難除げの あぐまはれあ してもらた
「災難除げの悪魔払いをしてもらいました」

あぐゆぎ [agüjügi] 灰雪。これは、3月中旬頃、大陸からの季節風に運ばれてくる、雪に混じった黄土が降るものをいう。この雪が降ると、春の近い前触れだといっている。[続 3]

あぐらっぱな [aṅürappana] あぐらばな。[及 9]

【例】 ○○さんは あぐらっぱなだ しとだ
「○○さんはあぐらばなな人だ」

あぐんと [aṅünto] [副] あんぐり。[続 3]

【例】 むすば みでくえっさげあ、あぐんと おっきぐ くず えあでみろ
「虫歯を見てあげるから、あんぐり大きく口をあけてみなさい」

あげ [age] とんぼ。[同] あげご。[及 80]

【例】 つあつあ あげ とてころ
「お父さん、とんぼをつかまえて下さい」

あげあ [age] [連語] あんな。[及 110]

【例】 おらも あげあん しであな

「私もあんなにしたいな」

この語は、「あげあた」、「あげあた—あんなの卑語」、「あつけあた」、「あんつけあた」、「あんだ」、「えあんつけあた」などとも使っている。

あげあ [aŋɛ] [副] ああ。あのよう。[続3]

【例】 この わらすあ、あげあ ゆえば こう いうす、すねこぐつで えぐねあ やろこだ
「この子は、ああいえばこういうし、ひねくれて悪い奴だよ」

あげあ [aŋɛ] 赤い。[及18]

【例】 あげあ きおの おしなが
「赤衣着物を欲しいのか」

あげあとどこ [aŋɛtodoko] 赤い魚。鮭と鱒をいう。[及36]

【例】 正月ん 食うな、あげあとどこ 買って くっさげあな
「正月に食べる鮭を買って来るからね」

あげあまま 赤飯。[及36]

【例】 今日あ ○○の 誕生日だおん あげあままでも 炊ぐが
「今日は○○の誕生日だもの、赤飯でも炊こうか」

あげあの [aŋɛōno] 揚げもの。油で揚げた食品。[及36]

【例】 ピーマンの あげあ の こしえでくんねあが
「ピーマンの揚げもの作ってくれませんか」

あげあぐ [aŋɛgū] [名] 挙句。[及110]

【例】 てづだわへだ あげあ ぐ えがったども ゆわねあけ
「手伝わせた挙句、よかったともいわなかったよ」

この語には、「あげあぐのはで—挙句のはて」などの使い方もある。

あげあじえんすえじえん [aŋɛⁿdʒɛnsüɛⁿdʒɛn] 上げ膳据え膳。[続3]

【例】 ○○さん えだば かねもずだ おんだはげあ、わらしたずあ あげあじえんすえじえんだど
「○○さんの家なら金持ちだから、子供らは上げ膳据え膳だそうだ」

あげあしめあ [aŋɛšime] 明け方。[及100]

【例】 よの あげあしめあ おごさつで、まだ ねぶてあ
「夜の明け方起されて、まだ眠いよ」

あげあながし [aŋɛnaŋasi] 立ち流し。[続4]

【例】 えまだば、みな たずながしだども、むがすあ ながすさ つつづぎぼして ちゃわんなの
あらた おんだ

「今なら、みな立ち流しだが、昔は流しにしゃがんで、茶碗なんかを洗ったものだよ」

あげあもす [aŋɛmosü] 上げ申す。便宜上奉っておくこと。[続4]

【例】 ○○さん えあ おおがねもずだはげあ みんな あげあもしてんなだ

「〇〇さんの家は、大金持ちだから、皆上げ申しているんだ」

あげる [aŋɛrũ] [動] 吐く。嘔吐する。[及 13]

【例】 ほんげあ あげる程 のまねあんだ
「そんなに吐く程飲むんじゃないよ」

あげる [agerũ] [動] 開ける。明ける。[及 110]

【例 1】 戸 あげろや
「戸を開けるよ」
【例 2】 よあ あげるは
「もう夜が明けるよ」

あげる [aŋɛrũ] [動] くれる。上げる。[及 110]

【例 1】 おめあどさ これ あげる
「あなたにこれをあげ(くれ)ます」
【例 2】 これ 棚さ あげっさげあ
「これを棚に上げるから」

あけんと [akɛnto] [副] ぼかんと。あっけらかんと。[続 4]

【例】 てずな やてめへだば どでして あけんとして みっだけ
「手品をやって見せたら、驚いて、ぼかんとして見ておったっけ」

あごつりみづ [aŋotsürimĩdzũ] 雪上に一人の人が歩いた足跡の通りにしかたどっていない道。雪が深いと、人の歩いた足跡のところだけがぬからないから、その足跡だけをたどって歩くことになるが、こうした道のことをいう。[及 100]

あごつる [aŋotsürũ] [四自] 歩く。[続 4]

【例】 〇〇ちゃん ガバンさ すず つけだ おんではげあ あごつる たんびん なんなよ
「〇〇ちゃんは、カバンに鈴を付けているものだから、歩く度に鳴るんだよ」

あごつる [aŋotsürũ] [動] 歩む。一步一步進む。[及 110]

【例】 この おぼごも やっと あごつるよん なた
「この子も、やっと歩むようになったよ」

あさ [asa] [連語] あそこへ。あそこに。[同] あそごさ。[続 4]

【例 1】 あさ えぐなが
「あそこへ行くのか」
【例 2】 あさ おえっだ
「あそこに置いてあるよ」

あさおり [名] 出勤。朝食後仕事に出ること。[及 111]

【例】 えま、あさおりですか
「今、出勤ですか。今、仕事に出るところですか」

あさぎ [asagi] 材質の軟かい木。朴、さわぐるみなどの材質の軟かい木の総称。[及 81]

【例】 あさぎも さまざま つかいみづあ あん おんだ
「材質の軟かい木も、それぞれ使い道はあるもんだ」

あさぐれ [asaŋüre] [形] 浅黒い。[同] あさぐろえ。[続 4]

【例】 ほら、えま えた いろの あさぐれ しとあ どごの しとだべ
「ほれ、今行った、色の浅黒い人は何処の人なんだろう」

あさぐろえ [asaŋüroę] [形] 浅黒い。[及 111]

【例】 あの しとあ あさぐろえ つら してるな
「あの人は、浅黒い顔をしているね」

あさげあり [asaŋeri] [名] 朝帰り。[及 111]

【例】 よつつぶで あさげありだは
「酔いつぶれて、朝帰へりになってしまったよ」

あさってのほむぐ [asatęnohomügü] [動] とぼける。とぼけて、あらぬ方を向くこと。

[及 111]
【例】 よばたども あさってのほむえで しらねあ ふりだけ
「呼んだが、とぼけて、知らないふりだった」

あさてっかり 朝だけ陽が照って後雨という天候。[及 100]

【例】 なんだや 今日あ あさてっかりであったな
「なんだい、今日は朝だけ陽の照る天候だったな」

あさてっかりむごながへ [asatekkarimügonaęaę] 俚諺。朝、陽が照っているので、雲行きが怪しい模様でも、聳なので、働きに出ざるを得なくて、仕事に行くと、雨になり、聳を泣かせるということ。[及 100]

あさねんぼ [asanębo] 朝寝坊。[続 4]

【例】 この わらすあ あさねんぼで、おごさねあど おぎねああだ
「この子は、朝寝坊で、起こさないと、起きないんだよ」

あさばら [asapara] 朝っぱら。早朝。[続 4]

【例】 おにがら おすごったら、あさばら がいと まわて ありてみろ
「かぶと虫が欲しいなら、朝っぱらに、外灯を回って歩いてみなさい」

あさひぼ [asařibo] 麻紐。[続 4]

【例】 はげごさ つける ひぼだば あさひぼあ いずばん え おんだ
「はげごに付ける紐なら、麻紐が一番いいものだよ」

あさへ [asahe] 浅瀬。[続 5]

【例】 こごらあだりあ あさへつぎだはげあ あゆつりにあ もてこえだな
「この辺は、浅瀬続きだから、鮎釣りにはもってこいだね」

あさます [asamasütü] [形] 浅ましい。[続5]

- 【例】 しとな えの つしよさまで き ゆえるなて あさます ごど するえ おんだな
「他所の家の土地にまで木を植えるなんて、浅ましいことが出来るもんだね」

あさみし 朝飯。[同] あさまま。[及36]

- 【例】 あさみし、早く けよは
「朝ご飯を早く食べてしまいなさいよ」

あさみしめあー [asamisime:] 朝飯前。[同] あさめしめあ。[続5]

- 【例1】 きゅうり もぎあ あさみしめあん しねあんねあな
「胡瓜をもぐのは、朝飯前にしないといけないな」
【例2】 ほんたごどあ おれだば あみしめあん でげる
「そんなことなら、私なら朝飯前（簡単）に出来るよ」

あじけねあ [形] 味気無い。あじきない。[及111]

- 【例】 ぼつっと したりばり のだて あじけねあ おんだ
「ぼつんと、一人ばかりで飲んでも、味気無いもんだね」

あしだが [asi⁽ⁿ⁾daga] 草履の短かいもの。農作業時にはいた。[及55]

- 【例】 田さ えぐ ずぎあ、あしだが へあでえげよ
「田に行く時は短かい草履をはいて行けよ」

あす [aⁿstü] [助動] ます。敬語で女性語。[及111]

- 【例1】 あした
「ました」
【例2】 えま えぎあす
「今参ります」
【例3】 えま えぎあすと
「今行くそうです」

～あす [～astü] [助動] ます。[続16]

- 【例1】 えて きあす
「行って来ます」
【例2】 ○○さんも きあす
「○○さんも来ます」
【例3】 とりあす
「取ります」
【例4】 のみあす
「飲みます」

あす 足。[及9]

- 【例】 おめあ あすあ 大っき ごど 何cm あるや

「お前の足は大きいね、何 cm あるんだい」

あず [名] 味。[及 18]

【例 1】 おめあ あずなの わがんのだがや

「お前、味なんか分るのかい」

【例 2】 あず すこむ

「味をしめる」

あず 味。[及 36]

【例 1】 ふぎの 煮だな んめあくて あず すこでしました

「茹の煮たのがうまくて、味をしめてしまったよ」

【例 2】 この ごんぼいりあ ええ あずだな

「この牛蒡いりはいい味だな」

また、味をしめることを「あずすこむ」といつている。

あすあど [asüado] 足跡。[続 5]

【例】 ほれ、みろ、ゆぎの ゆえの この あすあどあ うさぎの あすあどだぜあ

「ほれ、見なさい、雪の上のこの足跡は、兎の足跡だよ」

あすおど [asüodo] 足音。[続 5]

【例】 しとの ねっだ まぐらもどあ、あすおど さへねあで ありぐ おんだぞ

「人の寝ている枕元は、足音をさせないで歩くものだよ」

あすががり [asüugagari] 足掛かり。[続 5]

【例 1】 この ぎつつあがだば すばき あすががりん しねあば のぼらんねあな

「この急斜面なら、柴や木を足掛かり（足場）にしないと登れないな」

【例 2】 この すごど あすががりんして ひやくしよの たでなおす すんべ

「この仕事を足掛かり（いと口）にして、百姓の立て直しをしようや」

あすかげ [asükage] 足掛け。[続 5]

【例】 おれも ござさ きてがら あすかげ じゅうねん なるは

「私も、此処へ来てから、もう足掛け十年になるよ」

あずぎな [adzügina] なんてんはぎ。まめ科の植物で山菜。[及 81]

【例】 ござらあだりであ あずぎななの かねあな

「この辺では、なんてんはぎなんか食べないね」

あすくび [asükübi] 足首。[続 5]

【例】 きんな やまで あすくび すつげあで いであくて ありがんねあ

「昨日山で、足首を捻挫して、痛くて歩けないよ」

あすくへ [asükühę] 足癖。[続 6]

【例】 この やろこあ、しとんどご ふだりして、あすくへの えぐねあ やろこだな

「この子（男の子）は、人を踏んだりして、足癖の悪い子だね」

あずげる [aⁿdzügerü] [四他] 叩く。[続6]

【例】 こらっ、あんまり きがねあど、ごつんと あずげんぞ
「こらっ、余りきかないと、ごつんと叩くよ」

あずげる [aⁿdzügerü] [下一他] 預ける。[続6]

【例】 ○○さん えさ にもつ あずげで きた
「○○さんの家へ荷物を預けて来たよ」

あすごすれあ [asüŋosüre] [名] 足ごしらえ。[及111]

【例】 山さ えぐなだば あすごすれあ えぐして えげよ
「山へ行くのだったら、足ごしらえを十分にして行きなさいよ」

あずすこむ [aⁿdzüsükümü] [連語] 味をしめる。[続6]

【例1】 さげのよの こうずずげの あず すこで まだ かて きた おんだ
「鮭の麴漬けの味をしめて、また、買って来たもんだ」

【例2】 こねあだ ざっこあ えっぺあ つっだ おんだはげあ あず すこで まだ えぐど
「この間雑魚が沢山釣れたものだから、味をしめて、また行くそうだ」

あすずり [asürⁿdzüri] 足摺り。[続6]

【例】 この わらすあ んめあ おの おすどて、あすずり して だんじゃぐ こぐなよ
「この子は、お菓子が欲しいって、足摺りをしてごねるんだよ」

あずせあ [adzüse] あじさい。[及81]

【例】 あずせあって、にゆうべあん ずぎ さぐ 花よ
「あじさいって、入梅の頃咲く花なんだよ」

あすだ 足駄。[及55]

【例】 いすさ つまづで、あすだの 歯 けあだは
「石につまづいて、足駄の歯を欠いてしまったよ」

あずだす [aⁿdzüdasü] [動] 思い出す。[及111]

【例】 かずていうど、五年めあの 大火 あずだすな
「火事というど、五年前の大火を思い出すよ」

あすつぎ [asütsügi] 足つき。歩く時の足の様子。[続6]

【例】 ○○さん、けがでも したあだべが、あすつぎあ いっつもど つがうな
「○○さんは怪我でもしたんだろうか、足つきが何時もと違うね」

あずつける [aⁿdzütsükörü] [四他] 思い出す。[続6]

【例】 ああ、あずつけど、○○は たんすの ひぎだすさ へっだなであった
「ああ、思い出した、○○は箏笛の引き出しに入れておったんだった」

あすつで [asütsürⁿdę] 足ついで。[続6]

【例】 　　ごまで きた おんだおん、あすつでん 〇〇さも えてみんべ
　　「此処まで来たんだから、足ついでに、〇〇にも行ってみようよ」

あすであ [名] 足代。[及111]

【例】 あすであ なんぼ だへば え
　　「足代はいくら出せばいいの」

あすどめ [asür^odome] 足留め。[続6]

【例】 えそがす 　　ご あすどめするよですども おじゃでも ので えてくませあ
　　「忙しいところを足留めするようですが、お茶でも飲んで行って下さい」

あすどり [asür^odori] 足取り。[続6]

【例1】 ずさま あの とすで あすどりあ まだ すっかり してる おんだ
　　「お爺さんは、あの年で、まだ足取りはしっかりしてるもんだね」
【例2】 はんにんの あすどりも まだ つかめねあど
　　「犯人の足取りもまだ掴めないそうだ」

あすながばづ あしながばち。主として、ふたもんあしながばちをいう。すずめばち科の蜂。[及81]

【例】 あすながばづあ 巣くんでだはげあ そばさ えぐなよ
　　「あしながばちが巣を作っているから、そばへ行くなよ」

あすなみ [asünami] 足並み。[続7]

【例】 わらしたずあ、がくてあさ あへで、あすなみ そろえで ありったけ
　　「子供らが、楽隊に合わせて、足並みを揃えて歩いていたっけ」

あすならす [asünarasü] 足慣らし。[続7]

【例】 あす けがして、たいいんしたはげあ、[あ] すならすん ありったなだ
　　「足を怪我して、退院したから、足慣らしに歩いているんだよ」

あすのへら [asünohera] 足の裏。[続7]

【例】 あすの へらさ くぎ さしてしまて、いであくて えしやさ えて きた
　　「足の裏に釘を刺してしまて、痛くて医者へ行って来たよ」

あすば [asüba] 足場。[続7]

【例1】 あんまり たげあくて あすば つぐらねあど すごど さんねあな
　　「余り高くて、足場を作らないと、仕事をされないな」
【例2】 この すごど あすばん して、しとがんばりしねあんねあ
　　「この仕事を足場にして、ひと頑張りしないとイケないな」

あずばり [adzübari] 集まり。[続7]

【例】 ばんげ こうみんかんで ぶらぐの あずばりあ あっど
　　「今晚、公民館で、部落の集まりがあるそうだ」

あずばる [adzübarü] [四自] 集まる。[続 7]

【例】 テレビの きょうどうアンテナの ごどで みんな あずばるつけぞ
「テレビの共同アンテナのことで、皆が集まるそうだよ」

あすび [asübi] 遊び。[続 7]

【例】 ○○ちゃん、べんきよ すっずぎあ あすびながらんねあぐ するよ
「○○ちゃん、勉強をする時は、遊びながらでなくしなさいよ」

あすびようす [名] 足拍子。[及 111]

【例】 みろ あすびようす とてだ
「みなさい足拍子をとってるよ」

あすぶ [動] 遊ぶ。[及 111]

【例】 ○○ちゃん おれど あすぶべや
「○○ちゃん、私と遊ぼうよ」

この語には、「あすだ一遊んだ」、「あすばへる一遊ばせる」などの使い方がる。

あすぶみ [asübümi] 足踏み。[続 7]

【例】 ないだや、あすぶみなにして、しょべでも でんなが
「なんだい、足踏みなんかして、小便でも出るのかい」

あずぼってあ [adzübotte] [形] 厚ぼったい。[続 7]

【例】 ほごの あずぼってあ ほん ないの ほんだ おんだや
「そこの厚ぼったい本は、何の本なものなんだい」

あすまがへ [asümagahē] 足任せ。[続 8]

【例】 ほんずぎの きぶんしであで、ほごら あすまがへん ありてみんべ
「その時の気分次第で、その辺を足任せに歩いてみよう」

あすまめ [asümamē] [ダナ] 足まめ。[続 8]

【例】 あの しとだば、あすまめだ しとで、えぐ ありぐ しとだな
「あの人なら、足まめな人で、よく歩く人だね」

あずみ [a^hdzümi] 味見。[続 8]

【例】 この におの ししょかげん なんだが、あずみ してみでくんねあが
「この煮物の塩加減がどうなのか、味見をしてみてくださいませんか」

あすもど [asümodo] 足元。[続 8]

【例 1】 ゆぎみずあ すべっさげあ、あすもど きいつけで えげよ
「雪道は滑べるから、足元に気を付けて行きなさいよ」

【例 2】 この すなおのあ うんねあ おんだはげあ あすもど みで ねびぐ つもりだな
「この品物は、売れないものだから、足元を見て値引くつもりだな」

あすよどめ [名] 足よどめ。足をよどめること。歩みを一寸止めること。[及 112]

【例】 あすよどめ さへだなは
「足をよどめさせてしまったね」

あすらう [asūraü] [四他] あしらう。[続8]

【例1】 ものうりあ きたら えっかげん あすらて けあへ
「物売りが来たら、いい加減あしらって帰せよ」

【例2】 この さらさ なに あすらて でしたら えべ
「この皿には何をあしらって出したらいいでしょう」

あすれあ [asüre] あしらい。[続8]

【例1】 しょうべあがら きやぐあすれあも てあへんだな
「商売柄、客あしらいも大変だね」

【例2】 この やぎにぐの あすれあん パーセリ つかてくんねあが
「この焼き肉のあしらいに、パーセリーを使ってくれませんか」

あずれある [adzürerü] [下一他] 預ける。[同] あずらぐ。[続8]

【例】 てあきん もてっど あぶねあはげあ、ぎんこさ あずれあで きたは
「大金を持っていると危ないから、もう銀行に預けて来たよ」

あずわえあ [aⁿdzüwe^e] 味わい。[続8]

【例】 この ウイスキーの あずわえあ なんとや、〇〇の ウイスキーだぞ
「このウイスキーの味わいはどうだい、〇〇のウイスキーだよ」

あずんた [aⁿdzünta] [連語] 変な。[続9]

【例】 この りょうりあ あずんた あずだ おんだな、ないていう りょうりだ おんだや
「この料理は、変な味なもんだね、なんという料理なんだい」

あずんた 怪しい。変な。[及18]

【例1】 あずんた おのあ え のぞいで ありがけ
「怪しい者が家をのぞいて歩いてたっけ」

【例2】 この あずあ あずんた あずだな
「この味は変な味だな」

あせあ [ase] 浅い。[及18]

【例】 もと あせあ はづ くんねあが
「もっと浅い鉢をくれませんか」

あだ [ada (aⁿda?)] [連語] のだ。んだ。んです。ああだ。[及112]

【例1】 これあ おめあ するあだぞ
「これは、お前がするのだよ」

【例2】 えま えぐあだ
「今行くんだ。今行くんです」

【例3】 わげあ わがらねあで あだこだて いうな

「わけも分らないで、ああだこうだと、いうんじゃないよ」

あたあた [動] [幼児語] あたる。火にあたること。[及 112]

【例】 めえ あたあた すんべ
「坊や、火にあたろうね」

あたこえ 暖かい。暑い。[及 18]

【例 1】 あたこぐなて 春だなは
「暖かくなって、もう春だね」

【例 2】 今日まだ あたこえな
「今日は暑いな」

あたふためぐ [動] 慌てふためく。[及 18]

【例】 なに ほんげあ あたふためでんなや
「何をそんなに慌てふためいているんだい」

この語は「あわく一慌てる」、「あわだぐ一慌てる」などとも使っている。

あだま 頭。[及 9]

【例】 めご めごて あだま なでだけ
「めごめごって、頭をなでてくれたっけ」

あだますぎ [adamasügi] 蛹化直前の蚕。蚕は蛹化前には胸の部分が透き通ったようになるが、この蚕をあだますぎといい、繭を作るようになる。[及 68]

あだまてんてん [adamatentēn] 頭を打つ幼児の遊び。[続 9]

【例】 めえ ほら、あだまてんてん してみろ
「めえ（子供の愛称、男女の区別はない）ほら、頭を叩いてごらん」

あたまる [atamarü] [四自] 暖まる。[続 9]

【例】 こんげあ さみずぎあ みんなして えっぺあ ので あたまんべや
「こんな寒い時は、皆で一杯飲んで暖まろうや」

あためる [動] 暖める。[及 112]

【例】 手 つであ ごど、あためるんだ
「手の冷めたいこと、暖めなさいな」

あだらす 新しい。[及 35]

【例】 くづ あだらすな 買てころ
「靴、新らしいのを買って下さい」

あだりほどり [adarīhodori] 周囲。[続 9]

【例】 ないだべ、この わらすあ んめあ おの あだりほどりさ みな こぼして
「まあ、この子は、お菓子を周囲にみなこぼして」

あだりめあ [adarime] あたりまえ。当然。[及 112]

【例】 ほんたごどあ あだりめあだべや
「そんなことは、あたりまえじゃないか」

あだる [adarüü] [動] あたる。火にあたることと、予想や占いなどの当ること。[及 112]

【例 1】 さみはげあ おれも あだる
「寒いから、私もあたる」

【例 2】 このじゅあ 天気予報も あだるな
「近頃は、天気予報も当るな」

あだる [動] 当る。中風になる。中毒する。[同] あでる。[及 13]

【例 1】 あんまり さげなのぼり まぐらてっど、あだるんだはげあな
「余り酒なんかばかり飲んでると、中風になるんだから」

【例 2】 なんにも あだるおの かへねあ かんじゅだどもな
「何も中毒するような物は食べさせないつもりだがね」

あつ 熱い。暑い。[及 19]

【例 1】 この えもあ あつ ごど、舌 やげん すっどごであった
「この芋の熱いこと、舌をやけどするところだったよ」

【例 2】 今日あ あつ 天気だな
「今日は暑い天気だね」

あづ [adzüü] 厚い。[及 19]

【例】 この 本あ あづ 本だな
「この本は厚い本ですね」

あづがう [adzüügaüü] [動] 看病する。預かる。[及 112]

【例 1】 病人 あづがうなも てあへんだな
「病人を看病するのも大変だね」

【例 2】 この 荷物、あづがうべが
「この荷物、預かってくれるでしょうか」

あつくるす [atsüükürüsüü] [形] 暑苦しい。[続 9]

【例】 こにやまだ めっぼ あつくるすくて、ねぐるす ぼんだな
「今夜は、滅法暑苦しくて、寝苦しい晩だな」

あづげあ [名] 扱い。[及 112]

【例 1】 この きっけあの あづげあがだ おべっだが
「この機械の扱い方を知ってますか」

【例 2】 あそごの 旅館、客 あづげあ えぐねあくて だめだ
「あそこの旅館は客扱いが悪くて駄目だよ」

あづげあと [adzüügeto] 看病人。看護人。[及 1]

【例】 入院さへだども、あづげあと よだど

「入院させたが、看病人が欲しいそうだ」

あつけねあ [akkɛnɛ] [形] 呆気ない。[続 9]

【例】 この だびあ さげ あつけねあぐ のでしました おんだな
「この度は、酒を呆気なく飲んでしまったものだね」

あつけねあ [akkɛnɛ] あつけない。[同] あわけねあ。[及 19]

【例】 んめあ おのあ あつけねあ おんだな
「うまい物はあつけないものだな」

あつけらぼん [副] あつけらかん。[及 112]

【例】 どでして、あつけらぼんどして みっだけ
「驚いて、あつけらかんとして見ていたつけ」

あっこ [akko] 悪口。[続 9]

【例】 えぐ しのの あっこのな ゆえる おんだ やめだら えがべあ
「よく人の悪口なんかいえるもんだよ、止めたらいいだろうに」
なお、この語の強調語に、「あこもこ、あっこもっこ」などがある。

あつこつ [atsükotsü] あちこち。[同] あつこつつ。あっちゃこっちゃ。[続 9]

【例】 ゆぎあ けだば、どでの あつこつさ ばっけあ ではてきったけ
「雪が消えたら、土手のあちこちに藨のとうが出てきていたつけ」

あつこと [ätsükodo] [名] 心配。[及 112]

【例】 おめあ なにが あつことでも あんなが
「お前、何か心配でもあるのかい」

あつたらおの [名] あつたらもの。惜しいもの。[及 112]

【例】 あつたらおの 駄目ん したながは
「あつたらものを駄目にしてしまったのかい」

あっちゃこっちゃ [attjakottʃa] 逆。あべこべ。[続 9]

【例 1】 きおの あっちゃこっちゃ きる
「着物を裏表逆に着る」

【例 2】 はぎおの あっちゃこっちゃ はぐ
「履物を右左あべこべに履く」

あつつ [代] あっち。[及 112]

あつつのしと [attsünošito] [幼児語] 他所の人。[続 10]

【例】 ○○ちゃん あつつの しとあ きたら、ちゃんと ござまれよ
「○○ちゃん、他所の人が来たら、きちんとおじぎをするんだよ」

あっぴ [appi] [幼児語] 家鴨。[同] あび。[続 10]

【例】 ほら みろ、たなげで あっぴあ およえんだぞ

「ほら見なさい、池で家鴨が泳いでいるよ」

あでぎ 炬ぶち。[及 45]

【例】 あでぎさ ねまる おのあ ねあべな
「炬ぶちに据る奴があるもんか」

あでつら [adetsüra] あてこすり。[続 10]

【例】 ほんた あでつらだ ごど ゆわねあで、まっすぐん ゆたら えんねあが
「そんなあてこすりなことをいわないで、真っ直ぐにいったらいいじゃないか」

あどかが [adokaga] 後妻。継母。[及 1]

【例】 わらしたづあ いっどさ あどかがん えぐど
「子供らのいるところへ、後妻に行くそうだ」

あどげあり [adoŋeri] 1、後戻り。2、ふり返る。[続 10]

【例 1】 わすれおの して あどげあり してきた
「忘れ物をして後戻りしてきた」

【例 2】 おれあどご よばっさげあ あどげあり した
「私を呼ぶから振り返ってみた」

あどさま [adosama] お月さま。[及 100]

【例】 おら ちっちえ ずぎあ、あどさま こさま なんぼん なるや、十三、七つ 七つ、まだ
年あ わがい わがい、なて うだた おんだ
「私らの小さい時分には、お月さまこさま、いくつになるの、十三、七つ七つ、まだ年は若い
若い、なんて唄ったものだ」

あどさま 和尚。僧侶。[及 77]

【例】 ほうずだはげあ あどさまどご よばねあんねあな
「法要だから、お和尚さまを招ばなければならないな」

あどさん 盲。盲人。[及 1]

【例】 むぞせあ ごど、あどさんの ほえどあ 来たじゆ
「かわいそうなこと、盲の乞食が来たよ」

あどしめあ 食事の後仕末。[同] あとしんめあ。あどすめあ。あどすんめあ。[及 36]

【例】 いづまでも 飲でっど あどしめあも でげあねあ
「いつまでも飲んでると、後仕末も出来あしないよ」

あどたです [adotaderü] 蚕糞の仕末をすること。[続 10]

【例】 あどたでする ずがんだはげあ、おじゃばり のでだて だめだぞ
「蚕糞の仕末をする時間だから、お茶ばかり飲んでいたら駄目だよ」

あどのまづり [名] 手おくれ。[及 279]

【例】 えまさら ほんた ごど ゆたて、あどのまづり だべや

「今さらそんなことをいっても、手おくれだろうや」

あどばれあ [adobare] 後払い。[続 10]

【例】 えま かねあ ねあはげあ あどばれあで えごったら かう
「今金がないから、後払いでいいなら買うよ」

あないず [anaïdzü] 雪の穴に銭を投げ入れて遊ぶ遊び。これは、銅貨を小さな雪の穴に投げ入れ、入ったら、入らない者の銭を貰う遊びをいったが、今は行われいない。[同] あなこいず。[続 10]

あなぼこ [anapoko] 穴。特に小さい穴をいう。[続 10]

【例】 がが、ズックさ あなぼこあ えあだはげあ、べずんな かてころ
「お母さん、ズックに穴があいたから、別のを買って下さい」

あに 兄。夫。雇人。[及 1]

【例】 おれあ えの あにあ 来ったべ
「私の兄が来ているでしょう」

この語は、兄と使うだけではなく、妻が夫を呼ぶ時にも使い、雇人を雇主やその家族が呼ぶ時にも使うので、特に書いた。また、この語は「あんこ一兄」、「あんちゃん一兄ちゃん」、「あんつあ一兄さん」、「にい一兄さん」などとも使っている。

あねこ 姉。嫁。妻。娘。[及 1]

【例 1】 あねこ おれあ きおのも ぬてくんねあが
「姉さん、私の着物も縫ってくれませんか」
【例 2】 ○○えの あねこあ めんごげだ あねこだな
「○○さんの家の嫁さんはきれいな嫁さんだね」
【例 3】 おれあ えの あねこあどご みねあがったが
「私の妻を見ませんでしたか」
【例 4】 あそごの あねこも、年頃だなは
「あそこの娘も、もう年頃だね」

この語を嫁と使うのは、嫁の家族が他の人に使ったり、他人が使う時にいう。また、妻と使う時は夫が他の人に話す時に使う。この他に「あね一姉さん。または下女の呼び名」。「ねえさん一姉さん。または、他人の女が人妻を呼ぶ時に使う」などの呼び名がある。

あねつあ [anetsa] 1、姉さん。2、奥さん。この語は、姉を弟妹が呼時に使ったが、今は、中年以上の女が、他人の中年以上の女を呼ぶ時に「奥さん」という意味で稀に使うだけである。[続 10]

あばげ 甘えん坊。[及 1]

【例】 この わらすあ、まづ、あばげで
「この子は、まづ、甘えん坊で」

この語のやゆした使い方に「あばげさんたろ」がある。

あばげる [a^mbagerü] [動] 甘える。[同] びれる。[及 19]

【例】 この わらすあ しとりこな おんだはげあ、まづ、あばげる おんだ
「この子は独りっ子なものだから、まづ、甘えるもんだ」

あばとば [apatopa] [副] 慌てて歩くさま。[続 11]

【例】 ないだやは、あばとばて、ないが てあへんだ ごどでも おぎだなが
「なんだい、慌てふためいて、なにか大変なことでも起きたのかい」

あばらっぼね [a^mbarappone] 肋骨。[及 9]

【例】 なんだが あばらっぼねの あだりあ いであな
「何だかあばらぼねのあたりが痛いな」

あび [apī] [幼児語] 火。[続 11]

【例】 ○○ちゃん、あびあ あつあつだはげあ、ちよさんねあぞ
「○○ちゃん、火は熱い熱いだから、さわられないんだよ」

あぶぐじえね [abügüdzene] 泡銭。[続 11]

【例】 ほんた ばぐじで もげだ あぶぐじえねなの みさ つがねあ おんだ
「そんなばくちで儲けた泡銭なんか、身に付かないものだよ」

あぶなかさ [abünakastü] [形] 危なっかしい。[同] あぶなっかす。[続 11]

【例】 ほんた きさなの のぼて あぶなかさ ごど はやぐ おりで こえ
「そんな、木になんか登って、危なっかしいこと、早く下りて来なさい」

あぶねあ [a^mbüne] 危ない。[及 19]

【例】 車 あぶねあはげあ きい つけろよ
「車は危ないから、気をつけなさいよ」

あぶらあへ [abüraahe] 脂汗。[続 11]

【例】 あんずぎだば おれも おかねあくて あぶらあへ けあだな
「あの時なら、俺もおっかなくて、脂汗をかいたね」

あへ [ahe] 汗。[及 13]

【例】 あへ ながすど、気もづあ え おんだな
「汗を流すと、気持ちがいいもんだね」

また、一生懸命働くことを「あへみずたらす」といつている。

あへかがみ [ahekanami] 合わせ鏡。[続 11]

【例】 はなよめの うすろすがだも きれだはげあ、あへかがみで めへでやれ
「花嫁の後姿も奇麗だから、合わせ鏡で見せてやりなさい」

あへすらず [ahešüraⁿdzü] 汗知らず。汗を取る粉。[続 11]

【例】 はえっとう、おめあ えに あへすらずあ ありあへんべが
「ご免下さい、お宅（お店）に汗知らずがありませんでしょうか」

あへだぐ [aheḍagü] 汗だく。[続 11]

【例】 きょうあ、めっぼ あつ おんではげあ、さすがの おれも あへだぐであったな
「今日は滅法暑いものだから、さすがの私も汗だくだったよ」

あへど [ahẽdo] 合わせ砥。仕上げに使う砥石。[続 11]

【例】 あらどや ながどで とえだ あど あへどで とぐ おんぞ
「荒砥や中砥で磨いたあとは、合わせ砥で磨ぐもんだよ」

あへどり 短い肌着。作業に出る時、女の着た短い肌着。[及 55]

【例】 洗うに ぞうさねあくて あへどりあ ええ おんだ
「洗うに雑作なくて、短い肌着はいいものです」

あへばむ [ahẽbamũ] [四自] 汗ばむ。[続 12]

【例】 きょうだば、あへばむほどの あたこえ ようきであったな
「今日なら、汗ばむ程の暖かい陽気だったな」

あへぼ [ahẽbo] 汗も。[及 13]

【例】 こどしあ あへぼあ でで きたじゅ
「今年は汗もが出て来たよ」

あへみず [ahẽmiˀdzũ] 汗水。[続 12]

【例】 おら げつきゅうとりんねあはげあ、あへみず たらして ほそぼそ くらしてんなだ
「俺は月給取りではないから、汗水を流して細細暮しているんだ」

あへみどろ [ahẽmiˀdoro] 汗みどろ。[続 12]

【例】 この あつずぎ はして ありた おんではげあ、あへみどろん なてしました
「この暑い時に走って歩いたものだから、汗みどろになってしまったよ」

あへる [ahẽrũ] [下一自] 褪せる。[続 12]

【例】 あの きれだ さぐらも、ここ にさんにずで いろあ あへで きたなは
「あの綺麗な桜も、ここ二、三日で、もう色が褪せてきてしまったな」

あへる [ahẽrũ] [四自] 焦る。[続 12]

【例】 あへる きもずあ わがんども、ものごどあ ほんげあ あへたて だめだ おんだ
「焦る気持は分るが、物事はそんなに焦ったって駄目なもんだよ」

あま [幼児語] 水。[及 36]

【例】 ママ、あま のむ
「お母さん、水をのみたいよ」

あま [ama] [幼児語] 水。[続 12]

【例】 ばば あま のみであ
「お婆さん、水を飲みたいよ」

あまか [amaka] 甘皮。樹木の外皮の内側の皮をいう。[続 12]

【例】 きの かわ はぐ ずぎあ あまかも はがねあど この はだ きれん ならねあぞ

「木皮を剥ぐ時は、甘皮も剥がないと、木の肌が綺麗にならないよ」

あまける [動] 雨もよいになる。[及 100]

【例】 なんだや あまけで 来たな
「なんだい、雨もよいになって来たな」

あまこえ 甘っこい。甘い。[及 19]

【例】 この おがしあ めっぼ あまこえ なんだな
「このお菓子は、めっぼう甘っこのだな」
なお、甘いには「あめあ」がある。

あまししよ [amasijō] 甘塩。[続 12]

【例】 こうけずあずん ならねあよん つけおのも あまししよん すろよ
「高血圧にならないように、漬物も甘塩にきなさいよ」

あまずっぺあ [amaⁿdzüppe] [形] 甘酸っぱい。[続 12]

【例】 この すももあ あまずっぺあくて んめあ ごど、こゆな だいすぎだな
「この李は甘酸っぱくて美味しいこと、こういうの大好きだな」

あまたるこえ [amatarükoe] [形] 甘ったるい。[続 12]

【例】 おれあ さげのみだ おんだはげあ、あまたるこえな だめだなよ
「私は酒飲みなものだから、甘ったるいのは駄目なんだよ」

あまと [amato] 甘党。[続 13]

【例】 どつつがていうど、さげ のまねあ しとあ あまとあ よげだな
「どっちかというど、酒を飲まない人は、甘党が多いね」

あまどよ とい。あまどい。[及 45]

【例】 あまどよあ くさっだはげあ とけあねあんねあな
「雨樋がくされたから、取り替えないといけないな」

あまなつと [amanatto] 甘納豆。[続 13]

【例】 けずあずの たげあ しとあ あまなつとみであだ あめあ おの かねあ ほあ えど
「血圧の高い人は、甘納豆のような甘いものは食べない方がいいそうだ」

あまむり 雨もり。[及 101]

【例】 屋根あ くさて あまむり してきたじゅは
「屋根がくさって、雨もりができてしまったよ」

あまもよ [amamojo] 雨模様。[続 13]

【例】 なんだが あまもよん なてきたな、これだば しとあめ くんべな
「なんだか雨模様になってきたな、これならひと雨くるだろうな」

あまゆぎ [amajügi] ぬれ雪。みぞれ。[及 100]

【例】 きしゃわりごど、あまゆぎん なてきたちゃは

「嫌だね、みぞれになって来てしまったよ」

あまりおの [amariono] 余りもの。[続 13]

【例 1】あまりおので わりども、んめあはげあ くてくであ
「余り物で悪いですが、美味しいから食べて下さい」

【例 2】あまりおのん さんねあよん おわす ごどあ みつつり やれよ
「余り者にされないように、自分の仕事はみっちりやれよ」

あまりん [amarin] [副] 余りに。[続 13]

【例】えまの したずあ あまりん ものあ ほうふだはげあ、じええたぐで こまた おんだ
「今の人達は、余りに物が豊富だから、ぜいたくで困ったもんだよ」

あまんじやぐ [amanⁿdzagü] 天の邪鬼。この語は、「及位の昔話」の中に出て来る化け物として語られる名が出るだけで、他の意味では使われていない。[続 13]

あみおの [amiono] 編み物。[続 13]

【例】こごらであ あみおのなの する しとあ えまだば すぐねあぐ なたは
「この辺では、編み物 なんかをする人は、今ならもう少なくなってしまったよ」

あみげある [amigerü] [下一他] 編み替える。[続 13]

【例】この スエーター あみげあで もらわねあど きらんねあなは
「このスエーターは、編み替えてもらわないと、もう着られないな」

あみわだす 網わたし。魚などを焼く網。[及 45]

【例】あみわだす どさ やた おんだべ
「網を何所へやったもんだろう」

あめあーる [ame:rü] [下一他] 甘える。[同] そべある。[続 13]

【例】この わらすあ しとりっこな おんだはげあ あめあでばり いんなだ
「この子は、独りっ子なものだから、甘えてばかりいるんだよ」

あめがじえ [amegaⁿd3e] 雨風。[及 101]

【例】ひでえ 天気ん なてきたな、あめがじえだ おん
「ひどい天気になって来たね、雨風だもの」

あめふりばな ひるがお。朝顔に似た、ひるがお科のつる植物。[及 81]

【例】天気あ え ずぎ せあでも あめふりばなが
「天気の良い日に咲いても、雨降り花（ひるがお）かい」

あめゆぎ [amejügi] みぞれ。[同] ぬれゆぎ。あまゆぎ。[続 14]

【例】あめゆぎん なてきたちゃは、わらしたずあ ぬつで くんべじゆ
「みぞれになってきてしまったな、子供らが濡れて来るだろうよ」

あやこ [名] 綾。糸を輪にした、子供の遊び道具。[及 46]

【例】ねえちゃん、あやことり しねあが

「姉ちゃん、綾とりしませんか」

綾とりして遊ぶことを「あやことり」といっている。

あやこ [ajako] お手玉。この語を及位の方言 46P に「あや、糸を輪にした子供の遊び道具」と書いたがこれは「あやとり」といっており、「お手玉」は「あやこ」、「じゅうず。ちよんなご（及位の方言 173P）」などといっている。[続 14]

あやす [ajasü] [形] 怪しい。[続 14]

【例 1】 そわそわて あの おどごあ どうも あやす おどごだな
「そわそわして、あの男はどうも怪しい男だな」

【例 2】 どうも くもゆぎあ あやすぐ なてきたな
「どうも雲ゆぎが怪しくなってきたな」

あら 粃。玄米や白米に混じっている粃。[同] あらもど。[及 36]

【例】 この 米あ ぜえぶん あら へあったな
「この米は随分粃が入っているね」

あらあらす [araarasü] [形] 荒荒しい。[続 14]

【例】 と たでっずぎあ ほんげあ あらあらすぐ たでる おんでねあぞ
「戸を締める時は、そんなに荒荒しく締めるものではないよ」

あらおの [araono] 荒物。雑貨。[続 14]

【例】 はぎ かいでああだども、あらおの うてっどご どごですべ
「箒を買いたいのだが、荒物を売っているところは何処でしょう」

あらがます [aragamasü] 荒荒しい。[及 19]

【例】 あの しとあ あらがます 体 してるな
「あの人は荒荒しい体をしていますね」

あらげる [aragerü] [下一自] 暴れる。[続 14]

【例】 この やろ なして あらげんなだ あんまり きがねあど そどさ だしてやんぞ
「この野郎、なぜ暴れるんだ、余りきかないと、外へ出してやるよ」

あらし 炭がまから出した炭をかま口のところで、空気にさらすこと。[及 68]

【例】 こんだ かまがら 出して、あらし くっだて えなは
「今度は、もう炭がまから出して、空気にさらしてもいいな」

あらす [arasü] 嵐。[続 14]

【例】 しとあれ きそだ もよだども あらすん ならねあば えどもな
「ひと荒れ来そうな模様だが、嵐にならないといいがな」

あらすごど [arasüjodo] 荒仕事。[続 14]

【例】 きい きるよだ あらすごどあ、おなごしたずであ でげねあ すごどだ おんな
「木を伐るような荒仕事は、女の人達では出来ない仕事だからな」

あらずず [arasürⁿdzü] 荒筋。[続 15]

【例】 なた ごど すんなだが、ほの あらずずばりも ゆてみるちゃや
「どんなことをするのか、その荒筋だけでもいってみろよ」

あらっぼえ [arappoe] 荒っぼい。粗っぼい。[同] あらぼえ。[及 19]

【例 1】 えあづの する ごどあ あらっぼえ おんで
「あいつのすることは、荒っぼいもんで」

【例 2】 この 粉 すこす あらっぼえな
「この粉は少し粗っぼいな」

あらど 荒砥。[及 62]

【例】 この なだだば あらどで とがねあど だめだな
「この鉈なら、荒砥で研がないといけないな」
また、「と一砥石」、「ながと一中砥石」の語がある。

あらね あられ。[及 101]

【例】 あらねあ ふてきたじゅ、そんま ゆぎあ ふるなは
「あられが降ってきたよ、もうじき雪が降ってくるな」

あらねこ [araneko] あられ。あられ餅をいう。[続 15]

【例】 ばんちゃん、おら あらねこ すぎだはげあ、まだ こしえあでこっちえあな
「お婆ちゃん、私はあられが好きだから、また作って下さいね」

あらば [名] 乱暴。[及 19]

【例】 きっけあ ほんげあ あらばん あづがうなや
「機械をそんなに乱暴に扱うなよ」

あらば [arapa] 粗暴。[続 15]

【例】 この わらすだば、まず、あらばだ おんで、こまた おんだ
「この子なら、まあ粗暴なもんで、困ったもんだよ」

あらみづ まだ人の歩いてない雪道。[及 101]

【例】 がっこの みづあ まだ あらみづだけ
「学校へ行く道は、まだ人の歩いてない雪道だった」

あらもど [aramodo] 糶すり機にかけても糶がらのとれないもの。[続 15]

【例】 やっぱり ほうさぐん ずぎあ あらもども すぐねあ おんだな
「やっぱり、豊作の時は、糶がらの取れない物も少ないものだね」

あらゆぎ [arajügi] 新雪やまだ人の踏まない積雪。[続 15]

【例】 ゆべな、まだ ゆぎあ ふたはげあ、まだ あらゆぎ こがねあんねあな
「夕べまた雪が降ったから、また新雪をこぎ歩かないといけないな」

ありあす [ariasü] [連語] あります。[続 15]

【例1】 さげぐれあ まだ ありあすさげあ、ゆっくり のでくであ
「酒ぐらいまだありますから、ゆっくり飲んで下さい」

【例2】 ほれあ ほで ありあすな
「それはそうでありますね」

また、この語の反対の語に、「ありあへん＝ありません」がある。

ありがとう [ariŋade] 有難い [及 19]

【例】 すごど てづだて もらて ありがとうあがった
「仕事を手伝ってもらって、有難かった」

ありがど [ariŋado] [感] 有難う。[及 19]

【例】 めずらす おの もらて どうも ありがど
「珍しい物をいただいて、どうも有難う」

あれあ [are] 荒い。粗い。[及 19]

【例1】 くまのししど、ライオンど どっちあ あれあべ
「熊とライオンで、どっちが荒いだろう」

【例2】 この ぬりがだ あれあはげあ もと てえねん ぬれ
「この塗り方は粗いから、もっと丁寧いに塗りなさい」

あれあ [are] 元気。健康。[続 15]

【例1】 あれあぐ なた
「元気になった」

【例2】 あれあくて えげあすな
「健康でいいですね」

また、この語は「まめ」ともいい、反対の語に「みのがねあ＝体の弱いこと及び病弱なことという」がある。

あれああげる [areŋerü] [下一他] 洗い上げる。[続 15]

【例1】 へんたぐおの はえあぐ あれああげろは
「洗濯物を早く洗い上げてしまいなさい」

【例2】 けいさずで あれああげだら、すっかり はぐじょうしたど
「警察で洗い上げたら、すっかり白状したそうだ」

あれあだで [areⁿdade] 洗い立て。[続 15]

【例】 ほがさ えぐ ずぎあ、あがずみだ おのんねあぐ、あれあだでんな きて えげよ
「他所に行く時は、垢じみたものでなく、洗い立てのを着て行きなさいよ」

あれあはれあ [arehare] 洗い張り。[及 55]

【例】 今日あ 天気あ ええはげあ あれあはれあでも すっが
「今日は天気がいいから、洗い張りでもしようか」

あれもよ [aremojo] 荒れ模様。[続 16]

【例】 なんだが あれもよん なてきたはげあ、はやぐ けあんべは
「なんだか荒れ模様になってきたから、もう早く帰ろうよ」

あわえあん [awɛŋ] [副] たまに。[続 16]

【例】 ○○さんだば、あわえあん つら めへるぐれあの おんだな
「○○さんなら、たまに顔を見せるくらいのものだね」

あわく [awakü] [下一自] 慌てる。[続 16]

【例】 ないが でげだなが、ほんげあ あわくて どさ えぐ どごだや
「何か起ったのかい、そんなに荒れてて何処へ行くんだい」

あわただす [awataⁿdasü] [形] 慌ただしい。[続 16]

【例】 あさまん がっこなの つとめさ だしてやっすぎあ いずぼん あわただすなよ
「朝学校や勤めに出してやる時が、一番慌ただしいんだよ」

あわぶぐ [awabügü] 泡。あぶく。[及 101]

【例】 石けん ついで こすっど あわぶぐあ でんぜあ
「石けんをつけてこすると、泡が出るよ」

あわへ [awaçɛ] 袷。[及 55]

【例】 あわへ 着る へづだなは
「袷を着る季節になったね」

あわへる [awahɛrü] [連語] 併せる。会わせる。[同] あへる。[続 16]

【例 1】 ほれど こつつんなど あわへで なんぼですべ
「それと、こっちのと併わせて幾らでしょうか」

【例 2】 ○○さんと、○○さんどご あわへる
「○○さんと、○○さんを会わせる」

あわれみる [動] 悲しむ。悲しい思いをする。つらい思いをする。[及 19]

【例】 しとり息子 遠ぐさ 離へば おめあ としよてがら あわれみるんだはげあ
「1人息子を遠くに出してやれば、お前が年とってから、つらい思いをするんだから」

あんがりさんがり [anɣarisɔŋari] もんかげろう。もんかげろう科の昆虫。[及 81]

【例】 ざっこつり すんな あんがりさんがり とりん えがねあが
「雑魚釣りをする もんかげろうを捕りに行かないか」

あんがりめ [anɣarime] 上がり目。1、目じりのつり上がった目。2、物価などの上がり始めた時。[続 16]

あんかん 行火。[及 46]

【例】 まだ えまから あんかんなの いらねあべや
「まだ、今から行火なんか、いらぬじゃないか」

あんぐら [anɣüra] 胡座。[続 16]

【例】 ひじやなの つがねあてて えげあすはげあ あんぐら けあでくだせあ
「膝なんかつかなくともいいですから、胡座をかいて下さい」

あんげあー [anɲe:] 案内。[続 16]

【例】 こどすあ あんげあー さぐあ えくて、よろごでだどごです
「今年は案内作がよくて、喜んでいたところです」

あんさま 若旦那。[及 2]

【例】 あんさま、どごさ ござんなですや
「若旦那、どこへいらっしゃるんですか」

あんずぎ [andzūgi] 小豆。[及 81]

【例】 そろそろ あんずぎ もがねあねあなは
「そろそろ小豆をもがないといけないな」

あんずぎもず [anⁿdzūgimodzū] あんころ餅。小豆餅。[続 17]

【例】 ○○ちゃんは あんずぎもず であすぎだ おんな
「○○ちゃんは、餡ころ餅が大好きだもんな」

あんつあこ [antsako] 兄さん。この語は、他人が長男を呼ぶ時に「おめあえの あんつあこ＝お宅の兄さん」。「○○の あんつあこ＝○○の兄さん」のよう使った。[同] あんこ。あんつあ。あんちゃん。にい。[続 17]

あんづぎもづ 小豆餅。[及 36]

【例】 あづぎもづあ えが、納豆もづあ えが
「小豆餅がいいか、納豆餅がいいかい」

あんつけあた [antsūketeta] [連体] [卑語] あんな。あんなの卑語。[続 17]

【例 1】 おれあどさ あんつけあた おの くつで
「俺にあんなものをくれて」

【例 2】 あんつけあた おのあ あった おんでねあ
「あんな奴はいないものだ」

あんてあー [ante:] [名/ス自] 安泰。[続 17]

【例】 おおみずさ そねあで、ていぼうも つくたす、まず、これで あんてあーだな
「洪水に備えて、堤防も作ったし、まず、これで安泰だな」

あんねあー [anne:] [名/ス他] 案内。[続 17]

【例】 ○○だば、おめあ えぐ おべだ どごだべはげあ、おめあ あんねあしてころ
「○○なら、君がよく知っている所だろうから、君が案内してくれよ」

あんねあーにん [anne:nin] 案内人。[続 17]

【例】 かんこうつだば、あんねあにんが いっさげあ、すんぺあ ねあ おんだ
「観光地なら、案内人がいるから、心配はないものだよ」

あんぴんもず [anpinmodzū] 大福餅。[続 17]

【例】 つあつあ、〇〇さ えぐごったら、おみやげん あんぴんもず かって きてころな
「お父さん、〇〇に行くなら、お土産に大福餅を買ってきて下さいね」

あんべあ [anbe] あんばい。味加減。[及 36]

【例】 ほの おする、あんべあ みでくんねあが
「そのお汁の味かげんをみてくれませんか」

あんべあ [anbe] あんばい。具合。調子。[及 20]

【例】 おめあ 近頃 体の あんべあ なんとや
「君、近頃体の具合はどうなんだい」

あんべあ [anbe] 按配。塩梅。[続 17]

【例 1】 ばさま あんべあ なんとや
「お婆さの按配はどうです」
【例 2】 みんなさ わだるよん あんべあ してころ
「皆に渡るように按配してくれ」
【例 3】 この つけおのあ あんべあ なんとが みでころ
「この漬物の塩梅はどうかみて下さい」

あんべあま [anbemama] 味付けご飯。五目飯。[同] あづつけま。[及 37]

【例】 あんべあま こしえだはげあ くてころ
「五目飯を炊いたので、食べて下さい」

あんべあみ [anbemī] 試し。味見。[続 17]

【例 1】 えあこ とくさんぶつに しであくて あんべあみん ゆえでみだ
「あいこを特産物にしたいくて、試しに植えてみたよ」
【例 2】 この におの なんとが あんべあみ してみでくんねあが
「この煮物どうなのか、味見をしてみてくださいませんか」

あんぽんたん [anpontan] 阿呆。馬鹿。[続 18]

【例】 この あんぽんたん、なに ぼやぼやしてんなだ、まず、はやぐ ごと かだずげろ
「この阿呆が、何をぼやぼやしてるんだ、まず、早く此処を片付けろ」
なお、このような言葉には、「あほ。あも。ぬげさぐ」などがある。

— い —

いあへる [iaherü] [下一自] 居合わせる。[続 18]

【例】 ○○さん、ちょうど ○○に いあへだ おんだはげあ ほごで あてきた
「○○さんが、頂度○○に居合わせたものだから、そこで会って来たよ」

いあんりよこ [ianrjoko] 慰安旅行。[続 18]

【例】 ○○にずに ○○の いあんりよこだつけあ おめあも えぐべ
「○○日に、○○の慰安旅行だそうだが、あなたも行くでしょう」

いーほほ [i:hoho] 馬のなき声をいう。[続 18]

いかいよ [ikajjo] 胃潰瘍。[続 18]

【例】 ○○さん いかいよで にゅういんしたつけあ あんまり のだはげあだべ
「○○さんは、胃潰瘍で入院したそうだが、あまり飲んだからだろう」

いががわす [igaŋawasü] [形] 如何わしい。[続 18]

【例】 ものうりの ながにあ いががわす おのも いっさげあ きい つけるよ
「物売りの中には、如何わしい者もいるから、気をつけろよ」

いきいき [ikiiki] [副] むしむし。[同] むすむす。[続 18]

【例】 きょうあ いきいきて、あへ ふぎたであらんねあな
「今日はむしむしして、汗を拭いきれないな」

いぎいし [igüisi] 堅い石。花崗岩や石英粗面岩などの堅い石をいう。[及 101]

【例】 いしがぎ 積むにあ いぎいしんねあば だめだ
「石垣を積むには、堅い石でないとだめだよ」

いぎうずす [igüüdzüsü] 生き写し。[続 18]

【例】 ないだて この おぼごあ ずさまに いぎうずすだなおす
「まあ、この子は、お爺さんに生き写しですわねー」

いぎおの [igiono] 生き物。[続 19]

【例】 えまだば、うさぎどが ざっこなのの いぎおのあ めっぼ いねあぐなたなは
「今なら、兎とか雑魚なんかの生き物が滅法いなくなってしまったな」

いぎぐるす [igijürüsü] [形] 息苦しい。[続 19]

【例】 ないだべじゅ、ないだが きゅうに いぎぐるすぐ なたなよ

「なんだろうね、なんだか急に息苦しくなったんだよ」

いぎげあ [igĩŋe] 生き甲斐。[続 19]

【例】 おれあ この とくさんぶつさ いぎげあ かんじでんなだ
「俺は、この特産物に生き甲斐を感じているんだ」

いぎづく [igĩdzũgũ] [動] 死ぬ。[及 13]

【例】 ○○さも いぎづく どごだどは
「○○さんも、もう死ぬばかりだそうだ」

いぎづく [igĩdzũgũ] 根づく。発根する。移植苗や挿木苗が根づくこと。[及 68]

【例】 この ねあ いぎづく べが
「この苗は根づくだろうか」

いきてあ [ikĩte] 暑い。[及 20]

【例】 今日あ ぜえぶん いきてあな
「今日は随分暑いね」

いぎぷす [igĩpũsũ] 生き節。これは、木の枝が生きているまま、樹体に包み込まれて出来た節をいう。[続 19]

いぎんま [igĩnma] 生き馬。生きている馬。[続 19]

【例】 とうきょうていう どごあ いぎんまの まなぐせあも ぬぐて きがへらっだ おんだ
「東京という所は、生き馬の目さえ抜く、と聞かされたもんだよ」

いぎんめ [igĩnme] 生き埋め。[続 19]

【例】 たんこで、○にんも いぎんめ なたど、てあへんだ ごどん なた おんだ
「炭鉱で、○人も生き埋めになったそうだ、大変なことになったものだな」

いさます [isamasũ] [形] 勇ましい。[続 19]

【例】 せんそで、いさますぐ ただがたなて、てあへんだ ごどだな
「戦争で、勇ましく戦ったなんて、大変なことだね」

いし [代] [卑語] お前。お前の卑語。荒っぽい言葉の中に使う。[及 2]

【例】 いしなの こねあたてえ、あっちゃ えてろ
「お前なんか来なくともいいよ、あつちへ行っておれ」

なお、お前という時は「にし」、「にしゃ」などと使い、お前の卑語では「んつ」、「んの」と使い、さらに複数の場合は「いしゃだ」、「いしゃら」、「しいあだ」、「いしら」、「にしあだ」、「にしら」、「んつあだ」、「んつら」、「んのあだ」、「んのら」などと使う。

いしただぎ [isĩtadagi] せきれい。当地には、「せぐろせきれい」と「きせきれい」の二種が棲息している。[及 81]

【例】 いしただぎて なして おっぱ ひくひくど すんなだべ
「せきれいって、どうして尾をひくひくさせるんだろう」

いしなご [isinaŋo] 小石。[続 19]

【例】 しとんどさ いしなごなの ぶからまんねあぞ、いだぐすっさげあな
「人に小石なんかぶっつけられないんだよ、怪我をするからな」

いしばいし 土台石。[及 46]

【例】 この 石あ いしばいしに 丁度 えな
「この石は、土台石に丁度いいな」

いじよ 銀杏。[同] いじょう。えじよ。えじょう。[及 81]

【例】 ゆべな かじえあ ふえだはげあ いじよあ えっぺあ おづだべ
「夕べ風が吹いたから、いっぱい銀杏が落ちたろうな」

いすあぎび [isüagibi] 未熟あけび。まだ熟さない固いあけびをいう。[同] きどあぎび。[及 81]

【例】 これあ いすあぎびだ
「これは未熟あけびだ」

いすから [isükara] 川岸などのように小石の多くある所をいう。[同] いすからやら。[続 19]

【例】 この みずあ いすからで ありぎにぐえな
「この道は、小石が多くて歩きにくいな」

いずげあ [idzünŋe] [名/ダナ] 頑固。[続 19]

【例】 おれあ えの ずさまだば、いずげあだ しとで、ゆいだしたら きがねああだ
「うちのお爺さんなら、頑固な人で、いい出したらきかないんだ」

いずげあん [idzünŋen] [副] 一概に。[続 20]

【例】 ほれだば、ほう いずげあん ゆわんねあ だごも あるんねあが
「それなら、そう一概にいられないところもあるじゃないか」

いずずぐ [idzürⁿdzügü] 無花果。[続 20]

【例】 いずずぐだば、さどにん すっど いずばん んめあ おんだぜあ
「無花果なら、砂糖煮にすると、一番美味しいものだよ」

いすずんぞ [isüdzünⁿdzo] 石地藏。[続 20]

【例】 むらはぞれの いすずんぞも、ゆぎん ふらっで、さみさみて いたべ
「村外れの石地藏も、雪に降られて、寒い寒いといってるだろう」

いずであーき [idzürⁿde:ki] 一代記。[続 20]

【例】 むらの かずん ずぎ、しょうぼうで かずやぐしたな おれの いずであーきだな
「村の火事の時、消防で活躍したのが俺の一代記だな」

いずであーず [idzüde:ⁿdzü] 一大事。[続 20]

【例】 あん ずぎあ おれの のつがそつがの いずであーずであったな
「あの時は、俺の伸るか反るかの一大事だったな」

いずどぎん [idzürⁿdogin] [副] 一時に。[続 20]

【例】 いずどぎん、あれもこれもて ゆたて、てあ にほんはんて ねあなだ
「一時に、あれもこれもといったって、手は二本しかないんだよ」

いずどん [idzũⁿdon] [副] 一度に。[続 20]

【例】 こやすあ、ほんげあ いずどん やらねあで、すこすずず なんども やる おんだ
「肥しは、そんなに一度にやらないで、少しずつ何度もやるもんだよ」

いずにず [idzũmĩdzũ] 一日。[続 20]

【例】 きょうあ いずにず はだげほり したたば くたびってしまった
「今日は、一日畑堀りをしていたら、くたびれてしまったよ」

いずにんめあ [idzũninme] 一人前。[同] しとりめあ。[続 20]

【例 1】 おれあ えの ○○も ようやぐ いずにんめあの すごど するよんなたな
「うちの○○も、漸く一人前の仕事をするようになったな」

【例 2】 さすみ いずにんめあ もて きてころて、でんわ かげろ
「刺身を一人前持って来てくれって、電話をかけなさい」

また、仕事が大人のように出来る意味での「一人前」を「いっちよめあ。えっちよめあ」などともいう。

いずはんばぎ [idzũhanbagĩ] 威張ったような大きな胡座。[同] いずはんばがり。[続 21]

【例】 おわぼり いずはんばぎ してねあで もと つめろ
「自分ばかり大きな胡座をかいていないで、もっと詰めろよ」

いすべあー [isũbe:] 石灰。[続 21]

【例】 この はだげあ さんせいだはげあ、いすべあ めあで、ちゅうわしねあんねあな
「この畑は、酸性だから、石灰を撒いて、中和しないとイケないな」

いずべあー [idzũbe:] [名/ス他] 一倍。[続 21]

【例】 あの しとだば、いずでも、しといずべあ はだらぐ しとだな
「あの人なら、何時でも人一倍働く人だね」

いずめあ [iⁿdzũme] 居ずまい。[続 21]

【例】 ○○ちゃん、よその しとあ きたら いずめあ きちんとして あいさず するよ
「○○ちゃん、他所の人が来たら、居ずまいをきちんとして、挨拶しなさいよ」

いずろぐん [idzũrogũn] 同じに。[続 21]

【例】 みそも くそも いずろぐん したて だめだべな
「何もかも同じにしたって駄目じゃないか」

この語は、この語形だけで使われている語である。

いせあー [ise:] 委細。[続 21]

【例】 でんわであ はなすずれあはげあ、いさいあ てがみさ けあで おぐる
「電話では話しにくいから、委細は手紙に書いて送るよ」

いそげあー [i̯so:ŋe:] 意外。[続 21]

【例】 こどすの いなさぐあ あんげあ えぐ なっどあ いそげあーであったな
「今年の稲作が、あんなによくなるとは、意外だったな」

いだいだす [idaidasü] [形] 痛痛しい。[続 21]

【例】 へんかがの こあ ごけかがに こぎつかわえんな みでっど いだいだすな
「先妻の子が、後妻にこき使われるのを見てると、痛痛しいね」

いだぐ [idagü] [四他] 吐く。つわりで吐くこと。[続 22]

【例】 ははあ おれあ えの よめも いだぐよん なたが めでてあな
「ははーうちの嫁も吐くようになったか、目出たいな」

いだこっば [idakoppa] 板切れ。[続 22]

【例】 であくさんだ すごど おわたら いだこっば かだずげろよ
「大工さん達の仕事が終わったら、板切れを片付けなさいよ」

いだずぎ [idaⁿdzügi] 板敷。[続 22]

【例】 ほごあ いだずぎで つみであはげあ こっつさ すわてくであ
「そこは板敷で冷めたいから、こっちに坐って下さい」

いだずらこんぞ [idaⁿdzürakonⁿdzo] いたずら小僧。[続 22]

【例】 おれあえんなまだ いだずらこんぞで、こまた おんだ
「うちのはいたずら小僧で、困ったもんだよ」

いだぜあー [idaⁿdze:] 板材。[続 22]

【例】 この まるだだば、ほそこくて、いだぜあにあ ならねあな
「この丸太なら、細くて板材にはならないな」

いだだぎおの [idaⁿdagiono] 戴き物。頂戴物。[同] もれあおの。もれあもの。[続 22]

【例】 これあ いだだぎおののだども んめあそだはげあ くてみでころ
「これは戴き物ですが、美味しそうだから、食べてみて下さい」

いだたまらねあ [idatamarane] [連語] 居たたまらない。[続 22]

【例】 あん ずぎだば おれも はずがすくて いだたまらねあがったな
「あの時なら、私も恥かしくて居たたまらなかったな」

いだづ ^{いたち} 鼬。[及 82]

【例】 おっちょ かげで いだづでも とんべ
「わなを仕掛けて、いたちでも捕ろう」

いだぬま 板の間。[及 46]

【例】 いだぬまずあ まえにづ ふがねあんねあ おんだ
「板の間というものは、毎日拭かないといけないもんだよ」

いだます [idamasü] [形] 惜しい。[続 22]

【例】 あの うえぎあ くえんなんねあがった、ほんどん いただきます ごど した
「あの植木は、くれるではなかったね、本当に惜しいことをしたよ」

いだみ 板箕。板で作った箕。[及 46]

【例】 ほごの いだみ 持て 来てくんねあが
「そこの板箕を持って来てくれませんか」

いだや いたやかえで。かえで科の落葉高木。[及 82]

【例】 いだやて、あぎん なっど はっば きいろぐ なんべ
「いたやかえでって、秋になると、葉が黄色になるだろう」

いだらねあ [idarane] [連語] 至らぬ。至らない。[続 22]

【例 1】 いだらねあ ものだども よろすぐ おねげあしあす
「至らぬ者ですがよろしく願います」

【例 2】 いだらねあ ごど して ぶじよほ しあした
「至らないことをして、不調法しました」

いだるとご [idarüdogo] [連語] 到る所。[続 23]

【例】 すぎ ぞうりん したな、いだる だご うさぎに かずらっでだけな
「杉の造林をしておったのが、到る所兎に囁じられておったっけな」

いだわす [idawasü] [形] 劳しい。[続 23]

【例】 ○○ちゃん、ちちゃこくて ががん しなつて、ほんどん いだわすな
「○○ちゃんは、小さくてお母さんに死なれて、本当に劳しいね」

いちげあに [idzigeni] [副] 一概に。[及 117]

【例】 ほうゆごどあ いちげあにあ ゆえねあべや
「そういうことは一概にはいえないだろうや」

いちこ [inc(j)iko] いじめ。赤ん坊を入れておく、藁製のかご。[同] いんちこ。えっこ。えんっ
こ。[及 46]

【例】 あがこあ いちこさ へで おぐな いちばんだ
「赤ん坊はいじめに入れておくのが一番いいよ」

いちたがり [i'tsɨtagari] 意地っ張り。[及 20]

【例】 あれだば いちたがりて 一度 ゆたら きがねあ
「あいつなら意地っ張りて、一度いったら引かないよ」

いちはんばがり [idzihanbagari] [名] 座り方の一種。威張ったように大きなあぐらをかか
こと。座を一人占めするような坐りかた。[及 117]

【例】 おわばり、いちはんばがりして、おれあ ねまっどごあ ねあであ
「自分ばかり大きなあぐらで、座を一人占めして、俺の坐るところがないじゃないか」

いちべあ [idzibe] [名] 一倍。[及 117]

【例】 体だば しといぢべあ おっさ おんだ
「体なら、人一倍大きいもんだ」

いぢらぐ [idziraɡü] [副] ずっと。始終。[及 117]

【例】 汽車さ 乗たら いぢらぐ 寝で 来た おんだ
「汽車に乗ったら、ずっと寝て来たもんだ」

いづ [名] 何時。[及 117]

【例 1】 おらだ 同級会あ いづだけ
「俺達の同級会は何時だつけ」

【例 2】 いづがかづが
「何時かきっと」

【例 3】 いづがのこめあん
「何時の間にか」

【例 4】 いづのこめあん
「何時の間にか」

いづきたねあ [形] 意地汚い。[及 117]

【例】 えあづだば、まづ いづきたねあ しとだ おんだ
「あいつなら、まあ意地汚い人なもんだ」

いづご [idzũŋo] 苺。[及 82]

【例】 いづごて ゆたて、山さ おえでんなも あんなだぜあ
「苺といたって、山に生えてるのもあるんだよ」

いっしゅぎ [iʃʃũgi] [名] 一週忌。一年忌。[及 117]

【例】 はえあ おんで、〇〇あ しでがら いっしゅぎだは
「早いもんで、〇〇さんが死んでから、もう一週忌だね」

いっちよめあ [ittʃome] [名] 一人前。[同] えっちよめあ。[及 117]

【例】 これも よやっと いっちよめあん なたな
「こいつも、ようやっと一人前になったね」

いっつ [ittsũ] 一番。この語は、今は使われない語で、及位のわらべ唄に、「いっつ にぐえとりだ＝一番憎い鳥だ」と出ているので、記録しておくものである。[続 23]

いっつも [副] 何時も。[及 117]

【例 1】 いっつも はづずに ではんなだ
「何時も八時に出勤するんです」

【例 2】 いっつもかっつも
「何時も何時も」

いってあー [itte:] 一帯。[続 23]

【例】 ござらへん いったあーの やまは、みな こぐゆうりんに なてんなだ
「この辺一帯の山は、みな国有林になってるんだ」

いったあー [itte:] 一体。[続 23]

【例 1】 この おでらにあ ぶずぞあ これいったあーはんてねあなだ
「このお寺には、仏像はこれ一体しかないんだよ」

【例 2】 ねあでなの きて、いったあー なんず したなや
「泣いてなんか来て、いったいどうしたんだい」

いったあーじえんてあー [itte:dʒente:] [副] 一体全体。[続 23]

【例】 ほんげあ あわくて、いったあじえんてあー なにごどあ おぎだあだ
「そんなに慌てて、一体全体なにごとが起きたんだ」

いっと [名] 一等。一番。[及 117]

【例】 こげあすっど いっと え おんだ
「こうすると一番よいものだよ」

いづど [名] 一度。[及 117]

【例】 おれあ えさも いづど 来てみでくだせあ
「うちにも、一度来てみて下さい」

いづぶつのおの [名] 一番大切なもの。[及 118]

【例】 この かげずあ おれの いづぶつのおのだ
「この掛軸は、私の一番大切なものです」

いづやづげ 一夜漬け。野菜を一夜だけ漬けた漬け物。[及 37]

【例】 いづやづげも んめあ おんだじゆな
「一夜漬けも、うまいもんですね」

いであ [ide] 痛い。[及 20]

【例】 なんだが 胃の あだりあ いであな
「なんだか胃の辺が痛いな」

この語の使い方には「いであけあー痛かゆい」、「いであぐする一怪我をする」などがある。

いてあー [ite:] 遺体。[続 23]

【例】 ずんつあんの いてあーは、あした かそうん すんなだど
「お爺さんの遺体は、明日火葬にするんだそうだ」

いどご [idogo (i'dogo?)] [名] 居所。[及 118]

【例】 つだら いどご おへで よごへ
「着いたら、居所を教えてよこせよ」

いどご いとこ。従兄弟姉妹。[及 2]

【例】 いどごだば、あつつにも、こつつにも いだ

「いとこなら、あっちにもこっちにもいるよ」

いどす かわいそう。あわれ。[同] むぞせあ。[及 20]

【例】 つあつあに 死なっで のごさっだ おのあ いどすな
「お父さんに死なれて、残された者がかわいそうだな」

いどな [名] 細繩。麻でなった細繩。[及 279]

【例】 しより つばぐ ずぎあ いどな つかえよ
「繩をゆわえる時は、麻繩を使えよ」

いどます [i^odomasü] [形] いやしい。食い物を食ったり、物をもらったりする時にながたがすること。[同] いどみぐい。いやす。[及 118]

【例】 いどますぐ しねあで、行儀えぐ 食べる
「いやしい食べ方をしないで、行儀よく食べなさい」

いどみぐい [i^odomigüi] 意地汚ない食べ方をいう。[続 23]

【例】 えっぺあ あっさげあ、ほんた いどみぐい しねあで、ゆっくり け
「沢山あるから、そんな意地汚ない食べ方をしないで、ゆっくり食べるよ」

いどやす [idojasü] [形] たやすい。いともたやすい。[及 118]

【例】 ほんた ごどあ いどやす ごったべ
「そんなことは、たやすいことだろう」

いな [ina] 胞衣。[続 23]

【例】 べごの いな おりだら すぐ なげねあど べごあ くてしまうぞ
「牛の胞衣が下りたら、直ぐ捨てないと、牛が食ってしまうよ」

いなのはぎ [名] 荒蓆。農作業などに使う蓆。[及 279]

【例】 まめぶづあ いなのはぎで するよ
「豆打ち（豆の脱穀）は、荒蓆の上でしなさいよ」

いなびがり [inabigari] 稲妻。[及 101]

【例】 あっ、いなびがりだ、ごろごろさま くんぞ
「あっ、稲妻だ、雷さまが来るよ」

いなべや 稲を入れておく室。住居の一部に取り入れた稲を脱穀までの間入れておいた室をいう。
[及 46]

【例】 わらだば いなべやに ねあぞ
「わらなら稲室にはないよ」

いぬこおよぎ [inükoojōgi] 犬かき。[続 24]

【例】 ○○ちゃん ほれだば いぬこおよぎだ、ひらおよぎあ こうよ
「○○ちゃん、それなら犬かきだね、平泳ぎはこうだよ」

いねあ [ine] 以内。[続 24]

【例】 いずつかん いねあん けあて くっさげあ まずででころ
「1時間以内に帰ってくるから、待っていてくれ」

いのずがげ [ino^odzūŋage] 命懸け。[続 24]

【例】 あそごの ゆわやま のぼっずぎだば いのずがげであったな
「あそこの岩山を登る時なら、命懸けだったな」

いのずからがら [ino^odzükaraŋara] 命からがら。[続 24]

【例】 なでん つがって、いのずからがら ねげで きたや、おかねあがった
「雪崩につかれて、命からがら逃げて来たよ、おっかなかったな」

いのずすらず [ino^odzūsūra^odzūi] [ナ名ノ] 命知らず。[続 24]

【例】 あれだば いのずすらずだ、なんと どごでも へえぎで ありぐ おん
「あいつなら命知らずだよ、どんな所でも平気で歩くもの」

いのずとり [ino^odzütōri] 命取り。[続 24]

【例】 この ゆぎだ おん なでつぎ びらなの ありぐなよ、いのずとりん なっさげあな
「この雪だもの、雪崩のつく斜面なんか歩くなよ、命取りになるからな」

いのずびれ [ino^odzübire] 命拾い。[同] いのずびろい。[続 24]

【例】 あの たいかで おめあ えぐ いのずびれ したであな
「あの大火で、君はよく命拾いをしたよね」

いのちこ 萌え始めの柳。[及 82]

【例】 あらっ、いのちこあ 出っだじゅ、ままごど すんな とて えぐべ
「あらっ、萌え始めの柳があるよ、ままごとにするの、とって行こう」

いのづ 命。[及 13]

【例】 おわ ひとりばりんねあはげあ、いのづあ そまつん でげねあ おんだ
「自分 1人だけではないから、命は粗末には出来ないものだよ」

いび [ibi] 海老。[続 24]

【例】 えまだば、こげあた やまんながで えびでも かいでも くえるよん なた
「今なら、こんな山の中で、海老でも貝でも食べられるようになったね」

いびちや [ibitja] 海老茶。[続 24]

【例】 むがすあ、おなご へんへあ いびちやの はがま へあでくる おんであった
「昔は、女の先生が、海老茶の袴をはいて来るものだったな」

いやがらへ [ijaŋarahe] 嫌がらせ。[続 24]

【例】 だれあどさでも しとんどさ いやがらへなの する おんでねあぞ
「誰にでも、人に嫌がらせなんかするもんじゃないよ」

いやす [ijasū] [形] 卑しい。[続 25]

【例 1】 ほんげあ かずればえどみであんた いやす くいがだする おんでねあ

「そんな餓えた乞食のように、卑しい食べ方をするもんじゃないよ」

【例2】 あんまり いやす かっこ して ありぐど しとに わらわえんぞ
「余り卑しい格好をして歩くと、人に笑われるよ」

いやづけあ [名] 敬語。改まって丁寧な言葉づかいをいう。[及 118]

【例】 まづ、ほんげあ いやづけあなの しねあでくませあ
「まづ、そんなに改まった言葉づかいなんかしないで下さいよ」

いやらす [ijarasü] [形] いやらしい。[続 25]

【例】 ないだて いやらす ごど ええ とす して しとんどさ ない すんなや
「まあ、いやらしいこと、いい年をして、私になにをするのよ」

いり [iri] 奥。奥まったところ。[続 25]

【例1】 この やまの いりさ えぐど じえんめあ とれる
「この山の奥に行くと、ぜんまいが採れるよ」

【例2】 これ、いりの ざすぎさ おえで こえ
「これを、奥の座敷に置いてきなさい」

いりざしぎ 奥の間。[及 46]

【例】 おぎゃくさま 来たら、いりざしぎさ とて もらへよ
「お客さまが来たら、奥の間に通ってもらいなさいよ」

いりみじや 台所。流れ水を入れている台所。流し。[及 46]

【例】 ががだば いりみじやに いだべや
「お母さんなら、流しにいるだろうや」
これは「みじや」とも呼んでいた。

いりみず 流しに入ってくる流水。入り水。[及 46]

【例】 いりみずあ こねあはげあ 見でこえ
「入り水が来ないから、見て来てくれ」

いりよ [irijo] 入り用。[続 25]

【例】 ほれあまだ、ちよえちよえ いりよだはげあ ほごらさ おえでころ
「それは、ちよいちよい入り用だから、その辺に置いてくれ」

いる [irü] [四他] 選る。[続 25]

【例】 えま まめ いてだ どごだ、すぐ でげっさげあ しつとえあ までな
「今豆を選っているところだよ、直ぐ出来るから、一寸待ってね」

いろう [iroü] 移り香のすることをいう。「いろう」の形だけで使う。[続 25]

【例】 くいおのさ いろうはげあ へげゆ ちよした て あらて こえ
「食べ物に移り香するから、石油に触った手を洗って来なさい」

いろえ [iroe] [連語] 色よい。[続 25]

【例】 このたびの えんだんは なんとが いろえ へんず くだせあや
「この度の縁談は、なんとか色よい返事を下さいよ」

いろえあー [iroe:] 色合い。[続 25]

【例】 これだば、かだずも いろえあも えぐ でげだな
「これなら、形も色合いもよく出来たね」

いろおなご [iroonago] 情婦。いろ。[続 25]

【例】 ○○あ ちかごろ いろおなご こしえだど たまげだな
「○○は、近頃情婦を作ったそうだと、たまげたね」

いろおの [iroono] 色物。[続 26]

【例】 いろおのあ えて ゆたて なんと いろおのあ え おんだがなや
「色物がいい、といっても、どんな色物がいいものかね」

いろきずげあ [irokidzūge] 色気違。[続 26]

【例】 あれだば いろきずげあだ おんだはげあ おなご みっど て だすなだ
「あいつなら、色気違なものだから、女を見ると手を出すんだ」

いろぎれあ [irogire] [名] 好き嫌い。[及 118]

【例】 いろぎれあ しねあで なんでも くう おんだ
「好き嫌いをいわないで、何でも食べるもんだよ」

いろっぼえ [iroppoe] [形] 色っぽい。[続 26]

【例】 あの あねこあ いろっぼえ ごど どごの しとだが しらねあ あねこだな
「あの娘は色っぽいことね、何処の人なのか知らない娘だね」

いわえこど [iwekodo] [名] 祝いごと。お祝い。[同] ゆわえこど。[及 118]

【例】 米寿の いわえ こどさ よばっだ
「米寿のお祝いに招かれたよ」

いんきくせあ [inkikūse] [形] 陰気臭い。[続 26]

【例】 くれあくて いんきくせあはげあ としょうず あげろちやや
「暗くて陰気臭いから、戸障子を開けろよ」

いんど [indo] 引導。[続 26]

【例 1】 いんど わだすて、じょうどさ えぐ みず おへる ごどだど
「引導を渡たすって、浄土へ行く道を教えることだそうだと」

【例 2】 おれも ていねんたいしょぐだて いんど わださったや
「私も定年退職だって、引導を渡たされたよ」

いんぴづ 鉛筆。[及 46]

【例】 つあつあ いんぴづ かてくんねあが
「お父さん、鉛筆を買ってくれませんか」

— う —

うぎすずみ [ügisüⁿdzümi] 浮き沈み。[続 26]

【例】 しとの いっしょうにあ うぎすずみずあ ある おんだけあ
「人の一生には、浮き沈みってあるもんだよ」

うぎねあ [üginε] 浮き苗。田植え後水面に浮いた苗。[及 69]

【例】 うぎねあ ねあが みまわて、うぎねあさし して こえ
「浮き苗がないか見廻って、浮き苗挿しをしておいで」

うげ [üge] 受け口。伐木の際、伐倒方向に口を切ること。[及 69]

【例】 うげあ あせあど 木 あさげんぞ
「受け口が浅いと、木が裂けるよ」

うげ [üge] 立木を伐倒する方向の根元につける切り口をいう。[同] うげぐず。[続 26]

うげあ [üŋε] [名] 嗽。[及 118]

【例】 もの くたら うげあ すろよ
「食べ物を食べたら、うがいをしなさいよ」

うげあ [üge] 多い。[及 20]

【例】 おれあほあ うげあべや
「私の方が多いだろう」

うげあ [üge] [形] 多い。[及 118]

【例】 おれあほあ うげあんねあがや
「私の方が多いじゃないか」

うげあめ [üge・me] 大目。[続 27]

【例】 こどすあ たの ひりょう きよねんより うげあめん くんねあんねあな
「今年は、田の肥料を、去年より大目にくれないといけないな」

うげどれねあ [ügedoreŋε] [連語] 受け取れない。[続 27]

【例】 ほの はなすあ うげどれねあて めあから ゆてだんねあが
「その話は、受け取れないって、前からいってたじゃないか」

うげはれあ [ügehare] 受け払い。[続 27]

【例】 かねの うげはれああ ちゃんと けあで おがねあんねあ おんだぞ

「金の受け払いは、きちんと書いておかないといけないものだよ」

うげる [ügerü] [四自] 浮く。[同] うぎる。[続 27]

【例 1】 きのは みずさ うげる

「木の葉が水に浮く」

【例 2】 こんげつあ けいひあ うげだ

「今月は経費が浮いた」

【例 3】 わらしたずあ うげで きた

「子供らが浮いてきた」

うさうさ [üsäüsa] じっとしていないで動きまわるさま。[続 27]

【例】 なして ほんげあ うさうさすんなだ、すこす ずっとしてらんねあが

「なぜそんなに動き回るんだ、少しじっとしてられないか」

うさめぐ [üsamegü] [動] うさづく。うさうさする。[及 118]

【例】 しとの えさ えた ずぎあ うさめぐ おんでねあ

「他所の家へ行った時は、うさづくもんじゃないよ」

うす 薄い。[及 20]

【例】 この おするあ めっぼ うすな

「このお汁はめっぼう薄いね」

うずあへる [üdzüaherü] [下一他] 打ち合わせる。[続 27]

【例】 ぶらぐの ぞうりんは やぐいんで うずあへで きめんべ

「部落の造林は、役員で打ち合わせて決めよう」

うすおの [üsüono] 薄物。[続 27]

【例】 こんだ あつぐなてきたはげあ そろそろ うすおの きる へずん なたな

「今度は、暑くなってきたから、そろそろ薄物を着る節になったな」

うすか [üsüka] 薄皮。[続 27]

【例】 おれの びょうぎも、こんだ ひますん うすか はぐよん えぐ なてきた

「私の病気も、今度は日増しに、薄皮を剥ぐようによくなってきたよ」

うすきたねあ [üsükitanε] [形] 薄汚い。[続 27]

【例】 よそさ えぐ ずぎあ、ほんた うすきたねあ おのんねあぐ きて えげよ

「他所へ行く時は、そんな薄汚いものでなく着て行きなさいよ」

なお、この語の強調語に、「うすこきたねあ。うすこんきたねあ」などがある。

うすきびわり [üsükibiwari] [形] 薄気味悪い。[続 28]

【例】 ないだや ほれあ、うすきびわり おの もてきた おんだな

「なんだいそれは、薄気味悪いものを持って来たもんだな」

うずぐ [üdzügü] [動] はしゃぐ。調子づいて、浮かれさわぐ。[及 119]

【例】 わらしたづあ うずぐ おん、天気あ 変るな
「子供らがはしゃぐもの、天気が変るな」

うすくれあ [üsüküre] [形] 薄暗い。[続 28]

【例】 うすくれあぐ なてきたはげあ そろそろ けあんべはや
「薄暗くなって来たから、もうそろそろ帰ろうじゃないか」

うすこたんねあ [üsükotanne] 少し足りない。薄馬鹿。[続 28]

【例】 あれだば うすこたんねあ おんだはげあ こまた おんだ
「あいつは薄馬鹿な者だから困ったもんだよ」

うずたげあ [üⁿdzütage] [形] 堆い。[続 28]

【例】 あそごに もっこり うずたげあ やま あんべ あれあ ○○ていう やまだ
「あそこに、こんもり堆い山があるだろう、あれが○○という山だよ」

うすのした おおいたどり。たで科の植物。[同] べごのした。[及 82]

【例】 うすのした あおおのだて、くう どごあ あっど
「おおいたどりを山菜だといって、食う所があるそうだ」

うずばれあ [üdzübare] 内払い。[続 28]

【例】 きょうあ、まず、こねあだ かりだなの うずばれ して えぐ
「今日は、まず、この間借りたのの内払いをして行きます」

うすぴてあ [üsüpüte] ぎしぎし。たで科の植物。[及 82]

【例】 やすぎさ、うすぴてあ おえで しあました おんだ
「屋敷にぎしぎしが生えて、もてあましてしまったよ」

うずひぼ [üdzühibo] 打ち紐。[続 28]

【例】 ほごの ひぎだすさ、うずひぼあ へあったはげあ ほれ つかえ
「そこの引き出しに、打ち紐が入っているから、それを使いなさい」

うずぶへる [üdzübüherü] [下一他] うつ伏せる。[続 28]

【例】 この わらすあ、ねっずぎ うずぶへん なる くへあ とんねあなよ
「この子は、寝る時うつ伏せになる癖がとれないんだよ」

うすぺら [üsüpera] [ノダナ] 薄っぺら。[続 28]

【例】 この くずした ふるすぐなて うすぺらん なたはげあ べずんな はげは
「この靴下は、古くなって薄っぺらになったから、もう別のを履きなさいね」

うずまご [üdzümaŋo] 内孫。[続 28]

【例】 おれあえんな、そどまごより うずまごの ほあ ちっちえあなよ
「うちの、外孫より、内孫の方が小さいんだよ」

うずまだ [üdzümada] 内股。[続 28]

【例】 なしてだが、おなごしたずて うずまだで ありぐ おんだじゃなや

「どうしてなのか、女の人達って内股で歩くものだよね」

うずみ [üdzümi] 打ち身。[続 29]

【例】 ひじゃかぶ ぶつけば、うずみん なて、いであくて こまたは
「膝頭をぶっつけたら、打ち身になって痛くて困ってしまったよ」

うずもも [üdzümomomo] 内腿。[続 29]

【例】 すこす こえだら、うずももあ こすつで、いであなよ
「少し肥えたら、内腿がこすれて、痛いんだよ」

うずゆわえあ [üdzüjüwe] 内祝い。[続 29]

【例】 はずまごあ んまっだおん、うずゆわえあ しねあんねあな
「初孫が生れたから、内祝いをしないといけないな」

うすらさみ [形] うすら寒い。[及 279]

【例】 今日あ うすらさみ 天気だな
「今日は、うすら寒い天気だな」

うすらさみ [üsürasami] [形] うすら寒い。[続 29]

【例】 なんだが、つかごろあ うすらさみぐなたな、そんま ふゆだはげあな
「なんだか、近頃はうすら寒くなったな、じきに冬だからな」

うすらばが [üsürabaga] 薄馬鹿。[続 29]

【例】 えあずあ だれん にだ おんだが うすらばがだ おんだ
「おいつは、誰に似たものなのか、薄馬鹿なもんだね」

うすらほんきねあ [名] うすのろ。うす馬鹿。[同] うすほんきねあ。[及 119]

【例】 あれあ うすらほんきねああだはげあ かもうな
「あいつは、うすのろだから、かもうな」

うすらわれあ [üsüraware] 薄笑い。[続 29]

【例】 ないだて、やだごど、しとん どご みで うすらわれあなの して
「まあ、嫌なこと、人のところを見て薄笑いなんかして」

うすろぐれあ [üsüroḡüre] [形] 後ろ暗い。[続 29]

【例】 おめあ、うすろぐれあ ごど すねあごつたら、はっきり ゆてみろや
「お前、後ろ暗いことをしないなら、はっきりいってみろよ」

うすろごす [üsüroḡosü] 袴やもんべの後ろ紐のついた部分。[続 29]

【例】 おめあな うすろごすあ さがてきたぞ、ひぼあ とげできたなんねあが
「お前の後腰が下ってきたよ、紐が解けてきたんじゃないか」

うすろすがだ [üsürosüḡada] 後ろ姿。[続 29]

【例】 うすろすがだ みだばんで、わがらねあがったども、えま えたな だれだじゆ
「後ろ姿を見たばかりで、分らなかったが、今行ったのは誰なの」

うすろひこみ [名] あとずさり。[同] うすろすこみ。うすろすっこみ。[及 119]

【例】 犬こ おかねあどて うすろひこみして えたけ
「犬がおっかないって、あとずさりしていったつけ」

うすろめあ [名] うしろまえ。前後。[及 119]

【例 1】 うすろめあがら、車 来たぞ
「後前から、車が来たよ」
【例 2】 シャツ うすろめあん 着たぞ
「シャツを後前に着たよ」

うすろめあ [üsürome] 後ろ前。[続 29]

【例】 ○○ちゃん、ズボン ほんであ うすろめあへあだぞ なおして えげよ
「○○ちゃん、ズボンはそれでは後ろ前にはいたよ、直して行きなさい」

うすろゆび [üsürojübi] 後ろ指。[続 30]

【例】 しとん うすろゆび ささえるよであ、はずがすくて、むらも ありげねあぞ
「人に後ろ指を差されるようでは、恥かしくて村も歩けないよ」

うぞもぞ [üⁿdzomoⁿdzo] 有象無象。[続 30]

【例】 ほごらあだりの うぞもぞだ ない ゆたて、おれあ おれの おもた ごど するばんだ
「その辺の有象無象が何をいったって、俺は俺の思ったことをするばかりだ」

うだけあー [üdaŋe:] 疑い。[続 30]

【例】 おれあどさ うだけあー かげるなて、なえのごったあだ
「私に疑いをかけるなんて、なんということなんだ」

うだけあーぶげあー [üdaŋe:büŋe:] [形] 疑い深い。[続 30]

【例】 あの しとだば、うだけあーぶげあー しとで、やんだ しとだ
「あの人なら、疑い深い人で、嫌な人だね」

うだず [üⁿdadzü] [四白] 浮き立つ。[同] おだず。[続 30]

【例】 わらしたずあ、まだ ちょうすさ のて、うだずはずめだな
「子供らは、また調子に乗って、浮き立ち始めたな」

うづ [名] 中。「えのながうづ一家中」、「やまうづ一山中」、「まづうづ一町中」などと使う。[及 119]

うづあこえでる [üdzüakoęđerü] [連語] 栄養のいい状態。満腹に近い状態。[及 119]

【例】 うづあこえでる おんだはげあ あんまり もの かねあ しとだ
「栄養のいい体なので、余り食べ物を食わない人なんだ」

うっかど [ükkado] [副] うっかり。[続 30]

【例】 あっ、んだ、○○さんさ でんわ かげんな うっかど わすっでだけは
「あっ、そうだ、○○さんに電話をかけるのを、うっかり忘れておったっけな」

うづぐす 美しい。[及 20]

【例】 さぐらも うづぐすぐ せあできたな
「桜も美しく咲いてきたな」

うづすぎ [üdzüsügi] 仏壇に敷く布。[及 55]

【例】 この うづすぎあ ええなです こと
「この仏壇敷はいいのですこと」

うって [ütte] [副] ぐうと。[続 30]

【例】 あんまり きがねあど、うって ゆうくれあ ただぐぞ
「あんまりきかないと、ぐうというくらい叩くよ」

うってあー [ütte:] 訴え。[続 30]

【例】 となりであ、ちしょの きょうかいの ごどで うってあー おごす だごだど
「隣りでは、地所の境界のことで、訴えを起すところだそうだ」

うってあーる [ütte:rü] [下一自他] 訴える。[続 30]

【例】 あればりの ごどで、うってあーる ほうも うってあーる ほうだな
「あればかりのことで、訴える方も訴える方だな」

うっとす [üttosü] [形] うっとうしい。[続 31]

【例】 ないだて、にゆうべあさ へあたば、うっとす てんきばり つずぐな
「まあ、入梅に入ったら、うっとうしい天気ばかり続くね」

うつぶす [üppüsü] [四自] 打つ伏す。[続 31]

【例】 こすあ いであて、ほんであ、うつぶしてみろ、もでくえっさげあ
「腰が痛いって、それじゃ打つ伏してみろよ、揉んであげるから」

うづべんけ [名] 内弁慶。[及 119]

【例】 この わらすあ ゆぐゆぐ うづべんけだなよ
「この子は、よくよくの内弁慶なんですよ」

この語は、「うづべんけそどもそ」、「えのながべんけ」、「えんながべんけ」、「えんながべんけそどもそ」などとも使っている。

うづりが [üdzirija] 移り香。[及 20]

【例】 クリームなの つけだ 手で すんめあ すっど うづりが すっさげあな
「クリームなんか付けた手で炊事をすると、移り香がするからね」

うづわ [üdzüwa] [名] うちわ。暮しむき。[及 119]

【例 1】 まだ うづわもめがは
「また家族の中でのめごとかい」

【例 2】 あそごあ うづわの ええ、えだ
「あそこは、暮むきのいい家だよ」

うづわ 団扇。[及 46]

【例】 あんまり あつ、うづわ もて きてころ
「余り暑いから、団扇を持って来て下さい」

うであー [üde:] 謡。[続 31]

【例】 こごらあたりで うであーの じょんだ しとていうど だれだおんだや
「こごらあたりで、謡の上手な人というど、誰なんだい」

うであーて [üde:te] 歌い手。[続 31]

【例】 へっかぐの ぼうねんかいだ おん、だれが うであーて ではて、にぎやがん するや
「折角の忘年会だもの、誰か歌い手が出て、賑やかにするよ」

うであーもんく [üde:monkü] 歌い文句。[続 31]

【例】 とくさんぶつの せんでんさ つかう うであーもんく ぼしゅうすんべや
「特産物の宣伝に使う、歌い文句を募集しようや」

うでどげ 腕時計。[及 46]

【例】 あんつあ えな うでどげ かて もらて
「兄さんはいいな、腕時計を買ってもらって」
時計類は「おぎどげ」、「かいちゆどげ」、「はすらどげ」のように呼んでいる。

うでぶす [üⁿdepüsü] 腕っ節。[続 31]

【例】 むがすあ、たらかずぎくれあごなので、うでぶす ためした おんだ
「昔は、俵担ぎ競争なんかで、腕っ節を試したものだよ」

うでめあー [ü^rdeme:] 腕前。[続 31]

【例】 うだの うでめあーだば、きんごうきんぜあで、〇〇さんに かなう しとあ いねあべな
「唄の腕前なら、近郷近在で、〇〇さんに敵う人はいないだろうな」

うどき [üdoki] 空洞のある木。[同] どらき。[及 82]

【例】 この 木あ うどきだな
「この木は、空洞のある木だな」

うどん 独活。うこぎ科の植物で山菜。[同] うんど。[及 82]

【例】 うどん とりん えがねあが
「うどを採りに行きませんか」

うねこしえ [ünəkofe] 畝立て、畝作り。[及 69]

【例】 であご まぐはげあ うねこしえ してこえ
「大根を蒔くから、畝立てをして来なさい」

うのぼれる [ünoborerü] [下一自] うぬぼれる。[続 31]

【例】 ずまんが すぎっど、うのぼれんなも えっかげんにするて ゆいであぐなるな
「自慢が過ぎると、うぬぼれるのもいい加減にしろ、といたくなるね」

うら [üra] 便所。[続 31]

【例】 うらさ えて くっさげあ、しとえあ、この におの みででころ
「便所へ行って来ますから、一寸、この煮物を見ていて下さい」

うらおり 大分大きくなった山菜の、上部の軟かいところをとること。[及 82]

【例】 この えあこあ うらおりだども くてころ
「このみやまいらくさは、上部を摘んだものですが、食べて下さい」

うらぎ 梢の方の細い丸太。[及 82]

【例】 うらぎあ ゆぎがごいの 材料に すんべ
「梢の細丸太は、雪囲の材料にしよう」

うらげあす [üragesü] [四他] 裏返す。[続 31]

【例】 おれあ えの ただみも、れあねんあだり うらげあす つもりだ
「うちの畳も、来年あたり裏返すつもりだよ」

うらさぶす [ürasabüsü] [形] うら淋しい。[続 32]

【例】 こにゃ しとりばりだ おんだはげあ ないだが うらさぶすな
「今夜は、一人だけなものだから、なんだかうら淋しいな」

うらじえっく [名] 裏節句。節句の翌日。[及 119]

【例】 うらじえっくで しとも こねあし、ゆっくり のむべや
「裏節句で人も来ないし、ゆっくり飲もうや」

うらじえっく [üra"dzekkü] 裏節句。節句の翌日をいう。[続 32]

【例】 きょうあ うらじえっくだ おん、えの したずばりで おひなさまの ごっつお もらう
べ
「今日は裏節句だから、家の人達だけで、雛飾りのご馳走を貰おう」

うらのぐず [üranonjüdzü] 裏口。この語は、家の裏側にある出入口だけの意味で使い、「うら
口入学」などのような意味では使わない語である。[続 32]

うらべ 梢。[同] うら。[及 82]

【例】 こぶすの 花 うらべさばり さぐ おんだな
「こぶしの花は、梢にばかり咲くものだね」

うらみこ [名] 恨み合い。互に恨み合うこと。[及 119]

【例】 おんなしん くえっさげあ うらみこ すんなよ
「同じようにあげるから、恨み合いをするんじゃないよ」

うらめす [üramesü] [形] 恨めしい。[続 32]

【例】 あんずぎ こげあ してくえれば えがったなよ、ほれ えまん なて うらめす
「あの時こうしてくれるとよかったんだよ、それが今になって恨めしいよ」

うらやます うらやましい。[同] けなり。[及 20]

【例】 ええ きおの かて もらて うらやます おんだ
「いい着物を買ってもらって、うらやましいもんだ」

うりき [üriki] うりはだかえで。これは、かえで科の落葉高木で、樹皮が緑色で平滑な肌をして
いる木である。材質が軟かく木材としては利用価値の低い木である。[続 32]

うりげあ [ürige] [名] 売買。売り買い。[及 119]

【例】 めあっこの うりげあ はじまたど
「繭の売買が始まったそうだ」

うる [名] 閏。[及 120]

【例 1】 こどしあ うるとしだな
「今年は閏年だね」

【例 2】 うるつぎにあ いづにづ よげん なるな
「閏月には、一日よけいになるな」

うるうる [副] うろうろ。[同] うるとる。うろとろ。[及 120]

【例】 うるうるて、なに さがしたや
「うろうろと何をさがしているの」

うるえ おおばぎぼうし。ゆり科の植物で山菜。[及 82]

【例】 うるえの でっどごあ すべさげあ、とっずぎあ きい つけるよ
「おおばぎぼうしの出るところは、滑べるから、採る時は気をつけなさいよ」

うるおべ [ürüobe] うろ覚え。[続 32]

【例】 であぶ むがすの ごどだはげあ、うるおべだども ほゆ ごどあ あったけな
「大分昔のことだから、うろ覚えだが、そういうことがあったけな」

うるがす [ürügäsü] [動] 水に浸ける。水にひたす。[及 120]

【例】 ほの へんたぐおの うるがしておげ
「その洗濯物を水に浸けておいてくれ」

うるげる [ürügerü] [動] ふやける。[及 120]

【例】 いづにづ 水すごど したば、手あ うるげだは
「一日水仕事をしていたら、手がふやけてしまったよ」

うるごめ うるち。うる。[同] うるめあ。[及 37]

【例】 うるごめど、もづごめ まじえんなよ
「うるちと、餅米を混ぜるなよ」

うるす 漆。やまうるし。うるし科の落葉木。また、この木から採った汁。[及 83]

【例】 うるすぬ ぎの そばさ えぐど かぶれんぞ
「漆の木のそばへ行くと、かぶれるよ」

うるせあ [ürüse] [形] 煩い。[及・続 20・32]

【例1】うるせあ ごど、わらしたずあ あんまり さわぐ おんで、テレビも きげねあであ
「煩いね、子供らがあまり騒ぐものだから、テレビも聞けないよ」

【例2】うるせあ ごど テレビも きげねあ
「うるさいこと、テレビも聞こえないよ」

うるだぐ [ürüdagü] [下一白] うろたえる。[続32]

【例】こげあた ずぎあ うるだぐ おんでねあ、まず、こごろ おずづけごどだ
「こんな時は、うろたえるもんじゃないよ、まず、心を落ち着けることだよ」

うるだぐ [動] 慌てる。[及20]

【例】こればりの 地震で うるだぐな
「こればかりの地震で慌てるな」

うるとる [ürütörü] うろうろ。[続32]

【例】うるとるて、ないが さがしたなが
「うろうろして、何かさがしているのかい」

うれす 嬉しい。[及21]

【例】ええ 嫁 もらて、なんぼが うれすんだが
「いい嫁をもらって、どんなに嬉しいだろうね」

うろんた 怪しい。うろんな。[及21]

【例】よながん しのの えの 裏さなの 来て、うろた ごど する おんだ
「夜中に人の家の裏になんか来て、怪しいことをするもんだ」

うわか [名] うわがわ。うわつら。表面。[同] ゆわか。[及120]

【例】うわか の わり どご とて けよ
「表面の悪いところを除って食べるよ」

うんこ [ünko] [幼児語] 糞。[続32]

【例】め うんこあ でんなが、んだら はやぐ こっちゃ こえ
「め(子供の愛称男女共)、糞が出るのかい、それなら早くこっちへ来なさい」

うんつん [üntsün] 運賃。[続33]

【例】てずどうの うんつん、まだ あがるつけぜあ こんだ なんぼ あがんだが
「鉄道の運賃がまた上がるそうだよ、今度は幾ら上がるものやら」

うんと [ünto] [副] 沢山。[同] えっばえ。えっぺあ。へえほであ。たんと。[続33]

【例】この ふりぶりだど、ばんげあ ゆぎあ うんと つもんべな
「この降りぶりだと、今夜は雪が沢山積るだろうな」

うんどずる 独活汁。[及37]

【例】ひしゃすぶりで うんどずる くたな
「久し振りで、うど汁を食ったな」

うんどば

この語は「うどんずる」ともいい、うどの漬け物を「うんどづけ」といつている。

うんどば [ündoba] [名] 運動場。[及 120]

【例】 がっこの うんどば かりだど
「学校の運動場を借りたそうだ」

— え —

～え [～e] [格助] に。(ありか。うけみ)。今は稀に老人が使うぐらいなものである。[続 33]

【例 1】やまえ ある

「山にある」

【例 2】しとえ とらっだ

「人に取られた」

え [形] いい。よい。よろしい。[及 120]

【例 1】これ つかても えべが

「これを使ってもいいでしょうか」

【例 2】これあ え 花だ ごど

「これはいい花だこと」

この語は「ええ」とも使い、「えげあす—よろしゅうございます。ようございます」、「えごであす—よろしゅうございます」、「ええじゅ—いいよ」、「ええはげあ—いいから」などの使い方がある。

～え [～e] [接尾辞] れる。可能を示す語である。[続 33]

【例 1】えぐえ

「行かれる」

【例 2】くるえ

「来られる」

【例 3】きるえ

「着られる」

【例 4】とるえ

「取れる」

【例 5】くうえ

「食える」

え いい。よい。[及 21]

【例 1】この 花 え 花だな

「この花いい花だね」

【例 2】おれあ ほのくれあ あっど え

「私はそのくらいあればよいよ」

この語は「ええ」とも使い、「ええおの—いい物」、「ええつら—いい顔」、「ええどご—いい所」、「ええもえ—いいとも」などの使い方をしている。

え 家。[及 47]

この語は「おめあえ—あなたの家。お宅」、「おれあえ—私の家。うち」、「おわえ—自分の家」、「んつあえ—お前の家」、「えさ—うちに」、「えにあ—お宅には」、「えんどご—うちの所。お宅の所」、「えんなが—うちの中」、「えのしたづ—うちの人達。お宅の人達」などの使い方をしている。

えあ—おの [e:ono] 和え物。[続 33]

【例】 きょうあ えあ—こど くるみの えあ—おのでも つくてみっが
「今日は、あいこと胡桃の和え物でも作ってみようか」

えあ—かぎ [e:kaŋi] 合鍵。[続 33]

【例】 えあ—かぎ なぐすつど えさ へあらんねあぐなっさげあ なぐすんなよ
「合鍵をなくすると、家へ入れられなくなるから、なくするなよ」

えあ—ぎよ [e:gjo] 愛嬌。[続 33]

【例】 ないだて、この わらすこあ えあ—ぎよの え めんごえ おぼだ ごど
「まあ、この子は、愛嬌のいい、可愛い子供だこと」

えあ—ごぎ [e:ŋoŋi] みやまいらくさ。あいこ。これは、及位の方言 80P に記した「あえこ」ともいい、また、「えあこ」などともいっている山菜で、「えあ—ごぎ」は古い使い方、今は殆ど使わない。[続 34]

えあ—しよ [e:ʃo] 相性。[続 34]

【例】 したりあ、えあ—しよあ えはげあ、ええ ふうふん なるんねあべが
「二人は相性がいいから、いい夫婦になるんじゃないだろうか」

えあ—ず [e:ⁿdzü] 合図。[続 34]

【例】 ほら、おめあどご こっちや こえて、えあ—ず したたぞ
「ほら、お前を、こっちに來い、と合図をしているよ」

えあ—ずず [e:ⁿdzüdzü] 相槌。[続 34]

【例】 はずめの うずあ えあ—ずず うて きっただけども しめあにあ ねぶかぎだけは
「始めの内は、相槌をうって聞いておったが、しまいには居眠りだったよ」

えあ—だがら [e:ⁿdaŋara] 間柄。[続 34]

【例】 あの したりあ いどご どうしの えあ—だがらだはげあ したしなだ
「あの二人は、従兄弟同志の間柄だから親しいんだ」

えあ—で [e:de] 相手。[続 34]

【例】 そうだんすんなも えども、えあ—でに よりけりだべな
「相談するのもいいが、相手によりけりだろうな」

えあ—にく [e:nigü] 生憎。[続 34]

【例】 えあーにぐ きょうあ もずあへあ ねあはげあ、あしたん してくんねあが
「生憎今日は持ち合わせがないから、明日にしてくれませんか」

えあーま [e:ma] 合間。[続 34]

【例】 すごどの えあーま みで、これ えっぴず けあでくんねあが
「仕事の合間をみて、これを一筆書いてくれませんか」

えあーる [e:rüü] [下一他] 和える。[続 34]

【例】 えあーおの つぐつざぎあ こげあして かますながら えあーる おんだ
「和え物を作る時は、こうしてかき混ぜながら和えるものだよ」

えあこずる [eko^odzüürüü] あえこ（みやまいらくさ）汁。[及 37]

【例】 えあこ とて きてくっだはげあ えあこずるでも すっが
「あえこを採ってきてくれたから、あえこ汁でもしようか」

あえこの漬け物を「えあこづげ」といっている。

えあさづ [e|esadzüü] [名] 挨拶。[及 120]

【例】 えあさづ さっだども、誰だが わがらねあけ
「挨拶をされたが、誰なのか分らなかったな」

えあそ [eso ~eso] [名] あいそ。愛想。[及 120]

【例】 あの 嫁あ えあその え 嫁だな
「あの嫁は、愛想のいい嫁だな」

えあだ [名] 間。[及 120]

【例 1】 つぐえど つぐえの えあだ へべあな
「机と机の間が狭まいね」

【例 2】 この えあだ ごっつおさん
「この間にご馳走さんでした」

えあづ [edzüü. e:dzüü] [代] あいつ。[及 2]

【例】 えあづあ がっこでも きがねあ ほだど
「あいつは学校でもきかない方だそうだ」

えあつぱり [etsüpari] [連語] あればかり。[同] あればり。えあづぱり。[及 21]

【例】 おれあどさは えあつぱりはんて くんねあなが
「俺には、あればかりしかくれないのかい」

えあべ [eβe] 行こう。[同] あべ。えご。[続 34]

【例】 おめあも えぐあだべ、んだら おれど えっしょん えあべや
「あなたも行くんだらう、それじゃ私と一緒に行こうよ」

えあらずぐねあ [erasürgüne] [連語] かわいくない。にくらしい。この語は、本来なら見
出語には出て来ないのだが、「えあらず」が「愛らしい」とか、「かわいい」とは方言で使っていな

いので、特に出した。[及 21]

なお、この語は「こえあらすぐねーこ憎らしい」、「やらすぐねあー憎らしい」などとも使っている。

えあんべあ [ɛanbe] 適当。いい按配。いい具合。[及 121]

【例 1】 おめあだ えあんべあ わげろ

「お前達で、適当に分けなさい」

【例 2】 雨あ はって えあんべあ であったな

「雨が晴れて、いい具合でしたな」

ええがら [ɛ:ŋara] [名] 家柄。[及 121]

【例】 あそごあ むがしからの えで、ええがらの ええ えだ

「あそこは、昔からの家（由緒のある家）で、家柄のいい家だよ」

えーがら [ɛ:ŋara] 家柄。[続 35]

【例】 あそごあ むがすあ だいだい しょうやで えーがらの ええ えだ

「あそこは、昔は代代庄屋で、家柄のいい家だよ」

ええき [ɛ:ki] [形] いい気。[及 121]

【例】 みろ ええ きん なて はなうだだは

「みなさい、いい気になって、もう鼻唄だよ」

ええき [ɛ:ki] [ダナ] いい気。得意。[続 35]

【例】 おわばり にゆうしょうしたどて えー きん なてる おんだ

「自分ばかり入賞したとって、いい気になっているものだ」

ええきび [ɛ:kiɸi] いい気味。[及 121]

【例】 ざんまみろ ええきびだ ごど

「ざまあみやがれ、いい気味なこと」

えーくれあ [ɛ:küre] [連語] 欲しいだけ。好きなだけ。[続 35]

【例】 この んめあ おの おすなが、んであ おわ えー くれあ もて えげや

「このお菓子が欲しいの、それじゃ、自分の欲しいだけ持っていきなさい」

ええつら [ɛ:tsüra] いい顔。[及 121]

【例】 おわばり えれあどて ええつらして えばてる

「自分だけが偉いんだ、というので、いい顔をして威張ってるよ」

えーで [ɛ:ⁿde] 家出。[続 35]

【例】 むすめあ、すぎだ おどごあ でげで、ほの おどごど えーで したどは

「娘は、好きな男が出来て、その男と家出をしてしまったそうだ」

ええであ [ɛ:de] [副] なかなか。[及 121]

【例】 こえて ゆたども ええであ こねあ おんだ

「来い、といたんだが、なかなか来ないもんだ」

ええふり [名] いい振り。[及 121]

【例】 ええふり すんな おめあばり しとんねあぜあ
「いい振りをするなよ、お前ばかりが人じゃないよ」

えーもず [e:modzū] 家持ち。[続 35]

【例】 おれも、この とすん なて よやっと えーもずん なたや
「私も、この年になって、漸く家持ちになったよ」

えが [eŋa] いが。栗のいが。[及 83]

【例】 かじえあ ふぐど えが おづっさげあ、笠 かぶてえげ
「風が吹くと、栗のいがが落ちるから、笠をかぶっていきなさい」

えが [eŋa] 烏賊。[続 35]

【例】 つかごろあ この やまん ながでも えがの さすみ けるよん なたや
「近頃は、この山の中でも、烏賊の刺身を食えるようになったよ」

えがえが [eŋaeŋa] [形] 鋭い。鋭く光るさま。[及 121]

【例】 かんま えがえがどゆわへで もて 来たけ
「鎌を鋭く研いで持って来たつけ」

えがげ [eŋage] [名] 鑄掛け。[及 121]

【例】 この 鍋 えがげでくんねあが
「この鍋を鑄掛けてくれませんか」

えがげや [eŋageja] いかけ屋。[同] どや。[及 77]

【例】 鍋なの えがげる えがげやも いねあぐなたな
「鍋なんかいかける、いかけ屋もいなくなったね」

えがされる [eŋasarerū] [動] やられる。物をこわされたり、物事を打ちこわしにされること。[及 280]

【例 1】 ゆえぎばづ えがさっでしまたは
「植木鉢をこわされてしまったよ」

【例 2】 まどめんべどもてだら、よごがら くづだすさっで、えがさっでしまたは
「まとめよう、と思っていたら、横から口出しされて、こわされてしまったよ」

えがす [eŋasū] [動] 生かす。[及 121]

【例】 ころさねあで、えかしておげや
「殺さないで、生かしておけよ」

えがであ [eŋade] [形] 得難い。[続 35]

【例】 これあ、○○ていう おんで、こごらでなの ながなが えがであ おんだぜあ
「これは、○○というもので、この辺でなんかなかなか得難いものだよ」

えかまか [ekamaka] がに股のように歩くさま。[続 35]

【例】 ○○さんも としょたば、えかまかて ありぐよん なたな
「○○さんも、年を取ったら、がに股のように歩くようになったね」

えがまる [ɛgamarü] [下一他] 溢れる。これは、水路などがふさがれて、水が溢れることをいう。[続 35]

えがまる [ɛgamarü] [動] あふれる。流れがせき止められて、あふれること。[及 101]

【例】 へげあ ごみで えがまて きたは
「用水路がごみでせき止められて、あふれてきてしまったよ」

えがみあう [ɛɟamiäü] [四自] 唾み合う。[続 36]

【例】 きょうであずれして、あんげあ えがみあう ごどあ ねあべどもな
「兄弟同志で、あんなに唾み合うことがないだろうにね」

えがみのごんた [ɛɟaminogonta] 始終小言をいう人。小言こうべい。[及 2]

【例】 あれあ えがみのごんただ おん
「あれは小言こうべいだもん」

えがむ [ɛɟamü] [動] いがむ。小言をいう。[及 121]

【例】 ほんげあ えがむなや
「そんなに小言をいうなよ」

えがめす [ɛgameşü] [形] 厳しい。[続 36]

【例】 むらの すんこうせいさぐの はなすだ おんだはげあ ○○さんも いがめす つらして
しゃべったけ
「村の新興政策の話なものだから、○○さんも厳しい顔をして話しておったっけ」

えがめる [ɛgamerü] [下一他] 塞き止める。これは、水路などを塞き止めることである。[続 36]

えがらっぼえ [ɛɟarappoɛ] えがらっぼい。[及 21]

【例】 この えがらっぼえな、炭やぎの けぶだな
「このえがらっぼいのは、炭焼きの煙だな」
この語は「えがらぼい」とも使い、えからいを「えがれあ」といつている。

えがれあ [ɛgare] [形] えがらい。[続 36]

【例】 ないだや、この えがれあな、のどさ ささるな
「なんだい、このえがらいのは、喉にささるね」

えがれる [ɛgarerü] [動] こわれる。駄目になる。[及 121]

【例】 永年 つかた おの えがれるなも 無理あ ねあな
「永年使って来たんだもの、こわれるのも、無理はないな」

えがわ [ɛɟawa] 縁側。[及 47]

【例】 えがわ あたこえさげあ えがわで あすべ

「縁側があったかいから、縁側で遊びなさい」

えぎ [eɡi] 息。[続 36]

【例】 あんまり えそえで きた おんだはげあ えぎあ とまりそだは
「余り急いで来たものだから、もう息が止りそうだよ」

えぎ [eɡi] 生き。[続 36]

【例】 しとの えぎしにも、それぞれ じゅみよう あんな だべちやなや
「人の生き死にも、それぞれ寿命があるのだろうよね」

えぎあう [eɡiaü] [四自] 行き合う。[続 36]

【例】 もう、ずぎん くんべはげあ えぎあう だごまで、むげあん えてみる
「もう、直きに来るだろうから、行き合うところまで、迎えに行ってみなさい」

えぎあがる [eɡiaŋarü] 疲れてふうふういうこと。[続 36]

【例】 はやぐ こえ、ていうはげあ はして きたら、えぎ あがるは
「早く来い、というから、走って来たら、もう疲れてふうふうだよ」

えぎあだり [eɡiadari] 行き当たり。[続 36]

【例】 こご まっすぐ えて、えぎあだりん だごで、みぎさ まがんなです
「ここを、真っ直ぐに行って、行き当たりの所で、右に曲るんです」

えぎあだりばったり [eɡiadaribattari] [名/ダナ] 行き当たりばったり。[続 36]

【例】 すごどずあ、えぎあだりばったりんねあぐ、けいかぐ たでで やる おんだ
「仕事というものは、行き当たりばったりでなく、計画を立ててやるもんだよ」

えぎおえ [eɡioe] [名/副] 勢い。[続 37]

【例 1】 すげ えぎおえで はして きたけ
「すごい勢いで走ってきたけ」

【例 2】 おめあみであだ やりがだだど、えぎおえ ほゆ ごどん なんなだ
「お前のようなやり方だと、勢いそういうことになるんだよ」

えぎががり [eɡiŋagari] 行き掛かり。[続 37]

【例】 えぎががりじょう しかだねあ おれも そうだんさ のらねあんねあべな
「行き掛かりじょう仕方がない、私も相談に乗らないといけないだろうな」

えぎがげ [eɡiŋage] [名] 行き掛け。[同] えぎしめあ。[及 122]

【例】 えぎがげん 病人さ かたがてみた
「行き掛けに、病人を見舞った」

えぎがげ [eɡiŋage] 行き掛け。[続 37]

【例】 おめあ、〇〇さ えぐごったら、えぎがげん 〇〇さん えさ よてえてころ
「お前、〇〇に行くんだったら、行き掛けに、〇〇さんの家へ寄って行ってくれ」

えぎき [eɡiki] 行き来。[続 37]

【例】 ○○さん どごだば、すたすぐしてっさげあ、すじゅう えぎき してる
「○○さんのところなら、親しくしているから、始終行き来をしています」

えぎぎれ [egĩjire] 息切れ。[続 37]

【例】 ないだが つかごろ すこす ありぐど えぎぎれあ するよん なたなよ
「なんだか、近頃は、少し歩くと息切れがするようになったんだよ」

えぎけあーり [egĩke:ri] 行き帰り。[続 37]

【例】 ○○さんだば、つとめの えぎけありん ていしゃばで えっしょん なる
「○○さんなら、勤めの行き帰りに、停車場（駅）で一緒になるよ」

えぎげあーる [egĩge:rũ] [四白] 生き返る。[続 37]

【例】 えぎ つがねあぐなたはげあ しだどもたら、えぎげあたけ
「息を吐かなくなったから、死んだと思ったら、生き返ってきたけ」

えぎさぎ [egĩsagi] 行き先。[続 37]

【例】 どごさ えた おんだが、きょう まだ、えぎさぎも ゆわねあで えた おんだ
「何処へ行ったものやら、今日は、行き先もいわないで行ったもんだ」

えぎずぐ [egĩdzũgũ] [四白] 行き着く。[続 37]

【例】 さんずだ おんは、○○にあ とっくん えぎずぐ ころだなは
「もう 3 時だもの、○○にはもう疾うに行き着く頃だね」

えぎずげ [egĩdzũge] 行き付け。[続 38]

【例】 もの かうなだば、えぎずげの めへあ え おんだ、まげでも くえっさげあな
「物を買うなら、行き付けの店がいいもんだよ、まけてもくれるからね」

えぎずまる [egĩⁿdzũmarũ] [四白] 行き詰まる。[続 38]

【例】 ひやくしょも こめつぐりばりであ えぎずまる ずぎあ くんぞ
「百姓も、米作りばかりでは、行き詰まる時が来るよ」

えぎすむ [egĩsũmũ] [四白] 力む。[同] いぎすむ。[続 38]

【例】 ほんげあ えぎすで、なに したや
「そんなに力んで、何をしているの」

えぎだおれ [egĩⁿdaore] 行き倒れ。[続 38]

【例】 ひでえ ふぎん ふがって とうげんどさ だれが えぎだおれあ いただけ
「ひどい吹雪に吹かれて、峠のところに、誰か行き倒れがおったそうだよ」

えぎつげあ [egĩtsũnge] 行き違い。[同] えぎずげあ。[続 38]

【例】 どごで えぎつげあ なたあだべ、さっぱり わがらねあ おんだな
「何処で行き違いになったんだろう、さっぱり分らないものだな」

えきてあ [ekĩte] [形] 暑い。[続 38]

【例】 なずだはげあ ふすぎんねあども、きょうあ めっぼ えきてあ ひだな

「夏だから不思議ではないが、今日は滅法暑い日だな」

えぎどまり [egĩdomari] 行き止まり。[続 38]

【例】 この みずあ、ごどで えぎどまりだあです、みず まずかたなで ごさへんか
「この道は、此処で行き止まりなんです、道を間違えたんではございませんか」

えぎなり [egĩnari] [副] いきなり。[続 38]

【例】 ほんた ごど、えぎなり ゆわだて、へんずん こまるな
「そんなことを、いきなりいわれたって、返事に困るな」

えぎば [egĩba] 行き場。[続 38]

【例】 わらび とつずぎの おれの えぎばあ まえとす おんなす どごだ
「わらびを採る時の俺の行き場は、毎年同じところだよ」

えぎめあー [egime:] 駅前。[続 39]

【例】 バスあ ねあ おんだはげあ、えぎめあーまで ずでんしゃで えぐなだ
「バスがないから、駅前まで自転車で行くんです」

えぎりたず [egiritadzũ] [四自] いきりたつ。[続 39]

【例】 ほんげあ えぎりたず おんでねあ、まず、おずずで、こどわげ ゆてみる
「そんなにいきりたつもんじゃないよ、まず、落ち着いて、事訳をいってみろよ」

えぐ [egũ] [動] 行く。逝く。[及 122]

【例 1】 これがら まづさ えぐなだ
「これから、町へ行くんです」

【例 2】 ○○さん えぐ どごだとは
「○○さんは、逝く（亡くなる）ところだそうだ」

この語には、「あべー行こう」、「えがっだー行かれた。逝かれた」、「えぎあすー行きます」、「えんかー行こうか」、「えあべー行こう」などの使い方があ

えぐ [egũ] [動] 年寄る。年をとる。[同] としよる。としより。[及 122]

【例】 年あ えぐど 息子まがへだ
「年をとると、息子まかせです」

えぐ [egũ] [副] しばしば。よく。[及 122]

【例】 おめあも えぐ 釣りん えぐな
「あなたも、よく釣りに行きますね」

えぐえぐ [egũegũ] [副] よくよく。[及 122]

【例】 今日あ えぐえぐ 運の つでねあ ひだな
「今日は、よくよく運のついてない日だな」

えぐず [egũrdzũ] 意気地。[続 39]

【例】 すこすの ごどで なぐよだ、えぐずのねあ ごってあ、おつきぐ なんねあぞ

「少しのことで泣くような、意気地のないことでは、大きくなれないよ」

えぐずなす [eɡũdzũnasũ] [名] 意気地無し。[及 122]

【例】 この わらすあ えぐえぐ えぐずなすで
「この子は、よくよくの意気地無しで」

えぐづ [eŋũdzũ] ^{みつくち} 兔唇。[及 9]

【例】 えぐづなの えまだば 治してけっど
「兔唇なんか、今なら治してくれるそうだ」

えぐなすおの [eɡũnasũono] [名] 悪者。悪い物。[及 122]

【例 1】 この えぐなすおのあ まだ 来たが
「この悪者奴が、また来たのか」

【例 2】 こんた えぐなすおの 売りおのだなて
「こんな悪い物を売り物だなんて」

えぐなすおの ろくでなし。ろくなことをしない者。[及 2]

【例】 ごがは するんだが、手くせあ えぐねあんだが、えあづだば おおえぐなすおのだ
「ごねるやら、手くせが悪いやら、あいつなら大ろくでなしだよ」

えぐなすかが 悪妻。夫婦けんかなどに使う悪態。[及 2]

【例】 んつみであんた えぐなすかかなの いねあ おんだ
「お前のような悪妻なんかいないものだ」
この反対が「えぐなすおやず一悪夫」である。

えぐねあ [eɡũne] [形] 悪い。[続 39]

【例】 ほれあ あんつあ えぐねあ、まず はやぐ ほの ほん けあへ
「それは、兄さんが悪い、まず早くその本を返えしなさい」

えぐねあ [eɡũne] 悪い。よくない。[及 21]

【例】 まだ えぐねあ ごど したんねあが
「また悪いことをしてるんじゃないか」

えぐび [eɡũbi] 猪首。[続 39]

【例】 まず、てあで えぐびだ してて ゆえば、ふとてる したぼんだな
「まず、大抵猪首な人といえば、太っている人ばかりだな」

えげ～ [eɡe~] [接頭辞] いけ。主意を強める語。[続 39]

【例 1】 えげしゃあしゃあ
「いけしゃあしゃあ」

【例 2】 えげずうずうす
「いけずうずうしい」

【例 3】 えげすかねあ

「いけ好かない」

【例 4】 えげずれ

「いけ狡るい」

【例 5】 えげそんぜあ

「いけぞんざい」

【例 6】 えげだらぐ

「いけ墮落」

【例 7】 えげこじよわり

「いけ根性が悪い」

えげあ — [eŋe:] 以外。[続 39]

【例】 ござあ かんけえしやえげあー へあらんねあ ござだあだど

「此処は、関係者以外は入れられない所なんだそうだ」

えげあ — [eŋe:] 意外。[続 39]

【例】 ござすの てんきあ あまり えぐねあがったども、えげあー しゅうかぐあ あったな

「今年の天気は余りよくなかったが、意外に収穫はあったな」

えげす [eŋeʃü] 生け簀。[続 39]

【例】 いずどん くいきんねあはげあ あまた あゆあ えげすさ へでおげよ

「一度には食い切れないから、余った鮎は生け簀に入れておげよ」

えげつねあ [eŋeʃtüne] [形] えげつない。[続 40]

【例】 したんどご だましあがて、えぐ あんた えげつねあ ごど でげる おんだ

「人を騙しやがって、よくあんなえげつないことが出来るもんだ」

えげどり [eŋeⁿdori] 生け捕り。[続 40]

【例】 うさぎ えげどりん して きたども むぞせあはげあ、かておぐべは

「兎を生け捕りにして来たが、可哀そうだから、もう飼っておこう」

えげばな [eŋebana] 活け花。[続 40]

【例】 えげばなのあ、よめいりめあん ならわねあど ならう ずきあ なぐなんぞ

「活け花なんかは、嫁入り前に習わないと、習う時がなくなるよ」

えげる [eŋerü] [下一他] 埋める。[続 40]

【例】 ずさまの おこずも、へんぞさまの おはがの したさ えげる ごどん すんべ

「お爺さんのお骨も、先祖さまのお墓の下に、埋めることにしよう」

えげる [eŋerü] [下一他] 活ける。[続 40]

【例 1】 この はな かびんさ えげでころ

「この花を花瓶に活けてくれ」

【例 2】 この なす ほごらさ えげでおげ

「この茄子をその辺に活けておげよ」

えげん [eɡɛ̃N] 意見。[続 40]

【例】 おだげあ えげん だすあわねあど、はなすあ まどまらねあべじゅ
「お互に意見を出し合わない、話は纏まらないだろうよ」

えご [ɛgo] 川の中の魚の入り込める穴やすき間。これは、川の魚が入り込める、石と石のすき間や岩の割れ目などをいう。[続 40]

えごえ [ɛgoɛ] [名] ものいい。話しことば。[及 122]

【例】 おれあ えの つあつあだばまづ えごえの わり しとで
「うちのお父さんときら、ものいいの悪い人で」

えこえこ [名] 小言。[同] えこまこ。[及 122]

【例】 ぜえぶん えこえこて いう おんだな
「随分小言をいうもんだな」

えこえこ [ekoɛko] 意地悪くいう小言。[続 40]

【例】 まず あの ばさまだば ずっと よめあどさ えこえこてんなだけ
「まあ、あの婆さんなら、始終嫁に意地悪く小言をいっているんだっけ」

えごがす [ɛgoɡasü] [四他] 動かす。[続 40]

【例 1】 この いす えごがすなさ てずだえや
「この石を動かすのに手伝えよ」
【例 2】 ○○さんどご えごがして ちょうちょうん すんべ
「○○さんを動かして町長にしようや」

えごぎ [ɛgoɡi] 動き。[続 40]

【例】 ないが たいさぐ たでねあど えごぎあ とんねあな
「何か対策を建てないと、動きがとれないね」

えごぐ [ɛgoɡü] [動] 動く。[及 122]

【例】 この さがな、まだ えごぐあだな
「この魚は、まだ動くんだね」

この語には、「えごえだ一動いた」、「えごげっが一動けるか」などの使い方がある。

えごさがし [ɛgoɟasasi] 魚穴さがし。これは、川の石のすき間や岩の割れ目などに、手を入れて、魚をさがすことをいう。[続 41]

えごず [ɛgoⁿdzü] [名/ダナ] 意固地。[続 41]

【例】 ほんげあ えごずん ならねあで、おれの いう ごども きでみでくっちゃ
「そんなに意固地にならないで、俺のいうことも聞いてみてくれよ」

えごてあ [ɛgoɟɛ] えぐい。えごい。[及 21]

【例】 えっく あぐだす すねあど えごてあぞ
「よくあくぬきをしないと、えぐいよ」

えごひぎ [egoçiği] [名] えこひいき。[及 122]

【例】 この しとあ しとさ えごひぎなの する ひとつねあ
「この人は、人にえこひいきなんか、する人じゃないよ」

えさげあ [esage] [名] いさかい。けんか。[及 123]

【例】 えさげあなの しねあで、ながえぐ あすべよ
「いさかいなんかしないで、仲よく遊びなさいよ」

えざこざ [eⁿdzakoⁿdza] いざこざ。[続 41]

【例】 あの きしよだおん、えざこざだて おごしかねねあ おどごだな
「あの気性だもの、いざこざだって起しかねない男だね」

えささが [esasaga] [副] 些か。[続 41]

【例】 これあ やりずげねあ すごどだはげあ、えささが かってあ つがうな
「これはやりつけない仕事だから、いささか勝手が違うね」

えさばや いさばや。魚屋。[及 77]

【例】 なえだべ 近頃 えさばや こねあな
「どうしたんだろう、近頃、魚屋が来ないな」

えざま [名] 居ざま。行儀。[同] いんさま。えんざま。[及 123]

【例】 なんだ、ほの えざま まと ちゃんと ねまれ
「なんだ、その行儀は、もっときちんと座りなさい」

えじ [名] 意地。[及 123]

【例】 ほんげあ えじ はてっど 皆に 嫌われんぞ
「そんなに意地を張っていると、皆に嫌われるよ」

この語には、「えじきたねあ一意地汚い」、「えじこぐ一意地を張る」、「えじたでる一意地を張る」、「えじっぱり一意地っ張り」などの使い方がある。

えしや [eja] 医者。[続 41]

【例】 どごが えぐねあ ずぎあ、えしやに みで もらうな いずばんだな
「どこか悪い時は、医者に診てもらうのがいちばんだな」

えじやり [e⁽ⁿ⁾dzari] いざり。[及 2]

【例】 ○○あ 車の 事故で えじやりん なてしまたどは
「○○は車の事故で、いざりになってしまったそうだ」

えじやる [動] いざる。座ったまま座を移ること。[及 123]

【例】 はがま きれっさげ えじやる おんでねあ
「もんぺがきれいから、いざるもんじゃないよ」

えしよ 衣装。着物。晴着。[及 55]

【例】 この えしよ どころか 来て きたな、ええ 柄だごど

「この着物、どこから買って来たの、いい柄なこと」

えしょぐ [eʃogü] 移植。[続 41]

【例】 トマトも、そろそろ えしょぐしても えくれあ おっきぐなたな
「トマトも、そろそろ移植してもいいくらい大きくなったな」

えしょぐべら [eʃogübɛra] 移植べら。[続 41]

【例】 なす ゆえっさげあ、こやがら えしょぐべら もて きてくんねあが
「茄子を植えるから、小屋から移植べらを持ってきてくれないか」

えず [eʃdzü] [形] 目にごみが入ってごろごろすること。[続 41]

【例】 まなぐさ ごみあ へあて えずはげあ、とてくんねあが
「目にごみが入ってごろごろするから、取ってくれないか」

えずぐる [eʃdzügürü] [動] いじくる。いじる。[及 123]

【例】 あんまり えずぐっど、ぼこれんぞは
「あまりいじくと、こわれしまうよ」

えずめる [eʃdzümerü] [下一他] 苛める。[同] えずる。[続 41]

【例】 ほんげあ いもうと えずめんなや むぞせあぐねあがや
「そんなに妹を苛めるなよ、可哀そうじゃないかい」

えずる [eʃdzürü] [四自] いじる。[続 41]

【例】 おどつつあ つぐえ えずんなよ であずだ おのあ へあつたはげあな
「お父さんの机をいじるなよ、大事なものが入っているからな」

えずわる [eʃdzüwarü] [ナ名ノ] 意地悪。[続 42]

【例】 ともだずさ ほんた えずわる すねあで、ながえぐ あすべよ
「友達にそんな意地悪をしないで、仲よく遊びなさいよ」

えそがす [eʃoŋasü] [形] 忙しい。[及 123]

【例】 えそがすそん して どさ えぐ だごだや
「忙しそうにして、何所へ行くところなんです」

えそがす 忙しい。[及 21]

【例】 こんごご めっぼ えそがす おんだ
「このところめっぼう忙しいものだ」

えそがへる [eʃoŋaheɾü] [下一他] 急がせる。[続 42]

【例】 えそがへるよだども、えま おすなだはげあ すぐ もて きてころ
「急がせるようだが、今欲しいのだから、直ぐ持ってきてくれ」

えそぐ [eʃoŋü] [四他自] 急ぐ。[続 42]

【例】 ばばな ありげねあはげあ、ほんげあ えそぐど かつで ありげねあ
「お婆さんはね、歩けないないから、そんなに急ぐと、追いついて歩けないよ」

えだはれあ [eˈdahare] 枝払い。枝打ち。枝伐り。杉の立木の枝や伐倒木の枝を伐り落すこと。

【及 69】

【例】 木 きたら、まづ えだはれあ する おんだ
「木を伐り倒したら、まづ、枝払いをするもんだよ」

えちやつぐ [eˈtʃatsüɡü] 【四自】 いちやつぐ。[続 42]

【例】 えまの わげあ おのあ、しとめあも かまねあで えちやつぐ おんだ
「今の若い者は、人前もかまわないでいちやつぐもんだね」

えちやもん [eˈtʃamon] いちやもん。[続 42]

【例】 ないだどて、おれあどさ えちやもん つけねあんねあなや
「なんだって、俺にいちやもんをつけないといけないんだよ」

えっか 【連語】 何日。[及 123]

【例】 今日あ、えっかだけ
「今日は、何日だつけ」

えっか [ekka] 何日。[続 42]

【例】 こから きしゃで ○○まで えぐど えっか かがる おんだべ
「ここから、汽車で○○まで行くと、何日かかるものだろう」

えっかげん [ekkaŋen] 【連語】 いい加減。[同] えっくれあかげん。えっくれあ。[続 42]

【例】 つあつあ さげ のむなも ええども、えっかげん して やめだら えべ
「お父さん、酒を飲むのもいいが、いい加減にして止めたらいだろう」

えっかだ [ekkada] 【副】 何時も。始終。[続 42]

【例】 まずまず、えっかだ もらてばりいで おげあしも しねあでなおす
「まあまあ、何時も貰ってばかりいて、お返しもしませんで、ねえ」

えっくれあ [ekküre] 適当。大概。[及 123]

【例 1】 えっくれあで えはげあ わげで やれ
「適当でいいから、分けてあげなさい」

【例 2】 えっくれあで えはげあ めがだ なんぼくれあ あんべ
「大概でいいんだが、目方はどれくらいあるだろう」

【例 3】 これだば えっくれあ あるな
「これなら相当あるね」

えっくん 【副】 よく。ようく。[同] ええぐ。[及 123]

【例】 えっくん お礼 ゆてくであ
「ようくお礼をいって下さい」

えっけ [ekke] 親類。[続 42]

【例】 おれあ えあ ○○さん えどあ つっけあ えっけだなおす

「私のうちは、〇〇さんのうちとは、近い親類なんですのよ」

えつける [ɛ̃tsükɛ̃rũ] [下一自] いじける。[続 43]

【例】 ないだ、ほんだ ごどで えつけでねあで、げんき だして がっこさ えげ
「なんだい、そんな事でいじけていないで、元気を出して学校に行きなさい」

えっけん [ɛkkɛ̃n] 一軒。「一軒」は家一戸である。[続 43]

【例 1】 にげん

「二軒」

【例 2】 さんげん

「三軒」

【例 3】 よんけん

「四軒」

【例 4】 ごげん

「五軒」

えっけん [ɛkkɛ̃n] 一間。「一間」は、6 尺（約 1、82m）である。[続 43]

【例 1】 にげん

「二間」

【例 2】 さんげん

「三間」

【例 3】 よんけん

「四間」

【例 4】 ごげん

「五間」

えっけんや [ɛkkɛ̃nja] 一軒屋。[続 43]

【例】 〇〇さん えだば、むらはぞれの えっけんやだはげあ、すぐ わがりあす
「〇〇さんの家なら、村外れの一軒屋だから、直ぐ分ります」

えっこ [ɛ̃tsũko] いずめ。幼児を入れておく籠。[続 43]

【例】 がが きたぞ、ないだ ねあっだながは、えっこさばり へでむぞせあがったな
「お母さんが来たよ、なんだ泣いているのかい、いずめにばかり入れて、可哀そうだったね」

えっこ [副] 一向。[及 123]

【例】 ほんた ごど えっこ すらねあな

「そんなことは、一向知らないね」

えっこ [副] いっそ。[及 123]

【例】 じゃまだはげあ えっこの ごど この 木、伐てしまおうべは
「邪魔だから、いつそのこと、この木はもう伐てしまおうよ」

えっこぐ [ɛkkogũ] [ダナ] いっこく。[続 43]

【例】 おれあ えの ずさまだば えっこぐで、ゆいだしたら きがねあ しとだ
「うちのお爺さんならいっこぐで、いい出したらきかない人だよ」

えっしょ [eʃʃo] 一緒。[続 43]

【例】 ○○の ずさまの えっしゅぎさ、えっしょん つで えてころ
「○○のお爺さんの一週忌に、一緒に連れて行って下さい」

えっしょー [eʃʃo:] 一生。[続 43]

【例】 しとの えっしょーの うずにあ さまざまの ごどあ ある おんだな
「人の一生のうちには、さまざのことがあるものだね」

えっしょくた [eʃʃokūta] 一緒くた。[続 43]

【例】 みそも くそも えっしょくたん したて だめだべな
「あれもこれも一緒くたにしたって駄目じゃないか」

えっしょげあ [eʃʃoŋe] [名] 一升買い。貧困者が毎日僅かづつ米を買うこと。[及 124]

【例】 むがすあ びんぼで えっしょげあ した しとも いであつたあだ
「昔は、貧乏で一升買いたした人もおつたんだよ」

えっしょけめ [eʃʃokeme] 一生懸命。[続 43]

【例】 この あつ ずぎ えぐ えっしょけめ はだらぎあすこどなおす
「この暑い時、よく一生懸命働きますわね」

えっしょます [eʃʃomasü] 一升枧。[続 44]

【例】 えまだば、こめどが まめなの はがらずぎ、えっしょますなの つかわねあなは
「今なら、米とか豆なんかを量る時、一升枧なんかもう使わないな」

えっせあー [eʃʃe:] 一切。[同] いっせあ。[続 44]

【例 1】 えの ごどあ えっせあ よめさ まがへだは
「家のことは、一切もう嫁に任せてしまったよ」

【例 2】 おれなのあ えっせあ もて こねあでころな
「お礼なんかは、一切持って来ないで下さいね」

えつたがり 意地っ張り。強情っ張り。[及 21]

【例】 この わらすあ、誰に 似だんだが、えつたがり
「この子は誰に似たのか、意地っ張りで」

えつたがり [eʃʃütagarī] 意地っ張り。[同] えっぱり。[続 44]

【例】 まず、この わらすだば、えつたがりだ だれん にだ おんだんだが
「まあ、この子ったら、意地っ張りだ、誰に似たものなのか」

えっちょ [名] かたちんば。[同] びっこ。びっこたっこ。[及 124]

【例】 ほら、はぎおのあ えっちょだぞ
「ほら、履物が片ちんばだよ」

えっちょづげる [ɛttʃodzügerü] [動] 纏める。一ヶ所にまとめる。片寄せる。[及 124]

【例】 はぎおの ちらがして おがねあで えっちょづげで おげ
「履物を散らさないで、片寄せておきなさい」

えっちょね [名] 体側を下にして寝ること。[及 124]

【例】 えっちょね しねあで ちゃんと 寝ろよ
「体側を下にしないで、きちんと寝なさい」

えっちょめあ [ɛttʃome] 一人前。[続 44]

【例】 おれあえんなも ようやぐ えっちょめあなて はだらぎん ではった
「うちのも漸く一人前になって、働きに出ています」

えってあ [副] いったい。[及 124]

【例】 えってあ これあ なんず したあだ
「いったい、これはどうしたんだ」

えってあーじえんてあー [ɛtte:dʒente:] [副] 一体全体。[続 44]

【例】 えってあーじえんてあー なんて いう ごど してくっだ おんだ
「一体全体なんということをしてくれたんだい」

えっばえ [ɛppae] [副] いっぱい。沢山。[同] えっぺあ。へえほであ。[及 21]

【例】 栗 はぎごさ えっばえ ひろて 来た
「栗をはげごにいっぱい拾って来ました」

えっばす [ɛppasü] [副] 一端。[続 44]

【例】 けっつの あおみも とんねあ かんめあして、えっばす おどなきどりだ おんだ
「尻の青味も取れないくせして、一端大人気取りなものだ」

えっばだ [ɛppada] [副] もつばら。[及 124]

【例】 おれあ えっばだ 炭やぎだ
「私は、もつばら炭焼きだよ」

えっばん [ɛppan] 一般。[続 44]

【例】 つかごろあ すごどあ あっど めで、えっばんに でかへぎ えがねあな
「近頃は仕事があるとみえて、一般に出稼に行かないね」

えっぴず [ɛppidzü] 一筆。[続 44]

【例】 こういう ごどあ えっぴず けあで もらうど あどくされあ のごらねあ おんだ
「こういうことは、一筆書いてもらうと、後腐れが残らないものだよ」

えっぶぐ [ɛppügü] 一服。ひと休み。[続 44]

【例 1】 えっしゆぎ

「一週忌」

【例 2】 えっしよ

「一升」

【例 3】 えっちよ

「一丁」

【例 4】 えっぱ

「一羽。一把」

【例 5】 えっぱず

「一発」

【例 6】 えっぴぎ

「一匹」

【例 7】 えっぺん

「一遍」

えっぺあ [eppe] [副] 沢山。[及 124]

【例】 栗 えっぺあ 拾ろて 来た

「栗を沢山拾って来た」

えっぺあ [eppe] [名] 一杯。[及 124]

【例】 えっぺあ ので えぐべ

「一杯飲んで行こうよ」

えっぺあみし [名] 一杯飯。葬式の日に仏前に供える飯。へらで、一回でよそって、二回三回とよそわないので、この名がある。[及 124]

えっぼ [eppo] 一方。[続 45]

【例】 えげんあ えっぼがらばり きがねあで みんなの えげんも きぐ おんだ

「意見は一方からばかり聞かないで、皆の意見も聞くものだよ」

えっぼんぎ [epponji] 一本気。[続 45]

【例】 おれあ えの つあつあだば えっぼんぎだ しとで、おらなの ゆたて きがねあ

「うちのお父さんなら一本気な人で、私達なんかいってもきかないよ」

えてあー [ete:] 得体。[続 45]

【例】 えてあーの すんねあ おのあ きた ずぎあ げんかん あげんなよ

「得体の知れない者が来た時は、玄関を聞けるなよ」

えど [名] 井戸。[及 280]

【例】 こんだ 水道だはげあ えどあ いらねあは

「今度は、水道だから、もう井戸はいらないね」

えど 井戸。[及 47]

【例】 この えどあ ふっけあはげあ つであ 水あ 出んなよ

「この井戸は深いから、冷たい水が出るんだよ」

えねあえねあばあ [連語] [幼児語] いない いないばあ。[及 124]

えねご せつ。わきの下や股関節の内側に出る出来もの。[同] ねぎぼ。ねごぼ。[及 13]

【例】 わぎの 下さ えねごあ 出で 手 えごがさんねあ
「わきの下にせつが出て、手を動かせないんだ」

えのしたづ [連語] うちの人達。お宅の人達。[及 2]

【例 1】 えの したづさ お土産でも かて えぐが
「うちの人達にお土産でも買っていこうか」

【例 2】 おれあ えさ 来てるて、えの したづさ ゆて きたあだがや
「私の家に来ているって、お宅の人達にいつ来たのかい」

えのめあ [名] 外。おもて。家の前。[及 124]

【例】 天気あ ええはげあ えのめあで あすべよ
「天気がいいから、おもてで遊びなさいよ」

えば [名] 餌。家畜の飼糧や釣りの餌をいう。[及 124]

【例】 雑魚釣りの えばだば これあえ
「雑魚釣りの餌なら、これがいいよ」

えばくせあ [ɛbakũsɛ] 小便くさい。特に寝小便の匂いをいう。[及 22]

【例】 えばくせあ ごど、まだ たっだがは
「小便くさいこと、またもらしてしまったのかい」

えばる [動] 威張る。[及 124]

【例】 あれだば すぐ えばる しとだ
「あいつなら、すぐ威張る人だよ」

えびぎ [ɛbigi] 軒。[続 45]

【例】 こにやまだ、めっぼ えびぎ かぐ おんだな、すこす のみすぎだな
「今夜は、滅法軒をかくもんだな、少し飲み過ぎたな」

えびづ [名] 歪。[及 124]

【例】 この 皿 えびづだな
「この皿は歪だな」

えびりだす [ɛbiridastũ] [四他] いびり出す。[続 45]

【例】 あどかが へんかかの こ にぐえどて えびりだしたどは
「後妻が、先妻の子を憎いといって、いびり出してしまったそうだ」

えびる [動] いびる。いじめる。[及 125]

【例】 あんげあ 嫁 えびらねあたて えべな
「あんなに嫁をいびらなくともいいだろうにね」

えぶくせあ [ɛbũkũsɛ] いぶくさい。煙の匂い。物の焼ける匂い。[及 22]

【例】 えぶくせあな、さがな やげっだんねあが
「いぶくさいな、魚が焼けているんじゃないか」

えぶす [ɛbūsü] [四他] 燻す。[続 45]

【例】 ほんげあ えぶすなや、これだば けぶてあくて いらんねあぜあ
「そんなにいぶすなよ、これなら、煙くていられないよ」

えぶる [動] いぶる。煙る。[及 125]

【例】 近頃あ 田圃で わら えぶす おんで 困るな
「近頃は、田圃でわらをいぶすもんで、困るな」

えへあ [ɛɸɛ] 位牌。[及 47]

【例】 おでらさも えへあ たのまねあんねあな
「お寺にも位牌をたのんでこないといけないな」

えへあたる [ɛɸɛtagarü] [動] からかう。[及 125]

【例】 やだ ごど しとんどさ えへあたがて
「いやだわ、人をからかって」

えへあづれあ [ɛɸɛdzüre] [名] おべつか。お世辞。[及 125]

【例】 みろ えあづあ まだ えへあづれあ こえっだぜあは
「みろよ、あいつあ、またお世辞をいってるよ」

えへあもづ [ɛɸ(ɸ?)ɛmodzü] 位牌持ち。葬式の時位牌を持つ人。[及 2]

【例】 えへあもづあ、ほごの えの 旦那が 長男な おんだ
「位牌持ちというのは、その家の旦那が長男なものだよ」

えべす [ɛɸɛsü] [名] 恵比寿。[及 125]

【例】 えべすさまで てあ つた 神さまだべ
「恵比寿さまで、鯛を釣った神さまなんだろう」

えへめあり [ɛɸɛmeri] [名] 伊勢参り。[及 125]

【例】 いづどあ えへめあり すねあんねあ おんだ
「一度は、伊勢参りをしないとけないものだよ」

えへる [ɛɸɛrü] 反発する。反発してわざと人の嫌がることをする。[続 45]

【例】 この やろ えへで ろぐだ ごど しあがらねあ
「この野郎、反発してろくなことをしやがらない」

えぼ^{いぼ} [及 14]

【例】 えぼなの くえすっごとあ ねあ
「疣なんか気にすることはないよ」

えぼず [ɛboⁿdzü] 疣痔。[続 45]

【例】 えぼずあ ではて、ありぐど いであはげあ えしやさ えて くる

「疣痔が出て、歩くと痛いから、医者に行ってくるよ」

えぼむす [ɛbomüsü] かまきり。[同] えんべあぼつ。えんべあぼつ。[続 45]

えま [名] 今。[及 125]

【例】 おえ、えま えぐ

「はい、今行きます」

えまがだ [ɛmaɟada] 今方。今し方。[同] えますがだ。[続 46]

【例】 ○○さんだば えまがだ えさ けあたは

「○○さんなら、今方家へ帰ったよ」

えまごろ [名] 今頃。[及 125]

【例】 えまごろ 誰あ 来たあだべ

「今頃、誰が来たんだろう」

えまさら [名] 今更。[及 125]

【例】 くえる、てゆてがら、えまさら よごへずあ ねあべ

「くれる、といてから、今更よこせとは、ないだろう」

えましがだ [ɛmasiɟada] [名] 今し方。ほんの少し前。[及 125]

【例】 おれも えましがだ 来たばんだ

「私も今し方来たばかりだよ」

この語は、「えまがだしめあん」、「えまがた」などとも使っている。

えまずぶん [名] 今時分。今頃。[及 125]

【例】 えまずぶん ないしん 来た おんだべ

「今時分、何しに来たもんだろう」

えまだに [副] 未だに。[及 125]

【例】 えあづあ えまだに 借金 払うずあねあ

「あいつは未だに借金を払おうとしないよ」

えまどぎ [ɛmaⁿdogi] 今時。[続 46]

【例 1】 えまどぎ ほんた ふるえ ごど ゆたて だれも ほんき しねあべ

「今時そんな古いことをいったって、誰も本気にしないだろうよ」

【例 2】 えまどぎ きたて、かいなの おわたんだはげあ

「今時来たって、会なんか終ってしまったんだから」

えまにも [ɛmanimo] [連語] 今にも。[続 46]

【例】 ないした おんだや、えまにも なぎそだ つらして

「どうしたんだい、今にも泣きそうな顔をして」

えまふ [ɛmaɸü] 今風。[続 46]

【例】 えの たでがだも えまふなて、むらも かわて きたは

「家の建て方も今風になって、村も、もう変って来たね」

えまわのきわ [ɛmawanokiwa] 今の際。[続 46]

【例】 ずさま えまわのきわん ゆいのごした ごどあ まもらねあんねあな
「お爺さんが、今の際に言い残したことは守らないといけないな」

えまん [ɛman] [副] 今に。[続 46]

【例】 そらもよあ おがすぐ なて きたはげあ えまん しとあめ くんぞ
「空模様がおかしくなってきたから、今に一雨くるよ」

えも [ɛmo] [副] もう。この語は、分量の表現を伴って、この上なお、更に多くななどの場合だけに使う。[同] えま。[続 46]

【例 1】 えもすこす
「もう少し」

【例 2】 えもしとつつ
「もう一つ」

【例 3】 えもしとえあ
「もう一寸」

えも [ɛmo] 芋。[続 46]

【例 1】 さずまえも
「さつまいも」

【例 2】 にんどえも
「ジャガイモ」

【例 3】 えものご
「里芋」

【例 4】 やまのえも
「山いも」

えもがら やつふさ（里芋の類）の茎。[及 37]

【例】 こどしあ おめあ えであ、えもがら とたがや
「今年はお宅では、やつふさの茎を採りましたか」
やつふさの茎を乾燥したものを「えもがらぼす」といつている。

えもず [ɛmodzū] 家持ち。[続 46]

【例】 ○○さんも こんだ とうきょうで えもず なたど
「○○さんも、今度は、東京で家持ちになったそうだ」

えもめえげつ [ɛmome:ɲetsū] [名] 芋名月。旧八月十五日の夜、さつまいもをお月さまに供える行事をいう。[及 125]

えもり [ɛmori] いもり。[続 47]

【例】 えもりだば、はら あげあべす、へなが くらくて やだ いぎおんだな

「いもりなら、腹は赤いだろうし、背中は黒くて嫌な生き物だな」

えりみず [erimi'dzũ] 入り水。流しに入る流れ水。[続 47]

【例】 おれあ えの えりみずあ うらの すずがら あがって くんなだ
「うちの入り水は、裏の泉から流れてくるんだ」

～える [~erũ] [助動] れる。[続 47]

【例 1】 かね ださえる

「金を出される」

【例 2】 ががん しなえる

「お母さんに死なれる」

【例 3】 て きらえる

「手を切られる」

【例 4】 かね とらえる

「金をとられる」

【例 5】 ほの さげあ のまえる

「その酒は飲まれる」

える [動] 居る。[及 125]

【例】 えるべや さきだ へあたばんだ おん
「居るだろうよ、さつき入ったばかりなもの」

える [動] 居る。[及 123]

【例】 ○○さん えだが
「○○さん、いるかい」

この語には、「えだあだーいたんだ」、「えっけーいたっけ」などの使い方の語がある。

えれあ [erɛ] [名] 偉い。[及 126]

【例】 えれあ おんだ、あの はだけ、しとりで ほたあだど
「偉いもんだ、あの畑を一人で堀ったんだそうだよ」

えれあさんだづ [名] 偉い人達。[及 126]

【例】 がっこの 落成すぎさ えれあさんだづあ えっべあ くっど
「学校の落成式に、偉い人達が沢山来るそうだよ」

えれおの [erɛono] 入れ物。[続 47]

【例】 ささぎ とて くっさげあ えれおの もて きてころ
「ささげを取るから、入れ物を持って来てくれ」

えれがわる [erɛgawarũ] [四自] 入れ替る。[続 47]

【例】 こんだ いずねんへの へんへあ にねんへの へんへど えれがわっど
「今度、一年生の先生が、二年生の先生と入れ替るそうだ」

えれぎれあ [eɾeɡiɾe] 好き嫌い。選り好み。[続 47]

【例】 こんだ がっこさへ あんなだはげあ、えれぎれあ しねあで、ないでも けよ
「今度は、学校に入るんだから、好き嫌いをしないで、何でも食べなさいよ」

えれぐず [eɾeɡüdzü] 入口。[同] とのぐづ。へありくづ。[続 47]

【例】 さみはげあ えれぐずの と たでで こえよ
「寒いから、入口の戸を締めてきなさいよ」

えれげある [eɾeɡerü] [下一他] 入れ替える。[続 47]

【例】 ししょだす したた あおずげの みずあ、とぎどぎ えれげあるよ
「塩出しをしている山菜の漬物の水は、時々入れ替えなさいよ」

えれば [eɾeba] 入歯。[続 47]

【例】 おめあまだ ええ ごどな えればなの、まだ さっぱり ねあんねあがや
「あなたはいいね、入歯なんか、まださっぱりないじゃないの」

えれめ [eɾeme] 入れ目。義眼。[続 48]

【例】 ○○さんは、ひだりの め つぶして、えま えれめ したたなど
「○○さんは、左の目を潰して、今入れ目をしているんだそうだ」

えろっぽえ 色っぽい。[及 22]

【例】 あの 娘も 年頃だな、急に えろっぽぐ なた おん
「あの娘も年頃だね、急に色っぽくなったもの」

えんが [eɾŋa] [名] 因果。[及 126]

【例】 ないの えんがだが びょうぎばり して
「何の因果なのか、病気ばかりして」

この語は、「えんがん」ともいい、悪態語に「えんがんとがり一悪因果のかたまり野郎。(ともでも訳したらいいか)」。という語がある

えんきよ [eɾŋkjo] 隠居。[続 48]

【例】 おれも まだ このとおり げんきだはげあ えんきよなの してらんねあ
「私もまだこの通り元気だから、隠居なんかしてられないよ」

えんづり [形] 山ほど。背負い切れない程沢山。[及 126]

【例】 えんづり しとへ しょて 来たけ
「背負い切れない程沢山、ひと背負で背負って来たつけ」

えんなが [eɾŋnaga] [名] 家の中。[及 126]

【例】 雨あ ふて きたはげあ えん ながさへ あれは
「雨が降ってきたから、もう家の中に入りなさい」

えんぶり ならし。代かき後、田の面をならす器具。及び炭がまから、炭をさらい出す鉄製の器具。

[及 62]

えんべあぼっつ [ɛ̃nbɛbottsu̥] かまきり。[同] えんべあぼつ。[及 83]

【例】 えんべあぼっつの 巢 なめっど、よんだれ たらさねあど
「かまきりの卵のうをなめると、涎をたらさなくなるそうだ」

えんめあ [ɛ̃nme] [副] 後程。あとで。後刻。[同] えんめあん。[及・続 126・48]

【例 1】 ○○さんは いねあなが、んであ えんめあ まだ きてみる
「○○さんはいないのか、それじゃ後程また来てみます」

【例 2】 えんめあ えぐさげあな
「後ほど行きますからね」

— お —

おいげあす [oiɡesü] [四他] 追い返す。[続 48]

【例】 なんべん きたて、だめだ おのあ だめだはげあ、おいげあしてやれ
「何遍来たって、駄目なものは駄目だから、追い返してやれよ」

おえ [感] はい。おい。[及 126]

【例 1】 おえ えま えぎあす

「はい、今行きます」

【例 2】 おえおえ、おめあ どさ えぐなだ

「おいおい、お前何所へ行くんだ」

おえ [oe] [感] はい。[続 50]

【例 1】 おえ えま えぐ

「はい、今行くよ」

【例 2】 おえ わがた

「はい分りました」

おえあ [oe] [名] お相伴。[及 126]

【例】 おぎやくさまの おえあ してころ

「お客さまのお相伴をして下さい」

おえぎわ [oeɟiwa] 生え際。[続 50]

【例】 うすろの おえぎわ、しとりして すらんねあはげあ、すてくんねあが

「後の生え際は、一人で剃れないから、剃ってくれないか」

おえこ 甥。[及 3]

【例】 これあ おれの おえこだ

「これは、私の甥です」

おえねあ [oeɳe] [連語] 負えない。どうしようもない。手に余る。厄介な。[及 126]

【例 1】 おっきぐなて、おらだ 手にあ おえねあは

「大きくなって、我我の手には負えなくなってしまったよ」

【例 2】 縁談の こどわりなて、おえねあ ごど たのまつだ おんだ

「縁談の断りなんて、厄介なことを頼まれたもんだ」

おえも [oɛmo] とろろ芋。[同] とろろえも。[続 51]

【例】 おえも ほて きたはげあ、ばんげあ とろろかけままでも くうが
「とろろ芋を掘って来たから、今夜はとろろご飯でも食うか」

おえる [動] 生える。[及 69]

【例】 この たねあ いづごろ おえで くんべ
「この種は何時頃生えてくるんだろう」

おえる [動] 生える。[及 83]

【例】 くさずあ むしても むしても おえる おんだな
「草って、むしってもむしっても生えるもんだな」

おおあご [名] 大股。歩巾の大きいこと。[及 127]

【例】 おおあごだ おんで、とでも かつがんねあ
「大股なもので、とても追いつけないよ」

おーあへ [o:ahe] 大汗。[続 48]

【例】 なんぼが あつがったんだが、おーあへ けあて けあて きたけ
「どんなに暑つかっただろうに、大汗をかいて帰って来たっけ」

おーあり [o:ari] 大あり。[続 48]

【例】 ほれあ おーありだよ、げんに おれあ みで きたんだはげあ
「それは大ありだよ、現に私が見て来たんだから」

おおいぎ [o:igi] [名] 得意。大得意。[及 127]

【例】 いっと なたどて おおいぎだけ
「一等になった、というので、得意になっていたっけ」

おーえ [o:e] [形] 多い。[続 48]

【例】 こどすあ ゆぎあ おーえ おんで、ゆぎの もてえぎばしょあ ねあでは
「今年は雪が多いもんで、雪の持って行き場所がもうないよ」

おーがじえ [o:ga'dʒe] 大風。[続 49]

【例】 いずであったが、おーがじえ ふえて、きの えだ そら とでありぐ おんだけな
「何時だったか、大風が吹いて、木の枝が空を飛んであるくものだったっけな」

おおがめ [o:game] 狼。[及 83]

【例】 ずほ こぐど おおがめあ くんぞ
「うそをつくと、狼が来るよ」

おおぎょうさま [o:njo:sama] [名] 行者。おなのが（旧十二月七日）に村人の中から、行者を務める人が出て、精進潔斎し、村人礼拝のうちに、神仏の掛軸に向い、祭詞を唱え祭事を行なうが、この行事を「さんげさんげ」と呼び、祭事を行う人を「おおぎょうさま」と呼んでいる。[及 127]

おーぎん [o:gin] [副] 大きに。[続 49]

【例】 こねあだは おいそがす どご さずぎさ てずたて もらて おーぎん ありがどさんで
した

「この間はお忙しいところを、田植えに手伝ってもらって、大きに有難うさんでした」

おーくれあ [o:küre] 大柄。[続 49]

【例】 ああ、〇〇さんが、あの しとだば おーくれあだ しとだはげあ、すぐ わがる

「ああ、〇〇さんか、あの人なら大柄な人だから、直ぐ分るよ」

おーぐれあ [o:ɲüre] 大食い。[続 49]

【例】 〇〇だば おーぐれあで まま ちゃわんで ごろっぺあも くうべ

「〇〇なら大食い、ご飯を茶碗で、6杯も食うだろう」

おーごど [o:ɲodo] [ナ名ノ] 大変。[続 49]

【例】 ほれあ おーごどだ、まず はやぐ えしやさ つで えげ

「それは大変だ、まず、早く医者へ連れて行きなさい」

おおざれあ [o:dzare] 器具の一種。炭がまの前にえんぶりで出した炭を空気にさらし（あらし
をくれ）た炭を、火を消す所（すべあのある所）まで引張る木製器具をいう。[及 62]

おーじえー [o:ˈdʒe:] 大勢。[続 49]

【例】 すごどあ おーじえー、んめあ おのあ こじえー、ていう こどばあるな

「仕事は大勢、美味しい物は小勢という言葉があるね」

おおじえみ [o:dʒemi] あぶらぜみ。[同] おおじえめ。[及 83]

【例】 おおじえみあ なぐよん なたおん、あつ わげだ

「あぶらぜみが鳴くようになったもの、暑いわけだよ」

おーじよ [o:ˈdʒo] [名／ス自] 往生。[続 49]

【例】 〇〇の ばさま ねぶるよん えたどは、ええ おーじよじゅんだな

「〇〇のお婆さんは、眠るように逝ったそうだよ、いい往生というものだな」

おーじよーずぐめ [o:ˈdʒo:ˈdzügüme] 無理強い。[続 49]

【例】 ないだて ひでえ おんだ、おーじよーずぐめで しょうだぐさへらっだ

「なんと酷いもんだね、無理強いに承諾させられたよ」

おおっくれあ [o:kküre] [名] 大柄。体格の大きいこと。[及 127]

【例】 隣の ずさまだば おおっくれあだ ずさまだ

「隣のお爺さんは、大柄なお爺さんだ」

おーてあー [o:te:] [名／ス自] 応対。[続 49]

【例】 どうも おれあ くずべだだはげあ、おめあ おーてあーん ではてくっちゃ

「どうも私は口下手だから、君が応対に出てくれよ」

おおでん [名] 公然。[及 127]

【例】 ○○だば おおでんで しのの あぐであ つで ありぐ おんだ
「○○なら、公然と人の悪口をいって歩くもんだ」

おーねあ [o:nɛ] 大苗。これは、稲の苗で、田植後、余った苗を植える時より本数を多くして、田のほとりに植えるが、この苗を大苗とっている。[続 49]

おーばがおの [o:bagaono] 大馬鹿者。[続 50]

【例】 この おーばがおのあ、まだ ほんた ごど したがは
「この大馬鹿者が、またそんなことをしてしまったのか」

おおふ [形] 豊か。ゆとりのあるさま。物惜しみしないさま。[及 127]

【例 1】 あそごの えだば おおふだ くらすだ おんだ
「あそこの家なら、豊かな暮しなもんだ」

【例 2】 ○○だば おおふだ しとだ
「○○さんなら、物惜しみしない人だ」

おーぶぎ [o:bügi] 大吹雪。[続 50]

【例】 きょうも おーぶぎだであ これだば やまさ えたて すごどん ならねあな
「今日も大吹雪だね、これなら山へ行ったら仕事にならないな」

おーぶるすぎ [o:bürüsügi] 大風呂敷。[続 50]

【例】 まだ、○○の おーぶるすぎあ はずまたぞ
「また、○○の大風呂敷が始まったよ」

おおほね 背骨。背椎骨。[及 9]

【例】 ねまた づぎも へなが 伸ばしてねあど おおほねあ 曲がてしまうど
「据った時も、背中を伸ばしていないと、背骨が曲がってしまうそうだよ」

おおまぐれあ [o:magüre] [名] 大ぐらい。大まくらい。[及 127]

【例】 これあまだ おおまぐれあだ ごど
「こいつは大まくらいだね」

おーみず [o:mĩ^mdzü] 大水。洪水。[続 50]

【例】 この ふりぶりだど、まだ おーみずん なるな、こまたごったは
「この降りぶりだと、また大水になるな、困ったことだね」

おおめあ [o:mɛ] 大繭。蛹が二匹入っている大きなまゆ。[及 69]

【例】 おおめあがらは、ねばす とるはんてねあな
「大まゆからは、真綿をとるしかないな」

おーめあっこ [o:mekko] 大繭。これは、蚕の蛹が一つの繭に二匹入っているもので、普通のまゆより大きく、糸がほぐれにくいので、普通は真綿に使っている。[同] おおめあ。[続 50]

おーゆぎ [o:jügi] 大雪。[続 50]

【例】 ことすあ おーゆぎで、ゆぎはれあしても、ゆぎの やりば ねあくれあだ

「今年は大雪で、雪かきをしても、雪のやり場がないくらいだよ」

おおゆび 親指。[及 9]

- 【例】 スキーの 廻転 づぎあ おおゆびさ 力 へる おんだ
「スキーの廻転の時は、親指に力を入れるものだよ」

おーれあ [o:re] 往来。[続 50]

- 【例 1】 こげあた やまん ながでも、ねんねん くるまの おーれあ よげん なるな
「こんな山の中でも、年年車の往来が多くなるね」
【例 2】 ○○ちゃん、おーれあで あすぶど、くるま おかねあぞ
「○○ちゃん、往来で遊ぶと、車が怖いよ」

おががり [oŋaŋari] [名] 雑費。家庭の諸経費。[及 127]

- 【例】 近頃あ おががりなのぼり かがて
「近頃は、諸経費なんかばかりかかって」

おかがる [okagarü] [四自] 寄り掛かる。[同] よかがる。[及・続 127・51]

- 【例 1】 ほんげあ おかがつど おもであはげあ おかがんなや
「そんなに寄り掛かると重いから、寄り掛かるなよ」
【例 2】 ほんげあ おかがんなや
「そんなに寄りかかるなよ」

おがけーひ [ogake:phi] 雑費。予定外支出。[同] おがぞーよ。[続 51]

- 【例】 こどすあ、しだ んまっだなて、おがけーひの かがる とすだな
「今年は、死んだの生れたのって、雑費の掛かる年だね」

おがごだつ [ogaŋodatsü] 行火を入れた炬燵。[及 47]

- 【例】 おがごだつて あんかん へだな いうなよ
「おがごだつて、行火を入れたのをいうんだよ」
この語は「おがごだつ」ともいい、普通こたつは「こだつ」といつている。

おがさねる [ogasanerü] 炬燵に入らないで、普通に寝る。これは、炬燵寝をしないで、普通に寝ることをいう。[続 51]

- 【例】 ばんげあ おれあ おがさねるは
「今夜は、私は炬燵に入らないで寝るよ」

おがしやれ [ogafare] [連語] どころか。[及 127]

- 【例】 千円あ おがしやれ 十円も くんねあけ
「千円どころか、十円もくれなかったよ」

おがす [oŋasü] [動] 育てる。大きくする。[及 127]

- 【例】 これ おがす づぎあ てあへんであった
「こいつを育てる時は、大変だったよ」

おがす [ogasü] お菓子。[及 37]

【例】 がが おがす ころ
「お母さん、お菓子を下さい」

おがす [ogasü] おかしい。不思議だ。あやしい。[及 22]

【例 1】 テレビの 漫才 みっだら おがすくて おがすくて
「テレビの漫才を見ていたら、おかしくて、おかしくて」
【例 2】 てずまて、種あ あんなだべども おがす ごど する おんだ
「手品は種があるのだろうが、不思議なことするもんだ」
【例 3】 そぶりの おがす おどごだ
「素振りのあやしい男だ」

この語は「おがしげあたーおかしな。あやしげな」。などとも使っている。

おがすらつぎ [ogasüratsügi] [名] 尾頭つき。[及・続 127・51]

【例 1】 きょうあ おとうさんの たんじょうびだはげあ おがすらつぎ つけんべな
「今日はお父さんの誕生日だから、尾頭つきを付けようね」
【例 2】 しょうがづだはげあ おがすらつぎ つけねあんねあな
「正月だから、お頭付きをつけないといけないな」

おがぞうよ [ogadzo:jo] [名] 支出。予定外支出。[及 128]

【例】 ほうずだ むがさりだて おがぞうよの かがる年だ
「法事だ、結婚式だと、予定外の支出のかかる年だね」

おがだづ [ogadadzü] 俄雨。しゅう雨。[及 101]

【例】 おがだづに 降らっで ずぶぬれん なたは
「俄雨にふられて、ずぶ濡れになってしまったよ」

おがだり [oɲadari] [名] 猥談。ろくでもない話。[及 128]

【例】 おがだりなのぼり してねあで まづ 飲め
「猥談なんかばかりしてないで、まあ飲めよ」

おがどつげあー [ogaⁿdotsünɟe:] [ナ名ノ] お門違い。[続 51]

【例】 ほんた ごど おれあどさ ゆて くるなて、おがどつげあーだべや
「そんなことを私にいつてくるなんて、お門違いだろうや」

おかねあ [okane] [形] おっかない。[続 51]

【例】 へびあ ではて きたじゅは おかねあ ごど、しっ、しっ
「蛇が出て来たよー、おっかないこと、しっ、しっ」

おかねあおかねあ [okaneokane] [副] こわごわ。おそるおそる。[続 51]

【例】 つりばすあ ゆれる おんで、おかねあおかねあ わだてあつたな
「吊橋が揺れるもので、こわごわ渡ったよ」

おかねあがる [okaneŋarü] [四白] 怖がる。[同] おっかねあがる。[続 51]

【例】 おれあまだ へび おかねあがんなよ
「私は蛇を怖がるんだよ」

おがのもづ [oganomodzü] [名] おがさま（何の神さまか不明）に供える餅。旧十二月二十七日か、二十八日に搗いた餅を、旧正月十一日に、おがさまに供え、後で男だけで食べる風習があった。[及 128]

おがめあー [ogame] お構い。[続 52]

【例】 へっかぐ きてくっだなさ なにも おがめあーしあへんで ぶじょほしあした
「析角来て下さったのに、何もお構いしませんで不調法しました」

おがりざがり [oŋari^mdzagari] [名] 成長期。[及 128]

【例】 えま おがりざがりだ おんだはげあ まづ えぐ くう おんだ
「今、生長期なものだから、まあ、よく食うもんだ」

おがりざがり [oŋari^mdzagari] 発育の最盛期。成長期。[続 52]

【例】 ○○ちゃんは、えま おがりざがりだ おん、えっぺあ くて はやぐ おっきぐなれ
「○○ちゃは、今成長期だから、沢山食べて、早く大きくなれよ」

おがる [oŋariü] [動] 大きくなる。生長する。勃起する。[及 128]

【例 1】 もと おがるよん こやす くんねあんねあな
「もっと大きくなるように、肥しをくれないといけないな」

【例 2】 わらすこあなも おがる おんだな
「子供のも勃起するもんだな」

おがんのこ [ogannoko] 観音講。[続 52]

【例】 あした おがんのこだ おん、ばさまだずあ あずばんべ
「明日は観音講だから、お婆さん達が集まるだろう」

おがんのさま [ogannosama] 観音さま。[続 52]

【例】 おがんのこあ はずまっさげあ まず おがんのさま おがで えぐべ
「観音講が始まるから、まず観音さまを拜んで行こう」

おぎ [ogi] [名] おき火。ほどの火。[及 128]

【例】 ほんげあ おぎ つづぐなや
「そんなにおき火を突っつくなよ」

おぎ [ogi] おき火。おき。ほどの火。[及 47]

【例】 こだっつさ おぎ へで おげよ
「炬燵におきを入れておきなさいよ」

おぎおの [ogiono] 置き物。[続 52]

【例】 きんず とて きたはげあ これ とごのまの おぎおのん すんべ

「雉をとって来たから、これを床の間の置き物にしよう」

おぎげある [ogigerüü] [下一他] 置き換える。[続 52]

【例】 ほごあ ひ あだらねあはげあ ゆえぎばず ひの あだっどさ おぎげある
「そこは陽が当たらないから、植え木鉢を陽の当たる所へ置き換えなさい」

おぎづげ [ogi^mdzüüge] 置き漬げ。長期間貯えておく漬げ物。[及 37]

【例】 おぎづげずあ すっぺあぐ しねあよん しねあんねあ おんだ
「置き漬げというものは、酸っぱくしないようにしないといけないもんだよ」

おぎどげ [ogi^mdoge] 置き時計。[続 52]

【例】 あした はえあぐ おぎっさげあ、まぐらもどさ おぎどげ おえて ねんべ
「明日は早く起きるから、枕元に置き時計を置いて寝よう」

おぎどご [ogi^mdogo] 置き所。[続 52]

【例】 ものあ ないでも、おぎどごさ きちんと おぐ おんだぞ
「物は何でも、置き所にきちんと置くものだよ」

おぎねあー [oɲine:] 補い。[続 52]

【例】 なすあ すこす かつだはげあ おぎねあの ねあ かて こねあんねあな
「茄子が少し枯れたから、補いの苗を買ってこないといけないな」

おぎんまへ [oginmahe] 置き熟ませ。これは、果物を熟す前に採ってきて置いて、あとで熟させることをいう。[続 53]

おぐ [ogüü] おくて。晩生種。[同] おぐで。[及 69]

【例】 おぐも めあで おくべ
「おくても蒔いておこう」

おぐびよーたがり [ogübjotagari] 臆病者。[続 53]

【例】 これだば ゆぐゆぐの おぐびよーたがりで、よんま べんじよさも えげねああだ
「こいつはよくよくの臆病者で、夜便所にも行けないんだ」

おぐふっけあ [ogüfūkke] [形] 奥深い。[続 53]

【例 1】 この ほらあな おぐふっけああだ
「この洞穴は、奥深いんだ」

【例 2】 あの しのの かんげあなの おぐふっけあ おんで おらなの わがらねあ
「あの人の考えなんか奥深いもので、俺達になんか分らないよ」

おぐりおの [ogüriono] 送り物。[続 53]

【例】 おおさかの あんつあどから、ないが おぐりおのあ とずだぞ
「大阪の兄さんから、何か送り物が届いたよ」

おぐりおの [ogüriono] 贈り物。[続 53]

【例】 ○○ちゃんの たんじょうびにあ おぐりおの なにあ えがべな

「○○ちゃんの誕生日には、贈り物は何がいいだろうな」

おけあ [oke] [幼児語] おっかない。こわい。この語は、幼児が、例えば包丁に触ったり、熱いものに触ろうとしたりした時に「め、おけあおけあだぞ＝め（子供の愛称）、こわいこわいだよ」という。[続 53]

おげあ [oge] おかゆ。粥。[同] おげあま。[及 37]

【例】 腹 いであごったら、あげあでも かへんだ
「腹が痛いのなら、粥でも食べさせなさい」

おげあーごぐるみ [oge:goŋürümü] お蚕ぐるみ。これは、絹物に包まれて、ぜいたくに暮らすことをいい、財産家に生れ、何不自由なく暮している者を「おげあごぐるみで暮せる」からいいものだ等と使った。[続 53]

おげあーし [oge:si] お返し。返礼。[続 53]

【例】 おちゅうげん もらたはげあ ないが おげあーし しねあんねあな
「お中元を貰ったから、何かお返しをしないといけないな」

おげあどり [oge:dori] ^{うちかけ} 襦袢。[及 55]

【例】 おげあどりで なんぼ する おんだべ、たげあべな
「うちかけて どれくらするもんだろう、高いだろうな」

おこぐる [動] こすりつける。[及 128]

【例】 漬 きおのさ おこぐる おのあ ねあべな
「漬を着物にこすりつける者はないじゃないか」

おごご [ogogo] おこうこ。おこうこう。漬物。[及 37]

【例】 かた おごごゆり おわえんな んめあな
「買ったおこうこより、うちのがうまいな」

おごさま [ogosama] 蚕。[同] とどこ。[及 69]

【例】 おめあ えでも おごさま おぐなが
「あなたの家でも、蚕を飼うんですか」

おごさまおぎ [ogosamaogi] 養蚕。[及 69]

【例】 おごさまおぎも らぐんねあ おんだな
「養蚕も、楽じゃないもんだな」

おごそ [ogoso] おこそずぎん。[及 55]

【例】 むがすあ おごそずおの かぶた おんだ
「昔はおこそずきんというものをかぶったものだよ」

おごねあ [ogone] [名] 行い。品行。[及 128]

【例】 わらしたづの おごねあも すづげで 決まる おんだ
「子供らの行ないも、しついで決まるもんだよ」

おざる [動] ござる。居る、参る、来る、などの敬語。[及 128]

【例 1】○○さんは ここに おざりあす

「○○さんは、ここに居られます」

【例 2】○○さんは、只今 ござると

「○○さんは、只今参られるそうです」

おされあー [osare:] おさらい。復習。[続 53]

【例】○○ちゃん、きょう がっこで ならてきた ごど おされあーしてみろよ

「○○ちゃん、今日学校で習ってきたことを、おさらいしてみなさいよ」

おし 欲しい。惜しい。[及 22]

【例 1】おらも あげあた きおの おしな

「私もあんな着物が欲しいな」

【例 2】おしごど したな もすこす 伸びっど ホームランであったのに

「惜しいことをしたな、もう少し伸びると、ホームランだったのに」

おしえあー [osie:] 押し合い。[続 53]

【例】おまずりん ずぎ おみごすあ おしえあーして おもへがったな

「お祭りの時、お神輿が押し合いして、面白かったな」

おしえる [oʃerü:] [動] 教える。[及 128]

【例】しらねあ どご へんへあ おへっど

「知らないところは、先生が教えるそうだ」

おじえんだで [oⁿdʒenⁿdade] お膳立て。[続 54]

【例】おじえんだであ でげだおん、あどあ ずっこうする ばんだべや

「お膳立ては出来たから、あとは実行するばかりだろうや」

おしたし [osj̄tasi] おひたし。ひたし物。[同] ひたしおの。[続 54]

【例】ばんげの おがずん なっばの おしたしでも つぐっが

「今夜のおかず、白菜のおひたしでも作ろうか」

おじゃつっぽ [odʒatsüppo] 茶筒。お茶の入れ物。[続 54]

【例】ないだて、おじゃつっぽ どさ やたべ、すまいわすっだであは

「まあ、茶筒を何処へやったろう、仕舞い忘れてしまったよ」

おじゃぶぎん [odʒabügîn] 茶布巾。[続 54]

【例】おじゃぶぎんずあ、きれんねあば だめだはげあ いっつも あらて おげよ

「お茶布巾というものは、綺麗でないといけないから、何時も洗っておきなさいよ」

おしよ [oʃo] 和尚。[同] あどさま。おすさん。あどさん。[続 54]

【例】ごごろでも、おしよさんどご むげあん えて きてくんねあが

「ご苦労でも、和尚さんを迎えに行ってきたりませんか」

おしょご [oʃogo] お焼香。[続 54]

【例】 きょうあ ○○さんの そうすぎだはげあ、おしょご えて こねあんねあな
「今日は○○さんの葬式だから、お焼香に行つてこないといけないな」

おしよる [動] 折る。[及 128]

【例】 おしよんなてゆたて おしよる おんだ おん
「折るな、といたつて、折るものだもの」

おしよれる [oʃoreŕü] [下一自] 折れる。[続 54]

【例】 ほの えだ ほそこえはげあ ほれさ あがつど おしよれんぞ
「その枝は細いから、それに上がると折れるよ」

おす [形] 欲しい。[及 129]

【例】 あげあたな おらも おすな
「あんなのを私も欲しいな」
また、この類の語に「ええだけ一欲しいだけ」がある。

おず [o^odzü] 弟。[及 3]

【例】 おずの ほあ 体あ 丈夫だ
「弟の方は体が丈夫なんですよ」

この語は「おどと」、「しゃで」、「しゃでこ」、「おんつあ」、「おんつあこ」とも使い、その卑語に「おずかす」、「ぼっけおず一末弟」などがある。

おすえれ [osüere] 押し入れ。[同] おすこみ。[続 54]

【例】 え つぐつすぎあ、なるたげ おすえれ えっぺあ こしえあだ ほあ えな
「家を造る時は、なるだけ押し入れを沢山作つた方がいいね」

おすかける [osükagerü] [下一自] 押し掛ける。[続 54]

【例】 おまずりだ おん、ともだずあ えっぺあ おすかげで くんべ
「お祭つたもの、友達が、沢山押し掛けて来るだろう」

おすがる [osünjarü] [四他] 欲しがる。[続 55]

【例】 この わらすあ しの もつた おのていうど おすがる おんだ
「この子は、人の持っているものというど、欲しがるもんだ」

おすがる [osünjarü] [四他] 惜しがる。[続 55]

【例】 えままで そだでだ べごだ おん、うっど なつど おすがんなも むりあ ねあな
「今まで育てた牛だもの、売るとなると、惜しがるのも無理はないな」

おずぎ [o^odzünj] [名] お辞儀。[及 129]

【例】 めんごえ ごど、○○ちゃん おずぎなの おべだなが
「可愛いね、○○ちゃんはお辞儀なんか覚えたのかい」

おずげ [odzüge] お汁。[及 37]

【例】 がが おすげ もてくんねあが

「お母さん、お汁を盛って下さい」

この語は「おする」とも使い、「おすげかげままーお汁かけご飯」、「おするかげままーお汁かけご飯」などの使い方がある。

おすげあす [osügesütü] [四他] 押し返す。[続 55]

【例】 へっかぐ もて えたば もらてらんねあて おすげあすなだぜあ

「折角持って行ったら、貰ってられない、とって押し返すんだよ」

おすげわん [odzügewan] お汁椀。[続 55]

【例】 おれあまだ そそだ おんだはげあ、けさ おすげわん しとつつ ぼこしたは

「私は粗相なものだから、今朝お汁椀を一つこわしてしまっただよ」

おすずげがます [osüdzügeḡamasü] [形] 押し付けがましい。[続 55]

【例】 みず えっぺあ とたはげあ、おすずげがますども もて きあした

「みずな（山菜）を沢山採ったので、押し付けがましいんですが持って来ました」

おすずげる [osüdzügerütü] [下一他] 押し付ける。[続 55]

【例】 いらねあて ゆたども、かえどて おすずげで えた おんだ

「いらぬ、とったんだが、買えとって、押し付けて行ったもんだ」

おすづり [odzütsürü] 落ち口。流し、田、水路などの落ち口。[続 55]

【例】 へげの おすづりさ ごみ つまて えがまて きたはげあ みで くる

「水路の落口にごみが詰まって、溢れてきたから、見てくるよ」

おすめあー [osüme:] おしまい。[続 55]

【例】 おもちや かてころどて、おすめあにあ ごがすんなだぜあ

「おもちやを買ってくれとって、おしまいには駄駄をごねるんだよ」

おすよへる [osüjoherütü] [下一他] 押し寄せる。[続 55]

【例】 いねの せいぐきに かんば おすよへるよであ すんべあだな

「稲の成育期に、寒波が押し寄せるようでは心配だな」

おすれ [名] 白粉。[同] おすれこ。おすろえ。[及 129]

【例】 おすれなの つけで どさ えぐ おんだべ

「白粉なんか付けて、何所へ行くもんだろう」

おすわげる [osüwagerütü] [下一他] 押し分ける。[続 56]

【例】 ○○の おまづりさ えたば、しと おすわげで えがねあんねあけ

「○○のお祭りに行ったら、人を押し分けて行かないといけなかったよ」

おせあ [ose] おかず。[及 38]

【例】 おせあばり くてねあて まま け

「おかずばかり食べてないで、ご飯を食べなさい」

おせあー [ose:] 押さえ。[続 56]

【例 1】つけおのの ふた おもすで おせあーで おげよ

「漬物のふたは、重石で押さえておけよ」

【例 2】わらしたずも おっきぐなっど おせあ きがねあはげあ、えまの うずん おへで おげ

「子供らも大きくなると、押さえが利かなくなるから、今のうちに教えておけよ」

おせあずげる [ose:dzügerü] [下一他] 押さえ付ける。[続 56]

【例 1】あんまり きがねあ おせあずげで しりでも ただげ

「余きかない、押さえ付けて、尻でも叩けよ」

【例 2】あだまごなしん おせあずげねあで、えっくん おへで おげ

「頭ごなしに押さえ付けしないで、よく教えておけよ」

おせあだず [oseⁿdadzü] 押さえ立ち。[続 56]

【例】おれあえの ○○ちゃんも、こんだ おせあだず するよん なたなよ

「うちの○○ちゃんも、今度は押さえ立ちをするようになったんですよ」

おせあと [osedo] [名] 神火。斎火。山神社の祭の火。旧十二月十五日と旧二月十五日に、山神社の前で、朴の木を立て、それにわら束を掛け、清めの火を焚くが、この火をいう。[及 129]**おせあぼげ** [oseboge] 雪囲いを押さえる横棒をいう。これは、雪囲いの茅やわらが落ちたり、倒れたりしないように押さえる棒である。[続 56]**おせある** [oserü] [動] 抑える。押える。[及 129]

【例】ほんげあ ぎつつぐ おせある おんでねあ

「そんなにきつく抑えるものじゃないよ」

おせっけあー [osekke:] [名/ダナ] お節介。[続 56]

【例】わらすで あんめあす、よげだ おせっけあー すねあで くんねあが

「子供であるまいし、余計なお節介はしないでくれないか」

おそえ 遅い。[及 22]

【例】今日あ まだ、おそえ ごど なに したた おんだべ

「今日は、遅いこと、なにをしているんだろう」

おそこそ [副] こそこそ。[及 129]

【例】はずがすがて おそこそ ねげで えたは

「恥しがって、こそこそ逃げて行ってしまったよ」

おそこそ [名] 粗相。粗末。[及 129]

【例】なに えそがす おんだが はだけ おそこそ ほて えてした

「何が忙しいのか、畑を粗相に堀って、行ってしまった」

おそこわらう [動] あぎ笑う。[及 129]

【例】すぎんねあ ごど しとんどご みで おそこわらいなの して

「嫌だね、人を見て、あざ笑いなんかして」

おそしらねあふり [名] 知らん振り。[及 129]

【例】 えあづあ おそしらねあふりして えてしまた
「あいつ、知らん振りして行ってしまったよ」

おそね [名] 短かい眠り。余り眠らないこと。[及 129]

【例】 ゆべな おそねしたば、まだ ねぶてあ
「夕べ余り眠らなかったの、まだ眠いよ」

おそね 半煮え。[及 38]

【例】 この ささぎあ おそねだな、かだくて かんねあ
「このささげは半煮えだな、固くて食えないよ」

おそねあ [osone] [名] お供え。鏡餅。[及 129]

【例】 神さまさ、おそねあ おげだが
「神さまに、お供えをあげたか」

おそぶえ [名] 口笛。[及 129]

【例】 おそぶえなの ふえて 来たな 誰だべ
「口笛なんかふいて来たのは誰だろう」

おそろす [osorosü] [形] 恐ろしい。[続 56]

【例】 かずぐれあ おそろす おのあ ねあな えの おのあ みな やげでしまう おん
「火事ぐらい恐ろしいものはないね、家の物がみんな焼けてしまうからな」

おだげあ [odaŋe] お互い。[及 129]

【例】 受験だ おん おだげあ がんばんべや
「受験だもの、お互いに頑張ろうよ」

おだげあーさま [odaŋe:sama] お互いさま。[続 56]

【例】 おらだ おだげあーさまん みずのみひやくしよだ おん たすけあて えぐべや
「俺達はお互さまに、水飲み百姓だもの、助け合って行こうや」

おだげねご [odagenego] 発情猫。発情している猫。[及 83]

【例】 おだげねごあ なぐ おんで うるせあくて
「発情猫がなくもんで、うるさくて」

おだげる [odagerü] [動] 発情する。特に猫の発情をいう。[同] さがりあつぐ。[及 83]

【例】 ねごずあ 二月ん なっど おだげる おんだ
「猫って、二月になると発情するもんだよ」

おたたがちよ [otatagatjo] ほととぎす。[及 83]

【例】 おたたがちよあ おどうと 殺したどて、日に 八千八声 なぐなだど
「ほととぎすは、弟を殺した、とって、一日に八千八声鳴くんだそうだ」

おだづ [odadzüü] [名] お代り。満腹なのにお代りを強いること。[及 130]

【例】 なんにも ねあべども もう えっぺあ おだづ すろや

「何も食べるようなものはないでしょうが、もう一杯お代りをして下さいよ」

おだづ [o^odadzüü] [動] 浮かれる。調子に乗って浮かれふざけること。[及 130]

【例】 これまだ すぐ おだづ ほだなよ

「こいつは、直ぐ浮かれふざける方なんですよ」

おだづふるめあ [odadzüübüürüme] [名] 出発の祝宴。特に婚礼の日の、嫁方の祝宴をいう。[同] おだづぎげ。[及 130]

おだふぐかじえ [oda^ofüügüka^odze] お多福風。[続 56]

【例】 にいちゃん おだふぐかじえん なた おん したんなさも うずっが しんねあな

「兄ちゃんがお多福風になったから、下にも移るかも知れないな」

おだまる [o^odamarüü] [四自] 静まる。[続 57]

【例 1】 あめがじえも おだまたな

「雨風も静まったな」

【例 2】 なつとぐして、きもず おだめでころや

「納得して、気持を静めてくれよ」

おだまる [o^odamarüü] [動] 落ちつく。おさまる。悪天候や痛みなどのおさまること。[及 130]

【例】 ようやぐ いだみあ おだまたな

「漸く痛みが治まったな」

おだめる [o^odamerüü] [動] なだめる。[及 130]

【例】 あんまり ごしゃがねあよん おだめで おげ

「あまり怒らないように、なだめておきなさい」

おだや [odaja] [名] ^{たいや}速夜。葬式や忌日の前夜。[及 130]

【例】 ばんげあ おだやだな

「今夜は速夜だね」

おだれ [o^odare] かやで編んだ雪囲い。[及 62]

【例】 ゆぎあ ふて くっさげあ、おだれで かごわねあんねあなは

「雪が降ってくるから、かやの雪囲いで囲わないといけなくなったな」

おぢや お茶。[及 38]

【例】 うらの ががつか 来た、おぢや 持て こえ

「裏の奥さんが来たから、お茶を持ってお出で」

おぢやうげ [odzaüge] お茶菓子。[同] おぢやおげげ。おぢやがす。[及 38]

【例】 おぢやうげあ なぐなたはげあ かて おげよ

「お茶菓子がなくなったから、買っておけよ」

おぢやぐ [odʒagü] 横着。[及 22]

【例】 ずがんだて いうに、おぢやぐこえて 来あがらねあ
「時間だというのに、横着して来やがらない」

おぢやづげ [odʒaⁿdzüge] お茶づけ。[及 38]

【例】 腹 へらねあはげあ おぢやづげでも 食うが
「腹が空かないから、お茶づけでも食べようか」

おぢやのま お茶の間。茶の間。居間。[及 47]

【例】 つあつあ ずんぎりあ おぢやのまに あっけ
「お父さん、煙草入れは、お茶の間にあったよ」

おちよくらがす [otʃoküragasü] [四他] おぢやらかす。[同] おちよろがす。[続 57]

【例】 しとんどご おちよくらがして、こっつぎんねあったら
「人をおぢやらがして、嫌だったらありあしないよ」

おちよぐらがす [otʃogüragasü] [動] 馬鹿にする。ひやかす。からかう。[同] おちよらがす。おちよろがす。[及 130]

【例】 ないだ、この やろ、しとんどご おちよぐらがしあがて
「なんだ、この野郎、人を馬鹿にしやがって」

おっ～ [oQ~] [接頭辞] 強調の接頭辞。物事の意を強める語。[続 57]

【例 1】 おっころばす
「転ばす」

【例 2】 おったまげる
「たまげる」

【例 3】 おっばする
「走る」

【例 4】 おっぶぐれる
「ふくれる」

【例 5】 おっぺしよる
「へし折る」

おっおっ [otsüotsü] [副] おちおち。[続 57]

【例】 べご こあ ににやあだり んまれるんねあべがど おもうど おっおっ ねでも いらん
ねあじゅ
「牛の仔が、今夜あたり生れるじゃないだろうか、と思うと、おちおち寝てもいられないよ」

おっかねあ [okkane] おつかない。怖い。恐しい。[同] おかねあ。おそろす。[及 22]

【例】 おっかねあがった、もう 一足 おそえど なでん つがれっがった
「おっかなかった、もう一足おそいと、雪崩につかれてしまうんだった」

おっかぶへる [okkabüherü] [下一他] おっかぶせる。[続 57]

【例 1】しとさ へぎにん おっかぶへる

「人に責任をおっかぶせる」

【例 2】よて ねだら ふとんでも おっかぶへで おげ

「酔って寝たら、布団でもおっかぶせておけよ」

おっき 大きい。[及 22]

【例】こねあだ おっき ざっこあ 釣っだけや

「この間、大きい雑魚が釣れて来たつけ」

おっきさ [okkisa] 大きさ。[続 57]

【例】こどすの であごん きよねんなより おっきさ つがうな、こどすあ できあ えな

「今年の大根は、去年のより大きさが違うな、今年は出来がいいね」

おっきだ [okkida] 大きな。[続 57]

【例】これだば おっきだ ざっこだな、どごで つて きた おんだや

「これは大きな雑魚だな、何処で釣って来たんだい」

おづげあ [odzüge] [名] お使い。招待状。案内状。[及 130]

【例】〇〇さんどさ、ゆわえこどの おづげあ 出したがや

「〇〇さんに祝い事の招待状を出したかい」

おづげなべ お汁鍋。[及 47]

【例】戸棚がら、おづげなべ 出してくんねあが

「戸棚から、お汁鍋を出してくれませんか」

おつける [動] おつつける。押す。[及 130]

【例】ほんげあ おつけんなや

「そんなにおつつけるなよ」

おっこむ [okkomü] [四自] 押し込む。[続 57]

【例】えれぎれあして、これ やだなて いうごったら、くずさ おっこむぞ

「好き嫌をいって、これを嫌だなんていうなら、口に押し込むよ」

おったでる [ottaderü] [下一他] 突っ立てる。[続 57]

【例】ゆぎ ふた ずぎの どうろの めずるすん、ぼう おったでで おぐべ

「雪が降った時の道路の目印しに、棒を突っ立てておこう」

おったでる [ottaderü] [下一他] 追い立てる。[同] ぼったでる。ぼたでる。[続 58]

【例】すずめあ いね くいであくて まだ きた はえあぐ おったででやれ

「雀が稲を食いたくてまた来たよ、早く追い立ててやれ」

おっちゃんたぐり [ottjatagüri] [名] 裾めくり。男の子が、いたずらをして、女の子の着物の裾をめくること。「おっちゃんたぐり はやた一裾めくりが流行して来た」などといいながら、裾

をめくったものだが、今はない。[及 130]

おっちょ [名] わな。狐や兎などを捕る手作り木製わな。[及 130]

【例】 きづねあ ありぐはげあ おっちょでも かげんべ
「狐が歩くから、わなでも仕掛けよう」

おっつ 唾。[同] おっつこ。[及 3]

【例】 おっつどさ さがでみろ きげねあはげあ
「唾に叫んでみなさい、聞こえないから」

おっつかつ [ottsükattsü] [副] かつかつ。[続 58]

【例 1】 えまだば きしゃさ おっつかつん まにやうな
「今なら汽車にかつかつに間に合うな」

【例 2】 せあふあ こんげつあ おっつかつたは
「財布は、今月はもうかつかつだよ」

おっつぐ [ottsügü] [動] 追いつく。[及 130]

【例】 そんま おっつぐ ベはげあ えつみろ
「じきに追いつくだろから、行ってみなさい」

これは、「かつぐ」とも使い、「おっつぐべちやー追いつくだろうよ」、「かつがっだー追っつかれた」、
「かつがんねあー追いつかれない」などの使もしている。

おっつこ [otsükko] [幼児語] 小便。おしっこ。[続 58]

【例】 め、おっつこ であなが
「め(子供の愛称)、おしっこがしたいのか」

おっつじえみ [ottsüdžemi] 雌蟬。なかない蟬。おっつとは唾の意。[及 83]

【例】 これあ おっつじえみで ながねあはげあ 放してやるは
「これは雌蟬で、なかないから、放してやってしまうよ」

おっば しっぽ。尾。[及 83]

【例】 ねごの おっば ひばっど かじらえんぞ
「猫のしっぽを引張ると、かじられるよ」

おっぺす [oppesü] [四自] 押し込む。[続 58]

【例】 ほの あな ねずみあ でへありすっさげあ ないが おっぺして おえでころ
「その穴は、鼠が出入りするから、何か押し込んでおいて下さい」

おっぺす [動] 押し込む。栓をする。[及 131]

【例 1】 この 穴さ なにが おっぺして おげ
「この穴に、何か押し込んでおけ」

【例 2】 瓶の くづさ かみ おっぺして おげ
「瓶の口に紙で栓をしておけよ」

おづめ [名] 落ち目。[及 131]

【例】 しとも おづめん なっど だめだな
「人も落ち目になると駄目だね」

おづる [動] 落ちる。[及 131]

【例 1】 えっくん しめでねあど おづんぞ
「しっかり掴まってないと落ちるよ」
【例 2】 かだるに おづたが
「語るに落ちた（白状した）か」

おであらん [ode:ran] お平らに。これは、膝を崩させる言葉である。[続 58]

【例】 どうが おであらん してくだせあ
「どうぞお平らにして下さい（どうぞ、膝を崩して下さい）」

おであんつあま [odentsama] お大日さま。大日如来。[続 58]

【例】 あした おであんつあまの おまずりだ おん みんな おがみん えぐべ
「明日はお大日さまのお祭りだから、皆拝みに行くだろうよ」

おでのおの [odenoono] お手の物。[続 58]

【例】 あの しとあ、みんようあ おでのおんだ おん、おまずりで まだ うだうべ
「あの人は、民謡がお手の物だから、お祭りにはまた唄うだろう」

おど 出産間隔。[及 14]

【例】 まだ おどみだど おどあ ちっけあ おんだ
「また妊娠したそうだと、出産間隔が近いもんだ」

おど 父さん。お父さんより、一寸卑下したような呼び方である。[及 3]

【例】 おど 絵本 かてころ
「父さん絵本を買って下さい」
この語は「おどっつあーお父さん」、「おやずさまーお父さん。但し、老年の父親をいう」、「つあー父さん」、「つあつあーお父さん」、「とうー父さん」、「まー父さん」、「まっこー父さん」などとも使っている。

おどげあ [odoge] おとがいの。下あご。[及 10]

【例】 あの しとあ おどげあの なんげあ しとだな
「あの人はおとがいの長い人だな」

おどごいね [odogoine] 馬鹿苗病の稲。[同] おどごねあ。[及 84]

【例】 おどごいねあ 実らねあはげあ、ぬえでしまえ
「馬鹿苗病の稲は実らないから、抜いてしまいなさい」

おどごえっぴぎ [odogoepigī] 男一匹。[続 58]

【例】 おどごえっぴぎ、ほんた こどで どでする おんで ねあんだはげあ

「男一匹、そんなことで驚くもんじゃないよ」

おどごおの [odogoono] 男物。[続58]

【例】 おら はずがすくて、おどごおのなの とでも かえねあな
「私は恥かしくて、男物なんかとでも買えないわ」

おどごぎれあ [odogojire] 男嫌い。[続59]

【例】 おどごぎれあだ、なて ゆたて、ほんた ごどあ あでんなる おんで ねあんだはげあ
「男嫌いだなんていったって、そんなことは当てになるものじゃないんだから」

おどござがり [odogo^odzagari] 男盛り。[続59]

【例】 おめあなの えま おどござがりだ おん ええ おんだ
「お前なんか、今が男盛りだもの、いいもんだよ」

おどごしたず [odogositadzü] 男達。[続59]

【例】 むらの かりはれあだはげあ、おどごしたずあ ではてころど
「村の刈り払い（造林地の下刈り）だから、男達が出てくれてだそうだ」

おどごしと 男。男の人。[及3]

【例】 おどごしとあ いねあど ろぐだ 百姓あ でげねあな
「男の人がいないと、ろくな百姓が出来ないね」
この反対に「おなごしと一女の人」がある。

おどごしと [odogosito] 男人。[続59]

【例】 ○○の かいしゃ、おどごしとばり つかて、おなご つかわねああだど
「○○の会社は、男人ばかり使って、女を使わないんだそうだ」

おどごべご [odogobego] 牡牛。[続59]

【例】 おどごべごより おなごべごの ほあ こ ふやすえはげあ ええな
「牡牛より、牝牛の方が仔を殖やせるからいいな」

おどごめあー [odogome:] 男前。[続59]

【例】 えあずあ ながながの おどごめあだはげあ おなごに もでんべな
「あいつはなかなかの男前だから、女にもてるだろうな」

おどごらす [odogorasü] [形] 男らしい。[続59]

【例】 おめあ あの おなご すぎだあだべ、おどごらすぐ はぐじょうするや
「君はあの女が好きなんだろう、男らしく白状しろよ」

おどごわらす [odogowarasü] 男の子。[同] おどごおぼご。[続59]

【例】 おれあ えさも おどごわらすあ んまっで みんな よろごでだ
「うちにも男の子が生れて、皆喜んでいるよ」

おどすおの [odosüono] 落し物。[続59]

【例】 おれあ おどすおの したなよ、ほれも どごで おどしたが わがらねあなよ

「私、落し物をしたんだよ、それも何処で落したか分らないんだよ」

おどすこす [odosükosü] [名] 年越し。[及 131]

【例】 まだ おどすこすあ きたがは
「もう、また年越が来たか」

おどすみそ すらない味噌をお汁に入れる時の味噌。[及 38]

【例】 えそがすはげあ、おどすみそ へんべは
「忙しいから、すらない味噌を入れてしまおうよ」

おどすみそ [odosümiso] 落し味噌。これは、作ったままの味噌をお汁に入れるもので、磨ったりしない味噌をそのまま使うことをいう。[続 59]

おどでな [ododena] [名] 一昨日。[及 131]

【例】 むすこあ おどでな えたなよは
「息子はおととい行ってしまったんですよ」

おどどす [名] 一昨年。[及 280]

【例】 ○○さ えたな おどどすんねあがったべが
「○○に行ったのは、一昨年でなかったろうか」

おどなくせあ [odonaküse] [上一自] 大人びる。[続 60]

【例】 この わらすも、こうこうさ へあたば、きゆうに おどなくせあぐ なたな
「この子も、高校へ入ったら、急に大人びてきたね」

おどなげねあ [odonageñe] [形] 大人気ない。[続 60]

【例】 ないだや、ええとす して おどなげねあ ごど しねあんだや
「なんだい、いい年をして、大人気ないことをするんじゃないよ」

おどなす [odonasü] [形] おとなしい。[及 131]

【例】 おめあえの わらすこあ おどなす ごど
「お宅の子供さんはおとなしいね」

おどなす おとなしい。[及 22]

【例】 おめあえの おぼごあ おどなす ごど
「お宅の子供さんはおとなしいね」

おどみ 妊娠。[及 14]

【例】 むがさり したどもたら、おどみ だどは
「結婚したと思ったら、もう妊娠したそうだよ」

おどみよ一 [odomjo:] お燈明。[続 60]

【例】 ほどげさまさは まえあさ おどみよ一 つけで おがむ おんだぞ
「仏さまには、毎朝お燈明をつけて拜むものだよ」

おどり [odori] [名] ちがひ。年令のちがひ。[及 131]

【例】 これあまだ したっつ おどりだなよ
「この子は二つちがいなんですよ」

おながば [onagaba] 神おろし。ごぜのような者。[及 77]

【例】 あんまり えぐねあ ごどばり つづぐはげあ おながばに きぐべ
「余り悪いことばかり続くから、神おろしに聞いてみよう」

おなごおの [onagoono] 女物。[続 60]

【例】 おなごおの かいであなが、ほれだば ○○さ えてみろ ないでも あっさげあ
「女物を買いたいのか、それなら○○に行ってみろよ、何でもあるから」

おなごぎれあ [onagojire] 女嫌い。[続 60]

【例】 おなごぎれあでも ねあべども、なして よめ もらわねあだべ
「女嫌いでもないだろうに、どうして嫁を貰わないだろうね」

おなござがり [onagoⁿdzagari] 女盛り。[続 60]

【例】 おなごも さんじゅ すんじゅは おなござがりて いう おんだべな
「女も、30、40 は女盛りというものだろうな」

おなごしたず [onagoſitadzü] 女達。[続 60]

【例】 おなごしたずて えぐ しゃべっじゅなや、くずがら んまって きた おんだべが
「女達ってよく喋べるよね、口から生まれて来たもんだろうか」

おなごしと [onagoſito] 女の人。[続 60]

【例】 えまの おなごしとあ みな つとめ もてで、えに いんな としよりばりだ
「今の女の人々は皆勤めを持っていて、家にいるのは年寄りばかりだね」

おなごだでらん [onagoⁿdaderan] [連語] 女だてらに。[続 60]

【例】 おなごだでらん おどごしたつき まざて おおざげ ので うだったけ
「女だてらに、男達に混じって、大酒を飲んで、唄っておったけ」

おなごたらす [onagotarasü] 女誑し。[続 61]

【例】 ○○だば、おなごたらすだて いう もっぱらの ひょうばんだな
「○○なら、女誑しだというもっぱらの評判だね」

おなごで [onagoⁿde] 女手。[続 61]

【例】 だんなに しなっで、おなごで しとっつで えぐ わらしたず そだでだ おんだ
「夫に死なれて、女手一つで、よく子供らを育てたものだな」

おなごべご [onagobego] 牝牛。[続 61]

【例】 おれあえの べごあ ゆべな おなごべご したっつも なしたけ
「うちの牛が、夕べ牝牛を二匹も産んだっけ」

おなごらす [onagorasü] [形] 女らしい。[続 61]

【例】 やっぱり おなでわらすあ おなごらすくて やさす おんだな

「やはり女の子は、女らしくて、優しいものだね」

おなごわらす [onagowarasū] 女の子。[同] おなごおぼご。[続 61]

【例】 おれあえんなも にばんめあ おなごわらすで こんだ さんねんへだは
「うちのも二番目が女の子で、今度三年生なんだよ」

おなされる [動] うなされる。[及 131]

【例】 おめあ ゆべな おなさっだべ
「お前、夕べうなされたろう」

おなのが [onanoga] [名] 旧十二月七日。[及 131]

【例】 おなのがにあ さんげさんげあ あっさげあ おがで くんべ
「旧十二月七日にはさんげさんげ（後出）があるから、拜んでこようや」

おにがら [oniŋara] くわがたむし、かぶとむしの総称。これは、くわがた科のくわがたむしの類、及びこがねむし科のかぶとむしを、総称した呼び名であり、今は使われていない。[続 61]

おにこ 酒税官。税務所員。[及 77]

【例】 おにこあ 来たぞ、て いうど、どぶろぐ かぐすがつたなよ
「酒税官が来たぞ、というど、濁酒をかくすんだったんだ」

おにこすめ [onikosūme] 鬼ごっこ。[同] ぼいこ。おにぼいこ。おにこぼい。[続 61]

【例】 ○○ちゃん みんなして おにこすめ すねあが
「○○ちゃん、皆で鬼ごっこをしないか」

おにばんば [onibanba] 鬼婆。この語は、今は殆ど昔話の中に出てくるぐらいのもので、もう使われなくなったが、昔話以外には、「おにばんばみであだ＝鬼婆のようだ」などと使った。[続 61]

おによげ [onijoge] [名] 鬼除け。盗難除け。旧一月十五日、たらの木の長さ 15cm ぐらいのものを、上部だけ割り、ここに干しいわしと、小さい切り餅を挟み、入口、裏口、窓などに差し、鬼除け、盗難除けとしたが、これを「おによげ」と呼び、小正月の一つの行事であった。[及 131]

おねあどし [oneⁿdosi] [名] おないどし。同じ年齢。[及 131]

【例】 おれど、○○あ おねあどし だなよ
「私と○○さんは、おないどしなんですよ」

おの [終助] もの。もん。[及 132]

【例】 おれも いぎでああだ おの
「私も行きたいんだもの」

この語は、「おん」とも使い、「いねあおんだーいないものだ」などと使っている。

おの [名] 者。物。[及 132]

【例 1】 あんた おのあ いねあ おんだ
「あんな者はいないものだ」

【例 2】 この しなおのあ え おんだな

「この品物はいいもんだな」

この語は、「おん」とも使い、「おめあ みであだ おんだば—お前のような者なら」、「この しなおんが—この品物か」などと使っている。

おのかり [onokari] 畔刈り。[続 61]

【例】 たさ えてみだば、くさ おがたけはげあ、きょうあ おのかりしてくる
「田へ行ってみたら、草が伸びていたから、今日は畔刈りに行って来るよ」

おば 妹。[及 3]

【例】 おばも そろそろ 嫁ん くんねあんねあなは
「妹も、もうそろそろ嫁に出来ないといけないな」
この語は「おばかす—妹の卑語」、「ばつけおば—末娘」などとも使っている。

おはがめあり [ohagameri] お墓参り。[続 61]

【例】 ばさまの さんじゅごにずだおん、おはめあり えて くんべ
「お婆さんの三十五日だから、お墓参りに行ってこよう」

おはづ おはち。めしびづ。[及 47]

【例】 おはづ こっちゃ よごしてころ
「おはちをこっちへよこして下さい」

おはれあー [ohare:] お祓い。[続 62]

【例】 こどすあ え すんつぐすすさげあ、おはれあー してもらわねあんねあな
「今年は家を新築するから、お祓いをしてもらわないといけないな」

おばんかだです [連語] 夕方の挨拶のことば。夕方になりましたね。といった意である。[及 280]

おばんです [obandesü] [連語] 今晚は。この語は、勿論夜の挨拶の言葉である。[同] おばんですは。おばんなりあした。[続 62]

おびすろはだが [obisüroha^adaga] 帯をしめない姿。これは、着物を着ているのに帯をしめないで、前を合せないような姿をいう。[続 62]

【例】 おびすろはだがで ありぐなよ
「帯をしめない姿で歩くんじゃないよ」

おひなかざり [ohinaka^adzari] 雛飾り。[続 62]

【例】 もうすこすで ももの へっくで おひなかざりだなは
「もう少しで、桃の節句で、もうお雛飾りだね」

おひなこ [名] ひな人形。おひなさま。[及 280]

【例】 そんま へっくだおん おひなこ ださねあんねあな
「じきに節句だから、ひな人形を出さないといけないな」

おひます [ohimadzü] 秋葉さま、庚申さまの祭り日をいう。この祭りは、秋葉さまは、1月17

日と10月17日。庚申さまは、2月18日と11月18日に行われている。[続62]

おふかし おこわ。こわめし。赤飯。[及38]

【例】 おひなさまさ、おふかしでも してあげっが
「おひなさまに、赤飯でも炊いて上げようか」

おぶく [obükü] [名] 神仏に供えた食べ物。これは、家の中に祀ってある神仏に供えた食べ物でなく、外に祀ってある神仏への供え物をいい、拝んだあと、これを食べると病気にならないといわれている。[及・続132・62]

【例】 おぶくだぞ、これ くだ かじえ ひがねあぞ
「お供え物だよ、これを食べると、風邪をひかないよ」

おふだぶづ [ofürⁿdabüdzü] [名] 札所めぐり。巡礼。[及132]

【例】 おめあも おふだぶづん えごや
「あなたも札所めぐりに行こうよ」

おふどさま [ofürⁿdosama] [名] 不動尊。不動明王。不動さま。[及132]

【例】 おふどさまさ おめあり えあべじゅ
「お不動さまに、お参りに行こうよ」

おぶなすさま [名] 産土さま。その人の生れた土地を守る神さまをいう。[及132]

おふるめあ [ofürüme] ふるまい。祝事弔事の饗応。[及38]

【例】 この だびの おふるめあ 何人分 こしえんなだべ
「この度のふるまいは何人分作るんですか」

おへおへ [連語] 押せ押せ。[及132]

【例】 さがだぞ ほら、もと おへ おへ
「坂だよ、そら、もっと押せ押せ」

この語には、「おへっが一押せるか」、「おへんべー押せるだろう」などの使い方がある。

おべがぎ [obeḡagi] 覚え書き。[続62]

【例】 ちょえっとした ごども おべがぎ けあで おくだ わすんねあで え おんだ
「一寸したことでも、覚え書きを書いておくと、忘れないでいいものだよ」

おへご [ohəḡo] 教え子。[続62]

【例】 こねあだ おへごの どうきゆうかいさ よぼって うれすがったな
「この間は教え子の同級会に招かれて、嬉しかったな」

おべっだふり [obeḡdafüri] 知ったか振り。[同] おべだふり。[続62]

【例】 ○○だば おわばり おべっだふり する おんだ
「○○なら、自分ばかり知ったか振りをするもんだ」

おへる [ohərü] [動] 教える。[及132]

【例】 どご すらねあなや、おへっさげあ こっちゃ 来てみる

「何所を知らないの、教えるから、こっちへ来てみなさい」

おべる [動] 知る。覚える。[及 132]

【例 1】ほんた ごどぐれあ おれだて おべっだや
「そんなことぐらい私だって知ってるよ」

【例 2】おっきぐ なっど しとりで おべる おんだ
「大きくなると、ひとりでに覚えるもんだよ」

この語には、「おべっだふり一知ったかぶり」、「おべらっだ一覚えられた」、「すらねあ一知らない」などという使い方がある。

おべる [動] 覚える。[及 23]

【例】おっきぐなっど しとりで おべる おんだ
「大きくなると、ひとりでに覚えるものだよ」

この語は、「おべっだごであ一覚えているだろうよ。知っているだろうよ」、「おべでんべ一覚えているだろう。知っていただろう」などと使っている。

おへわ [ohəwa] お世話。[続 63]

【例 1】よげだ おへわ すねあで おわ あだまの へあ ぼうんだ
「余計なお世話をしないで、自分の頭の蠅を追えよ」

【例 2】うずの むすめあ おへわさまでした
「うちの娘がお世話さまでした」

おほげあー [ohogɛ:] おぎあー。赤子の泣き声。[続 63]

【例】おほげあーて、んまっだ ずぎの こえの おっき おぼごであったな
「おげあーと、生れて来た時の声の大きな子供だったな」

おぼご [o^mbogo] 子供。[及 3]

【例】おぼご つで どさえぐ どごだや
「子供を連れて、何所へ行くとこなんですか」

また、子供の呼び名には、「おどごおぼご一男の子」、「おどごわらす一男の子」、「おなごおぼご一女の子」、「おなごわらす一女の子」、「がぎ一がき。子供をののしってという言葉」、「がぎ一がぎに同じ」、「がぎわらす一がぎに同じ」、「じょっこ一子供の愛称」、「じょっこめご一じょっこに同じ」、「め一じょっこに同じ」、「めっこ一じょっこに同じ」、「わらす一子供」、「わらすこ一子供」などがある。

おぼごなし [o^mbogonasü] 出産。お産。[及 14]

【例】隣りの あねこあ おぼごなしだど
「隣りのお嫁さんが、お産だそうだ」

おぼごなすみめあ [obogonasüümime] 出産見舞。[続 63]

【例】〇〇さんで おぼご んまっだつけあ、おぼごなすみめあ えてこねあんねあな
「〇〇さんで、子供が生れたそうだから、出産見舞に行つてこないといけないな」

おぼごわらす [obogowarasü] 子供。[同] おぼご。おぼごこ。わらす。わらすこ。[続 63]

おぼめ [obome] 雪女。雪女郎。雪娘。この語は、及位地区の民話に出てくるだけである。[同] ゆぎおなご。ゆぎじよろ。[続 63]

おみづげ からしな漬け。[及 38]

【例】 からしな とたばげあ おみづげ 漬けんべな
「からしなが採れたから、からしな漬けを漬けようね」

おめあ [ome] お前。君。[及 3]

【例】 おめあも あすびん こえや
「お前も遊びに来いよ」
この語の使い方には、「おめあつあーお前に」、「おめあどさーお前に」、「おめあどごーお前を」、「おめあえーお宅。お前の家」などがある。

おめあさん [omesan] お前さん。君。この語は、親しい他人にだけ使う語である。[続 63]

おめあり [ome(:)ri] [名] お参り。[同] おめあーり。[及 132]

【例】 ずぞさまさ おめあり えて くる
「地蔵さまに、お参りに行って来ます」

おめでてあ [omeⁿdete] [形] お目出度い。[続 63]

【例】 きょうあ むすこの むがさりだ おん こんげあ おめでてあ ごどあ ねあな
「今日は息子の婚礼だもの、こんなにお目出度いことはないね」

おもいあへる [omoiaherü] [下一他] 思い合わせる。[続 63]

【例】 ほう ゆわえっど おもいあへる ごどあ ある、〇〇の ごどだべ
「そういわれると思い合わせることもある、〇〇のことだろう」

おもいがげねあ [omoiŋagene] [連語] 思いがけない。[続 63]

【例】 きんな おもいがげねあぐ、とうきょうがら ともだずあ たずねで きたけな
「昨日思いがけなく、東京から友達が訪ねて来たけな」

おもいげあす [omoiŋesü] [四他] 思い返す。[続 63]

【例】 こげあして どうきゆうへあ あずばっど、がっこじであ おもいげあすな
「こうして同級生が集まると、学校時代を思い返すな」

おもいつげあー [omoi^tsünge:] 思い違い。[続 64]

【例】 ほっが、ほだら ほれあ おれの おもいつげあーであったべちやや
「そうか、それならそれは、私の思い違いだったろうよね」

おもう [omoiü] 経つ。時間の経過をいう。[続 64]

【例 1】 あど いずつかん おもうど きしゃ くっど
「あと一時間経つと汽車が来るそうだ」

【例 2】 あど いずにず おもうど へっくだ
「あと一日経つと節句だね」

おもえ [omoɛ] [形] 重い。[同] おもであ。[続 64]

【例】 ないだ おんだが これあまだ めっぼ おもえな
「何なのかこれは滅法重いな」

おもくるす [omokürüsü] [形] 重苦しい。[続 64]

【例】 ないだべじゅ、ないだが いの あだりあ おもくるすなよ
「なんだろうね、なんだか胃のあたりが重苦しいんだよ」

おもしえ [omoʃɛ] 面白い。[及 23]

【例】 あの 映画 おもしえがったな
「あの映画はおもしろかったな」

この語は「おもへ」ともいい。「おもしえぐねあ一面白くない」、「おもへぐねあ一面白くない」、「おもしえべー面白いだろう」、「おもへべー面白いだろう」などと使っている。

おもすれ [omosüre] [形] 面白い。[同] おもしえ。おもへ。[続 64]

【例】 わらびとりあ おもすれがったな
「わらび採りは面白かったな」

おもであ [omode] 重い。[及 23]

【例】 この わらすあ いづがのこめあん おもであぐ なた おんだ
「この子は何時の間にか重くなったもんだ」

おもでげあー [omodɛŋɛ:] 表替え。[続 64]

【例】 この ただみも ふるすぐ なたはげあ、おもでげあー しねあんねあは
「この量も古くなったから、もう表替えをしないといけなくなってしまったよ」

おもやみ [名] おつくう。ちゅうちょ。[及 132]

【例】 雨で まづさ えぐな おもやみだは
「雨なので、町へ行くのが、もうおつくうだよ」

おもわす [omowasü] [形] 思わしい。[続 64]

【例】 この てんきつずぎであ、おもわす さぐあ とれそもねあな
「この天気続きでは、思わしい作がとれそうもないな」

おやぐ [ojagü] 親類。親戚。[同] おやぐまぎ。[続 64]

【例】 ○○さんあ おれど おやぐだ
「○○さんは私と親類だよ」

おやす [ojasü] [形] お安い。[続 64]

【例】 ほんた ごどあ おやす ごった、どれどれ、おれあどさ さへでみる
「そんなことはお安いことだよ、どれどれ、私にさせてみるよ」

おやす [ojasü] [四他] 生やす。[続 65]

【例 1】 ひげでも おやすなが

「髷でも生やすのかい」

【例2】 たさ くさ おやして おがんねあな

「田に草を生やしておかれないな」

おやす [ojasü] 終わらす。[続 65]

【例】 ほがにも えそがす すごど でげたはげあ、ほの すごと はやぐ おやへよ

「他にも忙しい仕事が出来たから、その仕事は早く終わらせよ」

おやずさま [ojadzüsama] 老いた父親。[続 65]

【例】 おれの おやずさまも はずじゆう すぎで ええ としよりん なたは

「私の老いた父親も、八十を過ぎて、もういい年寄りになってしまったよ」

おやばさま [ojabasama] 老いた母親。[続 65]

【例】 おれあ えの おやばさま、とすの わりん げんきで、えの ごど してる

「うちの老いた母親は、年の割に元気で、家のことをしているよ」

およごす あえもの。[同] あえおの。[及 38]

【例】 およごす つぐっさげ、くるみ 割てころ

「あえものを作るから、くるみを割って下さい」

およだ [ojoⁿda] [形] おとなしい。[同] おどなす。[続 65]

【例】 まず、およだ わらすだ ごど

「まあ、おとなしい子だこと」

およばねあ [ojobane] [連語] 及ばない。[続 65]

【例1】 きゅうりつぐりだば、〇〇さんに およばねあな

「胡瓜作りなら〇〇さんに及ばないね」

【例2】 ほごあ、もう するん およばねあぞ

「そこは、もうするに及ばないよ」

おら 私。俺。[及 4]

【例】 おらだば ほれあ こげあん するな

「私なら、それはこうするね」

この語は「おらせあも一私さえ。私さえも」、「おらどご一私を」、「おれあ一私は」、「おれあつあ一私に」、「おれあえ一私の家」などと使う。

おら [ora] 私。僕。俺。私達。僕達。僕ら。俺達。この語は、及位の方言 4P に、「私、俺」と、単数で書いたが、複数としても使い、「おらほ＝私達の方」の形に限られた使い方使われている。また、単数としては、「おれ＝私、俺、僕」。[同] おれあ。[続 65]

おらだ [oraⁿda] 俺達。私達。僕達。[続 65]

【例】 おらだ がっこさ えぐ ずぎあ くみで まどまで えくなだ

「僕達が学校に行く時は、組で纏まって行くんです」

おりえあー [oriɛ:] 折り合い。[続 65]

- 【例】 よめど しゅうどずあ なして おりえあ わり おんだべ
「嫁と姑というのは、どうして折り合いが悪いものだろう」

おりおの 白帯下。[及 14]

- 【例】 おりおのだば、早く 医者に みで もらえ
「こしけなら、早く医者に診てもらいなさい」

おりおの [oriono] 織り物。[続 66]

- 【例】 ○○でも おりおの おてる かえしゃ とうさんしたつけな
「○○でも、織物を織っている会社が、倒産したそうだな」

おりげあす [origesü] 折り返し。[続 66]

- 【例 1】 おりげあし へんずあ きたけ
「折り返し返事が来たっけ」
【例 2】 ○○がら おりげあし うんてんすんなだ
「○○から折り返し運転するんだ」

おるぬぐ [orünügü] [動] 間引く。[及 69]

- 【例】 あづどご 二本立づ なるよん おるぬぐなだぞ
「沢山生えたところは、二本立ちになるように間引くんだよ」

おれげあす [oregesü] お礼返し。[続 66]

- 【例】 こんげあ もらて、おれげあす すねあて いらんねあべじゆなや
「こんなに貰って、お礼返しをしないではいけないだろうよね」

おれめあり [oremeri] お礼参り。[続 66]

- 【例】 ずぞさまさ ねがったば、じょうぶだ まごあ んまっだはげあ、おれめあり してくる
「地藏さまに願っていたら、丈夫な孫が生れたから、お礼参りをしてくる」

おわ 自分。[及 4]

- 【例】 おわ して、しとの へえん すんなじゆ
「自分がして、人（私）のせいにするなよ」

この語は、「おわどさー自分に」、「おわなー自分の」、「おわえー自分の家」、「おわえんなー自分の家の」、「おわばりー自分ばかり」、「おわおやー自分の親」、「おわこー自分の子」などと使う。

おわ [owa] 自分。[続 66]

- 【例 1】 おわ え
「自分の家」
【例 2】 おわどご
「自分を」
【例 3】 おわ ほ

「自分の方」

【例4】おわ したごと

「自分がしたこと」

【例5】おわ ええどて

「自分がいいとって」

おわりはづおの [名] 終り初物。[及 280]

【例】これあ おわりはづおのだけはげあ くてころ

「これは、終り初物だから、食べて下さい」

おん [接助] から。「くっだけ おん もらて来たんだはげあーくれたから貰って来たんだよ。

「おわぱり えてしまた おんだ おんー自分ばかり行ってしまったものだから」。[及 133]

おんかける [動] わざと突っぱねる。好意をわざと突っぱねるような行爲をいう。[及 133]

【例】くえる、て ゆえば、おんかけあがて、もて いぎあがらねあ

「あげるといえば、わざと突っぱねやがって、持って行きやがらない」

おんげあし [onŋesi] 恩返し。[続 66]

【例】おらだ くるす すぎ たすけで もらたはげあ、おんげあし しねあんねあ

「俺達の苦しい時に助けてもらったから、恩返しをしないとイケないね」

おんごと [onŋodo] [副] 大変。[及 133]

【例】車 ぶつけだつけあ おんごと したな

「車をぶっつけたそうだが、大変なことしたね」

おんつあ [ontsa] おじさん。伯叔父。弟。[及 4]

【例】東京がら、おんつあ 来たけ

「東京から、おじさんが来たつけ」

この語は、「おんつあま」とも呼び、伯叔母は「おばつあ」と呼んでいる。

おんてあー [ontɛ:] 御大。お前。君。[続 66]

【例】つぎえあだ おん、おんてあーも えっぺあ のめや

「付き合だもの、御大も一杯飲めよ」

なお、この語は、「てあーしょ」ともいい、親しい仲間を呼ぶ時に使う語である。

おんと [名] 穩当。[及 133]

【例】あの しとあ おんとだ しとだな

「あの人は穩当な人だね」

おんと 穩当。[及 23]

【例】〇〇さんだば おんとだ しとだ

「〇〇さんなら穩当な人だ」

おんなし [連語] 同じ。[及 133]

【例】 なんべん おんなし ごど きぐなや
「何べん同じことを聞くんだい」

— か —

か 鋏。[及 62]

【例】 か つかたら あらて おげよ
「鋏は使ったら、洗っておきなさいよ」

か [ka] 蝻。^{ぶゆ}[及 84]

【例】 今日あ むすあつ おんだはげあ か ではて うるせあ ごど
「今日はむし暑いものだから、ぶゆが出てうるさいこと」

が [ga] 終助詞。か。[及 133]

【例】 おめあ これ おしなが
「あなたはこれが欲しいんですか」

かあ [ka:] 桑。[及 69]

【例】 かあの そだでがだにあ、根刈りがら、ちゆん刈りなの ある
「桑の栽培には、根刈りとか、中刈りなどがあるよ」

かあかへ [ka:kaçę] 給桑。蚕に桑を与えること。[及 69]

【例】 おごさまおぎ してっど、よながも かあかへ しねあんねあ
「養蚕をやっていると、夜中も給桑しないといけないんだ」

かーかへ [ka:kahę] 給桑。蚕に桑を与えること。[続 67]

【例】 まだ そろそろ おごさまさ かーかへ しねあんねあな
「また、そろそろ蚕に給桑しないといけないな」

かーかりがんま [ka:kariŋanma] 桑刈り鎌。この鎌は、桑を根刈り仕立にする時、桑の木を根元から刈り取り、新梢を萌芽させる時に使う鎌である。[続 67]

かーきりぼえじよ [ka:kiriboędzo] 桑切り包丁。この包丁は、蚕が稚蚕の時、桑の葉を細かに切って与える時に使う包丁である。これは、巾が広く、特製のものであった。[続 67]

かーこぎ [ka:kogį] 桑摘み。[同] かーとり。[及・続 70・67]

【例 1】 おごさま おえでる うずあ、かーこぎだば、まえにず えがねあんねあなだ
「蚕を飼っているうちは、桑摘みなら、毎日行かないといけないんだ」

【例 2】 かーこぎ えぐ すぶんだなは
「もう桑つみに行く時間だな」

かいおの [kaïono] 買い物。[続 67]

【例】 ぼんげの おがず すこす たんねあはげあ、ないが すこす かいおの してくる
「今晚のおかずが少し足りないから、何か少し買い物をして来るよ」

かいぐれあ [kaïgüre] 買い食い。[同] けあーぐい。[続 67]

【例】 ほんげあ まえにず まえにず かいぐれあばり してらんねあべな
「そんなに、毎日毎日買い食いばかりしてられないじゃないか」

かいげある [kaigerü] [下一他] 買い替える。[続 67]

【例】 へんたぐさあ えぐねあぐ なたはげあ、そろそろ かいげあねあんねあな
「洗濯機が悪くなったから、そろそろ買い替えないといけないな」

かいちゅーどげ [kaïtjü:°doge] 懐中時計。[続 67]

【例】 むがすの しとあ かいちゅーどげなの しとごろさ へで ありた おんだ
「昔の人は、懐中時計なんかを、懐に入れて歩いたものだよ」

がいめあ [gaïme] 外米。[同] がえめあ。なんきんめあ。[及 38]

【例】 むがすあ ラングンめあだなて がいめあ くと おんだ
「昔はラングーン米だなんて、外米を食べたもんだよ」

かう [動] 当てがう。[及 133]

【例】 まるだ ころばねあよん 石 かうなだ
「丸太が転ばないように、石を当てがうんだ」

かう [kaü] (錠を) 掛ける。(支えを) 当てがう。[続 67]

【例 1】 へありくずさ じょう かう
「入口に錠を掛ける」

【例 2】 たんすの じょう かう
「箆笥の錠を掛ける」

【例 3】 きあ もけねあよん ささえ かて おげ
「木が倒れないように支えを当てがっておけよ」

【例 4】 こやの はしらの したさ どであいす かうど えぞ
「小屋の柱の下に、土台石を当てがうといいよ」

かう [動] 勝つ。[及 133]

【例】 えま、おれあ かうはげあ みでろ
「今、私が勝つから、見ている」

かえしや [kaeja] 会社。[続 68]

【例】 こんだ この むらさ ねず つぐる かえしや でげっど
「今度、この村に、螺子を作る会社が出来そうだ」

がえっと [gaetto] [副] ぐっと。いきなり。[及 133]

【例】 あの やろあ がえっと ひたぐりあがて
「あの野郎、ぐっとひたぐりやがって」

かえぶす [kaɛbūsū] 蚊燻し。[続 68]

【例】 と あげで おえだば、よが へあて きたはげあ、かえぶす かげろや
「戸を開けておいたら、蚊が入ってきたから、蚊燻しをかけるよ」

かえる [動] 食われる。[及 133]

【例】 ほごさ おぐど ねごに かえるは
「そこへ置くと、猫に食われてしまうよ」

かえる [kaɛrū] 食える。食われる。[続 68]

【例 1】 この きのごあ かえんべが
「このきのこは、食えるだろうか」

【例 2】 さがな ほごさ おぐど ねごに かえんぞ
「魚をそこに置くと、猫に食われるよ」

かおあへ [kəoahe] 顔合わせ。[続 68]

【例】 こんだ がっこさ へあっさげあ、きょうあ かおあへだど
「今度は、学校に入るから、今日は顔合わせだそうだ」

がおる [gaorū] [動] 弱る。[及 133]

【例】 ほんた ごどで かおる おんでねあ
「そんなことで弱るもんじゃないよ」

がおる [gaorū] [動] しょげる。弱る。[及 23]

【例】 ほんげあ がおる おんでねあ、ええ ごども あんだはげあ
「そんなにしょげるもんじゃないよ、いいこともあるんだから」

かか [kaka] [幼児語] 着物。[続 68]

【例】 こっつの あげあ かか きるてが
「こっちの赤い着物を着るってかい」

かが [kaga] かがあ。妻。[及 4]

【例】 おれあ えの かがなの はっつおえ おんで、おやじなの しとだまりもねあ
「うちのかかあなんか、向う気が強いもんで、親父なんかひとたまりもないよ」
この悪態語に「かがくされ」がある。

かが [gaga] 母さん。お母を一寸卑下したもの。[及 4]

【例】 がが はらへた なにが かへろ

「母さん、腹がへった、何か食べさせてくれ」

また、お母さんには「ががつあ」と呼び、その他「がっかー母さん」、「あっかー母さん」、「おがー母さん（秋田系）」などが使われていた。

かがかが [kaŋakaŋa] 夕方うす暗くなること。[続 68]

【例】 ぼんかだ なて、かがかがど なて きたはげあ やめで けあんべはや
「夕方になって、うす暗くなってきたから、もう止めて帰ろうよ」

かがさわり [kagasawari] [名] かかわり。支障。[及 134]

【例 1】 おめあ あの しとど かがさわり あんなが
「あなたは、あの人とかかわりがあるんですか」
【例 2】 ほんた ごど いうど 見合いさ かがさわり でんべぜあ
「そんなことをいうと、見合いに支障が出るじゃないか」

ががつあ [gagatsa] 他人が中年の人妻を呼ぶ時の名。[及 4]

【例】 ががつあ いたしたがや
「奥さん、おりますか」

かがなぐ [kaŋanagüü] [動] 弱音を吐く。[及 134]

【例】 ほん ごどで かがなぐ おのあ あんばや
「そんなことで、弱音を吐く奴があるものか」

かがもだず [kagamodadzüü] [名] 男やもめ。[及 134]

【例】 えあづあ かがもだずで おわる おんだべな
「あいつは、男やもめで終るものだろうな」

ががらんと [gaŋaranto] [副] がらんと。建物の中に物などのないさま。骨太で、肉のあまりついていないやせた体をもいう。[及 134]

【例 1】 これあ あぎ屋だべが、ががらんと した えだな
「これは、空き屋だろうか、がらんとした家だな」
【例 2】 あの しとあ ががらんと した 体だな
「あの人は、がらんとした体の人だね」

かがり [kaŋari] 肛門筋。[及 10]

【例】 これあまだ かがりあ よわえんだが ずっと むぐすなよ
「この子は、肛門筋が弱いのか、始終もらすんですよ」

かがりうど [kagariüdo] [名] 被扶養者。生活を支えてもらっている人。[及 134]

【例】 ○○さんも、息子の かがりうどだどは
「○○さんも、もう息子の被扶養者だそうだって」

かがりえあ [kagarië] かかわりあい。[続 68]

【例】 あゆ ずけんさだば、かがりえあん なっだぐねあ おんだな
「ああいう事件になら、掛かわり合いになりたくないものだね」

かがる [kagarüü] [動] かかる。書ける。人にかかる（けんかをふつかけるなど）。[及 134]

【例 1】 べづの 医者さ かがるは

「もう、別の医者に雇うよ」

【例2】 この 筆だば んまぐ かがるな

「この筆ならうまく書けるよ」

【例3】 この やろ、しとさ かがる 気が

「この野郎、人にかかって来る気か」

かぎあずべる [kagiadzüberü] [下一他] 掻き集める。[続68]

【例】 ほごら あだりの おずば かぎあずべで、ふようど つぐんべ

「そこらあたりの落葉を掻き集めて、腐葉土を作ろう」

かぎげあ [kagige] 書き替え。[続68]

【例】 よきん したな まんきん なたはげあ かぎげあ してくんべ

「預金しておったのが、満期になったから、書き替えをしてこよう」

かぎける [kagikerü] [下一他] 掻き消える。[続69]

【例】 おれあ こさ おえっだな かぎけるよん なぐなたども どさ やた おんだべ

「私がここに置いていたのが掻き消えるようになくなったが、何処へやったんだろう」

がぎこ [gagiko] [卑称] 子供。子供の卑称。[同] がぎ。[続69]

【例】 この がぎこあ、この せあふがら まだ かね とたな

「この餓鬼が、この財布からまた金を取ったな」

かぎそだし [kagiso^odasi] 書き損じ。[続69]

【例】 ○○ちゃん、かぎそだしの かみ もってあねあはげあ、まだ つかえよ

「○○ちゃん、書き損じの紙はもったいないから、また使いなさいよ」

かきつと [kakitto] [副] きっちり。[続69]

【例】 せんえんだて、おれあ だごに かきつと せんえん あっさげ はらうは

「千円だって、私のところにきっちり千円あるから、払ってしまうよ」

かぎのはな [kajinohana] 自在鉤。[及47]

【例】 しょうがつにあ かぎのはなさも もづ あげねあんねあぞ

「正月には自在鉤にも、餅をあげないといけないよ」

かぎます [kagimasü] [四他] 掻き回す。[続69]

【例1】 すふろ わえあだが かぎまして みでころ

「風呂が沸いたか掻き回してみてくれ」

【例2】 まどまりがげだ はなす かぎまさっだは

「纏まりかけた話を掻き回されてしまったよ」

かぐげあー [kagüŋe:] 格外。[続69]

【例1】 ほの ねだんだば、かぐげあん たげあんねあがや

「その値段なら、格外に高いじゃないか」

【例2】 この こめあ、ひんすず えぐねあはげあ かぐげあだな
「この米は、品質が悪いから格外だね」

かぐざど [kagürⁿdzado] 角砂糖。[続 69]

【例】 コーヒさ へれる かぐざどあ ねぐなたはげあ、かて おえでくんねあが
「コーヒーに入れる角砂糖がなくなったから、買っておいでくれないか」

かぐしやぶろ [kagü[abüüro] 角シャベル。角スコップ。[続 69]

【例】 ゆぎ ほんなだば、けんすこより、かぐしやぶろの ほあ つかいやすな
「雪を掘るのなら、丸シャベルより、角シャベルの方が使いやすいな」

かぐす [kagüsüü] かくし。ポケット [及 55]

【例】 がが どんぶくさ かぐす つけでころ
「お母さん、綿入れはんてんに、かくしをつけて下さい」

かぐすぎ [kagüsügi] 格式。[続 69]

【例】 ○○さんの えだば、むがすあ だいだい しょうやで、かぐすぎの ある えだ
「○○さんの家なら、昔は代代庄屋で、格式のある家だよ」

がぐすぎ [gagüstügi] 学識。[続 70]

【例】 ○○さんだば、こごらであ いずばん かぐすぎの ある しとだな
「○○さんなら、ここらでは一番学識のある人だな」

かぐぜあー [kagürⁿdze:] 角材。[続 70]

【例】 この まるだだば、ほそこえはげあ、かぐぜあーはんて とらんねあな
「この丸太なら、細いから、角材しかとれないな」

かぐぜあー [kağürⁿdze:] 家具材。[続 70]

【例】 この けやぎあ もぐめも ええし かぐぜあーには もてこえだな
「この樺は、木目もいいし、家具材にはもってこいだな」

がくてあー [gakütte:] 楽隊。[続 70]

【例】 おまずりん ずき、わらしだずの がくてあー ではたけあ、ながなが やる おんだな
「お祭りの時、子供らの楽隊が出たっけが、なかなかやるもんだね」

かぐま [kagüma] やまどりぜんまい。ぜんまい科の植物。[及 84]

【例】 かぐま じえんめあど まじがて とて えたど
「やまどりぜんまいをぜんまいと間違がって採って行ったそうだ」

かぐまぎ [kagümagi] 角巻き。毛布の肩かけ。ケット。[及 55]

【例】 かぐまぎも えまだば、きねあなは
「角巻きも、今なら、もう着ないね」

かくらかくら [連語] こっくりこっくり。居眠りするさま。[及 134]

【例】 なんだや かくらかくらて ねぶかぎがは

「なんだい、もう、こっくりこっくり居眠かい」

また、この語は、「がくらがくらーがっくりがっくり」とも使っている。

かぐるみ [kagürümü] さわぐるみ。これは、くるみ科の落葉高木で、材質の軟らかい木なので、木材としての利用価値が少なく、主としてパルプ材として利用されている。[続 70]

かぐれぼつ [kagürebotsü] [名] かくれんぼう。[同] かぐれぼつ。[及 134]

【例】 ○○ちゃん、かぐれぼつ すねあが

「○○ちゃん、かくれんぼうをしないか」

かぐれぼつつ [kagürebottsü] かくれんぼ。[同] かぐれぼつ。[続 70]

【例】 ○○ちゃん、みんなど かぐれぼつつ しねあが

「○○ちゃん、皆とかぐれぼをしないか」

かげあーごむ [kage:gomü] [四他] 抱え込む。[続 70]

【例 1】 びょうにん かげあーごで てあへんだな

「病人を抱え込んで大変だね」

【例 2】 であごん うでさ かげあーごで きた

「大根を腕に抱え込んできた」

かげあへ [kageahe] かけ合わせ。交配。[続 70]

【例】 この べごあ、○○しゅど ○○しゅの かげあへだど

「この牛は、○○種と○○種のかけ合わせだそうだ」

かげあへる [kageaçerü] [動] かけあわせる。交配する。[及 84]

【例】 ええ 種 とるにあ、ええ おのど かげある おんだ

「いい種をとるには、いいものと交配させるもんだ」

かげある [kage:rü] [動] かかえる。雇う。[及 134]

【例】 まづであ まだ 医者 かげあるつけな

「町では、また医者をかかえるそうだな」

かげある [kaŋerü] [動] 凍える。[同] かんげある。[及 135]

【例】 さみくて 手あ かげあるな

「寒むくて、手が凍えるね」

かげげあー [kageŋe:] 掛け替え。[続 70]

【例】 これあ、おれあえの かげげあーのねあ しとりむすこだ

「こいつは、うちの掛け替えのない一人息子なんだ」

かげげあー [kageŋe:] 掛け替え。[続 71]

【例】 この はすも ふるすぐ なたはげあ、かげげあねあど だめだなは

「この橋も古くなったから、もう掛け替えないと駄目だね」

かげじえん [kaŋedʒen] 陰膳。昔は、兵隊に行ったり、出稼ぎに行った人の無事を祈って、留

守宅の人が食膳を供えたものであったが、今はもうこのような風習はなくなってしまっている。[続 71]

かげず 掛軸。[及 48]

【例】 かげずの ねあ とごのまで さっぶけだおんだな
「掛軸のない床の間って、殺風景なもんだな」

かげそぐ [kagesogū] 人手を当てにすること。[続 71]

【例】 しとんどご かげそぐ しねあで おわえの しとぼりで でげねあがや
「他所の人手を当てにしないで、うちの人だけで出来ないのかい」

かげどり [kagedori] 借金の取り立て。[続 71]

【例】 しなおのの かすうりしたな かげどりして こねあんねあな
「品物の貸し売りしていたのを、取り立てて来ないといけないな」

かげどり [kagedori] 寄らないで通り過ぎること。[続 71]

【例】 ないだて おれあえ かげどりして えぐながは、よて おじゃぐれあ ので えてくであ
「まあ、うちに寄らないで行ってしまうんですか、寄ってお茶ぐらい飲んで行って下さいよ」

がげばだ [gagēpada] 崖っ縁。[同] がげっぱだ。がげっぶづ。がげぶづ。[及・続 101・71]

【例 1】 おずで けがすっど えぐねあはげあ、かげばださ えぐなよ
「落ちて怪我をされるといけないから、崖っ縁には行くんじゃないよ」
【例 2】 あぶねあはげあ がげばだん どごで あすぶなよ
「危ぶないから、崖っぶちの所では遊ぶなよ」

かげぼつつ [kajebottsū] 影法師。[同] かげぼつ。[続 71]

【例】 ○○ちゃん、かげぼつつふみして あすぶべや
「○○ちゃん、影法師踏みをして遊ぼうよ」

かこ [kako] [代] かしこ。この語は、「どご = どこ」と一緒などの形だけで使われている。[続 71]

【例 1】 どごさも かこさも
「何処にもかしこにも」
【例 2】 どごにも かこにも
「何処にもかしこにも」
【例 3】 どごも かこも
「何処もかしこも」

かころぶ [動] 転ぶ。[及 135]

【例】 あんまり はしっど かころぶぞ
「あまり走ると転ぶよ」

これは、「ぶづごろぶ一ぶち転ぶ。転ぶの強調語」。「ぶっころぶ一転ぶの強調語」。「ぶころぶ」なども使っている。

がさ [gasa] 嵩。[続 71]

【例】 もみがらずあ、かるこえども がさばて こまる おんだ
「糲殻って、軽いが嵩張って困るもんだね」

かさぎ [kasagi] 造林木にかぶさっている雑木。笠木。[及 84]

【例】 おめあも かさぎ 伐りん えご
「お前も笠木を伐りに行こう」

がざき [gaⁿdzaki] たにうつぎ。これは、すいかずら科の落葉低木である。この木の花には「だに」がよく入る。ということから、「だにばな。だんにばな」などともいった。[続 72]

かさひてあ [kasaçite] かさぶた。[及 14]

【例】 かさひてあ とつど 血あ 出んぞ
「かさぶたをとると、血が出るよ」

かざまづり [名] 風祭り。八月下旬の二百十日前に、台風が来ないようにと、祈願する、お祭り行事の一つをいう。この日は、仕事を休み、獅子舞いなどをし、酒を酌みかわした。[及 135]

かざりおの [kaⁿdzariono] 飾り物。[続 72]

【例】 あだらす え たでではげあ とごのまさ かざりおの おすな
「新しい家を建てたから、床の間に飾り物が欲しいね」

かじえ [kaⁿdze] 風。[及 101]

【例】 こどすあ めっぼ かじえの ふぐ 年だな
「今年はめっぼう風の吹く年だな」

かじえ [kaⁿdze] 風邪。[及 14]

【例】 かじえ ひだら、あたこぐして 早く 寝ろは
「風邪をひいたら、暖かくして早く寝てしまいなさい」

かじえたでる [kaⁿdzetaderü] 数え立てる。[続 72]

【例】 しとの あら いずいず かじえたでる ごどあ ねあべや
「人のあらをいちいち数え立てることはないじゃないか」

なお、この語の可能うちけし形は、「かじえたであらんねあ。かじえたであならねあ＝数えたてられない。数え切れない」といつている。

かじえとす [kaⁿdzetosü] 風通し。[続 72]

【例】 なすあ かじえとす えぐ なるよん はなして ゆえろよ
「茄子は、風通しがよくなるように、離して植えろよ」

かじえとす [kaⁿdzetosü] 数え年。[同] かじえどす。[続 72]

【例】 これも かじえとす やつだはげあ こんだ がっこだは
「こいつも、数え年八つだから、今度はもう学校だね」

かじえのこ [kaⁿdzenoko] 風の子。[続 72]

【例】 わらしたずあ かじえのこて いうども えぐ おもでで あすぶ おんだな
「子供は風の子というのが、よく外で遊ぶものだね」

かじえのさぶろ [kaⁿdʒenosabüro] 風の三郎。風をいう。[続 72]

【例】 あんまり きがねあど、かじえのさぶろに さらわえんぞ
「あまりきかないと、風の三郎にさらわれるよ」

かじえのたより [kaⁿdʒenotajori] 風の便り。[続 72]

【例】 かじえのたよりん きだあだども、○○さん てあへん しゅっせしたつけな
「風の便りに聞いたんだが、○○さんは大変出世したそうだね」

かじえひぎ [kaⁿdʒehigī] 風邪引き。[続 72]

【例】 みんな おれあ かじえひぎだどて かじえばなぐ すんなだぜあ
「皆、私が風邪引きだからといって、仲間外れにするんだよ」

かじえる [kaⁿdʒerü] [動] 数える。仲間に入れる。[及 135]

【例 1】 あづばた しと かじえでみろ
「集まった人を数えてみろよ」

【例 2】 ばいこさ おめあ どごも かじえるな
「鬼ごっこに、君んところも入れるね」

かしぎ [kasigī] 大きな雪かきべら。主として屋根から雪をおろす時に使う木製の大きなへら。[及 62]

かしやぎ [kaʃaŋi] 柏。[及 84]

【例】 こごらにあ かしやぎあ ねあな、さみはげあだべ
「この辺には、柏がないね、寒いからだろうな」

かすかみづげる [kasükamidzügerü] [動] [強調] 捕まえる。捕まえるの強調語。[及 135]

【例】 きがねあど かすかみづげで しばんぞ
「きかないと、捕まえて縛るよ」

かすげあー [kasüŋe:] 鏝。[同] つかみ。[続 73]

【例 1】 げやさは かすげあ つかえよ
「下屋には鏝を使えよ」

【例 2】 こは かすげて いう おんだ
「子は鏝というものだよ」

かすます [kasümasü] [形] 姦しい。[続 73]

【例 1】 わらしたずあ かすますくて テレビあ きげねあ
「子供らが姦しくて、テレビが聞えないよ」

【例 2】 かすます ごど いうな ほんた ごどあ とっくん わがてだ

「姦しいことをいうんじないよ、そんなことはとっくに分っているんだ」

かすらえる [kasūraerü] 軽い中風になること。[続 73]

【例】 ○○さん かすらって ねだつけな

「○○さんは、軽い中風になって、寝ているそうだな」

かずれずに [kadzüreⁿdzüni] 餓死。飢え死に。[続 73]

【例】 むがすあ けがずで、くう おのあ ねあくて、かずれずに する しとも いでったど

「昔は飢饉で、食う物がなくて、餓死する人もおったそうだよ」

かだ [kada] [名] 方。[及 135]

【例】 ○○さんだば しも かださ えぐけな

「○○さんなら 下の方に行くっけよ」

かだうり [kadaürri] しろうり。漬物用の瓜。[及 84]

【例】 おれあ えでも かだうり えっぺあ ゆえた

「うちでもしろ瓜をいっぱい植えたよ」

かだかげにんな [kadakageninna] 肩掛け荷縄。これは、荷車や櫓を曳く時、肩に掛けて曳く荷縄をいい、肩に当たる部分を巾広く作り、肩に痛みを与えないように作ったものである。[続 73]

かだがだ [kadanada] [副] よくよく。[及 135]

【例】 え おの もらて よろごでだけて かだがだ ゆてころ

「いいもの頂いて、喜んでおった、とよくよく伝えて下さい」

かだがる [kadanarü] [動] 傾むく。覗く。見舞う。[及 135]

【例 1】 どであ くさて、えあ かだがて きた

「土台が腐って、家が傾いてきたよ」

【例 2】 ○○さん 元気だが 来た つで かだがて えくが

「○○さん元気だろうか、来たついでに覗いて行こうか」

【例 3】 入院したつけあ かだがて えくべ

「入院しているそうだから、見舞って行こう」

かだぎ [kadagi] 堅木。これは、材質の堅い樺、檜、杉などで、樫以外の木は主として木工に使い、樫は材が狂いを生じ易いので、パルプ材として使用されている。[続 73]

かだぐづ [kadagüdzü] 片口。片口弁。[及 48]

【例】 こがの たまり かだぐづさ もてこえ

「桶のたまりを片口に持っておいで」

かだくび [kadakübi] [名] 肩車。[同] かだこ。くびこ。つんこのり。[及 135]

【例】 めえ かだくび すんべ

「坊や、肩車をしようや」

かだぐるす [kadanürüsü] [形] 堅苦しい。[続 73]

【例】 ほんげあ かだぐるすぐ ひじやなの つがねあで、おらぐん してくだせあ
「そんなに堅苦しく膝なんかつかないで、お楽にして下さいよ」

～がだげ [~gadage] 片食。食事の回数。[続 73]

- 【例 1】 しとがだげ
「一片食」
【例 2】 したがだげ
「二片食」
【例 3】 みいがだげ
「三片食」

かだご [kadaŋo] かたくり。ゆり科の植物で、この根から澱粉をとり、かたくり粉といった。[及 84]

また、この花を「ほけちよばな一鶯花」といったが、これは、鶯が鳴き始める頃咲くので、この名がある

かだこび [kadakobi] [名] 片方。一方。[及 135]

- 【例】 ズック かだこび どさ やた
「ズック靴、片方何所へやったの」

かだした [kadasita] 片方。[同] かだこび。かだっぽ、かだびた。[続 73]

- 【例】 くずした、かだした どさ やたや、あらてくえっさげあ、もて こえ
「靴下、片方何処へやったの、洗ってやるから、持って来なさい」

かだずげねあ [kadaⁿdzüŋeŋe] [形] 忝ない。[続 74]

- 【例】 いっつも こんげあ すんへずん してもらて、かだずげねあ ごどなおす
「何時もこんなに親切にしてもらって、忝ないですわね」

かだづぐ [kadaⁿdzüŋüü] [動] 片付く。整理される。嫁ぐ。[及 135]

- 【例 1】 つらがした どご かだづげで おげ
「散らかした所を片付けておきなさい」
【例 2】 あの 娘も かだづぐ どごだどは
「あの娘も、もう嫁ぐところだそうだよ」

かだつつがだつつ [kadattsüŋaⁿdattsüü] [名] かたちんば。片方つつ。[及 136]

- 【例】 はぎおのあ かだつつがだつつだぞ
「履物が片ちんばだよ」

かだっぱす [kadappasüü] 片端。[同] かだっぱず。かだばす。かだばず。[続 74]

- 【例】 じゅんじょ えぐ かだっぱすがら かだずげんべ
「順序よく、片端から片付けよう」

かだつぶ [kadatsübüü] かたつむり。でんでん虫。[続 74]

【例】 ねいちゃん、かたつぶて、つの だしたり ひこめだり する おんだなや
「姉ちゃん、かたつむりって、角を出したり引っ込めたりするもんだねー」

かだつら [kadatsūra] [名] 片面。片側。[同] かだびら。[及 136]

【例】 かだつら まだ かわがねあな
「片面がまだ乾かないな」

かだびら [kadapira] 片斜面。[同] かだつら。[及 101]

【例】 かだびら 急で なであ つぐ どころだ
「片斜面は急で、雪崩のつく所だよ」

かだめのさがづぎ [kadamēnosagaⁿdzūgi] [名] 婚約や結納の祝宴。[同] かだめのさがづげ。[及 136]

【例】 目出てあな、今日は かだめのさがづぎ もらう 日だ おん
「目出たいね。今日は結納 を貰う日だもの」

かだもれあ [kadamore] 片貰い。返礼しないで貰うこと。[続 74]

【例】 まず おれあえてばり えっかだ かだもれあで きのどぐですな
「まあ、うちでばかり何時も何時も片貰いでお気の毒ですね」

かだゆぎ [kadajūgi] 堅雪。これは、春先何回か雨が降り、夜気温が下がって、積雪が堅くなり、ぬからずに歩けるようになった雪をいう。[続 74]

かだゆぎわだり [kadajūgiwadari] 堅雪渡り。これは、堅雪を子供らが遊び歩くことをいう。子供らは、この堅雪の上を、わらべ唄などを唄いながら歩いたり、斜面をぼうすべりしたりして、堅雪渡りを楽しんだものだが、今の子供にはもうない遊びである。[続 74]

かだよへる [kadajoheru] [下一他] 片寄せる。[続 74]

【例】 はぎおのあ へありくずの まんながさ ぬがねあで わきさ かだよへで ぬげ
「履物は、入口の真ん中に脱がないで、わきに片寄せて脱ぎなさい」

かだる [kadaru] [動] 語る。[及 136]

【例】 ずんつあん むがす かだるつけ
「お爺さいが、昔話を語ると、いっておったよ」
この語には、「かだっちゃー語れよ。語ってくれよ」、「かたっどー語ると。語るそうだ。などの使い方がある。

かちやばぐ [katjabagu] [動] ひっかく。[及 136]

【例】 がが あんつあ かちやばぐ
「お母さん、兄さんがひっかくよ」

かつ～ [kaQ~] [接頭辞] 強調の接頭辞。主意を強める語。[続 74]

【例 1】 かつきる
「切る」

【例 2】 かつくらわへる
「くらわす。叩く」

【例 3】 かつつあらう
「さらう」

【例 4】 かつとばす
「飛ばす」

【例 5】 かつちょう
「背負う」

かつか [käsüka] かじか。川に棲む魚。また、夜かじか捕りをするを「よがつか」といった。
[及 84]

【例】 ○○さん、ばんげ かつかつぎん えぐべや
「○○さん、今夜かじか捕りに行こうや」

がっかげ [gakkage] 崖。断崖。[同] がんくら。がんけづ。[続 74]

【例】 ○○ん どごあ がっかげん なてで おかねあ どごだ
「○○のところは、崖になっていて、おっかない所だな」

かつかつ [katsükatsü] [ノダナ] かちかち。[続 75]

【例 1】 すみで どうろあ かつかつだ
「凍って、道路がかちかちだよ」

【例 2】 あだま かつかつで ゆうずうあ きがねあ
「頭がかちかちで融通がきかない」

がっがつ [gatsügatsü] [ノダナ] がちがち。[続 75]

【例 1】 さがな がっがつん すみだ
「魚ががちがに凍っている」

【例 2】 がっがつど もうげる かんじよだ
「がちがちと儲けるつもりだ」

かつき [katsükü] のりうつぎ。これは、ゆきのした科の落葉矮性木で、昔は人が死ぬと、棺にこの木を杖として入れ、無事に三途の川を渡れるようにと願ったが、今は使わなくなった。[続 75]

がっき [gakkü] 段。階段。山や野原などで段になってい所や石段、階段などをいう。[及 102]

【例】 あそごの がっきまで 登んべ
「あそこの段になってい所まで登ろう」

がっきめあ [gakkime] 餓鬼米。壇家が寺に納める米。[及 136]

【例】 がっきめあ 納めでころど
「がき米を納めてくれて」

がっきり [gakkiri] [副] ごつんと。[及 136]

【例】 あんまり きがねあど がっきり やんぞ

「あまりきかないと、ごつんとやるよ」

かつぐ [katsüügü] [動] 追いつく。[及 136]

【例】 まだ かつぐえ えてみる

「まだ追いつけるから行ってみなさい」

かづぐ [kadzүүü] [動] 荷なう。かつぐ。だます。推す。[及 136]

【例 1】 ほれあ おれあ かづぐべ

「それは、私が荷なおう」

【例 2】 しとんどご かづぐ きだな

「人をだます気だな」

【例 3】 あの しと 村長に かづぐべ

「あの人を村長に推そう」

かっくし 伐り株。[同] ぼっこ。[及 84]

【例】 杉の かっくし さ すぎかのが てる おんだ

「杉の伐り株には、すぎひらたけ(きのこ)が出るもんだよ」

かっくす [kakkүүsü] 木の伐り株。[続 75]

【例】 ほごの かっくす さ ねまて しとやすみ すっが

「そこの木の伐り株に坐って一休みしようか」

がっくるめる [gakkүүrүүmөrүү] [下一他] 引っ括める。[続 75]

【例】 この にすんど、ゆわすど、さげ がっくるめで なんぼだ

「この☒と、鯛と鮭を引っ括めて、幾らですか」

かっくれあ [kakkүүrө] (蚊や蝨の) 刺した跡。[続 75]

【例】 かっくれあ とがめで はっで きたはげあ くすり つけねあんねあな

「蚊の刺し跡をとがめて、腫れてきたから、薬を付けないといけないな」

がっけ [gakke] 出額。ひたいの出ていること。[続 75]

【例】 これあ、だれん にだ おんだんだが、がっけだ おんだ

「こいつは、誰に似たものなのか、出額なもんだね」

かっこ [kakko] [名] 格好。[及 23]

【例】 ○○の 娘さんは かっこあ え しとだな

「○○の娘さんは格好のいい人だね」

かっこ [名] 格好。[及 136]

【例】 みろ えあづあ かっこ つけで

「みろよ、あいつは格好をつけて」

かっこ ^{かっこう} 郭公。ほととぎす科の鳥。[及 84]

【例】 かっこあ なぐよんた へづあ 早ぐ こねあがな

「かっこの鳴くような季節が、早く来ないかな」

かっこ [kakko] 蚕座。蚕を飼育する箱。[及 70]

【例】 おごさま おっきぐ なたはげあ べづの かっこさ うづすべ
「蚕が大きくなったから、別の蚕座に移そう」

がっこ [名] 学校。[及 136]

【例】 これも こどしから がっこだな
「これも、今年から学校に入るんだな」

かっこべ [kakkobe] 腰に下げる籠。[及 62]

【例】 かっこべ 下げで、栗拾いんでも えぐなが
「籠を下げて、栗拾いにでも行くのかい」

かっこべ [kakkobe] かたばみ。これは、かたばみ科の多年生草本で、路傍に生える雑草である。
[続 75]

かっこべ [kakkobe] 腰かご。これは、腰に付けて歩く小型の籠で、摘み取った野菜などを入れて歩くもの。[続 75]

がった [gatta] [連語] だった。[及 136]

【例】 忘年会だば おれも えぐがった
「忘年会なら、私も行くんだった」

かったぎる [kattanjiruu] [四他] ぶった切る。これは、雑木やつるものなどをぶった切ることをいう。[続 75]

かったり [kattari] [形] かったるい。[続 76]

【例】 あつなきな ねぶそぐ したへだが からだ かったりなよ
「暑いのに、寝不足をしたせいなのか、体がかったるいんだよ」

がったり [gattari] [副] がっくり。[及 137]

【例】 つあつあん 死なっで がったり 気おづしたは
「お父さんに死なれて、がっくり落胆してしまったよ」

かったるえ [kattaruue] かったるい。くたびれてだるい。[及 23]

【例】 このごろ 体かったるえなよ どごが えぐねあだべが
「この頃、体がかったるいんだよ、どこか悪るいんだろうか」

かっちや [名] 逆さ。[及 137]

【例】 ほれ かっちゃん すんなよ
「それを逆さにするなよ」

かっちやぐ [kattjaguu] [四他] 引っ掻く。[同] かちゃばぐ。[続 76]

【例】 ねごこあ じゃらげで かっちやぐ おんで ひで おんだ
「仔猫がざれて引っ掻くもんで、ひどいもんだよ」

かっちやま [kattʃama] [名/ダナ] 逆様。[同] かっちや。[続 76]

【例】 ほれ かっちやまん おくど、ながの おのあ こぼれんぞ
「それを逆様に置くと、中のものがこぼれるよ」

かっちやむぐれん [kattʃamügüreŋ] [副] 逆に。[同] かっちやまぐれん。ぎゃぐん。[続 76]

【例】 おわ えぐねあくて、かっちやむぐれん おれあどさ かがて くんなだぜあ
「自分が悪いのに、逆に私にかかってくるんだよ」

かっちよわす [kattʃowasü] [強調] せわしい。せわしいの強調語。[及 23]

【例】 この えそがすなさ なに かっちよわす ごど いうなだ
「この忙しいのに、何をせわしいことをいうんだ」

かっつあな [kattsana] わらを打たないでなった縄。[及 70]

【例】 かっつあなだば すぐ きつて だめだぞ
「打たないなつた縄は、直ぐ切れて駄目だよ」

かっつあな [kattsana] 打って軟らかくしない藁でなつた縄。これは、普通は木槌で、藁を打ち、軟らかくしてからなうのであるが、「かっつあな」は、藁を打たないで縄なつた縄をいう。[続 76]

かっつあらう [kattsaraü] [動] [強調] さらう。かっばらう。さらうの強調語 [同] ひっつあらう。[及 137]

【例 1】 ほごの わら、かっつあらて まどめで おげ
「そこのわら、さらって、まとめておきなさい」

【例 2】 小屋の あづぎ 誰がに かっつあらわだは
「小屋の小豆、誰かにかっばらわれてしまったよ」

かっつあわら [kattsawara] 打って軟らかくしない藁。これは、木槌で打たない、刈ったままの藁をいう。[続 76]

かっつおそ [kattsoso] [名] [強調] 粗相。粗相の強調語。[及 137]

【例】 かっつおそな おんだはげあ こんだ 茶碗 わたどは
「粗相なものだから、今度は茶碗を割ってしまったそうだ」

かっつぎる [kattsüŋjirü] [四他] 食い千切る。[続 76]

【例】 は え おんだ、あの かであな かっつぎた おんだ
「歯がいいもんだ、あの固いのを食い千切ったもんだ」

がっつと [gattsütto] [副] がっちり。[続 76]

【例】 がっつと つかでろよ、ゆるめつど たおれんぞ
「がっちり掴んでおれよ、弛めると倒れるよ」

がっつら [gattsüura] [副] ごつんと。[続 77]

【例】 こらっ、あんまり きがねあど がっつら やんぞ

「こらっ、あまりきかないと、ごつんとやるよ」

がっつり [gattsürī] [副] がっしり。[続 76]

【例】 ○○さんだば、からだも がっつり してるす、おどごぶりも ええ しとだなや
「○○さんなら、体もがっしりしているし、男振りもいい人だね」

かっとぐ [kattonjü] [動] とかす。髪をとかすこと。[及 137]

【例】 えま かみ かっとぐ どごだ
「今、髪をとかすところです」

かっぱあげ [kappaage] いととんぼ。かわとんぼ。いととんぼ、かわとんぼ類の総称。[及 84]

【例】 なしてだが、近頃あ かっぱあげも あんまり めねあなは
「どうしてなのか、近頃はいととんぼの類もあまり見えなくなってしまったな」

かっぱあだま [kappaadama] 短かく刈り込んだ頭。[続 77]

【例】 おめあだば かっぱあだま にやうな
「お前なら短く刈り込んだ頭が似合うね」

かっぱずす [動] 間違える。[及 137]

【例】 かっぱずして したあだはげあ ごめんしてころ
「間違えてしたのですから、ご免して下さい」

かっぱだれ [kappadare] [名] ずぶ濡れ。水に落ちて濡れること。[同] かぶだれ。[及 137]

【例】 へげさ おづで かっぱだれ したは
「用水路に落ちて、ずぶ濡れになってしまったよ」

かっぱらう [kapparaü] [動] 刈払う。[及 70]

【例】 はだげの ほどりあ かっぱらて おぐ おんだ
「畑のほとりは、刈払っておくもんだ」

がっぱり [gappari] [副] ごっそり。[同] がっぼり。がぼっと。ごっぺり。[及 137]

【例】 すこす もて えげて ゆたな がっぱり もて えたは
「少し持って行け、といったのに、ごっそり持って行ってしまった」

かっぱれあ [kappare] 掻っ払い。[続 77]

【例】 とかいさ えぐど かっぱれあ いっさげ きい つけるよ
「都会に行くと、掻っ払いがいるから、気をつけろよ」

かづぶす 鯉節。[及 38]

【例】 近頃あ、かづぶすゆり、けづりぶす 使うよん なたな
「近頃は、鯉節より、削り節を使うようになったね」

かっぺずる [動] [強調] 削る。削るの強調語。[同] けっぺずる。[及 137]

【例】 みづ つぐるて 田 かっぺずっど
「道を作る、というので、田を削るそうだ」

かづる [動] 噛じる。[及 137]

【例】 この わらすあ かん たがたな、しとんどご かづる おん
「この子は瘡が強いな、人を噛じるもの」

かづればえど がつがつ食う者。飢えた乞食のようにがつがつ食う者。[及 4]

【例】 かづればえどみであんた くいがだ する おんでねあ
「飢えた乞食のような食べ方をするもんじゃないよ」

かづれる [動] 餓える。[及 137]

【例】 けがづん なっど しとあ かづれるばりだは
「飢饉になると、人はかつえるばかりだよ」

かであ [kadε] 固い。[及 23]

【例】 この もづあ かであ ごど あぶてころや
「この餅は固いな、焼いてくれよ」

かでもま [kademama] 糰飯。[続 77]

【例】 おらだ ちっちえあ ずぎあ、じょんであ かでもま かへらっだ おんだ
「私達の小さい時は、始終糰飯を食べさせられたものだよ」

がど [gado] [名] 鉄橋。[及 138]

【例】 おかねあはげあ がどなの わだんなよ
「おっかないから、鉄橋なんが渡るんじゃないよ」

かどいし 石英などの堅い石。[及 102]

【例】 むかしあ かどいしで 火 出した おんだど
「昔は石英などで、火を出したものだそうだよ」

かなおの 金物。[及 62]

【例】 かなおの とえで おがねあんねあな
「金物を研いでおかないといけないな」

かながら [kanaɲara] [名] 鮑屑。[同] かなながら。[及 138]

【例】 ほごの かながら もやしてしまえは
「そこの鮑屑は、燃やしてしまいなさいよ」

かながんずぎ [kanagandzūgi] 鉄製の足につげる滑べり止め。櫓で物を運ぶ時に使うすべり止めで爪が三つ付いている。[及 62]

【例】 かながんずぎ わすねあで もて えごよ
「滑べり止めを忘れないで持って行くんだよ」

かなぐる [kanaɲūrū] [四他] ひったくる。[続 77]

【例】 おめあ にいちゃんだはげあ、いもうとの もてだ おの かなぐらんねあんだな
「お前は兄ちゃんだから、妹の持っているものをひったくられないものだよ」

かなぐる [kanaɟürü] [動] ひったくる。[同] かなぐる。ひなぐる。[及 138]

【例】 しとの おの ぐえら かなぐりあがて
「人の物を、ぐいとひったくりやがって」

かなす 悲しい。[及 23]

【例】 世のながにあ かなす ごども うれす ごども ある おんだ
「世の中には、悲しいことも嬉しいこともあるもんだよ」

かなずば [kanaⁿdzüba] 下駄スケート。これは、昔（大正時代）、下駄の下に1～1、5cm位の
の金属板を取り付けたスケートを、雪の上（道路）を滑べったが、このスケートをいう。[続 77]

かなだれあ [kanaⁿdare] 金だらい。金属の洗面器。[及 48]

【例】 ござ おえっだ かなだれあ どさ もて えた
「ここに置いてあった金だらい、どこへ持っていったの」
また、洗面器を「せめんき」、「へめんき」などと使っていた。

かなちよろ かなへび。[及 85]

【例】 ほごの いしがぎん だごから かなちよろあ 出はて来たけ
「そこの石垣の所から、かなへびが出て来たつけ」

かなつぼまなぐ [kanatsübomanagü] 金つぼまなこ。[続 77]

【例】 ○○さんだば、かなつぼまなぐだ しとだはげあ、あうど すぐ わがる
「○○さんなら、金つぼまなこな人だから、会えば直ぐ分りますよ」

かなや [kanaja] 鉄の楔。これは、専ら立木の伐倒用として使用される、鉄製の楔をいう。特に材
質の堅い木を倒す時に、よく用いられる楔である。[続 77]

がなる [ganarü] [四自他] 怒鳴る。[続 77]

【例】 ないだて めっぼ がなる おんだ ほんげあ がならねあて わがる
「まあ、滅法怒鳴るもんだ、そんなに怒鳴らなくても分るよ」

かね 曲り金。[及 62]

【例】 ほごの かね つだしてくんねあが
「そこの曲り金をよこしてくれ」

かね [kanɛ] 単価。[続 77]

【例】 この たまな いちきろ なんぼ かねだや
「このキャベツは、1kg 当りの単価は幾らなの」

かねあ [kanɛ] 家内。家族。[及 4]

【例】 うづの かねあ 5人だ
「うちの家族は5人です」

かねある [kanerü] [下一他] 叶える。[続 78]

【例】 のぞみ かねあられるよん、かみさまさ たのでみんだ

「望みが叶えられるように、神さまに頼んでみるんだね」

かねある [kanerü] [下一他] 兼ねる。[続 78]

【例 1】 きょうあ えぎかねあっさげあ よろすぐ たのむ

「今日は行き兼ねるから、よろしく頼むよ」

【例 2】 この ぎすぎあ おじゃのまど ままくうどご かねあでんなだ

「この座敷は、居間と食堂を兼ねているんだ」

かねえれ [kanęęre] 財布。これは、もう使わなくなった古い言葉である。[同] せあふ。ぱっく。

がまぐず。[続 78]

かねじゃぐす [kanęzagüüstü] [名] かね杓子。金属の杓子。[及 280]

【例】 ほごの かねじゃぐす つだしてころ

「そこのかね杓子をよこしてくれ」

かねつけあ [kanetsüke] 金遣い。[続 78]

【例】 ないだべじゅ、この わらすあ、かね ころ かね ころて、かねつけあの あれあ ごど

「なんだろうね、この子は、金をくれ金をくれって、金遣いの荒いこと」

かの 鮭と鱒の雄をいう。[及 85]

【例】 この さげあ ちちゃこえ おの かのだな

「この鮭は小さいもの、雄だな」

かの [kano] 原野を刈り払っただけで、桑などを植えた土地をいう。これは、養蚕の盛んな時代、原野を刈り払い、桑を植える穴だけを掘り、桑を植えたが、このよな土地を「かの」と呼んでいた。

[続 78]

がは [gaha] [連語] もう……か。しまったのか。[及 138]

【例 1】 東京さ えがねあながは

「もう東京へ行かないのか」

【例 2】 ぼこしたながは

「こわしてしまったのか」

～がは [～gaha] [接尾辞] もう……かい。[続 78]

【例 1】 えたがは

「もう行ったかい」

【例 2】 くたながは

「もう食べたのかい」

【例 3】 とずだながは

「もう届いたのかい」

【例 4】 あらたがは

「もう洗ったかい」

【例 5】 きたながは

「もう来たのかい」

がばがば [gabagaba] [副] ごわごわ。[続 78]

【例】 この つぎ ぬらしたな ほしたば がばがば なたは
「この布、濡らしたのを乾したら、もうごわごわになってしまったよ」

がばさみ トラップ。金属製のわな。[及 62]

【例】 きづね とる がばさみ かげで くる
「狐を捕るわなをしかけて来るよ」

かばね 体。[同] らってあ。[及 10]

【例】 これあ かばねなのばり 大きくて 泣ぎめそだ おん
「こいつは体ばかり大きくて泣き虫なんだよ」

かぶかぶ [kabūkabū] [幼児語] 頭を振る遊び。[続 78]

【例】 め、かぶかぶ してみろ
「坊や、頭を振ってみなさい」

がふがふ [gaφūgaφū] [副] だぶだぶ。[続 78]

【例】 この スポン へあでみだば がふがふだはげあ とりげあでこねあんねあ
「このズボンは、履いてみたら、だぶだぶだから、取り替えないといけないな」

かぶけくせあ [kāpūkekūse] [形] 黴臭い。[続 79]

【例】 おすえれの ふとん かぶけくせあな だして ほへちや
「押し入れの布団かび臭いな、出して干せよ」

かぶけぼず [kāpūkemo^odzū] 女。女への悪態語。[同] かぶけへな。[続 79]

かぶけもず [kāpūkemo^odzū] かびた餅。[続 79]

【例】 かねあで おえっだば、この もずあ かぶけもずん なたなは
「食べないで置いたら、この餅は、かび餅になってしまったな」

かぶけやろ [kāpūkejaro] 男への悪態語。[続 79]

【例】 この かぶけやろあ ない すんなだ
「このかび助が、何をするんだ」

かぶける [動] かびる。かびの生えること。[及 138]

【例】 にゅうべあにあ ものあ かぶける おんでな
「入梅には、いろいろの物がかびるもんでね」

かぶこ [kāpūko] 蕪。[続 79]

【例】 こどすあ かぶこも ゆえねあんねあな、つけおのん すんな おすはげあ
「今年は蕪も植えないといけないな、漬け物にするのが欲しいから」

かぶさ 野菜の茎葉の付け根。[及 85]

【例】 かぶさん どごあ つづ つでっさげ えく 洗えよ

「茎葉の付け根のところは、土がついているから、よく洗うんだよ」

かぶずぐ [kabüdzüügü] [四自] かぶりつく。[続 79]

【例】 せえがん だしたら、いきなり かぶずだ おんだけ
「西瓜を出したら、いきなりかぶりついたもんだっけ」

かぶずぐ [kabüdzüügü] [四他] 噛み付く。[続 79]

【例】 いぬん かぶずがっだて、んだら、はえあく えしやしき えげ
「犬に噛み付かれたって、そんなら、早く医者に行きなさい」

かぶだれ [kabüdarē] 水中に落ちて、ずぶ濡れになること。[続 79]

【例】 ○○ちゃん、うらの たなげさ おずで、かぶだれ しまったけ
「○○ちゃんが、裏の池に落ちて、ずぶ濡れになっていたっけ」

かぶへる [kabühērū] [下一他] 被せる。[続 79]

【例】 この シャップ、したの やろこあ おっきぐ なたら かぶへる ごどん すんべ
「この帽子、下の男の子が大きくなったら被せることにしよう」

かぶりおの かぶりもの。[及 55]

【例】 ぬれっさげあ かぶりおの かぶて えげよ
「濡れるから、かぶりものをかむっていきなさいよ」

かへぎ [kaheḡi] 稼ぎ。[続 79]

【例】 おめあ えであ おどごしたずあ したりも いっさげあ ええ かへぎん なっであ
「お宅では、男衆が二人もいるから、いい稼ぎになるわね」

かへぎと [kaheḡ(ŋ)ito] 働き手。労働者。[及 4]

【例 1】 おれあえの かへぎとあ これ したりぼりだ
「うちの働き手は、こいつが1人きりなんです」
【例 2】 おらみであんた かへぎとあ 着る おんでねあべ
「私のような労働者の着るものではないでしょう」

かへぎと [kaheḡito] 働き手。[続 79]

【例】 おれあえであ、かぞぐあ ろぐにんも いんども、かへぎとあ したりぼりだ
「うちでは、家族は6人もいるが、働き手は1人ばかりなんだよ」

かへぐ [動] 稼ぐ。働く。[及 138]

【例】 かへがねあば まま かんねあんだしな
「稼がないと、ご飯が食べられないしな」

かへつと [kaheḡtto] [副] ほっそり。体がやせているさま。[同] かへらつと。かしえつと。かしえらつと。がへあねあ。かぼそえ。[続 80]

【例】 ○○さんは、へあ たげあども からだ かへつと してるな
「○○さんは、背は高いが、体はほっそりしているね」

かへる [動] 食わせる。食べさせる。[及 138]

【例】 この わらしたづさ かへるにあ よういんねあ おんだ
「この子供らに食べさせて行くには、容易でないものだよ」

かへる [kaɸerü] [動] 食わせる。[及 38]

【例】 せえがん かへる つもりであった えたながは
「西瓜を食べさせるつもりだったのに、もう帰へったのかい」
この語には、「かえる—食われる」。「かっだ—食われた」、「く—食う」、「くいであ—食いたい」、「くえ—食べられる」、「け—食べる。食べなさい」、「けねあ—食べれない」などの使い方があある。

がほがほ [gahogaho] [副] だぶだぶ。[及 138]

【例】 この ズボンあ がほがほだ
「このズボンはだぶだぶだよ」

かまいだず [kamaïdaⁿdzü] かまいたち。[続 80]

【例】 おれあ ちっちえあ ずぎ かまいだずん やらっであった
「私は小さい時、かまいたちにやられたったよ」

かまぐづ [kamaɸüdzü] 炭がまの口。[及 70]

【例】 かまぐづ くえんな つづ おすな
「炭がまの口をふさぐ土が欲しいな」

がまぐづ [gamaɸüdzü] さいふ。口金のついた賤布。[及 48]

【例】 がが おれあ がまぐづ すらねあが
「お母さん、私の賤布を知りませんか」

かまけあす [動] 倒産する。身上をつぶす。[同] かまどけあす。かんまけあす。[及 138]

【例】 ○○さん かまけあす どごだどは
「○○さんは、倒産してしまうところだそうだよ」

かまこ やかん。鉄びん。[及 48]

【例】 かまこさ 湯あ へあてねあぞ
「やかんにお湯が入っていないよ」

かます [動] かきまわす。かき混ぜる。[及 138]

【例 1】 ほごら あだり かますなよ
「その辺をかきまわすなよ」

【例 2】 えぐ かまして おげよ
「よくかき混ぜておげよ」

かます 煙草入れ。刻み煙草を入れる袋。[同] たばこれ。どんきづ」ともいった。。[及 48]

【例】 おめあのかますあ 皮だなや
「あなたの煙草入れは、皮だね」

～がます [~ɲamasü] がましい。[続 80]

- 【例 1】おすずげがます
「押し付けがましい」
- 【例 2】でしゃばりがます
「でしゃばりがましい」
- 【例 3】せあそぐがます
「催促がましい」

かまつぎ [kamatsügī] かまつぎ。炭がま作り。[及 70]

- 【例】 今日から、かまつぎ しねあんねあな
「今日から、かま築きをしないとイケないな」

かまつず [kamatsüdzü] かま土。炭がまを作る土。[続 80]

- 【例】 この つかぐに、かまつずの ええな ねあんだが さがさねあんねあな
「この近くに、かま土のいいのがないだろうか、さがさないといけないな」

かまど [kamado] 果物の芯。[及 85]

- 【例】 ほの りんご よごへ かまど とてくえっさげあ
「そのりんごをよこしなさい、芯をとってあげるから」

かまどもず [kamaⁿdomodzü] 主婦の座。これは、家計費を受け持つ主婦の座をいう。[続 80]

- 【例】 こんだ よめん かまどもずん なてもらたは
「今度は、嫁に主婦の座をゆずってしまったよ」

かまぶぐ [kama^mbügü] かまぼこ。[及 39]

- 【例】 さげの さがなん かまぼごでも つけっが
「酒の肴にかまぼこでもつけようか」

かみかだ [kamikada] 上流の方。これは単に「かみ」ともいい、その反対を「しもかだ」、または「しも」といっている。[及 102]

- 【例】 ○○さんの えが、村の いづばん かみかだの えだ
「○○さんの家ですか、村の一番かみの方の家です」

かみすんべあ [kamisünbe] 紙芝居。[続 80]

- 【例】 きょう がっこで、むがすばなすの かみすんべあ めへだけ
「今日、学校で、昔話の紙芝居を見せたっけ」

かみぜあーぐ [kamiⁿdze:gü] 紙細工。[続 80]

- 【例】 がっこで、こうさぐの ずがん、かみぜあーぐで、おら え つくた
「学校で、工作の時間に、紙細工で、僕は家を作ったよ」

かみめあーり [kamime:ri] 神参り。[続 80]

- 【例】 みんな ○○さまさ かみめあーり えぐつけあ おめあも えがねあが

「皆○○さまに神参りに行くそうだが、あなたも行きませんか」

がむし [gamüsü] ひげながとびけらの幼虫。水棲昆虫で、釣りの餌になる。[同] がんむし。[及 85]

【例】 つぎざっこ つんなだば がむしくれあ えな ねあ

「はやを釣るんだったら、ひげながとびけらの幼虫ぐらいよい餌はないよ」

かめある [kamerü] [動] 構える。座を占める。[同] かんまぐ。かんめある。[及 138]

【例】 しねあ かめあつぎあ こげあ する おんだ

「竹刀を構える時は、こうするもんだよ」

がめつ [gametsü] [形] がめつい。[続 80]

【例】 あれだば がめつ おんで あぎっでしまうな

「あいつなら、がめついもんであきれてしまうよ」

かめのご [kameŋogo] 亀。[続 81]

【例】 おとうさん きんな まつき えて つっちえあ かめのご かて きたけ

「お父さんが、昨日町に行って、小さい亀を買って来たっけ」

かめばづ すずめばち。すずめばち科の蜂。[及 85]

【例】 かめばづに ささえっど ほれごそ いであぞ

「すずめばちに刺されると、それこそ痛いよ」

がめる [gameŋü] [四他] 盗む。ごまかして盗る。[続 81]

【例】 ごわ とて、しわだなて、がめる がんじょしたて だめだ

「5束取って、4束だなんて、ごまかし盗るつもりをしても駄目だよ」

かもう [動] かまう。いじめる。[及 138]

【例 1】 わらすずあ あんまり かもう おんでねあ

「子供というものは、あまりかまうもんじゃないよ」

【例 2】 ○○ちゃん かもう

「○○ちゃんが、いじめるよ」

がもこ 金玉。子供のこうがん。[同] すっこ。すんっこ。せがれ。ちょんちょんこ。ちんぼこ。[及 10]

【例】 おちっこ すっづぎあ ちゃんと がもこ 出へよ

「おしっこをする時はちゃんとおちんちんを出すんですよ」

がや [gaja] [終助] か。かい。[及 139]

【例】 ほの すごど でげだがや

「その仕事は、出来たのか(かい)」

かやぎ [kajagi] 煮ながら皆で突っついて食べる料理。[及 39]

【例】 こゆ さみ づぎあ かやぎあ ええな

「こういう寒い時はかやぎがいいな」

かよえ 通い帳。[及 48]

【例】 かよえ つかたなも むがすの ごどだなは
「通い帳を使ったのも、もう昔のことだね」

から [kara] 川原。[同] からやら。[続 81]

【例】 じゃり とんなだば、したの からさ えて とて こえ
「砂利を取るんだったら、下の川原に行って取って来いよ」

からえ 留守宅。空き家。[及 48]

【例 1】 ○○さん えあ からえだけあ どさ えたべ
「○○さんの家は留守だったが、何所へ行ったんだろう」

【例 2】 ○○さん えも からえ なて ががらんと したっけは
「○○さんの家も、空き家になって、がらんと してしまっていたっけ」

からえだぎ [karaɛdagi] つわりの時の吐き気。[続 81]

【例】 おれあえの よめあ、からえだぎ する おん おぼごあ でげだよだな
「うちの嫁は、つわりの吐き気をするから、子供が出来たようだね」

からえど [karaɛdo] 空井戸。水の出ない井戸。[続 81]

【例】 からえどでも えど んめっど、かみさまに ただらえっど
「空井戸でも、井戸を埋めると、神さまに崇られるそうだよ」

からえばり [名] 空威張り。[及 139]

【例】 えぐ からえばりなの する おんだ
「よく空威張りなんかするものだよ」

からおえ [karaoɛ] 立葵。[続 81]

【例】 からおえて、えっけあ ゆえっど まえとす おえで くる おんだな
「立葵って、一回植えると、毎年生えてくるものだね」

からがぐ [karaŋagü] [下一他] 結える。[同] ゆっからがぐ。[続 81]

【例】 ほの にもつ とうぐまで やんなだはげあ、ねずぐ からがげよ
「その荷物は、遠くまでやるんだから、丁寧に結えろよ」

からきづ [名] 我が儘。[及 139]

【例】 からきづで しのの いう ごどなの きがねあ
「わがままで、人のいうことなんかきかないんだ」

からきり [副] からきし。さっぱり。まるきり。[同] からっきり。[及 139]

【例】 さがなの からきり つんねあけ
「魚なんか、からきし釣れなかったよ」

からきり [karakiri] [副] 全然。[続 81]

【例】 なしてなんだが、きょうまだ どさ えたて からきり つんねあがった
「どうしてなのか、今日は何処へ行っても、全然釣れなかったな」

からくづ [karaküdzüü] 食事どきでない時おかずを食べること。[及 39]

【例】 くら、からくづで くたて だめだべな

「くら、食事どきでない時おかずを食べたって駄目じゃないか」

なお、この語は、「なんだ このやろ おやさ からくづ きぐきがーなんだ、この野郎、親に意見をするつもりか」などとも使う。

からぐる [karagürüü] 仕掛けをする。修理する。[続 81]

【例 1】 ござ すいしゃ からぐんべ

「此処へ水車を仕掛けよう」

【例 2】 ねごのくるま からくて おげよ

「一輪車の車を修理しておけよ」

からげあ [karage] 棒鱈。[及 39]

【例】 この からげあの 煮だな んめあな

「この棒鱈の煮たのうまいな」

からげあ [karage] 赤えいの干物。[続 81]

【例】 からげあ にっずぎあ とろびで、なんげあぐ ずがん かげで にろよ

「赤えいの干物を煮る時は、とろ火で、長く時間をかけて煮なさいよ」

がらこ 柄。着物の柄。[及 56]

【例】 もすこす がらこの えな ねあべが

「もう少し柄のいいのがないでしょうか」

からこしゃぐ [karakofagüü] [名] こましゃくれていること。[及 139]

【例】 からこしゃぐで、えまから くづべになの つけで

「こましゃくれて、今から、口紅なんかつけて」

からすのみずあび [karasünomiⁿdzüüabi] 鳥の行水。[続 82]

【例】 すふろさ へあたどもたら、あがたながは、ほれだば からすのみずあびだな

「風呂へ入ったと思ったら、もう上がったのか、それなら鳥の行水だね」

からちや お茶菓子のつかないお茶。[及 39]

【例】 からちやで ぶじよほですな

「お茶菓子もつけないお茶だけで失礼ですね」

からちる [karatsirüü] 空汁。実（具）の入らないお汁。[続 82]

【例】 からちるであ だめだはげあ、やさいでも へで おする つぐんべ

「空汁ではいけないから、野菜でも入れて、お汁を作ろう」

からっと [karatto] [副] からりと。[続 82]

【例 1】 めずらすぐ からっと はっだ てんきだな

「珍しくからりと晴れた天気だな」

【例2】ほの てんぶら、つよびで からっと あげろよ
「その天ぶらは、強火で、からりと揚げなさいよ」

がらっと [garatto] [副] がらりと。[続 82]

【例1】と がらっと あげる
「戸をがらりと開ける」

【例2】ようすあ がらっと かわた
「様子が、がらりと変った」

からつら [名] から手。手土産を持たないこと。[及 139]

【例】まづ からつらで えあさづばり してこえ
「まづ、から手で、挨拶だけして来なさい」

からどり [karadori] やつふさ。さといも科の野菜。主として茎を乾燥して食べる。[及 85]
また、「えもがら」ともいい、茎の乾したものを「えもがらぼし」といっている。

からばだけ [karapadage] 空畑。何も植ていない畑。[続 82]

【例】やまの はだけ からばだけん しておがんねあはげあ ないが ゆえねあんねあな
「山の畑を空畑にしておかれないから、何か植えないといけないな」

からびる [karabirū] [上一自] 乾いてしなびる。[同] ひっからびる。[続 82]

【例】ほすであごんずあ、からびるまで、そどさ だして おぐ おんだ
「干大根というものは、乾いてしなびるまで、外に出しておくものだよ」

からへぎ [karahegi] 空咳。わざとする咳。[続 82]

【例】からへぎなの して、おわ しゃべっでああだべ
「空咳なんかして、自分が喋りたいんだろう」

からまぐ [karamagū] [動] からむ。まきつける。いいがかりをつける。[及 139]

【例1】ほの くえさ ほの しば からまぐなだ
「その杭に、その柴をからむのたよ」

【例2】いぢいぢ しのの いう ごどさ からまぐ おんでねあ
「いちいち、人のいうことにはからむものじゃないよ」

からまり [karamari] 空回り。[続 82]

【例1】せいめあきあ からまり したたぞ
「精米機が空回りしているよ」

【例2】もんであ むずかすくて あだま からまりだ
「問題が難しくて、頭が空回りだよ」

からみ [karami] 手ぶら。荷物を持たないさま。[続 83]

【例】からみで、〇〇さ えぐあだば これ もて えてころ
「手ぶらで、〇〇へ行くのなら、これを持って行ってくれよ」

がらみ [ɲarami] ぐるみ。そっくり。ごと。[及 139]

【例】 えれおのがらみ もて えげは
「入れ物ぐるみ持って行ってしまいなさい」

からみみ [karamimi] 空耳。[続 83]

【例】 だれが おれあどご よばるよだけあ からみみであったんだな
「誰か私を呼ぶようだったが、空耳だったんだな」

からやがまし [karajamasɯ] [形] [強調] やかましい。やかましいの強調語。[同] からやがましねあ。[及 139]

【例】 からやがまし おやぢだ ごど
「やかましい 親父だこと」

がらんぼ [garanbo] [ナ名ノ] からっぽ。この語は、空屋とか箱などの大きな容器の中が空になっているさまをいう。[続 82]

かりあげのへっく [kariʌŋeɲoçekkũ] [名] 刈り上げの節句。稲の収穫を終えた祝いの節句をいう。この節句は旧九月二十九日で、この日は百姓でない家でも餅を搗いて祝った。[及 139]

がりくび [garikubi] 亀頭。[続 83]

かりずめあー [kari^odzüme:] 假住居。[続 83]

【例】 こごあ まだ かりずめあで、これがら ちゃんとした え たでんなだ
「此処はまだ假住居で、これからちゃんとした家を建てるんだ」

がりっと [garitto] [副] 全然。全く。[及 139]

【例】 ないな おんだが がりっと こねあぐ なたは
「どうしたのか、全然来なくなってしまった」

がりっと [garitto] [副] きっぱり。[続 83]

【例】 あげあた しとき いう ずぎあ、がりっと ゆわねあど、くへん なて だめだ
「ああいう人にいう時は、きっぱりいわないと、癖になっていけないよ」

かりはれあ [karihare] 刈払い。下刈り。造林地の刈払い。[及 70]

【例】 かりはれあ えぐはげあ かんま とがねあんねあな
「刈払いに行くから、鎌を研がないといけないな」

かりやす [形] たやすい。簡単。[及 140]

【例 1】 ほんた ごどあ かりやす ごったべ
「そんなことはたやすいことだろう」
【例 2】 ものごどあ ほう かりやすぐ かんげある おんでねあ
「物事は、そう簡単に考えるもんじゃないよ」

かるえ 軽い。[及 24]

【例】 この 荷物あ がさの わりに かるえ ごど

「この荷物はかきのわりに軽いこと」

かるがるす [karūgarūsū] [形] 軽軽い。[続 83]

【例】 ほうゆう ごど、ほんげあ かるがるすぐ ひぎうげで だいじょうぶだがや
「そういうことを、そんなに軽軽しく引き受けて、大丈夫なのかい」

かるこえ [karūkoe] [形] 軽い。[続 83]

【例】 これあまだ ないだ おんだが、がさの わりん かるこえ おんだ ごど
「これは、何なのか、蒿の割に軽いものだこと」

かれあ [kare] 辛い。[及 24]

【例】 これだば かれあくて かんねあ
「これは辛くて食べられないよ」

かわあすび [kawaasūbi] 川遊び。[続 83]

【例】 わらしたずあ、かわあすび すぎだ おんで まだ ともだずど えたぜあは
「子供らは、川遊びが好きなもんで、また友達と行ってしまったよ」

かわいだ [kawaiida] [名] 製材雑片。[及 140]

【例】 ほの かわいだ そがぎさ つかうなだぞ
「その雑片は、雪囲いに使うんだよ」

かわいらす [kawaiirasū] [形] 可愛らしい。[続 83]

【例】 ないだて かわいらす ごど、これあまだ おめあ えの おまごさんおすか
「まあ、可愛らしいこと、この子はお宅のお孫さんですの」

かわぐるみ [kawağürümi] さわぐるみ。くるみ科の落葉樹。[及 85]

【例】 かわぐるみの 皮で つくた けらも いい もんだ
「さわぐるみの皮で作ったみのも、いいものだよ」

かわけり 皮靴。[及 56]

【例】 むがすあ かわぐづの ごど かわけりて ゆた おんだど
「昔は皮靴のことを、かわけりといったものだそうだ」

かわながれ [kawanagare] 溺死。[続 83]

【例】 ○○さん かわながれしたど、この みずのでっだ ずき ないす えたあだべ
「○○さんが溺死したそうだ、この洪水の時、なにしに行ったんだろう」

かわへ [kawaçę] [名] 爲替。[及 140]

【例】 かわへで おくてころど
「爲替で送ってくれて」

かわりがわり [kawariğawari] [副] 代る代る。[続 84]

【例】 おら、○○ちゃんど かわりがわりん ぶらんこさ のて あすで きた
「僕、○○ちゃんと、代る代るぶらんこに乗って遊んできたよ」

かわりべあー [kawaribe:] 代り映え。[続 84]

【例】 おまずりの だすおのも、まえとす おんなすであ かわりべあーねあな
「お祭りの出し物も、毎年同じでは代り映えがないな」

かんかね かけがね。錠。錠前。[及 48]

【例】 ねずぶんだはげあ かんかね かげろよは
「寝る時刻だから、錠をかけてしまいなさいよ」

かんかみなり [kankamīnari] 寒中に発生する雷。これは、「かんかみなり かまいらず」という諺の語で「寒中に雷が起ると鎌がいらぬ」、つまり不作で、稲を刈り取るまでもない、ということを用いる。[続 84]

かんから [kankara] 空き缶。[続 84]

【例】 くるまがら、どごさだじゃねあぐ かんから ながる おんで こまた おんだ
「車から、何処にでも空き缶を捨てるもので、困ったもんだよ」

がんがら [ganŋara] [卑称] 体。体の卑称。[続 84]

【例】 がんがらばり おっきくて ろぐた すごど へねああだ
「体ばかり大きくて、ろくな仕事をやれないんだよ」

かんかんじえみ ひぐらし。せみ科の昆虫。[同] かんかんじえめ。[及 85]

【例】 かんかんじえみあ ばんかだどが、くもて くっど かんかんで ながべ
「ひぐらしは、夕方とか、曇って来ると、かなかな、となくだろう」

かんくのあめ [kankūnoame] [連語] 寒入り9日目の雨。またはその前後の雨。これは、寒の入り日から数えて、9日目前後の雨をいう。気候が順調な年は、毎年この現象があるので知られている。[及・続 102・84]

【例】 そろそろ かんくのあめあ くんべじゅ
「そろそろ寒九日目の雨が来るだろうよ」

かんぐら [kanŋūra] [名] 神楽。[及 140]

【例】 ほら、かんぐらましあ 来たぞ
「そら、かぐら舞いが来たよ」

がんくら [gankūra] 崖。断崖。[同] がんけづ。[及 102]

【例】 いわひば がんくらんねあば おえでねあおんだ
「いわしは、崖でなければ生えていないものだよ」

かんぐらます [kanŋūramasū] 神楽舞。これは、獅子頭を付けて舞い歩き、家家から米や小銭を貰って歩く神楽舞の門付けをいったが、今はもう来なくなってしまった。[同] かぐらます。[続 84]

かんげ [kanŋe] [名] 陰の裏。[及 140]

【例 1】 ○○だば はごの かんげに ある

「○○なら、箱の陰にあるよ」

【例2】 えの かんげあ まだ ゆぎあ けねあ

「家の裏は、まだ雪が消えない」

かんげあ [kanŋɛ] [名] 考え。[及 140]

【例】 おめあ かんげあ きがへろや

「お前の考えを聞かせろよ」

かんげあ [kanŋɛ] 考え。[及 24]

【例】 えま おれあ ゆた ごど えぐ かんげあで おげ

「今、私のいったことをよく考えておきなさい」

かんげあーおの [kanŋɛ:ono] 考えもの。[続 84]

【例】 ほゆ かねの かがる ごどだば かんげあおのだな

「そういう金のかかることなら考えものだね」

かんげあーごど [kanŋɛ:ŋodo] 考えごと。[続 84]

【例】 ないだや、ぼやっとして、ないが かんげあごどでも したたなが

「なんだい、ぼんやりして、何か考えごとでもしていたのかい」

かんげあーつぐ [kanŋɛ:tsügü] [四他] 考えつく。[続 85]

【例】 わすっだながは、これぐれあ ゆたら、かんげあつぐど おもうどもな

「忘れてしまったのかい、これぐらいいったら、考えつくと思うがな」

かんげあーる [kanŋɛ:rü] [下一他] 考える。[続 85]

【例】 ほげあた じゅうようだ ごどだば、かんげあーる ずがん おすな

「そんな重要なことなら、考える時間が欲しいな」

かんげあーる [kanŋɛ:rü] [下一他] 凍える。[続 85]

【例】 けしまだ、めっぼ ひしえる おんで、てあ かんげあーで ひでえな

「今朝は、滅法冷えるもんで、手が凍えてひどいね」

かんげぐづ [kanŋɛŋüdzü] [名] 陰口。[及 140]

【例】 しとの かんげぐづなの いう おんでねあ

「人の陰口なんか、いうものじゃないよ」

かんご [kanŋo] 桑の実。[及 85]

【例】 ちっちえ ずぎあ えぐ かんご くだ おんだ

「小さい時は、よく桑の実を食べたもんだよ」

がんご [ganŋo] [名] 空洞。[及 140]

【例】 この 木あ かんご なったじゅ

「この木は、空洞になってるよ」

がんご [ganŋo] 空洞。[続 85]

【例】 この ゆわに がんご あるな、ないが いぎおのあ へあてねあべが
「この岩に空洞があるな、何か生き物が入っていないだろうか」
なお、空洞のある木を「うどき。どらき」といい、木にある空洞を「うど。どら」などという。

がんじえねあ [ganⁿdʒeɲɛ] [形] 頑是ない。[続 85]

【例】 むぞせあ おんだ こげあた がんじえねあ わらすこ おえて ながなて
「可哀そうなものだね、こんな頑是ない子供を置いて亡くなってね」

かんじゆ [名] つもり。[同] かんじよ。[及 140]

【例】 ほげあた かんじゆ んねあがった
「そんなつもりではなかった」

がんじゆんま [gandʒünma] 年寄り馬。[及 85]

【例】 この んまも がんじゆんま なたは
「この馬も、年寄り馬になってしまったよ」

かんしよ [kanʃo] 疝。[続 85]

【例】 この おぼごあ かんしよだな めっぼ きいきいて たがぶる おん
「この子は疝だな、減法きいきいって、神経を高ぶるもの」

かんじよ [名] 勘定。計算。[及 140]

【例】 借金 かんじよしねあんねあな
「借金を勘定（返済）しないといけないな」

かんじよ [kanⁿdʒo] つもり。[続 85]

【例 1】 きょう ○○さ えぐ かんじよだべが
「今日○○に行くつもりだろうか」
【例 2】 おれあ する かんじよだけあ おめあ してくっだながは
「私がするつもりだったが、もうあなたがしてくれたのか」

かんじよ [kanⁿdʒo] 勘定。[続 85]

【例 1】 おわ せあふがら なんぼ だしたが かんじよしてみんだ
「自分の財布かから、幾ら出したが勘定してみなさい」
【例 2】 きんな めへがら かって きたな かんじよしてこねあんねあな
「昨日店から借りて来たのを、勘定してこないといけないな」
【例 3】 こごあ こげあすっど べんりんなる かんじよだな
「此処は、こうすれば便利になる勘定だな」

かんじよする [kanⁿdʒosürü] 便所へ行く。[続 86]

【例】 しっとなえあ までな おれあ かんじよして くっさげあ
「一寸待ってね、私便所へ行って来るから」

かんじよだけあ [kanⁿdʒoⁿdage] [形] 勘定高い。[続 86]

【例】 あれだば かんじょだけ おどごで、やんだ しとだな
「あいつは、勘定高い男で、嫌な人だね」

かんじょゆわえあ [kanⁿdʒojūwe] 勘定祝い。昔は店から通い帳で品物を借り、それを支払うと、勘定祝いといって酒を出したものであるが、今は行われていない。[続 86]

かんじょわり [kanⁿdʒowari] 都合が悪い。具合が悪い。[続 86]

【例 1】 おれあ かんじょわりくて えげねあな
「私は都合が悪くて行けないね」

【例 2】 しらねあ しとさ うすろから かの たであ で かんじわりがった
「知らない人に、後から肩を叩いて具合が悪かったよ」

かんずら [kanⁿdzüura] 鬘。[続 86]

【例】 おまずりで、すんべあ すっずぎ かぶる かんずら かわねあんねあな
「お祭りで、芝居をする時かぶるかずらを買わないといけないな」

かんそ わすれぐさ。一名やぶかんぞう。ゆり科の植物。[及 86]

【例】 かんそて、あんまり きれだ 花 咲がねあな
「わすれぐさって、あまりきれいな花が咲かないね」

がんだ [ganta] 木回し。これは、丸太を転がす機具の名称で、山で伐採した丸太を集めたり、トラックに載せたり、貯木場その他で、丸太を動かす時に使っている。[続 86]

かんだげあ [kanⁿdage] [形] 甲高い。[続 86]

【例】 ああ どでした、しとの そばで きゆうに かんだげあ こえ だす おんだ おん
「ああ驚いた、人の側で、急に甲高い声を出すんだもの」

かんづぎ [kandzügi] かんじき。雪中を歩く用具。[及 63]

【例】 ゆぎあ ふっけあはげあ、かんづぎ はがねあど ありがんねあ
「雪が深いから、かんじきをはかないと歩けないな」

がんづぐ [gandzügü] [動] 勘づく。[及 140]

【例】 ござ おえっだな がんづぐべが
「ここに置いてあるのを勘づくだろうか」

かんつげあ [kantsüŋe] 勘違い。[続 86]

【例】 なんだ、ほうゆえば、ほれあ おれの かんつげあであったな
「そうそう、そういえば、それは私の勘違いだったな」

かんつける [kantsükkerü] [下一他] 託ける。[続 86]

【例】 こげあ なたなも、おめあの へえだて かんつけんなだぜあ
「こうなったのも、お前の所為だって託けるんだよ」

がんであ [gande] [名] 棺台。[及 140]

【例】 そろそろ がんであ もて きてころは

「もう、そろそろ棺台を持って来てくれ」

がんどる [ganⁿdorü] [四自] 勘ずく。[続 87]

【例】 こんた ごど する おのあ、えあずだて、すぐ がんどたけ
「こんなことをするのは、あいつだつて、直ぐ勘ずいたっけ」

かんながらばな [kannaⁿgarabana] かいぎいく。これは、貝細工、貝の細工物ではなく、きく科の一年生の草花のことをいう。[続 87]

がんに [ganni] 蟹。[同] がに。[及 86]

【例】 近頃あ 沢に がんにあ めねあな
「近頃は沢にかにが見えないね」

かんぬぎ [kannügi] 桑の木。[及 86]

【例】 あがきていう かんぬぎあ、おっきくなる か だな
「赤木という桑の木は、大きくなる桑だな」

かんねあ [kannë] [連語] 食えない。[続 87]

【例 1】 この きのごあ かんねあ きのごだ
「このきのは食えないきのごだ」
【例 2】 あのおどごだば、ずるがすこくて、かんねあ おどごだ
「あの男なら、狡る賢こくて、食えない男だね」

がんねあ [gannë] [名] 弱音。[及 140]

【例】 なんだ ほんた ごどで がんねあ こえて
「なんだ、そんなことで弱音を吐いて」
弱音を吐くということを「がんねあこぐ」といっている。

がんねあ [gannë] 弱虫。直ぐ弱音を吐く者。これは、及位の方言 140P に、「弱音」と訳しておいたが、「がんねあだ=弱虫だ」、「がんねあで=弱虫で」と、「弱虫」とも訳されるので記しておく。
[続 87]

がんば [ganba] 蒲。これは、池、沼、湿地等に生えるがま科の多年草で、冬使う脛当てを作ったり、みのやはげごの材料として使われたものである。[続 87]

かんばら [kanbara] 桑原。この語は、雷が鳴ったり、嫌なことを避けようとする時唱える、唱え言葉である。[続 87]

かんぷぎ [kanpügi] 寒中の吹雪。[及 102]

【例】 かんぷぎん なたば さみくて べづだ
「寒吹雪になったら、寒むくて別だね」

かんぶり [kanbüri] 頭。この語は、「かんぶり ふる=かぶりを振る」の形でだけ使う語である。
[続 87]

かんま 鎌。[及 63]

【例】 今日あ ので かつさげあ かんま たがて えごよ

「今日は畔を刈るから、鎌を持って行くんだよ」

鎌には「かりはれあかんま一下刈鎌」と「くさかりかんま一草刈り鎌」の二種類ある。

かんまかげる [kanmakagerü] かまをかける。誘導訊問する。[続 87]

【例】 かぐしったよだはげあ、かんまかげだら、ひかがて しゃべたけ

「隠しているようだから、かまをかけたら、引っ掛かって喋べったっけ」

かんまがす [kanmagasü] [動] [強調] まかす。こぼす。まかす、こぼす、の強調語。[及 141]

【例】 どご みで ありぐなだ、ほら、おする かんまがすぞ

「何所を見て歩いているんだ、ほら、お汁をまかすよ」

がんむす [ganmüsü] ひげながかわとびけらの幼虫。これは、ひげながかわとびけら科のひげながかわとびけらの幼虫で、川の小石を綴ってその中に棲む昆虫である。この虫は釣りの餌として使われる。[続 87]

かんめあ [kanme] [名] くせ。いやしめていう言葉。[及 141]

【例 1】 ものも ろぐん でげねあ かんめあして

「物事もろくに出来ないくせして」

【例 2】 力もねあ かんめあして

「力もないくせして」

かんめあ [kanme] 格好。特に着物を着た様子をいう。[続 87]

【例】 ほんた、ほえどみであだ かんめあ して、よそさ えがねあべな

「そんな、乞食みたいだ格好をして、他所に行かれないじゃないか」

かんめあ [kanme] 構え。[同] かめあ。[続 88]

【例 1】 えの かんめあ

「家の構え」

【例 2】 もんがかんめあ

「門構え」

【例 3】 こすの かんめあ

「腰の構え」

【例 4】 すぶどぐ かんめあある

「図太く構える」

— き —

きあおつき [名] 太っ腹。寛大。気が大きい。[及 141]

【例】 あの しとあ きあおつき しとだ

「あの人は、太っ腹な人だ」

この語には、「きあきぐ一気が利く」、「きあちっちえー小心。気が小さい」、「きあきんねあ一気が気じゃない」などの使い方がある。

きあがり [kiagarī] うるさくて、頭がぼうっとなること。[及 24]

【例】 おぼごだづあ わあわて 騒ぐ おんだはげあ きあがりしてしまう

「子供らが、わあわあ騒ぐものだから、頭がぼうっとしてしまうよ」

きあごころ [kiakogoro] 寸志。気は心。[続 88]

【例】 おれあえの わらしたずあ、いっつも おへわん なて、これあ ほんの きあごころです

「うちの子供らが、何時もお世話になって、これはほんの寸志です」

きー [ki:] 木。[続 88]

【例 1】 きー きる

「木を伐る」

【例 2】 きー ころがす

「木を転がす」

【例 3】 きー つむ

「木を積む」

【例 4】 きー ひろう

「木を拾ろう」

【例 5】 きー ひばる

「木を引っ張る」

きー [ki:] 気。[続 88]

【例 1】 きー つがねあ

「気がつかない」

【例 2】 きー つける

「気をつける」

【例 3】 きー つぐ

「気がつく」

【例4】 きー ひぐ

「気を引く」

【例5】 きー ぬげる

「気が抜ける」

きーおどす [ki:odosü] 落胆する。[続 88]

【例】 むすこに すなっで、きーおどしてんな みっど、むぞせあ おんだな
「息子に死なれて、落胆しているのを見ると、可哀そうなものだね」

きいちご [kiidzijo] もみぢいちご。ばら科の木本植物で、実は黄熟してうまい。[及 86]

【例】 ○○ちゃん きいちご とりん えぐべ
「○○ちゃん、もみぢいちごを採りに行こう」

き一つずぎ [ki:tsüdzügi] きつつき。けら。この地区では、「あかげら」と「こげら」があり、これらを総称して「き一つずぎ」または「きつずぎ」といっており、人家の近くにまで飛んて来ている。[続 88]

きいろえ 黄色い。[及 24]

【例】 あげあ 花だどもたら きいろえ 花 せあだちゃ
「赤い花だと思ったら、黄色い花が咲いたよ」

きおづ [名] 落胆。[及 141]

【例】 ほんげあ きおづしねあで、元気 だへ
「そんなに落胆しないで、元気を出せよ」

きおの 着物。[及 56]

【例】 きおの きねあで はだがん なてっど かじえ ひぐぞ
「着物を着ないで、裸になっていると、風邪をひくよ」

きがきが [kigakiga] [形] とがった言葉。小言などをいうさま。[及 280]

【例】 おれあえの ばさまだば、まづ きがきがて いう おんで
「うちのお婆さんときたら、まあ、どがった物言いをするもんで」

きがず [kiga^odzü] 聾。なお、呼んでも返事をしない者への悪口としても使われている。[同] きかず。[続 88]

【例】 これあ きがずだはげあ、さがだて きげねああだ
「こいつは、つんぼだから、叫んだって聞えないんだ」

きがなし 利かん坊。[同] きがんぼ。きがんぼ。[及 5]

【例】 おれあえんなも まづ きがなしで
「うちの子も、まづ、利かん坊で」

きがねあ [kigane] [連語] きかない。じゃない。[及 141]

【例】 もて えたな、しとつぱりで きがねあべ
「持って行ったのは、ひとつばかりじゃないだろう」

きがへる [kiɡaçerü] [動] 聞かせる。[及 141]

【例】 むがし かだて きがへるつけ
「昔話を語って聞かせるそうだよ」

きがめあ [名] 気構え。[及 141]

【例】 すごどずあ 本気でやる きがめあ ねあど だめだ おんだ
「仕事というものは、本気でやる気構えがないと、駄目なものだよ」

きがるえ [kiɲarüe] [形] 気軽い。[続 89]

【例】 けあずあ きがるえ ほうで、ない ゆたて はえはえて すぐ すんなだ
「こいつは、気軽い方で、何をいっても、はいはいと直ぐするんだ」

きがんぼ [名] 利かん坊。[及 141]

【例】 この わらすだば まづ きがんぼで
「この子は、まあ、利かん坊で」

きぎ [kiɡi] 杵。[及 63]

【例】 あだらす きぎ こへあねあんねあな
「新しい杵を作らないといけないな」
杵には「てきぎ」といって、味噌つきに使う棒状の杵もある。

きぎあへる [kiɡiaçerü] [動] 聞き合せる。問い合せる。[及 141]

【例】 わがらねあはげあ、電話で きぎあへてみだ
「分らないから、電話で聞き合せてみた」

きぎおの [名] 聞きもの。[及 142]

【例】 こねあだの 民謡だば きぎおのであった
「この間の民謡なら聞きものだったよ」

きぎおべ [名] 聞き覚え。[及 142]

【例】 あの 声あ きぎおべの ある 声だな
「あの声は聞き覚えのある声だな」

きぎぐるす [kiɡiŋürüstü] [形] 聞き苦しい。[及 142]

【例】 ○○の うだだば きんきん声で きぎぐるすがったな
「○○さんの唄だったら、きいきい声で聞き苦しかったな」

きぎげあす [kiɡigesü] [動] 聞き返す。[及 142]

【例】 ないだど おめあ いう ごどあ わがらねあはげあ きぎげあして こえ
「なんだって、お前のいうことは、分らないから、聞き返えして来なさい」

きぎそごねあ [kiɡisogone] 聞き損ない。[続 89]

【例】 ほの こうえんだば、おれも きぎであがったども ひまねあく ききそごねあでした
「その講演なら、私も聞きたかったが、暇がなくて聞き損なってしまったよ」

きぎつげあ [kigitsūŋɛ] 聞き違い。[続 89]

【例】 ほう、ほゆなであったなが、んであ おれの きぎつげあであったべちやや
「ほう、そういうのだったのか、それじゃ私の聞き違いだろうよね」

きぎつてあ [kigitsūte] [名] 聞き伝え。[及 142]

【例】 むがすどが でんせづなのあ きぎつてあで きた おんだ
「昔話とか、伝説なんかは、聞き伝えで来たものだよ」

きぎづれあ [kigi^ɪdzūre] [形] 聞き辛い。聞きにくい。[及 142]

【例 1】 しとの あぐであずあ きぎづれあ おんだな
「人の悪口というものは、聞き辛いものだな」

【例 2】 テレビの 声あ ひぐくて きぎづれあな
「テレビの音が低くて聞きにくいな」

きぎどご [kigi^ɪdogo] [名] 聞き所。[及 142]

【例】 きぎどごあ ちゃんと きがねあんねあ おんだ
「聞き所は、きちんと聞かないといけないものだよ」

きぎにぐえ [kiginigūe] [形] 聞きにくい。[同] きぎずれあ。[続 89]

【例 1】 えぐ しとの きぎにぐえ ごど いう おんだじゆなや
「よく人の聞き辛いことをいうものだね」

【例 2】 ぎずおん へあて、ラズオあ きぎにぐえな
「雑音が入って、ラヂオが聞きにくいね」

【例 3】 しとの わるくずだば きぎにぐえ おんだな
「人の悪口なら聞くに堪えないものだね」

きぎはさむ [動] 耳にする。[及 142]

【例】 きぎはさだ ごどだども
「耳にしたことではあるが」

きぎへれる [kigihererū] [下一他] 聞き入れる。[続 89]

【例 1】 へんへあ いう ごど えぐ みみさ きぎへれで べんきょうすろよ
「先生のいうことを、よく耳に聞き入れて勉強しなさいよ」

【例 2】 やんだ すごど たのだな きぎへれでくって ありがど
「嫌な仕事を頼んだのに、聞き入れてくれて、有難う」

きぐ [kigū] [動] 聞く。[及 24]

【例】 しとの 話あ、まづ、えぐ きぐ おんだ
「人の話は、まづ、よく聞くものだよ」

この語には「きがへる一聞かせる」、「きぐべちや一聞くださうよ」、「きげっだ一聞こえている」、

「きっだ一聞いている」などの使い方がある。

きぐ [kigū] [動] 聞く。[及 24]

【例】 この わらすあ えぐ いうごと きぐ わらすだな
「この子はよくいうことをきく子だね」

この語の反対の語に「きがねあーきかない。きかん坊なこと」がある。

きぐえも [kigūemo] きくいも。これは、きく科の多年生草本で、北アメリカ原産の帰化植物である。根茎を芋として食べるが、あまりうまいものではない。[続 89]

ぎくつと [gikūtto] [副] ぎくりと。[続 89]

【例】 そばで、きゆうに おっき こえだす おんだ おん、ぎくつと したんだはげあ
「側で、急に大きな声を出すものだから、ぎくりとしてしまったよ」

きぐらんげ [kigūranḡe] きくらげ。きくらげ科のきのこ。[及 86]

【例】 きぐらんげも、めったん とらんねあは
「きくらげも、めったに採られなくなってしまったよ」

きぐれあ [kiḡüre] [名] 気位。[及 142]

【例】 あの しとあ きぐれあなのばり たげあくて
「あの人は、気位なんかばかり高くて」

きぐわだ [kigūwada] 鱈の白子。[同] だだみ。[及 39]

【例】 きぐわだ さげの さがなにも えな
「たらの白子は酒の肴にもいいな」

きけあ [kiḡe] [名] 機会。[及 142]

【例】 きけあ あっずぎ あへんべ
「機会のある時合わせよう」

きげあ [kiḡe] 着替え。[及 56]

【例】 いづまでも よそゆぎ きてねあで、きげあ すろは
「何時迄も他所行きを着てないで、着替えをしてしまいなさい」

きげある [kiḡerū] [下一他] 着替える。[続 89]

【例】 えま きげあっだはげあ、わりども、しとえあ まずでくんねあが
「今着替えているから、わるいんですが、一寸待ってくださいか」

きげる [kiḡerū] [下一自] 聞こえる。[続 90]

【例】 なんぼ としよりだて、ほんげあ さがばねあたて きげんぜあ
「いくら年寄りでも、そんなに叫けばなくとも聞こえるよ」

きげんじょうご お天気屋。きげんの変りやすい人。[及 5]

【例】 ○○が、あれあ きげんじょごだ おん
「○○か、あいつはお天気屋なもの」

きげんじょーご [kiŋen^odzo:ŋo] 機嫌の変わりやすい人。[続 90]

【例】 あれだば きげんじょーごで、へんずなの ほん ずぎの きげんしであだ
「あいつは機嫌の変わりやすい人で、返事なんかその時の機嫌次第だよ」

ぎごずねあ [gigodzūne] [形] ぎごちない。[続 90]

【例】 この きっけあ、えごぎあ ぎごずねあぐ なたな
「この機械、動きがぎごちなくなったな」

きこばず [ki̯kopa^odzū] 木片。[続 90]

【例】 まぎわり したら、ほごらあたりの きこばずも かだずげで おげよ
「薪割をしたら、その辺の木片も片付けておけよ」

きこばた [ki̯kopata] シーソー。[続 90]

【例】 ○○ちゃん きこばたさ のらねあが
「○○ちゃん、シーソーに乗らないか」
この語は、今は使われていない。

きごばな [ki̯jobana] おみなえし。これは、おみなえし科の多年草で、お盆の頃黄色な花をつけ、盆花として仏さまに飾られる、この花は今は「ぼんばな」とだけいい、「きごばな」はわらべ唄の中に残っているだけである。[続 90]

ぎごま [gigoma] [形] ぎごちない。[同] ぎごわ。[及 142]

【例】 この 戸あ ぎごまだ ごど
「この戸は、ぎごちないね」

きごわえ [ki̯jowe] [形] 気難しい。[及 142]

【例】 あれだば きごわえ おどごだ
「あいつは、気難しい男だね」

きざっぼえ [ki^odzappoē] [形] 気障っぽい。[続 90]

【例】 なえだて、みろ、あの むすめあどご、きざっぼえ かつこして きた おんだ
「まあ、見ろよ、あの娘を、気障っぽい格好をして来たもんだ」

きしえ [ki̯ʃe] [名] 癖。妊娠初期の兆候。[同] きっしえ。[及 143]

【例 1】 きしえの ねあ しとて いねあべな
「癖のない人っていないだろうな」

【例 2】 おれあえの 嫁は、きしえあ はじまたよだな
「うちの嫁は妊娠したようだな」

きしえ [ki̯ʃe] つわり。[同] きしえけ。くせけ。[及 14]

【例】 きしえも、ひでえ しとあ いる おんだ
「つわりもひどい人がいるものだよ」

きしえる [ki̯ʃerū] 煙管。[及 48]

【例】 えまどぎ きしえるで 煙草のむ しとなの いねあでは
「今時、きせるで煙草をのむ人なんかもういないよ」

きじえわす [kiⁿdʒewasü] [形] 気忙しい。[及 143]

【例】 くれん なたば きじえわすくてな
「暮になったら、気忙しくてね」

ぎしぎしゆぎ [gisigisijügi] きしみ雪。これは、極低温の時、雪の上を歩くと、きしきし、と
きしむところから、この雪につけられた名である。[続 90]

ぎしと [副] ぎっしり。[同] ぎつと。ぎつつり。[及 143]

【例】 この ふぐろさ ぎしと つめろや
「この袋にぎっしり詰めてくれよ」

ぎしと [gisitto] [副] ぎっしり。[同] ぎつと。[続 90]

【例】 あんまり ぎしと つめど ながのおのあ いだむぞ
「あまりぎっしり詰めると、中のものが傷むよ」

きじのほや [kiⁿdzinohoja] やどりぎ。これは、栗、樺、桜などに寄生するやどりぎ科の常緑小
低木である。[続 91]

きしめあ [küsime] 来しな。来がけ。[及 143]

【例】 きしめあん わすれおの あづついで もどて 来たあだ
「来しなに忘れ物を思い出して戻って来たんです」

きじゃぐす [kiⁿdʒagüsü] [名] 木杓子。木製の杓子。[及 280]

【例】 えまたば、きじゃぐすなの つかう どごあ ねあなは
「今なら木杓子なんか使ってる家はもうないね」

きしやす [kiʃjasü] [動] 絶やす。切らす。[及 143]

【例】 おじゃだば きしやす ごどあ ねあな
「お茶なら絶やすことがないね」

この語には、「きらさんね一絶やされない。切らされない」、「きしやすずど一絶やすと。切らすと」
などの使い方がある。

きしゃみづ [名] 鉄道線路。[及 143]

【例】 きしゃみづあ あぶねあはげあ、あすぶなよ
「鉄道線路は危ないから遊ぶんじゃないよ」

この語は、「へんど」、「へんどみづ」、「へんろ」、「へんろみづ」などとも使った。また、この語には、
「へんどばだ一線路端」、「へんろばだ一線路端」などの使い方がある。

きしやわり [kiʃawari] [形] 煩しく迷惑なこと。[続 91]

【例 1】 きしやわりちゃ まだ ○○まで えて こえてが
「煩らわしいな、また○○まで行って来いっていうのかい」

【例2】 きしゃわり ごど のらねごあへあてくるおんで、ともあげでらんねあ
「煩らわしく迷惑なものだよ、野良猫が入って来るもので、戸も開けてられないよ」

きしゃわり [名] 迷惑。厄介。[及280]

【例】 きしゃわり ごど、まだしとのえのごどでえがねあんねあが
「迷惑なこと、また、人の家のことで行かなければならないか」

きしゃわりぐする [kiʃawarigūsürü] [動] 気絶する。[及143]

【例】 梯子がらおちできしゃわりぐしたど
「梯子から落ちて、気絶したそうさだ」

きず [kiʳdzü] やまどり。この地方には、雉は棲息しておらず、「きず(雉)」といているのは、やまどりの事をいっている。[同] きんず。[続91]

きずおの [名] きず物。きず者。[及143]

【例1】 この井あきずおのだな
「この井はきず物だね」
【例2】 あそごの娘あきずおのんさっだどは
「あそこの娘は、きず者にされてしまったそうさだ」

きずぎまわす [kidzügimawasü] [動] いびる。いじめる。[同] きずぎます。[及143]

【例】 えぐ嫁あどごきずぎまわすおんだ
「よく嫁をいびるもんだ」

きずげあ [kiʳdzüge] 気遣い。[続91]

【例】 ほんたきずげあしねあで、どうがきがるんござてくであ
「そんな気遣いをしないで、どうぞ気軽にいらして下さい」

きずねのしょーろ [kidzūnenōʃoro] ひかげのかずら科の茎の長い草の総称である。これは、杉林などに特に多く生える、ひかげのかずら科の地を這って歩く植物で、特に茎の長いものをいう。これは「狐のショール」と訳される語である。[続91]

きたぎる [kiʳtagirü] [動] 伐る。[同] きったぎる。ぶったぎる。[及143]

【例】 ほのきあ邪魔んなっさげあきたぎてしまえ
「その木は、邪魔になるから、伐ってしまってくれ」
また、この語には、「きっちゃ一切れよ。伐れよ」、「きらえる一切られる。伐られる」などの使い方がある。

きだげ [kidage] 着丈。[及56]

【例】 普段着だはげあきだげでえがべな
「普段着だから、着丈でいいだろうね」

きだずやら [kiʳdadzūjara] 木立ちむら。これは、雑木が沢山生えている所で、低い雑木が、まだ林を形成していない所をいっているものである。[続91]

ぎたっと [gítatto] [副] びたりと。急に止まること。[及 144]

【例】 目のめあで、車 ぎたっと、止またけ
「目の前で、車がびたりと止まったつけ」

きたねあ [kitanɛ] 汚い。[及 24]

【例】 この きたねあな あらておげよ
「この汚いのを洗っておきなさいよ」

きだふー [kidaφū:] [連語] 利いた風。[続 91]

【例】 ないだ、おべっだふりして、きだふーだ ごど いうな
「なんだい、知ったかぶりをして、利いた風なことをいうんじゃないよ」

きづ [名] 我がまま。気が強い。[及 144]

【例】 この わらすあ まづ きづで 困る
「この子は、まあ、我がままで困るんですよ」

きづ きつい。[及 24]

【例 1】 この さが きづ さがだな
「この坂はきつい坂だね」

【例 2】 しょじゅも きづな
「焼酎もきついね」

【例 3】 この 縄 もと きづぐ しばれ
「この縄をもっときつく縛りなさい」

【例 4】 わらすさ ほんげあ きづ ごど ゆたて 駄目だべ
「子供にそんなにきついことをいったって駄目じゃないか」

きづえ [形] 気強い。[及 144]

【例】 おっきな おどごわらすだはげあ きづえなよ
「大きい子が、男の子なので、気強いんですよ」

きつきり [kīkkīri] 伐採。木を伐ること。また、その人。[続 91]

【例】 おれあ きつきりだおん まだ やまさ えて きつきり してくんべ
「俺は木伐りだから、また山へ行って木を伐ってこようよ」

ぎっくらごし [gikkūranōsi] ぎつくり腰。[及 14]

【例】 おもであ おの たがたら ぎっくらごしん なてしました
「重い物を持ったら、ぐつくり腰になってしまった」

きつけあ [kīkke] 機械。[及 63]

【例】 この きつけあ 調子あ ええな
「この機械は調子がいいな」

きづげあ [kidzūge] [動] はにかむ。恥かしがる。[及 144]

【例】 ほんげあ きづげあすつごどあ ねあべな
「そんなにはにかむことはないじゃないか」

きづげあ [ki^mdzüge] 気違い。[同] きづげあたがり。すんけたがり。[及 5]

【例】 あれあ きづげあだはげあ かもうな
「あいつは気違がいだから、かもうな」

きつけあす [kijkesü] [四他] 伐り倒す。[続 91]

【例】 えま、この き きつけあすはげあ、そばに いんなよ
「今、この木を伐り倒すから、側にいるなよ」

きつけあぬい [kikkenüi] ミシン縫い。[及 56]

【例】 この 下着あ きつけあぬいだぜあ
「この下着はミシン縫いだよ」

きつける [動] 注意する。気をつける。[同] きいつける。[及 144]

【例】 車 おかねあはげあ きつける おんだぞ
「車はおつかないから、注意するもんだよ」

ぎच्चよげあ [gittjoŋe] [名] 片意地。強情。[及 144]

【例】 くえるて ゆたて ぎच्चよげあで もらわねあだぜあ
「くれる、といたって、片意地を張って貰らわないんだよ」

ぎつつ [gittsü] [形] きつい。この語は、齧詰めで、身動きが出来なかったり、物をきつく詰めたり、きつく縛る場合などに使う。仕事や顔や声などの「きつい」には使わず、この場合は、「きづ」という。[続 92]

【例 1】 ぎつつくて、みうごぎ ならねあ
「きつつくて、身動きが出来ない」

【例 2】 ほの はごさ へあるたけ ぎつつく つめろ
「その箱に入るだけきつく詰めろ」

【例 3】 ほんげあ ぎつつく すばっど ぼこれんぞ
「そんなにきつく縛るとこわれるよ」

また、「きづ」は上記の場合も使う。

ぎつつあが [gittsaga] 急斜面。急傾斜地。きつい斜面。[及 102]

【例】 あの ぎつつあがだば おかねあくて 滑べらんねあ
「あの急斜面なら、おっかなくて滑べられないよ」

これは、また、「くら」ともいい、ここから落ちることを「くらおぢ」といつている。

きつつあぎ [kittsagi] 切っ先。[続 92]

【例】 あぶねあはげあ、ほの さがなきりぼえじよの きつつあぎ こっちゃ むげんなや
「危ぶないから、その出刃包丁の切っ先を、こっちへ向けるなよ」

きつつあす [kĩttsasũ] 挿し木。[続 92]

【例】 えじよだば、きつつあすん すっど、そんま つぐ おんだ
「銀杏なら、挿し木にすると、じきに根づくものだよ」

きつつおろえる [kĩttsoroerũ] [動] 揃える。切り揃える。[及 144]

【例】 きつつおろえだよだ え であごんだごど
「切り揃えたようないい大根だこと。よく揃った、いい大根ですね」

きつっと [kĩtsũtto] [副] きっちり。[続 92]

【例 1】 ふぎあ へあて くっさげあ、へありくずの と きつっと たでろよ
「吹雪が入って来るから、入口の戸をきっちり締めろよ」

【例 2】 きつっと せんえん ある
「きっちり千円あるよ」

ぎつっと [gĩtsũtto] [副] ぎゅっと。[同] ぎつつり。[及 144]

【例】 もと ぎつっと しばれや
「もっとぎゅっと縛ってくれよ」

きっぱど [副] きっぱり。[同] きぱっと。[及 144]

【例】 この はなすあ きっぱど こどわりあす
「この話は、きっぱり断わります」

きづひぎ [kidzũçigĩ] 木地挽。木地師。[及 77]

【例】 きづひぎも すごどあ ねあどて こして えたは
「木地挽も、仕事がないといって、引越して行ってしまったよ」

きつぶす 木の節。ふし。[及 86]

【例】 とごばすら きつぶすの ねあな つかてころ
「床柱には、節のないのを使ってくれ」
これは、「ふす」ともいい、「きつぶすあな一節穴」、「ふすあな一節穴」、「いぎぶす一生き節」、「しにぶす一死に節」などの使い方をしている。

きてあ [kĩte] [名] 不思議。[及 144]

【例】 きてあだ ごども あれば ある おんだ
「不思議なことも、あればあるもんだ」

きであーきん [kĩːde:kĩn] 木代金。木の代金。[続 92]

【例】 きのごぎ もらたども、あの きであきん なんぼであったべ
「茸木(茸を栽培する木)を貰いましたが、あの木代金は幾らでしたでしょうか」

きてあーる [kĩte:rũ] [下一他] 鍛える。[続 92]

【例】 しの からだずあ わげあ うつから きてある おんだぞ
「人の体というものは、若いうちから鍛えるものだよ」

きどえ [kiⁿdoe] [形／連語] あくがある。あくが強い。[及 39]

【例】 きどえ おのあ あぐだすしてが 使うんだ
「あくのあるものは、灰抜きをして使うんだよ」

きときと [kitokito] [形] ぴとぴと。魚の跳ねるさま。[同] ぎどぎど。びどびど。[続 92]

【例】 この さがな まだ いぎっだど めで、きときとど えごえっだ
「この魚、まだ生きていとみえて、ぴとぴとと動いているよ」

きどごろね [kiⁿdogorone] [名] うたた寝。[及 144]

【例】 きどごろね しねあで、布団さ 寝ろは
「うたた寝をしていないで、布団に寝なさい」

きどり [kiⁿdori] [名] 気配り。[及 145]

【例】 これあまだ きどり ねあ おんで
「こいつは気配りがない（気が利かない）もんで」

きなくせあ [kinaküsse] きなくさい。[及 24]

【例】 きなくせあごど、なにが こげっだんねあが
「きなくさいね、何か焦げているんじゃないか」

きなごもず [kinagomodzū] 黄粉餅。これは、餅に黄粉をまぶして食べる餅をいう。[続 93]

【例】 かあちゃん、きなごもず こしえあでころ
「お母さん、黄粉餅を作って下さい」

きにやう [kinjau] [連語] 気に合う。気に入る。[及 145]

【例】 これだば 娘の きにやう 柄だべな
「これなら、娘の気に入る柄だろうな」

きぬおの [kinuono] 絹物。[続 93]

【例】 おごさま おえっであっただも、とでも きぬおのの きらんねあがった
「蚕を飼っておったが、とても絹物なんか着られなかったね」

きのめ [kinome] あけびの新芽。[続 93]

【例】 ほがであ せあんしよのめ きのめて いうつけども、ごごであ あぎびのめのごど きのめて いうな
「他所では山椒の芽を、きのめというそうだが、ここでは、あけびの芽を、きのめというね」

きのやんめあ [kinojanme] 気の病。[続 93]

【例】 ないだどや、ほんた おのあ、きのやんめあなんだはげあ、くよくよ すんな
「なんだって、そんなものは、気の病なんだから、くよくよするなよ」

きばぎ [kibagi] 柴箒。柴で作り外を掃く箒。[同] こわばぎ。[続 93]

【例】 うらの あだり はぐはげあ、きばぎ もて きてころ
「裏のあたりを掃くから、柴箒を持って来てくれ」

きはがす [kíhaⁿdzügasü] [形] 気恥しい。[続 93]

【例】 おれどご みえあさへつど ないだて きはがすちやなや
「私に見合いをさせるそうだが、まあ気恥しいわね」

きび [名] 気味。[及 24]

【例 1】 ざんまみんだ、きびあ ええ ごど
「ざまあみやがれ、気味のいいこと」

【例 2】 蛇だ、ああ きびわり ごど
「蛇だ、ああ気味悪いこと」

きびす [kíbisü] [形] 厳しい。[続 93]

【例】 わらしたつさ あんまり きびす ごど いうど えつけでしまうぜあ
「子供らに、あまり厳しいことをいうと、いじけてしまうよ」

きびちよ [kípitjo] 急須。[及 48]

【例】 この きびちよあ えなだはげあ であずんして 使えよ
「この急須はいい物だから、大事にして使いなさいよ」

きびわり [kíbiwari] [形] 気味悪い。[続 93]

【例】 おれだば、へび みつど、きびわりくて、さむけあ すんなよ
「私なら、蛇を見ると、気味が悪くて、寒気がするんだよ」

きべあ [kíbe:] 着映え。[続 93]

【例】 おめあだば、なに きたて きべあーする おんで、ええ おんだ
「あなたなら、何を着ても着映えがするもので、いいものだね」

きへづ [kíφedzü] 季節。[同] ずへづ。へづ。[及 102]

【例】 木の芽の 出る きへづあ いづばん え きへづだな
「木の芽の萌え出て来る季節が、一番いい季節だな」

きへる [kíçerü] [動] 着せる。[及 56]

【例】 あがこの きおの おれあ きへでける
「赤ちゃんの着物、私が着せてあげます」

きまがへ [kimagahe] [名/ダナ] 気任せ。[続 93]

【例】 ずさまも、ええ とすだ おんではげあ、きまがへだ ごど さへでんなだ
「お爺さんも、いい年なものだから、気任せなことをさせているんだ」

きまぐら [kimagüra] 木枕と箱枕の両方をいう。今は使う人はいないが、昔は、箱枕を使う人と、小丸太を削った、木の枕を使う人とがおったが、この両方の枕を「きまぐら」といった。[続 94]

きまぐり 木寄せ。伐倒木を寄せ集めること。[及 70]

【例】 ゆぎん ながの きまぐりて、らぐんねあ おんだけあ
「雪の中の木寄せって、楽じゃないものだよ」

きまず [kimaⁿdzüü] [形] 気まずい。[続 94]

【例】 ゆいあて、きまず おめ しであぐねあはげあ、だまでだあだ
「言い合って、気まずい思いをしたくないから、黙ってたんだよ」

きみだんご きびだんご。[及 39]

【例】 ももだろあ きみだんご こすさ 下げで えたど
「桃太郎は、きびだんごを腰に下げて行ったそうだ」

きむずがす [kimürⁿdzügasü] [形] 気難しい。[続 94]

【例】 おれあへの ずさまも、きむずがすくて らぐんねあ しとだ
「うちのお爺さんも、気難しい人で、楽でない人だよ」

きめあー [kime:] 気前。[続 94]

【例】 あそごの めへの だんなだば、きめあ ええ しとで、いずでも まげで よごす しとだ
「あそこの店の旦那なら、気前のいい人で、何時でもまけてよこす人だ」

きめし [kimešī] 生飯。かての入らない飯。[続 94]

【例】 むがすだば かでままなのばりで、きめしなの くう ごどあ でげねあがった
「昔は、かて飯なんかばかりで、生飯なんか食うことが出来なかったな」

きめどご [kimeⁿdogo] 決め所。[続 94]

【例】 きめどごあ きめでおがねあど、きまりあ つがねあくて だめだ
「決め所は決めておかないと、決まりがつかなくていけないよ」

きもけす [kimokešü] [四白] 動転する。[続 94]

【例】 いやあ、むすこあ ずどうしゃずこだて ゆわって、きもけしたよ
「いやあ、息子が自動車事故だ、といわれて、動転したよ」

きもずえ [kimodzüe] [形] 心地よい。[続 94]

【例 1】 きもずえ かじえあ ふえで きたな
「心地よい風が吹いてきたね」

【例 2】 きもずえさそん ねっだ
「心地よさそうに寝ている」

きやぐあずげあ [kjagüadzüge] 客扱い。[続 94]

【例】 ○○おんせんの ○○りよかんは きやぐあずげあ の ええ りよかんだけな
「○○温泉の○○旅館は、客扱いのいい旅館だったな」

きやぐあすれあー [kjagüasüre:] 客あしらい。[続 95]

【例】 ○○の めへだば、きやぐあすれあーの あんまり えぐねあ めへだな
「○○の店なら、客あしらいの余りよくない店だね」

きやぐじえん [kjagürⁿdžen] 客膳。[及 48]

【例】 今日あ きゃぐじえん ふえて おがねあんねあな
「今日は客膳を拭いておかないといけないな」

きゃぐしよーべあー [kʲagũʝo:be:] 客商売。[続 95]

【例】 みでっど、きゃぐしよーべあーも らぐんねあ おんだな
「見ていると、客商売も楽じゃないものだね」

ぎゃくてあー [gʲakũte:] [名/ス他] 虐待。[続 95]

【例】 むがすの じょこうなのあ、べごや んまみであん、ぎゃくてあーさっだ おんだど
「昔の女工なんかは、牛や馬みたいに、虐待されたものだそうだ」

きゃぐよへ [kʲagũʝohe] 客寄せ。これは、お祝いごとや、お祭り、仏事などで客を招くことをいう。このような時は、女の人が難儀をするので、「ないてゆたて、きゃぐよへぐれあ なんぎだごどあ ねあおんだな＝なんといっても、客寄せぐらい難儀なことはないものだな」といって嘆く。
[続 95]

きやす [kʲiasũ] [形] 気安い。[続 95]

【例】 ○○さんだば、ともだずだはげあ、ないでも きやすぐ はなすあえんなだ
「○○さんなら、友達だから、何でも気安く話し合えるんだ」

きやだっつ 脚立。[及 63]

【例】 やっぱり きやだっつ ねあど 不便だな
「やっぱり、脚立がないと不便だな」

きやへ [kʲijahe] 着やせ。[続 95]

【例】 しとんよって、きやへする しとど しねあ しとあ いる おんだな
「人によって、着やせする人と、しない人がいるものだね」

ぎやま [gʲijama] ガラスのおはじき。[及 48]

【例】 ねえちゃん ぎやまあすび しねあが
「姉ちゃんおはじきをしませんか」

ぎやらくと おたまじゃくし。[及 86]

【例】 ござにも ぎやらくとあ いだ
「ここにもおたまじゃくしがいるよ」

きゅーであー [kʲũ:de:] [名/ス自] 及第。[続 95]

【例】 ○○さんの むすこあ、○○だいがぐさ きゅーであーしたど
「○○さんの息子は、○○大学に及第したそうだ」

きょうであ [kʲjo:de] 兄弟姉妹。きょうだい。[及 5]

【例】 おれの きょうであにあ あねもいだ
「私のきょうだいには、姉もいます」

ぎよーぎよーす [gʲjo:ŋjo:sũ] [形] 仰仰しい。[続 95]

【例】 ずさまの、べえじゆの ゆわえあこど、ぎよーぎよーすぐ しねあべは
「お爺さんの、米寿のお祝い、仰仰しくしないことにしよう」

きよーであー [kjo:ⁿde:] 鏡台。[続 95]

【例】 よめん くえっずぎあ、あだらす きよーであー かてくんねあんねあな
「嫁にくれる時は、新しい鏡台を買ってくれないといけないな」

きよーめあー [kjo:mɛ:] 供米。供出米。[続 96]

【例】 こどすあ じょうさぐだはげあ きよーめあーも よげん なたな
「今年は、上作だから、供米も多くなったな」

きよとつと [kjototto] [副] きよとんと。[続 96]

【例】 きよとつとした つらして なに たまげっだな
「きよとんとした顔をして、何を驚いているんだい」

きよろつと [kjo:rotto] [副] きよろりと。[続 96]

【例】 ほがの わらす もてる おがす おすそん きよろつと みっだけ
「他の子供が持っているお菓子を、欲しそうにきよろりと見ていたっけ」

ぎよろつと [gjo:rotto] [副] ぎよろりと。[続 96]

【例】 おれあ ないも しねあな へんへあ おれあどご ぎよろつと にらだけ
「僕は何もしないのに、先生は僕をぎよろりと睨んだっけ」

きらら [kirara] 醤油に浮くかび。[続 96]

【例】 あたこえどさ おえだはげあだべが、しょうゆさ きらら うがんだ
「温かい所へ置いたからだろうか、醤油にかびが浮かんだよ」

ぎり [giri] [名] 線。[及 145]

【例】 この ぎりがら、出はらんねああだぞ
「この線から、出られないんだよ」

〇ぎり [giri] [名] 毎。[及 145]

【例】 けあづも いづ年ぎりん おっきぐ なるな
「こいつも、一年毎に大きくなるね」

ぎりえあー [giri:ɛ] 義理合。[続 96]

【例】 となりきんじよの ぎりえあ あっさげあ てずであ えがねあんねあべ
「隣り近所の義理合があるから、手伝いに行かないといけないだろうな」

ぎりがであ [giriŋadɛ] [形] 義理堅い。[続 96]

【例】 おげあしだなて、ほんた ぎりがであ ごど しねあたて えなおす
「お返しだなんて、そんな義理堅いことをしなくともいいんですのに」

きりげあー [kiri:ge:] 切り換え。[続 96]

【例】 この きっけあ ふるすぐ なたはげあ、あだらなど きりげあー すんべ

「この機械は古くなったから、新しいのと切り換えをしよう」

きりこまざぐ [kirikomaⁿdzagü] [四他] 小さく切り裂く。[続 96]

【例】 あったらおの ほんげあ きりこまざえだら つかいおの ならねあべ
「あったらものを、そんなに小さく切り裂いたら使いものにならないだろう」

ぎりしゅび [girišyūbi] [名] 幸不幸への支出。[及 145]

【例】 こどしあ ぎりしゅびの よげだ 年だな
「今年は、幸不幸への支出の多い年だね」

きりっと [kiritto] [副] きりりと。[続 96]

【例】 ほんた だらしねあ かっこしてねあで もと きりっとした かっこしてありげ
「そんなだらしなない格好をしていないで、もっときりりとした格好をして歩きなさい」

ぎりっと [副] 全然。[及 145]

【例】 なしてだべ、〇〇あ ぎりっと こねあなは
「どうしたんだろう、〇〇さんは全然来なくなってしまったね」

きりぱず [kiripaⁿdzü] 切れ端。物を切った端。[続 97]

【例】 つぎの きりぱずあ とて おぐど、いずが やぐんたず ずぎあ ある おんだ
「布の切れ端は、取っておくと、何時か役に立つ時があるものだよ」

きりはれあ [kirihare] 節度。[続 97]

【例】 ほがの えで さげ ごつつおなっずぎあ、きりはれあ えぐ けあて こえよ
「他所の家で酒をご馳走になる時は、節度よく帰って来いよ」

きります [kirimasü] [四他] 切り回す。[続 97]

【例 1】 ほれあ まわりがら ぐるっと きります おんだ
「それは、回りからぐるりと切り回すものだよ」
【例 2】 ほんげあ、あっつの きも こっつの きも、きりまして ありたて だめだ
「そんなに、あっちの木もこっちの木も、切り回して歩いたって駄目だよ」
【例 3】 かけい きりますな おなごの すごどだべ
「家計を切り回すのは、女の仕事だろう」

きりよ一まぎ [kirjo:magi] 美人の血統。[続 97]

【例】 〇〇さん えだば、きりよ一まぎで、きれだ むすめさんだずばり いる
「〇〇さんの家なら、美人の血統で、奇麗な娘さん達ばかりいるよ」

きりんとんび [kirintonbi] 鳶口的一种。これは、鳶口の背に溝を掘ったもので、これで丸太を動かす時、鳶口がずれたりしにくく出来ているものである。[続 97]

きれ 奇麗。[及 25]

【例 1】 この 花 きれだ 花だな
「この花は奇麗な花だね」

【例2】きれずきだ しとだ ごど

「奇麗好きな人だこと」

ぎれ [gire] 儀礼。[続97]

【例】へげんのでめあも あっさげあ、ぎれだけでも おがみん えがねあんねあべ

「世間の手前もあるから、儀礼だけでも拜んでこないといけないだろう」

きれあ [kire] 嫌い。[及25]

【例】きれあだ おのだて くう おんだ

「嫌いなものだって食べるものだよ」

また、「こっつぎんねあー嫌いだ」という使い方ががあるが、これは、女が男に悪さをされた時に発する言葉で「こっつぎんねあごど、……をして」などと使う。

きれがだ [kireḡada] 奇麗好き。[続97]

【例】となりの よめこだば、まず きれがだで、えん なが ひかてる

「隣りの嫁なら、まあ奇麗好きで、家の中が光っているよ」

きれこ [kireko] 布切れ。[続97]

【例】これど おんなず きれこ すこす おすども どごがで うてねあべが

「これと同じ布切れを少し欲しいのだが、何処かで売っていないだろうか」

きれっばす [kireppasü] 切れ端。[続98]

【例】ふぐなのの きれっばす とて おくど、さまざま つかうえ おんだぞ

「服なんかの切れ端を取っておくと、さまざまに使えるものだよ」

ぎろぎろ [girogiro] [副] ぎよろぎよろ。[続98]

【例】やぐざみであんたな、おれあどご ぎろぎろ ならで えた おんだ

「やくぎのようなのが、私をぎよろぎよろ睨んで行ったもんだ」

きんきんごえ [kinkinḡoe] [名] きいきい声。かん高く鋭い声。金切り声。[及145]

【例】〇〇さんだば きんきんごえの しとだな

「〇〇さんは、きいきい声の人だね」

きんくせあ [kinḡuse] [名] 気がかり。気にかかる。[及145]

【例】しとの えさ 来て、えぐ ほんた きんくせあ ごど ゆえる おんだ

「人の家へ来て、よくもそんな気にかかることがいえるもんだ」

きんぜあー [kinⁿdze:] 近在。[続98]

【例】おまずりん ずぎあ、きんぜあーの しとあ くらやまのよん あずばて くる

「お祭りの時は、近在の人が、黒山のように集まってくるよ」

きんな [名] 昨日。[及145]

【例】きんな 〇〇さ えて 来た

「昨日、〇〇に行ってきた」

ぎんばる [動] 頑張る。気張る。いきむ。[及 145]

【例】 こげあた すぎごそ ぎんばる おんだ

「こんな時こそ頑張るものだよ」

きんぴらごんぼ [kinpiragonbo] 金平牛蒡。[続 98]

【例】 おれあまだ きんぴらごんぼ だいすぎで、ときどぎ つくて もらてる

「私は金平牛蒡が大好きで、時々作ってもらってるんだ」

— く —

く [küü] [四他] 食う。[続 98]

【例】 ほの えあこの えあおの おれも くはげあ、こっचा ころ
「そのあいこ ((みやまいらくさ (山菜))) の和え物を、私も食うから、こっちへくれよ」

くいあへ [küüiahe] 食い合わせ。[続 98]

【例】 ないが えぐねあ おの くいあへ した おんだべが、はら いであなよ
「何か悪い物を食い合わせしたんだろうか、腹が痛いんだよ」

くいあんべあ [küüianbe] 食べ具合。[続 98]

【例】 ないだが つかごろ くいあんべあ わりなよ、はらぐえあでも えぐねあべが
「なんだか近頃食べ具合が悪いんだよ、腹具合でも悪いんだろうか」

くいおの [küüiono] 食べ物。食べ物。[続 98]

【例】 えまだば くいおのあ ほうふだす ないでも あて ええ よのながだ おんだ
「今なら食べ物は豊富だし、何でもあって、いい世の中なものだね」

くいくれあご [küüikürejo] 食べ競争。食べくら。[続 99]

【例】 くいくれあごなのして、ろぐに かまねあで のでやっど はら いであぐすんぞ
「食べくらなんかして、ろくに噛まないで飲んでやると、腹をこわすよ」

くいすんぼ [küüisünbo] [ナ名ノ] 食いしん坊。[続 99]

【例】 これあ くいすんぼで、んめあ おの みっど、しとの おのも とて くなだ
「こいつは食いしん坊で、美味しい物を見ると、人のものも取って食うんだ」

くいだず [küü^odadzü] ご飯を食べた直ぐ後。[続 99]

【例】 ままの くだずん ねっど、べごん なる、ていう おんだ
「ご飯を食べた直ぐ後に寝ると、牛になる、というもんだよ」

くいつげあ [küüitsüŋe] 食い違い。[続 99]

【例】 おだげあ えげんの くいづげあ あるよだども なんずが ならねあがや
「お互に意見の食い違いがあるようだが、なんとかならないかね」

くいっばずれ [küüippa^odzüre] 食いはぐれ。食いっばぐれ。[続 99]

【例 1】 いやあ、えそがすくて、ひるまま くいっばずれん なてしました
「いやあ、忙しくて、昼飯を食いはぐれになってしまった」

【例2】 こう すずぎょう つつぐど くいばずれん なるなは
「こう失業が続くと、飯も食えなくなってしまうな」

くいねげ [küüneŋe] 食い逃げ。[続99]

【例】 くいねげするなて なさげねあ こんじよの おのも いる おんだな
「食い逃げするなんて、情ない根性の者もいるもんだね」

ぐうぐど [gür:güdo] [副] さっさと。[及145]

【例】 なにしてんなや ぐうぐど こえちゃ
「何をしているの、さっさと来いよ」

くえ 杭。[及70]

【例】 へげぶづさ くえ ぶてころ、て たのまっだや
「用水路のふちに杭を打ってくれと頼まれたよ」

ぐえあ [gwe] [名] 具合。[及146]

【例】 このじゅ 体の ぐえあ なんだや
「近頃、体の具合は如何がですか」

くえがげ 杭掛け。稲を杭に掛けて乾燥すること。[及70]

【例】 おれあえであ はさがげんねあぐ くえがげだ
「うちでは、はせ掛けでなく、杭掛けだ」

ぐえぐえ [güegüe] [副] ぐいぐい。[続99]

【例】 ほんげあ ぐえぐえ ひばんなや、ほんげあ ひばっど そであ もげる
「そんなにぐいぐい引っ張るなよ、そんなに引っ張ると袖がもげるよ」

ぐえっと [güetto] [副] ぐっと。[及146]

【例】 ほんげあ ぐえっと ひばんなや
「そんなにぐっと引っ張るなよ」

くえぶづ 杭打ち。[及70]

【例】 うらの がげあ くぞっだはげ くえぶづ すねあんねあ
「裏の崖が崩れたから、杭打ちをしないといけないんだ」

ぐえら [güera] [副] ぐっと。急に。[同] ぐえっと。[続99]

【例】 もと ぐえら ひばてみる ほうすっど ぬげで くっさげあ
「もっと、ぐっと引っ張ってみろよ、そうすると抜けてくるから」

くえる [動] かける。情をかける場合に使う。[及146]

【例】 ほういう ずぎあ、なさげ くえる おんでねあ
「そんな時は情をかけるもんじないよ」

くえる [küherü ~kürerü] [動] くれる。[及146]

【例1】 この りんご おめあどさ くれる

「このりんご、お前にくれるよ」

【例2】 おれも てづであして くれる

「私も手伝ってくれるよ」

この語には、「くえっであーくれるよ。あげるよ」、「くえんだーくれなさいよ」、「けるーくれる」、などの使い方がある。

○ **くえる** [動] 塞ぐ。[及 146]

【例】 ほの 穴 くえで くんねあが

「その穴を塞いでくれないか」

くぎだづ [küg'idadzü] とうの立った菜。[及 86]

【例】 くぎだづあ あんまり のばさねあで とれよ

「とうの立った菜は余り伸ばさないで摘むんだよ」

くけであ くけ台。[及 56]

【例】 ほごの くけであ よごしてころ

「そこのくけ台をよこして下さい」

くさえげれ [küsaegerē] 草いきれ。[続 99]

【例】 やまさ えたば、くさえげれで むんむんして、あつがったや

「山へ行ったら、草いきれでむんむんして、暑つかったなあ」

くさこ 湿疹などの皮ふ病。[及 14]

【例】 この わらすき くさこあ 出だなよ

「この子にきものが出たんですよ」

くさつけんま [俚語] 草つけ馬。馬は自分の背で運んで来た草を、自分が食べることから、自分で採って来たわらびなどを、自分が食うこと「草つけんまみであだー草つけ馬みたいだ」といっている。[及 146]

くさば [küsapā] 草の葉。[続 100]

【例】 あさまん、やまさ えたば、くさばの つゆで、ぐしょぬれ なたけ

「朝に、山へ行ったら、草の葉の露で、ぐしょ濡れになったっけ」

くさむすり 草むしり。除草。[及 70]

【例】 はだげさ くさむすりん えぐあだ

「畑にくさむしりに行くんです」

くさやら [küsaajara] 草むら。[同] くさばら。[続 100]

【例】 はだげの ほどりの くさやら かておがねあんねあな

「畑のほとりの草むらを、刈っておかないといけないな」

くさらへる [küsarāherü] [四他] 腐らす。[続 100]

【例】 ほんたどさ おぐど くさらへるばんだはげあ れいぞうこさ へで おげ

「そんな所に置くと、腐らすばかりだから、冷蔵庫に入れておきなさい」

くさるほど [kü̃sarühodo] ぐしょ濡れになるほど。[続 100]

【例】 この あめんなが かさも ささねあで、くさるほど ぬって きたんねあがやは
「この雨の中を、傘もささずに、ぐしょ濡れになる程濡れてきてしまったじゃないか」
なお、この語は、この形だけで使われている。

くじよ [名] 苦情。[及 146]

【例】 しとがら くじよ ゆわれる よんた ごどなの してねあな
「人から苦情をいわれるようなことなんかしていないよ」
また、この語には、「くじよあたげあー苦情が多い」という使い方もある。

くじよ [kü̃rdʒo] 苦情。[続 100]

【例】 ステレオ あんまり たげあぐすっど となりあだりがら くじよ ゆわれんぞ
「ステレオを、余り高くすると、隣りあたりから、苦情が出るよ」

ぐしょつと [gü̃ʃotto] [副] ぐっしょり。[続 100]

【例】 やぶやら こえだら あさつゆで、ぐしょつと ぬってしまた
「藪を歩いたら、朝露で、ぐっしょり濡れてしまったよ」

くず [kü̃rdzü̃] 籤。[続 100]

【例】 さいそうつの もずば こどすも くずで きめんべや
「採草地の持ち場は、今年もくじで決めようや」

ぐす [gü̃sü̃] 棟。[及 49]

【例】 ぐす あげっさげあ、皆 きいつけるよ
「棟を上げるから皆気をつけろよ」

くずうるせあ [kü̃dzü̃ürüse] 口うるさい。[続 100]

【例】 くずうるせあごどな、ほんげあ なんべんも ゆわねあたて すっさげあ
「口うるさいね、そんなになんべもいわなくもするから」

くずおずる [kü̃dzü̃odzürü̃] 白状する。[続 100]

【例】 しょうご めへらっだ おんだはげあ、とうど くずおずだけど
「証拠を見せられたものだから、とうとう白状したそうだ」

くずおもであ [kü̃dzü̃omode] [ダナ] 口重。[続 101]

【例】 ○○さんだば、くずおもであ ほで、あんまり しゃべらねあ ほだな
「○○さんなら、口重の方で、余り喋べらない方だね」

くずきたねあ [kü̃dzü̃kütane] [形] 口汚い。[続 101]

【例】 ほんげあ くずきたねあぐ あぐであ つがねあたて えべや
「そんなに口汚く悪態を吐かなくともいいじゃないか」

くすぐってあ [kü̃sü̃jütte] [形] くすぐったい。[続 101]

【例】 あっ、くすぐってあ ごど、ほんげ こちよがすなじゆ
「あっ、くすぐったいこと、そんなにくすぐるなよ」

くずくへ [kūdzuükūhe] 口癖。[続 101]

【例】 ばさま、はるん なたら、わらびとりん えぐて、くずくへのよん ゆてる
「お婆さんは、春になったら、わらび採りに行くなって、口癖のようにいってるよ」

くずごごと [kūdzuükogodo] 口小言。[続 101]

【例】 おれあえの ばさまだば、なにあ きんくわねあ おんだが、ずっと くずごごとだ
「うちのお婆さんは、何が気に入らないものなのか、始終口小言だよ」

くずごであ [kūdzuūjode] 口答え。[続 101]

【例】 つかごろ、くずごであ するよん なたな、はんこうきさ へあたあだべが
「近頃、口答えをするようになったね、反抗期に入ったんだろうか」

くずたず [kūdzuütadzü] 幼児が始めてものをいい始めること。[続 101]

【例】 あら、〇〇ちゃん こんだ ようやぐ くずたずよん なたな
「あら、〇〇ちゃんは、今度漸くものを言い始めるようになったな」

くずたず [kūdzuütadzü] 反抗的な言い方。[同] くずきぐ。[続 101]

【例】 ほんた くずたずど はすらさ すばて おぐぞ
「そんな言い方をするなら、柱に縛っておくよ」

くずつてあー [kūdzuütsüte:] 口伝え。[続 101]

【例】 むがすばなすて、えぐ くずつてあで、こごまで のごして きた おんだな
「昔話つて、よく口伝えて、ここまで残してきたものだね」

くずっぴぎ [kürⁿdzüppigī] くじ引き。[続 102]

【例】 だれがら うだうが くずっぴぎで きめんべや
「誰から唄うか、くじ引きで決めようよ」

くずぬがれ [kürⁿdzüünūjare] くじのがれ。[続 102]

【例】 むがし、おれあ、くずぬがれで へえてあさ えがねあがったあだ
「昔、私は、くじのがれで、兵隊に行かなかったんだよ」

ぐすねる [güsünerü] [四自] ぐずつく。[続 102]

【例】 ないしたあだべ、この わらすあ えがねあどて ぐすねる おんだ
「どうしたんだろう、この子は行かないといて、ぐずつくものだこと」

くずばす [kūdzuüpasü] 嘴。なお、この語は、鳥の嘴だけでなしに、人の口にも使う。[続 102]

【例 1】 けらつづぎて、よっぼど くずばすの かであ とりだ おんだんだな
「きつつきて、余程くちばしの堅い鳥なものなんだな」

【例 2】 くずばす とがける
「口をとがらす」

【例3】 くずばす なんげあ

「口先が長い（物を食べている所へ行き合わせること）」

【例4】 くずばすの きいろい かんめあして

「口先の黄色いくせして」

くずふたぎ [kūdzüüfütan̄i] 口塞ぎ。[続 102]

【例】 ほんとの くずふたぎで なんにも ごぎへんども ゆっくり あがて えてくださあ

「ほんの口塞ぎで、何もごぎいませんが、ゆっくり召し上がって行って下さい」

くずぶどん [kūr^odzüübüdon] 藁布団。これは、藁の布団で、稲藁の側葉だけを取り、穂のついた茎の部分を除いて、綿の代りに入れたものをいう。この布団は一番下に敷き冬に用いた。[続 102]

くずまがへ [kūdzüümagahē] 口任せ。[続 102]

【例】 くずまがへん、ほんた でだらめだ ごど ゆたて だめだべや

「口任せに、そんな出鱈目なことをいったって、駄目じゃないか」

くずまねあ [kūdzüümane] 口真似。[続 102]

【例】 ないだて、うるせあ ごどな、しとの くずまねあなのばり して

「まあ、うるさいこと、人の口真似なんかばかりして」

くずめあー [kūr^odzüüme:] 屑米。[続 103]

【例】 くずめあ きょうしゆずさんねあんだす、おわえで かねあんねあべ

「屑米は供出されないんだし、自分の家で食べないといけないだろう」

くずめあっこ [kūr^odzüümekko] 屑繭。これは、蛹が二匹入った大繭や薄く糸を張ったまゆなどの、糸を取れない蚕のまゆをいう。これらのまゆは自家用の真綿を取って使った。[続 103]

ぐすもづ [gūsüümodzüü] 上棟式に使う餅。上棟式で神に供えた餅。この餅は式後、式を行った屋根から、大根を切ったものや、お菓子等と共に見物人に撒いてやる、この餅を拾って食べると、病気になるという。[及 39]

くずや [kūdzüüja] 口矢。これは、「や（及位の方言 67P）」ともいい、木製のもの鉄製のものがあり、いずれも、伐木の際受口に打ち込み、木を思う方向に倒すために使う。[続 103]

くずや [kūr^odzüüja] 草屋根。これは、かややわらで葺いた屋根をいう。今は見られなくなった。
[同] くずやね。[続 103]

くずやがます [kūdzüüjagamasü] [形] 口喧しい。[続 103]

【例】 おれあえの おやずだば、ます くずやがます しとで、うるせあくれあだ

「うちの親父なら、まあ口喧しい人で、うるさいくらいだよ」

ぐずらぐずら [gūdzüüragüdzüüra] [副] ぐずぐず。[同] ぐずらもずら。[続 103]

【例1】 この にずぐりあ ぐずらぐずらて だめだはげあ、もと きずぐ すばれ

「この荷造りは、ぐずぐずでいけないから、もったきつく縛れよ」

【例2】 なに ぐずらぐずらてんなや、ここ はやぐ かなだずげでしまえ

「なにをぐずぐずしているんだい、ここを早く片付けてしまいなさい」

【例 3】ぐずらぐずら もんく ゆてねあで はっきり ゆてみろ

「ぐずぐず文句をいってないで、はっきりいってみろよ」

くすん [名] 苦心。[及 146]

【例】 こと こしえっずぎあ いづばん くすん したな

「ここを作る時が一番苦心したね」

くせあ [kũse] 臭い。[及 25]

【例】 この くせあな ないなおんだ

「この臭いのは何なんだい」

くせあくれあ [kũsekũre] [副] 十分。くさい程。[及 146]

【例】 ほんた ごどだば、くせあくれあ おべっだ

「そんなことなら、十分知ってるよ」

くせあつら [kũsetsũra] [名] 洗面。[及 146]

【例】 しごど たのだば、くせあつら すんなだぜあ

「仕事を頼んだら、洗面をつくるんだよ」

くぞ 葛。まめ科のつる植物。[及 86]

【例】 んまの おのん すっさげあ、くぞ とて こえ

「馬の飼糧にするから、くずをとって来てくれ」

くそえず [kũsoeⁿdzũ] [強調] 意地。意地の強調語。[続 103]

【例】 いずまでも、くそえず はてねあで、するごど したら えんねあが

「何時までも、意地を張っていないで、することをしたらいいじゃないか」

くぞす [kũⁿdzosũ] [四他] 崩す。[続 103]

【例 1】 ひじゃ くぞして、おらぐに してくだせあ

「膝を崩して、お楽にして下さい」

【例 2】 あの やま くぞして どうろ つぐっど

「あの山を崩して、道路を作るそうだ」

【例 3】 この へんえんさず くぞしてころ

「この千円札をくずして下さい」

くそたれけつつ [kũsotarekettsũ] 中腰。[続 104]

【例】 ほんた くそたれけつつであ つから へある おんでねあんだはげあ

「そんな中腰では力が入らないじゃないか」

くそべあ [kũsobẽ] くろばえ。にくばえなどの大型の黒い蠅。[及 86]

【例】 やだごど くそべあ へあて きたじゅ

「いやだね、くそ蠅が入って来たよ」

ぐぞへあ [güdzöhe] その他多勢。三下。[及 5]

【例】 くぞへあばりで、委員は こねあな
「その他多勢ばかりで、委員は来ないな」

くそへび [küssoḩebī] ^{まむし} 蝮。[及 86]

【例】 くそへびに かまっで しだ しとあ いだど
「まむしに噛まれて、死んだ人がいたそうだよ」

くそり [名] 薬。[及 146]

【例】 かじえ ひだんねあが、くそり ので おげよ
「風邪をひいたんじゃないか、薬を飲んでおけよ」

くぞれる [動] 崩れる。[及 146]

【例】 ほんたどさ あがっど いすあ くぞれっさげあ、あがんな
「そんな所に登ると、石が崩れてくるから、登るな」

くだおの 果物。[及 39]

【例】 なにが くだおの くであな
「何か果物を食べたいな」

くだけ 砕け米。[同] くだけめあ。[及 39]

【例】 こどすあ あんまり くだけあ でねあな
「今年は余り砕け米が出ないね」

くだけとす [küⁿdaḩetosü] 砕け米をふるう篩。[続 104]

【例】 ほごに くだけとすあ あんべ、ほれ もて きてくんねあが
「そこに砕け米をふるうふるいがあるだろう、それを持ってきてくれないか」

くだけもず [küⁿdaḩeḩmodzü] 砕け餅米で作った餅。[続 104]

【例】 くだけのもずごめあ あっさげあ、くだけもず つぐんべ
「砕け餅米があるから、砕け餅を作ろう」

くだせあ [küⁿdase] 下さい。[同] けらっしえ。くであ。[及 147]

【例】 おれあつあ これ くだせあ
「私にこれを下さい」

ぐたっと [gütatto] [副] ぐったり。[及 147]

【例】 くたびっで ぐたっと したっけは
「くたびれて、ぐったりしてしまっていたつけ」

くたばりぞごねあー [kütabariⁿdzogone:] くたばり損ない。[続 104]

【例】 としよて、くたばりぞごねあなて、ゆわれるよん なっだぐねあ おんだな
「年とって、くたばり損ないなんて、いわれるようになりたくないものだね」

くだはる [küⁿdaharü] [四他] 下さる。この語は、古い言葉で、極一部の人が、昔話を語る

なかで使っているくらいのものである。[続 104]

なお、この語の反対の言葉に「くであ。くっでころ＝下さい」がある。

くたらくたら [形] くたくた。疲れたさま。[及 147]

【例】 くたびっで、くたらくたらだ
「疲れて、くたくただよ」

ぐだらぐだら ぐたぐた。のろのろ。疲れがくたくたよりひどいこと。仕事をいやいや、のろのろやること。[及 147]

【例 1】 ぐだらぐだらて いうくれあ くたびだながは
「ぐたぐた、というぐらい疲れてしまったのかい」

【例 2】 仕事ずあ ぐだらぐだらていねあで さっさど する おんだ
「仕事というものは、のろのろやってないで、さっさとやるもんだよ」

くだらねあ [küü'darane] [連語] くだらない。[続 104]

【例】 ほんた くだらねあ ごど してねあで ちゃっちゃど こっちゃ こえ
「そんなくだらないことをしていないで、さっさとこっちへ来なさい」

くちゃくちゃ [küüt'jaküüt'ja] [ノダナ] くしゃくしゃ。[続 104]

【例】 あだらす かみ ほんげあ くちゃくちゃ したて だめだべな
「新しい紙をそんなにくしゃくしゃにしたって駄目じゃないか」

ぐちゃぐちゃ [güüt'jagüüt'ja] [副/ノダナ] ぐしゃぐしゃ。[続 104]

【例】 あめなのばり ふる おんだはげあ、みずあ ぐちゃぐちゃだ
「雨なんかばかり降るものだから、道がぐしゃぐしゃだよ」

くづあかであ [küüdzüüa kade] [形] 口堅い。口の堅いこと。[及 147]

【例】 あの しとだば くづあかであ しとだ
「あの人なら口堅い人だよ」

くづあんべあ [küüdzüüanbe] [名] 口先。[及 147]

【例】 あれだば くづあんべあばり えくて
「あいつなら、口先ばかりよくて」

くづあんべあ [名] 口当たり。口の味わい。口先。[及 25]

【例 1】 くづあんべあ わりくて、さっぱり 味あ しねあ
「口の味わいが悪くて、さっぱり味がしないよ」

【例 2】 くづあんべあばり ええ しとだ
「口先ばかりいい人だ」

くづおがず [küüdzüüoga'dzüü] [名] 続けざま。休みなく。[及 147]

【例】 えぐ くづおがず しゃべる おなごだ
「よく続けざまにしゃべる女だ」

くっかける [kükkagerü] 食いかける。[続 104]

【例】 ないだ ほんた くっかけでがら くえるかんじよが
「なんだ、そんな食いかけてから くれるつもりかい」

くづかける [küdzükagerü] [動] 頼む。予約する。予め話を通しておく。[及 147]

【例】 ○○の娘 ころて くづかけだ
「○○さんの娘さんをくれと頼んでおいたよ」

くつく [kükkü] [幼児語] 靴。[続 105]

【例】 ○○ちゃん くつく はげよ
「○○ちゃん、靴を履きなさいよ」

くつぐ [kütsügü] [四自] くつつく。[続 105]

【例】 ほの せっちゃぐぜあ ゆびなのさ くつぐど とんねあぐなんぞ
「その接着剤は、指なんかにくつつくと、取れなくなるよ」

くつぐ [kütsügü] [動] 食いつく。付く。着く。野合する。[同] ひっぐ。ひつつぐ。[及 147]

【例 1】 ほの 犬あ くつぐ 犬だぞ
「その犬は、食いつく犬だよ」

【例 2】 この 糊の ほあ えぐ くつぐ
「この糊の方がよく付くよ」

【例 3】 あそこの 娘あ おどごど くっだど
「あそこの娘は、男と野合したそうだ」

くつげる [kütsügerü] [下一他] くつつける。[続 105]

【例】 わらしたずあ、ストーブさ てなの くつげねあよん、きいつけるよ
「子供らが、ストーブに手なんかくつつけないように、気を付けろよ」

くつこ ぐず粉。麦粉。昔はぐずの根から採ったが、今はぐずからは採らず、麦粉をいっている。[及 40]

くっころす [kükkorosü] [四他] 食い殺す。噛み殺す。[同] くっけあす。[続 105]

【例】 ほっかいどうの ひぐまずあ、しとんどごも くっころすつけな
「北海道の鰯というのは、人をも食い殺すそうだな」

くっされ [küssare] [接頭辞] 腐れ。[続 105]

【例】 この くっされやろ ろぐでもねあ ごどぼり して
「この腐れ野郎が、ろぐでもないことばかりして」

くっされ [küssare] [名] 腐れ。[続 105]

【例】 この かぼちゃ くっされ はすめだな
「この南瓜は腐れ始めたな」

くっされえん [küssareen] 腐れ縁。[続 105]

【例】 えあずどあ、むがすからの くっされえんで、まだ はなれらんねあでいる
「あいつとは、昔からの腐れ縁で、まだ離れられないでいるよ」

くっされとどこ 病蚕。病気にかかり、腐れたようになった蚕。[及 70]

【例】 雨ばり 降る おんだはげあ くっされとどこあ 出はて きたじゅ
「雨ばかり降っているものだから、腐れた蚕が出て来たんだよ」

くづした [küdzüsjta] 靴下。[及 56]

【例】 この くづした、ちっちえて はがんねあは
「この靴下は、小さくて、もう履けないよ」

くづすぎ [küdzüsünj] [名] 口過ぎ。身過ぎ。世過ぎ。暮らしを立てること。[及 147]

【例】 くづすぎの すごど さがさねあんねあな
「暮らしを立てて行く仕事をさがさないといけないな」

くったらす [動] [強調] たらす。たらすの強調語。[及 148]

【例】 なんだ はな くったらして
「なんだ、鼻汁をたらして」

ぐっちや [güttja] ぬかるみ。水たまり。[及 102]

【例】 よごれっさげあ ぐっちやさ へあんなよ
「汚れるから、ぬかるみに入るんじゃないよ」

くっちやぼる [küttja^mborü] [動] かじり散らす。完全に食べないで、あちこちかじり散らすこと。[及 40]

【例】 くっちやぼらねあで、きれん け
「かじり散らさないで、きれいに食べなさい」

くっちやぼる [küttjaborü] 食い散らす。[続 105]

【例】 くっちやぼて、ほごらあだりさ つらがしたて だめだぞ
「食い散らして、そこらあたりに散らかしたって駄目だよ」

ぐっちやり [güttjari] [副] ぐっしより。[同] ぐっちより。[続 105]

【例】 こんもり もて えがねあなさ あめん ふらっで ぐっちやり ぬっだは
「傘を持って行かないのに、雨に降られて、ぐっしより濡れてしまったよ」

くつつ [küttüsü] [形] くちい。きつい。[続 105]

【例 1】 あんまり くたば はら くつつ
「余り食べたら腹がくちい」

【例 2】 この ズボン くつつくて はがんねあ
「このズボンはきつくてはかれないよ」

なお、この語は、「仕事がきつい」とか、「きつい顔つき」などのような表現には使わない語である。

くつつ [küttüsü] きつい。窮屈なこと。満腹なこと。[及 25]

【例1】 この くづあ すこす くつつな

「この靴は少しきついな」

【例2】 腹 くつつくて あど かんねあは

「満腹で、あとはもう食べられないよ」

くつつぎる [küttsünjirü] 食い千切る。[続106]

【例】 この にぐあ しねあくて くつつぎらんねあ、これあ としより べごだな

「この肉は強韌で食い千切られないよ、これは年寄り牛だな」

くつつぶす [küttsübüsü] [四他] 食い潰す。[続106]

【例】 ○○あ あれだけの ぜあさん くつつぶしてしまたどは

「○○は、あれだけの財産を、もう食い潰してしまったそうだ」

くつつぶる [küttsübürü] [四他] [強調] 瞑る。瞑るの強調語。[続106]

【例】 ほら、まなぐ くつつぶてるよ、ごみあ へあっさげあな

「ほら、目を瞑っておれよ、ごみが入るからな」

くつつらがす [küttsüragasü] [四他] 食い散らす。[続106]

【例】 ほの くいざんま ないだおんだ みな くつつらがして

「その食いざまはなんだい、みな食い散らして」

ぐって [gütte] [副] ぐうと。[及148]

【例】 えぐねあ やろだ ぐって いうくれあ たであでやれ

「よくない野郎だ、ぐうというくらいたたいてやれ」

くづとがける [küdzütogakerü] [連語] 不平をいう。口をとがらす。[同] くづとがらへる。くづとげる。[及148]

【例】 ほんげあ くづとがける おんでねあ

「そんなに口を尖らすもんじゃないよ」

くづびた [küdzüpita] 唇。[同] くづびら。くづびら。くづべら。くづべら。[及10]

【例】 まだ くづびた とがらへる

「また、唇をとがらせる（不平をいう）」

くづよへ [küdzüjoçe] [名] 口寄せ。神おろし。[及148]

【例】 あんまり ゆめみあ えぐねあはげあ くづよへ して もらうべ

「あまり夢見が悪いから、口寄せをしてもらおう」

ぐでぐで [güdeğüde] ぐでんぐでん。[続106]

【例】 こんげあ ぐでぐで よっぱらたおの、えさ つで えた ほあ えなは

「こんなにぐでんぐでんに酔っ払ったもの、もう家へ連れて行った方がいいな」

くど 炭がまの煙出し。煙出し。[及71]

【例】 くどずあ おっきくても、ちっちえくても だめだ おんだ

「炭がまの煙出というものは、大きくても、小さくても駄目なものだよ」

くどえ [kũrˠdoɛ] [形] くどい。[及 148]

【例】 ほんげあ くどえ ごど ゆわねあて わがる
「そんなにくどいことをいわなくとも分るよ」

くどぐ [kũrˠdogũ] [動] 口説く。愚痴をいう。[及 148]

【例】 おめあも ぜえぶん くどぐぢやな
「お前も随分愚痴をいうね」

ぐなぐな [gũnagũna] [副] ぐにやぐにや。[及 148]

【例】 針金 ぐなぐな 曲げてしたな 誰だ
「針金をぐにやぐにや曲げてしまったのは、誰だ」
この語には、「ぐなっとーぐにやっと」などの使い方もある。

ぐなぐな [gũnagũna] [副/ノダナ] ぐにやぐにや。これは、針金のような柔軟なものが、ぐにやぐにやに曲るさまをいう。[続 106]

【例】 この はりがねあ ぐなぐな まがてだ
「この針金はぐにやぐにや曲っているよ」

ぐなっと [gũnatto] [トス自] げんなり。[続 106]

【例】 はらやみして ままも かねあ おんだはげあ、ぐなっと なてだであは
「腹痛みをして、ご飯も食べないものだから、もうげんなりになってしまってるよ」

ぐなっと [gũnatto] [副] ぐんにやり。ぐにやっと。この語は、針金などが「ぐんにやり」曲るさまをいい、軟らかいものの潰れるさまには使わない語である。[続 106]

【例】 はりがねあ ぐなっと まがた
「針金がぐんにやり曲った」

くびかがり [kũp̚iˠkagari] [名] 首っり。首くくり。[及 148]

【例】 ○○あ くびかがりして しだどは
「○○は、首っりして死んでしまったそうだ」

くびかざり [kũp̚iˠkaˠdzari] 首飾り。ネックレス。[続 106]

【例】 まず ええ くびかざり かて きたごど、どれ えぐ めへろや
「まあ、いい首飾りを買ってきたわね、どれ、よく見せなさいよ」

くびこ [kũp̚iˠko] 肩車。[同] かだくび。[続 107]

【例】 つあつあ くびこしてころじゅ、えがべや
「お父さん、肩車をして下さいよ、いいでしょう」

くびたま [kũp̚iˠtama] 首。[同] くびと。くびとこ。[及 10]

【例】 ほんげあ くびたまさ たぐづぐなや
「そんなに、首にすがりつくなよ」

ぐびっと [güpitto] [副] ぐっぴり。[及 148]

【例】 あめずあ ぐびっと のむおんでねあぞ
「飴は、ぐっぴり飲むんじゃないよ」

ぐびっと [güpitto] [副] ごくりと。物を飲み込むさま。[同] ごびっと。[続 107]

【例】 くそり にげあごったら、えっぺんに ぐびっと のでしまえ
「薬が苦いなら、一遍にごくりと飲んでしまいなさい」

くへ [kühe] くせ。癖。[続 107]

【例】 しとにあ さまざまの くへあ ある おんだ、なくてななくへていうはげあな
「人にはさまざまの癖があるものだね、なくて七癖というからな」

くへべご [kühebeگو] 癖牛。険悪な癖を持つ牛。[続 107]

【例】 この べごあ くへべごだはげあ、うっかり そばさ よんなよ
「この牛は癖牛だから、うっかり傍へ寄るなよ」

くぼたみ [kübotami] 凹地。[続 107]

【例】 ほら、こここの くぼたみさ みずあ たまったばげあ きいつけで ありげよ
「ほら、こここの凹地に水が溜っているから、気を付けて歩けよ」
なお、この語は、「くぼたび」、小さい凹地を「くぼたみこ」といっている。

くまのしし 熊。[及 86]

【例】 ○○あ くまのしし とて きたけ
「○○が、熊を捕って来たつけ」

くまばず [kümadadzü] 花蜂の類の総称。これは、膜翅目の、まるはなばち科の蜂を総称した名称である。[続 107]

くみあへ [kümiahe] 組み合わせ。[続 107]

【例】 やきゅうの しあいの くみあへあ ちゅうせんで きまんなどど
「野球の試合の組み合わせは、抽選で決まるんだそうだ」

くみあへる [kümiaherü] [下一他] 組み合わせる。[続 107]

【例 1】 いなさぐど やさいつぐり くみあへるごどん すんべ
「稲作と野菜作りを組み合わせることにしよう」
【例 2】 こんどの しあああ ○○ど くみあへらっだど
「今度の試合は、○○と組み合わせられたそうだ」

くみえあー [kümie:] 組合。これは、いろいろの組合の組織をいう。[続 107]

くみげある [kümigerü] [下一他] 組み替える。[続 108]

【例】 ぶらぐの よさん じぎょうひ しゅんして くみげあたら えんねあべが
「部落の予算を、事業費を主にして組み替えたらいじゃないだろうか」

ぐみこ [名] 三つ編み。紐や髪などの三つ編をいう。[及 148]

【例】 けえどで ぐみこ くでだ
「毛糸で、三つ編みを編んでいます」

くものゆえ [kümonojüe] [連語] 雲の上。[続 108]

【例】 ほうゆう、こうきゅうな え たでるなて、くものゆえの はなすだな
「そういう、高級な家を建てるなんて、雲の上の話だな」

ぐやぐや [güjagüja] [副] うようよ。[同] ぐよぐよ。[続 108]

【例】 あそごの みずたまりんどさ、ぎやらくとあ ぐやぐや いただけ
「あそこの水溜りの所に、おたまじゃくしが、うようよいたっけ」

くやす 口惜しい。[及 25]

【例】 もうすこすで いっと なりかねあで くやす こと
「もう少しで、一等になりかねて、口惜しいこと」

くら [küra] 崖。[同] がんくら。がんけづ。[続 108]

【例】 あそごの くらだば まっすぐ きりたて みごどだ おんだ
「あそこの崖なら、真っ直ぐに切り立って、美事なもんだな」

くらす [küraodzü] 崖から落ちることをいう。[続 108]

【例】 ○○さん きんな じゃえんめあ とりん えて くらすして おおけがしたど
「○○さんが、昨日ぜんまい採りに行って、崖から落ちて大怪我をしたそうだ」

くらぐら [kürañüra] 夕方の暗くなり始めの頃をいう。[続 108]

【例】 ほんげあ くらぐらまで おもでで あすでねあで はやぐ けある おんだ
「そんなにうす暗くなるまで、外で遊んでいないで、早く帰るものだよ」

くらげあ [kürañe:] 鞍替え。[続 108]

【例】 ○○さんわ、こんだ ○○がえしやさ くらげあ すんなだど
「○○さんは、今度○○会社に鞍替えをするんだそうだ」

くらすあんべあ [kürasüanbe] 暮し具合。[続 108]

【例 1】 あそごの えあ くらすあんべあの ええ えだな
「あそこの家は、生活状態のいい家だね」

【例 2】 この むらだば くらすあんべあの ええ どごだ
「この村は、住み心地のいい所だね」

くらすける [動] なぐる。たたく。[同] くらつける。くらわへる。くれあつける。[及 148]

【例】 あんまり きがねあど くらすけんぞ
「あまりきかないと、なぐるよ」

くらすま [名] 暗隅。暗闇。[同] くらすまこ。[及 148]

【例】 くらすまん いねあで あがし つけろ
「暗隅にいないで、灯りをつけなさい」

くらばれあ [kürabare] 蔵払い。[続 108]

【例】 ○○であ くらばれあして おおやすうりすっごだど
「○○店では、蔵払いして、大安売りするところだそうだ」

くらべおの [kürabeono] 比べ物。[続 109]

【例】 この りんごあ、おっきし あめあし、ほつつんなどあ くらべおのん ならねあ
「この林檎は、大きいし甘いし、そっちのとは比べ物にならないね」

くりあへる [küriaherü] [下一他] 繰り合わせる。[続 109]

【例】 すこす ざいりょう たんねあども なんとが くりあへで つぐんべ
「少し材料が足りないが、なんとか繰り合わせて作ろう」

くりくり [kürükürü] [副] くるくる。[続 109]

【例 1】 かぎぐるま くりくり まわるな
「風車がくるくる回るね」

【例 2】 えそがすくて くりくりめあだ
「忙しくて、くるくる舞いだ」

ぐりぐり [gürigürü] [副] ぐるぐる。廻ること。[同] ぐりっと。[及 149]

【例】 迷て、山 ぐりぐり まわて ありた
「迷って、山をぐるぐる廻って歩いた」

ぐりぐりめあ [gürigürüme] [名] 天手古舞。[同] ぐるぐるめあ。[及 149]

【例】 えそがしくて、ぐりぐりめあだ
「忙しくて、てんてこ舞だよ」

くりげあす [kürigesü] [四他自] 繰り返す。[続 109]

【例】 がっこで きできた ごど くりげあして べんきょうしてみろ
「学校で聞いてきたことを、繰り返して勉強してみなさい」

ぐりっと [gürütto] [副] ぐるりと。[続 109]

【例】 きょうあ わらびあ ででねあくて あの やま ぐりっと まわて きた
「今日は、わらびが出ていなくて、あの山をぐるりと回ってきたよ」

くります [動] きりまわす。くりまわす。家計をやりくりする。[及 149]

【例】 えの くりますも らぐんねあ おんだけあ
「一家のくりまわしも、楽じゃないもんだよ」

ぐるぐるめあ [gürügürüme] 天手古舞。[続 109]

【例】 はるん なたら、あつも しねあんねあ こつつも しねあんねあで ぐるぐるめあだ
「春になったら、あっちもしないといけない、こっちもしないといけないで天手古舞だよ」

くるす [kürüsü] [形] 苦しい。[続 109]

【例】 この わらすの がくせいずであ けいぎいてぎに いずばん くるすがった

「この子の学生時代が、経済的に一番苦しかったよ」

ぐるっと [gürütto] [名] ぐるり。周囲。[同] ぐりっと。ぐりり。[及 149]

【例】 えの ぐるっとさ そがぎ すろは

「家のぐるりに雪囲をしてしまいなさい」

くるまあげ [kürümaage] 翅に黒い班点のあるとんぼ。これは、のしめとんぼ、このしめとんぼ、みやまあかね等のとんぼで、翅に黒い班点のあるとんぼの総称である。[続 109]

くるまえど [kürümae^{ndo}] 車井戸。[続 109]

【例】 むがすあ、くるまえどどが、つるべえどなて あってあったな

「昔は、車井戸とか、つるべ井戸なんてあったものだったな」

くるまであ [kürüma^{de}] 車代。[続 110]

【例】 タクシーさ のっど、くるまであ とらえっさげあ ありて えぐべは

「タクシーに乗ると、車代を取られるから、歩いて行ってしまおうよ」

くれ [küre] [形] 黒い。[同] くろえ。[続 110]

【例】 かいすいよぐさ えて きたば おめあも であぶ くれぐ なたな

「海水浴に行ってきたら、お前も大分黒くなったな」

くれ [名] 桶板。桶にする細長い板。[及 149]

【例】 ほの くれあ こっつんなさ 使うあだ

「その桶板は、こっちのに使うんだよ」

くれあ [küre] [名] 位。[及 149]

【例 1】 材料あ ほのくれあで たくさだ

「材料は、それ位で沢山だ」

【例 2】 ○○あ へえてあさ えて くん○等の くれあ もらてあったど

「○○さんは、兵隊に行つて、勲○等の位を貰つてあったそうだ」

また、それくらいという語は、「ほれぐれあ」といつている。

くれあ [küre] 暗い。[及 25]

【例 1】 くれあごど、もと あがりぐ すろや

「暗いこと、もっと明るくしてくれよ」

【例 2】 くれあから くれあまで えぐ はだらぐ おんだ

「夜明け（まえ？）から、暗くなるまで、よく働くものだ」

～くれあご [~küreŋo] くら。競争。比べ。[続 110]

【例 1】 はすりくれあご

「走りくら」

【例 2】 かだりくれあご

「語り比べ」

【例3】 くいくれあご

「食べ競争」

【例4】 しょいくれあご

「背負いくら」

くれあづく [küredzüügü] [動] 食らいつく。[及 149]

【例】 ほえどみであん くれあづく おんでねあ

「乞食みたいに食らいつくものじゃないよ」

くれあどり [küreⁿdori] 位取り。[続 110]

【例】 なた けいさんだて、くれあどり まずがうど だめだぞ

「どんな計算だって、位取りを間違うといけないよ」

くろえ 黒い。[及 25]

【例】 つらさ なにが くろえ おのあ つっだぞ

「顔に何か黒いものがついてるよ」

くろごぶし くるぶし。[及 10]

【例】 くろごぶし ぶついで いであくて

「くるぶしをぶつつけて、痛たくて」

くろざど [küroⁿdzado] 黒砂糖。[続 110]

【例】 えまだば、するざどどが ざらめなの あんども、くろざどあ みらんねあな

「今なら、白砂糖とかざらめなんかはあるが、黒砂糖は見られないな」

くろぼえ [küropoë] [形] 黒っぽい。[同] くろっぽす。[続 110]

【例】 この くろぼえなより、ほつつの あがり がらの ほあ にやうな

「この黒っぽいのより、そっちの明るい柄の方が似合うね」

くろぼぐ [kürobogü] 黒土。[続 110]

【例】 この はだけあ、ねんどの へあた あがつずだはげあ、くろぼぐ まじえねあんねあな

「この畑は、粘土の入った赤土だから、黒土を混じえないといけないな」

くわぐ [küwagü] [動] くわえる。口にくわえること。[及 149]

【例】 はっから、煙草なの くわぐ おんでねあ

「年端も行かないくせに、煙草なんかくわえるもんじゃないよ」

この語には、「くわがえる—くわえられる」、「くわえだば—くわえたら」などの使い方がある。

くわす [küwasü] [形] 詳しい。[続 110]

【例】 ほういう ごどだば、おれより ○○さんの ほあ くわすぐ おべでる

「そういうことなら、俺より○○さんの方が、詳しく知ってるよ」

くわすぎれあ [küwaⁿdzünjire] 食わず嫌い。[続 110]

【例】 くわすぎれてな、くてみねあで きれあだていう ごどだぜあ

「食わず嫌いってな、食べてみないで、嫌いだということだよ」

くわる [kūwarū] [四自] 塞がる。この語は、穴などが塞がることに使い、「胸が塞がる」とか「手が塞がる」といった意味では使わない語である。[続 111]

【例 1】 えんとずあくわた

「煙突が塞がった」

【例 2】 すいもんが ごみで くわる

「水門が、ごみで塞がる」

くんする [動] 苦にする。[及 149]

【例】 ほんた ごど くんする おのあ ねあべな

「そんなことを苦にする者はないじゃないか」

くぬぎ [kūnnūgi] 栗の木。[及 87]

【例】 くぬぎあ くさらねあはげあ どであに えど

「栗の木は腐らないから、土台にいいそうだ」

なお、木を「ぬぎ」といい、「くりぬぎ—栗の木」、「くるみぬぎ—くるみの木」、「さぐらぬぎ—さくらの木」、「とづぬぎ—栃の木」、「ほんぬぎ—朴の木」などと使っている。

— け —

けあ [kɛ] [名] 効。[及 150]

【例】 あづがた けあ あたな
「看病した効があったな」

けあ [kɛ] かゆい。[及 25]

【例】 へなが けあ はげあ けあでころ
「背中が痒いから、かいてくれ」

げあ [gɛ] [副] あんまり。法外。[及 150]

【例 1】 みな もて えぐなて ほれだば げあだべぜあ
「みな持っていくなんて、それではあんまりだろうよ」

【例 2】 ほげあた たげあ 値段だば げあだべや
「そんな高い値段なら、法外だろうや」

げあ [gɛ] [名] 害。[及 150]

【例】 野菜さ 虫のげあ ではずめだな
「野菜に虫の害が出はじめたな」

けあー [kɛ:] 貝。[同] けあっこ。[続 111]

【例】 この けあー ないていうなだべ、おら みだごどのねあ けあーだな
「この貝はなんというんだろう、私は見たことのない貝だな」

けあー [kɛ:] 回。[続 111]

【例 1】 あずばりの けあー かさねる
「集りの回を重ねる」

【例 2】 いっけあー
「一回」

【例 3】 にけあー
「二回」

また、「一回」、「二回」は、「しとげあり＝一回」、「したげあり＝二回」ともいう。

けあーうだ [kɛ:üda] 替え唄。[続 111]

【例】 ○○さんは けあーうだ つぐりの めいずんで、おもへ うだ つぐる しとだ
「○○さんは、替え唄作りの名人で、面白い唄を作る人だよ」

けあーおの [ke:ono] 買い物。[同] かいおの。[続 111]

【例】 ばんげの おがずの けあーおの えて くっさげあな
「今晚のおかずの買い物に行ってくるからね」

～**けあーき** [~ke:ki] 回忌。[続 111]

【例 1】 いっけあき
「一回忌」

【例 2】 にけあき
「二回忌」

【例 3】 さんけあき
「三回忌」

【例 4】 すつけあき
「七回忌」

けあーぎ [ke:ŋi] 替え着。[続 111]

【例】 りょこうさ えぐなだば、はだぎなの けあーぎ もて えげよ
「旅行に行くのなら、肌着なんかの替え着を持って行きなさいよ」

けあーぐい [ke:ŋüi] 買い食い。[続 112]

【例】 わらしたずあ、けあーぐい すぎで、まえにず じえね じえねて へびんなだ
「子供らは、買い食いが好きで、毎日銭銭ってせびるんだ」

けあーげあーす [ke:ŋe:sü] [形] 甲斐甲斐しい。[続 112]

【例】 ○○の むすめあ あの とすで、えぐ けあーげあーすぐ はだらぐ おんだ
「○○の娘は、あの年で、よく甲斐甲斐しく働くものだよ」

げああさめる [gea|samerü] [動] 興醒める。興が醒めること。[及 150]

【例】 宴会で けんかだば げああさめるな
「宴会でけんかなら興醒めるね」

けあーす [ke:sü] [四他] 孵す。[続 112]

【例】 にわどりさ たまご だがへっだば、さんば けあーしたけ
「鶏に卵を抱かせておったら、三羽孵したっけ」

けあーす [ke:sü] [四他] 帰す。返す。[続 112]

【例 1】 しと けあーす
「人を帰す」

【例 2】 しゃきん けあーす
「借金を返す」

【例 3】 うら けあーす
「裏を返す」

【例 4】 なぐり げあーす

「なぐり返す」

【例5】おんなす ごど くりげあーす

「同じことを繰り返す」

けあーぞえ [ke:ˈdzoɛ] 介添え。[続 112]

【例】おれあえの びょうにんで にゆういしったなさ、けあーぞえ おすなだど

「うちの病人で入院しているのに、介添えが欲しいんだそうだ」

けあーつ [ke:tsū] 替え地。[続 112]

【例】やすぎあ どうろん なたはげあ、ほれ かわり けあつ よごすど

「屋敷が道路になったから、その代りに替え地をよこすそうだ」

けあーて [ke:tɛ] 買い手。[続 112]

【例】じえんめあは けあーて よげだはげあ、ええ しゆうにゆうん なるな

「ぜんまいは、買い手が多いから、いい収入になるね」

けあーぬす [ke:nūsū] 飼い主。[続 112]

【例】ないだて、つかごろあ けあーぬすの いねあ ねごあ ふえで こまた おんだ

「まあ、近頃は飼い主のいない猫が増えて、困ったもんだよ」

けあーばすら [ke:basūra] 貝柱。[続 112]

【例】こごらで、ほっきて ゆてんな、ほっきげあーの けあーばすらの ごどだど

「この辺で、北寄とっているのは、北寄貝の貝柱だそうだよ」

げあーぶん [ge:būn] 外聞。[続 112]

【例】ほんた げあーぶんの わり ごど ゆわねあんだや、しとぎぎ わり

「そんな外聞の悪いことをいうんじゃないよ、人聞きが悪いよ」

けあーみよー [ke:mjo:] 戒名。[続 113]

【例】けあーめよーも、それぞれ それらすぐ つける おんだな

「戒名も、それぞれそれらしく付けるものだね」

けあーり [ke:rī] 帰り。[続 113]

【例】えぐ きたごどなおす、けあーりん おれあ えさも よて えてくであ

「よく来ましたわね、帰りにうちにも寄って行って下さい」

けあーりがげ [ke:rīgə] 帰りがけ。[同] けあーりしめあ。[続 113]

【例】きょうあ けあーりがげん ○○さも よて くっさげあ、おそぐなんぞ

「今日は、帰りがけに、○○にも寄って来るから、遅くなるよ」

けあーりくるま [ke:rīkūrūma] 帰り車。[続 113]

【例】おめあも けあーんなだべ、この くるま けあーりくるまはげあ のて えご

「君も帰るんだらう、この車は帰り車だから、乗って行こうよ」

けあーりじだぐ [ke:rīˈdzidagū] 帰り仕度。[続 113]

【例】 ないだ、けあーりじだぐがは、まだ すこす はえあ んねあがや
「なんだ、帰り仕度かい、まだ、少し早いじゃないの」

けあーりみず [ke:rimidzū] 帰り道。[続 113]

【例】 けあーりみずあ すこす とうまりだども、○○さも よてみんべ
「帰り道は、少し遠回りだが、○○にも寄ってみようや」

けあーる [ke:rū] [四自] 帰る。[続 113]

【例】 もう けあーるて、まだ すこす はえあんねあがや、もう えっぺあ のめちや
「もう帰るって、まだ少し早いじゃないか、もう一杯飲めよ」

けあーろ [ke:ro] 懐炉。[続 113]

【例】 おらみであだ としよりあ、けあーろでも たががねあど さみくて こまる
「私のような年寄りには、懐炉でも持たないと寒くて困るよ」

けあーわえあー [ke:we:] 界限。[続 113]

【例】 この けあーわえあーであ よめん なるよだ むすめあ いねあくて こまるな
「この界限では、嫁になるような娘がいなくて、困るね」

けあおぎ [keogī] [名] 買いおぎ。ストック。[及 150]

【例】 ほんた おの えまから けあおぎすつごどあ ねあ
「そんな物を今から買い置きすることはないよ」

けあぐすり [keŋjūsūri] [名] 買い薬。売薬。[及 150]

【例】 医者 いねあはげあ けあぐすりでも ので おげ
「医者がないから、買い薬でも飲んでおきなさい」

けあし [ke:sī] 鳥の糞。特に鶏の糞をいう。[同] とりけあし。[及 87]

【例】 とりこの けあし さらて こえ
「鶏のふんをさらって来てくれ」

けあしぎ [kesigī] 雪べら。除雪用の雪べら。[及 63]

【例】 けあしぎ もて きて、えの めあ の ゆぎ はらえ
「雪べらを持って来て、家の前の雪を払いなさい」

けあしぬい [kesinūi] 返し縫い。[及 56]

【例】 けあしぬいて やっけあでな
「返えし縫いって、やっかいでね」

けあしよ [keʃo] [名] 甲斐性。[及 150]

【例】 あの 嫁あ けあしよある 嫁だな
「あの嫁は甲斐性のある嫁だね」

けあす [kesū] [動] 吐く。返す。帰す。[及 150]

【例 1】 へど けあすくれあ のまねあんだ

「へどを吐くくらい飲むんじゃないよ」

【例2】 おめあどさ これ けあすは

「あなたに、もう、これを返えます」

【例3】 あんまり おそぐ ならねあ うづん えさ けあす おんだ

「あんまり遅くならないうちに、家に帰えすもんだ」

けあず [kedzũ] [代] これ。[同] けあーず。[及 150]

【例1】 けあずあ なんぼだべ

「これはいくらですか」

【例2】 けあずあ おれあえの 娘だ

「これはうちの娘です」

けあすげあす [ke:sũŋe:sũ] [副] かえすがえす。[及 150]

【例】 ええ きけあ ねがして、けあすげあすも 残念だ

「いい機会を逃がして、かえすがえすも残念だ」

けあだま [ke:dama] [名] 替え玉。[及 150]

【例】 けあだま つかて 本物あ 出ねあなだけ

「替え玉を使って、本物はないのだったよ」

けあづ [ke(:)dzU] [代] こいつ。[同] こいづ。こえづ。[及 5]

【例】 おれあ したなんねあ けあづあ したあだ

「私がしたんじゃないありません、こいつがしたんです」

けあつけあ [kekke] 疥癬。[及 14]

【例】 けあつけあ でだてが、ほれあ すと うづる おんだ

「疥癬が出たってかい、それは人に移るものだよ」

けあつけあた [ketsũketa] [連語] [強調] こんな。こんなの強調語。[続 114]

【例】 おれあどさば けあつけあた おのはんて くんねああだぜあ

「俺には、こんなものしかくれないんだよ」

けあっこ [kekko] 貝。[及 87]

【例】 この けあっこあ ないて いうなだべ

「この貝は、なんというのだろう」

けあっこがだ [kekkoŋada] 貝の化石。[続 114]

【例】 とうげんどさ、けあっこがだ ではっど、おらも えてみんべや

「峠のところに、貝の化石が出るそう、僕達も行ってみようよ」

けあっこがら [kekkoŋara] 貝殻。[同] けあがら。[続 114]

【例】 けあっこがらは もえねあ ごみさ だへよ

「貝殻は、燃えないごみに出しなさいよ」

けあっこずる [kekko^odzürü] 貝汁。[続 114]

【例】 すずみ かたはげあ、こにやまだ すずみの けあっこずるでも すっが
「蜆を買ったから、今夜は蜆の貝汁でもしようか」

けあて [ketɛ] [副] 却って。[及 151]

【例】 ほつつんなより こつつんな けあて え
「そちのより、こちの方が却っていいね」

けあど [ke^odo] [名] 街道。道路。本道。[及 151]

【例】 車 くっさげあ けあどで あすぶなよ
「車が来るから、道路で遊ぶなよ」

けあねあ [kenɛ] [形] ひよわい。虚弱だ。病気がちだ。[及 151]

【例】 おれあえの わらすじゃ まづ けあねあくてよ
「うちの子ったら、まあ、ひよわでね」

けあねあ [kenɛ] [形] ひよわい。病弱。[及 14]

【例】 おめあえの かがさま けあねあくて こまたな
「お宅の奥さん、ひよわで困ったね」

けあもづ [kemo^odzü] そば粥餅。そば粉に粥を混ぜて煉り、餅のようにしたもの。[及 40]

【例】 こにや けあもづでも くうべ
「今夜はそば粥餅でも食べよう」

げあらばず [gerabadzü] ぎばち。あかぎ。川魚の一種。[続 114]

【例】 したの かわで、げあらばず すめだら、あごの とげで ささっでしました
「下の川で、ぎばちを掴まえたら、顎の骨で刺されてしまったよ」

けあり [keri] [名] 帰り。[及 151]

【例】 けあり おれあ えさも よれ
「帰りに、うちへも寄って下さい」

けあり [keri] 釣銭。おつり。[同] つりへん。けありへん。[続 114]

【例】 これで かうど、けありあ くっさげあ、わすんねあで もらて こえよ
「これで買うと、釣銭がくるから、忘れないで貰って来なさいよ」

けありしめあ [kerisime] [名] 帰りしな。帰りがけ。[同] けありがげ。[及 151]

【例】 けありしめあ わすんねあで これ もて えてころ
「帰りにしなに忘れないで、これを持っていってくれ」

けある [ke:rü] [動] 帰る。返る。孵る。変える。[及 151]

【例 1】 じがだはげあ けあるは
「時間だから、もう帰ります」
【例 2】 わすれおのあ けあて きたけ

「忘れ物が返って来たつけ」

【例3】 ひよこあ そんな けあるは
「ひよこが、もう直きに孵るよ」

【例4】 予定 けある ひづようあ あんなが
「予定を変える必要があるのかい」

けある [ke:rü] 変る。変種する。品種の変ること。[及 87]

【例】 ほがの 品種ど まじえで ゆえっど、けある おんだ
「他の品種と混植すると、変種するもんだよ」

げーざめ [ge:ˈdzame] 興醒め。[続 114]

【例】 のでだどさ ほげあだ はなす だして、げーざめだな
「飲んでいるところへ、そんな話を出して、興醒めだな」

けーであー [ke:ˈde:] 境内。[続 114]

【例】 そんな おまずりあ くっさげあ、〇〇さまの けーであー そうずして おぐべや
「直きにお祭りが来るから、〇〇さまの境内を掃除しておこうや」

けーど [ke:do] 毛糸。[続 114]

【例】 〇〇ちゃん、きょうあ さみはげあ、けーどの シャツ きて えげよ
「〇〇ちゃん、今日は寒いから、毛糸のシャツを着ていきなさいよ」

けえはぐ [ke:hagü] [名] お世辞。おべつか。[及 151]

【例】 おれあどさ けえはぐ こえだて だめだ
「私にお世辞をいったって駄目だよ」

けーろ [ke:ro] 毛色。[続 115]

【例】 このわらすあ かみあ つやつやして、けーろの ええかみだごど
「この子は、髪がつやつやして、毛色のいい髪だわね」

けがず [kegadzü] 飢饉。[及 71]

【例】 むがす けがずん ずぎ ねもづずおの くと おんたぜあ
「昔、飢饉の時、ねもづ(わらびの澱粉の団子)というものを食べたものだよ」

けぎれあー [kejire:] 毛嫌い。[続 115]

【例】 ほんげあ おれあどご けぎれあーしねあたて ええべや
「そんなに私を、毛嫌いしなくともいいじゃないか」

けげあーす [kege:sü] [四他] 蹴返す。[続 115]

【例】 ほら、〇〇ちゃん、えまだ、はえあぐ ボール けげあーしてやれ
「ほら、〇〇ちゃん、今だ、早くボールを蹴返してやれ」

げしよげしよ [geʃogeʃo] 咳をする音。[続 115]

【例】 おれあえの ずさま、たんしよな おんだはげあ、いずでも げしよげしよてんなだ

「うちのお爺さんは、喘息なものだから、何時もげしょげしょしているんだよ」

けすがめ [keşüname] 火消壺。これは、かまどや囲炉裏などの残り火や、炬燵の炭火を入れて消すための壺をいうもので、今では使う家がなくなった。[続 115]

けずがる [kezdügarü] 居る。行くの悪態語。[続 115]

【例 1】 まだ いだずらして けずがる

「またいたずらをして居やがる」

【例 2】 くて けずがる

「食って居やがる」

【例 3】 まだ まんがぼり みでけずがる

「又漫画を見て居やがる」

【例 4】 この えそがす すぎ どさ けずがっどごだ

「この忙しい時、何処へ行くんだ」

【例 5】 おめあ みであんたおのあ、さっさど、どさでも けずがれ

「お前のような奴は、さっさと、何処へでも行きやがれ」

げずげず [gezdügedzü] まだらかまどうま。これは、かまどうま科の昆虫で、よく神社などで見かける昆虫である。この虫に頭をなめられると、禿頭になると、この地区ではいつている。[続 115]

けずまがる [kezdümağarü] [四自] けつまずく。[続 115]

【例】 あんまり はして ありぐど けずまがっさげあ はして ありぐな

「余り走って歩くと、けつまずくから、走って歩くな」

げぜあー [geⁿdze:] 下剤。[続 116]

【例】 はら いであて たまごやぎあ あだたな はえあぐ まず げぜあー のめ

「腹が痛いって、卵焼きがあたったな、早くまず下剤を飲みなさい」

けそつと [副] けろりと。けろつと。あっさり。ひっそり。[及 151]

【例 1】 何 ゆわだて、けそつとした つら してる

「何をいわれても、けろつとした顔をしている」

【例 2】 この 煮おのあ けそつとした 味だな

「この煮付け物は、あっさりした味だな」

【例 3】 けそつとして 火 あけだよだ

「ひっそりして、火が消えたようだね」

げそつと [gesotto] [副] げっそり。[及 151]

【例】 なんだ げそつとした つら して

「どうしたんだい、げっそりした顔をして」

けだおの [keⁿdaono] 獣。[続 116]

【例】 こごらあだりに いる けだおのて ゆえば、くまのししどが あおししだべな

「この辺にいる獣といえば、熊とかかもしかだろうな」

けだくそ [kedakūso] 胸くそ。[続 116]

- 【例】 あの やろ、しとんどご ばがんしあがて けだくそ わりごど
「あの野郎、人を馬鹿にしゃがって、胸くそが悪いね」

げだげだ [gedageda] [形] げたげた。笑うさま。[同] げだつぐ。げづくた。[及 151]

- 【例】 めくせあはげあ げだげだ 笑う おんでねあ
「みにくいから、げたげた笑うもんじゃないよ」

けだつげあ [kedatsūge] [名/ノダナ] 桁違い。[続 116]

- 【例 1】 ほの けいさんは けだつげあだぞ
「その計算は桁違いだよ」
【例 2】 めあんなより けだつげあ りっぱだ
「前のより桁違いに立派だよ」

けだっぱずれ [kedappaⁿdzūre] [ノダナ] 桁外れ。[続 116]

- 【例】 これあ けだっぱずれに たげあ おんで われわれの ての とずがねあ おんだな
「これは桁外れに高いもので、我我の手の届かないものだな」

けだり [keⁿdari] [形] けだるい。[続 116]

- 【例】 ないだが、きょうあ からだ けだりくて、すごどさ みあ へらねあなよ
「なんだか、今日は体がけだるくて、仕事に身が入らないんだよ」

けつ [名] けち。しみったれ。[及 151]

- 【例 1】 ほんた けつくせあ ごど いうな
「なんだいそんなけちくさいことをいうなよ」
【例 2】 けつけつすんな
「けちけちするなよ」

けづがる [kedzūgarū] [動] [卑語] いやがる。けつかる。いる。おるの卑語。[及 152]

- 【例 1】 ないだ、まだ にごに けづがる
「なんだ、まだここに居やがる」
【例 2】 まだ、にごに けづがたなが
「まだここに居やがったのか」
【例 3】 どさだり けづがれ
「何所へなり行きやがれ」

けっけ [kekke] [幼児語] 尻。[続 116]

- 【例】 こっちゃ こえ へながも けっけも ふえでくえっさげあ
「こっちへおいで、背中もお尻も拭いてあげるから」

けっこーずん [kekkoⁿdzūn] お人好し。結好人。[続 116]

【例】 ○○さんだば、けっこーずんで、なに ゆわだて にこにこてるばんだ
「○○さんなら、お人好しで、何をいわれてもにこにこしているばかりなんだ」

けつつ [kɛttsũ] 尻。[及 10]

【例】 あんまり きがねあど けつつ ただぐぞ
「あまりきかないと、尻をたたくよ」

この語は、「けつつたぼ」、「けつつびた」ともいい、「けつつあおもであ一尻が重い」、「けつつあかるえ一尻が軽い」と使っている。

けつつあがり [kɛttsũaŋari] 尻上がり（鉄棒の）。[続 116]

【例】 ○○ちゃん けつつあがり でげっが おら でげんぜあ
「○○ちゃん、尻上がりが出来るかい、僕は出来るよ」

けつつあで [kɛttsũade] 尻当て。[及 63]

【例】 おれあ けつつあであ くまの 皮だぜあ
「俺の尻当ては熊の皮だよ」

けつつじより [kɛttsũ'dʒori] 雪上を尻で滑ること。これは、消雪期に雪が堅くなり、歩いてもぬからなくなった時、子供らが尻にござぼうしー、杉の枝などを敷いて、斜面を滑り下りる遊びをいう。[同] けつつぞり。[続 116]

けつつぞり しり滑り。雪上を尻にござぼうしや今ならナイロンを敷いて滑ること。[及 102]

【例】 おら けつつぞりで えぐぞ
「僕は尻滑りで行くよ」

けつつぬげ [kɛttsũnũŋe] ちり紙。便所紙。[続 117]

【例】 へんつんさ けつつぬげあ ねあぐなたはげあ もて えげよ
「便所に便所紙がなくなったから、持って行きなさいよ」

けつつのご [kɛttsũnogo] 肛門筋。[続 117]

【例】 ないだべじゅ つかごろ けつつのごあ いであなよ、ずだべがや
「なんだろうね、近頃肛門筋が痛いんだよ、痔なんだろうか」

けつつのごい [名] 尻ぬぐい。後始末。[及 152]

【例】 まだ、けつつのごい さへんなが
「また尻ぬぐいをさせるのか」

けつつぱしより [名] 尻っぱしより。[及 152]

【例】 ぬれっさげあ けつつぱしよりして えげ
「濡れるから、尻っぱしよりして行けよ」

けってあーだ [kɛttsɛːda] [連体] けったいな。[続 117]

【例】 けってあーだ ごども ある おんだ、さきだ こさ おえだな ねあなよは
「けったいな事もあるもんだ、さっきここへ置いたのがなくなってしまったよ」

げっぱ [geppa] びり。[同] どっけ。げっぺ。[続 117]

【例】 おれあえんな はすんねあくて うんどうかいであ いずでも げっぱだ
「うちの子は、走れなくて、運動会では何時もびりだよ」

けっぺずる [keppeⁿdzürü] [四他] [強調] 削る。削るの強調語。[同] かつぺずる。[続 117]

【例】 ないだべ はすらなの けっぺずる おのあ ねあべな
「なんだろう、柱なんか削る奴があるもんか」

けつめぐ [動] けちけちする。けちる。[及 152]

【例】 めっぼ けつめぐ おんだなが
「めっぼうけちけちするものだね」

けつんぼ [kɛtsünbo] けちん坊。[続 117]

【例】 ああ、あれが、あれだば、ここらであ などのり の けつんぼだおん
「ああ、あいつか、あいつなら、ここらでは名取りのけちん坊だからな」

けど [kɛdo] [連語] だったそうだ。かったそうだ。[及 152]

【例 1】 むごの 山さ えたけど
「向うの山へ行っただったそうだ」

【例 2】 まだ わすんねあけど
「まだ忘れなかったそうだ」

けどぎ [kɛdogi] 鶏頭。ひゆ科の花弁。[及 87]

【例】 この けどぎあ めずらす 品種だごと
「この鶏頭は珍しい品種だこと」

～けな [~kena] [接尾辞] 第三者の言動を相手に伝える言葉。[続 117]

【例 1】 のむけな
「飲むっけな」

【例 2】 かてだけな
「買っておったよ」

【例 3】 したけな
「しておったよ」

【例 4】 えぐて いうけな
「行くといっておったよ」

けなり [kenari] [形] 羨ましい。[及・続 280・117]

【例 1】 しとの えであ ええ やさいなの とつど けなり おんだな
「他所のうちで、いい野菜なんか採ると、羨しいもんだな」

【例 2】 けなり おんだ、〇〇さんは え きおの かて もらて
「羨ましいものだよ、〇〇さんはいい着物を買ってもらって」

けなりがる [keɲarĩgarũ] [四自] 羨む。[続 117]

- 【例】 しとの もったな みで ほんげあ けなりがる おんでねあ
 「人の持っているのを見て、そんなに羨むものじゃないよ」

けねあ [keɲe] [連語] 食えない。[続 118]

- 【例 1】 かであ おのあ けねあ
 「堅いものは食えないよ」
 【例 2】 あれだば けねあ おどごだ
 「あいつなら食えない男だね」

けのごり [kenogori] 残雪。[及 102]

- 【例】 春だなは、山に けのごりあ あるばんだおん
 「もう春だな、山に残雪があるばかりなもの」

けのごる [kenogorũ] 消え残る。[続 118]

- 【例】 この ひこたびのゆぎあ まえとす いずばんあとまで けのごっどごだ
 「この凹地は、毎年一番あとまで消え残るところだよ」

けばけばす [kebakēbasũ] [形] けばけばしい。[続 118]

- 【例】 みろ、まず、あの むすめあ けばすばす かっこして どき えぐおんだべ
 「みなさい、まあ、あの娘は、けばけばしい格好をして何処へ行くんだろう」

けぶ [名] 煙。[及 152]

- 【例】 田で わら えあっだ けぶ だど
 「田でわらを焼いている煙だそうだ」

けぶだす ほこりたけ。ほこりたけ科のきのこ。さわると、煙りのように胞子を出すので、この名がある。[及 87]**けぶだす** 煙出し。煙突。[及 49]

- 【例】 屋根の いづばん ゆえにあんな けぶだすず おんだ
 「屋根の一番上にあるのが、煙出しというものだよ」

けぶてあ [keɲũte] 煙い。[及 25]

- 【例】 けぶてあ ごど ほんげあ けぶすなや
 「煙いこと、そんなにいぶすなよ」

けぶてあがる [keɲũteɲarũ] [四自] 煙たがる。[続 118]

- 【例】 ほんげあ えぶすと、みんな けぶてあがっさげあ、ちゃんと もやへや
 「そんなにいぶすと、皆が煙たがるから、ちゃんと 燃やせよ」

けへあー [kehe:] 気配。[続 118]

- 【例】 こんだ しとあめぐどん はるの けへあー するよん なてきたな
 「今度は、ひと雨ごとに春の気配がするようになってきたな」

けへる [keḩerü] [下一他] 着せる。[続 118]

【例】 にいちゃんな ちっちえあぐ なたはげあ おどうとさ きへる ごどん すんべ
「兄ちゃんのが小さくなったから、弟に着せることにしよう」

けむぐじやら [kemügü'džara] [形] 毛深い。[及 14]

【例】 ○○さんは けむぐじやらだ しとだな
「○○さんは毛深い人だね」

けらくび [kerakübi] みのの首のまわりをいう。[続 118]

【例】 けらくびあ、ひろぐ つぐらねあど、くびさ あだて いであぞ
「鬘の首のまわりは、広く作らないと、首に当って痛いよ」

けらつづぎ [keratsüdzügi] けら。啄木鳥。この地方には、「あかげら」と「こげら」の二種類が棲息している。[同] けらっほ。[及 87]

けらむす [keramüsü] 毛虫。[続 118]

【例】 へび おかねあぐねあ しとあ、けらむす おかねあがるつけな
「蛇を怖くない人は、毛虫を怖がるそうだな」

ける [動] 消える。[及 152]

【例】 ほの 火あ ほんた ごど したて ける おんでねあ
「その火は、そんなことをしたって、消えるもんじゃないよ」

ける [動] くれる。食える。[及 152]

【例 1】 この みがん おめあどさ ける
「このみかん、あなたにくれます」

【例 2】 ほれぐれあだば おれだて ける
「それぐらいだったら、私だって食えるよ」

けれあー [kerε:] 家来。今、この言葉を使うのは、歴史、史跡、昔話などを語る時に限られている。[続 118]

けろんと [副] けろりと。けろっと。[及 152]

【例】 けろんとして、びっきのつらさ水だけ
「けろりとして、蛙の面に水だったよ」

けわす [kewasü] [形] 険しい。[続 118]

【例 1】 この やま けわす やまだな
「この山は、険しい山だな」

【例 2】 ないだや、けわす つらして
「なんだい、険しい顔をして」

【例 3】 おれの ありた みずも けわすがったな
「私の歩いた道（人生）も険しかったな」

けんすこ [kɛnsũko] 丸スコップ。丸シャベル。[続 119]

【例】 つず ほっずぎあ、かぐしゃぶろより、けんすこの ほあ ええな
「土を掘る時は、角シャベルより、丸スコップの方がいいね」

げんぜあー [gɛn^odze:] 現在。[続 119]

【例】 げんぜあーの こぐどうあ、むがすんなより さがた どごに あんなだ
「現在の国道は、昔より下がった所にあるんだよ」

けんつんずる 油揚げ汁。油揚げを入れたお汁。[及 40]

【例】 精進料理に けんつんずあ えな
「精進料理に油揚げ汁がいいな」

けんと [名] 見当。目当て。[及 152]

【例 1】 どごさ けんとつけて なげだなや
「何所に見当をつけて投げたんだい」

【例 2】 あそごさ けんとつけて えてみろ
「あそこを目当てに行ってみなさい」

けんと とさか。鶏のとさかをいう。[及 87]

【例】 けんどの おっきな おどりだおんだ
「とさかの大きいのが、おんどりなんだよ」

けんと [kɛnto] 見当。[続 119]

【例】 ○○の わらびだば、まだ だれも とらねあべど、けんとつけて えてみだ
「○○のわらびなら、まだ誰も採らないだろうと、見当を付けて行ってみたよ」

げんとも [gɛntomo] [接助] けれども。[及 152]

【例】 えて げんとも えがねあだ
「行けと行ったけれども行かないんだよ」

けんびぎ [kɛnpigi] 肩の筋。[続 119]

【例】 ○○ちゃん、けんびぎあ いであはげあ かだ たであでころ
「○○ちゃん、肩の筋が痛いから、肩を叩いてくれよ」

げんめあ [gɛnme] 玄米。[及 40]

【例】 かけにあ げんめあみしあ えど
「脚気には玄米のご飯がいいそうだよ」

— こ —

こ [ko] [代] 此処。この語は、専ら「こから=此処から」、「こさ=此処に(へ)」だけに使い、他の場合は、「ここ…」と使っている。[続 119]

こ [副] こう。このように。[同] こげあ。こげあん。こんげあ。[及 153]

【例 1】 あの しとあ こ ゆたけ
「あの人は、こういったつけ」

【例 2】 ほれあ こ したら えがべ
「それは、このようにしたらいいだろう」

こいす [koisü] [形] 恋しい。[続 119]

【例】 んまれこきょうあ こいすど めで、まえとす おぼんにあ くる おんだな
「生れ故郷が恋しいとみえて、毎年お盆には来るもんだね」

こいわずれあ [koïwaⁿdzüre] 恋煩い。[続 119]

【例】 むがすあ こいわずれあなて つかた おんだども えまだば きがんねあなは
「昔は恋煩いなんて使ったものだが、今はもう聞かれないね」

こう 格子。障子の棧。[及 49]

【例】 障子の こう 折たな 誰だ
「障子の棧を折ったのは誰だ」

こうこ [形] ぐうぐう。眠っているさま。[及 153]

【例】 あれだば、まだ こうこ ねてっだ
「あいつなら、まだぐうぐう眠っているよ」

ごうじよ [go:ⁿdʒo] [名] 強情。[及 25]

【例】 ほんげあ ごうじよ はらねあて えべや
「そんなに強情を張らなくともいいじゃないか」

ごうつつあらし [go:ttsarasï] [名] 業晒し。[及 153]

【例】 この ごうつつあらしあ まだ よて 来たがは
「この業晒しが、また酔って来たのかい」

こうであ [ko:de] [副] 相当。沢山。[及 153]

【例】 こうであ もて 来てくっだ おんだな

「沢山持って来てくれたもんだな」

こうであ [ko:de] [名] 高価。[及 153]

【例】 これだば こうである おんだべな

「これなら高価なものだろうな。これなら相当するものだろうな」

こうべあ [ko:be] [名] 勾配。[及 153]

【例】 こうべあの きづ 屋根だな

「勾配のきつい屋根だね」

こうへん [ko:çen] 米粉菓子。米の粉に味をつけたもの。[同] こへん。[及 40]

【例】 なにも ねあはげあ こうへんでも くうんだ

「何もないから、米粉菓子でも食べなさい」

こうるせあ [koürüse] [形] 小煩い。[続 121]

【例】 えん ながで きゃあきやて こうるせあごどな そどで あすでこえ

「家の中できゃあきやあって、小煩いわね、外で遊んできなさい」

こえ [koë] [形] 濃い。[続 121]

【例】 この おじゃ こえおんで、おゆ たさねあど のまんねあ

「このお茶は、濃いもんで、お湯を足さたいと飲めないよ」

こえ 鯉。[及 87]

【例】 おめあ ドイツごえて みだごど あっが

「君、ドイツ鯉って見たことがあるかい」

ごえが [goëga] 御詠歌。[続 121]

【例】 おらほであ、おねんぶつ あげだあど、ごえが あげでんなだ

「うちの方では、お念仏を上げたあと、御詠歌を上げているんです」

ごえごえ [goëgoë] [副] ぐいぐい。ものを飲むこと。[及 153]

【例】 ほんげ さげ ごえごえ のむど 体さ えぐねあぞ

「そんなに酒をぐいぐい飲むと体に悪いよ」

こえしよい [koëšoi] 堆肥運び。これには二つあり、一つは正月の行事として、小正月に、百姓始めとして、農家の男全員で堆肥を背負い、田圃の雪上に穴を掘り、そこへ堆肥を入れて、豊作を祈った行事と、もう一つは、雪の消えない3月下旬頃、田全体に堆肥を運ぶ作業をいった。なお、3月の堆肥運搬は、櫓で運ぶところから、「こえひぎ」ともいった。今は堆肥を作らないので、この行事も作業もなくなった。[続 121]

こえずが [koëⁿdzüga] 肥塚。堆肥場。[続 121]

【例】 んまや べご かてねあはげあ、えまだば こえずがなの ねあなは

「馬や牛を飼っていないから、今ならもう堆肥場なんかなくなってしまったな」

こえづがむす [koëⁿdzügamüsü] かぶとむしの幼虫。堆肥の中にも棲息するので、この名が

ある。[同] ごどごどむす。ごろだむす。[及 87]

こえば [koɛpa] 越え場。川の渡り場所。今は川を越え歩かなくとも、要所要所に橋が掛けられて、対岸に渡るにも川を渡り歩く必要がなくなったが、昔は浅瀬で渡りやすい所を「こえば」としていた。[続 121]

こえひぎみず [koɛhigimidzū] 肥曳き道。これは、消雪前の3月下旬頃、田圃に橋で堆肥を運ぶため、雪上に作った道をいう。しかし、今はもうこの道も作らなくなった。[続 121]

こーごーす [ko:ŋo:sūi] [形] 神神しい。[続 120]

[例] おえへさんだば きれだ かわも あて とでも こーごーす どごだけな
「お伊勢さんなら、奇麗な川もあって、とても神神しい所だったね」

こーこする [ko:kosūrū] [四自] [幼児語] 眠る。[続 120]

[例] ○○ちゃん こーこするよは
「○○ちゃん、もう眠りなさいね」

こーさぐきっけあ [ko:sagūkikke] 工作機械。[続 120]

[例] おらほでも、ねずこうばの こーさぐきっけあ やがましくてや
「うちの方でも、螺子工場の工作機械がやかましくてね」

ごーじょっぱり [go:ʰdzoppari] 強情張り。[続 120]

[例] ○○だば ごーじょっぱりで、しとの いう ごどなの きがねあ しとだ
「○○なら強情張りで、人のいうことなんかきかない人だよ」

こーせあー [ko:se:] 交際。[続 120]

[例] わげあおんだおん、おなごしとども こーせあーしてんべ
「若い者だから、女の人とも交際しているだろう」

こーつご [ko:tsūŋo] [ナ名ノ] 好都合。[続 120]

[例] おめあ ○○さ えぐて、ほれあ こーつごだ、んであ これ もて えてころ
「お前○○に行くって、それは好都合だ、それじゃこれを持って行ってくれ」

こーであー [ko:de:] [名ノス自] 交替。[続 120]

[例] おれあ、よんま じゅうじん こーであーして、やかんきんむだあだ
「私は、夜十時に交替して、夜間勤務なんだ」

こーであー [ko:ʰde:] 香代。香典。[続 120]

[例] おらほであ、こーであーは、むらで ○○えんて きめでんのだ
「うちの方では、香代は、村で○○円と決めているんだ」

こーであー [ko:ʰde:] 広大。[続 120]

[例] あそごあ、こーであーだ とつだはげあ かじゅえんにあ もてこえだなや
「あそこは、広大な土地だから、果樹園にはもってこいだね」

こーでんげあーし [ko:ʰdeŋe:sɪ] 香典返し。[続 120]

【例】 おしょうごして けある しとき こーでんげあーし わすんねあでやれよ
「お焼香して帰る人に、香典返しを忘れないでやるんだよ」

こが [koga] 桶。小桶。[同] おげ。おげこ。こがこ。[及 49]

【例】 この こがさ つけおの つけんなだ
「この桶に漬物を漬けるんです」

ごが [goga] [名] 駄駄。ごねること。[及 153]

【例】 この わらすあ まだ ごがすが
「この子は、また駄駄をこねるか」

ごがする [gogasürüü] [下一自] ごねる。[続 121]

【例】 この わらすあ おわ きんくわねあど、すぐ ごがすんなだ
「この子は、自分が気に入くわないと、直ぐごねるんだよ」

こきたねあ [kōkītane] [形] 小汚い。[続 121]

ごぎど [gogido] 御祈祷。[続 122]

【例】 ずつんさいん どぎあ かんぬすさんに ごぎどして もらわねあんねあな
「地鎮祭の時は、官主さんに御祈祷してもらわないといけないな」

こぎる [kogirüü] [動] 耕す。取り出す。田を耕すこと。炭がまから出し火を消した炭を灰の中から取り出すこと。[及 71]

【例 1】 ゆぎあ けだし こんだ 田こぎり しねあんねあな
「雪が消えたし、今度は田を耕さないといけないな」

【例 2】 すべあ かぶった 炭 こぎっさげあ はんぎぼ よごへ
「灰土をかぶってる炭を取り出から、はんぎりぼをよこしてくれ」

こぎれ [kojire] [ダナ] 小奇麗。[続 122]

【例】 よそさ えぐ ずぎあ、へんたぐした、こぎれだ おの きて えげよ
「他所へ行く時は、洗濯した、小奇麗な物を着て行きなさいよ」

こぐ [koḡü] [四自] 水や雪を歩くこと。これは、川を渡り歩いたり、積雪をぬかりながら歩いたり、藪を歩いたりすることをいう。[続 122]

【例 1】 かわ こぐ
「川の中を歩く」

【例 2】 ゆぎ こぐ
「雪の中を歩く」

【例 3】 やぶ こぐ
「藪の中を歩く」

こぐ [kogüü] [動] こく。しごく。稲などの穂などをしごくこと。[同] すごぐ。[及 153]

【例】 すっその実 こぐなが

「しその実をこく（しごき取る）のかい」

こぐ [kogū] [動] つく。はく。する。つかう。こねる。[及 153]

【例 1】 えへあ こぐ

「からかう」

【例 2】 おおぢやぐ こぐ

「横着をする。横着をきめる」

【例 3】 がんねあ こぐ

「弱音を吐く」

【例 4】 けえはぐ こぐ

「お世辞をつかう」

【例 5】 ごが こぐ

「駄駄をこねる」

【例 6】 ずほ こぐ

「うそをつく」

こぐぞさま [kogūⁿdzosama] 虚空蔵さま。虚空蔵菩薩。これは、丑寅虚空蔵とって、丑年生れと寅年生れの人の子守本尊である。[続 122]

こぐる [kogūrū] [四他] 擦る。こすり付ける。[同] おこぐる（及位の方言 128）。[続 122]

【例】 あまり きがねあど、はすらさ あだま こぐんぞ

「余りきかないと、柱に頭を擦り付けるよ」

こぐれあど [kogūredo] [副] 全然。影も形も。[及 154]

【例】 どさ えたんだが こぐれあど めねあは

「何所へ行ったのか、もう全然見えないよ」

こげあ [koŋe] [副] こう。[同] こげあん。こんげあ。[続 122]

【例】 ほれあまだ、ほげあ すんなんねあくて、こげあ すんなだ

「それは、そうするんじゃないくて、こうするんだよ」

こげあた [連語] こんな。[同] こんた。こっけあた。こんっけあた。[及 154]

【例】 おれも こげあた きおの おしな

「私もこんな着物が欲しいな」

ごげかが [gogəkaga] 後妻。後添い。継母。[同] あどかが。ごせあ。のぞぞえ。[続 122]

【例】 こげかが おすども どごがに いねあべが

「後妻が欲しいんだが、何処かにいないだろうか」

こげくせあ [koŋekūse] [形] 焦げ臭い。[続 122]

【例】 ないだが こげくせあ におえあ するんねあが はやぐ えて みでこえちゃ

「なんだか焦げ臭い匂いがするじゃないか、早く行って見てこいよ」

こげす [kogesü] こけし。[及 49]

【例】 えまだば こげす つぐる しとも いねは
「今なら、こけしを作る人も、もういないね」

ここ [kogo] [代] 此所。[及 154]

【例】 ここあ ないていう どごだべ
「ここは何という所だろう」

この語は、「こから—ここから」、「ごごさ—ここに。ここへ」、「ごごのえ—この家」、「こさ—ここに。ここへ」などの使い方をしている。

ごごのつつ [kogonottsü] 九つ。[続 122]

【例】 この わらすも こんだ ごごのつつだはげあ よねんへだなは
「この子も、今度は九つだから、もう四年生だね」

ここべご [kokobego] 仔牛。[続 123]

【例】 けさ おれあえさも ここべごあ んまっで よろごでだ どごだ
「今朝、うちにも仔牛が生まれて、喜んでるところなんです」

ごごまる [kogomarü] [動] ごごめる。おじぎをする。[及 154]

【例 1】 沢さ ごごまで あれあおの したつけ
「沢に体をこごめて、洗い物をしていたつけ」

【例 2】 へんへあどさ ごごまる おんだぞ
「先生におじぎをするものだよ」

ごごめ [kogome] くさそてつ。ごごみ。これは、うらぼし科の多年生草本で、山菜として、ひたしものや、胡麻和え、くるみ和え、マヨネーズ和えなどにして食べている。[続 123]

ごごらがる [konoragarü] [四自] こんがらかる。[同] ごごる。こんごらがる。[続 123]

【例】 ほげあ すっど ごごらがっさげあ ていねん めあで おげ
「そうすると、こんがらかるから、丁寧に巻いておきなさい」

ごごる [kogorü] [動] こんぐらかる。こんがらかる。[同] ごごらがる。[及 154]

【例】 ほんた ごど すっど いどあ ごごる
「そんなことをすると、糸がこんぐらかるよ」

ごごろ [kogoro] [名] お礼。お礼のしるし。寸志。[及 154]

【例】 やけあ かげだはげ、これあ ほんとの ごごろばりですは
「厄介をかけたので、これは、ほんのお礼のしるしです」

ごごろ [kogoro] 心付け。[続 123]

【例】 まえにず くるま おがへで もらてんなだはげあ、ごごろして おげよ
「毎日車を置かせてもらっているのだから、心付けをしておきなさいよ」

ごごろ [gogoro] [名] ご苦労。[及 154]

【例】 今日あ ごごろ かげだなは
「今日は、ご苦労かけてしまったね」

こごろえつげあ [kogoroetsūŋe] 心得違い。[続 123]

【例】 おわの わり どご ゆわって ごしゃぐなて ほれだば こごろえつげあだべぜあ
「自分の悪いところをいわれて怒るなんて、それなら心得違いだろうや」

こごろおべ [kogoroobe] 心覚え。[続 123]

【例】 これあ わすれっど えぐねあはげあ こごろおべ つけでおがねあんねあな
「これは忘れるといけないから、心覚えを付けておかないといけないな」

こごろがんめあ [kogoroŋanme] 心構え。[続 123]

【例】 これがら いっか ささえあで えぐなだはげあ しっかりした こごらんめあ もだねあ
んねあぞ
「これから一家を支えて行くのだから、しっかりした心構えを持たないといけないよ」

こごろぐるす [kogoroŋürüsü] [形] 心苦しい。[続 123]

【例】 おれだなて あんげあ えっぺあ もらて、こごろぐるす ごどなおす
「お礼だなんて、あんなに沢山頂いて、心苦しいですことね」

こごろずえ [kogoroⁿdzüe] [形] 心強い。[続 123]

【例】 こんだ むすこあ えっちよめあん なたはげあ こごろずえぐ なた
「今度は息子が一人前になったから、心強くなったよ」

こごろずげあ [kogoroⁿdzüge] 心遣い。[続 124]

【例】 こねあだは、いろいろ こごろずげあ いだであて ありがどごぜああした
「この間は、いろいろお心遣いをいただいて有難うございました」

こごろねあ [kogorone] [形] 心無い。[続 124]

【例】 あなだの じじょうしらねあで つい こごろねあ ごど ゆて ぶじよほしあした
「あなたの事情を知らないで、つい心無いことをいって、無調法しました」

こごろばり [kogorobari] [連語] 心ばかり。[同] きもずばり。[続 124]

【例】 むすこあ おへわんなて ありがどさんでした、これあ こごろばりの おれの するす
す
「息子がお世話になって有難うさんでした、これは心ばかりのお礼の印しです」

こごろぼそえ [kogorobosoe] [形] 心細い。[続 124]

【例】 わらしたずあ みな よそさ えて、しとりばりんなて、こごろぼえべ
「子供らが皆他所へ行って、一人ばかりになって、心細いでしょう」

なお、この語は、「ただぼす（及位の方言 29P）」を「淋しい」と訳しておいたが、「心細い」とも訳される語なので、記しておく。

こごろもどねあ [kogoromodone] [形] 心許ない。[続 124]

【例】 もて きた かねで かえつがなんたが、ごごろもどねあな
「持ってきた金で、買えるかどうか、心許ないね」

ごごろやす [kogorojasü] [形] 心安い。[続 124]

【例】 ○○さんどあ、むがすからの ともだずで、ごごろやす えあだगरだあだ
「○○さんとは、昔からの友達で、心安い間柄なんだよ」

ごごろゆわえあ [kogorojüwe] 心祝い。[続 124]

【例】 ずさまの きじゅで ごごろゆわえあ しであはげあ ござてくであ
「お爺さんの喜寿で、心祝いをしたいので、いらして下さい」

ごごろよわえあ [kogorojowæ] [形] 心弱い。[同] ごごろよえあ。[続 124]

【例】 おめあ ほんた ごごろよわえあ ごど ゆたら、えん なが くらぐなんべ
「お前がそんな心弱いことをいったら、家の中が暗くなるじゃないか」

こざがす [ko^odzagasü] [形] 小賢しい。[続 124]

【例】 この わらすも いずのまにが こざがす ごど いうよん なた おんだ
「この子も何時の間にか小賢しいことをいうようになんたもんだ」

ござっしえ [godzaʃʃe] いらっしやい。[及 154]

【例】 さあ こっちゃ ござっしえ
「さあ、こっちへいらっしやい」

この語は、「ござっどーいらっしやるそうです」、「ござてくであーいらして下さい」、「ござりあしたーいらっしやいました」、「ござりあへんーいらっしやいません」、「ごんぜあーいらっしやい」などの使い方をしている。

ござぼつ ござぼうし。[及 56]

【例】 雨あ ふっど でげねあはげあ ござぼつ かぶて えげよ
「雨が降るといけなから、ござぼうしをかぶって行きなさいよ」

この語は「ござぼつ」ともいい、「みげぼつーみのぼうし」もあり、共に子供がかぶって雨具としたものである。

ござりあす [godzariäsü] [連語] ございます。参ります。[続 125]

【例 1】 なたは にごに ござりあす
「鈍はここにございます」

【例 2】 ありがどござりあす
「有難うございます」

【例 3】 ○○ていう おんで ござりあす
「○○という者でございます」

【例 4】 ○○さんは えま ござりあす
「○○さんは、今参ります」

なお、「参ります」と訳されるもの以外は、「ございあす。ごぜああす」などともいう。

こじえ [ko'dʒe:] [名] 小勢。[及 154]

【例】 おれあえあ こじえだ

「うちは小勢です」

この語の反対を「おおじえ」といつている。

こしえあごど [koʃeɲodo] 作りごと。[同] こへあごど。[続 125]

【例】 ほんた ごどあ だれあ ゆたが すらねあども こしえあごどだ

「そんなことは、誰がいったか知らないが、作りごとだよ」

こじえね [ko'dʒeɲe] 小銭。[同] ばらへん。[続 125]

【例】 こじえねあ ねあはげあ これがら とてくんねあが

「小銭がないから、これから取ってくださいませんか」

こじえりえあー [ko'dʒerīe:] 小競り合い。[続 125]

【例】 へげの みずの ごどで、となりむらの したずど、こじえりえあーん なたじょん

「用水路の水のことで、隣り村の人達と、小競り合いになったそうだ」

こしえる [koʃerü] [動] 作る。[及 154]

【例 1】 これあ こげあして こしえる おんだ

「これは、こうして作るものだよ」

【例 2】 ほれだば こしえだ はなすだべ

「それは、作った（でっちあげた）話だろう」

ごしやがえる [goʃagaerü] 叱られる。[続 125]

【例】 しゅぐでも しねあで あすでっど、おとうさんに ごしやがえんぞ

「宿題もしないで遊んでいると、お父さんに叱られるよ」

ごしやぎずげる [goʃagidzögerü] [下一他] 叱り付ける。[続 125]

【例】 ほゆ ずぎあ、こりしょあつぐまで ごしやぎずげねあど だめだ

「そんな時は、性懲りのつくまで叱り付けないと駄目だよ」

こしやぐ [koʃagü] [名] おませ。おせっかい。[及 155]

【例 1】 おなごわらずあ、まづ こしやぐな おんで

「女の子という者は、まあ、おませなもので」

【例 2】 こしやぐだ まねあ すんな

「おせっかいなまねはよせ」

ごしやぐ [goʃagü] [動] 怒る。[及 25]

【例】 こればりの ごどで、ごしやぐなや

「こればかりのことで、おこるなよ」

この語には、「ごしえっだ一怒っている」、「ごしやげる一憤ろしい（ハラガタツ）」、「ごしやばらげ一憤ろしいの強調語」などの使い方がある。

ごしゃげる [goʃaɕerüü] [形] 腹立たしい。[続 125]

【例】 ごしゃげっごど、しとんどご ばがおのあずげあん しあがて
「腹立たしいこと、人を馬鹿者扱かいにしゃがって」

ごじゃごじゃ [godʒagodʒa] [副] ごちゃごちゃ。[続 125]

【例】 ないもかいも ごじゃごじゃど まじえだて だめだべちゃ
「何もかも、ごちゃごちゃと混ぜたって、駄目じゃないか」

こじゅうど 小姑。[及 5]

【例】 こじゅうどあ ええ しとで、ないだて おへでける
「小姑はいい人で、なんでも教えてくれるんです」

こじょ [ko'dʒo] [名] 根性。[及 155]

【例 1】 ほんた こじょで しごどあ でげる おんでねあ
「そんな根性で、仕事は出来るもんじゃないよ」

【例 2】 こじょあ わりくて おれあどさ くんねああだぜあ
「根性が悪くて、私に出来ないんだよ」

また、この語は、「こんじょ」ともいい、「こんじょまがり一ひがみ根性」などの使い方がある。

こじょ [ko'dʒo] 根性。[同] こんじょ。[続 126]

【例】 なにごどでも、やりとす こじょ もだねあば でける おんでねあ
「何事でも、やり通す根性を持たないといけないものだよ」

ごしよ [goʃo] [仏] 後生。[続 126]

【例】 だれだて、としよてくっど、だんだん ごしよ ねがうよんなる おんだ
「誰だって、年を取ってくると、だんだん後生を願うようになるものだよ」

こしょがづ [koʃoŋadzüü] [名] 小正月。旧一月十五日。[及 155]

【例】 こしょがづの 行事あ えっぺあ あるな
「小正月の行事は沢山あるな」

ごしよだぎなべ [goʃo'dagina^mbɛ] 五升鍋。米を五升炊ける鍋。[及 49]

【例】 棟上げだはげあ ごしよだぎなべさ たげよ
「棟上げだから、五升鍋に炊きなきなさいよ」

ごしよであーず [goʃodeⁿdzüü] 後生大事。[続 126]

【例 1】 ごしよであーずん ねがうごったら、いぎでる うずの おごねあ であずだあだ
「後生大事に願うなら、生きているうちの行いが大事なんだよ」

【例 2】 なに ほんげあ ごしよであーずん たがて きたおんだや
「何をそんなに後生大事にかかえて来たんだい」

こじょわり [ko'dʒowari] 意地が悪い。これは、人にくれてもよさそうなのに、意地悪く物をくれないような態度をいうもので、単に意地悪いのとは違う意味をもっている語である。[続 126]

【例】 ほんげあ こじよわりぐ しねあで ○○ちゃんさも くえろ
「そんなに意地悪くしないで、○○ちゃんにもくれなさい」

こす 腰。[及 10]

【例】 ○○あ こすあ まがて きたな
「○○さんは腰が曲ってきたね」

こすあげ [kosüaŋe] 腰上げ。着物の腰あげ。[及 56]

【例】 まだ おがるはげあ こすあげ してくえろ
「まだ、大きくなるから、腰あげをしてあげなさい」

こすかれあ [kosükarë] [形] こすっ辛い。[同] こすっかれあ。[続 126]

【例】 えあずだば こすかれあおんで もの たのまんねあ
「あいつなら、こすっ辛いもので、ものを頼まれないよ」

こすぎ [kosügi] 甑。米などの蒸し器。[続 126]

【例】 せきはん つぐんべどもたども、こすぎ どさ おえだけべ
「赤飯をこしらえようと思ったが、甑を何処へ置いたんだっだろう」

こずぎます [koⁿdzügimasü] [四他] 小突き回す。[続 126]

【例】 おずどご ほんげあ こずぎますど、しめあにあ ながへんぜあは
「弟をそんなに小突き回すと、しまいには泣かせてしまうよ」

こすぐる [kosügürü] [動] こする。[及 155]

【例】 袖で はな こすぐる おのあ ねあべな
「袖で涙をこする奴があるものか」

こすぐれる [kostügürerü] すれっからしになる。[及 155]

【例】 えぐねあ おのどばり あすぶど こすぐれる おんだぞ
「悪い奴とばかり遊ぶと、すれっからしになるよ」

こすのご [kosünogo] 腰鋸。腰につけて歩く小型の鋸。[及 63]

【例】 今日あ、こすのご もて えぐぞ
「今日は、腰鋸を持って行くよ」

こすのすづ 腰の筋。腰の筋肉。[及 10]

【例】 こすのすづ のばして いであくて
「腰の筋を伸ばして、痛たくてね」

こすひぼ [kosühibo] 腰紐。[続 126]

【例】 さきだから こすひぼ さがしたあだども めねあなよ
「さっきから、腰紐をさがしているんだが、見えないんだよ」

こすぽね 腰椎。腰椎骨。[及 10]

【例】 ころで こすぽね ぶてしました

「転んで、腰椎を打ってしまったよ」

こずみ こな炭。粉炭。細かくて売物にならない炭。[及 71]

【例】 とす かげで こずみ よれ

「篩にかけて、粉炭をより分けてくれ」

こずり [ko^odzüri] いどじり。糸底。茶碗などの底の部分。[続 127]

【例】 あだらす ちゃわんの こずり といすで こすて つるつるんする おんだ

「新しい茶碗の糸底は、砥石で擦って、つるつるにするものだよ」

こずれ [ko^odzüre] [形] 小狡い。[続 127]

【例】 あれだば こずれくて あれあどからだば もの かわんねあ

「あいつなら、小狡るくて、あいつからは物を買われないね」

こすれあ [kosüre] 拵え。[続 127]

【例】 この たばこれだは こすれあの えなだな、どから かて きたや

「この煙草入れなら、拵えのいいのだね、何処から買ってきたんだい」

こすれある [kosürerü] [下一他] 拵える。[同] こしえる。[続 127]

【例】 この りょうりあ なんずして こすれある おんだや

「この料理は、どうして拵えるものなの」

こずれらがす [ko^odzüreragasü] [四他] こじらす。[続 127]

【例】 この もんであ こずれらがすど もてえぎば ねあぐなんぜあは

「この問題は、こじらすと、持って行き場がなくなってしまうよ」

こそくてあ [kosöküte] くすぐったい。[及 26]

【例】 こちよがすなや こそくてあごと

「くすぐるなよ、くすぐったいこと」

この語は「こちよくてあ」、「こちよびてあ」とも使い、くすぐるを「こちよがす」と使っている。

ごそぐろ [gosogüro] 御足労。[続 127]

【例】 とうえ だご きて いだであで たえへん ごそぐろ おがげしあした

「遠い所を来ていただいて、大変御足労をおかけしました」

こそっと [副] こっそり。[及 155]

【例】 戸の すぎまこがら こそっと みっだ

「戸の隙間から、こっそり見ていた」

ごそっと [gosotto] [副] ごっそり。[続 127]

【例】 はだげさ ゆえだえも ごそっと もて えがったどは

「畑に植えていた芋を、ごっそり持って行かれてしまったそうだよ」

こそて [ko^odzote] [連語] 挙って。[続 127]

【例】 この ぎょうずにあ、ぶらぐ こそて さんかして もらいであ おんだな

「この行事には、部落挙って参加してもらいたいものだね」

こだげあ [ko^odage] [形] 小高い。[続 127]

【例】 ほら、あそごに、こだげあ やま あんべ、あれあ ○○ていう やまたげあ
「ほら、あそこに、小高い山があるだろう、あれが○○という山だよ」

こだっつ [kodattsü] 炬燵。[続 128]

【例】 さみぐなて きたはげあ、そろそろ こだっつ かげねあんねあなは
「寒くなってきたから、もうそろそろ炬燵を掛けないといけないね」

こだっつね [kodattsüne] 炬燵寝。[続 128]

【例】 こだっつね すっど、くへんなて まえばん こだっつね しねあんねあぐなんぞ
「炬燵寝をすると、癖になって、毎晩炬燵寝をしないといけなくなるよ」

こだな [ko^odana] 蚕棚。これは、蚕を飼うために、室の中に組み立てた棚をいう。高さ 5 尺位、巾 3 尺位いで、長さは 2 間ぐらい、棚は 3~4 段あった。[続 128]

こだなぼげ [ko^odanaboge] 蚕棚を組む竿をいう。[続 128]

【例】 こどすの こだなぼげあ きよねんきて かわがしたな つかうべ
「今年の蚕棚を組む竿は、去年切って乾かしておいたのを使おう」

こたんねあ [名] うす馬鹿。少し足りない。うすのろ。[及 155]

【例 1】 あれあ こたんねああだはげあ かもうな
「あれは、うす馬鹿だから、かもうな」

【例 2】 これあ えっしょさ こたんねあな
「これは、一升到少し足りないな」

ごだんばな [godanpana] 青鼻。濃い鼻汁。[及 15]

【例】 きたねあごど ごだんばな たらして
「きたないね、青鼻をたらして」

この語は「ねぎばな」ともいい、鼻汁には「はなえぼ一鼻提灯」、「はなたんこ一鼻汁」、「はなちゃんこ一鼻汁。幼児語」などがある。

こちちえあ [kotsitʃe] [形] [卑語] 小さい。小さいの卑語。[同] こちちちえあ。[続 128]

【例】 こちちえあ かんめあして、なにあ でげるて
「小さいくせに、何が出来るというんだい」

こちちちえ [kotʃittʃe] [強調] 小さい。小さいの強調語。[及 26]

【例】 こちちちえ かんめあして、なにあ でげるて
「小さいくせに、何が出来る、というの」

ごちやまじえ [gotʃama^odʒe] ごちや混ぜ。[続 128]

【例】 ほれあ たなもみだはげあ ほがんなど ごちやまじえ すんなよ
「それは種籾だから、他のとごちや混ぜにするなよ」

こちよがす [kotʃoŋasü] [動] くすぐる。[及 155]

【例】 やだごど しとんどご こちよがして
「嫌だこと、人をくすぐって」

こちよくてあ [kotʃoküte] [形] くすぐったい。[同] こちよびてあ。[及 155]

【例】 こちよくてあちやな、やめろや
「くすぐったいこと、やめてくれよ」

こっ〜 [koQ~] [接頭辞] 強調の接頭辞。主意を強調する語。[続 128]

【例 1】 こっつねる

「拗ねる」

【例 2】 こっばずがす

「恥かしい」

【例 3】 こっつらねあふり

「知らん振り」

【例 4】 こっつぎんねあ

「嫌だ」

【例 5】 こっつらにぐえ

「憎い」

【例 6】 こっびどぐ

「ひどく」

こつおこつお [kotsokotso] [副] こそこそ。[及 155]

【例】 おわだばり ほごで こつおこつおど なに したた
「自分達ばかり、そこでこそこそと、何をしてるの」

こつおこつお [kotsokotso] [副] こそこそ。[続 128]

【例】 ほこで、したりばりで こつおこつおど なに そうだんしたたあだ
「そこで、二人だけでこそこそと、何を相談しているんだ」

こつおこつおばなす [kotsokotsobanasü] こそこそ話。[続 128]

【例】 なに そうだんしたたなだが、みじゃで こつおこつおばなすだけな
「何を相談しているのか、台所でひそひそ話だったな」

こつおっと [kotsotto] [副] こっそり。[同] こそっと。[続 129]

【例】 だれだ、ほどげさまの んめあおの こつおっと とて えたな
「誰だ、仏さまのお菓子を、こっそり取って行ったのは」

こっかす 蚕糞。[及 71]

【例】 こっかすあ たまたはげあ かっこ とけあろよ
「蚕糞がたまったから、蚕座を取替えろよ」

こつからこ [kōtsūkarako] 小力。[続 129]

【例】 この やろこあ とすの わりん こつからこあ あるな
「この子（男の子）は、年のわりに小力があるね」

こっきび [kokkibi] 小気味。[続 129]

【例】 みんなの めあで ゆいまがしてやて こっきびあ えがったな
「皆の前でいい負かしてやって、小気味がよかったな」

ごつきら [gokkīra] [副] ごつんと。[同] ごつきり。[及 156]

【例】 つあつあ ごつきら たであだけ
「お父さんが、ごつんとたたいたつけ」

こっけ [kokke] [名/ダナ] 滑稽。[続 129]

【例】 ○○さんだば、こっけだ ごど ゆて しとんどご わらわへでんなだ
「○○さんなら、滑稽なことをいって、人を笑わせているんだよ」

こづげあ [kodzūge] [名] 小遣い。[同] こまづげあ。[及 156]

【例】 がが こづげあ ころ
「お母さん、小遣いを下さい」

こづげあ [ko^odzūge] 小使い。[及 77]

【例】 がっこの こづげあ えま 用務員て いうなだ
「学校の小使は、今は用務員というんだよ」

こつけあた [kotsūketa] [連体] [強調] こんな。こんなの強調語。[続 129]

【例】 おれあどさば こつけあたおのぼり くつで、こんたおのだば いらねあな
「俺にはこんなものばかりくれて、こんなものならいらねえ」

こつけらがす [kōtsūkeragasū] [四他] こじらす。[続 129]

【例 1】 きず こつけらがすど てあへんだぞ
「傷をこじらすと大変だよ」

【例 2】 はなす こつけらがすど もんであ かいけずしねあぞ
「話をこじらすと、問題が解決しないよ」

こつける [動] こじれる。[及 156]

【例】 とどの ごどで こつけで はなすん ならねあけ
「土地のことでこじれて、話にならなかったよ」

この語は、また、「こんつける」ともいう。また、「こつけらがさった—こじれさせられた」、「こつけらがす—こじれさす」などの使い方もしている。

こっこ [kokko] 動物の仔をいう。[続 129]

【例 1】 ねごの こっこ
「猫の子」

【例 2】 んまの こっこ

「馬の子」

【例 3】 すずめの こっこ

「雀の子」

ごっごど [goggodo] [副] ごくごくど。[及 156]

【例】 ビール しとびん ごっごど しといぎで のでしまたけ

「ビールひとびん、ごくごくと一息に飲んでしまったつけ」

ごったげあす [gottagesüü] [四自] ごった返す。[続 129]

【例】 まえとす おまずりていうど、ごったげあす おんで にぎやがだ おんだ

「毎年お祭りというど、ごった返すもので、賑やかなもんだよ」

ごったまじえ [gottamaⁿdʒe] ごったまぜ。[続 129]

【例】 ええ たねも わりなも ごったまじえんしたて だめだべや

「いい種も悪いのも、ごったまぜにしたって、駄目じゃないか」

〜ごったら [~gottara] [助動] なら。[続 130]

【例 1】 えぐごったら

「行くなら」

【例 2】 すっごったら

「するなら」

【例 3】 とっごったら

「取るなら」

【例 4】 いうごったら

「いうなら」

【例 5】 かうごったら

「買うなら」

ごっつ [代] こっち。こちら。[及 156]

【例】 あっつごっつ みでねあで ちゃっちやど えご

「あっちこっち見ていないで、さっさと行くんだ」

この語には、「こっちやーこっちに、こっちへ」などという使い方もある。

こづづ 土。炭がまの内壁の積み石と外側のしがらみの間に入れる土や粘土をいう。[及 71]

【例】 炭がま まぐ こづづ しょうべ

「炭がまを築く土を背負おう」

ごっつお [gottso] [名] ご馳走。[及 156]

【例】 まづ んめあ ごっつおだ ごど

「まあ、うまいご馳走だこと」

ごっつおこへあ [gottsokohe] ご馳走作り。[同] ごっつおこしえあ。[続 128]

【例】 さきだから なに ごつつおこへあ したなだや
「さっきから、何のご馳走作りをしているの」

こつつねる [kottsünerü] [動] [強調] すねる。すねるの強調語。[及 26]

【例】 この ぼつこあ こつつねで、えあらすぐねあ ごど
「この女めが、すねやがって、憎らしいこと」

こっばえあ [koppae] [形] [強調] 素早い。早い強調語。[続 130]

【例 1】 こんげあ あさまこっばえあぐから なによあ あんなや
「こんなに朝早くから、何用があるの」

【例 2】 この やろこあ こっばえあおんで しめらんねあ
「この子（男の子）は素早いもんで、掴まらないよ」

こっばづがす [koppaⁿdzügasü] [強調] 恥かしい。恥かしいの強調語。[及 26]

【例】 しとの つら ほんげあ みんなや こっばづがす ごど
「人の顔をそんなに見ないでよ、恥かしいこと」

こっぴどえ [koppi^mdoe] [形] こっぴどい。[続 130]

【例】 あんまり きがねあ ずぎあ、たまにあ こっぴどえ すおぎ すればえなよ
「余りきかない時は、たまには、こっぴどい仕置きをすればいいんだよ」

こっぺあはえあ [koppəhae] [連語] 手が早い。[及 156]

【例 1】 んめあおのていうど こっぺあはえあ おんで
「うまい物、というど、手が早いもんで」

【例 2】 こっぺあはえあ おんで、すぐただぐなだ
「手が早くて、直くたたくんだよ」

こっぺあはえあ [koppəhae] [形] すばしこい。ずるがしこい。[同] こべあはえあ。[及 156]

【例】 こっぺあはえあ おんで 手あ つけらんねあ
「ずるがしこいもんで、手がつけられないよ」

ごであ [gode] [助動] だろう。[及 156]

【例 1】 えたごであ
「行っただろう」

【例 2】 したごであ
「しただろう」

【例 3】 しゃべたごであ
「話しただろう」

こであー [kode:] 答え。[続 130]

【例】 にたすさんの こであーは なんぼ
「2 + 3 の答えはいくら」

ごてあー [gotɛː] 五体。全身。[続 130]

【例】 だれだて ごてあーまんぞぐで まめで はだらげんな いずばん しっしやわへだなだ
「誰だって、五体満足で、健康で働けるのが一番幸せなんだよ」

こであーる [kodɛ:rü] [下一自] 答える。[続 130]

【例】 ○○ちゃん、はっきり こであーなさい
「○○ちゃん、はっきり答えなさい」

ごであす [goⁿdesü] [連語] なんです。ました。女性語で敬語。[及 156]

【例 1】 んだごであす

「そうなんです」

【例 2】 ああ えたごであす

「ええ、まいりました」

こであねあ [kodɛnɛ] [形] あっけない。こらえがない。「この堤防も こであねあぐ ながさ
った おんだな—この堤防もあつけなく流されたもんだな。「すこすばりの傷、こであねあくて
びいびてる—少しばかりの傷に、こらえがなくて、ひいひいってる」。[及 156]

こであらんねあ [kodɛranɛ] [連語] 堪えられない。[及 157]

【例】 これだば んめあくて こであらんねあな
「これならうまく堪えられないね」

こである [koderü] [動] 答える。応える。堪える。[及 157]

【例 1】 ほんた ごどあ こである ひづよあ ねあな
「そんなことは答える必要がないね」

【例 2】 きてあに こであねあんねあな
「期待に応えないといけないな」

【例 3】 いであくて こであらんねあはげあ、医者さ えて くる
「痛くて堪えられないから、医者に行って来るよ」

こてっと [kotɛtto] [副] こってり。[続 130]

【例 1】 にぐだば こてっと あぶらの のたな えな
「肉なら、こってり脂ののったのがいいな」

【例 2】 こてっと ごしゃがっだ
「こってり叱られた」

こでな 細繩。[及 71]

【例】 あらむすろ おんな こでなでも なが
「荒蓆をあむ細繩でもなおうか」

ごど [godo] [名] ごみ。[及 157]

【例 1】 ほの ごど こえづがさ なげろ

「そのごみを堆肥場に捨てなさい」

【例2】 ごどくたず

「ごみくず」

こどあだらす [kodoadarasü] [形] 事新しい。[続 130]

【例】 すぎだ むがすの ごど こどあだらすぐ ほづくる ごど ねあべや

「過ぎた昔のことを、事新しくほじくることはないじゃないか」

ごどごどむす [godogodomüsü] くわがたむし等の幼虫。これは、くわがたむし科のくわがたむしや、こがねむし科のかぶとむし等の幼虫の総称である。[同] こえずがむす。[続 130]

ごどされあ [godosare] ごみ浚い。[続 131]

【例】 ゆぎあ けだおん、こんだ むらの へげの ごどされあ すんべや

「雪が消えたから、今度は村の用水路のごみ浚いをしようや」

こどす [kodosü] [名] 今年。[及 157]

【例】 こどすあ さぐあ えな

「今年は作がいいな」

こどばずげあ [kodobadzüge] 言葉遣い。[続 131]

【例】 えまの わらしたずだば こどばずげあ ええ おんで、ねなの つかてる

「今の子供達なら、言葉遣いがいいもんで、ねなんか使っているよ」

こどむぎ [kodomügi] 用向き。[続 131]

【例】 よげだ ごど ゆてねあで、ほの こどむぎ ゆてみろじゆ

「余計なことをいっていないで、その用向きをいってみろよ」

こどん [kodon] [副] 殊に。[続 131]

【例】 こごあ ゆぎの ふっどごで、やまがだけんでも こどん ふる ほだ

「此処は雪の降るところで、山形県でも殊に降るほうだよ」

こどんぐ [kodonjü] 小道具。[続 131]

【例】 ペンツなのの こどんぐ へっだ はご もて きてころ

「ペンチなんかの小道具の入れてある箱を持ってきてくれ」

こどんよっど [kodonjoddo] [連語] 殊に依ると。[続 131]

【例】 きょうの けありあ こどんよっど よんま なっがもしんねあぞ

「今日の帰りは、殊に依ると、夜になるかも知れないよ」

こにぐらす [強調] こ憎らしい。憎らしいの強調語。[及 26]

【例】 こにぐらす ごど、しとんどさ へんかばりして

「こ憎らしいこと、人に口答えばかりして」

こにや [konja] [名] 今夜。[及 157]

【例】 こにや えぐはげあな

「今夜行きますよ」

こねあだ [koneⁿda] [名] この間。[及 157]

【例】 こねあだ えがねあでしまて ぶじよほしたな
「この間は、行かないでしまつて、不調法しましたね」

また、この語には、「このめあーこの前。この間」などとも使っている。

こねあぶづ 苗配り。田植えの時、植え手に苗を投げて配ること。[及 71]

【例】 こねあぶづ こねあぶづ 早く ねあ もて こえ
「苗配り、苗配り、早く苗を持つ来い」

このが [konoga] 小糠。[続 131]

【例】 むがすあ このが さんじよ もたら、むごん えぐな、て ゆた おんだど
「昔は、小糠を3升持っていたら、響に行くな、といったものだそうだ」

このがあめ [konogaame] こぬか雨。[及 103]

【例】 このがあめあ ふったはげあ かさ さして えげよ
「こぬか雨が降ってるから、傘をさしていきなさいよ」

このがづげ [konoga⁽ⁿ⁾dzüge] 米糠漬。[及 40]

【例】 このがづげ すんな であご 持て 来てころ
「米糠漬にする。大根を持って来てくれないか」

このげ 眉。眉毛。[及 10]

【例】 このげの なんげあ しとあ ながいぎ すっど
「眉毛の長い人は長生きをするそうだよ」

このごずる きのこ汁。[及 39]

【例】 あぎん なっど このごずる くえな
「秋になると、きのこ汁が食べられるな」

このこの [konokono] 独り言。もぐもぐ。[続 131]

【例】 まだ、ばさま ないが このこのて ゆてだぜあは
「また、お婆さんが、何か独り言をいっているよ」

このじゅ [名] 最近。近頃。この頃。[同] このじゅこのごろ。[及 157]

【例】 このじゅあ 物あ たがく なたな
「この頃は、物価が高くなったな」

このせあー [konose:] この際。[続 131]

【例】 このせあーだおん、むらの まずりも せえであん やんべや
「この際だから、村の祭りも盛大にやろうや」

このへづ [konohedzüü] [名] この節。当節。[及 157]

【例】 このへづあ かねのかがる へづだ おんだ

「この節は、金のかかる時勢なもんだ」

このます [konomasü] [形] 好ましい。[続 131]

【例】 ほれだば ねがてもねあ このます ごどだはげあ ほげあしてこっちえあ
「それなら願ってもない好ましいことだから、そうして下さい」

こばがくせあ [kobagaküse] [強調] こ馬鹿くさい。馬鹿くさいの強調語。[同] こんばがく
せあ。[及 26]

【例】 こばがくせあ ほげあた 話じゃねあべ
「こ馬鹿くさい、そんな話ってないだろう」

こばす 香ばしい。[及 26]

【例】 この つけおのあ こばすくて んめあな
「この漬物は香ばしくてうまいね」

こばれ [kobare] 小晴。小止み。一時晴れること。[続 132]

【例】 あめあ すこす こばれん なたはげあ、えまの うずん けあんべ
「雨が少し小止みになったから、今のうちに帰ろう」

こび おこげ。[及 40]

【例】 しつとえあ みねあんだば ごびあ でげだは
「一寸見ないでいたら、おこげが出来てしまったよ」

こびづく [kobidzürgü] [動] こびりつく。こげつく。[及 157]

【例】 まま なべさ こびづでました
「ご飯が鍋にこびりついてしまった」

ごびらごびら [gopiragopira] [副] ぐびぐび。[同] ごびごび。[及 157]

【例】 あの さげ ごびらごびらど みな のでしました おんだ
「あの酒をぐびぐびみな飲んでしまったもんだ」

こびる [動] やける。胸のやけること。[及 281]

【例】 むねあ こびて しよねあ、水 くんねあが
「胸がやけてしょうがない、水をくれないか」

こびる 中間食。田植えの時、朝飯と昼飯の間、及び昼飯と晩飯の間に食べる飯を「こびる」とい
た。[及 40]

【例】 みんな こびる してころ
「皆さん中間食にして下さい」

こぶす こぶし。もくれん科の落葉樹。早春いち早く白い花を開き、春を告げる。[及 87]
この地方では「たむしば」も「こぶす」とっている。

こべあはえあ [kobeae] [形] すばしこい。[続 132]

【例】 これだば、こべあはえあおんで、えまあげだ おがす とてしまたでは

「こいつは、すばしこいもんで、今供えたお菓子をもう取ってしまったよ」

こへぎ [kohegi] [名] 戸籍。[及 157]

【例】 じゅんささん こへぎ しらべん 来たど
「巡查さんが、戸籍調べに来たそうだ」

こへこへ [kohekohe] [トス自] こせこせ。[続 132]

【例】 ほんたばりの かねさ こへこへ すんな、はだらげば まだ すぐ たまる
「そればかりの金にこせこせするなよ、働けばまた直ぐ溜るよ」

こべそぐ [kobesogu] [名] 小柄。[及 158]

【例】 おれあえの わらすあ こべそぐでな
「うちの子は、小柄でね」

ごべっと [gobetto] [副] ごっそり。[及 158]

【例】 泥棒に ごべっと もて えがっだは
「泥棒に、ごっそり持っていかれてしまったよ」

ごほらく [gohoraku] [名] ご法楽。楽しみ。慰み。[及 158]

【例】 今日あ ごほらくであったな
「今日は楽しかったね」

こぼろ [koboro] [名] 子煩悩。[及 158]

【例】 ○○だば こぼろだ しとだ
「○○さんなら、子煩悩な人だね」

ごまえあ [gomae] 胡麻和え。[続 132]

【例】 なえだて この ごんぼの ごまえあ んめぐ こしえだ ごとなおす
「まあ、この牛蒡の胡麻和え、美味しく作りましたわね」

こまおの [komaono] 小間物。[続 132]

【例】 むすめも よめん えぐなだおん ないだかいだて こまおの おすべな
「娘も嫁に行くんだから、なんだかんだと、小間物が欲しいだろうな」

こまおのめへ [komaonomehe] 反吐。この語は、「こまおのめへ ひろげる＝反吐を吐く」の形だけで使う語である。[続 132]

【例】 ほんたどさ こまおのめへ ひろげで
「そんな所へ反吐を吐いて」

こまおのめへ [komaonomehe] 小間物店。[続 132]

【例】 このきんじょに はさみどが くすなのうてる こまおのめへあ ありあへんべが
「この近所に、鋏とか櫛なんか売ってる、小間物店がないでしょうか」

こまぐれあ [komagurea] おやつ。間食。[及 40]

【例】 こまぐれあ おしてが、えま くえんぞ

「おやつが欲しいってかい、今あげるよ」

こまこえ 細かい。[同] こめあ。[及 26]

【例】 さぐあ えぐねあくて、豆まで こまこえ
「作が悪くて、豆まで細かいよ」

こまこぐする [komakogūsürü] [動] 両替する。[同] こまぐする。[及 158]

【例】 これ こまこぐして くんねあが
「これを両替してくれませんか」

こまざぐ [komadzagü] [動] 細かに切り裂く。細かに切ったり裂いたりすること。[及 158]

【例】 まだ 使うえな こまざぐなや
「まだ使える物を切り裂くなよ」

こまざれあ 細かい炭をさらい出す道具。炭から出した炭に灰（すべあ）をかぶせて、火を消し、大まかな炭を、その灰からはんぎりぼで取り出し、残った細かい炭を取り出す器具を「こまざれあ」という。[及 63]

ごまししよ [gomasijō] 胡麻塩。[続 132]

【例 1】 ごまししよ つけだ にぎりまま にきてころてが
「胡麻塩をつけた握り飯を握ってくれってかい」
【例 2】 としだおんだ、おれあ あだまも ごまししよん なたは
「年なものだね、俺の頭も、もう胡麻塩になったよ」

こまずげあ [komaⁿdzüge] 小遣い。小間使い。[続 132]

【例 1】 ○○ちゃん これあ こんげつの こまずげあだぞ
「○○ちゃん、これは今月の小遣いだよ」
【例 2】 これも こまずげあ でげるよん なたな
「この子も、小間使いが出来るようになったね」

こまちゃくれる [動] こましゃくれる。[及 158]

【例】 これあまだ このじゅあ こまちゃぐってきて
「この子は、近頃こましゃくれて来てね」

こまづげあ [komaⁿdzüge] [名] お使い。[及 158]

【例】 これも こまづげあするよん なたは
「この子も、もうお使いをするようになったんですよ」

こまます [名] 独楽回し。[及 158]

【例】 ○○ちゃん こまます しねあが
「○○ちゃん、独楽回しをしないか」

こまめ [komame] まめに働くこと。[続 133]

【例】 ○○さんの よめだば、こまめで、えまどきにあ めずらす よめこだな

「〇〇さんの嫁なら、まめに働いて、今時には珍しい嫁だね」

こまわり [komawari] 1日の仕事の量が定められていること。[続 133]

【例】 きょうの すごどあ こまわりであったはげあ でがしてきたは
「今日の仕事は1日分定められておったので、もう出かして来たよ」

こみづ [名] しまり屋。小心で、物や金を少しづづしか使わないこと。[及 158]

【例】 あれあ こみづだ ほうで、んめあ おのも ろぐに けねああだ
「あいつは締り屋の方で、うまいものもろくに食えないんだよ」

こむずがす [komürⁿdzügasü] [形] 小難しい。[続 133]

【例】 ああでもねあ こうでもねあて、こむずがす ごど いう おんだ
「ああでもないこうでもないって、小難しいことをいうもんだね」

こめあー [kome:] 小前。経営規模の小さいこと。[続 133]

【例】 おらみであんた こめあーの ひやくしよあ、ほがに すごど おすすめだ
「俺達みたいな小前の百姓は、他に仕事が欲しいんだ」

こめあかぎ [komekagi] [名] ふざけて無役なことをすること。いたずら。[及 158]

【例 1】 こめあ かぎしてねあで ちゃっちゃど こえ
「いたずらしてないで、さっさと来なさい」

【例 2】 こめあ かぐ
「いたずらをする」

【例 3】 こめあ けあで
「いたずらをして」

こめこしえ [komekoʃe] 米の脱穀調製などの作業。[及 71]

【例】 むがすど ちがて、えまだば こめこしえも らぐん なた おんだ
「昔と違って、今なら米の脱穀調製も楽になったものだ」

こめだら 米俵。[及 63]

【例】 くの こめだら なんぼ あっが かんじよすろ
「蔵の米俵が、いくらあるか、勘定しなさい」

こめどご [komeⁿdogo] 米所。[続 133]

【例】 やまん ながの こびやしよがら みっど こめどごの ひやくしああ うらやますな
「山の中の小百姓から見ると、米所の百姓は羨ましいね」

ごもぐまま [gomogümama] 五目飯。[続 133]

【例】 たまにあ めあだけの ごもぐままも んめあ おんだな
「たまには、まいたけの五目飯も美味しいものだね」

こもくら [名] 小さい荷物。風呂敷包みなどをいう。[及 158]

【例】 ばば こもくら しよて、どさ えぐや

「お婆さん、風呂敷包などを背負って、何所へ行くの」

こもず [komodzū] 粉餅。麦粉をまぶした餅。これは、直ぐ食べる以外の、何日か後に食べる餅に、麦粉をまぶし、用器にくっつかないようにした餅をいう。[続 133]

こもずもねあ [連語] わけの分らない。[同] こもずねあ。[及 159]

【例】 なに こもずもねあ ごど ゆてんなだ
「何をわけの分らないことをいってるんだ」

こもそ ^{こもそう} 虚無僧。[及 77]

【例】 こもそも えまだば こねあは
「虚無僧も、今なら、もう来ないね」

こやがます [kojagamasū] [形] 小やかましい。[続 133]

【例】 こやがます ごどな、ほんた ごど いずいず ゆわねあたて すっさげあ
「小やかましいことな、そんなことをいちいちいわなくともするから」

ごやごや [gojagoja] [副] うようよ。[同] ぐやぐや。ごよごよ。[及 159]

【例】 あそごに ぎやらくとあ ごやごや いだけ
「あそこに、おたまじゃくしが、うようよいたつけ」

こやす [kojasū] 肥。肥料。[続 133]

【例】 トマトあ まだ そろそろ こやす くんねあんねあな
「トマトは、また、そろそろ肥をくれないといけないな」

こゆみ 暦。[及 49]

【例】 こどしも こゆみ えっぺあ もらた
「今年も暦をいっぱい貰ったよ」

こゆみ [kojūmī] 暦。[続 133]

【例】 めへどが ぎんこがら、まえとす こゆみ もらう おんだな
「店とか銀行から、毎年暦を貰うものだな」

ごよ 萌芽。根元から伐った木から萌芽したものをいう。[及 87]

【例】 木でも ごよの での 木ど、出ねあ 木あ ある おんだ
「木にも、萌芽する木としない木があるものだよ」

ごりかつか [gorikātsūka] よしのぼり。これは、溪流に棲む鰍の一種で、胸部に吸盤があり、滝や急流も登る鰍である。[同] なべかつか。[続 134]

こりご [korigo] [ダナ] 小利口。[続 134]

【例】 この わらすあ どごが こりごだ どごあ あっじゅなや
「この子は、どこか小利口なところがあるよね」

こりざど [korīⁿdzado] 氷砂糖。[続 134]

【例】 おがすあ ねあぐなたはげあ、ほごの こりざどでも なめてんだ

「お菓子がなくなったから、その氷砂糖でも砥めているんだね」

こりしよ [名] 凝り性。[及 159]

【例】 こりしよな おんではげあ やりだすど むじゅうん なんなだ
「凝り性なものだから、やり出すと夢中になるんだ」

こりしよ [名] 性懲り。[及 159]

【例】 こりしよあねあぐ まだ 来たか
「性こりもなく、また来たのか」

性こりのない者を「しよなし」、「こりしよなし」などと呼んでいる。

こりつと [koritto] [副] 全然。[続 134]

【例】 なしてだが しらねあども、〇〇さん ちかごろ こりつと こねあぐなたなは
「どうしてなのか知らないが、〇〇さんは近頃全然来なくなったな」

こりもず [korimodzü] 凍り餅。これは、餅を縦7cm、横5cm、厚さ7mm 位いに切り、藁で編んだものを、軒下などに下げて凍らせたものをいう。後で焼き砂糖醤油をつけて食べる。[続 134]

こる [korü] [四他] 梱る。[続 134]

【例】 この にもつ こっさげあ、にずぐりひぼ かて きてくんねあが
「この荷物を梱るから、荷造り紐を買ってきてくれないか」

こるたん [名] コールタール。[同] こうるたん。こるたる。。[及 159]

【例】 屋根さ こるたん ぬてくんねあが
「屋根にコールタールを塗ってくれませんか」

これあーしよ [kore:šo] 堪え性。[続 134]

【例】 けあずだば、たんきなおんで、これあしよあ ねあくて、こまた おんた
「こいつなら、短気なもんで、堪え性がなくて、困ったもんだよ」

ごれあご [goreago] ご来光。高い山の日の出。[及 103]

【例】 ざおうで ごれあご おがだども さみくて ふるえっけ
「蔵王で、ご来光を見たが、寒むくてふるえたつけ」

こればり [korebari] こればかり。[同] これぱり。これっぱり。[続 134]

【例 1】 こればりの ごどで なぐ おのあ ねあべな
「こればかりのことで、泣く奴があるもんか」

【例 2】 わらび こればりはんて とてこねあなが
「わらびをこればかりしか採ってこないのかい」

これみろてゆわねあばり [koremirotejüwanebari] [連語/ダナ] これみよがし。[続 134]

【例】 しゃっだ かつこして、これみろて ゆわねあばりん ありぐおんだ
「洒落た格好をして、これみよがしに歩くものだ」

ころ くれ。物などを乞い求めること。[及 159]

【例】 ほれ おれあどさ ころじゆ
「それ、私にくれよ」

この語は、「けろ」とも使い、また、「けろやーくれよ」、「けっちえーくれよ」、「けんべーくれるだらう」、「くっちやーくれよ」、「こっちえーくれよ」などの使い方がある。

ころ [koro] 丸太の短かい切れ端。[続 135]

【例】 ころだて、たぎおのん なっさげあ、おれあ もらて えぐ
「丸太の短かい切れ端だて、焚きものになるから、俺が貰って行くよ」

ころえあー [koroε:] 頃合。[続 135]

【例】 えあっだ さがな ちょうど あぶっだ ころえあーだべぜあ
「焼いている魚は、丁度あぶれた頃合だらうよ」

ころくたま [korokūtama] [副] [強調] ろくに。ろくにの強調語。[続 135]

【例】 ころくたま みねあで ありぐはげあ ころぶなだ
「ろくに見ないで歩くから転ぶんだよ」

ごろごろさま [gorogorosama] 雷。特に子供が使う。[及 103]

【例】 ごろごろさま 来た つあつあ おかねあ
「雷が来た、お父さん、おつかないよ」

ころす ^{ふるい} 篩。[及 49・63]

【例 1】 ころす もて きて、これ ふるてころ
「篩を持って来て、これをふるって下さい」

【例 2】 ほごに ある ころす もて きてころ
「そこにある篩を持って来てくれ」

ごろだ [goroda] おお石。大きい石。一寸動かせないような大きい石。[同] ごろだいし。[及 103]

【例】 この ごろだ なんずがして よへねあんねあな
「この大石をなんとかして、よせないといけないな」

ころっけ [korokkε] 利口な子供。[続 135]

【例】 この わらすあ ころっけな おんで、かいおのも してくんなだ
「この子は、利口な子なもので、買い物もしてくるんだ」

ころっと [korotto] [副] とんと。すっかり。[続 135]

【例】 たのまっだ ごど ころっと わすっでだけ、えまから えてこねあんねあな
「頼まれていたことを、とんと忘れておったが、今から行ってこないといけないな」

ころでありぐ [koroⁿdεarigū] [連語/四自] のたうつ。[続 135]

【例】 くるすがて ころでありぐけ
「苦しがつて、のたうっておったっけ」

ころど [korodo] [名] 独断。[及 159]

【例】 くみえあの ごどだべ ほれだば 委員長あ ころどで 決めだて だめだべや
「組合のことだろう、それなら委員長の独断で決めたって駄目じゃないか」

ころます [koromasü] [形] 野菜などがよく成育したさま。[続 135]

【例】 ないだて おめあえの であごあ ころます ごどな
「まあ、お宅の大根はよく成育したことね」

ごろら [gorora] [副] ごろりと。転ろぶさま。横たわるさま。[及 159]

【例】 ちっちなに、おっきな ごろら ころばさっだけ
「小さいのに、大きいのが、ごろりと転ばされたつけ」

ごろらごろら [副] ごろごろ。転がるさま。転がっていること。[及 159]

【例】 つづなで、おっき 石あ ごろらごろらど かこころで 来たけ
「土砂崩れで、大きな石がごろごろと転んで来たつけ」

こわえぐなる [kowegünarü] [動] 疲れる。くたびれる。[及 159]

【例】 こわえぐなて ありがんねは
「もう疲れて、歩けないよ」

また、疲れたことは、「こわえ」、「こわえぐなた」といい、「こわぐねあ一疲れない」、「こわえごつたら一疲れたら」などの使い方がある。

こわえぐなる [kowegünarü] 疲れる。[及 26]

【例】 今日あ こわえぐなる程 ありたや
「今日は疲れる程歩いたよ」

こわばぎ [kowabagi] 柴箒。これは、山から細枝の揃った柴を切つて来て作つた箒で、土間や外を掃く時に使う箒である。[続 135]

こわばす [形] こわい。ご飯や赤飯などがこわいこと。普通より固いこと。[及 160]

【例】 このまま こわばすな
「このご飯はこわいね」

こわる [kowarü] [四自] こじる。[同] こずる。[続 135]

【例】 ほの いだ へがすなだば、これで こわっど え
「その板を剥がすのなら、これでこじるといいよ」

こん～ [kon～] [接頭辞] 強調の接頭辞。語意を強める語。[続 136]

【例 1】 こんきたねあ
「小汚ない」

【例 2】 こんばがくせあ
「小馬鹿臭い」

【例 3】 こんばえあぐ

「小早く」

こんけあー [konke:] 今回。[続 136]

【例】 こんけあーの さいがいあ てあへんな そんがいであったな
「今回の災害は、大変な損害だったな」

ごんけづ [gonkedzū] [名] げんこつ。げんこ。[及 160]

【例】 きがねあど ごんけづ あづげんぞ
「きかないと、げんこつをくれるよ」

こんご [konŋo] うわみずぎくら。これは、山野に自生する、ばら科の落葉高木で、多数の白色花をつける木である。[続 136]

ごんご [gonŋo] 五合。[続 136]

【例】 ゆべな ともだずあ きたおんだはげあ、ごんごぐれあ のだべな
「夕べは、友達が来たものだから、五合ぐらいは飲んだろうな」

こんじよ [名] 根性。[及 26]

【例】 あの わらすこあ ながなが こんじよある
「あの子はなかなか根性があるよ」

この語は「こじよ」とも使い、「こじよあわり一根性が悪い。人に物をくれたがらないこと」、「こんじよあえ一人がいい。人に親切に物をくれたりすること」などとも使っている。

こんじよまがり [konⁿdʒomanari] [ナ名ノ] つむじ曲り。[続 136]

【例】 あれだば、こんじよまがりて、おれあどきは えぐねあな くっだどて ごしゃぐなだぜあ
「あいつはつむじ曲りで、私には悪いのをくれたと怒るんだよ」

こんぞ 小僧。[及 78]

【例】 こんぞずあ ならわねあたて おぎよう よむど
「小僧というものは、習わなくとも、お経を読むそうだよ」

こんぞこ [konⁿdzoko] 小僧。小僧っ子。この語は、お寺の小僧をいうのと、男の子を少し卑しめた言葉と、二つの意味を持つ語である。[続 136]

こんた [連語] こな。[及 160]

【例】 おら こんた おの いらねあ
「私はこんな物はいらないよ」

こんだ [konda] [名] 今度。[及 160]

【例】 こんだ 東京さでも えてみんべ
「今度は東京にでも行って見よう」

こんだ [konⁿda] 今度。今度は。この語は、及位の方言 160P に「今度」と訳しておいたが、「今度は」とも訳されるので記しておくものである。[続 136]

【例 1】 こんだ ない く

「今度は何を食べるの」

【例2】 ごんだ ○○さ えぐ

「今度は○○へ行くよ」

こんづぎ この時。[及 160]

こんで これで。[及 160]

ごんであ ことでは。[及 160]

【例】 ほんた ごんであ

「そんなことでは」

こんばがくせあ [konbagaküse] [形] [強調] こばかくさい。馬鹿くさいの強調語。[及 160]

【例】 こんばがくせあ、ほんた 話て ある おんでねあ

「こばかくさい、そんな話ってあるもんじゃないよ」

こんぶぐろ [konbügüro] 小袋。口をしめる紐のついた小さい布袋。[及 56]

【例】 あんづぎ へんな こんぶぐろ くんねあが

「小豆を入れる小さい布袋を下さい」

こんぶぐろ [konbügüro] 小袋。これは、布の小さな袋で、二種類あり、一つはハンドバッグの役目をしたものと、もう一つは、豆や小豆、米などを入れて持ち歩くものがあったが、今はめったに使われなくなってしまった。[続 136]

こんぶら こむら。ふくらはぎ。[同] ふぐらっばぎ。[及 11]

【例】 まえにつ はしてっど こんぶら かだぐなる おんだ

「毎日走っていると、ふくらはぎが固くなるものだよ」

こんぶらけあり [konbürakeri] こむらがえり。脛の筋肉硬直。[及 15]

【例】 急に 走したら、こんぶらけありしてしまた

「急に走したら、こむらがえりしてまったよ」

こんぺと [konpeto] 金米糖。これは、少し尖ったいぼが沢山ついている砂糖菓子であるが、今は見られない。[続 136]

ごんぼ [gonbo] 牛蒡。[続 137]

【例】 おれあえであ はだけあ すぐねあ おんだはげあ、ごんぼ ゆえっどごあ ねあなよ

「うちでは畑が少ないものだから、牛蒡を植える所がないんだよ」

ごんぼずる 牛蒡汁。[及 40]

【例】 ごんぼずる くであな

「牛蒡汁が食いたいな」

ごんぼば [gonbopa] 牛蒡の葉。[続 137]

【例】 ごんぼば わげあうず にで もずさ へっど くさもず なんなよ

「牛蒡の葉は、若いうちに 煮て餅に入ると、草餅になるんだよ」

こんもり [名] 子守り。[同] こんもりこ。[及 160]

【例】 むがすあ おらも こんもりこん ださった おんだ
「昔は、私も子守りに出されたもんだよ」

こんもり ^{こうもり} 蝙蝠。[及 88]

【例】 こんもりて ばんかだ くる おんだなや
「こうもりって、夕方出て来るものだね」

こんもり こうもり。洋傘。[及 49]

【例】 雨あ ふて 来たはげあ こんもり おしな
「雨が降ってきたから、こうもりが欲しいな」

こんもり 子守り。子守りをする人。[及 5]

【例】 えまだば、こんもりなの やどう だごあ ねあなは
「今なら、子守りなんか雇うところは、もうないね」

— さ —

さ [格助] に。へ。[及 160]

【例】 花さ はづあ 来たけ
「花に蜂が来たつけ」

さ [sa] [感] さー。人を誘う言葉。[続 137]

【例 1】 さ えご
「さー行こう」

【例 2】 さ のむべ
「さー飲もうよ」

【例 3】 さ おぎんべ
「さー起きようよ」

【例 4】 さ のれや
「さー乗れよ」

【例 5】 さ けや
「さー食べるよ」

さ [sa] [終助] よ。この語は、誘いかけの形で使っている。[続 137]

【例 1】 えごさ
「行こうよ」

【例 2】 のむべさ
「飲もうよ」

【例 3】 のんべさ
「乗ろうよ」

～さ(ざ) [~sa(ˈdza)] 沢。この語は、地名につけていう時だけ「さ(ざ)」といい、沢とだけいう場合は使わない語である。[続 137]

【例 1】 あらさ
「荒沢」

【例 2】 とやさ
「戸屋沢」

【例 3】 かがみざ
「鏡沢」

【例4】へげざ

「関沢」

さいほ さいほう。[及57]

【例】おめあも さいほ すこす ならわねあんねあな

「お前も少し裁縫を習らわないといけないな」

さいわえあ [saiwɛ:] [名/ダナ] 幸い。[続137]

【例】たいふうも さいわえあ たいした ひげあ ねあがったな

「台風も、幸い大した被害がなかったな」

さえげん [saɛŋɛn] 際限。[同] せあげん。[続137]

【例】さえげんねあぐ こずげあ ねだる おんでねあ

「際限なく小遣いをねだるもんじゃないよ」

ざえっと [dzaɛtto] [副] ざあっと。[続138]

【例】ほの みずあ きたねあはげあ、へげさ ざえっと すてろは

「その水は、汚ないから、溝にざあっと捨ててしまいなさい」

さえへん [saɛɛɛn] 賽銭。[続138]

【例】ずんぞさま おめあり えぐごつたら、さえへん あげで おがめよ

「地藏さまに、お参りに行くなら、賽銭を上げて拝むんだよ」

さえる [動] される。出来る。[及161]

【例1】がっこで いだずら さえる おん

「学校で、いたずらをされるもん」

【例2】ほれぐれあだば おれだて さえる

「それぐらいだったら、私だって出来るよ」

この語は、「さえっであーされるじゃないか。出来るじゃないか。「さんねあーされない。出来ない」などの使い方がある。

さがくへ [sagakühe] 酒癖。[続138]

【例】〇〇だば さがくへあ えくねあはげあ、あんまり のまへんなは

「〇〇は酒癖が悪いから、もう余り飲ませるなよ」

さがし [sagasi] [名] 賢い。[及161]

【例】この わらすあ さがしな

「この子は賢いね」

さがす [sagasü] [動] 取引きする。売買する。[及161]

【例】おれあえであ 米 さがしてんなだ

「うちでは、米を売買しているんです」

さがずげ [sagaⁿdzüge] 杯。[及49]

【例】 さがずげあ たんねあはげあ もて きてころ
「杯が足りないから、持って来てくれ」

さがづげごと [sagadzügegodo] [名] 婚礼。結婚式。[及 160]

【例】 隣の 娘あ 今日 さがづげごと すんなだど
「隣の娘は、今日結婚式をあげるのだそうだ」

さがであ [sagaⁿdε] 酒代。[続 138]

【例】 まえばん さげ のむおんだはげあ、さがでも おどげん ならねあな
「毎晩酒を飲むものだから、酒代も馬鹿にならないね」

さがぶ [sagabüü] [四自] 叫ぶ。[続 138]

【例】 これだば よっぱらうど いずでも うだうなだが さがぶなだが わがらねああた
「こいつは、酔っ払うと何時でも唄うのか叫ぶのか分らないんだ」

さがぶ [sagabüü] [動] 叫ぶ。[及 161]

【例】 きんな 山の ほで さがだな おめあが
「昨日、山の方で叫んだのは君かい」

さがやど [sagajaⁿdo] [名] 酒宿。村人の宴会場になった民家。[及 161]

【例】 今日の さがやどあ ○○ えだど
「今日の酒宿は、○○さんの家だそうだ」

さがよと [sagajoto] 酔っぱらい。[及 5]

【例】 さがよとなの かまねあで、ねへでおげ
「酔っぱらいなんか、かまわないで、寝せておきなさい」

さがり [sagari] 発情。特に猫の発情をいう。[同] おだげ。[続 138]

【例】 ねごあ さがりつだな めっぼ さがでありぐおん
「猫は発情したな、滅法叫んで歩くもの」

さぎおどでな [sagiododena] [名] さきおととい。一昨昨日。[及 161]

さぎおどどす [sagiododosü] [名] さきおととし。一昨昨年。[及 161]

さきだ [sakiⁿda] [名] さっき。先程。[及 161]

【例】 ○○さんだば さきだ えたは
「○○さんなら、さっき行ってしまったよ」

さきちよ [名] 先。先端。[同] さぎっちょ。さぎっぼ。さきぺ。さきぼ。[及 161]

【例】 ほの さきちよさ つなげ
「その先に結びなさい」

さぎばす [sagipasü] さきはし。先端。[続 138]

【例】 ほの たげあ ざっこ あぶる くすん すんなだはげあ、さぎばす とがけるよ
「その竹は、雑魚を炙る串にするんだから、先端を尖らすんだよ」

さぎばれあ [sagibare] 先払い。[続 138]

【例】 にんどうえもの たなえも おくてもらうな さぎばれあねあど だめだど
「馬鈴薯の種芋を送ってもらうのは、先払いでないといけないそうだよ」

さぐ [sagüü] [動] 裂く。[及 161]

【例】 ほの 紙 さぐなよ
「その紙を裂くなよ」

この語は、「さえだ一裂いた」、「さがった一裂かれた」、「さぐべが一裂くだろうか」などの使い方をしている。

さぐ [sagüü] ししうど。せり科の草本植物。[及 88]

【例】 さぐて しれ 花 咲ぐ くせあなだべ
「ししうどって、白い花の咲く、くさいのだろう」

さぐ [sagüü] [動] 咲く。花の咲くこと。[及 88]

【例】 この 花 とでも きれん さぐ 花だけあ
「この花は、とてもきれいに咲く花だよ」

この語には「さぐにあ一咲くには」、「せあだ一咲いた」、「さえだ一咲いた」、「せあっだ一咲いている」などの使い方がある。

ざぐ [dzagüü] [名] 粗雑品。粗悪品。選別した残り物。[同] ざぐおの。[及 161]

【例】 ざぐあ えで くうべは
「粗雑品はうちで食べてしまおう」

さぐだめす [sagüüⁿdamesüü] 作試し。作占い。これは、農家の正月行事の一つで、旧正月 15 日の晩、囲炉裏の火の近くの灰の上に豆をその年の月数ならべて炙り、五つ目が色よく焼ければ、5月の天候がよく、作物がよく育ち、七つ目が色悪く焼ければ、7月の天候が不順で、作物の成育にも影響する、といったように、その年の作柄を占うことをいう。[続 138]

ざぐっと [dzagüütto] [副] ざっくり。割れるさま。[及 161]

【例】 せえがん おどしたば、ざぐっと わっだけは
「西瓜を落としたら、ざっくり割れてしまったつけ」

ざぐみず [dzagüümīdzüü] ざくざくする雪道。これは、消雪期に入り、何回か雨が降って、道路の雪が、細かい氷状の塊になり、歩くとざくざく音のする雪道をいう。[続 139]

さぐらんご [sagüüranŋo] 桜の実。小さいが、黒く熟すと甘味があるので、昔の子供らが、喜んでとったものだった。[及 88]

さぐり [sagüürī] 中耕。[及 71]

【例】 こんだ 茄子さ さぐり くえろよ
「こんどは茄子畑の中耕をしなさいよ」

さぐる [sagüürü] [動] 掬う。[及 161]

【例】 ざっこずあ こげあして さぐる おんだ

「雑魚というものは、こうして掬うもんだよ」

この語は、「すぐる」ともいい、また、「さくた一掬った」、「さぐらっだ一掬われた」などとも使う。

さげあ [sage] [格助] から。[及 162]

【例】 えま えぐさげあ まづでろ

「今行くから待っていないさい」

また、この語は、「いうさげあ—いうから」、「くっさげあ—来るから」、「すっさげあ—するから」などという使い方をしている。

さげあ [sage] [名] 境。[及 162]

【例】 この 峠あ 県さげあだなだ

「この峠が県境なんですよ」

さげあ一め [sagε:mε] 境目。[続 139]

【例】 となりどの やすぎの さげあ一め はっきり さへねあど えぎこぎ おごすな

「隣りとの屋敷の境目を、はっきりさせないと、いざこぎを起すね」

さげある [sagerü] [動] 栄える。[及 162]

【例】 京のみやごも さげえだり おどろえだり したおんだど

「京の都も、栄えたり、おどろえたりしたものだそうだよ」

さげのよ [sageñojo] 鮭。[続 139]

【例】 さげの ちぎよ ほうりゆうしたはげあ こんだ あぎん など さげのよあ のぼて く
んべ

「鮭の稚魚を放流したから、今度は秋になると、鮭がのぼって来るだろう」

さげよと [sagejoto] 酔っ払い。[同] さがよと。[続 139]

【例】 えまだば、むがすど つがて、めってあん さげよとなの みらんねあなは

「今なら、昔と違って、滅多に酔っ払いなんか見られなくなってしまったな」

ささえる 刺される。差せる。[及 162]

【例 1】 ほっちゃ えぐど はづに ささえるよ

「そっちへ行くと、蜂に刺されるよ」

【例 2】 手紙、状差しさ ささえっが

「手紙を状差しに差せるかい」

ささぎ [sasanji] ささげ。これは、まめ科の作物である。[続 139]

【例】 こんだ ささぎも えっべあ なて きたな

「今度は、ささげも沢山なってきたな」

ささまぎ [sasamagi] 粽。[続 139]

【例】 ささまぎて、ささのはの あだらすな おっきぐ なてがら つぐんなだ

「粽って、笹の葉の新しいのが、大きくなってから作るんだよ」

ささめごり [sasamegori] ささ濁り。[続 139]

【例】 すこす あめあ よげん ふたはげあ、かわの みずあ ささめごりん なたな
「少し雨が多く降ったから、川の水がささ濁りになったな」

ささやら [sasajara] 笹藪。[続 139]

【例】 この ささやら じゃまん なっさげあ、かりはらて ぞうりんしねあんねあな
「この笹藪は、邪魔になるから、刈り払って造林しないといけないな」

さし 物差し。[及 57]

【例】 まだ、さし かだなん したたな
「また、物差しを刀にしているな」

さす 米検査の道具。米俵に突きさして、少量の米を抜き出して等級を検査する時の器具をいう。[及 63]

さすあす [名] 差し足。ぬき足。[及 162]

【例】 えの したづあ おぎっさげあ さすあすで へあた
「うちの人達が起きるから、ぬきあしで入ったよ」

さずえれ [sadzüere] 札入れ。賤布。[続 139]

【例】 さずえれ おどすど かわんねあぐなっさげあ、きつけて えげよ
「賤布を落とすと買えなくなるから、気を付けて行けよ」

さすおせあ [sasüose] [名/ス他] 差し押え。[続 140]

【例】 しゃっきんも きげんまで けあさねあど さすおせあ さえんぞ
「借金も期限まで返さないと、差し押えされるよ」

さすぎ [sasügi] 挿し木。[及 72]

【例】 みしょゆり さすぎの ほあ 早く 花 さぐぜあ
「実生より、挿し木の方が早く花が咲くよ」

ざすぎ [dzasügi] 座敷。[及 49]

【例】 この ざすぎあ 広くて えな
「この座敷は広くていいね」

さすけあ [名] 差し支え。[及 162]

【例】 さすけあねあはげあ どうが 来てくであ
「差し支えありませんから、どうぞいらして下さい」

ざすざす [dzasüdzasü] [副] ざらざら。[続 140]

【例】 ほごりあ えん ながまで へあきて、えん なが ざすざすていうな
「埃が家の中まで入ってきて、家の中がざらざらするね」

さずずん [sadzürⁿdzün] 殺人。[続 140]

【例】 あの しとあ さずずんずけん おごすなて おもわねあがったな
「あの人が殺人事件を起すなんて思わなかったな」

さすでがます [sasürⁿdeŋamasür] [形] 差し出がましい。[続 140]

【例】 さすでがます ごど いうよだども こげあしたら なんとべ
「差し出がましいことをいうようだが、こうしたらどうでしょう」

さすどり いたどり。おおいたどり。たで科の草本植物。[同] どんぐえ。[及 88]

さすどりむす いたどりの寄生虫。「どんぐえむす」ともいって、いたどりの茎の中に寄生する幼虫をいう。この虫は、はや釣りの餌として使われている。[及 88]

さすねあ [sasüne] 挿し苗。田植え後、浮いた苗を植えなおす苗をいう。[及 71]

【例】 さすねあ もと もて えげ
「挿し苗をもっと持っていきなさい」

さすねあ [sasüne] 挿し苗。これは、田植後に、浮いた苗を植え換えることをいう。[続 140]

さすひけあーる [sasüh̄īke:rür] [下一他] 差し控える。[続 140]

【例】 この だびあ おれあ でしゃばらねあで、さすひけあーる ほあ えよだな
「この度は、私が出しゃばらないで、差し控える方がいいようだな」

さずまえも [sadzümaemo] 薩摩芋。甘藷。[続 140]

【例】 さずまえもだば、わらすだずどが おなごしたずあ すぎだ おんだな
「薩摩芋なら、子供達とか、女の人達が好きなものだね」

さすみ 刺し身。[及 40]

【例】 いぎのえ さすみ みで 買って こえ
「いきのいい刺し身を見て買って来なさい」

さずむ [動] 耳をすますこと。[及 162]

【例】 ほけちよあ せあずっさげあ さずんで きっだあだ
「鶯がさえずっているから、耳をすまして聞いていたんです」

さすむげあー [sasüümüge] 差し向い。[続 140]

【例】 あなだは、〇〇さんの さすむげあさ ねまてくんねあが
「あなたは、〇〇さんの差し向いに坐ってくださいませんか」

ざずよ [dzadzüjo] 雑用。[続 140]

【例】 ざずよばり よげだおんで、さっぱり すごどあ はがえがねあ
「雑用ばかり多くて、さっぱり仕事ははかどらないよ」

させあー [sase:] 支え。[続 140]

【例 1】 ほの はすらさ させあー おすな
「その柱に支えが欲しいな」

【例 2】 むすこあ おれの させあーだ

「息子が私の支えだよ」

させあーる [sase:rüü] [下一他] 支える。[続 141]

【例 1】 いっか させある

「一家を支える」

【例 2】 させあで つで えぐ

「支えて連れて行く」

さだけねあ [sadageŋe] 恥かしい。[及 27]

【例】 ほんた かつこして えたら さだけねあべや

「そんな格好をして行ったら、恥かしいじゃないか」

さだす [動] させる。幼児の大小便をさせること。[及 162]

【例】 ○○ちゃん おしっこが さだしてけっさげあ こっちゃ こえ

「○○ちゃん、おしっこかい、させてあげるから、こっちにお出で」

さだめのさげ [sa'dameŋosage] 婚約成立の祝い酒。[同] かだめのさげ。[続 141]

【例】 さだめのさげ のめるなて、こんげあ めでてあごどあ ねあな

「婚約成立の祝い酒を飲むなんて、こんな目出度いことはないね」

さっかがる [sakkagarü] [四自] 覆い被さる。[続 141]

【例】 この ぞうぎあ すぎさ さっかがて きたばげあ、きらねあんねあな

「この雑木は杉に覆い被さってきたから、伐らないといけないな」

さっかけ [sakkage] 差し掛け。この語は、母屋から突き出した片屋根作りの差し掛けをいい、碁や将棋の「差し掛け」や、傘の「差し掛け」などには使わない語である。[続 141]

さづぎ [sadzügi] [名] 田植え。小正月（旧一月十五日）に行う行事。この日、わら、豆がら（豆の茎の枝のついたもの）を田の雪上数ヶ所に差し、豊作を祈る行事。今は行う人はいなくなってしまった。[及 162]

さづぎ [sadzügi] さつき。田植え。[及 72]

【例】 隣りでも、今日、さづぎだど

「隣りでも、今日、田植えだそうだ」

さづぎぞら [sadzügi'dzora] 旧五月頃の天候。田植え頃の天候で、昔の田植えは六月に入る頃行なわれ、この頃は入梅期に入ることなので、雨が降り肌寒い日が多かったところから、この名がある。[及 103]

さづぎばれ 五月晴れ。入梅期の晴れた天候。[及 103]

さっくばる [動] しやしやり出ているろりにあたること。いろりの当て木（杵）の上まで出てあたること。[及 162]

【例】 ほんげあ さっくばる おんでねあ

「そんなに出てあたるもんじゃないよ」

さくくべる [動] くべる。差しくべる。燃えさしを差しくべること。[及 162]

【例】もと さくくべで もやへ
「もっと差しくべて燃やせよ」

さっくり [副] さっぱり。気持よく。[及 163]

【例】話したら、さっくり わがてくっだけ
「話をしたら、気持よく分ってくれたっけ」

さっくり [sakkūri] さっぱり。気持よく。この語は、相手が気持よく承知してくれた時に使う。

「きれいさっぱり」とか、「さっぱり分らない」などの意味では使わない語である。[同] さっくら。
[続 141]

【例 1】さっくり わがてくっだけ
「ざっぱりと分ってくれたっけ」

【例 2】さっくり しょうじてくっだけ
「気持よく承知してくれたっけ」

さっこえ [形] 脆い。特に木のもろいことをいう。[及 281]

【例】えじよどが ほんぬぎあ さっこえ 木だな
「銀杏とか、朴の木はもろい木だね」

ざっこね [dzakkone] 雑魚寝。[続 141]

【例】おずやさ きてもらて おぎのどぐですども、ざっこねしてくであは
「お通夜に来ていただいてお気の毒ですが、雑魚寝して下さいね」

ざっこへめ [dzakkoçeme] [名] 雑魚捕まえ。[同] ざっこしめ。[及 163]

【例】〇〇ちゃん、ざっこへめ えぐべや
「〇〇ちゃん、雑魚捕まえに行こうよ」

ざっぱ 三枚におろした骨。[及 40]

【例】よの ざっぱずるも んめあな
「鮭の骨汁もうまいな」

この語は「どんがら」ともいい、肉をとった鶏や兎などの骨もいう。

ざっぱ [dzappa] 製材の雑片や、魚の肉を取った残りをいう。[続 141]

【例 1】せいぜあの ざっぱ たきおのん すんべは
「製材の雑片は薪物にしてしまおう」

【例 2】さかなの ざっぱ にて かうべ
「魚の骨付きは煮て食べよう」

さっぱど [副] すっきり。[同] さぱっと。[及 163]

【例】あへ ながしたら さっぱど したな
「汗を流したら、すっきりしたよ」

さっぷけ [名] 殺風景。[及 27]

【例】 とごのまさ かげずあ ねあど さっぷけだ おんだな
「床の間に掛軸がないと、殺風景なものだね」

ざっぺあ [dzappɛ] くせ。[及 163]

【例】 おなご さっぺあして ない すっどごだ
「女のくせして、なにをするんだ」

ざっぼ 粗雑。[及 27]

【例】 この むしろあ めっぼ ざっぼん あだあだな
「このむしろはめっぼう粗雑に編んだのだな」

さど [sado] 砂糖。[続 141]

【例】 あんまり あめあど、からださ えぐねあはげあ、さど すぐねあぐ するよ
「余り甘いと、体にいけないから、砂糖を少くしなさいよ」

ざど [dzado] 座頭。盲。[続 141]

【例】 て ひけあらって きしゃさ のっどごみっど ざどなんだな
「手を引かれて汽車に乗るところを見ると、座頭なんだな」

さどげあり [sadoŋeri] 里帰り。これは、嫁入り、婿入り後、3日目、4日目に始めて実家に帰ることをいい、3日目を「みずめ」、4日目を「よずめ」といっている。[続 142]

さなご [sanaŋo] 黄粉。[及 41]

【例】 さなご にぎりままさ つけで くえんぞ
「黄粉をにぎりめしにつけてあげるよ」

さなずら えびずる。ぶどう科のつる植物。実はやまぶどうより小さいが、甘味があるので、食べられる。[及 88]

さなだひぼ [sanaⁿdahi^{bo}] 真田紐。[続 142]

【例】 にんな めねあはげあ この にもつ さなだひぼで しょて えぐは
「荷縄が見えないから、この荷物を真田紐で背負って行くよ」

さなぶり [sanabu^üri] 田植え後の慰労宴。手植え時代の田植えは、苦しい労働であり、また人手もいったので、田植えが終ると、さなぶりを開き、その労をねぎらったが、今はもうなくなった。[続 142]

さばぐ [sa^mbagü] [名] 分配。売る。裁く。仲裁。[及 163]

【例 1】 この しなおのあ 公平に さばげよ
「この品物は、公平に分配するんだよ」

【例 2】 みな さばげだは
「みな売れてしまったよ」

【例 3】 ほの けんか おれあ さばぐ

「そのけんかは、おれが仲裁するよ」

さばさば [sapasapa] [トス自] さばさば。[続 142]

【例】 やんだ かがりえあがらぬげで さばさば したは
「嫌な掛り合いから抜けて、もうさばさばしたよ」

さはず [sahadzüü] 大皿。[続 142]

【例】 ほの りょうりあ、しとりしとりさ だすより、さはずさ もて だすべ
「その料理は、一人一人に出すより、大皿に盛って出そうよ」

さぱっと [sapatto] [副] さっぱり。すっきり。この語は、味の淡白なことや、体の汚れを落したり、嫌なことを片付けたりしたあとの気持のすっきりしたさまをいい、「きれいさっぱり」とか、「さっぱり分らない」などの「さっぱり」には使わない語である。[続 142]

さぶす 淋しい。[及 27]

【例】 山ん ながの さぶす 村だ
「山の中の淋しい村です」

この語は「さぶすがり一淋しがり。さびしがり屋」、「さぶすがりや一淋しがり屋」などという使い方をしている。

さへる [saçerüü] [動] させる。[及 163]

【例】 ○○にあも てづであ さへるよん ゆえ
「○○にも手伝いをさせるようにいいなさい」
この語には、「さっしえーしなさい」、「さっだ一された」などの使い方がある。

さま 高窓。[同] さんま。[及 49]

【例】 にがづの はりまぶぎあ さまがらせあも へるて ゆた おんだ
「二月の粉雪は高窓からさへも入る、といったもんだよ」

さみ 寒い。[及 27]

【例】 さみどもたら、道理で、ゆぎあ ふて きたおん
「寒いと思ったら、道理で、雪が降って来たもの」

さみぞら 寒い天候。晩秋から冬の間のみぞれや雪の日のような寒い天候をいう。[及 103]

【例】 おめあまだ、この さみぞらん どさ えぐどご
「お前は、この寒い日に何所へ行くの」

さむれあ [samüre] さむらい。武士。[及 78]

【例】 むがすあ さむれあ いづばん えれあがったど
「昔は侍がいち番えらかったそうだ」

さめず 始終酒を飲んでいる人。朝昼晩酒を飲んで一日中酒気のとれない人。[及 5]

【例】 ○○だば さめずだ、さがけあ とれごどあ ねあ おん
「○○なら醒めずだ、酒気のとれることがないんだもの」

さもす [samosüü] [形] さもしい。[続 142]

【例】 ほんた おのさ てだして、なして ほんた さもす ごど すんだ
「そんな物に手を出して、どうしてそんなさもしいことをするんだ」

さもねあ [samone] [連語] さもない。簡単。[続 142]

【例】 ほんた ごどだば、さもねあ ごっだ、どれ かしてみろ
「そんなことなら、さもないことだよ、どれ貸してみなさい」

さら [sara] 膝蓋骨。膝頭。[続 142]

【例】 なに、ひじゃのさら わっだよだて、ほれあ てあへんだ はやぐ えしゃさ つで えげ
「なに、膝蓋骨を割ったようだって、それは大変だ、早く医者に連れて行きなさい」

ざらいだ [dzaraiida] 板敷の板。これは、家の板敷として使う板をいう。[続 143]

さらすおの [sarasüono] 晒し者。[続 143]

【例】 ほんた ばがだ ごど してっど ええ さらすおのん なるんだはげあな
「そんな馬鹿なことをしていると、いい晒し者になるんだから」

さらっと [副] 少し。さらりと。[及 163]

【例 1】 ゆぎあ さらっとはんて ふらねあけ
「雪は少ししか降らなかったよ」

【例 2】 この つぎあ さらっとした 感じだな
「この布は、さらりとした感じだね」

【例 3】 悩みな の さらっと 捨てろは
「悩みなんかさらりと捨ててしまいなさい」

さらど [sarado] 外。屋根も敷き物もない地面。[続 143]

【例】 ほんた さらどさ ねまたら、きおのあ よごれんべな
「そんな地面に坐ったら、着物が汚れるじゃないか」

さらます [saramasüü] 皿回し。これは、皿を指先や棒で回す曲芸と、その曲芸師、及び、料理を盛った皿を回して食べることを、また、物事を次の人、次の人と回してやることをいう。[続 143]

さるがしこえ [sarüŋasikoë] [形] 悪賢い。[及 163]

【例】 この わらすあ こちっちえ かんめあして さるがしこえおな
「この子は小さいくせに、悪賢いもんな」

さるこばがま [sarükopagama] 作業もんぺ。もんぺの膝から下が細いもの。女の作業もんぺ。

[同] さるばがま。[及 57]

【例】 あおおの とりん えぐなだば さるこばがま へあで えげよ
「山菜を採りに行くのだったら、作業もんぺをはいて行きなさいよ」

さるすんべあ [sarüsünbe] 猿芝居。[続 143]

【例 1】 ほんた めすだ さるすんべあなの ぶだねあで、ゆいであごど ゆえや

「そんな見え透いた猿芝居を打たないで、いいたいことをいえよ」

【例2】 えまだば さるすんべあも みらんねあな

「今なら猿芝居も見られないな」

さるます [sarümasü] 猿回し。[続 143]

【例】 むがすあ さるさ げい さへる、さるますず おのあ くる おんであったな

「昔は、猿に芸をさせる、猿回しというものが来るものだったな」

さるまなぐ [sarümanagü] 未熟ぶどう。やまぶどうや、えびずるのの実の熟さないものをいう。

[及 88]

【例】 これあ さるまなぐで すっぺあはげあ まだ、かんねあ

「これは、未熟ですっぺいから、まだ食べられないよ」

されあ〜 [sare~] [接頭辞] 強調の接頭辞。主意を強める語。[続 143]

【例1】 されあおずる

「落ちる」

【例2】 されあおどる

「劣る」

【例3】 されあかまねあ

「かまわない」

【例4】 されあうるせあ

「うるさい」

【例5】 されあごろぶ

「転ぶ」

されあ一ねん [sare:nen] さ来年。[続 143]

【例】 この わらすも、されあ一ねんは しょうがっこ そずぎょうだなは

「この子も、さ来年は、もう小学校を卒業だね」

されあうるせあ [sareürüse] [形] [強調] こうるさい。うるさいの強調語。[及 163]

【例】 おれあどさばり くつで まづ されあうるせあ ごど

「私にばかり くつついて、まあ、こうるさいこと」

この語の強調語である「されあ」は、他にも「されあかまねあーかまわない」、「されあきがねあーきかない」、「されあやがましーやかましい」などに使われ、神経をしげきする意味を持っている。

さわえもり さんしょううおの一種。沢に棲み、いもりに似ているところから、この名がある。[及

88]

なお、「いもり」を「えもり」といつている。

さわえんだ さわいでいる。[及 163]

さわがす [sawagasü] [形] 騒がしい。[続 143]

【例】 さわがすくて、テレビの おども きげねあ、もと すずがんすろ

「騒がしくて、テレビの音も聞こえないよ、もっと静かにしなさい」

さわさわ [副] ぞくぞく。寒さや恐怖で、身ぶるいを感じる事。[及 164]

【例】 さわさわていう かじえでも ひだべが
「ぞくぞくするが、風邪でもひいたんだろうか」

ざわざわ [副] ぶるぶる。嫌で身ぶるいしたり、風で木がゆれ動く音をいう。[及 164]

【例 1】 へびていうど きだばりで ざわざわていう
「蛇というど、聞いたばかりで身ぶるいが出るよ」

【例 2】 かじえ つえくて 木あ ざわざわていう
「風が強いので木がざあざあ音がするよ」

さわす [動] 渋を抜く。柿の渋を抜く事。[及 164]

【例】 かぎ さわす へづん なたな
「柿の渋を抜く季節になったね」

さわもだつ [sawamodatsü] ならたけもどき等の主として沢に生えるきのこをいう。[及 88]

【例】 さわもだつも くてみろ んめあ おんだぜあ
「沢に生えるきのこも、食べてみなさい、うまいものだよ」

さんかまつ 障子の棧。こうに同じ。[及 49]

さんがりめ [sanjarime] 下り目。[続 144]

【例】 ○○さんだば さんがりめで、いろの しろえ すとだ
「○○さんなら、下り目で、色の白い人だよ」

さんげさんげ [名] 懺悔懺悔。神仏礼拝の年中行事の一つ。旧十二月七日を「おなのが（前出）」といい。「さんげさんげ ろっこんざいしょー懺悔懺悔六根斎場……」と行者が唱え、祭事を行い、村人が礼拝する行事。「おおぎようさま」の項にも記入した。[及 164]

さんざこざ [副] さんざん。[同] さんざんござん。[及 164]

【例 1】 さんざこざ ぶづごっだは
「さんざんこわれてしまったよ」

【例 2】 さんざこざ あぐであつがった
「さんざん悪態をつかれたよ」

さんざんござん [sanⁿdzankoⁿdzan] [副] [強調] さんざん。さんざんの強調語。[続 144]

【例】 こねあだの しあいであいで さんざんござん まげらがしたけ
「この間の試合で、相手をさんざん負かしたっけ」

ざんぞ [名] 陰口。[及 164]

【例】 ○○だば しの ざんぞ ほろぐ すとだ
「○○なら人の陰口を吐く人だね」

ざんぞ [dzanⁿdzo] 陰口。[続 144]

【例】 あの しとだば やんだ しとだなや、しとの ざんぞなのばり ほろて
「あの人なら嫌な人だね、人の陰口なんかばかり吐いて」

さんだら さんだわら。俵の口をふさぐわら編みのふた。[及 64]

【例】 この たら さんだらで ふたしてくんねあが
「この俵をさんだわらで、ふたをしてくれませんか」

さんだらばす [san^odarabasü] 棧俵。これは、俵の両方の口のふたをいう。今は俵を使わないので、作られなくなってしまった。[同] さんだら。[続 144]

ざんばがま [dzanbagama] 袴。昔は女の先生や、女学校の生徒も袴をはいたが、今は女の人が袴をはくのは、巫女ぐらいなもので、男も冠婚葬祭の時ぐらしかはかなくなった。[続 144]

ざんぶ [名] 乱費。消費の粗末なこと。無駄使い。[及 164]

【例】 物ずあ ざんぶん 使う おんでねあ
「物は粗末に使うもんじゃないよ」

さんべあず [sanbe^odzü] 三杯酢。[及 41]

【例】 これさ さんべあず かけでくんねあが
「これに三杯酢をかけてくれないか」

さんぼんが [sanbonğa] 三本鍬。[及 64]

【例】 この はだけあ かであはげあ さんぼんがねあば ほらんねあ
「この畑は固いから、三本鍬でなければ堀られないな」

さんぼんずろ さんぼんじろ。砂糖の精製品。[及 41]

【例】 めあ の めへがら さんぼんずろ かて こえ
「前の店から、さんぼんじろを買って来てくれ」

ざんま [dzanma] ぎま。[続 144]

【例 1】 ざんまみろ
「ぎまを見ろ」

【例 2】 ほの ざんまであ しとめあさ ではらんねあぞ
「そのぎま（なりふり）では人前に出られないよ」

【例 3】 ざんま わりはげあ ころぶんだ
「ぎまが悪いから転ぶんだよ」

「振り返りぎま」のような意味では使わない語である。

ざんま [名] 行儀。格好。仕振り。[及 164]

【例 1】 ないだ ほの ざんま、ちゃんと すわて け
「なんだ、その行儀は、きちんと据わって食べなさい」

【例 2】 ほんた ざんまであ んまぐ でげる おんでねあ
「そんな仕振りでは、うまく出来るものじゃないよ」

ざんま ざま。ざまあ。あざけりの言葉。[及 164]

【例】 ざんまみろ

「ざまみやがれ」

ざんまぐ [dzanmagü] [動] ほんそうする。動きまわる。炊事などで動きまわること。[及 164]

【例】 ほんげ ざんまぐらねあで、まづ、こっちや 来て さげでも つげ

「そんなに台所で動きまわらないで、まづ、こっちへ来て酒でも注いでくれ」

ざんめあ [dzanme] [名/ス自] 炊事。[同] しんめあ、ままずめあ。ままずんめあ。[続 144]

【例】 ばんかだ なたおんは、まだ そろそろ ざんめあさ かがらねあんねあべな

「もう夕方になったから、またそろそろ炊事にかからないといけないだろうな」

ーしー

し [幼児語] 小便。[同] しょべ。しょんべ。ちっこ。[及 15]

【例】 めえ、ほら、し たえろ

「坊や、ほら、おしっこをなさい」

しあす [動] する。します。いたします。するの敬語。女性語。[及 165]

【例】 はえ、えま しあす

「はい、今します」

この語は、「しあんす」とも使い、また、「しあすとーするそうですよ」、「しあすんねあべがーするじゃないでしょか」などの使い方をしもしている。

しあます [siamasü] [四自] 持て余す。[続 145]

【例】 おれあえであ、しあますほど きのご とて きたはげあ、たべでくたせあ

「うちでは、持て余す程きのこを取って来たから、食べてください」

しーだけ [si:dage] 椎茸。[続 145]

【例】 しーだけ つくったな、こどすあ おもたより えっぺあ でだけな

「椎茸を作っていたのが、今年は思ったより沢山出たっけな」

じえーきん [dʒe:kün] 税金。[続 145]

【例】 まだ じえーきん おさめろてが、こんだ ないの じえーきんだや

「また税金を納めろってかい、今度は何の税金なの」

じえーこみ [dʒe:komī] 税込み。[続 145]

【例】 おらだ きゅうりょうあ、じえーこみだはげあ、かくていすんこぐ しねああだ

「私達の給料は、税込みだから、確定申告はしないんだ」

じえーたぐ [dʒe:tagü] [名/ダナ] 贅沢。[続 145]

【例】 パンの みみあ かであなて じえーたぐだ ごど いう おんでねあ

「パンの耳が固いなんて贅沢なことを、いうもんじゃないよ」

じえーむしよ [dʒe:müʃo] 税務署。[続 145]

【例】 かくていすんこぐ すん、じえーむしよさ えてこねあんねあな

「確定申告をしに、税務署に行ってこないといけないな」

じえってあー [dʒette:] 絶対。[続 145]

【例】 くるまの スピードの だすすぎあ、じえってあー だめだぞ
「車のスピードの出し過ぎは、絶対いけないよ」

じえね [dʒeɲe] 銭。[及 49]

【例】 おどつつあ 紙 買うな じえね ころ
「お父さん、紙を買う銭を下さい」
この語の幼児語に「じえんじえ」がある。

じえひ [dʒeɲi] [副] 是非。[続 145]

【例】 こんだ こっちゃ きたら、おれあえさも じえひ よてくだせあな
「今度こっちへ来たら、うちにも是非寄って下さいね」

しえる [ʃerü] [動] 出来る。される。[及 165]

【例】 ほんたごどだば おれだて しえる
「そんなことなら、私だってされるよ」
また、この語には「しえんだはげあー出来るんだから」、「しえんべー出来るだろう」などの使い方がある。

じえん [dʒeɲ] 膳。[及 50]

【例】 おじえんさ すわっずきあ ひじゃ つぐ おんだぞ
「お膳に座る時は、ひざをつくものだよ」

じえんじえ [dʒeɲⁿdʒe] [幼児語] 銭。お金。これは、幼児の使う言葉であるが、今は殆んど使われていない。一般には、「じえね（及位の方言 49P）」とは今でも使っている。[続 145]

【例】 がが じえんじえ ころ
「お母さん、お金を下さい」

じえんじえん [dʒeɲⁿdʒeɲ] [副] 全然。[続 146]

【例】 ゆべな よっばらてしまて、どご ありたが じえんじえん わがらねあな
「夕べは酔っ払ってしまて、何処を歩いたのか全然分らないな」

じえんてあー [dʒeɲte:] 全体。[続 146]

【例 1】 じんじゃ なおすなだば、むらじえんてあーで とりくまねあんねあな
「神社を直すのなら、村全体で取組まないといけないな」
【例 2】 あれあ、じえんてあー おめあ わりなだ
「あれは全体君がいけないんだよ」

じえんめあ [dʒeɲme] ゼンマイ。ばね。[及 64]

【例】 この とげあ じえんめあ きっだなは
「この時計はゼンマイが切れてしまったね」

じえんめあ [dʒeɲme] ぜんまい。ぜんまい科の草本植物で山菜。[及 88]

【例】 じえんめあて、ひらの きづどさ てる おんだ

「ぜんまいって、斜面の急な所に出るもんだよ」

じえんめあぴら [dʒɛ̃nmɛ̃pɪ̃ra] ぜんまいひら。急傾斜地。ぜんまいは急な斜面に出るところから、この名がある。[及 103]

また、このような斜面を「くら」とも呼び、これから転落することを「くらおづ」といつている。

じえんめあぼす [dʒɛ̃nmɛ̃bosü] ぜんまい乾し。[続 146]

【例】 じえんめあぼすて、ゆでだ じえんめあ ほすながら もで つぐんなだぜあ
「ぜんまい乾して、茹でたぜんまいを、乾しながら、揉んで作るんだよ」

じえんわん [dʒɛ̃nwan] 膳椀。[続 146]

【例】 じえんわんていう おのあ つかた あど、えぐ ふえで しまて おぐ おんだ
「膳椀というものは、使った後、よく拭いて仕舞っておくものだよ」

しかげる [sɨ̃kagerü] [動] ひっかける。小便をひっかけること。火に鍋などを仕掛けること。
[及 165]

【例 1】 ズボンさ しかげだ ながは
「ズボンに小便をひっかけたのかい」

【例 2】 この におの しかげで おぐなだぞ
「この煮物を火に仕掛けておくんだよ」

しかげる [sɨ̃kagerü] 煮る物を火に掛けること。[続 146]

【例】 しょとえあ、かいおのして くっさげあ おする しかげっだな みででころよ
「一寸、買い物をしてくるから、お汁を火に掛けあるのを見ていてくれよ」

しかだねあ [sɨ̃kadane] [名] 貧乏。[及 165]

【例】 しかだねあはげあ おめあどご こうさきも へんねあなだ
「貧乏だから、お前を高校にも入れかねるんだよ」

この語は、連語で、仕方がない、とも使っている。

しかぶず [sɨ̃kabüdzü] 損をすること。これは、思ったより高い物を買ったり、掛かり増しがして、金を払ったりして、損をしたように思ったり、損をしたりすることをいう。[続 146]

しがら [sɨ̃jara] [名] しがらみ。杭を並べ打ちそれに柴を編んだもの。[及 165]

【例】 どであ くぞれっさげ しがら くで おがねあんねあな
「土手が崩れるから、しがらみを組んでおかないといけないな」

しぎ [sɨ̃gi] 敷居。[同] じゃしぎ。[及 50]

【例】 しぎさ ローぬっど すべて え おんだ
「敷居にろうを塗ると、滑べっていいものだよ」

しくる [sɨ̃küürü] [四他] 瞑る。目をつむること。[同] ひくる。[及・続 165・146]

【例 1】 ○○ちゃん、ええ こだはげあ、まなぐ しくて、はえあぐ ねろはな
「○○ちゃん、いい子だから、目を瞑って、もう早く寝なさいね」

【例2】まなぐ しくて ねろは
「目をつむって、もう寝なさい」

しけ [s̥i̯ke] 湿気。[続 146]

【例】にゆうべあ なたば、しけあ たまた べずだな
「入梅になったら、湿気が溜って（今までと）別だな」

しげあー [s̥i̯geː] 屍骸。[続 147]

【例】しげあー くさっど えぐねあはげあ、ドライアイス へで おげよ
「屍骸が腐るといけなから、ドライアイスを入れておきなさいよ」

しげあーし [s̥i̯keːsi] 仕返し。[続 147]

【例1】ほれ まだ やんなが、ほれだば めあの しげあーしに すぎねあべ
「それをまたやるのか、それなら前の仕返しに過ぎないだろう」

【例2】こんどの じけんは、ぼうりょぐだんの しげあーしだど
「今度の事件は、暴力団の仕返しだそうだ」

なお、2の意味には「やんげあし」ともいう。

しけあっこ [s̥i̯kekko] 取り替えっこ。互に取り替えること。[及 165]

【例】おれあなど おめあな しけあっこ すんべ
「僕のと、君のを取り替えっこしようよ」

しけある [s̥i̯kerũ] [動] 取り替える。[同] とっけある。とけある。[及 165]

【例】これど おめあなど しけあろや
「これと、君のと取り替えるよ」

しこむ [動] 引っ込む。後へさがる。[同] ひこむ。[及 166]

【例】ほんげあ しこむなや
「そんなに引っ込むなよ」

ししやぐ [s̥i̯ʃagũ] 柄杓。昔は流れ水を流しに入れて、その水を汲むのに柄杓を使ったが、今は神社などで見るぐらいのものである。[続 147]

ししよあず [s̥i̯ʃoaːdzũ] 塩味。[続 147]

【例】この つけおのの ししよあず なたべ くて みでくんねあが
「この漬物の塩味はどうでしょう、食べてみてくれませんか」

ししよおの [s̥i̯ʃoono] 塩物。[続 147]

【例】この さげあ ししよおのだはげあ、ししよだしして かうべ
「この鮭は、塩物だから、塩出しをして食べよう」

ししよかげん [s̥i̯ʃokʌŋɛn] 塩加減。[続 147]

【例】つけおのあ ししよかげんが であじだはげあ きいつけで へろよ
「漬物は、塩加減が大事だから、気を付けて入れなさいよ」

ししょがらごえ [sɯ̥ʃogaraŋoɕ] 塩辛声。[続 147]

【例】 ほの ししょがらごえで うだう つもりがや ほれだば やめだ ほあ えぜあ
「その塩辛声で唄うつもりかい、それなら止めた方がいいね」

ししょけ [sɯ̥ʃoke] 塩気。[続 147]

【例】 おれあ くてだば この つけおのあ ししょけあ すこす たんねあな
「私が食べてなら、この漬物は、塩気が少し足りないね」

ししょこぐり [sɯ̥ʃokogūri] 塩まぶし。これは、魚や山菜に塩をまぶすことをいう。魚は塩焼きにし、山菜は塩をまぶして漬物にする、これを「ししょこぐり」といつている。[続 147]**ししょざげ** [sɯ̥ʃoːdzage] 塩鮭。[続 148]

【例】 むがすあ ししょざげだて しょうがずはんて かんねあ おんであったぜあ
「昔は、塩鮭だって正月にしか食べられないものだったよ」

ししょじよっぺあ [sɯ̥ʃoːdzoppe] [形] 塩辛い。[続 148]

【例】 からだの ためん あんまり ししょじよっぺあ おのあ かねあ ほあ えな
「体のために、余り塩辛い物は食べない方がいいね」

ししょだし [sɯ̥ʃodasi] 塩出し。[続 148]

【例】 あおずげん した わらび ししょだしして わらびずるでも すっが
「山菜を塩漬にしているわらびを、塩出しして、わらび汁でもしようか」

ししょびぎ [sɯ̥ʃobigi] 塩引き。これは、鮭や鱒の塩漬をいう。[続 148]

【例】 べんとさ ししょびぎの あぶたな へで えげよ
「弁当に、塩引きの炙ったのをに入れて行きなさいよ」

ししょます [sɯ̥ʃomasü] 塩鱒。[続 148]

【例】 きょう、えさばや、ししょます もて きたら、かて おげよ
「今日、魚屋が、塩鱒を持って来たら、買っておきなさいよ」

ししょみず [sɯ̥ʃomiːdzü] 塩水。[続 148]

【例】 かじえあ はやてっさげあ、けあて きたら ししょみずで うげあ するよ
「風邪が流行っているから、帰って来たら、塩水でうがいをしなさいよ」

ししょもみ [sɯ̥ʃomomi] 塩揉み。[続 148]

【例】 きょうあ きゅうり ししょもみして いずやずげでも つぐっが
「今日は、胡瓜を塩揉みして、一夜漬でも作ろうか」

しぜあー [sɯ̥ːdzeː] 資材。[続 148]

【例】 はすら おすてが、んだら しぜあーおぎばさ えて さがしてみろ
「柱が欲しいって、それなら資材置き場に行きさがしてみようよ」

しぜあー [dziːdzeː] [名/ダナ] 自在。[続 148]

【例】 この きっけあ えままでんなど つがて、みぎさも ひだりさも しぜあに えごぐなだ

ぜあ

「この機械は今までのと違って、右にも左にも自在に動くんだよ」

～した [~sita] [接尾辞] [続 148]

【例 1】 くだべした

「食ったじゃないか」

【例 2】 もらたべした

「貰ったじゃないか」

【例 3】 んだがした

「そうだったのか」

【例 4】 んだべした

「そうじゃないか」

【例 5】 んねあべした

「そうじゃないだろうや」

【例 6】 んねあがした

「そうじゃないのか」

した ~のか。[及 166]

【例】 んだがした

「そうなのか」

したいろ [名] 二種類。二色。[及 166]

【例 1】 ふでえれさ えんぴづあ したいろ へあつたぜあ

「筆入れに、鉛筆が二種類入っているよ」

【例 2】 あがど きいろの したいろ まじえっど えなだ

「赤と黄色の二色混ぜるといいのだよ」

また、「したしな一ふた品。二品種」、「したやま一ふた山」などの使い方もある。

したおや [sitaoya] 二親。両親。[続 149]

【例】 この わらすあ したおやん しなっで、ずさまど くらしてんなよ

「この子は、二親に死なれて、お爺さんと暮しているんですよ」

したかだ [sitakada] [名] 下。下方。下の方。[及 166]

【例】 つぐえの したかだに あっであ

「机の下にあるじゃないか」

したぎ 睡。[同] だっぺ。だっぺこ。[及 15]

【例】 きたねあはげあ あっつこっつき したぎ すんなや

「きたないから、あっちこっちに睡をするんじゃないよ」

したぐる [sitaguru] [動] たくし上げる。裾をたくし上げること。[及 166]

【例】 けっつ したぐらねあど ぬれんぞ

「しりの裾をたくし上げないと、濡れるよ」

したげある [s̄itaŋerü] [動] 従える。連れる。征服する。[及 166]

【例 1】ももだろあ、犬、猿、雉 したげあで えたど

「桃太郎は、犬、猿、雉を従えて行ったそうだ」

【例 2】ももだろあ、鬼こだどご したげあで たがらおの もて 来たど

「桃太郎は、鬼共を征服して、宝物を持って来たそうだ」

したご 双子。双生児。[同] したづご。ひてあご。[及 5]

【例】おぼごあ 3人も いだなさ こんだ したごだど

「子供が3人もいるのに、今度は双子だそうだ」

したごすれあ [s̄itaŋosüre] 下拵え。[続 149]

【例 1】あの はなすあ したごすれあ しておえだはげあ、そうかいさ だへば えなだ

「あの話は、下拵えをしておいたから、総会に出せばいいんだ」

【例 2】ライスカレーの したごすれあは でげっだあだ

「ライスカレーの下拵えは出来ているんだよ」

したごどめ [s̄itagodome] 二言目。[続 149]

【例】えあずあ、ないがいうど、したごどめにあ おわ ずまんばなすばりだ

「あいつは、何かいうと、二言目には、自分の自慢話ばかりなんだ」

したした [s̄itas̄ita] [副] ひたひた。[続 149]

【例】ほれ にっずぎあ みず したしたぐれあんして にんなだぞ

「それを煮る時は、水をひたひたぐらいにして煮るんだよ」

したす [s̄itasü] [形] 親しい。[続 149]

【例】おれあ ○○くんどあ したす ともだずで、しじゅう えぎきしてんなだ

「私は○○君とは親しい友達で、始終行き来しているんだ」

したす [s̄itasü] [四他] 浸す。[続 149]

【例】ほの よごっだ シャツつ たれあさ したして おげ、あどで あらうはげあ

「その汚れたシャツは、たらいに浸しておきなさい、後で洗うから」

したす [s̄itasü] 浸し物。おひたし。[同] おしたす。したすおの。[続 149]

【例】ばんげの おがずん ほうれんそうの したすでも つくて くうべ

「今夜のおかずに、ほうれんそうのおひたしでも作って食べよう」

したず [s̄itaⁿdzü] 下地。[続 149]

【例 1】これあ きよで であぐの したずあ あるよだな

「こいつは器用で、大工の下地があるようだな」

【例 2】この すいおのの したず こしえあでころな

「この吸い物の下地を作って下さいね」

したず [s̥itadz̥ü] 人達。[続 150]

【例】 あの したずあ どさ えぐなだべ
「あの人達は何処へ行くのだろう」

なお、この語は、「おどごしたず=男達」。「おなごしたず=女達」。「わらしたず=子供達」。「おどなしたず=大人達」などとも使っている。

したすごど [s̥itas̥ũjodo] 下仕事。[続 150]

【例】 おらほの おやがだ ○○かえしゃの したすごど うげおてんなだ
「うちの親方は、○○会社の下仕事を請負っているんだ」

しただがおの [s̥itadagaono] 強か者。[続 150]

【例】 あれだば しただがおので、しとすずなであ えがねあ しとだ
「あいつなら、強か者で、一筋縄ではいかない人だよ」

したつつ [s̥itatts̥ũ] 二つ。[続 150]

【例 1】 したつつ

「二つ。二才」

【例 2】 したつつおぎ

「(蚕の) 二令の脱皮」

【例 3】 したつつながら

「二つながら」

【例 4】 したつつへんず

「二つ返事」

【例 5】 したつつわり

「二つ割り」

【例 6】 したつつめ

「二つ目。二回目。二度目」

したつつおぎ [s̥itatts̥ũogi] 二令の蚕が脱皮して、三令になったこと。[及 72]

【例】 おれあえんなも したつつおぎだは
「うちのも、もう三令になったよ」

したつつさかがた [s̥itatts̥ũsa|kagata] 二令中の蚕。[及 72]

【例】 えま したつつさかがた だごだ
「今二令中なんです」

したつつよどみ 二令の^{かみん}假眠。二令の蚕が三令になるための脱皮の準備で假眠していること。[及 72]

【例】 こんだ したつつよどみさ かがた
「今度は二令の假眠中だ」

したづみ ふたづみ。一才から三才位までの、子供の着物の裁ち方、また、その着物。[及 57]

【例】 この わらすあ、まだ、したづみで えな
「この子のは、まだ、ふたつ身でいいね」

したでおの [s̥ɪtad̥ɔno] 仕立物。[続 150]

【例】 こねあだ たのだ したでおのあ でげあしたべが
「この間頼んだ仕立物は出来たでしょうか」

したでる [s̥ɪtad̥ɛr̥ü] [下一他] 仕立てる。[続 150]

【例 1】 この きおの したでるにあ なんにすぐれあ かがりあすべ
「この着物を仕立てるには、何日ぐらいかかるでしょう」

【例 2】 この です これがら えっちよめあ したでねあんねああだ
「この弟子を、これから一人前に仕立てなければならないんだ」

したばた [副] ばたばた。忙しく立ち働くこと。[及 166]

【例】 したばたて えぐ えごぐな
「ばたばた、よく働きまわるね」

したふぎ [s̥ɪtaɸügi] 雑布。[及 57]

【例】 がっこで したふぎ もて こえど
「学校で雑布を持ってこいってよ」

したまだ [s̥ɪtamada] 二股。[続 150]

【例 1】 この であごあ したまだだな
「この大根は二股だな」

【例 2】 ずれくて、あれあ したまだかげっだあだ
「狡るくて、あいつは、二股かけているんだよ」

しだみ どんぐり。櫛の実。[及 88]

【例】 ○○ちゃん しだみで 人形 こしえんべ
「○○ちゃん、どんぐりで、人形を作ろうよ」

しためずげあ [s̥ɪtameⁿdzüge] 下目使い。[続 151]

【例】 やだったら、しとんどご ずるそん しためずげあで みんなだぜあ
「嫌だったら、人を狡るそうに、下目使いで見るんだよ」

したもた [副] もたもた。[及 166]

【例】 したもたてねあで、ちゃっちゃど しろ
「もたもたしてないで、さつさとしなさい」

じだらぐ [dzidaragü] [名] [強調] 不潔なままにしておくこと。整理や後仕末や掃除などのだらしないこと。だらくの強調語。[及 166]

【例】 じだらぐだおんで、茶碗も ふがねあ
「だらぐで、茶碗も拭かない」

したりずれ [s̥itariⁿdzüre] 二人連れ。[続 151]

【例】 こねあだ ばさまど したりずれで、○○さ りょこうして きた
「この間、婆さんと二人連れで、○○に旅行をして来たよ」

したる [s̥itarü] [四自] 浸る。[続 151]

【例 1】 おゆさ したる
「お湯に浸る」

【例 2】 したしたん したるよん する
「ひたひたに浸るようにする」

しちど [s̥idzido] しちとうい。七島蔞。かやつりぐさ科の植物で、たたみ表や花むしろなどの原料となる草。[及 89]

しちめる [動] 締める。[及 166]

【例】 この 縄 もと しちめる おんだ
「この縄は、もっと締めるもんだよ」

また、締まることを「しちまる」、「しちまっが一締まるか」、「しちめっど一締めると。締めるそう
だ」などの使い方がある。

しちやこえ [s̥itjakoe] 小さい。[同] しっちやこえ。ちちやこえ。ちっちえ。ちっちやこえ。ち
やこえ。めちやこえ。めっちえ。めっちやこえ。[及 27]

【例】 この かぼちゃ まだ しちやこえな
「このかぼちゃは、まだ小さいね」

しちやばぐ [s̥itjabagü] [動] 裂く。引き裂く。千切る。[及 166]

【例】 しょうじ しちやばぐなよ
「障子を裂くなよ」

これは、「しっちやばぐ」ともいい、また、「しちやばげる一裂ける」、「しちやべあだ一裂いた」な
どの使い方がある。

しちやもちや [s̥itjamotja] [名/ダナ] 目茶苦茶。[続 151]

【例】 ほんたごど いうはげあ、そうだん しちやもちや なんなよ
「そんなことをいうから、相談が目茶苦茶になるんだよ」

しつげある [動] 捻挫する。[同] ひつげある。[及 15]

【例】 腕 しつげあで、医者さ えて くっどごだ
「腕を捻挫して、医者に行ってきたところなんです」

しっこえ [s̥ikkoe] [形] しっこい。[続 151]

【例】 しっこえ ごどな、なんぼ ゆたて、くえらんねあ おのあ くえらんねあな
「しっこいことな、いくらいったって、くれないものはくれないよ」

しっしやす [s̥iʃʃasü] 久しい。[及 27]

【例】 村の 火事が しっしやすごったな

「村の火事か、久しいことだな」

この語は「ひさす」、「ひしやす」ともいい、「しっしやすぶり一久し振り」、「ひしやすぶり一久し振り」などと使う。

しっしやすぶり [sijʃasübüri] [名] 久し振り。[同] ししやすぶり。[及 167]

【例】 まづ しっしやすぶりだ ごど

「まあ、久し振りですね」

しっしやます [siʃʃamasü] [動] もてあます。[同] しあます。[及 167]

【例 1】 きのご しっしやますほど とて きた

「きのこをもてあます程採って来たよ」

【例 2】 これだば しっしやます おのだ

「こいつなら、もてあまし者だよ」

しっしやますおの [sʃamasüōno] 持て余し者。素行の悪い者。低能児。1人で生活の出来ないもの。[及 5]

【例】 ○○えも しっしやます おの もて、らぐんねあな

「○○さんのところも、持て余し者を持って、楽じゃないね」

しっしやわへ [siʃʃawaç] [名] しあわせ。幸福。[及 167]

【例】 おらあ えま いづばん しっしやわへだ

「私は、今一番しあわせです」

しっしよ [siʃʃjo] [名] 畜生。[及 167]

【例】 しっしよあだ あっちゃ えげ

「畜生共あっちへ行けよ」

しっしよ [siʃʃjo] 塩。[及 41]

【例】 しっしよ あんまり かげっど かななぐなんぞ

「塩を余りかけると、食べられなくなるよ」

この語には「しっしよがら一塩から」、「しっしよじよっぺあ一塩からい」、「しっしよずる一塩汁」などの呼び方がある。

しっしよがらあげ [siʃʃogaraage] しおやとんぼ、しおからとんぼ、おしおからとんぼ、などをいう。[及 89]

【例】 ○○ちゃん しっしよがらあげあ いだけあ しめん えぐべや

「○○ちゃん、しおからとんぼがおったから、つかまえに行こうよ」

しっしよかれあ [siʃʃokare] 塩辛い。しょっぱい。[同] しっしよじよっぺあ。しょっぺあ。[及 27]

【例】 この つけおのあ めっぼ しっしよかれあな

「この漬物はめっぼう塩辛いな」

しっしょたび 白足袋。[及 57]

【例】 むがさりん すぎ はぐな しっしょたび あっが
「婚礼の時履く白足袋があるかい」

じっせあー [dzisse:] 実際。[続 151]

【例】 この はなすあ じっせあー みで きたなで、ずほんねああだ
「この話は、実際見てきたので、嘘じゃないんだ」

しったず [s̥ittadzü] [四自] 引き立つ。[続 151]

【例】 おめあ かみのかだ けあだば、いずだんと しったずな
「お前、髪のを型を変えたら、一段と引き立つな」

しったづ [動] 回復する。肥立つ。植物などが移植後生長を始めること。[及 167]

【例】 入院したども、このじゅあ しったて来た
「入院したが、近頃回復して来たよ」

しったでる [s̥ittaderü] [下一他] 持ち上げる。[続 151]

【例】 この であごん へあった ふぐろ おもであくて しったでらんねあ
「この大根の入っている袋は、重くて持ち上げられないよ」

しったでる [s̥ittaderü] [動] ひったてる。ひっぱる。[及 167]

【例】 ほの やろ しったでで こえ
「その野郎を引っ立ててこい」

しっちやがめっちやが [s̥ittjagamettjaga] [ナ名ノ] 支離滅裂。[続 151]

【例】 ほんた しっちやがめっちやがだ はなすて あるおんでねあべや
「そんな支離滅裂な話ってないじゃないか」

しっつめる [s̥ittsümerü] [下一他] 引き締める。この語は、縄などを引き締めて強く縛る時などに使い、「気を引き締める」という意味では使わない語である。[同] しつめる。[続 151]

【例】 なわ もと かだぐ しっつめる
「縄をもっと強く引き締めるよ」

じってあー [dzitte:] 実態。[続 152]

【例】 やぐばさ ゆてやて ひげあの じってあー しらべで もらう ごどだな
「役場に行ってやって、被害の実態を調べてもらうことだな」

しってんにでん [s̥ittenniden] どっち劣らず。[続 152]

【例】 のむごどん かげでだば、したりとも しってんにでんだな
「飲むことにかけてなら、二人共どっち劣らずだな」

しっと [名] 水を入れる。餅をふかす時入れる水をいう。餅つき中に入れる水もいう。[及 167]

【例】 もづ ふかしたたなさ しっとぶたが
「餅をふかしているのに、水を入れたかい」

また、「しとぶづー水を入れる」などの使い方がある。

しとえあ [s̥it̥toe] [副] 一寸。[及 167]

【例】 よあっさげあ しとえあ まで
「用があるから、一寸待てよ」

この語は、「しとえあのかめあん—一寸の間に」という使い方もしている。

しとまる [動] しまる。かさのある物が押し沈ずめられて低くしまること。[同] しつまる。
しつつまる。[及 167]

【例】 しと雨 ふたなで 雪あ しとまてました
「ひと雨降ったので、雪がしまってしまった」

しとる [動] しみ透る。水などが中まで染み透ること。[同] しとる。[及 167]

【例】 にわが雨で しとる程 めっだは
「俄雨でしみ透る程濡れてしまったよ」

しっぺあ [s̥ippe] [名] 失敗。[及 168]

【例】 誰でも しっぺあずあ ある おんだ
「誰でも、失敗というものはあるものだよ」

しっぺくー [s̥ippekü:] 返り討ちに会う。[続 152]

【例】 こねあだ まげらがしたら、きょうあ しっぺくたや
「この間負かしたら、今日は返り討ちに会ったよ」

しづや [名] 誕生七日目。[及 168]

【例】 今日あ しづやだなは
「今日は、もう誕生七日目だね」
この日の祝宴を「しづやぶるめあ」といっている。

しづやっけあ [s̥idz̥üjakke] [名] [強調] しちやっかい。やっかいの強調語。[及 168]

【例】 しづやっけあだ はなすあ もて くんな
「しち厄介な話を持ってくるなよ」
この「しち」という形容詞のついたものには、「しづうるせあ—しちうるさい」、「しづめんどくせあ—しち面倒くさい」、「しづくどえ—しちくどい」などがある。

して [s̥ite] [接] そして。そうして。[同] ほして。ほうして。[続 152]

【例】 ししよ かげで して おもし かておげ
「塩を掛けて、そして、重石を乗せておきなさい」

しであ したい。やりたい。[及 168]

【例】 おらも 野球しであ
「私も野球をしたい」

じであ [dz̥ide] [名] 辞退。[及 168]

【例】 わだすは 組長 じであしであなよ
「私は組長を辞退したいんですよ」

じであ [dzi^ode] [名] 時代。[及 168]

【例】 こんだ おらだの じであ 来たな
「今度は私等の時代が来たな」

じであ [dzi^ode] [名] 地代。[及 168]

【例】 つあつあ じであ もて こえど
「お父さん、地代を持ってこいって」

じであ [dzide] [名] 自体。[及 168]

【例】 ほれじであ 国の しごどだべ
「それ自体国の仕事だろう」

してあー [s̄ite:] 死体。[続 152]

【例】 してあー つずさ んめで かぐしたなて えぐ ほんごどあ でげる おんだなや
「死体を土に埋めて隠したなんて、よくそんなことが出来るもんだね」

しであー [si^ode:] 次第。[続 152]

【例 1】 こんだ しであん あたこぐなるな
「今度は次第に暖たかくなるな」

【例 2】 こういう しであで そうかい ひらぐなだど
「こういう次第で、総会を開くんだそうだ」

じであーおぐれ [dzi^ode:ogüre] 時代遅れ。[続 152]

【例】 としよてくつど じであおぐれん なる おんだな
「年寄ってくると、時代遅れになるものだね」

じであーげぎ [dzi^ode:ŋegi] 時代劇。[続 152]

【例】 おれあえの ずさま、テレビさ じであーげぎあ くつど、かがさず みでんなだ
「うちの爺さんは、テレビに時代劇がくると、欠かさず見ているんだ」

じであきり [副] さっぱり。全然。[同] じであっきり。[及 168]

【例】 今日あ ざっこあ じであきり つんねあけ
「今日は、雑魚がさっぱり釣れなかったよ」

しと 人。私。[及 6]

【例 1】 世のながにあ しとぐれあ おかねあ おのあ いねあ おんだ
「世の中には、人ぐらいおつかない者はいないもんだ」

【例 2】 しとさばり おもであ おの もだへで
「人（私）にばかり重い物を持たせて」

しとあすれあー [s̄itoasüre:] 人あしらい。[続 153]

【例】 そうすぎだ ほうずだていうど、しとあすれあーで くたびっでしまうな
「葬式だ法事だというと、人あしらいでくたびれてしまうね」

しとあたり [s̥i̥toadari] 人当り。[続 153]

【例】 ○○さんだば おどなすくて しとあたりの ええ しとだな
「○○さんなら、おとなしくて、人当りのいい人だね」

しとあへ [s̥i̥toahe] 一汗。[続 153]

【例】 はだげほりして、しとあへ けあだば、からだ かるこぐ なたよだ
「畑堀りをして、一汗かいたら、体が軽くなったようだよ」

しとあめ [s̥i̥toame] 一雨。[続 153]

【例】 ないだが くらぐ なたきたな、この そらもよだど、しとあめ きそだな
「なんだか暗くなってきたな、この空模様だと、一雨きそうだな」

しとあれ [s̥i̥toare] 一荒れ。[続 153]

【例 1】 たいふう きたつけはげあ しとあれ くつがな
「台風が来たそうだから、一荒れ来るだろうかな」

【例 2】 さがくへ わりはげあ まだ しとあれすんべじゅは
「酒癖が悪いから、また一荒れすることだろうよ」

しとあわ [s̥i̥toawa] 一泡。[続 153]

【例】 もんくばり ゆてっさげあ しとあわ ふがへねあど だめだな
「文句ばかりいっているから、一泡ふかせないと駄目だな」

しとあんすん [s̥i̥toansün] 一安心。[続 153]

【例】 おれあへの むすこも、ようやぐ しゅうしゅぐしたはげあ しとあんすんした
「うちの息子も、漸く就職したから、一安心したよ」

しといぎれ [s̥i̥toi̯gire] 人いきれ。[続 153]

【例】 ラッシュン ずぎあ、しといぎれする おんで、ほんで とかい やんだなよ
「ラッシュ時には、人いきれがするもんで、それで都会が嫌なんだよ」

しといずべあー [s̥i̥toi̯dzübe:] 人一倍。[続 153]

【例】 あの しとだば、くれあから くれあまで、しといずべあー はだらぐ しとだ
「あの人なら、早朝から夕方暗くなるまで、人一倍働く人だよ」

しといろ [s̥i̥toi̯ro] 一色。一種。[続 153]

【例 1】 チュウリップあ しといろはんて さがねあな
「チュウリップは、一色しか咲かないな」

【例 2】 にどえもあ だんしゃぐ しといろだけ ゆえるごどん すんべ
「馬鈴薯は、男爵一種だけ植えることにしようや」

しとうげ [s̥i̥toi̯uge] 人受け。[続 154]

【例】 あの しとあ じよせあねあ しとだはげあ しとうげも ええな
「あの人は、如才ない人だから、人受けもいいね」

しとえ [s̥i̥toe̥] 一重。[続 154]

【例 1】 やえざぎだどもたら、しとえだであ
「八重咲きだと思ったら、一重だよね」

【例 2】 こんだ あわへ むいで しとえおの きんべ
「今度は袷を脱いで、一重物を着よう」

しとえぎ [s̥i̥toegi̥] 一息。[続 154]

【例 1】 くたびだはげあ こごらで しといぎ つぐべ
「くたびれたから、こごらで一息つこうよ」

【例 2】 この さが しとえぎで のぼんべ
「この坂を一息で登ろう」

【例 3】 こごまで こえば あど しとえぎだ
「此処まで来れば、あと一息だよ」

しとおどし [名] 一喝。ひとおどし。[及 168]

【例】 しとおどしで ねげで えたけは
「ひとおどしで逃げて行ってしまったつけ」

しとおめん [s̥i̥toomen̥] [連語] 一思いに。[続 154]

【例】 いただきます べごこだども しとおめん うてしまうべは
「惜しい仔牛だが、一思いにもう売ってしまおうよ」

しとか [s̥itoka] 一鍬。[続 154]

【例】 じちんさいにあ あなだも しとか えれでくだせあな
「地鎮祭には、あなたも、一鍬入れて下さいね」

しとか [s̥itoka] 一皮。[続 154]

【例 1】 すぎあ しとか むぐど、あまか ある おんだ
「杉は一皮剥くと、甘皮があるもんだよ」

【例 2】 あの しとあ しとか はぐど べずの しとん なんぜあ
「あの人は一皮剥くと別の人になるよ」

しとかげ [名] ひと切れ。ひとかけら。[及 168]

【例】 さがな しとかげはんて ねあは
「魚は、もう一切れしかないよ」

しとかげ [s̥itokage̥] 人影。[続 154]

【例 1】 こごまで くっど しとかげしとつ めねあな
「此処まで来ると、人影一つ見えないね」

【例 2】 しとかげん なて わがらねあな

「人影になって分らないね」

しとがだげ [s̥itogadage] 一片食。一食。[続 155]

【例】 しとがだげぐれあ かねあて しなねあはげあ、もすこす がんばれ
「一片食ぐらい食わなくとも死なないから、もう少し頑張れよ」

しとかだまり [s̥itokadamari] 一塊。[続 155]

【例】 まよいごん なっど えぐねあはげあ、しとかだまりん なて ありげよ
「迷い子になるといけないから、一塊になって歩きなさいよ」

しとがら [s̥itoŋara] 人柄。[続 155]

【例】 ○○さんだば おどなす しとがらの ええ しとだ おんだな
「○○さんなら、おとなしい、人柄のいい人なものだね」

しとぎぎ [s̥itoŋigi] 人聞き。外聞。[続 155]

【例】 おれあ なに したて、ほんた しとぎぎの わり ごど ゆわねあでくんねあが
「私が何をしたっていうの、そんな人聞きが悪いことをいわないでくれないか」

しときり [s̥itokiri] ひと頃。一時期。[続 155]

【例】 きょねんは、しときり かじえひぎあ はやて、おれあえんなも かがたけな
「去年は、一頃風邪引きが流行って、うちの子もかかったっけな」

しとぎれあ [s̥itoŋire] [ナ名ノ] 人嫌い。[続 155]

【例】 あれだば、しとぎれあの ほど、あんまり しとど シャベリだがらねああだ
「あいつは、人嫌いの方で、余り人と喋りたがらないんだ」

しとくさり [s̥itokūsari] ひとくさり。[続 155]

【例】 ないが しとくさり あいさず してくんねあが
「何かひとくさり挨拶をしてくれませんか」

しとくせあ [s̥itokūse] [形] 人臭い。[及 168]

【例 1】 おめも しとくせあ ごど いうよん なたな
「お前も、人臭い（人間らしい）ことをいうようになったね」

【例 2】 鬼こあだ しとくせあて さわえんだ
「鬼共が人臭いといって、さわいでいる」

しとぐだり [s̥itogūrⁿdarī] 一行。[続 155]

【例 1】 ほご しとぐだり もうえっぺん よでみろ
「そこを一行もう一遍読んでみなさい」

【例 2】 ないが しとぐだり ゆわえあこど のべでくたせあ
「何か一行お祝いを速べて下さい」

しとぐづ [s̥itogūdzū] [名] 一口。[及 169]

【例 1】 あの おつき おがす しとぐづん くてしまた おんだ

「あの大きいお菓子を一口に食ってしまったもんだ」

【例2】ほの 株、おれも しとぐづ 買うがな

「その株、私も一口買おうかな」

しとぐび [s̥itogūbi] [名] 人見知り。[同] しとみくり。[及 168]

【例】この わらすあ、まづ、しとぐび する ほど

「この子は、まあ、人見知りをする方でね」

しとくへ [s̥itokūhe] 一癖。[続 155]

【例】あの しとあ、おどなすそん してんども、あれで しとくへ あんなだけあ

「あの人は、おとなしそうにしているが、あれで一癖あるんだよ」

しとけ [名] 人気。[及 169]

【例】こごの えあ さっぱり しとけあ しねあな

「ここの家は、さっぱり人気がないね」

しどげ もみぢがさ。きく科の植物で山菜。[及 89]

【例】しどげの おひたし つぐった どごだ

「もみぢがさのひたし物を作っているところなんです」

しとけあー [s̥itoke:] 人買い。[続 155]

【例】むがすあ、しとけあーさ むすめ うた、なていう はなすも あた おんだ

「昔は、人買いに娘を売った、なんていう話もあったもんだよ」

しとげあり [s̥itogeri] [名] 一回。[及 169]

【例】モノレールずおのさ しとげあり のた ごどあ ある

「モノレールというものに、一回乗ったことがあるよ」

また、この語には、「しとげありぎりんー一回毎に」という使い方もある。

しとこ [s̥itoko] 人っ子。[続 156]

【例】しとこしとり いぎあわねあ さぶす むらな おんだな

「人っ子一人行き合わない淋しい村なもんだな」

しとごえ [s̥itogoe] [名] 人声。[及 169]

【例】どごがで しとごえあ するんねあが

「何所かで、人声がするじゃないか」

しとごごろ [s̥itogogoro] 人心。[続 156]

【例1】しとごごろて わがらねあ おんだな

「人心って分らないものだな」

【例2】くまに ぼわって しとごごろあ ねあがったや

「熊に追われて、人心がなかったよ」

しとこす [s̥itokosū] 一腰。[続 156]

【例】 さずぎ きょう できすべどもたら、この あめで しとこす おてしました
「田植えを今日出かそうと思ったら、この雨で一腰折ってしまったよ」

しとごと [s̥j̥togoɔo] 一言。[続 156]

【例】 ほれだおん、んだはげあ おめあな しとごと よげだていうなよ
「それだもの、だからお前のは一言多いというんだよ」

しとごと [s̥j̥toŋoɔo] 人ごと。[続 156]

【例】 これだば しとごどんねあな おわも えっくん きいつけねあんねあな
「これなら人ごとじゃないね、自分もよく気を付けないといけないな」

しとこね [名] 一纏め。[及 169]

【例】 えなも えぐねあなも しとこねんしてしまたなが
「いいのも、悪いのも一纏めにしてしまったのかい」

しどごみ [s̥j̥toŋomi] [名] 人込み。[及 169]

【例】 しどごみしねあ いながの ほあ えな
「人込みのしない、田舎の方がいいね」

しところ [s̥j̥tokoro] 一頃。[続 156]

【例】 がっこあ やすむ、もめごどあ おごすで、しところあ なんず すんべどもたな
「学校は休む、もめ事は起こすで、一頃はしようと思ったな」

しとごろ [s̥j̥togoro] [名] 懐。[及 169]

【例】 しとごろさ なに へっだなや
「ふところに何を入れているんだい」

しとごろかんじよ [s̥j̥togorokan'dzo] 懐勘定。[続 156]

【例】 しとごろかんじよしたば、たんねあよだはげあ かわねあで きたは
「懐勘定したら、足りないようだったから、買わないで来てしまったよ」

しとごろす [s̥j̥toŋorosü] 人殺し。[続 156]

【例】 しとごろす するなて なんと きもずで する おんだべ
「人殺しをするなんて、どんな気持でするものだろうね」

しとごろで [s̥j̥togoro'de] 懐手。[続 156]

【例 1】 むがすあ しとごろでして ありた おんだ
「昔は懐手で歩いものだね」

【例 2】 となりむらの かじだば、しとごろでして みでらんねあな
「隣り村の火事なら、懐手で見ていられないな」

しとさすゆび [s̥j̥tosasüjübī] 人差し指。[続 157]

【例】 しとさすゆび いであぐしたば ものちよすな ふじゆだ おんだな
「人差し指を怪我したら、物を扱うのに不自由なものだね」

しとさま [名] 人さま。[及 169]

【例】 しとさまの ごどあ あだこだて ゆわんねあ おんだぞ
「人さまのことは、ああだこうだと、いわれないもんだよ」

しとされあ [s̥i̥tosare] [名] 人さらい。誘拐。[及 169]

【例】 しとされあ いっさげあ しらねあ しの 車さなの 乗らんねあ おんだぞ
「人さらいがいるから、知らない人の車になんか乗られないものだよ」

しとさわがへ [s̥i̥tosawanahe] [ナ名ノ] 人騒がせ。[続 157]

【例】 ぼや だしたなて、ほんた しとさわがへだ ごど さんねあべじゆなや
「小火を出したなんて、そんな人騒がせなことをされないだろうよねー」

しとしよい [s̥i̥tofoji] ひと背負い。沢山。[続 157]

【例】 ふぎ とりん えたどて、ふぎ しとしよい とて きたけ
「藪を採りにいったというので、藪をひと背負い採って来たっけ」

しとず [s̥i̥todzū] [連体/ダナ] 同じ。[続 157]

【例】 わらびずあ しとずどさばり えたて、とらんねあ おんだ
「わらびというものは、同じ所にばかり行ったって、採られないものだよ」

しとずあな [s̥i̥todzūana] 一つ穴。[続 157]

【例】 えあずら しとずあなの むずなで、ろぐでもねあ ごどばり してんなだ
「あいつらは、一つ穴の貉で、ろくでもないことばかりしているんだ」

しとずおべ [s̥i̥todzūobe] 一つ覚え。[続 157]

【例】 ばがのしとずおべ、ていう おんだども、えぐ ほれば おべっだ おんだ
「馬鹿の一つ覚え、というものだが、よくそれは覚えていたものだな」

しとずがみ [s̥i̥todzūgami] 一掴み。[続 157]

【例 1】 しとずがみの こめだて であずん すろよ
「一掴みの米だって、大事にきなさいよ」

【例 2】 おっきてで しとずがみんしたけ
「大きい手で、一掴みにしたっけ」

しとずぎ [s̥i̥to^odzūgi] 人好き。[続 157]

【例】 あの むすめだば しとずぎのする ええ むすめだな
「あの娘なら、人好きのする、いい娘だね」

しとずぎえあー [s̥i̥to^odzūgie:] 人付き合い。[続 157]

【例】 となりきんじよどの しとずぎえあーは、であずん する おんだぞ
「隣り近所との人付き合いは、大事にするものだよ」

しとすず [名] 一筋。一本。[及 169]

【例 1】 髪の毛あ しとすず おづっだけ

「髪の毛が一筋落ちていたつけ」

【例2】あの おどごだば しとすずなわであ いがねあぞ

「あの男なら、一筋縄ではいかないよ」

しとすずな [s̥ĩtosür^hdzüna] 一筋縄。[続 158]

【例】あの おどごだば、どうしてどうして しとすずなであ えがねあ おどごだぞ

「あの男なら、どうしてどうして一筋縄ではいかない男だよ」

しとすずで [s̥ĩto^hdzüde] 人伝。[続 158]

【例】しとすずでん きだ はなすだども、〇〇さんも でかへぎん えたつけな

「人伝に聞いた話だが、〇〇さんも出稼ぎに行ったそうだな」

しとすずみ [s̥ĩtodzümü] 一つ身。着物の大きさ。[続 158]

【例】しとすずみだば、しとつが したつん なる あがこの きる おんだぞ

「一つ身なら、一つか二つになる赤子の着るものだよ」

しとすずれ [s̥ĩto^hdzüre] 人擦れ。[続 158]

【例】しとぐびする わらすだけども つかごろあ しとすずれして、べずん なたな

「人見知りをする子供だったが、近頃は人擦れして、別になったな」

しとだがぎ [s̥ĩtodagaŋi] ひと抱え。一回に持てる量。この語を「ひと抱え」と訳したが、抱き

かかえる太さ大きさをいうのではなく、一回に持てる量をいう語である。[続 158]

しとだがり [s̥ĩto^hdagari] 人だかり。[続 158]

【例】ないだべ、〇〇さん えんどさ しとだがり したじゆ

「なんだろう、〇〇さんの家のところに、人だかりがしているよ」

しとだすけ [s̥ĩto^hdasüke] 人助け。[続 158]

【例】なんぼ すぐねあたて しとだすけだ おん、きふして やんべ

「幾ら少なくとも人助けだもの、寄附してやろう」

しとだのみ [s̥ĩto^hdanomi] 人頼み。[続 158]

【例】えまだば どごの えだて えそがすおん しとだのみ すんべどもたて だめだな

「今なら何処の家だって忙しいから、人頼みをしようと思っても駄目だな」

しとだび [s̥ĩtodabi] ひとたび。一度。[続 158]

【例】おれあえの ずさまだば、がんこで、しとだび ゆいだしたら きがねああだ

「うちのお爺さんなら、頑固で、一度いい出したらきかないんだ」

しとだまり [s̥ĩtodamari] ひとたまり。[続 159]

【例】この ていぼうだば、こうずいん なっど、しとだまりも ねあぜあ

「この堤防なら、洪水になると、ひとたまりもないよ」

しとつげあ [s̥ĩtotsüŋe] 人違い。[続 159]

【例】うすろすがだ にでだはげあ、こえ かげだば、しとつげあだけ

「後姿が似ていたから声を掛けたら、人違いだったよ」

しとづげあ [s̥itodz̥üge] [名] 人使い。[及 169]

【例】 あそごあ しとづげあの あれあ どごだ
「あそこは、人使いの荒いところだね」

しとっこしとり [s̥itokkos̥j̥tori] 人っ子一人。[続 159]

【例】 やまんながの むらだ おんだはげあ よんま なっど、しとっこしとり ありがねあ
「山の中の村なものだから、夜になると、人っ子一人歩かないね」

しとつつ [s̥itotts̥ü] 一つ。この語は、数字で、他には、「したつつ=二つ」「いづつつ=五つ」。

「ななつつ=七つ」「こごのつつ=九つ」などがある。[続 159]

しとづづ [名] 人質。[及 170]

【例】 むがすあ しとづづ とた おんだだ
「昔は、人質をとったものだそうだ」

しとつつおぎ [s̥itotts̥üogi] 脱皮して二令になった蚕。[及 72]

【例】 おめあえんなも しとつつおぎが
「お宅のも二令になったばかりですか」

しとつつしとつつ [s̥itotts̥üs̥itotts̥ü] 一つ一つ。[続 159]

【例】 めんどくせあがらねあで しとつつしとつつ ちゃんと つずむなだぞ
「面倒くさがらないで、一つ一つきちんと包むんだよ」

しとつつよどみ 假眠中の一令の蚕 [及 72]

しとつと [s̥itotto] [副] しっとり。[続 159]

【例】 かさ もて えがねあ おんだはげあ、きりさめで しとつと ぬっだは
「傘を持って行かないものだから、霧雨でしっとり濡れてしまったよ」

じとつと [dzitotto] [副] じっとり。[続 159]

【例】 ○○ちゃん、ゆべなやたな ふとんが じとつと ぬっでだけぞ
「○○ちゃん、タベやったね、布団がじっとり濡れておったぞ」

しとづどご [s̥itodz̥üdogo] [名] 一ヶ所。[同] しとどご。[及 170]

【例】 ほれ しとづどごさ あづべでおげ
「それを一ヶ所に集めておいてくれ」

しとつとび ひと跳び。[同] しととび。[及 170]

【例】 おれだば ほんた どごあ しとつとびだ
「俺なら、そんな所は、ひと跳びだよ」

しとつぱしり [名] 一走り。[同] しとぱしり。[及 170]

【例】 隣の村さが、あんた どごあ しとつぱしりで えて 来る
「隣の村にかい、あんな所は一走りで行って来るよ」

しとつぶえり [s̥j̥tots̥übüer̥i] 一粒選り。[続 159]

【例】 この たねあ しとつぶえりん したあだはげあ、ほがんなど まじえんなよ
「この種は一粒選りにしたのだから、他のと混ぜるなよ」

しとつぶだね [s̥j̥tots̥übüⁿdane] 一粒種。[続 159]

【例】 これあ おれあえの しとつぶだねだおん、であずん そだでねあんねあ
「これは、うちの一粒種だから、大事に育てないといけないな」

しとつも [副] さっぱり。ひとつも。[同] しとつも。[及 170]

【例】 おれどさ しとつも くんねあけ
「私には、さっぱりくれなかったよ」

しとで [s̥j̥toⁿde] 人出。[続 159]

【例】 ○○の おまずりさ えたば くらやまのよだ しとでな おんで たまげだ
「○○のお祭りに行ったら、黒山のような人出なもので、驚いたよ」

しとで [s̥j̥toⁿde] 人手。[続 160]

【例】 むがすだば、さずぎていうど、ねごのても かりであていうくれあ しとで おすがったお
んだぜあ
「昔なら、田植えといえば、猫の手も借りたい、というぐらい人手が欲しかったもんだよ」

しとでなす [s̥j̥toⁿdenas̥ü] [ナ名ノ] 人でなし。[続 160]

【例】 この しとでなすあ、おやさ なんぼ すんべあさへでると おもてんなだ
「この人でなしが、親にどれほど心配させていると思っているんだ」

しとどーり [s̥j̥todo:ri] 一通り。[続 160]

【例 1】 この た あど しとどーり ゆえっど えな
「この田は、あと一通り（一列）植えるといいな」

【例 2】 いねかりも これで しとどーり おわたな
「稲刈りも、これで一通り終わったな」

【例 3】 こごまで すんな しとどーりの なんぎん ねあがった
「ここまでするのが、一通りの難儀ではなかったよ」

しとどぎ [s̥j̥todog̥i] 一時。[続 160]

【例 1】 いであなの しとどぎ がましてれば なおる
「痛いなんか、一時我慢していれば治るよ」

【例 2】 おらも しとどぎあ くるす せいかず した おんだ
「私も一時は、苦しい生活をしたもんだよ」

しとどご [s̥j̥todogo] 一ヶ所。同じ所。[同] しとずどご。[続 160]

【例】 ほの ごみ しとどごさ あずべで おげ
「そのごみは、一ヶ所に集めておけよ」

しととし [名] おない年。同年令。[同] おねあどし。ひととし。[及 170]

【例】 ○○さんど おれあ しととしだ
「○○さんと私はおない年です」

しとなえ [s̄itonae] 他家。他所の家。[同] しとのえ。[続 160]

【例】 ほっつあ しとな えの はだけだはげあ へあんなよ
「そっちは、他所の家の畑だから入るなよ」

しとなが [s̄itonaga] [名] 人中。[及 170]

【例】 この わらすあ しとみしりして、しとながさ 出はんねあなよ
「この子は人見知りして、人中に出れないんですよ」

しとながへ [s̄itonagahe] 人泣かせ。[続 160]

【例】 くるまで ずこなの おごすど しとながへん なっさげあ、きいつけろよ
「車で事故なんか起すと、人泣かせになるから、気を付けろよ」

しとなつこえ [s̄itonatsükoe] [形] 人懐っこい。[同] しとなつっこえ。[続 160]

【例】 この わらすあ しとなつこくて、だれあさでも だがんなんだ
「この子は人懐っこくて、誰にでも抱かるんだ」

しとなのが [s̄itonanoga] 一七日。これは、死後七日目をいい法要をなす日である。その後には「したなのが=ふたなぬか(二七日)。「みーなのが=三七日」。「ようなのが=三七日」。「35日」。「49日」があり、それぞれ法要を行っている。[続 161]

しとなみ [s̄itonami] [名/ノダナ] 人並。[続 161]

【例】 この わらすあ おどなん なたば しとなみの からだん なた おんだ
「この子は、大人になったら、人並の体になったものだ」

しとにぎり [s̄itonijiri] 一握り。[続 161]

【例】 おら えがら でっずぎあ しとにぎりの ぜあさんも もらわねあがった おんだ
「私は、家から出る時は、一握りの財産も貰わなかったものだよ」

しとねり [s̄itoneri] 一眠り。[続 161]

【例】 おぎるにあ、まだ はえあはげあ、もう しとねりすっが
「起きるには、まだ早いから、もう一眠りしようか」

しとねる [動] こねる。粉や土をこねること。[及 170]

【例】 団子 しとねっさげあ 粉 もて きてころ
「団子をこねるから、粉を持って来て下さい」

しとばかへ [s̄itopakahe] 桑葉を枝からとって与えること。[及 72]

【例】 おごさま おっきぐ なたはげあ しとばかへだは
「蚕が大きくなったから、もう刻ざまない葉を与えているんです」

しとばすら [s̄itobasūra] 人柱。[続 161]

【例】 むがすあ、しとばすら たでで、こうずあ ぶずん すむよん いのだ おんだど
「昔は、人柱を建てて、工事が無事に済むように祈ったものだそうだ」

しとはだ [s̥j̥tohaⁿda] 一肌。[続 161]

【例】 おめあ ほのきだば、おれも おめあの ためん、しとはだ ぬぐべ
「君がその気なら、私も君のために、一肌脱ごうや」

しとはだ [s̥j̥tohaⁿda] 人肌。[続 161]

【例】 ふぎどりで たおったあだば、しとはだで あためんな いずばん え おんだ
「吹雪で遭難したのなら、人肌で暖ためるのが一番いいものだよ」

しとはだ [s̥j̥tohada] 一旗。[続 161]

【例】 おれだて まだ わげあおんだおん、これがら しとはだ あげねあんねあな
「俺だってまだ若いんだもの、これから一旗あげないといけないな」

しとはだらぎ [s̥j̥tohadaragi] 一働き。[続 161]

【例】 すごどがら けあて きたども、ひあ なんげあはげあ もう しとはだらぎするえな
「仕事から帰って来たが、陽が長いから、もう一働きされるな」

しとはな [s̥j̥tohana] 一花。[続 161]

【例】 おれだて おどごだおん、これがら しとはな さがへねあんねあな
「俺だって男だもの、これから一花咲かせないといけないな」

しとばれあ [s̥j̥tobare] 人払い。[続 162]

【例】 おめあど ねあみずだ はなすあ あっさげあ しとばれあ してくんねあが
「君と内密な話があるから、人払いをしてくれないか」

しとばん [s̥j̥toban] 一晩。[続 162]

【例】 ともだずあ きたおんだはげあ ゆべな したりして しとばん のみあがした
「友達が来たものだから、夕べは、二人で一晩飲み明かしたよ」

しとふで [s̥j̥toφūrⁿde] 一筆。[続 162]

【例】 おれあ じ へだだはげあ、にもつ つだて、しとふで けあでころ
「私は字が下手だから、荷物が着いたと、一筆書いてくれ」

しとへ [s̥j̥toçe] [名] ひと背負い。一回で背負う分量。背負い切れない程沢山。[及 170]

【例 1】 牧草 しとへで えはげあ しょて きてころ
「牧草をひと背負いでいいから、背負って来てくれ」

【例 2】 柴、山がら しとへ 伐て 来たけ
「柴を山から、背負い切れない程沢山伐って来たつけ」

しとまがへ [s̥j̥tomagahe] 人任せ。[続 162]

【例】 かへぎとあ いねあはげあ、たんぼあ しとまがへだ
「働き手がないから、田圃は人任せなんだ」

しとまぐ [s̥itomagüü] 一幕。[続 162]

【例】 よっぱらて けんかする しとまぐも あったども たのす あずばりであった
「酔っ払らって喧嘩する一幕もあったが、楽しい集りだったね」

しとまじえ [s̥itomaⁿdʒe] 人交ぜ。[続 162]

【例】 しとまじえすっど うるせあはげあ おらだばりで のむべや
「人交ぜすると、うるさいから、俺達だけで飲もうよ」

しとまず [s̥itomaⁿdzüü] [副] 一先ず。[続 162]

【例】 ごごあ しとまず これで えはげあ、こんだ ほつつのほ すんべ
「ここは一先ずこれでいいから、今度はそっちの方をやろう」

しとまどめ [s̥itomadome] 一纏め。[続 162]

【例】 ごご かた くさ ごごさ しとまどめん つで おえで えなだが
「ここを刈った草を、ここに一纏めに積んでおいていいのかい」

しとまねあ [s̥itomane] 人真似。[続 162]

【例】 しとまねあして つくたなより、おわ くふうして つくた ほあ え おんだ
「人真似して作ったものより、自分で工夫して作った方がいいものだよ」

しとまり [s̥itomari] 一回り。[続 163]

【例 1】 これあ ほつつんなより しとまり おっきな
「これは、そっちのより一回り大きいね」

【例 2】 うんどうの ため ほごらあだり しとまりしてくる
「運動のために、その辺を一回りしてくるよ」

しとまるぎ [s̥itomarügi] 一束。[続 163]

【例】 ほごさ きて おえだ たぎぎ しとまるぎん して おえでころ
「そこへ伐って置いた薪を、一束に縛っておいてくれ」

しとむがす [s̥itomügasüü] [名] ひと昔。十年位前。[及 170]

【例】 はえあ おんだ え たででがら しとむがす なるおは
「早いもんだね、家を建ててから、もうひと昔になるんだもの」

しとめ [s̥itome] 一目。[続 163]

【例】 しとめ みだばんだども、あれだば よさそだ わげあおんだな
「一目見ただけだが、あれならよさそうな若者だな」

しとめ [s̥itome] 人目。[続 163]

【例】 こそこそど しとめ きんするよだ ごど しねあんだ
「こそこそと、人目を気にするような事をするんじゃないよ」

なお、この語の類語に「しとめわり=外聞が悪い。他人に見られると恥かしい」がある。

しとめあ [s̥itome] [名] 人前。外聞。[及 170]

【例1】しとめあさ でっずぎあ、ちゃんとして えげ
「人前に出る時は、きちんとして行きなさいよ」

【例2】しとめあ わりはげあ ほんたごど いう おんでねあ
「外聞が悪いから、そんなことをいうもんじゃないよ」

しとやぐ [s̥i̥tojaɡü] 一役。[続 163]

【例1】ほれだば おれも しとやぐ かうべ
「それなら、私も一役かおう」

【例2】これだて まだ しとやぐ たずな
「これだって、まだ一役立つね」

しとやすみ [s̥i̥tojasümi] 一休み。[続 163]

【例】すごども であぶ はがどたす、こごらで しとやすみすんべや
「仕事も大分捗ったし、こごらで一休みしようや」

しとやま [s̥i̥tojama] 一山。[続 163]

【例1】あの やま しとやま こへば えなだ
「あの山を一山越せばいいんだ」

【例2】この りんご しとやまで なんぼや
「このりんご一山で幾らなの」

しとよへ [s̥i̥tojohe] 人寄せ。この語は、店や見せ物に人を集めることをいうのではなく、お祝いや仏事に、人を招くことにだけ使う語である。[続 163]

しとらす [s̥i̥torasü] 人らしい。[続 163]

【例1】しとらす ごど いうよん なたな
「人らしいことをいうようになったな」

【例2】とうくて はっきりしねあども しとらすな
「遠くてはっきりしないが、人らしいな」

しとり [名] 一人。[及 171]

【例】旅行も しとりであ つまらねあ おんだな
「旅行も、一人ではつまらないもんだな」

しとりありぎ [s̥i̥toriariɡi] 独り歩き。[続 164]

【例1】て かさねたて しとりありぎするよん なた
「手を貸さなくとも独り歩きするようになった」

【例2】しゅうしゅぐ したはげあ こんだ しとりありぎ すんべ
「就^レしたから、今度は独り歩きするだろう」

【例3】おなごあ よんま しとりありぎ する おんでねあ
「女は夜独り歩きするもんじゃないよ」

しとりおの [名] 独り者。独身者。[及 171]

【例】 ○○あ 三十過ぎでも まだ しとりおんだど
「○○は、三十過ぎになっても、まだ、独り者だそうだ」

しとりがってん [s̥j̥torigattɛ̃n] 独り合点。[続 164]

【例】 ろぐん ゆわねあ うずん、しとりがってんして ふとで えてしまた
「ろくにいわないうちに、独り合点して、ふっとんで行ってしまったよ」

しとりぎめ [s̥j̥torijimɛ̃] 独り決め。[続 164]

【例】 しとりぎめしたて だめだべや、ほがの しとあ ないて いうんだが
「独り決めしたって駄目じゃないか、他の人は何というんだらうね」

しとりぐらす [s̥j̥torijūrasū] 独り暮し。[続 164]

【例】 さんじゅうすぎん なても しとりぐらすだな えっぺあ いだ
「30 過ぎになっても、独り暮しなのが、沢山いるよ」

しとりごど [s̥j̥torijodo] 独り言。[続 164]

【例】 おめあ ごのごのて なに しとりごど ゆてるおんだや
「お前、もぐもぐなにを独り言いつてるんだい」

しとりずめ [s̥j̥toriˀdzūmɛ̃] 独り占め。[続 164]

【例】 ほの おがす しとりずめん しねあで、○○ちゃんさも くえろよ
「そのお菓子を独り占めにしないで、○○ちゃんにも上げなさいよ」

しとりずめあ [s̥j̥toriˀdzūmɛ̃] 独り住い。[続 164]

【例】 むすこあ よそさ えて、○○さん しとりずめあだなだ
「息子が他所へ行って、○○さんは独り住いなんだよ」

しとりだず [s̥j̥toriˀdadzū] 独り立ち。[続 164]

【例】 おれあえの むすこも こんだ ようやぐ しとりだずするよん なた
「うちの息子も、今度は漸く独り立ちするようになったよ」

しとりっこ [s̥j̥torikko] 一人っ子。[同] しとりこ。[続 164]

【例】 これあまだ しとりっこだ おんだはげあ びれでばりいんなだ
「こいつは、一人っ子なものだから、甘えてばかりいるんだ」

しとりでん [s̥j̥toriden] [副] 独りでに。自然に。[及・続 171・165]

【例 1】 ほんたごどあ、おやの すんな みで、しとりでん おべる おんだ
「そんなことは、親のするのを見て、独りでに覚えるもんだよ」

【例 2】 かまねあで おえだら、しとりでん なおた おんだ
「かまわないでおいたら、ひとりでに直ったもんだよ」

しとりね [s̥j̥torine] 一人寝。[続 165]

【例】 まごあ よめの ずっかさ えたはげあ ぼんげあ しとりねだな
「孫が嫁の実家に行ったから、今夜は一人寝だな」

しとりぼつ [名] 独りぼつち。[及 171]

【例】 息子あ 東京さ えぐ、かがにあ 死なれ あれも しとりぼつだなは
「息子は東京に行く、妻には死なれ、あれも独りぼつちになってしまったね」

しとりぼつ [s̥j̥toribotts̥ü] 独りぼつち。[同] しとりぼつ。[続 165]

【例】 ○○ちゃん、しとりぼつで つまらねあべ、ばぼど あすぶべ
「○○ちゃん、独りぼつちでつまらないだろう、お婆ちゃんと遊ぼうや」

しとりみ [s̥j̥torim̥i] 独り身。独身。[続 165]

【例】 おれあえの○○あ、まだしとりみだなよ、よめこ へわしてくんねあが
「うちの○○は、まだ独り身なんだよ、嫁を世話してくれませんか」

しとりむすこ [s̥j̥torim̥üs̥üko] 独り息子。[続 165]

【例】 おれあえんな しとりむすこだ おんだはげあ、わがままで こまる
「うちの、独り息子なものだから、わがままで困るよ」

しとりめあ [s̥j̥torim̥e] 一人前。[続 165]

【例】 ひやくしょだて、しとりめあん なるにあ、なんねんも かがる おんだ
「百姓だって、一人前になるには、何年も掛かるものだよ」

しとる [s̥j̥torü] [四白] 滲み通る。[同] しとる。[続 165]

【例】 にわがあめん ふらっで、はださ しとるほど ぬってしました
「俄雨に降られて、肌にはしみ通る程濡れてしまったよ」

しとわだり [s̥j̥towadari] ひとわたり。[続 165]

【例】 おれあえの さずぎも しとわだり おわて どっかどしたな
「うちの田植えも、ひとわたり終って、ほっとしたな」

しなおの [s̥inaono] 品物。[続 166]

【例】 とくさんぶつだて しなおのあ えぐねあば うんねあぐなんぞ
「特産物だって、品物が悪いと、売れなくなるよ」

しなこえ [形] かみきりにくい。しない。[同] しねあ」と使っている。。[及 171]

【例】 この にぐあ しなこえ ごど
「この肉はしないこと」

しなる [s̥inarü] [四白] 撓う。[続 166]

【例】 かんずぎ つぐる きあ、えぐ しなる きんねあど だめだ おんだ
「かんじきを作る木は、よく撓う木でないといけないものだよ」

しにいし もろい石。水成岩などの崩れたり、砕けたりし易い石をいう。[及 103]

【例】 しにいしあ どであいしさなの つかわんねあ おんだ
「もろい石は土台石になんか使えないもんだよ」

しにぞごねあー [s̥ini̥dzogone:] 死に損ない。[続 166]

【例】 おめあみであんた しにぞごねあ さっさど くたばれば えなよ
「お前のよな死に損ないは、さっさとくたばればいいんだよ」

しにてあーる [sinite:rü] [下一白] 死に絶える。[続 166]

【例】 ○○さんの えも どうどう しにてあでましたなは
「○○さんの家も、どうどう、もう死に絶えてしまったな」

しにぷす [sinipüsü] 死に節。これは、立木の時、枯れ枝を包み込んで生長し、製材後それが、腐れたり、枯れた節となる、この節を死に節とっている。[続 166]

しねあ [sine] [名] 竹刀。[及 171]

【例】 まだ しねあなの もたごど ねあな
「まだ、竹刀なんか持ったことはないよ」

しばだぎおずる [šipadagiodzürü] [上一白] [強調] 落ちる。落ちるの強調語。[同] ひばだぎおずる。[続 166]

【例】 ほんたどさ あがっど しばだぎおずさげあ おりで こえは
「そんなところへ上がると、落ちるから、もう下りて来なさい」

しばだぐ [šipadagü] ひっぱたく。[続 166]

【例】 なして いうごど きがねあなだ、あんまり きがねあど しばだぐぞ
「なぜいうことをきかないんだ、余りきかないとひっぱたくよ」

しばや [šibaja] 芝居。[同] しべあ。しんべあ。すんべあ。[続 166]

【例】 えまだば たびすんべあ こねあはげあ しばやなの みるやねあなは
「今は旅芝居が来ないから、芝居なんか見ることが出来ないね」

しばる [šiparü] [四他] 引っ張る。[続 166]

【例】 ほんげあ しばんなや、ほんげあ しばっど ボタン もげるは
「そんなに引っ張るなよ、そんなに引っ張ると、ボタンがもげてしまうよ」

しびたれ [šipitare] 弱虫。[続 167]

【例】 この わらすあ しびたれで、よんま へんつんさも しとりで えげねああだ
「この子は、弱虫で、夜便所にも一人で行けないんだ」

しびたれ [šipitare] しみったれ。けちん坊。[続 167]

【例】 えあずだば、しびたれだはげあ、いずもんだて だす おんでねあ
「あいつなら、しみったれだから、一文だつて出すもんじゃないよ」

しびたれる [動] しみったれる。けちけちする。[及 171]

【例】 ほんげあ しびたれる おんでねあ
「そんなにしみったれるもんじゃないよ」

しびど [šibido] 死人。[続 167]

【例】 やまさ あおおの とりん えた しとあ しびどん なて ではたど

「山に山菜採りに行った人が、死人になって出たそうだ」

しべあ [sibe] [名] 芝居。[同] しんべあ。すんべあ。[及 171]

【例】 しべあ かがたつけあ みんな えぐべ
「芝居がかかったそうだから、見に行こうや」

しまつ [名] 儉約。しまり。[及 171]

【例】 あの しとだば、しまつの え しとだ
「あの人なら、とても儉約な人だよ」

しみる [動] 凍る。[同] しみづぐ。[及 103]

【例】 ダリヤなの しみるどさ おぐなよ
「ダリヤなんかは、凍る所におくんじやないよ」

～**しめあ** [~sime] [接尾辞] がけ。際。頃。[続 167]

【例 1】 えぎしめあ
「行きがけ」

【例 2】 きしめあ
「来がけ」

【例 3】 へありしめあ
「入り際」

【例 4】 おりしめあ
「下り際」

【例 5】 ばんかだしめあ
「夕方頃」

しめあ [sime] [名] 頃。がけ。おしまい。[及 171]

【例 1】 けありあ ばんかだしめあ なっさげあな
「帰へりは、夕方頃になるからね」

【例 2】 けありしめあん よる
「帰へりがけに寄ります」

【例 3】 今日あ これで しめあだは
「今日は、これで、もうおしまいですよ」

じめあ [dzime] [名] 自前。自費。[及 171]

【例】 今日あ じめあで さげのみだ
「今日は、自前で酒飲みだよ」

しめある [simerü] [動] 捕まえる。掴まえる。[及 172]

【例 1】 雉 しめあで 来たや
「雉を捕まえて来たよ」

【例 2】 しっかり しめでねあど もつけあんぞ

「しっかり掴まえていないと倒れるよ」

この語には、「しめあられる―捕まえられる。掴まえられる」、「しめあらっだ―捕まえられた。掴ま
えられた」、「しめあんぞ―捕まえるよ。掴まえるよ」などの使い方がある。

しめぼえ [šiməpoe] [形] 湿っぽい。[続 167]

【例 1】 てんきあ えぐねあ おんだはげあ へんたぐおのあ まだ しめぼえな

「天気が悪いものだから、洗濯物がまだ湿っぽいな」

【例 2】 ほんた しめぼえ はなすあ やめんべや

「そんな湿っぽい話は止めようや」

しもう [šimouü] [動] しみる。しみこむ。[及 172]

【例 1】 ほの 薬あ、傷さ しもうな

「その薬は、傷にしみるね」

【例 2】 おじゃ ただみさ しもうはげあ はやぐ ふげ

「お茶がたたみに透み込むから、早く拭きなさい」

～じゃ [~dʒa] [助詞] って。ということは。というものは。[同] ずあ。じゅあ。[続 167]

【例 1】 はなしじゃ ないだや

「話ってなんだい。話というのはなんだい」

【例 2】 えくじゃ あのよさが

「ゆくってあの世にか。ゆくっていうことはあの世にか」

【例 3】 くまじゃ どうみんすっど

「熊って冬眠するそうだ。熊というものは冬眠するそうだ」

じゃ ～というものは。～ということは。[同] ずあ。[及 172]

【例 1】 しごどじゃ こげあんする おんだ

「仕事というものは、こうするものだ」

【例 2】 さがすじゃ 物を 売買する、ていごどだ

「さがす、ということは、物を売買する、ということなんだよ」

しゃがまる [šaɟamarü] [動] かがむ。うづくまる。しゃがむ。[及 172]

【例】 ほんたどさ しゃがまる おんでねあ

「そんな所にしゃがむもんじゃないよ」

じゃがんと [dʒaɟanto] [副] じゃんと。硬直した立ち方。[及 172]

【例】 死だん ま 足 じゃがんと たでつだけ

「死んだ馬が、足をじゃんと立てていたつけ」

しゃきつと [šakitto] [副] しゃっきり。[続 167]

【例】 へなが まるめで ありがねあで しゃきつと たでで ありげ

「背中を丸めて歩かないで、しゃっきり立てて歩きなさい」

しゃきばる [動] 堅くなる。こわばる。表面がこわばる。[及 172]

【例】 きんなの もづあ しゃきばて きたは
「昨日の餅が、もうこわばって来たよ」

しゃぐす。 [ʃagüsü] 杓子。[及 50]

【例】 ほごらあだりに、しゃぐすあねあべが
「その辺に杓子がないでしょうか」

しゃぐすづら [ʃagüsüʳdzüra] しゃくれ顔。[及 11]

【例】 ○○さんは すこす しゃぐすづらの 方だな
「○○さんは、すこししゃくれ顔の方だな」

しゃぐみ [ʃaŋümi] 秋ぐみ。これは、ぐみ科の落葉低木で、秋実が熟すと食べられる。[続 167]

しゃぐやずめあ [ʃagüjaʳdzüme] 借り住い。[続 167]

【例】 にばんめの むすこあ まずで しゃぐやずめあ してんなだ
「二番目の息子は、町で借家住いをしているんだ」

じゃげづ [dzagɛdzü] ジャケツ。ジャケット。毛糸のシャツ。[及 57]

【例】 この じゃげづ あらてくんねあが
「このジャケット、洗らってくださいか」

しゃしよ [ʃaʃo] 車掌。[続 168]

【例】 こごあ むずんえぎだはげあ きつぶあ しゃしよさんがら かうなだ
「ここは無人駅だから、切符は車掌さんから買うんだよ」

しやす しやすい。やりやすい。[及 172]

【例】 こうへば しやす おんだ
「こうすれば、しやすいものだよ」

この語の反対の語に、「しずれあ」、「すずれあ」がある。

しやず [ʃaʳdzü] 匙。[続 168]

【例】 えまだば、しやずなて ゆわねあで、スプーンて いうなは
「今なら、匙といわないで、もうスプーンというね」

しやずかげん [ʃaʳdzükageŋ] 匙加減。[続 168]

【例】 こごの まずであ よさんなの ちょうちょうの しやずかげんで きまんなどど
「この町では、予算なんか町長の匙加減で決まるんだそうだ」

しゃっかれごえ [ʃakkareŋoɛ] しゃがれ声。しわがれ声。[続 168]

【例】 ないだや、しゃっかれごえだして、のどさ ないが つけあだなんねあがや
「なんだい、しゃがれ声を出して、喉になにかつかえたんじゃないの」

じゃっこする [dzakkosürü] [四自] [幼児語] 坐る。[同] じゃっちやする。[続 168]

【例】 ○○ちゃん まま かへっさげあ じゃっこする
「○○ちゃん、ご飯を食べさせるから、お坐り」

しゃっつ シャツ。[及 57]

【例】 下着の しゃっつ ちちよこえはげあ かてころ
「下着のシャツ、小さいから、買って下さい」

しゃっぶ シャツボ。帽子。[及 57]

【例】 あつはげあ しゃっぶ かぶて えげよ
「暑いから、帽子をかぶって行きなさいよ」

じゃであ [dzadɛ] 大蛇。[同] じゃんであ。[及 89]

【例】 じゃであな ええ おどごん なて、あねこあどさ まえばん かよて くんなだけど
「大蛇がね、いい男に化けて、娘に毎晩通って来るんだったそうだ」

しゃなす [ʃanasü] ずみ。これは、ばら科の落葉灌木で、秋になると小さな赤い実をつける。この実には食べられる。特にこの木は湿地に生えるので、「やずなし（谷地梨）」ともいう。[続 168]

しゃばふたぎ [ʃabaɸütan̄i] 娑婆塞げ。[続 168]

【例】 おれも としよてしまて、しゃばふだぎん なてしまたは
「俺も年寄ってしまて、もう娑婆塞げになってしまったよ」

しゃぶぎ 咳。しわぶき。[同] へぎ。へげ。[及 15]

【例】 かじえでも ひだべが、めっぼ しゃぶぎ するな
「風邪でもひいたんだろうか、めっほう咳をするな」

しゃぶろ シャベル。スコップ。[及 64]

【例】 ゆぎ ほっさげあ しゃぶろ もて きてころ
「雪を掘るから、シャベルを持って来てくれ」

じゃまくせあ [dzamaküɕɛ] [ナ名ノ] 邪魔っ気。[続 168]

【例】 ほごに いっど、じゃまくせあくて ありがんねあはげあ よてろ
「そこにいると、邪魔っ気で歩るけないから、のいていなさい」

しゃみへん [ʃamihɛn] 三味線。[続 168]

【例】 ちかごろ この むらにあ しゃみへんなの ひぐ しとあ いねあぐ なたは
「近頃この村には、三味線なんか引く人は、もういなくなってしまったよ」

しゃらくせあ [ʃaraküɕɛ] [形] しゃら臭い。[続 169]

【例】 しゃらくせあ、ほの ほそうで、おれあどさ かでる つもりが
「しゃら臭い、その細腕で、俺に勝てるつもりか」

じゃらげる [dzaragerü] [下一自] 戯れる。[続 169]

【例】 ねごこあ じゃらげるおんで うるせあくて
「子猫が戯れるもんで、うるさくて」

しゃりぎ [ʃarigi] 丸太を動かす器具。これは、立木を伐倒した現場で、丸太を動かして集材機に掛けたり、積み重ねたり、製材所や貯木場などで、丸太を動かす時に使う器具である。[続 169]

しやりむり [ʃarimūri] [副] 遮二無二。[続 169]

【例】 えそがすはげあ あどで くるったて しやりむり しめんなだぜあ
「忙しいから、後で来るといっても、遮二無二つかまえるんだよ」

しやる [ʃarū] [四自] 去る。どく。のく。[続 169]

【例 1】 おめあなの どごさだり さっさど しゃてしまえ
「お前なんか、何処へでも、さっさと去ってしまえ」
【例 2】 ほごに いっど じゃまだはげあ しゃてろ
「そこに居ると邪魔だから、どいていなさい」

しやれこ [名] おしやれ。[及 172]

【例】 あ の ぼずあ しやれこ こえで どさが えぐどごだじゆ
「あのおなご、めかして、何所かへ行くところだよ」

じゆ [dʒū] [間助] よ。[及 172]

【例 1】 んだじゆ
「そうだよ」

【例 2】 こえじゆ
「来いよ」

【例 3】 したじゆ
「したよ」

なお、この語を強く発音すると、連語になり、「んだじゆ」も、「そうだといってるじゃないか」となり、「こえじゆ」も、「来いといってるのに」となる。

じゆあ ～というものは。～というのは。[及 173]

【例 1】 せえが んじゆあ 冷やして かう おんだ
「西瓜というものは、冷やして食うものだよ」

【例 2】 嫁 もらえじゆあ えさ けあれてだべ
「嫁を貰えというのは、家へ帰へれということだろう」

しゆーじえん [ʃü:ˈdʒɛn] [名/ス他] 修繕。[続 169]

【例】 この ずでんしゃ しゆーじえんしねあど のらんねあは
「この自転車は、修繕しないと、もう乗られないな」

しゆーしゆぐ [ʃü:ʃügü] [名/ス自] 就職。[続 169]

【例】 おれあえんなも、そずぎょうする めあん しゆーしゆぐあ きまたは
「うちのも、卒業する前に、就☑が決ってしまったよ」

じゅうすづ [名] お手玉。[同] ちょんなご。[及 173]

【例】 ○○ちゃん、じゅうすづつぎ すんべや
「○○ちゃん、お手玉遊びをしましょうよ」

しゅーせあー [ʃü:se:] 秀才。[続 169]

【例】 ○○さんだば しゅーせあーだな、あの とすで はがへごう とたど
「○○さんなら秀才だな、あの年で、博士号をとったそうだよ」

じゅーそ [dʒü:so] 重曹。重炭酸曹達。[続 169]

【例】 わらびの にがみ とんなだば、じゅーそあ いずばん え おんだけあ
「わらびの苦味を取るのなら、重曹が一番いいものだよ」

じゅーであー [dʒü:ˈde:] [ナ名ノ] 重大。[続 170]

【例】 ほれあ じゅーであーもんであだ、ほれだば えま へんず さんねあな
「それは重大問題だ、それなら、今返事をされないな」

じゅーであー [dʒü:ˈde:] 十代。この語の類語には、「にじゅーであー=二十代」。「さんじゅーであー=三十代」。「しじゅーであー=四十代」。「ごじゅーであー=五十代」。「ろぐじゅーであー=六十代」。「すじじゅーであー=七十代」などがある。[続 169]

しゅうど しゅうと。舅および姑。[及 6]

【例】 おれあえであ しゅうどだづあ したりあ まめだ
「うちでは、舅、姑の2人が健全です」

この語は「しゅうどおやずー舅」、「しゅうどずー舅」、「しゅうどずさまー舅」、「しゅうどばさまー姑」、「しゅうどばんばー姑」などとも使っている。

しゅーどかが [ʃü:dokaga] 姑。[同] しゅうど。[続 170]

じゅーの [dʒü:ˈno] 十能。火を入れて運ぶ器具。[続 170]

【例】 えまだば、むがすど つがて、じゅーのなの みるやねあなは
「今なら、昔と違って、十能なんかもう見られなくなってしまったよ」

じゅおん ~そうだ。[及 173]

【例】 わらびとり えたじゅおん
「わらび採りに行ったそうだ」

しゅぐであー [ʃügü:ˈde:] 宿題。[続 170]

【例】 ○○ちゃん、しゅぐであー ださったごったら、はえあぐ してしまえよは
「○○ちゃん、宿題を出されたのなら、もう早くしてしまいなさいよ」

しゅつき やちだも。もくせい科の落葉樹。[及 89]

【例】 しゅつきて たぎおの するはんてねあ 木だな
「やちだもって、薪き物にするしかない木だね」

じゅっこ [dʒü:kko] 重箱。[及 50]

【例】 部落常会だはげあ じゅっこ もて あづばれど
「部落常会だから、重箱を持って集まれって」

しゅでこ しおで。ゆり科の多年生のつる植物で山菜。[及 89]

【例】 しゅでこあ 山菜の 王さまだていう おんだ
「しおでは、山菜の王さまだ、というものだよ」

じゅなこ やまぶきしょうま。ばら科の多年生草本で山菜。[及 89]

【例】 じゅなこ 山菜だていうども、こごらであ あんまり かねあな
「やまぶきしょうまは、山菜だ、と知っているが、この辺では余り食べないな」

じゅは しまったよ。しまえよ。[及 173]

【例 1】 くたびっで あど さんねあじゅは
「疲れて、あとはもうやれなくなってしまったよ」

【例 2】 はやぐ えげじゅは
「早く行ってしまえよ」

じゅや [間助] ね。ねえ。[及 173]

【例】 んだけがじゅや
「そうだったかね」

じゅんせあ [dʒünse] じゅんさい。すいれん科の多年生水草。新葉を食べる。[及 89]

【例】 こごらであ じゅんせあなの とんねあな
「この辺では、じゅんさいなんかはとれないね」

じゅんだ ~ことだろうね。[及 173]

【例】 ほれあ んだじゅんだ
「それは、そういうことだろうね」

じゅんぶぐ [dʒünbügü] 嫌気のさすこと。わずらわしく厭わしいこと。[及 173]

【例】 わらしたづあ きがねあおんだはげあ まえにづ みでんな じゅんぶぐするは
「子供らがきかないもんだから、毎日おもりしているは、もうわずらわいとわしいよ」

じゅんぶぐする [dʒünbügüsürü] [サ変自] 飽き飽きする。[続 170]

【例】 まえにず わらびずるばり かへらえっど、じゅんぶぐするなは
「毎日わらび汁ばかり食べさせられると、もう飽き飽きしてしまうよ」

しよあねあ [joane] [連語] しようがない。[及 173]

しよいこ 行商。商品を背負って売り歩く商売。[及 78]

【例】 しよいこも 近頃は 車ん なたは
「行商も、近頃は車になってしまったよ」

しよいこあぎねあ [joikoagine] 背負い商い。これは、主として食料品を背負って売り歩く商売をいう。[続 170]

しよいなげ [joinaje] 背負投げ。[続 170]

【例】 じゅうどうでも しよいなげずあ むずがす わざだ おんだど
「柔道でも、背負投げというのは難しい技なものだそうだ」

しょうがづれ [ʃoːŋadzũre] [名] 年始。年始の挨拶。[及 173]

【例】 嫁ん えた 娘あ むごど しょうがづれ 来たけ
「嫁に行った娘が、聶さんと年始に来たつけ」

しょうじ 角石。炭がまの煙出し口に使う角石。[及 72]

【例】 しょうじ ずあ 炭がまのけぶ出すの口んどさ使う、かぐいすのごった
「しょうじというのは炭がまの煙出しの所に使う角石のことだよ」

しょうじゅ 焼酎。[同] しょじゅう。[及 41]

【例】 こに しょうじゅでも 飲むが
「今夜は焼酎でも飲もうか」

じょうず [名] お世辞。[及 173]

【例】 みろ あれあ じょうずこえで やだごど
「まあ、みなさい、お世辞をいって、嫌だね」
お世辞をつかうことを、「じょうずまげる」とも使っている。

じょうせあ [dʒoːsene] [名] 愛相。気軽。[及 173]

【例】 あそごの 嫁あ じょうせあねあ しただな
「あそこの嫁さんは、気軽な人だね」

しょうぞぐ [ʃoːˈdzogũ] 服装。[及 57]

【例】 やまぶすの しょうぞぐした おのあ きた おんだ
「山伏の服装した者が来たもんだ」

しょうてあ [ʃoːte] [名] 正体。本来の姿。[及 174]

【例】 ばげおのの しょうてあ きづねたけど
「化け物の正体は、狐だったそうだ」
また、この語は、「しょうてあねあー正体ない。(酒に酔っばらって正体なく寝てしまうようなこと)」。がある。

しょうでん [名] 以前。昔。[及 174]

【例】 しょうでん へんばで いねこぎした ごども あった おんだ
「昔は、千歯で稲こきをしたこともあったもんだよ」

じょうのぐづ [dʒoːnoŋũdzũ] 蔵の入口。[及 50]

【例】 えま えぐさげあ じょうのぐづで まづでろ
「今行くから、蔵の入口で、待っていなさい」

じょうのめ [名] 栓。樽や瓶の口に差す栓。[及 174]

【例】 すふろの じょうのめ ぬえで おげよ
「風呂の栓を抜いておげよ」

しょうぼ [名] 消防。[及 174]

【例】 あした しょうぼえんしゅだど
「明日、消防演習だそうだ」

じょうり 草履。[及 57]

【例】 この 雨の ふっずぎ じょうり へあで ありぐな
「この雨の降る時、草履をはいて歩くなよ」

じょ一おの [dʒo:ono] 上物。品質のよいもの。[続 170]

【例】 この さば、とりだでの じょ一おのだはげあ かてくっちゃや
「この鯖は、捕りたての上物だから、買ってくれよ」

じょ一さねあ [dʒo:sane] 造作ない。[続 170]

【例】 ほんたごどあ じょ一さねあごった、ほれ、こげあすんなよ
「そんなことは造作ないことだよ、ほれ、こうするんだよ」

しよ一ずんおり [ʃo:ˈdzünori] 精進落ち。精進明け。[続 171]

【例】 しよ一ずんおりあ、えまだば さんじゅうごにずが しじゅうくにずん するな
「精進落ちは、今なら 35 日か、49 日にするね」

じょ一せあねあ [dʒo:sene] [形] 如才ない。[続 171]

【例】 あの しとだば、じょ一せあねあくて、つきえあの ええ しとだな
「あの人なら、如才なくて、付き合いのいい人だね」

しよ一てあー [ʃo:te:] [名/ス他] 招待。[続 171]

【例】 となりの ずさまの こきの ゆわえあこどさ しよ一てあーさった
「隣りのお爺さんの、古希のお祝いに、招待されたよ」

しよ一てあーじよ [ʃo:te:ˈdʒo] 招待状。[続 171]

【例】 ○○さんの けっこんひろうえんの しよ一てあーじよあ きたけな
「○○さんの結婚被露宴の招待状がきたっけな」

じょ一でげ [dʒo:dege] [ナ名ノ] 上出来。[続 171]

【例】 これあ、おめあにしてあ じょ一でげだな、しとりで えぐ こしえあだごど
「これは、お前にしては上出来だな、一人でよく作ったね」

じょ一と [dʒo:to] [ナ名ノ] 上等。[続 171]

【例 1】 ほごまで つくてくえれば じょ一とだ、あどあ おれあ すっさげあ
「そこまで作ってくれれば上等だよ、あとは私がするから」

【例 2】 この のごあ じょ一とのほだはげあ つかてみでころ
「この鋸は上等の方だから、使ってみてくれよ」

じょ一のくず [dʒo:nokūdʒū] 入口。特に蔵の入口。この語は、錠前の掛かる入口をいい、特に昔は蔵に錠を掛け、玄関などの入口には心張り棒だけしか使わなかった。今はこの語は使われていない。[続 171]

しょーべあー [ʃo:be:] 商売。[続 171]

【例】 なんだ しょーべあーだて しんようあ だいいずだな
「どんな商売だって、信用が第一だな」

しょーべあーかだぎ [ʃo:be:kadaŋi] 商売気質。[続 171]

【例】 あの えあその ええどごあ しょーべあーかだぎ まるだしだな
「あの愛想のいいところは、商売気質まる出しだな」

しょーべあーがだぎ [ʃo:be:ŋadagi] 商売敵。[続 172]

【例】 しょーべあーがだぎて あんまり なが えぐねあ おんだな
「商売敵って、余り仲がよくないものだな」

しょーべあーがら [ʃo:be:ŋara] 商売柄。[続 172]

【例】 しょーべあーがら、はなすあ すぐ ほっつの ほさ えぐ おんだな
「商売柄、話は直ぐそっちの方へ行くものだな」

じょーめあー [dʒo:me:] 錠前。[続 172]

【例】 え るすん すっずぎあ かならず じょーめあー かて ありげよ
「家を留守にする時は、必ず錠前を掛けて歩くけよ」

じょーやぐ [dʒo:jagü] [名／ス他] 約束。[続 172]

【例】 ないだや へんな おれど じょーやぐしたごど わすっだながは
「なんだい、先達って私と約束したことを、もう忘れてしまったのかい」
今はこの語は殆ど使われていない。

しょーれあー [ʃo:re:] 将来。やがて。[続 172]

【例】 おめあ しょーれあー なにん なりであ おんだや
「お前は将来何になりたいもんだい」

じょーれん [dʒo:reŋ] じょれん。これは、長い竹の先に、箕がついたもので、土砂などをかき寄せる道具である。[続 172]

しょーろ [ʃo:ro] 正常。まとも。[続 172]

【例】 ほれあ しょーろん おがねあど みずあ こぼれんぞ
「それは、正常に置かないと、水がこぼれるよ」

この語は、物の置き方や位置などの正常だけをいい、心の正常やまともなどの意味では使わない語である。

しょきばる [動] こわばる。硬直する。[及 174]

【例】 あんまり さみくて 体 しょぎはて 来たは
「あんまり寒むくて、体がこわばって来たよ」

しょくしゃぐ [ʃokü:ʃagü] 測尺。材木を計る物差。[及 64]

【例】 しょくしゃぐ わすっだんであ しょうべ ならねあな

「測尺を忘れたんでは、商売にならないな」

しよじゅーみめあ [ʃodʒü:mime] 暑中見舞。[続 172]

【例】 そろそろ しよじゅーみめあ ださねあんねあ へずん なてきたな
「そろそろ暑中見舞を出さなければならぬ季節になってきたな」

じよじよ [dʒodʒo] [幼児語] 履物。[続 172]

【例】 ○○ちゃん、おもでさ えぐ ずぎあ じよじよ へあで えぐなぞ
「○○ちゃん、外へ行く時は、履物をはいていくんだよ」

じよっこ [dʒokko] 子供の愛称。男女の別はない。この語は、今は使われなくなったが、男女の区別なく使われる。[同] じよっこめご。め。めご。めっこ。[続 172]

しよつつぎ [ʃottsügi] [名] 祥月。[及 174]

【例】 今日あ ずさまの しよつつぎめいにづだな
「今日は、お爺さんの祥月命日だな」

しよつつぎめーにず [ʃottsügi:me:nidzü] 祥月命日。[続 173]

【例】 きょうあ ばさまの しよつつぎめーにずだおん、はなでも あげんべ
「今日は、お婆さんの祥月命日だから、花でも上げよう」

しよっばじめ [名] 最初。[及 174]

【例】 しよっばじめん おめあ うだえや
「最初に君が唄えよ」

しよっばすめ [ʃoppasüme] 初っ端。[続 173]

【例】 しよっばすめから こう まげだんであ きょうあ つでねあな
「初っ端からこう負けたんでは、今日はついていないな」

しよてあー [ʃote:] 所帯。[同] しよであー。[続 173]

【例】 ○○さんも、こんだ けっこんして、しよてあ もず どごだど
「○○さんも、今度は結婚して、所帯を持つところだそうだ」

しよであー [ʃoⁿde:] 初代。[続 173]

【例】 おれあえの しよであーの しとあ、ひやぐねんばり めあん こさ きたあだど
「うちの初代の人は、百年ばかり前に此処へ来たんだそうだ」

じよであー [dʒode:] 除隊。[続 173]

【例】 おれあ びょうぎで、じよであーさへらったはげあ たすかたあだ
「私は病気で、除隊させられたから助かったんだよ」

しよてあーめん [ʃote:men] 初対面。[続 173]

【例】 ○○さんどあ、○○で あたな しよてあーめんであったな
「○○さんとは、○○で会ったのが初対面だったな」

しよであーもず [ʃode:modzü] 所帯持ち。[続 173]

【例】 ○○さんの むすめさんも、こんだ しょであーもずん なて、アパートぐらすだど
「○○さんの娘さんも、今度所帯持ちになって、アパート暮しだそうだ」

しょてる [ʃoɽɛɽü] [連語] しょってる。[続 173]

【例】 しょてるおんだはげあ、すぐ ほのきん なて、おだでさ のるおんな
「しょてるものだから、直ぐその気になって、おだてに乗るからな」

しょねあ [ʃoɲɛ] [連語] 仕様がな。[同] しょあねあ。[及 174]

【例】 してしまてがらだば しょねあな
「仕出かしてしまてからなら、仕様がないな」

しょねこえ っこい。くどい。っしょう。[同] そごむすーっこく。[及 27]

【例】 ころころて しょねこぐ ゆわねあてて くえっさげあ
「くれくれって、っこくいわなくともくれるから」

しょねむ [ʃoɲɛmü] [四他] 嫉む。[続 173]

【例】 おらだど かねもずどあ つがうなだはげあ ほんげあ しょねむ おんでねあ
「私らと金持ちとは違うのだから、そんなに嫉むもんじやないよ」

じよふじよ [dʒoɸũɽʒo] [名] 不自由。用具を人に貸し、自分が使おうと思った時使えないことをいう。「じよ」は自由とか便利と解され、「ふじよ」は不自由とか不便をいうが、「じよ」だけでは使わず、「ふじよ」だけに付けて使っている。[及 174]

【例】 ○○さ 貸したて、おわえの おんだども じよふじよだ おんだな
「○○に貸したて、自分の家の物だが不自由なもんだな」

しょべ [ʃoβɛ] 小便。[続 174]

【例】 ○○ちゃん、しょべあ でんなんねああだが、がまんしねあで えて こえよ
「○○ちゃん、小便が出るんじゃないの、我慢しないで行っておいで」

しょべしば [ʃoβɛʃiba] 便所。[続 174]

【例】 おらだば ようすぎの しょべしば どうも つかいにぐえな
「私なら、洋式の便所は、使いにくいな」

じよへず [dʒoɸɛɽzü] 除雪。[続 174]

【例】 こごだば、ふゆん なっど まえにず じよへずしねあ ひあ ねあな
「此処なら、冬になると、毎日除雪しない日はないね」

しより 櫓。[及 64]

【例】 あそっからだば しよりで ひぐはんてねあべな
「あそこなら、櫓で曳くしかないだろうな」

じより [dʒori] 草履。[続 174]

【例】 むがすあ、ゆぎけっど、がっこさ えぐたて じより へあで ありた おんだ
「昔は、雪が消えると、学校へ行くんだって草履をはいて歩いたものだよ」

しよりこのり [ʃorikonori] 橇乗り。これは、子供らが、小さい橇に乗って遊ぶ遊びをいう。今はスキーで遊び、橇で遊ぶ子はなくなった。[同] しよりのり。[続 174]

しよりひぎ [ʃorihigi] 橇曳き。これは、炭、薪、木材などを橇で運搬すること、及びその橇を曳く人をいう。今は行われていない。[続 174]

しよりひぎみず [ʃorihigimidzū] 橇曳き道。これは、橇を曳くために、積雪の上に特に作った道をいう。[同] しよりみず。[続 174]

しよりひぎみづ [ʃoriçigimidzū] 橇道。雪上に特に橇を曳くために作った道をいう。[同] しよりみづ。[及 104]

【例】 まぎ伐りだはげあ、村であ しよりひぎみづ こしえっど
「薪伐りだから、村では橇道を作るそうだ」

じよりみず [dʒorimidzū] 草履道。これは、草履で歩く特別の道路があったわけではなく、春、雪が消えて、草履でも歩けるようになった道路をいった。[続 174]

じよろ 女郎。[及 78]

【例】 じよろなていう しょうべあも むがすの はなすだな
「女郎なんていう商売も、昔の話だね」

〜じよん [~dʒon] [連語] そうだ。この語は、相手に第三者の言葉を伝える時にだけ使い、他の人の言葉を是認する言葉としてや、思い出しの言葉としては使わない語である。[同] ずおん。ど。すけ。[続 174]

【例】 ○○さん いだぐしたじよん
「○○さんが怪我をしたそうだ」

じよんだ 上手だ [及 174]

【例】 おめあ、うだ じよんだな
「お前、唄が上手だな」

じよんであ [副] 始終。何時も。[及 174]

【例】 ○○さんだば、じよんであ 来るよ
「○○さんなら、始終来るよ」

しらあえあ [siraæ] くるみあえ。くるみのあえもの。[及 41]

【例】 しらあえあ つぐる くるみあ あっがや
「くるみあえを作るくるみはあるのかい」

しらぐぼ [siraɡür^{しろくも}bo] 白癬。皮ふ病の一種。[及 15]

【例】 しらぐぼさ ええ 薬あ あった はんだ ほれ つけでおげ
「しろくもにいい薬があった筈だから、それをつけておきなさい」

じらじらあめ 切れ目なしに降る雨。激しくなく、また、霧雨でもないが、切れ目なく続く雨をいう。[及 104]

【例】 今日も じらじらあめが
「今日も切れのない雨か」

しらばつける [動] あせる。色があせて、白っぽくなる。寒さで、顔色が血色を失う。[同]
しらばつける。[及 175]

【例 1】 この きおのあ、しらばつけで 来たなは
「この着物は色があせて来たな」

【例 2】 なんぼが さみがったんだが、つら しらばつけらがして
「どんなにか寒むかったんだろう、顔の血色をなくして」

しらへる [siraçerü] [動] 知らせる。[及 175]

【例】 ほうゆう ごどずあ はやぐ しらへる おんだ
「そういうことというものは、早く知らせるもんだよ」

しりえあー [sirie:] 知り合い。[続 175]

【例】 おれの しりえあーに ええ むすめさん いだはげあ しょうかいすつが
「私の知り合いに、いい娘さんがいるから、紹介しようか」

じりぎ [dzirigi] [名] 自制。[及 175]

【例】 くであ くであて じりぎ ねあ ごど
「食いたい食いたって、自制がないこと」

しりこさるて [名] 一目散。いつさん。[同] しりこはしよて。[及 175]

【例】 しりこさるて ねげで えたけ
「一目散に逃げて行ったつけ」

しりこさるて [sirikosarate] 雲を霞と。一目散に。[続 175]

【例】 ごしゃがっだ おんだはげあ、しりこさるて ねげで えたは
「叱られたものだから、雲を霞と逃げて行ってしまったよ」

しりしこみ [sirisi:komi] 尻込み。ためらい。[続 175]

【例 1】 へび めへだば おかねあどて しりしこみしたけ
「蛇を見せたら、おっかない、とって、尻込みしたつけ」

【例 2】 えっぺあ のでえげ、て ゆたば しりしこみしったけ
「一杯飲んで行け、といたら、ためらっていたつけ」

しりめなぐず [sirimenagüdzü] 田や池の水の落ち口。これは、田や池などの後の水の落ち口をいう。[同] しりみなぐず。おずつり。[続 175]

しる [動] する。[及 175]

【例】 ほれあ おれあ しる
「それは、俺がするよ」

この語には、「してあったーしたことがあった」、「してでーしていて」、「してんなにーしているの

に、「しん—しに」、「すろちゃ—しろよ」、「すんぜあ—するよ」、「すんばや—するもんか」、「すんめあ—やらないだろう」、「すんども—するが」などの使い方がある。

しれ [sire] 白い。[同] すろえ。[及 27]

【例】 この しれ 花 ないという 花や
「この白い花は、なんという花なの」

しろど [sirodo] 素人。[続 175]

【例】 ほれだば、しっぺあするばんだはげあ しろどあ てだす おんでねあ
「それなら、失敗するばかりだから、素人が手を出すもんじゃないよ」

しろみず [siromi^mdzü] 米の磨ぎ汁。これは、飯を炊く前に、米を磨いだ時出る白い磨ぎ汁をいう。馬や牛のいる家では、この磨ぎ汁を飼料に混ぜて食べさせたものである。[続 175]

しわる [動] しなう。折れずに曲る。[同] すなる。[及 175]

【例】 この 木あ えぐ しわる 木だな
「この木は、よくしなう木だな」

じんぎ [dzinŋi] [名] 遠慮。[及 175]

【例】 ほんげあ じんぎしねあで くてころ
「そんなに遠慮しないで、食べて下さい」

しんげあ— [sinŋe:] [ナ名ノ] 心外。[続 175]

【例】 ほれあ しんげあ—だ ごど いう おんだな、おれなの なにも ゆわねああだぜあ
「それは心外なことをいうものだな、私なんかは、何もいわないんだよ」

しんしよ [名] 身上。身代。賤産。[同] しんであ。[及 175]

【例】 ○○さん えだば しんしよ ある えだ
「○○さんの家なら、賤産のある家だよ」

しんであ [sinde] 寝台。[及 50]

【例】 この へべあどさ しんであなの おがんねあべや
「この狭い所に寝台なんか置けないじゃないか」

しんであ— [sinde:] 身代。[続 175]

【例】 ○○さんは いずであで えまの しんであ— きずだあだど
「○○さんは、一代で今の身代を築いたんだそうだ」

しんどみづ [sindomidzü] [名] 新道。新しい道。[及 175]

【例】 あっちゃ しんどみづあ でげだけ
「あっちに新道が出来たつけ」

しんぺあ [sinpe] [名] 心配。[同] すんぺあ。[及 27]

【例】 あんまり おそえさげあ しんぺあしってあった
「余りおそいから、心配しておったんだよ」

しんへづ [sĩnçedzũ] [名] 親切。[及 28]

【例】 しんへづん おへで もらて、ありがどさん
「親切に教えていただいて、どうも有難うございました」

しんめあ [sĩnme] 新米。炊事。[及 41]

【例 1】 しんめあだはげあ、〇〇えさも 持て えげ
「新米だから、〇〇さんのお宅にも持って行きなさい」
【例 2】 そろそろ ばんかだの しんめあ じぶんだなは
「もうそろそろ、夕方の炊事の時間だな」

しんめし おしめ。おむつ。[及 57]

【例】 こんだ、紙の しんめし でげだど
「今度、紙のおしめが出来たそうだよ」

じんりぎ [dzĩnrĩgĩ] 人力車。[及 64]

【例】 じんりぎなの えまだば みらんねあな
「人力車なんか、今では見られないね」

— す —

す [接助] し。[及 176]

【例】 これも ええす あれも ええな
「これもいいし、あれもいいね」

す ～しい。[及 176]

【例 1】 うづぐす
「美しい」

【例 2】 おどなす
「おとなしい」

【例 3】 つやつやす
「つやつやしい」

【例 4】 いさます
「いさましい」

ず [名] 時。[及 176]

【例 1】 えま なんず だべ
「今、何時だろう」

【例 2】 ずがん たづな はえあな
「時間がたつのは早いな」

ず [dzüü] 爺。お爺さんの [及 6]

【例】 おれあへの ずだば、まめで まだ はだれあでる
「うちの爺さんなら健康で、まだ働いています」

この語は「ずさまーお爺さん」、「ずっこーお爺さんの卑語」、「ずつつあーお爺さん」、「ずんずーお爺さんの卑語」、「ずんちゃんーお爺ちゃん」、「ずんつあーお爺さん」、「ずんつあんーお爺さん」などとも使っている。

～ずあ [～dzüüa] [接尾辞] というものは。というのは。ということは。[続 176]

【例 1】 とりずあ とぶ おんだ
「鳥というものは飛ぶものだ」

【例 2】 よったずあ のだからだ
「酔ったというのは飲んだからだ」

【例3】 こえずあ よう あっさげあだ
「来いということは用があるからだ」

すあす [sūasū] 師走。12月。[続 176]

【例】 すあすだど おもうど なんとなく へわすねあよだ きあ するな
「師走だと思うと、なんとなく忙しないような気がするね」

すあす [sūasū] 素足。[続 176]

【例】 きょうあ さみはげあ、すあすん なてねあで くずした へあでろよ
「今日は寒いから、素足になっていないで、靴下を履いていなさいよ」

すいよへる [sūijoherū] [下一他] 吸い寄せる。[続 176]

【例】 でんきそうずきて え おんだな、ごみ みな すいよへるおん
「電気掃除機っていいものだね、ごみをみな吸い寄せるからな」

すいれ [名] 仕入れ。[及 176]

【例】 こまおの すいれして くる
「小間を仕入れして来るよ」

すーず [sūr^odzū] 数字。[続 176]

【例】 おれあえの まごも、こんだ がっこさ へあて、すーず かぐよん などど
「うちの孫も、今度学校に入って、数字を書くようになったそうだ」

ずうずうす ずうずうしい。[及 28]

【例】 この ねごあ ずうずうすごど、ぼたて ねげねあ
「この猫のずうずうしいこと、追っても逃げないよ」

すうづげる [sūr:dzūgerū] [動] 押しつける。[及 176]

【例】 いらねあ おの すうづげで えがった
「いらぬ物を押し付けて行かれたよ」

すえおそろす [sūeōsorosū] [形] 未恐ろしい。[続 176]

【例】 しとの おの となりするよだ わらすだば すえおそろすな
「人の物を盗ったりするような子供なら、未恐ろしいね」

すえおの 吸い物。[及 41]

【例】 戸棚がら、すえおの椀 出してころ
「戸棚から、吸い物椀を出して下さい」

すえが [sūēga] 西瓜。[同] せえがん。すえがん。[及 89]

【例】 なづん なっど すえが売りあ 毎日 来る
「夏になると、西瓜売りが、毎日来るよ」

すえすえ [副] すいすい。[及 176]

【例】 ほら、みろ、んまのりこあ すえすえど およえんだ

「ほら、みなさい、あめんぼが、すいすい泳いでいるよ」

ずえずえ [dzüędzüē] [副] ぐいぐい。酒を飲むさま。この語は、酒を飲むさまにだけ使い、人や物をぐいぐい引いたり押ししたりする意味では使わない語である。[続 176]

すえたのもす [süētanomosü] [形] 末頼もしい。[続 176]

【例】 この わらすあ からだも じょうぶたし、あだまも ええはげあ すえたのもすな
「この子は、体も丈夫だし、頭もいいから、末頼もしいね」

ずえら [副] でらりと。ずるりと。滑べること。[及 176]

【例】 ゆぎみづあ つるつるで ずえら すべてしました
「雪道がつるつるで、ずるりと滑べってしまったよ」

すえらっと [副] すうっと。[及 176]

【例】 すえらっと めねあぐ なてしまたけ
「すうっと、見えなくなってしまったつけ」

すえれ [süēre] 仕入れ。[続 176]

【例】 きょうあ、〇〇さ えて さがな すえれして、こねあんねあな
「今日は、〇〇に行って、魚を仕入れしてこないといけないな」

ずおの というもの。[及 176]

【例】 火ずおのあ おかねあ おんだぞ
「火というものは、おつかないものだよ」

ずおん [連語] そうだ。[及 176]

【例】 〇〇の 娘さんも 嫁んえぐずおは
「〇〇の娘さんも、もう嫁に行くそうだよ」

すが [süga] つらら。氷。つららも氷も「すが」といっている。[及 104]

【例 1】 今日あ ぬぎさ すが なたじゅ
「今日は軒につららが下ったよ」

【例 2】 ぜえぶん さみがったべたなげさ すが はた おん
「随分寒むかったんだろう、池に氷が張ったもの」

すかげ [sükaḡe] [名] 片影。ちらりと見えた姿。[及 176]

【例】 〇〇だべ えま ほごで すかげあ めだけな
「〇〇だろう、今そこでちらりと姿が見えたつけな」

すがげあ [süḡage] [名] 氷の張った川での漁法。[及 176]

【例】 すが はたはげあ すかげあ えごや
「氷が張ったから、魚捕りに行こうや」

すかげる [sükaḡerü] [動] ひっかける。小便をひっかけること。[及 177]

【例】 まだ すかげだがは

「また、ひっかけたのかい」

すかげる [sükagerü] しかける。仕事などを仕掛る。機械などを据え付る。ふっかける。けんかをふっかる。[及 177]

【例 1】 この しごど すかげっだはげあ しつとえあ まで

「この仕事をしかけているから、一寸待てよ」

【例 2】 ほの きつけあ どさ すかげんなや

「その機械をどこに据え付けるんだい」

【例 3】 あの やろがら すかげで来たはげあ けんか なたあだ

「あの野郎からしかけて来たから、けんかになったんだ」

すかすか [副] りんと。威儀を正して。[及 177]

【例】 立派だけな へあて くっすぎなの すかすかす おんだけ

「立派だったな、入って来る時なんか、りんとしたものだね」

ずがずが [dzügadzüga] [副] ずかずか。[及 177]

【例 1】 ものも ゆわねあで ずがずがど へあて 来たつけ

「ものもいわずに、ずかずかと入って来たつけ」

【例 2】 お日さま ずがずが てっさげあ しゃつぷ かぶれ

「お日さまが、ずかずか照るから、帽子をかむりなさい」

すがすがす [sünjasünjasü] [形] 清しい。[続 177]

【例】 けさまだ てんぎあ えくて すがすがす あさまだな

「今朝は、天気がよくて、すがすがしい朝だね」

すかっと [副] すっかり。全部。[及 177]

【例】 この すごども ようやく すかっと おわたな

「この仕事もようやくすっかり終ったな」

すかっと [副] すっきり。[及 177]

【例】 かじえあ なおて すかっとした

「風邪が治って、すっきりしたよ」

すかつめらす [sükatsümerasü] [形] しかつめらしい。[続 177]

【例】 すかつめらす つらして、なに むずがす ごど ゆいだす つもりだや

「しかつめらしい顔をして、何を難しいことをいい出すつもりなんだい」

すがむ [sünjamü] [動] むずかる。[及 177]

【例】 ないだべ、この わらすあ すがむごど

「どうしたんだろう、この子は、むずかること」

すがむすろ [sünjamüsüro] すげの塵。すげで織った塵。[及 64]

【例】 すがむすろで がまんすんべ

「すげ蔭でがまんしようね」

すがむり [sügamürī] 屋根の氷が解けてもること。[同] すがまり。[及 104]

【例】 すがむり すっさげあ、屋根の すが おどして 来る
「氷が解けてもるから、屋根の氷を落して来ます」

すかめる [動] しかめる。顔をしかめること。[及 177]

【例】 つら すかめるほど やだなが
「顔をしかめる程嫌なのかい」
また、しかめた顔を「すかめつら」という。

すから す。大根や牛蒡などのすになったものをいう。[及 89]

【例】 であごんさ あんまり こやす やっど すからん なんぞ
「大根に余り肥料をやると、すになるよ」

すがら [süŋara] しがらみ。沢山打った杭に柴を組んだもの。[及 72]

【例】 すがら くむはげあ てづだてくんねあが
「しがらみを組むから、手伝ってこないか」

すがらばづ [sügarabadzüü] あしながばちの小型種。[及 89]

【例】 かりはれあ えて、すがらばづに ささっだや
「刈払いに行つて、あしながばちの小型種に刺されたよ」

すがん [süŋan] [名/ス他] 志願。[続 177]

【例】 おわがら すがんして えたあだおん、なんとが つとめんべ
「自分から志願して行つたんだから、なんとか勤めるだろう」

ずがん [dzügan] 時間。[続 177]

【例】 おわ すぎだごど してっど、ずがん たずなも わすっでしまてるな
「自分の好きなことをしていると、時間の経つのも忘れてしまっているね」

すかんこ すいば。一名すかんぼ。たで科の多年生草本。[及 90]

【例】 むがすあ わらすたづあ すかんこずおの くた おんだ
「昔は子供らが、すかんぼというものを食べたもんだ」

ずがんひよー [dzügançõ:] 時間表。[続 177]

【例】 ○○さ えぐ きしゃ なんずだべ ずがんひよー みでくんねあが
「○○へ行く汽車は何時だろう、時間表を見てくださいか」

ずがんわり [dzüganwari] 時間割り。[続 177]

【例】 ○○ちゃん、ずがんわり しらべで がっこさ えぐ したぐ すろよは
「○○ちゃん、時間割りを調べて、もう学校へ行く仕度をしてしまいなさいよ」

すぎ [sügī] [名] 式。[及 177]

【例】 ○○も せえずんすぎさ 出るよだ とすん なたが

「〇〇も、成人式に出るような年になったか」

すぎ [名] 好き。[及 28]

【例】 おれだば こっつの 花 すぎだな

「私なら、こっちの花が好きだね」

この語は「すぎんねあー好きじゃない。嫌だ」、「えげすかねあー好きじゃないの強調語」。「こっつ
ぎんねあー好きじゃないの強調語」などの使い方をしている。

すぎ [süügi] 敷居。[続 177]

【例】 ふぎり してるおんだはげあ、おめあえの すぎあ たげあぐ なてしまたは

「不義理をしているものだから、お宅の敷居が高くなってしまったよ」

ずき [dzüüki] 時期。[続 178]

【例】 どうきゆうかいも ええども ずき いずごろん すっがだな

「同級会もいいが、時期を何時頃にするかだな」

ずぎ [dzüügi] 直。[続 178]

【例】 はえあおんで、まだ ずぎん おぼんが くんぜは

「早いもので、またもう直にお盆がくるね」

〜ずぎ [~dzüügi] 敷。畳の数をいう。[続 178]

【例 1】 ろぐじょうずぎ

「6 畳敷」

【例 2】 はずじょうずぎ

「8 畳敷」

【例 3】 じゅうじょうずぎ

「10 畳敷」

〜ずぎ [~dzüügi] 時。「時を見て」。「時でもない」。「時には」。「時が時だから」。「時時」などの

「時」は「ずぎ」とはいわない。[続 178]

【例 1】 あん ずぎ

「あの時」

【例 2】 こん ずぎ

「この時」

【例 3】 えた ずぎ

「行った時」

【例 4】 わげあ ずぎ

「若い時」

【例 5】 んまっだ ずぎ

「生れた時」

すぎおの [sünjiono] 過ぎ者。[続 178]

【例】 あの むごだば あそごの えにあ すぎおのだな
「あの響なら、あそこの家には過ぎ者だね」

すぎおの [sü:giono] 敷物。[続 178]

【例】 こごあ ただみあ よごれっさげあ、ないが すぎおの すがねあんねあな
「ここは畳が汚れるから、何か敷物を敷かないといけないな」

すぎかのが [sü:gikanoga] すぎひらたけ。杉の伐り株に出るきので食用になる。[及 90]

【例】 裏の 山さ えて すぎかのが とて くっがな
「裏の山へ行って、すぎひらたけをとってこようかな」

すぎきれあ [sü:gikire] 好き嫌い。[続 178]

【例】 すぎきれあすっど、じょうぶだ からだん ならねあはげあ ないでも けよ
「好き嫌いをする、丈夫な体にならないから、何でも食べなさいよ」

すぎす [sü:gisü] 色紙。[続 178]

【例】 かだごの はな せあつだな きれん すぎすさ けあで もらた
「かたくりの花の咲いているのを、奇麗に色紙に画いてもらったよ」

ずぎずぎ [dzü:gidzügi] 直直。[続 178]

【例】 ほげあた であじだ ごど たのむあだば、おわ ずぎずぎ えぐ おんだ
「そんな大事なことを頼むのだったら、自分が直直行くものだよ」

すぎずれ [名] 正式に結婚しなかった夫婦。親の許しのない夫婦。[同] それづぎ。[及 177]

【例】 あれら すぎずれだおん
「あいつらは正式の夫婦じゃないんだ」

すきせあー [sük̄s̄e:] 色彩。[続 178]

【例】 この はな ないていう はなだが、すきせあの あぎやがだ はなだな
「この花は、何という花なのか、色彩の鮮やかな花だな」

すぎつ [sü:gitsü] 敷地。[続 178]

【例】 こごだば、すぎつも ひろえし、みはらしの ええ どごだな
「ここなら、敷地も広いし、見晴らしのいい所だな」

すぎどる [sü:gidorü] [四自] 透き通る。[続 179]

【例】 この かわだば、みごてねあくて、かわそごまで すぎどて めるな
「この川なら、濁っていないくて、川底まで透き通って見えるね」

すぎねあ [sün̄jine] [連語] 過ぎない。[続 179]

【例 1】 これだけに すぎねあども たべでくだせあ
「これだけに過ぎないが、食べて下さい」

【例 2】 とうりすぎねあよん きいつけで えげよ
「通り過ぎないように気を付けて行きなさいよ」

すぎねあー [süŋine:] 杉苗。[続 179]

- 【例】 うらやま かりはれあして すぎねあー ゆえねあんねあな
「裏山を刈払いして、杉苗を植えなければならないな」

ずぎへず [dzügihedzü] 直直。直接。[続 179]

- 【例 1】 あれあ ずぎへずの おやかだ
「あれは、直直の親子だよ」
【例 2】 ずぎへずん あう
「直接に会う」
【例 3】 ずぎへずん わだす
「直接に渡す」

ずぎよー [dzüŋjo:] [名/ス自] 授業。[続 179]

- 【例】 ○○ちゃん、ずぎよーちゆう へんへあ いうごど えぐ きでろよ
「○○ちゃん、授業中、先生のいうことを、よく聞いていなさいよ」

ずぎん [dzügin] [副] 直に。[続 179]

- 【例】 えま ずぎん きあすさげあ しつとえあ まずでくだせあ
「今、直に参りますから、一寸待って下さい」

すぐずる [sügür'dzürü] [四自他] しくじる。[続 179]

- 【例】 これあ わらしたずだば すぐずっど えぐねあはげあ、さへらんねあ
「これは、子供ならしくじるといけないから、させられないよ」

すぐだまる [sügüdamarü] [動] うづくまる。[及 178]

- 【例】 ないしたべ すぐだまて ねあっだけ
「どうしたんだろう、うづくまって、泣いておったつけ」

すくつと [sükütto] [副] しっくり。[続 179]

- 【例】 んだなおす よめど しゅうどあ もすこす すくつと えぐど えなおす
「そうなんですよ、嫁と姑が、もう少ししっくりゆくといいんですよ」

すくつと [sükütto] [副] すくつと。[続 179]

- 【例】 ○○ちゃん、うんどうかいで、ころだども、すぐ すくつと たて はしたけ
「○○ちゃんが、運動会で転んだが、直ぐすくつと立って走ったつけ」

ずくつと [dzükütto] [副] じっくり。[続 179]

- 【例】 ほの はなすあ もうすこす ずくつと かんげあでがら へんずしあす
「その話は、もう少しじっくり考えてから、返事をします」

ずぐなす [dzügünasü] [名] 意気地なし。能なし。[及 178]

- 【例】 これだば ゆぐゆぐの ずぐなすだおん
「こいつは、よくよくの意気地なしだもの」

すぐねあ [süügüne] 少ない。[及 28]

【例】 ほれだば すぐねあはげあ、もと もて えげ

「それでは少ないから、もっと持って行きなさい」

この語は「すこす一少し」、「すこすぱり一少しばかり」、「ちよっぺり一ちよっぴり」、「ちよべつと一ちよっぴり」などという使い方もある。

すぐねあたて [süügünetate] [副] 少なくとも。[続 180]

【例】 この じえんめあだば、すぐねあくたて、〇〇えんあでは あんべな

「このぜんまいなら、少なくとも〇〇円あたいはあるだろうな」

ずぐねる [dzüügünerü] [下一自] ごねる。この語は、特に子供のごねることをいう。[続 180]

【例】 この わらすあ ないだおんだべじゅ ききだから ずぐねでいんよ

「この子は、どうしたんだろうね、さっきからごねているんだよ」

すくはっく [sükühakkü] [名/ス自] 四苦八苦。[続 180]

【例】 なに くたおんだが、はら いであどて、すくはっくして くるすだ おんだ

「何を食ったのか、腹が痛いといって、四苦八苦して苦しんだもんだ」

すぐる [süüürü] [動] 間引く。[及 72]

【例】 ようやぐ なっばこあ すぐるよん なた

「ようやく、菜が間引くようになったよ」

すぐる [süügürü] [動] 掬う。[及 178]

【例】 こえ すぐる あみ もて こえ

「鯉を掬う網を持って来てくれ」

すぐるみ [süüürümü] すぐり。ゆきのした科の木本植物で実を食べる。[及 90]

【例】 すぐるみも くいあんべあだべな

「すぐりも食べ頃だろうな」

すけある [süükerü] [動] 取り替える。[及 178]

【例】 こんだ ふゆおのど すけあるは

「今度は、もう冬物と取り替えるよ」

すげー [süüje:] [形] 凄い。[同] すげ。[続 180]

【例】 きょうあ すげー あめふりん なたおんだな

「今日は、凄い雨降りになったもんだな」

すげげある [süüjeđerü] [下一他] すげ替える。[続 180]

【例 1】 かの え すげげある ごどん すんべ

「鍬の柄をすげ替えることにしよう」

【例 2】 〇〇の ポスト すげげあんべ

「〇〇のポストはすげ替えよう」

【例】 はな そでさ すこぐる おのあ ねあべな
「鼻汁を袖にこする奴があるものか」

すこぐれる [sükogürerü] [下一白] こすれる。この語は、物の擦れることをいうのではなく、人柄の悪くなることという語である。[同] こすぐれる。[続 181]

すこぐれる [sükogürerü] [動] すれっからしになる。[及 178]
【例】 この やろあ なして こんげあ すこぐれだべ
「この野郎は、どうしてこうすれっからしになったんだろう」

ずこげる [dzükogerü] [動] ずっこける。[及 178]
【例】 ほら、にもつあ ずこげんぞ
「ほら、荷物がずっこけるよ」

すこだま しこたま。沢山。[同] すこであま。でっすら。でっつら。でっつり。えっぺあ。[及 28]
【例】 わらび すこだま 出っだどさ えたけ
「わらびのしこたま出ている所へ行ったつけ」

ずこつと [dzükotto] [副] ずんぐり。[続 181]
【例】 ○○さんだば、ずこつとした しとで、まるがおだはげあ すぐ わがる
「○○さんなら、ずんぐりした人で、丸顔だから直ぐ分るよ」

すごど [sünjodo] 仕事。[続 181]
【例】 ふゆん なっど まだ すごどあ ねあぐなっさげあ でかへぎだ
「冬になると、また仕事なくなるから、出稼ぎだよ」

すごどす [sünjodosü] 仕事師。[続 181]
【例】 あれだば、すごどすで ない さへでも てぎわ えし、たいした おんだ
「あいつなら、仕事師で、なにをさせても手際がいいし、たいしたものだよ」

すこむ [sükomü] [四他] 仕込む。[続 182]
【例 1】 おれあえの わらすさも マラソン すこまねあんねあ
「うちの子にもマラソソを仕込まなければならないな」
【例 2】 みそあ まめ にだなさ、ししよど こうず すこむなだ
「味噌は、豆を煮たのに、塩と麴を仕込むんだ」

すこむ [動] ひっこむ。後ずさりする。[及 178]
【例】 すこす すこむんだ
「少しひっこめよ」

すこもこ [形] 背中を丸めて動きまわるさま。動きまわるさま。もそもそより早い動き方であるが、これに近い動き方をいうが、表現しにくい語である。[及 178]
【例】 であどごで すこもこてねあで、こっちゃ 来て おぎやくさまさ さげでも つげ
「台所で動きまわっていないで、こっちへ来て、お客さまに酒でも注ぎなさい」

すこり [sũkorĩ] 癩。[続 182]

【例 1】かだの しこりあ まだ とんねあ

「背の癩がまだ取れないよ」

【例 2】あどさ すこり のごさねあよん はなすあえよ

「後に癩が残らないように話合えよ」

すころぶ [sũkorobũ] [四白] [強調] 転ぶ。転ぶの強調語。[同] すっころぶ。[続 182]

【例】あんまり はすっど すころで いであぐすんぞ

「余り走ると、転んで怪我をするよ」

すころぶ [動] すっころぶ。転ぶの強調語。[及 178]

【例】ほんげあ はすっど すころぶぞ

「そんなに走るとすっころぶぞ」

ずさ [dzũsa] 爺さん。この語は、家族の者が親しみをもって呼ぶ言葉で、他人には殆ど使わない語である。[続 182]

また、この語は、「ず。ずさま。ずっこ。ずつつあ。ずんず。ずんちゃん。ずんつあ。ずんつあん」などともいったが、今は「ずんちゃん。おじいちゃん」が使われている。

ずざげ [dzũʳdzagẽ] 地酒。[続 182]

【例】おれだば、のみなれだ ずざげのほあ えな

「私なら、飲み馴れた地酒の方がいいな」

ずさず [dzũsadzũ] [名/ス自] 自殺。[続 182]

【例】いずめで ずさずしたなて、よっぼど ひでえごど さっだんだな

「苛めで自殺したなんて、余程ひどいことをされたんだな」

すさまず [sũsamaʳdzũ] [形] 凄まじい。[続 182]

【例】おおあめで、すさまず どしゃくずれん なて、えあ んめらっだど

「大雨で、凄まじい土砂崩れになって、家が埋められたそうだ」

すさん [sũsan] 資産。[続 182]

【例】おれあえの すさんてゆえば たはだど えやすぎぐれあの おんだ

「うちの資産といえば、田畑と、家屋敷ぐらいのものだよ」

すじえん [sũʳdzẽN] [名/ダナ] 自然。[続 182]

【例 1】ほの きずだば だまておえだて、すじえんと なおる

「その傷なら、だまっておいたって、自然に治るよ」

【例 2】しとのての へあらねあ すじえんて ええ おんだな

「人の手の入らない自然というものは、いいものだな」

ずしゃぐ [dzũʃagũ] 磁石。[続 183]

【例 1】ずしゃぐずあ きたど みなみ しめしてくえる おんだ

「磁石って、北と南を示してくれるものだよ」

【例2】 ずしゃぐて てずの おのだば みな すいずげる おんだ

「磁石って、鉄の物なら、みな吸い付けるもんだよ」

すじゅ [名] 始終。何時も。絶えず。[及 179]

【例】 隣りの ばさま すじゅ 来る

「隣りのお婆さんは、始終来るよ」

すしゅー [sü:ʃü:] [名/ス他] 刺繍。[続 183]

【例】 となりであ ぼだん すしゅーしたな がぐんしったけあ え おんだな

「隣りでは牡丹を刺繍したのを、額にしておったが、いいものだな」

ずしゅー [dzü:ʃü:] [名/ス自他] 自習。[続 183]

【例】 きょうあ うげもずの へんへあ いねあくて ずしゅーして きた

「今日は受持の先生がいなくて、自習してきた」

ずしゅぐ [dzü:ʃügü:] [名/ス他] 辞職。[続 183]

【例】 ○○さん おわ えの すぐと しねあんねあぐなて、ずしゅぐすっどごだど

「○○さんは、自分の家の仕事をしないといけなくなって辞職するところだそうだ」

ずしゅぐねげあ [dzü:ʃügüneɲε] 辞職願ひ。[続 183]

【例】 ○○さん、ほがの すぐど すっどて ずしゅぐねげあ だしたど

「○○さんは、他の仕事をする、というので、辞職願ひを出したそうだ」

すしよ [sü:ʃo] 師匠。[続 183]

【例】 ○○さん であぐん なっどて、○○さ えて、すしよさ つだど

「○○さんは、大工になるというので、○○へ行って、師匠についたそうだ」

ずじよー [dzü:ʃjo:] 事情。[続 183]

【例】 ないが ずじよー あんなだべじゅなや、えまん だご やめるなて

「何か事情があるのだろうかよ、今のところを辞めるなんて」

すす [名] 獅子。[及 179]

【例】 近頃あ すすめあ こねあは

「近頃は、もう獅子舞いが来ないね」

すす [sü:sü] 寿司。[続 183]

【例】 ひるまん なたはげあ、ほごらあだりさ すすくいでも えくが

「昼になったから、その辺に、寿司を食いにでも行こうか」

すず [sü:ʔdzü] 泉。[及 104]

【例】 すずの 水あ、なづあ つみであくて、冬あ あたこえ おんだ

「泉の水は、夏は冷たくて、冬はあったかいものだよ」

すず 徳利。[及 50]

【例】 はやぐ すず もて こえ
「早く徳利を持っておいで」

すず [süⁿdzü:] 筋。[続 183]

【例 1】 へながの すず もでころ
「背中の筋を揉んでくれ」

【例 2】 ○○さんは おれあえの つすず ひでんなだ
「○○さんは、うちの血筋を引いているんだ」

【例 3】 これあ てすずあ ええはげあ みごみ あるな
「これは、手筋がいいから、見込みがあるな」

【例 4】 えあずあ しとすずなであえがねあ おどごだ
「あいつは一筋縄ではいかない男だ」

ずずあ [dzüdzüa] [連語] 実は。[続 184]

【例 1】 ずずあ わだすのほうがら えぐ つもりであった
「実は私の方から行くつもりだったよ」

【例 2】 ずずあ かね かりであくて きたあだ
「実は金を借りたくて来たんだよ」

ずずいん [dzüdzüin] 実印。[続 184]

【例】 とうきするにあ ずずいんねあど だめだど
「登記をするには、実印でないといけないそうだ」

すずえあ [süⁿdzüε] [名] 筋合い。[及 179]

【例】 隣りがら 文句 ゆわれる すずえあねあな
「隣りから文句をいわれる筋合いはないね」

すずが [süⁿdzüga] 静か。[及 179]

【例】 さすがに よんま なっど すずがん なるな
「さすがに、夜になると、静かになるね」

すずがぎ [süⁿdzüŋagi] 筋書。[続 184]

【例】 ひるま ではてくる テレビええがの すずがぎあ おもへな
「昼出てくるテレビ映画の筋書は面白いね」

すずぎよー [südzüŋjo:] 失業。[続 184]

【例】 すごど ねあくて いずがつから すずぎよーだは
「仕事がなくて、一月からもう失業だよ」

すすぎる [süsügirü] [動] 乾燥して桶にすきまの出来ること。[同] ひすぎる。[及 179]

【例】 この こが ござさ おぐど すすぎれんぞ
「この小桶をここへ置くと乾燥してすきまが出来るよ」

すずぐ [sürⁿdzüügü] 雫。[続 184]

【例】 かじえあ ふえて きたはげあ きがら すずぐあ おずで きたな
「風が吹いてきたから、木から雫が落ちてきたね」

すずげあ [sü(°)dzüge] 筋交い。[及 50]

【例】 ほごあ すずげあ かわねあど もだねあぞ
「そこは筋交いを当てがわないと、保たないぞ」

すずげそ [südzügeso] 仕付け糸。[続 184]

【例】 あだらす きおのだはげあ、すずげそ とてがら きろよ
「新しい着物だから、仕付け糸を取ってから着なさいよ」

すずげる [südzügerü] [下一他] 据え付ける。[及・続 179・184]

【例 1】 こんだ ふろばさ あだらす すふろ すずげっさげあな
「今度は、風呂場に、新しい風呂を据え付けるからな」

【例 2】 ほの きっけあ ござ すずげんなだ
「その機械は、ここに据え付けるのだよ」

すずげる [südzügerü] [下一他] 仕馴れる。[続 184]

【例】 ミシンぬいだば おれあ すずげでっさげあ おれあ する
「ミシン縫いなら私が仕馴れているから、私がやるよ」

すずご 筋子。[及 41]

【例】 すずご売りあ 来た、買うが
「筋子売りが来たが、買いますか」

すずごさん [südzünosan] 七五三。[続 185]

【例】 ござらあだりであ すずごさんの ゆわえあこどのの しねあな
「この辺では、七五三のお祝いなんかしないね」

すずす [sürⁿdzüsü] [形] 涼しい。[続 185]

【例】 はずがずも おわりん なてきたば、きゆうに すずすぐなた おんだ
「八月も終りになってきたら、急に涼しくなってきたものだね」

すすずめ [süsürⁿdzüme] 鯨詰め。[続 185]

【例】 かしゆの ○○さん くっどて こうみんかん すすずめだけ
「歌手の○○さんが来るというので、公民館は鯨詰めだったよ」

すすだけ [süsüädage] こうたけ。一名ししたけ。はりたけ科のきのこで、食用になる。[及 90]

ずずつ [dzürⁿdzütsü] 事実。[続 185]

【例】 ずほなの こがねあ、この はなすあ ずずつあた ごどだぜあ
「嘘なんか吐かないよ、この話は事実あったことなんだよ」

すずつけあ [sürⁿdzütsüŋe] [名/ノダナ] 筋違い。[続 185]

【例】 おれあどさ ほんたごど いうな ずすつげあだべや、おれあ かんけねあぜあ
「私にそんなことをいうのは筋違いだろうや、私は関係がないよ」

ずすつと [dzüsütto] [副] ずっしり。ずしりと。[続 185]

【例】 これあ なにあ へあった おんだべ、ずすつと おもであ おんだな
「これは何が入っているものだろう、ずっしり重いもんだね」

すずなん [südzüman] 七難。いろいろの欠点。[続 185]

【例】 いろの すろえな すずなん かぐすて ゆた おんだ
「色の白いのは、七難を隠すといったものだよ」

ずずの [dzüdzüno] [連語] 実の。[続 185]

【例 1】 ずずのどごろ
「実のところ」

【例 2】 ずずの はなす
「実の話」

【例 3】 ずずの つず
「実の父」

すすはれあ [süsühare] [名] 煤払い。[及 179]

【例】 しょうがづあ くっさげあ すすはれあ すねあんねあな
「正月が来るから、煤払いをしないといけないな」

すずふぐずん [südzüfügürⁿdzün] 七福神。[続 185]

【例】 すずふぐずんて、ふぐ さずげでくえる、すずにんの かみさまの ごど いうなだ
「七福神というのは、福を授けてくれる、七人の神さまをいうんだよ」

すずぶずぎ [südzübüⁿdzügi] 七分搗。[続 185]

【例】 こめあ あんまり すろぐ つぐより、すずぶずぎぐれあんな ええなだ
「米は余り白く搗くより、七分搗ぐらいのがいいんだよ」

ずすべり [dzüsüberi] 地滑り。[続 186]

【例】 こごあ ずばん もろくて、おおあめん ずぎなの ずすべり おごす どごだ
「此処は、地盤がもろくて、大雨の時なんか地滑りを起こすところだよ」

すずぼ [südzübo] [名/ス自] 失望。[続 186]

【例】 いずどぐれあ しけんに おずだがらて すずぼしてらんねあぞ
「一度ぐらい試験に落ちたからといって、失望してられないよ」

すずまぎ [süⁿdzümagi] 筋播き。[続 186]

【例】 なっぱなの すずまぎんして あどで おるぬげば えなだ
「白菜なんかは、筋播きにして、後で間引けばいいんだよ」

すずまりげあーる [süⁿdzümarige:rü] [四自] 静まり返る。[続 186]

【例】 みんな ねで すずまりげあーっど、かわがら かつかの なぐな きげで くんぜあ
「皆が寝て静まり返ると、川から河鹿の鳴くのが聞こえてくるよ」

すずみげあ [sür^odzümiŋe] しじみ。しじみ貝。[及 90]

【例】 しおひがりで すずみげあ ひろて きた
「潮干狩りで しじみを拾って来た」

すずみであー [sür^odzümi^ode:] 涼み台。[続 186]

【例】 こごらあたりであ はずん なたたて、すずみであーで すずでる しとなの いねあな
「この辺では、夏になっても、涼み台で涼んでいる人なんかいないね」

すずむ [動] 沈む。[及 28]

【例】 すずむど えぐねあはげあ、ふっけあどさ えぐなよ
「沈むとわるいから、深い所へ行くんじゃないよ」
この反対の語を「うげるー浮く」と使っている。

すずむげあー [sür^odzümüŋe:] 筋向い。[続 186]

【例】 ○○さんの えおすか、ほれだば おれあえの すずむげあーの えです
「○○さんの家ですか、それならうちの筋向いの家です」

すずめ [名] 筋目。家柄。[及 179]

【例 1】 ものごどあ すずめ 通さねあんねあおんだ
「物事は、筋目を通さないといけないものだよ」
【例 2】 あそごの えあ すずめの ただす えだ
「あそこの家は、家柄の正しい家だよ」

すすめあー [süsüme:] 獅子舞。[続 186]

【例】 むがすあ すすめあー えぐ くっがったども えまだば さっぱり こねあは
「昔は獅子舞がよく来るものだったが、今ならもうさっぱり来ないな」

すずめる [sür^odzümerü] [下一他] 沈める。[続 186]

【例 1】 たなもみ たなげさ すずめでくる
「種粃を池に沈めてくるよ」
【例 2】 きい すずめで えく かんげあでみろ
「気を沈めてよく考えてみろよ」

すずめんどくせあ [südzümendoküse] [形] 七面倒臭い。[続 186]

【例】 ほんた すずめんどくせあ ごど この えそがす ずぎ してらんねあな
「そんな七面倒臭いことを、この忙しい時にやられていけないよ」

すずや [südzüja] 七夜。子供が生まれて七日目の夜。[続 187]

【例】 おれあえの はずまごあ んまっで、きょうで すずやだは
「うちの初孫が生まれて、今日でもう七夜だね」

すずやぶるめあ [südzüjabürüme] 七夜振舞。これは、七夜の祝宴をいう。[続 187]

【例】 あした すずやぶるめあ すっさげあ きてころ
「明日七夜振舞をするから来て下さい」

すずら [名] しらふ。酒に酔っていないこと。[及 179]

【例】 今日あ すずらが
「今日はしらふかい」

すずりぶだ 大皿に盛った料理。お膳料理の外に特に大皿に盛って出す料理。[及 41]

【例】 はづじゅうはづの お祝だおの、すずりぶだも つけんべ
「八十八のお祝だもの、大皿料理もつけようよ」

すずりん 七輪。[及 50]

【例】 まだ すずりん つかてっどごあ あんべが
「まだ七輪を使っている所があるだろうか」

すずる [südzürü] [四自] 漏る。この語は、用器のひびや裂け目などから、液体の漏ることをいい、光線の漏る意味には使わない語である。[続 187]

【例】 この なべあ すずるよん なたじゅ
「この鍋は、漏るようになったな」

すずれ [südzüre] [ナ名ノ/ス自] 失礼。[同] ぶじよほ。[続 187]

【例】 おそぐまで すずれしあした
「おそくまで失礼しました」

すずれあ [派生] しにくい。やりにくい。[及 179]

【例】 おめあ ほごに いっど すずれあな
「お前が其所にいと、やりにくいな」

ずすん [dzüsün] 地震。[続 187]

【例】 こごらあたりだば、おっき ずすん おぎねあくて え おんだな
「この辺なら、大きい地震が起きなくていいもんだな」

すぜあー [sür^hdze:] 資材。[続 187]

【例】 ○○の せいぜあこうばがら、けんつぐすぜあー はごでくんねあが
「○○の製材工場から、建築資材を運んでくれないか」

すせー [süse:] 姿勢。[続 187]

【例】 まま くう ずぎあ、ちゃんとした すせーで く おんだぞ
「ご飯を食べる時は、きちんとした姿勢で食べるものだよ」

すそぐねる [süsogünerü] [四他] し損なう。[続 187]

【例】 なの さや すんぼ まずげあで すそぐねでしまたは
「鉈の鞘の寸法を間違えて、し損なってしまったよ」

ずぞさま [名] 地蔵さま。[及 179]

【例】 今日あ ずぞさまの おどすこすだはげあ おめありん えて くる
「今日は、地蔵さまの年越しだから、お参りに行ってくる」
地蔵尊の年越しは、旧十二月二十四日で、村の女達がお参りに行っている。

すたす [sütasü] [形] 親しい。[続 187]

【例】 ○○くんどあ すたす ながだ おんだはげあ、いっつも えぎきしてんなだ
「○○君とは親しい仲なものだから、何時も行き来をしているんだ」

すたばた [sütapata] [副] ばたばた。忙しく動くこと。[続 187]

【例】 おれだば、えん なが えぐ すたばたて えごがねあんねあ おんだ
「私なら、家の中をよくばたばた動かないとならないものだね」

すたむ [動] したむ。液をしたたり落とすこと。[及 179]

【例】 もってあねあはげあ ほの 醤油 すたで おげよ
「勿体ないから、その醤油をしたんでおけよ」

すたもた [sütamota] [副] もたもた。[続 188]

【例】 この えそがすずぎ、なに すたもたしてんなだ、まず ぐうぐど もて こえ
「この忙しい時、何をもたもたしているんだ、まずさっさと持ってきなさい」

すたりおの [sütariono] 廃り物。[続 188]

【例】 この ふぐあ あっつこっつ すりぎっだはげあ すたりおのだなは
「この服は、あっちこっち擦り切れたから、もう廃り物だな」

すづ [südzü] [接頭辞] しち。[及 180]

【例 1】 すづやっけあだ ごど いうなちえ
「しちやっかなことをいうなよ」
【例 2】 すづうるせあ ごど あっちや えてろ
「しちうるさいこと、あっちへ行っておれ」

ずづ [dzüdzü] [名] 実。[及 180]

【例】 ずづあ こういう わげで 来たあです
「実は、こういうわけで来たんです」

ずっか [dzükka] 実家。[続 188]

【例】 よめずあ ずっかさ けあっであ おんだはげあ、たまにあ けあす おんだぞ
「嫁って実家へ帰りたいものだから、たまには帰すもんだよ」

すっかぐ [sükkagü] [名/ス自] 失格。[続 188]

【例】 いっとうめあだ かんじよしてだら、すっかぐして にとうめあだけ
「一等米のつもりでいたら、失格して二等米だったよ」

ずっくべ [dzükkübe] ^{つくし}土筆。とくさ科のすぎなの胞子茎をいう。[同] つぐす。[及 90]

【例】 ままごと すんな ずつくべ とて くんべや
「ままごとにする、つくしを摘んでこようね」

すづげ [südzüğe] [名] 仕付け。礼儀作法を教えること。[及 180]

【例】 すづげあ わらしたづの うづんねあば だめだ おんだ
「仕付けは子供のうちでないと、駄目なもんだ」

すづげ [südzüğe] 仕付け。裁縫時の仕付けをいう。[及 58]

【例】 すづげ かわねあど しわ よたり、まがたりする おんだ
「仕付け縫いをしておかないと、しわがよったり、曲ったりするものだよ」

すっけあ [sükke] 酸っぱい。[同] すっぺあ。[及 28]

【例】 すっけあ おのあ すぎんねあくてな
「酸っぱい物は好きでなくてね」

すづげある [sütsüngerü] [下一自] 捻挫する。[続 188]

【例】 やま おりっずぎ、いすこさ つまずで、すづげあでしました
「山を下りる時、小石に躓いて、捻挫してしまったよ」

すづげる [südzügerü] [動] しつける。馴れている。[及 180]

【例】 ほの すごどだば おれあ すづげでる
「その仕事なら、私がしつけています」

ずっこ [dzükko] [名/ス他] 実行。[続 188]

【例】 なにごども、ええどもたら、ずっこしてみる ごどだな
「何事も、いいと思ったら、実行してみることだな」

すっこぬげる [sükkonügerü] [下一自] ずっこける。[続 188]

【例】 トラックの にもつあ すっこぬげさげあ もと ぎつつく すばれよ
「トラックの荷物が、ずっこけるから、もっときつく縛れよ」

ずっしゅー [dzüſſür:] [名/ス他] 実習。[続 188]

【例】 おれあえの まごむすめも、こんだ かんごふの ずっしゅー すんなだど
「うちの孫娘も、今度は、看護婦の実習をするんだそうだ」

すっずど [südddzüdo] [接] すると。[同] すっど。[続 188]

【例】 こうすんべ すっずど こげあ なんなよ
「こうするだろう、するとこうなるんだよ」
また、類語に「ほすっど。ほすっずど=そうすると」がある。

ずっせあ [dzüsse] [名] 実際。[及 180]

【例】 ずっせあ ひでえ よのながだ おんだ
「実際、ひどい世の中なもんだ」

すっそ しそ。しそ科の草本で、葉を梅漬(うめぼし)などに使い、実は漬物に入れる。[及 90]

【例】 すっそも さまざまに つかわれる おんだな
「しそもさまざまに使われるものだな」

すっそ 裾。[及 58]

【例】 へんたぐ すっずぎあ すっそ まぐれ
「洗濯をする時は裾をまくるんだよ」

すっそあれあ [sūssoare] 馬洗い。馬の体を洗うこと。[及 72]

【例】 んま すっそあれあすっさげあ 水 もて こえ
「馬を洗うから、水を持って来てくれ」

すっそなが 着物を着てもんべをはかない姿。[及 58]

【例】 すっそながで びろびろて ありぐ おんでねあ
「もんべもはかないで、ぶわぶわ歩くもんじゃないよ」

すっそぶね 箱舟。馬を洗う箱舟。[及 64]

【例】 すっそぶねさ 水 へっでくんねあが
「箱舟に水を入れてくれないか」

すっそます 裾回し。[及 58]

【例】 すっそますの あだり えっくん ぬえよ
「裾回しのあたりをよく縫うんですよ」

すってんにでん [副] すってんてん。[及 180]

【例】 かげ したべ ほしたら すってんにでん やらっでました
「賭をしたろう、そしたら、すってんてんにやられてしまったよ」

ずづのつづ [dzüdzünotsüdzü] 実父。実の父。[及 6]

【例】 おやじあ ずづのつづだども ががあ ままかがだ
「父親は実父だが、母は継母なんです」

この語の使い方には「ずづのあに一実兄」、「ずづのあね一実姉」、「ずづのいもと一実妹」、「ずづのおどと一実弟」、「ずづのきょうであ一実の兄弟、姉妹」、「ずづのはは一実母」などがある。

すっぱげる [süppagerü] [下一自] [強調] 禿げる。剥げる。禿げる、剥げるの強調語。[続 189]

【例 1】 おれあ あだまも すっぱげですまた
「私の頭も禿げてしまったよ」

【例 2】 やねの とそう すっぱげだは
「屋根の塗装が剥げてしまったよ」

すっぱね [名] はね。水や泥などの着物へのはね。[及 180]

【例】 はしっど すっぱねあ あがんど
「走ると、はねがあがるよ」

すっぺあ [süppe] [名／ス自] 失敗。[続 189]

【例】 すっぺあ おかねあがたら ないも でげねあべや
「失敗を恐れたら、何も出来ないじゃないか」

すっぺあ [süppe] 狡い。[同] ずれ。ずろえ。[及 28]

【例】 あの やろあ すっぺあ やろだ、しとんどご だましあがて
「あの野郎、狡い野郎だ、人をだましやがって」

すづや 質屋。[及 78]

【例】 おら すづやさなの よあ ねあおんだ
「俺は質屋になんか、用はないもんだ」

ずつんさい [dzütsünsai] 地鎮祭。[同] ずつんせあ。[続 189]

【例】 であずだ ずつんさいだおん、ええ ひ えらで すねあんねあな
「大事な地鎮祭だから、いい日を選んでしないといけないな」

すであ [sürⁿde] 次第。[続 189]

【例 1】 ほういう すでだはげあ たのむ
「そういう次第だから頼むよ」
【例 2】 すであ あたこぐ なてきたな
「次第に暖かくなってきたな」

ずてあ [dzüte] 図体。[同] かばね。らってあ。[続 189]

【例】 ずてあばり おっきども まだ わらすだ
「図体ばかり大きいが、まだ子供だよ」

ずであ 一 [dzürⁿde:] 時代。[続 189]

【例】 えまの よのなが おらだ わげあ ずであど すっかり かわてしまたな
「今の世の中は、俺達の若い時代とは、すっかり変ってしまったね」

ずであきり [dzüdekiri] [副] 全然。[同] であきり。[続 189]

【例】 なしてだべ たさ みずあ ずであきり こねあな
「どうしてだろう、田に水が全然こないな」

すてつと [副] すっかり。全部。[同] すかつと。[及 180]

【例】 しんしょ すてつと なぐしてしまた
「身上をすっかり失くしてしまった」

すてどご [süteⁿdogo] 捨て所。[続 189]

【例】 ごみの すてどごずあ きまてる おんだ ほんたどさ なげだて だめだ
「ごみの捨て所って決っているものだよ、そんな所へ捨てては駄目だよ」

ずでんしゃ 自転車。[同] じでんしゃ。[及 64]

【例】 ずでんしゃだば 車さ きいつけで えげよ

「自転車なら、気をつけて行きなさいよ」

ずど [dzũdo] [格助] と。[及 180]

【例】 雨あ ふっずど えぐねあはげあ かさ もて えげ
「雨が降るとわるいから、傘を持っていきなさい」

すどけねあ [sũ^odokẽã] [形] しどけない。[続 189]

【例】 ないだ、ほんた すどけねあ かつこして、おもできなの ではんなよ
「なんだ、そんなしどけない格好をして、外になんか出るなよ」

すどご [sũ^odogo] しどころ。[続 190]

【例】 しとさ いう めあん おわ すどご ちゃんと してがら ゆえ
「人にいう前に、自分のしどころをきちんとしてからいいなさい」

ずどしや [dzũ^odoʃã] 自動車。[及 64]

【例】 ずどしやて ずこあ ねあど え おんだども
「自動車って、事故がないと、いいものだが」

すどす [sũ^odosũ] 素通し。[続 190]

【例】 こごあ すどすだど おもでから めっさげあ くもりガラスあ えな
「此処は、素通しだと、外から見えるから、曇りガラスがいいね」

ずととと [dzũtotto] [副] じっとり。[続 190]

【例】 こごさ ふぎあ へあて きた おんだはげあ、ただみあ ずととと ぬったは
「此処へ吹雪が入ってきたものだから、量がじっとり濡れてしまったよ」

すな [sũna] しいな。よく実のらない糰。[続 190]

【例】 こどすあ あめばり ふてだ おんだはげあ、すなばり よげだな
「今年は、雨ばかり降っていたものだから、しいなばかり多いな」

すなあすび [sũnaasũbi] 砂遊び。[続 190]

【例】 わらしたずて まず すなあすび すぎた おんですちゆなや
「子供らってまあ、砂遊びが好きなものですわね」

すなおの [sũnaono] 品物。[続 190]

【例 1】 この やさいあ すなおのあ ええな
「この野菜は、品物がいいね」

【例 2】 デパートだば すなおのあ えっぺあ ある
「デパートなら、品物が沢山あるよ」

すなごぐ [sũnagogũ] [動] しごく。穂などからしごき取ること。[及 180]

【例】 ほの 粟 すなごぐなだ
「その粟、しごくんだ」

すなこどり かわせみ。水辺に棲み、小魚などを食べる小型の鳥。[及 90]

【例】 なしてだべ、近頃あ すなこどりも いねあぐなたな
「どうしてなんだろう、近頃はかわせみもいなくなったな」

すなこぼづ くるすずめばち。すずめばち科の蜂で、土中に巣を作り、人を刺す時は、衣類の中に入って刺す。[同] つづばづ。[及 90]

すなこむす うすばかげろうの幼虫。うすばかげろう科で、一名をありじごくという。[同] ほりこむす。[及 90]

すなごめ しいな。十分に実らない米。[及 41]

【例】 なんだが こどしあ すなごめあ うげあな
「どうしたのか、今年はしいなが多いな」

すなびる [動] しなびる。[及 180]

【例】 年あ年だおの すなびで すわばんだは
「年が年だもの、しなびて、皺ばかりになってしまったよ」

ずならず [dzünarasütü] 地均し。[続 190]

【例 1】 え たでっどご ずならずすんべ
「家を建てるところを、地均ししよう」

【例 2】 むらの しのの かんげあ ずならずすねあんねあな
「村の人の考えを地均ししなければならないな」

すにがげる [sünigagerü] [下一自] 死にかける。[続 190]

【例】 おかねあがった、がげがら おずで すにがげっどごであったおんや
「恐しかったよ、崖から落ちて、死にかけるところだったからな」

すにぞごねあー [süni^mdzogone:] 死に損ない。[続 190]

【例】 としよて、すにぞごねあなて、あぐであ つがえるまで いぎでいだぐねあな
「年取って、死に損ないなんて、悪態を吐かれるまで生きていたくないね」

すにてあーる [sünite:rü] [下一自] 死に絶える。[続 191]

【例】 ぜあさんかであったども、えまあ すにてあで だれも いねあでは
「財産家だったが、今は死に絶えて、もう誰もいなくなってしまったよ」

すぬ [動] 死ぬ。[及 180]

【例】 交通事故でや すぬどごであった
「交通事故でね、死ぬところだったよ」

ずぬす [dzünüsü] 地主。[続 191]

【例】 つしよ かりでる おんだはげあ、ずぬすさ しゃぐつりょう はらてんなよ
「土地を借りているもんだから、地主に借地料を払っているんだよ」

すねあ しない。うちけし助詞。[及 180]

【例】 ほんたごど すねあで こげあん すんなだ

「そんなことをしないで、こうするんだよ」

すねかずり [sünekaⁿdzürü] 脛かじり。[続 191]

【例】 これも おやの すねかずりであったども こんだ しゅうしゅぐしたは
「これも親の脛かじりだったが、今度はもう就職してしまった」

すねこぐれる [sünekogürerü] [下一自] ひねくれる。[続 191]

【例】 この わらすあ すねこぐって おれあ いうごどなの きがねあなよ
「この子は、ひねくれて、私のいうことなんかきかないんだよ」

すねこぐれる [sünekogürerü] [動] ひねくれる。すれっからしになる。[及 181]

【例】 あんまり ごしえでぱりいっど すねこぐれる おんだ
「あまり叱ってばかりいると、ひねくれるもんだよ」

すねばぎ [sünepañi] [卑称] 脛。脛の卑称。[続 191]

【例】 ないだ しのの めあさ すねばぎなの だして、ぶじよほだべあな
「なんだ人（客）の前に脛なんか出して、失礼じゃないか」

すのおの [sünoono] 酢の物。[続 191]

【例】 えしゃも すのおのあ からださ えはげあ けて ゆてんぜあ
「医者も、酢の物は、体にいいから食べるといっているよ」

すば 柴。[及 90]

【例】 胡瓜の てすばん する すば 伐てこねあんねあな
「胡瓜の手柴にする柴を伐らないといけないな」

すばえあ [sübae] 素早い。[及 28]

【例】 おぼごだづも ながなが すばえあ おんだ
「子供達も、なかなか素早いもんだ」

すばきり [sübakiri] 柴刈り。[続 191]

【例】 おれあえの つあつあだば てすば おすどて やまさ すばきりん えた
「うちのお父さんなら、手柴（野菜の支柱）が欲しいって、山へ柴刈りに行ったよ」

すぱっと [副] すっぱり。[及 181]

【例】 この 木、すぱっと きてしまえ
「この木をすっぱり伐ってしまえよ」

ずぱっと [dzübatto] [副] ずぱりと。[続 191]

【例 1】 この き ずぱっと きた
「この木をずぱりと伐った」

【例 2】 いであごど ずぱっと いう おんだ
「痛い事をずぱりというもんだ」

すばや [名] 芝居。[同] すべあ。すんべあ。[及 181]

【例】 こんだ すばや かがっど みんな えぐべや
「今度、芝居が掛かるそう、見に行こうや」

ずばら [dzübara] 自腹。[続 191]

【例】 この さげあ ○○さんが ずばら きて おごてくっだあだど
「この酒は、○○さんが自腹を切って、おごってくれたんだそうだ」

すばらぐ [sübaragü] [副] 暫く。[及 181]

【例】 やあ すばらぐだな
「やあ しばらくだね」

すはれあー [sühare:] 支払い。[続 191]

【例】 きょうしゅずした こめの であきん、きょう すはれあしてくえっど
「供出した米の代金を、今日支払してくれるそうだ」

すび [sübi] [名] 術。方法。[及 181]

【例】 この きっけあ まわす すび おへろや
「この機械を回す方法を教えろよ」

ずびぎ [dzübigi] 字引。辞典。[続 192]

【例】 ○○ちゃん、すらねあ かんず あんなが、ほんであ ずびぎ ひでみる
「○○ちゃん、知らない漢字があるの、それじゃ字引をひいてみなさい」

ずひず [dzühidzü] 自筆。[続 192]

【例】 この しよるいさ、じゅうしょど すめい ずひずで かくなだど
「この書類に、住所と氏名を自筆で書くんぞうだ」

すびた [süpita] 蓆。柿の蓆をいう。[続 192]

【例】 ほの かぎ くら すびた ごみばごさ へれろよ
「その柿を食べたら、蓆はごみ箱に入れなさいよ」

ずびだ [dzüvida] 地べた。[続 192]

【例】 ずびださ ねまっど ふぐあ よごれっさげあ ないが すで ねまれよ
「地べたへ坐ると、服が汚れるから、何か敷いて坐りなさいよ」

ずびよー [dzübjō:] 持病。[続 192]

【例】 まだ ずびよー おぎだなが、ほれだば えしゃさ えがねあば だめだ
「また持病が起きたのかい、それなら医者に行かないといけないな」

すびれ [sübiŕe] [名] しびれ。[及 181]

【例】 あすあ すびっで えごがさんねあ
「足がしびれて、動かされないよ」

すびれる [sübiŕerü] [下一自] 痺れる。[続 192]

【例】 おれあ ひじゃ つぐど そんな あすあ すびれんなよ

「私は、ひぎをつくと、直きに足が痺れるんだよ」

すぶ [名] 渋。[及 281]

【例】 この かぎあ まだ すぶあ とんねあな
「この柿は、まだ、渋がとれないな」

すぶえ [形] 渋い。[同] すぶぐれつら。[及 181]

【例】 ほんげ すぶえ つら すんなや
「そんなに渋い顔をするなよ」

すぶえ 渋い。[及 28]

【例】 この かぎあ まだ すぶえな
「この柿はまだ渋いな」

すふぐ [süfũgũ] [名/ス他] 修復。修理。[続 192]

【例】 おめあの ほの きっだ シャツつ よごへ、すふぐしてくえっさげあ
「お前の、その切れたシャツをよこさない、修復してやるから」

ずぶくぐり [dzübüküñgüri] [動] もぐる。水にもぐる。[及 181]

【例】 おめあ ずぶくぐり でげっがや
「君、水にもぐれるかい」

ずぶつと [dzübüütto] [副] ずぶりと。[続 192]

【例】 かだゆぎわたり したたば やっこえ どご あて ずぶつと ぬがたけ
「堅雪渡りをしていたら、軟らかい所があって、ずぶりとぬかったっけ」

すぶでー [sübüde:] [形] しぶとい。[同] すぶどえ。[続 192]

【例】 いずまで ごうじょ はてんなだ、すぶでー やろだ ごど
「何時まで強情を張っているんだ、しぶとい野郎だこと」

ずぶでえ [dzübüde:] 図太い。しぶとい。[同] ずぶどえ。どぶどえ。どぶどこえ。[及 28]

【例】 こげあた ずぶてえ やづも いねあ おんだ
「こんな図太い奴もいないもんだ」

ずふぶぎ [dzüfũbügi] 地吹雪。地吹雪は、この地方では、山稜で吹くこともあるが、里では吹かず、荘内地方で有名な吹雪である。[続 193]

すふろ 据え風呂。風呂。[及 50]

【例】 すふろ わえっだが
「風呂、沸いているかい」

ずぶん [名] 時分。時。頃。[及 181]

【例 1】 えま なんぼずぶん だべ
「今、何時頃だろう」

【例 2】 えまずぶんあ ○○まで えたべは

「今時分は、もう〇〇まで行ったろうよ」

【例3】 ねずぶんだぞは

「もう、寝時分だよ」

すべあ [sübe] 灰土。炭がまから出した炭の火を消すためにかぶせる、灰と土を混ぜたもの。[及72]

ずへずがら [dzühędzügara] 時節柄。[続193]

【例】 こういう ずへずがらだおん、ぶらぐの よさんも けんやくすんべや

「こういう時節柄だから、部落の予算も儉約しようや」

ずへづ [dzüçędzü] [名] 時節。季節。[及181]

【例】 はやぐ あたこえ ずへづん ならねあがな

「早く暖かい季節にならないかな」

すべらこ 雪の滑り台。[及104]

【例】 〇〇ちゃん すべらこ こしえで あすばねが

「〇〇ちゃん、雪の滑り台を作って遊ばないか」

すべらこのり [süberakonori] 雪の滑り台乗り。これは、雪で作った滑り台で、滑って遊ぶことをいう。今はスキーで遊び、雪の滑り台で遊ぶ子供はいなくなった。[続193]

すべりであー [süberide:] 滑り台。[続193]

【例】 わらしたずあ すべりであずおの まず えぐ すぎだ おんだ

「子供らって、滑り台というものを、まあよく好きなもんだ」

すほ [süho] 四方。[続193]

【例】 わらび とるたて すほさ まなぐ くばて とらねあんねあ おんだ

「わらびを採るにしても、四方へ目を配って採らないといけないものだよ」

ずほ [名] うそ。[及181]

【例】 まだ ずほ こえだな

「また、うそをついたな」

また、うそをつくことを、「こぐ」、「まげる」といい、この強調語に「ぶんぬぐ」がある。なお、うそつきは、「ずほこぎ」といつている。

ずほこ [dzühoko] 賭の真似ごと。子供の遊び。これは、本当の賭ごとではなく、賭の真似ごとをいい、本当に賭をするのは、めんこなどで行い、実際にやり取りをし、これを「ほんこ」といつている。[続193]

すぽっと [副] すっぱり。[及181]

【例】 ゆぎさ すぽっと んまでだけは

「雪にすっぱり埋まってしまっていたつけ」

すぽっと [süpotto] [副] すっぱり。[続193]

【例 1】すぼっと かぶる

「すっぼり被る」

【例 2】すぼっと つずむ

「すっぼり包む」

【例 3】すぼっと ぬげる

「すっぼり抜ける」

すほであ [süho^ode] 仕放題。[続 193]

【例】 おめあ すほであの ごど したら、えの しだずあ なんずして くらすや

「お前が仕放題のことをしたら、家の人達はどうして暮すの」

ずほまげる [dzühomagerü] 嘘を吐く。[同] ずほこぐ。[続 193]

【例】 ずほ まげっどな おにに した ぬがえっさげあ ずほ まげらんねあぞ

「嘘を吐くとね、鬼に舌を抜かれるから、嘘は吐かれないよ」

すまがらねあ [sümagarane] [動] もてあます。[及 182]

【例】 栗 すまがらねあくれあ ひろた

「栗をもてあます程拾ったよ」

すまこ [名] 隅。[及 182]

【例】 本だば ほの すまこに ある

「本なら、その隅にあるよ」

すますずる すまし汁。塩とか醤油で薄味をつけたお汁。[及 41]

【例】 なめこど、にわどりでも へっで、すますずる つぐれ

「なめこど鶏でも入れて、すまし汁を作りなさい」

すますもず [sümasümodzü] 雑煮。雑煮餅。[続 193]

【例】 これあ すますもず すぎで もず つぐど すますもずばり くてんなだ

「これは、雑煮が好きで、餅を搗くと、雑煮餅ばかり食べているんだ」

すまねあ [sümane] [連語] 済まない。[続 194]

【例 1】 ほんたごど しておえで、ほれであ すまねあべ

「そんなことをしておいて、それでは済まないだろう」

【例 2】 まだ こっつの ようずあ すまねあだ

「まだ、こっちの用事が済まないんだよ」

すまびつき [sümaßikkü] とのさまがえる。[続 194]

【例】 どころ きたべ、たなげの そばに すまびつきあ いたじゅは

「何処から来たんだろう、池の側にとのさまがえるがいるよ」

すまぶり [sümaßüri] 宴会などで最後まで居残った者。この語は、本来は、鳥の雛が巣立つ時、最後に飛び立つものをいったが、それになぞらえて、酒宴で最後まで居残った者をいうようになった

た。[続 194]

すまへる [sūmaherū] [下一他] 済ませる。[続 194]

【例 1】 この すごど きょうじゅうん すまへんべ

「この仕事は、今日中に済ませよう」

【例 2】 これ ぼこして ほんたごど すまへらんねあべ

「これをこわして、そんなことで済ませられないだろう」

すまりゆぎ [sūmarijūgi] 締り雪。これは、吹雪などで圧雪されたり、気温が割に高くなった時、積雪が締った状態になったものをいい、握りやすい雪である。[続 194]

ずまん [dzūman] [名/ス他] 自慢。[続 194]

【例】 えあずど はなす すてっど すぐ おわ ずまんばり すんなだ

「あいつと話をしていると、直ぐ自分の自慢ばかりするんだ」

ずみず [dzūmidzū] [名/ダナ] 地道。[続 194]

【例】 ひやくしよあ ずみずだ すごどだども おれあ すぎだな

「百姓は、地道な仕事だが、私は好きだな」

すみずぐ [sūmidzūgū] [四自] 凍り付く。[続 194]

【例】 あんまり ひしえる おんだはげあ すいどうの せん すみずでしまたは

「余り冷えるものだから、水道の栓が凍り付いてしまったよ」

すみすぬ [sūmisūnū] 凍死する。[続 194]

【例】 こんた ひでえ ふぎの ふぐ ずぎ やまさなの えぐど すみすぬんだはげあ

「こんなひどい吹雪の吹く時山へなんか行くと、凍死するんだから」

すみだら 炭俵。[同] すみだづ。[及 64]

【例】 すみだらて かやで あだおのが

「炭俵って、かやで編んだものかい」

すみであごん [sūmidēgon] 凍り大根。大根を氷らせ乾燥したもの。[及 42]

【例】 煮おのさ すみであごんも へでころ

「煮付ものに、凍り大根も入れて下さい」

また、凍り豆腐を「すみどうふ」といっている。

すみる [動] しみる。傷に薬などのしみること。[同] しもう。[及 182]

【例】 この くそりあ めっぼ すみるな

「この薬は、めっぼうしみるね」

すめあ [sūme] [名] まぎわ。際。がけ。しな。[及 182]

【例 1】 けありすめあん なてわすれおの おもい出したなよ

「帰へるまぎわになって、忘れ物を思い出したんだよ」

【例 2】 えぎしめあん ○○の えさ これ おえで えてころ

「行きがけに〇〇の家に、これを置いていってくれ」

【例3】 けありすめあん よてころ

「帰へりしなに寄ってくれ」

すめあー [süme:] 仕舞。[続 195]

【例1】 きょうの すごどあ これで おすめあに すんべ

「今日の仕事は、これでお仕舞にしよう」

【例2】 えぐべどもてあったども どうどう ゆがず ずめあであったな

「行こうと思ったんだったが、どうどう行かず仕舞だったな」

すめくぐり [süme:kügürü] 締め括り。[続 195]

【例】 そうだんも まどまはげあ、これで すめくぐりん すんべ

「相談も纏まったから、これで締め括りにしよう」

すめす [名] 示し。[及 182]

【例】 ほんたごどで すめすあ つぐ おんでねあ

「そんなことで、示しがつくものじゃないよ」

すめすあへる [süme:süaherü] [下一他] 示し合わせる。[続 195]

【例】 〇〇だ、すめすあへで はんてあする おんだはげあ、はなすあ まどまらねあがった

「〇〇達が、示し合わせて反対するものだから、話は纏まらなかった」

すめぼえ [süme:po:] [形] 湿っぽい。[同] すめっぼえ。[続 195]

【例】 この シャツあ まだ すめぼえはげあ、ほして おえてころ

「このシャツは、まだ湿っぽいから、干しておいてくれ」

すめらへる [動] 湿らす。[及 182]

【例】 海苔ずあ すめらへる おんでねあ

「海苔というものは、湿らすもんじゃないよ」

すめりゆぎ [süme:rijügü] 湿り雪。これは、割合気温の高い12月や3月頃に降る、湿り気の高い雪をいう。[続 195]

すめる [動] 捕まえる。[及 182]

【例】 ほの ちゃこ すめっど 毛あ ぬげんぞ

「その猫を捕まえると、毛が抜けるよ」

ずめん [dzüme:n] 地面。[続 195]

【例】 とおりあめだ おんだはげあ ほんとの ずめんはんて ぬっでねあ

「通り雨なものだから、ほんの地面だけしか濡れていないよ」

すも [名] 下。下流。[及 182]

【例】 すもの ほさ ながって えたけは

「下の方に流れていってしまったつけ」

また、下方を「すもかだ」といつている。

すも [sümo] 霜。[続 195]

【例】 さみどもたら、おもであ いずめんの すもだおん さみはずだ
「寒いと思ったら、外はいちめんの霜だもの、寒い筈だよ」

○
すも [名] 相撲。[及 182]

【例】 すも みんな えご
「相撲を見に行こう」

すもぎ [名] 下座。末座。[及 182]

【例】 ほつつあ すもぎだはげあ こっちゃ ねまてころ
「そっちは、下座ですから、こっちへ座って下さい」

すもとり 相撲とり。相撲。[及 78]

【例】 おめあ すもとり なたら えんねあが
「お前、相撲とりになったらいいじゃないか」

すもばすら [sümobasüra] 霜柱。[続 195]

【例】 そろそろ ゆぎだなは、すもばすら たずよん なた おん
「もうそろそろ雪だね、霜柱が立つようになったもの」

すもやげ [sümojage] 霜焼け。[続 195]

【例】 みずすごどばり してる おんだはげあ、てさ すもやげあ でげだは
「水仕事ばかりしているものだから、手に霜焼けが出来てしまったよ」

すやす しやすい。[及 182]

【例】 ほれあ こげあ すっど すやす おんだ
「それは、こうするとしやすいものだよ」
この反対の語に、「すずれあーしにくい」がある。

ずゆーずぜあー [dzüjü:dzü'dze:] [名/ダナ] 自由自在。[続 196]

【例】 くるまの うんてんも つかごろあ なれで ずゆーずぜあーだは
「車の運転も、近頃は馴れて、もう自由自在だよ」

ずら [名] 房。[及 182]

【例】 ほの ぶんど しとずら くんねあが
「その葡萄を一房ください」

すらが [süraŋa] 白髪。[続 196]

【例】 としよた おんだ あだま すらがん なて まっすろだは
「年を取ったものだよ、頭は白髪になって、もう真っ白だよ」

すらがあだま [süraŋaadama] 白髪頭。[同] すらがぼっけ。[続 196]

【例】 おれも いずのまにが すらがあだまん なてしまたは

「私も、何時の間にか白髪頭になってしまったよ」

すらがべ [süragabe] 白壁。[続 196]

【例】 せんそうちゆうあ すらがべあ めだずどて くろぐ ぬらへらっだおんだ
「戦争中は、白壁は目立つとって、黒く塗らされたものだよ」

すらぐぼ [süragübo] 白雲。頭の皮膚病。[続 196]

【例】 おめあの あだま すらぐぼだな かみのけあ ぬげで きた おん
「お前の頭は、白雲だな、髪の毛が脱げてきたもの」

すらずすらず [süra^adzüsüra^adzü] [連語] 知らず知らず。[続 196]

【例】 ひやくしょも、おやずの すんなみでで すらずすらず おべたあだ
「百姓も、親父のするのを見ていて、知らず知らず覚えたんだ」

すらずらあげ [süra^adzüraage] 白白明け。[続 196]

【例】 こねあだ、〇〇さんさ すらずらあげん のぼて、ごれあご おがで きた
「この間、〇〇山に白白明けに登って、ご来光を拜んできたよ」

すらずらす [süra^adzürasü] [形] 白白しい。[続 196]

【例】 めすだ おへず えぐ すらずらすぐ ゆえる おんだ
「見え透いたお世辞を、よくも白白しく言えるもんだよ」

ずらっと [副] ずらりと。並らぶさま。[及 182]

【例】 消防手あ ずらっと 並んだけ
「消防手が、ずらりと並んでいたつけ」

ずらっと [名] 知らん振り。[同] すらねあふり。[及 183]

【例】 ずらっとして へんずも しねあけ
「知らん振りして、返事もしなかった」

ずらっと [dzüratto] 聞えていても返事をしないこと。[続 196]

【例】 つあつあ よばてんに ずらっとしてる ごどあ あんめあな
「お父さんが呼んでいるのに、返事もしないということはないじゃないか」

すらねあつら [süranetsüra] 知らん顔。[続 196]

【例】 ほんた ずぎあ すらねあ つら してんな いずばん え おんだ
「そんな時は、知らん顔をしているのが、一番いいもんだよ」

すらねあふり [süraneφürü] 知らん振り。[続 197]

【例】 おれあ よばたて、すらねあ ふりして、へんずも しねあ おんだ
「私が呼んでも、知らん振りして、返事もしないもんだ」

すらばつける [sürapätsükerü] 寒さのために、顔色が白くなること。お互いの話が合わず白
白しい気持になること。[続 197]

【例 1】 ふぎん ふがって さむくて さむくて、つら すらばつけだは

「吹雪に吹かれて、寒くて寒くて顔が白くなってしまったよ」

【例2】 あんまり きずごど いう おんではげあ しらぼついで はなすん ならね

「余りきついことをいうものだから、白白い気持になって、話にならなくなってしまったよ」

すらへ [sūraçɛ] [名] 知らせ。死亡通知。[及 183]

【例1】 あれあ むすのすらへず おんだべ

「あれが虫の知らせ、というものだろう」

【例2】 ○○どさも すらへ やてころ

「○○にも、死亡の知らせをやってくれ」

すらべおの [sūrabəono] 調べ物。[続 197]

【例】 えま すらべおの してで えそがすくて えがんねあ

「今調べ物をしていて、忙しくて行けないよ」

すらへる [sūrahərü] [下一他] 知らせる。[続 197]

【例】 ずさまの きじゅだおん、こどもだずさ すらへで ゆわえあこど すんべ

「お爺さんの喜寿だから、子供達に知らせて、お祝いをしよう」

すらみ 虱。[及 91]

【例】 DDT つかうよん なてがら、すらみあ いねあぐ なたなは

「DDTを使うようになってからは、虱はいなくなってしまったな」

すりえあー [sürie:] 知り合い。[続 197]

【例】 すりえあーの しとあ にゆういんしたつけはげあ かだがて くっごごだ

「知り合いの人が、入院したそうだから、見舞って来るところなんだ」

すりげある [sürigerü] [下一他] 摩り替える。[続 197]

【例】 おわ しておえて しとの へん すりげあだて だめだべや

「自分がしておいて、人の所爲に摩り替えたって駄目じゃないか」

すりすこみ [sürisükomi] 尻引っ込み。[同] すりひこみ。[続 197]

【例】 ほんげあ すりすこみしねあで この やぐ ひぎうげろ

「そんなに尻引っ込みしないで、この役を引き受けろよ」

ずりずり [dzürüdzürü] [副] じりじり。[続 197]

【例1】 うんどうかいで ずりずり こした

「運動会で、じりじり越した」

【例2】 きょうあ ずりずり あつがった

「今日はじりじり暑つかったね」

【例3】 はげあくて ずりずりしてくる

「齒痒くてじりじりしてくる」

する [動] 剃る。[及 183]

【例】 ひげでも するんだ
「ひげでも剃りなさいよ」

するえ [動] される。やれる。[及 183]

【例】 ほれだば おれだて するえ
「それなら、俺だってやれる」

この語は、「さえる」とも使い、「さえっごったらーやれるなら」、「すっであーやるよ」、「やっがーやるか」などの使い方がある。

するす [sürüsü] 摺り臼。挽き臼。これは、稲を挽いて粃殻をとったり、米などを摺って粉にしたりするものをいう。[続 198]

するす [sürüsü] 印。[続 198]

【例 1】 これあ ほんとの するすばりです
「これはほんの印ばかりです」

【例 2】 あどさ のごるよん するす けあだ
「後に残るようにしるしを書いた」

【例 3】 おおゆぎあ ほうさぐの するすだ
「大雪は豊作のしるしだよ」

【例 4】 えぐなる するすあ めで きた
「よくなるしるしが見えてきた」

ずるすけ [dzürüsüke] 狡猾な者をいう。狡い奴。[続 198]

【例】 この ずるすけあ まだ ほどげさまがら おがす ちよろまがして えたな
「この狡い奴が、また仏さまからお菓子をちよろまかして行ったな」

するっと [sürütto] [副] するりと。[続 198]

【例】 ぬっだ コップだおんだはげあ するっと おどして わてしたなよは
「濡れたコップなものだから、するりと落として割ってしまったんだよ」

ずるっと [dzürütto] 始終。何時も。[同] いつも。[続 198]

【例】 となりの ばさまだば ずるっと おれあえさ あすびん くんнад
「隣りのお婆さんなら、始終うちへ遊びに来るんだ」

ずるばる [動] いぎる。座ったまま進む。[及 281]

【例】 ほんげ ずるばる おんでねあ
「そんなにいぎるもんじゃないよ」

ずれ [形] 狡い。[及 183]

【例】 この やろあ ずれ やろだ
「この野郎は、ずるい野郎だ」

すれくせあ [sürekküse] すえくさい。[同] すえくせあ。[及 29]

【例】 この さがな すれくせあくて かんねあな
「この魚はすえくさくて食べられないね」

ずれってあー [dzürette:] [形] 焦れたい。[続 198]

【例】 ずれってあーごど、この えそがす すぎ まだ けあて かねあなが
「焦れたいこと、この忙しい時に、まだ帰って来ないのかい」

すれる [動] すえる。食べ物が腐ること。[及 42]

【例】 すれる おのあ 冷蔵庫さ へっで おげよ
「すえる物は冷蔵庫に入れておきなさいよ」

ずろえ [dzüroë] [形] 狡い。[同] ずれ。ずろえ。[続 198]

【例】 ずろえ おんで おわえの たさばり みず かげんなだぜあ
「狡いもので、自分のうちの田にばかり水を掛けるんだよ」

すろおの [süroono] 代物。[続 198]

【例】 この すろおのだば きんねあくて だめだ、もと きれんな ねあなが
「この代物なら、切れなくて駄目だよ、もっと切れるのはないのか」

ずろずろ [dzürodzüro] [副] じろじろ。[続 199]

【例】 しとの つら ほんげあ ずろずろ みんなや ないが つっだなが
「人の顔を、そんなにじろじろ見るなよ、何か付いているのかい」

ずろっと [dzürotto] [副] じろりと。[続 199]

【例】 なに きにかねあ おんだが、しとの つら ずろっと ならめる おんだ
「何が気に入らないものなのか、人の顔をじろりと睨めるもんだ」

すろど [sürodo] 素人。[続 199]

【例】 これだば とでも すろどの つくた おのどあ おもわんねあな
「これならとても素人の作ったものとは思われないな」

すろぼす [süroposü] [形] 白っぽい。[続 199]

【例】 やまさ えぐなだば、よごれっさげあ、すろぼす おのんねあぐ きて えげよ
「山へ行くのなら、汚れるから、白っぽい物でなく着て行きなさいよ」

すろみづ [名] 研ぎ汁。米の研ぎ汁。[及 183]

【例】 すろみづあ えっくん ながへよ
「米の研ぎ汁は、よく流しなさいよ」

すわけ [sürwage] 仕分け。[続 199]

【例】 いずばさ だすなだはげあ ええなど わりな すわけして おげよ
「市場に出すんだから、いいのと悪いのを仕分けしておきなさいよ」

すわすわ [副] しずしず。しとやかなこと。[及 183]

【例】 むがさりん ずぎ、嫁あ すわすわど 出はて 来たけ
「結婚式の時、嫁さんが、しずしずと出て来たつけ」

ずわすわ [dzürwadzürwa] [副] じわじわ。[続 199]

【例 1】 ほれ にんなだば ずわすわど ずがん かげで にろよ
「それを煮るのなら、じわじわと時間をかけて煮るんだよ」

【例 2】 いずのこめあが かねあ ずわすわど ねあぐなる おんだな
「何時の間にか、金がじわじわとなくなるもんだね」

すわた 据った。[及 183]

すわっだ 吸われた。[及 183]

すわぶぎ [sürwabügi] しわぶぎ。[同] しゃぶぎ。[続 199]

【例】 ずさま すわぶぎ するな、かじえでも ひだあだべが
「お爺さんが、しわぶぎをするね、風邪でも引いたんだろうか」

すわよへ [sürwajohe] 皺寄せ。[続 199]

【例】 まずの よさん たんねあぐなっど、ほの すわよへあ みな ちょうみんさ くんべ
「町の予算が足りなくなると、その皺寄せはみな町民にくるだろう」

すわる [動] 熟す。西瓜の熟すこと。[及 91]

【例】 この せえがん まだ すわらねあな
「この西瓜はまだ熟さないな」

ずんぎ [dzünŋi] [名] 遠慮。[及 183]

【例】 えっぺあ あんなだはげあ ずんぎしねあで もて えてころ
「沢山あるんだから、遠慮しないで持って行って下さい」

ずんぎり [dzünŋiri] 刻煙草入れ。かますに同じ。[及 50]

ずんぐ [dzünŋü] 上棟式。[続 199]

【例】 ○○にずあ おれあえの ずんぐだはげあ きてくんねあが
「○○日は、うちの上棟式だから、来てくれませんか」

すんげあー [sünŋe:] [ナ名ノ] 心外。[続 200]

【例】 あの しとあ あんたごど するなて、すんげあであったな
「あの人が、あんなことをするなんて、心外だったな」

すんけすず [sünkešüdzü] 神経質。[続 200]

【例】 ○○さんだば、すんけすずだはげあ、すこすの ごど きさかげんなだ
「○○さんなら、神経質だから、少しのことを気にかけるんだ」

すんけたがり [sünkeṭagari] 精神異状。精神病。[及 15]

【例】 ○○あ、すんけたがりん などど
「○○は、精神病にかかったそうだ」

この語は、精神異状者にも使っている。

すんけつ 神経痛。[及 15]

【例】 としょたば すんけつまで おぎできたは
「年をとったら、神経痛までおきてきたよ」

ずんけん [dzüñkɛŋ] 人造絹糸。人絹。[続 200]

【例】 ずんけんなんて やすぼえ おの えまだば きる しとあ いねあなは
「人絹なんて安っぽいものを、今ならもう着る人がいないね」

すんさず [süñsadzü] [名/ス他] 診察。[続 200]

【例】 ぐえあ わりごったら、えしゃさ えて、はえあぐ すんさずして もらえ
「具合が悪いのなら、医者へ行って、早く診察してもらいなさい」

すんじえる [süñdzɛrü] [動] あげる。進呈する。くれるの敬語。[及 183]

【例】 これ、あんださ すんじえあす
「これ、あなたにあげます」

すんしよもず [süñʃomodzü] 身上持ち。[続 200]

【例】 としょたば、すんしよもず やだぐ なたはげあ、むすこさ ゆつたは
「年を取ったら、身上持ちが嫌になったから、もう息子に譲ってしまったよ」

すんずん [süñⁿdzüñ] [名/ス他] 信心。[続 200]

【例】 としよりん なつど、めつぼ すんずんぶげあぐなる おんだな
「年寄りになると、滅法信心深くなるもんだね」

すんせぎ 親戚。親類。[及 6]

【例】 こねあだ 大阪の すんせぎの しとあ 来たけ
「この間、大阪の親戚の人が来たつけ」

この語は「えつけ」、「えつけなが」、「おやぐ」、「おやぐまぎ」、「まきかだ」、「ながなが」、「まぎ」などの呼び方があり、また、「まぎ」、「まきかだ」は一族ということにも使っている。

ずんぞさま [dzüñⁿdzosama] 地蔵さま。[続 200]

【例】 きょうあ ずんぞさまの おどすこすだはげあ、おめありして きた
「今日は、地蔵さまのお年越しだから、お参りして来た」

ずんつー [dzüñtsü:] 陣痛。[続 200]

【例】 ずんつーあ はすまできたおん、いよいよ なすどごだべ
「陣痛が始まってきたから、いよいよ産むところだろうよ」

すんであ [名] 次第。[及 183]

【例】 あの 山あ えぎすんであ きづなだけ
「あの山は行き次第にきついんだつけ」

すんであ [süñde] [名] 身代。身上。財産。[及 281]

【例】 こんだ すんであ 息子さ ゆったどは
「今度は、身代を息子にゆずってしまったそうだよ」

すんであ [sũnⁿdɛ] 次第。この語は、順次、段段といった意味にだけ使う語である。[続 200]

【例】 えぎすんであ
「行き次第に」

すんでん [sũnⁿdɛn] 〔副〕 既に。[続 200]

【例】 あぶらなべさ ひん へあらって すんでん かずん なっどごであったや
「油鍋に火に入られて、既に火事になるところだったよ」

すんと 〔副〕 そっくり。[及 183]

【例】 すんと あだらすな たでは
「そっくり新しいのを建ててしまうよ」

ずんと [dzũnto] 〔副〕 じいんと。[続 201]

【例】 ほういう やさす ごど ゆわえっど、うれすくて むねさ ずんと くるな
「そういう優しいことをいわれると、嬉しくて胸にじいんと来るね」

ずんとり 〔名〕 陣取り。子供の遊び。[及 183]

【例】 ○○さんも ずんとり すねあが
「○○さんも、陣取りをしませんか」

ずんぬげる [dzũnnũgɛrũ] 〔下一自〕 図抜ける。[続 201]

【例】 はすりくれあごだば ○○ちゃんが ずんぬげで はえあな
「かけっこなら○○ちゃんが図抜けて早いね」

すんぶん 〔名〕 新聞。[及 184]

【例】 すんぶん とてねあ えも あんぜあ
「新聞をとってない家もあるよ」

すんぶんや 新聞配達。[及 78]

【例】 こんだ すんぶんや かわたな
「今度、新聞配達が代ったな」

すんぺ [sũnpɛ] 梢。[及 91]

【例】 ほけちょあ こぶすの すんぺで ねあっだけ
「鶯がこぶしの梢でさえずっていたつけ」

すんべあ [sũnbe] 芝居。〔同〕 すばや。[続 201]

【例】 すんべあ かがるつけあ みんな えぐべや
「芝居が掛かるそうだから、見に行こうや」

すんぺあ [sũnpɛ] 〔ナ名ノ／ス自他〕 心配。[続 201]

【例 1】 ががつかあ ぐえあ えぐねあくて すんぺあだな

「お母さんが具合悪くて心配だね」

【例2】 きっぷの すんぺあまでして もらてな

「切符の心配までしてもらってね」

すんへづ [sünçedzū] [名] 親切。[及184]

【例】 おれあえの わらしたづあ すんへづして もらて

「うちの子供らが親切にして頂いて」

すんぼ [sünbo] [名/ス自] 辛抱。[続201]

【例】 わらしたづあ えっちよめあん なるまで すんぼすねあんねあべ

「子供らが一人前になるまで辛抱しないとイケないだろう」

すんめあ [sünme] [名] 新前。初心者。[及184]

【例】 これあまだ、まだ すんめあだおん

「こいつは、まだ新前なんですよ」

すんめす [sünmešü] おしめ。おむつ。[続201]

【例】 この わらすも すんめすあ とれるよん なっど らぐだどもな

「この子も、おしめが取れるようになると楽なんだがね」

— せ —

せ [名] じゃんけん。[及 184]

- 【例】 せして かった おのあ とんべ
 「じゃんけんして、勝った者が取ろうよ」
 また、じゃんけんぽんを「せっせせ」という。

～**せあ** [～se] [助詞] さえ。[続 202]

- 【例 1】 おめあせあ
 「お前さえ」
 【例 2】 これせあ
 「これさえ」
 【例 3】 あめせあ
 「雨さえ」
 【例 4】 てんきせあ
 「天気さえ」
 【例 5】 ごご かりせあ すっど
 「ここを刈りさえすれば」

せあ [とりたて助動] さえ。[及 184]

- 【例】 てんきせあ えがったらな
 「天気さえよかったらね」

せあ [se] おかず。お菓。[及 42]

- 【例】 がが、べんどの せあ あげあところ へでころ
 「お母さん、弁当のおかずに、鮭を入れて下さい」

ぜあ [間助] よ。[及 184]

- 【例】 あめあ ふて来たぜあ
 「雨が降って来たよ」

ぜあ [名] ざい。在。在郷。田舎。[同] ぜあご。[及 184]

- 【例】 あれあ ぜあがら 来た おんだな
 「あいつは、在から来た者だな」

ぜああがり [dʒe:agari (dʒe'aŋari?)] 流水が溢れること。[及 104]

【例】 ゆぎしろで にわさまで ぜああがりして きたじゅ
「雪代（雪解け水）で、土間まで水が溢れて来たよ」

せあーぐ [se:gü] [名/ス他] 細工。[続 202]

【例 1】 まだだびの つるで せあーぐしたなも ながなが え おんだな
「またたびの蔓で細工をしたのも、なかなかいいもんだな」

【例 2】 おわ つご ええよん せあーぐ したあだべ
「自分の都合のいいように細工をしたんだろう」

せあーご [se:ŋo] 最後。[続 202]

【例 1】 ずさまの せあーごあ ねぶるよん えて であおおじよであった
「お爺さんの最後は、眠るように逝って、大往生だったよ」

【例 2】 うんどうかいで、おれあえんな せあーごだけ
「運動会で、うちの子は最後だったよ」

せあーこー [se:ko:] 最高。[続 202]

【例】 おれあえの ざすぎがら さがりの もみず みんな せあーこだな
「うちの座敷から、盛りの紅葉を見るのが最高だな」

ぜあーごたろ [dze:ŋotaro] 田舎者。[続 202]

【例】 おらだどご ぜあーごたろて いうども おらだ つくた こめ くてんなだべや
「俺達を田舎者というが、俺達の作った米を食べているのだろうや」

せあーころ [se:koro] 賽子。[続 202]

【例】 にいちゃん すごろぐ すっさげあ せあーころ だしてころや
「兄ちゃん、双六をするから、賽子を出してくれよ」

ぜあーさん [dze:san] 財産。[続 202]

【例】 この ぜあーさん おやゆずりだはげあ であずん まぶて えがねあんねあな
「この財産は、親譲りだから、大事に守っていかないといけないな」

ぜあーさんか [dze:sanka] 財産家。[続 202]

【例】 こごらあたりで ぜあーさんかてゆえば、〇〇さん えだべな
「ここらあたりで財産家といえは、〇〇さんの家だろうな」

せあーしよ [se:jo] 最初。[続 203]

【例】 ひやくしよすごども せあーしよあ くろしたども こんだ なれだは
「百姓仕事も、最初は苦労したが、今度はもう馴れてしまったよ」

ぜあーすず [dze:südzü] 材質。[続 203]

【例】 ぜあーすずの やっこえ きてゆえば、んだな、ほんぬ ぎどが、かずらだべな
「材質の軟らかい木といえは、そうだな、朴の木とか、桂だろうな」

せあーそぐ [se:sogü] [名/ス他] 催促。[続 203]

【例】 ちゅうもんした しなおの ええであ もて くっずあねあ せあーそぐしてみろ
「注文した品物を、なかなか持って来ないな、催促してみろよ」

せあーちゅー [se:tjü:] 最中。[続 203]

【例】 えま さずぎの せあーちゅーで、ねごのても かりであくれあ えそがすなだ
「今田植えの最中で、猫の手も借りたいぐらい忙しいんだよ」

ぜあーにん [dze:nin] 罪人。[続 203]

【例】 ほんたごど いうど ぜあにん だすごどん なんぞ
「そんなことをいうと、罪人を出すことになるよ」

せあーばん [se:ban] 裁判。[続 203]

【例】 とずの きょうかいの もんであ こずつで、せあーばんざだん なたど
「土地の境界の問題がこじれて、裁判沙汰になったそうだ」

せあーふもず [se:φümodzü] 財布持ち。これは、一家の家計をやりくりしている人をいう。普通は主婦がその役目を受け持っている。[続 203]

【例】 せあーふもず よめさ ゆつたは
「財布持ちをもう嫁に譲ったよ」

せあーもんかだり [se:monkadari] 祭文語り。[続 203]

【例】 おらだ ちっちえあ ずぎあ せあーもんかだりずあ きた おんであったな
「俺達の小さい時分には、祭文語りという者が来たものだったな」

ぜあーりよ [dzerjo] 材料。[続 203]

【例】 でんきやさんは、ぜあーりよ たんねあどて、かえしやさ とりん えた
「電気屋さんは、材料が足りないといって、会社に取りに行っちゃったよ」

せあーる [se:rü] [下一自] 冴える。[続 203]

【例 1】 ほすあ せあーで めるな
「星が冴えて見えるな」

【例 2】 うでの せあーでる しとだな
「腕の冴えている人だね」

【例 3】 めあ せあーで ねらんねあ
「目が冴えて眠れないよ」

ぜあごしゅ [dzeɲoʃü] [名] 在郷衆。田舎者。[同] ぜあごたる。[及 184]

【例】 しとんどご ぜあごしゅだどて ばがんして
「人を田舎者だって馬鹿にして」

せあずる [seⁿdzürü] [動] ^{さえず} 囀る。[及 91]

【例】 春ん なっど さまざまの 鳥こだあ せあずるよん なんぞ
「春になると、さまざまの小鳥達がさえずるようになるよ」

せあふ [seəfū] 賤布。[同] ぱっく。[及 50]

【例】 えさ えて、せあふ もて くる
「うちへ行って、さいふを持って来ます」

ぜあもぐ [dzemogū] 材木。丸太。[及 73]

【例】 ○○であ ぜあもぐ ぜえぶん あづべっだけな
「○○では、材木を随分集めておったな」

せあんしよ [senʃo] 山椒。当地に自生しているのは「いぬさんしょう」だけである。[及 91]

【例】 せあしよて におえあ つえな
「さんしょうというのは、匂いが強いな」

せあんずずあだま [senⁿdzūdzūadama] 才槌頭。[続 204]

【例】 あれあまだ せあんずずあだまだ おんだはげあ みんな ばがん すんなよ
「あいつは才槌頭なものだから、皆が馬鹿にするんだよ」

せあんづづ [sendzūdzū] 金槌。[及 64]

【例】 こら、まだ せあんづづ もて えたな
「こら、また、金槌を持っていったな」

せいす [名] 生死。[及 184]

【例】 まだ せいすも わがらねあど
「まだ、生死も分らないそうだ」

せいず [名] 政治。[及 184]

【例】 国の せいずも であずだな
「国の政治も大事だな」

せいすん [名] 精神。[及 184]

【例】 であいづ せいすんが んまぐねあ
「第一、精神がよくない」

せいずん [名] 成人。[及 184]

【例】 今日から おめあも せいずん なたあだぞ
「今日から、お前も成人になったんだよ」

せーぜあー [se:ⁿdze:] [名/ス自] 製材。[続 204]

【例】 まるだの まんまであ つかわねあはげあ せーぜあーして もらわねあんねあな
「丸太のままでは使われないから、製材してもらわなければならないな」

せーぜあーしよ [se:ⁿdze:ʃo] 製材所。[続 204]

【例】 はなす したはげあ、せーぜあーしよがら ざいりょう もらて こえ
「話をしてあるから、製材所から材料を貰ってきてくれ」

せえぜえや [se:ⁿdzeja] 製材屋。[及 78]

【例】 ○○あ せえぜえや してんなだど
「○○は製材屋をしているんだそうだ」

せえであ [sɛdɛ] [名] 盛大。[及 185]

【例】 ○○さんの むがさりあ せえであであったな
「○○さんの結婚式は盛大だったね」

ぜえぶん [dzɛbün] [副] 随分。[及 185]

【例】 これあ ぜえぶん えぐ でげだな
「これは、随分よく出来たね」

せーめあー [sɛ:mɛ:] [名/ス自] 精米。[続 204]

【例】 せーめあーすんなも、きっけあで するよん なたはげあ、らぐんなたな
「精米をするのも、機械ですようになったから、楽になったな」

せげあー [sɛgɛ:] 世界。[続 204]

【例 1】 せげあーにあ さまぎまの くにか あるな
「世界にはさまぎまの国があるね」

【例 2】 しとの せげあー、どうぶつの せげあーも あんぜあ
「人の世界、動物の世界もあるよ」

せっけあー [sɛkke:] 石灰。[続 204]

【例】 はだげあ さんせいん なたはげあ、せっけあー まがねあんねあな
「畑が酸性になったから、石灰を撒かないといけないな」

せっせのせ [sɛssɛnosɛ] じゃんけんぽん。[続 204]

この語は、じゃんけんをする時の掛け声で、「せっせっせ」ともいった。また「じゃんけんをする」ということを「せいする」ともいった。

ぜってあ [dzɛttɛ] [名] 絶対。[及 185]

【例】 ほれだば ぜってあ だめだ
「それなら、絶対に駄目だよ」

せぼ [名] 歳暮。お歳暮。[同] へぼ。おへぼ。[及 185]

【例】 おせぼの おげあす すねあんねあな
「お歳暮のお返しをしなないといけないな」

せる [sɛrũ] [上一自] 出来る。やれる。[同] さえる。[続 204]

【例】 ほんたごど おれだて せる
「そんなこと、僕だって出来るよ」

— そ —

そ [副] そう。[及 185]

【例】 んであ そしてくだせあ

「では、そうして下さい」

また、この語は、「そへばーそうすれば」、「そすっどーそうすると」などの使い方をしている。

～ぞ [～ⁿdzo] 蔵。[続 205]

【例 1】 ずんぞさま

「地蔵さま」

【例 2】 どぞ

「土蔵」

【例 3】 とみぞ

「富蔵」

【例 4】 ますぞ

「増蔵」

【例 5】 やすぞ

「安蔵」

そい [名] 相違。[及 185]

【例】 これ ちよしたな ○○に そいあんめあ

「これをいじったのは、○○に相違ないだろう」

ぞうさねあ [dzo:sanɛ] [連語] 造作ない。簡単だ。[同] じょうさねあ。[及 173]

そうすぎ [so:sügi] [名] 葬式。[同] だみ。だみだし。[及 185]

【例】 今日あ ○○の そうすぎだど

「今日は、○○の葬式だそうだ」

ぞうみず [dzo:mĩⁿdzü] 馬糞。米のとぎ汁に野菜の屑などを入れた、牛馬の飼料。[及 73]

【例】 んまの おげさ ぞうみず へで こえ

「かいば桶に、飼料を入れてきなさい」

この飼料を「んまのおの」といっている。

ぞうよ [名] 雑費。諸経費。家庭の雑費。[同] ぞよう。おがぞよ。[及 185]

【例】 近頃あ、むがさりだ、ほうずだて ぞうよなのばり かがて

「近頃は、結婚式だ、法事だと、雑費なんかばかりかかってね」

そえおの [soɛono] 添え物。[続 206]

【例】 こうでんばりんねあぐ、おがすが ないが そえおの もて えげよ
「香典ばかりでなく、お菓子か何か添え物を持って行きなさいよ」

そえず [soɛdzü] [代] そいつ。それ。[同] ほえず。ほれ。[続 206]

【例 1】 そえずどさも くえろ
「そいつにもくれなさい」

【例 2】 そえずあ おれあなだ
「そいつは僕のだよ」

そーじゅ [so:dʒü] 焼酎。[同] しょうじゅ。しょうじゅう。そじゅう。そうじゅう。[続 205]

【例】 おなごしたずも そーじゅ のむ しとあ ふえだな
「女達も焼酎を飲む人が増えたね」

ぞーすまま [dzo:sü mama] 雑炊。[同] ぞうす。[続 205]

【例】 はらぐえあ えぐねあごつたら、ぞーすままでも てあでけつが
「腹具合が悪いなら、雑炊でも炊いてあげようか」

そーずめあー [so:ⁿdzüme:] 総仕舞。[続 205]

【例】 こめも きょうしゅずしたし、これで ひやくしよすごどあ そーずめあーだな
「米も供出したし、これで百姓仕事は総仕舞だな」

ぞーせあする [dzo:sesürü] [四他] 侮る。[続 205]

【例】 たいふあ くるつけあ ぞーせあすねあで みまわて ようずんすろよ
「台風が来るそうだが、侮らないで、見回って要心しろよ」

そーぞーす [so:ⁿdzo:sü] [形] 騒騒しい。[続 205]

【例】 わらしたずあ そーぞーすくて、テレビの おども きげねあ
「子供らが騒騒しくて、テレビの音も聞こえないよ」

そーつ [so:tsü] [名/ス他] 装置。[続 205]

【例】 だんぼうそーつあ ふるすぐ なたはげあ、あだらすな かうべ
「暖房装置が古くなったから、新しいのを買おう」

ぞーつぐ [dzo:tsügü] [名/ス他] 増築。[続 206]

【例】 かねあ ふえだはげあ ぞーつぐしねあど へべあぐ なたは
「家内が増えたから、増築しないと、もう狭くなってしまったよ」

そーてあー [so:te:] 総体。[続 206]

【例】 えぐねあ だごも あんども こどすの いなさぐあ そーてあーであ じょうさぐだな
「悪い所もあるが、今年の稲作は、総体では上作だな」

そーであー [so:ⁿde:] 総代。[続 206]

【例】 おれあへの ○○あ、そずぎょうへの そーであーで、とうず よむつけな
「うちの○○は、卒業生の総代で、答辞を読むそうだよ」

そーど [so:"do] [名/ス白] 騒動。[続 206]

【例】 ちょうちょあ わいろ もらたどて ぎかいあ てあへんだ そーどだけど
「町長が賄賂を貰ったというので、議会は大変な騒動だったそうだ」

そーほ [so:ho] 双方。[続 206]

【例】 それぞれ そーほに ゆいぶん あんべはげあ、まず ほれ きぐべ
「それぞれ双方に言い方があるだろうから、まずそれを聞こう」

ぞーみ [dzo:mi] がまずみ。これは、落葉低木で、夏に小さい白い花を集団で咲かせ、秋に実が熟すと、甘ずっぱくなり、子供の頃よく食べたものである。[続 206]

そがぎ [soŋagi] 雪囲い。[続 206]

【例】 ゆぎも ふてきそだす、そろそろ そがぎ しねあんねあなは
「雪も降ってきてそうだし、もうそろそろ雪囲いをしないといけないな」

そぐい [名] ^{そぐい}飯糊。続飯。飯をねって作った糊。[及 185]

【例】 いだ くつげるにあ そぐいあ いづばん え おんだ
「板をくつつけるには、飯糊が一番いいもんだよ」

そくつと [副] そっくり。[同] ぞくつと。そっくら。ぞっくら。[及 185]

【例】 ほの にもつ そくつと もて きてころ
「その荷物をそっくり持って来てくれ」

ぞくつと [副] ぞくぞく。寒気のすること。[及 186]

【例 1】 かじえでも ひだべが からだ ぞくつとする
「風邪でも引いたんだらうか、体がぞくぞくするよ」
【例 2】 おかねあくて ぞくつとしたけ
「恐しくて、ぞくぞくしたつけ」

ぞくつと [dzokütto] [副] 一斉に。この語は、作物の発芽についてのみいう。[同] ぞっくら。ぞっくり。[続 207]

【例】 ぞくつと め だした
「一斉に芽を出した」

そぐねる [sogünerü] [動] 束ねる。[及 186]

【例】 この わら そぐねで おげ
「この藁を束ねておけよ」

そぐねる [sogünerü] [動] ねる。ご飯糊を練ること。[及 186]

【例】 えま そぐねった
「今練っています」

そぐねる [soɡuɲerũ] [動] そこねる。損ずる。駄目にする。[及 186]

【例】 手あらぐ あづがうど そぐねる おんだ
「手荒く扱うとそこねるものだよ」

そげあた [形／連体] そんな。[及 186]

【例】 そげあたごど おら すらねあ
「そんなことは、私は知らないよ」

そげる [soŋerũ] 斜めに割れたり切れたりすること。これは、真っ直ぐに割ったり、切ったりしようとした物が、斜めに割れたり、切れたりすることをいう。[続 207]

そご [代] 其所。[同] ほご。[及 186]

【例】 にもつ そごさ おえでころ
「荷物はそこへ置いてくれ」
また、そこに、そこへ、ということ「そさ」、「ほさ」といっている。

そごなで [soɡonaⁿde] 底雪崩。低雪雪崩。これは、地表が表われるようなつき方をする雪崩をいい、多くは3月頃に起き、つく場所も決っている。この斜面を「なでつぎびら（及位の方言 105P）」といっている。[続 207]

そずぎよ一へ [sozũŋjo:he] 卒業生。[続 207]

【例】 おらほの がっこであ こどすの そずぎよ一へあ じゅうごにんはんていねあ
「うちの学校では、今年の卒業生は、15人しかいないよ」

そすず [sosũdzũ] 素質。[続 207]

【例】 これあまだ、てさぎあ きよだはげあ もの つぐる そすずあ あるな
「こいつは、手先が器用だから、物を作る素質があるな」

そずる [自] 損ずる。いたむ。[及 186]

【例】 山さ えぐ ずぎあ そずるはげあ えぐねあ ズック へあで えげ
「山へ行く時は、損ずるから、悪いズック靴をはいて行きなさい」
この語は、「(他) そだす一いためる。悪くする」という使い方もしている。

そそ [soso] [名／ス自] 粗相。[続 207]

【例 1】 ほんげあ そそねあぐ もと ていねん ふげ
「そんなに粗相でなく、もっと丁寧に拭きなさい」
【例 2】 わだすの そそで ぶじよほしあした
「私の粗相で失礼しました」

そそかす [sosokasũ] [形] そそっかしい。[続 207]

【例】 ほんた そそかすごど したたて そうず したであん ならねあ
「そんなそそっかしいことをしたって、掃除をしたことにならないよ」

そそくれ [sosokũre] 逆さ爪。[続 207]

【例】 そそくれあ でげで、いであくて ばんそうこ はったなよ
「逆さ爪が出来て、痛くて絆創膏を張っているんだよ」

そそけだず [sosokɛⁿdadzɯ:] [四白] そうけだつ。[同] そそけあたず。[続 207]

【例】 おれあへび みっど きびわりくて そそけだずなよ
「私は蛇を見ると、気味が悪くて、そうけだつんだよ」

～そだ [~soⁿda] そうだ。この語は、副詞以外に使う。[続 205]

【例 1】 わげあ ありそだ
「訳がありそうだ」

【例 2】 ごしゃがれそだ
「叱られそうだ」

【例 3】 きあ つよそだ
「気が強そうだ」

【例 4】 あめあ ふりそだ
「雨が降りそうだ」

そだす [soⁿdasɯ:] 駄目にする。こわす。[続 208]

【例 1】 この ちょうめん わらしたずに いだずらがぎさつで そださつだは
「この帳面を子供らにいたずら書きされて、駄目にされてしまったよ」

【例 2】 ざる あすびどんぐん して そださつだは
「を遊び道具にして、こわされてしまったよ」

そっくりげある [sokkürigerü:] [動] そっくり返える。[及 186]

【例】 ほんげあ そっくりげあんなや
「そんなにそっくり返えるなよ」

そっけねあ [sokkɛnɛ] [形] そっけない。[同] そっぺあねあ。[続 208]

【例 1】 へっかぐ きてくつだなさ おじやも ださねあで そっけねあがったな
「折角来てくれたのに、お茶も出さないで、そっけなかったね」

【例 2】 この つけおのあ ししょあずあ たんねあくて そっけねあな
「この漬け物は、塩味が足りなくて、そっけないね」

そっぺあねあ [soppɛnɛ] [形] そっけない。あっけない。[及 186]

【例 1】 おぢやも 出さねあで そっぺあねあがったな
「お茶も出さないで、そっけないことでした」

【例 2】 そっぺあねあぐ なぐなてしまたな
「あっけなくななくなってしまったな」

そどみそ [sodomiso] 意気地なし。(内弁慶) この地区では、「うずべんけい そどみそ」といっており、家の中でばかり強がって、外では意気地のないことをいう。[続 208]

そねあー [sonɛ:] 備え。供え。[続 208]

【例1】 おれあえでも しょうかきの そねあーは あんぜあ
「うちにも、消火器の備えはあるよ」

【例2】 ずんぞさまさ おそねあ もて えがねあんねあな
「地蔵さまに、お供えを持って行かないといけないな」

そねあーおの [sonɛ:ono] 供え物。[続 208]

【例】 きょうあ ずさまの めいにずだおん、ないが そねあおの あげで おがむべ
「今日は、お爺さんの命日だから、何か供え物を上げて拝もう」

そねあーずげる [sonɛ:dzügerü] [下一他] 備え付ける。[続 208]

【例】 こんだ ステレオ そねあーずげんなか、さまさま かて くんなじゅは
「今度は、ステレオを備え付けるのかい、もうさまさま買って来るなよ」

そねある [sonɛrü] [動] 供える。[及 186]

【例】 はづおのだ ほどげさまさ そねあんべ
「初物だから、仏さまに供えよう」

そねある [sonɛrü] [動] 備える。[及 186]

【例】 消火器あ 必らず そねある おんだ
「消火器は、必らず備えるもんだ」

そべあーらへる [sobɛ:rahɛrü] [四他] 甘やかす。[続 208]

【例】 どうも ずさまど ばさま、わらしたず そべあらへで こまた おんだ
「どうも、爺さんと婆さんは、子供らを甘やかして困ったもんだよ」

そべある [soberü] [動] 甘える。[及 186]

【例】 この わらすあ そべあでばりいる おんだ
「この子は、甘えてばかりいるもんだ」

そべつと [sopeṭto] [副] あっさり。[続 208]

【例】 ないだや この におのあ そべつとして ししょけも あまけも ねあぞ
「なんだい、この煮物は、あっさりして塩気も甘味もないよ」

そめおの [somɛono] 染め物。[続 209]

【例】 そめやさ だした そめおのあ でげだべはげあ えて みでこえ
「染屋に出した染物が出来たろうから、行ってみてきてくれ」

そゆた [連語] そんな。[同] そゆんた。ほゆた。ほゆんた。[及 187]

【例】 そゆた はなすずあ ねあべや
「そんな話ってないだろうや」

そらおそろす [soraosorosü] [形] 空恐ろしい。[続 209]

【例】 さずずんみすいだなて えぐ ほんた そらおそろす ごど する おんだな
「殺人未遂だなんて、よくそんな空恐ろしいことをするものだね」

そらおべ [soraobɛ] [名/ス他] 暗記。[続 209]

【例】 ないだて この おぼごあ この ほん みな そらおべした おんだ
「まあ、この子は、この本をみんな暗記したもんだ」

そらで 腕や手の筋肉硬直。[及 15]

【例】 そらでで、手 つかわんねあぐ なたは
「筋肉硬直で、手が使えなくなってしまったよ」

～そらねあ [~sorane] 気がしない。[続 209]

【例 1】 いぎだ そらねあ
「生きた気がしない」

【例 2】 くた そらねあ
「食った気がしない」

【例 3】 のだ そらねあ
「飲んだ気がしない」

そらもよ [soramojo] 空模様。[続 209]

【例】 ないだが そらもよあ ほんどんねあな しとあめ くるんねあべが
「なんだか空模様が本当じゃないな、ひと雨来るじゃないだろうか」

そらよみ [sorajomi] [名/ス他] 暗唱。[続 209]

【例】 おめあ ほの ほん そらよみへんなが、もうえっぺん よでみろや
「お前はその本を暗唱されるのか、もう一度読んでみろよ」

そろっと [sorotto] [副] そろりと。[続 209]

【例】 ええが はなよめてな そろっと ありぐよんする おんだぞ
「いいかい、花嫁ってね、そろりと歩くようにするものだよ」

ぞろっと [dzorotto] [副] ぞろりと。[続 209]

【例 1】 てぎの ツームも つよえな ぞろっと そろったぞ
「敵のチームも、強いのが、ぞろりと揃っているよ」

【例 2】 はなよめあ ぞろっとした えしよ きて きたけ
「花嫁が、ぞろりとした衣装を着てきたっけ」

ぞろもろ [副] ぞろぞろ。[及 187]

【例】 かんぐらましき わらしたづあ ぞろもろ どつで ありぐけ
「獅子舞いに、子供らがぞろぞろついて歩いていたっけ」

ぞんぜあ [dzondzɛ] [形] ぞんざい。粗末。[及 187]

【例】 物ずあ ぞんぜあに あづがう おんでねあ
「物は、ぞんざいに扱うものじゃないよ」

ぞんぜあ [dzondzɛ] ぞんざい。[及 29]

【例】 物ずあ ぞんぜあに あづがう おんでねあ
 「物はぞんざいに扱うもんじゃないよ」

そんま 〔副〕 間もなく。じきに。〔同〕 すぎ。〔及 187〕

【例】 つあつあ そんま けあて 来る 頃だなは
 「お父さんは、もう間もなく帰へって来る頃だな」

— た —

だ [da] [連語] いた。[及 187]

【例】 ゆぎあ ふてだけ
「雪が降っていたつけ」

だ [da] [助動] た。な。[及 187]

【例 1】 きのご みつけど
「きのこを見つけた」

【例 2】 きれだ 花だな
「きれいな花だな」

だ [da] [動] いる。[及 187]

【例】 えま むごさ えてだ
「今、向うへ行っている」

～だ [～da] ～達。～ども。～ら。複数を現わす語。[及・続 187・210]

【例 1】 おめあだ
「お前達。君達」

【例 2】 おらだ
「俺達。私達。僕達」

【例 3】 としよりだ
「年寄り達。老人達」

【例 4】 わげあおのだ
「若者達」

【例 5】 とりこだ
「小鳥達」

【例 6】 いぎおのだ
「生き物達」

【例 7】 けだおのだ
「獣達」

たあだ [ta:da] [名] [強調] ただ。ただの強調語。「あ」は詠嘆が含まれ、普通の「ただ」より強い意を持つ。[及 187]

【例 1】 たあだ だまさった

「ただ騙まされた」

【例 2】 たあだ ねげらった

「ただ逃げられた」

たいぐ [taɛŋyü] [名] 待遇。歓待。[及 187]

【例】 ○○さんの えであ たいした たいぐしてくっだけ

「○○さんの家では、大変待遇してくれたつけ」

だいしんせあー [daisinse:] 大震災。[続 210]

【例】 とうきょうの だいしんせあーみであだ ずすんにあ あいであぐねあな

「東京の大震災のような地震には、会いたくないね」

たいへず [taihedzū] [ダナ] 大切。[同] てあへず。[続 210]

【例】 ○○ちゃんは おにんぎょさん たいへずんしてんなだ

「○○ちゃんは、お人形さんを大切にしているんだ」

たいめあー [taime:] 大枚。大金。[続 210]

【例】 あの とごのまの おぎおのあ たいめあー だして かて きたあだぞ

「あの床の間の置き物は、大枚を出して買ってきたんだよ」

たいわんぱげ [taiwanpaŋe] たいわん坊主。禿頭病。[及 16]

【例】 あだま つるっと 禿げだなだば たいわんぱげず おんだ

「頭のつるりと禿げたのなら、たいわん坊子というものだよ」

たえかぐ 体格。[及 16]

【例】 おめあ ええ たえかぐ してるな

「お前、いい体格をしているね」

また、体の大きいことを「らってあおっき」といっている。

たえる [動] たれる。する。大小便をたれること。[及 187]

【例】 ほんたどさ しょべ たえる おんでねあ

「そんな所に小便をたれるもんじゃないよ」

たおす [taosü] 古い着物などを他のものに作り替えること。[続 210]

【例】 この きおのあ ふるすぐ なたはげあ たおして ふるすぎ つぐんべ

「この着物は古くなったから、作り替えして、風呂敷を作ろう」

なお、この語は、何かを倒す意味では使わず、この時は「もけあす」という。

たおれる [taorerü] [下一自] あぶれる。仕事にあぶれること。[続 210]

【例 1】 きょうあ すごどあ ねあていうなで たおっでしまたは

「今日は仕事がないというので、あぶれてしまったよ」

【例 2】 やまさ えたども、とる あおおのあ なにも ねあくて、たおっできた

「山へ行ったが、採る山菜が何もなくて、あぶれて来た」

たがあし [tagaasi] 竹馬。[同] たがち。[及 65]

【例】 つあつあに たがあし こしえで もらた
「お父さんに、竹馬を作ってもらったよ」

たがえびぎ [tagaebigi] 高軒。[続 210]

【例】 ○○あ よっぱらて、たがえびぎけあで ねでしまたは
「○○は、酔っ払って、もう高軒をかいて寝てしまったよ」

たがぐ [taɲagü] [動] 持つ。[及 187]

【例】 べんと たがぐな 忘れんなよ
「弁当持つのを忘れるなよ」

たがじょう [tagadʒo:] 地下足袋。[及 58]

【例】 おれあ たがじょう どさ やたべ
「私の地下足袋を何所へやったろう」

だがすか [daɲasüka] 一目散。高い音。[続 210]

【例 1】 さがぼっだ おんだはげあ、だがすか ねげで えたけは
「叫けられたものだから、一目散に逃げて行ってしまったっけ」

【例 2】 だがすか ゆわへで、なに あばっでんなだ
「高い音をたてて、なんで暴れているんだ」

たがちか [tagac(j)ika] ちからかげろう。ちからかげろう科の水棲昆虫で、幼虫は沼、湿地の水たまりや田などに棲み、成虫、幼虫、共に釣りの餌になる。[及 91]

たがつけあ [tagatsüke] 鷹匠。たか狩り。[続 211]

【例 1】 たがつけあも えまだば いねあは
「たかじょうも、今はもういないね」

【例 2】 きょうあ たがつけあでも えぐべ
「今日は、たか狩でも行こう」

たがで [tagadɛ] 高所。高い所。[及 104]

【例】 たがでさ のぼて、村 みんなべや
「高い所に登って、村を見ようよ」

たがびしゃ [tagapija] [ダナ] 高飛車。[続 211]

【例】 あだまがら たがびしゃ あずげねあで えっくん おへでやれ
「頭から高飛車をあびせないで、よく教えてやりなさい」

たがや [taɲaja] 桶屋。[続 211]

【例】 たがやさ えたら、つけおの つける え あんべあの こが あるんねあべが
「桶屋へ行ったら、漬け物を漬ける適當の桶があるんじゃないだろうか」

たがらおの [tagaraono] [名] 宝物。馬鹿者。[及 188]

【例 1】 これあ おれあえの たがらおのだ

「これは、うちの宝物なんです」

【例 2】 これだは、ええ たがらおのだ

「こいつは、いい馬鹿者だよ」

だがる [dagariü] 抱かれる。[続 211]

【例】 ずさま めんごがる おんだはげあ すぐ ずさまさ だがんのだ

「爺さんが可愛がるものだから、直ぐ爺さんに抱かれるんだ」

たがわれあ [tagaware] 高笑い。[続 211]

【例】 おなごあ ほんた たがわれあなの しねあで、もと しとやがん してる おんだ

「女はそんな高笑いなんかしないで、もっとしとやかにしているものだ」

だぎあへ [dagiaçe] [名] 抱き合わせ。[及 188]

【例】 これあ だぎあへんねあど うらねあなが

「これは、抱き合わせでないと、売らないのかい」

たぎおの [tagiono] [名] 焚きもの。薪。[及 188]

【例】 たぎおのあ ねあぐなたな

「焚き物がなくなったね」

たぎつり [tagitsürri] 燃えさし。[続 211]

【例】 けぶてあくて だめだはげあ、たぎつり さっくべでやれ

「煙くていけないから、燃えさしを差しくべてやれよ」

たぐあづげあ [tagüadzüge] [名] 宅扱い。[及 188]

【例】 これ たぐあづげあで たのむ

「これ、宅扱いで頼みます」

たぐあであ [tagüade] [名] 高価。値が高い。[及 188]

【例】 なんだて こんげあ たぐあであだ おの もらてな

「まあ、こんなに高い物を頂いてね」

たくさだ たくさんだ。十分だ。もういい。[及 188]

【例】 あどあ たくさだは

「あとはもうたくさんです」

たぐづく [tañüdzügü] [動] すがりつく。すがる。[及 188]

【例】 そであ きれっさげあ ほんげあ たぐづくなや

「袖が切れるから、そんなにすがりつくなよ」

たぐます [tagümasü] [形] 遅しい。[続 211]

【例 1】 たぐます からだん なた おんだ

「遅い体になったもんだよ」

【例2】 くうなも たぐますな

「食うのも遅いな」

たぐらんけ [tagüranke] 馬鹿者。悪態のことば。[続 211]

【例】 この たぐらんけあ ない して けずがんなだ、まず はえあぐ ほれ するは

「この馬鹿者が、何をしてけつかるんだ、まず早くそれをしてしまえよ」

たぐる [tagürüü] [動] たくしあげる。まくる。[及 188]

【例】 すっそ たぐらねあど ぬれんぞ

「裾をたくしあげないと、濡れるよ」

たぐわえあ [tagürwe] 蓄え。[続 211]

【例】 わらしたずの きょういぐあ あっさげあ えっしょけめ たぐわえあねあんねあ

「子供らの教育があるから、一生懸命蓄えなければならないんだ」

たぐわえある [tagürwerüü] [下一他] 蓄える。[続 212]

【例】 ろうごの ためん、おらだも すこす たぐわえある ごどん すんべ

「老後のために、俺達も少し蓄えることにしよう」

～たけ (だけ) [~take(dake)] たっけ。だっけ。[続 212]

【例 1】 えたけ

「行ったっけ」

【例 2】 かたけ

「買ったっけ」

【例 3】 ゆたけ

「言ったっけ」

【例 4】 ねごだけ

「猫だっけ」

【例 5】 まずっだけ

「待ってたっけ」

たげあ [tage] 高い。[及 29]

【例 1】 あの山 たげあな

「あの山は高いな」

【例 2】 物価も たげあぐ なたな

「物価も高くなったね」

【例 3】 べごの 値段も たげあひぎ あて、おづづがねあな

「牛の値段も、高低があって、落ちつかないね」

たげあ一つげあ一 [tage:tsüŋe:] [ダナ] 互い違い。[続 212]

【例】 はげご あむ ずぎあ つる たげあ一つげあ一 あむ おんだ

「はげごを編む時は、蔓を互い違いに編むものだよ」

たげあただねあ どうしようもない。おつつかない。致し方がない。[及 188]

【例】 いづつかんも めあん えたあだお えまから ぼかげだて たげあただねあなは
「一時間も前に行ったんだもの、今から追いかけたって、もうおつつかないな」

【例 2】 こんげあ ぼこっでがらだば たげあただねあなは
「こんなにこわれてからなら、もうどうしようもないな」

たげし 猛しい。[及 29]

【例】 あの しとあ、気性の たげし しとだ
「あの人は気性の猛しい人だ」

たげだげす [tagẽⁿdagesũ] [形] 猛ましい。[続 212]

【例】 この いぬあ たげだげす いぬで しとあ くっど すぐ ほえんなだ
「この犬は、猛ましい犬で、人が来ると直ぐ吠えるんだ」

たげつつぽ [tagẽtsũppo] 竹筒。[続 212]

【例】 はな えげっさげあ たげつつぽ もて きてくんねあが
「花を活けるから、竹筒を持ってきてくれないか」

たげなが [tagẽnaga] たけなが。桃割れに付ける紙の飾り物。[続 212]

【例】 むがすあ むすめだずあ ももわれさ たげながずおの つけだ おんであったな
「昔は、娘達が桃割れに、たけながというものを付けたものだったな」

たこぎり [takõjiri] [名] 田の土を細かくする作業名。田打ち後、田に水を入れて、田の土を細かくする作業で、鋤にまたたびであんだ、小さな泥よけをつけ、土を碎いて行くものである。[及 281]

たこぎり [takõjiri] 田打ち。耕した田の土をさらに細かくする作業。これは、春早く、一度荒ら起しをした田の土をさらに細かくする作業をいう。[続 212]

たごむ [tagõmũ] [動] たぐる。縄などをたぐりながら丸めること。[及 188]

【例】 ほの 縄、たごむなだぞ
「その縄は、たぐり丸めるんだよ」

たさる [tasarũ] [四自] 付け加わる。[続 212]

【例】 しゃっきんも りそぐあ たさっさげあ ほれ かんげあで かりんだぞ
「借金も、利息が加わるから、それを考えて借りるんだな」

だしあれ [dasiarẽ] 東風が吹き、天候が急に悪くなること。[続 212]

【例】 これあ だしあれだな、あした ええ てんきん なんべ
「東風で天候が急に悪くなったな、明日はいい天気になるだろう」

だしかじえ [dasĩkaⁿdžẽ] 東風。[同] だし。[続 212]

【例】 だしかじえだな、てんきあ わりぐ ならねあど ええどもな

「東風だな、天気が悪くならなければいいがな」

たしん 他人。[及 6]

【例】 とおぐの えっけより、ちかぐの たしんていう おんだ
「遠くの親類より、近くの他人というものだ」

だすえれ [dasüere] 出し入れ。[続 213]

【例】 かねの だすえれあ けあで おぐど ええ おんだぞ
「金の出し入れは、書いておくといいものだよ」

だすおの [dasüono] [名] 出し物。[及 188]

【例】 今日の すんべあ だすおのあ ないだつけ
「今日の芝居の出し物は、何んだ、とってつつけ」

たずげ [tadzüñe] 立ち消え。[続 213]

【例】 へっかぐの けいかぐも かねあ ねあどて たずげん なたどは
「折角の計画も、金がないというので、立ち消えになってしまったそうだよ」

たすこ たすき。[及 58]

【例】 えまだば たすこのな つかわねあなは
「今なら、もうたすきなんか使わないね」

だずだず [dadzüdadzü] [副] ぼたぼた。ぼとぼと。[続 213]

【例】 なに もて きたな、ほんた だずだずど みずの おずる おの もて きて
「何を持って来たの、そんなぼたぼた水の落ちるものを持って来て」

だずど ~だと。そうすると。[及 189]

【例 1】 ほういう ごどだずど かんげあねあんなあな一
「そういうことだと、考えないといけないな」
【例 2】 えぐねあ ごど すんべ だずど 手 すばらえんなよ
「悪いことをするだろう、そうすると、手を縛られるんだよ」

たずびあがる [tadzübianarü] [四自] 立ち上がる。これは、激昂して立ち上がる時にだけ使う語で、他の意味での立ち上がるには、使わない語である。[続 213]

【例】 ○○だば よっぱらうど すぐ たずびあがて さがぶなだぜあ
「○○なら、酔っ払うと直ぐ立ち上がって叫けぶんだよ」

たずぶるめあ一 [tadzübürüme:] 立ち振舞。これは、嫁や髻をくれてやる日、嫁や髻の家で、祝宴を開くことをいう。[続 213]

たずむすび [tadzümüsübi] 立ち結び。[続 213]

【例】 ○○ちゃん べんどの ふるすぎあ たずむすびだぞ
「○○ちゃん、弁当の風呂敷が立ち結びだよ」

たすめあ [tasüme] [名] 足し前。[及 189]

【例】 たんねあば たすめああ おれあ 出すべちやや
「足りなければ、足し前は、私が出そうじゃないか」

たすん [tasün] 他人。[続 213]

【例】 とおぐの すんるいより、つかぐの たすん、ていうくれあだはげあ、となりあだりどあ
ながえぐすねあんねあ おんだけあ
「遠くの親類より、近くの他人、というくらいだから、隣り近所とは仲よくしないといけな
いものだよ」

だずんとり [dadzüntori] 賃仕事。[続 213]

【例】 ろくだ すごどあ ねあ おんではげあ、むらの したずに たのまっで、だずんとりばり
してる
「ろくな仕事がないものだから、村の人達に頼まれて、賃仕事ばかりしているんだ」

たそぐ [tasogü] [名] 足し。補い。[及 189]

【例】 これ なにがの たそぐん してころ
「これを何かの足しにしてくれ」

ただえまづげあ [taⁿdaemaⁿdzüge] [連語] 只今使い。只今来て下さいというお使い。[及 189]

【例】 ただえまづげあ 来たけど はやぐ えげは
「只今使いが来たよ、さあ早く行きなさい」

ただぎみ [tagimi] 叩き身。これは、鶏や兎などを、毛をむしり取り、兎は皮を剥いただけで、肉も骨も叩いてつぶし、団子のように丸めて煮て食べるが、これを「ただぎみ」といっている。[続 214]

ただぐ [tagü] [動] たたく。打つ。[及 189]

【例】 きがねあど ただぐぞ
「きかないと、たたくよ」

この語には、「たであっだーたたいている」、「ただがっだーたたかれた」、などの使い方がある。

ただごと [taⁿdaⁿgodo] [名] 只事。あたり前のこと。[及 189]

【例 1】 ただごどんねあ
「只事でない大変なこと」
【例 2】 ただごどだば えども ほれが ただごどんねあなよ
「只事ならいいんだが、それが、只事じゃないんだよ」
【例 3】 車の 事故だて ほれあ ただごどんねあな
「車の事故だって、それは大変なことだな」

ただす [taⁿdasü] [形] 正しい。[及 189]

【例】 どつつあ ただすが きでみだら えべや
「どっちが正しいか聞いてみたらいいじゃないか」

だだちねあ [dadatsine] [名] 乱雑。物が散らばっていること。[及 189]

【例】 ほの だだちねあ どご かだづげで おげ
「その乱雑な所を片付けておきなさい」

だだびろえ [daⁿdapiroe] [形] だだっ広い。[続 214]

【例】 むがすの えだ おんだはげあ、だだびろえばんで、ふゆにあ さみくて こまる
「昔の家なものだから、だだっ広いばかりで、冬には寒くて困るよ」

ただぼす 淋しい。淋しく少し不安な気持。[及 29]

【例】 しとりんなて ただぼすは
「一人になって、淋しくなってしまったよ」

だだみ [daⁿdami] 鱈の白子。[続 214]

【例】 だだみの へあった たら かたはげあ、ばんげあ ほれでも にで くが
「白子の入った鱈を買ったから、今夜はそれでも煮て食べようか」

ただみげあ [tadamige] [名] 畳替え。[及 189]

【例】 そろそろ ただみげあ すねあんねあな
「そろそろ畳替えをしないといけないな」

たったする [tattasürü] [四自] 立つ。[続 214]

【例】 ○○ちゃん、なんぼ おっきぐ なたが たったしてみろ
「○○ちゃん、いくら大きくなったか立ってみなさい」
この語は、幼児だけに使っている。

たつたつ [tatsütatsü] ぼとぼと。ぼたぼた。[続 214]

【例】 ないだべ、この かめあ ひびあ へあたあだべが、みずあ たつたつ おずるな
「なんだろう、この瓶はひびが入ったんだろうか、水がぼたぼた落ちるな」

たつたらもづ 子供が始めて立った時の祝餅。[及 42]

【例】 ほら、たつたらもづ しよて 早く おっきぐ なれよ
「ほら、立ち初めの餅を背負って、早く大きくなれよ」

たつっこ [tattsüiko] たすき。[同] たすこ。たつこ。[続 214]

【例】 えまだば きおの きねあはげあ、たつっこなの かける しとあ いねあな
「今なら着物を着ないから、たすきなんか掛ける人はいないな」

たづはさみ 裁ち鋏。衣類などを裁つ時に使う鋏。[及 58]

【例】 たづばさみ、きんねあぐ なたはげあ、とえでころ
「裁ち鋏が切れなくなったから、研いで下さい」

たづばん 裁ち盤。裁ち板。[及 58]

【例】 たづばんさ クレオンで けあだな 誰だ
「裁ち板に、クレイヨンで書いたのは誰だ」

たづび [名] 忌み日。[及 189]

【例】 今日あ たづびだはげあ やすでだ
「今日は忌み日だから、休んでいるんです」

たづびあがる [tadzübianarütü] [動] 激昂する。興奮して叫ぶ。[同] たづみあがる。[及 190]

【例】 まづ ほんげあ たづびあがらねあで わげ ゆてみろ
「まあ、そんなに激昂しないで、わけをいってみろよ」

だっぷら [dappüra] [副] たっぷり。この語は、容器に液体をいっぱい入れたさまをいい、「た
っぷり飲む」とか、「たっぷり礼をする」などには使わない語である。[同] だぶっと。[続 214]

だづん [dadzün] [名] 駄賃。[及 190]

【例】 だづん くえっさげあ こまづげあ えてこえ
「駄賃をくれるから、お使いに行ってくれ」

たて [係助] も。って。[及 190]

【例 1】 ほんたごど したたて だめだ
「そんなことをしても駄目だよ」
【例 2】 あれあつあだば ゆたたて きがねあ
「あいつになら、いったってきかないよ」

～たて [～tate] [連語] たって。ても。[続 214]

【例 1】 あめあ ふたて
「雨が降ったって」
【例 2】 えぐべど おもたて
「行こうと思ったって」

だて [date] [連語] だって。[及 190]

【例】 おれだて まげねあぞ
「俺だって負けないよ」

だで [dade] たて。[及 190]

【例】 ほごあ ペンキの ぬりだでだぞ
「そこはペンキの塗りたてだよ」

たであげ [tadeage] 小作料。[続 214]

【例】 おめあえであ たであげ なんぼ だしたなや
「お宅では、小作料を幾ら出しているの」

～たであらんねあ [～taderanne] ～切れない。[続 215]

【例 1】 くいたであらんねあ
「食い切れない」
【例 2】 くれたであらんねあ

「くれ切れない」

【例3】 しいたであらんねあ

「し切れない」

たでおの [tadəono] 建て物。[続 215]

【例】 この ぶらぐでも、たでおのあ だんだん あだらすぐ なて きたな

「この部落でも、建て物がだんだん新しくなってきたな」

たでげあ [tadəge] 建て替え。立て替え。[続 215]

【例1】 おれあ えも たでげあ すんべ

「私の家も建て替えをしよう」

【例2】 ほれあ おれあ たでげあで おくべ

「それは、私が立て替えておこう」

たでごみ [tadəgomī] 木入れ。炭がまに木を立てて入れる作業。[及 73]

【例】 たでごみ すっさげあ 木 つだしてころ

「木入れをするから、木を渡してくれ」

たでぼぐ [tadəbogū] はせや冬囲いに立てる柱。これは、稲を干すはせに立てる柱や、冬囲いのために立てる柱や、簡単な小屋などに立てる丸木の柱をいう。[続 215]

たでまっか 二股棒。炭がまに木を立て並らべる二股の棒。[及 65]

【例】 たでまっかて、こげあして つかう おんだ

「二股棒というものは、こうして使うものだよ」

たでめあ [tadəme] 建て前。棟上げ。[及 50]

【例】 隣りの たでめあ 今日だど

「隣りの建て前は、今日だそうだよ」

たでる [tadərū] [下一他] 締める。特に戸を締めること。[続 215]

【例】 ○○ちゃん、と たでで ありがねあど さみくて だめだぞ

「○○ちゃん、戸を締めて歩かないと、寒くていけないよ」

たでる [tadərū] [四他] 沸かす。特に風呂を沸かすこと。[続 215]

【例】 きょうあ はやぐから すふろ たでで おえでころ

「今日は、早くから風呂を沸かしておいてくれ」

たなあゆ 種鮎。おとり鮎。[及 91]

【例】 友釣りすっずぎあ たなあゆ とる おんだ

「友釣りする時は、おとり鮎を捕るものだよ」

たなえも [tanaemo] 種芋。これは、馬鈴薯などの芋類や、ダリヤ、水仙などの球根で、種にするものをいう。[続 215]

たなおの [tanaono] 種物。[続 215]

【例】 ほのうずん たなおの うりん くんべはげあ かて おげよ
「そのうちに、種物を売りに来るだろうから、買っておけよ」

たなげ [tanage] [名] 池。[及 190]

【例】 たなげさ こえ はなした
「池に鯉を放した」

たなげかぎ [tanaḡekagi] 池掻き。池掃除。[続 215]

【例】 きょうあ たなげかぎ すっさげあ おめあも てずだえよ
「今日は、池掻きをするから、お前も手伝えよ」

たなけつつ [tanakettüsü] たな尻。出つ尻。[及 11]

【例】 たなけつつの しとあ スタイルあ えぐねあな
「たな尻の人はスタイルがよくないね」

だなさん 巡查。営林署員などの公務員をさす。[及 78]

【例】 駐在所の だなさん こへぎ 調べん 来たど
「巡查さんが戸籍調べに来たそうだ」

だなだ [danada] [連語] なのだ。だよ。この語の、「だな」は、なの、たの、たん、などにもなる。[及 190]

【例 1】 ほういう わげだなだ
「そういうわけなのだよ」

【例 2】 つばぎあ まっかだな せあだ
「椿の真赤なのが咲いた」

【例 3】 おれあ くっだなよ
「私がくれたのよ」

【例 4】 おれあ けあだなだ
「私が書いたんだ」

たなもみ [tanamomi] 種粃。[続 215]

【例】 たなもみ きょうしゆずめあど えっしょん すっど わがらねあぐなんぞ
「種粃を供出米と一緒にすると、分らなくなるよ」

たね 蚕卵。蚕種。[及 73]

【例】 こどしあ たねうりん まだ、こねあな
「今年は、まだ、蚕種を売りに来ないな」

たねあへる [tanaḡaḡerü] [下一他] 尋ね合わせる。[続 216]

【例】 ○○さん えさ えだべはげあ でんわで たねあへでみろ
「○○さんの家へ行ったろうから、電話で尋ね合わせてみろよ」

たねおの [tanaḡono] 尋ね物。さがし物。[同] さがしおの。[続 216]

【例】 たねおの したあだども どさ しまたが ぬねあは
「尋ね物をしているのだが、何処へ仕舞ったか、もう見えないよ」

たねはばげる [tanəhabagerū] 探しあぐむ。[続 216]

【例】 どさ しまてあったんだが、たねはばげでしまた、おめあ すらねあがや
「何処へ仕舞ったのだったか、探しあぐんでしまったよ、お前知らないかい」

たねべご [tanəbego] 種牛。牡牛。[続 216]

【例】 どごがん え あんべの たねべごあ いねあ おんだべが
「何処かに、適當の種牛がないものだろうか」

たねまぎじえみ [tanəmagi^mdžemi] えぞはるぜみ。春出る蟬。[同] たねまぎじえめ。[及 91]

【例】 たねまぎじえみて めよへえーて なぐなだべ
「えぞはるぜみって、めよへえーとなくのだろう」

たねる [動] さがす。たずねる。[及 190]

【例 1】 押入でも たねでみんだ
「押入でもさがしてみなさい」

【例 2】 ○○さん たねで きたけ
「○○さんが訪ねて来たつけ」

たのがみさま [tanogamisama] 田の神さま。田の神さまは、女神で、旧 2 月 16 日に山の神さまが、田の神さまになり、旧 12 月 15 日には、また、山の神さまになるものだ、といわれている。
[続 216]

たのす 楽しい。[及 29]

【例】 春の 山あすびあ たのす おんだ
「春の山遊びは、楽しいものだよ」

たのもす [tanomosü] [形] 頼もしい。[続 216]

【例】 ○○さんだば、たのもす わげあおんだはげあ、おれあえの むごん おすな
「○○さんなら、頼もしい若者だから、うちの聳に欲しいね」

だば [助動] なら。[及 190]

【例】 ほんたごど おれだば しねあな
「そんなこと、私ならしないな」

たばこ [名] 休憩。[及 190]

【例】 おお、みんな たばこだぞ
「おおい、皆休憩だよ」

たばこれ [tabakore] 煙草入れ。[続 216]

【例】 あぎだの かぐのだでで つくた さぐらかわの たばこれも ええ おんだな
「秋田の角館で作った、桜皮の煙草入れもいいものだな」

たびあぎねあー [tabiagine] 旅商い。[続 216]

【例】 むがすあ たんものうりだどが、さがなうりなのの たびあぎねあー くっがったな
「昔は、反物売だとか、魚売りなんかの旅商いが来るものだったな」

たぶず [tabüdzü] 田打ち。[続 216]

【例】 むがすの たぶずて しか しか ほんなで、なんぎだ すごどであったな
「昔の田打ちというのは、一鍬一鍬掘るんで、難儀な仕事だったな」

だぶっと [副] たっぷり。いっぱい。[及 190]

【例】 こがさ 水 だぶっと へで おえでころ
「桶に水をたっぷり入れておいてくれ」

だぶらだぶら [dabüradabüra] [副] だぶだぶ。[続 216]

【例】 この ズボン へあでみだら、おれだば だぶらだぶらて はがねあな
「このズボンをはいてみたら、私ならだぶだぶではかれないな」

だべ [助動] だろう。[及 190]

【例】 ○○だば えたあだべは
「○○なら、もう行ったんだろうよ」

たまぎり [tamağiri] 造材。これは、伐り倒した立木を、丸太にする作業をいう。昔は鋸で挽いたが、今はチェーンソーで伐るので、能率がよくなって、作業員も楽になった。[続 217]

たまごまま [tamağomama] 卵飯。卵をかけたご飯。[同] たまごかげま。[続 217]

【例】 がが、おら、きょうあ たまごまま くいであな
「お母さん、僕、今日は卵飯を食べたいな」

だます [damasü] [四自] あやす。これは、むずかる子をあやすことをいう。[続 217]

【例】 おめあ しとえあ おぼご だましてろな
「お前、一寸子供（幼児）をあやしておれよ」

たまへ [tamaçę] [名] 亡霊。幽霊。[及 191]

【例】 ○○あ たまへ なて 来たけど
「○○は亡霊になって出たそうだ」

たまり [ta:marı] 田廻り。田の見まわり。[及 73]

【例】 はで、たまり えてくっが
「さて、田の見まわりに行ってくださいか」

たまり [tamarı] 醤油。これは、本来は、味噌からしたたらし液をいったが、醤油も「たまり」といった時代があったが、今は使われていない。[続 217]

たまりかねある [tamarikanerü] [下一自] 堪り兼ねる。[続 217]

【例】 すごどあ きず おんだはげあ、たまりかねあで やめで えたどは
「仕事がついものだから、堪り兼ねて、辞めて行ってしまったそうだ」

だみ [名] 葬式。葬儀。[及 191]

【例】 ○○の だみあ 十一時からだど
「○○の葬式は十一時からだそうだ」

だみだし [名] 出棺。[及 191]

【例】 だみだしあ あしただど
「出棺は、明日だそうだ」

なお、棺をかつぐんを、「だみわがじえ」と呼んでいる。

だみばな [damibana] ひがんばんな。これは、ひがんばんな科の多年生草本で、夏の終り頃、茎葉のないうちに、花茎を出し、花を咲かせる植物である。[続 217]

ためえぎ [tameegi] 溜め息。[続 217]

【例】 ないだや ためえぎなの つで、すんぺあごどでも あんなが
「なんだい、溜め息なんか吐いて、心配ごとでもあるのかい」

だめおず [dameo'dzū] 弟の卑称。愚弟。[同] おずかす。[続 217]

【例】 これあ おれあえの ばつごの だめおずだ
「これは、うちの末っこの愚弟だよ」

ためげ [tamege] 溜池。堤。貯水池。[同] ためえげ。[及・続 73・217]

【例 1】 ためげさ こえ かてみだや
「溜池に鯉を飼ってみたよ」

【例 2】 おれあえの ためげ ぼうかようすいに つかて もらてんなだ
「うちの溜池は、防火用水に使ってもらってるんだ」

だめにぐ [dameñigū] 贅肉。[続 218]

【例】 ので くてばりいる おんだはげあ、このじゅあ だめにぐ つできた
「飲んで食ってばかりいるものだから、近頃贅肉がついてきたよ」

たやす [tajasū] [形] たやすい。[続 218]

【例】 ないだ、ほんたごどあ たやすごったべ、どれ、おれあちや さへでみろ
「なんだ、そんなことはたやすいことだろう、どれ、俺にやらせてみろよ」

たより [名] めあて。目標。[及 191]

【例】 あの あがり たよりん して えげ
「あの灯りを目当てにして行きなさい」

たよりねあ [tajorine] [連語] 頼りない。[続 218]

【例 1】 おれあえであ おなごだずばんで たよりねあ おんだ
「うちでは、女達ばかりで頼りないもんだよ」

【例 2】 たよりねあ へんずだ おんだ、もと きっぱり ゆえや
「頼りない返事なもんだ、もときっぱりいえよ」

たら 俵。[及 65]

【例】 この たらさも 米 へでくんねあが
「この俵にも、米を入れてくれないか」

たら ～というのに。～といってるのに。[及 191]

【例 1】 えぐったら
「行くといってるのに」

【例 2】 するったら
「するということに」

だら 下肥。[及 73]

【例】 だらばり くえっど でえごあ すからん なる
「下肥ばかりくると、大根がすになるよ」

だらおげ 肥桶。下肥を運ぶ桶。[及 65]

【例】 たまに だらおげ かづで ありぐ しとも いるな
「たまに肥桶を担いで歩く人もいるね」

だらおげ [daraoge] 肥桶。[続 218]

【例】 だらおげあ ひの てっどさ おぐど ひすぎっでしまうぞ
「肥桶は、日の照るところへ置くと、乾燥して透き間が出来てしまうよ」

だらぐ [daragü] [名] 不精。不仕末。[及 191]

【例】 ろぐに 室の 掃除も しねあで、だらぐだごど
「ろくに室の掃除もしないで、不精なこと」

この語には、「だらぐくせあー不精っらしい」などという使い方もある。

だらくされ [名] ずぶ濡れ。[及 191]

【例】 この 雨で だらくされん なてしたた
「この雨で、ずぶ濡れになってしまったよ」

たらぐづ [tarañüdzü] 雪踏み具。俵を横に半分にしたような、わらの雪踏み具。[及 58]

【例】 ゆぎあ ふっけあはげあ たらぐづで ゆぎふみ する
「雪が深いから、俵の靴で雪ふみをしなさい」

だらすねあ [darasüne] [形] だらしない。[続 218]

【例 1】 かきゆうへん ながへらっだなて だらすねあぞ
「下級生に泣かされたなんて、だらしないよ」

【例 2】 ほんた だらしねあ かつこして ありぐな
「そんなだらしない格好をして歩くな」

たらただぎ [taratadagi] [名] たらたたき。年中行事の一つで、若男といって、その家の長男が家長が、旧一月六日夜、七十 cm 位のたらの木で、神神を祭った床の間に燈明をつけ、その前に

まな板を置き、せり、こんぶ、乾いわし、かぶ、たらの芽、松葉、乾えび等をのせ、礼拝の上、「たらただぎ たらただぎ なんたらただぎ、まんたらただぎ、とうどう（唐土）のとりど、いながの鳥の わだらん（渡らぬ）先のたらただぎ」と、三度唱え、たらの棒で、まな板の上の七草をたたいて、豊作を祈る、この行事を「たらただぎ」といい、この七草は、翌朝お汁にして祝う。[及 191]

だらっと [daratto] [副] だらりと。[続 218]

【例】 シャツの うすろのほあ ズボンの ゆえさ だらっと さがったぞ
「シャツの後の方が、ズボンの上にだらりと下がっているよ」

たらのもえ [taranomoe] たらの新芽。[続 218]

【例】 たらのもえじゃ、てんぶらんして くうど んめあ おんだじゅなや
「たらの新芽って、天ぶらにし食べると美味しいもんだよね」

だらひしゃぐ [daraçijagū] 下肥を汲むひしゃく。[及 65]

【例】 だらひしゃぐも あらて おがねあんねあな
「下肥ひしゃくも、洗っておかないといけないな」

たらまし [名] たらまわし。元日の朝、たらただぎに使うたらの棒二本わらで束ね、男の子が親類の家に持って行き、「あぎのほがら（よい方角から）たらめあった（たらが参りました）、うげでこっちえ（受けて下さい）。と口上を述べると、親類では、「ありがど、ありがど」といって受け、その子にお年玉をくれる。この行事を「たらまし」と呼んでいた。この棒は、たらただぎに使った。[及 191]

だり [dari] [形] だるい。[続 218]

【例】 すこす ありぎすぎだはげあだが あすあ だりぐ なたは
「少し歩き過ぎたからなのか、足がだるくなってしまったよ」

たるこしよい [tarūkojoī] 樽背負い。これは、婚礼の日に、嫁や賀が婚家へ行く時、親類の者が、小さい樽に祝い酒を入れて背負うが、この人をいう。[続 218]

だるま マント。[及 58]

【例】 おれあえに まだ だるま あっけな
「うちに、まだマントがあったよ」

たれあ [tare] たらい。[及 50]

【例】 へんたぐおの たれあさ へで おげ
「洗濯物はたらいに入れておきなさい」

たれあます [taremasū] たらい回し。[続 219]

【例】 おらほであ、くちょうん なる おのあ いねあはげあ たれあますだ
「うちの方では、区長になる者がいないので、たらい回しだよ」

だれおの [名] 誰。何者。[同] だれもん。[及 192]

【例】 ほごに いだな だれおのだ

「そこにいるのは誰だ」

たわえ [tawɛ] たわい。[及 192]

【例 1】 たわえねあ

「たわいがない」

【例 2】 たわえねあぐ ねでしまたは

「たわいなく寝てしまったよ」

【例 3】 たわえねあごど ゆわえねあんだ

「たわいのないことをいうんじゃないよ」

だんぎ [danɟi] [名] 階段。[及 192]

【例】 ずぞさまの だんぎあ きづくてな

「地蔵さまの階段はきづくてね」

たんこ [tanko] 炭鉱。[続 219]

【例】 たんこあ けいぎあ えぐねあくて こまた おんだな

「炭鉱は景気が悪くて困ったもんだな」

たんこずぼん 乗馬ズボン。[及 58]

【例】 むがしあ 山師なの たんこずぼん へあで ありぐ おんだけな

「昔は山師なんかが、乗馬ズボンをはいて歩くものだったな」

だんころ [dankoro] 土などの塊をいう。[続 219]

【例】 ほごの めなぐず つずの だんころで くえで おげ

「そこの水口を土の塊で塞いでおけよ」

たんじえん [tanⁿdʒɛn] 丹前。[続 219]

【例】 ござらであ たんじえんの ごど ねまぎて いうども どでらてあ ゆわねあな

「この辺では、丹前のことを寝巻きというが、どてらとはいわないね」

だんじえん [danⁿdʒɛn] [副/トタル] 断然。[続 219]

【例】 ほれあ やす ほより たげあ ほあ だんじえん えに きまてんべや

「それは、安い方より高い方が断然いいに決っているだろうや」

たんじゃぐ [tandʒagü] [名] ^{たんぎく}短冊。[及 192]

【例】 この たんじゃぐさ なにが けあでくんねあが

「この短冊に、何か書いて（画いて）くれませんか」

だんじゃぐ [dandʒagü] [名] ごね。暴れ。子供がごねたり暴れたりすること。[及 192]

【例】 この やろ まだ だんじゃぐ こえで

「この野郎、またごねやがって」

たんしょ [tanʃo] 喘息。[続 219]

【例】 たんしょもずだ おんだはげあ、たばこ すうど くるすぐ なんなよ

「喘息が持病なものだから、煙草をすうと、苦しくなるんだよ」

たんた [tanta] [幼児語] 足袋。[同] たんたん。[続 219]

【例】 ○○ちゃん、さみはげあ、こっちや きて たんた はげな
「○○ちゃん、寒いから、こっちへ来て足袋を履きなさいね」

たんだ [名] ただ。[及 192]

【例】 おめあ おがげで たんだ ごしゃがってしました
「お前のせいで、ただ叱られてしまったよ」

だんだ ~のだろう。[及 192]

【例】 あの ごどあ ゆああだんだ
「あのことは、いったのだろう」

だんだし ~なんだし。[及 192]

【例】 こどしも 豊作だんだし
「今年も豊作なんだし」

だんつげあ [dantsūŋe] [名/ダナ] 段違い。[続 219]

【例】 ○○ ゆえだほあ、 ゆえだなゆり、しゆうにゆうあ だんつげあん よげだな
「○○を植えた方が、を植えたのより、収入は段違いに多いね」

だんなかが 主婦。奥さん(但し、世帯主の奥さん)。[及 6]

【例】 おめあえの だんなかがどき これ やてくんねあが
「お宅の奥さんにこれをやってくれませんか」

だんに [dannī] 壁蝨。[続 219]

【例】 だんにて やんだ おんだな、しとんどさ くつつで つ すうおんだおん
「だにって嫌なものだね、人にくつついて血を吸うんだから」

たんねあ 足りない。[及 192]

【例】 こればりであ たんねあな
「こればかりでは、足りないね」

たんぱ きはだ。みかん科の落葉高木で、樹皮内側の黄色の部分は胃腸薬になる。[同] にかぎ。[及 91]

たんばら [名] 短気。[及 192]

【例】 あれだば たんばらだ おんで
「あいつなら、短気なもんで」

たんび [名] 度。都度。[及 192]

【例】 この わらすあ 来る たんび おつきぐ なたる おんだ
「この子は、来る度に大きくなっているもんだ」

たんび 足袋。[同] たんた」または。たんたん。[及 58]

【例】 こんだ ゆぎあ ふたはげあ たんび はがねあんねあなは
「今度は雪が降ったから、もう、足袋を履かないといけないな」

たんむす 田虫。皮ふ病の一種。[及 16]

【例】 たんむすあ 出っど けあ おんだ
「田虫が出ると、かゆいものだよ」

— ち —

ちかむげあ [名] 近むかえ。婚礼の日、嫁を近所まで出迎えること。[及 193]

【例】 そろそろ、嫁あ 来る 頃だ ちかむげあん えがねあんねあな
「そろそろ、嫁が来る頃だから、近迎えに行かないといけないな」

ぢぐぢぐ [dzigüdzigü] [副] ぢくぢく。ちくちくよりひどい刺し方をいう。[及 193]

【例】 かめばづに ぢぐぢぐ ささっだは
「すずめ蜂に、ぢくぢく刺されてしまったよ」

ちげあ [tsiŋɛ] [名] 違い。[及 193]

【例】 くづ ○○あ まぢげあだに ちげあねあな
「靴を○○が間違えたに違いないな」

ちけあぐ [tsiŋkɛgü] 近く。[続 220]

【例 1】 おれあ えの ちけあぐに かわ ある
「私の家の近くに川があるよ」

【例 2】 さんずっせんつちけあぐの ざっこった
「30cm 近くの雑魚を釣ったよ」

【例 3】 ちけあぐ ちょうちょ くっど
「近く町長が来るそうだ」

ちっけあ [tʃiŋkɛ] 近い。[同] ちけあ。[及 29]

【例】 ○○あ えが、ちっけあはげあ えてみろ
「○○の家かい、近いから行ってみなさい」

ちなまくせあ [tsinamaküse] [形] 血腥い。[続 220]

【例】 とりこ ころして、ちなまくせあ おんだはげあ、ねごあ かぎついで きたな
「鶏を殺して、血腥いものだから、猫が嗅ぎつけて来たな」

ちまなぐ [tsimanagü] 血眼。[続 220]

【例】 ないが であじだ おの なぐしたどて ちまなぐんなて さがしったけ
「何か大事な物をなくしたとって、血眼になってさがしておったよ」

ちや [tʃa] [間助] よ。[及 193]

【例】 おれあどさ ほれ くっちや

「私にそれをくれよ」

ちや [tʃa] [格助] に。[及 193]

【例】 おれあちや もて こえ

「私に持って来てくれ」

ちやかっと [副] ちやつかり。[及 193]

【例】 おれあ ねまっどさ ちやかっと ねまっただけは

「俺の据わる所へ、ちゃっかり据わってしまっていたつけ」

ちやかもか [副] ちやかちやか。[及 193]

【例】 ちやかもかてねあで、すこす 休め

「ちやかちやかやってないで、少し休めよ」

ちやこ [tʃako] 猫。[続 220]

【例】 おれあえの ちやこあ としよてしまて、ねずみも とらねあぐ なたは

「うちの猫は、年寄ってしまて、兎も捕らなくなてしまつたよ」

ちやくえ [tʃakoɛ] [形] 小さい。[同] ちっちえあ。ちちやくえ。つちや こえ。つっちえあ。

[続 0]

なお、極く小さいことを「めちやくえ。めっちやくえ。めっちえあ」などともいう。

ちやちや [tʃatʃa] [幼児語] 猫。[続 220]

【例】 ○○ちゃん、ちやちやどご よばて まま かへろ

「○○ちゃん、猫を呼んでご飯を食べさせなさいね」

ちやちやぎ [tʃatʃaŋi] みそさざい。冬の小鳥。[同] みそさざえ。みそちちよ。[及 91]

【例】 ちやちやぎて さみぐなっど 来る 鳥だなよ

「みそさざいって、寒くなると来る鳥なんだよ」

ちやつちやど [tʃattʃado] [副] さっさと。[及 193]

【例】 ほんたごどあ ちやつちやど してしまう おんだ

「そんなことは、さっさとやってしまうもんだ」

ちやつと [tʃatto] [副] さっと。すばやいこと。[及 193]

【例】 おれあ とる かんじよしたば、よごがら ちやつと とらっだけ

「俺が取ろうと思ったら、横から、さっと取られてしまったつけ」

ちゅーおの [tʃū:ono] 中物。[続 220]

【例】 つけあおのん すんなだども、じょうおのんねあて、ちゅーおのだてえんねあべが

「遣い物にするんだが、上物でなくとも、中物だていいんじゃないだろうか」

ちゅーげあり [tʃū:ŋeri] 宙返り。[続 220]

【例】 ○○ちゃん おら てずぼうで ちゅーげあり へんぜは

「○○ちゃん、僕、鉄棒で、もう宙返りが出来るよ」

ちゅーしよ [tʃü:ʃo] 中風。[続 221]

【例】 おれあえの ずさまも、ちゅーしよあ あだて ねだきりだは
「うちの爺さんも、中風になって、もう寝たきりだよ」

ちゅーしよたがり [tʃü:ʃotagari] 中風病み。[続 221]

【例】 ちゅーしよたがりも、やだ おんだなや へだんすつと、ねだきりん なっさげあな
「中風病みも、嫌なものだね、下手にすると、寝たきりになるからな」

ちゅーせあー [tʃü:se:] [名/ス他] 仲裁。[続 221]

【例】 だれが ながさ へあて、ちゅーせあーしねあど、おさまらねあべ
「誰か中に入って、仲裁しないと、治まらないだろうよ」

ちゅーぜあーしよ [tʃü:ʒe:ʃo] 駐在所。[続 221]

【例】 ちゅーぜあーしよの じゅんささん かわたはげあて、こへぎ すらべん きたけ
「駐在所の巡査さんが代ったからというので、戸籍調べに来たっけ」

ちゅくれあ [tʃüküre] [名] 中位い。[同] ちゅうぐれあ。ちゅっくれあ。[及 193]

【例】 まづ これだば ちゅぐれあの 成績だべな
「まあ、これなら、中位いの成績だろうな」

ちゅんがり [tʃünɯari] 中刈り。桑の仕立方。[及 73]

【例】 ちゅんがりの かあ とて こえよ
「中刈の桑をとって来るんだよ」

ちょうへんぎぐ [tʃo:çenɯigü] えぞぎく。ちょうせんぎく。アスター。きく科の花弁。[及 91]

【例】 おれあえでも ちょうへんぎぐ ゆえだ
「うちでも、えぞぎくを植えた」

ちよえちよえ [tʃoetjoe] [副] ちよいちよい。時時。[同] ちよこちよこ。ちよくちよく。[及 193]

【例】 ○○さんだば、ちよえちよえ 来るよ
「○○さんなら、ちよいちよい来るよ」

ちよえつと [tʃoetto] [副] 一寸。[同] しつとえあ。[続 222]

【例】 ちよえつと ほごまで えて くっさげあな
「一寸其処まで行って来るからね」

ちよーす [tʃo:sü] 調子。[続 221]

【例 1】 ええ ちよーすの うだだな
「いい調子の唄だな」

【例 2】 こんだ からだの ちよーすも えな
「今度は体の調子もいいな」

ちよーずげあー [tʃo:dzüŋe:] 蝶番。[続 221]

【例】 ちょーずげあ にんめあばり かて こねあんねあな
「蝶番を二枚ばかり買って来ないといけないな」

ちょーずん [tʃo:dzũn] 提燈。[続 221]

【例】 えまだば でんとうばりで、ちょーずんなの ある えあ ねあべはな
「今なら電燈ばかりで、提燈なんかのある家はもうないだろうな」

ちょーずんこばな [tʃo:dzũnkobana] つりふねそう。これは、つりふねそう科の一年生草本で、山ろくや水辺に生え、この地区には、花が紅紫色の「つりふねそう」と、花が黄色な「きつりふねそう」がみられる。[続 221]

ちょーちよ [tʃo:tʃo] 町長。[続 221]

【例】 こうみんかん かいつぐする そうだんさ、ちょーちよも きてくっだけ
「公民館を改築する相談に、町長も来てくれたっけ」

ちょーちよ [tʃo:tʃo] 蝶蝶。[続 222]

【例】 こごらあだりで めずらす ちょーちよてゆえば ひめぎふちようだべな
「この辺で珍しい蝶蝶といえは、ひめぎふちようだろうな」

ちょーであ [tʃo:ˈdɛ] [名/ス他] 頂戴。[続 222]

【例 1】 おかあさん おやつ ちょーであ
「お母さん、おやつを頂戴」

【例 2】 ちょーであおのすども あがてくであ
「頂戴物ですが、おあがり下さい」

ちょーねあー [tʃo:ne:] 町内。[続 222]

【例】 ふこうなのあっど、ちょーねあーの しとあ みな おがみん きてくえる
「不幸なんかあると、町内の人は皆拜みに来てくれます」

ちょーへ [tʃo:hɛ] 徴兵。[続 222]

【例】 おらだ わげあずぎあ、ちょーへけんさず おのあ あた おんだ
「俺達の若い頃は、徴兵検査というものがあったもんだよ」

ちょーへんこ [tʃo:hɛnko] 子供の囃子ことば。仲よし。これは、男の子と、女の子が仲よく遊んでいると、その仲よさをねたんで、やゆするような、「おどごど、おなごど ちょーへんこ あんまりちょうして ながへんこ＝男と女と仲よしだ、余りかまって泣かせる子」と囃子ことばを唄うもので、「ちょーへんこ＝仲よし」と解される言葉である。[続 222]

ちょーほ [tʃo:ho] 調法。[続 222]

【例】 れいぞうこじゃ ちょーほだ おんだな くいおのあ くさらねあくて
「冷蔵庫って重宝なものだね、食べ物が腐らなくて」

ちょこんと [tʃokonto] [副] ちょこなんと。[続 222]

【例】 まごあ しとり テレビの めあさ ちょこんと ねまった おんだ

「孫が一人テレビの前にちよこなんと坐っておったもんだ」

ちよす [動] からかう。馬鹿にする。さわる。[及 194]

【例 1】しとんどご ちよして やだ ごど

「人をからかって、いやだこと」

【例 2】ほれあ であずだ おんださげあ ちよすな

「それは、大事な物だから、さわるな」

ちよずちよず [tʃodzütʃodzũ] [幼児語] 手を叩く遊び。これは、「ちよずちよずするや＝手を叩きましょう」といって、手を叩き合わせて遊ぶ遊びをいう。[続 222]

ちよすます [動] ほんろうする。からかう。なぶる。いじくる。[及 194]

【例 1】おれあどご ちよすます つもりが

「俺をなぶるつもりか」

【例 2】つぐえの ゆえの おの ちよすますなよ

「机の上の物をいじくるなよ」

ちよっくら [副] 一寸。簡単に。[同] ちよっくら。ちよこつと。ちよっこり。ちよっくらさつと。[及 194]

【例 1】〇〇どさ ちよっくら よて えぐべ

「〇〇の家に一寸寄って行こう」

【例 2】あの しとなの ちよっくら えごぐ しとんねあ

「あの人なんか、簡単に動く人じゃないよ」

ちよっけあ [tʃokke] [名] 手先。[及 194]

【例】あれだば ちよっけあ きぐ しとだ

「あの人なら、手先の器用な人だ」

ちよっけあ [tʃokke] [俗語] ちよっかい。[及 194]

【例】まだ おなごさ ちよっけあ かげる

「また、女にちよっかいを出す」

ちよっけあ [tʃoke] 小手先。器用さ。[及 18]

【例】なんだて ちよっけあ きがねあちやな

「なんだって不器用だね」

器用なことは「ちよっけあきぐ」といっている。

ちよびちよび [tʃopitʃopi] [副] ちびちび。[続 223]

【例】ほんた ちよびちよびど のまねあで ぐえつと やれや

「そんなちびちび飲まないで、ぐいとやれよ」

ちよへけんさ [tʃoçekensa] [名] 徴兵検査。[及 194]

【例】わけあずぎ ちよへけんさず おの さつだ おんだ

「若い時、徴兵検査というものをされもんだ」

ちょぺっと [tʃopetto] [副] ちょっぴり。[続 223]

【例】 おれあ さげだば のめねあはげあ、ちょぺっと つでくんねあが
「私は酒なら飲めないから、ちょっぴり注いてくれませんか」

ちよろがす [tʃorogasiü] [四他] おちやらかす。[同] おちよくらがす。おちよらがす。[続 223]

【例】 ほんたごど ゆて しとんどご ちよろがす かんじゆが
「そんなことをいって、人をおちやらかすつもりかい」

ちよろっと [tʃorotto] [副] ちよろりと。[続 223]

【例 1】 デパートで めへの おの ちよろっと ぬすで えたけ
「デパートで、店の物をちよろりと盗んで行ったっけ」
【例 2】 ねずみあ ちよろっと ではて きたけ
「鼠がちよろりと出て来たっけ」

ちよんな 手斧。[及 65]

【例】 ちよんななの えまだば つかう ごどあ ねあなは
「手斧なんか、今なら使うこともなくなってしまったな」

ちよんなみ [tʃonnami] ちよんなみ。手網。[続 223]

【例】 ちよんなみ かて きたはげあ、かつかすぎでも えぐがな
「手網を買ってきたから、鰥掬いでも行こうかな」

ちらっと [tsiratto] [副] ちらりと。[続 223]

【例】 やまさ えたば、うさぎの すがだ ちらっと めだけ
「山へ行ったら、兎の姿がちらりと見えたっけ」

ちんちん [名] 少少。[及 194]

【例】 さげだば のめねあはげあ ちんちんど つでころ
「酒なら飲めないから、少少づつ注いてくれ」

—つ—

つ 血。[及 16]

【例】 なにした おんだや つなの 流して
「どうしたの、血なんか流して」

つ [tsü] 櫓の背の山になっていて、荷台を取りつける部分をいう。この櫓の山の部分の「つ」は、普通片方に二つあり、一台の櫓に四つあるので「よつぞり」ともいい、片方に一つしかないものを「ばず（及位の方言 67P）」といている。[続 224]

つあ [tsa] [格助] に。[及 194]

【例】 ほれ おれあつあ くんねあが
「それ、私にくれませんか」

〜つあん [~tsan] さん。人に付ける敬称。「さん」を「つあん」というのは、人名の語尾が「じ。ち。つ」の場合に限られており、「しょうんつあん＝昭二さん」。「さぎつつあん＝佐吉さん」。「よすまつつあん＝芳松さん」のように使うが、例外に「ずんつあん＝お爺さん」。「ぼんつあん＝お婆さん」と使ったが、今は使われていない。また、「さん」を「つあ」と呼ぶ場合があり、次のようである。「ずつつあ。ずんつあ＝お爺さん」。「ばつつあ。ばばつあ＝お婆さん」。「おどつつあ。つあつあ＝お父さん」。「ががつあ＝お母さん」。「あんつあ＝兄さん」。「あねつあ＝姉さん」。「おんつあ＝弟さん」。「おばつあ＝妹さん」。「おんつあ＝伯叔父」。「おばつあ＝伯叔母」。[続 224]

なお、「弟さん。妹さん」の「おんつあ。おばつあ」は他人が呼ぶ時であり、家族の者が呼ぶ時は、「おず。おば」である。また、「つあ」は今は使わなくなってしまった。

ついん [tsüin] [副] 遂に。[続 224]

【例】 どうも ふりそだどもたら、やっぱり ついん ふてきたな
「どうも降りそうと思ったら、やっぱり遂に降ってきたな」

ツーズ [tsü:dzü] チーズ。乳製品。[続 224]

【例】 ビールの つまみん すんな ツーズ かて きてくんねあが
「ビールのつまみにするチーズを買ってきてくれないか」

つーちよ [tsü:tjo] 通帳。[続 224]

【例】 つーちよど はんこ もて えて ぎんこがら かね おろして きてころ
「通帳と印鑑を持って行って、銀行から金を下ろして来てくれ」

つうつ [形] 汗を流して働くさま。[及 194]

【例】 つうつて はだれあでも しかだねあ おんだ
「幾ら汗水を流して働いても、貧乏なもんだ」

つえ 強い。[及 29]

【例】 あれあまだ めっぼ つえ おんだ
「あいつは、めっぼう強いもんだね」

つえ [tsüē] 知恵。[続 225]

【例】 がっこさ へあたば、この わらすあ であぶ つえあ つで きたな
「学校に入ったら、この子は大分知恵が付いてきたね」

〜つえあ [~tse] [接尾辞] よ。人に自分の意を告げる語。[続 224]

【例 1】 あつつえあ
「あるよ」

【例 2】 きつつえあ
「切るよ」

【例 3】 くえつつえあ
「くれるよ」

【例 4】 のつつえあ
「乗るよ」

【例 5】 とつつえあ
「取るよ」

つえか [tsüēka] [名/ス他] 追加。[続 225]

【例】 なめこの かんずめ もと おすどて、つえかちゅうもんして よごしたけ
「なめこの缶詰をもっと欲しいとって、追加注文してよこしたけ」

つえだづ [tsüēdadzū] [名] ついたち。その月の最初の日。[及 195]

【例】 今日あ じゅうにがづの つえだづがは
「今日は、もう十二月一日かね」

つえだで [tsüēdade] 衝立。[続 225]

【例】 ゆるりあ ねあぐ なてがら、つえだでなの つかう えあ ねあなは
「囲炉裏がなくなってから、衝立なんか使う家はもうなくなってしまったな」

つえで [tsüēⁿde] 序で。[続 225]

【例】 ござまで きたおんだおん、つえでん ○○さも よてみで えぐが
「此処まで来たんだから、序でに○○にも寄って見て行こうか」

〜つお [~tso] [間助] よ。[続 225]

【例 1】 きつつお
「切るよ」

【例 2】 くつつお

「来るよ」

【例3】 とつつお

「取るよ」

【例4】 ねつつおは

「もう寝るよ」

【例5】 ほつつお

「堀るよ」

その他に、「よ」は、「ぜあ。ぞ」と「きんぜあ(ぞ)」「くんぜあ(ぞ)」「とんぜあ(ぞ)」「ねんぜあ(ぞ)」「ほんぜあ(ぞ)」などのように使う。

つがう [動] 違う。[及 195]

【例】 ほれあ つがう おれああだ

「それは違うよ、私のだよ」

つかがり [tsükagari] 突き当たり。[続 225]

【例】 ○○さんの えだば、ここ まっすぐん えて、つかがりの えだ

「○○さんの家なら、此処を真っ直ぐに行って、突き当たりの家です」

つかがる [tsükagarü] [動] 支える。[及 195]

【例】 おっき もづ くだ のどさ つかがんぞ

「大きい餅を食べると、のどに支えるよ」

つかがる [tsükagarü] [動] つっかかる。けんかをうる。[及 195]

【例】 おれあどさ なして つかがんなや

「俺になぜつっかかるんだ」

つかげる [tsükagerü] [動] つっかける。[及 195]

【例】 ほごに ある おの つかげで えげ

「そこにあるものをつっかけて行きなさい」

つかごろ [tsükagororo] 近頃。[続 225]

【例】 つかごろの わらしたずあ、ほうげん あんまり つかわねあぐ なたな

「近頃の子供らは、方言を余り使わなくなったな」

つかす [形] 近しい。親しい。[同] したす。[及 195]

【例】 ○○どあ つかすぐして もらてる

「○○とは、親しくしてもらっています」

つかすず [tsükasüdzü] 地下室。[続 225]

【例】 つかすずの ごど おら ほであ あなぐらても ゆてるな

「地下室のことを、うちの方では穴蔵ともいっているね」

つかつか [副] ちかちか。[及 195]

【例1】 はるさぎん なっど ゆぎあ まぶすくて つかつかするな
「春先になると、雪がまぶしくて、目がちかちかするね」

【例2】 なんだべ へなが つかつかするな
「なえだろう、背中がちかちかするな」

つかま [tsükama] 近間。[続 225]

【例】 おらほあ やまどごだはげあ あおおのなの つかまで とれんなだ
「私達の方は山どころだから、山菜なんか近間で採れるんだ」

つかまへる [tsükamaçerü] [動] 掴ませる。[及 195]

【例】 ほんたおの つかまへる 議員なのにあ ろぐだ おのあ いねあ おんだ
「そんなものを掴ませる議員なんかには、ろくな人物がいないもんだよ」

つかみ かすがい。[及 65]

【例】 小屋 たでっずぎ つかみ おしはげな
「小屋を建てる時に、かすがいが欲しいからな」

つかみず [tsükamidzü] 近道。[続 226]

【例】 ほっつがらだど とうまりだはげあ、こっつの つかみず えぐべ
「そっちからだどと遠回わりだから、こっちから行こう」

つかめあーる [tsükame:rü] [下一他] 掴まえる。捕まえる。[続 226]

【例1】 ○○さん きたら つかめあーで おえでころ
「○○さんが来たら、掴まえておいてくれ」

【例2】 うさぎ つかめあーで きた
「兎を捕まえて来たよ」

つからえっぺあー [tsükaraeppe:] [副] 力いっぱい。[続 226]

【例】 つからえっぺあ ひばたども、かであくて ぬげねあけ
「力いっぱい引っ張ったが、固くて抜けなかったよ」

つからおどす [tsükaraodosü] [動] 落胆する。がっかりする。[及 195]

【例】 つあつあに なぐならっで なんぼが つからおどしたんだが
「お父さんに亡くなられて、どんなにか落胆していることだろうね」

つからこぶ [tsükarakobü] 力瘤。[続 226]

【例】 ○○さんの つからこぶだば てあした おんだ、やまこみであん なるおん
「○○さんの力瘤なら大したもんだ、小山のようになるからな」

つからずえ [tsükaraⁿdzüe] [形] 力強い。[続 226]

【例】 こんだ おれあえさも おどごおぼごあ んまっだはげあ つからずえぐ なた
「今度うちにも男の子が生まれたから、力強くなったよ」

つからずぐ [tsükaraⁿdzügü] 力づく。[続 226]

【例】 ゆいまがさっだ おんだはげあ、つからすぐで かがてくんだけあ
「言い負かされたものだから、力づくでかかってくるのなんだよ」

つからすごと [tsükarasünodo] 力仕事。[続 226]

【例】 つからすごとだば、ないんたて おなごあ おどごにあ かなわねあな
「力仕事なら、なんといったって女は男には敵わないな」

つからだめす [tsükaraⁿdamešü] 力試し。[続 226]

【例】 むがすの わげあおのあ えぐ たらなの かずで、つからだめす した おんだ
「昔の若者は、よく俵なんかを担いで、力試しをしたもんだよ」

つからまがへ [tsükaramagahe] [ノダナ] 力任せ。[続 226]

【例】 ほんげあ つからまがへん ひっぱど ひぼあ きれんぞ
「そんなに力任せに引っ張ると、紐が切れるよ」

つかんばな [名] 手鼻。手で鼻の片側を押えて鼻汁を出すこと。[及 195]

【例】 つかんばなの かむ おんでねあ
「手鼻なんかかむものじゃないよ」

つかんばな [tsükapanana] 手鼻。掴みっ鼻。[続 226]

【例】 ほんげあ どごさだじゃねあぐ つかんばな して ありぐな
「そんなに何処だということなく掴みっ鼻をして歩くなよ」

つぎ [tsünji] 布。[及 59]

【例】 この つぎあ 木綿んねあな
「この布は木綿じゃないね」

つぎ [tsügi] さおはかり。棒秤。[及 50]

【例】 これあ めがだ なんぼ あんべ つぎ もて きてみる
「これは目方がどれくらいあるかな、竿秤を持ってきてくれ」

つぎあへる [tsünjiaherü] [下一他] 継ぎ合わせる。[続 227]

【例】 ほの ズボンさ この つぎ つぎあへど えんねあべが
「そのズボンに、この布を継ぎ合わせたらいいじゃないだろうか」

つぎえあ [tsügie] [名] 付き合い。交際。[及 195]

【例】 あれだば つぎえあにぐえ おどごだ
「あいつなら付き合いにくい男だね」

つぎおの [tsügiono] 付き物。[続 227]

【例】 ないんたて、さすみさだば わさびあ つぎおんだべや
「なんといったって、刺身になら、山葵が付き物だろうや」

つぎおの [tsünjiono] 継ぎ物。[続 227]

【例】 おれあえの やろこあ ズボン きらして きたはげあ、つぎおの した

「うちの子（男の子）がズボンを切らして来たから、継ぎ物をしているんです」

つぎおの [tsügiõno] 憑き物。[続 227]

【例】 ○○さんどさ つぎおのあ つだはげあ、いのて もらて、おどして もらたど
「○○さんに憑き物が付いたから、祈ってもらって、落としてもらったそうだ」

つぎざっこ [tsügidzakko] はや。うぐい。淡水魚。[同] へあざっこ。[及 92]

【例】 この ざっこあ 卵なす ずぎあ あだまどが はらなの あがぐ なる さがなだ
「この雑魚は、産卵期には、頭や腹などが赤くなる魚なんだ」

つきしよ [tsükjõ] 畜生。[続 227]

【例 1】 つきしよだて いぎおのだはげあ、いずめんなよ
「畜生だって生き物だから、苛めるなよ」
【例 2】 あの つきしよ、すごどもしねあで、どさ けずがた
「あの畜生、仕事もしないで、何処へ行きやがったんだ」

づぎ～ずぎ [dzügi] [名] 時。[及 195]

【例 1】 あん づぎ
「あの時」
【例 2】 こん ずぎ
「この時」
【例 3】 ほん ずぎ
「その時」

単独でも zUgi?

つぎのおの 月経。メンス。[及 16]

つぎばず [tsünjipa"dzü] 布切れ。[続 227]

【例】 ほごの つぎばず よこしてくんねあが、ズボンの ひじやさ はぬうはげあ
「そこの布切れをよこしてくれないか、ズボンの膝に端縫いするから」

つぎる [tsünjirü] [四他] 千切る。[続 227]

【例】 までよ、えま もず つきて かへっさげあな
「待ってなさいよ、今ね餅を千切って食べさせるからな」

つぐす [tsügüsü] [名] 杭。[及 196]

【例】 ほごさ つぐす 五、六本 ぶておげ
「そこへ杭を五、六本打っておけよ」

つぐばる [tsügübarü] [下一他] うつ伏せる。[続 227]

【例】 ねっずぎあな つぐばてねっど おかねあ ゆめ みっさげあな
「寝る時はね、うつ伏せになって寝るとおっかない夢を見るからね」

つぐりおの [tsügürõno] 作り物。[続 227]

【例1】 この はな つぐりおのだて ほんもの そっくりだな
「この花は作り物だって、本物そっくりだね」

【例2】 おめあえの はだげの つぐりおのあ なんてあすや
「お宅の畑の作り物はどうですか」

つぐりげあーる [tsügürige:rü] [下一他] 作り替える。[続228]

【例】 へありくずあ ふるすぐ なたはげあ、つぐりげあーる ごどん したは
「玄関が古くなったから、もう作り替えることにしたよ」

つぐりわれあ [tsügüriware] 作り笑い。[続228]

【例】 やんだ ごど、おがすぐもねあな、つぐりわれあなのして
「嫌だわね、おかしくもないのに、作り笑いなんかして」

つぐる [tsügürü] [動] する。だだなどをする。[同] こぐ。[及196]

【例】 まだ ごが つぐる
「また、だだをする」

つぐわ [tsügüwa] 竹輪。[続228]

【例】 つぐわだば おれあえの わらしたずあ うんと すぎで くてる
「竹輪ならうちの子供達がうんと好きで食べているね」

〜つけ [~tsükę] [連語] そうだ。この語は、第三者の言葉を相手に伝える時だけ使い、是認、肯定の意を表す言葉としてや、思い出したり思いついたりした時に感動詞的に使ったりはしない語である。[続228]

【例1】 ○○さんも えぐつけ
「○○さんも行くそうだ」

【例2】 あした あめだつけ
「明日は雨だそうだ」

また、この語は「ど」「すけ」などとも使っている。

つけ ~とっていた。~そうだ。[及196]

【例1】 こえつけ
「来いとっていた」

【例2】 あした 雨だつけ
「明日は雨だそうだ」

つけあ [tsükę] [名] 使い。案内状。招待状。[同] おづけあ。[及196]

【例】 ○○さんさ むがさりの おつけあ 出したがや
「○○さんに、結婚式の招待状を出したかい」

つけあ ~とっていたよ。~そうだが。[及196]

【例】 おめあえの ○○あ 東京さ えたつけあ まだ こねあがや
「お宅の○○さんは、東京に行ったそうだが、まだ来ないのかい」

つけあー [tsüŋe:] 違い。[続 228]

【例】 おれだば、これど これの つげあー わがらねあ おんだな
「私なら、これとこれの違いは、分らないものだな」

つけあー [tsüŋe:] 番。[続 228]

【例 1】 カナリヤ つげあで かて きた
「カナリヤを番で買ってきた」

【例 2】 この ぶひん つげあだなだ
「この部品は番なんだ」

つけあーおの [tsüke:ono] 使い物。遣い物。[続 228]

【例 1】 この なだ つげあーおのん ならねあな
「この鉋は使い物にならないな」

【例 2】 これあ つげあーおのん すっさげあ、のす つげでころ
「これは遣い物にするから、鬘斗を付けてくれ」

つけあーこなす [tsüke:konasü] [四他] 使いこなす。[続 228]

【例】 この きっけあ つげあーこなすにあ よっぼど れんしゅうしねあんねあぞ
「この機械を使いこなすには、余程練習しなければならないよ」

つけあーごむ [tsüke:gomü] [四他] 使い込む。[続 229]

【例 1】 かえしゃの かね つげあーごだど
「会社の金を使い込んだそうだ」

【例 2】 この きっけあ つげあーごで くへ おべろ
「この機械を使い込んで、癖を覚えなさい」

つけあーで [tsüke:de] 使い手。[続 229]

【例】 バイクの つげあーでだば ○○だ
「バイクの使い手なら、○○だよ」

つけあーで [tsüke:de] 使いで。[続 229]

【例】 これ くれあ あれば つげあーで ある
「これくらいあれば使いでがあるね」

つけあーぱすり [tsüke:pasüri] 使い走り。[続 229]

【例】 この わらすも おっきぐ なて、つけあーぱすり でげるよん なた おんだ
「この子も大きくなって、使い走りが出来ようになったもんだ」

つけあーはだす [tsüke:hadasü] [四他] 使い果す。[続 229]

【例】 え たでだ おんだはげあ、かね つげあーはだしてしまたは
「家を建てたものだから、金を使い果してしまつたよ」

つけあーる [tsüke:rü] [下一自] 仕える。[続 229]

【例】 しゅずんさ つけあーるにあ、まごごろ こめで つけあーる おんだぞ
「主人に仕えるには、誠心を込めて仕えるものだよ」

つけあーる [tsũkɛ:rũ] [下一白] 支える。[続 229]

【例 1】 ひぐくて あだま つけあーるな
「低くて頭が支えるな」

【例 2】 どがんさ ごみあ つけあーだ
「土管にごみが支えた」

【例 3】 むねあ つけあーる
「胸が支える」

つげあーる [tsũŋɛ:rũ] [下一他] 番える。[続 229]

【例 1】 ゆみの や つげあーる
「弓の矢を番える」

【例 2】 にわどり つげあーらへる
「鶏を番えさせる」

つけあぐ [tsũkɛgũ] 近く。[続 229]

【例 1】 つけあぐ おぎやくさま つで くっさげあな
「近くお客さまを連れて来るからね」

【例 2】 わらびだば、おれあえの つけあぐに ある
「わらびなら、うちの近くにあるよ」

つけあげ 天ぶら。[及 42]

【例】 おれあ 茄子の つけあげ すぎだな
「私は茄子の天ぶらが好きだな」

つげあだな [tsũŋɛ'dana] 違い棚。[及 51]

【例】 この お土産あ つげあだなさ かざてころ
「このお土産は、違い棚に飾って下さい」

つけあへ [tsũkɛaɛ] 付け合わせ。[続 230]

【例】 この りょうりあ、こればり ださねあで、ないが つけあへ そえっど えな
「この料理は、これだけを出さないで、何か付け合わせを添えた方がいいね」

つけおの 漬物。[及 42]

【例】 つけおのあ ねあど まま くうきあ しねあな
「漬物がないと、ご飯を食べる気がしないな」

つけげ 付け木。火種の火をつける先に硫黄をつけた薄い木片。[及 51]

【例】 かまの 火あ つけげで つけろよ
「釜の火は付け木でつけなさいよ」

つけつけ [tsük̚et̚sük̚e] [副] ずけずけ。[続 230]

【例】 えぐ しの やんだ ごど つけつけ ゆえる おんだ
「よく人の嫌なことを、ずけずけいえるもんだよ」

つけっと 知らない振りをする。[同] つけらっと。[及 196]

【例】 つけっとして、へんずも すねあけ
「知らない振りをして、返事もしなかったよ」

つけどん [tsük̚edon] [ダナ] つっけんどん。[続 230]

【例】 ないだや、おやさ むがて、ほんた つけどんだ へんずずあ ねあべな
「なんだい、親に向って、そんなつっけんどんな返事ってないじゃないか」

つけひぼ [tsük̚ehibo] 付け紐。[続 230]

【例】 わらしたずの きおのじゃ みな つけひぼ つけだ おんであった
「子供の着物ってみな付け紐を付けたものだったよ」

つご [tsüŋo] [名/ス他] 都合。[続 230]

【例 1】 きょうあ つご わりくて えげねあ
「今日は都合が悪くて行けないよ」
【例 2】 なんとかが つご つけでころ
「なんとか都合をつけてくれよ」

つこす [tsük̚osü] [副] 少し。[続 230]

【例】 えもの たね つこすで ええはげあ わげでくんねあが
「芋の種を、少しでいいから、分けてくれませんか」

つごたご [tsüŋotajo] [ダナ] 互い違い。[続 230]

【例】 ほの まめ ゆえっずぎあ つごたごん ゆえろよ
「その豆を植える時は、互い違いに植えるんだよ」

づこっと [副] ずんぐり。[同] つこっと。[及 196]

【例】 ○○あ づこっとした 体つきだ
「○○はずんぐりした体つきだ」

つこむ [tsük̚omü] [四自] 突っ込む。[続 230]

【例】 この ふぐろさ ないもかいも つこだて だめだぞ
「この袋に何もかも突っ込んだって駄目だよ」

つしよ [tsüjo] 地所。[続 230]

【例】 どさが え たでる え あんべあの つしよあ ねあんだが
「何処かに、家を建てる適當の地所がないだろうか」

つず [名] 地図。[及 196]

【例】 この つず みっど わがる

「この地図を見ると分るよ」

つず [tsürⁿdzü] 知事。[続 231]

【例】 こどすあ つずの かいせん あんども だれあ たずべ
「今年は、知事の改選があるが、誰が立つだろうね」

つず [tsüdzü] 土。[続 231]

【例】 こごの つずあ ねんどすずだはげあ きやぐどすねあんねあな
「ここの土は、粘土質だから、客土しないといけないな」

つず [tsüdzü] 父。[続 230]

【例】 うずの つずあ すずじゅう すぎだども まだ スキー のてる
「うちの父は、七十を過ぎたが、まだスキーに乗っているよ」

つずあれあ [tsüdzüare] 土洗い。[続 231]

【例】 つずあれあて ひやくしよすごどの おわりの いろいろかいだど
「土洗って、百姓仕事の終りの慰労会だそうだ」

つずおや [tsüdzüoja] 父親。[続 231]

【例】 ○○あ つずおやん すなつで がっこさも えげねあべじゆは
「○○は、父親に死なれて、もう学校にも行けないだろうよね」

つずぎ [tsüdzüñi] つつじ。[続 231]

【例】 あんまり きれだ つずぎだはげあ、やまがら こえで きたあだ
「余り綺麗なつつじだから、山から抜いで来たんだ」

つずくせあ [tsüdzüküse] [形] 土臭い。[続 231]

【例】 おわえらだ ひやくしよだおん、つずくせあて ゆわだて やめらんねあ
「自分の選んだ百姓だから、土臭いといわれも止められないね」

つずくび [tsüdzükübi] 乳首。[続 231]

【例】 なんぼが はら へたんだが つずくび くわえあで はなさねあ おんだ
「どんなに腹がへったんだろうか、乳首をくわえて離さないもんだ」

つずこくせあ [tsüdzüköküse] [形] 乳臭い。[続 231]

【例】 なえだ、まだ、つずこくせあ かんめあして、おやさ えげんする きが
「なんだ、まだ乳臭いくせして、親に意見する気か」

つずこばなれ [tsüdzükobanare] 乳離れ。[続 231]

【例】 すこすずず まま くよん なたはげあ、そんま つずこばなれすんべは
「少しずつご飯を食べるようになったから、直に乳離れしてしまうだろうよ」

つすず [tsüsürⁿdzü] 血筋。[続 232]

【例】 つすずあ あらそえねあ おんだな、きしよあ ずさまど そっくりだ おん
「血筋は争そえないものだね、気性は爺さんとそっくりなもの」

つずすむ [tsüdzüsümü] [四他] 慎む。[続 232]

【例】 おめあ つかごろ さげ のみすぎっさげあ、すこす つずすむど ええな
「お前は近頃酒を飲み過ぎるから、少し慎むといいな」

つずのま [tsüdzünoma] 地べた。地面。[続 232]

【例】 ○○ちゃん つずのまさ ねまっど きおのあ よごれんぞ
「○○ちゃん、地べたに坐ると、着物が汚れるよ」

つずはは [tsüdzühaha] 父母。[続 232]

【例】 つずはは いるくれあ しっしやわへだ ごとあ ねあな
「父母のいるくらい仕合わせなことはないね」

つずます [tsüdzümasü] [形] 慎ましい。[続 232]

【例】 ○○さん えの よめだば、よげだ ごど しゃべらねあ、つずます しとだな
「○○さんの家の嫁なら、余計なことを喋べらない、慎ましい人だね」

つずみあがる [tsü'dzümiagarü] [四自] 縮みあがる。[続 232]

【例】 へびの おかねあなさ、へび めへらえる おんだおん、つずみあがるんだはげあ
「蛇のおっかないのに、蛇を見せられるんだもの、縮みあがるんだから」

つずむ [tsü'dzüümü] [四自] 縮む。[続 232]

【例】 この シャツつあ、あらうど つずむはげあ、クリーニングさ だすなだ
「このシャツは、洗うと縮むから、クリーニングに出すんだ」

つずめる [tsü'dzüümerü] [下一他] 縮める。[続 232]

【例】 この ワイシャツあ、そであ すこす なんげあはげあ、つずめでころ
「このワイシャツは、袖が少し長いから、縮めてくれ」

つずりあへる [tsü'dzüüriaherü] [下一他] 綴り合わせる。[続 232]

【例】 この かみ いっさずん なるよん つずりあへでころ
「この紙を一冊になるように綴り合わせてくれ」

つだす [動] 寄こす。渡す。[及 196]

【例】 ほごの ペン つだしてころ
「そこのペンをよこしてくれ」

つたばた 細かく動きまゐる。台所などであちこち動きまわること。[及 196]

【例】 つたばたてねあで まま けは
「そんなに動きまわっていないで、もうご飯にきなさい」

づだらぐ [dzü'daragü] [名] だらぐ。不精。[及 196]

【例】 これだば づだらぐで、こまた おんだ
「こいつはだらぐで困ったもんだ」

つづあぎび [tsüdzüagibi] つちあけび。らん科の多年生の植物で、花後赤色のあけび形の実を

つける。[及 92]

つかげ [tsükkage] スリッパ。[続 232]

【例】 こんだ なずん なたばげあ つっかけも とけあんべ
「今度は夏になったから、スリッパも取り替えよう」

つつかむ [tsütsükamü] [四自] 縮かむ。[続 233]

【例】 きょうだば めっぼ さみ おんで、からだ つつかむよだ
「今日なら、滅法寒いもんで、体が縮かむようだね」

つづくる [tsükküürü] [四自] [強調] 潜る。潜るの強調語。[続 233]

【例】 ふとんさ、ほんげあ つづくぐど、あだま いであぐ なて、はなずあ でんぞ
「布団に、そんなに潜ると、頭が痛くなって、鼻血が出るよ」

つっくるむ [tsükkürümü] [下一他] 纏める。[同] がっくるむ。[続 233]

【例】 とうふど こんにゃぐど この やせあ みな つっくるで なんぼです
「豆腐とこんにゃくと、この野菜を纏めて幾らですか」

つっくるむ [tsükkürümü] [四他] くるむ。[続 233]

【例】 ほの であごん ふるすぎさ つっくるで おえでころ
「その大根を、風呂敷にくるんで置いてくれ」

つっけあ [tsükke] [名] 支え。支柱。つかい。[及 196]

【例】 つっけあ かておがねあど もけあんぞ
「つかいを当てがっておかないと倒れるよ」

つっけあーぼ [tsükke:bo] つっかい棒。[続 233]

【例】 ねっずぎあ わすねあで、へありくずさ つっけあーぼ かて おげよ
「寝る時は、忘れないで、入口につっかい棒を当てがっておけよ」

つっけあす [tsükkesü] [動] 口答えする。突っ返す。[及 196]

【例 1】 親の こどば つっけあす つもりが
「親の言葉に口答えするつもりか」

【例 2】 なに 気にくわねあだが つっけあして よごしたけ
「何が気にくわないのか、突っ返えしてよこしたつけ」

つづこ お乳。乳房。[及 11]

【例】 つづこの ちちゃこえ しとあ 魅力あ ねあな
「乳房の小さい人は魅力がないね」

つっこぬげる [tsükkonügerü] [上一自] ずり落ちる。これは、縛ってある物や袋、包んだ物がずり落ちることをいう。[続 233]

【例】 しょてきた にんずんあ つっこぬげんぞ
「背負って来た人蔘が、ずり落ちるよ」

つつこまる [動] ちぢこまる。かがむ。体をまるめること。[及 197]

【例】 さみどて つつこまてねあで、うんどでも してこえ
「寒いといってちぢまってないで、運動でもして来なさい」

つっころがす [tsükkoronasü] [四他] 突っ転ばす。[同] つっころげあす。[続 233]

【例】 ちっちえあ おの つっころがすじゃねあべな
「小さい者を、突っ転ばすんじゃないよ」

つっころげあす [動] 突っ転ろがす。突っ転ろばす。[及 197]

【例】 ほの いす じゃまだはげあ つっころげあしてやれ
「その石はじゃまだから、突っ転ろばしてやれ」

つづすみ [名] 慎み。[及 197]

【例】 あの おなごあ つづすみの ねあ おなごだな
「あの女は、慎みのない女だね」

つつつぎぼする [tsüttsügibosürü] [四自] しゃがむ。[続 233]

【例】 ほんだどさ つつつぎぼすど、スカートの すそあ よごれんぞ
「そんな所へしゃがむと、スカートの裾が汚れるよ」

つと [名] 菴つと。[及 197]

【例】 つとさ へっだ よ もらたけ
「菴に入れた鮭を貰ったつけ」

つとげる [動] とがらす。口をとがらすこと。[及 197]

【例】 なんだ くづ つとげで
「なんだ、口をとがらせて」

つとす [動] 突き通す。通す。差し込む。[及 197]

【例 1】 錐んねあば つとさんねあなだ
「錐でなければ、突き通されないんだ」

【例 2】 ほの 穴さ 縄 つとすなだ
「その穴に縄を通すんだよ」

つとばす [tsüttobasü] [四他] 突飛ばす。[続 233]

【例】 ちちゃこえ おの つとばすど つあつあも おめあどご つとばすぞ
「小さい者を突き飛ばすと、お父さんも、お前を突き飛ばすよ」

つとまる [tsüttomarü] [四自] 詰まる。特に息が詰まる。[続 234]

【例】 つえ ふぎだ おんで いぎあ つとまりそだけは
「強い吹雪なもんで、もう息が詰まってしまいそうだったよ」

つとる [動] のけぞる。[及 197]

【例】 もと つとらねあど すらんねあ

「もつとのけぞらないと、剃れないよ」

つづなで 土なだれ。土砂崩れ。[及 104]

【例】 ○○えあ つづなでで んめらっだど

「○○の家は、土砂崩れで、埋められたそうだ」

つっぱさむ [tsüppasamü] [四他] さしはさむ。[続 234]

【例 1】 しとの はなすさ よごがら くず つっぱさむな

「人の話に横から口をさしはさむなよ」

【例 2】 これ じょうさすさ つっぱさで おげ

「これを、状差しにさしはさんでおけよ」

つっぱなす [tsüppanasü] [四他] 突き放す。[続 234]

【例】 そべあらへでばり おがねあで、たまにあ つっぱなして おげ

「甘えらせてばかりおかないで、たまには突き放しておけよ」

つっぱまる [tsüppamarü] [四自] 割り込む。[続 234]

【例】 よごがら つっぱまて きて、よげだ くずだす すねあで、はなす きげ

「横から割り込んで来て、余計な口出しをしないで、話を聞けよ」

つっぱり [名] しんばり棒。[同] つっぱりぼ。[及 197]

【例】 裏の 戸さ つっぱり かて おげよ

「裏の戸にしんばり棒を当てがっておけよ」

つづふまず [tsüdzüfūmaⁿdzü] 土踏まず。[及 11]

【例】 なんだや、おめあの あすあ つづふまずあ ねあんねあがや

「なんだい、お前の足は土踏まずがないじゃないか」

つっぺ [tsüppe] [名] 栓。[及 197]

【例】 しょうゆびんさ つっぺ かたが

「醤油瓶に栓をしたか」

つっぺある [tsüpperü] [四自] [強調] 入る。入るの強調語。[続 234]

【例】 こだっつさ ほんげあ つっぺあっど あつぐすんぞ

「炬燵にそんなに入ると、やけどをするよ」

つっぽそで [tsüpposoⁿde] 筒袖。袂のない袖。[続 234]

【例】 ○○ちゃん、えで あすぶ ずぎあ つっぽそでの きおの きろよ

「○○ちゃん、家で遊ぶ時は、筒袖の着物を着なさいよ」

つづまる [動] 縮まる。[及 197]

【例】 おかねあくて、じゅめようあ つづまるよだけ

「おつかなくて、寿命が縮まるようだったよ」

つづれけ [tsüⁿdzüreke. tsüⁿdzüreke] ちぢれ毛。[及 11]

【例】 むがすあ つづれけあ めくせあて ゆた おんだ
「昔はちぢれ毛はめぐさい、といつもんだ」

つで [名] 序で。[及 197]

【例】 えぐ つでん、これ おえで 来てころ
「行く序でに、これを置いて来てくれ」

つであ [tsüde] 冷たい。[同] つみであ。はこえ。はっこえ。[及 29]

【例】 この 水あ つであ 水だな
「この水は冷たい水だな」

つてあー [tsüte:] 伝え。[続 234]

【例】 これあ、おれあえの へんぞさまがらの つてあおのだけはあ、であすん すろよ
「これは、うちの先祖さまからの伝え物だから、大事にするんだよ」

つてあーる [tsüte:rü] [下一他] 伝える。[続 234]

【例】 この ごどあ、かいらんばんで、むらじゅうさ つてあーる ほあ ええな
「この事は、回覧板で、村中に伝える方がいいね」

つとまる [動] 止まる。息の止まること。[同] つつとまる。[及 197]

【例】 はして 来たば いぎあ つとまるよだは
「走って来たら、息が止ってしまいそうだよ」

つなぎ [tsünaŋi] 数本づつのわらの穂の方を結び合せたもの。柴や稲、わらなどを結ぶ時に使う。
[及 73]

つなぎ [tsünaŋi] 虻。特に小型の虻をいう。これは、「めくらあぶ」や、「ごまふあぶ」などの人畜を襲う小型虻の総称である。[続 234]

つなまくせあ [tsünamaküse] [形] 血腥い。[続 235]

【例】 この さがな すこす つなまくせあな にっど とれんべども
「この魚は少し血腥いな、煮ると取れるだろうが」

つねづる [動] 抓る。[同] ひねづる。[及 198]

【例】 ほんげあ つねづる おんだおん いであべや
「そんなに抓るんだもの、痛いじゃないか」

つのはづえあ [tsünotsügie] 角突き合い。[続 235]

【例】 ながば どうすで つのはづえあ してねあで はなす まどめんべや
「仲間同士で角突き合いをしていないで、話を纏めようや」

つのはづ [tsünobadzü] 角ばち。「ばづ(及位の方言 67P)」は、「ばち櫓」で、この櫓の片方の先端が、棒状に伸びたものが「つのはづ」で、この棒状の角を握りしめて、急斜面を下るのに容易にしたものである。[同] てごばづ。[続 235]

つのみご [tsünomiŋo] 乳飲み子。[続 235]

【例】 あれも、おやずに ねらって、つのみご かげあで、よういんねあな
「あの人も、親父に寝られて、乳飲み子を抱えて、容易じゃないね」

つのみづ [名] 血族。親類。[及 198]

【例】 あれあ おれあえの つのみづの もんだ
「あれは、うちの血族の者だよ」

つのもる [tsümonerü] [四自] つんのもる。[続 238]

【例】 いすこさ けずまずで、つのもて ひじゃかぶ けがしてしまた
「小石にけつまずいて、つんのもって膝頭を怪我してしまったよ」

つのもる [動] つんのもる。[及 198]

【例】 いすさ つまづで つのもてしまた
「石につまづいて、つんのもってしまった」

つばぐ [tsübagü] [動] 結ぶ。櫓に横木を縄で、結びつけること。[及 198]

【例】 しより つばぐな 縄 もて きてころ
「櫓に横木を結びつけるから、縄を持って来てくれ」

つばする [tsübasürü] [四自] 血走る。[続 235]

【例】 ないが あったあだべが、○○あ まなぐ つばすらへで はして えたけ
「何かあったんだろうか、○○が目を血走らせて走って行ったっけ」

つばめる [動] まとめる。集める。せばめる。[及 198]

【例 1】 4Kg ぐれあ つばめであ おんだな
「4Kg ぐらい纏めたいものだな」

【例 2】 ほんた はづさらすだ ごど すっど へげん つばめるばんだんだ
「そんな恥さらしなことをすると、世間を狭めるばかりなんだよ」
なお、狭める、は「へばめる」とも使う。

つばる [動] つっぱる。強情を張る。[及 198]

【例】 ほんげあ いづまでも つばる おんでねあ
「そんなに何時までも強情を張るもんじゃないよ」

つぶりこびり [tsübirikobiri] [副] ちびちび。[同] つびらつびら。つびらこびら。[続 235]

【例】 ないだや、ほんげあ つぶりこびり ので、すこす ぐえっと のめや
「なんだい、そんなにちびちび飲んで、すこすぐいと飲めよ」

つぶ たにし。水田や沼、池などに棲む巻貝。食用にしたが、今は殆ど見られない。[及 92]

【例】 えま なして つぶあ いなぐ なたあだべ
「今はどうしてたにしがなくなったんだろう」

つぶあす [tsübüasü] 素足。[同] つぶこあす。[続 235]

【例】 この さみ ずぎ つぶあすで ありぐど かじえ ひぐぞ

「この寒い時、素足で歩くと風邪を引くよ」

つぶあだま [tsübüädama] 外出時になにも被らない頭。[同] つぶこあだま。[続 235]

【例】 さみはげあ つぶあだまで んねあぐないが かぶて ありげよ
「寒いから、何も被らないで歩かないで、何か被って歩けよ」

づぶくぐり [dzübükügüri] [名] 頭から水に潜ること。[及 198]

【例】 おれみであん づぶくぐりせっがや
「俺のように水に潜れるかい」

つぶす [動] 両替える。[同] こまぐする。こまこぐする。[及 198]

【例】 これ つぶしてくんねあが
「これを両替してくれませんか」

つぼける [動] 寄せ集める。集め束ねる。[及 198]

【例】 かやずあ こげあして つぼける おんだ
「かやというものは、こうして集め束ねるもんだよ」
また、かやを集め束ねたものを、「かやつぼけ」といつている。

つぼこあす [tsübokoasü] 積雪中をかんじきをつけないこと。これは、ぬかる積雪中を、かんじきをつけないで歩く時の足をいう。[同] つぼあす。[続 235]

つぼこみず [tsübokomidzü] 雪道をかんじきをつけないで歩いた道。これは、雪が深いと、かんじきを付けて歩くが、かんじきを付けない時は、前に歩いた足跡をたどって歩くが、このような道を「つぼこみず」といつている。[続 236]

つぼねる [動] ゆでて灰抜きをする。少量の物をまとめる。[及 42]

【例 1】 わらび つぼねっごごだ
「わらびをゆでて灰抜きをするところです」
【例 2】 すこすぱりだども つぼねで えさ 持て えぐ
「少しばかりだが、まとめて家へ持って行きます」

つまか 爪皮。[及 59]

【例】 つまかて、足駄の さぎさ つける おんだ
「爪皮って、足袋の先につけるものだよ」

つまかげ [tsümakage] [名] つまずき。[同] つまけあり。[及 198]

【例】 ほごの いすき つまかげして いであ ごど
「そこの石につまずいて、痛いこと」

つます [tsümasü] [形] つましい。[続 236]

【例】 あの しとあ、こどもらの ためだて、ぜえぶん つますぐ くらしてる おんだ
「あの人は、子供らの為だて、随分つましく暮しているものだね」

つまずる [動] つまみ食いする。[及 198]

【例】 これあ まだ つまざる
「こら、またつまみ食いする」

つまっばれ [tsümappare] 爪の内側が腫れること。[同] つまばれ。つまばれ。[及 16]

【例】 いすさ つまづだば、つまっばれん なてしまたは
「石につまづいたら、爪の内側が腫れてしまったよ」

つまつま [tsümat süma] [トス自] ちまちま。[続 236]

【例】 つまつました えだども、したりばりの くらすだおん、ちょうど えべ
「ちまちました家だが、二人だけの暮しだから、頂度いいだろう」

つまなく [tsümanagü] 血眼。[続 236]

【例】 せあふ おどしたどて、つまなくん なて、あつこつ さがしったけ
「財布を落としたとって、血眼になって、あちこちさがしておったけ」

つまみおの [tsümamiono] 摘み物。[続 236]

【例】 さげばり だしたて だめだべであ、ないが つまみおの もて こえちゃ
「酒ばかり出したって駄目じゃないか、何か摘み物を持って来いよ」

つまらねあ [tsümarane] [連語] つまらない。[及 29]

【例】 えあづも つまらねあごど した おんだな
「あいつも、つまらないことをしたものだな」

つみげあー [tsümi ge:] 積み替え。[続 236]

【例】 ほの にもつあ、じゃまん なっさげあ、こっちゃ つみげあーしてくんねあが
「その荷物は、邪魔になるから、こっちへ積み替えしてくれないか」

つみぶげあー [tsümi bü ge:] [形] 罪深い。[続 236]

【例】 おなごさ おぼご こしえあで、ねげで えたどは、つみぶげあごど する おんだな
「女に子供を作って、逃げて行ってしまったそうだ、罪深いことをするもんだな」

つめ [名] 年の暮。暮。[及 198]

【例】 まだ つめあ 来るは えそがすな
「また、もう年の暮が来るね、忙しいな」

つめあへ [tsüme a he] 詰め合わせ。[続 236]

【例】 ごちゅうげんだて コーヒーの つめあへ おくて よごしたけ
「ご中元だといって、コーヒーの詰め合わせを送ってよこしたけ」

つもりむす しゃくとりむし。しゃくとりが科の幼虫。[及 92]

【例】 つもりむす つぶすど くさこあ でんぞ
「しゃくとりむしを潰すとかぶれるよ」

つらあれあ [tsüraare] [連語] 餅につける小豆や納豆が少なくて、よくまぶれないこと。[及 42]

【例】 つける おのあ なぐなて つらあれあだは
「つけるものがなくなって、よくまぶれなくなってしまったよ」

つらあれあ [tsūraare] 餅に掛ける餡などの極く少ないこと。これは、餅を食べる時に付ける、餡や納豆やくるみなどの付け方が、極く少ないことをいう。[続 237]

つらあれあ [tsūraare] 洗面。顔洗い。[続 236]

【例】 ○○ちゃん、おぎだら すぐ つらあれあして こえよ
「○○ちゃん、起きたら直ぐ洗面をしてきなさいよ」

つらがす [tsüragasü] [四他] 散らかす。[続 237]

【例】 わらしたずあ まだ おもちゃ つらがしたは
「子供らが、また頑具を散らかしてしまったよ」
なお、この語の強調語を「ほつつらがす」という。

つらがんめあ [tsüraŋme] 面構え。[続 237]

【例】 あの しとだば、つらがんめあまで えがめす しとだなや
「あの人なら、面構えまで厳しい人だねー」

つらげる [tsüragerü] [四自] 散らかる。[続 237]

【例】 ほういう つらげる すごどあ えん ながで しねあで そどで してこえ
「そういう散らかる仕事は、家の中でしないで、外でしてこいよ」

つらすけねあ [形] あつかましい。[同] つらつけあねあ。[及 199]

【例】 えぐ つらすけねあぐ 来る おんだ
「よく、厚かましく来るものだ」

つらだす [tsüraⁿdasü] [名] 弔問。[及 199]

【例】 ○○さん しだつけあ つらだす えがねあんねあな
「○○さんが死んだそうだから、弔問に行かないといけないな」

つらっと [tsüratto] [副] ちらりと。[続 237]

【例】 つらっと すかげあ めつけあ えまのこめあん どさ えた おんだべ
「ちらりと片影が見えたが、今の間に何処へ行ったもんだろう」

つらつら [tsüratsüra] [副] ちらちら。[続 237]

【例 1】 ゆぎあ つらつらど おずで きたな
「雪がちらちらと落ちてきたな」

【例 2】 きの えあだがら つらつらど めつけ
「木の間からちらちら見えたつけ」

【例 3】 しとの うわさに つらつらど きげで きた
「人の噂にちらちら聞こえてきた」

つらにぐえ [tsüranigüe] [形] 面憎い。[続 237]

【例】 つらにぐえったら、おれあどご からがうなだぜあ
「面憎いしたら、私をからかうんだよ」

なお、この語の強調語に「こつらにぐえ」がある。

つらぬげ 手拭。タオル。顔を洗う布。[及 59]

【例】 つらぬげぐれあ よごっだら おわ 洗えよ
「タオルぐらい、汚れたら、自分で洗いなさい」

つりえあー [tsürie:] 釣り合い。[続 237]

【例】 よめ もらうたて こごの えさ つりえあーの とれっどごから もらわねあんねあな
「嫁を貰うにしても、此処の家に釣り合いのとれる所から貰わなければならないな」

つりへん [tsüričen] [名] つり銭。[及 199]

【例】 はえ、つりへん、おどすなよ
「はい、つり銭、落すなよ」

つる つるはし。[同] つるばす。[及 65]

【例】 こごだば かであくて つるでも ねあば ほらんねあな
「ここなら固くて、つるはしでもなければ、堀られないな」

つるぜあーぐ [tsürürⁿdze:gü] 蔓細工。[続 237]

【例】 つるぜあーぐて ゆえば この むらだば ぶんどか はげごだな
「蔓細工といえは、この村なら、葡萄蔓の皮のはげごだな」

つるっと [副] すっかり。全部。[及 199]

【例】 あの まま つるっと くてしまた おんだ
「あのご飯、すっかり食べてしまったもんだな」

つるっと [副] つるりと。滑べるさま。[及 199]

【例】 ゆぎみづあ すべる おんで つるっと すべてしまた
「雪道は滑べるもんで、つるりと滑べってしまった」

つるつるみづ 滑べる雪道。橇やブルドーザー（除雪車）が歩いて、つるつる滑るようになった道をいう。[及 104]

【例】 ブルあ ありた おんだはげあ つるつるみづん なてしまたは
「除雪車が歩いたものだから、滑べる雪道になってしまったよ」

つれあ [tsüre] つらい。[及 29]

【例】 しのの 一生にあ つれあ ごども ある おんだ
「人の一生には、つらいこともあるものだよ」

づれあ [派生] ~づらい。~にくい。[及 199]

【例 1】 ゆいづれあ
「いいにくい」

【例 2】 えぎづれあ
「行きづらい」

つれえあ [tsüře] [名] 連れ合い。夫婦の片方。[及 199]

【例】 ○○さんの つれえあは、○○がら 来た しとだ
「○○さんの連れ合いは、○○から来た人だよ」

つれねあー [tsürene:] [形] つれない。[続 238]

【例】 ほんた つれねあ ごど ゆわねあで おれあどごも かじえろや
「そんなつれないことをいわないで、私も仲間に入れてくれよ」

つんくりけあり [名] 宙返り。とんぼがえり。[同] つんころけあり。[及 199]

【例】 おめあまだ つんくりけあり じよんだごど
「お前は宙返えり上手だね」

つんけ [tsünke] ぼんのくぼ。[及 11]

【例】 つけあ つかつかていう、むすんでも ささだべが
「ぼんのくぼがちかちかするが、虫にでも刺されたんだろうか」

つんずら [tsünⁿdzüra] 葛籠。[続 238]

【例】 きおのなの へで おぐ つんずらなて えまだば つかわねあなは
「着物なんかを入れて置く葛籠なんて、今ならもう使わなくなってしまったな」

つんつくりん [tsüntsükürin] [ナ名ノ] ちんちくりん。つんつるてん。[続 238]

【例】 この きおのも つんつくりんだなは、おっきぐ なた おんだ
「この着物も、もうちんちくりんになってしまったね、大きくなったもんだな」

つんと [tsünto] [副] ほんの少し。[続 238]

【例】 おれあ さげ のめねあはげあ つんと つでくんねあが
「私は酒は飲めないから、ほんの少し注いでくれませんか」

つんぬぐ [tsünnügü] [四他] 突き抜く。[続 238]

【例 1】 おおみずあ どで つんぬぐぞ
「洪水が土手を突き抜くよ」

【例 2】 さぎの しと つんぬぐくれあの いぎおいだな
「先の人を突き抜くぐらいの勢いだな」

つんぬげる [tsünnügerü] [下一自] 突き抜ける。[続 238]

【例】 この はやし つんぬげつど わらびの でつどごあ あんなだ
「この林を突き抜けると、わらびの出るところがあるんだ」

つんぶんかんぶん [tsünpünkanpün] [ナ名ノ] ちんぶんかんぶん。[続 238]

【例】 ないだや おめあの はなすあ つんぶんかんぶんで、さっぱり わがらねあであ
「なんだい、君の話はちんぶんかんぶんで、さっぱり分らないよ」

つんみ [tsüünmi] 血膿。〔続 238〕

【例】 いたぐした どごあ うだはげあ、すぼたば つんみあ ではてきたけ
「怪我をしたところが膿んだから、しぼったら、血膿が出てきたっけ」

— て —

て [助詞] って。[及 200]

【例】 東京て ええ どころだな
「東京って、いい所だつけな」

て [格助] と。[及 200]

【例】 山さ えぐて いうけ
「山に行く、とっていたつけ」

て [te] [格助] と。この語は、次に来る動詞がさす動作、作用の状態や内容、名称を示すのに使うだけで、他の場合の「と」には使わない語である。[続 239]

【例 1】 ひどり みっかて きめだ
「日取りは3日と決めた」

【例 2】 にこにこて わらう
「にこにここと笑う」

【例 3】 だめだて おもた
「駄目だと思った」

【例 4】 かずだて いうけ
「火事だといっておったよ」

【例 5】 ずろて つけだ
「次郎と付けた」

て していて。[及 199]

【例】 みづあ ぐちゃぐちゃて ありがんねあ
「道がぐしゃぐしゃしていて、歩かれないよ」

であ [間助] よ。[及 200]

【例】 まづさでも えごであ
「町にでも行こうよ」

であ [助動] たい。[及 200]

【例】 山さでも えぎであな
「山にでも行きたいな」

また、「であぐーたく」、「だぐーたく」などの使い方があり、「えぎであぐねあー行きたくない」、「し

だぐねあーしたくない」などを使っている。

であ [接] では。[及 200]

【例】 まづであ ないだて うてる
「町では、なんでも売っているよ」

であ [名] 代。台。[及 200]

【例 1】 あそごも さんであめだな
「あそごも、三代目だな」
【例 2】 ほの 荷物、ほごの であの ゆえさ おえでころ
「その荷物、その台の上においてくれ」

てあー [te:] 鯛。[続 239]

【例】 こごらあたりであ、てあの さすみなの ふぐなのあ かんねあな
「ここらあたりでは、鯛の刺身なんかや、河豚なんかは食べられないな」

であー [de:] 題。[続 239]

【例】 おわ であー だしておえで、しとんどさばり しゃべらへる かんじょが
「自分が題を出しておいて、人にばかり喋べらせるつもりかい」

～であー [~de:] 代。[続 239]

【例 1】 いずであー
「一代」
【例 2】 にであー
「二代」
【例 3】 さんであー
「三代」

であーおーじよ [de:ɔ:n'dʒo] 大往生。[続 239]

【例】 さっぱり くるすまねあで、ねぶたよん しだなて であーおーじよだな
「さっぱり苦しまないで、眠ったように死んだなんて、大往生だな」

であーおしよ [de:ɔʃo] 大和尚。その寺に、二人以上の僧侶のいる時、その中で一番格の高い和尚を「であーおしよ」といっている。[続 239]

てあーかぐ [te:kagū] 体格。[続 240]

【例】 おめあの わげあおのあ ながなが ええ てあーかぐ してるな
「お宅の若者は、なかなかいい体格をしているね」

であーぎ [de:ɲi] 台木。[続 240]

【例】 この くり つぎきする であーぎ みつけで こねあんねあな
「この栗を接木する台木をみつけてこないとならないな」

であーぎす [de:ɲisū] 代議士。[続 240]

【例】 こどすあ へんきよな おんだはげあ、であーぎすだ えっしよけめだな
「今年は選挙なものだから、代議士達は一生懸命だね」

てあーきん [tɛ:kin] 大金。[続 240]

【例】 くるまで、すぼうずこ おごした おんだはげあ、てあーきん とられっど
「車で死亡事故を起したものだから、大金を取られるそうだ」

てあーげあー [tɛ:ŋɛ:] 大概。[続 240]

【例】 こんだ どごの えでも てあーげあー さずぎも おわたよだな
「今度は、何処の家でも大概田植えも終わったようだな」

であーごおろす [dɛ:goorosü] 大根おろし。これは、大根おろしと、それを下ろす器具の両者をいう。[続 240]

であーごぐばすら [dɛ:gogübasüra] 大黒柱。[同] であーぐぐはすら。[続 240]

【例 1】 この まんながの はすら であーごぐばすらだ
「この真ん中の柱が大黒柱だよ」

【例 2】 ちょうなが おれあ えの であーごぐばすらだあだ
「長男が私の家の大黒柱なんです」

であーごずげ [dɛ:goⁿdzüge] 大根漬。沢庵漬。[同] であーごんずげ。[続 240]

【例】 おめあえの であーごずげあ んめあ ごど、なんずして つけだあですよ
「お宅の大根漬は美味しいこと、どうして漬けたんですの」

てあーごばら [tɛ:gopara] 太鼓腹。[続 240]

【例】 ほの てあーごばらだば くいすぎだな、すこす やへねあど あだんぞ
「その太鼓腹なら食い過ぎだな、少しやせないと中風になるよ」

てあーごぶず [tɛ:gobüdzü] みずかまきり。これは、たいこうち科の水棲昆虫で、池や沼、水田、小流などに棲息し、小魚や小昆虫などを捕食している。[続 241]

であーごんば [dɛ:gonpa] 大根葉。[続 241]

【例】 ほごさ おえっだ であーごんば、つけおのん すっさげあ、あらて おげよ
「其処に置いてある大根葉は、漬物にするのだから、洗っておけよ」

てあーさん [tɛ:san] [名/ス自] 退散。[続 241]

【例】 であぶ おそぐ なたはげあ、そろそろ てあーさんすんべや
「大分おそくなったから、そろそろ退散しようや」

てあーして [tɛ:sjɛ] [副] 大して。[続 241]

【例】 すげえ あめであったども こごらあだりあ てあーして ひげあ ねあがったな
「凄い雨だったが、こごらあたりは、大して被害がなかったな」

であーじゃ [dɛ:ⁿdʒa] 大蛇。[続 241]

【例】 むがすばなすにあ、であーじゃ ええ おどごん なて、あねこあどご だます はなす

あるな

「昔話には、大蛇がいい男になって、娘を騙す話があるね」

であーじょーぶ [de:dʒo:bü] [ダナ] 大丈夫。[続 241]

【例】 ほういう むずがすごだば、〇〇どさ まがへでおげば であーじょーぶだ
「そういう難しい事なら、〇〇に任せておけば大丈夫だよ」

てあーず [te:ⁿdzü] 退治。[続 241]

【例】 こやの むきばさ、はずあ すくんでだはげあ、てあーずしねあんねあな
「小屋の軒端に、蜂が巣を作っているから、退治しないといけないな」

であーず [de:ⁿdzü] [ダナ] 大事。[続 241]

【例】 これあ おめあの そずぎようきねんに かたあだはげあ、であーずん すろよ
「これは、お前の卒業記念に買ったんだから、大事にしろよ」

であーず [de:ⁿdzü] 大豆。[続 241]

【例】 てんさぐで、であーず ゆえでみだば、こめん おどらねあ しゅうかぐであった
「転作で、大豆を植えてみたら、米に劣らない収穫だったよ」

であーすぎ [de:sügi] [ノダナ] 大好き。[続 242]

【例】 おれあまだ あずぎもず であーすぎで ごろっぺあも くなだ
「私は、小豆餅が大好きで、6杯も食べるんだ」

であーずん [de:ⁿdzün] 大臣。[続 242]

【例】 〇にずに、おらほの、まずの すんこうすさずん、〇〇であーずんが くっど
「〇日に、うちの方の町の、振興視察に、〇〇大臣が来るそうだ」

であーすんせあー [de:sünse:] 大震災。[続 242]

【例】 とうきょうの であーすんせあーみであだ さいがいあ おきねあど ええな
「東京の大震災のような災害が起きないといいね」

であーちよ [de:tʃo] 台帳。[続 242]

【例】 きょうあ かりで えぐはげあ、であーちよさ つけででくんねあが
「今日は借りて行くから、台帳に付けておいてくれませんか」

てあーで [te:de] [ナ副ノ] 大抵。[続 242]

【例】 〇〇さんも てあーで くるくれあの ずがんだども こねあ おんだな
「〇〇さんも、大抵来るくらいの時間だが、来ないもんだな」

であーてあー [de:te:] [名/副] 大体。[続 242]

【例 1】 さずぎも であーてあー おわたな
「田植えも大体終わったな」

【例 2】 ほれあ であーてあー ほう すんなんねあ
「それは大体そうするんじゃないよ」

であーにん [de:nin] 代人。[続 242]

【例】 ほんにんが いねあごつたら、であーにんでも ええはげあ、だれが よこへ
「本人がいないなら、代人でもいいから、誰かよこせよ」

であーの [de:no] [連語] 大の。[続 242]

【例 1】 であーの おどごあ ひるねが
「大の男が昼寝かい」

【例 2】 これあ おれの であーの こうぶつだ
「これは私の大の好物なんだ」

であーばかり [de:bagari] 台秤。[続 242]

【例】 きょうあ なんぼ とて きたが ほの であーばかりさ のへでみろ
「今日は幾ら取って来たか、その台秤にのせてみなさい」

であーはん [te:han] 大半。[続 242]

【例】 あめにも ふらっだども、いねかりも これで てあーはん おわたな
「雨にも降られたが、稲刈りもこれで大半終わったな」

てあーびよー [te:bjo:] 大病。[続 243]

【例】 ○○さん てあーびよーで にゆういんしたつけはげあ かががて くんべ
「○○さんが大病で入院したそうだから、見舞ってこよう」

てあーぶぶん [de:būbūn] 大部分。[続 243]

【例】 この だびの へんきよあ てあーぶぶんの しとあ どうひょうしたど
「この度の選挙は、大部分の人が投票したそうだ」

てあーぼぐ [te:bogū] 大木。[続 243]

【例】 この てあーぼぐあ これぐれあん なるにあ ひやぐねんえじょうも かがてんべな
「この大木は、これぐらいになるには、百年以上もかかっているだろうな」

てあーまず [te:madzū] 松明。[続 243]

【例】 でんとうあ でげでがら てあーまずなの つかわねあぐ なたは
「電灯が出来てから、松明なんかもう使わなくなってしまったよ」

てあーめあー [te:mæ:] 大枚。大金 [続 243]

【例】 この くるまでて、てあーめあー だして かたあだはげあ、であずん つかえよ
「この車だって、大枚を出して買ったんだから、大事に使えよ」

であーり [de:ri] 代理。[続 243]

【例】 おどつつあ りよこうちゆうだはげあ、おれあ てあーりで ではんべ
「お父さんが旅行中だから、私が代理で出よう」

てあーりぎ [de:rigi] 大力。[続 243]

【例】 おめあだば てあーりぎだはげあ、この いす よへらえんべな

「お前なら大力だから、この石を除けられるだろうな」

であーりさま [derisama] 大裏さま。[続 243]

【例】 おかあさん、おひなさまで、であーりさまで、いずばん りっぱだ おんだな
「お母さん、お雛さまで、大裏さまで、一番立派なものだね」

であいづ [名] 第一。[及 200]

【例】 であいづ おめあの きょういぐあ わりんだ おん
「第一、お前の教育が悪いんだもの」

であおの [名] 大物。[及 200]

【例】 こげあた であおのあ つっだけ
「こんな大物が釣れたつけ」

であがわり [denjawari] [名] 代がわり。戸主や経営者のかわること。[及 200]

【例】 親父あ しだおの こんだ であがわりだなは
「親父が死んだから、今度は、もう代がわりだな」

てあぎ [tenji] [名] 大儀。骨の折れること。苦労。[及 200]

【例】 おもであ おの しよて もらて、てあぎであったな
「重い物を背負ってもらって、大儀だったね」

であぎ [degī] [名] 大気。大度。気が大きいこと。子供が大人のようにしっかりしていること。
[及 200]

【例 1】 あれだば であぎで 金おしみも しねあ しとだ
「あの人なら、大気で、金惜しみも しない人だよ」

【例 2】 であぎだおんで、用足しん えて きたおんだ
「しっかりしていて、用足しに行って来たもんだ」

であきれあ [deküre] 大嫌い。[及 200]

【例】 あんた やろ、であきれあだ
「あんな野郎は、大嫌いだよ」

であきん [名] 代金。[及 200]

【例】 この しなおのあ であきん なんぼだべ
「この品物の代金は幾らなんだろう」

てあぐ [tenjū] [名] 待遇。[同] てあぐう。[及 201]

【例】 こごの やどや てあぐあ えな
「ここの旅館は、待遇がいいな」

であぐ [degū] 大工。[及 78]

【例】 であぐに とごのま なおして もらわねあんねあな
「大工に床の間をなおしてもらわないといけないな」

であぐぐさま [degügüüsama] [名] 大黒さま。[同] であごぐさま。[及 201]

【例】 しょうがづだおん、であぐぐさまさも もづ あげろや

「正月だもの、大黒さまにも、餅をあげなさいよ」

また、「であぐぐめあー大黒舞い」、「であごぐめあー大黒舞い」などの語もある。

てあぐつ [tegüütsüü] [名] 退屈。[及 201]

【例】 ただ いっど てあぐつだ おんだな

「何もしないでいると、退屈なもんだな」

てあぐつ [tegüütsüü] 退屈。[及 29]

【例】 たまに 休むど、てあぐつだ おんだ

「たまに休むと、退屈なものだね」

てあげあ [teŋe] [名] 大概。[同] てあで。[及 201]

【例】 村の ごどだば てあげあ わがる

「村のことなら、大概分るよ」

てあご [tego] [名] 太鼓。[及 201]

【例】 はやぐ てあご ただけ

「早く太鼓をたたけよ」

てあご [tego] 太鼓。[及 51]

【例】 てあご ただぐな 誰だ、早く こえ

「太鼓をたたくのは誰だ、早く来いよ」

であご [de:go] 大根。[及 92]

【例】 そんな であご ゆえねあんねあなは

「もうじき大根を植えないといけないな」

であごずる [dego⁽ⁿ⁾dzüürü] 大根汁。[同] であごんずる。[及 42]

【例】 であごあ えっぺあ とっだはげあ、であごずる えっぺあ くえな

「大根が沢山とれたから、大根汁をいっぱい食べられるな」

てあじ [名] 大事。大切。[同] てあへづ。[及 201]

【例 1】 これあ おれの てあじだ おんだ

「これは、私の大事なものだよ」

【例 2】 これあ ええ おんだはげあ てあじん したなだ

「これは、いい物だから、大切にしておったんだ」

てあした [連語] たいした。[及 201]

【例】 てあした おの みつけで きた おんだな

「大した物を見つけて来たもんだな」

てあしよ [te:jo] 大将。君。[及 6]

【例】 おえ、てあしよ なに したや
「おい大将、なにしてるんだい」

であじょうぶ [de^odʒo:büü] 大丈夫。[及 201]

【例】 ほんだどさ のぼて であじょうぶだがや
「そんな所に登って、大丈夫かい」

であすこ [名] 大師講。この仏さまは、子沢山のうえ、貧乏で、食にもこと欠くような生活をしておったので、盗みを働き、次第に豊かになり、旧十一月三日には、どうにか小豆かゆが食べられるようになり、同十三日には、ぼた餅を作れる程になり、同二十三日には、餅をつける程豊かになったという。子沢山なので、長い葦(よし)の箸で、やしなって食べさせたそう。それで、大師講さまのように、生活が豊かになるように、という願いから、三日は小豆かゆを炊き、十三日には、ぼた餅をつき、二十三日には、餅について大師講さまに供え礼拝した。また、供える時は、何時も長いよしの箸も共に供えた。大師講さまが、子沢山で余りに貧乏なの見て、神さまは盗みに歩く足跡を、吹雪でかくしてくれたという。それで、この頃の吹雪を「であすこぶぎ」とよび、天候の荒れることを「であすこあれ」とよんでいる。[及 201]

であすこぶぎ [desükö^mbüügi] 旧十一月三日前後に吹く吹雪をいう。旧十一月三日は「であすこさま(大師講か、神か仏か名称不明)」の祭日であるところから、この日の前後の吹雪にこの名がある。[同] であすこあれ。[及 104]

てあすび [teäsübi] 手遊び。[続 243]

【例 1】 ○○ちゃんさ、てあすびん おもちゃ あずげで おげ
「○○ちゃんに、手遊びに、頑具を持たせておきなさい」

【例 2】 つるぜあぐおすか、これあまだ、わだすの ほんの てあすびおす
「蔓細工ですか、これは私のほんの手遊びなんです」

であずんぐさま [dedzünŋüsama] [名] 大神宮さま。天照皇大神宮。また、伊勢参りを、「えへめあり」といっている。[及 202]

てあそう [副] 大層。[及 202]

【例】 けさまだ てあそう はやおぎだ おんだな
「今朝は、大層早起きなもんだね」

であつきり [dekkiri] [副] 全然。全く。[同] であんで。[及 202]

【例】 ざっこあ であつきり つんねあけな
「雑魚は、全然釣れなかったよ」

であつきれあ [dekkire] 大嫌い。[及 202]

【例】 さがなだば であつきれあだ
「魚なら大嫌いだよ」

であど [dedo] [名] 大道。[及 202]

【例1】 おまづりん ずぎあ であどめへあ えっぺあ ならばぜあ
「お祭りの時は、大道店が並ぶよ」

【例2】 であどなが
「大道なか。大道」

であどご [de⁽ⁿ⁾dogo] 台所。[同] ながし。ながす。[及51]

【例】 であどごあ おなごの しろだど
「台所は女の城だそうだ」

であなし [名] 台無し。[及202]

【例】 ダリヤ くさて であなし なてしまたは
「ダリヤが腐って台無しになってしまったよ」

であぶ [副] 大分。[及202]

【例】 稲刈りも であぶ はがえたな
「稲刈も大分はかどったな」

てあへん [tehen] [副] 大変。[及202]

【例】 これあ てあへんだ ごどした
「これは大変なことをした」

てあら [名] 平ら。[同] ひらてあ。[及202]

【例】 こご てあらん してくんねあが
「ここを平らにしてくれないか」

てあら [terra] 平ら。[及29]

【例】 てあらだ 屋根あ ゆぎあ たまらねあど
「平らな屋根は、雪が積らないそうだ」

てあらげる [teraŋerü] [動] 平らげる。[及202]

【例】 あの まま みな てあらげる つもりだべが
「あのご飯をみな平らげるつもりだろうか」

でありぐ [dearigü] [四自] 出歩く。[続244]

【例】 おれあえの ばさまだば、でありぐおんで、えになの いっずぎあねあ
「うちの婆さんなら、出歩くもので、家になんかいる時がないね」

てあれあ [teare] [形] 手荒い。[続244]

【例】 ほんげあ てあれあぐすっど、ちゃわん わてしまうぜあは
「そんなに手荒くすると、茶碗を割ってしまうよ」

てあれあ [teare] 手洗い。便所。[続244]

【例】 ○○ちゃん、てあれあさ へあたら ちゃんと と たでで おげよ
「○○ちゃん、手洗いに入ったら、きちんと戸を締めておきなさいよ」

てあわへ [təawaḥe] 手合わせ。[続 244]

【例】 おめあど ご やたごどあ ねあはげあ、いずど てあわへしてみんべや
「君と碁をやったことがないから、一度手合わせしてみようや」

であんぶ [denbū] 〔副〕 大分。〔同〕 であーぶ。[続 244]

【例】 おがげさまで、ずさまも であんぶ えぐ なりあした
「お陰さまで、爺さんも大分よくなりました」

ていであ [teide] 〔形〕 手痛い。[続 244]

【例】 こどすの ふさぐだば、どごだて ていであ だけぎ うげだべな
「今年の不作なら、何処だって手痛い打撃を受けたろうな」

てえ [te] 支柱。特に作物や花などの支柱をいう。[続 239]

【例】 にんどまめあ のびで きたはげあ、そろそろ て くんねあんねあな
「豌豆が伸びてきたから、そろそろ支柱をしなないとならないな」

てえあー [te:ɔ] 手合い。[続 244]

【例】 おめあも あげあた てえあーど つぎあてっど、ろぐだ おのん ならねあぞ
「お前もあんな手合いと付き合っていると、ろくな者にならないよ」

でえあーがすら [de:ɲasūra] 出合い頭。[続 244]

【例】 えぎ ではたば、でえあーがすらん、〇〇さんど あたけ
「駅を出たら、出合い頭に、〇〇さんと会ったっけ」

て一せあー [te:se:] 体裁。[続 244]

【例】 て一せあーより ながみあ であずだはげあ えぐ みで かて こえよ
「体裁より、中味が大事だから、よく見て買って来いよ」

てえれ [te:re] 手入れ。[続 245]

【例】 ただて、はだげだて、えぐ てえれすねあど、え おのあ とらんねあぞ
「田だって、畑だって、よく手入れをしないと、いい物は取れないよ」

でおどり [deodori] 出劣り。村の義務人夫として出ない家から取る賃金。[及 73]

【例】 こどしあ でおどり なんぼん 決めるや
「今年は出劣りを幾らに決める」

でがさねあ [degasane] 〔名〕 不細工。不器量。[及 202]

【例 1】 この やぎおのあ でがさねあ やぎおんだな
「この焼き物は、不細工な焼き物だね」

【例 2】 あの おなごも でがさねあ つら してるな
「あの女も不器量な顔をしているね」

でがさねあ [degasane] 不細工な。[続 245]

【例】 あの おなごあ でがさねあ つら してるな

「あの女は不細工な顔をしているね」

でがす [degasü] 仕上げる。[続 245]

【例】 この すごど ○にすまで でがす やくそぐ したなだ
「この仕事を、○日まで仕上げる約束をしているんだ」

てがであ [teḡade] [形] 手堅い。[続 245]

【例】 あの であくさんだば、てがであ すごど すっさげあ、あの しとさ たのめ
「あの大工さんなら、手堅い仕事をするから、あの人に頼みなさい」

てかてかみず [teḡateḡkamidzū] 滑べる雪道。これは、ブルで除雪した後の雪道や、櫓を曳いた後の雪道で、道路の雪が固まり、表面がつるつるして滑べる雪道をいう。[続 245]

でかへぎ [dekaheḡi] 出稼ぎ。[同] でがへぎ。[続 245]

【例】 こどすも でかへぎん えがねあんねあな
「今年も出稼ぎに行かないといけないな」

てがり [teḡari] [形] 手軽い。[続 245]

【例】 ほんたごどあ てがりごったはげあ、おれあ すぐ してやんべ
「そんなことは手軽いことだから、私が直ぐしてあげよう」

でぎえあー [deḡie:] 出来合い。既製品。[同] でげえあ。[続 245]

【例】 えまだば コロッケでも でぎえあーの おの うてるな
「今なら、コロッケでも、出来合いの物を売っているね」

てきびす [teḡibisü] [形] 手厳しい。[続 245]

【例】 わらしたずさ ほんた てきびすごど ゆわねあで えっくん おへろ
「子供らに、そんな手厳しいことをいわないで、よく教えなさいよ」

てくへ [teḡühe] 手癖。[続 245]

【例】 ○○だば、がっこん ずぎから、てくへあ えぐねあくて、きらわっでだあだ
「○○なら、学校の時から手癖が悪くて、嫌われておったんだよ」

でぐんでぐん [deḡündeḡün] ぐでんぐでん。[続 246]

【例】 ないだて でぐんでぐん よっばらて、これだば しまつに こまるな
「まあ、ぐでんぐでんに酔っ払って、これなら仕末に困るな」

でげ [deḡe] 出来。[続 246]

【例】 こどすあ もずごめも でげあ ええはげあ、えっぺあ くえな
「今年は、糯米も出来がいいから、沢山食べられるな」

でげあがり [deḡeaḡari] 出来上がり。[続 246]

【例】 てあへん えぐ でげだはげあ でげあがりん えっぺあ やんべ
「大変よく出来たから、出来上がりに、一杯やろうや」

でげあがる [deḡeaḡarü] [四自] 出来上がる。[続 246]

【例】 がんばれば きょうじゅうん でげあがっさげあ、がんばて でがすべや
「頑張れば、今日中に出来上がるから、頑張って出かそうや」

でげおの [degeono] 出来もの。腫物。[続 246]

【例】 でげおのあ でげだなが、んであ えしやさ えて みでもらて こえ
「出来ものが出来たのかい、それじゃ医者へ行って診てもらって来なさい」

でげごごろ [degeogoro] 出来心。[続 246]

【例】 でげごごろで したあだはげあ、ゆるしてやんども こんだ ほっても すんなよ
「出来心でしたんだから、許してやるが、今度は決ってするなよ」

でげごど [degeodo] 出来ごと。[続 246]

【例】 こどすも、おぼごあ んまっだ、くるまの ずこだて さまぎまの でげごど あったな
「今年も子供が生まれた、車の事故だと、さまぎまの出来事があったね」

でげそぐねあ [degesogüne] 出来損ない。[同] でぎそぐねあ。でぎそごねあ。でげそごねあ。
[続 246]

【例 1】 かの え でげそぐねあ こしえあでしまた
「鍬の柄の出来損ないを作ってしまったよ」

【例 2】 ○○の むすめだは でげそぐねあだな
「○○の娘なら出来損ないだね」

でげそごねあ [degesogone] 出来損ない。[同] でげそぐねあ。[及 202]

【例】 これだば でげそごねあだな
「これなら、出来損ないだね」

でげだが [degeⁿdaga] 出来高。[続 246]

【例】 こどすあ ほうさぐだはげあ、きよねんより でげだが よげだな
「今年は豊作だから、去年より出来高が余計だな」

でげだがばれあ [degeⁿdagabare] 出来高払い。[続 247]

【例】 えまの すごどあ でげだがばれあだはげあ、すごどあ きずな
「今の仕事は出来高払いだから、仕事はきついね」

でげぶつ [degebütsü] できぶつ。出来物。[続 247]

【例】 ○○さんの ちょうなんこあ でげぶつで、はがへご もらたど
「○○さんの長男は出来物で、博士号をもらったそうだ」

でげる [degerü] [動] 出来る。[及 202]

【例】 ほれだば おれだて でげる
「それなら、私にだって出来るよ」

てこ 手。特に子供の手をいう。[及 11]

【例】 てこ あがぐして 来たちゃは、はやぐ あだれ

「手を赤くして来たじゃないの、早くあたりなさい」
この語は「てっこ」、「ててこ」、「てぼこ」、「てぼっこ」、「ぼっこてーごつごつした手」などとも使っている。

てご [tego] [名] 助手。手助け人。[及 203]

【例】 この 荷物、トラックさ つむな てご おしな
「この荷物をトラックに積むのに手助け人が欲しいな」

てご [tego] 手伝人。[及 73]

【例】 この すごどあ てご おすな
「この仕事は手伝人が欲しいな」

てごえれ [tegoere] 挺入れ。[続 247]

【例】 むすこの しょうべあ あんまり えぐねあはげあ、てごえれ しねあんねあな
「息子の商売が余りよくないから、挺入れをしないとイケないな」

でごづく [degodzügü] [動] 小突く。小突きまわす。[及 203]

【例】 しとんどごなして ほんげあ でごづくなや
「人をなぜそんなに小突くんたい」

てごであー [tejode:] 手応え。[続 247]

【例】 ちょうちょうどの ざだんかいで ゆたな、たしかに てごであー あたな
「町長との座談会でいったことは、確に手応えがあったな」

でごひこ [degoçiko] [名] 凸凹。[同] でごぼご。[及 203]

【例】 ほの でごひこだ どご てあらん してくんねあが
「その凸凹な所を平らにしてくれないか」

てごわえあー [tejowe:] [形] 手強い。[続 247]

【例】 こんどの あいであ、てごわえあーはげあ、きいつけで えげよ
「今度の相手は、手強いから、気を付けていけよ」

てじえま [te'dzema] [ナ名ノ] 手狭。[続 247]

【例】 まごも でげで、てじえまん なたはげあ かいつぐしねあんねあな
「孫も出来て、手狭になったから、改築しないとイケないな」

でしっと [deşitto] [副] 沢山。[及 30]

【例】 わらび はぎごさ でしっと とて きた
「わらびをはげごに沢山とってきたよ」

てじよ [teđzo] 手帳。[続 247]

【例】 てじよ わすって きたはげあ、おべがぎ かぐな ないが かみ くんねあが
「手帳を忘れて来たから、覚え書きを書く、何か紙をくれませんか」

てす [teşü] 手数。[続 247]

【例1】 この すごどあ てす かがるな
「この仕事は手数が掛かるね」

【例2】 どうも おてす かげあした
「どうも お手数を掛けました」

です [名] 弟子。[及 203]

【例】 あれあ おれの ですだ
「あれは、私の弟子です」

てすづらす [名] お節介。[及 203]

【例】 てすづらす ごど だまて みでろ
「おせつかいだこと、だまって見ておれよ」

てずであと [tɛ̞dzũ̞˞deto] 手伝人。[同] てんであと。[及・続7・247]

【例1】 えそがすはげあ、あした だれが したりばり てずであと たのむべ
「忙しいから、明日誰か2人ばかり手伝人を頼もう」

【例2】 さづぎん づぎあ てづであと たのまねあんねあな
「田植えの時は手伝い人を頼まないといけないな」

てずまつけあ [tɛ̞˞dzũ̞matsũ̞kɛ̞] 手品師。手品使い。[及 78]

【例】 てずまつけあ 来たど みんなえぐべや
「手品使いが来たそうだ、見に行こうよ」

てずまつけあ [tɛ̞˞dzũ̞matsũ̞kɛ̞] 手品使い。[続 248]

【例】 えまだば、てずまつけあなの、テレビで みるぐれあのおんだなは
「今なら、手品使いなんか、もうテレビで見るぐらいのものだな」

てぜあーぐ [tɛ̞˞dze:ɡũ̞] 手細工。[続 248]

【例】 わらしたずの この つぐえも いすも みな おやずの てぜあーぐだあだ
「子供らのこの机も椅子もみな親父の手細工なんだよ」

でだじ 作業衣。[及 59]

【例】 おぎだら、さっさど でだじ 着ねあんねあ おんだ
「起きたら、さっさと、作業衣を着ないといけないもんだよ」

でだず [dɛ̞dadzũ̞] 作業衣。外出着、作業衣を着る。[続 248]

【例1】 この でだず あらてころ
「この作業衣を洗ってくれ」

【例2】 おそくなっさげあ でだでは
「遅くなるから外出着（作業衣）を着なさい」

でだづ [dɛ̞dadzũ̞] [動] 仕事着を着る。身仕度する。[及 203]

【例】 ほら えぐぞ はやく でだづんだ

「さあ、行くよ、早く身仕度しろよ」

でだづ [dɛdadzũ] [名] 作業衣。[及 203]

【例】 まづ でだづ 着て えぐ したぐ するは

「まづ、作業衣を着て、行く仕度をしてしまいなさい」

でちっと [副] 沢山。山盛り。[及 203]

【例】 わげあ おんだおん ままばりも でちっと もてやれ

「若いんだもの、ご飯ばかりも沢山盛ってやりなさい」

てっかり [tɛkkari] やぶにらみ。斜視。[及 16]

【例】 てっかりだて 手術して もらうど なおるつけ

「斜視だつて、手術をすると、治るそうだよ」

てっきり [副] きつと。[及 203]

【例】 あれだば てっきり 来るどもた

「彼なら、きつと来ると思った」

でっきる [dɛkkirũ] [四自] 出切る。[続 248]

【例】 ほの びんの すずぐあ でっきるまで、ほごさ さがさんして おげ

「その瓶の雫が出切るまで、そこへ逆さにして置きなさい」

てつげあ [tɛtsũŋɛ] 手違い。[続 248]

【例】 わだすのほの てつげあで、とんでもねあ ごめいわぐ おがげしあしたな

「私の方の手違いで、とんでもないご迷惑をお掛けしましたね」

でっけあ [dɛkke] [形] でっかい。でかい。[続 248]

【例】 ○○さんも、ぜえぶん でっけあ え たでだ おんだな

「○○さんも、随分でっかい家を建てたもんだな」

でっこびかっこび [名] 不揃い。[及 203]

【例】 はぎおのあ でっこびかっこびだぞ

「履物が不揃いだよ」

でっこり [dɛkkori] [副] どっかと。この語は、特に腰を下ろすさまだけをいい、荷物などの重い物を下ろすさまについては、使わない語である。[同] ねこつと。[続 248]

でっこり [dɛkkori] [副] ごつてり。[続 248]

【例】 がが もずさ あずぎ でっこり つけでころ

「お母さん、餅に小豆をごつてり付けて下さいね」

この語は、「こつてり」より量の多いことをいう。

でっすら [dɛssũra] [副/ノダナ] 沢山。どっさり。[同] えっばえ。えっぺあ。へえほであ。すこであま。すこだま。でっすり。でっつら。でっつり。どつと。どさつと。どつつら。どつつり。[続 248]

【例】 こどすあ であごんあ そだずあ えくて、でっすら とた
「今年は大根の育ちがよくて、沢山とったよ」

てづであ [tɛdzũ^ode] 手伝い。[及 203]

【例】 隣りで てづであ きてころど
「隣りで手伝いに来て下さいって」

てっとりばえあ [tɛttoribaɛ] [形] 手っ取り早い。[続 249]

【例】 てっとりばえあぐ ゆえば、この はなすあ ねあがったごどん してもらいでああだ
「手っ取り早くいえば、この話はなかったことにしてもらいたんだよ」

てっぼぶづ 獵師。鉄砲打ち。[及 78]

【例】 ○○あ てっぼぶづで くてんなだおん
「○○は獵師で生活しているんだ」

てでっぼ 鳩。[同] てでぼっぼ。[及 92]

【例】 こごらであ はどの ごど てでっぼて いうなが
「この辺では鳩のことをてでっぼというのかい」

てでなすご 父無し子。[同] ほったんこ。[及 7]

【例】 てでなすごなの なして なんず する おんだべ
「父無し子なんか生んで、どうするものだろう」

てでばら [tɛdɛpara] けら。けら科の昆虫で、土中にトンネルを掘り棲息する。[及 92]

【例】 てでばらだば 田んながにも いんぜあ
「けらなら田の中にもいるよ」

でど [dɛdo] 麓。山麓。これは、山から出るところ、つまり、でどこのつまったいい方から、この名がある [及 105]

てとび [tɛtobi] 小鳶口。これは、柄の短かい、片手で使う小型の鳶口で、主として薪炭材の生産に使った。[同] てとんび。[続 249]

てどりあしどり [連語] 自分勝手に。勝手に。[及 203]

【例】 みんな てどりあしどり もて えてしました
「みんなが自分勝手に持って行ってしまった」

てなれあ [tɛnare] 手習い。[続 249]

【例】 むがすあ むすめだずあ むつけの てなれあだなて えぐ おんであったな
「昔は娘達が、裁縫の手習いだなんて行くものだったな」

てなんべ [tɛnanbɛ] 手鍋。[続 249]

【例】 てなんべ きげるなて、えまだば みんなようで きぐばんだなは
「手鍋を下げるなんて、今ならもう民謡で聞くばかりだね」

てぬげ 手拭。[及 59]

【例】 てぬげで ほっかぶりでも して えぐが
「手拭で、ほっかぶりでもして行こうか」

てぬり [tɛnüri] [形] 手緩い。[続 249]

【例 1】 ほんた てぬりごど ゆてねあで もと きずぐ ごしゃげ
「そんな手緩いことをいっていないで、もっときつく叱れよ」

【例 2】 おめあの すごどあ てぬり、もと さっさど やてしまえ
「お前の仕事は手緩いよ、もっとさっさとやってしまえよ」

てねんと [副] 気をつけて。静かに。丁寧に。[及 203]

【例 1】 ゆぎみづあ すべっさげあ てねんと えげよ
「雪道は滑べるから、気をつけて行きなさいよ」

【例 2】 こわれおのだはげあ てねんと あづがえよ
「こわれ物だから、丁寧に扱えよ」

てのご [tɛnogo] 手の甲。[続 249]

【例】 てのご みっど とすあ わがるて いう おんだども おれあなも すわ よたな
「手の甲を見ると年が分るというものだが、俺のも皺がよったな」

〜でば [~dɛba] [連語] ってば。[続 249]

【例 1】 まででば
「待ってってば」

【例 2】 さぐらでば、おおとう おもいだすな
「桜ってば、桜桃を思い出すな」

【例 3】 えま えぐでば
「今行くってば」

てばえあ [tɛbaɛ] [形] 手早い。[続 249]

【例】 ほんた もさもさしてねあで、もと てばえあぐ さっさど してしまえ
「そんなもさもさしていないで、もっと手早くさっさとしてしまえよ」

でばぼえじよ [dɛbaboɛdʒo] 出刃包丁。[続 249]

【例】 さがな はやすさげあ、ほごの でばぼえじよ つだしてくんねあが
「魚を切るから、そこの出刃包丁をよこしてくれないか」

ではる [動] 出る。[及 281]

【例】 へげぶすんさ おめあえでも ではるところど
「用水路の清掃に、お宅でも出てくれといていたよ」

てびげあ [tɛbigɛ] 手控え。[続 250]

【例 1】 ほれあ てじよさでも てびげあで おがねあど わすれるな
「それは手帳にでも手控えておかないと忘れるな」

【例 2】 ほんげあ かわねあで、すこす てびげあだら えんねあが

「そんなに買わないで、少し手控えたらいいじゃないか」

てひでえ [tɛ̞ɸe̞˦de̞] [形] 手酷い。[続 250]

【例】 すろどあ かぶさなの てだすんだ おん てひでえ いだでだて うげんべ
「素人が株になんか手を出すんだもの、手酷い痛手だって受けるだろうよ」

てびれ [tɛ̞bire̞] [形] 手広い。[続 250]

【例】 ○○さん ○○で えまであ てびれ しょうべあ してるつくな
「○○さんは、○○で、今では手広い商売をしているそうだな」

てふぎん [tɛ̞ɸüg̞in] 手拭き。[続 250]

【例】 おぎやくさまさ てふぎんも ださねあんねあはげあ だして おげよ
「お客さまに手拭きも出さなければならぬから、出しておけよ」

てぶつと [tɛ̞pütto] [副] てっぷり。この語は、小太りの者をいい、「てっぷり」より少し細身なさまをいう。[続 250]

でぶつと [dɛ̞pütto] [副] でっぷり。この語は、体の太っているさまをいい、「てっぷり」より太い者をいう。[続 250]

てぶり [tɛ̞büri] [ナ名ノ] 手ぶら。から身。[続 250]

【例】 わざわざ あおおの とりん えて てぶりで きたながは
「わざわざ山菜採りに行って、手ぶらで来てしまったのかい」

てぶりはづがん [tɛ̞bürihadzügan] [名] 裸一貫。[及 204]

【例 1】 おれなの てぶりはづがんで こげあ なたあだ
「俺なんか、裸一貫からこうなったんだよ」

【例 2】 あおの 採りかねあで てぶりはづがんで きたけ
「山菜を採りかねて、何も手に持たないで来たつけ」

でへあり [dɛ̞ɸeri̞] [名] 出入り。[及 204]

【例】 さみぐ なたはげあ でへありにあ 戸 たでで ありげよ
「寒くなったから、出入りには戸をしめて歩くんだよ」

でへあり [dɛ̞heri̞] 出入り。[続 250]

【例】 へやさ でへあり すつずぎあ と たでで ありぐ おんだぞ
「室に出入りする時は、戸を締めて歩くものだよ」

でほであ [dɛ̞ho̞de̞] [名/ダナ] 出放題。[続 250]

【例】 ほんた でほであだ ごど ゆたて、だれも ほんきん しねあんだはげあ
「そんな出放題なことをいったって、誰も本気にしないだろうよ」

てぼろぎ [tɛ̞borogi̞] [名] 嫌で手をふること。[及 204]

【例】 みだばんで てぼろぎ したたけ
「見たばかりで、嫌だと手を振っていたつけ」

でまがへ [dɛmagahe] [名/ダナ] 出任せ。[続 250]

【例】 ほげあた くずがら でまがへゆて こつつぎんねあ ごど
「そんな口から出任せをいって、嫌いだこと」

てまげあ [tɛmanɛ] 手間替え。人手を借りた時、その人員、日数を借りた人が出役して返すこと。[同] てまげあり。よえ。よえこ。[及 73]

てまどり [tɛmadori] 手間取り。日雇。[同] ひよとり。[及 73]

【例】 こごらあだりだば てまどりはんてねあ
「この辺りなら、日雇しかないな」

てまねあ [tɛmanɛ] 手真似。[続 251]

【例】 まず あの しとだば、てまねあ あすまねあして しゃべる しとだな
「まあ、あののなら、手真似足真似して喋べる人だね」

でむげあ [dɛmüge] 出迎え。[続 251]

【例】 よめさんも くる ころだはげあ ほごらあだりまで でむげあ ねあんねあな
「嫁さんも来る頃だから、その辺まで出迎えないといけないな」

でむげある [dɛmügerü] [下一他] 出迎える。[続 251]

【例】 おらほの がっこあ ゆうしょうしたど、えぎまで でむげあるごどん すんべや
「うちの方の学校が優勝したそうだと、駅まで出迎えることにしようや」

てめあ一 [tɛmɛ:] 手前。[続 251]

【例 1】 あの がっこの てめあに あんなだ
「あの学校の手前にあるのだ」

【例 2】 へげんの てめあも あっさげあな
「世間の手前もあるからね」

でめあ一 [dɛmɛ:] 出前。[続 251]

【例】 むねあげん ずぎあ、おぎやぐあ えっべあだはげあ、でめあ たのむべは
「上棟式の時、お客が多いから、出前を頼んでしまおうよ」

でめへ [dɛmɛhe] 出店。[続 251]

【例】 おまずりだどが、うんどうかいん ずぎなの でめへあ ではる おんだな
「お祭りだとか、運動会の時などには出店が出るものだね」

ても [接助] とも。[及 204]

【例】 えげても ゆわねあなに えてしまたけ
「行けともいわないのに行ってしまったつけ」

でや [deja] [感] よし。この語は、決意を表す語としては使わず、専ら承認を表す語としてだけ使う語である。[続 251]

【例 1】 ○○さ えぎであなが、でや つで えぐぞ

「〇〇へ行きたいのかい、よし、連れて行くよ」

【例2】 こづげあ おすなが、でやでや、えま くえっさげあな

「小遣が欲しいのかい、よしよし、今あげるからね」

でやでや はいはい。よしよし。[及204]

【例1】 こづげあ ころてが、でやでや

「小遣いをくれてかい、はいはい」

【例2】 でやでや えま してけんぞ

「よしよし、今してあげるよ」

てゆえ [tejüe] 手植え。[続251]

【例】 たの すまこだけあ きっけあで ゆえらんねあはげあ、てゆえ すんなだ

「田の隅だけは機械で植えられないから、手植えにするんだ」

でらでら [副] つるつる。[及204]

【例】 じょせづで ブルあ ありて みづあ でらでら なたは

「除雪で、ブルドーザーが歩いて、道がつるつるになってしまったよ」

てらめあり [terameri] 寺参り。[続251]

【例】 ずさまの えっしゅぎだおん、おでらめあり してこねあんねあな

「爺さんの一週忌だから、お寺参りをしてこないとならないな」

てりげあーす [terige:sü] 照り返し。[続252]

【例】 ないだて、きょうまだ てりげあーす つえて あつごどな

「なんとまあ、今日は照り返しが強くて、暑いことね」

てる している。いる。[及204]

【例1】 にこにてる

「にこにこしている」

【例2】 きお きてる

「着物を着ている」

てれくせあ [tereküse] [形] 照れ臭い。[続252]

【例】 ほんげあ ほめらえっど てれくせあな

「そんなに賞められると、照れ臭いな」

でろ 泥。[及105]

【例】 どごで あすで 来たおんだや みな でろ つけで

「何所で遊んで来たの、みな泥をつけて」

また、泥の溜っている所を「でろやら」という。

でろあす [deroasü] 泥足。[続252]

【例】 どご ありて きたおんだや、でろあすして、まず はやぐ あらて こえ

「何処を歩いて来たんだい、泥足して、まず早く洗って来なさい」

でんがぐま [deŋgagūmama] 田楽飯。[続 252]

【例】 おかあさん、あした えんそぐだはげあ、でんがぐまま にきてくんねあが
「お母さん、明日遠足だから、田楽飯を握ってくれませんか」

でんがり [deŋgari] [副] どんと。この語は、「どんと来い」とか、「花火をどんと打ち上げる」などには使わない語である。[続 252]

【例 1】 でんがり ぶつかた
「どんとぶつつかった」

【例 2】 でんがり けつつだ
「どんと尻餅をついた」

てんきまづり [名] 天気祭り。悪天候の日、好天を祈って休むこと。[及 204]

【例】 今日あ てんきまづりして えっぺあ やっが
「今日は天気祭りをして、一杯やろうか」

でんきんばすら 電柱。[同] でんきんばすら。でんすんばすら。[及 65]

【例】 でんきんばすら、こごさも たでんなだど
「電柱をここにも立てるんだそうだ」

てんぐそ [teŋgūso] [名] てぐす。釣り糸。[及 204]

【例】 てんぐそも ナイロン なて じょうぶん なたな
「てぐすもナイロンになって、丈夫になったね」

でんぐりげあす [deŋgūrīgesū] でんぐり返し。[続 252]

【例】 すもたいかいで、〇〇さん あいで でんぐりげあすん したけ
「相撲大会で、〇〇さんは、相手をでんぐり返しにしたっけ」

でんぐりげある [deŋgūrīgerū] [四自] でんぐり返る。[続 252]

【例】 ゆぎみずで すべて、でんぐりげあて、みんなに わらわっだ
「雪道で滑って、でんぐり返って、皆に笑われたよ」

てんぐるま [teŋgūrūma] 手車。この手車は、人が手で押して歩く手車ではなく、財産家の子供が、下にもおかれず大事に育てられることをいう。[続 252]

【例】 あそごの わらすあ てんぐるまだ おん
「あそこの子供は、下にも置かれず育てられているんだもの」

てんけづ [teŋkezdū] 頂上。てっぺん。[及 105]

【例 1】 あの 山の てんけづさ のぼれっがや
「あの山の頂上に登れるかい」

【例 2】 あの 木の てんぺさ くつつだ 鳥あ ないだべ
「あの木のとっぺんに止っている鳥は、なんという鳥だろう」

てんこまなぐ [tɛnkomanagũ] 上目。これは、時に使う上目ずかいの上目ではなく、生れつき上目になってしまっている目をいう。[続 252]

【例】 ○○あ てんこまなぐだ おん
「○○は上目なもの」

てんこもり [名] 山盛り。[及 204]

【例】 ほんげあ てんこもり したて かんねあ
「そんなに山盛りにしたって、食えないよ」

てんこらふぐ [tɛnkorahũgũ] 天井を向く。あらぬ方を向いて、知らない振りをする。[及 204]

【例】 しとあ よばたて てんこらふえで すらねあふりだけ
「私が呼んでも、天井を向いて知らん振りだった」

でんざぎ [dɛndzagĩ] [名] ふざける。大人が子供にふざけて、はしやがすこと。[及 205]

【例】 まだ わらしたづさ でんざぎとて
「また子供らにふざけて」

てんじよ 天井。[及 51]

【例】 てんじよいだ えな つかてころ
「天井板は、いい物を使ってくれ」

てんずぐぼだん [tɛndzũgũbodan] ダリヤ。てんじくぼたん。[及 92]

【例】 てんずぐぼだんも ぜえぶん 種類あ あるな
「ダリヤも随分種類があるね」

でんすんばすら [dɛsũnbasũra] 電信柱。電柱。[続 253]

【例】 あそごの でんすんばすらさ からすあ す つくったけ
「あそこの電柱に、鳥が巣を作っていたけ」

てんであ [tɛndɛ] 手伝い。[同] てずであ。[続 253]

【例】 ○○さんであ ずんぐだつけはげあ、てんであ えがねあんねあな
「○○さんでは上棟式だそうだから、手伝いに行かないといけないな」

てんでこで [副] てんでに。思い思いに。別別に。[同] てんでんこでん。[及 205]

【例 1】 てんでこで どさが えてしまたは
「てんでに、何所かへ行ってしまったよ」

【例 2】 くづした てんでこでん へあだながは
「靴下を別別に履いてしまったのかい」

てんてこめあ [tɛntɛkome] ^{てんてこまい} 天手古舞。[続 253]

【例】 えそがすくて、ねごのても かりであくれあで てんてこめあ したあだ
「忙しくて、猫の手も借りたいぐらい天手古舞をしているんだ」

てんでん [tɛndɛn] [副] てんでに。[続 253]

【例】 ほどげさまの おがす わらしたずあ てんでん とて えてしまは
「仏さまのお菓子を、子供らが、もうてんでに取って行ってしまったよ」

でんでんみづ 踏み固めた雪道。または、除雪された道。[及 105]

【例】 ブルあ えたはげあ でんでんみづだ
「除雪車が行ったから、きれいな道だ」

でんび 額。[同] ひてあ。[及 11]

【例】 この やろこあ でんびさ まま くつげで
「この子はひたいにご飯粒をくっつけて」

てんぺ [名] 上。梢。[及 205]

【例 1】 屋根の いづばん てんぺ にいる
「屋根の一番上にいるよ」

【例 2】 あの てんぺの かぎ とてころ
「あの梢の柿を採って下さい」

てんぺ [tenpe] 天辺。[続 253]

【例 1】 さぐらの てんぺ
「桜の天辺」

【例 2】 やまの てんぺ
「山の天辺」

でんぼ [名] 電報。[及 205]

【例】 でんぼだて、どからだべ
「電報だって、どっからだろう」

てんぼろけ [名] 無一物。なにも持っていないこと。[同] てほろけ。てんぼろけあ。[及 205]

【例】 うりぎだどて てんぼろけで 来たけ
「売れ切れたとって、何も持たないで来たつけ」

てんま [tenma] 義務人夫。これは、部落という共同体の労務に、指名を受けた者が、賃金なしで従事することをいう。[続 253]

【例】 あした ぶらぐの てんまで ではれど
「明日、部落の義務人夫に出ろっていっておったよ」

てんまる 手毬。[及 51]

【例】 ○○ちゃん てんまるつき じよんだな
「○○ちゃん、てまりつき上手だね」

—と—

と 臺。花茎をいう。[及 92]

- 【例】 この なっば とあ ではて きたなは
「この菜はもうとうが立って来たな」

〜と [〜to] 人。手。[続 254]

- 【例 1】 かへぎと
「稼ぎ人。働き手」
- 【例 2】 きぎと
「聞き手」
- 【例 3】 てずであと
「手伝人」
- 【例 4】 ゆえと
「植え手」
- 【例 5】 はごびと
「運び人。運び手」

ど [助詞] って。[及 205]

- 【例 1】 こっちゃ こえど
「こっちへ来なさいって」
- 【例 2】 おぼご んぶえど
「子供をおぶいなさいって」

ど [連語] そうだ。[及 205]

- 【例】 ○○の 娘も 嫁ん えだどは
「○○さんの娘も、もう嫁に行ったそうだよ」

ど [格助] と。[及 205]

- 【例 1】 あにど いもと
「兄と妹」
- 【例 2】 わらしたづど あすだ
「子供らと遊んだ」

ど [代] 何所。[同] どご。[及 205]

【例】 おめあ どさ えぐや
「お前、何所へ行くの」

といあへる [toiaheɾũ] [下一他] 問い合わせる。[続 254]

【例】 こずずみ おくたて いうども、あんまり とずがねあはげあ、といあへでみる
「小包を送ったというが、余り届かないから、問い合わせせてみるよ」

ドイツごえ [doitsũŋoɛ] ドイツ鯉。これは、ドイツから来た鯉だといわれる、鱗の少ない鯉である。[続 254]

どうぐもづ [名] 道具餅。旧正月十五日、感謝の意を込めて、家具、器具、農具に餅をのせて祝う、正月行事の一つである。この餅を翌朝、一番早く起きた女の人が取り、自分のものにして食べる風習があった。[及 205]

とうし [副] 始終。いつも。[同] とうしん。[及 206]

【例】トラックで、八百屋、とうし 来る
「トラックで、八百屋が始終来るよ」

とうず [名] 当時。その頃。[及 206]

【例】 とうずの ごどあ わすれらんねあな
「当時のことは忘れられないな」

どうす 癩病。[及 16]

【例】 むがすあ どうすも 遺伝する おんだ、どもていだ おんだ
「昔は癩病も遺伝するものだ、と思っていたものだよ」

癩病が遺伝するというので「どうすまぎー癩病の血統」という言葉が使われていた。

とうづ [名] 湯治。[及 206]

【例】 ずさま とうづでも えぐべや
「お爺さん、湯治でも行こうや」

とうど [to:do] [副] 到頭。[同] とうどう。[及 206]

【例】 とうど ぼこしたがは
「到頭こわしてしまったのかい」

とうはぐ [to:hagũ] [名] とまどい。まごつく。[及 206]

【例】 しとの おの ぼこしてしまて とうはぐしたは
「人の物をこわしてしまて、とまどってしまっているんだ」

どうへ [do:ɕɛ] [副] どうせ。どっちみち。[及 206]

【例】 どうへ えぐごつたら はえあほあ えな
「どうせ行くなら、早い方がいいな」

どうもん [名] トンネル。洞門。[及 206]

【例】 あぶねあはげあ どうもんさ えぐなよ

「危ないから、トンネルへ行くんじゃないよ」
水を通すトンネルを、「みづどうもん」といっている。

どえず [doɛdzü] [代] どいつ。だれ。どれ。[続 255]

【例 1】 きがねあな どえずだ

「きかないのはどいつだ」

【例 2】 どえず もて こえてや

「どいつを持って来いって」

どえっと [副] どっと。どんど。急に。[同] どえら。[及 206]

【例 1】 どえっと 裏の山 つで来たなよ

「どっと、裏の山がついて来たんだよ」

【例 2】 どえっと ぶつかて くるおんだ おん

「どんど、ぶつつかって来るんだもの」

【例 3】 大雨あ ふて 来たどもたら、どえっと 水あ 出で きたなよ

「大雨が降って来た、と思ったら、急に水が出て来たんだよ」

どえら [doɛra] [副] どんど。[続 255]

【例】 ほんげあ どえら おつけだら いだぐ すんべや

「そんなにどんど押したら、怪我をするじゃないか」

とおえ [to:ɛ] 遠い。[及 30]

【例】 ○○までだば えあんべあ とおえぜあ

「○○までなら相当遠いよ」

どーきゅーへ [do:kjü:he] 同級生。[続 254]

【例】 おれあまだ ○○くんであ どーきゅーへで ながえ ともだずだ

「私は、○○君とは同級生で、仲のよい友達だよ」

とおし 米を選別する篩。[及 65]

【例】 とおし かげだな かげねあなど まじえんなよ

「篩をかけたのと、かけないのを混ぜるなよ」

とーじえん [to:ⁿdʒɛⁿ] [ナ副ノ] 当然。[続 254]

【例】 ほゆごど したあだば、とーじえん あやまんな ほんただべな

「そういうことをしたのなら、当然謝まるのが本当だろうな」

どーじえん [to:ⁿdʒɛⁿ] 同然。[続 254]

【例】 かりだ おの けあさねあば、さぎ どーじえんだべな

「借りた物を返さなければ、詐欺同然だろうな」

どーすたがり [do:sütagari] 癡病病みという悪口。[同] どーすつきしょ。[続 254]

【例】 どーすたがりあ はたげ みな あらしてしました

「癩病やみが、畑をみな荒してしまったよ」

とーずつ [to:ⁿdzütsü] 当日。[続 254]

【例】 おまずりの とーずつあ はら いであくて とうど のみかねあでしました
「お祭りの当日は、腹が痛くて、とうとう飲みかねてしまったよ」

どーすまぎ [do:sümagi] 癩病血統。[続 254]

【例】 ○○ えあ どーすまぎだはげあ、あすびん えぐなよ
「○○の家は癩病血統だから、遊びに行くなよ」

どーそーへ [do:so:hę] 同窓生。[続 254]

【例】 ほのうず どーそーへあ あずばて がっこかいつぐの そうだんすつど
「そのうち同窓生が集まって、学校改築の相談をするそうだ」

とーであー [to:ⁿdę:] 燈台。[続 255]

【例】 おれあ、はずめで みだども とーであーずあ ぐるぐる えごぐ おんだけな
「私は、始めて見たが、燈台ってぐるぐる動くものだったな」

とーにゆーびよー [to:njü:bjo:] 糖尿病。[続 255]

【例】 ○○さん とーにゆーびよーさ かがて にゆういんしたど
「○○さんは、糖尿病にかかって、入院したそうだ」

とーます [to:masü] 遠回し。[及・続 210・255]

【例 1】 ほゆごどあ まつすぐん いうど けんかん なっさげあ とーますん いう おんだ
「そういうことは真っ直ぐにいうと、喧嘩になるから遠回しにいうものだよ」

【例 2】 ほんた とーますだ ごど ゆわねあで はっきり ゆてみる
「そんな遠まわしなことをいわないで、はっきりいってみろよ」

とーりえっぺん [to:rięppen] 通り一遍。[続 255]

【例】 あの しとだば とーりえっぺんの うげこであはんて しねあ しとだ
「あの人は、通り一遍の受け答えしかしない人だよ」

とーりす [to:risü] 通り道。通り筋。[続 255]

【例】 こごあ ○○さ えぐ とーりすだ おんだはげあ よてみあした
「此処は、○○へ行く通り道なものだから寄ってみました」

とが [toja] 唐鍬。[及 65]

【例】 ここあ いしころあ よげだはげあ とがで ほらねあんねあな
「ここは石ころが多いから、唐鍬で掘らないといけないな」

どが [副] どうか。[同] どうか。[及 206]

【例】 息子どご どが よろすぐ たのみあす
「息子を、どうかよろしく頼みます」

とがげ [togage] とかき。升に盛ったものを平らにならす棒。[及 65]

【例】 手で ならさねあで とがげ かげでやれ
「手でならなさいで、とかきでならしてやりなさい」

とがける [toŋaķerü] [動] とがらす。とがらせる。[同] とがらがす。とがらへる。[及 206]

【例】 ほの くえ さぎ とがけるあだ
「その杭は、先を尖らすんだ」

どかっと [dokatto] [副] どっかと。[続 255]

【例 1】 どかっと こす おろす
「どっかと腰を下ろす」

【例 2】 おもであ おの どかっと おぐ
「重い物をどっかと置く」

とかばか [tokapaka] [副] あたふた。[同] あばとば。[続 255]

【例】 ほんげあ とかばかて ありぐど ころぶぞ
「そんなにあたふた歩くと転ぶよ」

とかばか うわのそらで歩くさま。何かに気をとられて歩くさま。[及 207]

【例】 とかばかて だご みで ありてんなだ
「上の空で、何所を見て歩いているんだ」

どがゆぎ [dogajügi] 一時に多量に降る雪。これは、一般に2月下旬頃に多く降り、湿った重い雪が降ることが多いので、時には家が潰されることもある。[続 256]

とぎおの [togiono] 解き物。衣類などの解き物。[同] ほどぎおの。[続 256]

【例】 えま とぎおの したはげあ しとえあ まで
「今解き物をしているから、一寸待ちなさい」

どぎず [dogidzü] [形] どぎつい。[続 256]

【例】 つかごろあ どぎず がらの シャツ きる わげあおのあ ふえだな
「近頃は、どぎつい柄のシャツを着る若者が増えたね」

どきっと [副] どきりと。どきんと。[及 206]

【例】 急に 出はる おんだおん、どきっと したんだはげあ
「急に出て来るものだから、どきりとするじゃないか」

とぎでもねあ [連語] 時ならぬ。時でもない。[及 207]

【例 1】 とぎでもねあ ずぎ くる おんだおん、おどろえだんだはげあ
「時でもない時に来るものだから、驚いてしまったじゃないか」

【例 2】 とぎでもねあ ゆぎ
「時でもない雪」

【例 3】 とぎでもねあ 雨
「時でもない雨」

とぎにあ [toginia] [連語] 時には。[続 256]

【例】 おめあも とぎにあ おれあえさも あずびん こえや
「君も時にはうちへも遊びに来いよ」

ときび [tokibi] とうきび。とうもろこし。[同] とつきび。[続 256]

【例】 ときび くであて でやでや いま けあて くっさげあな
「とうきびを食べたいって、よしよし、今欠いて来るからな」

とぎん [togin] [連語] 時に。[続 256]

【例】 とぎん はなすあ つがうども おめあ こどすも でかへぎん えぐなが
「時に、話は違うが、君は今年も出稼ぎに行くのかい」

どぐいづご [dogüüdzüngo] へびいちご。ばら科の草本で。原野や道端に普通に自生し、有毒と
いうことで、この名があるが、実際は無毒な植物である。[及 92]

どぐだび [dogürⁿda^mbi] どくだみ。どくだみ科の薬用植物。[及 92]

【例】 どぐだびて、尿道炎さなの きぐなだど
「どくだみって尿道炎なんかに利くんだそうだ」

どぐだんび [dogüüdanbi] どくだみ。これは、どくだみ科の多年生草本で、この地下茎や茎葉
は、民間薬として知られている野草である。[同] どぐだび。[続 256]

どぐつずぎ [dogüütsüdzüñi] れんげつつじ。これは、つつじ科の落葉低木で、野生している
が、また、栽培もされている、朱紅色の花をつけるつつじである。[続 256]

どぐどぐす [dogüüdogüüsü] [形] 毒毒しい。[続 256]

【例 1】 この はな どぐどぐす いろだな
「この花は毒毒しい色だな」
【例 2】 あんげあ どぐどぐすく ゆわねあたて えべな
「あんなに毒毒しくいわなくともいいだろうにね」

とげ [toḡe] 時計。[及 51]

【例】 とげ ねあぐしたは
「時計をなくしてしまったよ」

とげ [toḡe] 魚の小骨。刺。[続 257]

【例 1】 さがなの とげあ のどさ ひかがた
「魚の小骨が喉へ引っ掛かったよ」
【例 2】 ばらの とげん ささった
「ばらの刺に刺されたよ」

どげあ [doḡe] [副] どう。どのように。[同] どげあん。[及 207]

【例】 これ どげあ すんなや
「これをどうするんだい」

どげあ [doŋe] [副] どう。[続 257]

【例】 この きっけあ どげあして えごがす おんだ
「この機械は、どうして動かすものなの」

とけあす [動] 取り返す。[及 207]

【例】 みでろ ほのうづ とけあすはげあ
「みでろ、その内取り返えすから」

また、「とけあっこ。とっけあっこ一取替えっこ。互に取替えること」。「とけあさっだ一取り返えされた」、「とけあすごであ一取り返えすだろう」、などという使い方もし、また、この語は、「とっけあす」といつている。

どげあた [doŋeta] [連体] どんな。[続 257]

【例】 ○○て どげあた おんだが いずど みであ おんだな
「○○ってどんなものなのか、一度見たいものだな」

とけあっこ [tokəkko] 取り替えっこ。互に取り替えること。[続 257]

【例】 これ ほんげあ きんえたなが、んであ ほれど とけあっこ すんべ
「これがそんなに気に入ったのかい、それじゃ、それと取り替えっこをしよう」

とけある [動] 取り替える。[及 207]

【例】 不良品 買って 来たはげあ とけあで 来る
「不良品を買って来たから、取り替えて来ます」

とげとげす [toŋetonŋesü] [形] 刺刺しい。[続 257]

【例】 あそこの よめだば とげとげす おなごだな もと やさすぐ でげねあべが
「あそこの嫁は、刺刺しい女だね、もっと優しく出来ないだろうかね」

とげや [toŋeja] 時計屋。[及 78]

【例】 ○○あ 東京さ えて とげやん なたど
「○○は東京に行って、時計屋になったそうだ」

どげる [doŋerü] [動] おどける。[及 207]

【例】 まづ、えぐ どげる しとだ
「まあ、よくおどける人だ」

どご [dogo] [格助] を。[及 207]

【例 1】 ○○ どご よばてころ
「○○さんと呼んでくれ」

【例 2】 犬こあどご つで こえ
「犬を連れてこいよ」

どご [dogo] 所。[及 207]

【例 1】 ほれどごの さわぎんねあ

「それどころの騒ぎじゃないよ」

【例2】 ござあ 山ござで

「ここは山所で」

【例3】 新庄て いうござあ 山形県に あんなだ

「新庄という所は、山形県にあるのだよ」

とごげあり [togoŋeri] 寝返り。[続 257]

【例】 あんまり くたびっで とごげあり すんなも おっくだ

「余りくたびれて、寝返りを打つのもおっくうだよ」

どごさだ やねあぐ どこにでも。どこでもおかまいなく。この語は、「どごさだづねあぐ」、「どさもかさも」などという使い方もしている。[及 207]

どごだじゃねあぐ [dogodadžanegüü] [連語] 所嫌わず。[同] どごさだじゃねあぐ。[続 257]

【例】 おもちや どごだじゃねあぐ おぎばなすであ だめだぞ

「頑具を所嫌わず置きっ放しではいけないよ」

また、この語の類語に、「どごにもかこにも。どさもかさも＝何処にでも」がある。

どごにくだらねあ くだらない。馬鹿馬鹿しい。筋が通らない。[及 207]

【例】 どごにくだらねあ ほんた 馬鹿だごどて ある おんでねあべ

「くだらないったら、そんな馬鹿なことってあるものじゃないだろう」

どさ [格助] に。え。[及 208]

【例】 ○○どさ えて くる

「○○さんに行って来ます」

この語は、連語で、所に。所へ。とも使う。

どさっと [dosatto] [副] どっさり。[続 257]

【例】 きょうまだ やまさ えて、わらび どさっと とて きたけ

「今日は山へ行って、わらびをどっさり採って来たっけ」

どさっと [dosatto] [副] どさりと。[続 257]

【例】 どさっと おえだどご みっど、よっぼど おもであ おんだんだな

「どさりと置いたところを見ると、余程重い物なんだな」

とじえん [to^odʒɛn] [名] 徒然。退屈。[及 30]

【例】 ひとりばり いっど とじえんだ おんだな

「一人ばかり居ると、退屈なものだな」

どしっと [doʃittto] [副] どっしり。[及 208]

【例1】 これあ なんだが どしっと おもであ おんだな

「これは、なんだか、どっしり重いもんだな」

【例2】もと どしっと かんめあでる おんだ
「もっと、どっしりかまえているもんだよ」

とじゅ [todzju:] 途中。[同] とじゅなが。[続 258]

【例】 わすれおのして、とじゅがら けあて きたは
「忘れ物をして、途中から帰って来てしまったよ」

としより 年寄り。老人。[及 7]

【例】 むがしど ちがて えまの としよりあ わげあ おんだ
「昔と違って、今の年寄りは、若いもんだ」

この語の類似の呼び方に「としよりずさま一高令のお爺さん」、「としよりばさま一高令のお婆さん」がある。

どじより 土樋。[同] どんじより。[及 65]

【例】 んま どじより ひだはげ あへ けあだあだ
「馬は、土樋を曳いたから、汗をかいたんだよ」

としよりわらす もうろくした老人。もうろくして子供のようにになった老人。[及 7]

【例】 あの ずさまも、としよりわらすん なたがは
「あのお爺さんも、もうろくして子供のようになってしまったのかね」

としよる [to:foru:] 年寄る。[続 258]

【例】 おらみであだ としよりあ いずねんいずねん としよるばんだは
「私のような年寄りは、一年一年年寄ってしまうばかりだよ」

とす [動] 通す。[及 208]

【例】 あだらす 道路 とすなだつけ
「新しい道路を通すんだそうだよ」

とす [tosu:] ^{ふるい}篩。[続 258]

【例】 とすて ゆたて こな とすなどが じゃりや すな とすなも あんぜあ
「篩といったって、粉を篩うのとか、砂利や砂を篩うのもあるよ」

とす [tosu:] 年。[続 258]

【例1】 もうすこすで とすあ あげるな
「もう少しで年が明けるな」

【例2】 おめあまだ とすの わりん わげあな
「あなたは年の割に若いね」

とすおどご [tosuodogo] 年男。[続 258]

【例】 とすおどごあ、わがみず くだり、まめまぎ したり しねあんねあぞ
「年男は、若水を汲んだり、豆撒きをしたりしなければならないよ」

とすかさ [tosukasa] 年嵩。[続 258]

【例】 おれあえの かが おれより したつつ とすかさだあだ
「私の妻は、私より二つ年嵩なんだ」

とすがすら [tosūjasūra] 年頭。[続 258]

【例】 おれあえにあ ななつつ とすがすらん わらしたずあ さんにん いだ
「うちには、七つを年頭に子供達が三人いるんだ」

とすかっこ [tosūkakko] 年格好。[続 258]

【例】 どごの わらすだべ、とすかっこ みっど おれあえんなぐれあだな
「何処の子供だろう、年格好を見ると、うちのぐらいだな」

どすぐれ [dosūnjūre] [形] どす黒い。[続 258]

【例】 やまで きさ ぶつけだ どごあ どすぐれぐ なて きたな
「山で木にぶつ付けたところが、どす黒くなってきたな」

とずげ [toⁿdzūge] 届け。[続 258]

【例】 わらすこあ んまっだおん、やぐばさ とずげ ださねあんねあな
「子供が生まれたから、役場に届けを出さないといけないな」

とすげあ [tosūŋe] 年甲斐。[続 259]

【例】 ほんた わらしたずみであだ とすげあのねあ ごど ゆわねあんだや
「そんな子供らのような、年甲斐のないことをいうんじゃないよ」

とずげる [toⁿdzūgerū] [下一他] 届ける。[続 259]

【例】 ○○ちゃん、これな、○○さん えさ とずげで きてくんねあが
「○○ちゃん、これをね、○○さんの家へ届けて来てくれないか」

とすご [tosūŋo] 年子。[続 259]

【例】 となりさ、まだ とすごあ んまっだど、あれであ てあへんだな
「隣りに、また年子が生まれたそうだ、あれでは大変だな」

どすず [dosūdzu] 土質。[続 259]

【例】 はだげの どすずあ さんせいだはげあ、せっけあでも まがねあんねあべ
「畑の土質が酸性だから、石灰でも撒かないといけないだろう」

どすっと [dosūtto] [副] どっしり。[続 259]

【例 1】 どすっと おもであ にもつだな
「どっしり重い荷物だね」

【例 2】 どすっと かんめあでいれば えなだ
「どっしり構えていればいいんだよ」

とすのへ [tosūnohe] 年の瀬。[続 259]

【例】 とすのへあ、いずねんの そうかんじよどて、いろいろ せいりする おんだ
「年の瀬は、一年の総勘定といって、いろいろ整理をするもんだよ」

とずはがり [todzühagari] 啄木鳥。この語は、栃の実を耕で計る時の、乾いた音と、繁殖期の啄木鳥の雄が、雌を呼ぶ時に、木を軽く突つつく音が似ているところから出た名である。[同] けらつずぎ。けらっぽ。[続 259]

どすめぐ [dosümeгүй] [動] 急ぐ。慌てる。[及 208]

【例 1】ほんげあ どすめぐ おんでねあ

「そんなに急ぐんじゃないよ」

【例 2】よびん 来たら、どすめで けあて えた

「呼びに来たら、慌てて帰へって行ったよ」

どずるす 土と木で作ったひき臼。ひき臼。[同] どんんずるす。[及 66]

【例】どずるす かげた あどあ とみさ かげんなだ

「土のひき臼にかけたあとは、唐箕にかけるのだ」

とぜあこ [toⁿdzeko] 当才仔。一才の馬。[及 92]

【例】ばぐるあ とぜあこ いらねあがど

「馬喰が、当才仔をいらないかって」

とだん [名] トタン板。[及 281]

【例】かじえで とだん とばさだは

「風で、トタン板が飛ばされてしまったよ」

とちゅ [todzjü] [名] 途中。[及 208]

【例】とちゅがら もどた

「途中から戻った」

とづ 栃。[及 92]

【例】とづの実がら 澱粉とて くた ごども あたな

「栃の実から、澱粉をとって食べたこともあったな」

とっかがる [tokkagarü] [動] つっかかる。とりかかる。[及 208]

【例 1】この やろ なして おれあどさ とっかがるおんだ

「この野郎、なぜ俺につっかかるんだ」

【例 2】ぼやぼやしてねあで はやぐ すごどさ とっかがれ

「ぼやぼやしてないで、早く仕事にとりかかれ」

とっかだ [tokkada] 遠方。遠く。この語を「遠方」と訳したが、適当な訳語がないからである。これは、「遠方」といっても何十 km もの遠方をいうのではなく、家から少し離れた遠くといった意味の言葉である。[続 259]

【例】○○ちゃん、ばんかだだはげあ とっかださ えぐなよは

「○○ちゃん、夕方だから、遠くへ行くんじゃないよ」

どっかど [dokkado] [副] ほっと。安心すること。[及 208]

【例】 ああ どっかどした
「ああ、ほっとした」

とっからまる [動] からまる。まとわりつく。[及 208]

【例 1】 草 あすさ とっからまて ありがんねあ
「草が足にからまって歩かれないよ」

【例 2】 こ のわらす とっからまる おんで
「この子がまとわりつくもんで」

とつきび [tokki^mbi] とうきび。とうもろこし。[及 93]

【例】 ○○がら とつきび うりん来たけ
「○○から、とうきびを売りに来たつけ」

とづく [toⁿdzüügü] [動] 届く。[及 208]

【例】 ほごだば 手あ とづくべや
「そこなら、手が届くだろうや」

この語には、「とづだ一届いた」、「とづくだ一届いている。届いていた」。などの使い方がある。

とっくみえあ [tokkümie] 取っ組み合い。[続 260]

【例】 よっばらた あげぐ、とっくみえあの けんかだけど
「酔っ払らったあげぐ、取っ組み合いの喧嘩だったそうだ」

とっくりげあす [動] ひっくりかえす。[及 208]

【例】 さがな とっくりげあへよ
「魚をひっくり返しなさいよ」

とっくん [tokkün] [連語] 疾に。[及・続 208・260]

【例 1】 ○○が、○○だば とっくん えたは、えまごろあ えぎさ つたべは
「○○か、○○なら疾に行ってしまったよ、今頃はもう駅へ着いたろうよ」

【例 2】 ○○だば とっくん えたは
「○○なら、とうに行ってしまったよ」

どっけ [dokke] [俗語] びり。一番最後。[及 209]

【例】 これだば いづでも とっけなあだ
「こいつは、何時もびりなんだよ」

とっけあす [tokkesü] [四他] 取り返す。[同] とけあす。とりげあす。[続 260]

【例 1】 なすで そんした ぶん はくせあで とっけあす ごど でげで えがったな
「茄子で損をした分、白菜で取り返すことが出来てよかったな」

【例 2】 にいちゃん とたなが、おとうさん とっけあしてくえっさげあな
「兄ちゃんが取ったのかい、お父さんが取り返してやるからね」

とっけあす [tokkesü] 取り返し。[同] とりげあす。[続 260]

【例】 ふさぐで すぐねあぐ なた しゅうにゆう でかへぎで とっけあす すねあんねあべ
「不作で少なくなった収入を出稼で取り返しをしないとイケないだろうな」

とっけある [動] 取り替える。[同] とりげある。[及 209]

【例】 これど とっけあでくんねあが
「これと取り替えてくれませんか」

どつつ [dottsü] [代] どっち。どちら。どれ。[及 209]

【例 1】 おれあな どつつだべ
「私のは、どっちだろ」

【例 2】 こから どつつさ えぐなや
「ここから、どっちへ行くんだい」

【例 3】 おれあ どつつ とんなや
「私は、どれを取るんだい」

この語には、「どっちゃーどっちへ」、「どっちゃんもかっちゃんも—どちらにも。どっちにも。あちらにもこちらにも」などの使い方があ

とつつがえる [tottsügaerü] [下一他] 取り付かれる。[続 260]

【例】 ○○さん すにがみに とつつがって すぬばりだどは
「○○さんは、死神に取り付かれて、もう死ぬばかりだそうだ」

とつつかめあーる [tottsükame:rü] [下一他] [強調] 捕まえる。捕まえるの強調語。[続 260]

【例】 いぬ はなして おがねあで、とつつかめあーで しばて おげ
「犬を放しておかないで、捕まえて縛っておけよ」

とつつぐ [tottsügü] [動] とりつく。すがりつく。[及 209]

【例 1】 体 なおて こんだ すごどさ とつつぐ どごだ
「体が治って、今度は仕事にとりつくところです」

【例 2】 この わらすあ とつつぐ おんで なんにも でげねあ
「この子がすがりつくもんで、何も出来ないんだよ」

とつつげある [tottsügerü] [下一他] 取り違える。[続 260]

【例 1】 だれが おれあ はぎおの とつつげあで えたな
「誰か私の履物を取り違えて行ったな」

【例 2】 おめあ おれあ ゆた ごど とつつげあでるよだな
「君は私のいったことを取り違えているようだな」

とつつける [tottsükerü] [下一他] 取り付ける。[続 260]

【例】 まどガラスあ わだはげあ あだらすな とつつけんべ
「窓ガラスが割れたから、新しいのを取り付けよう」

とつつらがす [tottsüragasü] [四他] 取り散らす。[続 261]

【例】 とつつらがして おえで、よて えげなて ぶずほですな
「取り散らしておいて、寄って行って下さいなんて、不調法ですね」

どつつんしても [dottsünsj̄temo] [副] どっちみち。[続 261]

【例】 やだて ゆたて どつつんしても げんたんさへらえんべ
「嫌だといっても、どっちみち減反させられるだろう」

とってげあす [動] 振り返える。戻る。[及 209]

【例 1】 よばっさげあ とってげあして みだ
「呼ぶから、振り返えって見た」

【例 2】 わすれおのして とってげあして 来た
「忘れ物をしたので、戻って来たよ」

とっばずらがす [toppa^adzüragasü] [四自他] 過まる。[続 261]

【例】 わんざど したなんねあくて とっばずらがして したあだべはげあ ゆるしてやれ
「わざとしたのでなくて、過まってしたんだらうから許してやれよ」

とっばずらがす [toppa^adzüragasü] [動] 間違える。手元が狂う。誤まる。[及 209]

【例 1】 とっばずらがして したあだはげあ ごめんな
「誤まってしたのだから、ご免ね」

【例 2】 とっばずらがして 小刀で 手 きてしまった
「手元が狂って、小刀で手を切ってしまったよ」

とっばすり [toppasüri] 遠っ走り。[続 261]

【例】 ○○ちゃん、あめあ ふりそだはげあ とっばすりすんなよは
「○○ちゃん、雨が降りそうだから、もう遠っ走りするなよ」

とっばずれ [名] はずれ。一番はずれ。[同] どっばずれ。[及 209]

【例】 ○○さんの えだば 村の とっばずれだ
「○○さんの家なら、村の一番はずれだよ」

とっばらう [topparaü] [四他] 取り払う。[続 261]

【例】 こんだ ゆぎあ ふらねあべはげあ、そがぎ とっばらても えなは
「今度は雪も降らないだらうから、もう雪囲いを取り払ってもいいね」

とっぺさっぺ [名] 断片的。筋道のない。あちこち。[及 209]

【例】 ほんた とっぺさっぺだ ごど ゆたて わがる おんでねあ
「そんな、断片的なことをいったって、分るもんじゃないよ」

どで 女の恥部。陰部 [及 11]

どであ [do^adε] 土台。[及 51]

【例】 どであだば、栗あ えど
「土台なら栗がいいそうだよ」

とであーる [to'de:rü] [下一自] 跡絶える。[続 261]

【例】 ○○さん びょうぎでも したあだべが、ちかごろ ぶんつうも とであでしまたな
「○○さん、病気でもしたんだらうか、近頃文通も跡絶えてしまったな」

とておぎ [toteogi] [名] とっておぎ。[及 209]

【例】 これあ おれの とておぎの おんだ
「これは、私のとって置き物だよ」

どでかっぱずす [dodekappa'dzüsü] [四自] 慌てふためく。[同] とでかっぺあす。[続 261]

【例】 はんしょあ なっさげあ、どでかっぱずして えさ けあた
「半鐘が鳴るから、慌てふためいて家へ帰ったよ」

とてげあす [totegesü] [四自] 取って返す。[同] とってげあす。[続 261]

【例】 わすれおの おもいだして とじゅうがら とてげあして きた
「忘れ物を思い出して、途中から取って返して来たよ」

どでする [動] びっくりする。驚く。[及 210]

【例】 おめあも どでする 方だな
「お前もびっくりする方だね」
また、この強調語に、「どでかっぱずす」がある。

どでばだ [dodepada] 土手つぶち。土手の肩。[及 105]

【例】 あそごの どでばださ ばっけあ おえっだけ
「あそこの土手つぶちに、蕨のとうが生えていたつけ」

どでばら 腹。腹部。[及 11]

【例】 だらしねあごど どでばら出して
「だらしないこと腹を出して」

この語は「どでっばら」、「どんなが」、「どんばら」、「ぼんほー幼児語」、「ぼんぼんー幼児語」などとも使っている。

どでばら [dodepara] 土手っ腹。[続 261]

【例】 このやろ、あんまり きがねあど、どでばらさ かざあな あげでくえんぞ
「この野郎、余りきかないと、土手っ腹に風穴を開けてやるよ」

どでん [doden] [名/ス自] 動転。[同] どで。[続 262]

【例】 むすこあ ずこ おごしたつけはげあ どでんして とで きたあだ
「息子が事故を起したそうだから、動転して飛んで来たんだ」

とと [幼児語] 鳥。[及 93]

【例】 め、ととあ 来たぞ
「坊や、鳥が来たよ」

とど [幼児語] 魚。[及 93]

【例】 め、とどまま くうべや
「坊や、魚ご飯を食べようね」

ととこ [totoko] [幼児語] 鳥。特に鶏をいう。[同] とと。[続 262]

【例】 めい ととこあ ないが くいであて きたぞ
「坊や、鶏が何か食べたいといって来たぞ」

とどこ [todoko] [幼児語] 魚。[同] とど。[続 262]

【例】 にぎりまさ あげあ とどこ へでくんねあが
「握り飯に赤い魚（鮭や鱒）を入れてくれないか」

となりあへ [tonariaçę] [名] 隣り合せ。[及 210]

【例】 おれあえあ ○○さんの えど となりあへだ
「うちと、○○さんの家は隣り合せなんです」

どなんべ [donanbe] 土鍋。[続 262]

【例】 おげあ たぐあだば どなんべあ いずばん ええ おんだぜあ
「お粥を炊くのなら、土鍋が一番いいもんだよ」

とねある [tonerüü] [下一他] 唱える。[続 262]

【例】 かみなりさま なて きたら、かんばらかんばらて とねあつど ええ おんだ
「雷さまが鳴って来たら、桑原桑原と唱えるといいものだよ」

どの [dono] [代] どれ。[及 210]

【例】 ここから、○○まで どのくれあ あんべ
「ここから、○○まで、どれくらいあるだろう」

とのぐづ [tonojuëdzüü] 入口。[同] へありくづ。[及 51]

【例】 とのぐづさ 立て、何 みっだや
「入口に立って、何を見ているの」

とのぐづさんずん [tonojuëdzüüsandzün] ひとあしも家を出ないこと。「とのぐづ」は、入口。玄関をいい、「さんずん」は、三寸であり、入口から三寸も出ない、家から一歩も出ないということに使われている。[及 210]

【例】 おらあ 今日なの とのぐづさんずん ではらねあだ
「私は、今日なんが一歩も家を出ないんだよ」

とば [名] 塔婆。卒塔婆。[及 210]

【例】 おめあ とば もて えげ
「お前は卒塔婆を持って行きなさい」

とふ [名] 豆腐。[及 281]

【例】 なめこさ とふ へっだ お汁も んめあ おんだな

「なめこに豆腐を入れた、お汁もうまいものだね」

とふかす 豆腐殻。おから。[同] とふから。[及 42]

【例】 むがすあ とふかすも くだ おんだ
「昔は豆腐殻も食べたもんだ」

とぷっと [副] とっぷり。[及 210]

【例】 ひあ とぷっと くっだは
「陽がとっぷり暮れてしまったよ」

どぶっと [dopütto] [副] どっぷり。水や湯につかるさま。[及 210]

【例 1】 へんたぐおの 水さ どぶっと つけで おげ
「洗濯物を水にどっぷり漬けておきなさい」
【例 2】 ゆさ どぶっと つかた
「風呂にどっぷりつかった」

どぶどこえ [dobūdokoē] [形] 図太い。[続 262]

【例】 この やろだば どぶどこえ おんで すこすぐれあの ごどであ えごがねあ
「この野郎なら、図太いもので、少しぐらいのことでは動かないよ」

どへ [doçē] [副] どうせ。[及 210]

【例】 どへ まにあわねあおん この 次で えぐは
「どうせ間に合わないから、この次で（列車などで）行くよ」
この語は、「どへこへーどうせこうせ。どうしようと。どうなろうと」という使い方もしている。

どへこへ [dohekohe] [副] どうせこうせ。[同] どうへこうへ。どうへこへ。[続 262]

【例】 つとめにんだす、た つぐんなも よういんねあはげあ、どへこへ こざぐさへんべは
「勤め人だし、田を作るのも容易でないから、どうせこうせ小作をさせてしまおうよ」

とぼす [tobosü] [形] 乏しい。[続 262]

【例】 さんかんぶの、この とぼす たんぼまで げんたんすろて いうなだぜあ
「山間部の、この乏しい田圃まで減反しろというんだよ」

どまづぐ [domadzügü] [動] とまどう。まごつく。[及 210]

【例】 おもいもかけねあな 指名さって どまづだけや
「思い掛けなく指名されたので、まごついたよ」

とまりよど [tomarijo^odo] 宿泊人。泊り客。[続 262]

【例】 ほうずで、とうぐの すんるいの とまりよどあ、ごろぐにんも いだ
「法事で、遠くの親類の泊り客が、6人もいるよ」

とみ 唐箕。手で水車のような風車をまわして、玄米と粳がらを分離する器具。[及 66]

【例】 とみずあ おんなず 速さで まわす おんだ
「唐箕って同じ速さで回すもんだ」

とむれあ [tomüre] 弔い。葬式。[続 263]

【例】 ずさまの とむれあも、みんなの おがげで りっぱん でげあした
「お爺さんの弔いも、皆のお陰で立派に出来ました」

どめで ～とみえて。[及 210]

【例】 あめあ ふっどめで おどあ するな
「雨が降るとみえて、音がするね」

ども [接助] が。[及 211]

【例 1】 ゆべな えたども いねあけな
「昨夜行ったが、いなかったね」

【例 2】 ゆたども きがね
「いったが、きかないよ」

ともあす [tomoasü] 後足。動物の後足をいう。[同] あどあす。[続 263]

【例】 よずあすの いぎおのあ みな ともあすあ じょうぶだ おんだな
「四つ足の生き物は、みな後足が丈夫なものだね」

ともかへぎ [tomokahęi] 共稼ぎ。[続 263]

【例】 えまだば だごの えだて ともかへぎ すねあ だごあ ねあくれあだな
「今なら何処の家だって、共稼ぎをしないところがないくらいだな」

どもた ～と思った。[及 210]

【例】 えぐがどもたども やめだ
「行こうか、と思ったが、止めたよ」

どもっと [domotto] [副] どんより。[続 263]

【例 1】 きょうの おでんきあ どもっとした てんきだな
「今日のお天気は、どんよりした天気だな」

【例 2】 ないだが あだま どもっとして、きぶんの おもえ ごど
「なんだか頭がどんよりして、気分の重いこと」

ともで [tomode] 田圃。[及 105]

【例】 ともでの 草 刈て くる
「田圃の草を刈って来るよ」

～どや [~doja] [助詞] っ。この語は、聞き返す時や、疑問をたずねる場合に使う言葉である。また、この語は「て」とも使う。[続 263]

【例 1】 ないだどや
「なんだった」

【例 2】 くっどや
「来るって」

【例3】 ないだて
「なんだって」

【例4】 くるて
「来るって」

どや [doja] 鋳掛屋。[同] えがげや。[続 263]

【例】 むがすあ なべかま えがげる どやず おのあ くる おんであったな
「昔は鍋釜を鋳掛ける、鋳掛屋という者が来るものだったな」

どゆう どういう。どんな。[及 210]

【例】 ほれあ どゆた おのや
「それは、どんなものなんだい」

とよ ^{とい} 樋。[及 51]

【例】 いりみじゃの とよあ くさっだはげあ とけあねあんねあな
「屋の樋が腐れたから、取り替えないといけないな」

どよ ~そうだ。[及 210]

【例】 ねごに とらっだどよ
「猫にとられたそうだ」

とよこみず [tojokomidzū] 雪の細道。これは、積雪が多くなって、除雪しない雪道で、両側が高く、歩くところが樋のようになった道という。今では山で林業労働者の歩く雪道ぐらいしか見られない。[続 263]

とらえる [派生] 通られる。取られる。[及 211]

【例1】 この 山みづあ すこす やぶだども とらえるべや
「この山道は少し藪だが、通られるだろうや」

【例2】 さがな ほさ おくど ねごに とらえる
「魚をそこへ置くと、猫に取られるよ」

とらば 三毛。三毛猫。[及 93]

【例】 この ねごあ とらばだな
「この猫は三毛猫だな」

とらば [toraba] 虎毛。これは、猫の毛色の虎毛をいい、このような猫を「とらばねご」という。
[続 263]

とらぼ とのさまばった。ばった科の昆虫で、よく子供が糸をつけて、飛ばして遊ぶばった。[及 93]

【例】 おどつつあ とらぼさ いど つけでころ
「お父さん、とのさまばったに糸をつけてちょうだい」

とりあげばんば [toriagebanba] 助産婦。これは、免許を持たない昔の助産婦をいったものである。「取り上げ婆」。[続 264]

とりあす [toriasü] とりあししようま。これは、ゆきのした科の山地に生える多年草で、薬用になるといわれている。[続 264]

とりあへ [toriahe] 取り合わせ。[続 264]

【例】 りょうりあ まなぐで みでも んめあそん とりあへ かんげる おんだ
「料理は、目で見ても美味そうに、取り合わせを考えるものだよ」

とりあへる [toriaherü] [下一他] 取り合わせる。[続 264]

【例】 つつそひりょうさ はいごうひりょうも とりあへっど ええ おんだぞ
「窒素肥料に配合肥料も取り合わせるといいものだよ」

とりえ [torie] 鳥居。[続 264]

【例】 ずぞさまの とりえも ぼこっで きたはげあ とりげあねあんな
「地蔵さまの鳥居もこわれてきたから、取り替えないといけないな」

とりえあ [toriea] 取り合い。[続 264]

【例】 こらっ、ほんたおの とりえあする おのあ ねあべな
「こらっ、そんな物を取り合いする奴があるもんか」

とりえあーず [torie:"dzü] [副] 取り敢えず。[続 264]

【例】 とりえあーず、これだけ はらておえで あどあ そんま はらうはげあな
「取り敢えず、これだけ払っておいて、後は直きに払うからね」

とりえれ [toriere] 取り入れ。[続 264]

【例】 こどすも あっつこっつで いねの とりえれあ はすまたな
「今年も、あっちこちで、稲の取り入れが始まったね」

とりおせある [torioserü] [下一他] 取り抑える。[続 264]

【例】 べごあ ねげだはげあ だれが はやぐ とりおせあでころ
「牛が逃げたから、誰か早く取り抑えてくれ」

とりがげ [torigage] [名] 通りがけ。[及 211]

【例】 なに したがどもて とりがげん よてみだ
「何をしているか、と思って、通りがけに寄ってみた」

とりぐづ [名] 相手に話をさせるようにしむけること。[及 211]

【例】 ○○さんだば、とりぐづとんな じよんだおん
「○○さんなら、相手に話をさせるのが上手なもの」

とりけあす [torikesü] 鶏糞。[続 264]

【例】 とりごやの とりけあすあ たまたはげあ、そうずしねあんな
「鶏舎の鶏糞が溜ったから、掃除しないとけないな」

とりげあす [torigesü] [四他] 取り返す。[続 265]

【例】 さずぎの おぐっだ ぶん しと たので とりげあす ごどん すんべ

「田植えの遅れた分を、人を頼んで取り返すことにしよう」

とりげあす [torigesü] 取り返し。[続 264]

【例 1】 ようさんで そんした ぶん ないがで とりげあすすねあんねあな
「養蚕で損をした分を、何かで取り返ししないといけないな」

【例 2】 えまの うずん て うだねあど とりげあす つがねあぐなんぞ
「今のうちに手を打たないと、取り返しがつかなくなるよ」

とりげある [torigerü] [動] 取り替える。[及 211]

【例】 これ おめあなど とりげある ごどん すんべや
「これを、君のと、取り替えることにしようよ」

また、互に取替えあうことを、「とりげあっこ」といつている。

とりことばしたよだ 俚諺。直訳すると、小鳥を飛ばしたようだ、となるが、かわいがっていた、子や孫が、手元を離れていった淋しさをいう。[及 30]

とりねがす [torinegasü] [四他] 取り逃がす。[続 265]

【例】 つた ざっこ とりねがしたて、ほれあ ざんねんだ ごど したな
「釣った雑魚を取り逃がしたって、それは残念なことをしたね」

とりのぼへる [torinoboherü] [下一自] 取り上せる。[続 265]

【例】 とりのぼへで ない ゆてんなだが わがらねあ おずずで ゆてみる
「取り上せて、何をいつてるのか分らないよ、落ち付いていつてみるよ」

とりぼい [名] 鳥追い。正月行事の一つ。旧一月十五日の晩、村の男の子が皆出て、「とりぼいだ とりぼいだ、こごのえ（ここの家）の〇〇だ（参加しない男の子の名）、夜しゅぐ（夜食）ぱりまぐらつて おぎで鳥ぼえねあ（起きて鳥を追えない）ぼえねあ、ほう、ほう」、と叫びながら、村中を練り歩き、豊作を祈願する行事。[及 211]

とりめあ [torime] 取り前。取り分。[続 265]

【例】 こんげつあ 〇〇にず はだれあだはげあ おめあの とりめあ これくれあだ
「今月は〇〇日働いたから、お前の取り前はこれくらいだよ」

とりよへる [torijoherü] [下一他] 取り寄せる。[続 265]

【例】 おれも だんしゃぐえもの たね とりよへるごどん した
「私も、男爵薯の種を取り寄せることにしたよ」

とる [動] 通る。[及 211]

【例】 車 とるよん なてが ちっちゃえ わらしたづあ あぶねあくて
「車が通るようになってから、小さい子供らが危ぶなくて」

どろかん [dorokan] 暖い寒。寒中に雨が降ったりして暖い寒をいう。[及 105]

【例】 寒さ 丑の日あ 三つある 年あ どろかんだて いう おんだ
「寒中に丑の日が三つ入る年は、暖い寒だ、というもんだよ」

どろくせあ [dorokūse] [形] 泥臭い [続 265]

【例】 この こえあ どろ はがへねあど どろくせあくて かんねああだ
「この鯉は、泥を吐かせないと、泥臭くて食えないんだ」

どろだらけ [doroⁿdarake] 泥まみれ。[続 265]

【例】 ないだて どろだらけん なて きた おんだ、どごで あすできたあたべ
「まあ、泥まみれになって来たもんだ、何処で遊んで来たんだろう」

どろちよす [名] 泥遊び。[同] でろちよす。[及 211]

【例】 この わらしたづあ まだ どろちよす した
「この子供ら、また、泥遊びをやっている」

とろっと [torotto] [副] とろりと。[続 265]

【例】 この さげあ どごの さげだが とろっとして んめあ さげだな
「この酒は、何処の酒なのか、とろりとして美味しい酒だね」

とろpez [toropeɟzū] [副] のべつ。[続 265]

【例】 となりの ばさま ちっけあ おんだはげあ とろpez おれあえさ くんなよ
「隣りのお婆さんは、近いものだから、のべつうちへ来るんだよ」

とろろえも とろろいも。[及 93]

【例】 これあ え とろろえもだな
「これは、いいとろろいもだね」

とろんこ [名] とろう。お盆に仏だんに下げる菓子の燈ろう。[及 211]

【例】 お盆だはげあ とろんこでも かて あげんべ
「お盆だから、燈ろうでも買ってあげよう」

とろんこ トロッコ。トロ。[及 66]

【例】 とろんこなの使うな、鉄道工夫ぐれあのおんであったな
「トロッコなんか使うのは、鉄道工夫ぐらいのものだったよ」

とろんこ [toronko] トロッコ。トロ。これは、土木工事の時に使う、土砂や機械、機具などを運搬する手押し車である。[続 266]

どんがら [donɟara] 鳥や魚の肉を取った残りの骨。[続 266]

【例】 この どんがら こんにゃぐや とうふでも へで にで くうべ
「この肉を取った残りの骨は、こんにゃくや豆腐でも入れて、煮て食べよう」

どんぎ [donɟi] 式台。[続 266]

【例】 いず なた しとあ くっずあねあはげあ どんぎの あだり きれんして おげよ
「何時どんな人が来ないとも限らないから、式台のあたりを綺麗にしておきなさいよ」

どんぎり [donɟiri] 胴切り。[続 266]

【例】 ほの さがな どんぎりして あぶてくんねあが

「その魚を、胴切りにして、炙ってくれないか」

どんぐ [donŋü] 道具。[続 266]

【例】 なた ひやくしよだが、ほごの えの どんぐ みっど わがるて いう おんだ
「どんな百姓なのか、そこの家の道具を見れば分る、というものだよ」

どんぐえ [donŋüe] おおいたどり。これは、山野に生える、たで科の多年生草本で、茎は2~3mにも生長する。[続 266]

どんぐえむす [donŋüemüsü] おおいたどりの寄生虫。これは、おおいたどりの茎の中に寄生する昆虫の幼虫で、名は不明であるが、釣りの餌として知られている。[続 266]

どんぐりげあす [donŋürigesü] [四他] ひっくり返す。[続 266]

【例】 どご みで ありぐなだ、きいつけねあど こが どんぐりげあすぞ
「何処を見て歩くんだ、気を付けないと、桶をひっくり返すよ」

どんじよ どじょう。[及 93]

【例】 ○○ちゃん どんじよ しめん えぐべ
「○○ちゃん、どじょうをつかまえに行こうよ」

どんじよど [dondzodo] どじょうを捕る筈。竹製の小さい筈。[及 66]

【例】 あんつあ どんじよど かげで くんべ
「兄さん、どじょう筈を仕掛に行こう」

どんじよへげ [donⁿdzoheŋe] 泥鱧髭。[続 266]

【例】 あの おやす どんじよへげなの おやして えばてる おんだ
「あの親父、泥鱧髭なんか生やして、威張っているもんだ」

どんずぎ [dondzügi] 胴突き。地固め作業。[及 51]

【例】 ○○さんの どんづぎさ てづであ えてころ
「○○さんの家の胴突きに、手伝いに行ってください」

どんずめ [donⁿdzüme] 胴締め。[続 266]

【例】 どんずめも こんげあ えっぺあ めへらえっど めうずりするな
「胴締めもこんなに沢山見せられると、目移りがするな」

どんずるす [donⁿdzürüsü] 挽き臼。この挽き臼は、粘土を入れて作った挽き臼で、粃を入れて、粃殻を取る農具である。[同] どずるす。[続 267]

とんぜあばんぜあ [名] 通せんぼう。「とんぜあばんぜあ だぞーとうせんぼうだよ」といって遊ぶ、子供の遊びのひとつ。[及 211]

どんで [donⁿdē] [連語] 道理で。[続 267]

【例】 さみどもたら、ゆぎあ ふてきた おん、どんで さみはずだ
「寒いと思ったら、雪が降って来たもの、道理で寒い筈だよ」

どんで 道理で。[及 212]

- 【例】 ほゆ わげが、どんで こねあぐなた
 「そういうわけか、道理で来なくなった」
 また、「とんぬげる一通り抜ける」という語もある。

とんでもねあ [tonⁿdẽmonẽ] [連語] とんでもない。[続 267]

- 【例 1】 とんでもねあ、あればりの ごどで あれなの ゆわねあでころ
 「とんでもない、あればかりのことで、お礼なんかいわないでくれよ」
 【例 2】 とんでもねあ ごど してくっだな
 「とんでもないことをしてくれたな」

どんでんげあす [dondẽŋẽsũ] どんでん返し。[続 267]

- 【例】 ちょうかいさ だした ぎあん どだんばで どんでんげあす など
 「町議会に出した議案が、土壇場でどんでん返しになったそうだ」

どんどど [副] さっさと。どんどん。[及 212]

- 【例】 なに してんなや どんどど こえや
 「何をしてるの、さっさと来いよ」

どんどど [donⁿdodo] [副] どんどん。[続 267]

- 【例】 えそがすなだはげあ、みずくさなの くてねあで どんどど えて こえよ
 「忙しいのだから、道草なんかくっていないで、どんどん行って来いよ」

どんなが [donnaga] 胴中。[続 267]

- 【例】 ほの さがな どんなが せあで えぐ あらてがら りょうりすんなだぞ
 「その魚は、胴中を裂いて、よく洗ってから料理するんだよ」

とんばす 鳶口。[同] とんばず。[及 66]

- 【例】 今日あ きまぐりだはげあ とんばす もて えごよ
 「今日は、木寄せだから、鳶口を持っていくんだよ」

とんび [tonbi] 鳶口。これは、「とんばす。とんばず（及位の方言 66P）」ともいい、丸太を動かす道具で、大、中、小とあり、小型のものは片手で使い、「てとび（前出）」といい、大型のものの中には背に溝を掘ったものがあり、「きりんとんび（前出）」といい、消防用の物は「はやくず（後出）」とっている。[続 267]

どんびやくしよ [donbjakũjo] 土百姓。[続 268]

- 【例】 おらだどご どんびやくしよだなて ばがん すんども おらだ こめ つぐらねあば か
 かねあべじゅなや
 「俺達を土百姓だなんて馬鹿にするが、俺達が米を作らなければ、食べられないだろうやねー」

どんぶぐ [donbũgũ] 綿入れはんてん。[及 59]

【例】 今日あ さみはげあ どんぶぐ 着て えげよ
「今日は寒いから、綿入れはんてんを着て行きなさいよ」

どんべ [donbe] 粘土。[同] どんべつづ。[及 105]

【例】 かべさ ぬる どんべあ ただの どんべんねあど
「壁に塗る粘土は、普通の粘土ではないそうだよ」

どんまぎ [donmagi] 胴巻き。[続 267]

【例】 おめあ なずん など、ふとん けどばすはげあ、どんまぎ して ねろよ
「お前は夏になると、布団を蹴飛ばすから、胴巻きをして寝なさいよ」

— な —

な [格助] の。[及 212]

【例】 やぐばさ おれも えぐなだ

「役場へ私も行くのです」

また、この語は、「まだ こねあな ○○さんばりだ—まだ来ないのは、○○さんばかりだ」のように、「のは」とも使い、また、「ほのきたねあな なげでしまえ—そのきたないのを捨ててしまいなさい」のように、「のを」とも使う場合がある。

な—おす [感] ね。ですね。[及 213]

【例 1】 今日あ ええ 天気だなおす

「今日はいい天気だね」

【例 2】 んだ なおす

「そうですね」

【例 3】 あのなおす

「あのね」

なあだ [連語] なのだ。なんだ。[及 212]

【例】 これあ おれの ほんすんなあだ

「これが俺の本心なのだよ」

ない [代] 何。なん。[及 212]

【例】 手さ たがったな ないだや

「手に持っているのは何だい」

この語は、「がが ないが くんねあが—お母さん、何かくれないか」、「ほの さがな ないさへるや—その魚 何に入れるんだい」、「ないさもかいさも 手出して—何にでも手を出して」、「ないじゅごどもねあぐ おもで眺めっだ—なんということもなく外を眺めていた」、「ないしん えぐや—なにしに行くの」、「なにしん」は、「なにすん」とも使う。「これだば ないのごったて うらんね—これなら、なんといったって売られないな」などの使い方をしている。

ないあさでおぎ [naiasadɔ̄ogi] [連語] 何はさて措き。[同] なにあさでおぎ。[続 268]

【例】 かずなの あった ずぎあ ないあさでおぎ これ もて ねげろよ

「火事なんかあった時は、何はさて措き、これを持って逃げろよ」

ないあねあーたて [naiane:tate] [連語] 何はなくとも。[同] なにあねあて。[続 268]

【例】 ないあねあーたて、おれあな さげせあも あれば えなだ
「何はなくとも、俺には、酒さえあればいいんだ」

ないが [naïga] [連語] 何か。[続 268]

【例】 がが ないが くいであな
「お母さん、何か食べたいよ」

ないくそ [naïküso] [感] 何糞。[続 268]

【例】 くるす ずぎごそ ないくそて がんばる えず もだねあんねあ おんだ
「苦しい時こそ、何糞と頑張る意地を持たなければならないものだよ」

ないすろ [naïsüro] [副] 何しろ。[続 268]

【例】 ないすろ この ふけぎだ おんだはげあ、はだらぐ ばしょあ ねあなよ
「何しろこの不景気なものだから、働く場所がないんだよ」

ないだかいだて [naï^odakai^odate] [副] 何だかんだと。[同] なえだかえだて。[続 268]

【例】 ないだかいだて ゆて みだ どごで はだらがねあば かんねあなだ
「何だかんだとしてみたところで、働かなければ食べられないんだ」

ないだて [naï^odate] [感] まあ。[同] なえだて。[続 268]

【例 1】 ないだて、んめあごど
「まあ、美味いこと」

【例 2】 ないだて、おかねあちゃ
「まあ、おっかないよ」

ないだり [naï^odari] [連語] 何なりと。[同] なんだり。[続 269]

【例】 ないだり おめあだ すぎた おの とて くてころ
「何なりと、君達の好きなものを取って食べてくれよ」

ないて [連語] なんと。[及 212]

【例】 ないて ゆわだて おれあ やる
「なんといわれても、私はやるよ」
また、「ないてかいて一なんともかんとも」のような使い方もしている。

ないの [naïno] [連語/感] 何の。[続 269]

【例 1】 ほれあ ないの ごったや
「それは、何のことなんだい」

【例 2】 いであの ないのて
「痛い何のって」

【例 3】 ないの こればりの けが
「何のこれしきの怪我」

ないも [naïmo] [連語] 何も。[同] なんにも。[続 269]

【例】 ほんたごど、おれあ ないも すらねあな
「そんなこと、私は何も知らないね」

ないもかいも [naimokaimo] 〔連語〕 何もかも。〔続 269〕

【例】 ほんたごど ゆたら、ないもかいも おじゃん なてしまうべや
「そんなことをいったら、何もかもおじゃんになってしまうだろうや」

ないんたて [naintate] 〔連語〕 どうしても。〔続 269〕

【例】 これだけあ ないんたて やめらんねあ
「これだけは、どうしても止められないね」
また、この語は、「どういっても」とも訳され、「だれあ ないんたて=誰がどういっても」のように使っている。

ながえも [nagaemo] 長芋。〔同〕 とろろえも。〔続 269〕

【例】 この ながえもで とろろ こしえんべ
「この長芋で、とろろを作ろう」

ながぎ [naganji] 長木。雪囲いやはせ材に使う、茎 10cm 内外、長さ 4m 位の長い木をいう。〔及 66〕

【例】 そがぎさ 使う ながぎあ あつがや
「雪囲いに使う長木があるかい」

ながこ [nagako] 次男。次女。三人兄弟の次男、次女をいう。〔及 7〕

【例】 おめあえの ながこ 嫁ん くんねあべが
「お宅の次女を嫁にくれませんか」
また、単に次男、次女を「にぼんこ」と呼び、末つ子を「ばつつこ」、「ばつつご」といっている。

ながごめ [naganome] 半煮えご飯。〔同〕 めっこま。〔及 42〕

【例】 これだば ながごめで かんねあな
「これなら半煮えご飯で、食べられないよ」

ながす [nagasü] 台所。これは、流れ水を水槽に入れて、食品や食器等の洗い場として作った台所の一部をいった、今は流れ水を入れる家はなく、台所を「ながす」といっている。〔続 269〕

ながすずめあ [nagasü'dzüme] 炊事。〔同〕 ながすずんめあ。まますめあ。まますんめあ。すんめあ。〔続 270〕

ながだす [nagadasü] 中出し。これは、伐採した丸太を、伐採地点から、トラックの入る地点まで出すことをいう。〔続 270〕

ながちょーば [nagatjo:ba] 仕事の完成前の慰労宴。これは、何日か掛かる仕事の途中で、労働者を慰安する簡単な宴会をいう。〔続 270〕

ながつけあ [nagatsüŋe] 仲違い。〔続 270〕

【例】 ○○あ、きょうであながして、ながつけあして えぎき してねあどは

「〇〇は、兄弟の仲でありながら、仲違いして、もう行き来をしないそうだよ」

ながったらす [naɲattarasü] [形] 長たらしい。[続 270]

【例】 ないだて ながったらす でんわだてな さっさと やめだらえべあ
「なんだって長たらしい電話だこと、さっさと止めたらいいだろうに」

ながど [nagaⁿdo] 仲人。[及 7]

【例】 となりの つあつあどご ながど たのだら えんねあべが
「隣りのお父さんを仲人に頼んだらいいじゃないだろうか」

この語には「ながどおやじー男仲人」、「ながどかがー女仲人」、「おながどー男仲人」、「めながどー女仲人」などの呼び方がある。

ながなが [naganaga] [名] 親類。血縁。[及 213]

【例】 あれど あれあ、ながながだ おん
「あとあれは、親類だもの。あれとあれは、親類の間柄だもの」

ながね [naɲaɲe] 尾根。山の峯つづきの所をいう。[及 105]

【例】 〇〇さだば ながね へんぐり へんぐり えがねあんねあ
「〇〇になら、尾根をいくつも越えて行かなければならないよ」

ながば [naga^mba] 仲間。友達。[及 7]

【例】 まだ、いつもの ながば あづばんべや
「また、何時もの仲間が集まろうじゃないか」
この語の類語に「ながばくれあー仲間けんか」がある。

ながばくれあ [nagabaküre] [名] 仲間けんか。[及 213]

【例】 ないだ ながばくれあがは
「なんだ、仲間けんかかい」

ながばどーす [nagabaⁿdo:sü] 仲間同志。[続 270]

【例】 きのあた ながばどーすで、とくさんぶつ つぐるごどん すんべや
「気の合った仲間同志で、特産物を作ることにしようや」

ながばわれ [nagabaware] 仲間割れ。[続 270]

【例】 どがだ ながばわれして しとりあ えさ けあてしまたどは
「土方が仲間割れして、一人はもう家へ帰ってしまったそうだよ」

ながべろえ [naɲaperoe] 細長い。ひよろながい。[及 30]

【例】 茄子、日陰さ ゆえだら、ながべろえ おのん なてしまた
「茄子を日陰に植えたら、細長いものになってしまったよ」

ながまる [naɲamarü] [四自] 横たわる。[続 270]

【例】 とうい どご きていだであで つかれあしたべ すこす ながまらっしえ
「遠い所を来ていただいて、疲れたでしょう、少し横たわって下さい」

ながまる [naɲamarũ] [動] 横になる。横になって休む。[及 213]

【例】 くたびったべあ すこす ながまるんだ
「疲れたろうから、少し横になりなさいよ」

ながわずれあ [naɲawaⁿdzüɾɛ] 長患い。[続 270]

【例】 ばさま ながわずれあで あねこあ はだらぎん ではらんねああだど
「お婆さんが長患いで、嫁は働きに出られないんだそうだ」

なぎさがぶ [nagisagabü] [四自] 泣き叫ぶ。[続 270]

【例】 きゆうに つあつあん すなつで、えの したずあ なぎさがでだけは
「急にお父さんに死なれて、うちの人達はもう泣き叫んでいたっけな」

なぎし 長押。[及 51]

【例】 なぎしき 釘 ぶづ おんでねあぞ
「長押に釘を打つもんじゃないよ」

なぎどご [nagiⁿdogo] 泣き所。[続 271]

【例】 なぎどご つかまっでる おんだはげあ ゆいであ ごども ゆえねあなだど
「泣き所を掴まれているものだから、言いたいこともいえないんだそうだ」

なぎねり [nagiⁿɳeri] 泣き寝入り。[続 271]

【例】 ○○ちゃん つあつあに ごしゃがっで、ほのまま なぎねりしてしまたな
「○○ちゃんは、お父さんに叱られて、そのまま泣き寝入りしてしまったな」

なぎべそ [nagibešo] [名] ベそ。[同] べんぞ。[及 213]

【例】 ないだや まだ なぎべそ けあつだながは
「なんだい、また、ベそをかいているのかい」

なぎまねあ [nagimanɛ] 泣き真似。[続 271]

【例】 ○○ちゃん ほんた なぎまねあなの する おんでねあぞ
「○○ちゃん、そんな泣き真似なんかするものじゃないよ」

なぎめそ [nagimešo] [名] 泣き虫。[同] なきみそ。[及 213]

【例】 まづ、これあまだ なぎめそで
「まあ、こいつは、泣き虫で」

なぎわれあ [nagiwareɛ] 泣き笑い。[続 271]

【例】 やあや、あんまり おがす おんだはげあ、なぎわれあ してしまたは
「いやいや、余りおかしいものだから、もう泣き笑いをしてしまったよ」

なく [nagü] [動] 泣く。[及 213]

【例】 ほんげあ なくなや
「そんなに泣くなよ」

この語には、「ねあつだ一泣いている。泣いていた」。「ねあでっさげあ一泣いているから」などの使

い方がある。

なくさむ [動] からかう。[及 213]

【例】 ほんげあ しとんどご なくさむ おんでねあ
「そんなに人をからかうもんじゃないよ」

なげる [naŋerüü] [動] 捨てる。[及 213]

【例】 ほんたどさ ごみ なげる おんでねあ
「そんな所にごみを捨てるもんじゃないよ」

この語は、勿論、投げる、という意味でも使われている。

なごりおす [naŋoriosü] [形] 名残惜しい。[続 271]

【例】 へっかぐ きて、とまらねあで けあんながは なごりおす ごどなおす
「折角来て、もう泊らないで帰るんですか、名残惜しいですわねー」

なさ [接助] のに。[及 213]

【例】 する、ていうなさ とめんなや
「する、とiotてるのに止めるなよ」

なさげねあ [nasageŋe] [形] 情ない。[続 271]

【例】 ないだや、ほれぼりの かじえで やすむなて、なさげねあ ごど ゆわねあんだ
「なんだい、そればかりの風邪で休むなんて、情ないことをいうんじゃないよ」

なさげぶげあ [nasagebüge] [形] 情深い。[続 271]

【例】 ○○さんだば、なさげぶげあ しとで、だれあつあでも すんへずん する しとだ
「○○さんなら、情深い人で、誰にでも親切にする人なんです」

なじ [副] どう。[同] なんず。なんずん。[及 213]

【例】 これあ なじ すんなや
「これはどうするんだい」

なして [連語] どうして。[同] なんずして。なんずんして。[及 213]

【例】 おめあ なして えがねあなや
「君は、どうして行かないんだ」

また、「なしてなして—どういたしまして」（なしても—どうしても？）などの使い方もある。

なす 梨。[及 93]

【例】 なす うりん 来たはげあ かてころ
「梨を売りに来たから買って下さい」

なずおの [nadzüono] 夏物。[続 271]

【例】 こんだ ぜえぶん あつぐ なてきたはげあ、そろそろ なずおの だすべ
「今度は随分暑くなってきたから、そろそろ夏物を出そうね」

なずがす [nadzügasü] [形] 懐かしい。[続 271]

【例】 あらっ、〇〇さんねあがや なずがすごど、いず こっちゃ きたな
「あら、〇〇さんじゃないの、懐かしいこと、何時こっちへ来たの」

なすくぞす [nasükürⁿdzosü] 済し崩し。[続 271]

【例】 シャッキンあ まえつぎ なすくぞしん なして えくべ
「借金は、毎月済し崩しに済して行こう」

なすだんご [nasüdanŋo] 梨団子。これは、旧正月 14 日に搗いた餅を、聖 2~3cm の大きさに丸め、翌 15 日「みずぎ」の枝枝の先に刺し、神棚や室室のなげしに飾り豊作を祈ったものをいう。
[続 272]

なずやへ [nadzüjahe] 夏やせ。[続 272]

【例】 ないだて なづやへしたてが、であず すろえあ
「まあ、夏やせしたってかい、大事にしろよ」

なすりえあ [nasürüe] なすり合い。[続 272]

【例】 おだげあ へぎにんの なすりえあしたて どうなる おんでもねあべ
「お互に責任のなすり合いをしたって、どうなるものでもないだろうや」

なすろ 苗代。[及 73]

【例】 なすろの ゆぎ 消して くっさげあな
「苗代の雪を消して来るよ」

なだ [連語] のだ。[及 214]

【例】 ほれあ おれあなだ
「それは、私のだよ」

なだ 涙。[及 16]

【例】 あんまり わらて なだ 出してしまたは
「あまり笑って、涙を出してしまったよ」

なだげあ [naⁿdage] [形] 名高い。[及 214]

【例】 あの しとあ 〇〇であ なだけあ しとだぜあ
「あの人は、〇〇では名高い人だよ」

なっきりぼえじよ [nakkürboedzo] 菜切り包丁。[続 272]

【例】 なえだや、なっきりぼえじよで さがな はやしたて だめだべや
「なんだい、菜切り包丁で魚を切ったって駄目じゃないの」

なづぐ [nadzügü] [動] なつく。馴れ親しむ。[及 214]

【例】 この 犬あ、誰あどさでも なづぐなだ
「この犬は、誰にでもなつくんだ」
また、馴れ馴れしい、という言葉で「なつこえ」と使っている。

なつつあがる [nattsanjarü] [動] ぶらさがる。まっわりつく。[及 214]

【例1】 あの わらすあ、木さ なっつあがったけ
「あの子は、木にぶらさがっていたつけ」

【例2】 この わらすあ、おれあつあばり なっつあがる おんで
「この子は、私にばかりまっわりつくもんで」

なっであ なるよ。なるじゃないか。なりたい。[及 214]

【例1】 ほら こうへば なっであ
「ほら、こうすればなるよ。ほら、こうすればなるじゃないか」

【例2】 おらも、ああいう しとん なっであな
「私も、ああいう人になりたいな」

なっても [副] きっと。必ず。いつも。始終。[及 214]

【例1】 おめあ なっても こえよ
「お前、きっと来いよ」

【例2】 隣の 婆さま なっても あすびん くんのだ
「隣のお婆さんは、何時も遊びに来るんです」

なっと 納豆。[及 42]

【例】 つあつあ おれあつあも なっと かげでころ
「お父さん、僕にも納豆をかけて下さい」

～なて [~nate] [副助] なんて。[続 272]

【例1】 こえなて なによう あんな
「来いなんて何用があるの」

【例2】 おぎやぐだなて、この えそがす ずき
「お客だなんて、この忙しい時」

～なで [~naⁿde] [接助] ので。[続 272]

【例1】 とす とたなで あすあ よわえあぐ なた
「年を取ったので、足が弱くなったよ」

【例2】 くるま かうなで かね おすなよ
「車を買うので、金が欲しいんだよ」

なで 雪崩。[及 105]

【例】 なでの つぐ どごあ きまてる おんだ
「雪崩のつく所は決っているものだよ」

雪崩には「そごなで一底雪崩。全層雪崩」と「わがさ一表層雪崩」などの言葉が使われている。

なであ [naⁿde] 名代。[続 272]

【例】 あの おとごだば むらでも なであの つからもずだ
「あの男なら、村でも名代の力持ちだよ」

なでつぎびら [nadetsügibira] 雪崩のつく傾斜地。雪崩のつく斜面は殆ど決っているので、そ

の斜面をいう。[同] なでつきびら。[及 105]

【例】 　　ごあ　なでつきびらだはげあな

　　「ここは、雪崩のつく斜面だからな」

ななくさ [名] 七草。正月行事の一つ。年越しの晩、神棚に供えた、おみだま（にぎり飯）と、正月六日の晩、たらただぎに使った七草を、七日朝、ぞう煮餅の中に入れて煮、神に供えてから、その家の長男か家長に食べさせ、後、家族が食べて祝った、この七草雑炊は、他人（嫁贔にくれてやった者がいても他人とみて）には食べさせなかった。[及 214]

ななつつ [nanattsü] 七つ。[続 272]

【例 1】 むすこも　こんだ　ななつつだは

　　「息子も、今度はもう七つだよ」

【例 2】 となりがら　りんご　ななつつ　もらた

　　「隣りからりんこを七つ貰ったよ」

なに [接助] のに。[及 214]

【例】 ゆてん　なに　いうごど　きがねあはげあだ

　　「いってるのに、いうことをきかないからだよ」

また、この語は、「なえ」とも使い、「ながーのか」、「なだーのだ」、「なもーのも」などの使い方をしている。

なにあともあれ [naniatomoare] [連語] 何はともあれ。[続 272]

【例】　　なにあともあれ　はえあぐ　えしやさ　つで　えげ

　　「何はともあれ、早く医者に連れて行けよ」

なにあねあくたて [naniānekütate] [連語] 何はなくとも。[同] ないあねあくたて。[続 273]

【例】　　なにあねあくたて、おれあな　さげせあも　あれば　えなだ

　　「何はなくとも、俺には酒さえあればいいんだ」

なにか [副助] なんか。[及 214]

【例】　　しとは、けだおのや　なにかど　ちがて…

　　「人は獣やなんかと違って……」

なにかに [連語] なんだかんだ。ああだのこうだの。あれこれ。[及 214]

【例】　　なにかにて　ゆてねあで　はやぐ　えがねあど　まにあわねあぞ

　　「なんだかんだといっただけで早く行かないと、間に合わないぞ」

なにげねあ [naniḡene] [形] 何気ない。[続 273]

【例】　　なにげねあぐ　よたら、はずまごあ　んまっだどて、よろごでだ　どごだけ

　　「何気なく寄ったら、初孫が生れたといっただけで、喜んでいたところだったよ」

なにごごろねあ [naniḡogorone] [形] 何心ない。[続 273]

【例】 なにごごろねあぐ ゆたな ○○の きさ さわたんだな
「何心なくいったのが、○○の気に障ったんだな」

なの [副助] なんか。[及 215]

【例】 ほんたおのなの いらねあ
「そんなものなんか、いらないよ」

なべかつか [nabekātsūka] よしのぼり。かじかの種類の淡水魚。[及 93]

【例】 なべかつかだば、腹さ なべあ つでっさげあ たぎでも 登る おんだ
「よしのぼりなら、腹に鍋がついているから、滝でも登るもんだよ」

なまあたこえ [namaatakoe] [形] 生暖かい。[続 273]

【例】 きょうまだ なまあたこえ かじえあ ふえて やだ てんきだなや
「今日は、生暖い風が吹いて、嫌な天気だね」

なまえぎ [namaegi] [名/ダナ] 生意気。[続 273]

【例】 この やろ えっちよめあだ つもりで、なまえぎだ ごど ゆうな
「この野郎一人前のつもりで、生意気なことをいうな」

なまおの [namaono] 生物。[続 273]

【例】 なまおのあ くうだけ だして あどあ れいぞうこさ へで おげよ
「生物は食べるだけ出して、あとは冷蔵庫に入れておきなさいよ」

なまか [namaka] 生皮。[続 273]

【例】 ぶんどの なまか せあぐさんねあはげあ、いずど みずさ つけんなど
「葡萄の生皮は、細工をされないから、一度水につけるんだ」

なまくさおの [namakūsaono] 生臭物。[続 273]

【例】 きょうあ ずさまの しょつつぎめいにずだはげあ、なまくさおの かんねあぞ
「今日はお爺さんの祥月命日だから、生臭物は食べられないよ」

なまくさぼえじよ [namakūsaboejio] 出刃包丁。[同] さがなぼうじよ。さがなぼえじよ。

なまくさぼうじよ。[続 273]

【例】 なまくさぼえじよあ、きんねあぐ なたはげあ、とえてくんねあが
「出刃包丁が、切れなくなったから、研いでくれませんか」

なまくせあ [namakūse] [形] 生臭い。[続 274]

【例】 なまくさおの きた ほえじよで ほがの おの きっど なまくせあぐ なんぞ
「生臭物を切った包丁で、他の物を切ると、生臭くなるよ」

なまけおの [namakeono] 怠け者。[続 274]

【例】 これだば なまけおので、ゆいずげねあば はだらがねあ かんじよしてる
「こいつは怠け者で、言い付けないと働かないつもりでいるんだよ」

なまっかずり [namakkaⁿdzūri] 生噛り。[続 274]

【例】 ほんた なまっかざりだ ごどであ、ろくだ ごどあ でげる おんでねあ
「そんな生晒りなことでは、ろくなことが出来るものじゃないよ」

なまつつろえ [namattsüroę] [形] 生白い。[続 274]

【例】 なまつつろえ かんめあして、えっちよめあだ ごど いうな
「生白いくせして、一人前なことをいうんじゃないよ」

なまぬり [namanüri] [形] 生温い。[続 274]

【例 1】 なまぬり コーヒーなの のまねあて えな
「生温いコーヒーなんか、飲まなくともいいな」

【例 2】 ほんた なまぬり ごど ゆてぬあで、きずぐ ゆわねあど だめだ
「そんな生温いことをいっていないで、きつくいわないといけないよ」

なまはんちゃぐ [namahantjagü] 中途半端。いい加減。[同] なまらはんちゃぐ」という。。

[及 215]

【例 1】 なまはんちゃぐだ しごどだば やめでしまえ
「中途半端な仕事なら、止めてしまえ」

【例 2】 蛇 なまはんちゃぐん 殺すど、ただられんぞ
「蛇を中途半端に殺すとたられるよ」

なまめあっこ [namamekko] 生繭。[続 274]

【例】 めあっこあ、うっずぎあ かんそしねあで、なまめあっこの まま うんなよ
「繭は、売るときは乾燥しないで、生まゆのまま売るんだよ」

なまめがす [namamegasü] [形] なまめかしい。[続 274]

【例】 どごの おなごだべ なまめがす かっこして ありぐ おんだ
「何処の女なんだろう、なまめかしい格好をして歩くものだね」

なまやさす [namajasasü] [形] 生易しい。[続 274]

【例】 これまでの すんであ つぐるにあ なまやさす ごどであ ねあがったな
「これまでの身代を作るには、生易しいことではなかったな」

なまらはんちゃぐ [namarahantjagü] [名/ダナ] 生半可。[続 274]

【例】 ほんた なまらはんちゃぐだ すごどであ、したであん ならねあ
「そんな生半可な仕事では、したことにならないよ」

なみがじえ [namiga'dzę] 波風。[続 275]

【例】 えんながさ なみがじえあ ただねあよん、いだわりあて くらすな いずぼんだな
「家の中に波風が立たないように、寄り合って暮すのが一番いいよ」

なみしとどーり [namišitodo:ri] 並一通り。[続 275]

【例】 え たでで、おめあだどご がっこさ へっずぎあ、なみしとどーりの くらんねあがったな

「家を建てて、お前達を学校に入れる時は、並一通りの苦勞ではなかったね」

なみだぐます [namiⁿdaŋümasü] [形] 涙ぐましい。[続 275]

【例】 あの とすで つあつあどご たすけで、はだらぐな みっど、なみだぐますぐ なるな
「あの年で、お父さんを助けて働くのを見ると、涙ぐましくなるな」

なみだもろえ [namiⁿdamoroë] [形] 涙もろい。[続 275]

【例】 なみだ もろえ ほだ おんだはげあ、あゆな みっど、なみだ ででくんのだ
「涙もろい方なものだから、ああいうのを見ると、涙が出てくるんだよ」

なみてあーで [namite:dë] 並大抵。[続 275]

【例】 あれだけの た つぐるにあ、なみてあーでの くろんねあべな
「あれだけの田を作るには、並大抵の苦勞ではないだろうな」

なめあ [name] [名] 名前。[及 215]

【例】 なめあ ないど つけだや
「名前をなんとつけたの」

なめあまげ [namemage] 名前負け。[続 275]

【例】 え なめあ つけで もらたあだはげあ、なめあまげしねあよん がんばれよ
「いい名前を付けてもらったんだから、名前負けしないように頑張れよ」

なめぐづ [namegüdzüü] なめくじ。軟体動物。[同] なめぐづら。[及 93]

【例】 なめぐづあ まだ にゆうべあん ずぎなの ではて きて やだ おんだ
「なめくじは、入梅の時なんか出て来て、嫌なものだ」

なや [感] ね。ねー。[及 215]

【例 1】 この しごど いっしょん すんべなや
「この仕事は、一緒にしようね」
【例 2】 んだじゅなや
「そうだねー」

なよ [連語] なんだ。[及 215]

【例】 ほれあ なんだなよ
「それはそうなんだ」

ならねあ [narane] [連語] ならない。いけない。切れない。親切な。[及 215]

【例 1】 ほんたごど してあ ならねああだ
「そんなことをしては、ならないんだ」
【例 2】 かじえだであ ならねあぼど なった
「数えきれない程になっているよ」
【例 3】 あの しとだば ならねあ しとだ
「あの人なら、親切な人だ」

ならば [連語] 出来るなら。出来たら。なるだけ。[及 215]

【例】 ならば あした てづであ きてころ
「出来るなら、明日手伝いに来て下さい」

なりおの [nariono] 生り物。[続 275]

【例】 ことすあ すももの の なりおの あ ほうさぐだな
「今年は、李なんかの生り物が豊作だね」

なりおの [nariono] 鳴り物。[続 275]

【例】 ○○であ おおうりだすだて、なりおのいりの へんでんだけな
「○○では大売り出しだといって、鳴り物入りの宣伝だったよ」

なりぎ [narigi] [名] いいなり。[及 215]

【例】 しとの なりぎんばり なてだて だめだ おんだ
「人のいいなりにばかりなっていたって、駄目なもんだよ」

なりくだおの [nariküü'daono] 果物。[続 275]

【例】 なりくだおのも ことすあ ぜえぶん がいこぐがら へあて きたな
「果物も今年は随分外国から入ってきたな」

なれあ [nare] 習い。[続 276]

【例】 おれあえんなも じゅぐさ そろばん なれあん えてだ
「うちのも、塾に算盤を習いに行っています」

なれえあ [nare] 馴れ合い。[続 276]

【例】 えあずら なれえあで ゆてんなだ、にぐえ ごど
「あいつらは、馴れ合いでいっているんだよ、憎いこと」

なれなれす [narenarešü] [形] 馴れ馴れしい。[続 276]

【例】 この わらすだば なれなれすくて、だれあつあでも だがんのだ
「この子は、馴れ馴れしくて、誰にでも抱かるんだよ」

なんきまめ [nankimame] 南京豆。[続 276]

【例】 なんきまめあ、ビールの つまみにも ええし わらしだずも すぎだな
「南京豆は、ビールのつまみにもいいし、子供らも好きだね」

なんくへ [nankühe] 難癖。[続 276]

【例】 しとの よわみさ つけごで なんくへ つけるなて やだ しとだな
「人の弱みに付け込んで難癖を付けるなんて、嫌な人だね」

なんけあ [nanke] 何回。[及 216]

【例】 おめあ、スキーさ なんけあ えたや
「君は、スキーに何回行ったの」

なんげあ [nanŋe] 長い。[及 30]

【例】 もすこす なんげあ おのんねあば とづがねあ
「もう少し長いものでないと、届かないよ」

なんず [副] どう。どのように。どんなに。[及 215]

【例】 これあ なんず すんなだや
「これは、どうするのなんだい」

この語は、「なんずん」とも使っている。また、「なんずもかんずも—どうにもこうにも」、「なんずがかんずが—どうにかこうにか」などのような使い方もある。

なんずが [nanⁿdzüga] [副] どうか。[続 276]

【例 1】 これがらも なんずが よろすぐ たのみあす
「これからもどうかよろしく頼みます」

【例 2】 へまばりして、きょうあ おれあ なんずがしてるな
「へまばかりして、今日は俺はどうかしているな」

なんずが [nanⁿdzüga] [連語] どうか。[続 276]

【例】 この すごど なんずがして、きょうじゅうん でがすであ おんだ
「この仕事をどうにかして、今日中に出かしたいものだな」

なんずがかんずが [nanⁿdzügakanⁿdzüga] [連語] どうかこうにか。[続 276]

【例】 おおすごどであったども、なんずがかんずが やりとげだな
「大仕事だったが、どうにかこうにか遣り遂げたな」

なんずがして [nanⁿdzügasite] [連語] どうかして。[続 276]

【例】 おれの てにあ あまりそだども なんずがして やてみんべ
「私の手には余りそうだが、どうかしてやってみよう」

なんずしても [nanⁿdzüsitemo] [連語] どうしても。[続 277]

【例】 えあ ふるすぐ なたはげあ、なんずしても たでげあすねあんねあな
「家が古くなったから、どうしても建て替えをしないとイケないな」

なんと [連語] どんな。どのような。どうなんだ。[及 215]

【例 1】 なんと しなおのだや
「どんな品物なんだい」

【例 2】 なんとごどん なるんだが
「どのようなことになるやら」

【例 3】 おめあえの かがさま あんべあ なんとや
「お宅の奥さんの、具合はどうなんだい」

また、この語には、「なんてあす—どんなですか」かがあり、「こどしの さぐがら なんてあす—今年の作柄はどんなですか」のような使い方をしてる。

なんだて [nanⁿdate] [感] まあ。[続 277]

【例 1】 なんだて うずぐす はなだ ごど

「まあ、美しい花だこと」

【例2】 なんだて、えぐ きあしたな

「まあ、よく参りましたね」

なお、この語は、「ないだて。なえだて」とも使い、また、「なんだって」とも訳される場合があり、「なんだて いうごど きがねあだ=なんだっていうことをきかないんだ」のような使い方をしている。

なんたら なんと。なんとまあ。なんだって。[及 216]

【例1】 なんたら やだ ごど

「なんと嫌だこと」

【例2】 なんたら てすづらす ごど

「なんとまあお節介だこと」

なんであー [nanⁿde:] 難題。[続 277]

【例】 ござ へげ とうすなて、まず なんであだべな

「此処へ用水路を通すなんて、まず難題だろうな」

なんてかんで なんとともかんととも。[及 216]

【例】 なんてかんで はなすん ならねあけ

「なんとともかんととも話にならなかったよ」

なんでかんで [副] 是非。[同] なんでもかんでも。[及 216]

【例】 なんでかんで こえちや

「是非来いよ」

なんでもかんでも [nanⁿdemokanⁿdemo] [連語] どうしても。なんとしても。是非。[同]

なんでかんで。なつても。なんずしても。[続 277]

【例】 きょうあ なんでもかんでも ○○まで えて こねあんねあだ

「今日はどうしても○○まで行ってこなければならぬんだ」

なんとねあぐ [nantonegüü] [連語] 何となく。[続 277]

【例】 なんとねあぐ きょうは からだ だりくて すごどさ みあ へあらねあな

「何となく今日は体がたるくて、仕事に身が入らないな」

なんばあげ [nanbaage] 赤とんぼ。これは、「なつあかね。みやまあかね」などの体の赤いとんぼの総称である。[続 277]

なんへ [nanhe] [副] 何せ。[続 277]

【例】 なんへ この ゆぎだおん、かまねあて おぐわけにも えがねあべな

「何せこの雪だから、かまわないでおくわけにもいかないだろうな」

なんべ [nanbe] 鍋。[続 277]

【例】 なんべあ なんべ さらは さらで ほごの たなさ わげで おげよ

「鍋は鍋、皿は皿で、そこの棚に分けておきなさいよ」

なんぼ [nanbo] 幾ら。幾つ。[続 278]

【例 1】 やさいど くだおので なんぼです

「野菜と果物で幾らですか」

【例 2】 おめあえの わらすあ なんぼん なたや

「お宅の子は幾つになったの」

なお、この語は、「幾らか」を「なんぼが。なんほがかんぼが」といい、「幾らも」を「なんぼも。なんぼもかんぼも」といい、「幾らかでも」を「なんぼがでも。なんほがかんぼがでも」などと使っている。

なんまみだ [nanmamiⁿda] なむあみだぶつ。これは、仏さまを拝む時の唱え言葉で、人によっては、「なんまんだ。なんまみだぶつ。なんまんだぶつ」などとも唱える。[続 278]

— に —

にあ [連語] には。[及 216]

【例】 この 山にあ あおすすあ いだつけ
「この山には、かもしかがいたそうだ」

にあずする [niaⁿdzüsürü] [四自] ためらう。[続 278]

【例】 こどあ ことまで はごでがら にあずするよであ こつつあ こまる
「事がここまで運んでから、ためらうようではこっちが困るよ」

にあづ [名] ためらい。[及 216]

【例】 にあづしてねあで ちゃっちゃど えて こえ
「ためらっていないで、さっさと行って来いよ」

にえあ [niε] 似合い。[続 278]

【例】 まず にえあの ふうふあ でげで なにより めでてあな
「まず、似合いの夫婦が出来て、何より目出たいな」

にえげある [nięerü] [四自] 煮え返る。[続 278]

【例 1】 おするあ にえげあってたぞ
「お汁が煮え返っているよ」

【例 2】 ごしゃげで はらわだ にえげえるよだ
「腹が立って腹わたが煮え返るようだよ」

におえ [名] 匂い。[及 30]

【例】 この 花 ええ におえ すつごど
「この花はいい匂いがするね」

におの 煮付け物。[及 43]

【例】 なんにもねあ、におのでも こしえつが
「なんもないから、煮付け物でも作くろうか」

におわへる [niowaherü] [下一他] 匂わせる。[続 278]

【例 1】 めっぼう こうすい におわへる おんだな
「滅法香水を匂わせるもんだな」

【例 2】 あしたの ごど すこす におわへで えた
「明日のことを少し匂わせて行ったよ」

にがざっこ [niŋadzakko] あぶらはや。これは、溪流に棲む淡水魚で、成魚は体長が18cm位になり、体側に線状の黒い斑点がある。よく餌を食うので釣り易いが、美味くはなく、よく子供の遊び釣りの対象となる魚である。[続278]

にがにがす [niŋaniŋasü] [形] 苦苦しい。[続279]

【例】 にがにがすったら、この えそがす すぎ なに してる おんだが
「苦苦しいったら、この忙しい時、何をしているものなのか」

にがゆり [niŋajüri] おにゆり。[及93]

【例】 にがゆりて うんと ふえる おんだ
「おにゆりって、沢山ふえるものだよ」

にがわれあ [niŋaware] 苦笑い。[続279]

【例】 ○○さん、おわ ごど ゆわだ おんだはげあ、にがわれあしったけ
「○○さんは、自分の事をいわれたものだから、苦笑いしていたっけ」

にぎにぎす [niŋiniŋisü] [形] 賑賑しい。[続279]

【例】 こどすの おまづりあ、にぎにぎすぐ やて、ふけぎ とぼしてやんべや
「今年のお祭りは、賑賑しくやって、不景気を飛ばしてやろうよ」

にぎやが [niŋjaga] 賑やか。[及30]

【例】 おまづりあ にぎやがで ええな
「お祭りは賑やかでいいな」

にぎりまま [niŋirimama] 握り飯。[続279]

【例】 おかあさん、あした えんそぐだはげあ、にぎりまま にきてころな
「お母さん、明日は遠足だから、握り飯を握って下さいね」

にぐえ 憎い。[及30]

【例】 にぐえごど しとんどご だまして
「憎いこと、人を騙まして」

にくたらす [nikütarasü] [形] 憎たらしい。[同] にくったらす。[続279]

【例】 にくたらすごど、おはよて ゆたども すらねあ ふりして えてしまたけ
「憎たらしいこと、お早ようといったが、知らないふりして行ってしまったっけ」

にぐにぐす [niŋünigüsü] [形] 憎憎しい。[続279]

【例】 なんぼ にぐえたて、ほんげあ にぐにぐすぐ ゆわねあたて えべや
「幾ら憎くとも、そんなに憎憎しく言わなくともいいじゃないか」

にぐらす [niŋürasü] [形] 憎らしい。[続279]

【例】 にぐらすごど、おれあどご ええ おなごだなて からがうなだぜあ
「憎らしいったら、私をいい女だなんてからかうんだよ」

にげあ [niŋe] 苦い。[及30]

【例】 へんぶりて にげあ おんだな
「せんぶりって、苦いもんだな」

にげあ [niŋe] 二階。[及 51]

【例】 にげあさ わらしたづの 室 つぐんべ
「二階に子供らの室を作ろう」

にごすれあ [niŋosüre] [名] 荷ごしらえ。荷造り。[及 216]

【例】 これだば、にごすれあも らぐんねあな
「これなら、荷造りも大変だな」

にこつと [nikkori] [副] にっこり。[続 279]

【例】 にこつと わらうど、えぐぼあ ではて、めんごえ わらすだな
「にっこり笑うと、笑くぼが出て、可愛い子供だね」

にこらにこら [副] にこにこ。[及 216]

【例】 にこらにこらて、なに ええごど あんなや
「にこにこして、何いいことがあるんだい」

にし [niši] [代] お前。[同] おめあ。にしゃ。んつ。[続 279]

【例】 にしあ えであ さずぎあ おわたがは
「お前の家では、田植えはもう終わったかい」

にしあえ [名] お宅。お前の家。[及 216]

【例】 ほら、にしあえの わらすこあ 来たぞ
「ほら、お宅の子が来たよ」

また、この語は、「おめあえ」、「にしゃえ」、「んつあえ」、などとも使い、その反対の、私の家、うち、という語は、「おれあえ」といつている。

にじゅうまし 二重まわし。とんび。[及 59]

【例】 にじゅうましなの 着て ありぐな、えれあ したが、かねもづばりであった
「とんびなんか着て歩くのは、偉い人か、金持ばかりだったよ」

にすかじえ [nisūkaⁿdze] 西風。[続 280]

【例】 にすかじえあ ふえで きたな あしたあたりあ あめん なんぞ
「西風が吹いて来たな、明日あたりは雨になるよ」

にすび [nisūpi] 西日。[続 280]

【例】 にすびあ あだて あつ へやだな
「西日が当って暑い室だな」

にぜあー [niⁿdze:] 二重。[続 280]

【例】 ほんたごど すっど にぜあん てあ かがんぞ
「そんなことをすると、二重に手が掛かるよ」

この語は、「にぜんてあかがる」の形で使われている。

にだおのふーふ [nidaonoφū:φū] 似た者夫婦。[続 280]

【例】 にだおのふーふて いうども、あの ふうふだば きしょまで にでるな
「似た者夫婦というが、あの夫婦なら、気性まで似ているね」

にたつと [nitatto] 〔副〕 にたりと。[続 280]

【例】 へげつらで、にたつと わらう おんだ おん、うすきびわりぐ なて きたけ
「髭面で、にたりと笑うんだもの、薄気味悪くなってきたっけ」

にたらにたら [nitaranītara] 〔副〕 にたにた。[続 280]

【例】 しとの つら みで にたらにたら わらて やんだ ごど
「私の顔を見て、にたにた笑って嫌だわね」

にっかん [名] 入棺。[及 217]

【例】 こにや ○○さんの にっかんだど
「今夜、○○さんの入棺だそうだ」

にっころがす [nikkorogasu] 煮転がし。[続 280]

【例】 えものご とて きたはげあ、えもの にっころがすでも つぐつが
「里芋を取って来たから、芋の煮転がしでも作ろうか」

にであ [niⁿde] 〔名〕 二代。[及 217]

【例】 こごのえあ、○○さんで にであめだ
「ここのうちは、○○さんで二代目だ」

にであ [niⁿde] 〔名〕 荷台。[及 217]

【例】 これ、ずでんしゃの にであさ つぐべ
「これ、自転車の荷台につくだろう」

にどへ [nidohe] 二等兵。[続 280]

【例】 へえてあさ へあっど まず にどへず おんであったな
「兵隊に入ると、まず二等兵というものだったな」

にのじえん [ninoⁿdzen] 二の膳。[続 280]

【例】 ○○りよかんさ とまたば にのじえん つけで たいぐうしたけ
「○○旅館に泊ったら、二の膳を付けて待遇したっけ」

にのめあ [ninome] 二の舞。[続 280]

【例】 ほんたごどばり してっど、おめあも あんつあの にのめあ ふむぞ
「そんなことばかりしていると、お前も兄さんの二の舞を踏むよ」

にばんこ [nibanko] 二番目の子供。これは、次男または次女をいう。[続 281]

【例】 おれあえの にばんこあ おなごわらすだ
「うちの二番目の子供は、女の子です」

にばんへんず [nībanhɛ̃nⁿdzū] 二番煎じ。[続 281]

【例】 ほの おじゃ にばんへんずん なっさげあ べずんな へで のめ
「そのお茶は、二番煎じになるから、別のを入れて飲みなさい」

にばんぼげ [nībanpogɛ] 二度目の萌芽。これは、一度摘まれた野菜などが、また萌芽して生育することをいう。[続 281]

【例】 うんどの にばんぼげも やっこくて ええぜあ
「独活の二度目の萌芽したのも、軟らかくていいよ」

にぶえ [nībūɛ] [形] 鈍い。[続 281]

【例 1】 ないだて にぶえごど ほんたおの わがらねあなが
「なんだって鈍いね、そんなものが分らないのかい」

【例 2】 この ほえじよあ は にぶえはげ とえでころ
「この包丁は、刃が鈍いから研いで下さい」

にやう [nijaũ] [動] 似合う。[及 217]

【例】 ほの がら にやうな
「その柄が似合うね」

この語には、「にやい—似合い」、「にえあ—似合い」があり、「これあにやいの夫婦だな—これは、似合の夫婦だね」のような使い方をしている。

にやっと [nijatto] [副] にやりと。[続 281]

【例】 なに ええごど あったんだが したりして にやっと わらてる おんだ
「どんないいことがあったのか、一人でにやりと笑っているものだ」

にやにや [njanja] [幼児語] 猫。[続 281]

【例】 ○○ちゃん、にやにやさ まま かへろよ
「○○ちゃん、猫にご飯を飯べさせなさいよ」

にゆうべあ [njū:bɛ] 入梅。[及 106]

【例】 にゆうべあん ずぎあ ものあ かぶけでな
「入梅の時は、物がかびてね」

によきつと [njokītto] [副] によっきり。[続 281]

【例】 やまさ えたば うんどの ふってな によきつと でっだけ
「山へ行ったら、独活の太いのが、によっきり出ておったっけ」

によによ [njonjo] [名] [幼児語] 字。本。[同] によように。[及 217]

【例 1】 ほら、○○ちゃん によによ けあでみる
「ほら、○○ちゃん、字を書いてみなさい」

【例 2】 ○○ちゃん この によによ よで きがへんべ
「○○ちゃん、この本を読んで聞かせようね」

にわ 四令。蚕の四令をいう。四令の蚕が脱皮して五令になったものを「にわおぎ」といい、四令になったことを「にわさかがた」といい、四令の蚕が脱皮のため假眠することを「にわよどみ」といっている。また、三令の蚕を「ふな」とよび、「ふなさかがた」、「ふなどみ」、「ふなおぎ」も四令の使い方に同じで、五令のものを「いづつつ」と呼び、他の使い方は四令のと同じであるが、五令の終りで蛹化するので「いづつつよどみ」とはいわないで、前出の「あだますぎ」となり、まゆの中で脱皮する。[及 74]

にわ 土間。[及 51]

【例】 くら、にわさ はだしで おりで
「くら、土間に裸足で下りて」

にんぎよつけあ [ninŋjotsūke] 人形使い。[及 78]

【例】 しんじよまづりで にんぎよつけも 来たど
「新庄祭で、人形使いも来たそうだ」

にんぐら 荷鞍。[及 66]

【例】 べごなの んまなのさ にんぐら つけで 荷物 はごだ おんだ
「牛や馬なんかに、荷鞍をつけて、荷物を運んだもんだよ」

にんごりすぎ [ninŋoriūgi] [名] 濁りすぎ。川が増水して濁った時、魚をすくうこと。[同]

みんごりすぎ。めぐりすぎ。めんごりすぎ。[及 217]
【例】 大水だはげあ にんごりすぎん えぐべや
「大水が出たから、濁り掬くに行こう」

にんつけんま [ninŋtsūkenma] 荷馬。荷を運ぶ馬。[続 281]

【例】 むがすあ すみどが こめなの はごぶ にんつけんま ず おのあ いた おんであった
「昔は炭とか米を運ぶ荷馬というものがいたものだったよ」

にんどえも 馬鈴薯。にどいも。[同] にどえも。[及 93]

【例】 こどしあ にんどえもあ おっきなばり とっだ
「今年は、じゃがいもは大きいのはかりとれたよ」

にんどまめ えんどう。さやえんどう。[同] にどまめ。[及 93]

【例】 にんどまめあ おするの みに えな
「えんどうは、お汁の実にいいね」

にんな [ninna] 荷縄。[続 281]

【例】 にんななて うてる おんでねあはげあ えで なた おんだ
「荷縄なんて、売っているものではないから、家で編ったものだよ」

にんめあじだ [ninmeⁿdzida] 二枚舌。[続 282]

【例】 にんめあじだなの つかう おのにあ ろぐだ おのあ いねあ おんだ
「二枚舌なんか使う者にはろくな者がいないもんだよ」

—ぬ—

ぬいおの [nūiōno] 縫い物。[続 282]

【例】 おれあえの むすめあ えま ぬいおの ならいん えてあす
「うちの娘は、今縫い物を習いに行っております」

ぬがが [nūgaga] ぶゆ。こぬかのように小さいぶゆで、夏の早朝や夕方沢山出て、人血を吸う昆虫。[及 93]

ぬがげあす [nūgagesū] [動] 繰り返す。[及 217]

【例】 わらしたづあ ぬがげあし ぬがげあし おへねあんねあ おんだ
「子供らには、繰り返し繰り返し教えないといけないものだよ」

ぬがへる 脱がせる。[及 218]

【例】 ぬがへらった
「脱がせられた」

ぬがれる [nūgarerū] [下一自] 逃れる。[続 282]

【例】 えぐ あの さいなん ぬがった おんだ、もすこす おそうど てあへんであったな
「よくあの災難を逃れたものだよ、もう少し遅いと大変だったね」

ぬぎ [nūgi] 軒。[及 51]

【例】 にわが雨に ふらって しのえの ぬぎしたさ あまやどり したや
「俄雨に降られて、よその軒下に雨宿りをしたよ」

～ぬぎ [～nūgi] の木。[続 282]

【例 1】 さぐらぬぎ
「桜の木」

【例 2】 すぎぬぎ
「杉の木」

【例 3】 とずぬぎ
「栃の木」

【例 4】 ほんぬぎ
「朴の木」

【例 5】 まずぬぎ
「松の木」

ぬきさぎ [nükisagi] 軒先。[続 282]

【例】 やねがら ゆぎあ おずで くつど えぐねあはげあ ぬきさぎで あすぶなよ
「屋根から雪が落ちて来るといけないから、軒先で遊ぶなよ」

ぬぎした [nügisita] 軒下。[続 282]

【例】 うらの ぬぎしたさ はずあ す くだはげあ そばさ えぐなよ
「裏の軒下に蜂が巣を作っているから、側へ行くなよ」

ぬきば [nükiba] 軒端。[続 282]

【例】 おれあ えの つばぎあ ぬきばさ つかぐぐれあ おっきく なたは
「私の家の樁は、軒端に支えるくらい大きくなってしまったよ」

ぬぐ [nügü] 脱ぐ。[及 218]

【例】 ぬえだ
「脱いだ」

ぬけつと [副] ぼんやり。[及 218]

【例】 なに ぬけつと たてるおんだ
「なにをぼんやり立っているんだ」

ぬすけ [nüsüke] 裁縫。[同] ぬつけ。[続 282]

【例】 えまだは、ほどんど ぬすけなの すつごどあ ねあなは
「今なら、もう殆ど裁縫なんかすることがないね」

ぬすみど [nüsümido] 盗人。[続 283]

【例】 ○○さん えであ ぬすみどに へあらっだどて おおさわぎだけな
「○○さんの家では、盗人に入られたとって、大騒ぎだったな」

ぬすみどこんじよ [nüsümidokon'dzo] 盗人根性。[続 283]

【例】 ○○だば、どうも ぬすみどこんじよあ ぬげねあよで こまた おんだな
「○○なら、どうも盗人根性が抜けないようで、困ったものだね」

ぬすみどはぎ [nüsümidohañi] めすびとはぎ。これは、まめ科の山野に生える多年生草本で、秋なった実は、獣の毛や衣服などにつくので、よく知られている。[続 283]

ぬたぐる [nütagürü] [動] 這う。這いまわる。特に泥の中を這いまわる時などに使っている。[及 218]

【例】 でろやら、ぬたくて ありぐばが いねあべな
「泥やらを這いまわる馬鹿がいるもんか」

ぬたぐる [nütagürü] [動] 塗りたてる。[及 218]

【例】 かべずあ こげあして ぬたぐる おんだ
「壁というものは、こうして塗るもんだよ」

ぬつけ 裁縫。ぬいもの。[同] ぬっつけ。[及 60]

【例】 おなごあ ぬつけぐれ おべるおんだ
「女は裁縫ぐらいは覚えるもんだよ」

ぬったぐる [nüttagürü] [下一他] 塗り立てる。[同] ぬたぐる。[続 283]

【例】 ほごらへんさ やだらん えのぐ ぬったくたて だめだぞ
「その辺に、やたらに絵の具を塗り立てたって駄目だよ」

ぬり 温い。[及 30]

【例】 すふろあ ぬりはげあ 火 てあでころ
「風呂が温いから火を焚いてくれよ」

ぬりがり [nürigari] ぬるがり。[続 283]

【例】 この しとだば、ぬりがりだはげあ、すふろの ゆ あんまり あつぐすんなよ
「この人なら、ぬるがりだから、風呂の湯を余り熱くするなよ」

ぬるえ [nürüe] [形] 温い。[続 283]

【例 1】 この おじゃ ぬるえな
「このお茶は温いね」

【例 2】 えぐねあ ごど した ずぎあ ほんた ぬるえ ごど ゆわねあで、きびすぐすろ
「悪いことをした時は、そんな温いことをいわないで、厳しくしろよ」

ぬるっと [副] ぬるりと。[及 218]

【例】 なめぐづらだば、ぬるっとして きもづあ わり おんだな
「なめくぢなら、ぬるりとして、気持の悪いものだね」

ぬれてぬげ [nüretenüñe] 濡れ手拭。[続 283]

【例】 ぬれてぬげ ほのまま かけておがねあで しぼて かげろよ
「濡れ手拭をそのまま掛けておかないで、絞って掛けなさいよ」

ぬれゆぎ [nürejügi] 濡れ雪。これは、雪の降り始めの頃や3月頃の、気温の割合高い時に降る、水分を多く含んだ雪をいう。[同] あまゆぎ。びだゆぎ。[続 283]

— ね —

ね [名] 側。根元。[同] ねかだ。ねつきし。ねつくす。[及 218]

【例 1】あぶねあはげあ、川の ねさ えぐなよ
「危ぶないから、川の側に行くんじゃないよ」

【例 2】ほの 木あ えま もつけあっさげあ ねに いんなよ
「その木は、今倒れるから、根元にいるなよ」

ねあ [nɛ] [形] ない。[及 218]

【例 1】ここにあ ねあな
「ここには無いね」

【例 2】ねあんねあがや
「ないじゃないか」

ねあ [助動] ない。[及 218]

【例 1】雨あ 降らねあな
「雨は降らないね」

【例 2】もう けあらねあが
「もう帰えないか」

【例 3】えがねあはげあ
「行かないから」

ねあ [nɛ] 苗。[及 94]

【例】サルビヤの ねあ くえっさげ もて えげ
「サルビヤの苗をあげますから、持って行って下さい」

ねあ一ぎ [nɛ:ŋi] 苗木。[続 284]

【例】ぶぶんりんさ すぎ ゆえっさげあ ねあ一ぎ しょて えてころ
「部分林に、杉を植えるから、苗木を背負って行ってくれ」

ねあ一しょぐ [nɛ:ʃogū] 内職。[続 284]

【例】つとめん ではらんねあはげあ ねあ一しょぐ したあだ
「勤めに出られないから、内☒をしているんです」

ねあ一しょばなす [nɛ:ʃobanasū] 内緒話。[続 284]

【例】おめあだ ねあしょばなす したなが おれあつあも きがへろや

「あなた方は、内緒話をしているの、私にも聞かせてよ」

ねあーとり [ne:tori] 苗取り。これは、田植えの時、苗代から苗を取る作業をいったが、今はこの作業はなくなってしまった。[続 284]

ねあーねあー [ne:ne:] [副/ノダナ] 内内。[続 284]

【例】 この はなすあ、ねあーねあーの はなすだはげあ だれあつあも しゃべんなよ
「この話は、内内の話だから、誰にも喋べるなよ」

ねあーぶん [ne:bün] 内聞。[続 284]

【例】 あどしまつあ わだすあ しあすさげあ この ごどあ ねあーぶんに して おえでくであ
「後仕末は私がしますから、この事は内聞にしておいて下さい」

ねあーみず [ne:mīdzü] [名/ノダナ] 内密。[続 284]

【例】 あなだど ねあーみずに はなすであ ごど あっさげあ おれあえ さ きてころ
「あなたと、内密に話たいことがあるから、私の家へ来て下さい」

ねあしよ [ne:šo] [名] 内緒。[及 218]

【例】 この はなすあ ねあしよだども
「この話は内緒だが」

ねあふぐ [neφügü] [名] 内福。暮しの豊かなこと。[及 218]

【例】 あそごの えあ ねあふぐだ ぐらし してる えだ
「あそこの家は、内福な暮らしをしている家だよ」

ねあへ [ne:he] 寝汗。[続 284]

【例】 ゆべな ねあへ けあだはげあ したぎ あらて おえでくんねあが
「タベ、寝汗をかいたから、下着を洗っておいてくれないか」

ねあんたて どうしても。どうあっても。[及 219]

【例】 あしたあ ねあんたて えがねあんねあ
「明日はどうしても行かないといけないな」

ねあんねあ ~ないといけない。[及 219]

【例 1】 えがねあんねあ
「行かないといけない」

【例 2】 しねあんねあ
「しないといけない」

ねえぎ [ne:egi] 寝息。[続 284]

【例】 びょうぎあ おもぐなっど ねえぎも ふきそぐん なる おんだな
「病気が重くなると、寝息も不規則になるものだね」

ねえろ [ne:ero] 音色。[続 285]

【例】 ○○さんの ふぐ ふえの ねえろだば まったぐ ええ おどだ おんだ
「○○さんの吹く笛の音色なら、まったくいい音なものだ」

ねがしゃる [neɟaʃarü] [動] [卑語] 寝る。寝るの卑語。[及 219]

【例】 ひるひなが ねがしゃてる おのあ ねあべな
「日中、寝やがっている奴があるもんか」

ねがす [neɟasü] [動] 逃がす。[及 219]

【例】 いぎおのずあ ころさねあで ねがす おんだ
「生物というものは、殺さないで、逃がすものだ」

ねかねか かむと、歯につくような粘り方。[及 219]

【例】 これだば ねかねかて ひでえ おんだ
「これなら、歯につく粘りで、ひどいものだ」

ねぎ [neɟi] 風倒木。倒れている木。[及 94]

【例】 こねあだの かじえで ねぎあ あつつこつに あるな
「この間の風で、風倒木があっちこっちにあるな」

ねきばる [動] きばる。いきむ。[及 219]

【例】 この 杭あ ねきばらねあど とんねあな
「この杭は、きばらないと、とれないな」

ねくされる [neɟüsarerü] 飽き飽きする程眠ること。これは、普通より長時間眠りこけることをいう。[続 285]

【例】 ほんげあ ねくされっど まなぐあ とげんだぜあ
「そんなに時間眠ると、目が溶けてしまうよ」

ねくへ [neɟühe] 寝癖。[続 285]

【例】 この わらすあ ねくへあ えぐねあくて しょうろん ねでっずぎあ ねあなだ
「この子は寝癖が悪くて、まともに寝ている時がないんだよ」

ねぐるす [neɟürüsü] [形] 寝苦しい。[続 285]

【例】 こにやまだ むすむすする おんだはげあ、ねぐるすくて ねらんねあ ぼんだな
「今夜は、むしむしするものだから、寝苦しくて寝られない晩だな」

ねげあ [neɟe] 願い。[続 285]

【例】 ねげあだはげあ としより おえで ○○さ えぐなて ゆわねあでころ
「お願いだから、年寄りを置いて、○○へ行くななんていわないでくれよ」

ねげあーごど [neɟe:ɟodo] 願い事。[続 285]

【例】 ○○さんどさ ねげあーごど あて きたあですども いあしたが
「○○さんに願いごとがあって来たんですが、ありますか」

ねげあーさげ [neɟe:saje] 願い下げ。[続 285]

【例】 へっかぐの たのみだども おれにあ でげねあはげあ ねげあさげん してころ
「折角の頼みだが、私には出来ないから、願い下げにしてくれ」

ねげあーでる [neŋeːˈdɛrũ] [下一他] 願い出る。[続 285]

【例】 まずがら ほじょ もらうよん ねげあーでるごどん しねあんねあな
「町から補助を貰うように願い出ることにはしないとイケないな」

ねげあーり [neŋeːri] 寝返り。[続 285]

【例】 ○○さん、ねげあーりも さんねあくれあ びょうぎあ おもぐ など
「○○さんは、寝返りも出来ないくらい病気が重くなったそうだ」

ねげあーる [neŋeːrũ] [四自] 寝返る。[続 286]

【例】 へべあなさ わらしたずあ よげで ねげあーる ごども でげねあよだ おんだ
「狭いのに子供らが多くて、寝返ることも出来ないようなものだよ」

ねげあす [neŋeasũ] 逃げ足。[続 286]

【例】 あんた みつけあ あすして うさぎの ねげあすの はえあなにあ たまげだな
「あんな短かい足をして、兎の逃げ足の早いにはたまげよ」

ねげぐず [neŋeŋũdzũ] 逃げ口。[続 286]

【例】 かずで けむん まがって ねげぐずあ なぐなて にげあがら はねおっだど
「火事で、煙りに巻かれて、逃げ口がなくなって、二階から跳び下りたそうだ」

ねげこーじよ [neŋekoːˈdʒo] 逃げ口上。[続 286]

【例】 こら、ほんた ねげこーじよ ゆてねあで もすこす のめ
「こら、そんな逃げ口上をいっていないで、もう少し飲め」

ねげごす [neŋeŋosũ] 逃げ腰。[続 286]

【例】 ないだや、ほんた ねげごす して おれあえの さげあ のめねあて いうなが
「なんだい、そんな逃げ腰をして、うちの酒は飲めないというのかい」

ねげずだぐ [neŋeːˈdzũdagũ] 逃げ仕度。[続 286]

【例】 ないだ、まだ しめらっで のまへらえっどもて ねげずだぐがは
「なんだ、また掴まえられて、飲まされると思って、もう逃げ仕度かい」

ねげのびる [neŋenobĩrũ] [上一自] 逃げ延びる。[続 286]

【例】 ざっこも、うんの ええな あみがら ねげのびんなも いるな
「雑魚も、運のいいのは、網から逃げ延びるのもいるよ」

ねげば [neŋɛba] 逃げ場。[続 286]

【例】 かずん なてがらであ おそえはげあ ちゃんと ねげば きめで おぐべ
「火事になってからでは遅いから、きちんと逃げ場を決めておこうよ」

ねげみず [neŋemĩdzũ] 逃げ道。[続 286]

【例】 とつつめらっで ねげみずあ ねあ おんだはげあ、ぎやぐん くて かがんだ

「問い詰められて、逃げ道がないものだから、逆にくって掛かるんだよ」

ねげる [動] 逃げる。[及 219]

【例】 ほんげあ ねげねあたて えべや

「そんなに逃げなくてもいいじゃないか」

また、逃げる有様を表現した、尻に帆かけて、とか、慌てて逃げるという言葉に、「けっつかっちゃんして」、「けっつこかっちゃんして」、「けっつこはしよて」、「けっつこさarate」などがある。

ねご [neɡo] 猫車。土砂等を運ぶ一輪車。[続 286]

【例】 ねごも あっど べんりだ おんだな、おもであ おの ないでも はごぶえおん

「猫車も、あると便利なものだね、重い物を何でも運べるからな」

ねごあす [negoasü] とりあししょうま。ゆきのした科の多年生草本で山菜として食べる人もいる。[及 94]

【例】 ねごあすなの ころあだりであ かねあな

「とりあししょうまなんか、この辺では食べないな」

ねごくれあ [negoküre] 猫の喧嘩。[続 287]

【例】 ねごくれあだな おもでで えがみあう おどあ する おん

「猫の喧嘩だな、外でいがみ合う声がするもの」

ねごじえ [nego'dze] 猫背。[続 287]

【例】 ほんげあ へなが まるこぐしてっど ねごじえん なてしまうぞ

「そんなに背中を丸くしていると、猫背になってしまうよ」

ねこずる [neko'dzüürü] 寝ていて首筋を捻挫すること。これは、寝相を悪くしたために、首筋を捻挫することをいう。[続 287]

ねこつと [副] ねっこり。背を丸めて据った姿。[及 219]

【例】 ゆりばださ ねこつと していだけ

「いろいろ端に、ねっこり据っていたつけ」

ねごのした [negonosita] ゆきのした。これは、ゆきのした科の多年生草本で、湿った場所に生え、夏ごろ白い花を咲かせる野生の植物である。[続 287]

ねごぼ [negobo] 瘍。これは、出来もので、主として関節部に出来る「ほうかしきえん（蜂窩織炎）」というはれものだそうだ。[続 287]

ねじばな [ne'dzibana] もじずり。これは、らん科の多年生草本で、路傍や原野などに自生し、20cm 内外のねじれた花穂に淡紅色の唇弁花を多く咲かせる雑草である。[続 287]

ねしょべ [名] 寝小便。[及 219]

【例】 まだ ねしょべ たっだがは

「また寝小便をしてしまったのかい」

ねずえ [ne'dzüë] [形] 根強い。[続 287]

【例】 この くさだば ねずえ おんで、とても とても おえてくんのだ
「この草なら根強いもんで、取っても取っても生えてくるんだよ」

ねずます ねじまわし。ドライバー。[同] ねずまわす。[及 66]

【例】 ねずあ ゆるだはげあ ねずますで、しめどころ
「ねじがゆるんだから、ねじまわしで、しめて下さい」

ねずる [動] 捻じる。[及 219]

【例】 ねる めあん ガスの もどへん ねずる おんだぞ
「寝る前にガスの元栓を捻じるもんだよ」

ねぞ [名] 寝相。[同] ねんぞ。[及 219]

【例】 この わらすあ ねぞあ えぐねあくて
「この子は寝相が悪くて」

ねそける [neʂokerü] [下一自] 寝そびれる。[続 292]

【例】 ゆべな よながん おごさったら、ねそけでしまて ねぶそぐだ
「夕べは夜中に起されたら、寝そびれてしまって寝不足だよ」

ねたくた [netaküta] [トス自] ねばねば。[続 287]

【例】 なっと かけ まま くと ちゃわんだば ねたくたて やだ おんだな
「納豆を掛けた飯を食べた茶碗なら、ねばねばして嫌なものだね」

ねだづ [neɖadzü] [動] 煮えたつ。[及 219]

【例】 おするあ ねだったぞ
「お汁が煮え立っているよ」
また、煮えるを、「ねる」といつている。

ねだでる [neɖaderü] [下一他] 煮立てる。[続 287]

【例】 ほれあ すこす ずがんかげで ねだでねあど やっこぐ ならねあぞ
「それは、少し時間をかけて煮立てないと、軟らかくならないよ」

ねづ [形] ていねい。儉約。しまる。けち。[同] ねっづぐ。[及 220]

【例 1】 ねづおんで、わざわざ れいげあし よごしてくっだけ
「ていねいなもので、わざわざお礼返しをよこしてくれたつけ」
【例 2】 あれだば ねづくて、豆しと粒 くんねあ
「あいつはけちで、豆一粒くれやしないよ」

ねっかだ [nekkada] 根方。根元。[続 287]

【例】 ほの きの ねっかだ あんまり ほんなよ、ほんげあ ほっど かれんぞ
「その木の根方を余り堀るなよ、そんなに堀ると枯れるよ」

ねっかぶ [nekkabü] 根株。[続 288]

【例】 ほごに きの ねっかぶあ あるな、ほれさ こすかげで ひるん すんべ

「そこに木の根株があるね、それへ腰掛けて昼にしよう」

○
ねっから [副] もとより。元来。[及 220]

【例】 あの しとだば ねっから しょうじぎだ しとだ
「あの人なら、もとより正直な人だよ」

○
ねっから [副] さっぱり。ちつとも。一向。[及 220]

【例】 おれあえでなの ねっから こまらねあ
「うちでなんか、ちつとも困らないよ」

ねつかれあ [形] けち。しまりや。[同] ねっぴ。[及 220]

【例】 あれだば ねつかれあ おんで
「あいつならけちなもんで」

ねっきぶづ [名] 子供の遊び。相手が地面にさした、細い杭に、自分の杭を打ちつけ、相手の杭が倒れ、自分の杭が地面に立てば勝ち、というゲーム名をいう。[及 220]

ねっくす [nekküsü] 根元。[続 288]

【例】 おにがら さがすん えたば でんちゅうの ねっくすに いだけ
「かぶと虫をさがしに行ったら、電柱の根元にいたっけ」

ねつくつ [neṭsükütsü] [副] ぐずぐず。[続 288]

【例】 いずまでも ねつくつていねあで はやぐ がっこさ えけば
「何時までもぐずぐずしていないで、早く学校に行きなさい」

ねっちょあふっけあ [neṭtjoaφükke] [形] 根深い。執念深い。[続 288]

【例 1】 この でげおのあ ねっちょあふっけあくて ながなが なおらねあ
「この出来ものは、根深くてなかなか治らないよ」

【例 2】 ○○だば ねっちょあふっけあくて、だめだて ゆたて なんべんも くんだだ
「○○なら執念深くて、駄目だといつも、何べんも来るんだよ」

ねつっと [neṭsütto] [副] ねっちり。[続 288]

【例】 ○○だば ねつっとした しゃべりで、どうも やだ しとだな
「○○なら、ねっちりした喋りで、どうも嫌な人だね」

ねつねつ [neṭsüneṭsü] [副] ねちねち。[続 288]

【例】 ねつねつど いやみ ゆわえつど にくたらすくて あぐであ つぎであぐなるな
「ねちねち嫌味をいわれると、憎たらしくて、悪態を吐きたくなるよ」

ねつぴ [neṭsüpi] [名/ダナ] けち。しみったれ。[続 288]

【例】 ○○だば ねつぴで、えっしえんの かねさも つめ たでんなだぜあ
「○○ならけちで、一銭の金にも爪を立てるんだよ」

ねつぼえ [neṭsüpoē] [形] 熱っぽい。[続 288]

【例】 ないだが この わすあ ねつぼえな、かじえでも ひだあだべが

「なんだか、この子は熱っぽいな、風邪でも引いたんだろうか」

ねつらくつら [副] ぐずぐず。はっきりしないこと。[及 220]

【例】 ねつらくつらてねあで はっきり ゆてみる
「ぐずぐずしていないで、はっきりいってみなさい」

ねとつと [ne̞toto] [副] ねっとり。[続 289]

【例】 きょうまだ あつくて、あへで シャツつあ ねとつと つで きもずあ わりくてや
「今日は暑くて、汗でシャツがねっとり付いて、気持ちが悪くてね」

ねどんぐ [ne̞don̞g̞y̞] 寝具。[続 289]

【例】 おぎやくさま きた ずぎ つかう ねどんぐ かわねあんねあな
「お客さまが来た時使う寝具を、買わないといけないな」

ねね [ne̞ne̞] [幼児語] ねんね。寝ること。この語は、寝ることをいい年の割に子供っぽい者や赤ん坊を「ねね」とはいわない。[同] ねんこ。[続 289]

【例】 やまがら ふぐろあ くっさげあ はやく ねねするは
「山からふくろうが来るから、早くねんねしなさいね」

ねばこえ ねばっこい。ねばねばする。[及 30]

【例】 まづやねも ねばこえ おんだな
「松脂もねばっこいもんだね」

ねばす 真綿。[及 74]

【例】 おごさま おがねはげあ ねばす とらんねあは
「蚕を飼わないから、真綿はとれなくなってしまったよ」

ねばす 真綿。[及 59]

【例】 養蚕 おがねあはげあ ねばすも とらんねあは
「蚕を飼わないから、真綿もとれなくなってしまったよ」

ねばな 澱粉。わらびの根から採った澱粉。[及 43]

【例】 むがすあ ねばなで 団子 こしえて くだ おんだ
「昔はわらびの澱粉で団子を作って食べたもんだよ」

ねばな [ne̞bana] 寝入り端。[続 289]

【例】 ねばなん おごさっだば ねそけでねらんねあであは
「寝入り端に起されたら、寝そびれて、もう寝られなくなってしまったよ」

ねばねば ねばねば。[及 220]

【例】 なしてだべ この 納豆あ ねばねばしねあな
「どうしてだろう、この納豆はねばねばしないね」

ねばりずえ [ne̞bari̞dz̞y̞e̞] [形] 粘り強い。[続 289]

【例】 なにごどでも ねばりずえぐ さいごまで やりとげねあんねあ おんだ

「何ごとでも、粘り強く、最後までやり遂げなければならないものだよ」

ねひる [nehiruu] 煮え切る。[続 289]

【例】 ほのなべ はやぐ おろさねあど ねひて しまうぞ
「その鍋を、早く下ろさないと、煮え切ってしまうよ」

ねぶかぎ [nepükagi] [名] 居眠り。[及 220]

【例】 この わらすあ ねぶかぎだは
「この子は、もう居眠りだよ」

ねぶけ [nepüke] 眠気。[続 289]

【例】 まだ ねぶけあ さめねあなが、まず つであ みずで つら あらて こえ
「まだ眠気が醒めないのか、まず冷たい水で顔を洗って来なさい」

ねぶげあ [nepüge] [形] 根深い。[続 289]

【例 1】 この やまえも ねぶげあくて ながなが ほらんねあ
「この山芋は根深くてなかなか掘られないよ」
【例 2】 よっぽど ねぶげあ うらみだあだべ
「余程根深い恨みなんだろうな」

ねぶけざます [nepükeⁿdzamasü] 眠気覚し。[続 289]

【例】 まだ ねぶてあなが、ねぶけざますん そどの くうき すって くんだ
「まだ眠いのかい、眠気覚しに、外の空気を吸って来たらいい」

ねぶけつら [nepüketsüra] 寝惚け顔。[続 290]

【例】 ねぶけつらして どさ えぐどごだ さっさど きげあでしまえは
「寝惚け顔をして何処へ行くんだ、さっさと着替えてしまいなさい」

ねぶけまなぐ [nepükemanagü] 寝惚け目。[続 290]

【例】 ねぶけまなぐ してねあで まず はやぐ つら あらて こえ
「寝惚け目をしていないで、まず早く顔を洗って来なさい」

ねぶてあ [nepüte] [形] 眠たい。眠い。[続 290]

【例】 おれだば えっぺあ のむど そんま ねぶてあぐ なる ほだなよ
「私なら、一杯飲むと、直に眠たくなる方なんだよ」

ねぶね 根舟。わらびの根をつぶしたものを箱舟に入れ、水をいっぱい入れて、かきまわし、わらびの澱粉を沈殿させて、その澱粉をとった、その時使った箱舟を「ねぶね」といった。[及 66]

ねぶりぐすり [nepüringüsüri] 眠り薬。[続 290]

【例】 ねらんねあどて、ねぶりぐすりなの のでっど くへん なるつけぞ
「眠れないとって、眠り薬なんかを飲んでいると、癖になるそうだよ」

ねぶる [動] 寝る。眠る。[及 220]

【例 1】 わらすあ いづまでも ねぶる おんだな

「子供って、いつまでも寝ているものだな」

【例2】 えまのこめあん ねぶてしました おんだ

「今の間に、(もう) 眠ってしまったもんだ」

ねへ [nehe] [名] 偽。[及 220]

【例】 これあ ねへおのだであ

「これは、偽物だよ」

ねへおごしならねあ 俗語。寝せるも、起すも出来ない、ということから、仕末におえないという意味で、横着で仕末におえないということである。[同] ねへおごしさんねあ。ねへおごしでげねあ。[及 220]

【例】 この やろだば ねへおごしならねあ やろだ

「この野郎なら、横着で仕末におえない野郎だ」

ねへおの [neheono] 贋物。[続 290]

【例】 こごらさなの うりん くんな ねへおのあ よげだつけはげあ だまさえんなよ

「この辺に売りに来るのは、にせ物が多いそうだから、騙されるなよ」

ねへがね [neheganē] [名] 偽金。[及 221]

【例】 ねへがね つかて しめらっだど

「偽金を使って、捕まえられたそうだ」

ねへさづ [nehesadzü] [名] 偽札。[及 221]

【例】 ねへさづ つぐん なも いる おんだな

「偽札を造る者も、いるものだな」

ねへづ [nehedzü] [形] ばか丁寧。くどい。[及 221]

【例1】 ねへづで えっべした どご まだ してんなだ

「ばかていねいで、一回やったところを、またやってるんだよ」

【例2】 ねへづだ おんで、おんなず ごど なんべんも きぐあだ

「くどいもんで、同じことを、何べんも聞くんだよ」

ねへどがす [nehedogasü] [四他] 寝かす。[続 290]

【例】 この わらす ねへどがさねあ うずあ へわすくて なんにも さんねあ

「この子を寝かさないうちは、忙しくて何もされないよ」

ねへばん [neheban] [名] にせはん。偽印。[及 221]

【例】 ねへばん つかて、銀行がら 金 おろしたど

「偽印を使って、銀行から金をおろしたそうだ」

ねへる [neherü] [動] 寝せる。[同] ねへづげる。[及 221]

【例】 さげよとなの ほごさ ねへで おげ

「酔っぱらいなんか、そこへ寝せておけよ」

ねぼろける [neborokerü] [下一自] 寝惚ける。[続 290]

【例】 ないだべ この わらすあ ねぼろけで どさ えぐどごだべ
「なんだろう、この子は、寝惚けて何処へ行くんだろう」

ねまる [動] 座る。[及 221]

【例】 こさ 来て ねまれや
「ここへ来て座れよ」

ねもづ わらびの澱粉で作った団子。[及 43]

【例】 おらだ ちっちえあ ずぎ けがずで ねもづ くだ おんだ
「俺達の小さい時、飢饉で、わらび団子を食べたもんだ」

ねらへる [neraherü] [下一他] 寝かせる。[続 290]

【例】 きまた ずがんに ねらへるよん してんなだども ながなが ねねあなよ
「決った時間に寝かせるようにしているんだが、なかなか寝ないんだよ」

ねりあへる [neriaherü] [下一他] 練り合わせる。[続 290]

【例】 コンクリートずあ セメントど すなど ざり ねりあへる おんだけあ
「コンクリートって、セメントと砂と砂利を練り合わせるものだよ」

ねる [動] 煮える。[及 221]

【例】 であごなの そんま ねる おんだ
「大根なんか、じきに煮えるもんだよ」

ねれあ [nerε] 狙い。[続 290]

【例】 むらおごすの ねれあは やっぱり とくさんぶつ つぐる ごどだべな
「村興しの狙いは、やっぱり特産物を作ることだろうな」

ねれあうず [nerëüdzü] 狙い打ち。[続 291]

【例】 うさぎ ねれあうずした つもりであったども、あだらねあけ
「兎を狙い打ちしたつもりだったが、当らなかったよ」

ねれあどご [nerⁿdogo] 狙い所。[続 291]

【例】 どれあ ええが、もと ねれあどご すぼて そうだんした ほあ えべ
「どれがいいか、もっと狙い所をしぼって相談した方がいいだろう」

ねろねろ [副] ぬるぬる。[及 30]

【例】 こごあ ねろねろていうはげ 滑べんぞ
「ここはぬるぬるするから、滑べるよ」

ねろねろ [neroneo] [副] ぬるぬる。[続 291]

【例】 ここあ、ねんどだ おんだはげあ、あめあ ふっど ねろねろて やだ どごだ
「此処は、粘土なものだから、雨が降るとぬるぬるして嫌な所だよ」

ねわけ [newage] 株分け。作物や園芸品の繁殖法の一つ。[及 74]

【例】 これあ ねわげしねあど おっきぐ なれねあな
「これは株分けをしないと大きくなれないな」

ねんずりがし ねじり菓子。小粒のあられを固め、長四角に切ったものをねじって作った菓子。

[及 43]

【例】 えま ねんずりがしなの 見らんねあなは
「今はねじり菓子なんか見られなくなってしまったな」

ねんずりはずまぎ [ne̞n̞˦dzũri̞ha̞˦dzũmagi̞] 振り鉢巻。[続 291]

【例】 むがすの しとあ、ねんずりはずまぎなのして がんばた おんだ
「昔の人は、振り鉢巻なんかして頑張ったもんだよ」

ねんぞ [ne̞n̞˦dzo̞] 寝相。[続 291]

【例】 わらしたずずあ まず ねんぞあ えぐねあくて ふとん けどばすなよ
「子供らって、まあ、寝相が悪くて、布団を蹴飛ばすんだよ」

ねんであー [ne̞n̞˦de̞:] 年代。[続 291]

【例 1】 これだば そうとう ねんであー くだ おんだべな
「これなら相当年代を経たものだろうな」

【例 2】 おれも たいしょうねんであ の んまれだ おん
「私も大正年代の生れだもの」

ねんねあー [ne̞n̞ne̞:] 年内。[続 291]

【例】 この すごどあ なんずしても ねんねあにあ かたずげねあんねあな
「この仕事は、どうしても年内には片付けなければならないな」

ねんねこ [ne̞n̞ne̞ko̞] 赤子を背負う時着る綿入れ羽織。これは、「どんぶぐ（綿入れ羽織）」より巾の広い綿入れ羽織で、赤子を冬背負った時羽織るものである。[続 291]

ねんぺあー [ne̞n̞pe̞:] 年輩。[続 291]

【例】 むらの ふるえ ごどだば、そうとう ねんぺあーの しとに きぐほが ねあな
「村の古いことなら、相当年輩の人に聞くほかはないね」

ねんぼ [ne̞n̞bo̞] 寝坊。[続 292]

【例】 この わらすだば ねんぼだ おんで おごさねあば おぎねああだ
「この子は寝坊なもんで、起きないと起きないんだ」

— の —

のかがる [nokagarü] [動] 寄り掛かる。[及 221]

【例】 ほんげあ のかがんなや
「そんなに寄り掛かるなよ」

のげ [noŋe] 芒。[続 292]

【例】 いねどが むぎの ほの さきさ のげず おのあ つでる おんだげあ
「稲とか麦の穂の先に、芒というものが付いているものだよ」

のげおの [nogeono] 除け者。[続 292]

【例】 ○○くんどごぼり のげおのん しねあで、ながえぐ あすべよ
「○○君ばかり除け者にしないで、仲よく遊びなさいよ」

のけつと [noketto] [副] ぼんやり。[続 292]

【例】 のけつと つったて かんげあごども したたなが
「ぼんやり突っ立って、考えごとでもしているのかい」

のごう [noŋou] [動] 拭う。[及 221]

【例】 ながくづの でろ のごうんだ
「長靴の泥を拭いなさいな」

のごりおす [nogoriosü] [形] 名残り惜しい。[続 292]

【例】 あんまり ずがん ねあくて、のごりおすども、まだ こんだ きあす
「余り時間がなくて名残り惜しいが、また今度参ります」

のごりおの [nogoriono] 残り物。[続 292]

【例】 のごりおのに ふぐ あるて いう おんだ おめあ かねあが
「残り物に福があるというものだが、お前食べないか」

のず [名] いい分。主張。自分のいい分。[及 221]

【例】 のず とおす かんじよしたて、だめだ
「自分のいい分ばかり通すつもりでは駄目だよ」

のすありぐ [nosüarigü] [四自] 申し歩く。[続 292]

【例】 むらの したずあ だんけずしねあはげあ あゆ おのあ のす ありぐなだ
「村の人達が団結しないから、ああいう者が申し歩くんだよ」

のすがみ [nosūjamī] [名] のし紙。[及 222]

【例】 ゆわこどさ もて えぐ のすがみ かて こえ
「お祝に持って行く、のし紙を買って来てくれ」

のすだで 羽目。[及 52]

【例】 のすだでさ とだん はてころ
「羽目にトタン板を張ってくれ」

のすぶぐろ [nosūbūgūro] [名] のし袋。[及 222]

【例】 のすぶぐろ あんべが
「のし袋はあるだろうか」

のぞこむ [動] 覗く。[及 222]

【例】 しとの え のぞこむ おんでねあ
「他所の家を覗くもんじゃないよ」

のそつと [nosotto] [副] のっそり。[続 293]

【例】 この えそがす すぎ のそつと たてねあで こっちゃ きて てずだえ
「この忙しい時にのっそり立っていないで、こっちへ来て手伝えよ」

のぞます [形] 望ましい。[及 222]

【例】 のぞます ごど いうど、企業誘致だなや
「望ましいことをいえば、企業誘致だね」

のそらのそら [nosoranosora] [副] のそのそ。[続 293]

【例】 ほんげあ のそらのそらど ありてつど、きしゃさ おぐれんぜあは
「そんなにのそのそ歩いていると、汽車に遅れてしまうよ」

のだぐる [nodanūrū] 這い回る。[続 293]

【例】 ほんたどご のだくて ありぐど みな よごれんぞ
「そんなところを這い回って歩くと、みな汚れるよ」

のだばる [動] 腹ばう。腹ばいになる。[及 222]

【例】 ほんたどさ のだばる おのあ ねあべな
「そんな所へ腹ばいになる者はないじゃないか」

のちめる [動] 押える。上から押えつける。[及 222]

【例】 ほんげあ のちめだら くるすべな
「そんなに押えつけたら苦しいじゃないか」

のっかがる [nokkagarū] [四自] 乗りかかる。[同] のかがる。[続 293]

【例 1】 のっかがた ふねだ おん なんとがして やらねあんねあべ
「乗りかかった船だもの、なんとかしてやらないといけないだろう」

【例 2】 ほんげあ のっかがんなや おもであくて なんにも でげねあであ

「そんなに乗りかかるなよ、重くて何も出来ないじゃないか」

のっがそっが [noggasogga] [連語] のるかそるか。[及 222]

【例】 のっがそっが してみだら えべ
「のるかそるか、やってみたらいいだろう」

のっけ [形] 器用。[及 222]

【例】 おめあ ながなが のっけああるな
「あなたは、なかなか器用だね」
この反対は、「のっけあねあー不器用」という。

のっこす [nokkosü] [四他] 乗り越す。追い越す。[続 293]

【例 1】 ねぶかぎしてで、となりの えぎまで のっこしてしました
「居眠りをしていて、隣の駅まで乗り越してしまったよ」
【例 2】 ○○どご のっこして いっと なた
「○○を追い越して、一等になったよ」

のっこす [動] 追い越す。[及 222]

【例】 はえあ おんで おれあどご のっこして えたけは
「早いもんで、私を追い越して行ってしまったつけ」

のっばら 野原。[及 106]

【例】 すこす のっばらででも あすでこえ
「少し野原ででも遊んで来なさい」
また、「のっこえー野を越え」などという使い方もある。

のっばらすっばら [名] 腹いっぱい。満腹する程。[及 222]

【例】 のっばらすっばらくてがら、まだ なにが くであなが
「腹いっぱい食べてから、まだ何か食べたいのかい」

ので [node] 畔。田の畔。[及 106]

【例】 のでの 草 刈て こねあんねあな
「田の畔の草を刈って来ないといけないな」

ので [node] 田の畔。畔。[及 74]

【例】 のでの 草 かて 来る
「田の畔の草を刈って来る」

のでくさ あぜ草。畔の雑草。[及 94]

【例】 のでくさ 刈らねあんねあぐなたな
「あぜ草を刈らないといけなくなったな」

のどしんつこ [noⁿdosintsüko] のどぼとけ。口蓋垂。[同] のどしっこ。のどつんこ。のどまめ。[及 11]

【例】 のどしんつこ あがぐして、扁桃腺だべが
「のどぼとけを赤くして、扁桃腺炎だろうか」

のの [nono] [幼児語] 字。文字。[同] によよ。[続 293]

【例】 めご のの けあてみろ
「めご（子供愛称）字を書いてみなさい」

のへつと [nohetto] [副] のつそり。[及 222]

【例】 のへつと へあて 来たどもたら、○○が
「のつそり入って来たと思ったら、○○かい」

のぺつと [副] のつべり。[及 222]

【例】 ○○の つらあ のぺつとした つらだな
「○○の顔は、のつべりした顔だね」

のべづまぐなす [nobędzümagümasü] [副] のべつ。ひっきりなし。[及 223]

【例】 のべづまぐなすん えぐ しゃべる おんだ
「のべつに、よくしゃべるもんだ」

のへる [noherü] [動] 乗せる。かつぐ（だます）。[及 222]

【例 1】 おれあ 車さ のへる
「俺の車に乗せるよ」
【例 2】 あの やろに んまぐ のへらっだな
「あの野郎に、うまくかつがれたな」

のぼへあがる [nobohejarü] [四自] のぼせ上がる。[続 293]

【例 1】 おなごさ のぼへあがる
「女にのぼせ上がる」
【例 2】 おわ してる ごどさ のぼへあがて ずまんしてんなだぜあ
「自分のしていることにのぼせあがって、自慢しているんだよ」

のぼへる [noboherü] [動] のぼせる。[及 223]

【例】 ○○あ あの 娘さ のぼへっだあだど
「○○は、あの娘にのぼせているんだそうだ」

のみおの [nomiono] 飲み物。[続 293]

【例】 のみおのってて おめあ なに のむや、ビールが、ウイスキーが
「飲み物といっても、君は何を飲むの、ビールか、ウイスキーかい」

のみすろ [名] 飲み代。[及 223]

【例】 今日あ のみすろあてあ かへげば えは
「今日は、飲み代分だけ稼せげば、もういいんだ」

のみます [nomimasü] [四他] 飲み回す。[続 294]

【例】 これあ おみぎだはげあ みんなして のみましてくんねあが
「これは、お神酒だから、皆で飲み回してくれないか」

のめくる [noməkürüü] [四白] のめる。[続 294]

【例】 この わらすだば まず はして ありぐおんで のめくがどもて すんぺあだなよ
「この子は、まあ、走って歩くもんで、のめるかと心配なんだよ」

のりあへる [norīaherüü] [下一白] 乗り合わせる。[続 294]

【例】 きしゃさ のたば、ちょうど ○○さんど のりあへで、はなすしてきた
「汽車に乗ったら、頂度○○さんと乗り合わせて、話をしてきたよ」

のりおの [名] 乗り物。[及 223]

【例】 のりおのなの すんぺあすんな
「乗り物なんか心配するなよ」

のりげあー [norige:] 乗り換え。[続 294]

【例】 この きしゃで えぐど、○○で のりげあーしねあんねあな
「この汽車で行くと、○○で乗り換えしないといけないな」

のりげあーる [norige:rüü] [下一白] 乗り換える。[続 294]

【例】 んであ、おれあ こごで のりげあーっさげあ、まずがわねあで えげよ
「それじゃ、私はここで乗り換えるから、間違わないで行けよ」

のりねげ [norinege] 乗り逃げ。[続 294]

【例】 ○○の えぎさ えたば、のりねげだどて さわえんだけ
「○○の駅へ行ったら、乗り逃げだどって騒いでいたつけ」

のりばず [norībadzūü] 乗りばち橇。ばち橇は、普通は人が乗れないが、これは、前方に腰を掛けて、雪の坂道を操縦するように出来たばち橇である。[同] きっけあばず。[続 294]

のります [norīmasüü] [四他] 乗り回す。[続 294]

【例】 ○○ちゃんも、こどすから ずでんしゃ のりますよん なた
「○○ちゃんも、今年から自転車を乗り回すようになったね」

のろえ のろい。[及 31]

【例】 のろえちゃな もと 早く ありげや
「のろいな、もっと早く歩けよ」

のろっと 一面に。[及 223]

【例】 はだけさも のろっと ゆぎあ ふたけは
「畑にも、一面に、もう雪が降ったつけ」

のんくそ [nonküso] 野糞。これは、便所のない、外で脱糞することをいう。[続 294]

のんのん [nonnon] どんどん。これは、特に多量の水の流れるさまだけをいう語である。[続 294]

【例】 たさ のんのんど みず かげで きた

「田にどんどん水を掛けてきたよ」

— は —

は もう……よ。しまった。[及 223]

【例 1】おら えぐは

「私は、もう行くよ」

【例 2】えたけは

「行ってしまったつけ」

ば [係助] は、wa。[及 223]

【例 1】半分ば おわ くたけど

「半分は、自分が食べたんだそうだ」

【例 2】おわ ごどば ゆわねあで、しとの わりくづばり いう おんだ

「自分のことは、いわないで、人の悪口ばかりいうもんだ」

ば [格助] を。[及 223]

【例】おれあなば どさ やたな

「私のを何所へやったの」

ば [助動] なら。ければ。[及 223]

【例 1】えそがすば こねあて え

「忙しいなら、来なくともいいよ」

【例 2】えぎであば えごや

「行きたければ、行こうよ」

ば ら。[及 223]

【例 1】えたば

「行ったら」

【例 2】したば

「したら」

【例 3】やたば

「やったら」

はあで [感] はて。[及 223]

【例 1】はあで なんずんしたら えべ

「はて、どうしたらいいだろう」

【例 2】 はではで こまたおんだ

「はてさて、困ったもんだ」

ばいばい [paipai] [幼児語] 乳。これは、幼児が乳をねだる時という言葉で、「ばいばい、ばいばい＝お乳を飲みたい」というだけである。[続 295]

はえ [感] はい。返事のこと。[及 223]

【例】 はえ えま えぎあす

「はい、今行きます」

はえあ [haε] 早い。[及 31]

【例】 こんげあ はえあぐ 来たながは

「もう、こんなに早く来たのかい」

ばえあ [baε] 場合。[続 295]

【例】 ふゆ やまさ えぐ ばえあは、けっして しとりでなの えぐなよ

「冬に山へ行く場合は、決って一人でなんか行くなよ」

はえあおのがず [haεonoŋadzü] [連語] 早い者勝ち。[続 295]

【例】 やまの わらび とんなだて、はえあおのがずで、おそえど とらんねあ

「山のわらびを採るのだから、早い者勝ちで、遅いと採れないね」

はえたづ 郵便配達員。[同] ゆうびんもづ。ゆうびんや。[及 79]

【例】 今日あ まだ はえたづあ こねあんねあが

「今日は、まだ、郵便配達員が来ないじゃないか」

はえっと [連語] ごめん下さい。他家訪問の際の挨拶をいう。[及 224]

ばえっと [副] ばっと。物を広げるさま。[及 224]

【例】 おっき ふるすぎ ばえっと ひろげだ

「大きい風呂敷をばっと広げた」

はえびよー [haεbjo:] 肺病。[続 295]

【例】 はえびよーも まぎだなて ゆた おんだども えまは ゆわねあぐなたは

「肺病も血統だなんていったものだが、今はもう言わなくなったね」

ばえん [副] ばん。鉄砲の音や物をたたく音。[及 224]

【例】 鉄砲、ばえんと ぶたけ

「鉄砲をばんと、うったつけ」

はが [haga] [名] 間隔。[及 224]

【例】 ほごの はが なんぼ ある

「その間隔はいくらあるんだ」

はが [haga] はか。仕事の進み具合。[及 224]

【例 1】 ながなが はが えがねあな

「なかなか仕事が進まないな」

【例2】 はが えぐ

「仕事が進む」

ばがおの [bagaono] 馬鹿者。[続 295]

【例】 この ばがおのあ、ほんたごど したら、みな だめん なてしまうべな

「この馬鹿者が、そんなことをしたら、みんな駄目になってしまうじゃないか」

ばがくせあ [形] 馬鹿くさい。[及 224]

【例】 ほんた ばがくせあ ごどぼり ゆて

「そんな、馬鹿くさいことばかりいって」

はがど [hagado] [名] 墓。お墓。[及 224]

【例】 ずさまの はがど たでねあんねあな

「お爺さんのお墓を建てないといけないな」

はかはか [副] ひやひや。気が気でないさま。[同] はからはから。[及 224]

【例】 あぶねあくて はかはかて みっだ

「危なくて、ひやひやして見ていたよ」

はがはれあ [hagahare] 墓払い。墓掃除。これは、主としてお盆の14日のお参りの4~5日前に行う墓掃除をいう。時に法事の前にも行う。[続 295]

はがへ [hagahe] 博士。[続 295]

【例】 ○○さん えの むすこあ こんだ はがへ なたど えれあ おんだなや

「○○さんの家の息子が、今度博士になったそうだ、偉いもんだねー」

はがま [hagama] もんべと袴。[及 59]

【例】 おらほであ もんぺも はがまて いうなよ

「うちの方では、もんぺもはかま、というんですよ」

はがま [hagama] いね科植物の葉鞘をいう。これは、いね科植物（禾本科ともいった）は葉の下部が、茎を包んでいるが、この部分をいう。植物学の用語では、この部分を葉鞘といっている。[続 295]

ばがゆぎ [bagajügi] どかゆぎ。一時に沢山降る雪。[及 106]

【例】 これあ ばがゆぎだな、めっぼ ふる おん

「これは、どかゆぎだな、めっぼう降るもの」

ばがらす [bagarasü] [形] 馬鹿らしい。[及 224]

【例】 子供で あんめあし ほんたごど ばがらすくて さんねあな

「子供であるまいし、そんなことは馬鹿らしくてやれないよ」

なお、この語には、「ばがくせあー馬鹿くさい」、「ばがんするー馬鹿にする」などの使い方がある。

ばがわれあ [bagaware] 馬鹿笑い。[続 295]

【例】 ○○さんだば すぐ ばがわれあする おんで にぎゃがだ しとだ おんだ
「○○さんなら、直ぐ馬鹿笑いするもんで、賑かな人なものだ」

はぎ [hagī] 箒。[及 52]

【例】 この はぎあ あだらすなだな
「この箒は新しいんだね」

はぎおの [hagiōno] 履物。[及 59]

【例】 なんだ ほの はぎおのの ぬぎざんま
「なんだ、その履物のぬぎざまは」

はぎご [hagiŋo] はげご。[及 66]

【例】 はぎごあ めねあな
「はげごが見えないな」

はげごには「ぶんとかはぎごーやまぶどうの皮で編んだはげご」、「わらはぎごーわら製のはげご」などが使われている。

はぎだけ [hagidage] ほうきだけ。ほうきだけ科のきのこで、先端が細かくわかれ、箒状であるところから、この名がある。[及 94]

はぎつげあ [hagitsūŋe] はき違え。[続 296]

【例】 ほれあ おめあ の はぎつげあ ねあが、おれあ ほんたごと ゆてねあぞ
「それは君のはき違えじゃないか、私はそんなことはいっていないよ」

はぎつげある [hagitsūŋerū] [下一他] はき違える。[続 296]

【例 1】 よっぱらて、はぎおの はぎつげあて きたは
「酔っ払って、履物を履き違えてきてしまったよ」

【例 2】 こえて ゆたな えげて はぎつげある おのあ ねあべな
「来いといったのを、行けとはき違える奴がないじゃないが」

はきつと [hakitto] [副] はっきり。[続 296]

【例】 ほんた ぐずぐず ゆてねあて、はっきり ゆてみる
「そんなぐずぐずいっていないで、はっきりいってみなさい」

はくしゆん [hakūjūn] くしゃみ。[続 296]

【例】 この おぼごあ はくしゆんの すっじゆ、かじえでも ひだあだべが
「この子は、くしゃみなんかするね、風邪でも引いたんだろうか」

はくせあー [hakūse:] 白菜。[続 296]

【例】 はくせあーだて ゆえねあば かんねあはげあ えっぺあ ゆえんべ
「白菜だって植えないと食べられないから、沢山植えよう」

はくた [hākūta] [ナ名ノ] はした。[続 296]

【例】 したりして わげで、はくたん どごあ おえで えげ

「二人で分けて、はしたのところは置いていきなさい」

ぱくっと [副] ぱくりと。[及 224]

【例】 犬さ くいおの なげでやたら ぱくっと くてしまたけ
「犬に食べ物を投げてやったら、ぱくりと食ってしまったつけ」

ばぐであ [bagür^ode] [名] 莫大。[及 224]

【例】 あそごだば ばぐであだ ざいさん ある
「あそこなら、莫大な賤産があるよ」

はぐめあ [hagüme] 白米。[及 43]

【例】 はぐめあより、胚芽めあ 体さ えど
「白米より胚芽米が体にいいそうだ」
また、玄米を「げんめあ」、新米を「しんめあ」、飯米を「はんめあ」と使っている。

ばぐる [bagürü] [動] 交換する。[同] しけある。[及 224]

【例】 ほれど これ ばぐらねあが
「それと、これを交換しませんか」

ばぐる [bagürü] 交換する。[続 296]

【例】 この たばこれど おめあの なに ばぐるていうなや
「この煙草入れと、君の何を交換するっていうんだい」

～ばぐる [~paḡürü] [下一自] はぐれる。[続 296]

【例 1】 えぎばぐる
「行きはぐれる」
【例 2】 くいばぐる
「食いはぐれる」
【例 3】 とりばぐる
「取りはぐれる」
【例 4】 のりばぐる
「乗りはぐれる」

はぐれあー [hagüre:] 舶来。[続 296]

【例】 えまだば、はぐれあおのなて ゆわねあで ゆにゆうひんて いうな
「今なら、舶来物なんていわないで、輸入品というね」

ばぐる [bagüro] 馬喰。[及 79]

【例】 馬なの どからが かって きてくれる ばぐるず おのあ いであった
「馬なんかを何所からか買って来てくれる、馬喰という者がおったものだよ」

はげあ [haŋe] [形] はがゆい。[及 224]

【例】 はげあくて みでらんねあ

「はがゆくて見てられないよ」

ばげあ [hagɛ] から。[及 225]

【例 1】 えま えぐはげあな

「今行くからね」

【例 2】 んめあはげあ くたは

「うまいから、食べてしまったよ」

ばげおの [bageono] [名] 化け物。[及 225]

【例】 ばげおの むがすでも かだっが

「化け物の昔話でも語ろうか」

はげぐづ [hagenjüdzü] [名] はげぐち。[及 225]

【例】 どきが はげぐづあ あんべや

「何所かにはげぐちがあるだろうや」

はげす [haɟɛsü] [形] 激しい。烈しい。[続 297]

【例 1】 あめあ はげすぐ ふて きたな

「雨が激しく降って来たな」

【例 2】 あの しとあ、はげす きしよの しとだ

「あの人は、烈しい気性の人だよ」

はげつで [hagetsürⁿdɛ] 刷毛序で。[続 297]

【例】 はげつでだはげあ おめあ えんなも してくえんべ

「刷毛序でだから、あなたの家のもしてあげようね」

ばご [bago] 馬耕。[及 66]

【例】 ばごも むがすの おのだなは

「馬耕も、もう昔のものだな」

はごじえん [hago⁽ⁿ⁾dʒɛn] 箱膳。[及 52]

【例】 はごじえんなの つかう えあ ねあなは

「箱膳なんか使う家は、もうないね」

はごであ [haɟodɛ] 歯応え。[続 297]

【例 1】 これあ しこしこて、はごであ あて んめあな

「これはしこしこして、歯応えがあって美味しいね」

【例 2】 これあ ながなが はごであの ある すごどだな

「これは、なかなか歯応えのある仕事だね」

はごぼご [hagobogo] 白墨。[続 297]

【例】 へんへ、○○ちゃん おれあ つらさ はごぼご ぬんぜあ

「先生、○○ちゃんが私の顔に白墨を塗るよ」

はさ [名] はせ。竿で組み立てた稲乾し場。[及 225]

【例】 そろそろ はさも かげねあんねあな
「そろそろはせも掛けないといけないな」

はさ はせ。稲掛。稲を乾すため長木を組んだもの。[及 67]

【例】 はささ あがて、稲かげ すろ
「はせに上がって、稲掛をしろ」
はせに使う長木を「はさぼげ」という。

はさがげ [hasanage] はせ掛け。これは、稲を乾燥するため、刈った稲束をはせに掛けることをいう。また、杭に掛けることを「くえがげ=杭掛け」といつている。[続 297]

はざげあーき [ha^odzage:ki] 端境期。[続 297]

【例】 こどすあ ふさぐで くう こめあ はざげあーきまで もずべが
「今年是不作で、食う米が端境期までもつだらうか」

ばさつと [basatto] [副] ばっさり。[続 297]

【例】 ほの きあ ありぐ ずぎ じゃまん なっさげあ、ばさつと きてしまえ
「その木は、歩く時邪魔になるから、ばっさり伐ってしまえよ」

ばさま お婆さん。[及 7]

【例】 おれあえの ばさまも 元気あ ええ おんだ
「うちのお婆さんも元気がいいもんだ」

この呼び名には「ばさー婆さん」、「ばっつあーお婆さん」、「ばばー婆さん」、「ばばつあーお婆さん」、「ばんちゃんーお婆ちゃん」、「ばんつあーお婆さん」、「ばんばー婆あ」などがある。

はさまる [hasamarü] 仲間に入る。挟まる。[続 297]

【例 1】 おめあも はさまで のめや
「君も仲間に入って飲めよ」
【例 2】 ほんの えあださ はさまった
「本の中に挟まっているよ」
【例 3】 しとの はなすさ はさまで きて うるせあごど
「人の話に挟まってきてうるさいね」

はじえる [ha^odzerü] [動] はぜる。寒さで顔に血色のなくなること。[及 225]

【例】 つら はじえらがして どさ えて きたな
「顔をはぜらせて、何所へ行って来たの」

はしくれあ [名] 端くれ。[及 225]

【例】 おめあだて やぐにんの はしくれあだべ
「お前だって役人の端くれだろう」

はしけあ [hasike] [形] 賢い。[及 281]

【例】 この わらすあ ないでも おべでで はしけあごど
「この子は、何でも知っていて賢いね」

はしたねあ [hasjitanε] [形] はしたない。[続 297]

【例】 ええ むすめあ ほんた はしたねあ ごど する おんでねあ
「いい娘が、そんなはしたないことをするもんじゃないよ」

ばじゃ [名] 罰。[及 225]

【例】 神さまさ ほんたごど すっど ばじゃ かぶるんたはげあ
「神さまに、そんなことをすると、罰が当たるんだから」

はしゃぐ [hajagüü] [動] 乾燥する。[同] はしゃげる。はすらぐ。[及 225]

【例】 今日あ 天気あ ええはげあ 稲も はしゃぐべ
「今日は天気がいいから、稲も乾燥するだろう」

ばしゃひぎ 馬車挽き。[及 79]

【例】 ぜあもぐでも、荷物でも、馬車で ひばてくる ばしゃひぎず おのも いであった
「材木でも、荷物でも、馬車で挽いて来る、馬車挽きという者もおったものだ」

ばしょふたぎ [bajohütanji] 場所塞ぎ。[続 298]

【例 1】 ほごさ おぐど ばしょふたぎん なっさげあ、どさが よへろ
「そんな所へ置くと、場所塞ぎになるから、何処かへ寄せなさい」

【例 2】 おじえんの ばしょふたぎん わらびいりでも おぐが
「お膳の場所塞ぎに、わらび炒りでも置こうか」

ばしより [bajori] 馬櫃。[続 298]

【例】 むがすあ ゆぎあ ふっど すみなの こめなの ばしよりで はごだ おんだ
「昔は雪が降ると、炭なんかや米などを馬櫃で運んだものだよ」

はしりくれあご [hasiriküreggo] [名] かけっこ。走り競争。[及 225]

【例】 ○○ちゃん はしりくれあご すんべ
「○○ちゃん、かけっこをしようや」

はす [名] 橋。[及 225]

【例】 あの はす わだてみんべ
「あの橋を渡ってみようよ」

はす 箸。[及 52]

【例】 うるすで ぬた はすあ たげあ おんだな
「漆で塗った箸は高いもんだね」

漆で塗った箸を「ぬりばす」といっている。

はず [haⁿdzüü] 恥。[続 298]

【例】 いやあ、よげだ ごど ゆたばりに しとめあで はず けあでまた

「いやあ、余計なことをいったばかりに、人前で恥をかいてしまったよ」

はず [hadzũ] 鉢。[続 298]

【例】 へっかぐの はず わてしたはげあ べずんな かわねあんねあは
「折角の鉢を割ってしまったから、別のを買わないといけなくなってしまったよ」

ばず [badzũ] ばち櫓。木材を運ぶ、山が片方に一つづつしかない短かい櫓。雪の上でも使うが土櫓ともなる。[及 67]

はすえれ [hasũerẽ] 箸入れ。[続 298]

【例】 ○○ちゃん、がっこさ もて えぐ はすえれ わすだぞ
「○○ちゃん、学校へ持って行く箸入れを忘れたよ」

はずがす [haⁿdzũgasũ] [形] 恥かしい。[続 298]

【例】 こんたおの ほんげあ ほめらえっど けあて はずがす
「こんなものを、そんなに賞められると、かえって恥かしいよ」

はずがであーごん [hadzũgadẽgon] 二十日大根。[続 298]

【例】 はえあぐ とらえるよん はずがであーごんも ゆえんべ
「早く取られるように、二十日大根も植えよう」

はずぐ [hadzũgũ] [動] 弾く。[及 225]

【例】 いであごど しんどご はずぐなや
「痛いこと、人を（私を）弾くなよ」

はすぐえ [hasũnjũẽ] 橋杭。[続 298]

【例】 えまだば はすぐえなの つかわねあで コンクリートばりだな
「今なら、橋杭なんかは使わないで、コンクリートばかりだね」

はすこえ [hasũkoẽ] [形] はしこい。[続 298]

【例 1】 この わらすあ はすこえ おんで なに さえても てばえあ おんだ
「この子ははしこえもんで、何をやらせても手早いもんだ」

【例 2】 はすこえ わらすで、さんすなの いずでも ひやくてんだなよ
「はしこい子で、算数なんか何時でも百点なんだよ」

はずつつあらす [haⁿdzũttsarasũ] [ナ名ノ] 恥曝し。[続 299]

【例】 この はずつつあらすあ、なして ほんた ばがだごどばり して ありぐなだ
「この恥曝しが、どうしてそんな馬鹿なことばかりして歩くんだ」

はずへっく [hadzũhekkũ] 初節句。[続 299]

【例】 きょうあ まごの はずへっくだおん、ゆわえあこど しねあんねあな
「今日は、孫の初節句だから、お祝いをしないとイケないな」

はすまる [動] 始まる。[同] はずまる。[及 225]

【例】 ほら、はやぐ えがねあど がっこあ はするは

「ほら、早く行かないと、学校が始まるよ」

はすめ [hasüme] 初め。[続 299]

【例 1】 はすめん おれあ してみんべ

「初めに私がしてみよう」

【例 2】 ちょうちょうはすめ らいひんが えっぺあ きたけ

「町長初め来賓が沢山来たっけ」

【例 3】 3 きょうあ こどすの すごどはすめだな

「今日は、今年の仕事始めだね」

はすめる [hasümerü] [下一他] 始める。[続 299]

【例 1】 このごろ ○○ちゃんが ありぎはすめるよん なた

「この頃、○○ちゃんが歩き始めるようになったよ」

【例 2】 ほん よみはすめっさげあ、だんまて きでろ

「本を読み始めるから、だまってきいておれよ」

はずゆえ [hadzÿjÿe] 鉢植え。[続 299]

【例】 はずゆえしたた おのさ、まえにず みず かげんなも よういんねあ おんだ

「鉢植えしているものに、毎日水を掛けるのも容易でないものだよ」

はすら 柱。[及 52]

【例】 ゆぎの ふっどごあ さんずんばりの はすらであ もだねあな

「雪の降る所は、三寸ばかりの柱では、もたないね」

はすらいす 柱石。炭がまの口に立てる左右の角石。[及 74]

【例】 はすらいすずあ 石屋に こしえらへだ おんだ

「柱石というのは、石屋に作らせたもんだ」

はすらぐ [hasürañü] [四自] 乾く。特にかさかさに乾くこと。[続 299]

【例】 おでんきつずぎで、こう はすらぐど かずあ おかねあなよ

「お天気続きで、こう乾くと、火事が恐ろしいんだよ」

はすらどげ [hasüraⁿdoqe] 柱時計。[続 299]

【例】 はすらどげの ねずあ ねあぐなたよだはげあ まがねあんねあな

「柱時計の捻子がなくなったようだから、巻かないといけないな」

はする [動] 走る。[及 225]

【例】 ほんげ はすっど ころぶぞ

「そんなに走ると、ころぶよ」

この語には、「はすりづで—走りどうし」、「はすりづめ—走りどうし」という使い方があり、「停車場から はすりづで はすて来たや—駅から走りどうしに走って来たよ」。のような使い方をして

はぞれ [haⁿdzore] 外れ。[続 299]

【例 1】○○さんの えあ むらの はぞれだ

「○○さんの家は、村の外れだよ」

【例 2】おれあ くずあ はぞっだ

「私のくじは外れたよ」

はぞれる [haⁿdzorerü] [下一自] 外れる。[続 300]

【例 1】おめあ ぼだん はぞれでいだぞ

「お前のボタンが外れているよ」

【例 2】○○やまさ えぐなだば ほんどうがら はぞっで ほそみず えぐなだ

「○○山へ行くのなら、本道から外れて、細道を行くんだよ」

はだがつぶり [haⁿdagatsübüri] [名] 何もかぶらないこと。雨の中を雨具を使わないこと。

[及 226]

【例】この 雨に はだがつぶりで 来たなが

「この雨の中を何もかぶらないで来たのかい」

はだがめあり [haⁿdagameri] 裸参り。[続 300]

【例】おれも いずど はだがめありずおの してみであな

「私も、一度裸参りというものをしてみたいな」

はだぐ [hadagü] [動] 搗く。使いはたす。[及 226]

【例 1】この 豆 はだぐなが

「この豆を搗く（粉にする）のかい」

【例 2】これ かて、さえふ はだえてしまた

「これを買って、金を使いはたしてしまったよ」

はだげつげあ [hadagetsüŋe] 畑違い。[続 300]

【例】ほれだば おれにあ はだげつげあだはげあ、○○さんさ きでみろ

「それなら、私には畑違いだから、○○さんに聞いてみろよ」

はだげぶづ [hadagebüdzü] 畑打ち。畑を耕すこと。畑の耕運。[及 74]

【例】そば まぐ はだげぶづでも してくっが

「そばを蒔く畑でも耕してこようか」

はだげほり [hadagehori] 畑打ち。[続 300]

【例】まめ ゆえっさげあ うらの はだげほり しねあんねあな

「豆を植えるから、裏の畑打ちをしないといけないな」

はだげる [haⁿdagerü] [動] かき集める。かき取る。[及 226]

【例 1】つらがった 豆 はだげで みだら、これはんて ねあけ

「散らばっている豆をかき集めてみたら、これしかなかったよ」

【例2】 この じゅうばごの あづぎ はただげでおげ
「この重箱の小豆をかきとっておけよ」

はだける [ha^odagerũ] [動] 広げる。着物の前や股などを広げること。[同] はばげる。[及 226]

【例】 ほんげあ すっそ はただげで ありぐ おんでねあ
「そんなに裾を広げて歩くもんじゃないよ」

はだこ 肌着。[及 59]

【例】 はだこずあ そんま 汚れる おんでな
「肌着って、じき汚れるもんでね」

はだごへん [hadagoheŋ] 旅籠錢。宿賃。[続 300]

【例】 つかごろあ はだごへんも たげあぐ なて ばがんならねあな
「近頃は、旅籠錢も高くなって、馬鹿にならないね」

はださみ [ha^odasami] [形] 肌寒い。[続 300]

【例】 そろそろ ゆぎでも ふて くんなだべが はださみ てんきん なてきたな
「そろそろ雪でも降って来るのだろうか、肌寒い天気になってきたね」

はだず [ha^odadzũ] [下一他] 始める。[同] はねある。[続 300]

【例】 くにてあ、あにきあ さずぎ はだず ころだべな
「郷里では、兄貴が田植えを始める頃だろうな」

はだすえあー [hadasũe:] 果し合い。[続 300]

【例】 はだすえあなて むがすの こどで、えまだば きがんねあな
「果し合いなんて昔のことで、今なら聞かれないね」

ばたっと [batatto] [副] ぱったり。[続 300]

【例】 いであごど いすこさ けずまずで ばたっと ころでしまた
「痛いこと、小石にけつまずいて、ぱったり転んでしまったよ」

はだらぎおの [hadaragiono] 働き者。[続 301]

【例】 ○○さんだば はだらぎおので、あさからばんまで、えぐ はだらぐ すとだ
「○○さんなら働き者で、朝から晩まで、よく働く人だよ」

はだる [hadarũ] [四他] ねだる。[続 301]

【例】 この わらすあ おぎっど ないが ころどて はだんなだ
「この子は起きるともう何かくれとってねだるんだ」

はだる [hadarũ] [動] 催促する。[及 226]

【例】 ええであ もて こねあ はだるはんてねあな
「なかなか持って来ないから、催促するしかないな」

はづ [名] 端。[及 226]

【例】 この 木の はづ たがてくんねあが

「この木の端を持ってくれないか」

はづ 炭がまの天井。天井は石で組み、土をかぶせて作るが、このことを「はづあげ」といい、二、三人で作業をする。[及 74]

ばづ [名] 撥。[及 226]

【例】 てあごの ばづだば ほごに あんぞ
「太鼓の撥ならそこにあるよ」

ばづ [名] 罰。[及 226]

【例】 盗みで、二年の ばづ うげだど
「盗みで、二年の罰を受けたそうだ」

はづあわへ [名] 鉢合せ。[及 226]

【例】 ○○ど かどで はづあわへしたけ
「○○と、曲り角で鉢合せしたつけ」

はづおの [名] 初物。[及 226]

【例】 これ はづおのだけはげあ もて来た、くてもでくんねあが
「これ、初物だから持って来ましたが、食べてみて下さい」

はづがま [hadzūjama] [名] 初窯。築窯始めての炭出し。[及 226]

【例】 はづがまだはげあ おみぎでも あげっが
「初窯だから、お神酒でもあげようか」

はっから [連語] 子供のくせに。年端もゆかないくせに。[及 226]

【例】 はっから 煙草なの のだて だめだ
「子供のくせに煙草なんか吸ったて駄目だ」

ばっけ 蔦のとう。[及 94]

【例】 ○○ちゃん、ままごと すんな ばっけ とて くんべや
「○○ちゃん、ままごとをする蔦のとうをとって来ようよ」

ばっげあー [batsūŋe:] 場違い。[続 301]

【例】 ここで ほんた ばっげあーだ ごど ゆたて だめだべや
「ここでそんな場違いなことをいったって駄目じゃないか」

ばっけあす [bakkesü] 奪い返す。[続 301]

【例】 ○○ちゃんに とらっだなが んであ にいちゃん ばっけあしてきてくれる
「○○ちゃんに取られたのかい、それじゃ兄ちゃんが奪い返してきてやるよ」

はっけおぎ [hakkeogī] 八卦見。占師。[及 79]

【例】 あだるもはっけ、あだらねあもはっけて、はっけおぎの いう ごどあ あでん ならねあ
おんだ
「当たるも八掛、当たらぬも八掛、とって、占師のいうことは、当てにならないものだ」

はつける [動] はじける。[同] はんつける。[及 227]

【例】 ガスあ もれっど はつける おんだ
「ガスが洩れると、はじけるものだよ」

はつこ [hātsūko] 端。端っこ。[続 301]

【例】 どうろの まんなが ありがねあで、もと はつこ ありがねあど あぶねあぞ
「道路の真ん中を歩かないで、もっと端を歩かないと危ないよ」

はったおす [hattaosū] [四他] 張り倒す。[続 301]

【例】 こらっ、ほんげあ ごがすっど はったおすぞ
「こらっ、そんなにごねると、張り倒すよ」

はったぎ [hattaji] 大型のばったをいう。これは、ばった類を一般的にいうこともあるが、特に「とのさまばった」などの大型のばったをいった。[続 301]

ばったこぐ [battakogū] [下一自] 慌てる。[続 301]

【例】 けさ ねんぼしてしまて まま たぐな おそぐなて ばったこえだや
「今朝は寝坊してしまって、ご飯を炊くのが遅くなって慌てたよ」

ぱっち [pattji] めんこ。[同] ぱっつ。ぺあんこ。[及 52]

【例】 ○○君、ぱっちぶぢ すんべや
「○○君、めんこ遊びをしようよ」

はっちやがる [hattjaŋarū] [四自] よじ登る。[続 301]

【例】 ほんたどさ はっちやがる おのあ ねあべな、おずだら なんずすんなだ
「そんな所へよじ登る奴はないじゃないか、落ちたらどうするんだ」

ばっつ [battsū] ばっし。末っ子。[同] ばっつこ。[続 301]

【例】 これあ ばっつで ごがすりだ
「こいつは末っ子で、駄駄こねりなんだ」

はっつあげる [hattsaŋerū] [下一自] 張り裂ける。[続 302]

【例】 ごしゃげで ごしゃげで むねあ はっつあげるよだ
「腹が立って、腹が立って、胸が張り裂けるようだよ」

はっつおえ [hattsoē] [動] 強い。勢が強い。向う気が強い。鼻息が強いなど。[及 227]

【例 1】 あんまり かじえ はっつおえ おんで、屋根あ はがったは
「あんまり風が強いもんで、屋根が剥れてしまったよ」

【例 2】 あれだば はっつおえ おんで、まげねあんねあ
「あいつなら、向う気が強いので、負けるよ」

はっつおえ [hattsoē] 激しい。勢が強い。[及 31]

【例】 めっぼ はっつおえ ごど いう おんだな
「めっぼう激しいことをいうもんだね」

はっつぐ [hattsiügü] [四自] 張り付く。[続 302]

【例】 これだば ええ おんだ どごさでも はっつぐおん
「これならいいものだよ、何処にでも張り付くからな」

はっつける [hattsiükëriü] [下一他] 張り付ける。[続 302]

【例】 ほんたおの どさも かさも はっつけんなや あどで とるん こまんぞ
「そんなものを何処にもかしこにも張り付けるなよ、後で取るのに困るよ」

ぱつと [副] ぱっちり。[及 227]

【例 1】 まなぐの はつとした わらすだな
「目のはっちりした子供だね」

【例 2】 バッグ ぱつと しめだ
「バッグをはっちりしめた」

ぱつつぶず [pattsübüdzüü] めんこ遊び。[続 302]

【例】 ○○くん がっこがら けあたら ぱつつぶず すんべや
「○○君、学校から帰ったら、めんこ遊びをしようや」

ぱつら [battsüra] [副] ぱしと。[続 302]

【例】 おどうと ほんげあ ぱつら ただぐ おのあ ねあべな
「弟をそんなにぱしと叩く奴がないじゃないか」

はつと [名] 通せんぼう。通交止め。子供の遊び。[及 227]

【例】 おめあどさ はつとかげる
「お前は通せんぼうだ」

この語は、「とんぜあばんぜあ（前出）」、「ばんと」とも使っている。

はつとばす [hattobasü] [四他] 張り飛ばす。[続 302]

【例】 こらっ、あんまり きがねあど はつとばすぞ
「こらっ、あまりきかないと張り飛ばすよ」

ぱっぱ [名] [幼児語] ごみ。糞。[及 227]

【例 1】 ほれあ ぱっぱだはげあ かんねあぞ
「それは、ごみだから、食べられないよ」

【例 2】 ぱっぱ でんなが
「糞が出るのか」

ぱっぱ [名] [幼児語] おんぶ。[及 227]

【例】 め、ぱっぱすろ
「め、(坊やとかの子供の愛称) おんぶなさい」

はっぱり [副] さっぱり。全然。少しも。[及 227]

【例】 ○○あ 近頃 はっぱり こねあな

「〇〇は近頃、さっぱり来ないね」

はっぱり [happari] [副] さっぱり。この語は「さわやかなさま」の意味では使わず、専ら「全く」とか、「少しも」という意味にだけ使う語である。[続 302]

【例】 はっぱり つんね
「さっぱり釣れない」

はづへっく [hadzühëkkü] [名] 初節句。生れた子の初めての節句。[及 227]

【例】 はづへっくのお祝い しねあんねあな
「初節句のお祝いをしないといけないな」

はっぽふたがり [happohütajari] 八方塞がり。[続 302]

【例】 シャッキんだ ぎりしゅびだて はっぽふたがりん なてしまたは
「借金だ、幸不幸への支出だって、もう八方塞がりになってしまったよ」

はづまぎ [ha^odzümagi] [名] 鉢巻。[及 227]

【例】 はづまぎして がんばったなが
「鉢巻をして頑張っているのかい」

はで [hadë] [連語] さて。[続 302]

【例 1】 はで、きょうあ あおおのとりでも えぐが
「さて、今日は山菜採りにでも行こうか」

【例 2】 えそがすぐ なてきたはげあ、はで、こうして いらんねあな
「忙しくなってきたから、さて、こうしてはいられないな」

はで [hadë] [接] さて。[続 302]

はで [hadë] 道でない雪の降り積った所。人の歩いていない雪の積っている所。[同] はでこ。はでこやら。はでやら。。[及 106]

はでこぎ [hadëkoŋi] 新雪や道のついていない積雪のところを歩くこと。[及 106]

【例】 今日あ いづにづ はでこぎさへらっだ
「今日は一日中人の歩かない雪のところを歩かされたよ」
深い雪の道のついてない雪のところを歩くことを「こぐ」といっている。また、これは、水の中を歩くことも「こぐ」と使う。

はどめあ [hadome] 庭や表通りに面した座敷の板戸のある所。[及 52]

【例】 はどめあがら でへありすんなよ
「はどめあから、出入りするなよ」

はながじえ [hanaga^odze] 鼻風邪。[続 303]

【例】 はながじえ ひだんだが、めっぼ はなみずあ での おんだ
「鼻風邪を引いたのだろうか、滅法鼻水が出るもんだ」

はなくそ [名] 賄賂。[及 227]

【例】 あれどさだば はなくそれでも かへでみる、すぐ きく
「あいつになら、賄賂でもやってみろよ、直ぐ利くから」

はなす [名] 話。[及 227]

【例】 てあでの ごどだば はなすすど わがる おんだ
「大抵のことは、話をする、分るもんだよ」

はなすえあ [hanasüe] 話合い。[続 303]

【例】 これあ むらの したずど はなすえあしねあど まどまらねあな
「これは村の人達と話合いをしないと、纏まらないね」

はなすげあー [hanasünje:] 話甲斐。[続 303]

【例】 これだけ はなすしても わがらねあなが、はなすげあーのねあ しとな おんだ
「これだけ話しても分らないのかい。話甲斐のない人なもんだ」

はなずらもど [hanaⁿdzüramodo] 目の前。[続 303]

【例】 おわ はなずらもどに あっであ えぐ めねあ おんだ
「自分の目の前にあるじゃないか、よく見えないもんだ」

はなたれこんぞ [hanatarekonⁿdzo] 涙垂れ小僧。[続 303]

【例 1】 この はなたれこんぞあ、ほら、まだ はな たらした
「この涙垂れ小僧が、ほうら、また涙を垂らしている」

【例 2】 はなたれこんぞの くへん、なに ゆてんなだ
「涙垂れ小僧のくせに、何をいってるんだ」

はなつつあぎ [hanattsagi] 鼻先。[続 303]

【例 1】 おれあ ゆたて はなつつあぎで あすらてる
「私がいったって、鼻先であしらってるよ」

【例 2】 はなつつあぎに あんな めねあなが
「鼻先にあるのが見えないのか」

はなつぱすら [hanappasüra] 鼻っ柱。[続 303]

【例】 ○○だば はなつぱすら つえ おんで、のず とす つもりで いんなだ
「○○なら鼻っ柱が強いもので、自分のいい分を通すつもりでいるんだ」

はなばす [名] 鼻つばしら。むこう気。[及 31]

【例】 ○○だば はなばす つえさげあな
「○○なら鼻つばしらが強いからな」

はなばす [名] 鼻っばし。むこう気。[及 228]

【例】 あれだば はなばすの つえ ほだ
「あいつなら、鼻っばしの強い方だね」

はなばなす [hanabanasü] [形] 華華しい。[続 303]

【例】 つがごろの けっこんすぎあ はなばなす おんだ けいひも かがんべな
「近頃の結婚式は華華しいものだね、経費もかかるだろうな」

はなみね [hanamiņe] 鼻筋。[続 303]

【例】 あの しとだば はなみねの はした ええ おどごだな
「あの人なら、鼻筋の通ったいい男だね」

はぬう [hanüüü] 小布を沢山つなぎ合わせること。小布を縫い合わせること。[及 59]

【例】 この つぎ はぬて、こんぶぐろ つぐんなよ
「この布を縫い合せて布袋を作るんですよ」

はねあり [hanęari] 羽蟻。[続 304]

【例】 なずん なっど はねありあ へあて きて、よんま と あげで おがんねあ
「夏になると、羽蟻が入って来て、夜戸を開けておけないね」

はねがね [hanęanę] [名] 針金。[及 228]

【例】 はねがね めあでおげ
「針金を巻いておげよ」

はねげあす [hanęesüü] [四他] 跳ね返す。[続 304]

【例】 ほんた すずの とらねあ ごど いうなだば はねげあしてやれ
「そんな筋の通らないことをいうのなら、跳ね返してやれよ」

はねげあり [hanęeri] 跳ね返り。[続 304]

【例 1】 あめで ズボンさ はねげありあ つでしまた
「雨で、ズボンに跳ね返りが付いてしまったよ」

【例 2】 えんだがの はねげありあ たいへんだな
「円高の跳ね返りは大変だね」

はねげある [hanęerüü] [四自] 跳ね返る。[続 304]

【例】 やまで、すばなの ふむど はねげあっさげあ きいつけるよ
「山で柴なんかを踏むと、跳ね返るから、気を付けろよ」

ぱば [papa] [幼児語] 煙草。[同] ぱっぱ。[続 304]

はばげる [habaęerüü] [動] もてあます。仕事をもてあますこと。[及 228]

【例】 いやあ、この すごどだば はばげでしまた
「いやあ、この仕事なら、もてあましてしまったよ」

はばげる [habaęerüü] [動] はばげる。ひっかける。のどにひっかけること。[及 228]

【例】 ほんげあ おっきな くうど はばげんぞ
「そんなに大きいのを食べると、のどにひっかけるよ」

はばひれ [habahire] [形] 幅広い。[続 304]

【例 1】 はばひれ かだだな

「幅広い肩だね」

【例2】 はぶひれぐ あぎねあ してっど

「幅広く商いをしているそうだ」

はぶであ [habüde] 羽二重。[続 304]

【例】 はぶであなて、おらだみであだ いながおのにあ えんのねあ おんだな

「羽二重なんて、俺達みたいな田舎者には縁のないものだな」

ばふばふ [bahübahü] [副] 大きい団扇などで扇ぐさま。これは、大きい団扇や巾の広い紙などで扇ぐさまや、帯代裸の裾で風を起して歩くさまなどに使う。[同] ばほばほ。[続 304]

はもにか ハーモニカ。[及 52]

【例】 ○○ちゃん おら はもにか かて もらた

「○○ちゃん、僕、ハーモニカを買ってもらったよ」

ばや [連語] ものか。もんか。[及 228]

【例1】 えあづなの なして でけんばや

「あいつになんか、どうして出来るもんか」

【例2】 走れんばや

「走れるもんか」

はやぐず [hajagüdzü] 消防用嚢口。[続 304]

【例】 かずで しゅずどうすっずぎあ、はやぐずも わすんねあて もて えげよ

「火事で出動する時は、消防用嚢口も忘れないで持って行けよ」

はやす [hajasü] [四他] 切る。特に包丁で食べ物を切ること。[続 304]

【例】 であごん はやす ずぎあ こげあする おんだ

「大根を切る時はこうするものだよ」

はやずめあ [haja^udzüme] 早仕舞。[同] はやずんめあ。[続 305]

【例】 きょうの すごどあ おわたはげあ はやずめあ すんべ

「今日の仕事は終わったから、早仕舞にしようや」

はやばめあ [hajabame] 早場米。[続 305]

【例】 こどすも はやばめあ だす へずん なたが はえあ おんだな

「今年も早場米を出す季節になったか、早いものだね」

ばやばや [bajabaja] [副] うようよ。[同] ぐやぐや。ぐよぐよ。[続 305]

【例】 ほごの みずたまりさ ぎやらくと ばやばや いだけ

「そこの水溜りに、お玉杓子がうようよいたっけ」

はやりやんめあ [hajarüjanme] 流行病。[続 305]

【例】 はやりやんめあて ゆえば、つかごろあ かじえひぎぐれあの おんだな

「流行病といえば、近頃は風邪引きぐらいのものだね」

はらあへ [haraaɕe] [動] しめし合せる。腹を合せる。協力する。[及 228]

【例 1】 えあづら はらあへでる おんだはげあ いうごとあ おんなしだ
「あいつら、しめし合せているものだから、いうことが同じだね」

【例 2】 おめあだ はらあへで がんばれ
「君達、協力して頑張れよ」

はらあへ [haraaɕe] [名] 腹合せ。腹と腹を合せる。[及 228]

【例 1】 さがな はらあへする
「魚を腹の部分と腹の部分合せる」

【例 2】 ミニカ はらあへして おぐれ
「ミニカーは、腹の部分合せて送りなさい」

はらあんべあ [名] 胸糞。[及 228]

【例】 あの やろに あんたごど ゆわって はらあんべあ わりくて しょねあ
「あの野郎にあんなことをいわれて、胸糞が悪くてしょうがないよ」

はらあんべあ [名] 腹具合。[及 228]

【例】 なに くたんだが どうも はらあんべあ わりな
「何を食べてなのか、どうも腹具合が悪いな」

はらえっぺあ [haraeppɛ] 腹一杯。[続 305]

【例】 んめあどもて はらえっぺあ くたら、はらくつつぐ なてしまたは
「美味いと思って腹一杯食ったら、もう腹がくちくなくなっちゃったよ」

はらえへ [haraɕɛ] 腹癒せ。[続 305]

【例】 あんまり ごしゃげっさげあ、はらえへん ありったげの あぐであ つで きた
「余り腹が立つから、腹癒せにありっただけの悪態を吐いてきたよ」

はらおつき [形] 太っ腹。寛大。妊娠して腹が大きい。[及 228]

【例 1】 あの おどごあ はらおつき おどごだ
「あの男は、太っ腹な男だ」

【例 2】 おれあえの嫁も はらおつきぐなた
「うちの嫁も腹が大きくなったそう」

はらおつき 妊娠している。[及 16]

【例】 ○○の 嫁も はらおつきぐ なたど
「○○の嫁さんも、妊娠したそう」

はらくつつ [形] 腹がきついこと。腹がいっぱいなこと。[及 228]

【例】 はらくつつくて あどあ かんねあは
「腹がきつくて、あとは、もう食べられないよ」

はらぐれ [haraŋüɾɛ] [形] 腹黒い。[続 305]

【例】 どうも えあずあ はらぐれ どご あて、やだ やろだな
「どうもあいつは腹黒いところがあって、嫌な野郎だな」

はらごすれあ [haraŋosüre] 腹拵え。[続 305]

【例】 まだまで、えま はらごすれあ してがら えぐさげあな
「待て待て、今腹拵えをしてから行くからな」

はらだだす [haraⁿdadasü] [形] 腹立たしい。[続 305]

【例】 はらだだすごど、ゆたとうり すねあはげあ やりなおすだは
「腹立たしいこと、言った通りにしないから、もうやり直しだよ」

はらちげあの**あに** [haratsiŋenoani] 異母兄。腹違いの兄。[及 7]

【例】 あれあ はらちげあのあにだ
「あれは、腹違いの兄です」

類似の呼び方に「はらちげあのおねー異母姉」、「はらちげあのおどとー異母弟」、「はらちげあのおもとー異母妹」、「はらちげあのおきょうであー腹違いの兄弟」などがある。

はらつかむ [動] こらえる。我慢する。[及 229]

【例】 こんどだけあ だんまて はらつかむ おんだ
「今度だけは、だまってこらえるもんだ」

はらつげあ [haratsüŋe] 腹違い。[続 305]

【例】 おれど おどうとあ はらつげあの きょうであだあだ
「私と弟は、腹違いの兄弟なんだ」

はらとがし 下痢。[及 16]

【例】 はらとがしして ひでえ めん あたや
「下痢してひどい目にあったよ」

はらどげ [haraⁿdoge] 腹時計。[続 306]

【例】 おれなの はらどげで ひるまん なたな わがんなだ
「俺なんか腹時計で昼になったのが分るんだ」

はらば 原っぱ。野原。[及 106]

【例】 あそごの はらば わらびあ でっどごだ
「あそこの野原は、わらびの出るところだよ」

ばらへん [barahen] ばら銭。小銭。[同] こじえね。[続 306]

【例】 でんわ かげでああだども おめあ ばらへん もてねあが
「電話を掛けたいんだが、君ばら銭を持っていないかい」

ばり [副助] ばかり。[及 229]

【例】 おわばり くたて だめだべや
「自分ばかり食べたって駄目じゃないか」

この語は、「ばん」ともいい、「いだぐする ばんだ はげあやめろは一怪我をするばかりだから、止めてしまいなさい」といった使い方をし、また、「ぼり」ともいい、「あれっぼりーあればかり」、「これっぼりーこればかり」などの使い方をしている。

はりえあー [harie] 張り合い。[続 306]

【例】 はりえあーの ある すごど みつけで、いぎげあ かんずでっごごだ
「張り合いのある仕事を見つけて、生き甲斐を感じているところなんだ」

はりげあー [harige:] 張り替え。[続 306]

【例】 しょうずあ あつこつ さげだはげあ、はりげあー しねあんねあな
「障子が、あちこち裂けたから、張り替えをしないとイケないな」

はりさげ [harisaŋe] [名] 払い下げ。官物の売り払い。[及 229]

【例】 まぎ こだしも はりさげしてもらうべ
「薪を今年も払い下げしてもらおうよ」

はります [harimasü] [四他] 張り回す。[続 306]

【例】 ゆぎあ ふっど えぐねあはげあ、えまの うずん そがぎ はりますべ
「雪が降るといけないから、今のうちに、雪囲いを張り回そう」

はりまぶぎ [harimabügi] 旧二月頃の吹雪。この頃の吹雪は、粒がとても細かく、はりま（高窓）の極く小さいすき間からも入るので、この名がある。[及 106]

はりみづ めど。針穴。[及 59]

【例】 ばば はりみづ めねあはげ いど としてころ
「お婆ちゃんは、めどが見えないから、糸を通して頂裁」

はりもず [harimodzü] 拳骨。[続 306]

【例】 あんまり きがねあど はりもずあ とで えぐぞ
「余りきかないと、拳骨が飛んでいくよ」

はるぎ [harügi] 薪。薪は早春、まだ雪のあるうちに伐り出すので、春木といった。薪は国有林から伐られるが、この箇所を共用林といい、国と部落民との間で契約を取り交わして、輪伐といって、何年か毎に伐る方式になっている。この山を「はるぎ山」といつている。[及 74]

はるけさす [動] 色気が出る。[及 16]

【例】 あの 娘も そろそろ はるけさして 来たど めで、めがすよん なたな
「あの娘も、そろそろ色気が出て来た、とみえて、めかすようになったね」

はるさん [harüsan] 春蚕。はるご。[続 306]

【例】 こう あたこぐなっど はるさんも そろそろ むえるなは
「こう暖ったかくなると、春蚕もそろそろもう孵化するな」

はれあー [hare:] 払い。[続 306]

【例 1】 かえしゃの はれあ わりな

「会社の払いが悪いね」

【例2】 むねあげの おはれあー してもらうべ

「上棟式のお払いをしてもらおう」

はれあごむ [haregomü] [四他] 払い込む。[続 307]

【例】 テレビの りょうきんは ゆうびんちよきんがら はれあごむ ごどん したあだ

「テレビの料金は、郵便貯金から払い込むことにしているんだ」

はれあさげ [hasesage] 払い下げ。[続 307]

【例】 こうみんかん たでる もぐぜあは えいりんしょがら はれあさげして もらた

「公民館を建てる木材は、営林署から払い下げしてもらったよ」

はれおの [hareono] 腫れ物。[続 306]

【例】 ないだべじゅ こんたどさ はれおのあ でだ おんだ

「どうしたんだろうね、こんなところに腫れ物が出たもんだよ」

はれぼってあ [harebotte] [形] 腫れぼったい。[続 307]

【例】 ねぶそぐしたなが おめあの まなぐあ はれぼってあぞ

「寝不足したのかい、お前の目は腫れぼったいよ」

はんかくせあ [hankaküse] [形] 馬鹿臭い。[続 307]

【例】 はんかくせあ、おれあ ほんた おぼごくせあ ごど してる ひま ねあな

「馬鹿臭いね、私はそんな子供臭いことをやってる暇はないよ」

ばんかだ [bankada] 夕方。[及 106]

【例】 おれあえの つあつあ ばんかだんねあば けあて こねあ

「うちのお父さんは、夕方でなければ、帰へって来ません」

ばんがわり [banjawari] [名] 交替。当番が代ること。[及 229]

【例】 田の 水 ばんがわりん かげんべや

「田の水を交替で掛けようじゃないか」

はんぎり 木製たらい。たらい。[及 52]

【例】 へんたぐおの はんぎりさ へででころ

「洗濯物をたらいに入れておいて下さい」

ばんきり [名] 都度。その都度。[及 229]

【例】 なにが あっど ばんきり おれあどご よぶ おんだ

「何かあると、その都度俺を呼ぶもんだ」

はんぎりぼ [hanjiribo] 製炭用具の一種。火を消した炭を灰の中からさらい出す製炭用具。[及

67]

【例】 はんぎりぼあ あだらすな こしえねあんねあな

「はんぎりぼは、新しいのを作らないといけないな」

はんきわん 大きなお椀。木製のご飯を盛る大きなお椀。[及 52]

【例】 ○○あ はんきわんで 五へあも くうけ
「○○は大きなお椀で、五杯も食うだつけ」

ばんくるわへ [bankürürwahe] 番狂わせ。[続 307]

【例】 こんどの へんきょうあ ばんくるわへで ひょうばんど つかた けっかん なたな
「今度の選挙は番狂わせで、評判と違った結果になったね」

ばんげ [banŋe] [名] 今夜。[及 229]

【例】 ばんげ おれあえさ こえや
「今夜うちに来いよ」

ばんげあー [banŋe:] 番外。[続 307]

【例】 ばんげあに、おまずりさ ○○おどり へでころてが、みんな なたや
「番外に、お祭りに○○踊りを入れてくれてかい、みんなはどうだい」

はんけづ ハンカチ。ハンカチーフ。[及 60]

【例】 はんけづあ、いづでも きれだな もて ありぐおんだ
「ハンカチは何時もきれいなものを持って歩くものだよ」

ばんご [banŋo] 番号。[続 307]

【例】 でんわの ばんご わがらねあて、んであ ずさまの なめあで かがったべ
「電話の番号が分らないって、それじゃお爺さんの名前で書いてあるだろうよ」

はんごろし [hanŋorosi] ぼた餅。[続 307]

【例】 ぼだもず はんごろして いうな、こめ すっかり つぶさねあはげあだべ
「ぼた餅を半殺しというのは、米をすっかり潰さないからだろうね」

はんしよ [hanŋo] 半鐘。[続 307]

【例】 はんしよあ なるな、きょうあ しょうぼの きねんびだ おんな
「半鐘が鳴るな、今日は消防の記念日だからな」

はんずれ [hanⁿdzüre] 外れ。[続 307]

【例 1】 むらの はんずれの えだ
「村の外れの家だよ」

【例 2】 これあ、はんずれ くずだな
「これは、外れくじだな」

はんだ ~筈だ。[及 229]

【例】 ○○が 棚に あるはんだ
「○○かい、棚にある筈だよ」

はんちよめあ [hantjome] [名] 半人前。[及 229]

【例】 おめあなの、まだ しの はんちよめあはんて せる おんでねあ

「お前なんか、まだ人の半人前しか出来るものじゃないよ」

はんつけあた [hantsūiketa] [連語] [卑語] そんな。そんなの卑語。[及 229]

【例】 はんつけあた おの いらねあ

「そんなもの、いらないよ」

この語は、「はつけあた」、「へあつけあた」、「へあんつけあた」、「ほつけあた」、「ほんつけあた」などとも使っている。

はんて [係助] しか。[同] はんと。[及 229]

【例】 これはんて もて こねあなが

「これしか持って来ないのかい」

はんてあ [hante] [名] 反対。[及 230]

【例】 ほれだば おら はんてあだな

「それなら私は反対だね」

はんであ 飯台。[及 52]

【例】 はんであさ ひず つで くうな

「飯台に肘をついて食うな」

ばんと [名] しんばり棒。交通止め。[及 230]

【例 1】 へありくづさ ばんと かたが

「入口にしんばり棒をかったかい」

【例 2】 道路あ 崩っだはげあ ばんと かわねあ だめだな

「道路が崩れたから、通交止めにしないといけないな」

ばんと [副] ばっちり。はっきり。[同] ばちっと。[及 230]

【例】 ほんたごどあ ばんと いう おんだ

「そんなことは、ばっちりいうもんだよ」

ばんどり ももんがぁ。りす科の哺乳動物で、樹上に棲み、夜行性で、前足と後足の間に皮膜があり、樹間を飛ぶ。[同] むささび。[及 94]

はんな [hanna] 端綱。今は馬を飼っている家がなくなってしまったので、この語は、死語になっている。[続 308]

はんばおの [名] 半端物。[及 230]

【例】 これあ はんばおのだはげあ 安ぐ まげるは

「これは、半端物だから、もう安く負けるよ」

ばんばかつか [banbakātsūka] 特に大きな鯽をいう。[続 308]

【例】 ばんばかつか すめで きた これだば かであくて かねあんねあべが

「大きな鯽を捕まえて来たよ、これなら堅くて食べられないではないだろうか」

はんばぎ [hanbagi] はばぎ。わらやがまで作った脚絆。[及 60]

【例】 ゆぎあ ふてがらは はんばぎ ねあど ありがんねあ
「雪が降ってからは、脚絆がないと、歩けないね」

ばんぼ 淫売婦。[及 79]

【例】 むがしあ 飲み屋にあ ばんぼず おのも いだ おんだ
「昔は、飲み屋に淫売婦という者がいたもんだ」

ばんぼ [banpo] 酌婦。売春婦。酌婦や売春婦で、売春をしていた者をいったが、今はこの語も死語になった。[続 308]

ばんぼごり [banbogori] 土ほこり。[及 106]

【例】 かじえ ある おんださげあ ばんぼりあ たて ひでえ
「風があるものだから、土ほこりが舞ってひどいよ」

ばんま [banmama] 晩飯。夕飯。[続 308]

【例】 ○○ちゃん ばんままだはげあ えさ へあれは
「○○ちゃん、晩飯だから、もう家へ入りなさいね」

ばんめあ [banme] [名] 番。順番。[及 230]

【例】 ほら、こんだ おめあの ばんめあだぞ
「ほら、今度は、お前の番だよ」

— ひ —

ひあすび [hiasübī] 火遊び。[続 308]

【例】 かずんなる もどだはげあ わらしたずあ ひあすびなの さんねあぞ
「火事になる元だから、子供らは火遊びなんかされないよ」

ひいたぎ [ɸi:tagi] [名] 焚き火。[及 230]

【例】 こんた どごで ひいたぎ したたなが あぶねあぞ
「こんな所で焚き火をしているのかい、危ないよ」

ひえしよ [hiɛʃo] 冷え性。[続 308]

【例】 おれあ ひえしよな おんで、しとより えっぺあ きてんなだ
「私は冷え性なもんで、人より沢山着ているんだ」

ひかがる [ɸikagarū] [動] 引っ掛かる。[及 230]

【例】 ほごさ ひかがっがや
「そこへ引っ掛かるかい」

ひかげぴら [hikagepīra] 余り日の当たらない斜面。これは、北向きの山の斜面で、余り日の当たらない傾斜地をいう。[続 308]

ひかげる [hikagerū] [下一他] 引っ掛ける。[続 308]

【例】 この はねがねあ うさぎ ひかげる ひこぐす こしえあんなだ
「この針金は、兎を引っ掛けるわなを作るんだ」

ひかさえる [hikasaerū] [下一自] 引かされる。[続 308]

【例】 わらしたずに ひかさえる おんだべな まだ もどたど
「子供らに引かされるものだろうな、また戻ったそうだ」

ひがすかじえ [ɸiŋasūkaⁿdʒe] 東風。[同] だしかじえ。[続 309]

【例】 ひがすかじえの ごど やまへて いう どごも あんなだど
「東風のことを、やませというところもあるんだそうだ」

ひがだ [ɸiŋada] [名] 火形。火に当って脛についた赤い班点をいう。[及 230]

【例】 火さ さっくばっど すねさ ひがだ つぐぞ
「火に余り近よって当たると、脛に赤い班点がつくよ」

ひがだ [çiŋada] 裸の脛を火に暖ため赤い班点の出来たもの。[及 16]

【例】 ほんげあ さっくばっど、脛さ ひがだ つくぞ
「そんなに出て火にあたると、脛に赤い班点がつくよ」

ぴかっと [pikatto] [副] ぴかりと。[続 309]

【例】 ごろごろ ぴかっと ひかたけあ しとあめ くんぺな
「ごろごろぴかりと光ったが、ひと雨来るだろうな」

ひがひが [hiḡahiḡa] [名] 甲高い声。きんきん声。[及 230]

【例】 ひがひがじゅこえな おんで 耳あ いであぐ なる
「きんきん声なもんで、耳が痛くなるよ」

びがびが [bigabiga] [副] ぎらぎら。光るさま。[及 230]

【例】 くれあ どごで ねごの まなぐあ びがびがど ひかたけ
「暗い所で、猫の目がぎらぎら光ったつけ」

ひがら [ḡiḡara] [名] 日数。[及 231]

【例 1】 おぼごなすなの ひがらせあも たでば えぐなる
「お産なんか、日数さえたてばよくなるよ」

【例 2】 入院したども ひがらばり くて ながなが えぐ なるじゅあねあ
「入院したんだが、日数ばかりたって、なかなかよくなりほしくないよ」

ひからびる [動] 乾く。からからに乾く。[同] ひっからびる。[及 231]

【例】 この さがな ひからびでしまたは
「この魚は、からからに乾いてしまったよ」

ひぎ [ḡigi] [名] ひいき。[及 231]

【例】 ○○どさばり ひぎして やだ ごど
「○○にばかりひいきして、嫌なこと」

ひぎ 低い。[及 31]

【例】 やっぱり あぎどだな、腰あ ひぎ おん
「やっぱり商人だな、腰が低いもの」

ひぎあへる [hiḡiaḡerü] [下一他] 引き合わせる。[続 309]

【例 1】 この さらさ これど これ ひぎあへっど えんねあべが
「この皿に、これとこれを引き合わせるといいじゃないだろうか」

【例 2】 ほつつど こつつの ちょうめん ひぎあへで みんな
「そっちとこっちの帳面を引き合わせてみよう」

【例 3】 ○○さんさ ひぎあへで もらうごどんした
「○○さんに引き合わせてもらうことにしたよ」

ひぎえあ [ḡigie] [名] 引き合い。[及 231]

【例】 おれどご ひぎえあん ださねあたて ええべ

「俺を引き合いに出さなくともいいじゃないか」

ひぎおの [ɸig̃iono] [名] 引き物。[及 231]

【例】 ほうずの ひぎおのん さどでも だすべ
「法事の引き物に、砂糖でも出そう」

ひぎくず [higikũⁿdzũ] おが屑。[続 309]

【例】 ひぎくず ほのままんして おがねあで なげろよ
「おが屑をそのままにしておかないで、捨てなさいよ」

ひぎげあ [ɸig̃ige] [名] 引き換え。[及 231]

【例】 ほの ひぎげあん これ やてころ
「その引き換えに、これをやってくれ」

ひぎげあす [higigesũ] [四白] 引き返す。[同] ひっけあす。[続 309]

【例 1】 わすれおのして ひぎげあす どごだあだ
「忘れ物をして、引き返すところなんだ」
【例 2】 うすぎすっど また かじえ ひぎげあすぞ
「薄着をすると、また風邪を引き返すよ」

ひぎこ [çig̃iko] 蛹化直前の蚕。まゆを作り始める蚕。[及 74]

【例】 こんだ ひぎこ なたはげあ、まぶすさ うづへは
「今度はまゆを作る蚕になったから、まぶしに移してしまいなさい」

ひぎねげ [higineŋe] 轢き逃げ。[続 309]

【例】 ○○で ひぎねげずけん あったど ひで ごど する おんだな
「○○で轢き逃げ事件があったそうだが、ひどいことをするものだね」

ひきらず [名] ひっきりなし。[及 231]

【例】 まづ ひきらず なにが くてる おんだ
「まあ、ひっきりなしに何か食っているもんだ」

ひぎる [higirũ] 蚕が上簇すること。これは、蚕が充分成熟し上簇するまでになることをいう。[続 309]

ひくなぎ せきれい。いしただぎに同じ。[及 94]

ひくめぐ [hikũmegũ] [動] しゃしゃり出る。ちよつかいを出す。うさうさする。[同] ひく

ひくて。ひくひくめぐ。ひっくらめぐ。[及 231]

【例 1】 ひくめで ほんた おのまで だして
「しゃしゃり出て、そんなものまで出して」

【例 2】 ひくめぐど ころぶぞ
「うさうさすると転ぶよ」

ひくる [hikũrũ] [四他] 瞑る。[続 309]

【例】 ○○ちゃん まなぐ ひくて はやぐ ねろよは
「○○ちゃん、目をつむってもう早く寝なさいよ」

ひげあー [hĩɕe:] 被害。[続 309]

【例】 つかごろ いねみずぞうむすの ひげあー あつこつさ ではて きたな
「近頃、いねみずぞうむしの被害が、あちこちに出てきたね」

ひけあーすず [hĩke:sũdzũ] 控室。[続 310]

【例】 びょういんの ひけあーすずあ かんじゃで えっぺあだけ
「病院の控室は患者でいっぱいだったな」

ひけあーめ [hĩke:mẽ] [名/ダナ] 控え目。[続 310]

【例】 つっそひりょうあ ひけあーめん やらねあど のびすぎで よわぐ そだずぞ
「窒素肥料は、控え目にやらないと、伸び過ぎて弱く育つよ」

ひげあーり [hĩɕe:ri] 日帰り。[続 310]

【例】 かいすいよぐだば ひげあーりであ えて ころんねあな
「海水浴なら、日帰りでは行って来られないな」

ひけある [hĩkerũ] [下一他] 取り替える。[同] しけある。とけある。とっけある。[続 310]

【例 1】 へんたぐきあ ふるすぐなたはげあ ひけある ごどん すんべ
「洗濯機は古くなったから、取り替えることにしよう」

【例 2】 これ、おめあなど ひけあんべ
「これを君のと取り替えよう」

ひけある [ɸĩkerũ] [動] 手をつなぐ。手を引く。[及 231]

【例】 あぶねあはげあ てひけあで えげよ
「危ないから、手をつないで行きなさいよ」

ひけある [ɸĩkerũ] [動] 控える。[及 231]

【例 1】 住所 ひけある 紙あ ねあがな
「住所を控える紙がないかな」

【例 2】 おどなすぐ ほごさ ひけあでろよ
「おとなしくそこに控えておれよ」

【例 3】 ひけあすづ
「控え室」

ひごえ [ɸĩŋoẽ] 緋鯉。[続 310]

【例】 ひごえの ながに まごえも いねあど ひっただねあな
「緋鯉の中に真鯉もいないと、引き立たないね」

ひこぐす [ɸĩkogũsũ] 針金のわな。これは、兎ややまどりなどを捕らえる針金で作った、一種のわなである。[続 310]

ひこぐる [h̥ikogürü] [動] 縛る。[同] ひっこぐる。[及 231]

【例】 くら、きがねあど ひこくて おぐぞ
「くら、きかないと、縛っておくよ」

ひこぐる [ɸ̥ikogürü] [動] 轆く。車でひくこと。[同] ひっこぐる。[及 232]

【例】 あんまり スピード 出して ありぐど しと ひこぐるんだはげあ
「余りスピードを出してあるくと、人をひくんだから」

ひこす [動] 引っ越す。[及 232]

【例】 まづさ ひこすながは
「町へ引っ越してしまうんですか」

ひこたこ [名] びっこ。履物の左右別のものを履くこと。[同] びっこたっこ。かだっつがだっつ。[及 232]

【例】 はぎおの ひこたこ へあで 来たながは
「履物をびっこに履いて来てしまったのかい」

ひこたび 凹地。[及 106]

【例】 あそごの ひこたび んめねあんねあな
「あその凹地を埋めないといけないな」

ひこぬぐ [ɸ̥ikonügü] [四他] 引っこ抜く。引き抜く。[続 310]

【例】 ほの たずがれん なた なすあ ひこぬがねあど ほかんなさも うずんぞ
「その立枯病に掛かった茄子は、引っこ抜かないと、他のにも移るよ」

ひこむ [動] 引っ込む。[及 232]

【例 1】 ひこむ ごどあ ねあべな めあさ 出はれや
「引っ込むことはないじゃないか、前に出ろよ」

【例 2】 ほんげあ ただぐど ひこむはげあ やめろ
「そんなにたたくと、引っ込むから止めろよ」

ひこめる [ɸ̥ikomērü] [下一他] 引っ込める。[続 310]

【例】 ほの いだ すこす ひこめねあど そろわねあな
「その板は少し引っ込めないと、揃わないな」

ひさらう [動] [強調] さらう。さらうの強調語。[及 281]

【例】 あの やろ おれあえの 栗 みな ひさらて えてしました
「あの野郎、うちの栗をみんなさらって行ってしまったよ」

ひじえね [ɸ̥iʔdʒeɲe] 日銭。[続 310]

【例】 めへだば ひじえねあ へあっさげあ え おんだ
「店なら、日銭が入るからいいもんだね」

ひしえる [h̥iʃerü] [動] 伏せる。物を伏せること。[及 232]

【例】 ほの 茶碗 あらたら ひしえで おげよ
「その茶碗、洗ったら、伏せておきなさいよ」

ひしえる [çiʃerü] 苗床に種を蒔くこと。直蒔でないもの。[及 74]

【例】 茄子の 種 ひしえねあんねあな
「茄子の種を苗床に蒔かないといけないな」

ひしえる [çiʃerü] 冷える。[及 31]

【例】 今日あ めっぼ ひしえるな
「今日はめっぼう冷えるね」

ひして [φiʃite] 一日。[続 311]

【例】 おれあえの さずぎさ ひして てずだて くえらんねあべが
「うちの田植に、一日手伝ってもらえないだろうか」

ひしぬ [動] 餓死する。[及 232]

【例】 むがしあ けがじで ひしぬ しとも いであったど
「昔は、飢饉で、餓死する人もあったそうだよ」

びしゃ [biʃa] [名] 叱ること。[及 232]

【例】 あんまり きがねあ ずぎあ びしゃあづげで おけ
「あんまりきかない時は、叱っておけよ」

びしゃあづげる [biʃaaⁿdzügerü] [下一他] 叱りつける。[続 311]

【例】 あんまり きがねあ ずぎあ びしゃあづげで おがねあど だめだ
「余りきかない時は、叱りつけておかないと、だめだよ」

ひしゃあへ [φiʃaahē] 冷や汗。[続 311]

【例】 ガードレールさ ぶつかりそん なて ひしゃあへ けあだや
「ガードレールにぶつかりそうになって、冷や汗をかいたよ」

ひじゃかけ [φiⁿdzakage] 膝掛け。[続 311]

【例】 ふゆん なっど さみ おんだはげあ ひじゃかけ かげで すごど してんなだ
「冬になると、寒いものだから、膝掛けを掛けて仕事をしているんだ」

ひじゃかぶ [çiⁿdzakabü] ひざ。ひざがしら。ひざこそう。[同] ひじゃ。[及 12]

【例】 木さ ひじゃかぶ ぶつかけ いであがった
「木にひざがしらをぶつつけて、いたかったよ」

ひじゃこんぞ [φiⁿdzakonⁿdzo] 膝小僧。膝頭。[同] ひじゃかぶ。[続 311]

【例】 ころで ひじゃこんぞ すりむえでしました
「転んで、膝小僧をすりむいてしまったよ」

ひしやす [φiʃasü] [形] 久しい。[同] ひさす。[続 311]

【例】 こごさも ひしやすぐ こねあがったな、なんねんぶりで きたべ

「ここにも久しく来なかったな、何年振りで来たろう」

ひしやす [çiʃasü] [動] 冷やす。[及 31]

【例】 やげどが、早く 水で ひしやすど え
「火傷か、早く水で冷やすといいよ」

ひしやす [çiʃasü] 庇。[及 52]

【例】 ゆぎで ひしやすあ いだだな
「雪で庇が痛んだな」

ひしやすぶり [名] 久し振り。[及 232]

【例】 まづまづ、ひしやすぶりだごど
「まあまあ、久し振りだね」

びしやと [piʃatto] [副] びしやりと。[続 311]

【例 1】 びしやと ただぐ
「びしやりと叩く」

【例 2】 と びしやと たでる
「戸をびしやりと締める」

【例 3】 だろあ びしやと かがた
「泥がびしやりと掛かった」

ひしやひしや [副] ひやひや。冷めたい感じをいう。[及 232]

【例】 あへ けあだら ひしやひしやて つみであぐ なて きた
「汗をかいたら、ひやひやして、冷めたくなって来たな」

ひじやまぐら [çiʳdzamagüra] 膝枕。[続 311]

【例】 こごらあだりであ ひじやまぐらなの する しとあ いねあな
「ここらあたりでは、膝枕なんかする人はいないね」

ひじやまずぐ [çiʳdzamaʳdzügw] [四自] 跪く。[続 311]

【例】 ひじやまずで あやまるまであ ゆるさんねあ
「跪いて謝るまでは許されないよ」

ひしやま [çiʃamama] 冷や飯。[同] ひやま。[続 312]

【例】 ていでんで ひしやま なたは
「停電で、冷や飯になってしまったよ」

ひじやもと [çiʳdzamodo] 膝元。[続 312]

【例 1】 かわ あせあくて ひじやもとまではんて かがらねあけ
「川が浅くて、膝元までしか掛からなかったよ」

【例 2】 おやの ひじやもと はなつで くらすよん なた
「親の膝元を離れて暮すようになったよ」

びしょっと [biʃotto] [副] びっしょり。[同] びちよっと。びちより。[続 312]

【例】 あめで びしょっと ぬっだは
「雨で、びっしょり濡れてしまったよ」

びじよっと [bidʒotto] [副] ぐしゃっと。[同] びちよっと。[続 312]

【例】 たまご おどしたば びじよっと つぶっだけは
「卵を落としたら、ぐしゃっと潰れてしまったっけ」

びしょてあ [biʃote] [形] だらしない。貧乏くさい。[及 232]

【例 1】 ながしの びしょてあ ごど かだづげで おげ
「流し(台所)のだらしないこと、片付けておきなさい」
【例 2】 ではて ありぐ ずぎあ びしょてあ かっこして ありぐおんでねあ
「出歩く時は、貧乏くさい格好をして歩くもんじゃないよ」

びしょてあ [biʃote] 濡れて気持のわるいこと。貧乏くさいこと。特に台所が乱雑なこと。[及 31]

【例 1】 にわが雨に ふらっで、びしょてあくて
「俄雨に降られて、濡れて気持が悪くて」
【例 2】 ほかさ えぐ づぎあ びしょてあ かっこして ありぐ おんでねあ
「他所へ行く時は貧乏くさい格好して歩くもんじゃないよ」
【例 3】 ながしあ びしょてあく しておぐ おんでねあぞ
「台所は、乱雑にしておくものじゃないよ」

ひすぎれる [hiʃuːgiriːrũ] [動] 透き間があく。桶の板と板の間に、乾燥して、透き間が出来ること。[及 232]

【例】 こが おもでさ おえっだば ひすぎれでしまたは
「桶を外に置いていたら、乾燥して透き間が出来てしまったよ」

びすっと [bisütto] [副] びしりと。[続 312]

【例】 なんぼ ゆたて きがねあ ずぎあ びすっと しおぎ しねあど だめだ
「いくらいってもきかない時は、びしりと仕置をしないと駄目だよ」

ひずつり 肘。[及 12]

【例】 まま くう づぎ ひずつり はんであさ つぐな
「ご飯を食べる時、テーブルに肘をつくんじゃないよ」

ひそっと [hiʃotto] [副] ひっそり。[続 312]

【例】 こごの えあ でんき けて ひそっとしてんども からえだべが
「こごの家は電気を消して、ひっそりしているが、留守だろうか」

ひたぐる [hiːtagũrũ] [動] ひったくる。急に奪う。[同] ひなぐる。[及 233]

【例】 したの おの ひたぐりあがて
「人の物をひたたくりやがって」

ひたすおの [ḥiṭasūono] 浸し物。[同] おしたす。したすおの。[続 312]

【例】 しゅでこ とて きたはげあ、ばんげあ しゅでこの ひたすおのでも つぐんべ
「しおでを採って来たから、今夜はしおでの浸し物でも作ろうね」

びたっと [副] ベったり。[同] びであっと。[及 233]

【例】 びたっと はりづけで おけ
「べったり張り付けておけよ」

びたっと [副] びたりと。びったり。[及 233]

【例 1】 目の めあさ、車 びたっと 止またけ
「目の前に、車がびたりと止ったつけ」

【例 2】 びたっと くつで はがんねあは
「びったりくつついて、剥がれなくなってしまった」

ひたでる [ḥiṭaderū] [下一他] ひったてる。[続 312]

【例】 この ふぐろあ おもであくて ひたでらんねあ なにあ へあったおんだべ
「この袋は重くてひたてられないよ、何が入っているんだろう」

ひだな いろりの上のつり棚。[及 52]

【例】 へどろ むっだら、ひだなさ あげで おげよ
「わら杓が濡れたら、いろりの上のつり棚にあげておきなさいよ」

びだびだ [bidabida] [副] べたべた。[及 233]

【例】 手あ びだびだだぞ はやぐ ふえて 来え
「手がべたべただよ、早く拭いて来なさい」

びたびた [副] ひたひた。物の上に水が出るか出ないかぐらいつかること。[及 233]

【例】 ほの 煮おのの 水あ びたびたで ええぞ
「その煮物の水は、ひたひたでいいよ」

ひだま [ḥiṭdama] [名] 鬼火。人魂。狐火。[及 233]

【例】 おはががら ひだま ではたけど
「お墓から、鬼火が出たんだそうだよ」

びだまげ [bidamage] [名] 連敗。大敗。[及 233]

【例】 このだびの 大会であ おらほあ びだまげであった
「この度の大会では、うちの方は大敗だったよ」

びだらっ [bidaraQ] [副] びたっ。蛙のような跳ね方をいう。[及 233]

【例】 びっきあ びだらっ びだらっと 来たけ
「蛙が、びたっ、びたっと来たつけ」

ひだりちよっけあ [ḥidaritjokke] ひだりぎっちょ。左利き。[及 17]

【例】 えあづあ ひだりちよっけあだ おん

「あいつは左利きだもの」

ひだりめあ [ɸi˦darime] [名] 左前。家運の傾くこと。着物を左前に着ること。[及 233]

【例 1】 あそごの えあ ひだりめあだどは

「あそこの家は左前になってしまったそうだ」

【例 2】 ほれであ きおのあ ひだりめあだぞ

「それでは、着物が左前だよ」

ひだりめあ 左前。左前に着物を着ること。[同] ひんだりめあ。[及 60]

【例】 きおのあ ほれだば ひだりめあだぞ

「それなら、着物が左前だよ」

びちよっと [副] びっちより。[及 233]

【例】 びちよっと つぶっでしましたながは

「もうびっちより潰れてしまったのかい」

びちよぬれ [名] びしょ濡れ。[及 233]

【例】 ないだや びちよぬれん なて 来たながは

「なんだい、びしょ濡れになって来てしまったのかい」

びちよびちよ [副] びしょびしょ。ひどく濡れるさま。[同] びぢゃびぢゃーびぢゃびぢゃ。びぢよびぢよ。[及 233]

【例】 にわが雨ん ふらっで、きおのあ びちよびちよん なてしました

「俄雨に降られて、着物がびしょびしょになってしまったよ」

ひっからびる [ɸikkarabirū] [上一自] ひからびる。[続 312]

【例】 ほれあまだ あんまり ひっからびどど かんねぐなんぞ

「それは、余りひからびると、食べられなくなるよ」

ひっかわぐ [ɸikkawagū] [動] 乾く。[及 234]

【例】 ひの てっどさ ほさねあば ひっかわぐじゃねあべな

「陽の照ってい所へ干さなければ、乾く筈がないじゃないか」

びっき [bikki] 蛙。[続 313]

【例】 これだば なに ゆたて びっきのつらさみずだ

「こいつなら、何をいっても蛙の面に水だよ」

びっきおよぎ [bikkiojōji] 蛙泳ぎ。平泳ぎ。[続 313]

【例】 ○○ちゃん およぐ ずぎあ いずでも びっきおよぎばんだな

「○○ちゃんが泳ぐ時は、何時でも蛙泳ぎばかりだね」

びっきのつらさみづ 蛙の面に水。どんな仕打にも、しゃあしゃあしていることのたとえである。[及 234]

びっきんくさ [bi˦kinkūsa] おおばこ。おおばこ科の多年草。[及 94]

【例】 びっきんくさも くそりん なっど
「おおばこも薬になるそうだよ」

びっくら [名] びっくり。[及 234]

【例】 ああ びっくらした、急に おっき 声 出すおんだ おん
「ああびつくりした、急に大きい声を出すんだもの」

ひっくりげあす [hikkürigesü] [動] ひっくり返す。[及 234]

【例】 ほれ ひっくりげあすなよ
「それ、ひっくり返えすなよ」

ひっくりげある [hikkürigerü] [四自] 引っ繰り返る。[続 313]

【例】 おにがらて ひっくりげあつど ながなが おぎんねあおんだな
「かぶとむして、引っ繰り返ると、なかなか起き上がれないものだね」

ひっけあー [hikke:] 引き換え。[続 313]

【例】 この けんど ひっけあーん、ハエカラだ なべ くえんなだど
「この券と引き換えに、ハイカラな鍋をくれるんだそうさ」

ひっけあす [hikkēsü] [動] 引っ返す。引き返す。[及 234]

【例】 なして ひっけあして きたな、わすおのでも したなが
「なぜ引っ返えして来たの、忘れ物でもしたのかい」

ひっづる [hītsügerü] [動] くつつける。[同] くつづる。ひつつける。[及 234]

【例】 ほんげあ ひっづねあで ゆえろや
「そんなにくつつけないで植えろよ」

ひっこげる [hikkogerü] [下一自] こける。やせる。[続 313]

【例】 としよたば ひっこげで しわくちゃん なてしまた
「年寄ったら、こけて皺くちゃになってしまったよ」

びっこたっこ [bikkotakko] [名/ノダナ] 不揃い。これは、履物のように揃いのものが不揃いだったり、右左が別のものであったりすることをいう。[続 313]

【例】 おめあの ズックあ びっこたっこだぞ、かだっぽあ だれあな へあで きたあだ
「お前のズックは不揃いだよ、片方は誰のを履いてきたんだ」

ひっこぬぐ [hikkonügü] [四他] 引き抜く。[続 313]

【例 1】 であごんばだげさ くさ おえで きたはげあ ひっこぬえで おげよ
「大根畑に草が生えてきたから、引き抜いておけよ」

【例 2】 ○○さん ○○かえしやさ ひっこぬがっだど
「○○さんは、○○会社に引き抜かれたそうさ」

ひづず ~ ひつじ。緬羊。[及 94]

【例】 ひづずなの かう えあ なぐなたなは

「綿羊なんか飼う家はなくなってしまったな」

びつたら 平ら。高低や凹凸のないこと。[及 234]

【例】 　　ごご 　ひつたらん 　すんべ
「ここを平らにしようよ」

びつたらこえ [形] 平べったい。平らだ。[同] べつたらこえ。[及 234]

【例】 　　この 　いしあ 　びつたらこえ 　いしだな
「この石は平べったい石だな」

びつちや [bittʃa] ぬかるみ。[同] ぐつちや。[続 313]

【例】 　　えまだば 　どうろあ 　みな 　ほそうしてっさげあ 　びつちやなの 　ねあなは
「今なら道路はみな舗装しているから、ぬかるみなんかなくなってしまったよ」

ひつつあぐ [ʃittsagü] [四他] 引き裂く。[同] しちゃばぐ。しっちゃばく。ひちゃばぐ。ひ
ちちゃばぐ。[続 314]

【例】 　　〇〇ちゃん 　ズボン 　ひつつあぐ 　きたながは
「〇〇ちゃん、ズボンを引き裂いてきてしまったのかい」

びつと [bitsütto] [副] びっしり。[続 314]

【例】 　　りんご 　ほの 　はごさ 　ほんげあ 　びつと 　つめだら 　きずあ 　つぐべや
「りんごをその箱に、そんなにびっしり詰めたら、傷が付くだろうや」

びつと [pittsütto] [副] びっちり。[続 314]

【例】 　　この 　ズックだば 　おれあ 　あすさ 　びつと 　あうな
「このズックなら、私の足にびっちり合うね」

びつとり [副] びっしり。すきまなく。[同] びつたら。[及 234]

【例】 　　あんまり 　びつとり 　つめんな
「あんまりびっしり詰めるなよ」

ひっぱがれる [ʃippaŋarərü] [下一自] [強調] 剥がれる。剥がれるの強調語。[同] すっ
ぱがれる。[続 314]

【例】 　　ほんた 　はりがだすつど 　そんま 　ひっぱがって 　しまうぞ
「そんな張り方をすると、直きに剥がれてしまうよ」

ひっぱげる [ʃippaŋerü] [下一自] [強調] 剥げる。剥げるの強調語。[続 314]

【例】 　　かんばんの 　ずあ 　ひっぱげで 　きたはげあ 　かぎげあ 　ねあんねあな
「看板の字が剥げてきたから、書き替えないといけないな」

びっぴ [pippi] 呼び子。[続 314]

【例】 　　やがます 　ごど 　えん 　ながで 　びっぴ 　ふぐ 　おのあねあべな
「喧しいこと、家の中で呼び子を吹く奴があるものか」

ひっぺがす [ʃippeŋasü] [動] [俗語] ひっぱがす。[同] ひべがす。[及 234]

【例】 台風で、屋根あ ひっぺがさってしまた
「台風で、屋根がひっぺがされてしまったよ」

ひてあ [çite] 炭がまの口の柱石に乗せる角石。[及 75]

【例】 ひてあにする 石 たがてころ
「柱石に乗せる石を持ってくれよ」

ひてあこぶ [çitekobüü] 額。[同] でんび。ひてあ。[続 314]

【例】 はすらさ ひてあこぶ ぶつけだど
「柱に額をぶつけたそうだ」

ひでえ [hiɾde:] [形] ひどい。[及 234]

【例】 まづ ひでえごど する おんだ
「なんとまあ、ひどいことをするもんだ」

ひどこ [çiɾdoko] 窪地。[同] ひど。[続 314]

【例】 この さわの おぐの ひどこんどさ ふぎあ でっだけ
「この沢の奥の窪地のところに落が出ておったよ」

ひどる [hiɾdorü] [動] 乾かす。衣類などを手に持って、火で乾かすこという。[及 235]

【例】 ひどてがら きねあど かじえ ひぐぞ
「乾かしてから着ないと、風邪をひくよ」

びどる [biɾdorü] [動] 反る。反りかえること。[同] びぞる。びんぞる。びんどる。[及 235]

【例】 びどるはげあ けあしけあし ほさねあんねあ おんだ
「反るから、ひっくり返ししながら乾さないといけないものだよ」

ひどろ [çiɾdoro] 湿田。[続 314]

【例】 おれあえの しもの た ひどろだ おんだはげあ ぬがて ひで おんだ
「うちの下の田は湿田なものだから、ぬかってひどいものだよ」

ひなくせあ [çinakupise] [形] きな臭い。[同] きなくせあ。[続 315]

【例】 ないだ どごが ひなくせあんねあが
「なんだ、何処かきな臭いじゃないか」

ひなたばこ [çinatabako] 日向ぼっこ。[続 315]

【例】 ずさま ひなたばこが はるん なたば あたこぐなて えな
「お爺さん、日向ぼっこかい、春になったら、暖ったかくなっていいね」

ひにずまえにず [çinidzūmaenidzū] 毎日。[続 315]

【例】 ひにずまえにず さんどさんど ままづめあ すんなも らぐんねあ おんだぜあ
「毎日三度三度炊事をするのも、楽じゃないものだよ」

ひにづ [名] 日にち。[及 235]

【例】 ひにづ まづげあねあで こえよ

「日にちを間違えないで来いよ」

ひねずる [ɸineꞥdzũrũ] [四他] つねる。[同] ひねぎる。ひんねずる。[続 315]

【例】 おかあさん、ねえちゃん おれあどご ひねずる
「お母さん、姉ちゃんが、私をつねるよ」

ひのす 火のし。アイロン。[及 60]

【例】 ひのすて えまで ゆえば アイロンだな
「火のしって、今でいうなら、アイロンだな」

ひのず [名] 強情。[及 31]

【例】 ひのず つばたて でげねあ ごどあ でげねああだ
「強情をはっても、出来ないことは出来ないんだよ」

ひのずつつる [ɸinoꞥdzũrtsũrũ] [四他] いい張る。[同] ひのずつつぼる。[続 315]

【例】 この わらすだば、ひのずつつる おんで しのの いう ごどなの きがねああだ
「この子ったら、いい張るもんで、人のいうことなんかきかないんだよ」

ひのずはる [動] いい張る。[及 235]

【例】 ほんげあ ひのずはらねあで おやの いう ごども きぐ おんだ
「そんなにいい張らないで、親のいうこともきくものだよ」

ひのなが [ɸinonaga] [名] 日中。[同] ひるひなが。[及 235]

【例】 この ひのながから ねぶかぎがは
「この日中に居眠りしてるのかい」

ひのめあ [ɸinome] [名] 午前。午前中。[及 235]

【例】 あしたの 授業あ ひのめあばんだな
「明日の授業は午前中だけだな」

ひばだぎおづる [ɸipadagiodzũrũ] [動] [強調] 落ちる。落ちるの強調語。[及 235]

【例】 ほんたどさ あがっど ひばだぎおづんだはげあな
「そんな所に上ると落ちるんだからな」

ひばだぐ [ɸipadagũ] [動] ひっぱたく。[及 235]

【例】 この やろ おれどご ひばだぐが
「この野郎、俺をひっぱたくのか」

ひばる [動] 引っ張る。[及 235]

【例】 ほんげあ ひばんなや そであ きれんぜは
「そんなに引っ張るなよ、袖が裂れてしまうよ」

ひびぐ [ɸibigũ] [四他] 引き抜く。これは、作物を間引いたり、草を引き抜く意味にだけ使う言葉である。[続 315]

【例 1】 なっば えっぺあ おえだおん ひびがねんねあな

「菜が沢山生えたから、間引かないといけないな」

【例2】 やすぎの くさ ひびで おげよ

「屋敷の草を引き抜いておげよ」

ひびらぐ [hibiragū] 〔動〕 響く。〔及 235〕

【例】 どうもんの ながずあ ひびらぐ おんだな

「トンネルの中って、響くもんだね」

ひびらぐ [çibiragū] 〔動〕 響く。〔及 31〕

【例】 さがでみろ、山がら 山さ ひびらぐはげあ

「叫んでみなさい、山から山にひびくから」

ひぶぐれ [hibügüre] 火傷。〔続 315〕

【例】 やがんの あつなさ うで くつげだら ひぶぐれ なてしました

「薬缶の熱いのに腕をくっつけたら、火傷をってしまったよ」

ひべあ [hibe] 〔名〕 火についている灰。熱い灰。〔及 235〕

【例】 あおぐど ひべあ とぶはげあ あおぐな

「扇ぐと、火についている灰が飛ぶから、扇ぐなよ」

ひへがす [hihegasū] 日めくり。毎日剥ぐ暦。〔同〕 ひはがす。〔続 315〕

【例】 つかごろあ ひへがすなの あんまり みらんねあなは

「近頃は、日めくりなんて余り見られなくなってしまったね」

ひべがす [hibegasū] 引っ剥がす。〔同〕 ひっべがす。〔続 315〕

【例】 ばんそうこ ひべがす すぎ ふぐだけ ひばらっで いであつたら

「絆創膏を引っ剥がす時、産毛が引っ張られて痛いったら」

ひぼ 紐。〔及 60〕

【例】 ほごの ひぼ とてくんねあが

「そこの紐をとってくれませんか」

ひぼごり [hibogori] 火の粉。〔続 316〕

【例】 ほんげあ たぎつり いずんな ひぼごり たて しやねあ

「そんなに燃えさしをいじるなよ、火の粉が飛んでしようがないよ」

ひぼつぎ [hibotsūgi] 紐付き。〔続 316〕

【例】 むがすあ わらしたずの きおのあ みな ひぼつぎであった おんだ

「昔は子供らの着物は、みな紐付きだったものだよ」

ひぼろぎおずる [hiborogiodzürū] 〔強調〕 落ちる。落ちるの強調語〔同〕 ひばだぎおずる。

〔続 316〕

【例】 ほんたどさ あがっど ひぼろぎおずで けがすんぞ

「そんなところへ上がると、落ちて怪我をするよ」

ひまがる [himagarü] [動] ひんまがる。[及 235]

【例 1】 これあ くづあ ひまがるほど しよっぺあな

「これは、口がひんまがる程塩からいな」

【例 2】 ほんたごど すっさげあ みろ、針金あ ひまがてしました

「そんなことをするから、みない、針金がひんまがってしまった」

ひまだれ [名] 雑用。雑用で仕事がつぶれること。[及 236]

【例】 ないだが このじゅあ ひまだればんで

「なんだか、近頃は雑用ばかりで」

ひめあ [hime:] 日日。[続 316]

【例】 ほっつの すごとき かがるにあ まだ ひめあ あるな

「そっちの仕事に掛かるには、まだ日日があるね」

ひやくしよ [ɸjakũjɔ] 百姓。[続 316]

【例】 こめだの おおとだのの ゆにゆうもんであであ ひやくしよも あだま いであな

「米どとか桜桃なんかの輸入問題では、百姓も頭が痛いね」

ひやぐにづばな [ɸagĩnidzũbana] 百日草。きく科の草花。[及 94]

【例】 おめあえの ひやぐにづばな きれだごど

「お宅の百日草はきれいですね」

ひやぐにんしゅ [ɸjagũninjũ] 百人一首。[続 316]

【例】 わげあずぎあ みんなして ひやぐにんしゅで あすだ おんだ

「若い時は、皆で百人一首で遊んだものだよ」

ひやっと [ɸijatto] [副] ひやりと。[続 316]

【例】 おいごす すんべどもて ではたば、めあがら くるま きて、ひやっとした

「追い越しをしようと思って出たら、前から車が来て、ひやりとしたよ」

ひやみし [ɸijamisĩ] 冷や飯。[続 316]

【例】 ひやくしよの ひやみし くいて いうども、やりがだであ ええ しゆうにゆうん なんぜあ

「百姓の冷や冷飯いというが、やり方ではいい収入になるよ」

ひよえっと [pjoetto] [副] どうかすると。もののはずみで。[及 236]

【例】 ひよえっとした ひょうしで 声あ 出ねあぐなたなよ

「何かのはずみで、声が出なくなったんだよ」

ひよえっと [pjoetto] [副] ひよつこり。急に。[同] びよえっと。ひよえら。びよえら。ひよこっと。ひよっこら。[及 236]

【例】 ひよえっと つら だす おんだおん どでしたべや

「ひよつこり顔を出すものだから、びっくりしたじゃないか」

ひよーろぎ [ɸjo:roŋi] ちよろぎ。これは、しそ科の多年草で、塊茎は食用になるところから、栽培されている。[続 316]

ひよこっと [ɸjokotto] [副] ひよっこり。[同] ひよえっと。ひよっくら。[続 317]

【例】 きょう ○○さんが ひよこっと きたけ
「今日、○○さんがひよっこり来たっけ」

ひよとり 日雇。[及 79]

【例】 冬ん なっど ひよとりも なぐなるな
「冬になると、日雇の仕事もなくなるな」

ひよろっと [副] ひよろりと。[及 236]

【例】 あれあ ひよろっと なんげあ 体 してるな
「あれは、ひよろりと長い体をしているな」

この語は、「ひよろんと」ともいい、「ひよろこなんげあーひよろながい」、「ひよろなんげあーひよろながい」などの使い方がある。

ひよろなんげあ [ɸjoronaŋe] [形] ひよろ長い。[続 317]

【例】 この はな ひかげさ ゆえだら、ひよろなんげあぐなて えだ でねあな
「この花は、日影に植えたら、ひよろ長くなって、枝が出ないな」

ひら 斜面。傾斜地。[及 106]

【例】 むごうの ひらさ わらび とりん えて くんなだ
「向うの斜面にわらびを採りに行って来るんです」

ひらか [ɸiraka] げんごろう。これは、げんごろう科の水棲甲虫で、池や沼などに棲息している昆虫である。[続 317]

ひらっと [ɸiratto] [副] ひらりと。[続 317]

【例】 ちょうちょ すめんべどもて て でしたら ひらっと ねげだけ
「蝶蝶を捕まえようと思って手を出したら、ひらりと逃げたっけ」

ひらてあ [ɸirate] [形] 平たい。[続 317]

【例 1】 この やま ゆえのほあ ひらてあなだ
「この山は上の方は平たいんだよ」

【例 2】 ほれあ ひらてあぐ いうど こゆ ごどだべ
「それは平たくいうと、こういうことだろう」

ひらわがじえ [hīrawagaˈdʒe] 役のついていない住込みの雇人。[及 8]

【例】 あれあ わげあ おんではげあ まだ ひらわがじえだおん
「あれは若いものだから、まだ役のない雇人なんだよ」

ひりよーであ [ɸirjo:ˈde] 肥料代。[続 317]

【例】 たなの はだげさなのさ つかう ひりよーであも ばがんならねあ おんだな

「田や畑なんかに使う肥料代も、馬鹿にならないものだな」

ひる [動] 乾く。[及 236]

【例】 はやぐ ひるよん ひろげでおげ
「早く乾くように広げておきなさい」

ひるあがり [firūanari] [名] 昼食に帰宅すること。[及 236]

【例】 ほれぐれあんして ひるあがりすろは
「それぐらいにして、もう昼食に帰へろうよ」

ひるおり [名] 昼食後仕事に出ること。[及 236]

【例】 ひるおりの ずぶんだべはな
「昼食後の仕事に出る時間だろうな」

ひるまま [firūmama] 昼飯。[同] ひるみし。[続 317]

【例】 きょうあ えの つけあぐで はだらぐあだはげあ ひるまま いらねあ
「今日は家の近くで働くんだから、昼飯はいらないよ」

ひれ [çire] 広い。[同] ひろえ。[及 31]

【例】 ひれ ぎすぎだな
「広い座敷だな」

びれる [birerū] [下一白] 甘える。[同] あめある。そべある。[続 317]

【例】 ○○ちゃんは ばさまどご すぎで、まず ばさまどさ びれる おんだ
「○○ちゃんは、お婆さんが好きで、まあ、お婆さんに甘えるもんだ」

ひろいおの [firoioono] 拾い物。[続 317]

【例】 えま ほごで ひろいおの して きたども だれあ おどしたあだべ
「今、そこで、拾い物をして来たが、誰が落としたんだろう」

ひろこ のびる。ゆり科の多年草。[及 94]

【例】 なえだて おめあまだ えぐ ひろこなの とて きたごど
「まあ、あなたは、よくのびるなんか摘んで来ましたね」

ひろば [名] 広場。[及 236]

【例】 道路で あすばねあで ひろばで あすべ
「道路で遊ばないで、広場で遊びない」

びろびろ [名] 帯代裸。[同] びろしゃら。[及 236]

【例】 なんだ びろびろて ありぐどごあ
「なんだ、おびしろはだかですくなんて」

びんがだ [binṅada] 雪山を作り瓶を滑べらせる遊び。これは、雪の山にうず巻き状に、瓶の滑べる道を作り、瓶を上から滑らせて遊ぶ遊びの一種であるが、今の子供はしていない。[続 318]

ひんこ [名] 品行。行い。品。品位。[及 236]

【例1】 あの しとあ ひんこの ええ しとだな
「あの人は、品行のいい人だね」

【例2】 ○○さんあ ひんこの ある しとだ
「○○さんは、品位のある人だね」

びんしゅ [名] 祝宴。結婚式の翌日、式に招かなかった、隣近所の人や知人等を招いて行う祝宴をいう。[同] びんしゅう。[及 237]

【例】 今日あ、○○さんの びんしゅさ よばっだ
「今日は、○○さんの結婚式後の祝宴に招かれたよ」

びんぞる [動] のけぞる。[同] びんぞる。[及 237]

【例】 すらんねあはげあ もと びんぞれや
「剃られないから、もっとのけぞれよ」

びんどろ [binⁿdoro] 覗き眼鏡。これは、箱の中に絵が入れてあり、レンズを覗くと、絵を移動させて見せる見せ物の一種である。今はこれを見せに歩く商売人はいなくなった。[続 318]

ひんなぐる [hinnagürü] [動] ひったくる。急に奪い取る。[同] ひなぐる。[及 237]

【例】 なんだ しとの おの ひんなぐりあがて
「なんだ 人の物をひったくりやがって」

ひんぬぐ [hinnügü] [動] [強調] 抜く。抜くの強調語。[及 237]

【例】 ほごらあたりの 草でも ひんぬえで おげ
「そこらあたりの、草を抜いておけよ」

ひんねず [ɸinnɛdzü] [形] けち臭い。[続 318]

【例】 ひんねず おんで、ろくだ さがなも かて かへねああだぜあ
「けち臭いもんで、ろくな魚も買って食わせないだよ」

ひんひん [ɸinɸin] [副] 日に日に。[続 318]

【例】 なずも おわりん なてきて、これがらは ひんひん さみぐなるばんだな
「夏も終りになってきて、これからは日に日に寒くなるばかりだな」

びんぼ [名] 貧乏。[及 237]

【例】 びんぼなの いづまでも つづぐ おんでねあ
「貧乏なんか、何時迄も続くもんじゃないよ」

この語には、「びんぼぼろぎ一貧乏ゆすり」などの使い方がある。

びんぼたらす [binbotarasü] [形] 貧乏臭い。[続 318]

【例】 よそさ えぐ ずぎあ ほんた びんぼたらす かっこして えくおんでねあ
「他所へ行く時は、そんな貧乏臭い格構をして行くもんじゃないよ」

ひんむぐ [ɸinnmügü] [四他] [強調] 剥く。剥くの強調語。[続 318]

【例】 こらっ、ずほなの こくど つらの かわ ひんむぐぞ

「こらっ、嘘なんか吐くと、面の皮を剥くよ」

— 心 —

心 [φúú] ふう。うわさ。風聞。らしい。[続 318]

【例】 ○○さん こんだ たいいんした ふだであな えがったな
「○○さんは、今度退院したふうだってね、よかったな」

ぶあず [búúadzúú] [形] 分厚い。[続 318]

【例】 ○○さん えさ えたば ぶあず ざぶどんさ ねまらへだけ
「○○さんの家へ行ったら、分厚い座布団に坐わらせたっけ」

ふあっと [φúúatto] [副] ふわりと。[続 319]

【例 1】 きょうあ さみどもたら ふあっとした ゆぎあ ふったけ
「今日は、寒いと思ったら、ふわりとした雪が降っていたっけ」

【例 2】 ふあっとした はねぶどん
「ふわりとした羽布団」

ぶあっと [副] ぶわりと。物をかぶせるさま。[同] ぶわっと。[及 237]

【例】 おじえんさ なにが つぎ ぶあっと かぶへでおげ
「お膳に、何か布をぶわりとかぶせておいてくれ」

ふあふあ [φúúaphúúa] [副] ふわふわ。[続 319]

【例 1】 わだ ぶずなおしたら ふあふあの ふとん なた
「綿を打ち直したら、ふわふわの布団になったよ」

【例 2】 かじえで かみあ ふあふあど とばさった
「風で、紙がふわふわと飛ばされたよ」

ふあんねあ [φúúanne] [ナ名ノ] 不案内。[続 319]

【例 1】 この やま ふあんねあだはげあ つで えてころ
「この山は不案内だから、連れて行って下さい」

【例 2】 おれあ どうも ほの ほあ ふあんねあでな
「私は、どうもその方には不案内でね」

ふうぐろ [φúú:gúúro] ふくろう。ふくろう科の夜行性の鳥。[同] ふぐろ。[及 94]

【例】 ああ ふうぐろあ ねあっだ あしたあ てんきだな
「ああ、ふくろうが鳴いている、明日は天気がいいな」

ふうであ [名] 風袋。[及 237]

【例】 ふうであがら みで なんきろ あるや
「風袋のまま、何 kg あるの」

ふーてあー [fū:te:] 風体。[続 319]

【例】 どごの しとだべ みなれねあ ふーてあーの しとだ ごど
「何処の人なんだろう、見馴れない風体の人だね」

ぶーぶー [bū:bū:] [幼児語] 自動車。[続 319]

【例】 ○○ちゃん ぶーぶーあ おかねあはげあな
「○○ちゃん、自動車は怖いからね」

ふーれあーぼ [fū:re:bo] 風来坊。[続 319]

【例】 いずまでも ふーれあーぼで いねあで はやぐ ていしょぐさ つげ
「何時までも風来坊でいないで、早く定☑に付けよ」

ぶえあーそ [bū:so] [名/ダナ] 不愛想。[続 319]

【例】 ○○だば ぶえあーそだ しとだな えぎあても しらねあふりだおん
「○○なら不愛想な人だね、行き会っても、知らない振りだからな」

ふえご [fū:go] 鞆。[続 319]

【例】 ふえごあ、むがすあ どやどが かずやで つかたども えまだば みらんねあは
「ふいごは、昔は鋳掛屋とか、鍛冶屋で使ったが、今はもう見られないね」

ぶえっと [pūetto] [副] ぶいと。[続 319]

【例】 なにあ きさ さわた おんだが ぶえっと ではて えてしまった おんだ
「何が気に障ったものなのか、ぶいと出て行ってしまったもんだ」

ふがぐづ [fū:kagūdzū] 長靴。[及 60]

【例】 おどつつあ、ふかぐづあ ぬっだは
「お父さん、長靴が濡れてしまったよ」

ふかげる [fū:kagerū] [動] ふつかける。[及 237]

【例 1】 ぜえぶん ふかげる おんだな
「随分ふつかけるものだね」

【例 2】 かじえに ふかけらっで トダン はげだは
「風にふつかけられて、トタン板が剥げてしまったよ」

ぶかげる [bū:kagerū] [下一他] ぶっかける。[続 320]

【例 1】 いだずらすっど みず ぶかげんぞ
「いたずらをする、水をぶっかけるよ」

【例 2】 ほんたおの ほごさ ぶかけで おえだて だめだ
「そんなものをそこへぶっ掛けておいたって駄目だよ」

ふかす [fū:kasū] おこわ。赤飯。[同] おふかし。あずぎまま。[続 320]

【例】 きょうあ ○○ちゃんの たんじょうびだはげあ ふかすでも つぐんべ
「今日は○○ちゃんの誕生日だから、おこわでも作ろう」

ふかすがま [fukasukasūgama] 蒸し器。[続 320]

【例】 まま つみであぐなたはげあ ふかすがまで あためんべ
「ご飯が冷めなくなったから、蒸し器で暖ためよう」

ぶがぶが [būgabūga] [形] ぶかぶか。だぶだぶ。[及 237]

【例】 この ズボンだば ぶがぶがたな
「このズボンなら、ぶかぶかだな」

ふがらまる [fūgaramarū] [四自] 絡まる。[同] ふんがらまる。[続 320]

【例】 やぶ ありたら、あすき つるあ ふがらまで ひでがった
「藪を歩いたら、足に蔓が絡まってひどかったよ」

ふがらむ [fūgaramū] [動] 踏む。[同] ふずげる。ふんがらむ。[及 238]

【例】 ふがらで ありがねあで よへろや
「踏んで歩かないで、寄せなさい」

ぶからむ [ぶ] ぶつつける。[及 238]

【例】 しとんどさ、いすころなの ぶからむなよ
「人に石ころなんかぶつつけるなよ」

ふぎ [fūgī] 吹雪。[及 107]

【例】 ふぎあ ふぐはげあ 車 きいつけろよ
「吹雪が吹くから、車は気をつけろよ」

ふぎおろす [fūgiorosū] 吹き下ろし。これは、嶺の方から谷へ、吹雪が吹き下ろすことをいう。[続 320]

ふぎげあ [fūgīge] 葺き替え。屋根の葺き替え。[及 52]

【例】 屋根 ふぎげあ すねあんねあなは
「もう、屋根の葺き替えをしないといけないな」

ふぎげあ [fūgīge] 葺き替え。[続 320]

【例】 やねの トダン くさて きたはげあ ふぎげあ しねあんねあな
「屋根のトタンが腐ってきたから、葺き替えをしないといけないな」

ぶきच्चよねあ [būkittjone] [名/ダナ] 不愛想。[続 320]

【例】 ○○だば ぶきच्चよねあ しとだな、しゃべたて ろぐだ へんずもすねあおん
「○○なら不愛想な人だね、話をしても、ろくな返事もしないからな」

ふぎつつあらす [fūgittsarasū] 吹き曝し。[続 320]

【例】 きょうあ ふぎつつあらすん どごで すごとして ひでがった
「今日は、吹き曝しの所で仕事をして、ひどかったよ」

ふぎどり [fūgīdori] 遭難。特に吹雪による遭難をいう。[及 107]

【例】 こんげあ 吹ぐ ずぎあ ふぎどりん あうんだはげあ えぐなは
「こんなに吹雪く時には、遭難するといけないから、もう行くなよ」

ふぐ [fūgū] [四自] 吹雪く。[続 320]

【例】 きょうまだ めっぼ ふぐ おんで、おもでなの ありがんねあ
「今日は、滅法吹雪くもんで、外なんか歩けないよ」

ふぐじゅーそ [fūgū'dzū:so] 福寿草。[続 321]

【例】 はるさぎ ゆぎあ けっど いずばん さぎん さぐな ふぐじゅーそだな
「春先に、雪が消えると、一番先に咲くのが福寿草だね」

ふぐす [fūgūsū] [形] 裕福だ。富んでいる。福しい。[及 238]

【例】 あそごの えあ ふぐす えだ
「あそこの家は、裕福な家だよ」

ふぐず [fūgū'dzū] 服地。[続 321]

【例】 ふぐず えらでころ なてゆたて、ほの しのの このみあ わがらねあばな
「服地を選んでくれ、なんていったって、その人の好みが分らなければね」

ふぐだけ [fūgūdake] 産毛。[及 12]

【例】 おめあの ひてあなの 耳さ ふぐだけあ おえっだな
「お前の額や耳に産毛が生えているね」

ふぐだけ [fūgūdake] 産毛。[同] んぶげ。[続 321]

【例】 くびの あだりの ふぐだけ すこす すてくんねあが
「首のあたりの産毛を少し剃ってくれないか」

ふぐだず [fūgūdadzū] 茎立ち。[続 321]

【例】 はるさぎん ふぐだず くよん なっばでも ゆえで おぐが
「春先に、茎立ちを食べるように、菜でも植えておこうか」

ふぐだびつき [fūgūdabikki] がま。がまがえる。ひき蛙。[及 95]

【例】 やだごど、ふぐだびつきあ ではて 来たじゅ
「嫌だこと、がま蛙が出て来たよ」

ふぐぶぐす [fūgūbūgūsū] [形] 福福しい。[続 321]

【例】 おめあえの つあつあまだ いっつも にこにこて ふぐぶぐす つらしてるな
「お宅のお父さんは、何時もにこにこして、福福しい顔をしているね」

ふぐれこ [fūgūrēko] あられ。あられ餅。[及 43]

【例】 えま ふぐれこさ さど醤油 つけで かへっさげな
「今、あられ餅に砂糖醤油をつけて、食べさせますからね」

ふぐろや [fūgūroja] 立木の伐倒用の楔。これは、鉄製の楔で、頭に穴があり、この穴に木を刺

し込んで、伐倒の際受口に打ち込むものである。これを打つ斧の頭が傷まないようにするためである。[続 321]

ふげあーねあ [fũŋe:ne] [形] 不甲斐ない。[続 321]

【例】 ほんたごども かえけず でげねあなて、ふげあーねあ おんだ
「そんなことも解決出来ないなんて、不甲斐ないものだよ」

ふけーぜあー [fũkẽ:"dze:] [名/ダナ] 不経済。[続 321]

【例】 えまの わげあおのあ ふけーぜあーて いうごど すらねあ おんだんねあべが
「今の若い者は、不経済ということ、知らないんじゃないだろうか」

ふけぎ [fũkẽgĩ] [形] 不景気。[及 238]

【例】 今年あ ふけぎで くらしにぐえな
「今年は、不景気で、暮しにくいね」

ふけさめ [fũkẽsame] 浮き沈み。この語は、「よくなったり、悪くなったり」することをいい、病気、天候、景気などいろいろの事柄に「ふけさめがある（ない）」ないなどと使われている。[続 321]

ふける [動] 風化する。[及 107]

【例】 どであ ふけで ぼろぼろん なてきたな
「土台が風化して、ぼろぼろになってきたな」

ふごぐる [fũgõgũrũ] [動] 踏みつける。[及 238]

【例】 へび ほんげあ ふごぐっど ただらえんぞ
「蛇をそんなに踏みつけると、崇られるよ」

ぶごぐる [fũgõgũrũ] [動] 縛る。[及 238]

【例】 ほんげあ ごがする おのあ ふごくて おげ
「そんなにごねる奴は、縛っておけよ」

ぶごぐる [fũgõgũrũ] [動] あばれる。ごねる。[及 238]

【例】 なにあ おもへぐねあくて ふごぐるおんだ
「何が面白くなってあばれるんだ」

ふごむ [fũgõmũ] [動] 土足のまま、いろりの中に足を入れて暖まること。冬、わら靴で歩くと、わら靴が凍ることがよくあるが、そんな時、他家の者であれば、主人が、「ふごめ、ふごめ」といって、わら靴のまま足をいろりに入れさせ、暖をとらせたものである。[及 238]

ぶこむ [動] ぶち込む。投げ入れる。[及 238]

【例】 たなげさ いす ぶこむなよ
「池に石をぶち込むんじゃないよ」

ぶころす [bũkõrosũ] ぶち殺す。[続 321]

【例】 のらねごの つぎしよ えん ながまで あらすはげあ、ぶころしてくえる

「野良猫の畜生、家の中まで荒すから、ぶちころしてやる」

ぶころぶ [動] [強調] 転ぶ。転ぶの強調語。[同] ぶづごろぶ。[及 240]

【例】 あんまり はすっど ぶころぶぞ

「あまり走ると転ぶよ」

ふさわす [φūsawasū] [形] 相応しい。[続 322]

【例】 あそごの えさ ふさわす おどなす ええ よめこ もらた おんだな

「あそこの家に相応しい、おとなしい いい嫁を貰ったもんだね」

ぶしゃわへ [名] 不仕合せ。不幸。不運。[同] ぶっしゃわへ。[及 238]

【例】 ぶしゃわへずあ つづぐ おんだじゅ

「不仕合せというものは続くものだよ」

ふじゅ [名] 不自由。[同] ふじよ。[及 238]

【例】 ふじゅだ おのあ ねあが あれば まづがら かて くんぞ

「不自由な物がないかい、あれば、町から買って来るよ」

ぶじゅぐ [būⁿdzūgū] [名/ス他] 侮辱。[続 322]

【例】 ○○あ びんぼだどて ぶじゅぐさだどて ごしえあっだけ

「○○は、貧乏だって、侮辱されたといって怒っておったっけ」

ふじよーにず [φūⁿdzo:nīdzū] 厄日。[続 322]

【例】 きょうあ ふじよーにずだはげあ んめこ くて くるまさ きいつけろよ

「今日は厄日だから、梅干しを食べて、車に気を付けろよ」

ぶしよへげ [būjohēge] 不精髭。[続 322]

【例】 ええ わげあおのあ ぶしよへげなの たらして、めくせあ ごどな

「いい若い者が、不精髭なんか生やして、醜いことね」

ぶじよほ [名] 不調法。[及 239]

【例】 こねあだは どうも ぶじよほしあしたな

「この間は、どうも不調法しましたね」

ふす 節。竹などの節をいう。[及 95]

【例】 たげのごあ ふすの かであ だごあ とれよ

「竹の子は、節の固いところをとるんだよ」

ふず [φūⁿdzū] 不治。[続 322]

【例】 おら すらねがったども、とうにゆうびようて、ふずの やめあだあだど

「私は知らなかったが、糖尿病って、不治の病なんだそうだね」

ぶす [būsū] とりかぶと。きんぼうげ科の多年生有毒草本。[及 95]

【例】 ぶすずあ とでも 毒あ あて おかねあ おんだ

「とりかぶというのは、とても毒があって、おつかないもんだよ」

ぶすいろ [名] 暗紫色。[及 31]

【例】 なんぼが さみがったべあ くづびら ぶすいろん さへで
「どんなに寒むかったろうに、唇を暗紫色にさせて」

ぶすいろ [būsüiro] 暗紫色。この語は、寒さで、唇の色や、肌が暗紫になった時に使っている。

[続 322]

【例】 さみくて、くずびるあ ぶすいろん なたは
「寒くて、唇が暗紫色になってしまったよ」

ぶすかす [büstükasü] [副] ぶすぶす。これは、怒り不満を表わすことだけに使われ、火が煙を出して燃える意味には使わない語である。[続 322]

【例】 ぶすかすて もんくばり ゆて
「ぶすぶすと文句ばかりいって」

ぶすくれつら [名] ふくれつら。不平そうな顔。[及 239]

【例】 ないだ ぶすくれつらして
「なんだい、ふくれつらして」

ぶすくれる [動] ふくれる。[及 239]

【例】 ほんげあ ぶすくれる おんでねあ
「そんなにふくれるもんじゃないよ」

ぶすくれる [動] ふくれる。[及 32]

【例】 ぶすくれで なにあ おもへぐねあなだや
「ふくれて、何が面白くないんだ」
不平不満をいうことを「ぶすかすて」と使っている。

ぶすこ 花穂。かわやなぎなどの花穂をいう。川などの水辺に生える柳の花穂をいう。[及 95]

【例】 かわばださ ぶすこあ でっだけは
「川端にもう柳の花穂が出ていっけ」

ぶすごれる [büdzügorerü] [下一自] こわれる。[続 322]

【例】 ほれ わらしたずあ ちよすど ぶすごれっさげあ ちよすな
「それは、子供がさわるとこわれるから、さわるなよ」

ぶすにんずん [φüsüninⁿdzün] とちばにんじん。これは、うこぎ科の多年生草本で、根茎が竹の節に似ているところから、ちくせつにんじん、ともいわれ、山地の木の下などに生えるものである。[続 322]

ぶすびてあ [φürⁿdzüpite] 富士額。[同] ぶすびであ。[及 12]

【例】 ええごど おめあな ぶすびてあだじゆは
「いいわね、あなたのは富士額なんですね」

ぶすほ [büdzüho] [ナ名ノ] 不調法。[同] ぶじよほ。[続 323]

【例】 へっかぐ ごぎたなさ おじゃも ださねあで ぶずほしあした
「折角いらしたのに、お茶も出さないで不調法しました」

ふすます [fūsūmasū] 節回し。[続 323]

【例】 ほの うだだば ○○さんさ うだわへてみる ふすますあ じょんだぞ
「その唄なら、○○さんに唄わせてみるよ、節回しが上手だよ」

ぶすまつ [名] 不仕末。[及 239]

【例】 おれあえであ ぶすまつで まだ さづぎ さんねあ
「うちでは、不仕末で、まだ田植えが出来ないんです」

ぶすらっと [副] ぶすっと。[及 239]

【例】 なに ぶすらっと した つら してんなや
「何でぶすっとした面をしてるんだい」

ぶすんへず [būsūnhēdzū] [名/ノダナ] 不親切。[続 323]

【例】 しとんどさ ぶすんへずだ ごと すっど おわも さえる おんだぞ
「人に不親切なことをすると、自分もされるものだよ」

ぶぜあーぐ [bū^hdze:gū] [名/ダナ] 不細工。[続 323]

【例】 これあ だれあ こしえあだあだが めっぼ ぶぜあーぐだ おんだな
「これは、誰が作ったのか、滅法不細工なものだな」

ふだ [形] ふんだん。豊富。[及 239]

【例】 こどすあ 栗あ ふだに なた 年だな
「今年は、栗がふんだんに成った年だね」

ふだ [副] 豊富。沢山。[及 32]

【例】 おめあえであ、であごあ ふだだよだな
「お宅では大根が豊富なようだね」

この語を強調したのに「ふだふだ」がある

ふたがる [fūtatarū] [動] 中に入っかばう。[及 239]

【例】 おどおとあ しとに かもわっだら、中さ へあて ふたがる おんだぞ
「弟が人にかまわれたら、中に入っかばってやるもんだよ」

ふたがる [fūtatarū] [動] ふさがる。[及 239]

【例】 どがん ごみで ふたがるは
「土管がごみでふさがってしまうよ」

ぶたぎる [būtagirū] [動] ぶった切る。[及 239]

【例】 じゃまん なる 木 ぶたぎてしまえは
「じゃまにな木をぶたぎてしまいなさいよ」

ふたぐ [fūtargū] [動] 塞ぐ。[及 239]

【例】 兎あ へあっさげあ ほの 穴 ふたえでころ
「兎が入るから、その穴をふさいでくれ」

ぶたぐ [būtagū] [動] たたく。打つ。[及 239]

【例】 つあつあ あんつあ ぶたぐ
「お父さん、兄さんがたたくよ」

この語は、「ぶただぐ」とも使い、この語を強調する語に、「ぶっただぐ」がある。

ふだぐる [fūdāgurū] [四他] ふんだくる。[続 323]

【例】 かさねあて ゆたて かへどて ふだぐるよん して もて えたは
「貸さないといっても、貸せといつて、ふんだくるようにして持って行ってしまったよ」

ふだぐる [fūdāgurū] [動] ふんだくる。[及 239]

【例】 しのの おの ふだぐる おんでねあぞ
「人の物をふんだくるもんじゃないよ」

ふたんなる [fūtannarū] [四他] 庇う。[続 323]

【例】 おとうさんに ごしやがって むぞせあはげあ ふたんてやた
「お父さんに叱られて、可哀そうだから庇ってやったよ」

ふづ [名] 縁。[及 239]

【例 1】 茶碗の ふづあ かげたは
「茶碗の縁が欠けてしまったよ」

【例 2】 かげぶづさ えぐなよ
「崖っぶちへ行くんじゃないよ」

ふづ [fūdzu] 渚。川の深くよどんでいる所。[及 107]

【例】 あそごの ふづにあ おっき ざっこあ いんぜあ
「あそこの渚には、大きい雑魚がいるよ」

ぶづ [名] 斑。[及 240]

【例】 おれあえの 犬あ 白ど 黒の ぶづだ
「うちの犬は、白と黒のぶちなんだ」

ぶづ [動] 打つ。[及 240]

【例 1】 鉄砲 ぶづ ずきあ きいつけるよ
「鉄砲を打つ時は、気をつけろよ」

【例 2】 くえ ぶづな てづだてくんねあが
「杭を打つのを手伝ってこないか」

ぶづがす らくがん。和菓子的一种。このらくがんの形を蓮の花の形に作ったものを「ほうずがす」

といって仏事に使う菓子がある。[及 43]

【例】 お土産に ぶづがす もらたけ

「お土産にらくがンを貰ったつけ」

ふつぐ [φüdzüügü] [動] くつつく。接着する。付く。[同] ふつつぐ。[及 240]

【例】 ほの 糊で ふつぐ おんだがや
「その糊でくつつくものなのかい」

ふづぐる [φüdzüügürü] [動] ごねる。暴れる。[及 240]

【例】 こらっ、まだ ふづぐる
「こらっ、またごねる」

ふっけあ [φükke] 深い。[及 32]

【例】 この 沼 ふっけあ 沼だごと
「この沼は深い沼だこと」

ふっけあす [動] ふき返す。息を吹き返えすこと。[及 240]

【例】 死だどもたら、いぎふっけあして きたけど
「死んだ、と思ったら、息を吹き返えして来たんだそうだ」

ぶっけあす [動] ぶつ倒す。[及 240]

【例】 あの 木 ぶっけあすべ
「あの木をぶつ倒そう」

ふづげる [φü'dzügerü] [動] ふんづける。踏みつける。[及 240]

【例】 しゃぐん さわさげあ ふづげでくっだ
「しゃくにさわるから、ふんづけてやった」

ぶつける [bütsükerü] ぶつつける。[続 323]

【例】 しとんどさ いしこなの ぶつけんなよ、けが さへっど えぐねあはげあな
「人に小石なんかぶつつけるなよ、怪我をさせるといけないからね」

ぶづごす [büdzügosü] [動] ぶちこわす。[同] ぼこす。[及 240]

【例】 ほれ ぶづごすなや
「それをぶちこわすなよ」

ふっこむ [動] 吹き込む。室内に、雨や風、雪などが吹き入ること。[及 107]

【例】 雨あ ふっこむ まづ 早ぐ 戸 たでろ
「雨が吹き込むから、まづ早く戸を閉めるよ」

ぶっこむ [bükkomü] [四他] ぶち込む。[続 323]

【例 1】 たなげさ いし ぶっこむ
「池に石をぶち込む」

【例 2】 くさび ぶっこむ
「楔をぶち込む」

ぶっころぶ [bükkorobü] [四自] [強調] 転ぶ。転ぶの強調語。[続 323]

【例】 ○○ちゃん ほんげあ はすっど ぶっころぶぞ
「○○ちゃん、そんなに走ると転ぶよ」

ぶっこわす [būkkowasū] [四他] ぶちこわす。[同] ぶずぐす。ぼこす。[続 324]

【例 1】 えんだん ぶっこわさっだは
「縁談をぶちこわされてしまったよ」

【例 2】 ほの はご ぶっこわす おの ねあべな
「その箱をぶちこわす奴がないじゃないか」

ぶっしやわへ [būjʃawahe] [名/ダナ] 不仕合わせ。[同] ぶしやわへ。[続 324]

【例】 ○○さんも ぶっしやわへだ しとだな、こんだ むすこ なぐしたど
「○○さんも不仕合わせな人だね、今度は息子を亡くしたそうだ」

ぶっちやばぐ [būttʃabagū] [四他] [強調] 裂く。裂くの強調語。この語は、物を引き裂くことだけに使い、人の仲を裂いたり、小遣を割くなどの意味には使わない語である。[同] しちやばぐ。[続 324]

ぶつつあらう [būtttsarāu] [四自] [強調] 歩く。歩くの強調語。この語は、酒に酔って、わめいて歩いたり、用事を思い出して走ったりすることをいう。また、この語は「ぶつつあらてありぐ」の形で使っている。[続 324]

【例 1】 ないなおんだが、○○あ ぶつつあらて ありぐな
「どうしたのか、○○は走り歩いているね」

【例 2】 ○○あ よっばらて おもで ぶつつあらて ありぐ
「○○は酔っ払って、外をわめき歩いているよ」

ぶつつげあ [būtttsūŋe] ぶっ違い。[続 324]

【例】 ほごあ ぐらつぐはげあ、いだ ぶつつげあん ぶて おえでころ
「そこは、ぐらつくから、板をぶっ違いに打っておいてくれ」

ふつと [副] ふつり。[及 240]

【例】 ふつと おどさだ ねあぐなたは
「ふつり音沙汰がなくなってしまった」

ふつと [fūtttsūtto] [副] ふつり。[続 324]

【例】 つかごろ ○○さん ふつと こねあぐなたな、どごが わりなだべが
「近頃、○○さんはふつり来なくなったな、何処か悪いんだろうか」

ぶつと [pūtttsūtto] [副] ぶつり。[続 324]

【例 1】 いどあ ぶつと きっだは
「糸がぶつり切れてしまったよ」

【例 2】 へげさ みずあ ぶつと こねあぐなた
「用水路に水がぶつり来なくなった」

なお、強い力を加えて切れるさまを「ぶつと」といっている。

ぶつつめる [büttsümerü] [四他] 叩く。この語は、単に叩くばかりではなしに、憎憎しい態度や、苛めるような態度で、叩いたり、言葉で、相手をいためつけることをいう。[続 324]

【例】 しとな えの おぼご いじめで にぐえ やろだ こっちゃ こえ んつあどごも ぶつつめでくえっさげあ

「人（私）の家の子供を苛めて憎い野郎だ、こっちへ来い、お前も叩いてやるから」

ぶつつらがす [büttsüragasü] [動] 散らかす。散らすの強調語。[及 240]

【例】 まだ ぶつつらがして、へあで おげよ

「また散らかして、掃いておけよ」

この語の強調語でない普通の使い方は「つらがす」、「つらす」である。

ふって [形] 大胆。太い。[及 240]

【例 1】 あの おどごだば、胆の ふって おどごだ

「あの男なら、大胆な男だ」

【例 2】 この 木あ ぜえぶん ふって 木だな

「この木は、随分太い木だな」

【例 3】 こえの ふって しとだ

「声の太い人だ」

【例 4】 この やろ ふって やろだ

「この野郎、太い野郎だ」

ふって [fütte:] 太い。[及 32]

【例 1】 この 木あ ふってな

「この木は太いね」

【例 2】 この やろあ ふって やろだ

「この野郎は太い野郎だ」

ぶつとす [büttsosü] [強調] 通す。通すの強調語。[続 325]

【例 1】 こんだ ほつつの みず こつつまで ぶつとすなだど

「今度、そっちの道路をこっちまで通すのだそうだ」

【例 2】 ほの あなさ この ひぼ ぶつとしてくんねあが

「その穴に、この紐を通してくれないか」

ふつとめ [füttoṃe] 太め。[続 325]

【例】 ござ まぐなだば、ほれより もすこす ふつとめの はねがねあ えな

「ここに巻くのならば、それよりもう少し太めの針金がいいな」

ぶつとめ [büttoṃe] 一番奥。谷や沢などの行きどまり。[続 325]

【例】 この さわの ぶつとめあたりまで えぐど みず とるえぜあ

「この沢の行き止りまで行くと、みずな（山菜）がとられるよ」

ぶづわる [動] ぶち割る。[及 240]

【例】 ほんた おの ぶづわてしまえ
「そんな物、ぶち割ってしまえよ」

ぶであー [būde:] 舞台。[続 325]

【例】 おまずりん ずぎの ぶであーは せいねんかいの したずあ つくつくえっど
「お祭りの時の舞台は、青年会の人達が作ってくれるそうだ」

ぶて一せあー [būte:se:] [ナ名ノ] 不体裁。[続 325]

【例】 しとの えさ もて えぐなだば、ほれであ ぶて一せあーだんねあが
「他所の家へ持って行くのなら、それでは不体裁じゃないか」

ふでえれ [fūⁿdēre] 筆入れ。[続 325]

【例】 ○○ちゃん ふでえれ わすっだぞ ほれ わすっだら べんきょうあ でけねあべ
「○○ちゃん、筆入れを忘れたよ、それを忘れたら勉強が出来ないだろう」

ふてきだす [fūte:kidasū] [下一自] 不貞腐れる。[続 325]

【例】 おわ きにくわねあ ごど ゆわっだ おんだはげあ、ふてきだして へんずもすねあ
「自分の気にくわないことをいわれたものだから、不貞腐れて返事もしないよ」

ふでげ [fūⁿdēge] [ナ名ノ] 不出来。[続 326]

【例】 こどすあ ひでりつずぎで なすも ふでげで こまた おんだ
「今年は日照り続きで、梨も不出来で、困ったもんだよ」

ふてこえ 図図しい。[及 32]

【例】 ふてこえ ごど、しごども すねあで、いづまで ねがしゃてんなだ
「図図しいこと、仕事もしないで、何時まで寝てけつかるんだ」

ふでずげあ [fūⁿdēdzūge] 筆遣い。[続 325]

【例】 ○○ちゃん ほごの ふでずげあは こげあする おんだ
「○○ちゃん、その筆遣いはこうするものだよ」

ふてって [fūte:tte] [ナ名ノ] 不徹底。[続 326]

【例】 このだびの むらの とりきめあ ふてってだよだな
「この度の村の取り決めは、不徹底なようだね」

ふでぶしよ [fūⁿdēbūjo] [ナ名ノ] 筆不精。[続 326]

【例】 ふでぶしよで ごぶさだしてあすども みなさん おがわりござへんべ
「筆不精で、ご無沙汰しておりますが、皆さんお変わりございませんでしょう」

ふてぶです [fūte:būdesū] [形] ふてぶてしい。[続 326]

【例】 これだば ふてぶですくて あやまれて ゆたて あやまりも しねああだぜあ
「こいつは、ふてぶてしくて、謝まれといっても、謝まりもしないんだよ」

ぶどり [būdori] 劣る。不美人。[続 326]

【例 1】 こつつなより ぶどりだはげあ、うりおのん ならねあな

「こっちのより劣るから、売り物にならないな」

【例2】 どごの おなごだが ぶどりだ おなごたな

「何処の女なのか、不美人な女だね」

ぶなかのが ぶなはりたけ。ぶなの木に出るきのこで、食用になる。[及 95]

【例】 ぶなかのが にぐあ あづくて んめあ おんだ

「ぶなはりたけは、肉が厚くて、うまいものだよ」

ぶなぐる [būnaḡūrū] [下一他] ぶん殴る。[続 326]

【例】 あんまり つべこべ わがらねあ ごど ぬがすど ぶなぐんぞ

「余りつべこべ分らないことをいうと、ぶん殴るよ」

ぶなげる [動] ぶんなげる。[及 241]

【例】 ぶなげで よごさねあで ちゃんと わだへや

「ぶん投げてよこさないで、ちゃんと渡せよ」

ふねこぎ [fūnekoḡi] 居眠り。[続 326]

【例】 なんぼが くたびっだんだが テレビ みながら ふねこぎだは

「どんなに疲れたんだらうね、テレビを見ながら、もう居眠りだよ」

ふばる [fūbarū] [四自] 踏んばる。[続 326]

【例】 ええ わげあおのあ よわね へあで、こごあ ふばりどごだべな

「いい若い者が、弱音を吐いて、ここが踏んばりどころじゃないか」

ぶま [名] 不運。不幸。[同] ぶんま。[及 241]

【例】 なんだが ぶまな ごどばり つづぐ おんだ

「なんだか不運なことばかり続くもんだ」

ふみであ [fūmi^mde] 踏み台。[続 326]

【例】 かみだな そうずすさげあ、ふみであ もて きてくんねあが

「神棚を掃除するから、踏み台を持って来てくれないか」

ふゆおの [fūjūono] 冬物。[続 327]

【例】 こんだ あたこぐなたはげあ ふゆおのあ いらねあぐなたなは

「今度は暖たかくなつたから、もう冬物はいらなくなつたな」

ふゆみず [fūjūmidzū] 冬道。これは、冬期間の雪のある道をいう。[続 327]

【例】 ふゆみずあ くるま すべて おかねあな

「冬道は、車が滑べっておっかないね」

ふよーじよ [fūjo:^mdzo] [ナ名ノ] 不養生。[続 327]

【例】 ずさまも ええ とすだはげあ ふよーじよしねあでころよ

「お爺さんも、いい年だから、不養生しないでくれよ」

ふらっと [fūratto] [副] ふらりと。[続 327]

【例】 すこす さんぽでも すっがどもて ふらっと ではて きてみだあだ
「少し散歩でもしようかと思って、ふらりと出て来てみたんだ」

ぶらっと [būratto] [副] ぶらりと。[続 327]

【例 1】 ぶらっと ではたば、ほごで ともだずど あて、たずばなす してきた
「ぶらりと出たら、そこで友達と会って、立ち話をして来たよ」

【例 2】 げんかんどさ レンコートなの ぶらっと さげでんな
「玄関の所にレンコートなんかぶらりと下げておくんじないよ」

ふららふらら [fūrarafūrara] [副] ふらふら。[続 327]

【例】 ○○さん まだ よっぱらて ふららふららど くんぜあは
「○○さんは、また酔払って、ふらふらと来るよ」

ふりえあー [fūrīe:] 振り合い。[続 327]

【例】 こうでんは すんるいだずど はなすして ふりえあー きめんべ
「香典は、親類達と話をして、振り合いを決めよう」

ふりげあー [fūrīge:] 振り替え。[続 327]

【例 1】 ほごさ おぐなだば ほれあ にあわねあげあ これど ふりげあんべ
「そこへ置くのなら、それは似合わないから、これと振り替えよう」

【例 2】 かねあ この ふりげあで おくてころど
「金は、この振り替え口座で送ってくれって」

ぶりげあす [būrīgesū] [四自] ぶり返す。[続 327]

【例】 ほんげあ むりすっど びょうぎあ まだ ぶりげあすぜあは
「そんなに無理をすると、病気がまたぶり返してしまうよ」

ぶりげある [fūrīgerū] [下一他] 振り替える。[続 328]

【例】 ○○さんの はだげど おれあえの はだげ ふりげあで もらうごどん した
「○○さんの畑とうちの畑を、振り替えてもらうことにしたよ」

ぶりげある [fūrīgerū] [四他] 振り返る。[続 328]

【例】 おれあどご よばっさげあ ふりげあてみだら ががつあだけ
「私を呼ぶので、振り返って見たら、お母さんだったよ」

ぶりこ [名] 器量。[及 241]

【例】 あの わらすあ ぶりこあ ええな
「あの娘は、器量がいいね」

ふります [fūrīmasū] [四他] 振り回す。[続 328]

【例 1】 あぶねあはげあ ぼうこな の ふりまして ありぐなよ
「危ないから、棒切れなんか振り回して歩くなよ」

【例 2】 おわ こしえあだな ずまんして ふりまして ありぐなだぜあ

「自分が作ったのだと、自慢して振り回して歩くんだよ」

ふるおの [fūrūono] 古物。[続 328]

【例】 これも ふるおのん なてしまったはげあ くずやさ だしてしまうべは
「これも、古物になってしまったから、もう屑屋に出してしまおうや」

ふるくせあ [fūrūkūse] [形] 古臭い。[続 328]

【例】 ほんた ふるくせあおの きねあてて きる おのあ なんぼも あんべや
「そんな古臭い物を着なくとも、着る物は幾らでもあるだろうや」

ふるす 古い。[及 35]

【例】 この テレビも ふるすぐなたな
「このテレビも古くなったな」

ふるすぎ [fūrūsūgī] 風呂敷。[及 60]

ふるどんぐ [fūrūdōngū] 古道具。[続 328]

【例】 ふるどんぐも そまつにあ さんねあぞ、やがであ であじだ しりょう なっさげあな
「古道具も粗末にはされないよ、やがては大事な資料になるからな」

ふるふる [副] ぶるぶる。寒さや恐怖で体を振るわすさま。[及 241]

【例】 さみ おんだはげあ ふるふるて ふるえっだけ
「寒いものだから、ぶるぶるふるえていたつけ」

ふるめあ [fūrūme] [名] 振舞。もてなし。饗応。[及 241]

【例】 こどしあ としいわえの おふるめあ しねあんねあな
「今年は、年祝いのふるまいをしないといけないな」

ふるめがす [fūrūmegasū] [形] 古めかしい。[続 328]

【例】 こげあた かやぶぎの ふるめがす えなの えまだば みらんねあなは
「こんな茅葺きの古めかしい家なんか、今ならもう見られなくなってしまったね」

ふれえあ [fūrē:] 触れ合い。[続 328]

【例】 せいねんかいなの わげあしたずの ふれえあの ば もと つぐどえ な
「青年会なんかの、若い人達の触れ合いの場を、もっと作るといいな」

ぶわさわ [būwasawa] [副] ぶわぶわ。この語は、着物や寝巻姿で、裾をばたばたさせて、荒っぽく、風を出すような歩くさまをいう。[続 328]

【例】 こうおのの そば ぶわさわて ありぐな
「食べ物の側をぶわぶわさせて歩くんじゃないよ」

ふわっと [fūwatto] [副] ふわりと。[同] ふあっと。[続 329]

【例】 わだみであだ くもあ ふわっと うがんでだな
「綿みたいな雲が、ふわりと浮んでいるね」

ぶん～ [būn~] [接頭辞] 強調の接頭辞。主意を強調する語である。[続 329]

【例 1】 ぶんのめる
「のめるの強調語」

【例 2】 ぶんまぐ
「撒くの強調語」

【例 3】 ぶんまげる
「負けるの強調語」

【例 4】 ぶんもどす
「戻すの強調語」

【例 5】 ぶんながれる
「流がれるの強調語」

【例 6】 ぶんまわす
「回すの強調語」

ぶん [名] 別。[及 241]

【例】 おんなじんな ねあはげあ ぶんなで がまんするよ
「同じのがないから、別ので我慢するんだよ」

ぶん [bũn] 別。この語は、「ぶんな=別の」の形だけで使っている語である。[続 329]

【例】 ほれど これあ ぶんなだぞ
「それとこれは別のだよ」

ふんげあす [fũnŋesũ] 捻挫する。[続 329]

【例】 いすこさ けずまずで ふんげあしてしまた、いであつたら
「小石にけつまずいて、捻挫してしまったよ、痛いったら（ありあしない）」

ふんごむ [fũnŋomũ] [四自] 踏み込む。[続 329]

【例 1】 やぶさ ふんごむ
「藪に踏み込む」

【例 2】 どろたさ ふんごむ
「泥田に踏み込む」

【例 3】 えさ ふんごむ
「家に踏み込む」

【例 4】 ええはげあ ふごでこえ
「いいから踏み込みなさい」

この他に、昔は、藁靴のまま囲炉裏の中に足を入れて暖ためたものであるが、このことも「ふんごむ」といったものだった。

ふんごろばす [fũnŋorobasũ] [四他] 蹴飛ばす。[続 329]

【例】 わんわんて うるせあ いぬだな、こらっ ふんごろばしてやんぞ
「わんわんと、うるさい犬だな、こらっ、蹴とばしてやるぞ」

ふんずぶす [ɸüñⁿdzüübüsü] 踏み潰す。[続 329]

【例】 むぞせあはげあ、びっきなの ふんずぶすおんでねあぞ
「可哀そうだから、蛙なんかを踏み潰すんじゃないよ」

ふんずらべる [動] 滑べる。滑べり転ぶ。[及 241]

【例】 ゆぎみづあ つるつるて ふんずらべて ころでしました
「雪道がつるつるしていて、滑べって転んでしまったよ」

ぶんぜあー [büñⁿdze:] 分際。[続 329]

【例】 けっつの あおみも とんねあ ぶんぜあで こしゃぐだ ごど ゆわねあんだ
「尻の青味も取れない分際で、小癪なことをいうんじゃないよ」

ふんぞりげある [ɸüñdzorijerü] [動] ふんぞり返る。[及 241]

【例】 みろ えあづあ ええ ふりして ふんぞりげあてる
「みろよ、あいつは、いい振りしてふんぞり返っているよ」

ふんだで [名] 踏み場。足の踏み場。[及 241]

【例】 あすの ふんだでも ねあぐ つらがした おんだ
「足の踏み場もなく散らかしたもんだ」

ぶんて [名] 変り者。考えの違う者。[及 241]

【例】 あれあ ぶんて だはげあ かまねあ でおげ
「あれは、変り者だから、かまわないでおけよ」

ぶんて [büñtę] 別物。変り種。[続 330]

【例】 なすあ なすでも これあまだ ぶんてで あんまり おっきぐならねああだ
「茄子は茄子でも、これは別物で、余り大きくなるないんだ」

ぶんど ぶどう。葡萄の総称。「やまぶんど」、「せいようぶんど」などと使っている。[及 95]

【例】 こんだ ぶんども 出廻て来たな
「今度は葡萄も出廻って来たな」

ぶんどいろ [büñdoïro] 葡萄色。[続 330]

【例】 ほっつの ぶんどいろんなより こっつの そらいろの きおのあ えな
「そっちの葡萄色のより、こっちの空色の着物がいいね」

ぶんどかーはげご [büñdoka:hageŋo] やまぶどうの皮で作ったはげご。これは、やま葡萄の皮を一定の中に剥ぎ取り、水に漬け、後乾かして作ったはげごをいう。[続 330]

ふんどす [動] 踏み抜く。足に釘などを踏み刺すこと。[及 241]

【例】 釘あ あっさげあ ふんどすなよ
「釘があるから、踏み抜くなよ」

ふんどすいってん [ɸüñⁿdosüiitęñ] 裸一貫。[同] てぶりはずがん。[続 330]

【例】 ○○さんだば てあした おんだ ふんどすいってんで あれまで のすあがたおん

「○○さんなら、大したものだよ、裸一貫であれまでのし上がったんだから」

ぶんな [būnna] 榲。これは、ぶな科の落葉高木で、杉より保水力があり、水源林としてよく、木材としては、製紙用のパルプとして使われている。[続 330]

ぶんなぐり [būnnaḡūrī] 榲の実。榲の実は、長さ 1、5cm ぐらいで、形は三稜形をなし、そばに似ており、小鳥や小動物のよい餌になっている。[同] ぶなぐり。[続 330]

ふんぬげ [fūnnūge] [名] 腑抜け。[及 241]

【例】 ふんぬげだはげあ おどしたんだ

「腑抜けだから、落としたんだよ」

ぶんま [būnma] [ナ名ノ] ぶま。[続 330]

【例】 おめあ ぶんまだ ごど すっさげあ こんた ごどん なたあだぜあ

「お前がぶまなことをするから、こんなことになったんだよ」

ぶんま [būnma] 不幸なこと。悪いこと。[続 330]

【例】 ぶんまずあ つずぐ おんだど、んだはげあ きいつけねあんねあおんだ

「不幸なことって続くものだそうだよ、だから気を付けないといけないものだよ」

ぶんまげる [būnmagerū] [下一他] ぶちまける。[同] ぶずまげる。[続 330]

【例 1】 ほのごみ こえずがさ ぶんまげで こえ

「そのごみを堆肥場にぶちまけて来なさい」

【例 2】 ほだら、おれも おめあの ごど ぶんまげんぞ

「それなら、俺も、お前のことをぶちまけるよ」

ぶんまげる [būnmagerū] [強調] 負ける。負けるの強調語。[同] ぶずまげる。[続 331]

【例】 ろぐだ れんしゅうも しねあ おんだおん ぶんまげんな あだりめあだべ

「ろくな練習もしないんだから、負けるのは当たり前だろうよ」

ぶんます ぶんまわし。コンパス。[及 53]

【例】 ぶんますで かぐど おんなし 丸あ かげんぜあ

「ぶんまわしで書くと、同じ丸がかけるよ」

— へ —

へ [he] [助動] せ。[及 242]

【例 1】 あれ だへ
「あれを出せ」

【例 2】 こらへろ
「来らせろ」

へ [he] 背。背丈。[続 331]

【例】 この わらすあ がっこさ へあたば、へあ めっきり おっきぐなた おんだ
「この子は、学校へ入ったら、背がめっきり大きくなったもんだ」

へ [he] 丙。[続 331]

【例】 おら がっこん ずぎあ、おずど へばりで、こうなの もらたごどあ ねあな
「私が学校の時は、乙と丙ばかりで、甲なんかもらったことはないね」

へ [he] 稗。[続 331]

【例】 こどすあ たんぼさ めっぼ へあ おえだはげあ、ぬぎん えがねあんねあな
「今年は、田圃に滅法稗が生えたから、抜きに行かないといけないな」

へ [he] 所為。[続 331]

【例】 おわ わりごど したな たなさ あげで、しとの へん したて だめだべや
「自分が悪いことをしたのを柵に上げて、人の所為にしたって駄目じゃないか」

べ [助動] だろう。ろう。[及 242]

【例 1】 えぐべ
「行くだろう」

【例 2】 くえんべが
「くれるだろうか」

【例 3】 せあだべ
「咲いたろう」

【例 4】 えたべ
「行ったろう」

べ [助動] よう。そう。おう。こう。[及 242]

【例 1】 ふぐでも 着んべ

「服でも着よう」

【例 2】 はごがら 出すべ

「箱から出そう」

【例 3】 あの しとに いうべ

「あの人にいおう」

【例 4】 あつつさ えぐべ

「あっちへ行こう」

へあ [ɸɛ] 蠅。[及 95]

【例】 いながだ おんだはげあ まづ へあ いでな

「田舎なものですから、まあ、蠅がいてね」

べあ [bɛ] [名] 倍。[及 242]

【例】 2 の べあまだ 4 だべ

「2 の倍は 4 だろう」

へあー [ɸɛ:] 灰。[続 332]

【例】 えまだば ゆりりなの ねあんだし、へあーなの みらんねあな

「今なら囲炉裏なんかないんだし、灰なんかは見られないな」

べあー [bɛ:] 倍。[続 332]

【例 1】 しといすべあー

「人一倍」

【例 2】 べあーがく

「倍額」

【例 3】 いずべあー

「一倍」

【例 4】 にべあー

「二倍」

【例 5】 さんべあー

「三倍」

へあーいろ [ɸɛ:iɾo] 灰色。[続 332]

【例】 へあーいろの くもあ ひろがてきたおん、てんきあ くだりざがだな

「灰色の雲が広がって来たから、天気は下り坂だな」

べああう [beaũ] [連語] 奪い合う。[同] べあつれあ。[及 242]

【例】 きょうであで ほんげあ べああうなや

「兄弟で、そんなに奪い合うなよ」

へあーざら [ɸɛ:ɳdzara] 灰皿。[続 332]

【例】 おぎやくさま くっさげあ へあーざら あらて おげよ

「お客さまが来るから、灰皿を洗っておけよ」

へあーず [he:dzü] [代] そいつ。[続 332]

【例 1】へあーずどさも んめあおの くえろ

「そいつにもお菓子をくれなさい」

【例 2】へあーずあ えあこです

「そいつは、あいこ（みやまいらくさ）です」

べあーだ [be:da] 雑木の枝。この語は、「べあーだきり＝雑木の枝切り」。「べあーだきる＝雑木の枝を切る」の形で使う。[同] べあーだこ。[続 332]

へあーな [he:na] はえ縄。[続 332]

【例】きんなの ばんかた へあーな かげっだら、なまずまで かがたけ

「昨日の夕方延縄を仕掛けておいたら、鯰まで掛かったっけ」

べあがぐ [beŋagü] [名] 倍額。[及 242]

【例】おめあだば この べあがぐ だへや

「お前なら、この倍額出せよ」

へあだ 掃いた。[及 242]

【例】にわ へあだが

「庭（または土間）を掃いたかい」

べあだ [be:da] 造林地の雑木。[及 75]

【例】杉林さ べあだ おえで きたな

「杉林に雑木が生えて来たな」

べあだきり [be:dakiri] 除伐。造林地の雑木を伐ること。[及 75]

【例】今日あ 杉林の べあだきり しねあんねあなだ

「今日は杉林の雑木を伐らないといけないんだ」

へあただぎ [hetadagi] 蠅たたき。[及 53]

【例】ほんげあ うんとて ただぐど へあただぎあ ぼこれる

「そんなに強くたたくと、蠅たたきがこわれるよ」

へあづ [hedzü] [代] それ。[及 242]

【例】へあづ とてころ

「それを取つくれよ」

へあつけあた [hetsüketa] [連体] [卑語] そんな。そんなの卑語。[続 332]

【例】へあつけあた くさた おのあ かんねあべな なげでしまえは

「そんな腐った物は食べられないじゃないか、もう捨ててしまえよ」

へあづげあた [hedzüŋeta] [連語] [卑語] そんな。そんなの卑語。[及 242]

【例】おら へあづげあた おの いらねあな

「私はそんな物はいらぬいな」

へあつぱり [hetsüpari] [連語] [卑語] そればかり。そればかりの卑語。[続 332]

【例】 ないだ、おれあどさば へあつぱりはんて くんねあなが
「なんだ、私にはそればかりしかくれないのかい」

へあとり [名] 蠅取り。蠅取り紙。[及 242]

【例】 むがすあ ガラスの へあとりあ あった おんだ
「昔は、ガラスの蠅取り器があったものだよ」

べあなぐり [benañürü] [名] 棒切れ。栗などを落す時投げつけてやる棒切れをいう。[同] べあ。[及 242]

【例】 ほの 栗あ べあなぐり かげで おどへ
「その栗は、棒切れを投げて落とせよ」

へあならす [henarasü] 灰ならし。いろりの灰をならす道具。[及 53]

【例】 へあならすあ、おもちゃんねあばげあ もて ありたて だめだ
「灰ならしはおもちゃではないから、持ち歩いては駄目だよ」

へあよへ [fejohē] 灰寄せ。骨拾い。昔は、死体を多くの薪を積み、それで焼き、翌朝灰を取り除き骨を拾ったが、これを「へあよへ」または、「ほねこひろい」といつている。[続 332]

へありくず [feriküdzü] 入口。[続 333]

【例】 よんま なたら へありくずの とあ ちゃんと たでで おぐ おんだぞ
「夜になったら、入口の戸はきちんと締めておくものだよ」

へある [ferü] [動] 入る。[及 242]

【例】 雨あ ふっさげあ えさ へあるは
「雨が降るから、もう家に入るよ」

へえ [he:] [名] 精。[及 243]

【例】 わげあ うづあ へえ 出して はだらがねあんねあ おんだ
「若い内は、精を出して働かないといけないものだよ」

へえ [çē] 瀬。川の瀬。[及 107]

【例】 こごの えあ 夜んまなの へえの おどあ して すずすぜあ
「ここの家は、夜なんか瀬の音がして、涼しいんだよ」

へええっぺあ [he:eppe] [名] 精一杯。[及 243]

【例】 えぐ まえにづ へええっぺあ はだらぐな
「よく毎日精一杯働くね」

へーきゆうー [he:kjür:] [ダナ] 性急。[続 333]

【例】 ほんげあ へーきゆうーだ ごど ゆたて すぐなの つぐらえる おんでねあんだはげあ
「そんなに性急なことをいったって、直ぐになんか作られるもんじゃないよ」

へーきゅー [he:kjũ:] [名/ス他] 請求。[続 333]

【例】 のうきょうがら、ひりょうであ もらいであて へーきゅー きたけど
「農協から、肥料代を貰いたいといって、請求に来たっけよ」

へえけづほ [he:kɛdzũho] [名] 清潔法。大掃除をさせ検査をすること。[及 243]

【例】 ○○日あ へえけづほ だど
「○○日は、清潔法だそうだ」

へえごし [he:ŋosi] おおはんごんそう。きく科の帰化植物 北米が原産といわれている。[同] へっこし。へっこしばな。[及 95]

へーじえー [he:ˈdʒe:] 平生。[続 333]

【例】 からだ ジョギング するどがして へーじえーから きてあでおく おんだ
「体は、ジョギングをするとかして、平生から鍛えておくものだよ」

へえてあ [he:te] [名] 兵隊。[及 243]

【例】 えまの へえてあ 自衛隊て いうなだど
「今の兵隊は、自衛隊というんだそうだ」

へえへ [he:he] [副] ふうふう。息をはずませること。[及 243]

【例】 へえへて はして きたけ
「ふうふう走って来たっけ」

へーへて [he:heːte] [副] ふうふうと。[続 333]

【例】 ないが えそがす おんだが、あんまり はして ありて、えぎ きらして、へーへて ゆいながら きた おんだ
「何が忙しいものなのか、余り走って歩いて、息を切らして、ふうふうといいながら来たもんだ」

へえほであ [he:hode] [副] うんと。沢山。[及 243]

【例】 ゆぎほりで へえほであ なんぎした
「雪堀りで、うんと難儀したよ」

へおよぎ [he:ojɔŋi] 背泳ぎ。[続 333]

【例】 ○○ちゃん おめあ へおよぎ へっがや、おら へんぜあ
「○○ちゃん、君は背泳ぎが出来るかい、僕は出来るよ」

へがす [heŋasũ] [動] 剥がす。[及 243]

【例】 トダン へがして ふぎげあ しねあんねあ
「トタン板を剥がして、葺き替えをしないとイケないな」

へがす [heŋasũ] [動] 急かす。急がせる。[及 243]

【例】 はやぐ はやぐて へがす おんで
「早く早く、と急かすもので」

へかっこ [həkakko] [名] 背格好。[及 243]

【例】 ないだて へかっこあ そっくりだ ごど
「まあ、背格好がそっくりなこと」

へかへか [həkahəka] [副] せかせか。[及 243]

【例】 へかへか えそがすそん どさ えぐや
「せかせか忙しそうに何所へ行くの」

へがへる [həgahərū] [下一他] 急かせる。[続 333]

【例】 がっこさ おぐれるて へがへる おんだはげあ、ノート わすっだでは
「学校に遅くれるって急かせるものだから、ノートを忘れてしまったじゃないか」

へがむ [həɣamū] [四他] せがむ。[続 333]

【例】 この わらすあ、○○ おすどて へがむども ござらであ うてねあなよ
「この子は、○○が欲しいといってせがむが、この辺では売っていないんだよ」

へぎ [həgi] [名] 席。[及 243]

【例】 ほごあ おれあ へぎだ
「そこは、私の席だ」

へぎ [çəgi] せき。溝。用水路。[及 107]

【例】 村であ、今日あ へぎの ごどされあだど
「村では、今日は用水路の清掃だそうだ」

へぎ [higi] 籍。特に戸籍をいう。[続 333]

【例】 おれあえの あにあ つで きた よめこだ おん へぎ へねあんねあべ
「うちの息子が連れてきた嫁だもの、籍を入れないといけないだろう」

ぺぎ [pəgi] [名] ひいき。[及 243]

【例】 ○○どさばり へぎ して
「○○にばかりひいきして」

へぎ [həgi] [名] 息。[同] へげ。[及 243]

【例】 へぎ きらして ないだおんだ
「息を切らして、どうしたんだい」

へくさぎ [həkūsagi] くさぎ。くまつづら科の落葉低木で、葉がくさいので、この名がある。また、実は染料にもなる。[及 95]

へくさぼ かめむし。かめむし科の昆虫の総称。いやな臭気を出すのでこの名があるが、最も臭いのは「くさぎかめむし」である。[同] へくさむし。[及 95]

へぐり [çəgüri] 尾根を横切る道。[同] へんぐり。[及 107]

【例】 あの へぐり まわっど そんま、村あ める
「あの尾根を横切って行くと、じき村が見えるよ」

へげ [heɣe] 鬚。[及 12]

【例】 へげぐれあ すて おぐんだぞ
「ひげ位剃っておくんだよ」

へげ [çeɣe] 用水路。[及 75]

【例】 えまの へげあ まっすぐ なおさねあんねあな
「今の用水路は、真直になおさないといけないな」

へげあげ [çeɣeage] 用水路の掃除。[同] へげぶすん。[及 75]

【例】 へげさ ごみあ たまたはげあ へげあげ すねあんねあな
「用水路にごみが溜ったから、用水路掃除をしないとけないな」

へげずら [çeɣedzürä] 用水路のふち。[同] へげぶづ。[及 75]

【例】 へげずら くぞっだはげ こしえなおしだ
「用水路の縁が崩れたから、作り直しだ」

へげすり [ɸeɣesürü] [名] ひげ剃り。[及 243]

【例】 へげすりでも して えぐんだ
「ひげ剃りでもして行きなさい」

へげぞろ [heɣedzoro] [名] ぞろぞろと大勢で歩くこと。[及 243]

【例】 ないだや へげぞろみであん そろて ありぐどごあ
「どうしたんだい、大勢でぞろぞろ歩いて」

へげど [heɣedo] [名] 墓。墓石。[及 244]

【例】 おやずの へげど たでっどごだ
「親父の墓を立てるところなんだ」

へげばん [ɸeɣeban] 石盤。[及 53]

【例】 がばんさ へげばん へだが
「カバンに石盤を入れたか」

へげゆ [heɣejü] [名] 石油。[及 244]

【例】 へげゆあ まだ 値上げが
「石油は、また値上げか」

へげる [ɸeɣerü] [動] 剥げる。[及 244]

【例】 ほれだば へげる おんでねあんだはげあ
「それなら、剥けるもんじゃないよ」

へげん [heɣen] [名] 世間。[及 244]

【例】 まづ へげん みで こえ
「まあ、世間を見て来なさい」

べごのした [beɣonosita] ぎしぎし。いたどりの仲間で、ゆきのした科の多年生草本である。[及

95]

へこへこ [həkohəko] [副] ペこペこ。[及 244]

【例】 おどごあ ほんげあ へこへこてんな
「男はそんなにペこペこしているんじゃないよ」

へべした [~beʃita] [連語] だろうね。[続 334]

【例 1】 えぐべした
「行くだろうね」

【例 2】 すんべした
「するだろうね」

【例 3】 とんべした
「取るだろうね」

【例 4】 ほんべした
「堀るだろうね」

べした 当然……だろうよ。[及 244]

【例 1】 えがねあんねあべした
「当然行かなければならないだろうよ」

【例 2】 すろて ゆわったごったら しねあんねあべした
「しなさい、といわれたのなら、当然しなればならないだろうよ」

へず [hədzü] 節。季節。[続 334]

【例 1】 きしゃわりちや、まだ そんま さみ へずん なんぜあは
「嫌だね、また直きに寒い節になってしまうよ」

【例 2】 あの へずあ てあへん おへわん なりあした
「あの節は大変お世話になりました」

べずあずれあ [bədzüadzüre] 別誂え。[続 334]

【例】 おれみであだ ふって おのあ べずあずれあんねあば きる ふぐあ ねあ
「私のような太い者は、別誂えでなければ、着る服がないよ」

へすず [həsü^odzü] 背筋。[続 334]

【例】 まま くう ずぎあ へすず のばして く おんだぞ
「ご飯を食べる時は、背筋を伸ばして食べるものだよ」

へずび [hədzübi] [名/ス他] 設備。[続 334]

【例】 こうみんかん たでだども さまざま へずびさも かねあ かがる おんだな
「公民館を建てたが、さまざま設備にも金が掛かるものだな」

へずぶん [hədzübün] 節分。[続 334]

【例】 へずぶんの まめまぎあ おれあえであ この わらすだ
「節分の豆撒きは、うちではこの子だよ」

べすむ [動] ベソをかくこと。[及 244]

【例】 まづ この わらすあ すぐ べすむ ほで
「まあ、この子は、直ぐベソをかく方で」

へずやぐ [hɛdzüjagü] [名/ス他] 節約。[続 334]

【例】 でんきりょうも ぼがんならねあはげあ、へずやぐ するよんするよ
「電気料も馬鹿にならないから、節約するようにしなさいよ」

へずらねあ [ɸɛdzüranɛ] せわしい。[及 32]

【例】 へずらねあ ごど、こっつも でげねあ うづ こんだ ほつつ するてが
「せわしいこと、こっちも出来ないうちに、今度はそっちをやれ、というのかい」

へずりこ [hɛⁿdzüriko] 手淫。[同] へんずり。[及 17]

へずる [hɛⁿdzürü] [四他] 削る。[続 334]

【例】 こがだな かて もらだどて あつこつ へずっど ゆるさねあぞ
「小刀を買ってもらったからと、あちこち削ると許さないよ」

へずる [hɛⁿdzürü] [動] 煎ずる。[同] へんずる。[及 244]

【例】 下痢だば、朝顔の 種 へずで 飲むど えぜあ
「下痢なら、朝顔の種を煎じて飲むといいよ」

ぺそっと [副] ひっそり。だんまり。あっさりして味気のないこと。風船などがしぼんで、ペシヤンこになったさま。[及 244]

【例 1】 やりごめらっで ペそっと なてだけ
「やりこめられて、ひっそりなってしまうつけ」

【例 2】 この 味噌じるあ しっしょけあ たんねあくて ペそっとした 味だな
「この味噌汁は、塩気が足りなくて、あっさりして味気がないな」

【例 3】 風船あ、空気あ 脱げで、ペそっと なてしまたは
「風船は空気が脱けて、ペシヤンこになってしまうよ」

へそび [hɛsobɪ] 煤。特に鍋釜などに付く煤をいう。[続 334]

【例】 ほの なべの へそび おどさねあど あっつこっつあ くろぐなんぞ
「その鍋の煤を落とさないと、あっちこっちが黒くなるよ」

へたげ [hɛtagɛ] [名] 背丈。[及 244]

【例】 この わらすあ いづねんぎりん へたげあ 伸びで 来たな
「この子は、一年毎に背丈が伸びて来たね」

べだつぐ [bɛdatsügü] [四自] べとつく。[続 335]

【例】 この みずあ ねんどすずだはげあ あめあ ふっど べだつくなよ
「この道は、粘土質だから、雨が降るとべとつくんだよ」

べたっと [副] べったり。[及 245]

【例】 これ ぺたっと はんなが
「これをべったり張るのかい」

ぺたっと [副] べったり。[及 245]

【例】 ぺたっと くつつだは
「べったりくつついてしまったよ」

へだて [he^odatɕ] [名] 先達て。先日。[同] へんだて。へんな。[及 245]

【例】 へだて たのだな してくえんべな
「先達て頼んだのをやってくれるだろうな」

へちやへちや [ɸɕɕjaɸɕɕja] [副] べちやくちや。[及 245]

【例】 えぐ へちやへちや しゃべる おんだ
「よくべちやくちやしゃべるもんだ」

べちよこ [betjoko] 女の陰部。[及 12]

この語は「べちちょ」、「べっこ」、「べちよこ」、「へへ」、「ベベこー特に子供のをいう」、「まんじゅ」、「まんじゅこー子供のをいう」などとも使っている。

べっか [bɛkka] [名/ス自] 別家。分家。[続 335]

【例】 おれあ えあ、〇〇の べっかだなよ、んだはげあ いずばん したすなだ
「私の家は、〇〇の別家なんだよ、だから一番親しいんだよ」

へっかぐ [hɛkkagü] [副] 折角。[続 335]

【例】 へっかぐ ゆえだ なすも この ひでりつずぎで かれそん なてきだでは
「折角植えた茄子も、この日照り続きで、もう枯れそうになってしまったよ」

へっかず [hɛkkadzü] [名/ノダナ] せっかち。[続 335]

【例】 これあまだ へっかずで、ないでも えますぐんねあば だめだあだ
「こいつはせっかちで、何でも今直ぐでないといけないんだよ」

べつから [betɕükara] [副] 改めて。[続 335]

【例】 ぼこしてしまた おんだおん、これだば べつから つぐりなおしだな
「これしてしまつたんだから、これなら改めて作り直しだな」

へつかれあ [hɛtsükare] [形] せちがらい。[及 245]

【例】 近頃あ、へつかれあ 世のながだ おんだ
「近頃は、せちがらい世の中なものだね」

へっかん [hɛkkan] [名/ス他] 折檻。[続 335]

【例】 しとんどご えずめるなて、これだば へっかんすねあば なおらねあな
「人を苛めるなんて、これなら折檻しないと直らないね」

へつぎ [hɛtsügi] 瀬つき。これは、川のはや（鮠）が、産卵のために浅瀬へ群をなして集まることをいう。[続 335]

へつきよ [hɛkkjo] [名/ス自] 説教。[続 335]

【例】 ほんたごどばりしてっど、まだ ずさまに へつきよさえんだはげ
「そんなことばかりしていると、またお爺さんに説教されるんだから」

へつきり [hɛkkiri] [副] 精精。[続 335]

【例】 やめろ やめろ、おめあなの したて、へつきり いであぐするばんだはげあ
「止めろ止めろ、お前なんかしたって、精精怪我をするばかりだから」

へっく [hɛkkū] [名] 節句。[及 245]

【例】 今日あ 桃の へっくが
「今日は桃の節句か」

へづぐ [hɛdzūgū] [動] [俗語] せつつく。せかせる。[及 245]

【例】 へわす ごど ほんげあ へづぐなや
「せわしいこと、そんなにせつつくなよ」

へっけん [hɛkkɛn] 石鯛。[続 335]

【例】 へんたぐすんな へっけん ねあぐなたはげあ、かて きてくんねあが
「洗濯をする石鯛がなくなったから、買って来てくれないか」

へづこげ [hɛdzūkoge] [名] 季節はずれ [及 245]

【例】 へづこげで じめめあも 出ねあぐなたは
「季節はずれで、ぜんまいも、もう出なくなってしまったよ」

べっこやり [bɛkkojari] 交接。性交。この語は「べっちょやり」、「へへやり」などとも使う。[及 17]

へったばる [hɛttabarū] [四自] へたばる。[続 336]

【例】 この さが のぼたばんで へったばるよだは、とすだ おんだな
「この坂を登ったばかりで、もうへたばってしまうようだよ、年なものだな」

へつつ [hɛttsū] へつつい。かまど。[及 53]

【例】 えまだば へつつも ねあぐなたなは
「今ならへつついも、なくなってしまったな」

べつと [bɛtto] 蝶。蛾。蝶や蛾の総称。本来蝶という意味で使っているようであるが。蛾も「べつと」と使っているのをみると、蛾も蝶と違って使っているようである。[及 95]

べつと [bɛtto] 別当。神社の管理者。[及 79]

【例】 ずぞさまの べつとあ だれだべ
「地藏尊の別当は誰なんだろう」

へづねあ [hɛdzūne] 切ない。苦しい。[及 32]

【例】 あんまり へづねあそだ、医者 よばて こえ
「あんまり切なそうさ、医者を招んで来なさい」

へっば [heppa] 切羽。[続 336]

【例】 シャッキン はだらつて へっばつまたあげぐ どろぼ したあたど
「借金を催促されて、切羽詰ったあげく泥棒をしたんだそうだ」

へっへど [hehhedo] [副] せっせと。[続 336]

【例】 なんぼ へっへど はだれあだて くらすあ らぐん ならねあ おんだ
「いくらせっせと働いても、暮しは楽にならないもんだよ」

へづめい [hezüme:] [名] 説明。[及 245]

【例】 まづ おめあがら へづめいしてころ
「まづ、あなから説明してくれ」

へづる [he'dzürü] [動] 削る。[及 245]

【例】 いんぴづずあ こげあして へづる おんだ
「鉛筆って、こうして削るもんだよ」

へづれあ [hezüre] [名] へつらい。[及 245]

【例】 えあづあ へづれあ こぐな じよんだ おん
「あいつは、へつらうのが上手なもの」

へど [hedo] 瀬戸。[及 53]

【例】 ほの 茶碗、へどだはげあ おどすど 割れんぞ
「その茶碗は瀬戸だから落とすと割れるよ」

なお、「へどおの一瀬戸物」、「へどかけ一瀬戸欠け」などの語もある。

へどおの [hedoono] 瀬戸物。[続 336]

【例】 へどおのあ ふず けあでも つけあおのん ならねあぐなんぞ
「瀬戸物は、縁を欠いても使い物にならなくなるよ」

へどかけ [hedokage] [名] 瀬戸欠け。[及 245]

【例】 ほごに へどかけ あっさげあ あぶねあぞ
「そこに瀬戸欠けがあるから、危ないよ」

へどぎわ [hedojiwa] [名] 瀬戸際。[及 245]

【例】 のっが そっかの へどぎわだぞ
「のるかそるかの瀬戸際だよ」

べとっと [betotto] [副] べっとり。[続 336]

【例】 きょうあ あつ おんだはげあ、からだじゅう べとっと あへ けあだは
「今日は暑いものだから、体中べっとり汗をかいてしまったよ」

へどろ [hedoro] わらの雪靴。[及 60]

【例】 へどろ ぬっだら、乾して おげよ
「雪靴が濡れたら、乾しておきなさいよ」

へどろがだ [çedoronada] 雪ぐつを作る木型。[及 67]

【例】 へどろ きれに つぐるにあ へどろがだ ねあど だめだな
「雪ぐつをきれいに作るには、木型がないと駄目だね」

へどろぐず [hedoronüdzü] 作業用の藁靴。これは、昔、雪中で作業をする時に使用した藁靴をいった。今は使用しなくなってしまった。[続 336]

へな [føna] [卑語] 女。女の卑語。[同] へなこ。ぼつこ。[及 8]

【例】 この へな おれあどさ さがらう 気が
「この女め俺にさからう気か」

べな じゃないか。[及 246]

【例 1】 おめあ こねあべな
「お前は来なじゃないか」

【例 2】 ほれあ おめあ したあだべな
「それは、お前がしたんじゃないか」

へなが [henaga] 背中。[続 336]

【例】 ずさま へなが けあはげあ けあでくんねあが
「お爺さんは背中が痒いから搔いてくれないか」

へながあで [çenagaade] 背中当て。荷を背負う道具。[及 67]

【例】 おもであ おの しょう ずぎあ へながあであ ねあど へなが いであくてな
「重い物を背負う時は、背中当てがないと、背中が痛くてね」

へながあへ [henagaahē] 背中合わせ。[続 336]

【例 1】 ○○さん えあ おれあ えど へながあへの うらだ
「○○さんの家は、私の家と背中合わせの裏だよ」

【例 2】 ○○ど ○○あ けんかして えまは へながあへだは
「○○と○○は喧嘩をして、今はもう背中合わせだよ」

へなつり [henatsüüri] 流しじり。これは、台所からの流しじりと、台所から流れて来るものの二つをいう。[続 336]

【例 1】 へなつりだはげあ、ほごあ きたねあぞ
「流しじりだから、そこは汚ないよ」

【例 2】 へなつりあ ながって きた
「台所の捨て水が流れてきたよ」

べにおすれ [beniosüre] 紅白粉。[続 337]

【例】 えまの したずあ ハエカラだ おんで、かえしやさも べにおすれで えぐ おんだ
「今の人達は、ハイカラなもので、会社にも紅白粉で行くもんだ」

へぬい [名] 背縫い。[及 281]

【例】 へぬいずあ まっつぐ ぬわねあんねあ おんだ
「背縫いというものは、真直ぐに縫わないといけないものだよ」

へのび [hɛnobī] [名] 背伸び。[及 245]

【例】 へのびしたら とづぐんねあが
「背伸びしたら、届くんじゃないか」

へば [hɛba] すると。なら。[及 246]

【例 1】 こうへば えなが
「こうするといいのかい」

【例 2】 そうへば こげあんなんぜあ
「そうすると、こうなるよ」

【例 3】 そへば こげあしてみろ
「それなら、こうしてみろよ」

べは もう……よ。しようよ。だろうよ。[及 246]

【例 1】 えさ えぐべは
「もう家に行こうよ」

【例 2】 この すごど はやぐ すんべは
「この仕事を早くしようよ」

【例 3】 おっきぐなた おの しとりで せんべは
「大きくなったんだもの、一人で出来るだろうよ」

へばくるす [hɛbakürüsü] [形] 狭苦しい。[続 337]

【例】 アパートなて へばくるす どご やだはげあ いながさ けあたあだ
「アパートなんて狭苦しい所は嫌だから田舎へ帰ったんだ」

へばこえ [ɸɛ^mbakoɛ] 狭い。[及 32]

【例】 この ろうが すこす へばこえな
「この廊下は少し狭いな」

へばまる [hɛbamarü] [四自] 狭まる。[続 337]

【例】 ゆぎみずん なっど どうろあ へばまっさげあ きいつけで ありげよ
「雪道になると、道路が狭まるから、気を付けて歩けよ」

へばめる [hɛbamerü] [下一他] 狭める。[続 337]

【例】 ほの へげ、ほんげあ へばめっど、みずあ あふっでくんぞ
「その用水路を、そんなに狭めると、水が溢れてくるよ」

へびのであーもず [ɸɛbinode:modzü] おにのやがら。これは、山野の林の中などに生える、らん科の多年草で、「へびまぐら」ともいい、根茎は乾して煎用し、頭痛薬、強壯剤として使用される。[続 337]

へびる [hebirü] [四他] せびる。[続 337]

【例】 この わらすあ まえにず ないが かうな じえね ころどて へびる おんだ
「この子は、毎日何か買うのお金をくれといってせびるもんだ」

へびれ [hepire] 背鱗。[続 337]

【例】 さめずあ みずの ゆえさ へびれ だして およぐ おんだど
「鯨って、水の上に背鱗を出して泳ぐものだそうだよ」

へへこます [hehekomasü] [形] せせこましい。[続 337]

【例】 おれあ どうも アパートみであんた へへこます どごあ へる[○] きあ しねあな
「私はどうもアパートのような、せせこましい所は入る気がしないね」

へぼね [hebone] 背骨。[続 337]

【例】 ほんげあ へなが まるめで べんきょうしてっど へぼねあ まがてしまうぞ
「そんなに背中を丸めて勉強していると、背骨が曲ってしまうよ」

へみ [hemī] 蟬。[及 95]

【例】 春なぐ へみあ たねまぎじえみず おんだ
「春なく蟬は、えぞはるぜみ、というもんだよ」

へむす [hemüsü] せむし。[続 337]

【例】 なして へむすんなの なる おんだが むぞせあ おんだな
「どうしてせむしになんかなるものなのか、可哀そうなものだね」

へめる [hemerü] [下一他] 掴まえる。[続 338]

【例】 ○○ちゃん ぎやらくと しめで あすばねあが
「○○ちゃん、おたまじゃくしを掴まえて遊ばないか」

へめる [hemerü] [下一他] 責める。[続 338]

【例】 おずどご ごしゃがねあで おれあどごぼり へめんなだぜあ
「弟を叱らないで、私のところばかり責めるんだよ」

へやであ [heja^{ndε}] 室代。[続 338]

【例】 まがりしったはげあ へやであ とらっでんなだ
「間借りしているから、室代を取られているんだ」

へやみ [hejamī] [名] せやみ。不精。[及 246]

【例】 へやみ こえでねあで ぐうぐど してしまえ
「せやみこいてないで、さつきとしてしまえよ」

へらうり [herauri] [名] おしゃべり。[同] へらかだり。[及 246]

【例】 へらうりしてっど ひあ くれんぞ
「おしゃべりしていると、日が暮れるよ」

へらかだり [herakadari] お喋り。[同] へらうり。[続 338]

【例】 おなごずあ へらかだり すぎだ おんだ
「女って、お喋りが好きなものだね」

へらかづく [ɸɛrakadzũgũ] [連語] 炊いたご飯が足りなくなる事。[及 43]

【例】 まにあうべどもたら へらかづくでした
「十分だろうと思ったが 足りなくなってしまった」

へらかづく [俗語] へら（飯を盛るへら）を担づく。飯が足りなくなる事。[及 246]

【例】 たくさだどもたら、へらかづくでした
「たくさんだ、と思っていたら、足りなくなってしまったよ」

へらから [ɸɛrakara] [副] へちゃくちゃ。[及 246]

【例】 へらからてばりいねあで ちゃっちゃど えごは
「へちゃくちゃ やってばかりいないで、さっさと行こうよ」

へらから [hɛrakarũ] [副] へらへら。[続 338]

【例 1】 しのの しゃべてつづぎ よごがら へらからて よげだ くずだす すんな
「人の喋っている時、横からへらへらって、余計な口出しをするなよ」

【例 2】 へらからて、えぐ しゃべる おなごだな
「へらへらって、よく喋る女だな」

へらくづ [ɸɛrakũdzũ] [名] へらずぐち。よけいなおしゃべり。用もないおしゃべり。[及 246]

【例】 へらくづ きでねあで すごど してしまえ
「へらず口をたたいていたないで、仕事をしてしまえよ」

へらづく [ɸɛradzũgũ] [動] おしゃべりする。へらへらいう。[及 246]

【例】 えぐ へらづくちな
「よくへらへらいうよね」

へらりんさま [hɛrarĩnsama] 清羅院さま。[続 338]

【例】 ずぞさま おめあり えぐはげあ、へらりんさまも おがで くんべ
「地藏さまにお参りに行くから、清羅院さまも拜んでこよう」

へり [hɛrĩ] [名] 糶り。[及 247]

【例】 おれあえんなも、へりさ かげで もらうがな
「うちのも、せりにかけて貰おうかな」

へり [hɛrĩ] 芹。[同] へりごぎ。[及 96]

【例】 こんだ へりも ではたべな
「今度は芹も出たろうな」

へりあう [hɛriaũ] [四他] 競り合う。[続 338]

【例】 うんどうかいで ○○ちゃんど ○○ちゃんが へりあて おもへがった
「運動会で、○○ちゃんと○○ちゃんが競り合って、面白かったね」

へりしゃぶぎ [heɾiʃabu̯gi] 百日咳。[続 338]

【例】 へりしゃぶぎずあ わらしたずあ かがりやすおんだど
「百日咳って、子供らがかりやすいんだそうだよ」

へる [heɾü] [動] 入れる。[同] へれる。[及 247]

【例】 ほれあまだ こっつき へるあだ
「それは、こっちに入れるんだ」

へる [heɾü] [動] 出来る。やれる。[及 247]

【例】 ほれだば おれだて へるや
「それなら、俺だってやれるよ」

この語には、「へろばやーやれるもんか」などという使い方もある。

へれめ [heɾeme] 入れ目。義眼。[同] えれめ。[続 338]

【例】 ○○さんは みぎの め つぶして へれめ したあだど
「○○さんは、右の目を潰して、入れ目をしたんだそうだ」

へれる [heɾerü] [下一他] 入れる。[同] えられる。[続 339]

【例】 ほの えもあ、えま ふぐろさ へれんなだはげあ ほごさ おえでころ
「その芋は、今袋に入れるのだから、そこへ置いてくれ」

へろ [ɸeɾo] せいろ。食物をむす道具。[及 53]

【例】 おふかす ふかすはげあ、へろ 出してころ
「赤飯を作りますから、せいろを出して下さい」

へろ [heɾo] 蛭。水田、沼、池などの水中に棲み、人血を吸う環状動物。[及 96]

【例】 へろて すねさなの くつつで、血吸て やだ おんだ
「蛭って、脛になんかに付いて、血を吸って、嫌なもんだ」

べろ [beɾo] 舌。[続 339]

【例】 あの やろこ にぐらす ごど べろ だして ねげで えた
「あの子（男の子）、憎らしいこと、舌を出して逃げて行ったよ」

べろづぐ [beɾodzüügü] [名] 立て続け。続けざま。[及 247]

【例】 べろづぐ ごへあも のだ おんだ
「立て続けに5杯も飲んだもんだ」

べろっと [副] すっかり。全部。[及 247]

【例】 べろっと かだづげで きた
「すっかり片付けて来たよ」

べろっと [副] べろりと。するりと。[及 247]

【例 1】 べろっと 舌 出して ねげで えたけは
「べろりと舌を出して、逃げて行ってしまったつけ」

【例2】 すこす けったら ペろっと へあて えたけ
「少し削ったら、するりと入っていったつけ」

ペろっと [pərotto] [副] ペろりと。[続 339]

【例】 この わらすあ ささまぎ よつつも ペろっと くと おんだ
「この子は、粽を四つもペろりと食べたもんだ」

ペろペろ [bəroβero] ペろんペろん。[続 339]

【例】 どごで ので きた おんだが、ペろペろど よっぱらて きた おんだ
「何処で飲んできたものなのか、ペろんペろんに酔っ払って来たもんだ」

へわ [həwa] [名] 世話。[及 247]

【例】 ほんげあ へわ すねあたて でげる
「そんなに世話をしなくとも出来るよ」

へわす [həwasī] [形] せわしい。[同] へわすねあ。[及 247]

【例】 くれん なたら、なんだが へわすな
「暮になったら、なんだかせわしいね」

へわずぎ [həwaⁿdzüügi] 世話好き。[続 339]

【例】 おれあえの ばさまだば へわずぎで、だれあさも かれあさも へわしてんなだ
「うちの婆さんは世話好きで、誰にでも世話をやいているんだ」

へわすねあ [həwasüme] [形] 忙しい。[続 339]

【例】 この えそがす ずぎ わらしたずまで へわすねあぐする おんで、てんてこめあだ
「この忙しい時に、子供らまで忙しなくするもんで、天手古舞だよ」

へわやぎ [həwajagi] 世話焼き。[続 339]

【例】 ほんげあ、しとの へわやぎまで しねあたて おわ ごど すんだ
「そんなに、人の世話焼きまでしなくとも、自分のことをした方がいいね」

へわやぐ [həwajagü] 世話役。[続 339]

【例】 むらの へわやぐの くちょうあ、あなだんねあば、する しとあ いねあ
「村の世話役の区長は、あなたでなければ、する人はいないよ」

へん [hən] [名] 先。以前。昔。[及 247]

【例】 へんにあ ずどうしゃなて ねあがったな
「先には、自動車なんてなかったな」

へん [hən] 千。この語は、千が、最初にある時だけ使い、「二千。三千」などには使わない。[続 340]

へん [hən] 線。[続 339]

【例1】 この へん たるで きたはげあ ぴんと はてころ
「この線がたるんできたから、ぴんと張ってくれ」

【例2】 はみだすど えぐねあはげあ、まず へん かげ

「はみ出すといけないから、まず線を書きなさい」

なお、何かに書いた線を「ぎり」ともいう。

へんか [hɛ̃nka] [名] 口答え。さからう。[及 247]

【例】 この わらすあ へんかばりして

「この子は、口答えばかりして」

べんかい [名] 弁口。口先。[同] べんこ。[及 247]

【例】 この やろ べんかいなのばり じょんで

「この野郎、口先なんかばかり上手で」

へんかが [hɛ̃nkaga] 先妻。[同] へんばら。へんせあ。[続 340]

【例】 あれあ へんかがの わらすだ

「あれは先妻の子供だよ」

へんき [hɛ̃nki] [名] せんき。やきもち。[及 247]

【例】 しとの ごど へんき やだて はずまらねあべあなや

「人のことをせんきをやんでも、始まらないだろうや」

へんき [hɛ̃nki] 疝気。[続 340]

【例】 ほんたごど ほんげあ へんき やまねあで だまて みでろ

「そんなことに、そんなに疝気を病まないで、だまって見ておれよ」

へんぎ [hɛ̃nɟi] [名] 詮議。[及 247]

【例】 誰あ したあだが へんぎ しねあんねあ

「誰がしたのか、詮議をしないとイケないな」

へんきよ [hɛ̃nkjo] [名/ス他] 選挙。[続 340]

【例】 こんどの へんきよあ しゅうさんどうずへんきよだど

「今度の選挙は、衆参同時選挙だそうだ」

べんきよ [bɛ̃nkjo] [名/ス他自] 勉強。[続 340]

【例 1】 べんきよ べんきよて、あんまり ゆわえっど、あだまさ くんぜあは

「勉強勉強と、余りいわれると、もう頭にきてしまうよ」

【例 2】 おれあえの しなおのあ べんきよすっさげあ かてころ

「うちの品物は勉強するから買ってくれ」

へんぎり [hɛ̃nɟiri] 千切り。[続 340]

【例】 こにゃ ごんぼの へんぎり あぶらいいでもして くが

「今夜は、牛蒡の千切りを油炒りでもして食べようか」

べんけ [名] 藁で筒状に作った串を差しておく用具。[及 248]

【例】 ざっこあ あぶっだら べんけさ さして おげ

「雑魚があぶれたら、串を差すのに差しておけよ」

べんけあー [bɛ̃ŋke:] [名/ス他自] 弁解。[続 340]

【例】 ほうゆうごど したあだごつたら、べんけあーの よつあ ねあべや
「そういうことをしたのだったら、弁解の余地がないだろうや」

へんげつ [hɛ̃ŋɟɛ̃dzü:] [名] 先月。[及 248]

【例】 ○○さん きたな へんげつんねあがったべが
「○○さんが来たのは、先月でなかったろうか」

へんこ [ɸɛ̃ŋko] 線香。[及 53]

【例】 ほどげさまさ、へんこ あげでころ
「仏さまに、線香をあげて下さい」

へんこぐ [hɛ̃ŋkogü:] 先刻。[続 340]

【例】 あなだ くんな へんこぐがら まずであした
「あなたの来るのを、先刻から待っておりました」

へんさぐ [hɛ̃ŋsagü:] [名/ス他] 詮索。[続 340]

【例】 えまさら ほんたごど へんさぐしても はずまらねあべや
「今更そんなことを詮索してもはじまらないじゃないか」

へんずぐすり [hɛ̃ŋⁿdzüŋüsüri] 煎じ薬。[続 341]

【例】 へんぶり へんずぐすりん して のむど いさ きくど
「せんぶりを煎じ薬にして飲むと、胃に利くそうだよ」

へんずつ [hɛ̃ŋⁿdzütsü:] 先日。[続 341]

【例】 へんずつあ おじゃましあして てあへん おへわさまん なりあした
「先日はお邪魔しまして、大変お世話さまになりました」

へんせあー [hɛ̃ŋse:] [名/ス他] 返済。[続 341]

【例】 じゅうたぐローン へんせあーして どっかどした
「住宅ローンを返済してほっとしたよ」

へんぞ [hɛ̃ŋdzo] [名] 先祖。[及 248]

【例】 ひしゃすぶりで へんぞの おはがさ 手 あわへで きたや
「久し振りで、先祖のお墓に手を合せて来たよ」

べんぞ [名] べそ。[及 248]

【例】 ないだ べんぞなの けあで、けんかしたなが
「なんだい、べそなんかかいて、けんかしたのか」

べんぞ [bɛ̃ŋⁿdzo] べそ。[続 341]

【例】 おかあさんに ごしゃがだどて べんぞ けあで おもでさ たてだけ
「お母さんに叱られたとって、べそをかいて外に立っておったよ」

へんたぐ [ɸɛ̃ŋtagü:] 洗濯。[及 60]

【例】 おなごずあ へんたぐだ、ぬつけだ、ほら、すんめあだて、えそがす おんだ
「女って、洗濯だ、裁縫だ、ほら、炊事だと忙しいもんだ」

へんたぐおの [hɛntagũono] 洗濯物。[続 341]

【例】 ほら、あめこあ おずで きたぞ、へんたぐおの へんねあど ぬれんぞ
「そら雨が落ちてきたよ、洗濯物を入れないと濡れるよ」

へんだづ [ɸɛndadzũ] 先達。案内人。[及 8]

【例】 おめあ、念仏の へんだづ してくんねあが
「あなた、念仏の先達をしてくれませんか」

へんだで [hɛnⁿdadɛ] 隔て。[続 341]

【例】 ごげかかだ おんだはげあ へんかかの わすき へんだで つけんなどど
「継母なものだから、先妻の子に隔てを付けるんだそうだ」

へんちやぐじゅん [hɛntʃagũdzũn] 先着順。[続 341]

【例】 ○○の おおうりだすあ へんちやぐじゅんに けいひん くえんなだど
「○○の大売り出しは、先着順に景品をくれるんだそうだ」

へんつ [ɸɛntsũ] せっちん。便所。[同] へんつん。[及 53]

【例】 へんつの こやす くで もらわねあんねあな
「便所の下肥を汲んでもらわないといけないな」

へんど [hɛnⁿdo] 線路。鉄道線路。[続 341]

【例】 ○○ちゃん あぶねあはげあ へんどで あすであ だめだぞ
「○○ちゃん、危ないから、線路で遊んではいけないよ」

べんと 弁当。[及 43]

【例】 今日 べんと おすなが
「今日、弁当欲しいんですか」
また、弁当のおかずを「べんとぜあ」といつている。

へんな [hɛnna] 先達て。[同] へだて。へんだて。[続 341]

【例】 へんな おれあ おめあ えさ よたけが よばらて ほんであねあじゅは
「先達て、私は君の家へ寄ったろうか、酔っ払って覚えがなくなっちゃったよ」

へんぬぎ はりぎり。一名せんのかといひ、うこぎ科の落葉高木で、枝には刺があり、材は下駄などの器具を作るのに用いられている。[及 96]

へんぬぎ [hɛnnũgi] 栓抜き。[続 342]

【例】 ほごに ある へんぬぎ よごしてころ ビールの、へん ぬぐはげあ
「そこにある栓抜きをよこしてくれ、ビールの栓を抜くから」

へんば [ɸɛnba] 千歯。稲をこく道具。[及 67]

【例】 むがすあ へんばで なんにづも かがて 稲 こえだ おんだ

「昔は千歯で、何日もかかって稲をこいたもんだ」

へんぱら [ɸɛɲpara] 先妻。[及 8]

【例】 あどかが 来てがら へんぱらの 子あ いじめらっで むぞせあな

「後妻が来てからは、先妻の子がいじめられて、かわいそうだね」

なお、先妻の子を「へんぱらのこ」と呼んでいる。

へんぶり [ɸɛɲbūri] せんぶり。これは、りんどう科の二年草で、右くから胃腸薬として用いられてきた薬草である。苦味の多い薬草として有名である。[続 341]

へんへ [ɸɛɲɕɛ] 先生。[及 79]

【例】 あんまり きがねあど がっこの へんへさ おへんぞ

「あまりきかないと、学校の先生に教えてやるよ」

へんべ [ɸɛɲbɛ] 煎餅。[及 43]

【例】 どれ こまぐれあん へんべでも けっがな

「どうれ、おやつにせんべいでもあげようかな」

へんぺあー [ɸɛɲpe:] 返杯。[続 342]

【例】 おれあ のめねあはげあ へんぺああ かんべんしてころ

「俺は飲めないから、返杯は勘弁してくれ」

へんべつ [ɸɛɲbɛtsū] [名/ス他] 選別。[続 342]

【例】 ほの なががら、れあねんの たねえもん すんな へんべつしてころ

「その中から、来年の種芋にするのを選別してくれ」

へんべつ [ɸɛɲbɛtsū] 餞別。[続 342]

【例】 こんげあ へんべつまで もらて おぎのどぐだなおす

「こんなに、餞別まで貰ってお気の毒ですね」

へんべぶどん [ɸɛɲbɛbūdon] 煎餅布団。[続 342]

【例】 こげあた へんべぶどんさ ねへでなおす、どうが がましてくだせあな

「こんな煎餅布団に寝かせてね、どうか我慢して下さいね」

へんぽー [ɸɛɲpo:] 先方。[続 342]

【例】 ゆいのうの ひどりが、ほれあ へんぽーど えっく そうだんして きめんべ

「結納の日取りか、それは先方とよく相談して決めよう」

へんりよ [ɸɛɲrjo] 千両。[続 342]

【例】 むがすの へんりよだは たいした おんだども えまだば たいした おあ かえねあな

「昔の千両なら大したものだが、今なら大した物は買えないな」

— ぼ —

ほ [名] 方。[及 248]

【例 1】 あっつの ほさ えてみっが
「あっちの方へ行ってみようか」

【例 2】 どっつの ほ だべ
「どっちの方だろう」

ぼ [名] 棒。[同] ぼきなぎ。ぼぐど。ぼこ。[及 248]

【例】 ほの ぼ こさ たででくんねあが
「その棒をここに立ててくれませんか」

ぼいこ [名] 鬼ごっこ。[及 248]

【例】 ○○ちゃん、ぼいこ すねあが
「○○ちゃん、鬼ごっこをしないか」

ぼいつめる [boitsümerüü] [下一他] 追い詰める。[続 343]

【例】 おめあだ うさぎ さわの ほがら みねの ほさ ぼいつめで よごへ
「お前達は、兎を沢の方から、嶺の方へ追い詰めてよこしてくれ」

ぼいと [boïto] 追手。これは、犯人を追う人には使わず、狩りをする時の追手だけをいう語である。[続 343]

ぼいまぐる [boïmagürüü] [四他] 追いまくる。[続 343]

【例】 うさぎがりでも したんだな、ほうほて ぼいまぐる おどあ する おん
「兎狩りでもしているんだろうな、ほうほうとって追いまくる音がするもの」

ぼいまわす [boïmawasüü] [四他] 追い回す。[続 343]

【例】 えん ながで ぼいまわすな やめろ、ほごらさ ぶつかっど あぶねあぞ
「家の中で追い回すのは止めなさい、その辺へぶつつかると危ないよ」

ほう [副] そう。[及 248]

【例】 ほうすっど えなだ
「そうするといいんだ」

また、この語には、「ほうちゃは—そうなのかい」「ほうへば—そうすれば」、「ほうやは—そうなの」などの使い方がある。

ぼう [動] 追う。[及 248]

【例】 ほんげあ ぼうなや
「そんなに追うなよ」

この語には、「ぼえ一追え」、「ぼわっだ一追われた」などの使い方がある。

ほうず [名] 法事。法要。[及 248]

【例】 あした おやずの ほうずだなは
「明日は、もう親父の法事だね」

ほうだ [ho:da] 蜚。ほたる科の昆虫で、幼虫は水中に棲み、カワニナという巻貝を食べている。

【同】 ほうだる。[及 96]

ほうだこ [ho:dako] わらび。成長しきったわらびをいう。[及 96]

【例】 うっかり ほうだこ ひばんなよ、手 きっさげあな
「うっかり、成長したわらびを引張るなよ、手を切るからな」

ぼうへぎ [bo:çegï] 紡績。[及 60]

【例】 むがすあ 娘あ 名古屋の ぼうへぎこうばさ やらっだ おんだ
「昔の娘は、名古屋の紡績工場にやられたものだよ」

ほうほ [副] やいのやいの。[及 248]

【例】 うだえどて、ほうほて いうおんだ おん
「唄えて、やいのやいのいうもんだもの」

ぼえ ~っぼい。[及 249]

【例 1】 くろぼえ
「黒っぼい」

【例 2】 いろぼえ一
「色っぼい」

また、この語は、「ぼす」とも使うが、「いろぼす一色っぼい」とは使わない。「くろぼす一黒っぼい」、「するぼす一白っぼい」。

ほえじよ 包丁。[同] ほうじよ。[及 53]

【例 1】 ほえじよ きんねあぐなたはげあ、とえでころ
「包丁が切れなくなったから、研いで下さい」

【例 2】 さがなほえじよ
「出刃包丁」

【例 3】 なっきりほえじよ
「菜切り包丁」

【例 4】 かあきりほえじよ
「桑切り包丁」

ほえず [hoɛdzü] [代] そいつ。[続 344]

【例 1】 おれあ したなんねあ、ほえずあ したあだ
「俺がしたんじゃないよ、そいつがしたんだ」

【例 2】 おれあ ほえず おすすめよ
「私はそいつが欲しいんだよ」

ぼえっと [副] 急に。[同] ぼえら。[及 249]

【例】 車 くっさげあ ぼえっと 出はんなよ
「車が来るから、急に出るなよ」

ほえど 乞食。[及 79]

【例】 えまだば ほえども こねあは
「今なら、もう、乞食も来なくなったね」

ほえど 乞食。[同] もれあと。もれあにん。[及 8]

【例】 近頃 ほえどずあ 来ねあなは
「近頃乞食はもう来ないね」

ほえどころ [hoɛdokogü] [動] いやしくする。[及 249]

【例】 おやつ の ずが ん すぎだあだぞ、ほんげあ ほえどころ おんでねあ
「おやつ の 時間が過ぎたんだよ、そんなにいやしくするものじゃないよ」

ほえどころ [hoɛdokogü] 卑しくする。この語は、特に食べ物に卑しくすることだけをいう。

[続 344]

【例】 まだ ほえどこえで つまみぐいする
「また卑しくして摘み食いをする」

ほ一すべり [bo:süberü] 棒滑べり。これは、融雪期の積雪が、歩けるくらい堅くなった時期に、斜面を棒切れを尻に当て滑り下りる遊びをいう。今の子供らはもうやっていない。[続 343]

ほ一だる [ho:darü] 蛭。[同] ほうだ。ほうだこ。[続 343]

【例】 ○○ちゃん ほ一だる とりん えぐべ
「○○ちゃん、蛭を捕りに行こうよ」

ほ一であ [ho:ⁿde] [名/ノダナ] 放題。[続 343]

【例 1】 あすびほ一であ
「遊び放題」

【例 2】 くいほ一であ
「食べ放題」

【例 3】 とりほ一であ
「取り放題」

【例 4】 ねほ一であ

「寝放題」

【例5】のみほーであ

「飲み放題」

ほーてあー [ho:te:] 包帯。[続 343]

【例】 どごで いであぐして きたや、まず はえあぐ くすりつけで ほーてあーする
「何処で怪我をして来たの、まず早く薬をつけて包帯をしなさい」

ぼーであー [bo:ⁿde:] [ナ名ノ] 膨大。[続 344]

【例】 ○○の どけんや ぼーであーだ しゃっきんで とうさんしたどは
「○○の土建屋は、膨大な借金で、倒産してしまったそうだ」

ほーほ [ho:ho] [副] そうそう。[続 344]

【例】 なんぼ おれあ しとあええたて、ほーほ ええ つらばり してらんねあな
「いくら私がお人よしでも、そうそうはいい顔ばかりしてられないね」

ぼかげる [動] 追つかける。追いかける。[及 249]

【例】 まだ ぼかげっど かつぐえがしんねあ
「追いかけると、まだ、追いつけるかもしれないね」

ほがさえる [hogasaerü] [下一自] 浮かされる。この語は、「浮き立たされる」意味に使い、「熱に浮かされる」には使わない。[続 344]

【例】 わらしたずあ さわえあで ほがさえる
「子供らが騒いで浮かされるよ」

ほがす [動] 浮き立たせる。ふわふわにする。けしかけて、浮き立たせる。綿などを打ったりして、ふわふわにすること。[及 249]

【例1】 ほんげあ ほがすなや
「そんなに浮き立たせるなよ」

【例2】 この 布団わだ ほがして もらうべ
「この布団綿をふわふわにしてもらおう」

ほかっと [pokatto] [副] ぼっかり。[続 344]

【例】 ○○ちゃん みずさ くくたどもだら ほかっと うがで きたけ
「○○ちゃんが、水に潜ったと思ったら、ぼっかり浮いてきたっけ」

ほがならねあ [hoganarane] [連語] 他ならない。[続 344]

【例】 ほがならねあ おめあの たのみだ おん きでやらねあんねあべ
「他ならないあなたの頼みだもの、聞いてやらなければならないだろう」

ほきかける [動] けしかける。[及 249]

【例】 ほきかける おんだはげあ あれあぐなて
「けしかけるものだから、荒くなって」

ほぎだす [hogi^odasü] [動] 吐き出す。[及 249]

【例】 にげあくたて くそりだおの ほぎだすなや
「苦くったって、薬だもの、吐き出すなよ」

ぼきっと [bokitto] [副] ぼっきり。[続 344]

【例】 こねあだの たいふうで、こげあた ふって えだ ぼきっと おっだけ
「この間の台風で、こんな太い枝が、ぼっきり折れたっけ」

ぼきつと [pokitto] [副] ぼっきり。[続 344]

【例】 はすあ ぼきつと おっだは
「箸がぼっきり折れてしまったよ」

ぼきなぎ [bokinaji] 棒切れ。[同] ぼぐど。[続 344]

【例】 ぼきなぎなの ふりまして ありぐど あぶねあぞ
「棒切れなんか振り回して歩くと危ないよ」

ぼぐ [bogü] 大木。老木。[及 96]

【例】 これだば たいした ええ ぼぐだな
「これなら、たいしたいい大木だな」

ぼくつと [pokütto] [副] ぼっくり。[続 345]

【例 1】 となりの ばさま ゆべな ぼくつと しだどは
「隣りのお婆さんが、夕べぼっくり死んでしまったそうだ」
【例 2】 きじゃぐすあ ぼくつと おっだは
「木の杓子がぼっくり折れてしまったよ」

ほげ [hoge] 棹。竿。これは、木の長い棹をいい、雪囲いの材料に、はせにしたりして使っている。

[及・続 67・345]

【例】 ゆぎがこい すんな ほげ 伐て こねあんねあな
「雪囲をする、竿を伐って来ないといけないな」

ほげあ [hoge] [副] そう。そんな。[及 249]

【例 1】 ほげあすっど ぼこれる
「そうすると、こわれるよ」

【例 2】 ほげあたごど すんなや
「そんなことをするなよ」

なお、この語には、「ほげあほげあーそうそう」、「ほんげあ ほんげあーそうそう」などがあり、「ほげあほげあ（または、ほんげあほんげあ）くえらんねあーそうそうはくれないよ」のような使い方をしている。

ほげあた [honeteta] [連体] そんな。[同] ほんた。[続 345]

【例】 ほげあた おのだば いらねあな、おれも もった おん

「そんな物ならいらねえ、俺も持っているもの」

ほけちよ 鶯。[及 96]

【例】 ほけちよあ ほけちよて なぐはげあ ほげあん つけだあだべな
「鶯は、ほけちよと鳴くから、そうつけたんだろうな」

ほけちよばな [hokɛtʃobana] かたくり。これは、ゆり科の多年生草本で、山野に自生しており、昔はこの根茎から片栗を取った。また、「かだご」ともいい、ほけちよ（鶯）の渡って来る頃花が咲くので、この名がある。[続 345]

ほげる [hogɛrũ] [四自] 浮き立つ。[続 345]

【例】 あんまり ほげっど なぎであぐなっさげあ やめろは
「余り浮き立つと、泣きたくなるから、もう止めなさい」

ほげる [hogɛrũ] [動] 繁る。[及 96]

【例】 おめあえの 稲あ ほげで きたな
「お宅の稲は繁って来たね」

ほげる [hoŋɛrũ] [動] 放り出す。[及 249]

【例】 なにもかにも ほげだて だめだべちゃ
「なにもかも放り出したって、駄目じゃないか」

ほご [hogo] [代] 其所。其処。[及 249]

【例】 バゲツ ほごさ おえでくんねあが
「バケツを其処へ置いてくれないか」

ほこぐる [bokogũrũ] [四他] 追い払う。[同] ぼたぐる。ぼっこぐる。ぼったぐる。[続 345]

【例】 のらねごあ ないが くいであくて まだ きた ぼこくてやれ
「野良猫が、何か食いたくてまた来たよ、追い払ってやれ」

ほごす [hoŋosũ] [動] ほぐす。ほどく。[及 250]

【例 1】 この つづ こまこぐ ほごすなが
「この土を細かくほぐすのかい」

【例 2】 そがぎの 縄 ほごしてころ
「冬囲いの縄をほどいてくれ」

ほこす [bokosũ] [四他] 壊す。[同] ぶずぐす。ぼっこす。[続 345]

【例】 ないだて ほれ ほこすながは まだ いだますんねあがや
「まあ、それを壊してしまうのかい、まだ惜しいじゃないか」

ほごぢ [hogodzĩ] [名] ほくち。さるのこしかけ、などの茸を乾燥して、火種にするもの。茸の乾燥したものに、火打ち石や焚火などから、火をつけて、火種にするものをいう。[及 250]

ほごで [hogoⁿdɛ] [接] そこで。[続 345]

【例】 さげも え あんべあ へあたす ほごで うだでも だすべや

「酒も適当に入ったし、そこで唄でも出そうよ」

ほこほこ [副] ほくほく。[及 32]

【例】 ようやぐ おぼごあ でげだどて、ほこほこでだけ
「漸く子供が出来た、とってほくほくしていたつけ」

ほこほこ [副] ほくほく。嬉しくてたまらない様子。[及 250]

【例】 東京土産 もらて ほこほこでだけ
「東京からのお土産を貰ってほくほくしていたつけ」

ほごら [hogora] [代] 其処ら。その辺。[続 345]

【例】 はるん なて わらびの でのころは ほごら みな わらびあ でんぜあ
「春になって、わらびの出る頃は、其処らはみなわらびが出るよ」

ほごりこ [hogoriko] ふざけっこ。[続 346]

【例】 ほごりこあ しても ええども けんかこ すんなよ
「ふざけっこはいいが、喧嘩はするなよ」

ほごる [hogorü] [動] ふざける。[及 250]

【例】 ゆてる うづから ほごる おんで
「いってるうちからふざけるもので」

ぼこれおの [bokoreono] 壊れ物。この語は、もう壊れてしまった物だけに使い、運搬中の壊れ物（壊れやすい物）という意味では使わない語である。[続 346]

【例】 これあ ぼこれおのだはげあ なげろは
「これは壊れ物だから、もう捨ててしまいなさい」

ほごれる [hogorerü] [下一自] ほぐれる。[続 346]

【例 1】 ほの ひぼ きずぐ つながねあど ほごれんぞ
「その紐は、きつく結ばないと、ほぐれるよ」
【例 2】 そんま きぶんが ほごれっさげあ かまねあで おげ
「直きに気分がほぐれるから、かまわないでおきなさい」

ぼこれる [bokorerü] [下一自] 壊れる。[続 346]

【例】 ほれあ おどすど ぼこれっさげあ きいつけで もて えげよ
「それは、落とすと壊れるから、気を付けて持って行けよ」

ぼさぼさゆぎ [bosabosajügi] 塊の大きな降雪。この雪は、12月頃や、3月頃に降る雪で、塊の大きい水分の余りない降雪をいう。[続 346]

ぼさま [bosama] 神おろしの盲女。これは、亡くなった人の霊を出して、災難などを話させる盲女をいう。今はいなくなり、回って歩かなくなった。[続 346]

ほしこ 煮干し。干しいわし。[同] ほしこゆわし。[及 43]

【例】 味出しん、ほしこ かわねあねあな

「味出しにする煮干しを買わないといけないな」

ほして [接] そして。そうして。[同] ほうして。[及 250]

【例】 ほして、ほれがらな
「そして、それからね」

ほじゃぐる [hoⁿdʒagürü] [動] ほじくる。[同] ほじる。ほっちゃぐる。[及 250]

【例】 あつこつ ほんげあ ほじゃぐるなや
「あちこち、そんなにほじくるなよ」

ほす [hosü] [形] 欲しい。[同] おす。[続 346]

【例】 おかあさん さぐらんぼ おらも ほすな
「お母さん、さくらんぼを私も欲しいよ」

ほすおの [hosüono] 乾し物。[続 346]

【例】 ないだが あめ ふりそだはげあ、ほすおの へれんべは
「なんだか雨が降りそうだから、もう乾し物を入れてしまおうよ」

ほそこえ 細い。[同] ほそえ。[及 32]

【例】 ほの ほそこえ ひぼ くんねあが
「その細い紐をくれませんか」

ほそなんげあ [hosonanŋɛ] [形] 細長い。[続 346]

【例】 へんたぐおの ほす ずぎの ほそなんげあ さおこ おすな
「洗濯物を乾す時の細長い棹が欲しいな」

ほだ [連語] そうだ。そういう事、わけ、様子だ。[及 250]

【例】 ほだほだ、ほのとおりだ
「そうだそうだ、その通りだ」

この語には、「ほだがした—そうなのか。そうだったのか」、「ほだじゅんだ—そうだね。なるほどそうだね」、「ほであった—そうだった」などの使い方がある。

ほだ [boda] 冠雪。木に積った雪。[及 107]

【例】 ほだ おづで きて、あだまがら かぶてしました
「冠雪が落ちてきて、頭から雪をかぶってしまった」

ほだあら [感] さようなら。そんなら。別れの言葉。[同] ほだら。ほだらまづ。んだあら。んだら。んだらまづ。[及 250]

【例】 ほだあら まだ あしたな
「さようなら、また明日ね。そんなら、また明日ね」

ぼたぐる [botagürü] [四他] 追い出す。[続 347]

【例】 なんぼ ぼたくても のらねごあ へあて きて こまた おんだ
「いくら追い出しても、野良猫が入って来て、困ったものだよ」

ぼだす [動] 追い出す。勘当、離縁、解雇する。[及 250]

【例】 この やろ あんまり えぐねあ やろだ ぼだしてしまえば
「この野郎は、あんまり悪い奴だから、追い出してしまえよ」

ぼたっと [potatto] [副] ぼたりと。これは、軽い物や小さい物の落ちるさまをいう。[続 347]

【例】 あだまさ あまだれあ ぼたっと おずで きた
「頭に雨垂れがぼたりと落ちてきたよ」

ほだて [連語] だって。[及 250]

【例】 ほだて めんごえ おん
「だって、可愛いんだもの」

ぼたでる [botaderü] [下一他] 追い立てる。[続 347]

【例】 まだ のらねごあ へてて きた、はやぐ ぼたでてやれ
「また野良猫が入って来た、早く追い立ててやれよ」

ほたぼ 頬。[同] ほったぼ。[及 12]

【例】 ほたぼ ふぐらまへで、なに おもへぐねあなだ
「ほほをふくらませて（ふくれつ面をして）、何が面白くないんだ」

ぼだゆぎ [bodajügi] 牡丹雪。粒の大きな雪。[及 107]

【例】 あたこえ おんだはげあ、ぼだゆぎあ ふて きた
「暖ったかいもんだから、牡丹雪が降ってきたよ」

ほっかぶり [hokkabüri] 頬被り。[続 347]

【例】 むがすあ さみぐなつど ほっかぶりのな の した おんだ
「昔は寒くなると、頬被りなんかしたものだよ」

ほっくりげあす [hokkürigesü] [四他] 掘り返す。[同] ほっくずる。ほつけあす。ほつちやぐる。[続 347]

【例 1】 ほごあ はな ゆえった どごだはげあ ほっくりげあすなよ
「そこは花を植えている所だから、掘り返すなよ」

【例 2】 つぐえん なが ほっくりげあしたて だめだぞ
「机の中を掘り返したっていけないよ」

ほっけあねあ [hokkene] [形] たわいない。がんぜない。[及 251]

【例】 ほっけあねあ おんで、こんもり わすつで きたどは
「たわいがなものだから、こうもり傘を忘れてきてしまったそうなんだよ」

ぼっこ 履物の底にくっついた雪。[及 107]

【例】 げださ ぼっこあ つだは
「下駄に雪がくっついてしまったよ」

ぼっこ [bokko] 木の切株。これは、木の切株や、短かくて使い物にならない丸太などをいう。[同]

きのぼっこ。[続 347]

ぼっこ [bōtsūko] [卑語] 若い女。若い女の卑語。この語は、悪口を吐く時に使われ、主として女の子から、若い女や嫁などに使っている。[同] ぼず。[続 347]

ぼったでる [動] 追い立てる。[及 251]

【例】 雀 ぼたでで こえ
「雀を追い立てて来なさい」

ほったんこ [hottanko] 父無し子。[続 347]

【例】 あの おなごあ ほったんこなの こしえあで なんずする おんだべ
「あの女は、父無し子なんか作って、どうするつもりだろう」

ほったんこ [hottanko] 内緒金。へそくり。[同] ほまづ。ほんまづ。ねあしよがね。ほったん。
[続 347]

【例】 おれだて なんぼが ほったんこ ためったや
「私だって、幾らかは内緒金を貯めているよ」

ほっちゃれます 産卵後の鱒。死を待つばかりの鱒で、殆ど食べられない。産卵後の鮭も「ほっちゃれよ」といっている。[及 96]

ほつつ [hottsū] [代] そっち。そちら。[及 251]

【例】 ほつつんねあ こつつだ
「そっちじゃないよ、こっちだ」

ほつつぐ [hottsūgū] [動] ほつつく。うろつく。[及 251]

【例】 この よながん どご ほつつぐなだ
「この夜中に、何所をうろつくんだ」
この語は、「ほろつぐ」ともいい、「ほつつぎありぐーほつつき歩く」のような使い方もある。

ほつつこつつ [名] そちこち。あちらこちら。あちこち。[及 251]

【例】 ほつつこつつ さがしたども、みつけかねだ
「そちこち探したが、見つけかねたよ」

ぼつと [副] ぼつんと。[及 251]

【例 1】 雨あ ぼつと しとつつ おづで きたな
「雨が、ぼつと一つ落ちて来たね」

【例 2】 ぼつと 一軒 あるばんだけ
「ぼつと一軒あるばかりだった」

ほつつのげ [hottsūmoge] そっちのけ。[続 348]

【例】 にいちゃん、〇〇くん おれあどご ほつつのげんして あすばねあけ
「兄ちゃん、〇〇君達は僕をそっちのけにして遊ばなかったよ」

ほつらがす [hottsūragasū] [四他] 取り散らす。[続 348]

【例】 ほん ほんげあ ほつつらがして だめだ かだずげで おげ
「本をそんなに取り散らしてはいけないよ、片付けておきなさい」

ほっても [副] 決して。必ず。[同] ほってもねあ。[及 251]

【例 1】 こんだから ほっても すんなよ
「今度から、決してするなよ」

【例 2】 ばんげ ほっても こえよ
「今夜必らず来いよ」

ぼってら [副] ぼってり。太っているさま。[同] ぼてっと。[及 251]

【例】 あの ぼってらした かがさまが
「あのぼってりした奥さんか」

ぼっぱらう [bopparaü] [四他] 追い払う。[続 348]

【例】 はだげさ あんまり からすあ くっさげあ ぼっぱらて おげよ
「畑に余り鳥が来るから、追い払っておけよ」

ぽつんぽつん [potsünpotsün] [副] ぽつりぽつり。[続 348]

【例 1】 あめあ ぽつんぽつん ふて きたな
「雨がぽつり降ってきたな」

【例 2】 ぽつんぽつんと はなす する しとだな
「ぽつりぽつりと話をする人だな」

ほでさま [hodesama] 布袋さま。[続 348]

【例】 おめあの はら ふぐっでで ほでさまの はらみであだな
「君の腹は、ふくれていて、布袋さまの腹みたいだね」

ぽてっと [potetto] [副] ぼってり。[続 348]

【例】 ○○さんて あそごに いだ ぽてっとした かだつぎの しとだ
「○○さんというのは、あそこにいた、ぼってりした体つきの人だよ」

ほどえ [ho^odoe] [形] 程よい。[続 348]

【例】 きょうの あめあ ほどえ あめで はだげの おのも たすかるな
「今日の雨は程よい雨で、畑のものも助かるね」

ほどがす [ho^odogasü] 解体する。[同] ほどごす。[続 348]

【例】 ふるす え つっけあ うず ほどかさねあんねあな
「古い家を近いうちに、解体しなければならないな」

ほどげさま 黒目。瞳。[及 12]

【例】 ほどげさまなの 突ぐど めっこん なんぞ
「黒目なんか突くと、盲になるよ」

ぽとっと [pototto] [副] ぼとりと。[続 348]

【例】 まだ せあでるどもたら つばぎの はな ぽとっと おずだけは
「まだ咲いていると思っていたら、椿の花が、ぽとりと落ちてしまったっけ」

ほどと一え [ho^odoto:ɛ] [形] 程遠い。[続 349]

【例】 まだ ほどと一え はなすだども、くりあ えだら くりままして くであな
「まだ程遠い話だが、栗がえんだら、栗飯にして食べたいな」

ほどる [hodorü] [四自] 暖まる。[続 349]

【例】 ひさ あだたら ようやぐ からだ ほどて きたな
「火に当たったら、漸く体が暖まって来たよ」

ほにほに [honihoñi] [副/感] まあまあ。この語は、誰かが何かを仕出かした時に発する言葉である。[続 349]

【例】 ほにほに、この わらす まだ ぬって きたがは
「まあまあ、この子は、また濡れてきてしまったのか」

ほねから [honekara] 骨。肉の付いていない骨。[続 349]

【例】 やまさ えたば なして しだんだが、うさぎあ ほねからん なてあっけな
「山へ行ったら、どうして死んだのか、兎が骨だけになってあったよ」

ほねがらみ [honeɟarami] [連語] 骨ぐるみ。この語の「がらみ」は「及位の方言 139P」に載せてあるが、「ふうであがらみ=風袋ぐるみ」。「はごがらみ=箱ぐるみ」などのように使う語である。[続 349]

ほねぼえ [honepoɛ] [形] 骨っぽい。[同] ほねっぽえ。[続 349]

【例 1】 この さがな ほねぼえ さがなだな
「この魚は、骨っぽい魚だね」

【例 2】 ○○さんだば ほねぼえ どごあ ある しとだな
「○○さんなら、骨っぽいところのある人だね」

ほの [連語] 其の。[及 251]

【例】 ほの 本 くんねあが
「その本をくれませんか」

ほのうず [honoüdzü] [連語] そのうち。[続 349]

【例】 なすも おっきぐなて きたはげあ、ほのうず おわ えの なす くえべ
「茄子も大きくなってきたから、そのうち自分の家の茄子が食べられるだろう」

ほのおの [honoono] [連語] その物。[続 349]

【例】 おみやげひんは みでくればりで ながみほのおのあ あげぞごだけ
「お土産品は、見てくればかりで、中味その物は上げ底だったよ」

ほのくへ [honokühe] [連語] そのくせ。[続 349]

【例】 くずだば えっちよめあだども ほのくへ ろぐだ すごど へねああだ

「口なら一人前だが、そのくせろくな仕事をやれないんだ」

ほのて [honote] [連語] その手。[続 350]

【例 1】 なんぼ としよりでも ほの てにあ のらねあぞ

「いくら年寄りでも、その手には乗らないよ」

【例 2】 ほの ての すなおの もと ねあが

「その手の品物はもっとないか」

ほのでん [honodēn] [連語] その伝。[続 350]

【例】 なんだ ほの でんで やっど そんなま じょうずなる

「そうそう、その伝でやると、直きに上手になるよ」

ほのは [honoha] 朴の葉。[続 350]

【例】 ほのはで おめんなの つくて かぶた おんだども えまだば つぐらねあなは

「朴の葉で、お面なんか作って被ぶったものだが、今はもう作らないね」

ほのば [honoba] [連語] その場。[続 350]

【例】 ほのばすのぎの すごどなの する おんでねあぞ

「その場しのぎの仕事なんかは、するもんじゃないよ」

ほのばかぎり [honobakanjiri] [連語] その場限り。[続 350]

【例】 ほのばかぎりの やくそぐで、あどで わすっだなて ゆわねあべなや

「その場限りの約束で、後で忘れたなんていわないだろうね」

ほのはず [honoha^odzū] [連語] その筈。[続 350]

【例】 ほれも ほのはずだ スイツツ えれねあ おん えごがねあ はずだ

「それもその筈だよ、スイッチを入れないもの、動かない筈だよ」

ほのばぬがれ [honobanūnare] [連語] その場逃れ。[続 350]

【例】 ほんた ほのばぬがれだ ごど ゆて ごまがしたて だめだべや

「そんな、その場逃れなことをいってごまかしたって、駄目じゃないか」

ほのはまま [honohamama] 朴の葉に包んだ黄粉の握り飯。これは、田植え時に、黄粉をまぶした握り飯を、朴の葉に包んで出したものであるが、これを「ほのはまま」といい、子供などは喜んで食べたものである。[続 350]

ほのひぐらす [honohiğurasū] [連語] その日暮し。[続 350]

【例】 どうも からだの ちょうすあ えぐねあくて えま ほのひぐらすだ

「どうも、体の調子が悪くて、今はその日暮しだよ」

ほのほが [honohoga] [連語] その他。[続 351]

【例】 スコップあ たがたども ほのほが もて えぐ おのあ ねああだべが

「スコップは持ったが、その他持って行く物はないんだろうか」

ほのみず [honomidzū] [連語] その道。[続 351]

【例】 おれだて ほのみず さんじゅうねんも ありて きたあだぜあ
「俺だって、その道30年も歩いて来たんだよ」

ほのゆえ [honojüē] 〔連語〕 その上。〔同〕 ほのうえ。〔続 351〕

【例】 おめあどさ これこれの ぜあさん くっだあだべ、ほのゆえ なに おすてや
「お前に、これこれの財産をくれたんだろう、その上何が欲しいっていうの」

ほへる [hoφerü] 〔動〕 乾く。〔及 251〕

【例】 おもでさ 出して おぐど そんま ほへる
「外に出しておくよ、じきに乾くよ」

ほまづ 〔名〕 へそくり。小遣錢とり。〔同〕 ほんまづ。〔及 251〕

【例 1】 これあ おれの ほまづだ
「これは私のへそくりだよ」

【例 2】 この すごどあ ほまづ すごどだ
「この仕事は、小遣錢稼ぎの仕事だよ」

ほめおの [homeono] ほめ者。〔同〕 ほめおん。〔続 351〕

【例】 ○○さんだば、はだらぎおんだす、おどなすくて、むらでも ほめおのだ
「○○さんなら、働き者だし、おとなしくて、村でもほめ者だよ」

ほや やどりぎ。やどりぎ科の寄生植物で、イタヤカエデ、サクラ、ブナなどに寄生し、熟した実は黄色でねばりけがあり、鳥のくちばしについて、他に運ばれる。〔及 96〕

ほゆ一めあ [hojü:me] 保有米。〔続 351〕

【例】 こどすあ ほうさくだはげあ ほゆ一めあも えっぺあ のごるな
「今年は豊作だから、保有米も沢山残るな」

ほら [hora] 〔感〕 そら。〔続 351〕

【例 1】 ほら、ゆたとおりだべ
「そら、いった通りだろう」

【例 2】 ほら、えぐぞ
「そら、行くよ」

【例 3】 ほらきた
「そら来た」

ほらのげあ [horanogē] 法螺貝。〔続 351〕

【例】 ほらのげあ ふえで くる しゅげんじやなの こねあぐなたなは
「法螺貝を吹いて来る修験者なんか、もう来なくなっちゃったな」

ほりおの [horiono] 彫り物。〔続 351〕

【例 1】 となりの むらに うでさ ほりおの したないだ
「隣の村に、腕に彫り物をしているのがいるよ」

【例2】 ほっかいどうみやげん くまの ほりおの かて きた
「北海道土産に、熊の彫り物を買って来たよ」

ほれ [代] それ。[及 251]

【例1】 ほれ よごしてくんねあが
「それをよこしてくれないか」

【例2】 ほれあ おれだ
「それは、私だ」

【例3】 ほれあ ほれあ
「それはそれは」

ほれあ [horɛ] [連語] それは。[続 351]

【例1】 ほれあ こっちや ゆえでくんねあが
「それは、こっちに植えてくれないか」

【例2】 ほれあほうど、○○あ こねあな
「それはそうと、○○は来ないな」

ほれがら [連語] それから。[及 252]

【例】 札幌さ えて ほれがら くすろさ えたなよ
「札幌に行って、それから釧路に行ったんだよ」

ほれごそ [horɛgoso] [連語] それこそ。[及 252]

【例】 ほれごそ おっきな つっだけ
「それこそ大きいのが釣れたつけ」

ほれどねあぐ [horɛdonɛgü] [連語] それとなく。[続 352]

【例1】 くんべどあ ほれどねあぐ きでであった
「来るだろうとは、それとなく聞いておったんだった」

【例2】 ほれどねあぐ きでみろ
「それとなく聞いてみろよ」

ほれとも [horɛtomo] [接] それとも。[続 352]

【例】 こつつんな おすが ほれとも ほつつんな えが
「こっちのが欲しいか、それとも、そっちのがいいかい」

ほれなり [horɛnarī] [連語] それなり。[続 352]

【例1】 なおしてくえるては いうけども ほれなりで なおしてくんねあなよ
「直してくれるとはいっておったが、それなりで、直してくれないんだよ」

【例2】 わらしたずあ わらしたずで ほれなりん べんきよしてるな
「子供らは子供らで、それなりに勉強しているね」

ほろぐ [horogü] [動] つく。陰口をつくこと。[及 252]

【例】 えあづだば しの ざんぞなのばり ほろぐ おんで

「あいつなら、人の陰口なんかばかりつくもんで」

ほろぐ [horogü] [動] 振り払う。振り落とす。[及 252]

【例】 へながの ゆぎ ほろぐんだ
「背中の雪を振り払いなさいよ」

ほろげおずる [horogedzürü] [上一白] 落ちる。これは、人が高い所から落ちることや、木の実などが落ちることをいう。[続 352]

【例 1】 ほんたどさ あがっど、ほろげおずんぞ
「そんな所へ上がると、落ちるよ」

【例 2】 くりあ ほろげおずて きた
「栗が落ちて来た」

ほろける [動] 毫碌する。[及 252]

【例】 あの ずさまも ほろけで きたなは
「あのお爺さんも、もう、もうろくして来たね」

ぼろこ ぼろ。ぼろきれ。[及 60]

【例】 ぼろこな の まどめで くづ屋さ やてしまえ
「ぼろきれなんか、まとめて屑屋にやってしまいなさい」

ぼろこ [boroko] ぼろ布。[続 352]

【例】 ほごらの ぼろこあ あずべで くずやさ だしてやんべ
「そこらのぼろ布は、集めて屑屋に出してやろう」

ほろつぐ [horotsügü] [四白] うろつく。ほつつく。[続 352]

【例】 まず、この えそがすに どご ほろつで ありぐなだ
「まあ、この忙しいのに、何処をうろついて歩くんだ」

ほろっと [horotto] [副] ほろりと。[続 352]

【例 1】 あんまり むぞせあくて ほろっと なみだ ながしたなよ
「余り可哀そうで、ほろりと涙を流したんだよ」

【例 2】 にさんべあの さげで ほろっと よてした
「二、三杯の酒で、ほろりと酔ってしまったよ」

ぼろっと [porotto] [副] ほろりと。[続 352]

【例】 ふぐ さがさまん したば じゅうえんだま ぼろっと おずで きたけ
「服を逆さにしたら、十円だまがぼろりと落ちてきたっけ」

ほろにんげあ [horoññe] [形] ほろ苦い。[続 353]

【例】 おれあ キリンビールの ほろにんげあどご すぎだな
「私はキリンビールのほろ苦いところが好きだね」

ほん [hon] 本当。[続 353]

【例1】ほんする（ほんにする）

「本当にする」

【例2】ほんしねあ（ほんにしねあ）

「本当にしない」

【例3】ほんなる（ほんになる）

「本当に思う」

【例4】ほんならねあ（ほんにならねあ）

「本当にならない（本当とは思われない）」

「本当をいう」。「本当の力」。「本当に困った」などの「本当」には使わない語である。

ほんげあ [honŋe] [副] そう。[同] ほげあ。ほげあん。[続 353]

【例1】ほんげあ すんなだ

「そうするんだ」

【例2】ほんげあ ゆてころ

「そういっくれ」

また、「ほんげあ」は「そんなに」とも訳される語で、「ほんげあ もらて＝そんなに貰って」。「ほんげあ いろなや＝そんなにいうなよ」などと使う。

ほんげあほんげあ [honŋehonŋe] [副] そうそう。[続 353]

【例】ほんげあほんげあ おめあどさばり くえらんねあ

「そうそうお前にばかりくれないよ」

なお、この語は、頷く言葉には使わない語である。

ほんこ [名] 本勝負。子供の賭け遊び。普通は単なる遊びで、勝負に負けてもあとで、賭けものを返すのだが、「こんだ ほんこで すんべー今度は、本勝負でしょう」ということになると、賭けた、めんこ、ギヤマ（平らなガラス玉）などを勝った方が本当に取ってしまう遊び。[及 252]

ほんこ [honko] 本当の賭ごと。これは、子供の遊びの賭ごとをいう。[続 353]

【例】○○ちゃん ほんこの ぱつつぶず しねあが

「○○ちゃん、本当の賭のめんこをしないか」

めんこ遊びも普通は負けた者のめんこを返すが、ほんこになると、勝った者が負けた者のめんこを取って自分のものにする。

ほんじなし [名] たわいなし。[同] ほんであなし。[及 252]

【例】この ほんじなし どき おどしてきた

「このたわいなしが、どこえ落して来たんだ」

ほんず [honⁿdzü] 正体。覚え。[同] ほんであ。[続 353]

【例1】はえあごど しつとえあの こめん ねてしまて ほんずあ ねあでは

「早いこと、一寸の間に寝てしまて、もう正体がないよ」

【例2】ゆべな よっぱらてしまて、なんずして けあたが ほんずあ ねあは

「夕べは酔っ払ってしまって、どうして帰ったのか覚えがないね」

ほんずあねあ 人事不省。気を失なう。馬鹿。うすのろ。[同] ほんであねあ。[及 17]

【例 1】 交通ず故で 入院したども まだ ほんずあねあど

「交通事故で入院したが、まだ、人事不省だそうだ」

【例 2】 えあづあ ほんずあねあ おんだはげあ、せあふ おどしだどは

「あいつはうすのろなものだから、さいふを落としてしまったそうだ」

うすのろを「ほんきねあ」、「うすほんきねあ」などと使っている。

ほんずぎ [hondzügi] ほおずき。なす科の一年生植物。[及 96]

【例】 ほんずぎあ 赤ぐなてがらんねあば ならさんねあ おんだ

「ほおずきは赤くなってからでなければ鳴らされないものだよ」

ほんせあ [honse] 本妻。[続 354]

【例】 あの おなごあ ほんせあだどもたら めがげだど

「あの女は本妻だと思ったら妾だそうだ」

ほんた [連語] そんな。[及 252]

【例 1】 ほんたおの もて くんな

「そんな物を持って来るな」

【例 2】 ほんたごど したて たげあただねあべ

「そんなことをしたって、追っつかないだろう」

また、この語の強調語に、「ほんつけあた」がある。

ほんだづ 本裁ち。大人の着物の仕立てかた。[及 60]

【例】 この 娘なも こんだ ほんだづで えなは

「この娘のも、今度は、もう本裁ちでいいね」

ほんだら [bonⁿdara] 棒鱈。[同] ぼだら。[続 354]

【例】 ほんだらも しょうが へで さどしょうゆで にずげっど んめあな

「棒鱈も生姜を入れて、砂糖醤油で煮付けると美味いね」

ほんで [連語] それで。[及 252]

【例】 ほんで ほれがら なんずしたなや

「それで、それからどうしたんだい」

ほんであ [名] 覚え。正体。[及 252]

【例 1】 ゆべなの ごどあ ほんであ ねあな、よっぼど よてあったんだな

「夕べ(昨夜)のことは、覚えがないな、余程酔ってあったんだね」

【例 2】 ねで しまて ほんであ ねあは

「寝てしまって、もう正体がないよ」

ほんであ [honⁿde] 本代。[続 354]

【例】 ○○ちゃん、がっこで かって もらた ほんであ なんぼだけや
「○○ちゃん、学校で買ってもらった本代は幾らだったの」

ほんであなす [honⁿdenasü] しっかりしていない者への悪口。[同] ほんずなす。[続 354]

【例】 ほんであなすあ ほれ こんだ べんと わすれっどごだ
「ぼんやり者が、ほうれ、今度は弁当を忘れるところだよ」

ほんでござ [hondegoso] [連語] それでこそ。[及 252]

【例】 ほんでござ おどごだべや
「それでこそ男じゃないか」

ぼんでん [名] ご幣。お祭りに使う大きなごへい。[及 252]

【例】 おまづりさ 使うな ぼんでん つぐらねあんねあな
「お祭りに使うご幣を作らないといけないな」

ぼんでん [名] 煤を振り落とす、わら製の道具。[及 253]

【例】 すすはれあ すんな ぼんでん もて きてころ
「煤払いをする、ぼんでんを持って来てくれ」

ほんと [名] 本当。[及 253]

【例】 おめあ ほんどん えぐなが
「お前、本当に行くのかい」

本当に、という語は、「ほんてえ」、「ほんてえん」、「ほんどん」などという使い方をしている。

ほんとの [hontono] [連体] ほんの。[続 354]

【例】 これあ すこすばりですども ほんとの おれの するすです
「これは、少しばかりですが、ほんのお礼のしるしです」

ほんな よぶすまそう。きく科の多年生草本で山菜。[同] ほな。ほなこ。ほんなこ。[及 96]

【例】 ほんなまだ、おしたしん して くうど んめあぜあ
「よぶすまそうは、ひたし物にして食べると、うまいよ」

ほんぬぎ [honnügi] 朴の木。もくれん科の落葉高木で、材は木工用として、よく使用されている。[及 97]

ぼんばな [bonbana] お盆に仏さまに供える花。これは、おみなえし、はぎ、みそはぎ、ふじばかま、すすきなどの野生植物をいい、これらをお盆に仏さまに供えるので、総称していつている。[続 354]

ぼんぼんげだ ぼつくり。少女用の下駄。[及 60]

【例】 ががつあ おれあどさも ぼんぼんげだ かてころ
「お母さん、私にもぼつくりを買って下さい」

— ま —

ま [ma] [副] もう。この語は、「分量の表現を伴って、この上なお、更に多く」の意味にだけ使われる語である。[同] えま。[続 354]

- 【例 1】 ますこす
「もう少し」
- 【例 2】 ましとり
「もう一人」
- 【例 3】 まえっぺあ
「も一杯」

まあだらす [maadarasü] [形] 真新しい。[続 354]

- 【例】 ほの まあだらす ズック ほんげあ よごしたて だめだべや
「その真新しいズックを、そんなに汚したって駄目じゃないの」

まえあ [mae] 間合い。[続 355]

- 【例 1】 となりどの まえあ ちけあくて こまる
「隣りとの間合いが近くて困るよ」
- 【例 2】 はなすえあ すんなだば あんまり まえあ おがねあ うずん した ほあ えな
「話合いをするのなら、余り間合いを置かない内の方がいいね」

まえあさま [maeasama] 毎朝。[同] まえあさ。[続 355]

- 【例】 ゆぎあ ふるよん なっど まえあさま はらわねあんねあ
「雪が降るようになると、毎朝払わないといけないんだ」

まえがだけ [maegadage] [名] 毎食。食事の都度。[及 253]

- 【例】 あぎん なっど、まえがだけ なめこずるだ
「秋になると、毎食なめこ汁なんだ」

まえつき [maetsügi] [名] 毎月。[及 253]

- 【例】 まえつき つぎすえん とりん くる
「毎月、月末に取りに来るよ」

まえど [mae^odo] 毎度。[続 355]

- 【例】 まえどの ごどだども さんどさんどの すんめあも やだぐ なるは
「毎度のことだが、三度三度の炊事も、嫌になってしまうね」

まえにつ [名] 毎日。[及 253]

【例】 すんぶんだば まえにつ くるな
「新聞なら、毎日来るね」

まえねん [名] 毎年。[及 253]

【例】 まえねん 冬ん なっど ゆぎあ 降る おんだ
「毎年、冬になると、雪が降るものだね」

まえばん [名] 毎晩。[及 253]

【例】 まえばん えぐ のむ おんだ
「毎晩、よく飲むもんだ」

まがす [magasü] こぼす。液体を容器から流し出すこと。[続 355]

【例 1】 どご みでんなだ、ほら、おする まがすぞ
「どこを見ているんだ、ほら、お汁を滴すよ」

【例 2】 バゲズの みず まがして おげ
「バケツの水を捨てておけよ」

まがだ [magada] 炊事。この語は、単独では使わない語である。[続 355]

【例 1】 まがだ あへる
「食事の時間に間に合うように炊事をする」

【例 2】 まがだ あわねあ
「炊事が、食事の時間に間に合わない」

まがだあへる [magadaaçerü] [連語] 食事の時間までに炊事を仕上げること。[及 44]

【例】 これだけの しのの まがだ あへんなも らぐんねあ おんだ
「これだけの人数の食事を時間までに仕上げるのは、楽じゃないものですよ」

まがねあ [magane] 賄。食事。[及 44]

【例】 今日の まがねあ 何 したら えがべ
「今日の賄は何にしたらいいだろう」

まがねあががり [maganenagari] 賄係。給食係。[及 79]

【例】 ○○さんまだ、がっこの まがねあががりだど
「○○さんは、学校の給食係だそうだ」

まがへる [magaherü] [下一他] 任せる。[続 355]

【例】 こゆごどあ ○○さんさ まがへで まどめて もらえ
「こういうことは、○○さんに任せて、纏めてもらえよ」

まかまか [副] もたもた。[及 253]

【例】 なに まかまかてんなだ、ちゃっちゃど 来たら えべあ
「なにをもたもたやってるんだ、さっさと来たらいいのに」

まがりぶす [maɟaripūsū] 関節部。体の関節部をいう。この語は、「うでのまがりぶす＝腕の関節」。「ひじゃのまがりぶす＝膝の関節」などと、特に、腕や膝の関節をいう語である。[続 355]

まぎ 血統。遺伝系統。[及 17]

【例】 あそごのえあ はい病 まぎだはげあ あそから 嫁簪あ もらわんねあ
「あそこは肺病の血統だから、あそこからは、嫁簪は貰われないね」

まぎおの [magiono] 巻き物。[続 355]

【例】 おれあ えにあ むがすから つたわた ふるす まぎおのあ あんぜあ
「私の家には、昔から伝わった、古い巻き物があるよ」

まぎがじえ [magigadzɛ] つむじかぜ。まきかぜ。[及 107]

【例】 まぎがじえで しゃっぶ とばさっだけ
「つむじ風で、帽子を飛ばされたつけ」

まぎげあし [magigesī] 巻き返し。[続 355]

【例】 つなひぎで まげそだけあ まぎげあしして とうど かつたけ
「綱引きで、負けそうだったが、巻き返ししてとうとう勝ったつけ」

まぎらわす [maɟirawasū] [形] 紛らわしい。[続 356]

【例】 ほんた まぎらわす ごど いうど まずがてしまうぜあは
「そんな紛らわしいこというと、間違ってしまうよ」

まぐまぐする [magūmagūsūrū] くらくらする。[続 356]

【例】 あんまり わらしたずあ さわぐ おんで あだま まぐまぐしてくるは
「余り子供らが騒ぐもので、もう頭がくらくらしてくるよ」

まぐらいし [magūraiši] 枕石。炭がまの煙出し口に使う角石。[及 75]

【例】 まぐらいして、炭がまの けぶだしさ たでだ 石さ ねへで おぐ 石の ごどよ
「枕石というのは、炭がまの煙出しに立てた石にねせて置く石のことなんだよ」

まぐらう [magūraū] [四他] 食らう。この語は、物を食うという意味だけに使い、「一発食らう」のような意味では使わない語である。[続 356]

【例】 ほんげあ まぐらうど はらいであぐすんぞ
「そんなに食らうと、腹をこわすぞ」

まぐらえめし [magūraeṃeši] 死人の枕元に供える飯。[続 356]

【例】 まぐらえめしずあ しとへらで もる おんだぞ
「枕飯というものは、一へらで盛るものだよ」

まぐらんぎ [magūranṅi] 枕木。[続 356]

【例】 レールの したさ しぐな まぐらんぎていう おんだ
「レールの下に敷くのを枕木というものだよ」

まげあおの [maɟeono] 紛い物。[続 356]

【例】 ほうせぎにあ まげあおのも あっさげあ きいつけねあんねあど
「宝石には紛い物もあるから、気を付けないといけないそうだ」

まげずぎれあ [mageⁿdzũnjire] [ナ名ノ] 負けず嫌い。[続 356]

【例】 この わらすあ まげずぎれあで まげっど なぐなだ
「この子は負けず嫌い、負けると泣くんだよ」

まげらがす [動] 負かす。[及 253]

【例 1】 しとに まげらがさんねあよん がんばれよ
「人に負かされないように頑張れよ」

【例 2】 しとんどご まげらがすくれあ つえぐなれよ
「人を負かすほど強くなれよ」

まげる [magerũ] [四他] 吐く。この語は、「ずほ まげる＝嘘を吐く」の形だけで使っている語である。[同] こぐ。[続 356]

まごえ [maŋoɛ] 真鯉。[続 356]

【例】 おれあえの こえあ まごえより いろごえの ほあ よげだな
「うちの鯉は真鯉より、色鯉の方が多いね」

まさか [masaga] [名] 万いち。[及 253]

【例】 これあ まさگان ずぎ 使うなだぞ
「これは、万いちの時使うのだよ」

まさす [副] まさしい。よく当る。[及 254]

【例】 あそごの 神降ろしあ まさす 神降ろすだつけな
「あそこの神降ろしは、よく当る神降ろしだそうだな」

まざりおの [maⁿdzariono] 混じり物。[続 357]

【例】 これあ まざりおのあ へあつたはげあ、へんべつ しなおすだな
「これは、混じり物が入っているから、選別のし直しだな」

まざりけ [maⁿdzarike] 混じり気。[続 357]

【例】 これだば まざりけの ねあ しょうしんしょうめいの ○○しゅだな
「これなら混じり気のない、正真正銘の○○酒だな」

まざる [maⁿdzarũ] [四自] 混じる。仲間に入る。[続 357]

【例 1】 ほごの まめど あずぎあ まざっど えぐねあはげあな
「そこの、豆と小豆が混じるといけないからね」

【例 2】 おれも ぼいこさ まざっであな
「私も鬼ごっこの仲間に入りたいな」

まじえこじえ [maⁿdzekoⁿdze] まぜこぜ。[続 357]

【例】 ほの まめ ええなど えぐねあな まじえこじえんすんなよ

「その豆をいいのと悪いのを、まぜこぜするなよ」

まじえる [ma^hdʒerü] [動] 混ぜる。交える。仲間に入れる。[及 254]

【例 1】 砂さ、セメント えっくん まじえる おんだぞ

「砂にセメントをよく混ぜるもんだよ」

【例 2】 おめあどごも まじえっさげあ いっしょん はすれや

「お前も仲間に入れるから、走れよ」

ましど まわし戸。ドア。[及 53]

【例】 ござ ましど つけんべ

「ここへドアをつけよう」

ます [masü] [四他] 回す。[続 357]

【例】 ほの かいらんばんは こっつの えがら ますなだぞ

「その回覧板は、こっちの家から回すんだよ」

～ます [～masü] 回し。[続 357]

【例 1】 こまます

「独楽回し」

【例 2】 さるます

「猿回し」

【例 3】 さらます

「皿回し」

【例 4】 たれあます

「たらい回し」

【例 5】 ねずます

「螺子回し」

【例 6】 のみます

「飲み回し」

まず [ma^hdzü] [形] まずい。[続 357]

【例 1】 この さがな まずな

「この魚はまずいな」

【例 2】 まずごど してしまたな

「まずいことをしてしまったな」

まず まずい。[及 32]

【例 1】 この 料理あ まずな

「この料理はまずいな」

【例 2】 この ずあ まず ずだな

「この字はまずい字だな」

【例3】 まずごと してしまたな

「まずいことをしてしまったな」

まずあへる [madzūaherū] [下一他] 待ち合わせる。[続 357]

【例】 かいおのあ でげだら えぎで まずあへる ごどん すんべや

「買い物が出来たら、駅で待ち合わせることにしようよ」

まずえあーすず [madzūe:sūdzyū] 待合室。[続 357]

【例】 きょうあ びょういんの まずえあーすずあ こでだけな

「今日は、病院の待合室は混んでおったね」

まずえしや [madzūeʃa] 町医者。開業医。[続 358]

【例】 まずえしやだども、〇〇いいんだば うであ ええどて ひょうばん えな

「町医者だが、〇〇医院なら腕がいいって評判がいいね」

まずげあー [maⁿdzüge:] 間近い。[続 358]

【例】 おさんも まずげあ おんだはげあ、ばさま したぐ てずだったは

「お産も間近いものだから、お婆さんも、もう仕度を手伝っているよ」

まずげある [madzūŋerū] [下一他] 間違える。[続 358]

【例】 おわ はぎおの しとんなど まずげある おのあ あんめあな

「自分の履物を人のものと間違える者があるもんか」

まずしゆ [madzūʃyū] 町衆。[続 358]

【例】 まずしゆずあ ハエカラだ おんで、おらみであだ いながおのどあ つがうな

「町衆って、ハイカラなもので、俺達のような田舎者とは違うね」

まずす [形] 貧しい。[及 254]

【例】 むがすな まずす おどごあ いだけど

「昔ね、貧しい男がおったそうだ」

まずであー [madzūrⁿde:] 末代。[続 358]

【例】 おれあ あずべだ むがすばなすあ まずであーまでの たがらおんだ

「私の集めた昔話は、末代までの宝物だよ」

まずであーおの [madzūrⁿde:ono] 末代物。[続 358]

【例】 これだば じょうぶん でげでっさげあ、まずであーおのだな

「これなら丈夫に出来ているから、末代物だね」

ますど [masūrⁿdo] 回し戸。ドア。[続 358]

【例】 こごあ ますどん すっど へべあたて でへあり でげるな

「ここは回し戸にすると、狭くとも出入りが出来るね」

まずねあ [maⁿdzüne] [名] まじない。呪い。[及 254]

【例】 この 村に、まずねあ する しとあ いったんねあが

「この村に、呪いをする人がいるそうじゃありませんか」

まずびしやす [madzūbī¹asū] [形] 待ち遠しい。[続 358]

【例】 えっしゅうかんも まずでんなだば まずびしやす おんだな
「1週間も待っているのなら、待ち遠しいもんだね」

まずぼっこり [madzūbokkori] 松毬。まつぼっくり。[続 358]

【例】 まずぼっこりで かざりおの こしえあっど おもへな でげんぜあ
「松毬で飾り物を作ると、面白いものが出来るよ」

まずぼろけ [madzūboroke] 待ち惚け。[続 358]

【例】 ○○さん くるていうはげあ まずっだども とうど まずぼろけであった
「○○さんが来るというから待っていたが、とうとう待ち惚けだったよ」

まずめ [形] 真面目。[及 254]

【例】 勉強すっすぎあ まずめん する おんだぞ
「勉強する時は、真面目にするものだよ」

まだ [係助] は。wa。[及 254]

【例】 これあまだ おれあえの 長男こだ
「これは、うちの長男です」

まだ [mada] 股。[同] まった。[及 12]

【例】 あんまり まだ ひろげっど ズボン さげんだはげあ
「余り股を広げると、ズボンが裂けるんだから」

まだどねあ [madadone] [連語] またとない。[続 359]

【例】 ほうゆ えんだんだば まだどねあ ええ はなすだんねあがや
「そういう縁談なら、またとない、いい話じゃないか」

まだるこえ [ma¹darūkoē] [形] まだるっこい。[続 359]

【例】 おめあ すんな みでっど、まだるこえ おんで みでらんねあ
「お前のするのを見ていると、まだるっこいもんで、見ていられないよ」

まづ まち。着物の基本部分だけでは足りない所につける布。または、袴などの内側に足す布。[及 61]

まっか [makka] 股。特に木の二股をいう。[同] まっかぎ。[続 359]

【例】 この まっか きごやの はすらん すんな ちょうど えな
「この二股の木は、木小屋の柱にするのに頂度いいね」
また、「まった」ともいうが、これは、人の股にも二股木にもいう。

まっかごや [makka¹goja] 堀立て小屋。股木を柱にした小屋。[及 53]

【例】 たぎぎ へで おぐ まったごや おしな
「薪を入れておく、堀立て小屋が欲しいな」

まつかねある [matsükānerū] [下一他] 待ち兼ねる。[続 359]

【例】 あんまり おそえ おんだおん まつかねあで、さぎん のでだぜあは
「余り遅いものだから、待ち兼ねて、もう先に飲んでいるよ」

まっかばすら 股柱。先が二股の柱。[及 67]

【例】 木小屋たでる まっかばすら おすな
「木小屋を建てる二股柱が欲しいな」

まっくれあ [makküŕε] 真暗い。[及 32]

【例】 こにやだば 星も 出ねあ まっくれあ 晩だな
「今夜は星も出ない真暗い晩だな」

まづげあ [madzünε] [名] 間違い。[及 254]

【例】 ほれあ なにがの まづげあんねべが
「それは、何かの間違いではないだろうか」

まっこ [makko] 抹香。[続 359]

【例】 こごらあだりて まっこなの つかうな そうすぎん ずぎぐれあのおんだな
「ここらあたりで抹香なんか使うのは、葬式の時ぐらいのものだね」

まっこくせあ [makkoküŕε] [形] 抹香臭い。[続 359]

【例】 まっこくせあど、やっぱり そうすぎだ、ていう きあ するな
「抹香臭いと、やっぱり葬式だという気がするな」

まづじえみ [madzüdžemī] あかえぞぜみ。せみ科の昆虫。[及 97]

【例】 まづじえみて、えぐ まづばやしで、じい、じいて なぐ へみだべ
「あかえぞぜみって、よく、松林で、じい、じいとなく蟬だろ」

まっせあーちゅー [massε:tšür:] 真最中。[続 359]

【例】 えま こごらであ いねかりの まっせあーちゅーで、えそがす さがりだ
「今この辺では、稲刈りの真最中で、忙しい盛りだよ」

まづだづ [名] 町立ち。町に買い物に行くこと。[及 254]

【例】 今日あ ○○さ まづだづ えて くる
「今日は、○○町に買い物に行ってくるよ」

まっつ ^{マツチ} 燐寸。[及 54]

【例】 おぼごあ まっつなの ちょさんねあ おんだ
「子供はマツチなんかもてあぶんじないものだよ」

まっつあがさま [mattsagsama] [ダナ] 真っ逆さま。[続 359]

【例】 やねの ゆぎおろし してで、すべて まっつあがさまん おずだど
「屋根の雪下ろしをされていて、真っ逆さまに落ちたそうだ」

まっつあがり [mattsagari] 真っ盛り。[続 359]

【例】 ゆぎぐにだ おんだはげあ、さぐらの さぐなも おそくて、えま まっつあがりだ
「雪国なものだから、桜の咲くのも遅くて、今真っ盛りだよ」

まっつあぎ [mattsagi] 真っ先。[続 360]

【例】 ○○ちゃん ままだて ゆたば まっつあぎん はして きたけ
「○○ちゃんは、ご飯だ、といたら、真っ先に走って来たっけ」

まっつぐ [mattsūgū] [副] 真直ぐ。[及 33]

【例】 こご まっつぐ えぐど ○○だ
「ここを真直ぐに行くと○○だよ」

まっつぐ [副] 真直ぐ。[及 254]

【例】 この みづ まっつぐん えぐと えなだ
「この道を真直ぐに行くといいんです」

まっつぐ [名] 正直(形)。[及 254]

【例】 あの しとだば まっつぐだ しとだ
「あの人なら、正直な人だね」

まっと [形] まっとう。まとも。まじめ。[及 254]

【例】 ○○だば まっとだ しとだ
「○○さんなら、真当な人だね」

まっと [副] もっと。それ以上に。[同] まと。もと。[及 254]

【例】 この おがす まっと くんねあが
「このお菓子、もっとくれませんか」

まつば [matsūpa] 松葉。[続 360]

【例】 まつくいむすて、まつば くなんねあぐ みぎさ へある むすだど
「松喰虫って、松葉を食うのではなく、幹に入る虫だそうだ」

まづば [名] 町場。町。[及 255]

【例】 まづばだば しとあ うるせあくて
「町場は人がうるさくて」

まづばり 待ち針。[及 61]

【例】 まづばり たんねあはげあ かて きてころ
「待ち針が足りないから、買って来て下さい」

まづぼ ばいかも。きんぼうげ科の水中植物で、食用にする。[同] まづも。[及 97]

【例】 まづぼあ きれだ 流れ水ん だごさんねあば おえねあ おんだ
「ばいかもは、きれいな流れ水のところでないと生えないものだよ」

まつぼえ まぶしい。[同] まぶし。まぶす。[及 33]

【例】 天気あ えはげあ ゆぎみづあ まつぼえな

「天気がいいから、雪道はまぶしいね」

まづもどす [形] 待ち遠しい。[同] まづびしやす。[及 255]

【例】 はやぐ 来たら えがべあ まづもどす ごど
「早く来たらいいだろうに、待ち遠しいこと」

まづやね 松脂。松の樹幹からしみ出るやにをいう。[及 97]

【例】 まづやね 手さ くつげっど ながなが とんねあくてな
「松脂を手にくつつけると、なかなか取れなくてね」

まづら ぐるみ。がらみ。[及 255]

【例】 ふうであまづらで なんぼ あるや
「風袋ぐるみで、幾らあるの」

まづる [動] 待つ。待っている。[及 255]

【例】 嫁 まづるよん まづっだ (mazuderu)
「嫁を待つように待っていたよ」

まで [名] 丁寧。[及 255]

【例】 ほんげあ までん しねあて ええはげあ
「そんなにていねいにしなくともいいから」

まで [名] 丁寧。[及 33]

【例】 しごどずあ までな程 え おんだ
「仕事というものは、ていねいな程いいものだよ」

まと [mato] [副] もっと。[同] もと。[続 360]

【例】 がが この ときびあ んめあはげあ まと くいであな
「お母さん、このときびは美味いから、もっと食べたいな」

まなぐ [managü] 眼。[続 360]

【例】 ないだや まなぐ ないがしたなが、がんであなの かけで
「なんだい、眼をどうかしたのかい、眼帯なんか掛けて」

まなくたま [manakütama] 目玉。[続 360]

【例】 この わらすあ ねず だした おんだはげあ まなくたま あげあぐなたな
「この子は、熱を出したのだから、目玉が赤くなったな」

まなぐぶず [managübüdzü] 瞼。[続 360]

【例】 ほえどでも でげんなだべが まなぐぶずあ はっで きたなよ
「物貰いでも出来るのだろうか、瞼が腫れてきたんだよ」

まなび [manabi] しるし。ごくわずかの意。[続 360]

【例】 これあ ほんとの おれの まなびばりだども たべでくだせあ
「これはほんのお礼のしるしばかりですが、食べて下さい」

まにあへ [maniahe] [名] 間に合せ。[及 255]

【例】 これで まにあへで おげ
「これで、間に合せておけよ」

まにやう [manjau] [四自] 間に合う。[続 360]

【例 1】 まだ きしゃさ まにやうはげあ、はやぐ えげ
「まだ汽車に間に合うから、早く行きなさい」
【例 2】 やさいだば かわねあて まにやうな
「野菜なら、買わなくとも間に合うね」

まにやへ [manjahe] 間に合わせ。[同] まにあへ。[続 360]

【例】 これくれあ あっど あしたの まにやへん なんべ
「これくらいあれば、明日の間に合わせになるだろう」

まねあ [mane] [名] 真似。[及 255]

【例】 しとの まねあばり してんな
「人の真似ばかりしてるんじゃないよ」

まねあいだ [maneida] 俎板。[及 54]

【例】 近頃あ 木んねあ まねあいだ うてる おんだな
「近頃は木でないまないたを売ってるものだな」

まねあかす [manekasu] 人真似をする人。[同] まねあからす。[続 361]

【例】 まねあかすあ からすに した ぬがえんぞ
「人真似をする人は、鳥に舌を抜かれるよ」

まねあげる [manegeru] [動] 告げ口する。[及 255]

【例】 しとの ごどあ まねあげだりする おんでねあ
「人のことは、告げ口したりするものじゃないよ」

まねあこど [manekodo] 真似ごと。[続 361]

【例】 はずまごあ んまっだはげあ ゆわえあこどの まねあこどばりも すんべ
「初孫が生れたから、お祝いの真似ごとだけでもしよう」

まねあだ [maneda] 俎板。[同] まねあいだ。[続 361]

【例】 この まねあだ まんなが ひこだはげあ、かんなで けつてころ
「この俎板は、真ん中が凹んだから、鉋で削って下さい」

まねある [maneru] [下一他] 真似る。[続 361]

【例】 ずも じよんだ しとの けあだな まねあで かぐど じょうずん なんぞ
「字も上手な人の書いたのを、真似て書くと上手になるよ」

まぶ 雪庇。[及 107]

【例】 まぶの 下ずあ なであ つぐ おんだ

「雪庇の下は、雪崩がつくものだよ」

まぶす まぶし。蚕にまゆを作らせるわら製の蚕座。[及 75]

【例】 こんだ まぶすさ うづして めあっこ つぐらへんべ
「今度はまぶしに移して、まゆを作らせよう」

まぶる [動] 守る。[及 255]

【例】 ころろがげあ ええど 神さま まぶる おんだ
「心掛けがいいと、神さまが守るものだよ」

まぶれる [動] まみれる。[及 255]

【例】 ゆぎまぶれん なて きたながは
「雪まみれになって来てしまったのかい」

まへ [maçɛ] ませ。馬屋などの入口の横棒。[及 67]

【例】 まへ かておがねあど んま ではんぞ
「ませをかっておかないと、馬が出るよ」

まへる [maherü] [動] ませる。年のわりに大人びる。[及 255]

【例】 この わらすあ まへだ わらすだごど
「この子は、ませた子だね」

まま ご飯。[同] みし。[及 44]

【例】 みんな ままだぞ
「皆、ご飯ですよ」

この類には「かでままーかてめし」、「かでみしーかてめし」、「げんめあみしー玄米めし」、「あさままー朝めし」、「あさみしー朝めし」、「ひるままー昼めし」、「ひるみしー昼めし」、「ばんみしー晩めし」、「よままー晩めし」などがある。

ままずめあ [mamaⁿdzüme] 炊事。[同] しんめあ。[続 361]

【例】 はえあ おんで まだ ばんげの ままずめあ する ずがん なたは
「早いもので、またもう今夜の炊事をする時間になってしまったよ」

ままたぎ [mamatagi] 飯炊き。飯を炊くこと、またその人。[続 361]

【例 1】 おれあ えであ さんどさんど ままたぎ しねあんねあ
「私の家では、三度三度飯炊きをしないといけないんだ」

【例 2】 むすめあ ままたぎん たのまっでえた
「娘は飯炊きに頼まれて行ったよ」

ままつぶ [mamatsübü] 飯粒。[続 361]

【例】 ○○ちゃん、ままつぶ こぼしたぞ、もってあねあはげあ ひろて けよ
「○○ちゃん、飯粒をこぼしたよ、勿体ないから拾って食べなさいよ」

ままなぐ [mamanagü] [動] 吃る。[及 255]

【例】 あの しとあ ままなぐ しとだな
「あの人は吃る人だな」

ままなべ 飯鍋。飯を炊く鍋。[及 54]

【例】 かねあ よげん なたはげあ、この ままなべであ まにあわねあは
「家族が多くなったから、この飯鍋では間に合わなくなってしまったよ」

まみ あなぐま。いたち科の哺乳動物で、たぬきに似ており、穴に住み、夜行性の動物である。[同]
むづな。[及 97]

まむげあ 一 [mamüge:] 真向い。[続 361]

【例】 ○○さんの えが、ほれだば おれあ えの まむげあに ある えだ
「○○さんの家かい、それなら私の家の真向いにある家です」

まめがら [mameḡara] 豆をとった茎葉。[及 75]

【例】 まめがらで 味噌煮 すんべ
「豆をとった茎葉で、味噌煮をしよう」

まめぎぐ [mameḡigü] 小菊。[同] まめこぎぐ。[続 361]

【例】 まめぎぐあ えっぺあ さえだはげあ、ほどげさまさ あげんべ
「小菊が沢山咲いたから、仏さまに供えよう」

まめこがぎ [mamekoḡagi] 豆柿。実の小さい柿。昔は、豆柿を潰した液を渋(柿渋)とって、戸障子やテーブルに塗料として塗ったものであるが、今は使わないので、豆柿も殆どなくなった。
[続 362]

まめこしえ [mamekoše] 豆の脱穀調製。[及 75]

【例】 豆あ かわえだよだはげあ まめこしえ しねあんねあな
「豆が乾いたようだから、豆の脱穀調製をしないといけないな」

まめこじえみ [mamekodžeḡmi] にいにいぜみ。せみ科の昆虫。[及 97]

【例】 あんつあ、ほごで まめこじえみあ ねあっだけ、しめん えぐべや
「兄さん、そこでにいにいぜみが鳴いていたつけ、つかまえに行こうよ」

まめずりもず [mameⁿdzürimodzü] 豆のぬた餅。これは、枝豆をすり潰して、砂糖と醤油で味を付け、餅に付けたものをいう。[続 362]

まめのご [mameḡogo] 黄粉。[続 362]

【例】 まめのご つくたはげあ こにや まめのごもずでも つぐんべ
「黄粉を作ったから、今夜は黄粉餅でも作ろう」

まめぶず [mamebüdzü] 豆打ち。豆の脱穀をいう。[続 362]

【例】 まめあ かわえあだよだはげあ、まめぶず しねあんねあな
「豆が乾いたようだから、豆打ちをしないといけないな」

まめまめす [mameḡamesü] [形] まめまめしい。[続 362]

【例1】 まめまめすぐ えぐ はだらぐ しとだな

「まめましくよく働く人だね」

【例2】 あなだ いっつも まめまめすくて えげあすな

「あなたは何時もまめまめしくていいですね」

まめもらい [名] 婚約成立の儀式。婚約をしたというしるしに、嫁または贅方から豆を貰う儀式をいう。この豆は、「すわ豆」といって、さっと茹で、表皮に皺をつけた物を用い、この豆と、切いか、こんぶを入れて、紙に包んで渡した。これを持ち帰って、家で少し食べ、結婚式の時、嫁に渡して食べてもらうのがしきたりだったが、今は行なわれていない。皺豆を使ったのは、夫婦が、皺のよるまで、まめで暮せることを願ったことだという。後日、結納をし、結婚式をあげた。[同] まめもれあ。[及 255]

まや [maja] 馬屋。これは、馬を飼っておく場所をいう。馬はもう飼っていないので、馬屋もない。
[続 362]

まやごえ [majaŋoɛ] 厩肥。これは、馬屋の敷藁や牛馬の糞などで、堆肥にするものである。[続 362]

まゆう [majüü] [動] 弁償する。[及 256]

【例】 ぼこしたな まゆうはげあ ゆるしてころ

「こわしたのは弁償しますから、許して下さい」

まりあへ [mariahe] 回り合わせ。[続 362]

【例】 この したりあ ふうふん なんなも、ぜんせからの まりあへだべ

「この二人が夫婦になるのも、前世からの回り合わせだろうよ」

まりくどえ [marikür^odoɛ] [形] 回りくどい。[続 364]

【例】 ほんた まりくどえ ごど ゆわねあで はっきり ゆえや

「そんな回りくどいことをいわないで、はっきりいえよ」

まりくどえ [marikür^odoɛ] [形] 回りくどい。[同] まわりくどえ。[続 362]

【例】 ほんた まりくどえ ごど ゆてねあで、はえあぐ ようむぎ ゆえや

「そんな回りくどいことをいっていないで、早く用向きをいえよ」

まりみず [marimīdzü] 回り道。[続 362]

【例】 めってあん こねあはげあ、まりみずでも、〇〇さん えさも よて えぐべ

「滅多に来ないから、回り道でも、〇〇さんの家へも寄って行こうよ」

まる [marü] [四自] 回る。[続 363]

【例1】 この こま えぐ まるな

「この独楽はよく回るね」

【例2】 この やま まっど こぐどうさ ではんなだ

「この山を回ると国道へ出るんだ」

まるあれあ [marüare] 丸洗い。[続 363]

【例】 この ふぐあ まるあれあしたて くずんねあなだ
「この服は丸洗いしても、崩れないんだ」

まるえ [marüe] [形] 丸い。[続 363]

【例】 この まるえ ちっちえあ トマトあ、ミニトマトて いうあだど
「この丸い小さいトマトは、ミニトマトというんだそうだ」

まるぐ [marügü] [下一他] 束ねる。[続 363]

【例 1】 いね まるぐ
「稲を束ねる」

【例 2】 すば まるぐ
「柴を束ねる」

まるぐ [marügü] [四他] 縛る。[続 363]

【例 1】 きずぐず まるぐ
「傷口を縛る」

【例 2】 にもつ まるぐ
「荷物を縛る」

まるける [marükerü] [下一他] 丸める。この語は、物を丸くする意味だけに使っている。[続 363]

【例 1】 かみくず まるける
「紙屑を丸める」

【例 2】 なわ まるける
「縄を丸める」

まるこえ 丸い。[及 33]

【例】 こにやの つぎあ まるこえ おん 満月だな
「今夜の月は丸いもの、満月だな」
また、真ん丸いことを「まんまるこえ」といっている。

まるっと [副] すっかり。全部。[同] まるのまま。まるまんま。[及 256]

【例】 ごごさ ゆえだな まるっと もて えがっだは
「ここに植えていたのをすっかり持って行かれてしまったよ」

まるばる [marübarü] [四自] 丸まる。[続 363]

【例】 だんごあ、ての ひらで ころがすと、まるばる おんだ
「団子は、手の平で転がすと、丸まるものだよ」

まるまま [marümama] まるごと。全部。[同] まるまんま。[続 363]

【例】 ざっこ ほねも とらねあて まるまま くだ おんだ

「雑魚を骨も取らないで、まるごと食ったもんだ」

まるめ [marüme] 丸見え。[続 363]

【例】 ほごの と あげで おくど、そどがら えん なが まるめだなよ
「そこの戸を開けておくと、外から家の中が丸見えなんだよ」

まるもげ [marümoge] 丸儲け。[続 363]

【例】 おもわねあ たがねで うたおん、まるもげしたず おんだな
「思わぬ高値で売ったから、丸儲けしたというものだね」

まろめる [maromerü] [下一他] 丸める。[続 364]

【例 1】 だんご おめあも まろめろや
「団子をお前も丸めろよ」
【例 2】 ○○に まろめらっで ○○の ゆいなりだ
「○○に丸められて、○○のいいなりだよ」

まわりばんこ [mawaribanko] 順番。回り番。[続 364]

【例】 となりぐみちよあ ごんだ まわりばんこで するごどん した
「隣り組長は、今度順番にすることにしたよ」

まんが 馬鍬。耕運用具。[及 67]

【例】 まんがも 骨董品だは
「馬鍬も、もう骨董品だな」

まんくそ [manküso] 馬糞。[続 364]

【例】 むがすあ どうろの あつこつさ まんくそあ おずでる おんであったな
「昔は道路のあちこちに馬糞が落ちているものだったな」

まんず [副] 先づ。まあ。[及 256]

【例】 まんず えぐ 来たごど
「まづ（まあ）よく来たこと」

まんぜあ [manⁿdze] 万歳。[続 364]

【例】 たまん テレビで まんぜあ みっごども あんども おもへおんだな
「たまにテレビで万歳を見ることもあるが、面白いものだな」

まんま [manma] 儘。[続 364]

【例 1】 ゆいであ まんま ゆう
「いいたいまいう」
【例 2】 この むら もどの まんまだな
「この村は元のままだね」
【例 3】 ほんげあ ないでも おわ おもう まんまん なるおんでねあ おんだ
「そんなに何でも自分の思うままになるものではないものだよ」

まんまるえ [manmaruē] [形] 真ん丸い。[同] まんまるこえ。[続 364]

【例】 こにゃ つぎあ まんまるえな

「今夜は、月が真ん丸いな」

まんめあー [manme:] 真ん前。[続 364]

【例】 こねあだ おれの まんめあで くるまの ずこあ おぎで どでしたけや

「この間、私の真ん前で、車の事故が起きて驚いたよ」

— み —

みあへる [miahəru:] [下一他] 見合わせる。[続 365]

【例 1】 したりあ つら みあへで わらた

「二人は顔を見合わせて笑ったよ」

【例 2】 ほつつど こつつの しなおの みあへで えほ かて きた

「そっちとこっちの品物を見合わせて、いい方を買って来たよ」

【例 3】 こんどの りょこうあ みあへるはんてねあな

「今度の旅行は見合わせるしかないね」

みえ [mie] [形] 見よい。[続 365]

【例】 しとめあで ほんたごど すんな みえ おんでねあぞ

「人前でそんなことをするのは、見よいものではないよ」

みおの [miono] 見物。[続 365]

【例】 おまずりの みおのあ だすだべな ぜえぶん かね かげだはげあな

「お祭りの見物は山車だろうな、随分金をかけたからな」

みおべ [名] 見覚え。[及 256]

【例】 あら、誰だけじゅ みおべあ なぐなたじゅは

「あら、誰だったんだろう、見覚えがなくなってしまったよ」

みがめあー [mijame:] 身構え。[続 365]

【例】 きい きっずぎの みがめあーは みでろ こげあん かんめある おんだ

「木を伐る時の身構えは、見ておれ、こう構えるものだよ」

みがめあーる [mijame:rui] [四他] 身構える。[続 365]

【例】 ほんた へっぴりごすであ きあ きんねあ、えが こゆふん みがめあーる おんだ

「そんなへっぴり腰で木は伐れないよ、いいかこういうふうに身構えるものだよ」

みぎれ [mijire] [ダナ] 身奇麗。[続 365]

【例】 ○○さんの よめこだば、いずでも みぎれん してる おなごだな

「○○さんの嫁さんなら、何時でも身奇麗にしている女だな」

みぐるす [mijurusu:] [形] 見苦しい。[続 365]

【例】 しとめあで ほんた くいがだすっど みぐるす おんだぞ

「人前で、そんな食べ方をすると、見苦しいものだよ」

みげあす [mīgesū] [動] 見返す。振り返える。[及 256]

【例1】 えれあ しとん なて あれあどごなの みげあしてやれ
「偉い人になって、あいつなんか見返してやれよ」

【例2】 おべっだ しとだよだどもて まだ みげあして みだ
「知っている人のようだ、と思って振り返ってみたんだ」

みげあり [mīgerī] [名] 見返り。[及 256]

【例】 これ みげありの しなおんだて よごしたけ
「これを見返りの品物だ、と行ってよこしたつけ」

みご [mīgo] 粃を取った稲穂。[及 97]

【例】 みごな なうはげあ みご もて きてころ
「穂縄をなうから、稲穂を持って来てくれ」

みご [mīgo] 粃を取った稲穂。[続 366]

【例】 みごな なうはげあ、わらがら みご ぬえで おげよ
「稲穂の縄を綱うから、藁から稲穂を抜いておけよ」

みごすれあー [mīgosūre:] 身拵え。[続 366]

【例】 きょうあ ふぎだはげあ、さみぐねあよん みごすれあーして えげよ
「今日は吹雪だから、寒くないように身拵えをして行きなさいよ」

みごであ [mīgode] 見応え。[続 366]

【例】 きょう テレビで みだ ○○あ はぐりよぐあ あって みごであ あったな
「今日テレビで見た○○は、迫力があって、見応えがあったね」

みごな わらの穂だけでなった縄。[及 75]

【例】 けら つぐんな みごな なて おえでころ
「みのを作るみご縄をなっておいてくれ」

みごりすぎ [mīgorisūgi] 川の増水時の魚掬いをいう。[同] みんごりすぎ。[続 366]

【例】 きょうあ あめで かわ ぞうすいしたはげあ みごりすぎでも すんべ
「今日は雨で、川が増水したから、濁り掬いでもしよう」

みごる [mīgorū] [動] 濁る。[及 256]

【例】 なして こう 川 みごる おんだべ
「どうして、川がこう濁るものだろう」

みごる [動] 濁る。[及 108]

【例】 川、工事でも したんだが みごる おんだ
「川の工事でもしているのか、濁るもんだ」

みさげあー [misage:] 見境。[続 366]

【例】 しかだねあ まだ ものの みさげあーも つがねあ おぼごの した ごどた おん

「仕方がないよ、まだもの見境もつかない子供のしたことだもの」

みじえね [miⁿdʒeɲe] 身銭。[続 366]

【例】 きょうあ ○○さん みじえね きて おごてくえんなだど
「今日は、○○さんが身銭をきっておごってくれるのだそうだ」

みしつと [misitto] [副] みしり。[同] みつと。みつり。[続 366]

【例】 もと みしつとした すごど する おんだ
「もっとみしりした仕事をするもんだよ」

みじや [miⁿdʒa] 水屋。台所。流し。昔は、台所は居間と兼用になっている家が多かった。また食べ物や食器などを洗うみじや（流し）は台所と続いて、間に戸障子がなかったのので、今と随分違った様式になっていた。[続 366]

みじやしめあ [miⁿʔdʒasime] 炊事。[同] ままじめあ。[及 44]

【例】 まえにつだはげあ みじやしめあも やだぐ なるは
「毎日だから、炊事も嫌になるよ」

みじやふね [miⁿdʒaɸūne] 水舟。流しに水を溜めておく木箱。[及 54]

【例】 みじやふね あらてくんねあが
「水舟を洗ってくれませんか」

みしよ 実生。種から育てたもの。[及 75]

【例】 この つばぎあ みしよだぜあ
「この椿は、実生だよ」

みじよけねあ [miⁿdʒokene] [形] かよわい。この語は、今は使われなくなってしまった語である。[続 366]

みず みずな。いらくさ科の一年生草本で、一名うわばみそうといい、山菜として食べている。[及 97]

【例】 みずあ、煮でも 漬けでも んめあ おんだ
「みずなは、煮ても漬けてもうまいものだ」

みずあがり [miⁿdzūaɲari] 浸水。[続 367]

【例】 こねあだの あめで みずあがりん なた えあ であぶ あっど
「この間の雨で、浸水された家が太分あるそうだね」

みずあすび [名] 水遊び。[及 257]

【例】 わらしたづ つで みずあすびでも さへで くっがな
「子供らを連れて、水遊びでも、させてこようかな」

みずあんねあ [miⁿdzūanne] 道案内。[続 367]

【例】 この しとあ ○○さんさ のぼっであど おめあ みずあんねあしてける
「この人が○○山に登りたいそうだ、お前道案内してくれ」

みずおづ みぞおち 鳩尾。[同] みずおどす。[及 12]

【例】 いあ わりなだべが、みずおづあ いであじゆ
「胃が悪いのだろうか、鳩尾が痛いんだよ」

みずおの [miⁿdzüono] 水物。飲み物。[続 367]

【例】 きょうあ あんまり あつばげあ ないが つみであ みずおのあ えな
「今日は余り暑いから、何か冷めたい水物がいいね」

みずがみ [miⁿdzügami] 水上 [続 367]

【例】 この へげの みずがみにあ むら ある おんだはげあ、この みずあ のめねああだ
「この用水路の水上には、村があるものだから、この水は飲めないんだ」

みずくせあ [miⁿdzüküse] [形] 水臭い。[及 257]

【例 1】 ほんた みずくせあ ごど ゆわねあんだ
「そんな水臭いことをいうんじゃないよ」

【例 2】 この さげあ みづくせあな
「この酒は水臭い（水っぽい）な」

みずさがずげ [miⁿdzüsagaⁿdzüge] 水杯。[続 367]

【例】 むがすあ えへめあり えぐたて、みずさがずげ のみがわして えた おんだど
「昔は伊勢参りに行くんだって、水杯を飲み交わして行ったもんだそうだ」

みずしょーべあー [miⁿdzü[ø:be:] 水商売。[続 367]

【例】 となりの むすめあ みずしょーべあーだど、よめん えがねああだべが
「隣の娘は水商売だそうだ、嫁に行かないんだらうか」

みずすす [midzüsürⁿdzü] 道筋。[続 367]

【例 1】 こっつの みずすす えぐど ○○の むらさ えぐえなだ
「こっこの道筋を行くと、○○の村へ行かれるんだ」

【例 2】 ほゆごどあ みずすす どうして ゆわねあど わがらねあぞ
「そういう事は道筋を通していわないと分らないよ」

みずすも [miⁿdzüsümo] 水霜。これは、気温が零度近くまで下がると、屋根や植物に多くの水滴が付く、これを水霜といい、10月中旬以降に主として出来る。[続 367]

みずずれ [midzürⁿdzüre] 道連れ。[続 367]

【例】 ええ しとど みずずれん なて えがった ごど、どうが えっしょん つて えてくであ
「いい人と道連れになってよかったこと、どうか一緒に連れて行って下さい」

みずのもず [miⁿdzünomodzü] 節句の祝い餅。これは、旧十二月二十八日と、一月十五日、二月一日の三回搗いた餅を、それぞれ至 25cm 位の丸型に固め、藁束の元の方を拡げ、その上にくっつけて、神棚へ供え、また床の間などに下げておき、旧六月一日の節句に食べて祝う餅であるが、今は作らなくなってしまった。[続 368]

みずのり [mīdzūnorī] 道程。[続 368]

【例】 ことから ○○まで どれくれあの みずのりあ ありあすべ
「此処から○○まではどれくらいの道程がありますでしょう」

みずばず [mīdzūbadzū] 蜜蜂。[続 368]

【例】 どころ くる おんだが はなさ みずばずあ えぐ くる おんだ
「何処から来るものなのか、花に蜜蜂がよく来るもんだよ」

みずばだ [mīdzūbada] 道端。[続 368]

【例】 あたこぐなたら みずばださ ずつくべなの ばっけなの ではて きたな
「暖かくなったら、道端につくしや蔭のとうなどが出て来たね」

みずふみ [mīdzūfūmī] 道踏み。雪道を踏み固めること。冬は殆ど毎朝門口を踏み俵で踏み固め、また少し多く雪が降ると、村人はかんじきを履いて通学路を踏み固めたものであるが、この作業を「みずふみ」という。[続 368]

みずふみでんま [mīdzūfūmīⁿdēnma] 雪道踏みの義務人夫。これは、昔除雪車の来なかった時代、通学路の雪を村人が義務人夫として出役し雪道を踏み固めたが、このように出役することをいう。[続 368]

みずぼえ [mīⁿdzūpōē] [形] 水っぼい。[続 368]

【例】 この さげあ みずぼえな あためっすぎ やがんさ みずあ へあってあったんねあが
「この酒は水っぼいね、暖める時、薬罐に水が入っておったじゃないか」

みすぼらす [mīdzūborasū] [形] みすぼらしい。[続 368]

【例】 どごの しとだべじゅ、みすぼらす かっこして きた おんだなや
「何処の人だろうね、みすぼらしい格構をして来たもんだねー」

みずめ 惨め。[及 256]

【例】 ほんた みずめだ ごど すんなや
「そんな惨めなことをするなよ」

みずめ [mīdzūmē] 婚礼後3日目の里帰りをいう。これは、婚礼後3日目に、嫁や聾が夫婦で、嫁聾の実家に里帰りすることをいう。[続 368]

みずめあー [mīⁿdzūmē:] 身仕舞い。[続 369]

【例】 よそさ えぐ ずぎあ、ちゃんとした みずめあして えぐ おんだぞ
「他所へ行く時は、きちんとした身仕舞いをして行くもんだよ」

みずめたらす [mīⁿdzūmētarasū] [ダナ] かわいそう。[続 369]

【例】 あの わらすあ みずめたらす ごどな あさから ばんまで こぎつかわって
「あの子はかわいそうだことね、朝から晩までこき使われてね」

みずめみる [mīⁿdzūmēmīrū] つらい思いをすること。[続 369]

【例】 おどなん なたら ちゃんとした すごど しねあど おわ みずめみるばんだぞ

「大人になったら、ちゃんとした仕事をしないと、自分が辛い思いをするだけだよ」

みそえあー [misoe:] 味噌和え。[続 369]

- 【例】 みそえあ こしえあつぎあ くるみ すて えれっど んめあ おんだぜあ
「味噌和えを作る時は、胡桃を搗って入れると美味しいものだよ」

みそごねあ [misogone] 見損ない。[続 369]

- 【例 1】 ほれあ おれの みそごねあであったな
「それは、私の見損ないだったな」
【例 2】 おへで もらわねあど みそごねあ すっどごであったな
「教えもらわないと、見損ないをするところだったな」

みだぐなす [midagünasü] [名] ぶす。おかめ。女への悪口をいう。[及 257]

- 【例】 なんだ この みだぐなあ
「なんだ、このぶすが」

みだぐねあ [midagüne] 醜い。[及 33]

- 【例 1】 あの やろあ つらだば みだぐねあ つらだ
「あの野郎の面なら醜い面だな」
【例 2】 あの 番組だは おら みだぐねあな
「あの番組なら見たくないね」

みだどご [midadogo] 外見。みば。[続 369]

- 【例】 しとんどさ くえんなだば もと みだどごも えぐ すろや
「人にくれるのだったら、もっと外見もよくしなさいよ」

みづ [名] 道。[及 257]

- 【例】 この みづ まつつぐ えぐど え
「この道を真直ぐに行くといいよ」

みづ [midzü] 道。道路。[及 108]

- 【例】 これがら、山みづん なんなだ
「これから、山道になるんです」

みっかはしか [mikkahasika] 普通より軽いはしか。[続 369]

- 【例】 この わらすな みっかはしかだずおん そんま なおんべ
「この子のは軽いはしかだそうだから、直きに治るだろう」

みつかめ [mitsükame] 短め。[続 369]

- 【例】 スカートだば むがすと つがて みつかめんな はぐよん なたな
「スカートなら、昔と違って短めのをはくようになったね」

みつき みずき。みずき科の落葉樹。[及 97]

- 【例】 むがしあ みつきさ なしだんごず おの ならへだ おんだ

「昔はみずきに、なし団子というものをならせた（くつつけた）ものだよ」

みつけあ [mītsūke] 短い。[及 33]

【例】 ほれだば みつけあくて 駄目だ
「それなら短くて駄目だよ」

みつけあーる [mītsūje:rū] [下一他] 見違える。[続 369]

【例】 すばらぐ みねあ うずん ○○ちゃん みつけあーるよん おっきぐなたな
「暫く見ないうちに、○○ちゃんは見違えるように大きくなったね」

みつけおの [mītsūkeono] 堀り出し物。[続 370]

【例】 これだば みつけおのだな どから みつけで きたおんだや
「これなら堀り出し物だね、何処から見つけて来たんだい」

みつただぎ みづな（うわばみ草）をたたいて味をつけたもの。山菜料理の一種。[及 44]

【例】 おれあまだ みつただぎ すぎで とぎどぎ こしえんなよ
「私はみづなのたたいたのが好きで、時々作るんですよ」

みつつと [副] みっしり。みっちり。[及 257]

【例】 しごどずあ もと みつつと しねあんねあ おんだ
「仕事というものは、もっとみっしりしないといけないものだよ」

みつつと [mītsūtto] [副] みっしり。[続 370]

【例】 こんだ おめあも こうこうさ へあんなだはげあ みつつと べんきょうするよ
「今度は、お前も高校に入っているんだから、みっしり勉強しなさいよ」

みつともねあ [mīttomone] [形] みつともない。[続 370]

【例】 しとめあで ほんた みつともねあ くいがだ すんなよ
「人前で、そんなみつともない食べ方をするなよ」

みづどり 餅の千切り。手や器に水をつけて餅を千切ること。粉をつけないで餅を千切ること。[及 44]

【例】 あづぎもづどが なつともづなのあ みづどりする おんだ
「小豆餅とか、納豆餅なんかは、水をつけて千切るもんだよ」

みつばな [mītsūpana] 水っ漬。[続 370]

【例】 ないだべ、この わらすあ、かじえ ひだあだべが、みつばな だしたじゅ
「なんだろう、この子は、風邪でも引いたんだろうか、水っ漬を出しているよ」

みづぶすん 道普請。[及 76]

【例】 おまづりあ くっさげあ みづぶすだど
「お祭りが来るから、道普請だそうだ」

みづみ 三つ身。三才から五才位迄の子供の着物の裁ち方。及びその着物をいう。[及 61]

みづもり 仏事に膳の外に大皿に出す料理をいう。[及 44]

【例】 このたびあ みづもりも 出さねあんねあな
「この度は、大皿料理も出さないといけないな」

～みであ [~midɛ] みたい。[続 370]

【例 1】 ねごみであん した ならして くな
「猫みたいに舌をならし食べるな」

【例 2】 おめあみであだ おのあ どさでも けずかれ
「お前みたいな奴は、何処へでも行きやがれ」

みどご [mi^odogo] 見所。[続 370]

【例 1】 きょうの すもの みどごあ、○○ど の しょうぶだな
「今日の相撲の見所は、○○と の勝負だね」

【例 2】 この わらすの きしょう みっど どごが みどごあ あるな
「この子の気性を見ると、何処か見所があるな」

みながげ [mīnaŋəŋɛ] [名] 風袋とも。風袋も入れた目方。[同] みながらみ。[及 257]

【例】 この じえんめあ みながげで なんぼ あるや
「このぜんまいは、風袋ともで、幾らあるんだい」

みながら [mīnaŋara] [名] 全部。[及 257]

【例】 これ みながら やっさげあ もて えてころ
「これ、全部やるから、持って行ってくれ」

みなれあー [mīnaɾɛ] 見習い。[続 370]

【例】 おれあえの まごあ、えま かんごふの みなれあー してんなだ
「うちの孫は、今看護婦の見習いをしているんだ」

みにぐえ [mīnigūɛ] [形] 醜い。[続 370]

【例 1】 ほんた くいが みにぐえ おんだぞ
「そんな食べ方は醜いものだよ」

【例 2】 ほういう みくぐえ ごど する おんでねあ
「そういう醜いことはするものじゃないよ」

みねあこ 互に見ない約束。[同] みねあっこ。[及 257]

【例】 かぐ ずぎあ みねあこだぞ
「書く時は、見合ないことだよ」

みのがなし [mīnoganasi] [名] 弱虫。[同] みのごなし。[及 257]

【例】 これだば ゆぐゆぐの みのがなしで
「この子は、よくよくの弱虫で」

みのがなし 弱虫。[及 8]

【例】 これだば、ゆぐゆぐの みのがなしで

「こいつは、よくよくの弱虫でね」

みのがねあ [minogane] [形] 弱い。[及 257]

【例】 つあつあ、○○ちゃん すも とっど おれより みのがねあぜあ
「お父さん、○○ちゃんは、相撲をとると、僕より弱いんだよ」

みのがねあ [minogane] 弱い。[及 33]

【例 1】 この頃、体 みのがねあくて そど ありげねあなよ
「近頃、体が弱くて、外を歩けないんですよ」
【例 2】 みのがねあ おのさ かもう おんでねあぞ
「弱い者にかまうもんじゃないよ」

みのごねあー [minogone:] [形] 弱い。病弱。[同] みのがねあ。[続 370]

【例 1】 この わらすあ みのごねあ おんだはげあ えずめらっでんなだ
「この子は、弱いものだから、苛められているんだよ」
【例 2】 ばさまも としよたら みのがねあぐなて こまた おんだ
「お婆さんも年を取ったら病弱になって、困ったもんだよ」

みぶるぎ [mibürügi] 身振り。[続 371]

【例】 おれあ へび みっど、きびわりくて みぶるぎすんなよ
「私は蛇を見ると、気味悪くて身振りするんだよ」

みべあ [名] 見栄え。[及 257]

【例】 これあ なんだが みべあ わりな
「これは、なんだか見栄えが悪いな」

みぼろぎ [miborogi] [名] 身震い。体をふること。[及 257]

【例 1】 かねの ねあどさ えて、みぼろぎしてみであな
「金のない所(家)へ行って、体をゆすってみたい(体から金が、ざくざく落ちて、みせびらかせるから)」
【例 2】 やだくて、みぼろぎあ 出るよだけ
「嫌で身震いがするようだった」

みみあだらす [mimiadarasü] [形] 耳新しい。[続 371]

【例】 ほの はなすだば、まだ きだごどあ ねあがった みみあだらす はなすだな
「その話なら、まだ聞いたことなかった耳新しい話だね」

みみきかず [mimikika'dzü] 唾。悪口。これは、話しかけても返事をしなかったり、まぬけな返事をしたりした場合にいう悪口である。[同] ぬげさぐ。[続 371]

【例】 この みみきかずあ へんずも しあがらねあで
「この耳聞かすが、返事もしやがらないで」

みみつ [mimitsü] [形] みみっちい。[続 371]

【例】 ほんたおの ほんげあ みみつぐしねあで、もと たぶっと つかえ
「そんな物を、そんなにみみちくしないで、もっとたっぷり使えよ」

みみふたぎ [mimiɸūtəŋi] 同い年の死者への供養。これは、同い年の者が死ぬと、葬式の日
橋の上で、食べ物を耳に当て、南無あみだ仏と唱えながら、その食べ物を川に流して供養すること
をいう。[続 371]

みめあ [名] 見舞い。[及 258]

【例】 ○○さん 入院したつけあ みめあん えぐべ
「○○さんが入院したそうだから、見舞いに行ってください」

みやご [mijago] 脈。血管の鼓動。[及 17]

【例】 おれあな すこす さが のぼても、みやごあ 早ぐなんなだ
「私のは少し坂を登っても、脈が早くなるんですよ」

みやす [mijasü] [形] 見易い。見よい。[同] みえ。[続 371]

【例 1】 あんぜんひょうすぎあ いずばん みやすどさ たでで おげ
「安全標識は一番見易い所へ立てておけよ」

【例 2】 よそさ えぐ ずぎあ へんたぐした おの きて えぐど みやす おんだぞ
「他所へ行く時は、洗濯した物を着て行くと見よいものだよ」

みやすめる [mijasümerü] [四他] 見下す。[及・続 258・371]

【例 1】 おれあどご びんぼだどて みやすめんなだぜあ
「私を貧乏だというので見下すんだよ」

【例 2】 挨拶したども、しとんどご みやすめで、見向きもしねあけ
「挨拶をしたが、私を見下して、見向きもしなかったよ」

みよ一つくりん [mjo:tsükürin] [ノダナ] 妙ちきりん。[続 371]

【例】 みよ一つくりんだ おの もて きた おんだな、ほれあ ないだおんだ
「妙ちきりんな物を持って来たもんだな、それはなになんだい」

みよ一であー [mjo:de:] 名代。[続 372]

【例】 おれあまだ ○○さんの みよ一であーで きあした
「私は、○○さんの名代で参りました」

みるかげもねあ [mirükaŋemone] [連語] 見る影もない。[続 372]

【例】 さわめの かいたぐつあ えまであ みるかげもねあ あれつん なたなは
「谷間の開拓地は、今では見る影もない荒地になってしまったね」

みれんがます [mireŋamasü] [形] 未練がましい。[続 372]

【例】 えまさら ほんた みれんがますぐ ぐのもて ゆたて はずまらねあべ
「今更そんな未練がましくしのごのいったって始まらないじゃないか」

みん みの。すげなどで作った、作業用の雨具。[同] けら。けらこ。[及 61]

みんごりざげ [mĩnɯori˦dzage] 濁酒。[同] みごりざげ。どぶろぐ。[続 372]

【例】 えまだば みんごりざげなの こしえあつどごあ ねあなは
「今なら濁酒なんか作る家はもうないね」

みんごりみず [mĩnɯorimi˦dzü] 濁り水。[同] みごりみず。[続 372]

【例】 かすらの ほで であぶ あめあ ふたんだな かわ みんごりみずん なた おん
「上流の方で、大分雨が降ったんだな、川が濁り水になったもの」

みんずめ [mĩn˦dzüme] [ダナ] 惨め。[続 372]

【例】 ながらぐ おやずに ねらっで みんずめだ くらす してるな
「長らく親父に寝られて、惨めな暮らしをしているね」
なお、この語の強調語に「みんずめたらす」がある。

みんつき [mĩntsüki] みずき。これは、みずき科の落葉高木であるが、用材になるよう木ではなく、昔はこの木の枝へ団子を沢山刺し、なすだんご（梨団子。前出）を作り正月に飾ったものである。[同] みつき。[続 372]

— む —

むえがら 脱皮殻または羽化した殻。〔同〕ぬげがら。〔及 97〕

【例】 ここに 蛇の むえがら あるな

「ここに蛇の脱皮殻があるね」

むえだで [müedade] 孵化または、羽化直後の生物。〔及 98〕

【例】 みろ、ここに あげの むえだであ いだぞ

「みろよ、ここにとんぼの生れたてがいるよ」

むえる 〔動〕 孵化する。羽化する。〔及 97〕

【例】 へげん どごさ あげあ むえっだけな

「用水路のところに、とんぼが羽化していたつけな」

むがさり [mügasari] 〔名〕 結婚式。〔及 258〕

【例】 ○○さんの 娘あ、今日 むがさりだぞ

「○○さんの娘は、今日結婚式だそうだ」

むがさりぶるめあ 〔名〕 婚礼の祝宴。披露宴。〔及 258〕

【例】 りっぱだ むがさりぶるめあだけな

「立派な披露宴だったな」

むがす [mügasü] 〔名〕 昔。〔及 258〕

【例】 むがすの ごど いうど、おにあ わらうて ゆた おんだ

「昔のことをいうと、鬼が笑う、といったもんだよ」

むがす [mügasü] 昔。昔話。〔続 373〕

【例 1】 むがすの せいかずあ ひでえがったな

「昔の生活は酷かったな」

【例 2】 ずさま むがす かだて きがへろや

「お爺ちゃん、昔話を語って聞かせてくれよ」

むがすかだり [mügasükadari] 昔語り。これは、昔話を語ることをいう。〔続 373〕

【例】 まだ むがすかだり するてが

「また昔語りをしろというのかい」

むがすくせあ [mügasüküse] 〔名〕 昔風。古くさい。〔及 258〕

【例】 むがすくせあ かっこして きた おんだ
「昔風な格好して来たもんだ」

むがすびど [mügasübido] 昔人。これは、中年以後の人で、考えの古くさい、新しい知識のない人をいう。[続 373]

【例】 おれあ むがすびどだはげあ、ほげあた ハエカラだ りょうりなの つぐんねあ
「私は昔人だから、そういうハイカラな料理なんか作れないよ」

むがつつね [mügattsüne] 向こう脛。すねの前面。[同] むがつつね。[及 13]

【例】 むがつつね ぶつけどら いであくて とびあがたんだはげあ
「向こう脛をぶつつけたら痛たくてとび上がってしまったよ」

むがつら [mügatsüra] [卑語] 顔。顔の卑語。悪態語。面。[同] むがつら。[続 373]

【例】 ごしゃげで えあずの むがつらも みだぐねあ
「腹が立って、あいつの面も見たくないよ」

むがばら [mügapara] むかっ腹。[続 373]

【例】 おめあまだ たんきだ おんだはげあ、すぐ むがばら たでる おんな
「君は短気なものだから、直ぐむかっ腹を立てるからな」

むきからしゃつぶ [mükikarajappü] 麦藁帽子。[続 373]

【例】 きょうあ あつはげあ むきからしゃつぶ かぶて えげよ
「今日は暑いから麦藁帽子を被って行きなさいよ」

むぎだけ [mügidade] ひらたけ。まつたけ科の食用になるきのこ。[及 98]

【例】 えぐ むぎだけ つぎよだけど まちげある おんだ
「よく、ひらたけとつぎよたけを間違えるものだよ」

むきちよねあ [mükjone] [名/ダナ] 不愛想。[続 373]

【例】 これあまだ むきちよねあ しとだはげあ、えんりよしねあで しゃべてころ
「こいつは、不愛想な人だから、遠慮しないで話してくれよ」

むぎまま [müjimama] 麦飯。[続 373]

【例】 おらだ ちっちえあずぎあ むぎままどが であごんままなの くた おんだ
「私達の小さい時は、麦飯とか大根飯なんかを食ったもんだよ」

むぐす [müjusü] [動] 漏らす。大小便をもらすこと。[及 258]

【例】 ないだや まだ むぐしたがは
「なんだい、また、もらしてしまったのかい」

むぐす [müjusü] [動] 横流しする。[及 258]

【例】 はっとだな おべでで むぐすなだべが
「法度だということを知っていて横流しするんだらうか」

むぐる [müjürü] [動] 潜ぐる。水や藪をもぐること。大小便が漏ること。[及 258]

【例1】 水さ むぐっずぎあ こげあして むぐる おんだ
「水に潜ぐる時は、こうして潜ぐるものだよ」

【例2】 ほんた やぶやら むぐる おんでねあ
「そんな藪を潜ぐって歩くもんじゃないよ」

むぐるる [mũŋũrũrũ] [下一自] 大小便の漏れること。[続 374]

【例】 がが しょべあ むぐれっさげあ でんき つけでころ
「お母さん、小便が漏れるから、電灯を付けてくれ」

むげあ [mũgẽ] [名] 迎え。[及 259]

【例】 むげあん 来てくっだなが
「迎えに来てくれたのかい」

むげあ [mũgẽ] [名] 向い。[及 259]

【例】 おれあえの むげあ さがなやだ
「うちの向いは、魚屋だよ」

むげあ一 [mũŋẽ:] 無害。[続 374]

【例】 この しょうどぐやぐあ がいちゆうにあ きぐども、しとさは むげあ一だど
「この消毒薬は、害虫には利くが、人には無害だそうだよ」

むげああう [mũgeaũ] [四自] 向い合う。[続 374]

【例】 おれあ えど、〇〇さん えあ どうろ はさで むげああてんなだ
「私の家と、〇〇さんの家は、道路を挟んで向い合っているんだ」

むげああへ [mũgeahe] 向い合わせ。[続 374]

【例】 こごあ へべあはげあ、なんげあ テーブルさ むげああへん ねまて もらうべ
「ここは狭いから、長いテーブルに向い合わせに坐ってもらおう」

むげあがじえ [mũgega'dze] 向い風。[続 374]

【例】 むげあがじえだ おんだはげあ、ふぎあ つらさ あだて ひでがった
「向い風なものだから、吹雪が顔に当たってひどかったよ」

むげあざげ [mũge'dzage] 迎え酒。[続 374]

【例】 ゆべな のみすぎで ふずがよいだはげあ、むげあざげでも のでみっが
「夕べ飲み過ぎて、二日酔いだから、迎え酒でも飲んでみようか」

むげあどぎ [mũge'dogi] [名] 一才の誕生日。[及 259]

【例】 おれあえんなも むげあどぎだは
「うちの子供も、もう、一才の誕生日なんですよ」

むげあよど [mũgejo'do] 迎え人。これは、婚礼の日に近くまで、嫁（髻）を出迎えに行く人達をいう。[続 374]

【例】 むげあよど たのまっだおん そろそろ えてみっが

「迎え人に頼まれたから、そろそろ行って見ようか」

むげある [mügerü] [下一他] 迎える。[続 374]

【例】 ずさまも、はずじゅうはず むげあっさげあ、ゆわえあこど しねあんねあな
「お爺さんも、八十八を迎えるから、お祝いをしなければならないな」

むご [mügo] 向う。[続 374]

【例】 ほら、むごさ める やま ○○ていう ゆうめいだ やまだ
「ほら、向うに見える山は、○○という有名な山だよ」

むごえ [mügoe] [形] 酷い。[続 375]

【例】 へびだて いぎおのだ おん、ころすなて ほんた むごえごど すんなや
「蛇だって生き物だもの、殺すなんてそんな酷いことをするなよ」

むごがわ [mügoŋawa] 向う側。[続 375]

【例 1】 あの やまの むごがわ ○○けんだ
「あの山の向う側は○○県だよ」

【例 2】 むごがわも つえはげあ ゆだんすんな
「向う側も強いから油断するなよ」

むごたらす [mügotarasü] [形] 惨たらしい。[続 375]

【例】 ひこうきあ おずで、おぎぐの からだ ばらばらだど、むごたらす おんだな
「飛行機が落ちて、お客の体はばらばらだそうだ、惨たらしいものだね」

むざぐ [müdzagü] [動] 裂く。粗末に裂く。[及 259]

【例】 まだ、かぐ どご あんな ほんげあ むざぐなや
「まだ、書くところあるのを、そんなに粗末に裂くなよ」

むさくるす [müsakürüsü] [形] むさくるしい。[続 375]

【例】 このとおり むさくるす どごですども、どうが ごゆっくりして えてくであ
「この通りむさくるしい所ですが、どうかごゆっくりして行って下さい」

むしくた この語は、なぞときや、しりとり遊びの時、答えられないと、「むしくた」という、子供らの遊びことばの一つである。[及 259]

この語は、「むしくった」とも「むしあくた」とも使った。

むしくれあ [müsjküre] [名] 虫喰い。[及 259]

【例】 この 栗あ むしくれあだな
「この栗は虫喰いだな」

むじゆ [名] 夢中。[及 259]

【例】 わらしたづあ あすびさ むじゆだ おんだ
「子供らは、遊びに夢中なもんだ」

むす [müsü] 虫。[続 375]

【例】 なんとや にどえもさ むすあ つで しょうどぐしねあんねあは
「なんと、馬鈴薯に虫がついて、もう消毒しないといけないよ」

むすあつ [mūsūatsū] 〔形〕 蒸し暑い。[続 375]

【例】 きょうまだ いきいきで、むすあつな、すこす えごぐど あへあ てるおん
「今日はむしむしして、蒸し暑いね、少し動くと汗が出るからな」

むすくそり [mūsūkūsori] 虫薬。[続 375]

【例】 この わらすあ むすけあ あるよだはげあ、むすくそり のまへんべ
「この子は虫気があるようだから、虫薬を飲ませよう」

むすくだす [mūsūkūⁿdasū] 虫下し。[続 375]

【例】 おえしやさま かいちゆう いだはげあ むすくだす のめど
「お医さまは、回虫がいたから、虫下しを飲めって（いってあったよ）」

むずけあ [mūrⁿdzūke] 〔形〕 むずかゆい。[及 259]

【例】 へなが むずけあはげあ けあでくんねあが
「背中がむずかゆいから、かいてくれないか」

むすげあす [mūsūgesū] 〔四他〕 蒸し返す。[続 375]

【例 1】 この えもあ もういずど むすげあさねあど かであぞ
「この芋は、もう一度蒸し返さないと、固いよ」

【例 2】 ほの はなす まだ むすげあすなが
「その話をまた蒸し返すのか」

むすけら [mūsūkera] 虫けら。[続 376]

【例】 おわばり かねもずだどて おらどごあ むすけらみであん あずがうなだ
「自分ばかり金持ちだというので、俺達を虫けらのように扱かうんだ」

むすず [mūsūrⁿdzū] 虫酸。[続 376]

【例】 おれあ へび みっど やんだくて むすずあ はすんなよ
「私は、蛇を見ると、嫌で虫酸が走るんだよ」

むずつ [mūrⁿdzūtsū] 無実。[続 376]

【例】 ○○さんは、せあばんで むずつだて はっきりさへで もらたど
「○○さんは、裁判で、無実だとはっきりさせてもらったそうだ」

むずな [mūrⁿdzūna] 貉。[続 376]

【例】 ふゆん なっど、ごごらでも むずな みがげる ごどあ あんぜあ
「冬になると、この辺でも貉を見かけることがあるよ」

むすなぐ [mūsūnaŋū] 〔動〕 結ぶ。[及 259]

【例 1】 ほご むすなぐなだぞ
「そこを結ぶんだよ」

【例 2】おび むすねあでころ

「帯を結んで下さい」

むすのえぎ [mūsūnoegī] 虫の息。[続 376]

【例】 ○○さんは びよぎあ おもであぐなて むすのえぎだどは

「○○さんは、病気が重くなって、もう虫の息だそうだ」

むすのご [mūsūnogo] しらみの卵。[及 98]

【例】 むすのごあ きおのの めいめに いる おんであった

「しらみの卵あ、着物の縫い目に生みつけられるもんだ」

むすば [mūsūba] 虫歯。[続 376]

【例】 は いであて、あんまり あめあおのぼり くうはげあ むすば なたあだべ

「歯が痛いって、余りお菓子なんかばかり食うから、虫歯になったんだろう」

むすぶろ [mūsūbüro] 蒸し風呂。[続 376]

【例】 きょうまだ いきいきて、まるで むすぶろさでも へあたよだな

「今日はむしむしして、まるで蒸し風呂にでも入ったようだな」

むすぼい [名] 虫追い。旧六月に行う農作物の虫追いの行事名。この日、村人（子供も）が総出

で、「むすぼいだ、むすぼいだ、ほう、ほう」と叫びながら、村をねり歩き、豊作を祈った。[及 259]

むすぼす [mūsūbosū] 虫干し。[続 376]

【例】 こんだ にゆうべあも すぎだはげあ、むすぼすでも しねあんねあな

「今度は入梅も過ぎたから、虫干しでもしなければならぬな」

むずます [mür^odzūmasū] [形] 睦まじい。[続 376]

【例】 となりの えあ よめど しゅうどあ ながむずますくて ええな

「隣りの家は、嫁と姑とが仲睦まじくていいね」

むする [動] むしる。草などをむしること。[及 259]

【例】 はだけの 草 むすりん えて くっさげあな

「畑の草をむしりに行って来るからな」

むすろ 蔭。[及 54]

【例】 おもでさ むすろ すでくえっさげあ ほごで あすべ

「外に蔭を敷いてあげるから、そこで遊びなさい」

むすんけ [mūsūnke] [名/ノダナ] 無神経。[続 376]

【例】 むすんけにも ほどあるんだ、どろあすで へあてくる おのあ ねあべな

「無神経にも程があるよ、泥足で入って来る奴がないじゃないか」

むせあ なかなかなくなる事。[及 259]

【例 1】 この あめあ むせあな

「この飴はなかなかなくなるね」

【例2】 こんげつあ ガソリン むせあぐ つかたな
「今月は、ガソリンを長持ちさせて使ったな」

むぞせあ [mür'dzose] かわいそう。ふびんなさま。[同] むつこえ。[及 259]

【例】 はやぐ ががに なぐらっで わらしたづどご むぞせあな
「早くお母さんに亡くなられて、子供らがかわいそうだね」

むだき [名] 粗末。やたら。いたずらに。[及 260]

【例】 ないだて、むだきにあ でげねあ おんだぞ
「なんでも、粗末には出来ないものだよ」

むだずげあ [mür'dadzüge] 無駄遣い。[続 377]

【例】 おどすだま えっぺあ もらたな むだずげあしねあで ちょきんするよ
「お年玉を沢山貰ったの、無駄遣いしないで、貯金しなさいよ」

むたつと [mütatto] [副] むったり。これは、仕事などに集中するさまをいう。[続 377]

【例】 すごすっずぎあ むたつと する おんだ
「仕事をする時は、むったりすものだよ」

むちゃつと [mütjatto] [副] むんにやり。やわらかい物をつかんだ感じ。または、つかむこと。[及 260]

【例】 ねご むちゃつと つかだ
「猫をむんにやり掴んだ」

むづがす [形] 難しい。[及 260]

【例】 この もんであ むづがすあだな
「この問題は難しいのだね」

むつける [動] つむじを曲げる。[同] むんつける。[及 260]

【例】 ほんげあ むつけんなや
「そんなにつむじを曲げるなよ」

むったり [副] 一心に。一生懸命に。[及 260]

【例】 なんでも やる ずぎあ むったり やらねあんねあ おんだ
「なんでも、やる時は一心になってやらないといけないものだよ」

むつつと [mütsütto] [副] むんずと。むずと。[続 377]

【例】 しとの うで いぎなり むつつと つかで ないだ おんだや
「人の腕をいきなりむんずと掴んで、なになんだい」

むつつと [mütsütto] [副] むつつり。[続 377]

【例】 ないだや、むつつとして、ないが おもへぐねあ ごどでも あんなが
「なんだい、むつつりして、何か面白くないことでもあるのかい」

むなぐるす [münaǰürüsü] [形] 胸苦しい。[続 377]

【例】 ゆべな おかねあ ゆめで おなさっだら、むなぐるすくて め さましたけ
「タベは恐い夢にうなされたら、胸苦しくて目を醒ましたっけ」

むねあげもず [müñeʝeʝmodzũ] 上棟式に用いる餅。これは、上棟式に法印さまにお払いをしてもらうが、この時餅も供えるが、この餅をいう。この餅は、お払いが済むと、屋根の上から撒き、近所の人が、お祝いの餅として拾って行く。[続 377]

むへぎにん [mühëginin] [名/ノダナ] 無責任。[続 377]

【例】 むらの やぐいん してで そうかいさも ではらねあなて むへぎにんだ おんだ
「村の役員をされていて、総会にも出ないなんて無責任なものだね」

むへげあーる [mühëge:rũ] [四自] むせ返る。[続 377]

【例】 ほら ずんちゃん むへげあってだ へなが さすてやれ
「ほら、お爺ちゃんがむせ返っているよ、背中をさすってやりなさい」

むへぼえ [mühëpoe] [形] むせっぽい。[続 377]

【例】 きなごもず くだら むへぼえ ごど みずでも もて きてころ
「黄粉餅を食べたらむせっぽいこと、水でも持って来てくれよ」

むへる [mühërü] [下一自] むせる。[続 378]

【例】 おれあ たばこ のむど むへっさげあ のまねあ ごど してんだ
「私は、煙草をのむとむせるから、のまないことにしているんだ」

むやす [動] 孵化させる。[及 76]

【例】 卵 あためで むやすべどもて いだ どごだ
「卵を暖めて、孵化させよう、と思っているところだ」

むらさぎわらび 青黒色の濃いわらびを特にいう。[及 98]

【例】 むらさぎわらびあ、あぐあ 強くてな
「色の濃いわらびは、あくが強くてね」

むらはぞれ [mürahaⁿdzore] 村外れ。[続 378]

【例】 きょうあ もず つだはげあ、むらはぞれの ずぞさんさ あげで くんべ
「今日は、餅を搗いたから、村外れの地蔵さんに上げてこよう」

むりからねあ [mürīkarane] [連体] 無理からぬ。[続 378]

【例】 ほれも むりからねあ ごどだべな、あの しのの ごどだ おん
「それも無理からぬことだろうな、あの人のことだもの」

むりしやり [mürījari] 無理やり。[続 378]

【例】 ○○かしゅあ くっさげあどて むりしやり ひばらって えた
「○○歌手が来るからといって、無理やり引っ張られて行ったよ」

むりなんであー [mürinanⁿde:] 無理難題。[続 378]

【例】 ほれだば むりなんであー、ていう おんだべや、おれだば でげねあな

「それなら無理難題というものだろうや、私なら出来ないな」

むる [mürü] [四自] 漏る。[続 378]

【例】 ほのこが むっさげあ つかわんねあぞ
「その桶は漏るから、使えないよ」

むんする [münsürü] [連語] 無にする。[続 378]

【例】 すんへずん ゆてくっだあだおん ほれ むんする おんでねあぞ
「親切にしてくれたんだから、それを無にするもんじゃないよ」

むんずん [名] 無尽。[及 260]

【例】 今日あ むんずん あるつけぞ
「今日は無尽があるそうだよ」

むんつん [名] つむじ曲り。[及 8・260]

【例 1】 あれだば よっぼどえ むんつんだ
「あいつなら、大変なつむじ曲りだよ」

【例 2】 あれも えっくれあ むんつんだ ほだな
「あいつも相当つむじまがりな方だな」

むんつん つむじまがり。[及 8]

【例】 あれも えっくれあ むんつんだ ほだな
「あいつも相当つむじまがりな方だな」

— め —

めあ [me] [名] 枚。[及 260]

【例】 この 紙、いづめあ くんねあが
「この紙を一枚くれませんか」

めあ [me] [名] 前。[及 260]

【例】 もうすこす めあさ 出はてくんねあが
「もう少し前に出てくれませんか」

めあーあす [me:asü] 前足。[続 378]

【例】 この いぬあ めあーあす いたぐしったじゅ どごで いであぐしたべ
「この犬は前足を怪我しているよ、何処で怪我したんだろう」

めあーうすろ [me:üsüro] 前後ろ。[続 378]

【例】 ないだや おめあ シャツつ めあーうすろん きったぞ
「なんだい、お前シャツを前後ろに着ているよ」

めあーうり [me:üri] 前売り。[続 379]

【例】 みんようの かんらんけん めあーうりしったど はえあぐ かうべや
「民謡の観覧券を前売りしているそうだ、早く買おうよ」

めあーおぎ [me:ogi] 前置き。[続 379]

【例】 めあーおぎあ ほのぐれあん して、まず はえあぐ ようむぎ ゆえや
「前置きはそのくらいにして、まず早く用向きをいえよ」

めあーかがみ [me:kanami] 前屈み。[同] めあーごごみ。[続 379]

【例】 べんきょうすっずぎあ ほんげあ めあーかがみ ならねあで する おんだ
「勉強をする時は、そんなに前屈みにならないですものだよ」

めあーがみ [me:jami] 前髪。[続 379]

【例】 おめあの めあーがみあ ながぐ なりすぎだはげあ とごやさ えて こえ
「お前の前髪は、長くなり過ぎたから、床屋に行って来なさい」

めあーがり [me:garü] 前借り。[続 379]

【例】 すこす かね おすごとあ あっさげあ きょうめあの めあーがり すんべ
「少し金が欲しいことがあるから、供米の前借りをしよう」

めあーきん [mɛ:kɪn] 前金。[続 379]

【例】 じえんめあ かいであどて めあーきん おえで えた おんだ
「ぜんまいを買いだいたいって、前金を置いて行ったもんだ」

めあーすー [mɛ:sü:] 枚数。[続 379]

【例】 かつこの めあーすー かんじよしてみろ、たんねあば つぐっさげあ
「蚕座の枚数を勘定してみろよ、足りなければ作るから」

めあーば [mɛ:ba] 前歯。[続 379]

【例】 めあーば ぬげて きたて、ほれあ おえがわんなだ
「前歯が抜けてきたって、それは生え代るのだよ」

めあーばれあ [mɛ:bare] 前払い。[続 379]

【例】 にんぷん ねげらえっどもて つんぎんの めあーばれあ すっど
「人夫に逃げられると思って、賃金の前払いをするそうだ」

めあーび [mɛ:bi] 前日。[続 380]

【例】 おまずりの めあーび、むらの したずで じんじゃそうず すっど
「お祭りの前日、村の人達で神社掃除をするそうだ」

めあーぶれ [mɛ:büre] 前触れ。[続 380]

【例】 この えそがすな わがてで、めあーぶれも しねあで こえなて げあだべや
「この忙しいのが分っていて、前触れもしないで来いなんで、無理だろうや」

めあーむぎ [mɛ:mügi] 前向き。[続 380]

【例 1】 こんだ めあーむぎん なれ、へたげ はがっさげあ
「今度は前向きになれ、背丈を計るから」

【例 2】 この じぎょうあ めあーむぎで がんばんべ
「この事業は、前向きで頑張ろうよ」

めあーめあー [mɛ:mɛ:] 前前。[続 380]

【例】 むがさりなのあ、めあーめあーから おずげあ だしておぐ おんだぞ
「結婚式なんかは、前前からお使い（招待状）を出しておくものだよ」

めあーもって [mɛ:motte] [連語] 前以て。[続 380]

【例】 むねあげあ いず すんなだ、ほれだて めあーもって おへでおげよ
「上棟式は何時するんだ、それだって、前以て教えておけよ」

めあーゆわえあ [mɛ:jüwe] 前祝い。[続 380]

【例】 すんつぐの けいやぐあ でげだはげあ、めあーゆわえあ すんべや
「新築の契約が出来たから、前祝いをしようよ」

めあがだけ [megadage] [名] 毎食。[同] まえがだけ。[及 260]

【例】 めあがだけ んめあおのばり かんねあべ

「毎食うまいものばかり食べられないだろう」

めあだけ [mɛdage] まいたけ。さるのこしかけ科の食用になるきのこ。[及 98]

【例】 おめあまだ えぐ めあだけの でっどご おべっだ おんだな
「あなたは、よくまいたけの出る所を知っているもんだね」

めあだらす [mɛɗarasü] [形] 目新しい。[続 380]

【例】 この むらでも、ないが めあだらす とくさんぶつ つぐらねあんねあな
「この村でも、何か目新しい特産物を作らないといけないな」

めあっかげ [mekkage] 前掛。前だれ。エプロン。また、男の子も、金太郎の腹掛より少し大きめの前掛を着物の上にかけた。[同] めあんだり。めあんだれ。[及 61]

めあっこ 繭。[及 76]

【例】 こどしあ めあっこあ たげあど
「今年はまゆが高いそうだ」

めあっこかぎ [mekkokagi] まゆかき。[及 76]

【例】 どごの えでも めあっこかぎあ はじまたな
「何所の家でも、まゆかぎが始まったな」

めあつつあがり [mettsaŋari] 前下がり。着物が前下がりになっていること。[及 61]

【例】 ほら、おめあ きおのあ めあつつあがりだぞ
「ほら、お前の着物が前下がりだよ」

めあらす [merasü] めのわらわ。娘や女の子をいう。この語は古い言葉で、今は使われず、当地の「わらべ唄」に残っているだけである。[続 380]

【例】 めあらすだず めあらすだず はなおり えがねあが……
「二娘達娘達花折りに行かないか……」

めある [mɛ:rü] [動] 参る。[及 261]

【例 1】 あれにだば おれも めあるな
「あいつになら俺も参るよ」

【例 2】 えま めありあす
「今参ります」

めあんだり [mɛnⁿdarī] 前垂れ。前掛け。[同] めあっかげ。[続 380]

【例】 めあんだりあ よごっだはげ あらわねあんねあな
「前垂れが汚れたから、洗わないといけないな」

めー [mɛ:] 子供の愛称。男女を問わない子供の愛称である。[同] めご。めっこ。[続 381]

【例】 めー まま けよは
「坊や(嬢ちゃん)、もうご飯を食べなさいよ」

めーかぐれ [mɛ:kagüre] 見え隠れ。[続 381]

【例】 こからだば きのはで めーかぐれ するばんだども もすこすきさえぐどえっくめる
「ここからなら、木の葉で見え隠れするばかりだが、もう少し先へ行くと、よく見えるよ」

めーすぐ [mɛ:sügü] [四自] 見え透く。[続 381]

【例】 ほんた めーすぐよだ ずほ こがねあて えんねあがや
「そんな見え透くような嘘を吐かなくともいいじゃないか」

めーせあー [mɛ:se:] 明細。[続 381]

【例】 これさ めーせあーに けあで おえだはげあ、いずもぐりょうぜんだ
「これに、明細に書いておいたから、一目瞭然だよ」

めーせあーしよ [mɛ:se:fo] 明細書。[続 381]

【例】 おだくさ あげだ すなおのの めーせあーしよ もて きあした
「お宅にあげた品物の明細書を持って来ました」

めおどす [mɛodosü] [動] 死ぬ。目を落とす。[及 261]

【例】 ○○さん めおとすどごだどは
「○○さんは、もう死ぬばかりだそうだよ」

～めがす [～mɛgasü] [形] ～めかしい。[続 381]

【例】 この おでら ふるめがす おでらだな いずごろ でげだ おんだべ
「このお寺は古めかしいお寺だね、何時頃出来たものなんだろう」

めがす [mɛgasw] [動] おめかしをする。音をさせる。[及 261]

【例 1】 あの おなごあ めがして どさ えぐ どごだべ
「あの女、おめかしして、何所へ行くとところだろう」

【例 2】 がだがだ めがして うるせあ ごど
「がたがた音をさせて、うるさいこと」

めがん [mɛgan] [名] 見当。推量。[及 261]

【例 1】 まどの ゆえぶぢさ めがん つけで ぶてみろ
「的の上縁に見当を付けて打ってみなさい」

【例 2】 おれあ めがん つけだ どごに いであつたべ
「俺が推量したところにいたんだろう」

めがん [mɛgan] 目測。この語は、「及位の方言 261P」に、「見当。推量」などと訳しておいたが、「目測」とも訳される語である。[続 381]

めくされ [mɛküsare] 瞼の病気。これは、瞼が赤くただれる病気である。昔は囲炉裏の焚き火の煙などで、よくただれたものであるが、今はこの病気は殆ど見られなくなった。[続 381]

めくせあ [mɛküse] [形] 醜い。外見が悪い。[及 33・261]

【例 1】 しとの めあで めくせあ ごど する おんでねあ
「人前で、醜いことをやるもんじゃないよ」

【例2】ほんた 紙で つづむど めくせあくて だめだべや
「そんな紙で包むと、外見（体裁）が悪くて駄目じゃないか」

【例3】めくせあ おなごだ
「みにくい女だ」

【例4】めくせあ ごど すねあんだ
「みにくいことをするんじゃないよ」

【例5】きょうであけんかなて めくせあ おんだ
「兄弟けんかなて、みにくいものだよ」

めくそおどし [名] しきたりの名。婚礼の翌朝、泊った客に、客が顔を洗う前に出す振る舞い酒、または、その振る舞いをいう。[及 261]

めくばへ [mekübahe] 目配せ。[続 381]

【例】あの おなあ あっつの おどごさ めくばへなの してる おんだ
「あの女は、あちらの男に目配せなんかしているもんだよ」

めぐらぶんど [meğürabündo] のぶどう。ぶどう科のつる植物で、実は青、赤、白などとりどりで、食べられない。[及 98]

めぐらぼっち [名] 鬼ごっこ。目かくしをした鬼ごっこ。[及 261]

【例】めぐらぼっち しねあが
「目かくし鬼ごっこをしないか」

めぐりあへ [meğüriahe] 巡り合わせ。[続 382]

【例】おれあ こごの えさ よめん くるごどん なたなも ないがの めぐりあへだべ
「私がこの家へ嫁に来ることになったのも、何かの巡り合わせだろう」

めぐりすぎ [meğorisügi] [名] 濁り掬くい。大水の時川魚を掬うこと。[及 261]

【例】大水だはげあ めぐりすぎでも すっが
「大水だから、濁り掬くいにでも行って来ようか」

めぐる [meğorü] [四自] 濁る。[同] みぐる。[続 382]

【例】ほご かますど えれみずあ めごっさげあ かますなよ
「そこをかますと入れ水が濁るから、かますなよ」

めざます [meḡdzamasü] [形] 目覚しい。[続 382]

【例】あの こうば なんねんも ただねあで めざます はってんした おんだ
「あの工場は、何年もたたないで、目覚しい発展をしたもんだね」

めずらす [形] 珍しい。[同] みごりすぎ。みんごりすぎ。[及 261]

【例】めずらす ごど いづ 来たや
「珍しいこと、何時来たの」

めっけあ [mekke] 箕。竹や柴で作った土砂を運ぶ箕。[及 67]

【例】 めっけあ もて きて この つづ はごべ
「箕を持って来て、この土を運んでくれ」

めつげあ [mɛʃsũŋɛ] 目違い。[続 382]

【例】 ほれあ おれの めつげあであったな、もと なんげあ かんじよしてあった
「それは私の目違いだったな、もっと長いつもりだったよ」

めっこ 姪。[及 8]

【例】 あれあ おれの めっこに あだんなだ
「あれは、私の姪に当たるんです」
これは、また、「めわらす一結婚しない姪をさす」。がある。

めっこ [mɛkko] 盲。[続 382]

【例】 あれも めっこん なて むぞせあ おんだ て ひばらんねあば ありげねあおん
「あいつも盲になって可哀そうなものだよ、手を引かれないと、歩けないからな」

めっこまま [mɛkkomama] 半煮え飯。[続 382]

【例】 けさ めっこまま てあでしました パンでも くて えてころは
「今朝は半煮え飯を炊いてしまったよ、パンでも食べて行って下さいね」

めったくたん [mɛttakũtan] [副] 滅多に。[続 382]

【例】 めったくたん こねああだ おん ゆっくりして えてくたせあ
「滅多に来ないんだもの、ゆっくりして行って下さい」

めってあ [mɛʃtɛ] [副] めったに。[同] めってあん。めったん。[及 261]

【例】 ○○さだば めってあ えがねあな
「○○になら、めったに行かないな」

めっぼ [副] めっぼう。[及 261]

【例】 今日あ めっぼ さみな
「今日は、めっぼう寒いな」

めでてあ [mɛʃdɛtɛ] [形] 目出度い。[及 262]

【例】 むがさりて、今日あ めでてあ 日だな
「結婚式で、今日は目出度い日だね」

めなぐず [mɛnagũdzũ] 水口。池や田の水の取入れ口。[続 382]

【例】 きょうあ たの めなぐず あげで たさ みず へで こえ
「今日は、田の水口を開けて、田に水を入れてこいよ」

めなぐづ [mɛnagũdzũ] 水口。水の取り入れ口。[及 108]

【例】 おれあえの 田の めなぐづ くえで けづがったけ
「うちの田の水口をふさいてけつかっていたつけ」

めへ [mɛʃɛ] 店。[及 54]

【例】 ものおすそん めへさ ささてんな
「物欲しそうに、店をのぞいているんじゃないやありません」

めべあーる [mɛbɛ:rü] [下一自] 芽生える。[続 382]

【例】 ようやぐ ゆぎも けだはげあ こんだ わらびも めべあーで くんべ
「漸く雪も消えたから、今度はわらびも芽生えてくるだろう」

めへおの [名] 見せ物。[及 262]

【例】 おまづりで、めへおのも 来たど
「お祭りで、見せ物も来たそうだ」

めへがげ [mɛhɛgagɛ] [名] 見せかけ。[及 262]

【例】 めへがげばり えたて だめだ
「見せかけばかりよくとも駄目だよ」

めへさき [mɛhɛsagi] 店先。[続 382]

【例】 ものおすそん めへさぎさ たてんなよ、しとん わらわえっさげあな
「物欲しそうに店先に立っているなよ、人に笑われるからな」

めへずげる [mɛhɛdzügerü] [下一他] 見せつける。[続 383]

【例】 おわばり もったどて、ともだずさ めへずげる おんでねあぞ
「自分ばかり持っているからといって、友達に見せつけるものじゃないよ」

めへすめ [mɛhɛsüme] 見せしめ。[続 383]

【例】 こんだから ほんたごど しねあよん、めへすめん うんと ごしえあで おげ
「今度からそんなことをしないように、見せしめに、うんと叱っておけよ」

めへずめあ [mɛhɛ'dzümüɛ] 店仕舞い。[続 383]

【例】 まだだどもて、〇〇てんさ えたば めへずめあで、と たでっだけは
「まだだと思って、〇〇店へ行ったら、もう店仕舞いで、戸を締めておったよ」

めへずらがす [mɛhɛ'dzüragasü] [動] みせびらかす。[及 262]

【例】 めへずらがさねあで すこす くえろ
「みせびらかさないで、少しくれなさい」

めへずらがす [mɛçɛ'dzüragasü] [動] みせびらかす。[及 33]

【例】 おわばり もったどて、しとさ めへずらがすなよ
「自分ばかり持っている、といて、人にみせびらかすんじゃないよ」

めへば [mɛhɛba] 見せ場。[続 383]

【例】 こげあた ずぎごぞ おめあの うでの めへばなんだぞ
「こんな時こそ、お前の腕の見せばなんだよ」

めへばん [mɛhɛban] 店番。[続 383]

【例】 きょうあ にずようびだあだども、めへばん たのまっで きったあだ

「今日は日曜日なんだが、店番を頼まれて来ているんだ」

めへびらぎ [meḥɛbiragi] 店開き。[続 383]

【例】 ○○デパートであ、こんだ ○○さ めへびらぎすっどごだど
「○○デパートでは、今度は○○に店開きするところだそうだ」

めへる [動] 見せる。[及 262]

【例】 おめあつあも めへるな
「君にも見せるね」

めべれ [meḥɛɾɛ] 目減り。[続 383]

【例】 めへの すんように かがっさげあ、めべれしねあよん はがてやれえあ
「店の信用にかかわるから、目減りしないように計ってやれよ」

めぼす [meḥɛɔsũ] [形] めぼしい。[続 383]

【例】 この むらにあ、めぼす とくさんぶつて ねあはげあ、ないが おす おんだな
「この村には、めぼしい特産物ってないから、何か欲しいものだな」

めまぐるす [meḥaŋũrũsũ] [形] めまぐるしい。[続 383]

【例】 しゅうせんごの にほんは めまぐるすぐ かわたな
「終戦後の日本は、めまぐるしく変わったな」

めめ [meḥɛ] [幼児語] 虫やみみずをいう。[続 384]

【例】 めー、めめ おかねあぞ
「坊や虫おっかないよ」

めめあー [meḥɛ:] 目まい。[続 384]

【例】 ないだべ、めめあー して、たてらんねあであは たちくらみず おんだへが
「なんだろう、目まいがして、もう立っていられなくなったよ、立ちくらみというものだろうか」

めめず みみず。土中に棲む環形動物。[同] めめずぐ。[及 98]

【例】 めめずの いねあ はだけあ やへでる おんだど
「みみずのいない畑は、やせているものだそうだよ」

めやね [mejaɳɛ] 目脂。[同] めんくそ。[続 384]

【例】 つかごろ めやねあ たまんなよ、つかいすぎだ わげでもねあどもな
「近頃目脂がたまるんだよ、使い過ぎたわけでもないがな」

めようがだけ [mjo:ŋadage] めようがの花茎。[及 98]

【例】 めようがだけあ、つけおのん したり、いだめだりして くてる
「めようがは、漬物にしたり、いためものにしてたりして食べてますよ」

めら [mera] 泣き虫。この語は、「及位の方言 213P」に「なぎめそ。なぎみそ」として出しているが、「めら」ともいうので書き出したものである。[続 384]

めらす 娘。[及 8]

- 【例】 おれあえにも めらすあだ 3人も いた
「うちにも娘達が3人もいるんです」

める [動] 見える。[及 262]

- 【例】 これで みっど えっくん める
「これで見ると、よく見えるよ」

この語には、「めっが一見えるか」、「めっであ一見えるじゃないか」、「めんべー見えるだろう」などの使い方がある。

める [動] 見える。[及 33]

- 【例】 ほれだば おれあどっからも める
「それなら、私の所からも見えるよ」

この語の使い方には、「みであ一見たい」、「みねあ一見ない」、「みねあこ一互に見ない約束」、「めっが一見えるか」、「めへろ一見せろ」などがある。

めんくせあ [mɛŋkũsɛ] [形] 醜い。[同] めくせあ。[続 384]

- 【例 1】 ほんた かっこして ありぐど めんくせあ おんだぞ
「そんな格好をして歩くと、醜いものだよ」

- 【例 2】 ほんた くいがだ すっど めんくせあ おんだ
「そんな食い方をすると、醜いものだよ」

めんくそ 目くそ。[及 17]

- 【例】 としよりあ めんくそなの つけでっど めくせあ おんだ
「年寄りが目くそなんかつけていると、めぐさいものだよ」

めんけあ一 [mɛŋkɛ:] 面会。[続 384]

- 【例】 びょういんでも かんじゃどの めんけあ一ずがん きまてんぜあ
「病院でも、患者との面会時間は決っているよ」

めんごえ [mɛŋŋoɛ] [形] 可愛い。[及 33・262]

- 【例 1】 まづ めんごえ あがこおぼごだごど
「まあ、かわいい赤ちゃんだこと」

- 【例 2】 隣りさ めんごえ おなごおぼこあ んまっだけ
「隣りに、可愛い女の子が生れたっけ」

めんごがる [mɛŋŋoɾɪ] [四他] 可愛がる。[同] めごかる。[続 384]

- 【例】 ずさま、まごあどご めんごがて、ねっずぎも であで ねんなだ
「お爺さんは、孫を可愛がって、寝る時も抱いて寝るんだ」

めんごげ [mɛŋŋoɟɛ] [形] 美しい。奇麗。[及 34・262]

- 【例 1】 あだま かたば めんごげん なたな

「頭を刈ったら、きれいになったね」

【例2】 ○○えの よめこあ めんごげだ あねこだけな

「○○さんところの嫁さんは、美しい女だね」

【例3】 めんごげん して、どさ いぎあすや

「奇麗にして、何所へ参りますの」

めんてあー [mɛ̃ntɛ:] 面体。面相。[続 384]

【例】 えぐねあ ごど する おのずおのあ どごが めんてああ えぐねあ おんだな

「悪いことをする者って、どこか面体が悪いもんだね」

めんどくせあ [mɛ̃ndoküse] [形] 面倒くさい。[及 262]

【例】 ほんた めんどくせあ ごどあ えま してらんねな

「そんな面倒くさいことは、今してられないよ」

めんぺあ [mɛ̃npɛ] [名] うわべ。体面。[及 262]

【例1】 あれなの めんぺあばり ええ ごど いうなだ

「あいつなんか、うわべばかりいいことをいうんだ」

【例2】 あれだば、めんぺあばり きんしてんなだ

「あいつは、体面ばかり気にしてるんだ」

めんぼぐねあ [mɛ̃nbogüne] [形] 面目ない。[続 384]

【例】 わんざどんねあがったども、つい めんぼぐねあ ごど ゆてしまいあした

「わざとではなかったが、つい面目ないことをいってしまいました」

めんめんじえみ みんみんぜみ。せみ科の昆虫。[及 98]

【例】 めんめんて なぐはげあ めんめんじえみだべや

「みんみんと鳴くから、みんみんぜみだろや」

— も —

もうすわけ [mo:süwage] [名] 申し訳。[及 263]

【例】 まづまづは もうすわけねあ ごど しあした
「まあまあ、申し訳ないことをいたしました」

もえ 新芽。萌え始めの新芽。[及 98]

【例】 あぎびの もえあ んめあ おんだげあ
「あけびの新芽は、うまいものだよ」

もえちり [名] 燃えさし。燃え残り。[及 263]

【例】 ほの もえちりあ えっくん けへよ
「その燃えさしは、よく消せよ」

もーげぞぐ [mo:geⁿdzogü] 儲け仕事。儲け口。[続 385]

【例】 ないが もーげぞぐ ねあがや、ふけぎで ろぐだ すごども ねあはげあな
「何か儲け仕事がないかい、不景気でろくな仕事もないからな」

もーすあへる [mo:süaherü] [下一他] 申し合わせる。[続 385]

【例】 こどすの おまずりあ あんまり かね かげねあ ごどん もーすあへだなよ
「今年のお祭りは、余り金をかけないことに申し合わせたんだよ」

もーろぐたがり [mo:rogütagarü] 悪態語。[続 385]

【例】 この もーろぐたがりあ さきだ ゆたな まだ しねあなが
「この耄碌者が、さっきいったことをまだしないのか」

もーろぐたがる [mo:rogütagarü] 耄碌する。[同] もーろぐつげる。[続 385]

【例】 おれあえの ずさまも もーろぐたがたよだな、わけの わがらねあ ごど いうおん
「うちのお爺さんも耄碌したようだな、わけの分らないことをいうからな」

もがる [mogarü] [四自] 儲かる。[続 385]

【例】 ないが もがる とくさんぶつ つぐらねあば でげねあな
「何か儲かる特産物を作らないといけないな」

もぎりみず [mojirimidzü] 千切ったみずな。これは、みずなを千切って、にしんや鯨の脂身などを入れて食べるもので、これを「もぎりみずでもして食うべや」などといっている。[続 385]

もぎりみづ [mojirimidzü] みづなを手で千切って、お汁の具にしたもの。[及 44]

【例】 もぎりみづさ 鯨 へだな んめあ おんだ
「千切ったみづなに鯨を入れたのはうまいもんだよ」

もぎる [mojirü] [四他] 千切る。これは、みづなを千切る時だけ使う語で、外のものには使われていない。[続 385]

【例 1】 みずも きて おげよ
「みづなを千切っておげよ」

【例 2】 みずも きて くうべ
「みづなを千切って食べよう」

もぐ [mogü] 木の木目。[及 98]

【例】 この けやぎの もぐあ きれだな
「このけやぎの木目はきれいたね」

もぐぜあー [mogürⁿdze:] 木材。[続 386]

【例】 この むら やまばりだはげあ もぐぜあーは ほうふだな
「この村は、山ばかりだから、木材は豊富だな」

もぐぞ [mogürⁿdzo] 木造。[続 386]

【例】 モルタルの えあ しっけあ たまっさげあ もぐぞの ほあ えな
「モルタルの家は湿っ気が溜るから、木造の方がいいね」

もくつと [副] むつくり。むつくと。俄かに起きあがるさま。[同] もこつと。[及 263]

【例】 ねぼけで もくつと おぎだけ
「寝ぼけて、むつくり起きたつけ」

もくつと [mökütto] [副] むつくり。むつくと。[続 386]

【例】 この わらすあ よながん ねぼけで もくつと おぎだおんだ
「この子は、夜中に寝惚けて、むつくり起きたんだよ」

もけあす [mokesü] [動] 倒す。[及 263]

【例】 あの 木、もけあすなが
「あの木を倒すのかい」

もけある [mokerü] [下一自] 倒れる。[同] もつけある。[続 386]

【例 1】 えま きあ もけあんぞ
「今木が倒れるよ」

【例 2】 ずさま あだて もけあたど
「お爺さんが、中風で倒れたそうだ」

もげる [mogerü] [動] 儲ける。[及 263]

【例】 これ うっど なんぼ もげるや
「これを売ると、幾ら儲けるの」

もこもこ [mokomoko] [トタル] 黙黙。[続 386]

【例】 ○○さんだば、あさから ばんまで もこもこど えぐ はだらぐ おんだ
「○○さんなら、朝から晩まで、黙黙とよく働くもんだね」

もこもこ [副] もそもそ。もぞもぞ。[同] もこらもこら。[及 263]

【例】 もこもこてねあで はやぐ こえ
「もそもそしていないで、早く来いよ」

もこもこ [mokomoko] [副] もそもそ。[続 386]

【例】 どから きたべ、けむすあ もこもこど はて きたじゅ
「何処から来たんだろう、毛虫がもそもそ這って来たよ」

もこもこ [mokomoko] [副] もくもく。[続 386]

【例】 ないだべ、けぶあ もこもこど ではて きたな、まさが かじで あんめあな
「なんだろう、煙りがもくもくと出てきたな、まさか火事ではあるまいな」

もごもご [mogomogo] [副] もぐもぐ。[続 386]

【例】 くずん ながで もごもごったて わがらねあべな
「口の中でもぐもぐいったって分らないじゃないか」

もさっと [mosatto] [副] もっさり。[続 386]

【例】 なに もさっと してんなだ、さっさど してしまえ
「何をもっさりしているんだ、さっさとやっしまえよ」

もさば [副] 案外。思ったより。[及 263]

【例】 もさば 被害あ すぐねあがったな
「案外被害は少なかったね」

もじゃくちや [mo^odzakūtja] [名/ダナ] 目茶苦茶。[続 386]

【例】 ほの はごん ながの おの ほっくるげあして、もじゃくちやねあぐしたでは
「その箱の物をかまして、目茶苦茶にしまったよ」

もじゃぐる [modzagürü] [動] もみくちやにする。[及 263]

【例】 まだ かぐ だご あんな もじゃぐる おんでねあ
「まだ、書くところのあるのを、もみくちやにするものじゃないよ」

もじゃすび [modzasübi] 頑具。[続 387]

【例】 ほの とごのまの おぎおの もじゃすび したて だめだぞ
「その床の間の置き物を頑具にしたって駄目だよ」

もじゃばねあ [modzapane] [形] 粗末。物の取扱いの粗末なこと。[及 263]

【例】 もじゃばねあくて、すぐ ぼこすなだ
「取り扱いが粗末で、直ぐこわすんだ」

もす [助動] ます。申します。[及 263]

【例】 こんだから きぎもすはげあ ゆるしてころは
「今度からきぎます（いうことを）から、もう許して下さいな」

もずあへ [modzūahe] 持ち合わせ。[続 387]

【例】 ○○の もずあへあ ねあぐなたはげあ、かて こねあんねあな
「○○の持ち合わせがなくなったから、買って来ないといけないな」

もずおの [modzūono] 持ち物。[続 387]

【例】 きしゃから おりっずきあ、おわ もずおの わすんねあで たがげよ
「汽車から下りる時は、自分の持ち物を忘れないで持てよ」

もずくたねあ [副] ごちゃごちゃ。粗末。めちやくちゃ。[及 263]

【例 1】 もずくたねあぐ してしまて どれあ どれだが わがらねあでは
「ごちゃごちゃにしてしまて、どれがどれなのか、もう分らないよ」

【例 2】 もずくたねあぐ してしまて、使いものに ならねあは
「めちやくちゃにしてしまて、使いものにならなくなてしまったよ」

もずねげ [modzūnege] 持ち逃げ。[続 387]

【例】 えぎの まずえあすずの いすさ おえっだ てさげ もずねげさっだど
「駅の待合室の椅子に置いていた手提を、持ち逃げされたそうだ」

もずめあ [modzūme] 持ち前。[続 387]

【例 1】 もずめあの つから 出したど
「持ち前の力を出したそうだ」

【例 2】 おめあの もずめあ、こればんだぞ
「お前の持ち前は、これだけだよ」

もすもす [mosūmosū] [感] もしもし。この語は、電話をかける時だけに使い、人を呼び止める時などでは、この地区では使っていない。[続 387]

もずもず [mo^odzūmo^odzū] [副] もじもじ。[続 387]

【例】 はずがすなが、ほんげあ もずもず してねあで、ゆてみろちゃ
「恥かしいのかい、そんなにもじもじしていないで、いってみろよ」

もずや [modzūja] 持ち家。[続 387]

【例】 ○○さん とうきょうで しとき かす もずや にさんげん たでだど
「○○さんは、東京で人に貸す持ち家を二三軒建てたそうだ」

もぞ [名] 寝言。[及 263]

【例】 おめあ ゆべな もぞ かだるおんだけな
「お前、夕べ寝言をいっていたつけな」

もそけあ [mosoke] くすぐったい。こそばゆい。[及 34]

【例】 ほんたどご さわんなや もそけあごど

「そんなところにさわるなよ、くすぐつたいよ」

もそもそら [mosoramosora] [副] のそのそ。[続 387]

【例】 ほんげあ もそもそらど してねあで もと はやぐ ありげや
「そんなにのそのそしていないで、もっと早く歩けよ」

もだかぶ [modakabü] 木の根元や根をいう。これは、川岸の柳などの根元が、水に浸っていて、魚などが入り込めるものをいう。[続 388]

【例】 ざっこあ ほの もだかぶさ へあつたぞ
「雑魚がその根元に入っているよ」

もだつ [modatsüü] ならたけ。ならたけ類の総称。「もだつ」とも呼び、食用になる。[及 98]

もだら たわし。[及 54]

【例】 めへがら、もだら かて きてくんねあが
「店から、たわしを買って来て下さい」

もちやげる [motʃaŋerüü] [下一他] 持ち上げる。[同] もっちゃげる。[続 388]

【例】 ○○さんだば この おもであな もちやげっさげあな
「○○さんなら、この重いのを持ち上げるんだからな」

もづ [動] 出産する [及 17]

【例】 くつでやた 娘あ そんなもづそだど
「くれてやった娘が、じきに出産しそうだそうだ」

もづ [modzüü] 餅。[及 44]

【例】 へっくん ずぎあ もづ つがねあんねあな
「節句の時は餅をつかないといけないな」

餅の種類には、次のようなものがある。「あづきもづー小豆餅」、「きなごもづ。ふぎどりもづ。まめのごもづー黄粉餅」、「くさもづーくさ（よもぎ）餅」、「くだげもづー砕け米でついた餅」、「くつげもづー婚礼の日につく餅」、「くるみもづーくるみ餅」、「こもづー麦粉をつけた餅」、「こりもづー凍り餅」、「すますもづー雑煮餅」、「なっともづー納豆餅」、「ぼだもづーぼた餅。おはぎ」、「まめずりもづー枝豆を磨ってつけた餅」などがある。

もつけあす [mokkesüü] [四他] 倒す。[同] もけあす。[続 388]

【例】 ゆえっだ はな もつけあすど えぐねあはげあ きいつけで ありげよ
「植えいる花を倒すといけないから、気をつけて歩けよ」

もつけある [mokkerüü] [下一自] 倒れる。[同] もけある。[続 388]

【例】 なんてんも ゆぎで もつけあつど えぐねあはげあ かごて おげよ
「南天も雪で倒れるといけないから、囲っておけよ」

もつこである [motsükoderüü] [下一他] 持ち堪える。[続 388]

【例】 この ていぼうあ あの おおみずん ずぎ えぐ もつこであだ おんだ

「この堤防は、あの洪水の時、よく持ち堪えたものだね」

もっこり [副] こんもり。うづ高いこと。[及 264]

【例】 ほの つづ こさ もっこり もて おげ
「その土をここへこんもり盛っておけよ」

もつつ [名] 鳥もち。[及 264]

【例】 つあつあ へみ とんな もつつ こへあでころ
「お父さん、蟬を取る鳥もちを作ってください」

もづつぎ [modzütüsügi] 餅搗き。[及 45]

【例】 しょうがづの もづつきも そんま くるなは
「正月の餅搗きも、じきに来るね」

もってあ [motte] 勿体。[続 388]

【例 1】 もってあ つけねあで もらえや
「勿体をつけないで貰えよ」
【例 2】 もってあねあ ごど すんな
「勿体ないことをするなよ」

もってあねあ [mottene] [形] 勿体ない。[及 264]

【例】 まま こぼすなよ、もってあねあはげあな
「ご飯をこぼすんじゃないよ、勿体ないからね」

もってあぶる [mottebüürü] [四自] 勿体ぶる。[続 388]

【例】 ほんげあ もってあぶらねあで おへだら えんねあが
「そんなに勿体ぶらないで、教えてらいいじゃないか」

もてあすぶ [moteasübü] [四他] もてあそぶ。[続 388]

【例 1】 おれあどご もてあすぶ きだべが
「私をもてあそぶ気だろうか」
【例 2】 わらしたずの もてあすぶ おのあ ねあが
「子供らのもてあそぶ物がないか」

もてこえ [motekoë] もってこい。[続 388]

【例】 ほれだば もてこえの ええ はなすだな、ほれ なして ひきうげねあな
「それならもってこいのいい話だね、それをどうして引き受けないの」

もと [副] もっと。[及 264]

【例】 がが おがし もと ころや
「お母さん、お菓子をもっとくれよ」

もどがす [moⁿdogasü] [形] もどかしい。[続 389]

【例】 この えそがす ずぎ もさもさして もどがす ごど まず はえあぐ もて こえ

「この忙しい時に、もさもしてもどかしいこと、まず早く持って来いよ」

もどげあし [modogesī] 伐倒。立木を根元から伐り倒すこと。[及 76]

【例】 うらの かぎぬぎあ かっだはげあ もどげあししてしまえは
「裏の柿の木は枯れたから、伐り倒してしまいなさい」

もどへん [modohēn] 元栓。[続 389]

【例】 ガスあ、つかわねあずぎあ、わすんねあで もどへん すめで おげよ
「ガスは、使わない時は、忘れないで元栓を締めておけよ」

もの 飼料。家畜の飼料をいう。[及 76]

【例】 べごこさ もの かへで おげよ
「牛に飼料を与えておけよ」

これは、「べごのおの一牛の飼料」、「んまのおの一馬の飼料」などとも使っている。

ものおべ [monoobe] 物覚え。[続 389]

【例】 この わらすあ もものおべあ え ほだよだな くぐも そんま おべだ おん
「この子は物覚えがいい方なようだな、九九も直ぎに覚えたんだもの」

ものがであ [monogade] [形] 物堅い。[続 389]

【例】 ○○さんだば ものがであ しとで、ないが やっど おげあす よごすなよ
「○○さんなら物堅い人で、何かやると、お返しをよこすんだよ」

ものさだけねあ [monosaⁿdagene] 外聞が悪くて恥かしいこと。[続 389]

【例】 ほんた かっこして おもで ありて ものさだけねあ ごど もと ちゃんとして あり
げ
「そんな格構をして外を歩いて恥かしいこと、もっときちんとして歩け」

ものすげ [monosūge] [形] 物凄い。[続 389]

【例】 ものすげ おど したばげあ、そどさ ではてみだら、ガスばぐはずだど
「物凄い音がしたから、外へ出て見たら、ガス爆発だそうだ」

ものたんねあ [連語] 物足りない。[及 264]

【例 1】 娘 嫁ん くっだら、ものたんねあな
「娘を嫁にくれたら、物足りないな」

【例 2】 こればりの さげであ ものたんねあな
「こればかりの酒では、物足りないね」

ものまねあ [monomane] 物真似。[続 389]

【例】 ものまねあ じよんだ しとで、ほけちよの なぎごえ そっくり だすなだぜあ
「物真似の上手な人で、鶯の鳴き声をそっくりに出すんだよ」

ものめずらす [monomeⁿdzürasü] [形] 物珍しい。[続 389]

【例】 いながおのだて ゆわえっさげあ、ものめずらすそん みで ありぐな

「田舎者だといわれるから、物珍らしそうに見て歩くんじゃないよ」

ものものす [monomonosütü] [形] 物物しい。[続 389]

【例】 えれあ しとあ ありぐ ずぎあ ものものす ごえあ つぐ おんだなや
「偉い人が歩く時には、物物しい護衛が付くもんだね」

ものもれあ [monomore] 物貰い。験の出来もの。[続 390]

【例】 こねあだから ものもれあ でげだども えしゃさ えぐ ひまねあなよ
「この間から物貰いが出来たんだが、医者へ行く暇がないんだよ」

ものもれあ [monomore] 乞食。[同] ほえど。もれあと。もれあにん。[続 389]

【例】 ものもれあみであだ かっこして ありぐな
「乞食のような格構をして歩くんじゃないよ」

ものゆい [monojüü] 物言い。[続 390]

【例】 おやさ むがて ほんた ものゆいじゃねあべな
「親に向って、そんな物言いつてないじゃないか」

ものゆわず [副] いきなり。ものいわず。[同] ものもゆわねあで。[及 264]

【例】 ものゆわず いんびづ とた おんだ
「ものいわず鉛筆を取ったもんだ」

ものわれあ [monoware] 物笑い。[続 390]

【例】 ほんたごど してっど、へげんの ええ ものわれあ なんだはげあな
「そんなことをしていると、世間のいい物笑いになるんだから」

もへき [moheki] 気負い。煽てられてその気になること。[続 390]

【例】 もへきだして、ほんた あぶねあ こと する おんでねあ
「気負って、そんな危ないことをするもんじゃないよ」

もへしよわへる [mohejowaherü] [下一他] 煽てる。[続 390]

【例】 こんた うすこたんねあ おのさ もへしよわへる おのあ ねあべな
「こんな少し足りない者を煽てる奴はないじゃないか」

もみど [momiⁿdo] 粃蔵。または粃を入れておく室。これは、米を粃付きのままに貯蔵しておく場所をいった。長く貯蔵するには粃米が割合変質しにくいからである。しかし今はしていない。[続 390]

もみとす 篩。粃とおし。玄米と粃からを選別する篩。[及 67]

【例】 もみとす かげだ 米 たらさ へでころ
「粃とおしで選別した米を俵に入れてくれ」

もめあ 一 [mome:] 目まい。[続 390]

【例】 ないだべじゅ、もめあ して ただんねあなよ
「どうしたんだろうね、目まいがして立たれないんだよ」

もめど [momeɔ] 木綿糸。[続 390]

【例】 すろえ もめどあ ねあぐなたはげあ、めあの めへがら かって きてくんねあが
「白い木綿糸がなくなったから、前の店から買って来てくれないか」

ももしぎ [momosigi] 股引。[同] ももすぎ。[及 61]

【例】 ももしぎも こっとひんだなは
「股引も、もう骨薫品だね」

ももたぼ ももの内側。腿たぶ。[及 13]

【例】 あんまり 走したぼ ももたぼ つばて、ありぐな よやっとだ
「余り走したら、腿たぶが突張って、歩くのがやっとだ」

もやす もやし。豆もやし。[及 45]

【例】 豆もやすなの 温泉場で こしえっだけ
「豆もやしなんか、温泉場で作っていたつけ」

もやっと [mojatto] [副] ぼやっと。ぼんやり。この語は、煙や霧ではっきり見えないさまだけを用いる語である。[続 390]

【例】 きりで もやっと してさげあ、くるま きいつけろよ
「霧でぼやっとしているから、車は気を付けろよ」

もやらもやら [副] もやもや。わだかまり。[及 264]

【例 1】 なんだが 胸の あだりあ もやらもやらて きもづあ えぐねあ
「なんだか胸のあたりがもやもやして、気持ちが悪いな」

【例 2】 夫婦けんか してがら、したりの ながさ もやらもやらじゅ おのあ でげでしました
「夫婦けんかをしてから、二人の間にわだかまりが出来てしまったんだ」

もよ一げあ一 [mojo:ŋe:] 模様替え。[続 391]

【例】 この えも わらしたずあ おっきくなつど へべあはげあ もよ一げあ一 すんべ
「この家も子供らが大きくなると狭くなるから、模様替えをしよう」

もりあへ [moriahe] 盛り合わせ。[続 391]

【例】 この さらんな、しとすなばりであ ものたんねあはげあ、ないが もりあへすんべ
「この皿のは、一品だけでは物足りないから、何かを盛り合わせよう」

もりげあす [morigesü] [四他] 盛り返す。[続 391]

【例】 あがぐみあ えままで まげっだけあ こんだ もりげあして きたぞ
「赤組は今まで負けておったが、今度は盛り返してきたよ」

もれあおの [moreono] 貰い物。[続 391]

【例】 これあ もれあおのですども、めずらす おのだはげあ たべでくだけせあ
「これは貰いものですが、珍しい物だから食べて下さい」

もれあこ [moreko] 貰い子。[及 8]

【例】 おらも子供あ いねあはげあ、もれあこでも すねあんねあべ
「私も子供がいないから、貰い子でもしないとイケないだろう」

もれあご [moreŋo] 貰い子。[同] もれあこ。[続 391]

【例】 こども いねあ おんではげあ もれあご したなよ
「子供がいないものだから貰い子をしたんだよ」

もれあつずこ [moretsüdzüko] 貰い乳。[続 391]

【例】 つずこあ でねあ おんではげあ、もれあつずこ したなよ
「乳が出ないものだから、貰い乳をしているんですよ」

もれあて [morete] 貰い手。[続 391]

【例】 よめの もれあてあ いんども、くる しとあ いねあなよ
「嫁の貰い手はいるんだが、来る人がいないんだよ」

もれあなぎ [morenagi] 貰い泣き。[続 391]

【例】 ががん しなつて、あんまり なぐ おんではげあ むぞせあくて もらいなぎ してきた
「お母さんに死なれて、余り泣くものだから、可哀そうで貰い泣きをして来たよ」

もれあび [morebi] 貰い火。[続 391]

【例】 となりで かず だしたな もれあびして おれあ えも やげでしたなよ
「隣りで火事を出したのを貰い火して、私の家も焼けてしまったんだよ」
なお、火種を貰うことは随分昔からなくなっている。

もれあみず [moremi^odzü] 貰い水。[続 392]

【例】 すいどうあ ぐえあわりくて、となりがら もれあみず したなよ
「水道の具合悪くて、隣りから貰い水をしているんだよ」

もれあわれあ [moreware] 貰い笑い。[続 392]

【例】 そばで おがす ごど ゆて あんまり わらうはげあ もれあわれあ してしまた
「側でおかしいことをいって、余り笑うから貰い笑いをしてしまったよ」

もろえ [moroë] [形] 脆い。[続 392]

【例】 これあまだ もすこす じょうぶだどもたな あんげあ もろえ おんだな
「これは、もう少し丈夫だと思ったのに、案外脆いもんだな」

もろひじゃ [moro^oi^odza] 諸膝。[続 392]

【例】 ゆぎみずで、つるっと すべて、もろひじゃつで いであがったや
「雪道で、つるりと滑って、諸膝について痛かったね」

もろみ [moromi] 糞。特に人間の糞をいう。[続 392]

【例】 へ たえっどて ねきばて もろみまで だしてしまた
「屁をひろうと思って、いきんで、糞まで出してしまった」

もろもろ [moromoro] [副] ぞくぞく。[続 392]

【例 1】 えぎがら しとあ もろもろど ではて きた
「駅から人が、ぞくぞく出てきた」

【例 2】 ふぐろがら えも もろもろど だした
「袋から芋をぞくぞく出した」

もん [mon] 者。物。[続 392]

【例 1】 はだらぎもん
「働き者」

【例 2】 がんこもん
「頑固者」

【例 3】 おれの もん
「俺の物」

【例 4】 つかいもん
「使い物」

【例 5】 するもんだ
「するものだ」

【例 6】 くるもんだ
「来るものだ」

なお、この語の「者」は「おの。おん」などとも使い、「物。もの」は「おん」とも使っている。

もんがぐ [monŋagü] たちしおで。これは、ゆり科の多年生植物で、しおでによく似ており、新しく伸び芽を 25cm 程摘み取り、ひたし物として食べる山菜の一種である [同] もんがぐしゅでこ。
[続 392]

もんがめあ [monŋame] 門構え。[同] もんがんめあ。[続 393]

【例】 ○○さんの えだば もんがめあの ある えだ
「○○さんの家なら、門構えのある家だよ」

もんぐらもづ [monŋüramodzü] もぐら。もぐら科の哺乳動物。[同] もぐらもづ。[及 99]

もんじゃくちやねあ わけが分らない。事柄がこんぐらがっている。話にならない。[同] もんじゃねあ。[及 264]

【例】 おめあも もんじくちやねあ ごど いうちやな
「お前もわけのわからないことをいうよね」

もんず [monⁿdzü] 文字。[続 393]

【例】 むがすあ がっこなの ねあがったはげあ もんずも すらねあ しとぼりであったど
「昔は学校なんかなかったから、文字も知らない人ばかりだったそうだよ」

もんだら [monⁿdara] 束子。[同] もだら。[続 393]

【例】 ござ おえっだ もんだら ござ やたべ
「ここに置いていた束子を、何処へやったろう」

もんであ [mondɛ] [名] 問題。[及 264]

【例】 ほの もんであは えっくん すらべでがらだ
「その問題は、よく調べてからだね」

もんもん [副] もくもく。煙のさかんに出るさま。頭がこんがらかること。[及 264]

【例 1】 火事んねあべが、もんもん けぶあ での おの
「火事ではないだろうか、もくもく煙が出るもの」

【例 2】 あんまり 皆して いう おんではげあ あだま もんもんていう
「あまり皆でいうものだから、頭がこんぐらかってしまうよ」

— や —

～や [～ja] [間助] よ。[続 393]

【例 1】までや、おれも えぐはげあ

「待てよ、俺も行くから」

【例 2】けや

「食べろよ」

【例 3】するや

「するよ」

～や [～ja] [終助] の。かい。[続 393]

【例 1】どさ えぐや

「何処へ行くの」

【例 2】のむがや

「飲むの (かい)」

【例 3】とつがや

「取るの (かい)」

【例 4】あつがや

「あるかい」

や くさび。伐木用の木のくさび。[及 67]

【例】や かげで ほの 木 こっちや もけあへ

「くさびを打ち込んで、その木をこっちへ倒せ」

やあや [ja:ja] [副] やいのやいの。[及 265]

【例】へあれどて やあやて いうなよ

「入ってくれて、やいのやいのというんだよ」

やうづ [名] 家中。[及 265]

【例】やうづ さがしたども めねあけ

「家中さがしたが見えなかったね」

やうづり [名] 引っ越し。[及 265]

【例】〇〇さん やうづりだど

「〇〇さんが引っ越したそうだ」

やおが [jaoga] [副] 折角。[同] やわが。[及 265]

【例】 やおが くえるて ゆえば いらねあて いうし
「折角くれる、といえ、いらならい、というし」

やがごむ [jagomü] [動] 妬む。そねむ。[同] やがむ。やぐ。[及 265]

【例】 やがごむはげあ めへんな
「ねたむから、見せるなよ」

やがまし やかましい。[及 34]

【例】 やがます ごど、もすこす すずがん すろちゃ
「やかましいこと、もう少し静かにしてくれよ」
この語を強調した語に「やがまねあ」がある。

やがます [jagamasü] [形] やかましい。[及 265]

【例】 やがますくて テレビの おどあ きげねあ
「やかましくて、テレビの音が聞えないよ」

やがますねあ [jagamasüne] [形] [強調] 喧しい。喧しいの強調語。[続 393]

【例】 まず この わらしたずの やがますねあ ごど、すこす すずがん すろ
「まあ、この子供らの喧しいこと、少し静かにしなさい」

やがむ [動] ねたむ。やつかむ。[同] やがごむ。[及 34]

【例】 ほんげあ やがむなや、おめあどさも 買てくえさげあ
「そんなにねたむなよ、お前にも買ってやるから」

やぎずぐ [jagidzügü] [四自] 焦げ付く。[続 393]

【例】 ガスさ かげっだ なべ おろしてころ やぎずぐど えぐねあはげあ
「ガスに掛けている鍋を下して下さい、焦げ付くといけないから」

やぎもづ [名] やきもち。ねたみ。[及 34]

【例】 ほの 年で やぎもづ やぐなが
「その年で、やきもちをやくのかい」

やきやき [副] やきもき。[及 265]

【例】 おめあ こねあどて ばさま やきやきてだぞ
「お前が来ない、といって、お婆さんが、やきもきしてるよ」

やぐげあー [jagüŋe:] 薬害。[続 393]

【例】 のうやぐあ こえぐすっど やぐげあー おぎっさげな
「農薬は、濃くすると薬害が起るからね」

やぐじよ [jagü'dzo] [名/ス他] 約定。[続 394]

【例】 はっきり けずめ つけるにあ、やぐじよ とりかわさねあんねあな
「はっきりけじめを付けるには、約定を取り交わさないといけないな」

やぐぜあー [jagü^odze:] 薬剤。[続 394]

【例】 なすあ たずがれん なたはげあ、やぐぜあー かげねあど ほがんなさ うずるな
「茄子が立柿病にかかったから、薬剤を掛けないと、他のに移るな」

やぐづげ [jagüdzüge] [名] 役付き。[及 265]

【例】 ○○さん やぐづげん など
「○○さんは、役付きになったそうだ」

やぐであ [jagüde] [名] 益体。[及 265]

【例】 やぐであもねあ ごど ゆわねあんだ
「益体もないことをいうんじゃないよ」

やぐはれあ [jagüfare] [名] 厄払い。[及 265]

【例】 42 の やぐはれあ しねあんねあな
「42 の厄払いをしないといけないな」

やぐやぐ [jagüjagü] [副] わざわざ。[及 266]

【例】 あの どうえ だご やぐやぐ えたども いねあけ
「あの遠い所へわざわざ行ったのになかったよ」

やげ [jage] 火傷。[及 17]

【例】 やげんすっさげあ かまこ よへで おげよ
「火傷するから、やかんをよせておきなさいよ」

やげあし [jagesi] [名] 仕返し。[同] やんげあし。[及 266]

【例】 みでろ えんめあん やげあし とてくえっさげあ
「見ておれ、いまに仕返しをしてやるから」

やげずぐ [jagedzügü] [四自] 焼け付く。[続 394]

【例】 ないだて きょうだば やげずぐよだ あつさだ おんだな
「まあ、今日なら、焼け付くような暑さなもんだな」

やげのやんばず [jagenoanpadzü] やけくそ。すてばち。[続 394]

【例】 せいせぎあ あがらねあたて、やげのやんばずにばりあ なんなよ
「成績は上がらなくとも、やけくそにだけはなるなよ」

やげばだ [jagepada] 火傷。[同] やげ。[続 394]

【例】 ゆなんべ かげっだはげあ、やげばだ すっと えぐねあはげあ きいつけるよ
「湯鍋を掛けているから、火傷をするといけないから、気を付けろよ」

やげん [jagen] [副] やけに。[続 394]

【例 1】 やげん あつな
「やけに暑いな」
【例 2】 やげん ひしえるな

「やけに冷えるな」

【例3】 やげん ぎつつぐ しばた おんだ

「やけにきつく縛ったもんだ」

【例4】 やげん ふるな

「やけに降るな」

やごめ [jagome] [名] 軒並み。[及 266]

【例】 さづぎで やごめ からえだけ

「田植で、軒並み留守だったよ」

やさす やさしい。[及 34]

【例1】 ほんどん やさす してて ほんげあ いねあ おんだ

「本当にやさしい人って、そんなにはいないものだ」

【例2】 ほんげあ ほんげあ やさすぐ つぐれる おのぼりあ ねあ おんだ

「そうそう易しく作れる物ばかりはないもんだよ」

やさやさ [jasajasa] [副] ぼうぼう。ゆさゆさ。[続 394]

【例1】 はだけさ くさ やさやさど おえっだけ

「畑に草がぼうぼうと生えておったっけ」

【例2】 かじえで きの えだ やさやさど えごぐな

「風で、木の枝が、ゆさゆさと動くね」

やし さわぐるみ。くるみ科の落葉高木で、主として湿気が多い沢端や水辺にある。[及 99]

やじゃがねあ [jadzagane] [連語] しょうがない。いけない。[同] やじゃがらねあ。やづあねあ。[及 266]

【例】 ほんたごどぼりして やじゃがねあ やろだな

「そんなことばかりして、しょうのない奴だな」

やしゆぐ [jajügü] 夜食。[及 45]

【例】 えまだば やしゆぐなの くう してあ いねあべ

「今なら、夜食なんか食べる人はいないだろう」

やす [形] 安い。易い。[及 281]

【例1】 この さんま やすごど

「このさんま、安いこと」

【例2】 ほんたごどあ いど やすごった

「そんなことは、いとやすいことだよ」

やす 安い。易い。[及 34]

【例1】 この とづあ やすな

「この土地は安いな」

【例2】 ほんたごどあ いど やすごった

「そんなことは、いと易いことだよ」

やすうげえあ [jasüüge̞e] 安請け合い。[続 394]

【例】 ほんた やすうげえあして だいじょうぶだがや
「そんな安請け合いをして、大丈夫なのかい」

やすおの [jasüono] 安物。[続 395]

【例】 やすおのげあ の じえねうすねあ、ていう おんだはげあ、ええ おの かうべ
「安物買いの銭失ない、というものだから、いいものを買うとしよう」

やずなす [jadzünasü] ずみ。ひめかいどう。これは、ばら科の落葉樹で、実は秋になって赤く熟し、鳥類がよくついばんでいるが、人も食べられ、小さい頃よく食べたものである。[続 395]

やすぼえ [jasüpo̞e] [形] 安っぽい。[続 395]

【例】 ほんた やすぼえ おのんねあぐ、もと じょうひんだ おの かえちや
「そんな安っぽいものでなく、もっと上品なものを買えよ」

やずまげだ [jadzümage̞da] 取り返しのつかない大変なこと。[続 395]

【例】 やずまげだ ごど してまた、におの したな やぎずがへでました
「大変なことをしてしまったよ。煮物をしていたのを焦げ付かせてしまった」

やすめる [動] 軽べつする。[及 266]

【例】 ないだ しとんどご やすめあがて
「なんだ、人を軽べっしやがって」

やせあー [jase:] 野菜。[続 395]

【例】 ごんぼどが にんずんなの やせあーは ゆえてねあはげあ かて くてる
「牛蒡とか人蔘なんかの野菜は植えていないから、買って食べてるよ」

やだ [jaⁿda] [連語] 嫌だ。[続 395]

【例】 えれぎれあして、やだなて ゆわねあで、ないでも かねあんねあ おんだ
「選り好みをして、嫌だなんていわないで、何でも食べないといけないものだよ」

やだがる [jaⁿdajarü] [四他] 嫌がる。[続 395]

【例】 ないなおんだが、この わらすあ あだま かな やだがんなよ
「どうしてなのか、この子は頭を刈るのを嫌がるんだよ」

やだやだ [jaⁿdajaⁿda] [副] 嫌嫌。[続 395]

【例】 ほんた やだやだ すごと したて、ろぐだ すごどあ でげる おんでねあ
「そんな、嫌嫌仕事をしたって、ろくな仕事が出来るといじゃないよ」

やちやくちや [名] 乱雑。散らかっているさま。[及 266]

【例】 ほごらあだり やちやくちゃん すんなよ
「そこらあたりを乱雑にするんじゃないよ」

この語には、「やちやくちやねあー乱雑だ。散らかっている」。「やちやくちやねあー乱雑だ。散らかって

いる」などの使い方がある。

やづ やつ。あいつ。[及 8]

【例】 やづら なに ぼがだ ごど かんげあでんなだ
「やつら、何を馬鹿なことを考えているんだ」

やづ 谷地。湿地。[及 108]

【例】 やづさ 田 こしえだば ぬがて ひでえ おんだ
「湿地に田をこしらえたら、ぬかって、ひどいもんだ」

やつか [jatsüka] はんのき。かば科の落葉高木で、湿気の多い所に生える。[及 99]

やづがら [jaⁿdzügara] [名] ありったけの力。[及 266]

【例】 この くえあ やづがら だしたて ぬげねあな
「この杭は、ありったけの力を出しても抜けないよ」

やつけあ [jakke] [名] 厄介。[及 266]

【例】 こねあだは この わらすあ てあへん やつけあ かげあした
「この間は、この子が大変ご厄介をかけました」

やつける [jatsükërü] [下一他] やつつける。[続 395]

【例】 え、あんつあ やつけでやっさげあ、なぐな なぐな
「ようし、兄さんがやっつけてやるから、泣くな泣くな」

やつこえ やわらかい。[同] やわらげあ。[及 34]

【例】 この くづらもづあ やつこえごど
「このくぢら餅はやわらかいこと」

やつこくなる [jakkogünarü] 軟かくなる。弱る。[続 395]

【例 1】 にっど やつこくなる おんだ
「煮ると軟かくなるものだよ」

【例 2】 ほんたごどで やつこくなてんな
「そんな事で弱っているなよ」

やつこげる [jakkonërü] 焼け焦げる。[続 396]

【例】 かずで おれあ えあ みな やつこげでしまたは
「火事で、私の家は、みな焼け焦げてしまったよ」

やつせあねあ [jassene] せわしい。[同] へわす。[及 34]

【例】 あれしてころ、これしてころて、まづ、やつせあねあ おんだ
「あれしてくれ、これしてくれって、まあ、せわしいもんだ」

やつた [jatsüta] 湿田。湿地に作った田。[及 76]

【例】 こごあ やつただ おんださげあ ぬがてや
「ここは湿田なものだから、ぬかってね」

やっちゃんねあ [jattʃanɛ] [形] 乱雑。[続 396]

【例】 ○○ちゃん、つぐえの ゆえあ やっちゃんねあはげあ かだずげろよ
「○○ちゃん、机の上が乱雑だから片付けなさいよ」

やっつぺあり [名] 八才入学。数えて八才の入学。満六才の入学をいう。[及 266]

また、「ななっつぺありー七才入学」があり、この場合は、早生れの者をいう。

やっつもねあ [形] 馬鹿なこと。不要なこと。[及 266]

【例】 やっつもねあ ごど ゆてねあで、すごど すろ
「馬鹿なことをいってないで、仕事をしろよ」

やつと [jatsũto] 屋敷。[同] やずど。[続 396]

【例】 むがすあ この はだげも おれあえの やつとであったあだ
「昔はこの畑も、うちの屋敷だったんだ」

やっどごすつとご [jattogosũttogo] [副] 漸く。[続 396]

【例】 ひまだればりで、いねかりも きんな やっどごすつとご でがしたばりだ
「雑用ばかりで、稲刈りも昨日漸くでかしたばかりだよ」

やっばす [jappasũ] [副] やっぱり。やはり。[続 396]

【例】 やっばす おめあも えっしょん でかへぎ えぐ ごどん したが
「やっぱり君も一緒に出稼ぎに行くことにしたか」

やづはづあねあ [連語] どうしようもない。めちゃくちやだ。[及 34]

【例】 息子あ 退院したどもたら、こんだ かが 入院だど、やづはづあねあ おんだ
「息子が退院したと思ったら、今度は妻が入院だそうだ、どうしようもないもんだ」

やづはづあねあ [連語] どうしようもない。[及 266]

【例】 大水で つづみあ くぞつで やづはづあねあは
「大水で堤が崩れて、どうしようもなくなってしまったよ」

やづぶぎ [jadzũbügi] さわおぐるま。きく科の多年生草本で、沢端や湿地などに生え、食用にもなる。[及 99]

やであ [jade] [名] 屋台。[及 266]

【例】 おまづりの やであ つぐんべ
「お祭りの屋台を作ろうや」

やどう [jadoũ] [動] 假植する。[及 76]

【例】 まだ はだげ ほてねあはげあ、茄子 やどうべ
「まだ、畑を耕していないから、茄子は假植しておこう」

やどう 雇う。[及 76]

【例】 杉 ゆえさ すと やどうべは
「杉の造林に人を雇ってしまおう」

やどげあー [ja^odoŋe:] 宿替え。[続 396]

- 【例】 こんだ かえしやの ちけあぐさ やどげあ すどごだど
「こんどは、会社の近くに宿替えをするところだそうだ」

やどへん [ja^odohɛn] 宿銭。宿賃。[続 396]

- 【例】 つかごろあ やどへんも たげあぐなて ばがんならねあなは
「近頃は、宿銭も高くなって、もう馬鹿にならなくなってしまったな」

やね [名] 脂。目やにや松脂などをいう。[及 267]

- 【例】 手さ まづやねあ つで べだべだていう
「手に松脂が付いて、べたべたするよ」

やのさって [名] 明明日。しあさって。[及 267]

- 【例】 あんつあ やのさって けあて くっど
「兄さんは、しあさって帰へって来るそうだ」

やばつ [形] 怪しい。まゆつばもの。雨や水しぶきなどがかかって気持の悪いこと。[及 267]

- 【例 1】 雨あ ふて きて やばつくて しごど さんねあ
「雨が降って来て、気持が悪くて仕事が出来ないよ」
【例 2】 ほの はなすだば やばつ おんだ
「その話なら、怪しいものだよ」

やばつ あやしい。雨に濡れて気持の悪いことをいう。[及 35]

- 【例 1】 にわが雨に 降らって、やばつぐなた
「俄雨に降られて、濡れて気持が悪くなったよ」
【例 2】 んめあごど ゆて、あの 話だば やばつ おんだ
「うまいことをいって、あの話はどうもあやしいもんだ」

やぶえしや [jabūɛja] やぶ医者。[続 396]

- 【例】 あの えしやだば やぶえしやで みで もらうまでんねあな
「あの医者ならやぶ医者で、診てもらうまでもないな」

やふり [副] 突然。急に。案内もなく。[及 267]

- 【例 1】 やふりん 来たたて、すごどなの、ねあな
「突然来たって、仕事なんかないよ」
【例 2】 やふりん えたたて あおおのなか 採れる おんでねあ
「案内もなく行ったって、山菜なんか採れるもんじゃないよ」

やふり [jaɸūrri] [副] 突然。[続 396]

- 【例】 ほんた むずがす ごど えま やふりん ゆわだて へんず さんねあな
「そんな難しいことを、今突然いわれたって返事出来ないね」

やへうで [jahɛūr^odɛ] やせ腕。[続 396]

【例】 やへうで えっぼんで えぐ あれまで のすあがた おんだ
「やせ腕一本で、よくあれまでのし上がったものだね」

やへがまん [jahegaman] やせ我慢。[続 397]

【例】 やへがまん してねあで、おすごったら おすて ゆたら えんねあが
「やせ我慢をしていないで、欲しいなら欲しいって、いったらいいじゃないか」

やへこ [jaheko] やせっこ。やせている人。[同] よへこ。[続 397]

【例】 だれん にだ おんだが あの わらすあ やへこで、もすこす じょうぶん なっど え
ども
「誰に似たものなのか、あの子はやせっこで、もう少し丈夫になるといいんだがね」

やへこげる [jahekogerü] [下一自] やせこける。[続 397]

【例】 どごあ えぐねあんだが あの しとあ つかごろ やへこげで きたな
「何処が悪いのか、あの人は近頃やせこけてきたね」

やへつ [jahetsü] やせ地。[続 397]

【例】 こごあ やへつだ おんだはげあ、ほがん どごより ひりょう くうな
「ここはやせ地なものだから、他の所より肥料をくうな」

やへはったぎ [jahəhattaŋi] やせている者をやゆるする語。[続 397]

【例】 これあ おれあえの やへはったぎだ おん
「これは、うちのやせぼちなもの」

やへる [jaherü] [下一自] やせる。[続 397]

【例 1】 あめあおの かねあよんして やへるごったな
「甘い物を食べないようにして、やせることだな」

【例 2】 こごの つずあ やへでるな
「ここの土はやせているな」

やへる [jaherü] やせる。[及 17]

【例】 この わらすあ ろくでもねあ ごどばり す おんだはげあ やへる おもい すねあん
ねあ
「この子がろくなことばかりするもんだからやせる思いをしないとイケないんだよ」

やへんま 背中につけて荷を運ぶ木製器具。[及 68]

【例】 柴 しょうなだば やへんま 使うど らぐだ
「柴を背負うのなら、やへんまを使うと楽だよ」

やぼくせあ [jaboküse] [形] 野暮くさい。[続 397]

【例】 ほんた やぼくせあ ごどより、もと はでだ おまずりん すんべや
「そんな野暮臭いことより、もっと派手なお祭りにしようや」

やぼてあ [jabote] [形] やぼくさい。やぼったい。[及 267]

【例】 ないだや、やぼてあ かっこして
「なんだい、やぼくさい格好して」

やまあげ [jamaage] 大型とんぼ。おにやんま、ぎんやんま、かとりやま等の大型とんぼの総称。

[及 99]

【例】 わらしたづあ やまあげて いうど まなぐ とつくるげあして ふとで くる
「子供らは、やんまというど、目の色をかえてとんでくる」

やまいろ 黄銅鉱。[及 108]

【例】 やまいろて きんみであん 光る おんだな
「黄銅鉱って、金のように光るもんだね」

やまえも [jamaemo] 山芋。[同] やまのえも。[続 397]

【例】 きょうあ えもむぎの つえだずだおん、やまえも とて くんべ
「今日は芋剥きの朔（旧八月一日）だから、山芋を取ってこよう」

やまがじえ [jamagadze] やまかがし。体側に赤い斑点のある、普通に棲息している蛇。[及 99]

やまこ 山林労務者。[及 76]

【例】 あんまり ふぐ おんだはげあ やまこあだ あがて 来たは
「あまり吹雪くものだから、山林労務者は帰へって来てしまったな」

やます [jamasü] [形] 疾しい。[続 398]

【例】 おれなの なにも やます ごどなの してねあ、だれんだり きでみろ
「俺なんか何も疾しいことなんかしていないよ、誰にでも聞いてみろよ」

やまだす [jamadasü] 木寄せ。集材。これは、伐採し造材した丸太を、集材機などで、トラックなどの運搬しやすい所まで出すことをいう。[続 398]

やまどご [jamaⁿdogo] 山所。山間部。[続 398]

【例】 おらほあ やまどごだ おんだはげあ、あおおのの とれっどごだ
「うちの方は山所なものだから、山菜の採れる所だよ」

やまにんじん こしやく。せり科の多年生草本で、山菜として食べる。[及 99]

やまのあに [jmanoani] 猿。[続 398]

【例】 へんな やまのがみさまん どごで やまのあに みつけたなよ
「この間、山神さまの所で猿を見つけたんだよ」

やまのがみ [jamanogami] [名] 山の神。山の神さまは、女神なので、女の人が参詣すると、やきもちをやく、というので、女の人はお参りしないならわしで、祭事は総べて男の子が行ない、旧十二月十五日と、二月十五日の晩は、男の子が山籠し、高さ 4、5m の朴の木を社前に立て、わらを沢山かけ、清めの火（おせあど）を焚き参拜する。二月十五日の翌朝、山籠した子供らが、早朝村を練り歩き各戸の家の前で、「やまのがみの かんじん じゃね（お金）ころ（くれ）、米ころ」と叫び、お金や米などを貰い、その家に男の幼児がいると、「あどがら にぎりづんぞあ めあ

った、めあった（後からにぎり飯が参ります、参ります）」と歩いて歩き、その家に後で、にぎり飯におかずを少々つけて配った。集めたお金でお汁やおかずを作り、米でご飯を炊いて食べた。炊事は、山籠した男の子の母親たちが行った。なお、この後、山の神の小さな木像の顔に米粉のねったのをつけ、男の幼児のいる家に、にぎり飯と一緒に配った。これは、無病息災を祈ることからである。また、十二月十五日からは、山の神であるが、二月十六日からは、田の神さまに変わるともいわれている。[及 267]

やまびこ [名] こだま。やまびこ。やままゆ科の、うすたびが（昆虫）のまゆ。[及 268]

【例 1】 さがでみろ、やまびこあ なっさげあ

「叫んでみなさい、こだまが響くから」

【例 2】 あら、この 木さ やまびこあ さがった

「あら、この木にうすたびがのまゆが下っているよ」

やまぶんど [jamabũn^odo] 山葡萄。[続 398]

【例】 こどすあ やまぶんどあ えっぺあ とっだはげあ、ぶんどえぎでも つぐんべ

「今年は山葡萄が沢山採れたから、葡萄液でも作ろう」

やまべ [jamabe] 山女。[続 398]

【例】 なしてだが、つかごろあ やまべあ すぐねあぐなてしまたな

「どうしてなのか、近頃は山女が少なくなってしまったな」

やまめあっこ [jamamekko] 山繭。これは、やままゆが科のやままゆがという昆虫の繭をいう。

このまゆから糸を取り織り物を作っている所もあるそうだ。[続 398]

やめあ [jame] 病い。病気。[同] やんめあ。[及 17]

【例】 まま えっぺあ くて、やめあ ぼてやれ

「ご飯をいっぱい食べて、病気を追い出してやりなさい」

やめあぼい [jameboi] [名] 病追い。村の行事の一つ。旧十一月、わら人形を作り、これを背

負って、村人が提燈を持ち、太鼓をたたきながら、村中を、「やめあぼいだ やめあぼいだ」、と叫び練り歩くと、家家では、家中の病を菓子や餅に詫し、それを朴の葉に包み、わら人形に結び付け、病を追い出した。村中を廻り終ると、わら人形は、村はずれから川に流し、無病息災を祈った。今はない。[及 268]

ややこす [jajakosü] [形] ややこしい。[続 398]

【例】 ないだて、ほれがら なんずんしたてや めっぼ ややくす はなすだなや

「なんだって、それからどうしたっていうの、滅法ややこしい話だね」

～やら [~jara] 原。叢。藪。[続 398]

【例 1】 くさやら

「草原。草やぶ」

【例 2】 たげやら

「竹やぶ」

【例 3】 やぶやら

「やぶ」

【例 4】 きだずやら

「木立むら」

【例 5】 すなやら

「砂原」

【例 6】 つたやら

「つるやぶ」

やらう [動] やく。やきもちをやく。奪い合う。子供が他の子の持っていおもちゃや食べ物を欲しがったり、奪い合ったりすること。[及 268]

【例】 きょうであて おもちゃ やらて ねあでる

「兄弟でおもちゃを奪い合って泣いてるんだ」

やらがす [jaragasü] [四他] 仕出かす。[続 398]

【例】 この わらすあ、しつとえあ まなぐ はなしてるこめあん とんでもねあごど やらがしてしまた

「この子は、一寸目を離している間に、とんでもないことを仕出かしてしまつたよ」

やれあ [jare] 矢来。特に矢来の入口の横棒をいう。[及 76]

【例】 んまに ねげらんねあよん やれあ かて おげよ

「馬に逃げられないように矢来の横棒をはめておけよ」

やろ [jaro] 野郎。[続 399]

【例】 ないだ この やろ、よっぱらて おれあどさ もんく つける きが

「なんだこの野郎、酔っ払って、俺に文句をつける気か」

やろこおぼご [jarokoobogo] 男の子。[同] やろこ。[続 399]

【例】 おれあえさも こんだ やろこおぼごあ んまっだあだ

「うちにも、今度は男の子が生れたんだ」

やんげあす [janɣesü] 仕返し。[続 399]

【例】 おめあごご ○○あ ながへだなが、ようし あんつあ やんげあす とてくえっさげあな

「お前を○○が泣かせたのか、ようし、兄さが仕返しをしてやるからな」

やんこ [janko] 花札。[続 399]

【例】 きょうあ やすみで ひまだべや、ひまつぶしん やんこでも やんべ

「今日は休みで暇だろうや、暇つぶしに花札でもやろうよ」

やんな 築。魚を捕る施設。[及 68]

【例】 あぎん なつど 鮎なの 雑魚なの やんなさ えっぺあ かがる

「秋になると、鮎や雑魚が築にいっぱいかかるよ」

やんぶれかんぶれ [janbürekanbüre] [ノダナ] やぶれかぶれ。[続 399]

【例】 こげあ なたら しかだねあ やんぶれかんぶれ もういずど やてみんべ
「こうなったら仕方がない、やぶれかぶれもう一度やってみよう」

やんめあがり [janmetagari] 病人者。悪口。[続 399]

【例】 この やんめあがりあ、ろぐだ ごど しあがねあ。これだば しなおしだは
「この病人者が、ろくなことをしやがらない、これならもう仕直しだよ」
この語は悪態のことばで、「やんめあと」ともいう。

やんめあぼい [janmeboi] 病追い。村の行事。これは村の年中行事の一つで、藁人形を持ち、太鼓を鳴らし「やんめあぼいだやんめあぼいだ ほう ほう」と叫び村中を回ると各家家では、家中の病いを追い出す意味で、餅や菓子をその藁人形に着けてやり門送りをする。村人の行列が村外れまで来ると、その人形を川に流し、村中の病いを追い出す行事であった。[続 399]

やんやん [janjan] [副] やいのやいの。[続 400]

【例】 あんまり やんやんて ゆう おんだはげあ おれも えぐ ごどん した
「余りやいのやいのというものだから、私も行くことにしたよ」

— ゆ —

ゆあがり [jüaŋari] [名] 帰宅。仕事を終えて帰宅すること。[同] よあがり。[及 268]

【例】 ○○さん、ゆあがりだがは
「○○さん、もうお帰りですか」

ゆい-あう [動] 言い合う。言い争う。口けんか。[及 268]

【例】 おめあだ なに ゆいあいしてんなや
「あなた方は、何を言い合いしてるんです」

ゆいあへる [jüiaheřü] [下一他] 言い合わせる。[続 400]

【例】 ないだて、おめあだ ゆいあへだよん おんなす ごど いう おんだなや
「まあ、君達は言い合わせたように、同じことをいうものだね」

ゆいあやまる [jüiajamarü] [四他] 言い誤る。[続 400]

【例】 えま ゆたな おれの ゆいあやまりで ほんとあ ほの はんてあだあだ
「今言ったのは私の言い誤りで、本当はその反対なんだ」

ゆい-あわへる [動] 言い合せる。話し合う。申し合う。[及 268]

【例】 ほのごどだばおだげあ ゆいあわへる ひづよう あるな
「そのことなら、お互に言い合せる必要があるね」

ゆいあんべあ [jüianbe] 言い方。[続 400]

【例】 ほの ゆいあんべあ きんくわねあな、ほんたごど いうごったら おら やめだ
「その言い方が気に入くないな、そんなことをいうんだったら、私は止めた」

ゆいおどす [jüiodosü] [四他] 言い落とす。[続 400]

【例】 んだ、ゆいおどす どごであった、あしたの あずばりあ ○○ずからだ
「そうだ、言い落とすところだった、明日の集りは○○時からだよ」

ゆいががり [jüiŋagari] 言い掛かり。[続 400]

【例】 ないだ、おめあ、おれあどさ ゆいががり つける きが
「なんだい、お前、俺に、言い掛かりを付ける気かい」

ゆい-がわす [jüiŋawasü] [動] 言い交す。約束する。[及 268]

【例】 あの 娘あ ○○ど ゆいがわした ながだど
「あの娘は、○○と言い交した仲だそうだ」

ゆいきる [jūikirū] [四他] 言い切る。[続 400]

【例】 おめあ、はっきり ほだて ゆいきる ごどあ でげんなだがや
「君は、はっきりそうだと、言い切ることが出来るのかい」

ゆいぐさ [jūiŋūsa] 言い草。[続 400]

【例】 しとんどさ もの たので おぎながら ほんた ゆいぐさじゃ ねあべや
「人に物事を頼んでおきながら、そんな言い草ってないじゃないか」

ゆいくらす [jūikūrasū] [四他] 言い暮す。[続 401]

【例】 ばさま まごあ よめ もらうまで いぎでいであて ゆい くらしている おんだけな
「お婆さんは、孫が嫁を貰うまで生きていたい、と言い暮しているものだったな」

ゆいくるめる [動] 言いくるめる。口先でまるめこむ。[及 268]

【例】 あれあ ○○に えあんべあ ゆいくるめらっだべ
「あれは、○○に適当に言いくるめられたんだろう」

ゆいげあー [jūiŋe:] 言い効い。[続 401]

【例】 おめあだば なに ゆたて ゆいげあーねあ おんだな
「お前なら、何をいっても言い効いがないもんだな」

ゆいげあす [jūiŋesū] [四自] 言い返す。[続 401]

【例】 この わらすあ はんこうきなんだな、ないが ゆうど ゆいげあすおん
「この子は反抗期なんだな、何かいうと言い返すからな」

ゆいげある [jūiŋerū] [四自] 言い変える。[続 401]

【例】 ほれあ ゆいげあっど つまり こういう ごどだんねあべが
「それは言い変ると、つまりこういうことじゃないだろうか」

ゆい-けす [動] 言い消す。[及 269]

【例】 ほんたごど ゆたなんねあがったどて ゆいけす おんだけ
「そんなことをいったんじゃない、といて言い消すもんたつけ」

ゆい-ごめる [jūiŋomerū] [動] 言い込める。[及 269]

【例】 こりぐつこ ゆて しとんどご ゆいごめる かんじよすんなだぜあ
「小理屈をいて、私を言い込めようとするんだから」

ゆいずがる [jūidzūgarū] [四他] 言い付かる。[続 401]

【例】 わだすあ これ わだして こえて ゆいずがて きたあです
「私はこれを渡して来てくれ、と言い付かって来たんです」

ゆい-そごなう [jūisogonaū] [動] 言い損なう。[及 269]

【例】 あんまり 緊張してしまて、祝辞 ゆいそごなてしまたおや
「余り緊張してしまて、祝辞を言い損なってしまったんだ」

ゆい-そびれる [動] 言いそびれる。[及 269]

【例】 ゆいにぐえ ごどだ おんだはげあ つい ゆいそびれでしました
「言い難いことなものだから、つい言いそびれてしまったよ」

ゆい-だでる [jüüdaderü] [動] 言い立てる。[及 269]

【例】 おわ ゆいぶん とうさねあんねあつもりで まづ ゆいだでる おんで
「自分の言い分を通さないといけないうつもりで、まあ、言い立てるもので」

ゆいつぐす [jüütsügüsü] [四他] 言い尽くす。[続 401]

【例】 おれの ゆいであ ごどあ ゆいつぐしたはげあ、えぐ かんげあでみでころ
「私の言いたいことは言い尽くしたから、よく考えてみてくれ」

ゆいつげあ [jüütsüŋe] 言い違い。[続 401]

【例】 ほれあ おれの ゆいつげあであった おれも ほげあん ゆいであがったあだ
「それは私の言い違いだったよ、私もそういいたかったんだ」

ゆい-づげる [jüüdzügerü] [動] 言い付ける。[及 269]

【例 1】 おれあ ゆいづげだ ごど したがや
「俺の言い付けたことをやったかい」

【例 2】 ええ、おどつつあどさ ゆいづげでくえっさげあ
「いいよ、お父さんに言い付けてやるから」

ゆいってあ [名] 言い伝え。[及 269]

【例】 おれあえにあ むがすからの ゆいってあの 伝説が のごてる
「うちには、昔からの言い伝えの伝説が残っているよ」

ゆいつのる [jüütsünorü] [四他] 言い募る。[続 401]

【例】 おめあ ほんげあ ゆいつのっどご みっど、ほれあ ほんとだべな
「君がそんなに言い募るところをみると、それは本当だろうな」

ゆいなおす [jüünaosü] [四他] 言い直す。[続 401]

【例】 ないだ ほんた ゆいなおすよであ ずほくせあな
「なんだ、そんな言い直すようでは、嘘くさいな」

ゆいなずげ [jüünaⁿdzüge] 許嫁。[続 401]

【例】 なが えべや、したりあ おやだずの きめだ ゆいなずげだ おん
「仲がいいだろうよ、二人は親達の決めた許嫁だもの」

ゆいなり [名] 言いなり。[及 269]

【例】 しとの ゆいなりばり なてだて だめだぞ
「人の言いなりにばかりなっているも駄目だよ」

ゆいぬがれ [jüünüŋare] 言い逃れ。[続 402]

【例】 ゆいぬがれなの いうどご みっど であぶ くるすんだな
「言い逃れなんかいうところをみると、大分苦しいんだね」

ゆいぬがれる [jüünüŋarerü] [下一自] 言い逃れる。[続 402]

【例】 ほんた ごまがす ゆて ゆいぬがれる かんじよしたて だめだ
「そんなごまかしをいって、言い逃れようとしたって駄目だよ」

ゆいね [jüüne] 言い値。[続 402]

【例】 この きのご たげあはげあ まげろて ゆたども まげねあけはげあ ゆいねで かて
きた
「このきのこ、高いからまけろといったが、まけなかったの、言い値で買ってきたよ」

ゆいのごす [jüinogosü] [四他] 言い残す。[続 402]

【例】 これだけあ かくんどして ゆいのごすはげあ かならず まもれよ
「これだけは家訓として言い残すから、必ず守れよ」

ゆいはずめる [jüihaⁿdzümerü] [下一他] 言い始める。[続 402]

【例】 おれあえの ずさまだば がんこで、ゆいはずめっど きがねああだ
「うちのお爺さんなら頑固で、言い始めるときかないんだ」

ゆいはる [jüiharü] [四他] 言い張る。[続 402]

【例】 おめあ なんぼ ゆいはたて、ほれあ おめあ まずがて おべっだなだ
「お前がどんなに言い張っても、それはお前が間違がって覚えているんだよ」

ゆいひらぎ [jüihiragi] 言い開き。[続 402]

【例】 ほれあ わだすあ したなで ゆいひらぎの ただねあ ごど してしまいあした
「それは私がしたので、言い開きの立たないことをしてしまいました」

ゆいふぐめる [jüiŋgümerü] [下一他] 言い含める。[続 402]

【例】 ちょうなんは えに いで、え つぐ おんだて えぐ ゆいふぐめで おげよ
「長男は家にいて、家を継ぐものだと言い含めておけよ」

ゆいふらす [jüiŋŋurasü] [四他] 言い触らす。[続 402]

【例】 あの おなごだば、しとんどご あるごど ねあごど ゆいふらして あるぐ おんだ
「あの女なら、人のところをあることないこと言い触らして歩くもんだ」

ゆい-ぶん [名] 言い分。[及 269]

【例】 ほんたごど いうごったら、おれだて ゆいぶん ある
「そんなことをいうなら、俺にだって言い分があるよ」

ゆいまずげあ [jüimadzüŋe] 言い間違い。[続 403]

【例】 にへさんて ゆうどもて、ゆいまずげあで さんにむて ゆてしまた
「仁平さんといおうと思って、言い間違えて、三右衛門とってしまった」

ゆいよう [名] 言い様。[及 269]

【例】 ほんたごどあ ゆいようで まるぐ おさまんべや
「そんなことは、言いようで、まるく治まるだろうや」

ゆいわげ [jüiwagɛ] [名] 言い分け。弁明。弁解。[及 269]

【例】 あれなの おれ したなんねあはげあ ゆいわげして おがねあんねあ
「あれなんか、私がやったんじゃないから、弁明しておかないといけないな」

ゆいわだす [jüiwadasü] [四他] 言い渡す。[続 403]

【例】 むすこあどさ こんだ おめあ こしゆん なれ、て ゆいわだした
「息子に、今度はお前が戸主になれ、と言い渡したよ」

ゆーと一へ [jü:to:hɛ] 優等生。[続 403]

【例】 おれあえの むすこも ゆーと一へだど、なんぼがは べんきょうした おんだんだな
「うちの息子も優等生だそうさ、幾らかは勉強したものなんだな」

ゆーれ [jü:rɛ] 幽霊。[続 403]

【例】 ゆーれなて、ほんとん ではる おんだべが、しでがらなの ではらねあべなや
「幽霊なんて、本当に出るものだろうか、死んでからなんか出ないだろうよね」

ゆえ [名] 上。[及 35]

【例】 ああ、本が、つぐえの ゆえさ おえでくんねあが
「ああ、本かい、机の上に置いて下さい」

ゆえおの [名] 植えもの。作物や、花や、木など。[及 282]

【例】 ゆえおのさ 水 やれよ
「植え物に水をやれよ」

ゆえかだ [jüɛkada] 上方。上の方。[続 403]

【例】 ○○ おすなが、○○だば ほごの とだなの ゆえかださ おえっだ
「○○が欲しいのか、○○ならそこの戸棚の上の方に置いてあるよ」

ゆえぎ [jüɛgɪ] 植木。[続 403]

【例】 ゆえぎも ゆえっであども おれあえの には へべあくて ゆえっどごあ ねああだ
「植木も植えたいのだが、うちの庭は狭くて植える所がないんだよ」

ゆえぎばづ [jüɛgɪbadzü] [名] 植木鉢。[及 281]

【例】 あれ ゆえんな、この ゆえぎばづで えがな
「あれを植えるのに、この植木鉢でいいかな」

ゆえげあ [jüɛgɛ] [名] 植え替え。移植。[及 282]

【例】 この はづあ ちっちえぐなたはげあ、ゆえげあ するは
「この鉢は小さくなったから、もう植え替えをするよ」

ゆえざがり [jüɛⁿdzagari] 植え盛り。植え頃。[続 403]

【例】 なすも こんだ ゆえざがりん なたはげあ はだげさ えしょぐすんべ
「茄子も今度は植え盛りになったから、畑に移植しよう」

ゆえずげ [jüɛdzügɛ] 植え付け。[続 403]

【例】 こんだ ゆぎも けだし、そろそろ ダリヤも ゆえずげする へずん なたな
「今度は雪も消えたし、そろそろダリヤも植え付けする節になったな」

ゆえずげる [jüędzügerü] 植え付ける。[続 403]

【例】 ねぎ ゆえずげっすぎあ、うね たげあぐして、ひぎどき ゆえんなだぞ
「葱を植え付ける時は、畝を高くして、低い所へ植えるんだよ」

ゆえだで [jüedade] 植えたて。[続 403]

【例 1】 いねの ゆえだでも きっけあだはげあ らぐん なたな
「稲の植えたても、機械だから、楽になったな」

【例 2】 この はな ゆえだでだはげあ みず かげろよ
「この花は植たてだから、水を掛けるよ」

ゆえと 植える人。田植えや造林の植え手。[及 76]

【例】 さづぎさ ゆえと 何人 おすべ
「田植えに植え手が何人欲しいだろう」

ゆえる [jüerü] [下一他] 植える。[続 404]

【例】 ほごさ なに ゆえんなや、つえでん この はなも ゆえでくんねあが
「そこへ何を植えるの、ついでにこの花も植えてくれませんか」

ゆお [jüo] 硫黄。[続 404]

【例】 むがす つかた つけげあ さぎさ ゆお つっだ おんであったな
「昔使った付け木は、先に硫黄が付いていたものだったな」

ゆが [jüga] [格助] より。[同] ゆり。[及 270]

【例 1】 おれゆが としゆえだ
「俺より年上だ」

【例 2】 これゆが しなおの えな
「これより品物がいいな」

ゆがす [jügasü] [形] 床しい。[続 404]

【例】 くろかわのうず おの みで きたども どうさの ゆがす おんだな
「黒川能というものを見て来たが、動作の床しいものだな」

ゆかん [jükan] 入棺。[同] につかん。[続 404]

【例】 こごらであ、しにんの からだ きよめで しろしょうぞぐさ へで がんばごさ へれる
ごど ゆかんで いうなよ
「この辺では、死人の体を清めて、白装束にさせて、棺桶に入れることを入棺というんだよ」

ゆぎ [jügi] 櫓の荷台にする横木をいう。これは、櫓を組み立て荷台にする横木をいう。[続 404]

ゆぎあがる [jügiagarü] 長湯でぼうっとなること。[続 404]

【例】 ほんげあ いずまでも へあてっど ゆぎあがて もけあんぞ

「そんなに何時までも入っていると、ぼうっとなって倒れるよ」

ゆぎおろし [jügiorosi] 初冬の雷。初冬の雷は、降雪の前ぶれだ、といわれているので、この名がある。[及 108]

【例】 ああ、こどもも ゆぎおろしあ きたな
「ああ、今年も雪をふらせる前ぶれの雷が来たな」

ゆぎすろ 雪代。融雪による増水。[及 108]

【例】 ゆぎすろん ずきあ、川ばだの 雪の あっどさ えぐなよ、ゆぎあ かけて えぐはげあ
な
「雪代の時は、川端の雪のある所に行くなよ、雪が欠けてゆくからな」

ゆぎだまかっせん [jügida makassen] 雪合戦。[続 404]

【例】 ○○ちゃん、みんなどご あずべできて ゆぎだまかっせん すんべや
「○○ちゃん、皆を集めて来て、雪合戦をしようや」

ゆぎなげ [jüginage] [名] 除雪。[及 270]

【例】 まだ ゆぎなげしねあんねあな
「また、除雪しないといけないな」
屋根から雪を下すことは「ゆぎおろす」といつている。

ゆぎはれあ [jügihare] 雪掻き。[続 404]

【例】 こごあ ゆぎの ふっけあどごだはげあ、まえあさ ゆぎはれあ すんなだ
「ここは雪の深い所だから、毎朝雪掻きをするんだ」

ゆぎまぶれ 雪まみれ。[及 108]

【例】 ふぎん ふがって ゆぎまぶれん なたは
「吹雪に吹かれて、雪まみれになってしまったよ」

ゆぎめ [jügime] 雪盲。[続 404]

【例】 はるさぎ ゆぎあ ける ころ、てんきつづきん なっど、ゆぎめん なりやすぞ
「春先雪の消える頃、天気続きになると、雪盲になりやすいよ」

ゆぎやら [jügijara] 雪の積っているところ。[同] はで、はでこ。はでこやら。はでやら。[続 405]

【例】 ゆぎやら こえで ありぐど ぬれっさげあな
「積雪のところをこぎ歩くと、濡れるよ」

ゆぐ [jügü] [副] よく。[及 270]

【例 1】 この ゆぎん ゆぐ 来たごど
「この雪降りによく来たね」

【例 2】 この 難儀だ しごど ゆぐ してくっだな
「この難儀な仕事をよくやってくれたね」

この語には、「ゆうぐーようく（良く）」、「ゆぐゆぐーよくよく」。「ゆっくーよく」。「ゆっくんーよ

うく)、「よっくーよく」などという使い方がある。

ゆぐゆぐ [jügüjügü] [副] よくよく。[続 405]

【例】 これあまだ ゆぐゆぐの みのごなすで よんま したりで べんじよさも おぎんねあ
だ

「こいつは、よくよくの弱虫で、夜一人で便所にも起きれないんだ」

ゆさんこ [jūsanko] 子供の遊山をいう。これは、子供が昼飯を持ってきて、屋外で遊びながら
食べることをいう。[続 405]

【例】 ○○ちゃん ゆさんこ しねあが

「○○ちゃん、遊山をしないか」

ゆす [jüsü] 留守。[続 405]

【例】 あら、ここの えあ ゆすだちは どさ えたあだべ

「あら、ここの家は留守だな、何処へ行ったんだろう」

ゆずげまま [jü'dzügemama] 湯かけ飯。[同] ゆーかげまま。[続 405]

【例】 がが おら えそがすはげあ ゆずげまま くて えぐは

「お母さん、僕は忙しいから、もう湯かけ飯を食べて行くよ」

ゆすれ [名] 留守居。[同] るすれ。[及 270]

【例】 おめあ ゆすれ してろよ

「お前、留守居をしていなさいよ」

ゆたつと [jütatto] [副] ゆったり。[続 405]

【例】 ないだまず、この えそがす ずき たばこ くわえあで ゆたつとして

「なんだい、この忙しい時に煙草をくわえてゆったりして」

ゆつがす [jütsüñasü] [四他] 揺すぶる。揺がす。[続 405]

【例】 くりあ えっぺあ なったはげあ、ゆつがして ひろて えぐべや

「栗が沢山なっているから揺すぶって拾って行こうよ」

ゆっからがぐ [jükkaranagü] [下一他] 縛りつける。[同] ゆっからむ。[続 405]

【例 1】 この ながぎ ゆっからがぐなが

「この長木を縛りつけるのか」

【例 2】 あんまり きがねあど ゆっからげあで おぐぞ

「余りきかないと縛りつけておくよ」

ゆっからむ [動] 結びつける。縛りつける。[同] ゆつける。ゆっつける。[及 270]

【例 1】 きがねあど はすらさ ゆっからで おくぞ

「きかないと、柱に縛りつけておくよ」

【例 2】 ほの 縄で、木さ ゆっからむど え

「その縄で、木に結びつけるといいよ」

ゆっくら [副] ゆっくり。[同] ゆるっと。[及 270]

【例】 ゆっくら どうずでも してくんだ
「ゆっくり湯治でもしてくればいい」

ゆつなく [jütsünaŋü] [四自] 結ぶ。[同] ゆつける。ゆつつける。[続 406]

【例】 こずずみの ひぼ きつつぐ ゆつなくなだぞ
「小包の紐をきつく結ぶんだよ」

ゆつなく [jütsünaŋü] [四他] 縛る。[同] ゆつける。ゆつつける。[続 406]

【例】 てしば みな いっしょんして なわで ゆつなくなだぞ
「手柴(野菜の支柱)は、みな一緒にして、縄で縛るんだよ」

ゆどふ [jüⁿdoφü] 湯豆腐。[続 406]

【例】 こう さみぐなっど しょうが つけだ ゆどふで えっぺあ やんなも えな
「こう寒くなると、生姜を付けた湯豆腐で、一杯やるのもいいね」

ゆぶゆぶ [jü^püjü^pü] [副] 踏むとぬめりそうな感じ。これは、横揺れに揺れるさまをいうのではなく、足で踏んだ場合に掛け渡した板などが、上下に揺れるさまをいう。[続 406]

【例】 この はすいだ ゆぶゆぶて いうよん なたな
「この橋板は、ふにやふにやするようになったな」

ゆべな [名] タベ。昨夜。[同] よべな。[及 270]

【例】 ゆべな どうも ごつつおさんでした
「昨夜は、どうもご馳走さんでした」

ゆらっと [jüratto] [副] ゆらりと。[続 406]

【例】 よった おんだはげあ、はぎおの はぐ ずぎ ゆらっと したけや
「酔ったものだから、履物を履く時、ゆらりとしたっけ」

～ゆり [~jüri] [格助] より。[続 406]

【例 1】 おれゆり おめあの ほあ おもであな
「私より君の方が重いね」

【例 2】 ありぐゆり くるま はえあな
「歩くより車は早いな」

ゆりげあし [jürigesü] 揺り返し。[続 406]

【例】 ずすんも ゆりげあしの ほあ おかねあ おんだど
「地震も、揺り返しの方がおっかないものさうだよ」

ゆりばだ [名] 囲炉裏端。炉端。[及 282]

【例】 もと ゆりばださ ではて あだてくであ
「もっと炉端に出てあたって下さい」

ゆりばだ [jüribada] 囲炉裏端。炉端。[続 406]

【例】 むがすあ ゆりばだで えぐ わらすごど した おんだな
「昔は焔端で、よく藁仕事をしたものだな」

ゆりり [jüriri] 焔焔裏。[同] ゆるり。[続 406]

【例】 この むらだば、えま ゆりりの ある えあ えっけんも ねあなは
「この村なら、今焔焔裏のある家は、もう一軒もないな」

ゆるえ 緩い。[同] ゆるこえ。ゆれ。[及 35]

【例 1】 この さが ゆるえどもたら、きづどごも あんなだな
「この坂はゆるいと思ったら、きつい所もあるのだな」

【例 2】 これだば ゆるえはげあ、もと 強ぐ しばれ
「これならゆるいから、もっと強く縛りなさい」

ゆるっと [jürütto] [副] ゆるりと。[続 406]

【例】 めってあん こねあおんです おん、きた ずぎばりも ゆるっとして えがっしえあちゃ
「滅多に来ないんですもの、来た時ばかりもゆるりとしておいでなさいよ」

ゆるり 焔焔裏。[及 54]

【例】 ゆるりさ 木 くべで おげよ
「いろいろに、木をくべておきなさいよ」

ゆれあ一 [jüre:] [名/ス自] 由来。[続 407]

【例】 この とうげにも なめあのおもへ ゆれあ あんなだぜあ
「この峠にも、名前の面白い由来があるんだよ」

ゆれらへる [jüreraherü] [四他] 揺らす。[続 407]

【例】 ほんげあ ゆれらへっど この きがら おれあ おずんぜあは
「そんなに揺らすと、この木から私は落ちてしまうよ」

ゆれる [動] 緩む。[及 270]

【例 1】 かんも ゆれで きたな
「寒も緩んで来たな」

【例 2】 つあつあの こごろも ゆれるんだはげあ おどなすぐしてろよ
「お父さんの心も緩んで(ほぐれて)来るんだから、おとなしくしおれよ」

ゆわ 岩。[及 108]

【例】 こっつの ゆわさ あがっど 釣りやすぜあ
「こっちの岩にあがると、釣り易いよ」

ゆわう [jüwaü] [四他] 祝う。[続 407]

【例】 ずさまの こき ゆわうなだはげあ みんな にぎやがん してころ
「お爺さんの古希を祝うんだから、みんな賑やかにして下さい」

ゆわえあざげ [jüweⁿdzage] 祝い酒。[同] ゆわえあこどのさげ。[続 407]

【例】 むねあげで ゆわえあぎげ ので ええ きげん なしてしまは
「上棟式で、祝い酒を飲んで、もういい気嫌になってしまったよ」

ゆわえあずげる [jüwedzügerü] [下一他] 結わえ付ける。[続 407]

【例】 この いぬ はなして おがねあで、ゆわえあずげで おがねあんねあな
「この犬は放しておかないで、結わえ付けておかないといけないな」

ゆわえある [jüwerü] [下一他] 結わえる。[続 407]

【例】 この こずすみ ゆわえあでくんねあが、おどうとき おぐっさげあ
「この小包を結わえてくれませんか、弟に送るから」

ゆわえこど [jüwekodo] [名] お祝い。祝いごと。[及 270]

【例】 はづじゅうはづの ゆわえこど すっさげあ 来てころ
「八十八のお祝いをしますので、来て下さい」

ゆわか [名] 表面。[及 271]

【例】 ゆわかの くさだだ どご とれよ
「表面の腐れたとことを取れよ」

ゆわがんくら [jüwaganküra] 崖。断崖。[同] がんくら。がんくれあ。ゆわがんくれあ。[続 407]

【例】 この やま ゆわがんくら おおいはげあ きいつげで ありげよ
「この山は崖が多いから、気を付けて歩けよ」

ゆわぎ [jüwagi] 上着。[続 407]

【例】 なずふぐあ えぐねあぐなたはげあ まず ゆわぎばりも かわねあんねあな
「夏服が悪くなったから、まず上着ばかりも買わなければならないな」

ゆわげる [動] 詫びる。[及 271]

【例】 わりごど した すぎあ ゆわげる おんだぞ
「悪いことをした時は、詫びるものだよ」

ゆわす [jüwasü] 鯛。[続 408]

【例】 きょうあ なんにも ねあはげあ、ゆわすでも あぶて くうべは
「今日は何もないから、鯛でも炙って食べてしまおうよ」

ゆわすかだらず [jüwaⁿdzükadaraⁿdzü] [連語] いわずかたらず。[続 408]

【例】 ながねんの ふうふだおん ゆわすかだらずの うずん えあでの ころあ わがんなど
「永年の夫婦だから、言わず語らずのうちに相手の心が分るんだよ」

ゆわすぎ [jüwasügi] 敷布。[及 61]

【例】 ゆわすぎ ほしたな かじえで とばさつだけ
「敷布の乾してあったのが、風で飛ばされたつけ」

ゆわすみ [jüwaⁿdzümi] 上澄み。[続 408]

【例】 ぶどうえぎあ ゆわずみばり くて のでみる んめあぞ
「葡萄液は、上澄みだけを汲んで飲んでみるよ、美味しいよ」

ゆわずみ [jūwa^hdzūmī] 上積み。[続 408]

【例 1】 つぶれる おのあ ゆわずみん して、おもであ おのあ したずみん しろよ
「潰れる物は上積みにして、重い物は下積みにしるよ」

【例 2】 ○○えん ゆわずみすねあば うらんねあな
「○○円上積みしないと売られないね」

ゆわつばめ [jūwatsūbame] 岩燕。[同] ゆわつばぐら。[続 408]

【例】 こごらであ ゆわつばめなの めってあん みらんねあな
「この辺では、岩燕なんか滅多に見られないね」

ゆわつら [jūwatsūra] 上つら。うわつら。[続 408]

【例】 みそ かます ずぎあ ゆわつらばり んねあぐ そごも かまへよ
「味噌を掻き回す時は、上っ面だけでなく、底も掻き回せよ」

ゆわな [jūwana] 岩魚。[続 408]

【例】 ゆわな つんなだば、はるさぎの ゆぎの けだ ころあ いずばん えな
「岩魚を釣るのなら、春先の雪の消えた頃が一番いいね」

ゆわば [jūwaba] [副] 言わば。いうなれば。[続 408]

【例】 ほれあ ゆわば くも つかむよだ おんで どから きたが わがらねああだど
「それは、言わば雲を掴むようなもので、何処から来たか分からないんだって」

ゆわば [jūwaba] 岩場。[続 408]

【例】 ゆわばだば おかねあはげあ ありぐ おんでねあぞ
「岩場なら、おっかないから、歩くもんじゃないよ」

ゆわばぎ [jūwabagi] うわ履き。[続 409]

【例】 おかあさん、ゆわばぎの ズックあ ちちやこぐなたはげあ かてころ
「お母さん、上履きのズックが小さくなったから、買って下さい」

ゆわぱり [jūwapari] 上っ張り。[同] ゆわっぱり。[続 409]

【例】 やまさ えぐごったら、ほの ふぐんねあぐ この ゆわぱり きて えげよ
「山に行くんだったら、その服でなく、この上っ張りを着て行けよ」

ゆわる [jūwarū] [四自] 植わる。[続 409]

【例】 ほごさ この つばぎあ ゆわつがや、すこす へべあぐねあが
「そこへこの椿が植わるかい、少し狭くないかね」

ゆわれ [名] いわれ。由緒。[及 271]

【例】 こごの 村にあ なにが ゆわれ あんべや
「ここの村には、何かいわれがあるだろうね」

— よ —

よ [名／形] 必要。入用。[及 271]

【例】 紙 よだはげあ もて 来てころ
「紙が必要だから、持って来てくれ」

よ [名] 用。[及 271]

【例】 ○○さんどさ よ あっさげあ よばてころ
「○○さんに用があるから呼んでくれ」

よ [名] 方法。[及 271]

【例】 これ まわすよ おへろや
「これを廻わす方法を教えろよ」

よ [名] 他。外。[及 282]

【例 1】 この わらすあ よの おのぼり くて まま かねあじゆ
「この子は他の物（この場合は、おやつを差す）ばかり食べて、ご飯を食べないんだよ」
【例 2】 よの ごどなの えばげあ こつつ すろ
「他の事はいいから、こっちをしろよ」

よ [名] 様。[及 271]

【例 1】 ○○さん 来たよだけ
「○○さんは来たようだった」
【例 2】 雨あ ふるよだ 雲ゆぎだな
「雨が降るような雲行きだな」

よ 鮭。[及 99]

【例】 よの ざっぱ汁も んめあ おんだな
「鮭の肉をとった残りをお汁にしたものもうまいものだね」

よ [jo] 以上。[続 409]

【例 1】 えっかんめの よも ある
「一貫目以上もある」
【例 2】 すずじゅうの そのよも すぎだ
「七十以上も過ぎた」

よあげしめあ [joagesime] 夜明け方。[続 409]

【例】 きょうまだ よあげしめあから めあ さめで ねぶらんねあがった
「今日は夜明け方から目が醒めて眠られなかったよ」

よあすび [joasübi] 夜遊び。[続 409]

【例】 ええ わげあおのあ よあすびだなんて ありぐど ひょうばん なんだけあ
「いい若者が、夜遊びだなんて歩くと、評判になるんだから」

よありぎ [joarigi] 夜歩き。[続 409]

【例】 ないだべ、ちかごろ おれあえの ○○あ よありぎするよだな
「どうしたんだろう、近頃うちの○○は夜歩きするようだな」

よいじぶぢ [名] 夜討ち。夜襲。[及 271]

【例】 雀、おれあどさ 卵 くんねあど よいじぶぢん くんぞ
「雀、俺に卵をくれないと、夜討ちに来るよ」

ようじ 歯ブラシ。[及 54]

【例】 ようじ もて えて、早く 歯みがげ
「歯ブラシを持って行って、早く歯をみがきなさい」

ようほ [名] 両方。[及 271]

【例】 ようほ ならべで みっど わがる
「両方を並べてみると分るよ」

ようやら [副] 漸く。[同] ようやらさっと。よやっと。[及 271]

【例】 おもであくて ようやら たがて 来た
「重くて、ようやく持って来た」

よえ [joɛ] 手間替え。労働の交換。これは、自分の家へ来て働いてもらった日数だけ、その人の家の仕事をする手間替をいう。[続 410]

【例】 となりの つあつあに よえん きて もらたばげあ、おれあえでも えがねあんねあな
「隣りのお父さんに、手間替えて来てもらったから、うちで行かないといけないな」

よーず [jo:ⁿdzü] 用事。[続 409]

【例】 ○○さんさ よーず あて きたあだども いあすか
「○○さんに用事があるて来たんですが、おりますか」

よーず [jo:ⁿdzü] 揚枝。爪揚枝。歯ブラシ。[続 410]

【例 1】 はさ ないが ひかがたはげあ よーず とてころ
「歯に何か引っ掛かったから爪揚枝を取ってくれ」

【例 2】 まま くら、よーずで は えぐ みがげよ
「ご飯を食べたら、歯ブラシで、歯をよく磨きなさいよ」

よーずん [jo:ⁿdzün] [名/ス自] 用心。[続 410]

【例】 よーずんに けがなすていう おんだ おめあ ふりそだはげあ かぶりおの もて えげ

よ

「用心に怪我なし、というもんだ、雨が降りそうだから、被り物を持って行きなさいよ」

よーて [jo:tɛ] 両手。[続 410]

【例】 おれあえの すぎも おっきぐなて、よーてで だぎまわさんねあぐなたな
「うちの杉も大きくなって、両手で抱き回されなくなったな」

よーてあー [jo:tɛ:] 容体。容態。[続 410]

【例 1】 ズボンの うすろさ シャツツ ではったぞ、ほんた よーてあーして ありぐな
「ズボンの後にシャツが出てるよ、そんな容体で歩くんじゃないよ」

【例 2】 おばさんの びょうぎの よーてあー なんとべ
「叔母さんの病気の容態はどうなんだろう」

よーはず [jo:haⁿdzü] 両端。[続 410]

【例】 ええが、したりして よーはず たがて うんとて ひばれよ
「いいか、二人で両端を持って、うんと引っ張れよ」

よーよ [jo:jo] [副] 漸く。[同] ようやら。ようやらさつと。よやつと。[続 410]

【例】 わらびあ すこであま でっだ おんだはげあ えっぺあ とて よーよ しよて きた
「わらびが沢山出ていたものだから、沢山採って、漸く背負って来た」

よが 蚊。[及 99]

【例】 よが ではて 来たはげあ かとりへんこ たげ
「蚊が出て来たから、蚊取り線香をたいてくれ」

よかがる [jokagarü] [四自] 寄り掛かる。[同] おかがる。おっかがる。よっかがる。[続 411]

【例】 ほんげあ よかがんなや おもであくて なにも さんねあであ
「そんなに寄り掛かるなよ、重くて何も出来ないよ」

よがつか [jogatsüka] [名] 夜かじかを捕ること。[及 271]

【例】 ばんげ よかつか とりん えがねあが
「今晚、かじか（川魚）を捕りに行かないか」

よぐしぎ [jogüsigi] [副] よくよく。[同] よぐすぎ。[及 271]

【例】 よぐしぎ こまたはげあ 来たあだべ
「よくよく困ったから来たんだろう」

よぐたげる [jogütagerü] [四自] 欲張る。[同] よごはる。[続 411]

【例】 この わらすあ よぐたげで しの おのまで かう かんじよしてる
「この子は欲張って人の物まで食うつもりなんだから」

よぐへぎ [jogühegi] [副] よくせき。[同] よぐすぎ。[続 411]

【例】 あの したあ ああいう ごど するなて よぐへぎ こまでだべな
「あの人がああいうことをするなんて、よくせき困ってだろうな」

よげ [名／副] 余計。[及 272]

【例】 もと よげん かて こえば えがったな
「もっと余計に買ってくればよかったね」

よごえあー [jogoe:] 横合い。[続 411]

【例】 しとの しゃべてっすぎ よごえあーがら よげだ くずだす すんなや
「人の喋っている時、横合いから余計な口出しをするなよ」

よござ [jogo^odza] 横座。炉端の主人の坐る場所。[続 411]

【例】 ほごあ よござで つあつあ ねまっどごだはげあ おめあ こっちゃ ねまれ
「そこは横座で、お父さんの坐るところだから、お前はこっちへ坐れ」

よごじよい [jogo^odzoi] [名] 横背負い。物を横にして背負うこと。[同] よごちよい。[及 272]

【例】 ほれだば よごじよい したほあ え
「それは横背負いにした方がいいね」

よごちやま [jogotjama] [名] 横。横向き。横ざま。横っちょ。[同] よごちよ。よごっちやま。[及 272]

【例】 ほれあ よごちやまん すんな
「それは、横にするなよ」

よごちよ [jogotjo] 横っちょ。横。[続 411]

【例】 あそごに やぐば あんべ あそごの よごちよ みぎさ まがっど すぐだ
「あそこに役場があるだろう、あそこの横っちょを右へ曲ると直ぐだよ」

よごづづ [jogo^odzüüdzüü] 木槌。わらを打つ木の槌。[及 68]

【例】 わら ぶづずきあ よごづづ 使う おんだ
「わらを打つ時は木槌を使うものだよ」

よごなぐれ [jogona^ogüre] 横なぐり。[続 411]

【例】 あめがじえあ よごなぐれん ふる おんだはげあ、みな めっだは
「雨風が横なぐりに降るものだから、みな濡れてしまったよ」

よごはり [jogo^opari] [名] 欲ばり。[同] よくたがり。よごっぱり。よごぼり。[及 272]

【例】 えあづあ よごはりだはげあな
「あいつは、欲ばりだからな」

よごんなる [jogonna^orü] [四自] 寝そべる。[続 411]

【例】 テレビ よごんなて みっだら ねぶてあぐなだけは
「テレビを寝そべて見ていたら、眠くなってしまったっけ」

よさり 夜。[及 108]

【例】 ○○さん きんなの よさりん 来たけ
「○○さんが昨日の夜来たっけ」

ヨジューム [joⁿdzju:mü] ヨードチンキ。[続 411]

【例】 がが ころで ひじゃ すりむえで きたはげあ、ヨジューム つけでころ
「お母さん、転んで膝をすりむいて来たから、ヨードチンキをつけて下さい」

よす [josü] 葦。[続 412]

【例】 おぼん すぎ、おはがさ もて えぐ すだれこ よすで あでおげよ
「お盆の時、お墓に持って行く、小さいすだれを葦で編んでおげよ」

よすきた [josükita] [連語] よしきた。[続 412]

【例】 よすきた、ほんたごどだば じょうさねあはげあ、おれあ してやる
「よしきた、そんなことなら雑作ないから、俺がしてやるよ」

よすごと [josüjodo] [名] 夜仕事。[及 272]

【例】 ばんげあ よすごと しねあんねあな
「今夜は夜仕事（夜業）をしないといけないな」

よずじより [jodzjüⁿdzori] 櫓。これは「つ＝荷掛け山」が片方に二つ、両方で四つあり、これに「ゆぎ＝横木」を載せて縛るように出来ているが、この山が四つあるところからこの名がある。[続 412]

よすず [josjüⁿdzjü] よしず。葦で編んだすだれ。[続 412]

【例】 この へや にすびあ へあっさげあ よすずでも はんべ
「この室は西日が射すからよしずでも張ろう」

よずれる [joⁿdzjüⁿerü] [下一自] 振れる。[続 412]

【例】 まず、おがすくて おがすくて はらの かわ よずれるくれあ わらた
「まあ、おかしくておかしくて、腹の皮が振れるくらい笑ったよ」

よすん [josün] 余震。[続 412]

【例】 ずすんだな、よすんで やらえっすぎも あるつけはげあ、みんな きいつけろよ
「地震だな、余震でやられる時もあるそうだから、皆気を付けろよ」

よぜあー [joⁿdze:] 余罪。[続 412]

【例】 ○○あ ぬすみん へあて つかまたど、よぜあーも あんべていう はなすだな
「○○は盗みに入って捕まったそうだ。余罪もあるだろうという話だな」

よそよそす [josojososü] [形] よそよそしい。[続 412]

【例】 ちかごろあ おれあどさ なんだが よそよそすな、わりごどなの すねあはんだどもな
「近頃私になんだかよそよそしいね、悪い事なんかしない筈なのにね」

よだ [joⁿda] [形] 欲しい。入り用。[続 413]

【例 1】 ほれあ よだあだ
「それは欲しいんだ」

【例 2】 よだはげあ とて おげよ

「入り用だから、取っておけよ」

～よだ [~joⁿda] [助動] ようだ。[続 412]

【例 1】 あめあ ふるよだ

「雨が降るよだ」

【例 2】 ○○あ くるよだ

「○○が来るよだ」

よつ [jotsü] [名/ス他] 予知。[続 413]

【例】 ずすんも めあもって よつでげっど ええ おんだどもな

「地震も前以って予知できるといいもんだがな」

よつ [jotsü] 余地。[続 413]

【例】 こうみんかん けんぶつにんで えっぺあで おれあ へありごむ よつあ ねあけ

「公民館は見物人で一杯で、私の入り込む余地はなかったよ」

よったぐれ [jottagüre] 酔っ払い。[同] よっぱれあ。[続 413]

【例】 ○○の よったぐれあ きたぞ、えぎあうど やっけあだはげあ もどんべ

「○○の酔っ払いが来たよ、会うと厄介だから戻ろう」

よったぐれる [jottagürerü] [四自] 酔っ払う。[続 413]

【例】 どごで のできた おんだが、ほんげあ よったぐれるほど のまねあたて えべどもな

「何処で飲んで来たものなのか、そんなに酔っ払う程飲まなくともいいだろうにね」

よつつぐ [jottsügü] [四自] 寄り付く。[同] よってづく。[続 413]

【例】 この わらすあ ずさまどさばり よつつぐ おんで、しあました おんだ

「この子は、お爺さんにばかり寄り付くもんで、もてあますものだよ」

よつつぶれる [jottsübürerü] [下一自] 酔い潰れる。[続 413]

【例】 めってあん よつつぶれるほどなの のまねあだども、きょうあ おもへがったべ

「滅多に酔い潰れる程なんか飲まないんだが、今日は面白かったろう」

よってづく [jottëdzügü] [動] 寄りつく。[同] よてづく。[及 272]

【例】 あつはげあ ほんげあ よってづくなや

「暑いから、そんなに寄りつくなよ」

よっぱれあ [joppare] 酔っ払い。[及 8]

【例】 あの よっぱれあ 誰だべ

「あの酔っ払いは誰なんだろう」

よっぴて [名/副] 夜通し。[及 272]

【例】 ゆべな よっぴて のでだ

「昨夜は、夜通し飲んでいたよ」

よづみ [jodzümü] 四つ身。五才から十三才位の子供の着物の裁ち方。及びその着物をいう。[及

61]

よづめ [名] 新婚四日目の里帰りをいう。[及 272]

【例】 おめあだ、今日あ よづめん えて こえ

「お前達、今日は新婚四日目の里帰りに行って来なさい」

よづめ 俚言。夜爪を切ると、世詰めで、命を縮めるということで、忌むことにされている。[及 272]

【例】 よ づめあ きんなて いう おんだ

「夜、爪は切るなというもんだよ」

よつよつ [jotsüjotsü] [副] よちよち。[続 413]

【例】 おれあえの はずまごも こんだ よつよつど ありぐよん なた

「うちの初孫も、今度はよちよち歩くようになったよ」

よでな [jodena] 田植え後の慰労宴。[及 76]

【例】 隣りでも よでなだど

「隣りでも田植え後の慰労宴だそうだ」

よどむ [joⁿdomü] 蚕が休眠することをいう。これは、蚕がまゆを作るまで、各令毎の休眠をいう。[続 413]

【例】 こんだ そんま よどむは

「今度はもう直きに休眠するよ」

また、休眠を「よどみ」といい、「しとつつよどみ＝一令の休眠」。「よつつよどみ二四令の休眠」などといっている。

よどめる [動] 立ち止まる。休む。[及 272]

【例 1】 紅葉あ きれだはげあ 足 よどめで みっだ どごだ

「紅葉がきれいだから、立ち止まって見ていたところなんですよ」

【例 2】 しとえあ おれあえさ 足 よどめで えげ

「一寸うちに休んで行って下さい」

よねげ [jonege] 夜逃げ。[続 414]

【例】 まえにずのよん しゃっきん はだらえる おんではげあ、よねげ したどは

「毎日のように借金を催促されるものだから、夜逃げをしてしまったそうだ」

よのめ [jonome] ものもらい。験の出来もの。[続 414]

【例】 よのめあ でげだはげあ えしゃさ えて くる

「ものもらいが出来たから、医者へ行ってくる」

よばえる [jobaerü] [下一自] 呼ばれる。[続 414]

【例 1】 とずの ごどで やぐばさ よばえるごどん なた

「土地のことで、役場に呼ばれることになったよ」

【例 2】 ○○の けっこんすぎさ おれあえでも よばえっど

「○○の結婚式に、うちでも招かれるそうだ」

よばる [jobarü] [四他] 呼ぶ。[続 414]

【例 1】 うすろがら よばる

「後ろから呼ぶ」

【例 2】 こきの ゆわえあこどさ よばる

「古希のお祝いに招く」

よびかり [名] 宵っ張り。[及 273]

【例】 この わらすあ まづ、よびかりで

「この子は、まあ、宵っ張りで」

よびくれあご [jobiküreŋo] 招き合い。この語は、「及位の昔話」の中に出てくるぐらいのもので、普通は殆ど使われない語である。[続 414]

【例】 きずねど かわうそあ よびくれあご したど

「狐と獺が招き合いをしたそうだ」

よびへれる [johihererü] [下一他] 呼び入れる。[同] よびえられる。[続 414]

【例】 しつとえあ よ あっさげあ ○○さんどご よびへれでくんねあが

「一寸用があるから、○○さんを呼び入れてくれないか」

よべあ [jobe] [名] 夜這い。[及 273]

【例】 えまだば よべあなて なぐなてしまたはな

「今はもう夜這いなんて、なくなってしまったな」

この語には、「よべあこぎ一夜這いをする。夜這いに行く」のような使い方もある。

よへがぎ [johęgagi] 寄せ書き。[続 414]

【例】 どうきゆうかいで ハンケズさ みんなに よへがぎ してもらた

「同級会で、ハンケチに皆に寄せ書きをもらった」

よへざん [johęⁿdzan] 寄せ算。足し算。[続 414]

【例】 がっこで こんだ したげだの よへざん ならて きた

「学校で、今度は二桁の寄せ算を習って来た」

よへてあ [johęte] [形] やせている。細い。弱弱しい。生育が悪い。[及 273]

【例 1】 この わらすだば よへてあ おんで

「この子なら、やせているもんで」

【例 2】 おれあえの 茄子あ よへてあくて なしてだべじゅ

「うちの茄子は、生育が悪くて、どうしてなんだろうね」

よへる [johęrü] [動] 寄せる。招待する。[及 273]

【例 1】 ○○さんの けありん よへで えっぺあ のまへでやれ

「○○さんの帰りに寄せて、一杯飲ませてやんなさい」

【例2】 あした ほうずだども しと よへんなも らぐんねあ おんだな
「明日は、法要だが、人を招待するのも楽じゃないものだね」

よまま [jomama] 夕飯。晩飯。夜飯。[続 415]

【例】 よままだなさ ○○ちゃん こねあちやな どさ えた おんだが
「夕飯なのに、○○ちゃん来ないことね、何処へ行ったものやら」

よみあへ [jomiahe] 読み合わせ。[続 415]

【例】 こうであちようど こうでんの ふぐろ よみあへしてみねあんねあな
「香代帳と、香典の袋を読み合わせしてみないといけないな」

よみおの [jomiono] 読み物。[続 415]

【例】 ねっすぎ ないが よみおの みねあど ねらんねああだ
「寝る時、何か読み物を見ないと、寝られないんだ」

よみごであ [jomigode] 読みごたえ。[続 415]

【例】 よでみろ、この ほんだば よみごであ あっさげあ おもへぞ
「読んでみろよ、この本なら読みごたえがあるから面白いよ」

よみつげあ [jomitsuge] 読み違え。[続 415]

【例】 ○○ちゃん、ほごあ よみつげあだぞ もうえっぺん よでみろ
「○○ちゃん、そこは読み違えだよ、もういっぺん読んでみなさい」

よめえり [jomeeri] 嫁入り。[続 415]

【例】 よめえりん すぎもて えぐ きょうであなの あだらすな かわねあんねあな
「嫁入りの時持って行く鏡台なんか、新しいのを買わないといけないな」

よめぐら [jomegura] 鳥目。[続 415]

【例】 よめぐらずあ よんまん なっど まなぐあ めねあぐなんなだぞ
「鳥目って、夜になると、目が見えなくなるのだそうだ」

よめへ [jomehe] 夜店。[続 415]

【例】 おまずりん すぎでも ねあば よめへなの ではらねあな
「お祭りの時でもなければ、夜店なんか出ないね」

よらよら [jorajora] [副] よろよろ。[続 415]

【例】 ○○さんも きょうあ よっぼど のだんだな よらよらて ありぐおん
「○○さんも、今日はよっぼど飲んだんだろうな、よろよろと歩くもの」

よりぎ [jorigi] 寄り合い。[続 415]

【例】 おど、ばんげ ろぐずから、こうみんかんで よりぎだど
「お父さん、今夜6時から、公民館で寄り合いだそうだよ」

よれあ [jore] [名] 共有。共用。共同。[同] よれあこ。[及 273]

【例】 この 田植機あ よれあん すんべ

「この田植機は、共有にしようよ」

よろごばす [jorogobasü] [形] 喜ばしい。[続 416]

【例】 おめあえであ よめこあ きまたつけあ なにより よろごばす ごどですな
「お宅ではお女 さんが決ったそうだが、何より喜ばしいことですね」

よろごんぶ こんぶ。結納に使うこんぶを特にいう。[及 45]

【例】 結納 もて えぐ ずぎあ、よろごんぶ 忘れんなよ
「結納を持って行く時はこんぶを忘れるんじゃないよ」

よろぼる [joroborü] [下一自] よろける。[続 416]

【例】 ○○の ずさまも としよた おんだな よろぼて ありぐよん なたおん
「○のお爺さんも、年を取ったものたね、よろけて歩くようになったからな」

よわえ [jowε] [形] 弱い。[及 273]

【例】 よわえ おのさ かもうな
「弱い者にかもうな」

よわよわす [jowajowasü] [形] 弱弱しい。[続 416]

【例】 ないだて、おめあまだ よわよわす かつこして びょうぎでも したなが
「まあ、あなたは弱弱しい格好をして、病気でもしたんですか」

よん [助動] ように。[及 273]

【例】 おれあ したよん してみろ
「私のやったようにしてみない」

この語には、「よんた—ような」。「雲行きあ、雨だよんた あんべあだな—雲行きは、雨のような感じだな」。のような使い方もしている。

よんくそ [jonküso] 夜糞。夜たれる糞をいう。[続 416]

【例】 よんくそなの たんねあで、なるたげ あさまん たえる おんだぞ
「夜糞なんかたれないで、なるだけ朝にたれるものだよ」

～よんた [~jonta] [助動] ような。[続 416]

【例】 ほの みがんのよんたな ないだや
「その蜜柑のようなのはなんだい」

よんだれ 涎。[及 17]

【例】 まだ よんだれ たらしたちゃは
「また、よだれをたらしてるよ」

よんだれかげ [jonⁿdarekage] 涎掛け。[続 416]

【例】 この おぼごも おっきぐなて きて よんだれかげ いらねあぐなたは
「この子も大きくなって、もう涎掛けはいらなくなってしまった」

よんま [jonma] 夜。[続 416]

【例】 むがすだば、よんま まま くてがら わらすごど する おんであったな
「昔なら、夜ご飯を食べてから薬仕事をするものだったな」

—ら—

らえ [re] [名] 場所。[及 273]

- 【例】 これだば らえ とっさげあ べづんどさ おぐべ
 「これは、場所をとる（ふさぐ）から、別の所におこう」
 「らえとる」は場所をとる、とか、場所をふさぐ、とかの意味である。

～らえる [~raerüü] [助動] られる。受け身・可能の接辞。[続 416]

- 【例 1】 きらえる
 「切られる」
 【例 2】 こらえる
 「来られる」
 【例 3】 しめらえる
 「捕まえられる」
 【例 4】 とらえる
 「取られる」
 【例 5】 ふらえる
 「降られる」

らぐえんきよ [ragüenkjjo] 楽隠居。[続 417]

- 【例】 ねんきん もらて くうにこまらねあおん おめあなの らぐえんきよだべな
 「年金を貰って、食うに困らないから、あなたなんか楽隠居だろうや」

らぐであ [ragü^ode] [名] 落第。[及 274]

- 【例】 らぐであしたどて き おどすな
 「落第したからといって、気を落すなよ」

らぐようしょもだつ [ragüjo:jomodatsüü] しろぬめりいぐちたけ。からまつ林に出るきの
 こで、食用になる。[及 99]

らぐん [ragün] [副] 楽に。[続 417]

- 【例 1】 どうが おらぐんしてくであ
 「どうぞお楽にしてください」
 【例 2】 えんだがで、おらだ らぐん ならねあ
 「円高で、俺達は楽にならないね」

～らす [~rasū] [助動] らしい。[続 417]

【例 1】 てんきあ ええらすな

「天気はいいらしいな」

【例 2】 なずらすぐなた

「夏らしくなった」

【例 3】 いやらす ごど

「嫌らしいこと」

【例 4】 のむらすな

「飲むらしいね」

【例 5】 えぐらす

「行くらしい」

らってあ [ratte] 体格。体。[続 417]

【例】 らってあ おっきぐなて えままでの シャツつあ きらんねあは

「体格が大きくなって、今までのシャツはもう着られないよ」

～らば [~raba] [助動] なら。[続 417]

【例 1】 くらば

「来るなら」

【例 2】 きらば

「切るなら」

【例 3】 とらば

「取るなら」

【例 4】 はしらば

「走しるなら」

【例 5】 のませらば

「飲ませるなら」

らんかんま 気性の荒荒しい馬。暴れやすい馬。[及 99]

【例】 なんと、この んま らんかんまでや

「なんと、この馬は暴れ馬でね」

らんかんまみであだ 俚諺。らんかんま、とは気質の荒荒しい馬をいうが、このような馬にた

とえて、気性の激しい人をさしていつている。[及 274]

らんき [名] 狂ったように夢中になること。[及 35]

【例】 ○○あ らんき なて あっちゃ 走て えぐけ

「○○が 狂ったようにあっちへ走って行くつけ」

らんき [名] 死に物狂い。[及 274]

【例】 なに あたあだべ らんき なて はして えた

「何があったんだろう、死に物狂いになって走って行ったよ」

— り —

りぎす [riɡisü] 歴史。[続 417]

【例】 がっこさ へあった ずぎあ りぎすも ならた おんだども えまだば みな わすっだ
は

「学校に入っていた時は、歴史も習ったものだが、今はもうみな忘れてしまったね」

りぐずぼえ [riɡüdzüpoë] [形] 理屈っぽい。[同] りぐずっぼえ。りくつっぼえ。[続 418]

【例】 ぜえぶん おめあも りぐずぼえなや、ほんげあ ゆわねあて わがた

「随分君も理屈っぽいね、そんなにいわなくとも分ったよ」

りご [riɡo] [名] 利口。[及 274]

【例】 字 よめんながは りごだ ごど

「もう字を読めるかい、利口なこと」

りづぎ [ridzüŋi] [名] 律儀。[及 274]

【例】 この しとあ りづぎだ おんで、おげあしなの いらねあがったなよ

「この人は、律儀なもんで、お返しなんか、いらなかったのね」

りっすん [riʃsün] [名] 立身。出世。[及 274]

【例】 しょうがっこはんて 出ねあくて えぐ りっすんした おんだ

「小学校しか出ないのに、よく立身したものだ」

りゆ一つめあ [rjü:tsü:me] 流通米。[続 418]

【例】 りゆ一つめあて ずゆーりゆ一つめあのごど いうなだぜあ

「流通米て、自由流通米のことをいうんだよ」

りよ一すずめあ [rjo:südzüme] 良質米。[続 418]

【例】 こどすあ てんこうに めぐまっだはげあ、りよ一すずめあ えっぺあ ではんべ

「今年は天候に恵まれたから、良質米が沢山出るだろう」

りよ一すん [rjo:sün] 両親。[続 418]

【例】 りよ一すんに なぐならっで、はすめで ありがだみあ わがるな

「両親に亡くなられて、始めて有難味が分かるね」

りよ一つ [rjo:tsü] 領地。[続 418]

【例】 あの すぎやまも、こっつの くさやらも おれあえの りよ一つだあだ

「あの杉山も、こっちの草原もうちの領地なんだ」

りよーめあ [rjo:me] 良米。[続 418]

【例】 りよーめあは ねだん ええはげあ つくてんなだ
「良米は値段がいいから作っているんだ」

りよーめあ [rjo:me] 糧米。[続 418]

【例】 りよーめあも いずねんぶんばりであ たんねあ おんだな
「糧米も一年分だけでは足りないもんだね」

りんつ [rĩntsü] 林地。[続 418]

【例】 つかごろあ らぐようじゆの りんつあ だんだん へて ぞうりんつあ よげだな
「近頃は落葉樹の林地がだんだ減って、造林地が多いね」

— る —

るすえ [名] 留守居。[同] ゆすれ。るすれ。[及 274]

【例】 ばば るすえ たのむぞ
「お婆さん、留守居を頼みますよ」

るっせ [rūsse] 留守居。[同] ゆすれ。[続 419]

【例】 るっせしてころて たのまっでいた どごだ
「留守居をしてくれとたのまれているところなんだ」

—れー

れあー [re:] 間。場所。[続 419]

【例 1】となりどの れあー へべあくて

「隣りとの間が狭くて」

【例 2】この はごあ れあー とっさげあ たなさ あげろ

「この箱は場所をとるから棚に上げろよ」

れあーさま [re:sama] 雷さま。[続 419]

【例】れあーさま なて きだぞ、へそ だしてっど とらえっさげあ かぐして おげ

「雷さまが鳴って来たよ、臍を出していると取られるから、隠しておけよ」

れあーしゅー [re:šü:] 来週。[続 419]

【例】おら れあーしゅーから なずやすみだはげあ、こんだ かわで みずあびさえんぞ

「僕達、来週から夏休みだから、今度は川で水浴びが出来るよ」

れあげつ [reŋeʃtsü] [名] 来月。[及 275]

【例】おめあも れあげつあ そづぎよがは

「お前も来月はもう卒業かい」

れあねん [reŋeŋ] [名] 来年。[及 275]

【例】この わらすも れあねんから がっこだは

「この子も、来年からもう学校なんです」

れあはる [reharü] [名] 来春。[及 275]

【例】れあはるあ おれも たいしょぐが

「来春は、俺も退転か」

れあろれあろ [rerorero] [副] べろべろ。べろんべろん。酔っ払らって、ろれつのまわらな
いさま。[及 275]

【例】ないだや れあろれあろて 来たながは

「なんです、べろんべろんになってしまったのかい」

れーおの [re:ono] 礼物。[続 419]

【例】〇〇さん えさ もて えぐ れーおのあ なた おの もて えたら えべ

「〇〇さんの家へ持って行く礼物は、どんな物を持って行ったらいでしょう」

れーげあー [re:ŋe:] 例外。[続 419]

【例】 こげあた さぐの えぐねあ ごどあ れーげあーだな
「こんな作の悪いことは例外だね」

れーげあす [re:ŋesü:] 礼返し。[同] あげあし。[続 419]

【例】 なんぼ なえの ながだて、こんげあ もらて、れーげあすしねあで いらんねあな
「いくら何の仲でも、こんなに貰って、礼返しをしないでいられないな」

れーへあ [re:he] 礼拝。[続 420]

【例】 えまの したずだば かみほどげさ れーへあなて ほどんと しねあな
「今の人達なら、神仏に礼拝なんて殆どしないね」

れーめあり [re:məri] 礼参り。[続 420]

【例】 まごの びょうぎ なおして もらたはげあ ずぞさまさ おれーめありしてくる
「孫の病気を治してもらったから、地蔵さまにお礼参りをしてくるよ」

れぎであ [re:gi^ode] [名] 歴代。代代。[及 275]

【例】 おれあえの せんぞさまあ れぎであの 殿さまさ つかえだ 侍であったど
「うちの先祖さまは、歴代の殿さまに仕えた侍だったそうだよ」

れっが ~れるか。[及 275]

【例 1】 すべれっが
「滑べれるか」

【例 2】 すれっが
「やれるか。出来るか」

【例 3】 のれっが
「乗れるか」

れば ~ら。[及 275]

【例 1】 えたれば
「行ったら」

【例 2】 したしれば
「やったら」

【例 3】 のたれば
「乗ったら」

れんがん [re:nŋan] ほうせんか。これは、つりふねそう科の園芸花卉で、外来植物である。実が熟すと、種がはじき飛ばされて繁殖することで知られている。[続 420]

れんてあー [re:nte:] 連隊。[続 420]

【例】 おれあ へーてあーん ずぎあ やまがだの さんじゅうにれんてあーであった
「私が兵隊の時は、山形の 32 連隊だったよ」

— ろ —

～ろ [～ro] 郎。特に人名につく郎をいう。[続 420]

【例 1】 たろ
「太郎」

【例 2】 じろ
「次郎。治郎」

【例 3】 さぐだろ
「作太郎」

【例 4】 じろぜあむ
「次郎左エ門」

【例 5】 はずろえむ
「八郎エ門」

ろ一つん [ro:tsüün] 労賃。[続 420]

【例】 あそごの かえしゃだば ろ一つんの はらいあ えぐねあくて だめだな
「あそこの会社なら、労賃の払いが悪くて駄目だね」

ろくしよ [roküjfo] 緑青。[続 420]

【例】 この あががねなべあ ろくしよあ でっさげあ あおおの ゆでっど ええ いろん な
んぜあ
「この銅鍋は、緑青が出るから、山菜を茹でると、いい色になるよ」

ろぐだ [rogü^oda] [連語] ろくな。[及 275]

【例】 釣りん えたども ろくだ おのあ かがらねあけ
「釣りに行ったが、ろくなものがかからなかった」

ろぐであま [rogüdema] [副] ろくに。[続 421]

【例】 ねぎの ねあ ゆえっずぎあ ろぐであま ほらねあで ゆえだて だめだぞ
「葱の苗を植える時は、ろくに堀らないで植えたって駄目だよ」

ろぐん [rogüün] [副] ろくに。[及 276]

【例】 ろぐん みで ありがねあはげあ ころぶなだ
「ろくに見て歩かないから転ぶんだよ」

ろんぱ [名] 議論。[同] ろんぱん。[及 276]

【例】 ろんぱなのぼり してねあで、まづ のめ
「議論なんかばかりしていないで、まづ飲めよ」

—わ—

わがおの [wagaono] 若者。[続 421]

【例】 むらに しょぐば ねあ おんだはげあ わがおのだ みな では えぐなよ
「村に☒場がないものだから、若者達は皆出て行くんだよ」

わがぎむげあ [waganjimüge] [名] 若木迎え。正月行事の一つで、旧正月四日、山から桂の木の聖約 15cm、長さ 4m 位のものを 20 本位伐って来て、家の前の雪に挿し、「かどばやし一門林」と称して飾った。この木を持って来ることを、「わがぎむげあ」といい、この木は、後に冬囲いの材料や、はせ材として使った。[及 276]

わがげあーる [wagaŋerüü] [四自] 若返る。[続 421]

【例】 この たはだ まもらねあんねあはげあ わがげあーて がんばらねあんねあ
「この田畑を守らなければならないから、若返って頑張らなければならないよ」

わがさ [wagasa] 表層雪崩。これは、主として 2 月頃、表面の雪たけが雪崩れる現象で、急斜面を横切って歩いたり、何か振動を受けたり、木の冠雪が落ちたりする時起きる。[続 421]

わがじえ [waga^odʒe] 男の住み込み雇人。[続 421]

【例】 えまだば わがじえなの おえでる えなの ねあなは
「今なら、住み込みの雇人なんか置いている家なんかもうないね」

わがぞ [waga^odzo] 若蔵。若者。[続 421]

【例】 なに いうなだ、わがぞの くへん でしゃばて へらへらて
「何をいうんだ、若蔵のくせに出しゃばって、へらへらいって」

わがだづ 若い衆。[同] わげあおの。わけあしゅ。[及 9]

【例】 近頃の わがだづあ なに かんげあでんだが さっぱり わがらねあ
「近頃の若い衆は、何を考えているものやら、さっぱり分らないよ」

わがなまし [waganamasī] [名] 若菜まわし。これも正月行事の一つで、元日の朝、女の子が親類の家に、せりを 5、6 本束ねたのを持って行き、「あぎのほがら、わがな めあった うげで こっちえーいい方角（あいている方角）から、若菜が参りましたから、受けて（もらって）下さい」といって差し出した。これを、「わがなまし」といったが、女の子は、お年玉をもらい、せりは七草に用いた。[及 276]

わがみづくみ [wagami^odzüükümi] [名] 若水汲み。これも正月行事の一つで、元日の朝か

ら七日まで、女の人か、その家の長男が鉄瓶に、「松立でで 松立でで、祝いの水を汲み初めて、命ながぐ柄杓なるまで」、と三度唱えながら水を汲み、食前に家族に飲ませ、長寿と健康を祈る行事である。[及 276]

わがわがす [wagawagasü] [形] 若若しい。[続 421]

【例】 あなだまだ なんぼん なても わがわがすくて えげあすこどなおす
「あなたは、幾つになっても若若しくていいですわねー」

わぎげある [wagigerü] [四自] 沸き返る。[続 421]

【例 1】 やがん わぎげあったぞ
「葉罐が沸き返っているよ」

【例 2】 ごしゃげで はらわだ わぎげあるよだ
「腹が立って、腹わたが沸き返るようだよ」

【例 3】 おまずりで、むらじゅうあ わぎげあったけ
「お祭りで、村中が沸き返っておったよ」

わぎめあーる [wagime:rü] [下一他] 弁える。[続 422]

【例】 しとながさ ではたら、れいぎ わぎめあで、きつんとして いねあんねあ おんだ
「人中に出たら、礼儀を弁えて、きちんとしていないといけないものだよ」

わぐ [wagü] 植え枠。田植え用の木枠。苗の植えつけ位置をつける木枠。[及 68]

【例】 わぐゆえあ ゆえやすくて えな
「枠植えは植えやすくていいな」

わぐげあー [wagüŋe:] 枠外。[続 422]

【例】 こどすあ ふさぐだはげあ わぐげあーの きょうしゆずも みどめっど
「今年は不作だから、枠外の供出も認めるそうだよ」

わぐねあー [wagüne:] 枠内。[続 422]

【例】 げんたんも、まずの わぐねあーで ぶらぐぶらぐで やりくり でげっど
「減反も、町の枠内で、部落部落でやりくりが出来るそうだ」

わけあ [wage] [形] 若い。[及 276]

【例】 体ずあ わげあ うづ きてあねあんねあ おんだ
「体というものは、若い内に鍛えないといけないものだよ」

わけあ [wage] 妻。[続 422]

【例】 ○○さんも さんじゅうご なて ようよう わげあ もらたど
「○○さんも 35 になって、漸く妻を貰ったそうだ」

わけあー [wage:] [形] 若い。[続 422]

【例】 おらも、もうえっぺん わげあーぐなて おもう すごど してみであ おんだ
「私も、もういっぺん若くなって、思う仕事をしてみたいもんだよ」

わけあしゆ [wageʃü] 若い衆。若衆。[続 422]

【例】 そろいの はっぴ きて おどる わげあしゆの すがだも ええ おんだな
「揃いの法被を着て、踊る若衆の姿もいいものだな」

わけあだけ [wageⁿdage] わかえ。切株・枯木・枯枝などに毎月出る。食用になるきのこ。[及 99]

【例】 わげあだけずあ まえつぎ でっさげあ とぎどぎ えてみる
「わかえというのは、毎月出るから、時々行ってみなさい」

わけあねあ [wagene] [連語] 訳無い。簡単だ。[続 422]

【例】 ほんた ごどあ わげあねあ ごどだべや どれ おれあつあ かしてみる
「そんなことは訳無いことじゃないか、どれ、私に貸してみようよ」

わけばんめあ [wagebanme] 分け前。[同] わっぶ。[続 422]

【例】 ほら、これあ おめあの わげばんめあだぞ、おめあな すこす よげだ
「ほら、これは君の分け前だよ、君のは少し余計だよ」

わけへんだで [wagehenⁿdade] 別け隔て。[続 422]

【例】 わげへんだで しねあで、みんなさ おんなずよん くえろよ
「別け隔てをしないで、皆に同じようにくれなさいよ」

わざふ [名] わざわざ人を使ってやるお使い。および使われる人。[及 282]

【例】 であじだ ごどだはげあ わざふ やらねあんねあな
「大事なことだから、人を使って、お使いをやらないといけないな」

わざわえあー [waⁿdzawe:] 災。[続 423]

【例】 しとずあ いず なんと わざわえあーさ あうが わがらねあ おんだな
「人って、何時どんな災にあうか分からないものだね」

わす [wasü] 驚。[続 423]

【例】 こごらあだりにあ とんびや たがだば いんども わすなの いねあな
「この辺には、鳶や鷹ならいるが、驚なんかはいないね」

わすえる [wasüerü] [下一他] 忘れる。[続 423]

【例】 おれだて わすえっずぎあ あるや、こねあだなの シャップ わすっだけ
「私だって忘れる時はあるよ、この間なんか帽子を忘れたっけ」

わすずがみ [wasürⁿdzügami] わし掴み。[続 423]

【例】 おれあえの わらすったら、おぎやくさまさ だした おがす わすずがみんして とんな
だぜあ
「うちの子ったら、お客さまに出したお菓子を驚掴みにして取るんだよ」

わすらわす [waⁿdzürawasü] [形] 煩わしい。[続 423]

【例】 とす とたば、へげんどの つぎえあも わすらわすぐなて きたな
「年を取ったら、世間との付き合いも煩わしくなってきたね」

わずれあ [wa^odzüre] 患い。[続 423]

【例 1】 だれにだて わずれあずあ ある おんだ、ほんた ごどで くよくよすんな
「誰にだって患いはあるものだよ、そんなことでくよくよするなよ」

【例 2】 ばさまも ながわずれあだな
「お婆さんも長患いだね」

わすれおの [wasüreono] 忘れ物。[続 423]

【例】 わすれおのなの どずげでくえる しとなの いろばや
「忘れ物なんか届けてくれる人なんかいるもんか」

わすれぼえ [wasürepoë] [形] 忘れっぽい。[同] わすれっぽえ。[続 423]

【例】 おめあまだ わすれぼじゆな、まだ ほんた とすんねあべどもな
「あなたは忘れっぽいよね、まだそんな年じゃないだろうにね」

わだえれ [wadaerë] 綿入れ。中に綿を入れた着物。[及 61]

【例】 さみぐなたはげあ、こんだ わだえれ きろよ
「寒くなったから、今度は綿入れを着なさいよ」

わだす [代] 私。[及 9]

【例】 たまにあ わだすの えさも ござてくであ
「たまには、私のうちにもいらして下さい」

この語は、敬語で話す時に多く使われている。

わだすつん [wadasütsün] 渡し賃。渡船場の運賃。[続 423]

【例】 あそごの わだすあ むらで やてる おんだはげあ、わだすつん いらねあなよ
「あそこの渡しは、村で経営しているものだから、渡し賃はいらさないだよ」

わだぶず [wadabüdzü] 綿打ち。[続 424]

【例】 この ふとんも わだ かであぐなたはげあ、わだぶず してもらわねあんねあな
「こ布団も綿が固くなったから、綿打ちをしてもらわないといけないな」

わだぼつ [wadabotsü] 綿帽子。[続 424]

【例 1】 よめこあ わだぼつ がぶったけ
「嫁が綿帽子を冠っておったけ」

【例 2】 えっぺあ ゆぎあ ふたはげあ すぎあ わだぼつ かぶてだけ
「沢山雪が降ったものだから、杉が綿帽子をかむっておったよ」

わだりありぐ [wadariarigü] [四自] 渡り歩く。[続 424]

【例】 おれも てんきんだ てんきんだて あつこつ わだりありたな
「私も、転勤だ、転勤だと、あちこち渡り歩いたな」

わっか [名] 輪。[及 277]

【例】 かんじぎの わっか こへあんな 木 伐てくる

「かんじきの輪を作る木を伐って来るよ」

わつか [副] 僅か。[同] わんずか。[及 276]

【例】 ほんとの わつかばかりだとも くてころ
「ほんの僅かばかりですが、食べて下さい」

わっだ ~われた。[及 277]

【例 1】 油揚 さらわっだ
「油揚をさらわれた」

【例 2】 娘も、もらわっだ
「娘も貰らわれた」

わっぶ [名] 分け前。[及 277]

【例】 はえ、これあ おめあの わっぶだ
「はい、これがお前の分け前だよ」

わつわつ ばちんばちん。たたくこと。[及 277]

【例】 ほんげ わつわつ ただぐなや
「そんなにばちんばちんたたくなよ」

わであ [wa^ode:] 話題。[続 424]

【例】 ○○さんは むがすばなす あずべで わであ なた しとだな
「○○さんは、昔話を集めて、話題になった人だね」

わへ [wahe] 早生。[続 424]

【例 1】 ゆぎの よげだ どごだはげあ いねも わへの ほあ えな
「雪の多い所だから、稲も早生の方がいいね」

【例 2】 つぎの おのあ でだなて、この わらすあ わへだな
「月の物が出たなんて、この子は早生だね」

わやわや [wajawaja] [副] うようよ。[続 424]

【例】 あそごの みずたまりんどさ ぎやらくとあ わやわや いだけ
「あそこの水溜の所に、おたまじゃくしがうようよおったよ」

わやわや [wajawaja] [副] わいわい。[続 424]

【例】 やまの がみさまの おまずりで、むらの したずあ わやわやて のでだ
「山の神さまのお祭りで、村の人達がわいわい飲んでいるよ」

わらくたず [warakūta^odzū] 藁屑。[続 424]

【例】 わらすごど した あどの わらくたずあ こえずがさ なげで こえよ
「藁仕事をしたあとの藁屑は堆肥場に捨てて来いよ」

わらごえ [waraŋoɛ] 堆肥。わらの堆肥。[及 77]

【例】 わらごえ きりげあして つみなおすべ

「堆肥を切り替えして、積みなおそう」

わらず 草鞋。[及 61]

【例】 こねあだ かざておぐ わらず つくて もらた
「この間、飾っておく草鞋を作ってもらったよ」

わらぶず [warabüdzü] 藁打ち。[続 424]

【例】 なわ なうはげあ わらぶず しねあんねあな
「縄を緋うから、藁打ちをしなければならないな」

わらわら [副] どんどん。逃げるさま。[及 277]

【例】 わらわらど ねげで えたけは
「どんどん逃げていってしまったよ」

わり 悪い。[同] えぐねあ。[及 35]

【例】 わり ごどあ でげねあ おんだ、手 うするさ すばらえっさげあな
「悪いことはされないものだよ、手を後に縛られるからな」

わりえあー [warie:] 割合。[続 425]

【例 1】 てんきあ つずがねあがったども ほの わりえあ すごどあ はがどたな
「天気は続かなかったが、その割合に仕事は捗ったな」

【例 2】 くすりど、みずの わりえあ どのくれあん すんなだ
「薬と水の割合は、どれくらいにするんだ」

わりかす [warikasü] [連語] 割に。[同] わりん。[続 425]

【例 1】 こんだ わりかす えぐ でげだな
「今度は割によく出来たな」

【例 2】 この わげあおのあ わりかす しっかりしてるな
「この若者は割にしっかりしているね」

わりぐすつど [warigüstüddo] [連語] 事によると。[続 425]

【例】 けありあ ○○さ よて くっさげあ、わりぐすつど おそぐなっがしんねあ
「帰りは○○に寄って来るから、事によると遅くなるかも知れないね」

わりげ [warige] 悪気。[続 425]

【例】 このごどあ わりげ あって したなんねあはげあ、ゆるしてころ
「このことは、悪気があったんじゃないから、許して下さい」

わるあすび [warüasübī] 悪遊び。[続 425]

【例】 おめあ あれあ ほだはげあ しとんどご いずめるよだ わるあすび すんなよ
「お前は強い方だから、人を苛めるような悪遊びはするなよ」

わるおの [warüono] 悪者。[続 425]

【例】 おれあ なんにも してねあな わるおのん するなて なんと りょうけんだべ

「俺は何もしてないのに、悪者にするなんて、どんなる見だろう」

わるがすこえ [warūnasūkoē] [形] 悪賢い。[続 425]

【例】 あれだば みだどこの かんじゅんねあ、わるがすこえ おどごだぞ
「あいつは、見たところのようじゃなく、悪賢い男だよ」

われあー [ware:] 笑い。[続 425]

【例】 ○○さんだば こっけだ ごどぼり いう おんだはげあ、われあ とまらねあがった
「○○さんたら、滑稽なことばかりいうんで、笑いが止まらなかったよ」

われあーこげる [ware:kogerū] [下一自] 笑いこける。[続 426]

【例】 テレビの まんがみで わらしたずあ われあーこげっだけ
「テレビの漫画を見て、子供らが笑いこけていたっけ」

われあーごど [ware:ḡodo] 笑い事。[続 426]

【例】 しとの ごどだどもて わらてんども われあーごどんねあぜあや
「人のことだと思って笑っているが、笑い事じゃないんだよ」

われあーばなす [ware:banasū] 笑い話。[続 426]

【例】 えまだはげあ われあーばなすん でげんども あん ずぎあ ほれどごでねあがった
「今だから笑い話に出来るが、あの時はそれどころじゃなかったよ」

われあおの [wareono] 笑い者。[続 426]

【例】 ほんた ばがだごどぼりしてっど、へげんの われあおのん なんだはげあな
「そんな馬鹿なことばかりしていると、世間の笑い者になるんだから」

われおの [wareono] 割れ物。[続 426]

【例】 ほの はごんな われおのだけはげあ きいつけで はごべよ
「その箱のは、割れ物だから、気を付けて運べよ」

われがえる [waregaerū] 叱られる。[同] ごしゃかえる。われがれる。[続 426]

【例】 ほんた ごど してっど、おとうさんに われがえっさげあ やめろ
「そんなことをしていると、お父さんに叱られるから止めなさい」

わんざど [wandzado] [副] わざと。故意に。[及 277]

【例】 すんなて いうなに わんざど する おんだ
「するな、というのにわざとするもんだ」

わんざど [wanⁿdzado] [副] わざと。[続 426]

【例】 おめあ あんつあだおん、たまにあ わんざど まげでやる おんだ
「お前は兄さんだから、たまにはわざと負けてやるものだよ」

わんび [名] 詫。[及 277]

【例】 えぐねあがったて わんびする
「悪かった、と詫なさい」

わんまぐ [wanmagüü] [動] 歩き廻る。余り仕事をしないで歩きまわること。[及 277]

【例】 わんまぐばりで ろぐだ しごどあ でげねあんねあがや

「歩き廻ってばかりいて、ろくな仕事が出来ないじゃないか」

また、歩き廻って、ということ、**「わんめあで」**とっている。

— ん —

ん [格助] の。場所につけて使っている。[及 277]

【例 1】 きんなん どさ

「昨日の所へ」

【例 2】 がっこん どこ

「学の所」

【例 3】 川ん どさ

「川の所に」

ん [格助] に。[及 277]

【例 1】 わらび とりん

「わらび採りに」

【例 2】 あすびん

「遊びに」

【例 3】 釣りん

「釣りに」

【例 4】 飲みん

「飲みに」

ん [N] [副] そう。[続 426]

【例 1】 んだ

「そうだ」

【例 2】 んねあ

「そうじゃない」

【例 3】 んです

「そうです」

【例 4】 んだが

「そうか」

んだ [連語] そうだ。そう。[及 278]

【例】 んだ ほれあ おめあ いうとおりだ

「そうだ、それは、お前のいう通りだ」

この語には、「んだじゅーそうだよ」、「んだなおすーそうなんですよ。女性語」、「んだんですなーそうでしょうね。女性語」などがあり、「んだじゅ んだはげ はやぐ したぐ すろはーそうだよ、だから早く仕度をしてしまいなさい」。「んだなおす おれあえんなも おんなずですーそうなんですよ、うちのおんなじです」。「ほれあ やっぱり んだんですなーそれは、やっぱり そうですね」などのような使い方をしている。また、この語の反対の語に、「んねあーそうじゃない。そうでない。じゃない」があり、「ほれあ んねあぞ こげあすんなだーそれは、そうじゃないよ、こうするのだよ」、「ほれ ほごさ おぐな んねあーそれは、そこへ置くのじゃないよ」。なお、この語の、女性語に、「んねあごであすーそうじゃないんです」、「んねあなおすーそうじゃないんですよ」があり、「ほれまだ ぼげあすんな んねあごであす、こうすっど えなおすーそれは、そうするのじゃないんです、こうするといいいんですのよ」、「これあ おれあな んねあなおすーこれは、私のじゃないんですのよ」などのような使い方をしている。

んだ いいじゃないか。ほうがいいね。[及 278]

【例 1】 えぎであがら えぐんだ

「行きたいなら、行ったらいいじゃないか」

【例 2】 はやぐ きんだ

「早く着たらいいじゃないか」

【例 3】 のむんだ

「飲んだらいいじゃないか」

んだて [連語] だって。[同] んだたて。[及 278]

【例】 んだて よあ でげで えげねあがった おん

「だって用が出来て行けなかったんだもの」

んだども [N^odadomo] [接] だが。しかし。[続 427]

【例】 んだども、ほゆごどぼり ゆたて だめだ、こゆごどだて あんなだぜあ

「だが、そういうことばかりいったって駄目だよ、こういうことだてであるんだよ」

んだら [N^odara] [感] さようなら。[同] んだーら。んだらまず。んであ。んであまず。[続 427]

んだら それなら。それでは。それじゃ。[及 278]

【例】 んだら おれあ えて くる

「それなら、私が行って来ます」

んつ [Ntsüü] [代] [卑称] お前。お前の卑称。[続 427]

【例】 んつも まま けや

「お前も飯を食えよ」

なお、この語は、「んの」ともいい、普通は、「おめあ」といつている。

んであ [N^ode] [連語] それなら。それでは。それじゃ。[同] んだら。[及・続 278・427]

【例 1】 んであ これ たがてころ

「それならこれを持ってくれ」

【例2】 んてあ こつつあ えがな
「それならこっちがいいかな」

【例3】 ほれでも だめだなが んであ こげあしてみろ
「それでも駄目なのかい、それではこうしてみろよ」

んでも [接] しかし。でも。[及 278]

【例】 んでも、ほれあ ちがうべや
「しかし、それは違うじゃないか」

んのぼれる [nnoboręrü] [下一自] うぬぼれる。[続 427]

【例】 これだば ほめっど すぐ んのほれんなだ
「こいつはほめると、直ぐうぬぼれるんだ」

～んば [～nba] [連語] ものか。もんか。[同] ろば。んばや。[続 427]

【例1】 くんば
「来るものか」

【例2】 けんば
「食えるものか」

【例3】 すんば
「するものか」

【例4】 とんば
「取るものか」

【例5】 やんば
「やるものか」

んば [nba] 乳母。[続 427]

【例】 むがすあ おやがたしゅであ んばなの おえだ おんだな
「昔は、親方衆では乳母なんかを置いたもんだね」

んばすてやま [nbasütejama] 姥捨山。この語は、昔話に出て来るだけで、普通は使っていない語である。[続 427]

んばゆり うばゆり。ゆり科の多年生草本で、鱗茎からは澱粉がとれる。[及 99]

んばる [動] おぶさる。おんぶする。[及 279]

【例】 がが、おれも んばる
「お母さん、私もおぶさる」

んぶ [nbüü] 初心。[続 427]

【例】 これあまだ どさも えた ごどあ ねあくて ゆぐゆぐ んぶだなよ
「こいつは何処へも行ったことがなく、よくよく初心なんですよ」

んぼう [nbüüü] [四他] おぶう。背負う。[続 427]

【例】 わらしたずあ めんごがて べあつれあして んぶうなだぜあ
「子供らが、可愛がって、奪い合っておぶうんだよ」

んぶぎ [nbūŋi] 産衣。[続 428]

【例】 よめ えた むすめあ おぼご なすはげあ、んぶぎ めてだあだ
「嫁に行った娘が子供を産むので、産衣を縫っているんです」

んぶさる [nbūsarū] [四自] おぶさる。[続 428]

【例】 こごまで ありて くたびっだんだが んぶさるて いうなよ
「ここまで歩いてくたびれたのか、おぶさるといんだよ」

んぶすな [nbūsūna] うぶすな。産土。[続 428]

【例】 あんまり てんこあ ふじゆんだはげあ んぶすなさまさ おめありして くる
「余り天候が不順だから、産土さまにお参りしてくるよ」

んぶゆ [nbūjū] 産湯。[続 428]

【例】 んぶゆも さんいんで つかてくえっさげあ わがさねあは
「産湯も産院で使ってくれるから、もう沸かさなくともよくなったよ」

んますら [nmaⁿdzūra] 馬面。[続 428]

【例】 えあずあ んますらだな
「あいつは馬面だね」

んまだ しなのき。しなのき科の落葉高木で、樹皮が強靱で軟かいので、みのやその他の細工ものに使用される。[及 99]

んまのおげ かいば桶。牛馬に餌を与える桶。[及 68]

【例】 んまのおげさ、んまのおの へでおげよ
「かいば桶にかいばを入れておげよ」

んまのおげ [nmanooge] 馬槽。これは、馬の飼料を入れて、馬に食わせる桶のことをいう。[続 428]

んまのおの [nmanoono] 馬糧。これは、馬の飼料をいい、今は馬を飼わないので、もう使わないう語である。[続 428]

んまのそ [nmanosō] 馬素。馬毛。昔は、馬毛を釣り糸として使ったが、この馬毛の釣り糸を「んまのそ」といった。[続 428]

んまのへ [nmanohe] 馬の背。[続 428]

【例 1】 くら おがねあど んまのへあ いであぞ
「鞍を置かないと馬の背は痛いよ」

【例 2】 ゆぎあ ふっど あそごあ んまのへだはげあ、きいつけで ありげよ
「雪が降ると、あそこは馬の背だから、気を付けて歩けよ」

んまのほね [nmanohone] 馬の骨。[続 428]

【例】 どごの んまのほねだが うろんた おのあ むら ありぐな
「何処の馬の骨なのか、胡乱な奴が村を歩くね」

んまのり [nmanorī] 馬乗り。[続 428]

【例 1】 んまのりも はえあ んま おもへな
「馬乗りも早い馬が面白いね」

【例 2】 まだ おとうさん んまのりが
「またお父さんに馬乗りかい」

んまのりこ あめんぼ。あめんぼ科の昆虫で、この辺には、あめんぼ、ひめあめんぼの二種が棲息している。[及 99]

んまひぎ [nmahigi] 馬曳き。これは、荷馬車の馬を曳いて歩いたり、馬に荷をつけて曳くことをいい、またこれを商売にしている人も「んまひぎ」といった。[続 429]

んまみ [nmami] 旨み。[続 429]

【例 1】 これあ んまみ あっさげあ くてみろ
「これは旨みがあるから食べてみなさい」

【例 2】 この すごどあ んまみ ねあな
「この仕事は旨みがないね」

んまる [nmarū] [四自] 埋まる。[続 429]

【例】 こごらあたりあ ふゆん なっど ゆぎで んまんнад
「こごらあたりは、冬になると、雪で埋まるんだ」

んまれ [nmarē] 生れ。[続 429]

【例 1】 おれあ ○○ねん んまれだ
「私は○○年生れだよ」

【例 2】 ええ えの んまれだ
「いい家の生れだ」

【例 3】 おれあ ○○けんの んまれだあだ
「私は○○県の生れなんだ」

【例 4】 んまれも つがねあ かたわん なたは
「生れもつかない片端になってしまったよ」

んまれおずる [nmarēodzürū] 生れ落ちる。[続 429]

【例】 おれあ んまれおずっどがら この むら はなつた ごどあ ねああだ
「私は生れ落ちるとから、この村を離れたことはないんだ」

んまれがわる [nmarēgawarū] [四自] 生れ変わる。[続 429]

【例】 あ の きしょだば んまれがわらねあど なおらねあべな
「あの気性なら、生れ変わらないと直らないだろうな」

んまれつぎ [nmarɛtsũgĩ] 生まれつき。[続 429]

【例】 あれあ んまれつぎの びっこだなよ、むぞせあ おんだな
「あれは、生まれつきの跛なんだよ、可哀そうなものたね」

んまれる [nmarɛrũ] [下一自] 生まれる。[続 429]

【例】 こんだ んまれんな おどごおぼごだど ええな
「今度生れるのは、男の子だといいね」

んまんまど [nmanmado] [副] うまうまと。[続 429]

【例】 ないだや んまんまど かずがっだな
「なんだい、うまうまと担がれたな」

んみ [nmĩ] 膿。[続 430]

【例】 この はれおのあ んみ でっだんねあがやは、いであそだ ごど
「この腫れものは、もう膿が出てるんじゃないか、痛そうだこと」

んみおどす [nmĩodosũ] [四他] 産み落とす。[続 430]

【例】 こんだ おなごおぼご んみおどしたて よろごでだけ
「今度は、女の子を産み落としたと喜んでおったよ」

んむ [nmũ] [四自] 膿む。[続 430]

【例】 この はれおのあ んむど えぐねあはげあ えしゃさ えてこえ
「この腫れものは、膿むといけないから、医者へ行きなさい」

んむ [nmũ] [四他] 産む。[続 430]

【例】 よめこあ ぶずん んむよんて ばさま まえにず いのてる
「嫁が無事に産むようにと、お婆さんが毎日祈っているよ」

んむ [動] うむ。熟す。えむ。[及 279]

【例】 桃も そんま んむぞ
「桃もじきに熟すよ」

んむれる [nmũrɛrũ] [下一自] 蒸れる。むしむしする。[及・続 279・430]

【例 1】 さずまえもあ んむっだべな
「さつまいもは蒸れたろうな」

【例 2】 きょうあ ばがに んむれるな
「今日は馬鹿に蒸れるね」

【例 3】 今日あ んむれる 日だな
「今日は、むれる日だね」

んめあ [nme] [形] うまい。上手だ。[同] じよんだ。[及 279]

【例 1】 この さがな んめあな
「この魚はうまいな」

【例 2】 んめあぐ けあだな

「上手に書いたね」

この語には、「んまぐーうまく」という使い方もある。

んめあ [nme] うまい。上手。[及 35]

【例 1】 この さがな んめあ さがなだな

「この魚はうまい魚だな」

【例 2】 おめあ 将棋 ながなが んめあな

「君は将棋がなかなか上手だね」

この反対の語に「んまぐねあーうまくない。下手だ」、「んめあぐねあーんまぐねあに同じ」などがある。

んめあおの [nmeono] お菓子。旨い物。[続 430]

【例 1】 おかあさん んめあおの ころ

「お母さん、お菓子を下さい」

【例 2】 これ んめあおのだな

「これは旨い物だね」

なお、お菓子は、幼児語では、「んめあこ。んめあんめあ。めあんめあ」などといっている。

んめあへる [nmeaheru] [動] 埋め合せる。賠償する。[及 279]

【例】 こねあだ 損 さへだ ぶん これで んめあへでころ

「この間損をさせた分、これで埋め合せてくれ」

んめこ [nmeko] 梅。梅漬け。[続 430]

【例 1】 んめずげん すんな んめこ かて きた

「梅漬けにする梅を買ってきた」

【例 2】 おめあえの んめこあ なんとや

「お宅の梅漬けはどうですか」

んめだでる [nmedaderu] [下一他] 埋め立てる。[続 430]

【例】 どうろ どうすなで た んめたでっど

「道路を通すので、田を埋め立てるんだそうだ」

んめる [nmeru] [下一他] 埋める。[及・続 279・430]

【例 1】 たなげ んめっどは

「もう池を埋めるそうだ」

【例 2】 すふろあ あつはげあ、んめで へあれよ

「風は熱いから、うめて入れよ」

【例 3】 この ひぎ だご んめる つづ もて きてころ

「この低い所を埋める土を持ってきてくれ」

んめる [動] 埋める。[及 279]

【例】 この ひぎ どご んめる つづ もて きてころ
「この低い所を埋める土を持ってきてくれ」

逆引き

— あ —

ああ あげあ
 ああだ あだ
 ああだのこうだの なにかに
 あいかぎ【合鍵】 えあーかぎ
 あいきょう【愛嬌】 えあーぎよ
 あいこ えあーごぎ
 あいさつ【挨拶】 えあさづ
 あいしょう【相性】 えあーしよ
 あいず【合図】 えあーず
 あいそ【愛相】 えあそ、じょうせあ
 あいそう【愛想】 えあそ
 あいだ【間】 えあだ、れあー
 あいたい【相對】 あいてあー
 あいだがら【間柄】 えあーだがら
 あいつ えあづ、やづ
 あいづち【相槌】 えあーずず
 あいて【相手】 えあーで
 あいてにはなしをさせるようにしむける【相手に
 話をさせるようにしむける】 とりぐづ
 あいにく【生憎】 えあーにぐ
 あいま【合間】 えあーま
 あいまい【曖昧】 あいめあー
 あいみがい【相見互い】 あいみたげあー
 あいろん【アイロン】 ひのす
 あえこじる【あえこ汁】 えあこずる
 あえもの【和え物】 えあーおの、およごす
 あえる【和える】 えあーる
 あおい【青い】 あおえ
 あおくさい【青臭い】 あおくせあ
 あおぐさま【扇ぐさま】 ばふばふ

あおじろい【青白い】 あおずれ
 あおしんごう【青信号】 あおすんご
 あおだいしょう【青大将】 あおのろす
 あおだち【青立ち】 あおだづ
 あおっぼい【青っぼい】 あおっぼえ
 あおにさい【青二才】 あおにせあー
 あおばえ【青蠅】 あおべあ
 あおばな【青鼻】 ごだんばな
 あおまめ【青豆】 あおぼこ
 あかい【赤い】 あげあ
 あかいさかな【赤い魚】 あげあところ
 あかえいのひもの【赤えいの干物】 からげあ
 あかえぞぜみ まづじえみ
 あかぎれ あがぎり
 あかくなる【赤くなる】 あがらむ
 あかご【赤子】 あがこ
 あかざ げあらばず
 あかしんごう【赤信号】 あがすんご
 あかつち【赤土】 あがつず
 あかとんぼ【赤とんぼ】 なんばあげ
 あかはな【赤鼻】 あがっぱな
 あかり【灯り】 あがし、あがり
 あがりめ【上がり目】 あんがりめ
 あかるい【明るい】 あがり
 あかるむ あがらむ
 あかんべい あがめてあ
 あき【秋】 あきさが
 あきあきする【飽き飽きする】 じゅんぶぐする
 あきあきするほどねむること【飽き飽きする程眠
 ること】 ねくされる

あきかぜ【秋風】あぎがじえ
あきかん【空き缶】かんから
あきぐみ【秋ぐみ】しゃぐみ
あきごろ【秋頃】あきさごろ
あきたりない【飽き足りない】あぎたりねあ、あ
ぎたんねあ
あきち【空き地】あぎつ
あきっばい【飽きっばい】あぎぼえ
あきない【商い】あぎねあ
あきのころ【秋の頃】あきさが
あきばさまのまつりび【秋葉さまの祭り日】おひ
まず
あきや【空き家】からえ
あきやすい【飽きやすい】あぎぼえ
あきらめる【諦める】あぎらめる
あきる【飽きる】あぎる
あきれかえる【呆れ返る】あぎれげある
あくがある きどえ
あくがつよい【あくが強い】きどえ
あくさい【悪妻】えぐなすかが
あくしつ【悪質】あぐすず
あくたい【悪態】あぐであ
あくたいご【悪態語】もーろぐたがり
あくとおし【灰通し】あぐとす
あくぬき あぐだし
あくまばらい【悪魔払い】あぐまはれあ
あぐら【胡座】あんぐら
あぐらばな あぐらっぱな
あけがた【明け方】あげしめあ
あげく【挙句】あげぐ
あげぜんすえぜん【上げ膳据え膳】あげじえんす
えじえん
あけび あぎび

あけびのしんめ【あけびの新芽】きのめ
あげもうす【上げ申す】あげもす
あげもの【揚げもの】あげおの
あける【開ける】あげる
あける【明ける】あげる
あげる すんじえる
あげる【上げる】あげる
あさい【浅い】あせあ
あさかえり【朝帰り】あさげあり
あさぐろい【浅黒い】あさぐれ、あさぐろえ
あさせ【浅瀬】あさへ
あさっぱら【朝っぱら】あさぱら
あさねぼう【朝寝坊】あさねんぼ
あさひも【麻紐】あさひぼ
あさましい【浅ましい】あさます
あさめし【朝飯】あさみし
あさめしまえ【朝飯前】あさみしめあー
あざわらう【あざ笑う】おそこわらう
あし【足】あす
あじ【味】あず
あしあと【足跡】あすあと
あしおと【足音】あすおと
あしがかり【足掛かり】あすががり
あしかけ【足掛け】あすかけ
あじかげん【味加減】あんべあ
あじきない あじけねあ
あしくせ【足癖】あすくへ
あしくび【足首】あすくび
あじけない【味気無い】あじけねあ
あしごしらえ【足ごしらえ】あすごすれあ
あじさい あずせあ
あしずり【足摺り】あすずり
あしだ【足駄】あすだ

あしだい【足代】あすであ
 あしついで【足ついで】あすつで
 あしつき【足つき】あすつき
 あじつけごはん【味付けご飯】あんべあまま
 あじつけしたみづな【味付けしたみづな】みつた
 だぎ
 あしどめ【足留め】あすどめ
 あしどり【足取り】あすどり
 あしながばち あすながばづ
 あしながばちのこがたしゅ【あしながばちの小型
 種】すがらばづ
 あしなみ【足並み】あすなみ
 あしならし【足慣らし】あすならす
 あしのうら【足の裏】あすのへら
 あしば【足場】あすば
 あしびょうし【足拍子】あすびょうす
 あしふみ【足踏み】あすふみ
 あしまかせ【足任せ】あすまがへ
 あしまめ【足まめ】あすまめ
 あじみ【味見】あずみ、あんべあみ
 あしもと【足元】あすもと
 あしよどめ【足よどめ】あすよどめ
 あしらい あすれあ
 あしらう あすらう
 あじわい【味わい】あずわえあ
 あじをしめる【味をしめる】あずすこむ
 あずかる【預かる】あづがう
 あずき【小豆】あんずぎ
 あずきもち【小豆餅】あんずぎもず、あんづぎも
 づ
 あずける【預ける】あずげる、あずれある
 あすたー【アスター】ちょうへんぎぐ
 あせ【汗】あへ

あぜ【畔】ので
 あぜかり【畔刈り】おのかり
 あぜくさ【あぜ草】のでくさ
 あせしらず【汗知らず】あへすらず
 あせだく【汗だく】あへだぐ
 あせとり【汗取り】あがどり
 あせばむ【汗ばむ】あへばむ
 あせみず【汗水】あへみず
 あせみどろ【汗みどろ】あへみどろ
 あせも【汗も】あへぼ
 あせる しらっぼつける
 あせる【焦る】あへる
 あせる【褪せる】あへる
 あせをながしてはたらくさま【汗を流して働くさ
 ま】つうつ
 あそこに あさ
 あそこへ あさ
 あそび【遊び】あすび
 あそびのいっしゅ【遊びの一種】あだまてんてん、
 あないず、かぶかぶ、びんがだ、むしくた
 あそぶ【遊ぶ】あすぶ
 あたたかい【暖かい】あたこえ
 あたたかいかん【暖い寒】どろかん
 あたたまる【暖まる】あたまる、ほどる
 あたためる【暖める】あためる
 あたふた とかばか
 あたま【頭】あだま
 あたまからみずにもぐるこ【頭から水に潜るこ
 と】づぶくぐり
 あたらしい【新しい】あだらす
 あたらしいみち【新しい道】しんどみづ
 あたりまえ あだりめあ
 あたる【当る】あたあた、あだる

あちこち あつこつ、とっぺさっぺ、ほっつこつ つ	あな【穴】あなぼこ
あちらこちら ほっつこつ	あなぐま まみ
あつい【厚い】あづ	あなどる【侮る】ぞーせあする
あつい【暑い】あたこえ、あつ、いきてあ、えき てあ	あに【兄】あに
あつい【熱い】あつ	あにさん【兄さん】あんつあこ
あついはい【熱い灰】ひべあ	あね【姉】あねこ
あつかい【扱】あづげあ	あねさん【姉さん】あねつあ
あつかましい つらすけねあ	あのように あげあ
あつくるしい【暑苦しい】あつくるす	あばらぼね【肋骨】あばらっぽね
あつけない【呆気ない】あつけねあ、こであねあ、 そっぺあねあ	あばれ【暴れ】だんじゃぐ
あっけらかん あっけらぼん	あばれやすいうま【暴れやすい馬】らんかんま
あっけらかんと あけんと	あばれる【暴れる】あらげる、ぶごぐる、ぶづぐ る
あっさり けそつと、そべつと	あひる【家鴨】あっぴ
あつたらもの あつたらおの	あぶ【虻】つなぎ
あっち あつ	あぶく あわぶぐ
あつぼったい【厚ぼったい】あずぼつてあ	あぶくぜに【泡銭】あぶぐじえね
あつまり【集まり】あずばり	あぶない【危ない】あぶねあ
あつまる【集まる】あずばる	あぶなっかしい【危なっかしい】あぶなかず
あつめたばねる【集め束ねる】つばける	あぶらあげじる【油揚げ汁】けんつんずる
あつめる【集める】つばめる	あぶらあせ【脂汗】あぶらあへ
あてがう【当てがう】かう	あぶらぜみ おおじえみ
あてこすり あでつら	あぶらはや にがざつこ
あとあし【後足】ともあす	あふれる【溢れる】えがまる
あとあめ【後雨】あさてつかり	あぶれる たおれる
あとしまつ【後始末】けつつのごい	あべこべ あつちやこつちや
あとずさり うすろひこみ	あほう【阿呆】あんぼんたん
あとずさりする【後ずさりする】すこむ	あまい【甘い】あまこえ
あとで【後で】えんめあ	あまえる【甘える】あばげる、あめあーる、そべ ある、びれる
あとばらい【後払い】あどばれあ	あまえんぼう【甘えん坊】あばげ
あともどり【後戻り】あどげあり	あまがえる【雨蛙】あおびつき
	あまかわ【甘皮】あまか

あまじお【甘塩】あまししよ	あらいたて【洗い立て】あれあだで
あまずっぱい【甘酸っぱい】あまずっぺあ	あらいはり【洗い張り】あれあはれあ
あまっこい【甘っこい】あまこえ	あらし【嵐】あらす
あまってるい【甘ったるい】あまたるこえ	あらしごと【荒仕事】あらすごと
あまどい あまどよ	あらすじ【荒筋】あらすず
あまとう【甘党】あまと	あらためて【改めて】べつから
あまなっとう【甘納豆】あまなっと	あらっばい【荒っばい】あらっばえ
あまのじゃく【天の邪鬼】あまのじゃぐ	あらっばい【粗っばい】あらっばえ
あまもり【雨もり】あまむり	あらと【荒砥】あらど
あまやかす【甘やかす】そべあーらへる	あらむしろ【荒蓆】いなはぎ
あまりに【余りに】あまりん	あらもの【荒物】あらおの
あまりひのあたらないしゃめん【余り日の当たらない斜面】ひかげぴら	あられ あらね、あらねこ、ふぐれこ
あまりもの【余りもの】あまりおの	あられもち【あられ餅】ふぐれこ
あみかえる【編み替える】あみげある	ありがたい【有難い】ありがであ
あみもの【編み物】あみおの	ありがたい【有難う】ありがど
あみわたし【網わたし】あみわだす	ありったけのちから【ありったけの力】やづがら
あめがぜ【雨風】あめがじえ	あります ありあす
あめもよいになる【雨もよいになる】あまける	あるきまわる【歩き廻る】わんまぐ
あめもよう【雨模様】あまもよ	あるく【歩く】あごつる、ぶつつあらう
あめんぼ んまのりこ	あれこれ なにかに
あや【綾】あやこ	あればかり えあつぱり
あやしい【怪しい】あずんた、あやす、うろんた、おがす、やばつ	あれもよう【荒れ模様】あれもよ
あやす だます	あわ【泡】あわぶぐ
あやまる【過まる】とっぱずらがす	あわせ【裕】あわへ
あやまる【誤まる】とっぱずらがす	あわせかがみ【合わせ鏡】あへかがみ
あゆむ【歩む】あごつる	あわせど【合わせ砥】あへど
あらあらしい【荒荒しい】あらあらす、あらがます	あわせる【会わせる】あわへる
あらい【荒い】あれあ	あわせる【併せる】あわへる
あらい【粗い】あれあ	あわただしい【慌ただしい】あわただす
あらいあげる【洗い上げる】あれああげる	あわててあるくさま【慌てて歩くさま】あぼとぼ
	あわてふためく【慌てふためく】あたふためぐ、どでかっぱずす
	あわてる【慌てる】あわく、うるだぐ、どすめぐ、

ばったこぐ
あわれ いどす
あなか【行火】 あんかん
あながい【案外】 あんげあー、もさば
あなかをいれたこたつ【行火を入れた炬燵】 おが
ごだつ
あんき【暗記】 そらおべ
あんぐり あぐんと
あんころもち【あんころ餅】 あんずぎもず
あんししょく【暗紫色】 ぶすいろ
あんしょう【暗唱】 そらよみ

あんしんすること【安心すること】 どっかど
あんたい【安泰】 あんてあー
あんな あげあ、あんつけあた
あんない【案内】 あんねあー
あんないじょう【案内状】 おづげあ、つけあ
あんないにん【案内人】 あんねあーにん、へんだ
づ
あんないもなく【案内もなく】 やふり
あんばい【按配】 あんべあ
あんばい【塩梅】 あんべあ
あんまり げあ

— い —

いあわせる【居合わせる】	いあへる	いいそこなう【言い損なう】	ゆい-そごなう
いあんりょこう【慰安旅行】	いあんりょこ	いいそびれる【言いそびれる】	ゆい-そびれる
いいえ		いいたてる【言い立てる】	ゆい-だでる
いいあう【言い合う】	ゆい-あう	いいちがい【言い違い】	ゆいつげあ
いいあやまる【言い誤る】	ゆいあやまる	いいつかる【言い付かる】	ゆいずがる
いいあらそう【言い争う】	ゆい-あう	いいつくす【言い尽くす】	ゆいつぐす
いあわせる【言い合わせる】	ゆいあへる、ゆい-あわへる	いいつける【言い付ける】	ゆい-づげる
いいあんばい【いい按配】	えあんべあ	いいつたえ【言い伝え】	ゆいってあ
いいおとす【言い落とす】	ゆいおどす	いいつのる【言い募る】	ゆいつのる
いいがい【言い効い】	ゆいげあー	いいなおす【言い直す】	ゆいなおす
いいかえす【言い返す】	ゆいげあす	いいなずけ【許嫁】	ゆいなずげ
いいかえる【言い変える】	ゆいげある	いいなり【言いなり】	なりぎ、ゆいなり
いいかお【いい顔】	ええつら	いいね【言い値】	ゆいね
いいがかり【言い掛かり】	ゆいのがり	いいのがれ【言い逃れ】	ゆいぬがれ
いいがかりをつける	からまぐ	いいのがれる【言い逃れる】	ゆいぬがれる
いいかげん【いい加減】	えっかげん、なまはんちやぐ	いいのこす【言い残す】	ゆいのごす
いいかた【言い方】	ゆいあんべあ	いいはじめる【言い始める】	ゆいはずめる
いいかわす【言い交す】	ゆい-がわす	いいはる【言い張る】	ひのずつる、ひのずはる、ゆいはる
いいき【いい気】	ええき、えーき	いいひらき【言い開き】	ゆいひらぎ
いいきみ【いい気味】	ええきび	いいふくめる【言い含める】	ゆいふぐめる
いいきる【言い切る】	ゆいきる	いいふらす【言い触らす】	ゆいふらす
いいぐあい【いい具合】	えあんべあ	いいふり【言い振り】	ええふり
いいぐさ【言い草】	ゆいぐさ	いいぶん【言い分】	のず、ゆい-ぶん
いいくらす【言い暮す】	ゆいくらす	いいまちがい【言い間違い】	ゆいまずげあ
いいくるめる【言いくるめる】	ゆいくるめる	いよいよ【言い様】	ゆいよう
いいけす【言い消す】	ゆい-けす	いいわけ【言い分け】	ゆいわけ
いいこめる【言い込める】	ゆい-ごめる	いいわたす【言い渡す】	ゆいわだす
いいじゃないか	んだ	いくなれば	ゆわば
		いえがら【家柄】	ええがら、えーがら、すずめ

いえじゅう【家中】やうづ
 いえで【家出】えーで
 いえのなか【家の中】えんなが
 いえのまえ【家の前】えのめあ
 いえもち【家持ち】えもず、えーもず
 いおう【硫黄】ゆお
 いか【烏賊】えが
 いが えが
 いがい【以外】えげあー
 いがい【意外】えげあー
 いかいよう【胃潰瘍】いかいよ
 いかかわしい【如何わしい】いがかわす
 いかけ【鑄掛け】えがげ
 いかげや【鑄掛屋】えがげや、どや
 いかす【生かす】えがす
 いがみあう【唾み合う】えがみあう
 いがむ えがむ
 いかめしい【厳しい】えがめす
 いき【生き】えぎ
 いき【息】えぎ、べき
 いきあう【行き合う】えぎあう
 いきあたり【行き当たり】えぎあたり
 いきあたりぱったり【行き当たりぱったり】えぎ
 あたりぱったり
 いきうつし【生き写し】いぎうずす
 いきうま【生き馬】いぎんま
 いきうめ【生き埋め】いぎんめ
 いきおい【勢い】えぎおえ
 いきおいがつよい【勢が強い】はっつおえ
 いきがい【生き甲斐】いぎげあ
 いきかえり【行き帰り】えぎけあーり
 いきかえる【生き返る】えぎげあーる
 いきがかり【行き掛かり】えぎががり

いきがけ【行き掛け】えぎがげ
 いきき【行き来】えぎき
 いきぎれ【息切れ】えぎぎれ
 いきぐるしい【息苦しい】いぎぐるす
 いきさき【行き先】えぎさぎ
 いきだおれ【行き倒れ】えぎだおれ
 いきち【意気地】えぐず
 いきちがい【行き違い】えぎつげあ
 いきつく【行き着く】えぎずぐ
 いきつけ【行き付け】えぎずげ
 いきづまる【行き詰まる】えぎづまる
 いきているうま【生きている馬】いぎんま
 いきどまり【行き止まり】えぎどまり
 いきなり えぎなり、がえっと、ものゆわず
 いきば【行き場】えぎば
 いきぶし【生き節】いぎぶす
 いきむ ぎんばる、ねきばる
 いきもの【生き物】いぎおの
 いきりたつ えぎりたず
 いぎをただして【威儀を正して】すかさか
 いく【行く】えぐ
 いく【逝く】えぐ
 いくじなし【意気地無し】えぐずなす、ずぐなす、
 そどみそ
 いくつ【幾つ】なんぼ
 いくび【猪首】えぐび
 いくら【幾ら】なんぼ
 いけ えげ～
 いけ【池】たなげ
 いけかき【池掻き】たなげかぎ
 いけす【生け簀】えげす
 いけそうじ【池掃除】たなげかぎ
 いけどり【生け捕り】えげどり

いけない ならねあ、やじゃがねあ
 いけばな【活け花】えげばな
 いける【活ける】えげる
 いけん【意見】えげん
 いこう【行こう】えあべ
 いこじ【意固地】えごず
 いさい【委細】いせあー
 いさかい えさげあ
 いざこざ えざこざ
 いささか【些か】えささが
 いさばや えさばや
 いざま【居ざま】えざま
 いさましい【勇ましい】いさます
 いざり えじやり
 いざる えじやる、ずるばる
 いじ【意地】えじ、くそえず
 いじがわるい【意地が悪い】こじよわり
 いじきたない【意地汚い】いづきたねあ
 いじきたないたべかた【意地汚ない食べ方】いど
 みぐい
 いじくる えぞぐる、ちよすます
 いじける えつける
 いしじぞう【石地藏】いすずんぞ
 いじっぱり【意地っ張り】いちたがり、えつたが
 り
 いじめ いちこ
 いじめる【苛める】えずめる、えびる、かもう、
 きずぎまわす
 いしゃ【医者】えしゃ
 いしょう【衣装】えしょ
 いじょう【以上】よ
 いしょく【移植】えしょぐ、ゆえげあ
 いしょくべら【移植べら】えしょぐべら

いじる えぞぐる、えずる
 いじわる【意地悪】えずわる
 いじわるくいうごと【意地悪くいう小言】えこ
 えこ
 いずまい【居ずまい】いずめあ
 いずみ【泉】すず
 いずめ えつこ
 いせまいり【伊勢参り】えへめあり
 いぜん【以前】しょうでん、へん
 いそがいがい【意意外】いそーげあー
 いそがしい【忙しい】えそがす
 いそがせる【急がせる】えそがへる、へがす
 いそぐ【急ぐ】えそぐ、どすめぐ
 いた だ
 いたい【遺体】いてあー
 いたい【痛い】いであ
 いたいたしい【痛痛しい】いだいだす
 いたきれ【板切れ】いだこっば
 いたざい【板材】いだぜあー
 いたしかたがない【致し方がない】たげあただね
 あ
 いたじき【板敷】いだずぎ
 いたじきのいた【板敷の板】ざらいだ
 いたします しあす
 いたずら こめあかぎ
 いたずらこぞう【いたずら小僧】いだずらこんぞ
 いたずらに むだき
 いただきもの【戴き物】いだだぎおの
 いたたまらない【居たまらない】いだたまらね
 あ
 いたち【鼬】いだづ
 いたどり さすどり
 いたどりのきせいちゅう【いたどりの寄生虫】さ

すどりむす
 いたのま【板の間】いだぬま
 いたみ【板箕】いだみ
 いたむ そずる
 いたやかえで いだや
 いたらない【至らない】いだらねあ
 いたらぬ【至らぬ】いだらねあ
 いたるところ【到る所】いだるどご
 いたわしい【労しい】いだわす
 いちがいに【一概に】いずげあん、いちげあに
 いちかしょにまとめる【一ヶ所にまとめる】えっ
 ちよづげる
 いちご【莓】いづご
 いちさいのうま【一才の馬】とぜあこ
 いちじき【一時期】しときり
 いちじく【無花果】いずずぐ
 いちじにたりょうにふるゆき【一時に多量に降る
 雪】どがゆぎ
 いちしゅうき【一週忌】いっしゆぎ
 いちだいき【一代記】いずであーき
 いちだいじ【一大事】いずであーず
 いちど【一度】いづど、しとだび
 いちどに【一度に】いずどん
 いちにち【一日】いずにず、ひして
 いちにちのしごとのりょうがさだめられている
 こと【1日の仕事の量が定められていること】
 こまわり
 いちにんまえ【一人前】いずにんめあ、いっちよ
 めあ、えっちよめあ、しとりめあ
 いちねんき【一年忌】いっしゆぎ
 いちばい【一倍】いずべあー、いちべあ
 いちばん【一番】いっつ、いっど
 いちばんおく【一番奥】ぶつとめ

いちばんさいご【一番最後】どっけ
 いちばんたいせつなもの【一番大切なもの】いづ
 ぶつのおの
 いちばんはずれ【一番はずれ】とっばずれ
 いちめん【一面に】のろっと
 いちもくさん【一目散】しりこさられて、だがすか
 いちもくさんに【一目散に】しりこさられて
 いちやつく えちやつぐ
 いちやづけ【一夜漬け】いづやづけ
 いちやもん えちやもん
 いちょう【銀杏】いじよ
 いっかい【一回】しとげあり
 いっかい【一塊】しとかだまり
 いっかしょ【一ヶ所】しとづどご、しとどご
 いっかつ【一喝】しとおどし
 いっけん【一間】えっけん
 いっけん【一軒】えっけん
 いっけんや【一軒屋】えっけんや
 いっこう【一向】えっこ、ねっから
 いっこく えっこぐ
 いっさい【一切】えっせあー
 いっさいのたんじょうび【一才の誕生日】むげあ
 どぎ
 いっさくさくじつ【一昨昨日】さぎおどでな
 いっさくさくねん【一昨昨年】さぎおどどす
 いつさん しりこさられて
 いっしゆ【一種】しといろ
 いっしょ【一緒】えっしょ
 いっしょう【一生】えっしょー
 いっしょうがい【一升買】えっしょげあ
 いっしょうけんめい【一生懸命】えっしょけめ
 いっしょうけんめいに【一生懸命に】むったり
 いっしょうます【一升枺】えっしょます

いっしょく【一色】しといろ	いない【以内】いねあ
いっしょく【一食】しとがだげ	いないいないばあ【いない いないばあ】えねあ えねあばあ
いっしょくた【一緒くた】えっしょくた	いなか【田舎】ぜあ
いっしんに【一心に】むったり	いなか【稲掛】はさ
いっせいに【一斉に】ぞくっと	いなかもの【田舎者】ぜあごしゆ、ぜあーごたろ
いっそ えっこ	いなずま【稲妻】いなびがり
いったい えってあ	いぬかき【犬かき】いぬこおよぎ
いったい【一体】いってあー	いねのしゅうかく【稲の収穫】あぎあげ
いったい【一帯】いってあー	いねむり【居眠り】ねぶかぎ、ふねこぎ
いったいぜんたい【一体全体】いってあーじえん てあー、えってあーじえんてあー	いねをいれておくへや【稲を入れておく室】いな べや
いったん【一端】えっばす	いのち【命】いのづ
いっとう【一等】いっと	いのちがけ【命懸け】いのずがげ
いっときに【一時に】いずどぎん	いのちからがら【命からがら】いのずからがら
いっばい えっばえ、だぶっと	いのちしらず【命知らず】いのずすらず
いっばい【一杯】えっぺあ	いのちとり【命取り】いのずとり
いっばいめし【一杯飯】えっぺあみし	いのちびろい【命拾い】いのずびれ
いっばん【一般】えっばん	いはい【位牌】えへあ
いっぴつ【一筆】えっぴず、しとふで	いはいもち【位牌持ち】えへあもづ
いっぶく【一服】えっぶぐ	いばったようなおおきなあぐら【威張ったような 大きな胡座】いずはんばぎ
いっぼう【一方】えっぼ、かだこび	いばる【威張る】えばる
いっぼん【一本】しとすず	いびき【軒】えびぎ
いっぼんぎ【一本気】えっぼんぎ	いびつ【歪】えびづ
いつも【何時も】いっつも、えっかだ、じよんで あ、すじゆ、ずるっと、とうし、なっても	いびりだす【いびり出す】えびりだす
いでんけいとう【遺伝系統】まぎ	いびる えびる、きずぎまわす
いど【井戸】えど	いぶくさい えぶくせあ
いところ いどご	いぶす【燻す】えぶす
いどころ【居所】いどご	いぶる えぶる
いどじり こずり	いぼ【疣】えぼ
いとぞこ【糸底】こずり	いぼけい【異母兄】はらちげあのあに
いととんぼ かっばあげ	いぼじ【疣痔】えぼず
いともたやすい いどやす	

いま【居間】おぢやのま	いりぐち【入口】えれぐず、じょ一のくず、とのぐづ、へありくず
いま【今】えま	いりみず【入り水】えりみず
いまがた【今方】えまがだ	いりよう【入り用】いりよ、よだ
いまごろ【今頃】えまごろ、えまづぶん	いる だ、てる
いまさら【今更】えまさら	いる【居る】える、けずがる
いましがた【今し方】えまがだ、えましがだ	いれかえる【入れ替える】えれげある
いまじぶん【今時分】えまづぶん	いれかわる【入れ替る】えれがわる
いまだに【未だに】えまだに	いれば【入歯】えれば
いまだき【今時】えまだき	いれめ【入れ目】えれめ、へれめ
いまに【今に】えまん	いれもの【入れ物】えれおの
いまにも【今にも】えまにも	いれる【入れる】へる、へれる
いまはのきわ【今はの際】えまわのきわ	いろ いろおなご
いまふう【今風】えまふ	いろあい【色合い】いろえあー
いみび【忌み日】たづび	いろがみ【色紙】すぎす
いむび【斎火】おせあど	いろきちがい【色気違】いろきずげあ
いも【芋】えも	いろけがでる【色気が出る】はるけさす
いもうと【妹】おば	いろっぼい【色っぼい】いろっぼえ、えろっぼえ
いもめいげつ【芋名月】えもめえげつ	いろもの【色物】いろおの
いもり えもり	いろよい【色よい】いろえ
いやいや【嫌嫌】やだやだ	いろり【囲炉裏】ゆりり、ゆるり
いやがらせ【嫌がらせ】いやがらへ	いろりのうえのつりだな【いろりの上のつり棚】ひだな
いやがる けづがる	いろりばた【囲炉裏端】ゆりばだ
いやがる【嫌がる】やだがる	いわ【岩】ゆわ
いやけのさすこと【嫌気のさすこと】じゅんぶぐ	いわいごと【祝いごと】いわえこど、ゆわえこど
いやしい いどます	いわいざけ【祝い酒】ゆわえあざげ
いやしい【卑しい】いやす	いわう【祝う】ゆわう
いやしくする【卑しくする】ほえどこぐ	いわし【鯛】ゆわす
いやすくする ほえどこぐ	いわずかたらず ゆわずかだらず
いやだ【嫌だ】やだ	いわつばめ【岩燕】ゆわつばめ
いやでてをふること【嫌で手をふること】てぼろぎ	いわな【岩魚】ゆわな
いやらしい いやらす	いわば【岩場】ゆわば
いらっしゃい ござっしえ	

いわば【言わば】ゆわば

いわれ ゆわれ

いんが【因果】えんが

いんきくさい【陰気臭い】いんきくせあ

いんきよ【隠居】えんきよ

いんどう【引導】いんど

いんばいふ【淫売婦】ばんぼ

いんぶ【陰部】どで

—う—

- うえ【上】てんべ、ゆえ
 うえかえ【植え替え】ゆえげあ
 うえき【植木】ゆえぎ
 うえきばち【植本鉢】ゆえぎばづ
 うえごろ【植え頃】ゆえざがり
 うえざかり【植え盛り】ゆえざがり
 うえじに【飢え死に】かすれずに
 うえたて【植えたて】ゆえだて
 うえつけ【植え付け】ゆえずげ
 うえつける【植え付ける】ゆえずげる
 うえつら【上つら】ゆわつら
 うえのほう【上の方】ゆえかだ
 うえもの【植えもの】ゆえおの
 うえる【植える】ゆえる
 うえるひと【植える人】ゆえと
 うえわく【植え枠】わぐ
 うがい【嗽】うげあ
 うかごのせいづつ【羽化後の生物】むえだて
 うかされる【浮かされる】ほがさえる
 うかする【羽化する】むえる
 うかれさわぐ【浮かれさわぐ】うずぐ
 うかれる【浮かれる】おだづ
 うきしずみ【浮き沈み】うぎすずみ、ふけさめ
 うきたたせる【浮き立たせる】ほがす
 うきたつ【浮き立つ】うだず、ほげる
 うきなえ【浮き苗】うぎねあ
 うく【浮く】うげる
 うぐい つぎざっこ
 うぐいす【鶯】ほけちよ
 うけぐち【受け口】うげ
- うけとれない【受け取れない】うげどれねあ
 うけばらい【受け払い】うげはれあ
 うごかす【動かす】えごがす
 うごき【動き】えごぎ
 うごきまわる【動きまわる】ざんまぐ
 うごきまわるさま【動きまわるさま】すこもこ
 うごく【動く】えごぐ
 うさうさする うさめぐ、ひくめぐ
 うさづく うさめぐ
 うしろぐらい【後ろ暗い】うすろぐれあ
 うしろすがた【後ろ姿】うすろすがだ
 うしろへさがる【後へさがる】しこむ
 うしろまえ【後ろ前】うすろめあ
 うしろゆび【後ろ指】うすろゆび
 うすい【薄い】うす
 うすかわ【薄皮】うすか
 うすぎたない【薄汚い】うすきたねあ
 うすきみわるい【薄気味悪い】うすきびわり
 うずくまる しゃがまる、すぐだまる
 うすぐらい【薄暗い】うすくれあ
 うずたかい【堆い】うずたげあ
 うすっぺら【薄っぺら】うすぺら
 うすのろ うすらほんきねあ、こたんねあ、ほん
 ずあねあ
 うすばか【薄馬鹿】うすこたんねあ、うすらばが、
 うすらほんきねあ、こたんねあ、
 うすばかげろうのようちゅう【うすばかげろうの
 幼虫】すなこむす
 うすもの【薄物】うすおの
 うすらさむい【うすら寒い】うすらさみ

うすわらい【薄笑い】うすらわれあ	うでどけい【腕時計】うでどげ
うそ ずほ	うでまえ【腕前】うでめあー
うぞうむぞう【有象無象】うぞもぞ	うでやてのきんにくこうちよく【腕や手の筋肉硬直】そらで
うそをつく【嘘を吐く】ずほまげる	うど【独活】うどん
うたい【謡】うであー	うどじる【独活汁】うんどずる
うたいて【歌い手】うであーて	うなされる おなされる
うたいもんく【歌い文句】うであーもんく	うぬぼれる うのぼれる、んのぼれる
うたがい【疑い】うだげあー	うねたて【畝立て、畝作り】うねこしえ
うたがいぶかい【疑い深い】うだげあーぶげあー	うば【乳母】んば
うたたね【うたた寝】きどごろね	うばいあう【奪い合う】べああう、やらう
うち【家】え	うばいかえす【奪い返す】ばっけあす
うちあわせる【打ち合わせる】うずあへる	うばゆり んばゆり
うちいわい【内祝い】うずゆわえあ	うぶ【初心】んぶ
うちかけ【襦袢】おげあどり	うぶぎ【産衣】んぶぎ
うちのひとたち【うちの人達】えのしたづ	うぶげ【産毛】ふぐだけ
うちばらい【内払い】うずばれあ	うぶすな【産土】んぶすな
うちひも【打ち紐】うずひぼ	うぶすなさま【産土さま】おぶなすさま
うちべんけい【内弁慶】うづべんけ	うぶゆ【産湯】んぶゆ
うちまご【内孫】うずまご	うまあらい【馬洗い】すっそあれあ
うちまた【内股】うずまだ	うまい んめあ
うちみ【打ち身】うずみ	うまいもの【旨い物】んめあおの
うちもも【内腿】うずもも	うまうまと んまんまど
うちわ【団扇】うづわ	うまげ【馬毛】んまのそ
うつ【打つ】ただぐ、ぶたぐ、ぶづ	うまぞり【馬糞】ばしより
うっかり うっかど	うまづら【馬面】んまづら
うつくしい【美しい】うづぐす、めんごげ	うまのせ【馬の背】んまのへ
うったえ【訴え】うってあー	うまのなきごえ【馬のなき声】いーほほ
うったえる【訴える】うってあーる	うまのほね【馬の骨】んまのほね
うとうしい うっとす	うまのり【馬乗り】んまのり
うつぶす【打つ伏す】うつぶす	うまひき【馬曳き】んまひぎ
うつぶせる【うつ伏せる】うずぶへる、つぐばる	うまぶね【馬槽】んまのおげ
うつりが【移り香】いろう、うづりが	うまみ【旨み】んまみ
うでつぶし【腕っ節】うでぶす	

うまや【馬屋】まや
 うまやごえ【厩肥】まやごえ
 うまる【埋まる】んまる
 うまれ【生れ】んまれ
 うまれおちる【生れ落ちる】んまれおずる
 うまれかわる【生れ変わる】んまれがわる
 うまれたてのどうぶつ【生れたての動物】あがむぐれ
 うまれつき【生まれつき】んまれつき
 うまれる【生まれる】んまれる
 うみ【膿】んみ
 うみおとす【産み落とす】んみおどす
 うむ【熟む】んむ
 うむ【産む】んむ
 うむ【膿む】んむ
 うめ【梅】んめこ
 うめあわせる【埋め合せる】んめあへる
 うめたてる【埋め立てる】んめだてる
 うめづけ【梅漬け】んめこ
 うめる【埋める】えげる、んめる
 うようよ ぐやぐや、ごやごや、ばやばや、わやわや
 うらがえす【裏返す】うらげあす
 うらぐち【裏口】うらのぐず
 うらさびしい【うら淋しい】うらさぶす
 うらせつく【裏節句】うらじえつく
 うらないし【占師】はっけおぎ
 うらみあい【恨み合い】うらみこ
 うらめしい【恨めしい】うらめす
 うらやましい うらやます
 うらやましい【羨ましい】けなり
 うらやむ【羨む】けなりがる
 うりかい【売り買い】うりげあ

うりはだかえで うりき
 うる うるごめ
 うる【売る】さばぐ
 うるう【聞】うる
 うるさい【煩い】うるせあ
 うるさくてあたまがぼうっとなること【うるさくて、頭がぼうっとなること】きあがり
 うるし【漆】うるす
 うるち うるごめ
 うれしい【嬉しい】うれす
 うろうろ うるうる、うるとる
 うろおぼえ【うろ覚え】うるおべ
 うろたえる うるだぐ
 うろつく ほつつぐ、ほろつぐ
 うろんな うろんた
 うわがわ うわか
 うわぎ【上着】ゆわぎ
 うわさ ぶ
 うわずみ【上澄み】ゆわずみ
 うわっぱり【上っ張り】ゆわぱり
 うわづみ【上積み】ゆわづみ
 うわつら うわか、ゆわつら
 うわのそらであるくさま【うわのそらで歩くさま】とかばか
 うわばき【うわ履き】ゆわばぎ
 うわべ めんべあ
 うわみずざくら こんご
 うわめ【上目】てんこまなぐ
 うわもの【上物】じょーおの
 うわる【植わる】ゆわる
 うんちん【運賃】うんつん
 うんと へえほであ
 うんどうじょう【運動場】うんどば

うんばんようのもくせいぎぐ【運搬用の木製器 | 具】やへんま

— え —

え どさ

えいようのいいじょうたい【栄養のいい状態】う
づあこえでる

えがたい【得難い】 えがであ

えがらい えがれあ

えがらっぽい えがらっぽえ

えきまえ【駅前】 えぎめあー

えぐい えごてあ

えげつない えげつねあ

えごい えごてあ

えこひいき えごひぎ

えさ【餌】 えば

えぞぎく ちょうへんぎぐ

えぞはるぜみ たねまぎじえみ

えたい【得体】 えてあー

えだうち【枝打ち】 えだはれあ

えだきり【枝伐り】 えだはれあ

えだはらい【枝払い】 えだはれあ

えな【朧衣】 いな

えび【海老】 いび

えびす【恵比寿】 えべす

えびずる さなずら

えびちゃ【海老茶】 いびちゃ

えぷろん【エプロン】 めあっかけ

えむ んむ

えらい【偉い】 えれあ

えらいひとたち【偉い人達】 えれあさんだづ

えりごのみ【選り好み】 えれぎれあ

える【選る】 いる

えんがわ【縁側】 えがわ

えんすい【塩水】 ししょみず

えんどう にんどまめ

えんとつ【煙突】 けぶだす

えんぴつ【鉛筆】 いんぴづ

えんぼう【遠方】 とっかだ

えんりょ【遠慮】 じんぎ、ずんぎ

— お —

- お【尾】おっぱ
 おい【甥】おえ、ひべがす
 おいかえす【追い返す】おいげあす
 おいかける【追いかける】ぼかげる
 おいこす【追い越す】のっこす
 おいだす【追出す】ぼたぐる、ぼだす
 おいたちちおや【老いた父親】おやずさま
 おいたてる【追い立てる】おったでる、ぼたでる、
 ぼったでる
 おいたははおや【老いた母親】おやばさま
 おいつく【追いつく】おつつぐ、かつぐ
 おいつめる【追い詰める】ぼいつめる
 おいて【追い手】ぼいと
 おいはらう【追い払う】ぼこぐる、ぼっぱらう
 おいまくる【追いまくる】ぼいまぐる
 おいまわす【追い回す】ぼいまわす
 おいわい【お祝い】いわえこど、ゆわえこど
 おう べ
 おう【追う】ぼう
 おうし【牡牛】おどごべご、たねべご
 おうじょう【往生】おーじょ
 おうたい【応対】おーてあー
 おうち【凹地】くぼたみ、ひこたび
 おうちやく【横着】おぢやく
 おうどうこう【黄銅鉱】やまいろ
 おうとする【嘔吐する】あげる
 おうらい【往来】おーれあ
 おえない【負えない】おえねあ
 おおあせ【大汗】おーあへ
 おおあり【大あり】おーあり
 おおい【多い】うげあ、うげあ、おーえ
 おおいかぶさる【覆い被さる】さっかがる
 おおいし【おお石】ごろだ
 おおいたどり うすのした、さすどり、どんぐえ
 おおいたどりのきせいちゅう【おおいたどりの寄
 生虫】どんぐえむす
 おおかせ【大風】おーがじえ
 おおがたとんぼ【大型とんぼ】やまあげ
 おおがたのぼった【大型のぼった】はったぎ
 おおかみ【狼】おおがめ
 おおがら【大柄】おおっくれあ、おーくれあ
 おおきい【大きい】おっき
 おおきいいし【大きい石】ごろだ
 おおきくする【大きくする】おがす
 おおきくなる【大きくなる】おがる
 おおきさ【大きさ】おっきさ
 おおきな【大きな】おっきだ
 おおきなおわん【大きなお椀】はんきわん
 おおきなかじか【大きな鱈】ばんばかつか
 おおきなゆきかきべら【大きな雪かきべら】かし
 ぎ
 おおきに【大きに】おーぎん
 おおぐらい【大ぐらい】おおまぐれあ
 おおぐらい【大食らい】おーぐれあ
 おおざら【大皿】さはず
 おおざらにもったりょうり【大皿に盛った料理】
 すずりぶだ
 おおしおからとんぼ しっしょがらあげ
 おおぜい【大勢】おーじえー
 おおなえ【大苗】おーねあ

おおばかもの【大馬鹿者】おーばがおの
 おおばぎぼうし うるえ
 おおばこ びっきんくさ
 おおはんごんそう へえごし
 おおふぶき【大吹雪】おーぶぎ
 おおぶろしき【大風呂敷】おーぶるすぎ
 おおまくらい【大まくらい】おおまぐれあ
 おおまた【大股】おおあご
 おおまゆ【大繭】おおめあ、おーめあっこ
 おおみず【大水】おーみず
 おおめ【大目】うげあめ
 おおもの【大物】であおの
 おおゆき【大雪】おーゆぎ
 おかいこぐるみ【お蚕ぐるみ】おげあーごぐるみ
 おかえし【お返し】おげあーし
 おがくず【おが屑】ひぎくず
 おかし【お菓子】おがす、んめあおの
 おかしい おがす
 おかしらつき【尾頭つき】おがすらつき
 おかず おせあ、せあ
 おかどちがい【お門違い】おがどつげあー
 おかね【お金】じえんじえ
 おかまい【お構い】おがめあー
 おかめ みだぐなす
 おかゆ おげあ
 おから とふかす
 おかわり【お代り】おだづ
 おき おぎ
 おぎあー おほげあー
 おきうませ【置き熱ませ】おぎんまへ
 おきかえる【置き換える】おぎげある
 おきづけ【置き漬け】おぎづけ
 おきどけい【置き時計】おぎどげ

おきどころ【置き所】おぎどご
 おぎない【補い】おぎねあー、たそぐ
 おきひ【おき火】おぎ
 おきもの【置き物】おぎおの
 おく【奥】いり
 おくさん【奥さん】あねつあ、だんなかが
 おくて おぐ
 おくのみ【奥の間】いりざしぎ
 おくびょうもの【臆病者】おぐびよーたがり
 おくぶかい【奥深い】おぐふつけあ
 おくりもの【送り物】おぐりおの
 おくりもの【贈り物】おぐりおの
 おけ【桶】こが
 おけいた【桶板】くれ
 おけや【桶屋】たがや
 おこうこ おごご
 おこうこう おごご
 おこげ こび
 おこそずぎん おごそ
 おこない【行い】おごねあ、ひんこ
 おこる【怒る】ごしゃぐ
 おこわ おふかし、ふかす
 おさえ【押さえ】おせあー
 おさえたち【押さえ立ち】おせあだず
 おさえつける【押さえ付ける】おせあずげる
 おさえる【押える】おせある、のちめる
 おさえる【抑える】おせある
 おさまる おだまる
 おさらい おされあー
 おさん【お産】おぼごなし
 おし【唾】おっつ、みみきかず
 おしあい【押し合い】おしえあー
 おしい【惜しい】いだます、おし

おじいさんの【お爺さんの】ず
 おいしいもの【惜しいもの】あったらおの
 おしいれ【押し入れ】おすえれ
 おしえご【教え子】おへご
 おしえる【教える】おしえる、おへる
 おしかえす【押し返す】おすげあす
 おしかける【押し掛ける】おすかける
 おしがる【惜しがる】おすがる
 おじぎ【お辞儀】おずぎ
 おじぎをする ころまる
 おしこむ【押し込む】おっこむ、おっぺす
 おじさん おんつあ
 おしつけがましい【押し付けがましい】おすずげ
 がます
 おしつける【押し付ける】おすずげる、すうづげ
 ー
 おしっこ おつっこ
 おしまい おすめあー、しめあ
 おしめ しんめし、すんめす
 おしゃべり【お喋り】へらうり、へらかだり
 おしゃべりする へらづぐ
 おしゃれ しゃれこ
 おしょう【和尚】あどさま、おしよ
 おしょうこう【お焼香】おしよご
 おしょうばん【お相伴】おえあ
 おしよせる【押し寄せる】おすよへる
 おしる【お汁】おずげ
 おしるなべ【お汁鍋】おづげなべ
 おしるのぐにしたみづな【お汁の具にしたみづ
 な】もぎりみづ
 おしるわん【お汁椀】おずげわん
 おしろい【白粉】おすれ
 おしわける【押し分ける】おすわげる

おす【押す】おつける
 おす【推す】かづぐ
 おせいぼ【お歳暮】せぼ
 おせおせ【押し押し】おへおへ
 おせじ【お世辞】えへあづれあ、けえはぐ、じよ
 うず
 おせっかい【お節介】おせっけあー、こしゃぐ
 おせつかい【お節介】てすづらす
 おせわ【お世話】おへわ
 おぜんだて【お膳立て】おじえんだで
 おそい【遅い】おそえ
 おそなえ【お供え】おそねあ
 おそろおそろ おかねあおかねあ
 おそろしい【恐ろしい】おそろす、おっかねあ
 おだいにちさま【お大日さま】おであんつあま
 おたいらに【お平らに】おであらん
 おたがい【お互い】おだけあ
 おたがいさま【お互いさま】おだけあーさま
 おたく【お宅】にしあえ
 おたくのひとたち【お宅の人達】えのしたづ
 おだてる【煽てる】もへしよわへる
 おたふくかぜ【お多福風】おだふぐかじえ
 おたまじゃくし ぎやらくと
 おちおち おつおつ
 おちぐち【落ち口】おずつり
 おちち【お乳】つづこ
 おちつく【落ちつく】おだまる
 おちめ【落ち目】おづめ
 おちゃ【お茶】おぢや
 おちやがし【お茶菓子】おぢやうげ
 おちやがしのつかないおちゃ【お茶菓子のつかな
 いお茶】からちや
 おちゃづけ【お茶づけ】おぢやづけ

おちゃのま【お茶の間】おちゃのま
 おちゃらかす おちよくらがす、ちよろがす
 おちる【落ちる】おづる、しばだぎおずる、ひば
 だぎおづる、ひぼろぎおずる、ほろげおずる
 おつかい【お使い】おづけあ、こまづけあ
 おつかける【追つかける】ぼかげる
 おっかない おかねあ、おけあ
 おつかない おっかねあ
 おっかぶせる おっかぶへる
 おつきさま【お月さま】あどさま
 おっくう【おつくう】おもやみ
 おつつかない たげあただねあ
 おつつける おつける
 おっと【夫】あに
 おつり けあり
 おてだま【お手玉】あやこ、じゅうすづ
 おてのもの【お手の物】おでのおの
 おてんきや【お天気屋】きげんじょうご
 おとうと【弟】おず、おんつあ
 おとうとのひしょう【弟の卑称】だめおず
 おとうみょう【お燈明】おどみよー
 おとがい おどげあ
 おどける どげる
 おとこ【男】おどごしと
 おとこいちひき【男一匹】おどごえっぴぎ
 おとこぎらい【男嫌い】おどごぎれあ
 おとこざかり【男盛り】おどござがり
 おとこたち【男達】おどごしたず
 おとこのこ【男の子】おどごわらす、やろこおぼ
 ご
 おとこのすみこみやといにん【男の住み込み雇
 人】わがじえ
 おとこのひと【男の人】おどごしと

おとこへのあくたいご【男への悪態語】かぶけや
 ろ
 おとこまえ【男前】おどごめあー
 おとこもの【男物】おどごおの
 おとこやもめ【男やもめ】かがもだず
 おとこらしい【男らしい】おどごらす
 おとしみそ【落し味噌】おどすみそ
 おとしもの【落し物】おどすおの
 おととい【一昨日】おどでな
 おととし【一昨年】おどどす
 おとなげない【大人気ない】おどなげねあ
 おとなしい【大人しい】おどなす、およだ
 おとなびる【大人びる】おどなくせあ
 おとりあゆ【おとり鮎】たなあゆ
 おとる【劣る】ぶどり
 おどろく【驚く】どでする
 おとをさせる【音をさせる】めがす
 おないどし【同い年】おねあどし、しととし
 おないどしのししゃへのくよう【同い年の死者へ
 の供養】みみふたぎ
 おなじ【同じ】おんなし、しとず
 おなじところ【同じ所】しとどご
 おなじに【同じに】いずろぐん
 おなじねんれい【同じ年齢】おねあどし
 おにごっこ【鬼ごっこ】おにこすめ、ぼいこ、め
 ぐらぼっち
 おにのやがら へびのであーもず
 おにばば【鬼婆】おにばんば
 おにび【鬼火】ひだま
 おにゆり にがゆり
 おによけ【鬼除け】おによげ
 おね【尾根】ながね
 おねをよこぎるみち【尾根を横切る道】へぐり

おばあさん【お婆さん】ばさま
 おはか【お墓】はがど
 おはかまいり【お墓参り】おはがめあり
 おばすてやま【姥捨山】んばすてやま
 おはち おはづ
 おはらい【お祓い】おはれあー
 おびしろはだか【帯代裸】びろびろ
 おひたし おしたし、したす
 おひとよし【お人好し】けっこーずん
 おひなさま おひなこ
 おびをしめないすがた【帯をしめない姿】おびす
 ろはだが
 おぶう んぶう
 おぶさる んばる、んぶさる
 おべつか えへあづれあ、けえはぐ
 おぼえ【覚え】ほんず、ほんであ
 おぼえがき【覚え書き】おべがぎ
 おぼえる【覚える】おべる
 おまいり【お参り】おめあり
 おまえ【お前】いし、おめあ、おんてあー、にし、
 んつ
 おまえさん【お前さん】おめあさん
 おまえのいえ【お前の家】にしあえ
 おませ こしゃぐ
 おみなえし きごばな
 おむつ しんめし、すんめす
 おめかしをする めがす
 おめでたい【お目出度い】おめでてあ
 おもい【重い】おもえ、おもであ
 おもいあわせる【思い合わせる】おもいあへる
 おもいおもいに【思い思いに】てんでこで
 おもいかえす【思い返す】おもいげあす
 おもいがけない【思いがけない】おもいがげねあ

おもいだす【思い出す】あずだす、あずつける
 おもいちがい【思い違い】おもいつげあー
 おもくるしい【重苦しい】おもくるす
 おもしろい【面白い】おもしえ、おもしろ
 おもったより【思ったより】もさば
 おもて えのめあ
 おもてがえ【表替え】おもでげあー
 おもわしい【思わしい】おもわす
 おやすい【お安い】おやす
 おやつ こまぐれあ
 おやのゆるしのないふうふ【親の許しのない夫
 婦】すぎずれ
 おやみ【小止み】こばれ
 おやゆび【親指】おおゆび
 およばない【及ばない】およばねあ
 およびつかわれるひと【および使われる人】わぎ
 ふ
 おりあい【折り合い】おりえあー
 おりかえし【折り返し】おりげあす
 おりもの【織り物】おりおの
 おる【折る】おしよる
 おれ【俺】おら
 おれい【お礼】ごごろ
 おれいがえし【お礼返し】おれげあす
 おれいのしるし【お礼のしるし】ごごろ
 おれいまいり【お礼参り】おれめあり
 おれずにまがる【折れずに曲る】しわる
 おれたち【俺達】おら、おらだ
 おれる【折れる】おしよれる
 おわらせる【終わらせる】おやす
 おわりはつもの【終り初物】おわりはづおの
 おんがえし【恩返し】おんげあし
 おんたい【御大】おんてあー

おんとう

おんとう【穏当】おんと

おんな【女】かぶけぼず、へな

おんなぎらい【女嫌い】おなごぎれあ

おんなざかり【女盛り】おなござがり

おんなたち【女達】おなごしたず

おんなだてらに【女だてらに】おなごだでらん

おんなたらし【女誑し】おなごたらす

おんなで【女手】おなごで

おんなのいんぶ【女の陰部】べちよこ

おんなのこ【女の子】おなごわらす

おんなのちぶ【女の恥部】どで

おんなのひと【女の人】おなごしと

おんなもの【女物】おなごおの

おんならしい【女らしい】おなごらす

おんぶ ばっば

おんぶする んばる

—か—

- か が、がや
 か【蚊】よが
 が あ、ども
 が【蛾】べっと
 かあさん【母さん】がが
 かい ~や、がや
 かい【回】けあー
 かい【貝】けあっこ、けあー
 かい【効】けあ
 がい【害】げあ
 かいおき【買いおき】けあおぎ
 かいがいしい【甲斐甲斐しい】けあーげあーす
 かいかえる【買い替える】かいげある
 かいがら【貝殻】けあっこがら
 かいき【回忌】~けあーき
 かいぎょうい【開業医】まずえしゃ
 かいぐい【買い食い】かいぐれあ、けあーぐい
 かいぐすり【買い薬】けあぐすり
 がいけん【外見】みだご
 がいけんがわるい【外見が悪い】めくせあ
 かいこ【蚕】おごさま
 かいこだな【蚕棚】こだな
 かいこだなようのさお【蚕棚用の竿】こだなぼげ
 かいこのきゅうみん【蚕の休眠】よどむ
 かいこのせいちょうだんかい【蚕の成長段階】し
 とつつおぎ
 かいざいく かなながらばな
 かいしゃ【会社】かえしゃ
 がいしゅつぎ【外出着】でだず
 かいしょう【甲斐性】けあしよ
 かいじる【貝汁】けあっこずる
 かいせん【疥癬】けあつけあ
 かいぞえ【介添え】けあーぞえ
 かいたいする【解体する】ほどがす
 かいだん【階段】がつき、だんぎ
 かいちゅうどけい【懐中時計】かいちゅーどげ
 かいて【買い手】けあーて
 かいど【灰土】すべあ
 かいどう【街道】けあど
 かいぬし【飼い主】けあーぬす
 かいのかせき【貝の化石】けあっこがだ
 かいばおけ【かいば桶】んまのおげ
 かいばしら【貝柱】けあーばすら
 かいふくする【回復する】しったづ
 かいぶし【蚊燻し】かえぶす
 がいぶん【外聞】げあーぶん、しとぎぎ、しとめ
 あ
 がいぶんがわるくてはずかしいこと【外聞が悪く
 て恥かしいこと】ものさだげねあ
 がいまい【外米】がいめあ
 かいみょう【戒名】けあーみよー
 かいもの【買い物】かいおの、けあーおの
 かいろ【懐炉】けあーろ
 かいわい【界隈】けあーわえあー
 かえうた【替え唄】けあーうだ
 かええり【替え襟】あがどり
 かえぎ【替え着】けあーぎ
 かえしぬい【返し縫い】けあしぬい
 かえす【帰す】けあす、けあーす
 かえす【返す】けあーす、けあす

かえす【孵す】けあーす	かかわり かがさわり
かえすがえす けあすげあす	かかわりあい かがりえあ
かえだま【替え玉】けあだま	かきあつめる【掻き集める】かぎあずべる、はだ げる
かえち【替え地】けあーつ	かきかえ【書き替え】かぎげあ
かえて【却って】けあて	かききえる【掻き消える】かぎける
かえり【帰り】けあり、けあーり	かきそんじ【書き損じ】かぎそだし
かえりうちにあう【返り討ちに会う】しっぺくー	かきとる【かき取る】はだげる
かえりがけ【帰りがけ】けありしめあ、けあーり がげ	がきまい【餓鬼米】がっきめあ
かえりぐるま【帰り車】けあーりくるま	かきまぜる【かき混ぜる】かます
かえりじたく【帰り仕度】けあーりじだぐ	かきまわす【掻き回す】かぎます、かます
かえりしな【帰りしな】けありしめあ	かくがい【格外】かぐげあー
かえりみち【帰り道】けあーりみず	かくざい【角材】かぐぜあー
かえる【蛙】びっき	かくざい【家具材】かぐぜあー
かえる【帰る】けある、けあーる	かくざとう【角砂糖】かぐざど
かえる【変える】けある	かくし かぐす
かえる【返る】けある	かくしき【格式】かぐすぎ
かえる【孵る】けある	かくしき【学識】かぐすぎ
かえるおよぎ【蛙泳ぎ】びっきおよぎ	かくしゃべる【角シャベル】かぐしゃぶろ
かえるのつらにみず【蛙の面に水】びっきのつら さみづ	かくすこっぷ【角スコップ】かぐしゃぶろ
かお【顔】むがつら	かくたい【楽隊】かくてあー
かおあらい【顔洗い】つらあれあ	かくまき【角巻き】かぐまぎ
かおあわせ【顔合わせ】かおあへ	かぐら【神楽】かんぐら
かかあ かが	かぐらまい【神楽舞】かんぐらます
かかえこむ【抱え込む】かげあーごむ	かくれんぼ かぐれぼつつ
かかえる かげある	かくれんぼう かぐれぼつ
かかと【踵】あぐど	がけ ～しめあ、しめあ、すめあ
かかとをおおうぬの【かかとをおおう布】あぐど かげ	がけ【崖】がっかげ、がんくら、くら、ゆわがん くら
かがみもち【鏡餅】おそねあ	かけあわせ【かけ合わせ】かげあへ
かがむ しゃがまる、つつこまる	かけあわせる かげあへる
かかる かがる	かけかえ【掛け替え】かげげあー
	かけがえ【掛け替え】かげげあー

かけがね かんかね	かすがい【鍔】かすげあー、つかみ
がけからおちること【崖から落ちること】くらお ず	かすら【曇】かんすら
かげぐち【陰口】かんげぐづ、ざんぞ	かぜ【風】かじえ、かじえのさぶろ
かげぐちをつくこと【陰口をつくこと】ほろぐ	かぜ【風邪】かじえ
かけじく【掛軸】かげず	かせぎ【稼ぎ】かへぎ
かげぜん【陰膳】かげじえん	かせぐ【稼ぐ】かへぐ
かけっこ はしりくれあご	かぜとおし【風通し】かじえとす
がけつぶち【崖っ縁】がげばだ	かぜのこ【風の子】かじえのこ
かげのうら【陰の裏】かんげ	かぜのたより【風の便り】かじえのたより
かけのまねごと【賭の真似ごと】ずほこ	かぜひき【風邪引き】かじえひぎ
かげぼうし【影法師】かげぼっつ	かぞえたてる【数え立てる】かじえたでる
かげもかたちも【影も形も】こぐれあど	かぞえどし【数え年】かじえとす
かける くえる	かぞえる【数える】かじえる
かける【掛ける】かう	かぞく【家族】かねあ
かける【書ける】かがる	かたい【固い】かであ
かこつける【託ける】かんつける	かたいいし【堅い石】いぎいし
かさ【嵩】がさ	かたいじ【片意地】ぎっちよげあ
かさぎ【笠木】かさぎ	かたかけになわ【肩掛け荷縄】かだかげにんな
かさぶた かさひてあ	かたがわ【片側】かだつら
かざまつり【風祭り】かざまづり	かたき【堅木】かだぎ
かざりもの【飾り物】かざりおの	かたくち【片口】かだぐづ
がし【餓死】かずれずに	かたくちどん【片口井】かだぐづ
かじか かつか	かたくなる【堅くなる】しゃきばる
か시코 かこ	かたくり かだご、ほけちよばな
か시코い【賢い】はしけあ	かたくるしい【堅苦しい】かだぐるす
がしする【餓死する】ひしぬ	かたぐるま【肩車】かだくび、くびこ
かしましい【姦しい】かすます	かたけ【片食】～がだげ
かしょくする【假植する】やどう	かたじけない【忝ない】かだずげねあ
かじりちらす【かじり散らす】くっちゃぼる	かたちんば えっちよ、かだつつがだつつ
かじる【噛じる】かづる	かたづく【片付く】かだづぐ
かしわ【柏】かしゃぎ	かたつむり かだつぶ
かすい【花穂】ぶすこ	かたのすじ【肩の筋】けんびぎ
	かたはし【片端】かだっぱす

かたばみ かつこべ	かっぱらう かつつあらう
かたほう【片方】かだこび、かだした	かてめし【糍飯】かだまま
かたほうづつ【片方づつ】かだつがだつ	かどいし【角石】しょうじ、ひてあ
かたまりのおおきなこうせつ【塊の大きな降雪】 ぼさぼさゆぎ	かない【家内】かねあ
かたむく【傾むく】かだがる	かなえる【叶える】かねある
かためん【片面】かだつら	かなきりこえ【金切り声】きんきんごえ
かたもらい【片貰い】かだもれあ	かなしい【悲しい】かなす
かたゆき【堅雪】かだゆぎ	かなしむ【悲しむ】あわれみる
かたゆきわたり【堅雪渡り】かだゆぎわたり	かなだらい【金だらい】かなだれあ
かたよせる【片寄せる】えっちよづげる、かだよ へる	かなづち【金槌】せあんづつ
かたる【語る】かだる	かなへび かなちよる
かちかち かつかつ	かなもの【金物】かなおの
がちがち がつがつ	かならず【必ず】なつても、ほつても
かつ【勝つ】かう	かに【蟹】がんに
かつえる【餓える】かづれる	がにまたのようにあるくさま【がに股のように歩 くさま】えかまか
かつおぶし【鯉節】かづぶす	かねしゃくし【かね杓子】かねじゃぐす
かつかつ おつつかつ	かねづかい【金遣い】かねつけあ
がつがつくうもの【がつがつ食う者】かづればえ ど	かねる【兼ねる】かねある
がっかりする つからおどす	かぼう【庇う】ふたんなる
かつぐ かづぐ、のへる	かびくさい【黴臭い】かぶけくせあ
がっくり がつたり	かびたもち【かびた餅】かぶけもず
かつこう【格好】かつこ、かんめあ、ざんま	かびる かぶける
かつこう【郭公】かつこ	かぶ【蕪】かぶこ
がっこう【学校】がっこ	かぶせる【被せる】かぶへる
がっしり がつつり	かぶとむし おにがら
かったそうだ けど	かぶとむしのようちゅう【かぶとむしの幼虫】こ えづがむす
かったるい かつたり、かつたるえ	かぶり【頭】かんばん
がちり がつつと	かぶりつく かぶずぐ
かってに【勝手に】てどりあしどり	かぶりもの かぶりおの
かっぱらい【掻っ払い】かっぱれあ	かぶわけ【株分け】ねわけ
	かほう【下方】したかだ

かま【鎌】かんま
 がま ふぐだびつき
 がま【蒲】がんば
 かまいたち かまいだず
 かまう かもう
 かまえ【構え】かんめあ
 かまえる【構える】かめある
 がまがえる ふぐだびつき
 かまきり えぼむす、えんべあぼつつ
 がましい ～がます
 がまずみ ゴーみ
 かまつき かまつぎ
 かまつち【かま土】かまつず
 かまど へつつ
 かまぼこ かまぶぐ
 かまをかける かんまかげる
 がまんする【我慢する】はらつかむ
 かみおろし【神おろし】おながば、くづよへ
 かみおろしのもうじよ【神おろしの盲女】ぼさま
 かみきりにくい しなこえ
 かみころす【噛み殺す】くっころす
 かみざいく【紙細工】かみぜあーぐ
 かみしばい【紙芝居】かみすんべあ
 かみつく【噛み付く】かぶずぐ
 かみなり【雷】ごろごろさま
 かみなりさま【雷さま】れあーさま
 かみまいり【神参り】かみめあーり
 かみんちゅうのいちれいのかいこ【假眠中の一令
 の蚕】しとつつよども
 かめ【亀】かめのご
 がめつい がめつ
 かめむし へくさば
 かもしか あおしし

かやであんだゆきがこい【かやで編んだ雪囲い】
 おだれ
 かゆ【粥】おげあ
 かゆい けあ
 かよいちょう【通い帳】かよえ
 かよわい みじよけねあ
 から おん、さげあ、ばげあ
 がら【柄】がらこ
 からい【辛い】かれあ
 からいど【空井戸】からえど
 からいばり【空威張り】からえばり
 からかう えへあたがる、おちよぐらがす、ちよ
 す、ちよすます、なくさむ
 からからにかわく【からからに乾く】ひからびる
 からきし からきり
 からしなづけ【からしな漬け】おみづげ
 からじる【空汁】からちる
 がらすのおはじき【ガラスのおはじき】ぎやま
 からすのぎょうずい【鳥の行水】からすのみずあ
 び
 からせき【空咳】からへぎ
 からだ【体】かばね、がんがら、らってあ
 からだをふること【体をふること】みぼろぎ
 からっぽ がらんぽ
 からて【から手】からつら
 からどう【空洞】がんど
 からばたけ【空畑】からばだけ
 からまる【絡まる】とっからまる、ふがらまる
 からまわり【空回り】からまり
 からみ【から身】てぶり
 がらみ まづら
 からむ からまぐ
 からりと からっと

がらりと がらっと
 がらんと ががらんと
 かりあげのせつく【刈り上げの節句】かりあげの
 へっく
 かりずまい【借り住い】しゃぐやずめあ
 かりずまい【假住居】かりずめあー
 かりはらい【刈払い】かりはれあ
 かりはらう【刈払う】かっぱらう
 かりゅう【下流】すも
 かるい【軽い】かるえ、かるこえ
 かるいちゅうぶう【軽い中風】かすらえる
 かるいはしか【軽いはしか】みっかはしか
 かるがるしい【軽軽しい】かるがるす
 かわあそび【川遊び】かわあそび
 かわいい【可愛い】めんごえ
 かわいがる【可愛がる】めんごがる
 かわいくない えあらずぐねあ
 かわいそう いどす、みずめたらす、むぞせあ
 かわいてしなびる【乾いてしなびる】からびる
 かわいらしい【可愛らしい】かわいらす
 かわかす【乾かす】ひどる
 かわく【乾く】はすらぐ、ひからびる、ひっかわ
 ぐ、ひる、ほへる
 かわぐつ【皮靴】かわけり
 かわせ【爲替】かわへ
 かわせみ すなこどり
 かわとんぼ かっぱあげ
 かわのせ【川の瀬】へえ
 かわのなかのすきま【川の中のすき間】えご
 かわら【川原】から
 かわりだね【変り種】ぶんて
 かわりばえ【代り映え】かわりべあー
 かわりもの【変り者】ぶんて

かわる【変る】けある
 かわるがわる【代る代る】かわりがわり
 かん【疝】かんしょ
 かんいりこのかめのため【寒入り九日目の雨】
 かんくのあめ
 かんがえ【考え】かんげあ
 かんがえごと【考えごと】かんげあーごと
 かんがえつく【考えつく】かんげあーつぐ
 かんがえもの【考えもの】かんげあーおの
 かんがえる【考える】かんげあーる
 かんかく【間隔】はが
 がんぐ【頑具】もじゃすび
 がんこ【頑固】いずげあ
 かんごにん【看護人】あづげあと
 かんじき かんづぎ
 かんしょ【甘藷】さずまえも
 かんじょう【勘定】かんじょ
 かんじょういわい【勘定祝い】かんじょゆわえあ
 かんじょうたかい【勘定高い】かんじょだけあ
 かんしょく【間食】からくづ、こまぐれあ
 がんしょくがしろくなる【顔色が白くなる】すら
 ぱつける
 かんずく【勘ずく】がんどる
 かんせつ【冠雪】ぼだ
 かんせつぶ【関節部】まがりぶす
 がんぜない【頑是ない】がんじえねあ、ほっけあ
 ねあ
 かんそうしておけにすきまのできる【乾燥し
 て桶にすきまの出来ること】すすぎる
 かんそうする【乾燥する】はしゃぐ
 かんたい【歓待】たいぐ
 かんだい【寛大】きあおつき、はらおつき
 かんだかい【甲高い】かんだげあ

かねだかいこえ【甲高い声】ひがひが
 かねだかくするどいこえ【かん高く鋭い声】きん
 きんごえ
 かねたん【簡単】かりやす、さもねあ
 かねたんだ【簡単だ】ぞうさねあ、わけあねあ
 かねたんに【簡単に】ちよっくら
 かねちがい【勘違い】かんつげあ
 かねちゅうにはっせいするかみなり【寒中に発生
 する雷】かんかみなり

かねちゅうのふぶき【寒中の吹雪】かねぶぎ
 かねづく【勘づく】がんでぐ
 かねなくず【飽屑】かながら
 かねのんこう【観音講】おがんのこ
 かねのんさま【観音さま】おがんのさま
 かねばる【頑張る】ぎんばる
 かねびょうする【看病する】あづがう
 かねびょうにん【看病人】あづげあと
 がんらい【元来】ねっから

— き —

- き【気】きー
 き【木】きー
 きいきいこえ【いきいき声】きんきんごえ
 きいたふう【利いた風】きだふー
 きいれ【木入れ】たでごみ
 きいろい【黄色い】きいろえ
 ぎいん【偽印】ねへばん
 きえのこる【消え残る】けのこる
 きえる【消える】ける
 きおい【気負い】もへき
 きかい【機会】きけあ
 きかい【機械】きつけあ
 きがえ【着替え】きげあ
 きがえる【着替える】きげある
 きがおおきい【気が大きい】きあおっき
 きがかり【気がかり】きんくせあ
 きがけ【来がけ】きしめあ
 きがしない【気がしない】～そらねあ
 きかせる【聞かせる】きがへる
 きがつよい【気が強い】きづ
 きかない きがねあ
 きがまえ【気構え】きがめあ
 きがる【気軽】じょうせあ
 きがるい【気軽い】きがるえ
 ぎがん【義眼】えれめ、へれめ
 きかんぼう【利かん坊】きがなし、きがんぼ
 ききあわせる【聞き合せる】きぎあへる
 ききいれる【聞き入れる】きぎへれる
 ききおぼえ【聞き覚え】きぎおべ
 ききかえす【聞き返えす】きぎげあす
 ききぐるしい【聞き苦しい】きぎぐるす
 ききそこない【聞き損ない】きぎそごねあ
 ききちがい【聞き違い】きぎつげあ
 ききづたえ【聞き伝え】きぎつてあ
 ききづらい【聞き辛い】きぎづれあ
 ききどころ【聞き所】きぎどご
 ききにくい【聞きにくい】きぎづれあ、きぎにく
 え
 ききもの【聞きもの】きぎおの
 ききん【飢饉】けがず
 きく【聞く】きぐ
 きくいも きぐえも
 きぐのいっしゅ【器具の一種】おおざれあ、しゃ
 りぎ
 きくばり【気配り】きどり
 きぐらい【気位】きぐれあ
 きくらげ きぐらんげ
 ぎくりと ぎくっと
 きげんのかわりやすいひと【機嫌の変りやすい
 人】きげんじょーご
 きこえていてもへんじをしないこと【聞えていて
 も返事をしないこと】ずらっと
 きこえる【聞こえる】きげる
 ぎこちない ぎごずねあ、ぎごま
 きざっぱい【気障っぽい】きざっぱえ
 きざみたばこいれ【刻煙草入れ】ずんぎり
 ぎしぎし うすびてあ、べごのした
 きじし【木地師】きづひぎ
 きしな【来しな】きしめあ
 きじびき【木地挽】きづひぎ

きしみゆき【きしみ雪】ぎしぎしゆぎ	きづよい【気強い】きづえ
きじゃくし【木杓子】きじゃぐす	きとう【亀頭】がりくび
きしょうのあらあらしいうま【気性の荒荒しい馬】らんかんま	きなくさい【きな臭い】きなくせあ、ひなくせあ
きずもの【きず者】きずおの	きなこ【黄粉】さなご、まめのご
きずもの【きず物】きずおの	きなこもち【黄粉餅】きなごもず
きせいひん【既製品】でぎえあー	きにあう【気に合う】きにやう
きせつ【季節】きへづ、ずへづ、へづ	きにかかる【気にかかる】きんくせあ
きぜつする【気絶する】きしやわりぐする	きにはいる【気に入る】きにやう
きせつはずれ【季節はずれ】へづこげ	きぬもの【絹物】きぬおの
きせる【煙管】きしえる	きね【杵】きぎ
きせる【着せる】きへる、けへる	きのう【昨日】きんな
きぜわしい【気忙しい】きじえわす	きのきりかぶ【木の切株】ぼっこ
きだいきん【木代金】きであーきん	きのきりかぶ【木の伐り株】かっくす
きたえる【鍛える】きてあーる	きのこじる【きのこ汁】このごずる
きたく【帰宅】ゆあがり	きのだいきん【木の代金】きであーきん
きだけ【着丈】きだけ	きのふし【木の節】きっぷす
きだちむら【木立ちむら】きだずやら	きのもくめ【木の木目】もぐ
きたない【汚い】きたねあ	きのやまい【気の病】きのやんめあ
きちがい【気違い】きづげあ	きばえ【着映え】きべあー
きつい きづ、ぎつつ、くつつ	きはこころ【気は心】きあこごろ
きついしゃめん【きつい斜面】ぎつつあが	きはずかしい【気恥しい】きはずがす
きづかい【気遣い】きづげあ	きはだ たんば
ぎつくりこし【ぎつくり腰】ぎつくらごし	ぎばち げあらばず
きっさき【切っ先】きつつあぎ	きばる【気張る】ぎんばる、ねきばる
ぎっしり ぎしっと	きびしい【厳しい】きびす
きづち【木槌】あお、よごづづ	きびだんご きみだんご
きっちり かきっと、きつっと	きまえ【気前】きめあー
きつつき き一つずぎ	きまかせ【気任せ】きまがへ
きつつき【啄木鳥】けらつづぎ、とずはがり	きまくら【木枕】きまぐら
きっと てっきり、なっても	きまずい【気まずい】きまず
きつねび【狐火】ひだま	きまわし【木回し】がんだ
きっぱり がりっと、きっぱど	きみ【気味】きび
	きみ【君】おめあ、おめあさん、おんてあー、て

あしよ
 きみわるい【気味悪い】きびわり
 きむずかしい【気難しい】きごわえ、きむずがす
 ぎむにんぷ【義務人夫】てんま
 きめし【生飯】きめし
 きめどころ【決め所】きめどご
 きもちよく【気持よく】さっくり
 きもの【着物】えしよ、かか、きおの
 きもののおおきさ【着物の大きさ】しとずみ
 きもののがら【着物の柄】がらこ
 きものをきてもんぺをはかないすがた【着物を着
 てもんぺをはかない姿】すっそなが
 ぎやく【逆】あっちゃこっちゃ
 きやくあしらい【客あしらい】きやぐあすれあー
 きやくあつかい【客扱い】きやぐあずげあ
 きやくしょうばい【客商売】きやぐしょーべあー
 きやくぜん【客膳】きやぐじえん
 ぎやくたい【虐待】ぎやくてあー
 ぎやくに【逆に】かっちゃやむぐれん
 きやくよせ【客寄せ】きやぐよへ
 きやすい【気安い】きやす
 きやせ【着やせ】きやへ
 きやたつ【脚立】きやだっつ
 きゆういちがつじゅうごにち【旧一月十五日】こ
 しょがづ
 きゆうくつなこと【窮屈なこと】くっつ
 きゆうけい【休憩】たばこ
 きゆうけいしゃち【急傾斜地】ぎつつあが、じえ
 んめあびら
 きゆうごがつごろのてんこう【旧五月頃の天候】
 さづぎぞら
 きゆうしゃめん【急斜面】ぎつつあが
 きゆうじゅういちがつみっかぜんごにふくふぶ

き【旧十一月三日前後に吹く吹雪】であすこぶ
 ぎ
 きゆうじゅうにがつなのか【旧十二月七日】おな
 のが
 きゆうしょくがかり【給食係】まがねあががり
 きゆうす【急須】きびちよ
 きゆうそう【給桑】かあかへ、かーかへ
 きゆうだい【及第】きゆう一であー
 きゆうに【急に】ぐえら、どえっと、ひよえっと、
 ぼえっと、やふり
 きゆうにうぼう【急に奪う】ひたぐる
 きゆうにがつごろのふぶき【旧二月頃の吹雪】は
 りまぶぎ
 ぎゅつと ぎつと
 きよう【器用】のつけ
 ぎょうぎ【行儀】えざま、ざんま
 ぎょうぎょうしい【仰仰しい】ぎよーぎよーす
 きようさ【器用さ】ちよっけあ
 きようざめ【興醒め】げーざめ
 きようざめる【興醒める】げああさめる
 ぎょうじゃ【行者】おおぎょうさま
 きようしゅつまい【供出米】きよーめあー
 ぎょうしょう【行商】しよいこ
 きようそう【競争】～くれあご
 きようだい きようであ
 きようだい【鏡台】きよ一であー
 きようだいしまい【兄弟姉妹】きようであ
 きようちようのせつとうじ【強調の接頭辞】お
 っ～、かっ～、こっ～、こん～、されあ～、ぶ
 ん～
 きようどう【共同】よれあ
 きようまい【供米】きよーめあー
 きようゆう【共有】よれあ

きょうよう【共用】よれあ
 きょうよう【饗応】ふるめあ
 きょうりよくする【協力する】はらあへ
 きよじゃくだ【虚弱だ】けあねあ
 きよせ【木寄せ】きまぐり、やまだす
 きよとんと きよとっと
 ぎよろぎよろ ぎろぎろ
 きよろりと きよろっと
 ぎよろりと ぎよろっと
 ぎらい【嫌い】きれあ
 ぎらぎら びがびが
 きらす【切らす】きしやす
 ぎりあい【義理合】ぎりえあー
 きりかえ【切り換え】きりげあー
 ぎりかたい【義理堅い】ぎりがであ
 きりかぶ【伐り株】かっくし
 きりそろえる【切り揃える】きつつおろえる
 きりたおす【伐り倒す】きつけあす
 きりまわす【切り回す】きります、くります
 きりょう【器量】ぶりこ

きりりと きりっと
 きる【切る】はやす
 きる【伐る】きたぎる
 きれい【奇麗】きれ、めんごげ
 ぎれい【儀礼】ぎれ
 きれいずき【奇麗好き】きれがだ
 きれない【切れない】ならねあ
 ～きれない【～切れない】～たであらんねあ
 きれはし【切れ端】きりばず、きれっぱす
 きれめなしにふるあめ【切れ目なしに降る雨】じ
 らじらあめ
 ぎろん【議論】ろんぱ
 きわ【際】すめあ
 きをうしなう【気を失なう】ほんずあねあ
 きをつけて【気をつけて】てねんと
 きをつける【気をつける】きつける
 きんきんごえ【きんきん声】ひがひが
 きんざい【近在】きんぜあー
 きんたま【金玉】がもこ
 きんつぼまなこ【金つぼまなこ】かなつぼまなぐ
 きんぴらごぼう【金平牛蒡】きんぴらごんぼ

— く —

ぐあい【具合】あんべあ、ぐえあ
 ぐあいがわるい【具合が悪い】かんじょわり
 くい【杭】くえ、つぐす
 くいあわせ【食い合わせ】くいあへ
 くいうち【杭打ち】くえぶづ
 くいかけ【杭掛け】くえがげ
 くいかける【食いかける】くっかける
 ぐいぐい ぐえぐえ、ごえごえ、ずえずえ
 くいころす【食い殺す】くっころす
 くいしんぼ【食いしん坊】くいすんぼ
 くいちがい【食い違い】くいつげあ
 くいちぎる【食い千切る】かっつぎる、くっつぎ
 る
 くいちらす【食い散らす】くっちやぼる、くっつ
 らがす
 くいつく【食いつく】くつぐ
 くいっばぐれ【食いっばぐれ】くいっばずれ
 くいつぶす【食い潰す】くっつぶす
 くいにげ【食い逃げ】くいねげ
 くいはぐれ【食いはぐれ】くいっばずれ
 くいもの【食食物】くいおの
 くう【食う】く
 ぐうぐう こうこ
 ぐうと うって、ぐって
 くうどう【空洞】がんど
 くうどうのあるき【空洞のある木】うどき
 くうもよう【空模様】そらもよ
 くえない【食えない】かenneあ、けねあ
 くえる【食える】かえる、ける
 くくたち【莖立ち】ふぐだず

くけだい【くけ台】くけであ
 くさい【臭い】くせあ
 くさいきれ【草いきれ】くさえげれ
 くさいほど【くさい程】くせあくれあ
 くさぎ へくさぎ
 くさそてつ こそめ
 くさつけうま【草つけ馬】くさつけんま
 くさのは【草の葉】くさば
 くさび や
 くさびのいっしゅ【楔の一種】ふぐるや
 くさむしり【草むしり】くさむすり
 くさむら【草むら】くさやら
 くさやね【草屋根】くずや
 くさらす【腐らす】くさらへる
 くされ【腐れ】くっされ
 くされえん【腐れ縁】くっされえん
 くじ【籤】くず
 くじのがれ ぐずぬがれ
 くじびき【くじ引き】くずっびぎ
 くしゃくしゃ くちやくちや
 ぐしゃぐしゃ ぐちやぐちや
 ぐしゃつと びじょつと
 くしゃみ あくしゆん、はくしゆん
 くじょう【苦情】くじよ
 ぐしょぬれになるほど【ぐしょ濡れになるほど】
 くさるほど
 くしん【苦心】くすん
 くず【葛】くぞ
 ぐずぐず ぐずらぐずら、ねつくつ、ねつらくつ
 ら

くすぐったい くすぐってあ、こそくてあ、こちよくてあ、もそけあ	くちごと【口小言】くずごと
くすぐる こちよがす	くちごたえ【口答え】くずごであ、へんか
くずこ【くず粉】くつこ	くちごたえする【口答えする】つけあす
くずごめ【屑米】くずめあー	くちさき【口先】くづあんべあ、べんかい
くずす【崩す】くぞす	くちさきでまるめこむ【口先でまるめこむ】ゆいくるめる
ぐずつく ぐすねる	くちすぎ【口過ぎ】くづすぎ
くずまゆ【屑繭】くずめあっこ	くちづたえ【口伝え】くずつてあー
くすり【薬】くそり	くちのあじわい【口の味わい】くづあんべあ
くずれる【崩れる】くぞれる	くちばし【嘴】くずばす
くせ【癖】かんめあ、きしえ、くへ、ざっぺあ	くちびる【唇】くづびた
くせうし【癖牛】くへべご	くちぶえ【口笛】おそぶえ
くそ【糞】うんこ、ばっば、もろみ	くちふさぎ【口塞ぎ】くずふたぎ
くたくた くたらくたら	くちまかせ【口任せ】くずまがへ
ぐたぐた ぐだらぐだら	くちまね【口真似】くずまねあ
くだけまい【砕け米】くだけ	くちや【口矢】くずや
ください【下さい】くだせあ	くちやかましい【口喧しい】くずやがます
くださる【下さる】くだはる	くちよせ【口寄せ】くづよへ
くたばりぞこない【くたばり損ない】くたばりぞごねあー	ぐちをいう【愚痴をいう】くどぐ
くたびれてだるい かったるえ	くちをとがらす【口をとがらす】くづとがける
くたびれる こわえぐなる	くつ【靴】くつく
くだもの【果物】くだおの、なりくだおの	くつした【靴下】くづした
くだものしん【果物の芯】かまど	ぐっしより ぐしょっと、ぐっちゃり
くだらない くだらねあ、どごにくだらねあ	ぐったり ぐたっと
くちあたり【口当たり】くづあんべあ	くつつく くつぐ、ふつぐ
くちい くつつ	くつつける くつげる、ひつげる
くちうるさい【口うるさい】くずうるせあ	ぐつと がえっと、ぐえっと、ぐえら
くちおも【口重】くずおもであ	ぐっぴり ぐびっと
くちがたい【口堅い】くづあかであ	ぐてい【愚弟】だめおず
くちぎたない【口汚い】くずきたねあ	ぐでんぐでん ぐでぐで、でぐんでぐん
くちぐせ【口癖】くずくへ	くどい くどえ、しょねこえ、ねへづ
くちけんか【口けんか】ゆい-あう	くどく【口説く】くどぐ
	くにする【苦にする】くんする

ぐにやぐにや ぐなぐな
 ぐにやっと ぐなっと
 くび【首】くびたま
 くびかざり【首飾り】くびかざり
 くびくくり【首くくり】くびかがり
 ぐびぐび ごびらごびら
 くべる さっくべる
 くぼち【窪地】ひどこ
 くま【熊】くまのしし
 くみあい【組合】くみえあー
 くみあわせ【組み合わせ】くみあへ
 くみあわせる【組み合わせる】くみあへる
 くみかえる【組み替える】くみげある
 くものうえ【雲の上】くものゆえ
 くもをかすみと【雲を霞と】しりこささて
 くやしい【口惜しい】くやす
 くらい【暗い】くれあ
 くらい【位】くれあ
 くらいつく【食らいつく】くれあづぐ
 くらいどり【位取り】くれあどり
 くらう【食らう】まぐらう
 くらがえ【鞍替え】くらげあー
 くらくらする まぐまぐする
 くらしぐあい【暮し具合】くらすあんべあ
 くらしむぎ【暮しむぎ】うづわ
 くらすみ【暗隅】くらすま
 くらのいりぐち【蔵の入口】じょうのぐづ
 くらばらい【蔵払い】くらばれあ
 くらべ【比べ】～くれあご
 くらべもの【比べ物】くらべおの
 くらのやみ【暗闇】くらすま
 くりあわせる【繰り合わせる】くりあへる
 くりかえす【繰り返す】くりげあす、ぬがげあす

くりのいが【栗のいが】えが
 くりのき【栗の木】くんぬぎ
 くりまわす くります
 くるくる くりくり
 ぐるぐる ぐりぐり
 くるしい【苦しい】くるす、へづねあ
 くるぶし くろごぶし
 くるまいど【車井戸】くるまえど
 くるまだい【車代】くるまであ
 ぐるみ がらみ、まづら
 くるみあえ しらあえあ
 くるみのあえもの しらあえあ
 くるむ つっくるむ
 ぐるり ぐるっと
 ぐるりと ぐりっと
 くれ ころ
 くれ【暮】つめ
 くれる あげる、くえる、ける
 くろい【黒い】くれ、くろえ
 くろう【苦勞】てあぎ
 くろざとう【黒砂糖】くろざど
 くろすずめばち すなこぼづ
 くろつち【黒土】くろぼぐ
 くろっばい【黒っばい】くろぼえ
 くろばえ くそべあ
 くろめ【黒目】ほどげさま
 くわ【桑】かあ
 くわ【鍬】か
 くわえる くわぐ
 くわがたむし おにがら
 くわがたむしなどのようちゅう【くわがたむし等の幼虫】ごどごどむす
 くわかりがま【桑刈り鎌】かーかりがんま

くわきりぼうちょう【桑切り包丁】かーきりぼえ
じよ
くわしい【詳しい】くわす
くわずぎらい【食わず嫌い】くわずぎれあ
くわせる【食わせる】かへる
くわつみ【桑摘み】かあこぎ、かーこぎ

くわのき【桑の木】かんぬぎ
くわのひんしゅめい【桑の品種名】あがき
くわのみ【桑の実】かngo
くわばら【桑原】かんばら
くわれる【食われる】かえる
ぐんにやり ぐなっと

— け —

けいご【敬語】 いやづけあ
 けいさん【計算】 かんじょ
 けいしゃち【傾斜地】 ひら
 けいだい【境内】 けーであー
 けいと【糸】 けーど
 けいとう【鶏頭】 けどぎ
 けいとものしゃつ【糸のシャツ】 じゃげづ
 けいふん【鶏糞】 とりけあす
 けいべつする【軽べつする】 やすめる
 けいろ【毛色】 けーろ
 けかえす【蹴返す】 けげあーす
 けぎらい【毛嫌い】 けぎれあー
 げざい【下剤】 げぜあー
 けしかける ほきかげる
 けずる【削る】 かつぺずる、けつぺずる、へずる、
 へづる
 げたげた げだげだ
 げたすけーと【下駄スケート】 かなずば
 けたちがい【桁違い】 けだつげあ
 けたはずれ【桁外れ】 けだつばずれ
 けだるい けだり
 けち けつ、ねつかれあ、ねつび、ねづ
 けちくさい【けち臭い】 ひんねず
 けちけちする けつめぐ、しびたれる
 けちる けつめぐ
 けちんぼ【けちん坊】 しびたれ
 けちんぼう【けちん坊】 けつんぼ
 けつえん【血縁】 ながなが
 けつかる けづがる
 げっけい【月経】 つぎのおの

けっこうじん【結好人】 けっこーずん
 げっこうする【激昂する】 たづびあがる
 けっこんしき【結婚式】 さがづけごど、むがさり
 けっして【決して】 ほつても
 けつぞく【血族】 つのみづ
 げっそり げそつと
 けつたいな けつてあーだ
 けつと【ケツ】 かぐまぎ
 けつとう【血統】 まぎ
 けつまずく けずまがる
 けとばす【蹴飛ばす】 ふんごろばす
 けはい【気配】 けへあー
 けばけばしい けばけばす
 けぶかい【毛深い】 けむぐじゃら
 けむい【煙い】 けぶてあ
 けむし【毛虫】 けらむす
 けむたがる【煙たがる】 けぶてあがる
 けむだし【煙出し】 くど、けぶだす
 けむり【煙】 けぶ
 けむる【煙る】 えぶる
 けもの【獣】 けだおの
 けら き一つすぎ、けらつづぎ、てでばら
 けらい【家来】 けれあー
 げり【下痢】 はらとがし
 けれども げんとも
 ければ ば
 けろつと けそつと、けろんと
 けろりと けそつと、けろんと
 けわしい【険しい】 けわす
 けんか えさげあ

けんかをうる つかがる

げんき【元気】あれあ

げんこ ごんけづ

けんこう【健康】あれあ

げんこつ【拳骨】ごんけづ、はりもず

げんごろう ひらか

げんざい【現在】げんぜあー

けんとう【見当】けんと、めがん

げんなり ぐなっと

げんまい【玄米】げんめあ

けんやく【儉約】しまつ、ねづ

— こ —

- こい【鯉】こえ
 こい【濃い】こえ
 こいし【小石】いしなご
 こいしい【恋しい】こいす
 こいしのおおいところ【小石の多い所】いすから
 こいつ けあづ
 こいづか【肥塚】こえすが
 こいに【故意に】わんごど
 こいはなじる【濃い鼻汁】ごだんばな
 こいわずらい【恋煩い】こいわずれあ
 こう こ、こげあ、べ
 こううんようぐ【耕運用具】まんが
 こうか【高価】こうであ、たぐあであ
 こうがやすい【口蓋垂】のどしんつこ
 こうかつなもの【狡猾な者】ずるすけ
 こうかんする【交換する】ばぐる
 こうごうしい【神神しい】こーごーす
 こうさい【交際】こーせあー、つぎえあ
 こうさくきかい【工作機械】こーさぐきつけあ
 ごうさらし【業晒し】ごうつつあらし
 こうし【格子】こう
 こうし【仔牛】ここべご
 こうしょ【高所】たがで
 ごうじょう【強情】ぎっちよげあ、ごうじよ、ひ
 のず
 ごうじょうっぱり【強情っ張り】えつたがり
 ごうじょうぱり【強情張り】ごーじよっぱり
 ごうじょうをはる【強情を張る】つばる
 こうしんさまのまつりび【庚申さまの祭り日】お
 ひます
 こうずい【洪水】おーみず
 こうせつ【交接】べっこやり
 こうぜん【公然】おおでん
 こうたい【交替】こーであー、ばんがわり
 こうだい【広大】こーであー
 こうだい【香代】こーであー
 こうたけ すすだけ
 こうちよくする【硬直する】しょきばる
 こうつうどめ【交通止め】ぱんと
 こうつごう【好都合】こーつご
 こうでん【香典】こーであー
 こうでんがえし【香典返し】こーでんげあーし
 こうはい【交配】かげあへ
 こうばい【勾配】こうべあ
 こうはいする【交配する】がげあへる
 こうばしい【香ばしい】こばす
 こうふく【幸福】しっしやわへ
 こうふこうへのししゅつ【幸不幸への支出】ぎり
 しゅび
 こうもり こんもり
 こうもり【蝙蝠】こんもり
 こうもんきん【肛門筋】かがり、けつつのご
 こうる【梱る】こる
 こうるさい【小煩い】こうるせあ、されあうるせ
 あ
 ごえいか【御詠歌】ごえが
 こえおけ【肥桶】だらおげ
 こえば【越え場】こえぱ
 こえひきみち【肥曳き道】こえひきみず
 こおけ【小桶】こが

こおり【氷】すが
 こおりざとう【氷砂糖】こりざど
 こおりだいこん【凍り大根】すみであごん
 こおりつく【凍り付く】すみずぐ
 こおりのはったがわでのぎょほう【氷の張った川
 での漁法】すがげあ
 こおりもち【凍り餅】こりもち
 こおりもれ【氷漏れ】すがむり
 こおる【凍る】しみる
 こーるたーる【コールタール】こるたん
 こがら【小柄】こべそぐ
 こぎく【小菊】まめぎぐ
 こぎたない【小汚い】こきたねあ
 ごきとう【御祈祷】ごぎど
 こきみ【小気味】こっきび
 こぎれい【小奇麗】こぎれ
 こぎれをたくさんつなぎあわせること【小布を沢
 山つなぎ合わせること】はぬう
 こぎれをぬいあわせること【小布を縫い合せるこ
 と】はぬう
 こく こぐ
 こくうぞうさま【虚空蔵さま】こぐぞさま
 こくうぞうぼさつ【虚空蔵菩薩】こぐぞさま
 ごくごとく とごごど
 ごくすくないこと【極く少ないこと】つらあれあ
 こくそ【蚕糞】こっかす
 ごくりと ぐびっと
 ごくろう【ご苦労】ごごろ
 こげくさい【焦げ臭い】こげくせあ
 こけし こげす
 こげつく【焦げ付く】こびづぐ、やぎずぐ
 こける ひっこげる
 ここ【此処】こ、ここ

ごこう【後光】ずご
 ごごう【五合】ごんご
 ごごえる【凍える】かげある、かんげあーる
 ごこく【後刻】えんめあ
 こちよい【心地よい】きもずえ
 ごごと【小言】えこえこ
 ごごとかうべい【小言こうべい】えがみのごんた
 ここのつ【九つ】ごごのつつ
 ごごみ ごごめ
 ごごめる ごごまる
 こころいわい【心祝い】こごろゆわえあ
 こころえちがい【心得違い】こごろえつげあ
 こころおぼえ【心覚え】こごろおべ
 こころがまえ【心構え】こごろがんめあ
 こころぐるしい【心苦しい】こごろぐるす
 こころづかい【心遣い】こごろずげあ
 こころづけ【心付け】こごろ
 こころづよい【心強い】こごろずえ
 こころない【心無い】こごろねあ
 こころばかり【心ばかり】こごろばり
 こころぼそい【心細い】こごろぼそえ
 こころもとない【心許ない】こごろもどねあ
 こころやすい【心安い】こごろやす
 こころよわい【心弱い】こごろよわえあ
 ごさい【後妻】あどかが、ごげかが
 ございます ござりあす
 こざかしい【小賢しい】こざがす
 こさくりょう【小作料】たであげ
 ござぼうし ござぼつ
 ござる おざる
 こし【腰】こす
 こしあげ【腰上げ】こすあげ
 こしかご【腰かご】かっこべ

こしき【飴】こすぎ
 こじき【乞食】ほえど、ものもれあ
 こしけ【白帯下】おりおの
 こしにさげるかご【腰に下げる篋】かっこべ
 こしのきんにく【腰の筋肉】こすのすづ
 こしのご【腰鋸】こすのご
 こしのすじ【腰の筋】こすのすづ
 こしひも【腰紐】こすひぼ
 こしやく やまにんじん
 こじゅうと【小姑】こじゅうど
 ごしょう【後生】ごしょ
 こしょうがつ【小正月】こしょがづ
 ごしょうだいじ【後生大事】ごしょであーず
 ごしょうなべ【五升鍋】ごしょだぎなべ
 こしらえ【拵え】こすれあ
 こしらえる【拵える】こすれある
 こじらす こずれらがす、こつけらがす
 こじる こわる
 こじれる こつける
 こずえ【梢】うらべ、すんべ、てんべ
 こずえのほうのほそいまるた【梢の方の細い丸太】うらぎ
 こすっからい【こすっ辛い】こすかれあ
 こすりつける【こすり付ける】おこぐる、こぐる
 こする こすぐる、すこぐる
 こずるい【小狡い】こずれ
 こすれる すこぐれる
 こぜい【小勢】こじえ
 こせき【戸籍】こへぎ
 こせこせ こへこへ
 こぜに【小銭】こじえね、ばらへん
 こぜりあい【小競り合い】こじえりえあー
 ごぜん【午前】ひのめあ

ごぜんちゅう【午前中】ひのめあ
 こぞう【小僧】こんぞ、こんぞこ
 こぞうっこ【小僧っ子】こんぞこ
 ごそくろう【御足労】ごそぐる
 こそこそ おそこそ、こつおこつお
 こそこそばなし【こそこそ話】こつおこつおばな
 す
 こぞって【挙って】こぞて
 こそばゆい もそけあ
 ごたい【五体】ごてあー
 こたえ【答え】こであー
 こたえられない【堪えられない】こであらんねあ
 こたえる【応える】こである
 こたえる【堪える】こである
 こたえる【答える】こである、こであーる
 こだかい【小高い】こだけあ
 こたつ【炬燵】こだつ
 こたつね【炬燵寝】こだつね
 こだま やまびこ
 こちから【小力】こつからこ
 ごちそう【ご馳走】ごつお
 ごちそうづくり【ご馳走作り】ごつおこへあ
 ごちゃごちゃ ごじゃごじゃ、もずくたねあ
 ごちゃまぜ【ごちゃ混ぜ】ごちゃまじえ
 こちら こっつ
 こづかい【小遣い】こづげあ、こまづげあ
 こづかい【小使い】こづげあ
 こづかいせんとり【小遣銭とり】ほまづ
 こつきまわす【小突き回す】こずぎます
 こつきまわす【小突きまわす】でござぐ
 こづく【小突く】でござぐ
 こっくりこっくり かくらかくら
 こっけい【滑稽】こっけ

こっそり こそっと、こつおっと
 ごっそり がっぱり、ごそっと、ごべっと
 ごったがえす【ごった返す】ごったげあす
 ごったまぜ ごったまじえ
 こっち こっつ
 こってり こてっと
 ごってり でっこり
 こっぴどい こっぴどえ
 こつひろい【骨拾い】へあよへ
 ごつんと がっきり、がつつら、ごっきら
 こてさき【小手先】ちよっけあ
 ごと がらみ
 ごと【毎】ぎり
 ことあたらしい【事新しい】こどあだらす
 ことうぐ【小道具】こどんぐ
 ことし【今年】こどす
 ことだろうね【～ことだろうね】じゅんだ
 ことでは こんであ
 ことに【殊に】こどん
 ことによると【事によると】わりぐすっど
 ことによると【殊に依ると】こどんよっど
 ことばづかい【言葉遣い】こどばづげあ
 ことびぐち【小鳶口】てとび
 こども【子供】おぼご、おぼごわらす、がぎこ
 こどものあいしょう【子供の愛称】じょっこ、め
 ー
 こどものあそび【子供の遊び】ねっきぶづ
 こどものくせに【子供のくせに】はっから
 こどものゆさん【子供の遊山】ゆさんこ
 こなずみ【こな炭】こずみ
 こなもち【粉餅】こもず
 こにくらしい【こ憎らしい】こにくらす
 こぬか【小糠】このが

こぬかあめ【こぬか雨】このがあめ
 こぬかづけ【米糠漬】このがづけ
 ごね だんじゃぐ
 こねる こぐ、しとねる
 ごねる ごがする、ずぐねる、ふづぐる、ぶごぐ
 る
 ごねること ごが
 このあいだ【この間】こねあだ
 このごろ【この頃】このじゅ
 このさい【この際】このせあー
 このせつ【この節】このへづ
 このとき【この時】こんづぎ
 このましい【好ましい】このます
 このように こ
 こばかくさい【こ馬鹿くさい】こばがくせあ、こ
 んばがくせあ
 こばれ【小晴】こばれ
 ごはん【ご飯】まま
 こびりつく こびづぐ
 こぶくろ【小袋】こんぶぐろ
 こぶし こぶす
 ごへい【ご幣】ぼんでん
 ごぼう【牛蒡】ごんぼ
 ごぼうじる【牛蒡汁】ごんぼずる
 ごぼうのは【牛蒡の葉】ごんぼば
 ごほうらく【ご法楽】ごほらく
 こぼす かんまがす、まがす
 こぼんのう【子煩悩】こぼろ
 ごまあえ【胡麻和え】ごまあえ
 こまえ【小前】こめあー
 こまかい【細かい】こまこえ
 こまかくうごききまる【細かく動きまる】つたば
 た

ごまかしてとる【ごまかして盗る】がめる
 こまかにぎりさく【細かに切り裂く】こまざぐ
 ごましお【胡麻塩】ごまししょ
 こましゃくれていること からこしゃぐ
 こましゃくれる こまちゃくれる
 こまづかい【小間使い】こまづげあ
 こままわし【独楽回し】こまます
 こまもの【小間物】こまおの
 こまものみせ【小間物店】こまおのめへ
 ごみ ごど、ばっば
 ごみさらい【ごみ浚い】ごどされあ
 こむずかしい【小難しい】こむずがす
 こむそう【虚無僧】こもそ
 こむら こんぶら
 こむらがえり こんぶらけあり
 こめけんさのどうぐ【米検査の道具】さす
 こめこがし【米粉菓子】こうへん
 こめだわら【米俵】こめだら
 こめどころ【米所】こめどご
 こめのだっこくさぎょう【米の脱穀作業】こめこ
 しえ
 こめのとぎじる【米の磨ぎ汁】しろみず
 こめをせんべつするふるい【米を選別する篩】と
 おし
 ごめんください【ごめん下さい】はえっと
 ごもくめし【五目飯】あんべあまま、ごもぐま
 こもり【子守り】こんもり
 こもりをするひと【子守りをする人】こんもり
 こやかましい【小やかましい】こやがます
 こやし【肥】こやす
 こよみ【暦】こゆみ
 ごらいこう【ご来光】ごれあご
 こらえがない こであねあ

こらえしょう【堪え性】これあーしょ
 こらえる はらつかむ
 こりこう【小利口】こりご
 こりしょう【凝り性】こりしょ
 これ けあず
 これで こんで
 こればかり こればり
 これみよがし これみろてゆわねあばり
 ころ【頃】～しめあ、しめあ、ずぶん
 ころあい【頃合】ころえあー
 ごろごろ ごろらごろら
 ころぶ【転ぶ】かころぶ、すころぶ、ぶころぶ、
 ぶっころぶ
 ごろりと ごろら
 こわい おけあ、こわばす
 こわい【怖い】おっかねあ
 こわがる【怖がる】おかねあがる
 こわごわ おかねあおかねあ
 ごわごわ がばがば
 こわす【壊す】そだす、ぼこす
 こわばる しゃきばる、しょきばる
 こわめし おふかし
 こわれもの【壊れ物】ぼこれおの
 こわれる【壊れる】えがれる、ぶずごれる、ぼこ
 れる
 こんかい【今回】こんけあー
 こんがらかる ござらがる、ござる
 こんぐらかる ござる
 こんじょう【根性】こじよ、こんじよ
 こんど【今度】こんだ
 こんどは【今度は】こんだ
 こんな けあつけあた、こげあた、こつけあた、こ
 んた

こんばす【コンパス】ぶんます
 こんばんは【今晚は】おばんです
 こんぶ よろこんぶ
 こんぺいとう【金米糖】こんぺと
 こんもり もっこり
 こんや【今夜】こにゃ、ばんげ
 こんやくせいりつのいわいざけ【婚約成立の祝い
 酒】さだめのさげ

こんやくせいりつのぎしき【婚約成立の儀式】ま
 めもらい
 こんやくやゆいのうのしゅくえん【婚約や結納の
 祝宴】かだめのさがづぎ
 こんれい【婚礼】さがづげごど
 こんれいごみっかめのさとがえり【婚礼後 3 日
 目の里帰り】みずめ
 こんれいのしゅくえん【婚礼の祝宴】むがさりぶ
 るめあ

— さ —

さあ【さー】さ
 ざあっと ざえっと
 さい【際】～しめあ
 ざい【在】ぜあ
 さいきん【最近】このじゅ
 ざいく【細工】せあーぐ
 さいげん【際限】さえげん
 さいご【最後】せあーご
 さいこう【最高】せあーこー
 ざいごう【在郷】ぜあ
 ざいごうしゅう【在郷衆】ぜあごしゅ
 さいごまでのこったもの【最後まで居残った者】すまぶり
 さいころ【賽子】せあーころ
 ざいさん【財産】すんであ、ぜあーさん
 ざいさん【賤産】しんしょ
 ざいさんか【財産家】ぜあーさんか
 ざいしつ【材質】ぜあーすず
 ざいしつのやわらかいき【材質の軟かい木】あさぎ
 さいしょ【最初】しょっぱじめ、せあーしょ
 さいせん【賽銭】さえへん
 さいそく【催促】せあーそぐ
 さいそくする【催促する】はだる
 さいちゅう【最中】せあーちゅう
 さいづちあたま【才槌頭】せあんずずあだま
 ざいにん【罪人】ぜあーにん
 さいばん【裁判】せあーばん
 さいふ がまぐづ
 さいふ【財布】かねえれ、さずえれ、せあふ

さいふもち【財布持ち】せあーふもず
 さいほう さいほ
 さいほう【裁縫】ぬすけ、ぬつけ
 ざいもく【材木】ぜあもぐ
 さいもんかたり【祭文語り】せあーもんかだり
 ざいりょう【材料】ぜあーりよ
 さいわい【幸い】さいわえあ
 さえ ～せあ、せあ
 さえずる【囀る】せあずる
 さえる【冴える】せあーる
 さお【棹・竿】ほげ
 さおはかり つぎ
 さかい【境】さげあ
 さかいめ【境目】さげあーめ
 さかえる【栄える】さげある
 さかさ【逆さ】かっちや
 さかさづめ【逆さ爪】そそくれ
 さかさま【逆様】かっちやま
 さがしあぐむ【探しあぐむ】たねはばげる
 さかしい【賢い】さがし
 さがしもの【さがし物】たねおの
 さがす たねる
 さかずき【杯】さがずげ
 さかだい【酒代】さがであ
 さかな【魚】とど、とどこ
 さかなあなさがし【魚穴さがし】えごさがし
 さかなすくい【魚掬い】みごりすぎ
 さかなのこぼね【魚の小骨】とげ
 さかなや【魚屋】えさばや
 さからう へんか

さがりめ【下り目】 さんがりめ	さされる【刺される】 ささえる
さき【先】 さきちょ、へん	さじ【匙】 しゃず
さきおととい さぎおどでな	さしあし【差し足】 さすあす
さきおとし さぎおどどす	さしおさえ【差し押え】 さすおせあ
さきはし さぎばす	さしかけ【差し掛け】 さっかけ
さきばらい【先払い】 さぎばれあ	さじかげん【匙加減】 しゃずかげん
さきほど【先程】 さきだ	さしき【挿し木】 きつつあす、さすぎ
さぎょうい【作業衣】 でだじ、でだず、でだづ	ざしき【座敷】 ざすぎ
さぎょうもんぺ【作業もんぺ】 さるこぼがま	さしくべる【差しくべる】 さっくべる
さぎょうようのわらぐつ【作業用の藁靴】 へどろぐず	さしこむ【差し込む】 つとす
さく【咲く】 さぐ	さしたあと【刺した跡】 かっくれあ
さく【裂く】 さぐ、しちやばぐ、ぶっちやばぐ、むざぐ	さしつかえ【差し支え】 さすけあ
さくうらない【作占い】 さぐだめす	さしでがましい【差し出がましい】 さすでがます
ざくざくするゆきみち【ざくざくする雪道】 ざぐみず	さしなえ【挿し苗】 さすねあ
さくだめし【作試し】 さぐだめす	さしはさむ つっぱさむ
さくや【昨夜】 ゆべな	さしひかえる【差し控える】 さすひけあーる
さくらのみ【桜の実】 さぐらんご	さしみ【刺し身】 さすみ
さけ【鮭】 さげのよ、よ	さしむかい【差し向い】 さすむげあー
さけぐせ【酒癖】 さがくへ	させる さだす、さへる
さけとますのおすをいう【鮭と鱒の雄をいう】 かの	させる【差せる】 ささえる
さけぶ【叫ぶ】 さがぶ	さついれ【札入れ】 さずえれ
さけやど【酒宿】 さがやど	ざっか【雑貨】 あらおの
ざこつかまえ【雑魚捕まえ】 ざっこへめ	さっき さきだ
ざこね【雑魚寝】 ざっこね	さつき さづぎ
ささえ【支え】 させあー、つっけあ	さつきばれ【五月晴れ】 さづぎばれ
ささえる【支える】 させあーる、つけあーる	ざっくり ざぐっと
ささげ ささぎ	さっさと ぐうぐど、ちゃっちゃど、どんどど
ささにごり【ささ濁り】 ささめごり	さつじん【殺人】 さずずん
ささやぶ【笹藪】 ささやら	さっと ちゃっと
	さっぱり じであきり、からきり、さっくり、さぱっと、しとつも、ねっから、はっぱり
	ざっぴ【雑費】 おががり、おがけ一ひ、ぞうよ
	さっぶうけい【殺風景】 さっぶけ

さつまいも【薩摩芋】さずまえも
 ざつよう【雑用】ざずよ、ひまだれ
 さて はで
 さといもるいのくき【里芋類の茎】えもがら
 さとう【砂糖】さど
 ざとう【座頭】ざど
 さとがえり【里帰り】さどげあり
 さなだひも【真田紐】さなだひぼ
 さばく【裁く】さばく
 さばさば さばさば
 さびしい【淋しい】さぶす、ただぼす
 ざま ざんま、ざんま
 ざまあ ざんま
 さむい【寒い】さみ
 さむいてんこう【寒い天候】さみぞら
 さむらい さむれあ
 さもしい さもす
 さもない さもねあ
 さやえんどう にんどまめ
 さようなら ほだあら、んだら
 さいねん【さ來年】されあーねん
 さらう かつつあらう、ひさらう
 ざらざら ざすざす
 さらしもの【晒し者】さらすおの
 さらまわし【皿回し】さらます
 さらりと さらっと
 さる【猿】やまのあに
 さる【去る】しゃる
 さるしばい【猿芝居】さるすんべあ
 さるまわし【猿回し】さるます
 される さえる、しえる、するえ
 ざれる【戯れる】じゃらげる

さわ【沢】～さ（ざ）
 さわいでいる さわえんだ
 さわおぐるま やづぶぎ
 さわがしい【騒がしい】さわがす
 さわぐるみ かぐるみ、かわぐるみ、やし
 さわる ちよす
 ざをしめる【座を占める】かめある
 さん ～つあん
 さんかんぶ【山間部】やまどご
 さんげさんげ【懺悔懺悔】さんげさんげ
 さんざ【蚕座】かっこ
 さんさい【山菜】あおおの
 さんさいのしおづけ【山菜の塩漬】あおづけ
 さんざん さんざこざ、さんざんこざん
 さんした【三下】ぐぞへあ
 さんしゅ【蚕種】たね
 さんしょう【山椒】せあんしょ
 さんしょううおのいっしゅ【さんしょううおの一
 種】さわえもり
 ざんせつ【残雪】けのごり
 さんだわら【棧俵】さんだら、さんだらばす
 さんばいず【三杯酢】さんべあず
 さんぶんのしまつをすること【蚕糞の仕末をする
 こと】あどたでる
 さんぼんぐわ【三本鍬】さんぼんが
 さんぼんじろ さんぼんずろ
 さんまいにおろしたほね【三枚におろした骨】ざ
 っぱ
 さんらん【蚕卵】たね
 さんらんのます【産卵後の鱒】ほっちゃれます
 さんりんろうむしゃ【山林労務者】やまこ
 さんろく【山麓】でど

— し —

し す

じ【字】によによ、のの

しあげる【仕上げる】でがす

しあさって やのさって

しあわせ しっしゃわへ

しい【～しい】す

じいさん【爺さん】ずさ

しーそー【シーソー】きこぼた

しいたけ【椎茸】しーだけ

しいな すな、すなごめ

しいれ【仕入れ】すいれ、すえれ

じいんと ずんと

しお【塩】しっしょ

しおあじ【塩味】ししよあず

しおかげん【塩加減】ししよかげん

しおからい【塩辛い】ししよじよっぺあ、しっしよかれあ

しおからごえ【塩辛声】ししよがらごえ

しおからとんぼ しっしよがらあげ

しおけ【塩気】ししよけ

しおざけ【塩鮭】ししよざげ

しおだし【塩出し】ししよだし

しおで しゆでこ

しおびぎ【塩引き】ししよびぎ

しおます【塩鱒】ししよます

しおまぶし【塩まぶし】ししよこぐり

しおもの【塩物】ししよおの

しおもみ【塩揉み】ししよもみ

しおやとんぼ しっしよがらあげ

しか はんて

しがい【屍骸】しげあー

しかえし【仕返し】しげあーし、やげあし、やんげあす

しかける すかげる

しかけをする【仕掛けをする】からぐる

しかし んだども、んでも

じかたび【地下足袋】たがじょう

しかつめらしい すかつめらす

しかめる すかめる

しがらみ しがら、すがら

しかられる【叱られる】ごしやがえる、われがえる

しかりつける【叱り付ける】ごしやぎずげる、びしやあずげる

しかること【叱ること】びしや

しがん【志願】すがん

じかん【時間】ずがん

じかんひょう【時間表】ずがんひょう

じかんわり【時間割り】ずがんわり

しき【式】すぎ

じき【時期】ずき

じき【直】ずぎ

じき【敷】～ずぎ

しきい【敷居】しぎ、すぎ

しきさい【色彩】すきせあー

じきじき【直直】ずぎずぎ、ずぎへず

しきだい【式台】あがりかまじ、どんぎ

しきたりのな【しきたりの名】めくそおどし

しきち【敷地】すぎつ

じきに【直に】ずぎん、そんま

しきふ【敷布】ゆわすぎ	ししゅう【刺繡】すしゅう
しきもの【敷物】すぎおの	しじゅう【始終】いぢらぐ、えっかだ、じょんで あ、すじゅ、ずるっと、とうし、なつても
しくじる すぐずる	じしゅう【自習】ずしゅう
しくはっく【四苦八苦】すくはっく	しじゅうこごとをいうひと【始終小言をいう人】 えがみのごんた
しげる【繁る】ほげる	しじゅうさけをのんでいるひと【始終酒を飲んで いる人】さめず
しけん【試験】すけん	ししゅつ【支出】おがぞうよ
じけん【事件】ずけん	じしよ【地所】つしよ
じこ【事故】ずこ	じじよ【次女】ながこ
じごえ【地声】ずごえ	ししよ【師匠】すしよ
しごく【至極】こぐ、すごぐ、すなごぐ	ししよ【支障】かがさわり
じごくみみ【地獄耳】ずごくみみ	じじよ【事情】ずじよ
しこたま すこだま	じしよく【辞】ずしよく
しごと【仕事】すごど	じしよくねがい【辞】願い ずしよくねげあ
しごとぎをきる【仕事着を着る】でだづ	じしん【地震】ずしん
しごとし【仕事師】すごどす	しずか【静か】すずか
しごとのかんせいまえのいろうえん【仕事の完成 前の慰労宴】ながちよーば	しずかに【静かに】てねんと
しこむ【仕込む】すこむ	しずく【雫】すずぐ
しこり【痼】すこり	しずしず すわすわ
しざい【資材】しぜあー、すぜあー	じすべり【地滑り】ずすべり
じざい【自在】じぜあー	しずまりかえる【静まり返る】すずまりげあーる
じざいかぎ【自在鉤】かぎのはな	しずまる【静まる】おだまる
じざけ【地酒】ずざげ	しずむ【沈む】すずむ
じさつ【自殺】ずさず	しずめる【沈める】すずめる
しさん【資産】すさん	しせい【姿勢】すせい
しし【獅子】すす	じせい【自制】じりぎ
じじ【爺】ず	じせつ【時節】ずへづ
ししうど さぐ	じせつがら【時節柄】ずへづがら
じじつ【事実】ずじつ	しぜん【自然】すじえん
ししまい【獅子舞】すすめあー	しぜん【自然】しとりでん
しじみ すずみげあ	しそ すっそ
しじみがい【しじみ貝】すずみげあ	
じしゃく【磁石】ずしゃく	

じぞうさま【地藏さま】ずぞさま、ずんぞさま
 しそこなう【し損なう】すそぐねる
 した【下】したかだ
 した【舌】べろ
 したあご【下あご】おどげあ
 したい しであ
 したい【死体】してあー
 しだい【次第】しであー、すであ、すんであ
 じたい【自体】じであ
 じたい【辞退】じであ
 じだい【時代】じであ、ずであー
 じだい【地代】じであ
 じだいおくれ【時代遅れ】じであーおぐれ
 じだいげき【時代劇】じであーげぎ
 したがる【従える】したげある
 したがり【下刈り】かりはれあ
 したごしらえ【下拵え】したごすれあ
 したじ【下地】したず
 したしい【親しい】したす、すたす、つかす
 したしごと【下仕事】したすごと
 したたかもの【強か者】しただがおの
 したてもの【仕立物】したでおの
 したてる【仕立てる】したでる
 したのほう【下の方】したかだ
 したむ すたむ
 しためづかい【下目使い】しためづげあ
 しち すづ
 しちごさん【七五三】すずごさん
 しちとうい しちど
 しちなん【七難】すずなん
 しちふくじん【七福神】すずふぐずん
 しちぶづき【七分搗】すずぶづぎ
 しちめんどくさい【七面倒臭い】すずめんどく

せあ
 しちや【七夜】すずや
 しちや【質屋】すづや
 しちやっかい しづやっけあ
 しちやぶるまい【七夜振舞】すずやぶるめあ
 しちゆう【支柱】つっけあ、てえ
 しちりん【七輪】すずりん
 じちんさい【地鎮祭】ずつんさい
 じつ【実】ずづ
 じついん【実印】ずずいん
 じっか【実家】ずっか
 しつがいこつ【膝蓋骨】さら
 しっかく【失格】すっかぐ
 しっかりしていないもの【しっかりしていない者】ほんであなす
 しつぎょう【失業】すずぎょー
 しっくり すくっと
 じっくり ずくっと
 しっけ【湿気】しけ
 しつけ【仕付け】すづげ
 しつけいと【仕付け糸】すずげそ
 しつける すづげる
 しっこい しっこえ、しよねこえ
 じっこう【実行】ずっこ
 じっさい【実際】じっせあー、ずっせあ
 じっしゅう【実習】ずっしゅう
 しっしんなどのひふびょう【湿疹などの皮ふ病】
 くさこ
 じったい【実態】じってあー
 しったかぶり【知ったか振り】おべっだふり
 しっち【湿地】やづ
 しつでん【湿田】ひどろ、やつた
 じっとしていないでうごきまわるさま【じっとし

ていないで動きまわるさま】うさうさ
 しっとり しとっと
 じっとり じとっと、ずとっと
 じつの【実の】ずずの
 じつのちち【実の父】ずづのつづ
 じつは【実は】ずずあ
 しっぱい【失敗】しっぺあ、すっぺあ
 じつぶ【実父】ずづのつづ
 しっぽ おっぱ
 しつぼう【失望】すずぼ
 しっよう しょねこえ
 しつれい【失礼】すずれ
 していて て
 している てる
 しでかす【仕出かす】やらがす
 じてん【辞典】ずびぎ
 じてんしゃ【自転車】ずでんしゃ
 じどうしゃ【自動車】ずどしゃ、ぶーぶー
 しどけない すどけねあ
 しどころ すどご
 しとやかなこと すわすわ
 しな すめあ
 しない しなこえ、すねあ
 しない【竹刀】しねあ
 しなう しわる
 しなう【撓う】しなる
 しなのき んまだ
 しなびる すなびる
 しなもの【品物】しなおの、すなおの
 じならし【地均し】ずならす
 しなれる【仕馴れる】すずげる
 じなん【次男】ながこ
 しにかける【死にかける】すにがげる

しにくい すずれあ
 しにぞこない【死に損ない】しにぞごねあー、す
 にぞごねあー
 しにたえる【死に絶える】しにてあーる、すにて
 あーる
 しにぶし【死に節】しにぶす
 しにものぐるい【死に物狂い】らんき
 しにん【死人】しびど
 しぬ【死ぬ】いぎづぐ、すぬ、めおどす
 じめし【地主】ずぬす
 しば【柴】すば
 しばい【芝居】しばや、しべあ、すばや、すんべ
 あ
 しばかり【柴刈り】すばきり
 しばしば えぐ
 しばほうき【柴箒】きばぎ、こわばぎ
 じばら【自腹】ずばら
 しはらい【支払い】すはれあー
 しばらく【暫く】すばらぐ
 しばりつける【縛りつける】ゆっからがぐ、ゆっ
 からむ
 しばる【縛る】ひこぐる、ぶごぐる、まるぐ、ゆ
 つなぐ
 じひ【自費】じめあ
 じびき【字引】ずびぎ
 じひつ【自筆】ずひず
 じびょう【持病】ずびょー
 しびれ すびれ
 しびれる【痺れる】すびれる
 しぶ【渋】すぶ
 しぶい【渋い】すぶえ
 しぶとい すぶで一、ずぶでえ
 じふぶき【地吹雪】ずふぶぎ

しぶり【仕振り】ぎんま
 しぶをぬく【渋を抜く】さわす
 じぶん【時分】ずぶん
 じぶん【自分】おわ
 じぶんかってに【自分勝手に】てどりあしどり
 じべた【地べた】ずびだ、つずのま
 しほう【四方】すほ
 しほうだい【仕放題】すほであ
 しぼうつうち【死亡通知】すらへ
 しまい【仕舞】すめあー
 じまえ【自前】じめあ
 しまえよ じゅは
 します しあす
 しまった は
 しまったのか がは
 しまったよ じゅは
 しまり しまつ
 しまりや ねつかれあ
 しまりや【しまり屋】こみづ
 しまりゆき【締め雪】すまりゆぎ
 しまる しっとまる、ねづ
 じまん【自慢】ずまん
 しみこむ しよう
 じみち【地道】ずみず
 しみったれ けつ、しびたれ、ねつび
 しみつたれる しびたれる
 しみとおる【しみ透る】しっとる
 しみる しよう、すみる
 しめくくり【締め括り】すめくぐり
 しめし【示し】すめす
 しめしあわせる【示し合わせる】すめすあへる、
 はらあへ
 しめっぽい【湿っぽい】しめぼえ、すめぼえ

しめらす【湿らす】すめらへる
 しめりゆき【湿り雪】すめりゆぎ
 しめる【締める】しちめる、たでる
 じめん【地面】ずめん、つずのま
 しも【下】すも
 しも【霜】すも
 しもごえ【下肥】だら
 しもごえをくむひしゃく【下肥を汲むひしゃく】
 だらひしゃく
 しもぎ【下座】すもぎ
 しもばしら【霜柱】すもばすら
 しもやけ【霜焼け】すもやげ
 じゃがいも【馬鈴薯】にんどえも
 しゃがむ しゃがまる、つつぎぼする
 しゃがれごえ【しゃがれ声】しゃっかれごえ
 しゃくし【杓子】しゃぐす。
 しゃくとりむし つもりむす
 しゃくふ【酌婦】ばんぼ
 しゃくれがお【しゃくれ顔】しゃぐすづら
 じゃけつ【ジャケツ】じゃげづ
 じゃけつと【ジャケツト】じゃげづ
 しゃし【斜視】てっかり
 しゃしゃりでていろりにあたること【しゃしゃり
 出ていろりにあたること】さっくばる
 しゃしゃりでる【しゃしゃり出る】ひくめぐ
 しゃしょう【車掌】しゃしょ
 しやすい しやすい、すやす
 しゃつ【シャツ】しゃつ
 しゃつきり しゃきつと
 しゃっきんのとりたて【借金の取り立て】かげど
 り
 しゃっぽ【シャッポ】しゃっぽ
 じゃない きがねあ

じゃないか ベな
 しゃにむに【遮二無二】しゃりむり
 しゃばふさげ【娑婆塞げ】しゃばふたぎ
 しゃべる【シャベル】しゃぶろ
 じゃまっけ【邪魔っ気】じゃまくせあ
 しゃみせん【三味線】しゃみへん
 しゃめん【斜面】ひら
 しゃらくさい【しゃら臭い】しゃらくせあ
 じゃんけん せ
 じゃんけんぽん せっせのせ
 じゃんと じゃがんと
 しゅいん【手淫】へずりこ
 じゅう【中】うづ
 しゅうい【周囲】あだりほどり、ぐるっと
 しゅうう【しゅう雨】おがだづ
 しゅうかく【収穫】あぎあげ
 じゅうけいていしまい【従兄弟姉妹】いどご
 しゅうさい【秀才】しゅーせあー
 しゅうざい【集材】やまだす
 じゅうじざい【自由自在】ずゆーずげあー
 しゅうしょく【就職】しゅーしゅぐ
 しゅうじょし【終助詞】が
 しゅうぜん【修繕】しゅーじえん
 じゅうそう【重曹】じゅーそ
 じゅうだい【十代】じゅーであー
 じゅうだい【重大】じゅーであー
 じゅうたんさんそーだ【重炭酸曹達】じゅーそ
 しゅうと しゅうど
 しゅうとおよびしゅうとめ【舅および姑】しゅうど
 しゅうとめ【姑】しゅーどかが
 じゅうにがつ【12月】すあす
 じゅうねんくらいまえ【十年位前】しとむがす

しゅうねんぶかい【執念深い】ねっちょあふっけ
 あ
 じゅうのう【十能】じゅーの
 じゅうばこ【重箱】じゅっこ
 しゅうふく【修復】すふぐ
 じゅうふん【十分】くせあくれあ
 じゅうぶんだ【十分だ】たくさだ
 じゅうめん【洗面】くせあつら
 しゅうり【修理】すふぐ
 しゅうりする【修理する】からぐる
 じゅぎょう【授業】ずぎょー
 しゅくえん【祝宴】びんしゅ
 じゅくす【熟す】すわる、んむ
 しゅくだい【宿題】しゅぐであー
 しゅくはくにん【宿泊人】とまりよど
 しゅぜいかん【酒税官】おにこ
 しゅちょう【主張】のず
 しゅつかん【出棺】だみだし
 しゅつきん【出勤】あさおり
 しゅっさん【出産】おぼごなし
 しゅっさんかんかく【出産間隔】おど
 しゅっさんする【出産する】もづ
 しゅっさんみまい【出産見舞】おぼごなすみめあ
 しゅっせ【出世】りっすん
 しゅってん【出店】でめへ
 しゅっぱつのしゅくえん【出発の祝宴】おだづぶ
 るめあ
 しゅふ【主婦】だんなかが
 しゅふのざ【主婦の座】かまどもず
 しゅもつ【腫物】でげおの
 じゅんさ【巡查】だなさん
 じゅんさい じゅんせあ
 しゅんさん【春蚕】はるさん

じゅんばん【順番】ばんめあ、まわりばんこ
 じゅんれい【巡礼】おふだぶづ
 じょう【錠】かんかね
 しょうがない【しょうがない】しょあねあ
 しょうがない【仕様がない】しょねあ、やじゃが
 ねあ
 しょうこり【性懲り】こりしょ
 しょうじき【正直】まっつぐ
 しょうじのさん【障子の棧】さんかまづ
 しょうしょう【少少】ちんちん
 しょうじんあけ【精進明け】しょーずんおり
 しょうじんおち【精進落ち】しょーずんおり
 じょうず【上手】んめあ
 じょうずだ【上手だ】じょんだ、んめあ
 じょうぞく【上族】ひぎる
 しょうたい【招待】しょーてあー
 しょうたい【正体】しょうてあ、ほんず、ほんで
 あ
 しょうたいじょう【招待状】おづげあ、しょーて
 あーじよ、つけあ
 しょうたいする【招待する】よへる
 しょうちゅう【焼酎】しょうじゅ、そーじゅ
 しょうつき【祥月】しょっつぎ
 しょうつきめいにち【祥月命日】しょっつぎめー
 にず
 じょうでき【上出来】じょーでげ
 じょうとう【上等】じょーと
 じょうとうしき【上棟式】ずんぐ
 しょうにん【商人】あぎど
 しょうばい【商売】しょーべあー
 しょうばいかたぎ【商売気質】しょーべあーかだ
 ぎ
 しょうばいがたぎ【商売敵】しょーべあーがだぎ

しょうばいがら【商売柄】しょーべあーがら
 じょうばずぼん【乗馬ズボン】たんこずぼん
 しょうひのそまつなこと【消費の粗末なこと】ざ
 んぶ
 じょうふ【情婦】いろおなご
 しょうべん【小便】おつっこ、し、しょべ
 しょうべんくさい【小便くさい】えばくせあ
 しょうぼう【消防】しょうぼ
 じょうほう【上方】ゆえかだ
 しょうぼうようとびぐち【消防用齋口】はやぐず
 じょうまえ【錠前】かんかね、じょーめあー
 しょうゆ【醤油】たまり
 しょうゆにうくかび【醤油に浮くかび】きらら
 しょうよ べは
 しょうらい【将来】しょーれあー
 じょうりゅうのほう【上流の方】かみかだ
 しょうりょうのものをまとめる【少量の物をまと
 める】つぼねる
 しょくじ【食事】まがねあ
 しょくじちよくご【食事直後】くいだず
 しょくじのあとしまつ【食事の後仕末】あどしめ
 あ
 しょくじのじかんまでにすいじをしあげる【食事
 の時間までに炊事を仕上げる】まがだあへる
 しょけいひ【諸経費】ぞうよ
 しょげる がおる
 じよさいない【如才ない】じょーせあねあ
 じよさんぶ【助産婦】とりあげばんば
 じよしゅ【助手】てご
 しょしんしゃ【初心者】すんめあ
 じよせつ【除雪】じよへず、ゆぎなげ
 じよせつされたみち【除雪された道】でんでんみ
 づ

じょそう【除草】くさむすり
 しょたい【所帯】しょてあー
 しょだい【初代】しょてあー
 じょたい【除隊】じよてあー
 しょたいめん【初対面】しょてあーめん
 しょたいもち【所帯持ち】しょてあーもず
 しょちゆうみまい【暑中見舞】しょじゆーみめあ
 しょってる しょてる
 しょっぱい しっしょかれあ
 しょっぱな【初っ端】しょっぱすめ
 しょとうのかみなり【初冬の雷】ゆぎおろし
 じよばつ【除伐】べあだきり
 じよれん じよーれん
 じよろう【女郎】じよろ
 しらがあたま【白髪頭】すらがあだま
 しらかべ【白壁】すらがべ
 しらくも【白雲】すらぐぼ
 しらくも【白癬】しらぐぼ
 しらじらあけ【白白明け】すらずらあげ
 しらじらしい【白白しい】すらずらす
 しらじらしいきもちになる【白白しい気持になる】すらばつける
 しらずしらず【知らず知らず】すらずすらず
 しらせ【知らせ】すらへ
 しらせる【知らせる】しらへる、すらへる
 しらないふり【知らない振り】つけっと -suru
 しらふ すずら
 しらべもの【調べ物】すらべおの
 しらみ【虱】すらみ
 しらみのたまご【しらみの卵】むすのご
 しらんかお【知らん顔】すらねあつら
 しらんふり【知らん振り】おそしらねあふり、すらねあふり、ずらっと

しり【尻】けっけ、けっつ
 しりあい【知り合い】しりえあー、すりえあー
 しりあがり【尻上がり】けっつあがり
 しりあて【尻当て】けっつあて
 しりごみ【尻込み】しりしこみ
 じりじり ずりずり
 しりすべり【しり滑べり】けっつぞり
 しりっばしより【尻っばしより】けっつばしより
 しりぬぐい【尻ぬぐい】けっつのごい
 しりひっこみ【尻引っ込み】すりすこみ
 しりめつれつ【支離滅裂】しっちゃがめっちゃが
 しりょう【飼料】もの
 しる【知る】おべる
 しるし まなび
 しるし【印】するす
 じれったい【焦れたい】ずれってあー
 しろい【白い】しれ
 しろうと【素人】しろど、するど
 しろうり かだうり
 じろじろ ずろずろ
 しろたび【白足袋】しっしょたび
 しろっばい【白っばい】すろぼす
 しろぬめりいぐちたけ らぐようしょもだつ
 しるもの【代物】するおの
 じろりと ずろっと
 しわがれこえ【しわがれ声】しゃっかれごえ
 しわけ【仕分け】すわけ
 じわじわ ずわずわ
 しわす【師走】すあす
 しわぶき しゃぶぎ、すわぶぎ
 しわよせ【皺寄せ】すわよへ
 しんか【神火】おせあど
 しんがい【心外】しんげあー、すんげあー

しんぐ【寝具】ねどんぐ	じんぞうけんし【人造絹糸】ずんけん
しんけいしつ【神経質】すんけすず	しんだい【寝台】しんであ
しんけいつう【神経痛】すんけつ	じんつう【陣痛】ずんつー
じんけん【人絹】ずんけん	しんていする【進呈する】すんじえる
しんこんよっかめのさとがえり【新婚四日目の里 帰へり】よづめ	しんどう【新道】しんどみづ
しんさつ【診察】すんさず	じんとり【陣取り】ずんとり
じんじふせい【人事不省】ほんずあねあ	しんぱい【心配】あつこど、しんぺあ、すんぺあ
しんしょう【身上】しんしょ、すんであ	しんぱりぼう【しんぱり棒】つっぱり、ぼんと
しんしょうもち【身上持ち】すんしょもず	しんぶつにそなえたたべもの【神仏に供えた食べ 物】おぶく
しんじん【信心】すんずん	しんぶん【新聞】すんぶん
じんしん【人心】しとごごろ	しんぶんはいたつ【新聞配達】すんぶんや
しんすい【浸水】みずあがり	しんぼう【辛抱】すんぼ
しんせき【親戚】おやぐ、すんせぎ	しんまい【新米】しんめあ
しんせつ【新雪】あらゆぎ	しんまえ【新前】すんめあ
しんせつ【親切】しんへづ、すんへづ	しんめ【新芽】もえ
しんせつな【親切的な】ならねあ	じんりきしゃ【人力車】じんりぎ
しんせつやみちのついていないせきせつのあるところ をあるくこと【新雪や道のついていない積 雪のところを歩くこと】はでこぎ	しんるい【親類】えっけ、おやぐ、すんせぎ、つ のみづ、ながなが

— す —

す すから

すあし【素足】すあす、つぶあす

すいか【西瓜】すえが

すいじ【炊事】ざんめあ、しんめあ、ながすずめあ、まがだ、まますめあ、みじゃしめあ

すいすい すえすえ

すいば すかんこ

ずいぶん【随分】ぜえぶん

すいもの【吸い物】すえおの

すいよせる【吸い寄せる】すいよへる

すいりょう【推量】めがん

すうじ【数字】すーず

ずうずうしい【図々しい】ずうずうす、ふてこえ

ずうたい【図体】ずてあ

すうっと すえらっと

すうほんづつのわらのほのほうをむすびあわせ
たもの【数本づつのわらの穂の方を結び合せ
たもの】つなぎ

すえおそろしい【末恐ろしい】すえおそろす

すえくさい すれくせあ

すえざ【末座】すもざ

すえたのもしい【末頼もしい】すえたのもす

すえつける【据え付ける】すずげる

すえっこ【末っ子】ばっつ

すえふる【据え風呂】すふる

すえる すれる

ずかずか ずがずが

すがすがしい【清しい】すがすがす

すがやち【菅谷地】すげやず

すがりつく たぐづく、とつつぐ

すがる たぐづく

すき【好き】すぎ

すききらい【好き嫌い】いろぎれあ、えれぎれあ、
すぎきれあ

すきとおる【透き通る】すぎどる

すぎない【過ぎない】すぎねあ

すぎなえ【杉苗】すぎねあー

すきなだけ【好きなだけ】えーくれあ

すぎひらたけ すぎかのが

すきまがあく【透き間があく】ひすぎれる

すきまなく びつつり

すぎもの【過ぎ者】すぎおの

すくう【掬う】さぐる、すぐる

すくない【少ない】すぐねあ

すくなくとも【少なくとも】すぐねあて

すぐり すぐるみ

すげかえる【すげ替える】すげげある

ずけずけ つけつけ

すけそうだら【すけそう鱈】すけそだら

すけとうだら【すけとう鱈】すけそだら

すげのござ【すげの蔭】すがむする

すけべいこんじょう【助平根性】すけべこんじょ

すごい【凄い】すげー

すこし【少し】さらっと、つこす

すこしたりない【少し足りない】うすこたんねあ、
こたんねあ

すこしも【少しも】はっぱり

すこっぷ【スコップ】しゃぶろ

すさまじい【凄まじい】すさまず

すし【寿司】すす

すじ【筋】すず
 すじあい【筋合い】すずえあ
 すじかい【筋交い】すずげあ
 すじがき【筋書】すずがぎ
 すじがとおらない【筋が通らない】どごにくだら
 ねあ
 すじこ【筋子】すずご
 すじちがい【筋違い】すずつげあ
 すしづめ【鯔詰め】すすずめ
 すじまき【筋播き】すずまぎ
 すじみちのない【筋道のない】とっぺさっぺ
 すじむかい【筋向い】すずむげあー
 すじめ【筋目】すずめ
 ずしりと ずすっと
 すす【煤】へそび
 すずしい【涼しい】すずす
 すすはらい【煤払い】すすはれあ
 すずみだい【涼み台】すずみであー
 すずめばち かめばづ
 すそ【裾】すっそ
 すそまわし【裾回し】すっそます
 すそめくり【裾めくり】おっちやたぐり
 すたりもの【廃り物】すたりおの
 すっかり ころっと、すかっと、すてっと、つる
 っと、べろっと、まるっと
 すつきり さっばど、さばっと、すかっと
 すつくと すくっと
 ずっこける すっこぬげる、ずこげる
 すっころぶ すころぶ
 ずっしり ずすっと
 すってんてん すってんにでん
 ずっと いぢらぐ
 すっぱい【酸っぱい】すっけあ

すっぱり すぱっと
 すっぽり すぼっと
 すてどころ【捨て所】すてどご
 すでに【既に】すんでん
 すてばち やげのやんばず
 すてる【捨てる】なげる
 すどおし【素通し】すどす
 すとっく【ストック】けあおぎ
 すなあそび【砂遊び】すなあすび
 ずぬける【図抜ける】ずんぬげる
 すね【脛】すねばぎ
 すねかじり【脛かじり】すねかずり
 すねる こつつねる
 すのもの【酢の物】すのおの
 すばしこい こっぺあはえあ、こべあはえあ
 すばやい【素早い】こっぺあえあ、すばえあ
 すばやいこと ちゃっと
 ずばりと ずぱっと
 ずぶとい【図太い】ずぶでえ、どぶどこえ
 ずぶぬれ【ずぶ濡れ】かっぱだれ、かぶだれ、だ
 らくされ
 ずぶりと ずぶっと
 すべ【術】すび
 すべりころぶ【滑べり転ぶ】ふんずらべる
 すべりだい【滑り台】すべりであー
 すべる【滑べる】ふんずらべる
 すべること【滑べること】ずえら
 すべるさま【滑べるさま】つるっと
 すべるゆきみち【滑べる雪道】つるつるみづ、て
 かてかみず
 すましじる【すまし汁】すますずる
 すませる【済ませる】すまへる
 すまない【済まない】すまねあ

すみ【隅】すまこ

ずみ しゃなす、やずなす

すみがまからだしたすみをかまくちのところで
くうきにさらすこと【炭がまから出した炭を
かま口のところで、空気にさらすこと】あらし

すみがまづくり【炭がま作り】かまつぎ

すみがまのくち【炭がまの口】かまぐづ

すみがまのけむだし【炭がまの煙出し】くど

すみがまのてんじょう【炭がまの天井】はづ

すみだわら【炭俵】すみだら

すもう【相撲】すもとり、すも

すもうとり【相撲とり】すもとり

すらないみそをおしるにいらるときのみそ【すら
ない味噌をお汁に入れる時の味噌】おどすみそ

ずらりと ずらっと

すりうす【摺り臼】するす

ずりおちる【ずり落ちる】つっこぬげる

すりかえる【摩り替える】すりげある

すりっぱ【スリッパ】つっかげ

する こぐ、しあす、しる、たえる、つぐる

する【擦る】こぐる

ずるい【狡い】すっぺあ、ずれ、ずろえ

ずるいやつ【狡い奴】ずるすけ

ずるがしこい こっぺあはえあ

すると すっずど、へば

するどい【鋭い】えがえが

するりと するっと、べろっと

ずるりと ずえら

すれっからしになる こすぐれる、すこぐれる、
すねこぐれる

すわった【据った】すわた

すわりかたのいっしゅ【座り方の一種】いぢはん
ばがり

すわる【座る】じゃっこする、ねまる

すわれた【吸われた】すわっだ

ずんぐり ずこっと、づこっと -suru

すんし【寸志】きあごごろ、ごごろ

— せ —

せ へ

せ【背】へ

せ【瀬】へえ

せい【所為】へ

せい【精】へえ

せいいくがわるい【生育が悪い】よへてあ

せいいっぱい【精一杯】へええっぺあ

せいきゅう【性急】へーきゆう

せいきゅう【請求】へーきゆう

ぜいさん【税金】じえーさん

せいけつほう【清潔法】へえけづほ

せいこう【性交】べっこやり

ぜいこみ【税込み】じえーこみ

せいざい【製材】せーぜあー

せいざいしょ【製材所】せーぜあーしょ

せいざいのきれはし【製材の切れ端】かわいだ

せいざいのざつへんやさかなのにくをとったの
こり【製材の雑片や、魚の肉を取った残り】ざ
っぱ

せいざいや【製材屋】せえぜえや

せいし【生死】せいす

せいじ【政治】せいず

せいしきにけっこんしなかったふうふ【正式に結
婚しなかった夫婦】すぎずれ

せいじょう【正常】しょーろ

せいしん【精神】せいすん

せいじん【成人】せいずん

せいしんいじょう【精神異状】すんけたがり

せいしんびょう【精神病】すんけたがり

せいぜい【精精】へつきり

せいだい【盛大】せえであ

ぜいたく【贅沢】じえーたく

せいたんようぐのいっしゅ【製炭用具の一種】は
んぎりぼ

せいちょうき【成長期】おがりざがり

せいちょうする【生長する】おがる

ぜいにく【贅肉】だめにぐ

せいふう【西風】にすかじえ

せいふくする【征服する】したげある

せいぼ【歳暮】せぼ

せいまい【精米】せーめあー

ぜいむしょ【税務署】じえーむしょ

ぜいむしょいん【税務所員】おにこ

せいらいんさま【清羅院さま】へらりんさま

せいりされる【整理される】かだづぐ

せいろ へろ

せおいあきない【背負い商い】しよいこあぎねあ

せおいなげ【背負投げ】しよいなげ

せおう【背負う】んぶう

せおよぎ【背泳ぎ】へおよぎ

せかい【世界】せげあー

せかす【急かす】へがす

せかせか へかへか

せかせる【急かせる】へがへる、へづぐ

せかっこう【背格好】へかっこ

せがむ へがむ

せき へぎ

せき【咳】しゃぶぎ

せき【席】へぎ

せき【籍】へぎ

せきえいなどのかたしいし【石英などの堅い石】
かどいし
せきせつちゅうをかんじきをつけないこと【積雪中をかんじきをつけないこと】つぼこあす
せきついこつ【背椎骨】おおほね
せきとめる【塞き止める】えがめる
せきはん【赤飯】あげあま、おふかし、ふかす
せきばん【石盤】へげばん
せきゆ【石油】へげゆ
せきれい いしただぎ、ひくなぎ
せきをするおと【咳をする音】げしよげしよ
せけん【世間】へげん
せすじ【背筋】へすず
せせこましい へへこます
せたけ【背丈】へ、へたげ
せちがらい へつかれあ
せつ えねご
せつ【節】へず
せっかい【石灰】いすべあー、せっけあー
せっかく【折角】へっかく、やおが
せっかち へっかず
せっかん【折檻】へっかん
せつき【瀬つき】へつき
せっきょう【説教】へっきよ
せっく【節句】へっく
せっくのいわいもち【節句の祝い餅】みずのもず
せっけん【石鱗】へっけん
せつじょうにひとりのひとがあるいたあしあとのとおりにしかたどっていないみち【雪上に一人の人が歩いた足跡の通りにしかたどっていない道】あごつりみづ
せつじょうをしりですべること【雪上を尻で滑べること】けつつじより

せっせと へっへど
ぜったい【絶対】じえってあー、ぜってあ
せっちゃくする【接着する】ふつぐ
せっちん へんつ
せつつく へづぐ
せつど【節度】きりはれあ
せつない【切ない】へづねあ
せっぱ【切羽】へっぱ
せつび【設備】へずび
せっぴ【雪庇】まぶ
せつぶん【節分】へずぶん
せつめい【説明】へづめい
せつもう【雪盲】ゆぎめ
せつやく【節約】へずやぐ
せと【瀬戸】へど
せとかけ【瀬戸欠け】へどかけ
せとぎわ【瀬戸際】へどぎわ
せともの【瀬戸物】へどおの
せなか【背中】へなが
せなかあて【背中当て】へながあて
せなかあわせ【背中合わせ】へながあへ
せなかをまるめてうごきまわるさま【背中を丸めて動きまわるさま】すこもこ
ぜに【銭】じえね、じえんじえ
せぬい【背縫い】へぬい
せのび【背伸び】へのび
せばまる【狭まる】へばまる
せばめる【狭める】つばめる、へばめる
ぜひ【是非】じえひ、なんでかんで、なんでもかんでも
せびる へびる
せびれ【背鱗】へびれ
せぼね【背骨】おおほね、へぼね

せまい【狭い】へばこえ
 せまくるしい【狭苦しい】へばくるす
 せみ【蟬】へみ
 せむし へむす
 せめる【責める】へめる
 せやみ へやみ
 せり【芹】へり
 せり【糶り】へり
 せりあう【競り合う】へりあう
 せわ【世話】へわ
 せわしい かつちよわす、へずらねあ、へわす、や
 っせあねあ
 せわしない【忙しない】へわすねあ
 せわずき【世話好き】へわずぎ
 せわやき【世話焼き】へわやぎ
 せわやく【世話役】へわやぐ
 せん【干】へん
 せん【栓】じょうのめ、つっぺ
 せん【線】ぎり、へん
 ぜん【膳】じえん
 せんき へんき
 せんき【疝気】へんき
 せんぎ【詮議】へんぎ
 せんきよ【選挙】へんきよ
 せんぎり【千切り】へんぎり
 せんげつ【先月】へんげつ
 ぜんご【前後】うすろめあ
 せんこう【線香】へんこ
 せんこく【先刻】へんこく
 せんさい【先妻】へんかが、へんぱら
 せんさく【詮索】へんさく
 せんじぐすり【煎じ薬】へんじぐすり
 せんじつ【先日】へだて、へんずつ

ぜんしん【全身】ごてあー
 せんずる【煎ずる】へずる
 せんせい【先生】へんへ
 ぜんぜん【全然】じであきり、からぎり、がりっ
 と、ぎりっと、こぐれあど、こりっと、じえん
 じえん、ずであきり、であつきり、はっぱり
 せんぞ【先祖】へんぞ
 ぜんそく【喘息】たんしょ
 ぜんたい【全体】じえんてあー
 せんたく【洗濯】へんたく
 せんたくもの【洗濯物】へんたくもの
 せんだつ【先達】へんだつ
 せんだつて【先達て】へだて、へんな
 せんたん【先端】さきちよ、さぎばす
 せんちやくじゅん【先着順】へんちやぐじゅん
 せんぬき【栓抜き】へんぬぎ
 せんば【千歯】へんば
 ぜんぶ【全部】すかっと、すてっと、つるっと、
 べろっと、まるっと、まるまま、みながら
 せんぶり へんぶり
 せんべい【煎餅】へんべ
 せんべいぶとん【煎餅布団】へんべぶとん
 せんべつ【選別】へんべつ
 せんべつ【餞別】へんべつ
 せんぼう【先方】へんぼう
 ぜんまい【ゼンマイ】じえんめあ
 ぜんまい じえんめあ
 ぜんまいひら じえんめあびら
 ぜんまいほし【ぜんまい乾し】じえんめあぼす
 せんめん【洗面】つらあれあ
 せんりょう【千両】へんりよ
 せんろ【線路】へんど
 ぜんわん【膳椀】じえんわん
 せんをする【栓をする】おっぺす

—そ—

そあくひん【粗悪品】ざぐ
 そいつ そえず、へあーず、ほえず
 そう そ、べ、ほう、ほげあ、ほんげあ、ん、んだ
 ぞう【蔵】～ぞ
 そうい【相違】そい
 そうぎ【葬儀】だみ
 ぞうきのえだ【雑木の枝】べあーだ
 ぞうきん【雑布】したふぎ
 そうけだつ そそけだず
 ぞうざい【造材】たまぎり
 ぞうさない【造作ない】じょーさねあ、ぞうさね
 あ
 そうしき【葬式】そうすぎ、だみ、とむれあ
 そうして して、ほして
 そうじまい【総仕舞】そーずめあー
 ぞうすい【雑炊】ぞーすま
 そうすると だずど
 そうせいじ【双生児】したご
 そうそう ほんげあほんげあ、ほーほ
 そうぞうしい【騒騒しい】そーぞーす
 そうだ ～じょん、～そだ、～つけ、ずおん、ど、ほ
 だ、んだ
 そうだ【～そうだ】じゅおん、つけ、どよ
 そうたい【総体】そーてあー
 そうだい【総代】そーであー
 そうだが【～そうだが】つけあ
 そうち【装置】そーつ
 ぞうちく【増築】ぞーつぐ
 そうちょう【早朝】あさぱら
 そうとう【相当】こうであ

そうどう【騒動】そーど
 そうなん【遭難】ふぎどり
 ぞうに【雑煮】すますもず
 ぞうにもち【雑煮餅】すますもず
 そうほう【双方】そーほ
 そうようをえだからとってあたえること【桑葉を
 枝からとって与えること】しとばかへ
 ぞうり【草履】じょうり、じょり
 ぞうりのみじかいもの【草履の短かいもの】あし
 だが
 ぞうりみち【草履道】じょりみず
 そうりょ【僧侶】あどさま
 ぞうりんきにかぶさっているぞうき【造林木にか
 ぶさっている雑木】かさぎ
 ぞうりんちのぞうき【造林地の雑木】べあだ
 そえもの【添え物】そえおの
 そくい【続飯】そぐい
 ぞくご【俗語】ねへおごしならねあ
 そくしゃく【測尺】しょくしゃぐ
 ぞくぞく さわさわ、ぞくっと、もろもろ
 そこ【其所】そご、ほご
 そこうのわるいもの【素行の悪い者】しっしやま
 すおの
 そこで ほごで
 そこなだれ【底雪崩】そごなで
 そこねる そぐねる
 そこら【其処ら】ほごら
 そざつ【粗雑】ざっぱ
 そざつひん【粗雑品】ざぐ
 そしつ【素質】そすず

そして して、ほして
 そそう【粗相】おそこそ、かつおそ、そそ
 そそかしい そそかす
 そだてる【育てる】おがす
 そちこち ほつつこつつ
 そちら ほつつ
 そつぎょうせい【卒業生】そつぎょへ
 そっくり がらみ、すんと、そくつと
 そっくりかえりえる【そっくり返える】そっくり
 げある
 そっけない そっけねあ、そっぺあねあ
 そっち ほつつ
 そっちのけ ほつつのげ
 そと【外】えのめあ、さらど
 そとば【卒塔婆】とば
 そなえ【供え】そねあー
 そなえ【備え】そねあー
 そなえつける【備え付ける】そねあーずげる
 そなえめしのいっしゅ【供え飯の一種】まぐらえ
 めし
 そなえもの【供え物】そねあーおの
 そなえる【供える】そねある
 そなえる【備える】そねある
 そなえるはな【供える花】ぼんばな
 そなえるりょうりのな【供える料理の名】みづも
 り
 そねむ【嫉む】しょねむ、やがごむ
 その【其の】ほの
 そのうえ【その上】ほのゆえ
 そのうち ほのうず
 そのくせ ほのくへ
 そのころ【その頃】とうず zU
 そのた【その他】ほのほが

そのたおおぜい【その他多勢】ぐぞへあ
 そのつど【その都度】ばんきり
 そのて【その手】ほのて
 そのでん【その伝】ほのでん
 そのば【その場】ほのば
 そのばかぎり【その場限り】ほのばかぎり
 そのはず【その筈】ほのはず
 そのばのがれ【その場逃れ】ほのばぬがれ
 そのひぐらし【その日暮し】ほのひぐらす
 そのへん【その辺】ほごら
 そのみち【その道】ほのみず
 そのもの【その物】ほのおの
 そば【側】ね
 そばがゆもち【そば粥餅】けあもづ
 そぼう【粗暴】あらば
 そまつ【粗末】おそこそ、ぞんぜあ、むだき、も
 じゃばねあ、もずくたねあ
 そまつにさく【粗末に裂く】むざぐ
 そめもの【染め物】そめおの
 そら ほら
 そらおそろしい【空恐ろしい】そらおそろす
 そらみみ【空耳】からみみ
 そり【橇】しより、よずじより
 そりかえること【反りかえること】びどる
 そりのり【橇乗り】しよりこのり
 そりひき【橇曳き】しよりひぎ
 そりひきみち【橇曳き道】しよりひぎみず
 そりみち【橇道】しよりひぎみづ
 そる【剃る】する
 そる【反る】びどる
 それ そえず、へあづ、ほれ
 それいじょうに【それ以上に】まっと
 それから ほれがら

それこそ

それこそ ほれこそ
それじゃ んだら、んであ
それで ほんで
それでこそ ほんでこそ
それでは んだら、んであ
それとなく ほれどねあぐ
それとも ほれとも
それなら んだら、んであ
それなり ほれなり
それは ほれあ
そればかり へあつぱり
そろえる【揃える】きつっおろえる

ぞろぞろ ぞろもろ
ぞろぞろとおおぜいであるくこと【ぞろぞろと大勢で歩くこと】へげぞろ
そろりと そろっと
ぞろりと ぞろっと
ぞんざい ぞんぜあ
そんずる【損ずる】そぐねる、そずる
そんな そげあた、そゆた、はんつけあた、へあつけあた、へあづけあた、ほげあ、ほげあた、ほんた
そんなら ほだあら
そんをすること【損をすること】しかぶず

— た —

ただ

たい であ

たい【鯛】てあー

だい【代】～てあー、であ

だい【台】であ

だい【題】てあー

だいいち【第一】てあいつ

だいおうじょう【大往生】てあーおーじよ

だいおしょう【大和尚】てあーおしよ

たいがい【大概】えっくれあ、てあげあ、てあー
げあー

たいかく【体格】たえかぐ、てあーかぐ、らって
あ

だいがわり【代がわり】てあがわり

たいき【大気】てあぎ

たいぎ【大儀】てあぎ

だいき【台木】てあーぎ

だいきし【代議士】てあーぎす

だいきらい【大嫌い】てあきれあ、てあつきれあ

たいきん【大金】たいめあー、てあーきん、てあ
ーめあー

だいきん【代金】てあきん

だいく【大工】てあぐ

たいぐう【待遇】たいぐ、てあぐ

たいくつ【退屈】てあぐつ、とじえん

たいこ【太鼓】てあご

だいきくさま【大黒さま】てあぐぐさま

だいきくばしら【大黒柱】てあーごぐばすら

たいこばら【太鼓腹】てあーごばら

だいきん【大根】てあご

だいきんおろし【大根おろし】てあーごおろす

だいきんじる【大根汁】てあごずる

だいきんづけ【大根漬】てあーごずげ

だいきんのば【大根の葉】てあーごんば

たいさん【退散】てあーさん

だいさんしゃのげんどうをあいてにつたえるこ
とば【第三者の言動を相手に伝える言葉】～け
な

たいじ【退治】てあーず

だいじ【大事】てあじ、てあーず

だいしこう【大師講】てあすこ

たいした てあした

たいして【大して】てあーして

だいじゃ【大蛇】じゃてあ、てあーじゃ

たいしょう【大将】てあしよ

だいじょうぶ【大丈夫】てあじょうぶ、てあーじ
よーぶ

だいしょうべんのもれること【大小便の漏れるこ
と】むぐれる

だいじん【大臣】てあーずん

だいじんぐうさま【大神宮さま】てあずんぐさま

だいしんさい【大震災】だいしんせあー、てあー
すんせあー

だいず【大豆】てあーず

だいすき【大好き】てあーすぎ

たいせつ【大切】たいへず、てあじ

たいそう【大層】てあそう

たいそくをしたにしてねること【体側を下にして
寝ること】えっちょね

だいたい【大体】てあーてあー

だいたい【代代】れぎであ
 たいたごはんがたりなくなる【炊いたご飯が
 足りなくなる】へらかづぐ
 だいたん【大胆】ふって
 だいちょう【台帳】であーちょ
 たいてい【大抵】であーで
 たいど【大度】であぎ
 だいどう【大道】であど
 だいとくい【大得意】おおいぎ
 だいどころ【台所】いりみじや、であどご、なが
 す、みじや
 だいなし【台無し】であなし
 だいにちによらい【大日如来】おであんつあま
 だいにん【代人】であーにん
 だいの【大の】であーの
 たいはい【大敗】びだまげ
 だいばかり【台秤】であーばかり
 たいはん【大半】であーはん
 たいひ【堆肥】わらごえ
 たいひじょう【堆肥場】こえずが
 たいひはこび【堆肥運び】こえしよい
 たいびょう【大病】であーびよー
 だいぶ【大分】であぶ
 だいぶおおきくなったさんさいのじょうぶのや
 わらかいところをとること【大分大きくなっ
 た山菜の、上部の軟かいところをとること】う
 らおり
 だいふくもち【大福餅】あんびんもず
 だいぶぶん【大部分】であーぶぶん
 だいぶん【大分】であんぶ
 たいへん【大変】おんごど、おーごど、であへん
 たいぼく【大木】であーぼぐ、ぼぐ
 たいまい【大枚】たいめあー、であーめあー

たいまつ【松明】であーます
 たいめん【体面】めんべあ
 たいや【逮夜】おだや
 たいよう【太陽】あがひ
 たいら【平ら】てあら、びつたら
 たいらげる【平らげる】てあらげる
 たいらだ【平らだ】びつたらこえ
 だいら【代理】であーり
 だいらき【大力】であーりぎ
 だいらさま【大裏さま】であーりさま
 たいわんぼうず【たいわん坊主】たいわんぼげ
 たうえ【田植え】さづぎ
 たうえごのいろうえん【田植え後の慰労宴】さな
 ぶり、よでな
 たうち【田打ち】たこぎり、たぶず
 たえず【絶えず】すじゅ
 たおす【倒す】もけあす、もつけあす
 たおる【タオル】つらぬげ
 たおれる【倒れる】もけある、もつけある
 だが んだども
 たかい【高い】たげあ
 たかいおと【高い音】だがすか
 たがいちがい【互い違い】たげあーつげあー、つ
 ごたご
 たかいところ【高い所】たがで
 たがいにみないやくそく【互に見ない約束】みね
 あこ
 たかいびぎ【高軒】たがえびぎ
 たかがり【たか狩り】たがつけあ
 たかじょう【鷹匠】たがつけあ
 たかびしゃ【高飛車】たがびしゃ
 たかまど【高窓】さま
 たがやす【耕す】こぎる

たからもの【宝物】たがらおの
 だかれる【抱かれる】だがる
 たかわらい【高笑い】たがわれあ
 だきあわせ【抱き合わせ】だぎあへ
 たきぎ【薪】たぎおの、はるぎ
 たきび【焚き火】ひいたぎ
 たきもの【焚きもの】たぎおの
 たくあつかい【宅扱い】たぐあづけあ
 たくさん【沢山】うんと、えっぱえ、えっぺあ、
 こうであ、しとしょい、すこだま、でしっと、
 でちっと、でっすら、ふだ、へえほであ
 たくさんだ たくさだ
 たくしあげる【たくし上げる】したぐる、たぐる
 たくましい【逞しい】たぐます
 たぐる たごむ
 たくわえ【蓄え】たぐわえあ
 たくわえる【蓄える】たぐわえある
 たくわんづけ【沢庵漬】であーごずげ
 たけ【他家】しとなえ
 たけしい【猛しい】たげし
 たけだけしい【猛ましい】たげだけす
 たげつつ【竹筒】たげつつぼ
 たけなが たげなが
 たし【足し】たそぐ
 だしいれ【出し入れ】だすえれ
 たしざん【足し算】よへざん
 たしまえ【足し前】たすめあ
 だしもの【出し物】だすおの
 たすき たすこ、たつつこ
 たずねあわせる【尋ね合わせる】たねあへる
 たずねもの【尋ね物】たねおの
 たずねる たねる
 ただ たあだ、たんだ

だだ【駄駄】ごが
 ただいまつかい【只今使い】ただえまづけあ
 たたきみ【叩き身】ただぎみ
 たたく【叩く】あずげる、くらすける、ただぐ、
 ぶたぐ、ぶつつめる
 ただごと【只事】ただごと
 ただしい【正しい】ただす
 だだっぴろい【だだっ広い】だだびろえ
 たたみがえ【畳替え】ただみげあ
 たち【達】～だ
 たち【～達】だ
 たちあおい【立葵】からおえ
 たちあがる【立ち上がる】たずびあがる
 たちいた【裁ち板】たづばん
 たちぎえ【立ち消え】たずげ
 たちしおで もんがぐ
 たちどまる【立ち止まる】よどめる
 たちながし【立ち流し】あげながし
 たちばさみ【裁ち鋏】たづばさみ
 たちばん【裁ち盤】たづばん
 たちふるまい【立ち振舞】たずぶるめあー
 たちむすび【立ち結び】たずむすび
 だちん【駄賃】だづん
 たつ【経つ】おもう
 たつ【立つ】たったする
 たっけ ～たけ（だけ）
 だっけ ～たけ（だけ）
 だった がった
 だったそうだ けど
 たって ～たて
 だって だて、ほだて、んだて
 たっぶり だっぶら、だぶっと
 たて だて

たてかえ【建て替え】たでげあ
 たてつづけ【立て続け】べろづぐ
 たてまえ【建て前】たでめあ
 たてもの【建て物】たでおの
 だと【～だと】だずど
 たなしり【たな尻】たなけつづ
 だに【壁蝨】だんに
 たにうつぎ がざぎ
 たにし つぶ
 たにん【他人】たしん、たすん
 たにんがちゅうねんのひとづまをよぶときのな
 【他人が中年の人妻を呼ぶ時の名】ががつあ
 たねあゆ【種鮎】たなあゆ
 たねいも【種芋】たなえも
 たねうし【種牛】たねべご
 たねもの【種物】たなおの
 たねもみ【種粬】たなもみ
 たのあぜ【田の畔】ので
 たのかみさま【田の神さま】たのがみさま
 たのしい【楽しい】たのす
 たのしみ【楽しみ】ごほらぐ
 たのつちをこまかくするさぎょうめい【田の土を
 細かくする作業名】たこぎり
 たのむ【頼む】くづかげる
 たのもしい【頼もしい】たのもす
 たばこ【煙草】ばば
 たばこいれ【煙草入れ】かます、たばこれ
 たばねる【束ねる】そぐねる、まるぐ
 たび【足袋】たんた、たんび
 たび【度】たんび
 たびあきない【旅商い】たびあぎねあー
 だぶだぶ がふがふ、がほがほ、だぶらだぶら、ぶ
 がぶが

たべきょうそう【食べ競争】くいくれあご
 たべぐあい【食べ具合】くいあんべあ
 たべくら【食べくら】くいくれあご
 たべさせる【食べさせる】かへる
 たべもの【食べ物】くいおの
 たまごかけごはん【卵かけ飯】たまごまま
 たまごめし【卵飯】たまごまま
 だます かづぐ
 たまに あわえあん
 たまりかねる【堪り兼ねる】たまりかねある
 たまわり【田廻り】たまり
 たむし【田虫】たんむす
 ためいき【溜め息】ためえぎ
 ためいけ【溜め池】ためげ
 ためいけ【溜池】ためげ
 ためし【試し】あんべあみ
 だめにする【駄目にする】そぐねる、そだす
 だめになる【駄目になる】えがれる
 ためらい しりしこみ、にあづ
 ためらう にあずする
 たやす【絶やす】きしゃす
 たやすい いどやす、かりやす、たやす
 だよ だなだ
 たよりない【頼りない】たよりねあ
 たらい たれあ、はんざり
 たらいまわし【たらい回し】たれあます
 だらく づだらぐ
 だらしない だらすねあ、びしょてあ
 たらす かつたらす
 たらたたき たらただぎ
 たらものしらこ【鱈の白子】きぐわだ、だだみ
 たらものしんめ【たらの新芽】たらのもえ
 たらまわし たらまし

だらりと だらっと

たりない【足りない】たんねあ

だりや【ダリヤ】てんずぐぼだん

だるい だり

たるせおい【樽背負い】たるこしょい

だれ どえず

だれ【誰】だれおの

たれる たえる

だろう ごであ、だべ、べ

だろうね ~べした

だろうよ べは

たわい たわえ

たわいない ほっけあねあ

たわいなし ほんじなし

たわし【束子】もだら、もんだら

たわら【俵】たら

だん【段】がっき

たんか【単価】かね

だんがい【断崖】がっかげ、がんくら、ゆわがん
くら

たんき【短気】たんぱら

たんこう【炭鉱】たんこ

だんごのいっしゅ【団子の一種】ねもづ

たんざく【短冊】たんじゃぐ

たんじょうなのかめ【誕生七日目】しづや

たんぜん【丹前】たんじえん

だんぜん【断然】だんじえん

だんちがい【段違い】だんつげあ

だんぺんてき【断片的】とっぺさっぺ

たんぼ【田圃】ともで

だんまり ペそっと

—ち—

ち【血】つ

ちいさい【小さい】こちちえあ、こちちちえ、し
ちちこえ、ちちこえ

ちいさいにもつ【小さい荷物】こもくら

ちいさくきりさく【小さく切り裂く】きりこまざ
ぐ

ち一ず【チーズ】ツーズ

ちうみ【血膿】つんみ

ちえ【知恵】つえ

ちかい【近い】ちっけあ

ちがい おどり

ちがい【違い】ちげあ、つげあー

ちがいだな【違い棚】つげあだな

ちがう【違う】つがう

ちかく【近く】ちけあぐ、つけあぐ

ちかごろ【近頃】このじゆ、つかごろ

ちかしい【近い】つかす

ちかしつ【地下室】つかすず

ちかちか つかつか

ちかま【近間】つかま

ちかみち【近道】つかみず

ちかむかえ【近むかえ】ちかむげあ

ちからいっばい【力いっばい】つからえっぺあー

ちからかげろう たがちか

ちからこぶ【力瘤】つからこぶ

ちからしごと【力仕事】つからすごと

ちからずく【力ずく】つからずぐ

ちからだめし【力試し】つからだめす

ちからづよい【力強い】つからずえ

ちからまかせ【力任せ】つからまがへ

ちぎったみずな【千切ったみずな】もぎりみず

ちぎる【千切る】しちやばぐ、つぎる、もぎる

ちくしょう【畜生】しっしょ、つきしょ

ぢくぢく ぢくぢく

ちくば【竹馬】たがあし

ちくび【乳首】つづくび

ちくわ【竹輪】つぐわ

ちじ【知事】つず

ちず【地図】つず

ちすじ【血筋】つすず

ちち【乳】ばいばい

ちち【父】つず

ちちおや【父親】つずおや

ちぢかむ【縮かむ】つつかむ

ちぢくさい【乳臭い】つずこくせあ

ちぢこまる つつこまる

ちちなしご【父無し子】ほったんこ

ちぢまる【縮まる】つづまる

ちぢみあがる【縮みあがる】つずみあがる

ちぢむ【縮む】つずむ

ちぢめる【縮める】つずめる

ちぢれげ【ちぢれ毛】つづれけ

ちっとも ねっから

ちなまくさい【血腥い】ちなまくせあ、つなまく
せあ

ちのみご【乳飲み子】つのみご

ちばしる【血走る】つばする

ちばなれ【乳離れ】つずこばなれ

ちびちび ちよびちよび、つびりこびり

ちぶさ【乳房】つづこ

ちまき【粽】ささまぎ	ちょうせんぎく ちょうへんぎく
ちまちま つまつま	ちょうだい【頂戴】ちよーであ
ちまなこ【血眼】ちまなぐ、つまなぐ	ちょうだいもの【頂戴物】いだだぎおの
ちゃかちゃか ちゃかもか	ちょうちょう【町長】ちよーちよ
ちゃつかり ちゃかつと	ちょうちょう【蝶蝶】ちよーちよ
ちゃづつ【茶筒】おじゃつつぼ	ちょうちん【提燈】ちよーずん
ちゃのま【茶の間】おぢやのま	ちょうつがい【蝶番】ちよーずげあー
ちゃふきん【茶布巾】おじゃぶぎん	ちょうな【手斧】ちよんな
ちゅういする【注意する】きつける	ちょうない【町内】ちよーねあー
ちゅうがえり【宙返り】ちゅーげあり、つんくり けあり	ちょうなみ ちよんなみ
ちゅうがり【中刈り】ちゆんがり	ちょうへい【徴兵】ちよーへ
ちゅうかんしょく【中間食】こびる	ちょうへいけんさ【徴兵検査】ちよへけんさ
ちゅうくらい【中位い】ちゆくれあ	ちょうほう【調法】ちよーほ
ちゅうこう【中耕】さぐり	ちょうもく【鳥目】よめぐら
ちゅうごし【中腰】くそたれけつつ	ちょうもん【弔問】つらだす
ちゅうさい【仲裁】さばぐ、ちゅーせあー	ちよくせつ【直接】ずぎへず
ちゅうざいしょ【駐在所】ちゅーぜあーしょ	ちよこなんと ちよこんと
ちゅうしょくごしごとにてること【昼食後仕事に 出ること】ひるおり	ちよすいち【貯水池】ためげ
ちゅうしょくにきたくすること【昼食に帰宅する こと】ひるあがり	ちよつかい ちよっけあ
ちゅうちょ おもやみ	ちよつかいをだす【ちよつかいを出す】ひくめぐ
ちゅうどくする【中毒する】あだる	ちよっと【一寸】しつとえあ、ちよえつと、ちよ っくら
ちゅうとはんぱ【中途半端】なまはんちゃぐ	ちよっぴり ちよぺつと
ちゅうぶう【中風】ちゅーしよ	ちよろぎ ひよーろぎ
ちゅうぶうになる【中風になる】あだる	ちよろりと ちよろつと
ちゅうぶやみ【中風病み】ちゅーしよたがり	ちらかす【散らかす】つらがす、ぶつつらがす
ちゅうもの【中物】ちゅーおの	ちらかる【散らかる】つらげる
ちよいちよい ちよえちよえ	ちらちら つらつら
ちょう【蝶】べつと	ちらりと ちらつと、つらつと
ちょうし【調子】あんべあ、ちよーす	ちりがみ【ちり紙】けつつぬげ
ちょうじょう【頂上】てんけづ	ちんしごと【賃仕事】だずんとり
	ちんちくりん つんつくりん
	ちんぶんかんぶん つんぶんかんぶん

つか【追加】つえか
 ついたち つえだづ
 ついたて【衝立】つえだで
 ついで【序で】つえで、つで
 ついに【遂に】ついで
 つうこうどめ【通交止め】はっと
 つうちょう【通帳】つーちょ
 つかい【使い】つけあ
 つかい【番】つけあー
 つかいこなす【使いこなす】つけあーこなす
 つかいこむ【使い込む】つけあーこむ
 つかいて【使い手】つけあーで
 つかいで【使いで】つけあーで
 つかいばしり【使い走り】つけあーばすり
 つかいはたす【使いはたす】はだぐ
 つかいはたす【使い果す】つけあーはだす
 つかいもの【遣い物】つけあーおの
 つかいもの【使い物】つけあーおの
 つかう こぐ
 つかえる【仕える】つけあーる
 つかえる【支える】つかがる
 つがえる【番える】つけあーる
 つかまえる【掴まえる】しめある、つかめあーる、
 へめる
 つかまえる【捕まえる】かすかみづげる、しめあ
 る、すめる、つかめあーる、とっつかめあーる
 つかませる【掴ませる】つかまへる
 つかみっばな【掴みっ鼻】つかんばな
 つかれたさま【疲れたさま】くたらくたら
 つかれてふうふういうこと【疲れてふうふういう

こと】えぎあがる
 つかれる【疲れる】こわえぐなる
 つきあい【付き合い】つきえあ
 つきあたり【突きあたり】つかがり
 つぎあわせる【継ぎ合わせる】つぎあへる
 つきとおす【突き通す】つっとす
 つきとばす【突飛ばす】つっとばす
 つきぬく【突き抜く】つんぬぐ
 つきぬける【突き抜ける】つんぬげる
 つきはなす【突き放す】つっぱなす
 つきもの【付き物】つぎおの
 つきもの【憑き物】つぎおの
 つきもの【継ぎ物】つぎおの
 つく こぐ、ほろぐ
 つく【着く】くつぐ
 つく【吐く】まげる
 つく【付く】くつぐ、ふつぐ
 つく【搗く】はだぐ
 つくし【土筆】ずつくべ
 つくりかえる【作り替える】たおす、つぐりげあ
 ーる
 つくりごと【作りごと】こしえあごと
 つくりもの【作り物】つぐりおの
 つくりわらい【作り笑い】つぐりわれあ
 つくる【作る】こしえる
 つけあわせ【付け合わせ】つけあへ
 つけぎ【付け木】つけげ
 つげぐちする【告げ口する】まねあげる
 つけくわる【付け加わる】たさる
 つけひも【付け紐】つけひぼ

つけもの【漬物】おごご、つけおの	って ~じゃ、~どや、たて、て、ど
つごう【都合】つご	ってば ~でば
つごうがわるい【都合が悪い】かんじょわり	つと【苞】つと
つずら【葛籠】つんずら	つど【都度】たんび、ばんきり
つたえ【伝え】つてあー	つねる【抓る】つねづる、ひねずる
つたえる【伝える】つてあーる	つのつきあい【角突き合い】つのつきえあ
つち【土】こづづ、つず	つのばち【角ばち】つのはず
つちあげび つづあげび	つば【唾】したぎ
つちあらい【土洗い】つずあれあ	つぶる【瞑る】くつつぶる
つちくさい【土臭い】つずくせあ	っばい【~っばい】ぽえ
つちのかたまり【土の塊】だんころ	つま【妻】あねこ、かが、わけあ
つちふまず【土踏まず】つづふまず	つまかわ【爪皮】つまか
つちほこり【土ほこり】ばんぼごり	つましい つます
つかかい つっけあ	つまずき つまかけ
つかかいぼう【つかかい棒】つっけあーぼ	つまみぐいする【つまみ食いする】つまずる
つかかえす【突っ返す】つっけあす	つまみもの【摘み物】つまみおの
つかかかる つかがる、とっかがる	つまようじ【爪揚枝】よーず
つかかける つかげる	つまらない つまらねあ
つづけざま【続けざま】くづおがず、べろづぐ	つまる【詰まる】つっとまる
つっけんどん つっけん	つまかえ【積み替え】つまげあー
つっこむ【突っ込む】つこむ	つまぶかい【罪深い】つまぶげあー
つっころがす【突っ転がす】つっころげあす	つむじかぜ まぎがじえ
つっころばす【突っ転ばす】つっころがす、つっころげあす	つむじまがり【つむじ曲り】こんじよまがり、むんつん
つっじ つずぎ	つむじをまげる【つむじを曲げる】むつける
つっしみ【慎み】つづすみ	つむる【瞑る】しくる、ひくる
つっしむ【慎む】つずすむ	つめあわせ【詰め合わせ】つめあへ
つっそで【筒袖】つっぼそで	つめたい【冷たい】つであ
つったてる【突っ立てる】おったでる	つめのはれ【爪の腫れ】つまっばれ
つっばる つばる	つもり かんじゆ、かんじよ
つつましい【慎ましい】つずます	つよい【強い】つえ、はっつおえ
つつま【堤】ためげ	つらい つれあ
つづりあわせる【綴り合わせる】つずりあへる	づらい【~づらい】づれあ

つらいおもいをするこ

つらいおもいをするこ【つらい思いをするこ
と】みずめみる

つらがまえ【面構え】つらがんめあ

つらにくい【面憎い】つらにぐえ

つらら すが

つりあい【釣り合い】つりえあー

つりいと【釣り糸】てんぐそ

つりせん【釣銭】けあり、つりへん

つりふねそう ちょーずんこばな

つるざいく【蔓細工】つるぜあーぐ

つるつる でらでら

つるはし つる

つるりと つるっと

つれあい【連れ合い】つれえあ

つれづれ【徒然】とじえん

つれない つれねあー

つれる【連れる】したげある

つわり きしえ

つんつるてん つんつくりん

つんのめる つのめる

つんぼ【聾】きがず

—て—

て【手】～と、てこ
 てあい【手合い】てえあー
 てあいがしら【出合い頭】てえあーがすら
 てあそび【手遊び】てあすび
 てあみ【手綱】ちよんなみ
 てあらい【手荒い】てあれあ
 てあらい【手洗い】てあれあ
 であるく【出歩く】でありぐ
 てあわせ【手合わせ】てあわへ
 ていさい【体裁】てーせあー
 ていせつなだれ【低雪雪崩】そごなで
 ていたい【手痛い】ていであ
 ていねい【丁寧】ねづ、まで
 ていねいに【丁寧に】てねんと
 ていのうじ【低能児】しっしやますおの
 ていり【出入り】でへあり
 ていれ【手入れ】てえれ
 てうえ【手植え】てゆえ
 ておくれ【手おくれ】あどのまづり
 でおとり【出劣り】でおどり
 でかい でっけあ
 でかせぎ【出稼ぎ】でかへぎ
 てがたい【手堅い】てがであ
 てがはやい【手が早い】こっぺあはえあ
 てがるい【手軽い】てがり
 でき【出来】でげ
 できあい【出来合い】でぎえあー
 できあがり【出来上がり】でげあがり
 できあがる【出来上がる】でげあがる
 できごころ【出来心】でげごころ

できごと【出来ごと】でげごど
 できし【溺死】かわながれ
 できそこない【出来損ない】でげそぐねあ、でげ
 そぐねあ
 できだか【出来高】でげだか
 できだかばらい【出来高払い】でげだかばれあ
 できたら【出来たら】ならば
 てきとう【適当】えあんべあ、えっくれあ
 てきびしい【手厳しい】てきびす
 できぶつ でげぶつ
 できもの【出来もの】でげおの
 できもの【出来物】でげぶつ
 できる【出切る】でっきる
 できる【出来る】さえる、しえる、せる、でげる、
 へる
 できるなら【出来るなら】ならば
 てぐす てんぐそ
 てくせ【手癖】てくへ
 てぐるま【手車】てんぐるま
 てこいれ【挺入れ】てごえれ
 てごたえ【手応え】てごであー
 でこぼこ【凸凹】でごひこ
 てごわい【手強い】てごわえあー
 てざいく【手細工】てぜあーぐ
 てさき【手先】ちよっけあ
 てざま【手狭】てじえま
 でし【弟子】です
 てじなし【手品師】てずまつけあ
 てじなつかい【手品使い】てずまつけあ
 てすう【手数】てす

ですね なーおす
 てだすけにん【手助け人】てご
 てちがい【手違い】てつげあ
 てちょう【手帳】てじよ
 でっかい でっけあ
 てっきょう【鉄橋】がど
 でつしり【出つ尻】たなけつつ
 てつせいのあしにつげるすべりとめ【鉄製の足に
 つげる滑り止め】かながんずぎ
 てつだい【手伝い】てづであ、てんであ
 てつだいにん【手伝い人】てづであと
 てつだいにん【手伝人】てご、てずであと
 てつどうせんろ【鉄道線路】きしゃみづ、へんど
 てつとりばやい【手っ取り早い】てつとりばえあ
 てつのかさび【鉄の楔】かなや
 てつびん【鉄びん】かまこ
 てつぶり てぶっと
 でつぶり でぶっと
 てっぺん【天辺】てんけづ、てんぺ
 てっぼううち【鉄砲打ち】てっぼぶづ
 ててなしご【父無し子】てでなすご
 てなべ【手鍋】てなんべ
 てならい【手習い】てなれあ
 てにあまる【手に余る】おえねあ
 てぬぐい【手拭】つらぬげ、てぬげ
 てぬるい【手緩い】てぬり
 てのこう【手の甲】てのご
 では であ
 てばな【手鼻】つかんばな
 でばぼうちょう【出刃包丁】でばばえじよ、なま
 くさばえじよ
 てばやい【手早い】てばえあ
 てびかえ【手控え】てびげあ

でびたい【出額】がつけ
 てひどい【手酷い】てひでえ
 てびろい【手広い】てびれ
 てふき【手拭き】てふぎん
 てぶら【手ぶら】からみ、てぶり
 でほうだい【出放題】でほであ
 てまえ【手前】てめあー
 でまえ【出前】でめあー
 てまがえ【手間替え】てまげあ、よえ
 でまかせ【出任せ】でまがへ
 てまどり【手間取り】てまどり
 てまね【手真似】てまねあ
 てまり【手毬】てんまる
 でむかえ【出迎え】でむげあ
 でむかえる【出迎える】でむげある
 ても ～たて
 でも んでも
 てもとがくるう【手元が狂う】とっぱずらがす
 てらまいり【寺参り】てらめあり
 でらりと ずえら
 てりかえし【照り返し】てりげあーす
 でる【出る】ではる
 てれくさい【照れ臭い】てれくせあ
 てをたたくあそび【手を叩く遊び】ちよずちよず
 てをつなぐ【手をつなぐ】ぴけある
 てをひく【手を引く】ぴけある
 でんがくめし【田楽飯】でんがぐまま
 てんきまつり【天気祭り】てんきまつり
 でんぐりがえし【でんぐり返し】でんぐりげあす
 でんぐりがえる【でんぐり返る】でんぐりげある
 てんこうがきゅうにわるくなること【天候が急に
 悪くなること】だしあれ
 てんじくぼたん てんずぐぼだん

てんじょう【天井】てんじょ
てんしょうこうだいじんぐう【天照皇大神宮】で
あずんぐさま
てんじょうをむく【天井を向く】てんこらふぐ
でんしんばしら【電信柱】でんすんばすら
でんちゅう【電柱】でんきんばすら、でんすんば
すら

てんてこまい【天手古舞】ぐりぐりめあ、ぐるぐ
るめあ、てんてこめあ
てんでに てんでこで、てんでん
でんでんむし【でんでん虫】かだつぶ
てんぶら【天ぶら】つけあげ
でんぶん【澱粉】ねばな
でんぼう【電報】でんぼ

—と—

- と ずど、て、ど
 どあ【ドア】ましど、ますど
 とい あまどよ
 とい【樋】とよ
 といあわせる【問い合わせる】きぎあへる、といあへる
 ということは ~ずあ
 ということは【~ということは】じゃ
 いうのに【~いうのに】たら
 いうのは ~ずあ
 いうのは【~いうのは】じゅあ
 いうもの ずおの
 いうものは ~ずあ
 いうものは【~いうものは】じゃ、じゅあ
 どいつ どえず
 どいつごい【ドイツ鯉】ドイツごえ
 といっていた【~といっていた】つけ
 といっていたよ【~といっていたよ】つけあ
 といってるのに【~といってるのに】たら
 とう【臺】と
 どう どげあ、なじ、なんず
 どういう どゆう
 どうか だが、なんずが
 どうかすると ひよえっと
 とうきび ときび、とっきび
 どうきゅうせい【同級生】どーきゅーへ
 どうぎり【胴切り】どんぎり
 どうぐ【道具】どんぐ
 どうぐのいっしゅ【道具の一種】こまざれあ、ぼんでん
 どうぐもち【道具餅】どうぐもづ
 とうぐわ【唐鍬】とが
 とうさいこ【当才仔】とぜあこ
 とうさん【父さん】おど
 とうさんする【倒産する】かまけあす
 とうじ【湯治】とうづ zU
 とうじ【当時】とうず zU
 とうしする【凍死する】すみすぬ
 とうじつ【当日】とーずつ
 どうして なして
 どうしても ないんたて、なんずしても、なんでもかんでも、ねあんたて
 どうじめ【胴締め】どんずめ
 どうしようもない おえねあ、たげあただねあ、やづはづあねあ
 どうせ どうへ、どへ
 どうせこうせ どへこへ
 どうせつ【当節】このへづ
 とうぜん【当然】あだりめあ、とーじえん
 どうぜん【同然】どーじえん
 とうぜんだろうよ【当然……だろうよ】べした
 どうそうせい【同窓生】どーそーへ
 とうだい【燈台】とーであー
 どうづき【胴突き】どんずぎ
 どうであつても【どうあつても】ねあんたて
 どうてん【動転】どでん
 どうてんする【動転する】きもけす
 とうとう【到頭】とうど
 どうなか【胴中】どんなが
 どうなんだ なんだ

とうなんよけ【盗難除け】おによげ
 とうに【疾に】とつくん
 どうにか なんずが
 どうにかこうにか なんずがかんずが
 どうにかして なんずがして
 とうようびょう【糖尿病】とーにゅーびょー
 どうねんれい【同年令】しととし
 とうのたったな【とうの立った菜】くぎだづ
 とうば【塔婆】とば
 とうふ【豆腐】とふ
 とうふう【東風】だしかじえ、ひがすかじえ
 とうふがら【豆腐殻】とふかす
 どうぶつのこをいう【動物の仔をいう】こっこ
 どうまき【胴巻き】どんまぎ
 とうみ【唐箕】とみ
 とうもろこし ときび、とっきび
 どうもん【洞門】どうもん
 どうりで【道理で】どんで
 どうろ【道路】けあど、みづ
 とうろう とろんこ
 とおい【遠い】とおえ
 とおく【遠く】とっかだ
 とおす【通す】つとす、とす、ぶとす
 とおせんぼう【通せんぼう】とんぜあばんぜあ、
 はっと
 とおっぱしり【遠っ走り】とっぱすり
 とおまわし【遠回し】とーます
 とおもって【〜と思った】どもた
 とおられる【通られる】とらえる
 とおりいっぺん【通り一遍】とーりえっぺん
 とおりがけ【通りがけ】とりがげ
 とおりすぎる【通り過ぎること】かげどり
 とおりすじ【通り筋】とーりす

とおりみち【通り道】とーりす
 とおる【通る】とる
 とかき とがげ
 とかす かつとぐ
 とがったことば【とがった言葉】きかきか
 どかゆき ばがゆぎ
 とがらす つとげら、とがける
 とがらせる とがける
 とき【時】〜ずぎ、ず、ずぶん、づぎ または
 ずぎ
 とぎじる【研ぎ汁】すろみづ
 どぎつい どぎず
 ときでもない【時でもない】とぎでもねあ
 ときどき【時時】ちよえちよえ
 ときならぬ【時ならぬ】とぎでもねあ
 ときに【時に】とぎん
 ときには【時には】とぎにあ
 ときもの【解き物】とぎおの
 どきりと どきとと
 どきんと どきとと
 どく しゃる
 とくい【得意】えーき、おおいぎ
 どくしん【独身】しとりみ
 どくしんしゃ【独身者】しとりおの
 どくだみ どぐだび、どぐだんび
 どくだん【独断】ころど
 とくとうびょう【禿頭病】たいわんばげ
 どくどくしい【毒毒しい】どぐどぐす
 とげ【刺】とげ
 とけい【時計】とげ
 とけいや【時計屋】とげや
 とげとげしい【刺刺しい】とげとげす
 どこ【何所】ど

どこでもおかまいなく どごさだ やねあぐ
どこにでも どごさだ やねあぐ
どころ【所】どご
どころか おがしやれ
ところきらわず【所嫌わず】どごだじゃねあぐ
とさか けんと
どさりと どさっと
とし【年】とす
としおとこ【年男】とすおどご
としがい【年甲斐】とすげあ
としかさ【年嵩】とすかさ
としかっこう【年格好】とすかっこ
としご【年子】とすご
としこし【年越し】おどすこす
どしつ【土質】どすず
としのくれ【年の暮】つめ
としのせ【年の瀬】とすのへ
としはもゆかないくせに【年端もゆかないくせに】はっから
どしゃくずれ【土砂崩れ】つづなで
どじょう どんじよ
どじょうひげ【泥鯨髭】どんじよへげ
どじょうをとるとど【どじょうを捕る筈】どんじよど
としより【年寄り】としより
としよれば【年寄り馬】がんにじゅんま
としよる【年寄る】えぐ、としよる
どすぐろい【どす黒い】どすぐれ
どそくのままいろりのなかにあしをいれてあたたまること【土足のまま、いろりの中に足を入れて暖まること】ふごむ
どぞり【土構】どじより
どだい【土台】どであ

どだいいし【土台石】いしばいし
とだえる【跡絶える】とであーる
とたんいた【トタン板】とだん
とち【栃】とづ
とちのいっしゅ【土地の一種】かの
とちばにんじん ふすにんずん
とちゅう【途中】とじゅ、とぢゅ
どちら どつつ
どっかと でっこり、どかっと
とつぐ【嫁ぐ】かだづぐ
とっくみあい【取っ組み合い】とっくみえあ
とっくり【徳利】すず
どっさり でっすら、どさっと
どっしり どしっと、どすっと
とつぜん【突然】やふり
どっち どつつ
どっちおとらず【どっち劣らず】しってんにでん
どっちみち どうへ、どつつんしても
とっておき とておぎ
とってかえす【取って返す】とてげあす
どっと どえっと
とっぷり とぶっと
どっぷり どぶっと
どてっばら【土手っ腹】どてばら
どてっぶち【土手っぶち】どてばだ
どてのかた【土手の肩】どてばだ
とどく【届く】とづぐ
とどけ【届け】とずげ
とどける【届ける】とずげる
となえる【唱える】とねある
どなべ【土鍋】どなんべ
となりあわせ【隣り合せ】となりあへ
どなる【怒鳴る】がなる

とのさまがえる すまびつき
 とのさまばった とらぼ
 どのような なんた
 どのように どげあ、なんず
 とびぐち【鳶口】とんばす、とんび
 とびぐちのいっしゅ【鳶口の一種】きりんとんび
 どびやくしょう【土百姓】どんびやくしよ
 とぼける あさってのほむぐ
 とぼしい【乏しい】とぼす
 どま【土間】にわ
 とまどい とうはぐ
 とまどう どまづぐ
 とまりきゃく【泊り客】とまりよど
 とまる【止まる】つとまる
 とみえて【～とみえて】どめで
 とも ても
 ども【～ども】だ
 ともかせぎ【共稼ぎ】ともかへぎ
 ともだち【友達】ながば
 ともらい【弔い】とむれあ
 どもる【吃る】ままなぐ
 どらいばー【ドライバー】ねずます
 とらげ【虎毛】とらば
 とらっぷ【トラップ】がばさみ
 とられる【取られる】とらえる
 とり【鳥】とと、ととこ
 とりあい【取り合い】とりえあ
 とりあえず【取り敢えず】とりえあーず
 とりあししょうま とりあす、ねごあす
 とりあわせ【取り合わせ】とりあへ
 とりあわせる【取り合わせる】とりあへる
 とりい【鳥居】とりえ
 とりいれ【取り入れ】とりえれ

とりおい【鳥追い】とりぼい
 とりおさえる【取り抑える】とりおせある
 とりかえし【取り返し】とっけあす、とりげあす
 とりかえしのつかないたいへんなこと【取り返し
 のつかない大変なこと】やずまげだ
 とりかえす【取り返す】とけあす、とっけあす、
 とりげあす
 とりかえっこ【取り替えっこ】とけあっこ
 とりかえつこ【取り替えつこ】しけあっこ
 とりかえる【取り替える】しけある、すけある、
 とけある、とっけある、とりげある、ひけある
 とりかかる とっかがる
 とりかぶと ぶす
 とりだす【取り出す】こぎる
 とりちがえる【取り違える】とっつけある
 とりちらす【取り散らす】とっつらがす、ほっつ
 らがす
 とりつかれる【取り付かれる】とっつがえる
 とりつく とっつぐ
 とりつける【取り付ける】とっつける
 とりにがす【取り逃がす】とりねがす
 とりのこりのほね【取り残りの骨】どんがら
 とりのふん【鳥の糞】けあし
 とりのぼせる【取り上せる】とりのぼへる
 とりはらう【取り払う】とっばらう
 とりひきする【取引きする】さがす
 とりぶん【取り分】とりめあ
 とりまえ【取り前】とりめあ
 とりもち【鳥もち】もっつ
 とりよせる【取り寄せる】とりよへる
 どれ どえず、どっつ、どの
 とろ【トロ】とろんこ
 だろ【泥】でろ

どろあし

どろあし【泥足】でろあす

どろあそび【泥遊び】どろちよす

どろくさい【泥臭い】どろくせあ

とろっこ【トロッコ】とろんこ

どろまみれ【泥まみれ】どろだらけ

とろりと とろっと

とろろいも【とろろ芋】おえも、とろろえも

どんぐり しだみ

とんでいる【富んでいる】ふぐす

とんでもない とんでもねあ

どんでんがえし【どんでん返し】どんでんげあす

とんと ころっと

どんと でんがり、どえら

どんど どえっと

どんどん どんどど、のんのん、わらわら

どんな どげあた、どゆう、なんた

どんなに なんず

とんねる【トンネル】どうもん

とんび にじゅうまし

とんぼ あげ

とんぼがえり つんくりけあり

とんぼのいっしゅ【とんぼの一種】くるまあげ

どんより どもっと

— な —

ないだ
 ないねあ
 ないしょ【内緒】ねあしょ
 ないしょきん【内緒金】ほったんこ
 ないしょく【内収】ねあーしょく
 ないしょばなし【内緒話】ねあーしょばなす
 ないといけない【～ないといけない】ねあんねあ
 ないない【内内】ねあーねあー
 ないふく【内福】ねあふぐ
 ないぶん【内聞】ねあーぶん
 ないみつ【内密】ねあーみず
 なえ【苗】ねあ
 なえぎ【苗木】ねあーぎ
 なえくばり【苗配り】こねあぶづ
 なえどこにたねをまくこと【苗床に種を蒔くこと】ひしえる
 なえとり【苗取り】ねあーとり
 ながい【長い】なんげあ
 ながいも【長芋】ながえも
 ながき【長木】ながぎ
 ながぐつ【長靴】ふがぐづ
 ながし【流し】みじゃ
 ながしじり【流しじり】へなつり
 ながしにはいってくるりゆうすい【流しに入ってくる流水】いりみず
 なかたがい【仲違い】ながつげあ
 なかだし【中出し】ながだす
 ながたらしい【長たらしい】ながったらす
 なかないせみ【なかない蟬】おつつじえみ
 なかなか ええであ

なかなかなくなること むせあ
 なかにはいってかぼう【中に入ってかぼう】ふたがる
 なかま【仲間】ながぼ
 なかまけんか【仲間けんか】ながぼくれあ
 なかまどうし【仲間同志】ながぼどーす
 なかまに入れる【仲間に入れる】かじえる、まじえる
 なかまにはいる【仲間に入る】はさまる、まざる
 なかまわれ【仲間割れ】ながぼわれ
 ながゆでぼうっとなること【長湯でぼうっとなること】ゆぎあがる
 なかよし【仲よし】ちょーへんこ
 ながわずらい【長患い】ながわずれあ
 なきさけぶ【泣き叫ぶ】なきさがぶ
 なきどころ【泣き所】なきどご
 なきねいり【泣き寝入り】なきねり
 なきまね【泣き真似】なきまねあ
 なきむし【泣き虫】なきめそ、めら
 なきりぼうちょう【菜切り包丁】なっきりぼえじよ
 なきわらい【泣き笑い】なきわれあ
 なく【泣く】なぐ
 なぐさみ【慰み】ごほらぐ
 なぐる くらすける
 なげいれる【投げ入れる】ぶこむ
 なげし【長押】なきし
 なこうど【仲人】ながど
 なごりおいしい【名残惜しい】なごりおす、のりおす

なさけない【情ない】なさげねあ
 なさげぶかい【情深い】なさげぶげあ
 なし【梨】なす
 なしくずし【済し崩し】なすくぞす
 なしだんご【梨団子】なすだんご
 なすりあい【なすり合い】なすりえあ
 なたかい【名高い】なたげあ
 なためる おだめる
 なたれ【雪崩】なで
 なたれのつくけいしゃち【雪崩のつく傾斜地】な
 でつぎびら
 なつかしい【懐かしい】なづがす
 なつく なづぐ
 なっとう【納豆】なっと
 なつもの【夏物】なづおの
 なつやせ【夏やせ】なづやへ
 ななくさ【七草】ななくさ
 ななつ【七つ】ななつつ
 ななめにわれたりきれたりすること【斜めに割れ
 たり切れたりすること】そげる
 なに【何】ない
 なにか【何か】ないが
 なにかにきをとられてあるくさま【何かに気をと
 られて歩くさま】とかばか
 なにくそ【何糞】なくそ
 なにげない【何気ない】なにげねあ
 なにごころない【何心ない】なにごころねあ
 なにしる【何しろ】ないすろ
 なにせ【何せ】なんへ
 なにはさておき【何はさて置き】ないあさでおぎ
 なにはともあれ【何はともあれ】なにあともあれ
 なにはなくとも【何はなくとも】ないあねあーた
 て、なにあねあくたて

なにも【何も】ないも
 なにもかも【何もかも】ないもかいも
 なにもの【何者】だれおの
 なのだ だなだ、なあだ
 なぶる ちよすます
 なべ【鍋】なんべ
 なまあたたかい【生暖かい】なまあたこえ
 なまいき【生意気】なまえぎ
 なまえ【名前】なめあ
 なまえまけ【名前負け】なめあまげ
 なまかじり【生噛り】なまっかずり
 なまかわ【生皮】なまか
 なまぐさい【生臭い】なまくせあ
 なまぐさのもの【生臭物】なまくさおの
 なまけもの【怠け者】なまけおの
 なまじろい【生白い】なまつつろえ
 なまぬるい【生温い】なまぬり
 なまはんか【生半可】なまらはんちやぐ
 なままゆ【生繭】なまめあっこ
 なまめかしい なまめがす
 なまもの【生物】なまおの
 なまやさしい【生易しい】なまやさす
 なみかぜ【波風】なみがじえ
 なみだ【涙】なだ
 なみたいてい【並大抵】なみてあーで
 なみだぐましい【涙ぐましい】なみだぐます
 なみだもろい【涙もろい】なみだもろえ
 なみひととおりの【並一通り】なみしとどーり
 なむあみだぶつ なんまみだ
 なめくじ なめぐづ
 なら ~ごったら、~らば、だば、ば、へば
 ならい【習い】なれあ
 ならし えんぶり

ならたけ もだつ
 ならたけもどきなどのおもとしてさわにはえる
 きのこをいう【ならたけもどき等の主として
 沢に生えるきのこをいう】さわもだつ
 ならない ならねあ
 ならぶさま【並らぶさま】ずらっと
 なりたい なっであ
 なりもの【生り物】なりおの
 なりもの【鳴り物】なりおの
 なるじゃないか なっであ
 なるだけ ならば
 なるよ なっであ
 なれあい【馴れ合い】なれえあ
 なれしたしむ【馴れ親しむ】なづぐ
 なれている【馴れている】すづげる
 なれなれしい【馴れ馴れしい】なれなれす
 なわしろ【苗代】なすろ
 なわのいっしゅ【縄の一種】かつつあな、みごな
 なん ない
 なんか なにか、なの
 なんかい【何回】なんけあ
 なんきんまめ【南京豆】なんきまめ

なんくせ【難癖】なんくへ
 なんじ【何時】いづ
 なんだ なあだ、なよ
 なんだい【難題】なんであー
 なんだかんだ なにかに
 なんだかんだと【何だかんだと】ないだかいだて
 なんだし【～なんだし】だんだし
 なんて ～なて
 なんです ごであす
 なんてんはぎ あずぎな
 なんと ないて、なんたら
 なんとしても なんでもかんでも
 なんとなく【何となく】なんとねあぐ
 なんとまあ なんとら
 なんともかんとも なんてかんで
 なんなりと【何なりと】ないだり
 なんにち【何日】えっか
 なんの【何の】ないの
 なんもかぶらないこと【何もかぶらないこと】は
 だがつぶり
 なんんだって【なんだって】なんたら

— に —

に ~え、さ、ちゃ、つあ、どき、ん
 にあい【似合い】にえあ
 にあう【似合う】にやう
 にいにいぜみ まめこじえみ
 にうま【荷馬】にんつけんま
 にえかえる【煮え返る】にえげある
 にえきる【煮え切る】ねひる
 にえたつ【煮えたつ】ねだづ
 にえる【煮える】ねる
 におい【匂い】におえ
 におわせる【匂わせる】におわへる
 にかい【二階】にげあ
 にがい【苦い】にげあ
 にがす【逃がす】ねがす
 にがにがしい【苦苦しい】にがにがす
 にがわらい【苦笑い】にがわれあ
 にぎにぎしい【賑賑しい】にぎにぎす
 にぎやか【賑やか】にぎやが
 にぎりめし【握り飯】にぎりまま
 にくい【~にくい】づれあ
 にくい【憎い】にぐえ
 にくたらしい【憎たらしい】にくたらす
 にくにくしい【憎憎しい】にぐにぐす
 にぐら【荷鞍】にんぐら
 にくらしい【憎らしい】えあらすぐねあ、にぐら
 す
 にげあし【逃げ足】ねげあす
 にげぐち【逃げ口】ねげぐず
 にげこうじょう【逃げ口上】ねげこーじよ
 にげごし【逃げ腰】ねげごす

にげじたく【逃げ仕度】ねげずだぐ
 にげのびる【逃げ延びる】ねげのびる
 にげば【逃げ場】ねげば
 にげみち【逃げ道】ねげみず
 にげる【逃げる】ねげる
 にげるさま【逃げるさま】わらわら
 にごしらえ【荷ごしらえ】にごすれあ
 にここに にくらにこら
 にごりざけ【濁酒】みんごりざげ
 にごりすき【濁りすき】にんごりすぎ
 にごりすくいくい【濁り掬いくい】めぐりすぎ
 にごりみず【濁り水】みんごりみず
 にごる【濁る】みごる、めぐる
 にくろがし【煮転がし】にっころがす
 にしび【西日】にすび
 にじみとおる【しみ通る】しとる
 にじゅうまわし【二重まわし】にじゅうまし
 にしゆるい【二種類】したいろ
 にしょく【二色】したいろ
 にせ【偽】ねへ
 にせがね【偽金】ねへがね
 にせさつ【偽札】ねへさづ
 にせはん ねへばん
 にせもの【贗物】ねへおの
 にだい【荷台】にであ
 にだい【二代】にであ
 にたてる【煮立てる】ねだでる
 にたにた にたらにたら
 にたものふうふ【似た者夫婦】にだおのふーふ
 にたりと にたつと

にづくり【荷造り】にごすれあ
 につけもの【煮付け物】におの
 にっこり にこっと
 につすう【日数】ひがら
 にちちゅう【日中】あがひ、ひのなが
 にどいも にんどえも
 にとうへい【二等兵】にどへ
 にどめのほうが【二度目の萌芽】にばんぽげ
 になう【荷なう】かづぐ
 にながらみなでつついてたべるりょうり【煮な
 がら皆で突っついて食べる料理】かやぎ
 になにもかぶらないあたま【なにも被らない頭】
 つぶあだま
 になわ【荷縄】にんな
 にのぜん【二の膳】にのじえん
 にのまい【二の舞】にのめあ
 には にあ
 にばんせんじ【二番煎じ】にばんへんず
 にばんめのこども【二番目の子供】にばんこ
 にぶい【鈍い】にぶえ
 にぼし【煮干し】ほしこ
 にまいじた【二枚舌】にんめあじだ
 にもつをとりにつけるそりのぶぶん【荷台を取りつ

ける櫓の部分】つ
 にやりと にやっと
 にゆうかん【入棺】にっかん、ゆかん
 にゆうせいひん【乳製品】ツーズ
 にゆうばい【入梅】にゆうべあ
 にゆうよう【入用】よ
 によつきり によきっと
 になるものをひにかけること【煮る物を火に掛ける
 こと】しかげる
 になれるちゅうのかいこ【二令中の蚕】したつつさ
 かがた
 になれるのかいこがだっぴしてさんれいになった
 こと【二令の蚕が脱皮して、三令になったこ
 こと】したつつおぎ
 になれるのかみん【二令の假眠】したつつよどみ
 にわかあめ【俄雨】おがだづ
 にわやおもてどおりにめんしたざしきのいたど
 のあるところ【庭や表通りに面した座敷の板
 戸のある所】はどめあ
 になん【人】～と
 になんぎょうつかい【人形使い】になんぎよつけあ
 になんしん【妊娠】おどみ
 になんしんしている【妊娠している】はらおっき

—ぬ—

ぬいもの【縫い物】ぬいおの、ぬつけ
ぬがせる【脱がせる】ぬがへる
ぬかりそうなかんじ【ぬかりそうな感じ】ゆぶゆ
ぶ
ぬかるみ ぐっちゃ、びっちゃ
ぬきあし【ぬき足】さすあす
ぬく【抜く】ひんぬぐ
ぬぐ【脱ぐ】ぬぐ
ぬぐう【拭う】のごう
ぬけがら【抜け殻】むえがら
ぬすびと【盗人】ぬすみど
ぬすびとこんじょう【盗人根性】ぬすみどこんじ
よ

ぬすむ【盗む】がめる
ぬの【布】つぎ
ぬのきれ【布切れ】きれこ、つぎばず
ぬりたてる【塗り立てる】ぬたぐる、ぬったぐる
ぬるい【温い】ぬり、ぬるえ
ぬるがり ぬりがり
ぬるぬる ねろねろ
ぬるりと ぬるっと
ぬれてきもちのわるいこと【濡れて気持のわるい
こと】びしよてあ
ぬれてぬぐい【濡れ手拭】ぬれてぬげ
ぬれゆき【濡れ雪】あまゆぎ、ぬれゆぎ

—ね—

ね じゅや、なや、な—おす
 ね【根】もだかぶ
 ねあせ【寝汗】ねあへ
 ねいき【寝息】ねえぎ
 ねいりばな【寝入り端】ねばな
 ねいろ【音色】ねえろ
 ねえ じゅや
 ね— なや
 ねがい【願い】ねげあ
 ねがいごと【願い事】ねげあ—ごと
 ねがいさげ【願い下げ】ねげあ—さげ
 ねがいでる【願い出る】ねげあ—でる
 ねがえり【寝返り】とごげあり、ねげあ—り
 ねがえる【寝返る】ねげあ—る
 ねかす【寝かす】ねへどがす
 ねかせる【寝かせる】ねらへる
 ねかた【根方】ねっかだ
 ねがたかい【値が高い】たぐあであ
 ねかぶ【根株】ねっかぶ
 ねぐせ【寝癖】ねくへ
 ねぐるしい【寝苦しい】ねぐるす
 ねこ【猫】ちゃこ、ちゃちゃ、にやにや
 ねこぐるま【猫車】ねご
 ねこぜ【猫背】ねごじえ
 ねごと【寝言】もぞ
 ねこのけんか【猫の喧嘩】ねごくれあ
 ねじまわし ねずます
 ねしょうべん【寝小便】ねしょべ
 ねじりがし【ねじり菓子】ねんずりがし
 ねじりはちまき【振り鉢巻】ねんずりはずまぎ

ねじる【捻じる】ねずる
 ねじれる【振れる】よずれる
 ねせる【寝せる】ねへる
 ねぞう【寝相】ねぞ、ねんぞ
 ねそびれる【寝そびれる】ねそける
 ねそべる【寝そべる】よごんなる
 ねたみ やぎもづ
 ねたむ【妬む】やがごむ、やがむ
 ねだる はだる
 ねちねち ねつねつ
 ねづく【根づく】いぎづく
 ねっくれす【ネックレス】くびかざり
 ねっこり ねこっと
 ねっちり ねつっと
 ねつつぽい【熱っぽい】ねつぽえ
 ねっとり ねとっと
 ねづよい【根強い】ねずえ
 ねていてくびすじをねんざすること【寝ていて首筋を捻挫すること】ねこずる
 ねばっこい ねばこえ
 ねばねば ねたくた、ねばねば
 ねばねばする ねばこえ
 ねばりづよい【粘り強い】ねばりずえ
 ねぶかい【根深い】ねっちょあふっけあ、ねぶげあ
 ねぶね【根舟】ねぶね
 ねぼう【寝坊】ねんぼ
 ねぼけがお【寝惚け顔】ねぶけつら
 ねぼけため【寝惚けた目】ねぶけまなぐ
 ねぼける【寝惚ける】ねぼろける

ねむい

ねむい【眠い】ねぶてあ

ねむけ【眠気】ねぶけ

ねむけざまし【眠気覚し】ねぶけざます

ねむたい【眠たい】ねぶてあ

ねむりぐすり【眠り薬】ねぶりぐすり

ねむる【眠る】こーこする、ねぶる

ねもと【根元】ね、ねっかだ、ねっくす、もだかぶ

ねらい【狙い】ねれあ

ねらいうち【狙い打ち】ねれあうず

ねらいどころ【狙い所】ねれあどご

ねりあわせる【練り合わせる】ねりあへる

ねる そぐねる

ねる【寝る】ねがしやる、ねぶる

ねること【寝ること】ねね

ねんざする【捻挫する】しつげある、すつげある、ふんげあす

ねんし【年始】しょうがづれ

ねんしのあいさつ【年始の挨拶】しょうがづれ

ねんだい【年代】ねんであー

ねんど【粘土】どんべ

ねんとう【年頭】とすがすら

ねんない【年内】ねんねあー

ねんね ねね

ねんばい【年輩】ねんべあー

ねんをとる【年をとる】えぐ

—の—

の～や、あ、な、ん
 のうなし【能なし】ずぐなす
 のか【～のか】した
 のがれる【逃れる】ぬがれる
 のき【～の木】～ぬぎ
 のき【軒】ぬぎ
 のぎ【芒】のげ
 のきさき【軒先】ぬきさぎ
 のきした【軒下】ぬぎした
 のきなみ【軒並み】やごめ
 のきば【軒端】ぬきば
 のく しゃる
 のぐそ【野糞】のんくそ
 のけぞる つつとる、びんぞる
 のけもの【除け者】のげおの
 のこりもの【残り物】のごりおの
 のしあるく【申し歩く】のすありぐ
 のしがみ【のし紙】のすがみ
 のしぶくろ【のし袋】のすぶくろ
 のせる【乗せる】のへる
 のぞきめがね【覗き眼鏡】びんどろ
 のぞく【覗く】かだがる、のぞこむ
 のそのそ のそらのそら、もそらもそら
 のぞましい【望ましい】のぞます
 のだ あだ、なだ
 のたうつ ころでありぐ
 のだろう【～のだろう】だんだ
 のちぞい【後添い】ごげかが
 のちほど【後程】えんめあ
 のつそり のそっと

のつそり のへっと
 のっぺり のべっと
 ので ～なで
 のどにひっかけること はばげる
 のどぼとけ のどしんつこ
 のに なさ、なに
 のにぎりめしのいっしゅ【握り飯の一種】ほのは
 まま
 のはら【野原】のっばら、はらば
 のびる ひろこ
 のぶどう めぐらぶんど
 のべつ とろべず、のべづまぐなす
 のぼせあがる【のぼせ上がる】のぼへあがる
 のぼせる のぼへる
 のぼる【登る】あがる
 のみしろ【飲み代】のみすろ
 のみまわす【飲み回す】のみます
 のみもの【飲み物】のみおの、みずおの
 のめる のめくる
 のりあわせる【乗り合わせる】のりあへる
 のりうつぎ かつぎ
 のりかえ【乗り換え】のりげあー
 のりかえる【乗り換える】のりげあーる
 のりかかる【乗りかかる】のっかがる
 のりこす【乗り越す】のっこす
 のりにげ【乗り逃げ】のりねげ
 のりばちそり【乗りばち橇】のりばず
 のりまわす【乗り回す】のります
 のりもの【乗り物】のりおの
 のるかそるか のっがそっが

のろい

のろい のろえ

のろい【呪い】まずねあ

のろのろ ぐだらぐだら

— は —

は あ

ばあい【場合】ばえあ

は一もにか【ハーモニカ】はもにか

はあり【羽蟻】はねあり

はい おえ、はえ

はい【灰】へあー

ばい【倍】べあ、べあー

はいいろ【灰色】へあーいろ

ばいがく【倍額】べあがぐ

ばいかも まづぼ

はいざら【灰皿】へあーざら

ばいしゅんふ【売春婦】ばんぼ

ばいしょうする【賠償する】んめあへる

はいた【掃いた】へあだ

はいならし【灰ならし】へあならす

はいはい でやでや

ばいばい【売買】うりげあ

ばいばいする【売買する】さがす

はいびょう【肺病】はえびよー

はいまき【灰撒き】あぐまぎ

はいまわる【這い回る】ぬたぐる、のだぐる

ばいやく【売薬】けあぐすり

はいゆき【灰雪】あぐゆぎ

はいよせ【灰寄せ】へあよへ

はいりみず【入り水】いりみず

はいる【入る】あがる、つっぺある、へある

はう【這う】ぬたぐる

はえ【蠅】へあ

はえぎわ【生え際】おえぎわ

はえたたき【蠅たたき】へあただぎ

はえとり【蠅取り】へあとり

はえとりがみ【蠅取り紙】へあとり

はえなわ【はえ縄】へあーな

はえる【生える】おえる

はか はが

はか【墓】はがど、へげど

ばか【馬鹿】あんぽんたん、ほんずあねあ

はかいし【墓石】へげど

ばかくさい【馬鹿臭い】ばがくせあ、はんかくせあ

はがす【剥がす】へがす

はかせ【博士】はがへ

はかそうじ【墓掃除】はがはれあ

ばかていねい【ばか丁寧】ねへづ

ばかなえびょうのいね【馬鹿苗病の稲】おどごいね

ばかなこと【馬鹿なこと】やっつもねあ

ばかにする【馬鹿にする】おちよぐらがす、ちよす

ばかばかしい【馬鹿馬鹿しい】どごにくだらねあ

はかはらい【墓払い】はがはれあ

はかま【袴】ざんばがま

はかまやもんべのうしろひものついたぶぶん【袴やもんべの後ろ紐のついた部分】うするごす

ばかもの【馬鹿者】たがらおの、たぐらんげ、ばがおの

はがゆい はげあ

ばからしい【馬鹿らしい】ばがらす

ばかり ばり

はがれる【剥がれる】ひっぱがれる

ばかわらい【馬鹿笑い】ばがわれあ
 はきけ【吐き気】からえだぎ
 はきだす【吐き出す】ほぎだす
 はきちがえ【はき違え】はぎつげあ
 はきちがえる【はき違える】はぎつげある
 はきもの【履物】じょじょ、はぎおの
 はきものそこにくっついたゆき【履物の底にく
 っついた雪】ぼっこ
 はく こぐ
 はく【吐く】あげる、いだぐ、けあす
 はくさい【白菜】はくせあー
 はくしゆくふ【伯叔父】おんつあ
 はくじょうする【白状する】くずおずる
 ばくだい【莫大】ばぐであ
 はくはつ【白髪】すらが
 はくぼく【白墨】はごぼご
 はくまい【白米】はぐめあ
 はくらい【舶来】はぐれあー
 ぱくりと ぱくっと
 はぐれる ～ぱぐる
 ぱくろう【馬喰】ぱぐる
 はけぐち はげぐづ
 はけご はぎご
 はげしい【激しい】はげす、はつつおえ
 はけついで【刷毛序で】はげつで
 ばけもの【化け物】ばげおの
 はげる【禿げる】すっぱげる
 はげる【剥げる】すっぱげる、ひっぱげる、へげ
 る
 ばこう【馬耕】ばご
 はこぜん【箱膳】はごじえん
 はごたえ【齒応え】はごであ
 はこぶね【箱舟】すっそぶね

はこまくら【箱枕】きまぐら
 はざかいき【端境期】はざげあーき
 はさまる【挟まる】はさまる
 はし【橋】はす
 はし【端】はっこ、はづ
 はし【箸】はす
 はじ【恥】はず
 はしいれ【箸入れ】はすえれ
 はしぐい【橋杭】はすぐえ
 はしくれ【端くれ】はしくれあ
 はじける はつける
 はしこい はすこえ
 はじさらし【恥曝し】はずつつあらす
 はした はくた
 はしたない はしたねあ
 はしっこ【端っこ】はっこ
 ばしっと ぱつたら
 はじまる【始まる】はすまる
 はじめ【初め】はすめ
 はじめる【始める】はすめる、はだす
 はしゃぐ うずぐ
 ばしゃひき【馬車挽き】ばしゃひぎ
 ばしょ【場所】らえ、れあー
 ばしょふさぎ【場所塞ぎ】ばしょふたぎ
 はしら【柱】はすら
 はしらいし【柱石】はすらいす
 はしらどけい【柱時計】はすらどげ
 はしりきょうそう【走り競争】はしりくれあご
 はしる【走る】はする
 ばす【馬素】んまのそ
 はずかしい【恥かしい】こっぱづがす、さだげね
 あ、はずがす
 はずかしがる【恥かしがる】きづげあ

はずだ【～筈だ】はんだ	がり
はずな【端綱】はんな	はつかだいこん【二十日大根】はずがであーごん
はずれ【外れ】とっばずれ、はぞれ、はんずれ	はつがま【初窯】はづがま
はずれる【外れる】はぞれる	はっきり はきつと、ばんと
はせ はさ	はっけみ【八卦見】はっけおぎ
はせがけ【はせ掛け】はさがげ	はっこんする【発根する】いぎづぐ
はせやふゆがこいにたてるはしら【はせや冬囲いに立てる柱】たでぼぐ	ばっさい【伐採】きっきり
はぜる はじえる	はっさいにゆうがく【八才入学】やっつぺあり
はたうち【畑打ち】はだげぶづ、はだげほり	ばっさり ばさつと
はだかいっかん【裸一貫】てぶりはづがん、ふんどすいってん	ばっし ばつ
はだかまいり【裸参り】はだがめあり	はつじょう【発情】さがり
はだぎ【肌着】はだこ	はつじょうする【発情する】おだげる
はたけちがい【畑違い】はだげつげあ	はつじょうねこ【発情猫】おだげねご
はたごせん【旅籠銭】はだごへん	はつせつく【初節句】はずへつく
はださむい【肌寒い】はださみ	はつぜつく【初節句】はづへつく
はたしあい【果し合い】はだすえあー	ばったり ばたつと
ぱたぱた したぱた、すたぱた	ばっちり ばんと
はたらきて【働き手】かへぎと	ばっちり ばつと
はたらきもの【働きの者】はだらぎおの	ばつと ばえつと
はたらく【働く】かへぐ	ばつとう【伐倒】もどげあし
はち【鉢】はず	ばつとうするほうこうのきりぐち【伐倒する方向の切り口】うげ
ばち【罰】ばじゃ	はっぽうふさがり【八方塞がり】はっぽふたがり
ばち【撥】ばづ	はつもの【初物】はづおの
はちあわせ【鉢合せ】はづあわへ	はて はあで
はちうえ【鉢植え】はずゆえ	はと【鳩】てでっぽ
ばちがい【場違い】ばつげあー	はなかせ【鼻風邪】はながじえ
ばちそり【ばち櫓】ばず	はなさき【鼻先】はなつつあぎ
はちまき【鉢巻】はづまぎ	はなし【話】はなす
ばちんばちん わつわつ	はなしあい【話合い】はなすえあ
ばつ【罰】ばづ	はなしあう【話し合う】ゆい-あわへる
はついくのさいせいき【発育の最盛期】おがりざ	はなしがいの【話甲斐】はなすげあー
	はなしことば【話しことば】えごえ

はなすじ【鼻筋】はなみね
 はなたれこぞう【洩垂れ小僧】はなたれこんぞ
 はなっぱし【鼻っぱし】はなぱす
 はなっぱしら【鼻っ柱】はなっぱすら
 はなつぱしら【鼻っぱしら】はなぱす
 はなばち【花蜂】くまばず
 はなばなしい【華華しい】はなばなす
 はなひりのき あくしゆぎ
 はなふだ【花札】やんこ
 はにかむ きづげあ
 はね すっぱね
 ばね じえんめあ
 はねかえす【跳ね返す】はねげあす
 はねかえり【跳ね返り】はねげあり
 はねかえる【跳ね返る】はねげある
 はばき はんばぎ
 はばける はばげる
 はばひろい【幅広い】はばひれ
 はぶたえ【羽二重】はぶであ
 はぶらし【歯ブラシ】ようじ、よーず
 ばふん【馬糞】まんくそ
 はめ【羽目】のすだで
 はや つぎざっこ
 はやい【早い】はえあ
 はやいものがち【早い者勝ち】はえあおのがず
 はやじまい【早仕舞】はやずめあ
 はやす【生やす】おやす
 はやばまい【早場米】はやばめあ
 はやりやまい【流行病】はやりやんめあ
 はら【原】～やら
 はら【腹】どでばら
 はらあわせ【腹合せ】はらあへ
 はらい【払い】はれあー

はらいこむ【払い込む】はれあごむ
 はらいさげ【払い下げ】はりさげ、はれあさげ
 はらいせ【腹癒せ】はらえへ
 はらいっばい【腹一杯】のっばらすっばら、はら
 えっぺあ
 はらがきついこと【腹がきついこと】はらくつつ
 はらぐあい【腹具合】はらあんべあ
 はらぐろい【腹黒い】はらぐれ
 はらごしらえ【腹拵え】はらごすれあ
 ばらせん【ばら銭】ばらへん
 はらだたい【腹立たしい】ごしゃげる、はらだ
 だす
 はらちがい【腹違い】はらつげあ
 はらちがいのあに【腹違いの兄】はらちげあのお
 に
 はらっぱ【原っぱ】はらば
 はらどけい【腹時計】はらどげ
 はらばいになる【腹ばいになる】のだばる
 はらばう【腹ばう】のだばる
 はらをあわせる【腹を合せる】はらあへ
 はりあい【張り合い】はりえあー
 はりあな【針穴】はりみづ
 はりかえ【張り替え】はりげあー
 ばりかた【粘り方】ねかねか
 はりがね【針金】はねがね
 はりがねのわな【針金のわな】ひこぐす
 はりぎり へんぬぎ
 はりさける【張り裂ける】はつつあげる
 はりたおす【張り倒す】はったおす
 はりつく【張り付く】はつつぐ
 はりつける【張り付ける】はつつける
 はりとばす【張り飛ばす】はとばす
 はりまわす【張り回す】はります

ばりょう【馬糧】ぞうみず、んまのおの
はるご はるさん
はれぎ【晴着】えしよ
はれぼったい【腫れぼったい】はれぼってあ
はれもの【腫れ物】はれおの
ばん ばえん
ばん【番】ばんめあ
ばんがい【番外】ばんげあー
はんかち【ハンカチ】はんけづ
はんかち一ふ【ハンカチーフ】はんけづ
ばんくるわせ【番狂わせ】ばんくるわへ
ばんごう【番号】ばんご
はんこうてきないいかた【反抗的な言い方】くず
たず

ばんざい【万歳】まんぜあ
はんしょう【半鐘】はんしよ
ばんせいしゅ【晩生種】おぐ
はんたい【反対】はんてあ
はんだい【飯台】はんであ
はんてんのいっしゅ【班点の一種】ひがだ
はんにえ【半煮え】おそね
はんにえごはん【半煮えご飯】ながごめ
はんにえめし【半煮え飯】めっこま
はんにんまえ【半人前】はんちよめあ
はんのき やつか
はんぱつする【反発する】えへる
はんぱもの【半端物】はんぱおの
ばんめし【晩飯】ばんま、よま

— ひ —

- ひ【火】あび
 ひ【陽】あがひ
 ひあそび【火遊び】ひあすび
 ひいき ひぎ、ペギ
 ひえ【稗】へ
 ひえしょう【冷え性】ひえしょ
 ひえる【冷える】ひしえる
 ひがい【被害】ひげあー
 ひかえしつ【控室】ひけあーすず
 ひかえめ【控え目】ひけあーめ
 ひがえり【日帰り】ひげあーり
 ひかえる【控える】ひけある
 ひかげのかずらかのくきのながいくさ【ひかげの
 かずら科の茎の長い草】きずねのしょーろ
 ひかされる【引かされる】ひかさえる
 ひがた【火形】ひがた
 ひからびる ひっからびる
 ひかりと ひかっと
 ひがんばな だみばな
 ひきあい【引き合い】ひぎえあ
 ひきあわせる【引き合わせる】ひぎあへる
 ひきうす【挽き臼】するす、どんずるす
 ひきうすのいっしゅ【ひき臼の一種】どずるす
 ひきかえ【引き換え】ひぎげあ、ひっけあー
 ひきかえす【引き返す】ひぎげあす、ひっけあす
 ひきがえる【ひき蛙】ふぐだびつき
 ひきさく【引き裂く】しちやばぐ、ひつつあぐ
 ひきしめる【引き締める】しっつめる
 ひきたつ【引き立つ】しったず
 ひきにげ【轆き逃げ】ひぎねげ
 ひきぬく【引き抜く】ひこぬぐ、ひっこぬぐ、ひ
 びぐ
 ひきもの【引き物】ひぎおの
 ひく【弾く】はずぐ
 ひく【轆く】ひこぐる
 ひくい【低い】ひぎ
 ひぐらし かんかんじえみ
 ひげ【鬚】へげ
 ひけしつぽ【火消壺】けすがめ
 ひげそり【ひげ剃り】へげすり
 ひげながかわとびけらのようちゅう【ひげながか
 わとびけらの幼虫】がんむす
 ひげながとびけらのようちゅう【ひげながとびけ
 らの幼虫】がむし
 ひごい【緋鯉】ひごえ
 ひざ ひじゃかぶ
 ひざかけ【膝掛け】ひじゃかけ
 ひざがしら【膝頭】さら、ひじゃこんぞ、ひじゃ
 かぶ
 ひざこそう ひじゃかぶ
 ひざこそう【膝小僧】ひじゃこんぞ
 ひさし【庇】ひしやす
 ひさしい【久しい】しっしやす、ひしやす
 ひさしぶり【久し振り】しっしやすぶり、ひしや
 すぶり
 ひざまくら【膝枕】ひじまぐら
 ひざまずく【跪く】ひじまずぐ
 ひざもと【膝元】ひじまもと
 ひじ【肘】ひずつり
 ひしゃく【柄杓】ししやぐ

ぴしゃりと ぴしゃっと	ひっこぬく【引っこ抜く】ひこぬぐ
ぴしょぬれ【びしょ濡れ】びしょぬれ	ひっこむ【引っ込む】しこむ、すこむ、ひこむ
ぴしょびしょ びしょびしょ	ひっこめる【引っ込める】ひこめる
ぴしりと ぴすっと	ひつじ ひづ
びじんのけっとう【美人の血統】きりよーまぎ	びっしょり びしょっと
ひぜに【日銭】ひじえね	びっしり びつたり、びつと
ひたい【額】でんび、ひてあこぶ	ひっそり けそっと、ひそっと、ペそっと
ひたしもの【浸し物】おしたし、したす、ひたす	ひたたくる かなぐる、ひたぐる、ひんなぐる
おの	ひたてる したてる、ひたでる
ひたす【浸す】したす	びったり びたっと
ひだつ【肥立つ】したつ	びちより びちよっと
びたっ びだらっ	びちり びつと
ひたひた したした、びたびた	ひっぱがす【引っ剥がす】ひっぺがす、ひぺがす
ひだりきき【左利き】ひだりちよっけあ	ひっぱたく しばだぐ、ひばだぐ
ひだりぎっちょ ひだりちよっけあ	ひっぱる【引っ張る】したてる、しばる、ひばる
びたりと ぎたっと、びたっと	ひつよう【必要】よ
ひだりまえ【左前】ひだりめあ	ひと【人】しと
ひたる【浸る】したる	ひとあしもいえをでないこと【ひとあしも家を出ないこと】とのぐづきんずん
ひっかかる【引っ掛かる】ひかかる	ひとあしらい【人あしらい】しとあすれあー
ひっかく【引っ掻く】かちやばぐ、かちやぐ	ひとあせ【一汗】しとあへ
ひっかける【引っ掛ける】すかげる、しかげる、はばげる、ひかげる	ひとあたり【人当り】しとあだり
ひつぎだい【棺台】がんであ	ひとあめ【一雨】しとあめ
ひっきりなし のべづまぐなす、ひきらず	ひとあれ【一荒れ】しとあれ
びっくり びくくら	ひとあわ【一泡】しとあわ
ひっくりかえす【ひっくり返す】とっくりげあす、どんぐりげあす、ひっくりげあす	ひとあんしん【一安心】しとあんすん
ひっくりかえる【引っ繰り返る】ひっくりげある	ひどい【酷い】ひでえ、むごえ
びっくりする どでする	ひといき【一息】しとえぎ
ひっくるめる【引っ括める】がっくるめる	ひといきれ【人いきれ】しといぎれ
びっこ びこたこ	ひといちばい【人一倍】しといずべあー
ひっこし【引っ越し】やうづり	ひとうけ【人受け】しとうげ
ひっこす【引っ越す】ひこす	ひとえ【一重】しとえ

ひとおどし したおどし	ひとすじなわ【一筋縄】したすずな
ひとおもいに【一思いに】したおもん	ひとずれ【人擦れ】したずれ
ひとかい【人買い】したけあー	ひとせおい【ひと背負い】したしよい、したへ
ひとかかえ【ひと抱え】しただがぎ	ひとだかり【人だかり】しただがり
ひとかけ【人影】したかけ	ひとだすけ【人助け】しただすけ
ひとかけら したかけ	ひとたち【人達】したず
ひとかたけ【一片食】したただげ	ひとだのみ【人頼み】しただのみ
ひとがら【人柄】したがら	ひとたば【一束】したまるぎ
ひとかわ【一皮】したか	ひとたび したたび
ひとぎき【人聞き】したぎぎ	ひとだま【人魂】ひだま
ひとぎらい【人嫌い】したぎれあ	ひとたまり しただまり
ひとぎれ【ひと切れ】したかけ	ひとちがい【人違い】したつげあ
ひとくさい【人臭い】したくせあ	ひとつ【一つ】したつつ
ひとくさり したくさり	ひとつあな【一つ穴】したずあな
ひとくせ【一癖】したくへ	ひとつおぼえ【一つ覚え】したずおべ
ひとくだり【一行】したぐだり	ひとつかい【人使い】したづげあ
ひとくち【一口】したぐづ	ひとつかみ【一掴み】したずがみ
ひとくわ【一鍬】したか	ひとつきあい【人付き合い】したずぎえあー
ひとけ【人気】したけ	ひとつこ【人っ子】したこ
ひとごえ【人声】したごえ	ひとつこひとり【人っ子一人】したっこしとり
ひとつし【一腰】したこす	ひとつて【人伝】したずで
ひとつこと【一言】したごと	ひとつひとつ【一つ一つ】したつつしたつつ
ひとつと【人ごと】したごと	ひとつぶえり【一粒選り】したつぶえり
ひとつみ【人込み】したごみ	ひとつぶだね【一粒種】したつぶだね
ひとつころ【一頃】したきり、したころ	ひとつみ【一つ身】したずみ
ひとつろし【人殺し】したごろす	ひとつも したつも
ひとつさしゆび【人差し指】したさすゆび	ひとつで【人手】したで
ひとつさま【人さま】したさま	ひとつで【人出】したで
ひとつさらい【人さらい】したされあ	ひとつでなし【人でなし】したでなす
ひとつさわがせ【人騒がせ】したさわがへ	ひとつでをあてにすること【人手を当てにすること】かげそぐ
ひとつじち【人質】したづづ	ひとつとおり【一通り】したどーり
ひとつずき【人好き】したずぎ	ひとつとき【一時】したどぎ
ひとつすじ【一筋】したすず	

ひととび【ひと跳び】しとつとび
 ひとなか【人中】しとなが
 ひとなかせ【人泣かせ】しとながへ
 ひとなつっこい【人懐っこい】しとなつこえ
 ひとなぬか【一七日】しとなのが
 ひとなみ【人並】しとなみ
 ひとにぎり【一握り】しとにぎり
 ひとねむり【一眠り】しとねり
 ひとのあるいていないゆきのつもっているところ【人の歩いていない雪の積っている所】はで
 ひとばしら【人柱】しとばすら
 ひとはしり【一走り】しとっばしり
 ひとはた【一旗】しとはだ
 ひとはだ【一肌】しとはだ
 ひとはだ【人肌】しとはだ
 ひとはたらき【一働き】しとはだらぎ
 ひとはな【一花】しとはな
 ひとばらい【人払い】しとばれあ
 ひとばん【一晚】しとばん
 ぴとぴと きときと
 ひとまえ【人前】しとめあ
 ひとまかせ【人任せ】しとまがへ
 ひとまく【一幕】しとまぐ
 ひとまず【一先ず】しとまず
 ひとまぜ【人交ぜ】しとまじえ
 ひとまとめ【一纏め】しとこね、しとまどめ
 ひとまね【人真似】しとまねあ
 ひとまねをするひと【人真似をする人】まねあかす
 ひとまわり【一回り】しとまり
 ひとみ【瞳】ほどげさま
 ひとみしり【人見知り】しとぐび
 ひとむかし【ひと昔】しとむがす

ひとめ【一目】しとめ
 ひとめ【人目】しとめ
 ひとやく【一役】しとやく
 ひとやすみ【一休み】えっぶぐ、しとやすみ
 ひとやま【一山】しとやま
 ひとよせ【人寄せ】しとよへ
 ひとりしい【人らしい】しとらす
 ひとり【一人】しとり
 ひとりあるき【独り歩き】しとりありぎ
 ひとりがてん【独り合点】しとりがってん
 ひとりぎめ【独り決め】しとりぎめ
 ひとりぐらし【独り暮らし】しとりぐらす
 ひとりごと【独り言】このこの、しとりごと
 ひとりじめ【独り占め】しとりずめ
 ひとりずまい【独り住い】しとりずめあ
 ひとりだち【独り立ち】しとりだず
 ひとりっこ【一人っ子】しとりっこ
 ひとりでに【独りでに】しとりでん
 ひとりね【一人寝】しとりね
 ひとりぼっち【独りぼっち】しとりぼつつ
 ひとりぼつち【独りぼつち】しとりぼつ
 ひとりみ【独り身】しとりみ
 ひとりむすこ【独り息子】しとりむすこ
 ひとりもの【独り者】しとりおの
 ひとわたり しとわだり
 ひなかざり【雛飾り】おひなかざり
 ひなたぼっこ【日向ぼっこ】ひなたぼこ
 ひなにんぎょう【ひな人形】おひなこ
 ひにあたること【火にあたること】あたあた
 ひにち【日日】ひにづ、ひめあー
 ひについているはい【火についている灰】ひべあ
 ひにひに【日に日に】ひんひん
 ひねくれる すねこぐるる

ひのこ【火の粉】ひぼごり
 ひのし【火のし】ひのす
 ひびく【響く】ひびらぐ
 ひふようしゃ【被扶養者】かがりうど
 ひめかいどう やずなす
 ひめくり【日めくり】ひへがす
 ひも【紐】ひぼ
 ひもつき【紐付き】ひぼつき
 ひやあせ【冷や汗】ひしゃあへ
 ひやかす おちよぐらがす
 ひやくしょう【百姓】ひやくしよ
 ひやくにちぜき【百日咳】へりしゃぶぎ
 ひやくにちそう【百日草】ひやぐにづばな
 ひやくにんいっしゅ【百人一首】ひやぐにんしゅ
 ひやす【冷やす】ひしやす
 ひやとい【日雇】てまどり、ひよとり
 ひやひや はかはか、ひしゃひしゃ
 ひやめし【冷や飯】ひしゃまま、ひやみし
 ひやりと ひやっと
 びょうき【病気】やめあ
 びょうきがちだ【病気がちだ】けあねあ
 びょうさん【病蚕】くっされとどこ
 びょうじゃく【病弱】けあねあ、みのごねあー
 ひょうそうなだれ【表層雪崩】わがさ
 びょうにんしゃ【病人者】やんめあたがり
 ひょうめん【表面】うわか、ゆわか
 ひよっこり ひよこっと
 ひよつこり ひよえっと
 ひよるながい【ひよる長い】ながぺろえ、ひよろ

なんげあ
 ひよろりと ひよろっと
 ひよわい けあねあ
 ひらおよぎ【平泳ぎ】びっきおよぎ
 ひらたい【平たい】ひらてあ
 ひらたけ むぎだけ
 ひらべったい【平べったい】びったらこえ
 ひらりと ひらっと
 びり げっぱ、どっけ
 ひりょう【肥料】こやす
 ひりょうだい【肥料代】ひりよーであ
 ひる【蛭】へろ
 ひるがお あめふりばな
 ひるめし【昼飯】ひるまま
 ひろい【広い】ひれ
 ひろいもの【拾い物】ひろいおの
 ひろうえん【披露宴】むがさりぶるめあ
 ひろげる【広げる】はだげる
 ひろば【広場】ひろば
 ひんい【品位】ひんこ
 ひんこう【品行】おごねあ、ひんこ
 ひんしつのよいもの【品質のよいもの】じょーお
 の
 びんぼう【貧乏】しかだねあ、びんぼ
 びんぼうくさい【貧乏臭い】びしよてあ、びんぼ
 たらす
 びんぼうくさいこと【貧乏くさいこと】びしよて
 あ
 ひんまがる ひまがる

— 心 —

ぶあいそ【不愛想】ぶえあーそ、むきちよねあ	ふきさらし【吹き曝し】ふぎつつあらず
ぶあいそう【不愛想】すげねあ、ぶきच्चよねあ	ふきのとう【落のとう】ばっけ
ぶあつい【分厚い】ぶあず	ぶきりょう【不器量】でがさねあ
ふあんない【不案内】ふあんねあ	ふくじ【服地】ふぐず
ふいご【鞆】ふえご	ふくしい【福しい】ふぐす
ぷいと ぶえっと	ふくしゅう【復習】おされあー
ふう ふ	ふくじゅそう【福寿草】ふぐじゅーそ
ふうかする【風化する】ふける	ふくそう【服装】しょうぞぐ
ふうたい【風袋】ふうであ	ふくぶ【腹部】どでばら
ふうたいとも【風袋とも】みながげ	ふくぶくしい【福福しい】ふぐぶぐす
ふうたいもいれためかた【風袋も入れた目方】みな ながげ	ふくらはぎ こんぶら
ふうてい【風体】ふーてあー	ふくれつつら ぶすくれつら
ふうとうぼく【風倒木】ねぎ	ふくれる ぶすくれる
ふうふう へえへ	ふくろう ふうぐろ
ふうふうと へーへて	ふけいき【不景気】ふけぎ
ふうふのかたほう【夫婦の片方】つれえあ	ふけいざい【不経済】ふけーぜあー
ふうぶん【風聞】ふ	ふけつなままにしておくこと【不潔なままにして おくこと】じだらぐ
ふうらいぼう【風来坊】ふーれあーぼ	ふこう【不幸】ぶしゃわへ、ぶま
ふうん【不運】ぶしゃわへ、ぶま	ふこうなこと【不幸なこと】ぶんま
ふかい【深い】ふっけあ	ふさ【房】ずら
ふがない【不甲斐ない】ふげあーねあ	ふざいく【不細工】でがさねあ
ふかごのせいぶつ【孵化後の生物】むえだて	ぶざいく【不細工】ぶぜあーぐ
ふかさせる【孵化させる】むやす	ぶざいくな【不細工な】でがさねあ
ふかする【孵化する】むえる	ふさがる【塞がる】くわる、ふたがる
ぶかぶか ぶがぶが	ふさぐ【塞ぐ】くえる、ふたぐ
ふきおろし【吹き下ろし】ふぎおろす	ふざけっこ ほごりこ
ふきかえ【葺き替え】ふぎげあ	ふざける でんざぎ、ほごる
ふきかえす【ふき返えす】ふっけあす	ふさわしい【相応しい】ふさわす
ふきこむ【吹き込む】ふっこむ	ふし きつぶす

ふし【節】ふす	ふち【淵】ふづ
ふじ【不治】ふず	ぶち【斑】ぶづ
ぶし【武士】さむれあ	ぶちこむ【ぶち込む】ぶこむ、ぶっこむ
ふしあわせ【不仕合せ】ぶしやわへ、ぶっしやわへ	ぶちころす【ぶち殺す】ぶころす
ふしぎ【不思議】きてあ	ぶちこわす ぶっこわす、ぶづごす
ふしぎだ【不思議だ】おがす	ぶちまける ぶんまげる
ふじびたい【富士額】ふずびてあ	ぶちようほう【不調法】ぶじよほ、ぶずほ
ふしまつ【不仕末】だらぐ、ぶすまつ	ぶちわる【ぶち割る】ぶづわる
ふしまわし【節回し】ふすます	ふつうにねる【普通に寝る】おがさねる
ふじゆう【不自由】じよふじよ、ふじゆ	ふつかける ぶかげる
ぶしょう【不精】だらぐ、づだらぐ、へやみ	ぶっかける ぶかげる
ぶしょうひげ【不精髭】ぶしよへげ	ぶつたおす【ぶつ倒す】ぶっけあす
ぶじょく【侮辱】ぶじゆぐ	ぶつたぎる【ぶつた切る】かつたぎる、ぶたぎる
ふしんせつ【不親切】ぶすんへず	ぶつだんにしくぬの【仏壇に敷く布】うづすぎ
ぶす みだぐなす	ぶつちがい【ぶつ違い】ぶつつげあ
ぶすっと ぶすらっと	ぶつつける ぶからむ、ぶつける
ぶすぶす ぶすかす	ぶつつり ふつつと
ふせる【伏せる】ひしえる	ぶつつり ぶつつと
ふぞろい【不揃い】でっこびかっこび、びっこたっこ	ふていさい【不体裁】ぶて一せあー
ぶたい【舞台】ぶであー	ふでいれ【筆入れ】ふでえれ
ふたえ【二重】にぜあー	ふでき【不出来】ふでげ
ふたおや【二親】したおや	ふてくされる【不貞腐れる】ふてきだす
ふたご【双子】したご	ふでづかい【筆遣い】ふでずげあ
ふたことめ【二言目】したごどめ	ふてってい【不徹底】ふてって
ふだしよめぐり【札所めぐり】おふだぶづ	ふでぶしょう【筆不精】ふでぶしよ
ふたつ【二つ】したつつ	ふてぶてしい ぶてぶです
ふたつみ したづみ	ふとい【太い】ふって
ふたまた【二股】したまだ	ぶどう ぶんど
ふたまたぼう【二股棒】たでまっか	ぶどういろ【葡萄色】ぶんどいろ
ふたりづれ【二人連れ】したりずれ	ふどうさま【不動さま】おふどさま
ふち【縁】ふづ	ふどうそん【不動尊】おふどさま
	ふどうみょうおう【不動明王】おふどさま
	ふところ【懐】しとごろ

ふところかんじょう【懐勘定】しとごろかんじょ
 ふところ【懐手】しとごろで
 ふとっぱら【太っ腹】きあおつき、はらおつき
 ふとめ【太め】ふっとめ
 ぶな【樺】ぶんな
 ぶなのみ【樺の実】ぶんなぐり
 ぶなはりたけ ぶなかのが
 ふぬけ【腑抜け】ふんぬげ
 ふびじん【不美人】ぶどり
 ふぶき【吹雪】ふぎ
 ふぶく【吹雪く】ふぐ
 ふへいをいう【不平をいう】くづとがける
 ふぼ【父母】つずはは
 ぶま ぶんま
 ふまれていないせきせつ【踏まれていない積雪】
 あらゆぎ
 ふみかためたゆきみち【踏み固めた雪道】でんで
 んみづ
 ふみこむ【踏み込む】ふんごむ
 ふみだい【踏み台】ふみであ
 ふみつける【踏みつける】ふごぐる、ふづげる
 ふみつぶす【踏み潰す】ふんずぶす
 ふみぬく【踏み抜く】ふんどす
 ふみば【踏み場】ふんだで
 ふむ【踏む】ふがらむ
 ふもと【麓】でど
 ふやける うるげる
 ぶゆ【蛸】か、ぬがが
 ふゆみち【冬道】ふゆみず
 ふゆもの【冬物】ふゆおの
 ふようじょう【不養生】ふよーじょ
 ふようなこと【不要なこと】やつつもねあ
 ぶらさがる なつつあがる

ふうらふうら ふうらふうら
 ふうらりと ふうらっと
 ふうらりと ふうらっと
 ふうりあい【振り合い】ふうりえあー
 ふうりおとす【振り落とす】ほろぐ
 ふうりかえ【振り替え】ふうりげあー
 ふうりかえす【ぶり返す】ぶりげあす
 ふうりかえる【振り替える】ふうりげある
 ふうりかえる【振り返る】あどげあり、とってげあ
 す、ふうりげある、みげあす
 ふうりはらう【振り払う】ほろぐ
 ふうりまわす【振り回す】ふうります
 ふうるい【古い】ふるす
 ふうるい【篩】ころす、とす、もみとす
 ふうるいのいっしゅ【篩の一種】くだけとす
 ふうるくさい【古臭い】ふるくせあ、むがすくせあ
 ふうるどうぐ【古道具】ふるどんぐ
 ふうるぶる ざわざわ、ふるふる
 ふうるまい【振舞】おふるめあ、ふるめあ
 ふうるめかしい【古めかしい】ふるめがす
 ふうるもの【古物】ふるおの
 ふうれあい【触れ合い】ふうれえあー
 ふうろ【風呂】すふる
 ふうろしき【風呂敷】ふるすぎ
 ふうわふうわ ふあふあ
 ふうわふうわ ふうわさわ
 ふうわふうわにする ほがす
 ふうわりと ふあっと、ふうわっと
 ふうわりと ふうあっと
 ふうんけ【分家】べっか
 ふうんざい【分際】ふうんぜあー
 ふうんぞりかえる【ふんぞり返る】ふうんぞりげある
 ふうんだくる ふだぐる

ふんたん

ふんたん【粉炭】こずみ

ふんだん ふだ

ふんづける ふづげる

ぶんなぐる【ぶん殴る】ぶなぐる

ぶんなげる ぶなげる

ぶんばい【分配】さばぐ

ぶんばる【踏んばる】ふばる

ぶんまわし ぶんます

— へ —

へ さ
 へい【丙】 へ
 へいぜい【平生】 へーじえー
 へいたい【兵隊】 へえてあ
 ぺこぺこ へこへこ
 べそ なぎべそ、べんぞ
 へそくり ほったんこ、ほまづ
 べそをかくこと べすむ
 へた【蒂】 すびた
 へだて【隔て】 へんだて
 へたばる へったばる
 べたべた びだびだ
 へちやくちゃ へらから
 ぺちやくちゃ へちやへちや
 べつ【別】 ぶん
 べつあつらえ【別誂え】 べずあずれあ
 べっけ【別家】 べっか
 べったり びたっと、べたっと
 ぺったり ぺたっと
 へっつい へっつ
 べっとう【别当】 べっと
 べっとり べとっと
 べつべつに【別別に】 てんでこで
 べつもの【別物】 ぶんて
 へつらい へづれあ
 へど【反吐】 こまおのめへ
 べとつく べだつぐ
 べにおしろい【紅白粉】 べにおすれ
 へび【蛇】 あおのろす
 へびいちご どぐいづご
 へやだい【部屋代】 へやであ
 へらずぐち へらくづ
 へらへら へらから
 へらへらいう へらづぐ
 へらをかつぐ【へらを担つぐ】 へらかづぐ
 べろべろ れあろれあろ
 べろりと べろっと
 べろりと べろっと
 べろんべろん べろべろ
 へんえい【片影】 すかげ
 べんかい【弁解】 べんけあー、ゆいわけ
 べんきょう【勉強】 べんきよ
 べんこう【弁口】 べんかい
 へんさい【返済】 へんせあー
 へんしゃめん【片斜面】 かだびら
 へんしゅする【変種する】 けある
 べんじょ【便所】 うら、しょべしば、てあれあ、
 へんつ
 べんしょうする【弁償する】 まゆう
 べんじょがみ【便所紙】 けつつぬげ
 べんじょへいく【便所へ行く】 かんじょする
 べんとう【弁当】 べんと
 へんな【変な】 あずんた
 へんぱい【返杯】 へんべあー
 べんめい【弁明】 ゆいわけ
 へんれい【返礼】 おげあーし

— ぼ —

ほう【方】かだ、ほ

ぼう【棒】ぼ

ほうが【萌芽】ごよ

ほうがい【法外】げあ

ほうがいいね んだ

ほうき【箒】はぎ

ほうきだけ はぎだけ

ぼうきれ【棒切れ】べあなぐり、ぼきなぎ

ほうじ【法事】ほうず

ぼうし【帽子】しゃっぷ

ぼうすべり【棒滑べり】ぼーすべり

ぼうせき【紡績】ぼうへぎ

ほうせんか れんがん

ほうたい【包帯】ほーてあー

ほうだい【放題】ほーであ

ぼうだい【膨大】ぼーであー

ぼうだら【棒鱈】からげあ、ぼんだら

ほうちょう【包丁】ほえじよ

ぼうはかり【棒秤】つぎ

ほうふ【豊富】ふだ

ほうほう【方法】すび、よ

ぼうぼう やさやさ

ほうよう【法要】ほうず

ほうりだす【放り出す】ほげる

ぼうれい【亡霊】たまへ

ほおかむり【頬被り】ほっかぶり

ほおずき ほんずぎ

ほおのき【朴の木】ほんぬぎ

ほおのは【朴の葉】ほのは

ほか【他】よ

ほかならない【他ならない】ほがならねあ

ぼかんと あけんと

ぼく【僕】おら

ほぐす ほごす

ぼくたち【僕達】おら、おらだ

ほくち ほごち

ほくほく ほこほこ

ぼくら【僕ら】おら

ほぐれる ほごれる

ほけっと【ポケット】かぐす

ほこりたけ けぶだす

ほしい【欲しい】おし、おす、ほす、よだ

ほしいだけ【欲しいだけ】えーくれあ

ほしいわし【干しいわし】ほしこ

ほしがる【欲しがる】おすがる

ほじくる ほじゃぐる

ほしもの【乾し物】ほすおの

ほそい【細い】ほそこえ、よへてあ

ほそながい【細長い】ながぺろえ、ほそなんげあ

ほそなわ【細縄】いどな、こでな

ぼたぼた だずだず

ぼたぼた たつたつ

ぼたもち【ぼた餅】はんごろし

ぼたりと ぼたっと

ほたる【蛍】ほうだ、ほーだる

ぼたんゆき【牡丹雪】ぼだゆぎ

ぼっかり ぼかっと

ぼっきする【勃起する】おがる

ぼっきり ぼきっと

ぼっきり ぼきっと

ぽっくり ぽくっと
 ぽつくり ぽんぽんげだ
 ぽっそり かへっと
 ぽったてごや【堀立て小屋】まっかごや
 ぽつつく ぽつつぐ、ほろつつぐ
 ぽってり ぽってら
 ぽってり ぽてっと
 ぽっと どっかど
 ぽつりぽつり ぽつんぽつん
 ぽつんと ぽつっと
 ぽていさま【布袋さま】ほでさま
 ぽどく ほごす
 ぽどとおい【程遠い】ぽどと一え
 ぽととぎす おたたがちよ
 ぽどのひ【ほどの火】おぎ
 ぽとぽと だずだず
 ぽとぽと たつたつ
 ぽどよい【程よい】ほどえ
 ぽとりと ぽとっと
 ほね【骨】ほねから
 ほねぐるみ【骨ぐるみ】ほねがらみ
 ほねっばい【骨っばい】ほねぼえ
 ほねのおれること【骨の折れること】てあぎ
 ほほ【頬】ほたほ
 ほめもの【ほめ者】ほめおの
 ぽやっと もやっと
 ほゆうまい【保有米】ほゆ一めあ

ほらがい【法螺貝】ほらのげあ
 ほりかえす【掘り返す】ほっくりげあす
 ほりもの【彫り物】ほりおの
 ほりりだしもの【掘り出し物】みつけおの
 ぼろ ぼろこ
 ぼろきれ ぼろこ
 ほろにがい【ほろ苦い】ほろにんげあ
 ぼろぬの【ぼろ布】ぼろこ
 ほろりと ほろっと
 ぼろりと ぼろっと
 ほん【本】によによ
 ほんさい【本妻】ほんせあ
 ほんしょうぶ【本勝負】ほんこ
 ほんそうする ざんまぐ
 ほんだい【本代】ほんであ
 ほんだち【本裁ち】ほんだづ
 ほんとう【本当】ほん、ほんと
 ほんどう【本道】けあど
 ほんとうのかけごと【本当の賭ごと】ほんこ
 ほんの ほんとの
 ぼんのくぼ つんけ
 ほんのすこし【ほんの少し】つんと
 ほんのすこしまえ【ほんの少し前】えましがだ
 ぼんやり ぬけっと、のけっと、もやっと
 ほんらいのすがた【本来の姿】しょうてあ
 ほんろうする ちよすます

— ま —

まあ ないだて、なんだて
 まあ まんず
 まあい【間合い】まえあ
 まあたらしい【真新しい】まあだらす
 まあまあ ほにほに
 まい【枚】めあ
 まいあさ【毎朝】まえあさま
 まいしょく【毎食】まえがだけ、めあがだけ
 まいすう【枚数】めあーすー
 まいたけ めあだけ
 まいつき【毎月】まえつき
 まいど【毎度】まえど
 まいとし【毎年】まえねん
 まいにち【毎日】ひにずまえにず、まえにづ
 まいばん【毎晩】まえばん
 まいります【参ります】ござりあす
 まいる【参る】あがる、めある
 まえ【前】めあ
 まえあし【前足】めあーあす
 まえいわい【前祝い】めあーゆわえあ
 まえうしろ【前後ろ】めあーうしろ
 まえうり【前売り】めあーうり
 まえおき【前置き】めあーおぎ
 まえかがみ【前屈み】めあーかがみ
 まえかけ【前掛】めあっかけ、めあんだり
 まえがみ【前髪】めあーがみ
 まえがり【前借り】めあーがり
 まえきん【前金】めあーきん
 まえさがり【前下がり】めあっつあがり
 まえだれ【前垂れ】めあっかけ、めあんだり

まえば【前歯】めあーば
 まえばらい【前払い】めあーばれあ
 まえび【前日】めあーび
 まえぶれ【前触れ】めあーぶれ
 まえまえ【前前】めあーめあー
 まえむき【前向き】めあーむぎ
 まえもって【前以て】めあーもって
 まがいもの【紛い物】まげあおの
 まかす かんまがす
 まかす【負かす】まげらがす
 まかせる【任せる】まがへる
 まかない【賄】まがねあ
 まかないがかり【賄係】まがねあががり
 まがりかね【曲り金】かね
 まきかえし【巻き返し】まぎげあし
 まきかぜ まぎがじえ
 まきつける からまぐ
 まきもの【巻き物】まぎおの
 まぎらわしい【紛らわしい】まぎらわす
 まぎわ すめあ
 まくらいし【枕石】まぐらいし
 まくらぎ【枕木】まぐらんぎ
 まくる たぐる
 まぐわ【馬鍬】まんが
 まけずぎらい【負けず嫌い】まげずぎれあ
 まける【負ける】ぶんまげる
 まごい【真鯉】まごえ
 まごつく とうはぐ、どまづぐ
 まさしい まさす
 まじえる【交える】まじえる

ました ござあす	もどす
まじない まずねあ	まちば【町場】まづば
まじめ【真面目】まずめ、まっと	まちばり【待ち針】まづばり
まじりけ【混じり気】まざりけ	まちぼうけ【待ち惚け】まずぼろけ
まじりもの【混じり物】まざりおの	まつ【待つ】まづる
まじる【混じる】まざる	まづ【先づ】まんず
ます ～あす、あす、もす	まつかさ【松毬】まずぼっこり
まずい まず	まっくらい【真暗い】まっくれあ
まずしい【貧しい】まずず	まっこう【抹香】まっこ
ませ まへ	まっこうくさい【抹香臭い】まっこくせあ
まぜこぜ まじえこじえ	まっさいちゆう【真最中】まっせあーちゆうー
ませる まへる	まっさかさま【真っ逆さま】まっつあがさま
まぜる【混ぜる】まじえる	まっさかり【真っ盛り】まっつあがり
また【股】まだ	まっさき【真っ先】まっつあぎ
またとない まだどねあ	まっすぐ【真直ぐ】まっつぐ
またばしら【股柱】まっかばすら	まつだい【末代】まずであー
まだひとのあるいてないゆきみち【まだ人の歩いてない雪道】あらみづ	まつだいもの【末代物】まずであーおの
まだらかまどうま げずげず	まったく【全く】がりっと、であっきり
まだるっこい まだるこえ	まっち【隣寸】まっつ
まち まづ	まっている【待っている】まづる
まち【町】まづば	まっとう まっと
まちあいしつ【待合室】まずえあーすず	まつば【松葉】まつば
まちあわせる【待ち合わせる】まずあへる	まつぼっくり まずぼっこり
まちいしゃ【町医者】まずえしゃ	まつやに【松脂】まづやね
まちがい【間違い】まづげあ	まっわりつく なっつあがる
まちかい【間近い】まずげあー	まとめる【纏める】えっちよづげる、つっくるむ、つばめる
まちがえる【間違える】かっばずす、とっばずらがす、まずげある	まとも しょーろ、まっと
まちかねる【待ち兼ねる】まつかねある	まわりつく とっからまる
まちしゅう【町衆】まずしゅ	まないた【俎板】まねあいだ、まねあだ
まちだち【町立ち】まづだづ	まなこ【眼】まなぐ
まちどおしい【待ち遠しい】まずびしやす、まづ	まにあう【間に合う】まにやう
	まにあわせ【間に合わせ】まにあへ、まにやへ

まね【真似】まねあ	まるあらい【丸洗い】まるあれあ
まねきあい【招き合い】よびくれあご	まるい【丸い】まるえ、まるこえ
まねごと【真似ごと】まねあこど	まるきり からきり
まねる【真似る】まねある	まるごと まるまま
まびく【間引く】おるぬぐ、すぐる	まるしゃべる【丸シャベル】けんすこ
まぶし まぶす	まるすこつぷ【丸スコップ】けんすこ
まぶしい まつぼえ	まるた【丸太】ぜあもぐ
まぶた【瞼】まなぐぶず	まるたのみじかいきりはし【丸太の短かい切れ端】ころ
まぶたのびょうき【瞼の病氣】めくされ	まるまる【丸まる】まるばる
まま【儘】まんま	まるみえ【丸見え】まるめ
ままはは【継母】あどかが、ごげかが	まるめる【丸める】まるける、まろめる
まみれる まぶれる	まるもうけ【丸儲け】まるもげ
まむかい【真向い】まむげあー	まわし【回し】～ます
まむし【蝮】くそへび	まわしど【回し戸】ましど、ますど
まめうち【豆打ち】まめぶず	まわす【回す】ます
まめがき【豆柿】まめこがぎ	まわた【真綿】ねばす
まめにはたらくこと【まめに働くこと】こまめ	まわりあわせ【回り合わせ】まりあへ
まめのだっこちょうせい【豆の脱穀調製】まめこしえ	まわりくどい【回りくどい】まりくどえ
まめのぬたもち【豆のぬた餅】まめずりもず	まわりばん【回り番】まわりばんこ
まめまめしい まめまめす	まわりみち【回り道】まりみず
まめもやし【豆もやし】もやす	まわる【回る】まる
まめをとったけいよう【豆をとった莖葉】まめがら	まわること【廻ること】ぐりぐり
まもなく【間もなく】そんま	まんいち【万いち】まさか
まもる【守る】まぶる	まんと【マント】だるま
まゆ【眉】このげ	まんぶくなこと【満腹なこと】くつつ
まゆ【繭】めあっこ	まんぶくにちかいじょうたい【満腹に近い状態】うづあこえでる
まゆかき めあっこかぎ	まんまえ【真ん前】まんめあー
まゆげ【眉毛】このげ	まんまるい【真ん丸い】まんまるえ
まゆつばもの やばつ	

— み —

- み【箕】めっけあ
 みあわせる【見合わせる】みあへる
 みえかくれ【見え隠れ】めーかぐれ
 みえすく【見え透く】めーすぐ
 みえる【見える】める
 みおぼえ【見覚え】みおべ
 みかえす【見返す】みげあす
 みかえり【見返り】みげあり
 みがまえ【身構え】みがめあー
 みがまえる【身構える】みがめあーる
 みぎれい【身綺麗】みぎれ
 みくだす【見下す】みやすめる
 みぐるしい【見苦しい】みぐるす
 みけ【三毛】とらば
 みけねこ【三毛猫】とらば
 みごしらえ【身拵え】みごすれあー
 みごたえ【見応え】みごであ
 みさかい【見境】みさげあー
 みじかい【短い】みつけあ
 みじかいねむり【短い眠り】おそね
 みじかいはだぎ【短い肌着】あへどり
 みじかくかりこんだあたま【短かく刈り込んだ頭】かっぱあだま
 みじかめ【短め】みつかめ
 みじたくする【身仕度する】でだづ
 みじまい【身仕舞い】みずめあー
 みじめ【惨め】みずめ、みんずめ
 みじゆくあけび【未熟あけび】いすあぎび
 みじゆくぶどう【未熟ぶどう】さるまなぐ
 みしょう【実生】みしょ
- みしんぬい【ミシン縫い】きっけあぬい
 みず【水】あま
 みずあそび【水遊び】みずあすび
 みずかまきり てあーごぶず
 みすぎ【身過ぎ】くづすぎ
 みずき みつき、みんつき
 みずくさい【水臭い】みずくせあ
 みずさかずき【水杯】みずさがずげ
 みずしも【水霜】みずすも
 みずしょうばい【水商売】みずしょーべあー
 みずたまり【水たまり】ぐっちゃ
 みずっぱな【水っ漬】みつぱな
 みずっぱい【水っぽい】みずぼえ
 みずな みず
 みずにつける【水に浸ける】うるがす
 みずにひたす【水にひたす】うるがす
 みずのおちぐち【水の落ち口】しりめなぐず
 みずぶね【水舟】みじゃふね
 みすぼらしい みすぼらす
 みずもの【水物】みずおの
 みずや【水屋】みじゃ
 みずをあるくこと【水を歩くこと】こぐ
 みずをいれる【水を入れる】しっと
 みせ【店】めへ
 みせかけ【見せかけ】めへがげ
 みせさき【店先】めへさき
 みせじまい【店仕舞い】めへずめあ
 みせしめ【見せしめ】めへすめ
 みせつける【見せつける】めへずげる
 みぜに【身銭】みじえね

みせば【見せ場】めへば
 みせばん【店番】めへばん
 みせびらかす めへずらがす
 みせびらき【店開き】めへびらぎ
 みせもの【見せ物】めへおの
 みせる【見せる】めへる
 みぞ【溝】へぎ
 みそあえ【味噌和え】みそえあー
 みぞおち【鳩尾】みずおづ
 みそこない【見損ない】みそごねあ
 みそさざい ちゃちゃぎ
 みぞれ あまゆぎ、あめゆぎ
 みたい ～みであ
 みち【道】みづ
 みちあんない【道案内】みずあんねあ
 みちがえる【見達える】みつげあーる
 みちすじ【道筋】みずすず
 みちづれ【道連れ】みずづれ
 みちでないゆきのふりつもったところ【道でない
 雪の降り積った所】はで
 みちのり【道程】みずのり
 みちばた【道端】みずばだ
 みちぶしん【道普請】みづぶすん
 みちふみ【道踏み】みずふみ
 みつあみ【三つ編み】ぐみこ
 みつくち【兎唇】えぐづ
 みっしり みしっと、みつっと
 みっちり みつっと
 みっともない みっともねあ
 みつばち【蜜蜂】みずばす
 みつみ【三つ身】みづみ
 みどころ【見所】みどご

みなかみ【水上】みずがみ
 みなくち【水口】めなぐず、めなぐづ
 みならい【見習い】みなれあー
 みにくい【醜い】みだぐねあ、みにぐえ、めくせ
 あ、めんくせあ
 みの みんな
 みのしろ【身代】しんしょ、しんであー、すんで
 あ
 みのちいさいかき【実の小さい柿】まめこがぎ
 みののくびのまわり【みのの首のまわり】けらく
 び
 みば みだご
 みばえ【見栄え】みべあ
 みぶるい【身振り】みぶるぎ
 みぶるい【身震い】みぼろぎ
 みまい【見舞い】みめあ
 みまう【見舞う】かだがる
 みみあたらしい【耳新しい】みみあだらす
 みみず めめ、めめず
 みみっちい みみつ
 みみにする【耳にする】きぎはさむ
 みみをすますこと【耳をすますこと】さずむ
 みもの【見物】みおの
 みやく【脈】みやご
 みやすい【見易い】みやす
 みやまいらくさ あえこ、えあーごぎ
 みよい【見よい】みえ、みやす
 みようだい【名代】なであ、みよーであー
 みようちきりん【妙ちきりん】みよーつくりん
 みようみょうにち【明明日】やのさって
 みるかげもない【見る影もない】みるかげもねあ
 みれんがましい【未練がましい】みれんがます
 みるみるぜみ めんめんじえみ

— む —

むいちもつ【無一物】 てんぼろけ
 むかい【向い】 むげあ
 むがい【無害】 むげあー
 むかいあう【向い合う】 むげああう
 むかいあわせ【向い合わせ】 むげああへ
 むかいかぜ【向い風】 むげあがじえ
 むかえ【迎え】 むげあ
 むかえざけ【迎え酒】 むげあざげ
 むかえびと【迎え人】 むげあよど
 むかえる【迎える】 むげある
 むかし【昔】 しょうでん、へん、むがす
 むかしがたり【昔語り】 むがすかだり
 むかしばなし【昔話】 むがす
 むかしびと【昔人】 むがすびど
 むかしふう【昔風】 むがすくせあ
 むかっぱら【むかっ腹】 むがぱら
 むぎこ【麦粉】 くつこ
 むぎめし【麦飯】 むぎまま
 むぎわらぼうし【麦藁帽子】 むきからしゃっぶ
 むく【剥く】 ひんむぐ
 むこう【向う】 むご
 むこうがわ【向う側】 むごがわ
 むこうぎ【むこう気】 はなばす
 むこうずね【向こう脛】 むがつつね
 むごたらしい【惨たらしい】 むごたらす
 むさくるしい むさくるす
 むし【虫】 むす、めめ
 むしあつい【蒸し暑い】 むすあつ
 むしおい【虫追い】 むすばい
 むしかえす【蒸し返す】 むすげあす

むしき【蒸し器】 ふかすがま
 むしくい【虫喰い】 むしくれあ
 むしぐすり【虫薬】 むすくそり
 むしくだし【虫下し】 むすくだす
 むしけら【虫けら】 むすけら
 むしず【虫酸】 むすず
 むじつ【無実】 むずつ
 むじな【貉】 むずな
 むしのいき【虫の息】 むすのえぎ
 むしば【虫歯】 むすば
 むしぶろ【蒸し風呂】 むすぶろ
 むしぼし【虫干し】 むすぼす
 むしむし いきいき
 むしむしする んむれる
 むしる むする
 むしろ【塵】 むすろ
 むじん【無尽】 むんずん
 むしんけい【無神経】 むすんけ
 むずかしい【難しい】 むづがす
 むずかゆい むずけあ
 むずかる すがむ
 むずと むつと
 むすびつける【結びつける】 ゆっからむ
 むすぶ【結ぶ】 つばぐ、むすなく、ゆつなぐ
 むすめ【娘】 あねこ、めらす
 むせかえる【むせ返る】 むへげあーる
 むせきにな【無責任】 むへぎにな
 むせっばい むへぼえ
 むせる むへる
 むだづかい【無駄使い】 ざんぶ、むだずげあ

むちゅう

むちゅう【夢中】むじゆ、らんき
むくくと もくっと
むつくと もくっと
むっくり もくっと
むつくり もくっと
むったり むたっと
むつつり むつっと
むつまじい【睦まじい】むずます
むなくそ【胸糞】けだくそ、はらあんべあ
むなぐるしい【胸苦しい】むなぐるす
むにする【無にする】むんする

むね【棟】ぐす
むねあげ【棟上げ】たためあ
むら【叢】～やら
むらはずれ【村外れ】むらはぞれ
むりからぬ【無理からぬ】むりからねあ
むりじい【無理強い】おーじょーずぐめ
むりなんだい【無理難題】むりなんであー
むりやり【無理やり】むりしゃり
むれる【蒸れる】んむれる
むんずと むつっと
むんにやり むちゃっと

—め—

めあたらしい【目新しい】めあだらす
 めあて【目当て】けんと、たより
 めい【姪】めっこ
 めいさい【明細】めーせあー
 めいさいしょ【明細書】めーせあーしょ
 めいわく【迷惑】きしゃわり
 めうし【牝牛】おなごべご
 ～めかしい【～めかしい】～めがす
 めくそ【目くそ】めんくそ
 めくばせ【目配せ】めくばへ
 めくら【盲】あどさん、ざど、めっこ
 めぐりあわせ【巡り合わせ】めぐりあへ
 めざましい【目覚しい】めざます
 めしあがる【召しあがる】あがる
 めしたき【飯炊き】ままたぎ
 めしつぶ【飯粒】ままつぶ
 めしなべ【飯鍋】ままなべ
 めしびつ おはづ
 めしをたくなべ【飯を炊く鍋】ままなべ
 めすぜみ【雌蟬】おつつじえみ
 めすびとはぎ ぬすみどはぎ
 めずらしい【珍しい】めずらす
 めだま【目玉】まなくたま
 めちがい【目違い】めつけあ
 めちゃくちゃ【目茶苦茶】しちやもちや、もじゃ
 くちや、もずくたねあ

めちゃくちゃだ やづはづあねあ
 めったに【滅多に】めったくたん、めってあ
 めっぼう めっぼ
 めでたい【目出度い】めでてあ
 めど はりみづ
 めにごみがはいってごろごろすること【目にごみ
 が入ってごろごろすること】えず
 めのまえ【目の前】はなずらもど
 めのわらわ めあらす
 めばえる【芽生える】めべあーる
 めべり【目減り】めべれ
 めぼしい めぼす
 めまい【目まい】めめあー、もめあー
 めまぐるしい めまぐるす
 めやに【目脂】めやね
 めょうがのかけい【めょうがの花茎】めょうがだ
 げ
 めをおとす【目を落とす】めおどす
 めんかい【面会】めんけあー
 めんこ ぱっち
 めんこあそび【めんこ遊び】ぱつつぶず
 めんす【メンズ】つぎのおの
 めんそう【面相】めんてあー
 めんたい【面体】めんてあー
 めんどうくさい【面倒くさい】めんどくせあ
 めんぼくない【面目ない】めんぼぐねあ
 めんよう【緬羊】ひづず

—も—

- も たて
 もう えも、ま
 もう……か がは
 もう……かい ～がは
 もう……よ は
 もういい たくさだ
 もうかる【儲かる】もがる
 もうけぐち【儲け口】もーげぞぐ
 もうけしごと【儲け仕事】もーげぞぐ
 もうける【儲ける】もげる
 もうしあう【申し合う】ゆい-あわへる
 もうしあわせる【申し合わせる】もーすあへる
 もうします【申します】もす
 もうしわけ【申し訳】もうすわけ
 もうじん【盲人】あどさん
 もうふのかたかけ【毛布の肩かけ】かぐまぎ
 もうよ【もう……よ】べは
 もうろくしたろうじん【もうろくした老人】とし
 よりわらす
 もうろくする【毫碌する】ほろける、もーろぐた
 がる
 もえさし【燃えさし】たぎつり、もえちり
 もえのこり【燃え残り】もえちり
 もえはじめのやなぎ【萌え始めの柳】いのちこ
 もくざい【木材】もぐざあー
 もくせいたらい【木製たらい】はんぎり
 もくせいのおおつち【木製の大槌】あお
 もくぞう【木造】もぐぞ
 もくそく【目測】めがん
 もくひょう【目標】たより
 もくへん【木片】きこばず
 もくもく【黙々】もこもこ
 もくもく もんもん
 もぐもぐ このこの、もごもご
 もぐら もんぐらもづ
 もぐる【潜る】ずぶくぐり、つくくぐる、むぐる
 もじ【文字】のの、もんず
 もじずり ねじばな
 もしもし もすもす
 もじもじ もずもず
 もそもそ もこもこ
 もぞもぞ もこもこ
 もたもた したもた、すたもた、まかまか
 もち【餅】もづ
 もちあげる【持ち上げる】しったでる、もちあげ
 る
 もちあわせ【持ち合わせ】もずあへ
 もちいえ【持ち家】もずや
 もちこたえる【持ち堪える】もつこである
 もちつき【餅搗き】もづつき
 もちにげ【持ち逃げ】もずねげ
 もちにつけるあずきやなっとうがすくなくてよ
 くまぶれないこと【餅につける小豆や納豆が
 少なくて、よくまぶれないこと】つらあれあ
 もちのいっしゅ【餅の一種】おがのもづ、くだけ
 もず、ぐすもづ、むねあげもず
 もちのせんぎり【餅の千切り】みづどり
 もちの一種【餅の一種】たったらもづ
 もちまえ【持ち前】もずめあ
 もちもの【持ち物】もずおの

もつ【持つ】たがぐ
 もっさり もさっと
 もったい【勿体】もってあ
 もったいない【勿体ない】もってあねあ
 もったいぶる【勿体ぶる】もってあぶる
 もってこい もてこえ
 もっと まっと、まと、もと
 もつぱら えっぱだ
 もてあそぶ もであそぶ
 もてあましもの【持て余し者】しっしゃますおの
 もてあます【持て余す】しあます、しっしゃます、
 すまがらねあ、はばげる
 もてなし ふるめあ
 もどかしい もどがす
 もとせん【元栓】もどへん
 もとより ねっから
 もどる【戻る】とってげあす
 もの【者】おの、もん
 もの【物】おの、もん
 ものいい【物言い】えごえ、ものゆい
 ものおぼえ【物覚え】ものおべ
 ものか ~んば、ばや
 ものがたい【物堅い】ものがであ
 ものさし【物差し】さし
 ものすごい【物凄い】ものすげ
 ものたりない【物足りない】ものたんねあ
 ものなどをこいもとめること【物などを乞い求め
 ること】ころ
 もののはずみで ひよえっと
 ものまね【物真似】ものまねあ
 ものめずらしい【物珍らしい】ものめずらす
 ものものしい【物物しい】ものものす
 ものもらい【物貰い】ものもれあ、よのめ

ものわらい【物笑い】ものわれあ
 ものをきったはし【物を切った端】きりばず
 もみ【糲】あら
 もみがらのとれないもの【糲がらのとれないも
 の】あらもど
 もみくちやにする もじゃぐる
 もみぐら【糲蔵】もみど
 もみぢいちご きいぢご
 もみぢがさ しどげ
 もみとおし【糲とおし】もみとす
 もみをとったいなほ【糲を取った稲穂】みご
 もめんいと【木綿糸】もめど
 もも【股】まっか
 ももたぶ【腿たぶ】ももたぼ
 もものうちがわ【ももの内側】ももたぼ
 ももひき【股引】ももしぎ
 ももんがあ ばんどり
 もやし もやす
 もやもや もやらもやら
 もようがえ【模様替え】もよーげあー
 もらいご【貰い子】もれあこ、もれあご
 もらいぢち【貰い乳】もれあつずこ
 もらいて【貰い手】もれあて
 もらいなき【貰い泣き】もれあなき
 もらいび【貰い火】もれあび
 もらいみず【貰い水】もれあみず
 もらいもの【貰い物】もれあおの
 もらいわらい【貰い笑い】もれあわれあ
 もらす【漏らす】むぐす
 もりあわせ【盛り合わせ】もりあへ
 もりかえす【盛り返す】もりげあす
 もる【漏る】すずる、むる
 もろい【脆い】さっこえ、もろえ

もろいいし

もろいいし【もろい石】しにいし

もろひざ【諸膝】もろひじゃ

もん おの

もんか ~んば、ばや

もんかげろう あんがりさんがり

もんがまえ【門構え】もんがめあ

もんだい【問題】もんであ

もんぺとはかま【もんぺと袴】はがま

— や —

やいのやいの ほうほ、やあや、やんやん
 やがて しょーれあー
 やかましい【喧しい】からやがまし、やがまし、
 やがます、やがますねあ
 やがる あがる
 やかん かまこ
 やきもき やきやき
 やきもち へんき、やぎもづ
 やきもちをやく やらう
 やく やらう
 やくがい【薬害】やぐげあー
 やくざい【薬劑】やぐぜあー
 やくじょう【約定】やぐじよ
 やくそく【約束】じよーやぐ
 やくそくする【約束する】ゆい-がわす
 やくたい【益体】やぐであ
 やくづき【役付き】やぐづげ
 やくのついていないすみこみのやといにん【役の
 ついていない住込みの雇人】ひらわがじえ
 やくはらい【厄払い】やぐはれあ
 やくび【厄日】ふじよーにず
 やけくそ やげのやんぱず
 やけこげる【焼け焦げる】やっこげる
 やけつく【焼け付く】やげずぐ
 やけど【火傷】ひぶぐれ、やげ、やげばだ
 やけに やげん
 やける こびる
 やごうする【野合する】くつつ
 やさい【野菜】やせあー
 やさいのけいようのつけね【野菜の茎葉の付け

根】かぶさ
 やさしい やさす
 やしき【屋敷】やつと
 やしゅう【夜襲】よいじぶぢ
 やしょく【夜食】やしゆぐ
 やすい【安い】やす
 やすい【易い】やす
 やすうけあい【安請け合い】やすうげえあ
 やすっぽい【安っぽい】やすぼえ
 やすみなく【休みなく】くづおがず
 やすむ【休む】よどめる
 やすもの【安物】やすおの
 やせうで【やせ腕】やへうで
 やせがまん【やせ我慢】やへがまん
 やせこける やへこげる
 やせち【やせ地】やへつ
 やせっこ やへこ
 やせている よへてあ
 やせているひと【やせている人】やへこ
 やせているもの【やせている者】やへはったぎ
 やせる ひっこげる、やへる
 やたい【屋台】やであ
 やたら むだき
 やち【谷地】やづ
 やちだも しゆつき
 やつ やづ
 やっかい【厄介】きしやわり、やっけあ
 やっかいな【厄介な】おえねあ
 やつかむ やがむ
 やっつける やつける

やっぱり

やっぱり やっぱす
やつふさ からどり
やといにん【雇人】あに
やとう【雇う】かげある、やどう
やどがえ【宿替え】やどげあー
やどせん【宿銭】やどへん
やどちん【宿賃】はだごへん、やどへん
やどりぎ きじのほや、ほや
やな【築】やんな
やに【脂】やね
やはり やっぱす
やぶ【藪】～やら
やぶいしゃ【やぶ医者】やぶえしゃ
やぶかんぞう かんそ
やぶにらみ てっかり
やぶれかぶれ やんぶれかんぶれ
やぼくさい【野暮くさい】やぼくせあ、やぼてあ
やぼったい やぼてあ
やまい【病い】やめあ
やまいおい【病追い】やめあぼい、やんめあぼい
やまいも【山芋】やまえも
やまうるし うるす
やまかがし やまがじえ
やましい【疾しい】やます

やまときほこり あおみづ
やまどころ【山所】やまどご
やまどり きず
やまどりぜんまい かぐま
やまのかみ【山の神】やまのがみ
やまびこ やまびこ
やまぶきしょうま じゅなこ
やまぶどう【山葡萄】やまぶんど
やまぶどうのかわでつくったはげご【やまぶどう
の皮で作ったはげご】ぶんどかーはげご
やまほど【山ほど】えんづり
やままゆ【山蕨】やまめあっこ
やまめ【山女】やまべ
やまもり【山盛り】てんこもり、でちっと
ややこしい ややこす
やらい【矢来】やれあ
やられる えがされる
やりたい しであ
やりにくい すずれあ
やりやすい しやす
やれる するえ、せる、へる
やろう【野郎】やろ
やわらかい やっこえ
やわらかくなる【軟かくなる】やっこぐなる

— ゆ —

- ゆいしょ【由緒】ゆわれ
 ゆうかい【誘拐】しとされあ
 ゆうがた【夕方】ばんかだ
 ゆうがたうすぐらくなること【夕方うす暗くなること】かがかが
 ゆうがたのあいさつのことば【夕方の挨拶のことば】おばんかだです
 ゆうがたのくらくなりはじめのころ【夕方の暗くなり始めの頃】くらぐら
 ゆうどうじんもんする【誘導訊問する】かんまかげる
 ゆうとうせい【優等生】ゆーとーへ
 ゆうはん【夕飯】ばんまま、よまま
 ゆうびんはいたついで【郵便配達員】はえたづ
 ゆうふくだ【裕福だ】ふぐす
 ゆうべ【夕べ】ゆべな
 ゆうれい【幽霊】たまへ、ゆーれ
 ゆかけめし【湯かけ飯】ゆずげまま
 ゆかしい【床しい】ゆがす
 ゆきおんな【雪女】おぼめ
 ゆきかき【雪掻き】ゆぎはれあ
 ゆきがこい【雪囲い】そがぎ
 ゆきがっせん【雪合戦】ゆぎだまかっせん
 ゆきぐつをつくるきがた【雪ぐつを作る木型】へどろがだ
 ゆきじょうろう【雪女郎】おぼめ
 ゆきしろ【雪代】ゆぎすろ
 ゆきのした ねごのした
 ゆきのすべりだい【雪の滑り台】すべらこ
 ゆきのすべりだいのり【雪の滑り台乗り】すべらこのり
 ゆきのつもっているところ【雪の積っているところ】ゆぎやら
 ゆきのほそみち【雪の細道】とよこみず
 ゆきふみぐ【雪踏み具】たらぐづ
 ゆきべら【雪べら】けあしぎ
 ゆきまみれ【雪まみれ】ゆぎまぶれ
 ゆきみちふみのぎむにんぷ【雪道踏みの義務人夫】みずふみでんま
 ゆきみちをかんじきをつけないであるいたみち【雪道をかんじきをつけないで歩いた道】つぼこみず
 ゆきむすめ【雪娘】おぼめ
 ゆきをあるくこと【雪を歩くこと】こぐ
 ゆさゆさ やさやさ
 ゆすぶる【揺すぶる】ゆつがす
 ゆたか【豊か】おおふ
 ゆっくり ゆっくら
 ゆったり ゆたっと
 ゆでてはいぬきをする【ゆでて灰抜きをする】つぼねる
 ゆどうふ【湯豆腐】ゆどふ
 ゆらい【由来】ゆれあー
 ゆらす【揺らす】ゆれらへる
 ゆらりと ゆらっと
 ゆりかえし【揺り返し】ゆりげあし
 ゆるい【緩い】ゆるえ
 ゆるがす【揺がす】ゆつがす
 ゆるむ【緩む】ゆれる
 ゆるりと ゆるっと
 ゆわえつける【結わえ付ける】ゆわえあずげる
 ゆわえる【結える】からがぐ、ゆわえある

— よ —

よ ~つえあ、~つお、~や、さ、じゅ、ぜあ、ちや、であ
 よあけがた【夜明け方】よあげしめあ
 よあそび【夜遊び】よあそび
 よあるき【夜歩き】よありぎ
 よい え
 よいっぱり【宵っ張り】よびかり
 よいつぶれる【酔い潰れる】よつつぶれる
 よう べ
 よう【様】よ
 よう【用】よ
 よう【瘍】ねごぼ
 ようがさ【洋傘】こんもり
 ようかちよくぜんのかいこ【蛹化直前の蚕】あだますぎ、ひぎこ
 ようく えっくん
 ようぐのいっしゅ【用具の一種】べんけ
 ようさん【養蚕】おごさまおぎ
 ようじ【揚枝】よーず
 ようじ【用事】よーず
 ようじがはじめてものをいいはじめること【幼児が始めてものをいい始めること】くずたず
 ようしょう【葉鞘】はがま
 ようじん【用心】よーずん
 ようすいろ【用水路】へぎ、へげ
 ようすいろのそうじ【用水路の掃除】へげあげ
 ようすいろのふち【用水路のふち】へげずら
 ようだ ~よだ
 ようだい【容体】よーてあー
 ようち【夜討ち】よいじぶぢ

ようつい【腰椎】こすぼね
 ようついこつ【腰椎骨】こすぼね
 ような ~よんた
 ように よん
 ようむき【用向き】こどむぎ
 ようもないおしゃべり【用もないおしゃべり】へらくづ
 ようやく【漸く】やっどごすつとご、ようやら、よーよ
 よーどちんき【ヨードチンキ】ヨジュールム
 よく えっくん、えぐ、ゆぐ
 よくあたる【よく当る】まさす
 よくせいいくしたさま【よく成育したさま】ころます
 よくせき よぐへぎ
 よぐそ【夜糞】よんくそ
 よくない えぐねあ
 よくばり【欲ばり】よごはり
 よくばる【欲張る】よぐたげる
 よくよく えぐえぐ、かだかだ、ゆぐゆぐ、よぐしぎ
 よけい【余計】よげ
 よけいなおしゃべり へらくづ
 よこ【横】よごちやま、よごちよ
 よこあい【横合い】よごえあー
 よこぎ【横木】ゆぎ
 よこぎ【横座】よごぎ
 よこぎま【横さま】よごちやま
 よこす【寄こす】つだす
 よこせおい【横背負い】よごじよい

よこたわる【横たわる】ながまる
 よこっちゃ【横っちゃ】よごちゃま、よごちよ
 よこながしする【横流しする】むぐす
 よこなぐり【横なぐり】よごなぐれ
 よこになる【横になる】ながまる
 よこぼうのいっしゅ【横棒の一種】おせあぼげ
 よこむき【横向き】よごちゃま
 よざい【余罪】よぜあー
 よし でや
 よし【葦】よす
 よしきた よすきた
 よしず よすず
 よしのぼり ごりかつか、なべかつか
 よじのぼる【よじ登る】はっちゃがる
 よしよし でやでや
 よしん【余震】よすん
 よすぎ【世過ぎ】くづすぎ
 よせあつめる【寄せ集める】つぼける
 よせがき【寄せ書き】よへがぎ
 よせざん【寄せ算】よへざん
 よせる【寄せる】よへる
 よそのいえ【他所の家】しとなえ
 よそのひと【他所の人】あつつのしと
 よそよそしい よそよそす
 よだれ【涎】よんだれ
 よだれかけ【涎掛け】よんだれかけ
 よち【予知】よつ
 よち【余地】よつ
 よちよち よつよつ
 よっかかる【寄っかかる】おかがる
 よっぱらい【酔っ払い】さがよと、さげよと、よ
 ったぐれ、よっぱれあ
 よっぱらう【酔っ払う】よったぐれる

よつみ【四つ身】よづみ
 よていがいししゅつ【予定外支出】おがけーひ、
 おがぞうよ
 よどおし【夜通し】よっぴて
 よにげ【夜逃げ】よねげ
 よばい【夜這い】よべあ
 よばれる【呼ばれる】よばえる
 よびいれる【呼び入れる】よびへれる
 よびこ【呼び子】びっぴ
 よぶ【呼ぶ】よばる
 よぶすまそう ほんな
 よみあわせ【読み合わせ】よみあへ
 よみごたえ【読みごたえ】よみごであ
 よみせ【夜店】よめへ
 よみちがえ【読み違い】よみつげあ
 よみもの【読み物】よみおの
 よめ【嫁】あねこ
 よめいり【嫁入り】よめえり
 よやくする【予約する】くづかげる
 より ~ゆり、ゆが
 よりあい【寄り合い】よりぎ
 よりかかる【寄り掛かる】おかがる、のかがる、
 よかがる
 よりつく【寄り付く】よつつぐ、よってづぐ
 よる【夜】よさり、よんま
 よるかじかをとること【夜かじかを捕ること】よ
 がつか
 よるしごと【夜仕事】よすごと
 よるめし【夜飯】よまま
 よるける よろぼる
 よろこばしい【喜ばしい】よろごばす
 よろしい え
 よろよろ よらよら

よわい

よわい【弱い】みのがねあ、みのごねあー、よわ
え

よわね【弱音】がんねあ

よわねをはく【弱音を吐く】かがなく

よわむし【弱虫】がんねあ、しびたれ、みのがな

し

よわよわしい【弱弱しい】よへてあ、よわよわす

よわる【弱る】がおる、やっこぐなる

よんれい【四令】にわ

—ら—

らば

ら【～ら】だ、れば

らいげつ【来月】れあげつ

らいしゅう【来週】れあーしゅー

らいしゅん【来春】れあはる

らいねん【来年】れあねん

らいびょう【癩病】どうす、どーすたがり

らいびょうけっとう【癩病血統】どーすまぎ

らくいんきよ【楽隠居】らぐえんきよ

らくがん ぶづがす

らくだい【落第】らぐであ

らくたん【落胆】きおづ

らくたんする【落胆する】きーおどす、つからお
どす

らくに【楽に】らぐん

らしい ～らす、ふ

られる ～らえる

らんざつ【乱雑】だだちねあ、やちやくちや、や
っちやねあ

らんび【乱費】ざんぶ

らんぼう【乱暴】あらば

— り —

りきむ【力む】えぎすむ

りくつっぽい【理屈っぽい】りぐずぼえ

りげん【俚言】よづめ

りこう【利口】りご

りこうなこども【利口な子供】ころっけ

りちぎ【律儀】りづぎ

りっしん【立身】りっすん

りゅうすいがあふれること【流水が溢れること】
ぜああがり

りゅうつうまい【流通米】りゅうつーめあ

りょうがえする【両替する】こまこぐする、つぶ

す

りょうし【獵師】てっぽぶづ

りょうしつまい【良質米】りょーすずめあ

りょうしん【両親】したおや、りょーすん

りょうたん【両端】よーはず

りょうち【領地】りょーつ

りょうて【両手】よーて

りょうほう【両方】ようほ

りょうまい【良米】りょーめあ

りんち【林地】りんつ

りんと すかすか

ーるー

るす【留守】ゆす

るすい【留守居】ゆすれ、るすえ、るっせ

るすたく【留守宅】からえ

—れ—

れいがい【例外】れーげあー
れいがえし【礼返し】れーげあす
れいはい【礼拝】れーへあ
れいまいり【礼参り】れーめあり
れいもつ【礼物】れーおの
れきし【歴史】りぎす

れきだい【歴代】れぎであ
れる ～え、～える
れるか【～れるか】れっが
れんげつつじ どぐつずぎ
れんたい【連隊】れんてあー
れんばい【連敗】びだまげ

—ろ—

ろう べ

ろう【郎】～ろ

ろうじん【老人】としより

ろうちん【労賃】ろ一つん

ろうどうしゃ【労働者】かへぎと

ろうどうのこうかん【労働の交換】よえ

ろうぼく【老木】ぼぐ

ろうまい【糶米】りよーめあ

ろくしょう【緑青】ろくしょ

ろくでなし えぐなすおの

ろくな ろぐだ

ろくに ころくたま、ろぐであま、ろぐん

ろばた【炉端】ゆりばだ

ろぶち【炉ぶち】あでぎ

わ【は】ば、まだ

—わ—

わ【輪】わっか
 わいだん【猿談】おがだり
 わいろ【賄賂】はなくそ
 わいわい わやわや
 わかい【若い】わけあ、わけあー
 わかいおんな【若い女】ぼっこ
 わかいしゅ【若い衆】わがだづ、わけあしゅ
 わかえ わげあだけ
 わかがえる【若返る】わがげあーる
 わかがわからない【わけが分らない】もんじゃく
 ちやねあ
 わかぎむかえ【若木迎え】わがぎむげあ
 わかしゅ【若衆】わけあしゅ
 わかす【沸かす】たでる
 わかぞう【若蔵】わがぞ
 わかだんな【若旦那】あんさま
 わかなまわし【若菜まわし】わがなまし
 わがまま【我が儘】からきづ、きづ
 わかみずくみ【若水汲み】わがみづくみ
 わかもの【若者】わがおの、わがぞ
 わかわかしい【若若しい】わがわがす
 わきかえる【沸き返る】わぎげある
 わきまえる【弁える】わぎめあーる
 わくがい【粹外】わぐげあー
 わくない【粹内】わぐねあー
 わけない【訳無い】わけあねあ
 わけのわからない【わけの分らない】こもずもね
 あ
 わけへだて【別け隔て】わけへんだで
 わけまえ【分け前】わけばんめあ、わっぶ

わざと わんざど
 わざとつっぱねる【わざと突っぱねる】おんかげ
 る
 わざわい【災】わざわえあー
 わざわざ やぐやぐ
 わざわざひとをつかってやるおつかい【わざわざ
 人を使ってやるお使い】わざふ
 わし【驚】わす
 わしづかみ【わし掴み】わすずがみ
 わずか【僅か】わつか
 わずらい【患い】わずれあ
 わずらわしい【煩わしい】わずらわす
 わずらわしくいとわしいこと【わずらわしく厭わ
 しいこと】じゅんぶぐ
 わずらわしくめいわくなこと【煩しく迷惑なこ
 と】きしゃわり
 わすれぐさ かんそ
 わすれっぼい【忘れっぼい】わすればえ
 わすれもの【忘れ物】わすれおの
 わすれる【忘れる】わすえる
 わせ【早生】わへ
 わだい【話題】わであー
 わたいれ【綿入れ】わだえれ
 わたいれはおり【綿入れ羽織】ねんねこ
 わたいれはんてん【綿入れはんてん】どんぶぐ
 わたうち【綿打ち】わだぶず
 わだかまり もやらもやら
 わたくし【私】おら
 わたし【私】おら、しと、わだす
 わたしたち【私達】おら、おらだ

わたしちん【渡し賃】わだすつん
 わたす【渡す】つだす
 わたぼうし【綿帽子】わだぼつ
 わたりあるく【渡り歩く】わだりありぐ
 わな おちよ
 わび【詫】わんび
 わびる【詫びる】ゆわげる
 わらい【笑い】われあー
 わらいこける【笑いこける】われあーこげる
 わらいごと【笑い事】われあーごと
 わらいばなし【笑い話】われあーばなす
 わらいもの【笑い者】われあおの
 わらうさま【笑うさま】げだげだ
 わらうち【藁打ち】わらぶず
 わらくず【藁屑】わらくたず
 わらじ【草鞋】わらず
 わらのいっしゅ【藁の一種】かつつあわら
 わらのたいひ【わらの堆肥】わらごえ
 わらのゆきぐつ【わらの雪靴】へどろ
 わらび ほうだこ

わらびのいっしゅ【わらびの一種】むらさぎわら
 び
 わらぶとん【藁布団】くずぶどん
 わりあい【割合】わりえあー
 わりこむ【割り込む】つぱまる
 わりに【割に】わりかす
 わるあそび【悪遊び】わるあすび
 わるい【悪い】えぐねあ、わり
 わるいこと【悪いこと】ぶんま
 わるいもの【悪い物】えぐなすおの
 わるがしこい【悪賢い】さるがしこえ、わるがす
 こえ
 わるぎ【悪気】わりげ
 わるぐち【悪口】あぐであ、あっこ
 わるぐちのかぎり【悪口の限り】あぐであもぐで
 あ
 わるもの【悪者】えぐなすおの、わるおの
 われた【～われた】わっだ
 われもの【割れ物】われおの
 われるさま【割れるさま】ぎぐっと

—を、ん—

を だご、ば
んだ あだ

んです あだ

後書き

(『及位の方言』より)

当地の民話を集めたのが機縁になり、当地の方言を集め始めたのが、昭和54年からで、以後ポケットからメモ帳を離さず、また、寝る時も枕元にメモ帳を置いて収集し、頭から方言の離れることがない有様であった。そして、集め終わったつもりでいたら、追加が出、その追加後も、ぽつん、ぽつんと出たが、恐らくまだ出るだろうと思われる。

標準語や共通語化の進んでいる現在なので、既に使われなくなった言葉が沢山ある。例を挙げると、「あんさまー若旦那」、「おどっつあ。つあつあ。つあ。まーお父さん」、「がが。ががつあ。がっか。あっかーお母さん」などがあり、行事に関する言葉では、「こえしよー一堆肥背負い。旧正月11日の行事」、「やんめあばいー病追い。旧1月の行事」、「わがみづくみー若水汲み。旧元日から7日までの行事」などがあり作業や器具などの言葉では、「こねあぶづー小苗配り」、「ずんぎりー刻み煙草入れ」、「ひだなーいろりのつり棚」など、主として、現在行われていない行事、作業、使われていない器などに多い。

それだけに、私にとっては、それらの言葉から滲み出る、昔の生活が甦って来て懐かしく捨てることが出来なかった。

この地区の方言の特徴を少し挙げると、先ず、「い」を「え」といい、「いい」が「え。ええ」といい、「家柄」を「ええがら」というし、「しい」が「し」または「す」といい、「美しい」が「うづぐす」とよび、「やさしい」を「やさし。やさす」といっている。なお、「せ」を「へ」といい、「清潔」を「へえけづ」といい、「せかせか」を「へかへか」といい、「ない」を「ねあ」といい、「できない」を「でげねあ」、「行かない」を「えがねあ」といっている。また、促音の「っ」をとって使うくせもある。例えば、「使った」は「つかた」といい、「行った」は「えた」、「乗った」は「のた」、「なって」が「なて」のようである。さらに、「さい」を「せあ」と使い、「下さい」を「くだせあ」、「くさい」を「くせあ」といい、「たい」を「てあ」と使い、「目出たい」を「めでてあ」、「大層」を「てあそう」のようで、これはほんの一、二例を挙げたに過ぎない。

私の集めた方言の語は余り多くなく、見出し語で3,000語位であり、同義語を併せると、3,700語位になるようである。

書き上げて見て、これは、私の貴重な遺産になることを先ず感じ、また、語学力を考えると、実にじくじたるものを禁じえない。

後書き

(『続及位の方言』より)

『及位の方言』を出版(昭和57年12月)してから既に五年の歳月が流れてしまったが、時の流れの早いには驚いてしまった。

方言は話し言葉の中で生れたものであり、見出し語の意味を主として説明するよりも、その言葉がどんな会話文の中で使われているかを出した方が、理解され易いのではないかと、また、会話文を出せば、見出し語には出てこない、いろいろの語の活用形も出て、更に多くの方言の使い方が分かるのではないかと考え、会話文を出した次第である。

また、この会話文はフォネーム表記を添えたかったが、それでは頁数が余りに多くなるので、残念ながら省略した。なお、同義語も見出し語に出そうかと思ったがこれも会話文の末尾に書き、会話文もせめて二通りぐらい書きたいと思ったが長くなるので、一通りだけに止めた。

収録した見出し語は『及位の方言』と今回の『続及位の方言』を併せると、7千語を越す語数となり、方言もこんなにあるのかと驚いた次第である。

これからは正統を再検討し、金田氏と共同で、方言辞典を作りたいと話し合い、今その準備を始めているところである。また、出来たら見出し語にならなかつた活用形も収集したいものと思っている。

高橋良雄（たかはし よしお）

山形県最上郡真室川町大字及位 296 番地

- 1914 年（大正 3 年）7 月 26 日 清治・チヨの長男として出生
1920 年（大正 9 年）4 月 1 日 及位村立尋常小学校入学
1926 年（大正 15 年）3 月 31 日 同上 卒業
1926 年（大正 15 年）4 月 1 日 及位村立高等小学校入学
1930 年（昭和 5 年）3 月 31 日 同上 卒業
1930 年（昭和 5 年）4 月 山形県立村山農学校入学
1933 年（昭和 8 年）3 月 31 日 同上 卒業
1933 年（昭和 8 年）6 月 差首鍋平枝分校代用教員
1936 年（昭和 11 年）3 月 同校 退職
1936 年（昭和 11 年）4 月 鮭川村立鮭川小学校勤務
1937 年（昭和 12 年）3 月 同校 退職
1937 年（昭和 12 年）4 月 及位村立及位小学校勤務
1939 年（昭和 14 年）3 月 同校 退職
1940 年（昭和 15 年）東京目黒の山林局林業試験場勤務
(農林技官として樹木の害虫研究)
1941 年（昭和 16 年）4 月 山形試験地異動
1942 年（昭和 17 年）2 月 結婚
1949 年（昭和 24 年）4 月 真室川営林署勤務
1951 年（昭和 26 年）5 月 日本林学会大会（東京目黒）・松樹害虫について
1963 年（昭和 38 年）4 月 山形営林署異動
1963 年（昭和 38 年）ブナ林防腐防虫試験発表（秋田営林局）
1965 年（昭和 40 年）4 月 新庄営林署異動
1976 年（昭和 51 年）12 月 新庄営林署退職
1977 年（昭和 52 年）4 月 及位の方言・昔話・わらべ歌の収録に着手
1982 年（昭和 57 年）12 月 『及位の方言』自費出版
1985 年（昭和 60 年）から 町内小学校・保育園で昔話活動・自作紙芝居
1987 年（昭和 62 年）12 月 『続及位の方言』自費出版
1989 年（平成元年）から 真室川民話の会会員・真室川昔話編集委員
1991 年（平成 3 年）10 月 真室川の昔話 1 巻 2 巻（及位編）
1992 年（平成 4 年）から 山形県人材バンク登録
1992 年（平成 4 年）3 月 真室川の昔話 3 巻 4 巻（安楽城編）
1993 年（平成 5 年）12 月 真室川の昔話 5 巻 6 巻（真室川編）
1996 年（平成 8 年）10 月 18 日 永眠（満 82 歳）

及位の方言

2021年3月31日発行

著者 高橋良雄

発行者 木部暢子

発行所 国立国語研究所 言語変異研究領域

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

TEL 0570-08-8595 FAX 042-540-4333

印刷所 絢文社

© 2021 Yoshio Takahashi

Printed in Japan

ISBN 978-4-910257-09-9 C3581